

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特願2024-7992
(P2024-7992A)

(43)公開日 令和6年1月19日(2024.1.19)

(51)国際特許分類
A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I
A 6 3 F 7/02
A 6 3 F 7/02

テーマコード (参考)
2 C 0 8 8
3 1 5 A
3 1 2 Z

審査請求		未請求	請求項の数	1	O L	(全879頁)
(21)出願番号	特願2022-109458(P2022-109458)					
(22)出願日	令和4年7月7日(2022.7.7)					
(71)出願人	000144522 株式会社三洋物産 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番2 1号					
(74)代理人	100167302 弁理士 種村 一幸					
(72)発明者	北田 昇平 名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社三洋物産内					
Fターム (参考)	2C088 BA02 DA07 EA29 EB13 EB52					

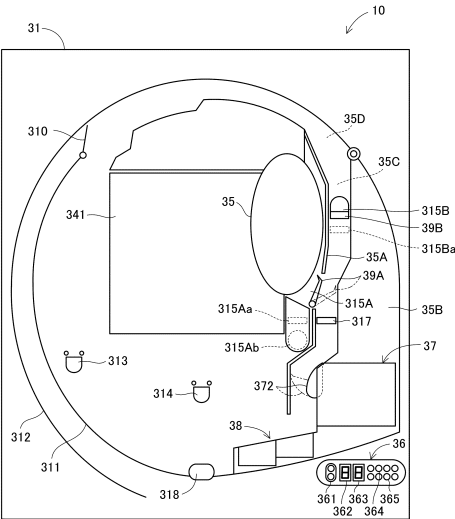
(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【要約】

【課題】遊技機では、遊技盤に配置する部材の種類や位置を工夫することで、より遊技における効率性や視認性を向上させる。

【解決手段】遊技機10では、非電作動装置37の導入口371から流入した遊技球が、第1非電作動口376Aに入球することで第1非電動役物39Aが作動されて第2入賞口315Aが開放され、第2非電作動口376Bに入球することで第2非電動役物39Bが作動されて第2入賞口315Bが開放される。第2非電動役物39Bは、遊技機10を正面視した状態において、第1非電動役物39Aよりも遊技球の流下方向における上流側で垂直方向の上方側において、遊技領域への遊技球の流入領域（戻りバネ310）に近い位置に配置されている。第1非電動役物39Aと第2非電動役物39Bとは前後方向に位置ずれて配置され、それぞれの動作態様が異なる。

【選択図】図294



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技球を 1 球ずつ流入させる流入部と、

所定条件が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第 1 動作手段と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段とは異なる第 2 動作手段に所定の動作を実行させ得る契機となる第 1 入球部と、

前記第 1 入球部への遊技球の入球を検出するための第 1 検出部と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段及び前記第 2 動作手段とは異なる第 3 動作手段に少なくとも特定の動作を実行させ得る契機となる第 2 入球部と、

前記第 2 入球部への遊技球の入球を検出するための第 2 検出部と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている前記誘導手段を、前記第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替える切替手段を備え、

前記第 3 動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第 2 動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ遊技機、スロットマシンなどの遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

遊技機においては、遊技の興趣の向上させる遊技性を発生させるために、遊技盤の遊技領域に複数種の遊技部材（例えば各種表示器や各種入賞装置、振分装置）が配置されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 特開 2006-192094 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

遊技機では、遊技盤に配置する部材の種類や位置を工夫することで、より遊技における効率性や視認性を向上させることが望まれている。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明に係る遊技機は、

遊技球を 1 球ずつ流入させる流入部（371）と、

所定条件（a 時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり）が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第 1 動作手段（372）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段とは異なる第 2 動作手段（39A）に所定の動作（第 2 入賞口 315A の開放作動）を実行させ得る契機となる第 1 入球部（376A）と、

前記第 1 入球部への遊技球の入球を検出するための第 1 検出部（376Aa）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段及び前記第 2 動作手段とは異なる第 3 動作手段（39B）に少なくとも特定の動作（第 2 入賞口 315B の開放作動）を実行させ得る契機となる第 2 入球部（376B）と、

前記第 2 入球部への遊技球の入球を検出するための第 2 検出部（376Ba）と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段（374）と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている前記誘導手段を、前記第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替える切替手段（可動誘導部 374 の駆動制御（処理））を備え、

前記第 3 動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第 2 動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であることを特徴とする。

【図面の簡単な説明】

【0006】

【図 1】本発明の第 1 の実施形態に係る遊技機の構成の一例を示す斜視図。

【図 2】図 1 に示す遊技機の構成の一例を示す展開図。

【図 3】図 1 に示す遊技機の構成の一例を示す展開図。

【図 4】図 1 に示す遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 5】図 1 に示す遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 6】図 1 に示す遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 7】図 1 に示す遊技機のシステム構成の一例を示すブロック図。

【図 8】図 1 に示す遊技機の主制御装置の記憶領域の一例を示すブロック図。

【図 9】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 10】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 11】図 8 に示す主制御装置の記憶領域における普図保留格納エリアの一例を示すブロック図。

【図 12】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 13】主制御装置の記憶領域における遊技情報格納エリアの一例を示すブロック図。

【図 14】主制御装置の性能情報表示装置の一例を模式的に示す図。

【図 15】性能情報表示装置の性能表示モニタでの表示例を示す図。

【図 16】性能情報表示装置の設定値表示部での表示例を示す図。

【図 17】主制御装置で実行される主タイマ割込処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 18】図 17 の主タイマ割込処理で実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 19】図 18 の始動入賞処理で実行される第 1 特図保留コマンド設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 20】図 17 の主タイマ割込処理で実行されるスルーゲート処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 21】主制御装置で実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 22】図 21 のメイン処理で実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 23】図 22 の普図遊技制御処理で実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 24】図 22 の普図遊技制御処理で実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 25】図 21 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

10

20

30

40

50

【図 2 6】図 2 1 のメイン処理で実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 7】図 2 6 の特図遊技制御処理で実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8】図 2 6 の特図遊技制御処理で実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 9】図 2 1 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 0】図 2 1 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1】図 2 1 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 2】図 2 1 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 3】図 2 1 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 4】図 2 1 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 5】図 2 1 のメイン処理で実行される遊技設定値変更処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 6】図 2 1 のメイン処理で実行される特定性能情報更新処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 7】図 3 6 の特定性能情報更新処理で更新されるベース情報の一例を示す図。

【図 3 8】図 2 1 のメイン処理で実行される性能表示モニタの表示制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 9】図 2 1 のメイン処理で実行される性能表示モニタの表示制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 0】図 2 1 のメイン処理で実行される性能表示モニタの表示制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 1】図 2 1 のメイン処理で実行される性能表示モニタの表示制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 2】図 1 に示す遊技機の音声ランプ制御装置で実行される副タイマ割込処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 3】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行される操作検出処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 4】図 4 3 の操作検出処理で実行される操作ボタン操作検出処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 5】図 4 3 の操作検出処理で実行される操作検出パターン判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 6】検出パターンと操作状況との関係を示すテーブル。

【図 4 7】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 8】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 4 9】図 4 7 のコマンド判定処理において変動パターンコマンドを受信した場合に実行される変動種別（演出パターン種別）を設定するために使用される変動種別テーブルの一例を示す図。

【図 5 0】図 4 7 のコマンド判定処理において変動パターンコマンドを受信した場合に実行される変動種別（演出パターン種別）を設定するために使用される変動種別テーブルの一例を示す図。

10

20

30

40

50

【図 5 1】図 5 1 (A) は飾り図柄の色の一例を示す図、図 5 1 (B) は図 4 7 のコマンド判定処理において変動パターンコマンドを受信した場合に使用される第 1 停止図柄選択テーブルの一例を示す図。

【図 5 2】図 5 2 (A) は通常遊技状態において図柄表示部に設定される第 1 保留画像表示部、当該変動画像表示部及び既変動画像表示部の一例を示す図、図 5 2 (B) は確変遊技状態及び時短遊技状態において図柄表示部に設定される第 2 保留画像表示部及び当該変動画像表示部の一例を示す図。

【図 5 3】第 1 保留画像表示部における保留画像の変化の一例を示す図。

【図 5 4】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行される大当たり遊技演出制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 5 5】本発明の第 2 の実施形態に係る遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 5 6】図 5 5 に示す遊技機の羽役物装置の要部を示す断面図。

【図 5 7】羽役物装置の要部を示す断面図。

【図 5 8】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 5 9】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 6 0】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 6 1】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 6 2】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 6 3】図 1 7 の主タイマ割込処理で実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 6 4】図 6 3 の始動入賞処理で実行される第 1 特図保留コマンド設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 6 5】図 6 3 の始動入賞処理で実行される第 2 特図保留コマンド設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 6 6】主制御装置で実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 6 7】図 6 6 のメイン処理での普図遊技制御処理で実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 6 8】図 6 6 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 6 9】図 6 6 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 0】図 6 6 のメイン処理で実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 1】図 6 6 のメイン処理で実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 2】図 7 1 の特図遊技制御処理で実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 3】図 7 1 の特図遊技制御処理で実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 4】図 7 3 の特図変動開始処理で実行される第 2 特図変動パターン設定処理 B の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 5】図 7 3 の特図変動開始処理で実行される第 2 特図変動パターン設定処理 B の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 6】図 7 3 の特図変動開始処理で実行される第 2 特図変動パターン設定処理 B の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 7】図 6 6 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 8】図 6 6 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 7 9】図 6 6 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフ

10

20

30

40

50

ローチャート。

【図 8 0】図 6 6 のメイン処理で実行される遊技状態の移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 8 1】図 6 6 のメイン処理で実行される遊技状態の移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 8 2】図 6 6 のメイン処理で実行される遊技状態の移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 8 3】図 6 6 のメイン処理で実行される遊技状態の移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 8 4】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。 10

【図 8 5】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 8 6】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 8 7】図 8 6 のコマンド判定処理で実行される変動種別（変動パターン）設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 8 8】各種遊技状態での図柄表示部の画面例を示す図。

【図 8 9】RUSH 演出の一発告知演出の一例を示す図。

【図 9 0】RUSH 演出のバトル演出の一例を示す図。 20

【図 9 1】RUSH 演出のバトル演出の一例を示す図。

【図 9 2】リザルト演出及び分岐演出の一例を示す図。

【図 9 3】本発明の第 3 の実施形態に係る遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 9 4】本発明の第 3 の実施形態に係る遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 9 5】本発明の第 3 の実施形態に係る遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 9 6】遊技盤に設けられる可動回転役物部材の作動例を示す正面図。

【図 9 7】可動回転役物部材の周辺を、一部を破断して示す側面図。

【図 9 8】図 9 3 に示す遊技機のシステム構成の一例を示すブロック図。

【図 9 9】図 9 3 に示す遊技機の主制御装置の記憶領域の一例を示すブロック図。 30

【図 1 0 0】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 1 0 1】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 1 0 2】主制御装置の記憶領域における普図保留格納エリアの一例を示すブロック図。

【図 1 0 3】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 1 0 4】主制御装置で実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 0 5】図 1 0 4 のメイン処理で実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 0 6】図 1 0 5 の普図遊技制御処理で実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 0 7】図 1 0 5 の普図遊技制御処理で実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。 40

【図 1 0 8】図 1 0 4 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 0 9】図 1 0 4 のメイン処理で実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 0】図 1 0 9 の特図遊技制御処理で実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 1】図 1 0 9 の特図遊技制御処理で実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 2】図 1 0 4 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示 50

すフローチャート。

【図 1 1 3】図 1 0 4 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 4】図 1 0 4 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 5】図 1 0 4 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 6】音声ランプ制御装置で実行される副タイマ割込処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 7】図 1 0 6 の副タイマ割込処理で実行される操作検出処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 8】図 1 1 7 の操作検出処理で実行される操作ボタン操作検出処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 1 9】図 1 1 7 の操作検出処理で実行される操作検出パターン判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 2 0】検出パターンと操作状況との関係を示すテーブル。

【図 1 2 1】図 1 0 6 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 2 2】図 1 0 6 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 2 3】図 1 2 2 のコマンド判定処理において変動パターンコマンドを受信した場合に使用される第 1 停止図柄選択テーブルの一例を示す図。

【図 1 2 4】図 1 2 2 のコマンド判定処理で実行される停止図柄組み合わせ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 2 5】図 1 2 2 のコマンド判定処理で実行される特図遊技演出設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 2 6】図 1 2 2 のコマンド判定処理において変動パターンコマンドを受信した場合に実行される変動種別（演出パターン種別）を設定するために使用される変動種別テーブルの一例を示す図。

【図 1 2 7】図 1 2 2 のコマンド判定処理において変動パターンコマンドを受信した場合に実行される変動種別（演出パターン種別）を設定するために使用される変動種別テーブルの一例を示す図。

【図 1 2 8】可動回転役物部材の可動タイミングを説明するための図。

【図 1 2 9】可動回転役物部材の可動態様を説明するための図。

【図 1 3 0】可動回転役物部材の駆動パターンを説明するための図。

【図 1 3 1】可動回転役物部材の駆動パターンを説明するための図。

【図 1 3 2】可動回転役物部材を駆動するための駆動データを説明するための図。

【図 1 3 3】可動回転役物部材の駆動パターン及び駆動データを説明するための図。

【図 1 3 4】可動回転役物部材の駆動パターン及び駆動データを説明するための図。

【図 1 3 5】可動回転役物部材の駆動パターンを説明するための図。

【図 1 3 6】可動回転役物部材を駆動するための駆動データを説明するための図。

【図 1 3 7】可動回転役物部材の駆動パターン及び駆動データを説明するための図。

【図 1 3 8】図 1 2 5 の特図遊技演出設定処理で実行される役物作動演出設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 3 9】図 1 2 5 の特図遊技演出設定処理で実行されるボタン演出設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 4 0】ボタン演出を説明するための図。

【図 1 4 1】図 1 0 6 の副タイマ割込処理で実行される特図遊技演出制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 4 2】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行される可動回転役物制御処理の手順

10

20

30

40

50

の一例を示すフローチャート。

【図 1 4 3】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行される可動回転役物制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 4 4】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行される可動回転役物制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 4 5】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行される可動回転役物制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 4 6】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行される可動回転役物制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 4 7】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行される可動回転役物制御処理の手順の一例を示すフローチャート。 10

【図 1 4 8】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行される可動回転役物制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 4 9】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行される可動回転役物制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 5 0】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行されるボタン演出制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 5 1】図 1 4 1 の特図遊技演出制御処理で実行されるボタン演出制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 5 2】図 1 0 6 の副タイマ割込処理で実行される大当たり遊技演出制御処理の手順の一例を示すフローチャート。 20

【図 1 5 3】可動回転役物部材を駆動するための駆動データを説明するための図。

【図 1 5 4】本発明の第 4 の実施形態に係る遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 1 5 5】図 1 5 4 に示す遊技機の特電大入賞装置を説明するための図。

【図 1 5 6】図 1 5 4 に示す遊技機の特電大入賞装置を説明するための図。

【図 1 5 7】図 1 5 7 (A) は図 1 5 4 に示す遊技機のシステム構成の一部の一例を示すブロック図、図 1 5 7 (B) は各種入賞口の賞球を示す図、図 1 5 7 (C) は遊技機の外部に出力される信号種別を示す図。

【図 1 5 8】遊技機の外部に出力される各種信号の出力形態を示す図。

【図 1 5 9】遊技機の外部に出力される各種信号の出力形態を示す図。 30

【図 1 6 0】図 1 7 の主タイマ割込処理で実行されるスルーゲート処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 6 1】遊技状態の移行例を示す図。

【図 1 6 2】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 1 6 3】主制御装置で実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 6 4】図 1 6 3 のメイン処理で実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 6 5】図 1 6 4 の普図遊技制御処理で実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 6 6】図 1 6 4 の普図遊技制御処理で実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。 40

【図 1 6 7】図 1 6 3 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 6 8】図 1 6 3 のメイン処理で実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 6 9】図 1 6 8 の特図遊技制御処理で実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 7 0】図 1 6 8 の特図遊技制御処理で実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 7 1】図 1 6 3 のメイン処理で実行される特図遊技回数管理処理の手順の一例を示す 50

すフローチャート。

【図 1 7 2】図 1 6 3 のメイン処理で実行される特図遊技回数管理処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 7 3】図 1 6 3 のメイン処理で実行される特図大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 7 4】図 1 6 3 のメイン処理で実行される特図大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 7 5】図 1 6 3 のメイン処理で実行される特図大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 7 6】図 1 6 3 のメイン処理で実行される特図大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

10

【図 1 7 7】図 1 6 3 のメイン処理で実行される特電始動制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 7 8】図 1 6 3 のメイン処理で実行される V 入賞大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 7 9】図 1 6 3 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 8 0】図 1 6 3 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 8 1】図 1 6 3 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

20

【図 1 8 2】図 1 6 3 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 8 3】図 1 6 3 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 8 4】図 1 6 3 のメイン処理で実行される信号出力処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 8 5】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 8 6】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

30

【図 1 8 7】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 1 8 8】図柄表示部での画面例を示す図。

【図 1 8 9】図柄表示部での画面例を示す図。

【図 1 9 0】図柄表示部での画面例を示す図。を示すフローチャート。

【図 1 9 1】本発明の第 5 の実施形態に係る遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 1 9 2】図 1 9 1 に示す遊技機の羽役物装置の要部を示す断面図。

【図 1 9 3】羽役物装置の要部を示す断面図。

【図 1 9 4】図 1 9 1 に示す遊技機のシステム構成の一例を示すブロック図。

40

【図 1 9 5】図 1 9 1 に示す遊技機の表示制御装置のシステム構成の一例を示すブロック図。

【図 1 9 6】電源投入時画像を説明する説明図。

【図 1 9 7】(A) は背面 A を説明する説明図、(B) は背面 B を説明する説明図。

【図 1 9 8】背面 C を説明する説明図。

【図 1 9 9】表示データテーブルの一例を模式的に示した模式図。

【図 2 0 0】追加データテーブルの一例を模式的に示した模式図。

【図 2 0 1】転送データテーブルの一例を模式的に示した模式図。

【図 2 0 2】描画リストの一例を模式的に示した模式図。

【図 2 0 3】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

50

- 【図 2 0 4】主制御装置で使用するテーブルの一例を示す図。
- 【図 2 0 5】(A) 及び (B) は図 1 9 1 に示す遊技機の主制御装置で使用するテーブルの一例を示す図、(C) は特図遊技演出の演出フローの一例を示す図。
- 【図 2 0 6】特図遊技演出の再抽選演出の一例を示す図。
- 【図 2 0 7】特図遊技演出の再抽選演出の一例を示す図。
- 【図 2 0 8】図 1 7 の主タイマ割込処理で実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 0 9】主制御装置で実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 0】図 2 0 9 のメイン処理で実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 1】図 2 1 0 の普図遊技制御処理で実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 2】図 2 1 0 の普図遊技制御処理で実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 3】図 2 0 9 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 4】図 2 0 9 のメイン処理で実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 5】図 2 1 4 の特図遊技制御処理で実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 6】図 2 1 4 の特図遊技制御処理で実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 7】図 2 0 9 のメイン処理で実行される特図遊技回数管理処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 8】図 2 0 9 のメイン処理で実行される特図遊技回数管理処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 1 9】図 2 0 9 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 2 0】図 2 0 9 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 2 1】(A) は損益分岐点の演算例を示す図、(B) は小当たり遊技のオープニング演出の例を示す図。
- 【図 2 2 2】小当たり遊技のオープニング演出の画像例を示す図。
- 【図 2 2 3】(A) は小当たり遊技のオープニング演出の変形例 (ボーダー報知) を示す図、(B) 及び (C) は小当たり遊技のオープニング演出の変形例 (ボーダー報知) の画像例を示す図。
- 【図 2 2 4】(A) は特図遊技でのボーダー報知の画像例、(B) は小当たり遊技での V 入賞表示の画像例を示す図。
- 【図 2 2 5】図 2 0 9 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 2 6】図 2 0 9 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 2 7】図 2 0 9 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 2 8】図 2 0 9 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 2 9】図 2 0 9 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。
- 【図 2 3 0】図 2 0 9 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

10

20

30

40

50

【図 2 3 1】図 2 0 9 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 3 2】図 1 9 1 に示す遊技機の音声ランプ制御装置で実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 3 3】図 2 3 2 のメイン処理で実行される振動センサ入力監視・演出処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 3 4】図 2 3 2 のメイン処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 3 5】図 2 3 2 のメイン処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 3 6】図 2 3 2 のメイン処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 3 7】図 2 3 2 のメイン処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 3 8】図 2 3 2 のメイン処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 3 9】図 1 9 1 に示す遊技機の音声ランプ制御装置で実行される副タイマ割込処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 0】図 1 9 1 に示す遊技機の表示制御装置で実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 1】（A）は表示制御装置で実行されるコマンド割込処理の手順の一例を示すフローチャート、（B）は表示制御装置で実行される V 割込処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 2】図 2 4 1 （B）の V 割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 3】（A）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行される保留球数コマンド処理の手順の一例を示すフローチャート、（B）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行される確定コマンド処理の手順の一例を示すフローチャート、（C）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行されるデモコマンド処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 4】（A）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行される変動パターンコマンド処理の手順の一例を示すフローチャート、（B）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行される停止種別コマンド処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 5】（A）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行される連続予告コマンド処理の手順の一例を示すフローチャート、（B）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行される背面画像変更コマンド処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 6】（A）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行される操作ボタン操作コマンド処理の手順の一例を示すフローチャート、（B）は図 2 4 2 のコマンド判定処理で実行されるエラーコマンド処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 7】図 2 4 1 （B）の V 割込処理で実行される表示設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 8】図 2 4 1 （B）の V 割込処理で実行される表示設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 4 9】（A）は図 2 4 8 の表示設定処理で実行される保留画像設定処理の手順の一例を示すフローチャート、（B）は図 2 4 8 の表示設定処理で実行される警告画像設定処理の手順の一例を示すフローチャート、（C）は図 2 4 8 の表示設定処理で実行される操作ボタン操作処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 5 0】図 2 4 8 の表示設定処理で実行される比較処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 5 1】図 2 4 8 の表示設定処理で実行されるボタン更新処理の手順の一例を示すフローチャート。

10

20

30

40

50

【図 2 5 2】(A) は図 2 4 1 (B) の V 割込処理で実行される転送設定処理の手順の一例を示すフローチャート、(B) は図 2 5 2 (A) の転送設定処理で実行される常駐画像転送設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 5 3】図 2 5 2 (A) 転送設定処理で実行される通常画像転送設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 5 4】図 2 4 1 (B) の V 割込処理で実行される描画処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 5 5】本発明の第 6 の実施形態に係る遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 2 5 6】第 1 入賞口、第 2 入賞口、第 1 開閉部材及び第 2 開閉部材を説明するための図。

【図 2 5 7】入球振分装置を説明するための図。

【図 2 5 8】可変入賞装置を説明するための図。

【図 2 5 9】可変入賞装置を説明するための図。

【図 2 6 0】図 2 6 0 (A) は遊技機のシステム構成の要部の一例を示すブロック図、図 2 6 0 (B) は各種入球部に遊技球が入球した場合の賞球数を示す図。

【図 2 6 1】遊技機のゲームフロー（遊技状態の移行）を示す図。

【図 2 6 2】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 2 6 3】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 2 6 4】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 2 6 5】図 1 7 の主タイマ割込処理で実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 6 6】図 1 7 の主タイマ割込処理で実行されるスルーゲート処理の手順を示すフローチャート。

【図 2 6 7】主制御装置によって実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 6 8】図 2 6 7 のメイン処理で実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 6 9】図 2 6 8 の普図遊技制御処理で実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 7 0】図 2 6 8 の普図遊技制御処理で実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 7 1】図 2 6 7 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 7 2】図 2 6 7 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 7 3】図 2 6 7 のメイン処理で実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 7 4】疑似大当たり遊技パターンコマンドの一例を示す図。

【図 2 7 5】疑似大当たり遊技演出パターンの一例を示す図。

【図 2 7 6】特 2 遊技演出パターンを説明するための図。

【図 2 7 7】小当たり遊技演出パターンを説明するための図。

【図 2 7 8】大当たり遊技演出パターンを説明するための図。

【図 2 7 9】大当たり遊技演出パターンの一例（大当たり遊技演出パターン A 1）における疑似大当たり遊技演出（表示）を説明するための図。

【図 2 8 0】図 2 7 3 の特図遊技制御処理で実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8 1】図 2 7 3 の特図遊技制御処理で実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8 2】図 2 6 7 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

10

20

30

40

50

【図 2 8 3】図 2 6 7 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8 4】図 2 6 7 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8 5】図 2 6 7 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8 6】図 2 6 7 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8 7】図 2 6 7 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8 8】図 2 6 7 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 8 9】図 2 6 7 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 9 0】図 2 6 7 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 9 1】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 9 2】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 9 3】図 4 2 の副タイマ割込処理で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 2 9 4】本発明の第 7 の実施形態に係る遊技機の遊技盤の一例を示す正面図。

【図 2 9 5】特図遊技における図柄表示部での表示例を示す図。

【図 2 9 6】小当たり遊技及び大当たり遊技における図柄表示部での表示例を示す図。

【図 2 9 7】第 2 入賞口及び非電動役物の周辺を示す図。

【図 2 9 8】可変入賞装置を説明するための断面図。

【図 2 9 9】可変入賞装置を説明するための断面図。

【図 3 0 0】非電作動装置を説明するための断面図。

【図 3 0 1】非電作動装置を説明するための断面図。

【図 3 0 2】図 2 9 4 に示す遊技機のシステム構成の一例を示すブロック図。

【図 3 0 3】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 3 0 4】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 3 0 5】主制御装置で使用されるテーブルの一例を示す図。

【図 3 0 6】図 1 7 の主タイマ割込処理で実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 0 7】図 1 7 の主タイマ割込処理で実行されるスルーゲート処理の手順を示すフローチャート。

【図 3 0 8】主制御装置によって実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 0 9】図 3 0 8 のメイン処理で実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 0】図 3 0 8 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 1】図 3 0 8 のメイン処理で実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 2】図 3 0 8 のメイン処理で実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 3】図 3 1 2 の特図遊技制御処理で実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャート。

10

20

30

40

50

【図 3 1 4】図 3 1 2 の特図遊技制御処理で実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 5】図 3 0 8 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 6】図 3 0 8 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 7】図 3 0 8 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 8】図 3 0 8 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 1 9】図 3 0 8 のメイン処理で実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 2 0】図 3 0 8 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 2 1】図 3 0 8 のメイン処理で実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 2 2】図 3 0 8 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 2 3】図 3 0 8 のメイン処理で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャート。

【図 3 2 4】図 2 9 4 に示す遊技機の動作を説明するための図。

【図 3 2 5】図 2 9 4 に示す遊技機の動作を説明するための図。

【図 3 2 6】図 2 9 4 に示す遊技機の動作を説明するための図。

【図 3 2 7】図 2 9 4 に示す遊技機の動作を説明するための図。

【発明を実施するための形態】

【0007】

以下、添付図面を参照しながら、本発明の各実施形態について説明し、本発明の理解に供する。また、以下の各実施形態は、本発明を具体化した一例であって、本発明の技術的範囲を限定するものではない。

【0008】

〔第 1 の実施形態〕

まず、図 1 ～図 5 4 を参照しつつ、本発明の第 1 の実施形態に係る遊技機 1 0 について説明する。

【0009】

〔遊技機 1 0 の概略構成〕

ここで、図 1 は遊技機 1 0 の外観斜視図、図 2 及び図 3 は遊技機 1 0 の展開図、図 4 ～図 6 は遊技機 1 0 の遊技盤 3 1 の正面図である。以下、本実施形態で使用する前後左右及び上下の表現は、図 1 ～図 3 に示されている前後方向 D 1、上下方向 D 2、及び左右方向 D 3 により定義されるものとする。

【0010】

図 1 ～図 3 に示すように、遊技機 1 0 は、前面枠 1 1、内枠 1 2、裏パックユニット 1 3、及び外枠 1 4 を備えるパチンコ遊技機であり、遊技ホールの島設備（不図示）に外枠 1 4 が固定されることにより遊技ホールに設置される。なお、本実施形態では、遊技機 1 0 の一例としてパチンコ遊技機を例に挙げて説明するが、例えば回胴式遊技機（スロットマシン）、アレンジボール遊技機、じゃん球遊技機のような他の遊技機にも本発明が適用可能である。

【0011】

〔前面枠 1 1 の構成〕

前面枠 1 1 は、外枠 1 4 で左端部が回動可能に支持されることにより外枠 1 4 に対して開閉可能である。また、内枠 1 2 は、前面枠 1 1 で左端部が回動可能に支持されることにより

10

20

30

40

50

より前面枠 1 1 に対して開閉可能である。さらに、裏パックユニット 1 3 は、内枠 1 2 で左端部が回転可能に支持されることにより内枠 1 2 に対して開閉可能である。

【0012】

前面枠 1 1 は、操作ボタン 2 0、選択決定部 2 1、発射ハンドル 2 2、上皿 2 3、下皿 2 4、パネル 2 5、スピーカ 2 6、及び電飾部 2 7などを備える。

【0013】

操作ボタン 2 0 は、上皿 2 3 の前方に設けられている。操作ボタン 2 0 は、押下操作の有無に応じて、後述の音声ランプ制御装置 5 に対する入力信号を切り換える操作スイッチ 2 0 a (図 7 参照) を備える。これにより、音声ランプ制御装置 5 では、操作ボタン 2 0 の操作状態 (操作あり及び操作なし) を判断することが可能である。この操作ボタン 2 0 は、大当たり抽選での抽選結果を遊技者に明示する特図遊技で実行される特図遊技演出における予め定められた操作受付期間での遊技者による操作ボタン 2 0 に対する操作を契機として実行される操作ボタン演出などを実行させるために操作される。

【0014】

なお、操作ボタン 2 0 の設置位置は、上皿 2 3 の前方に限らず、遊技者が操作可能な位置であれば前面枠 1 1 の任意の位置であってよい。また、操作ボタン 2 0 は、一つに限らず二つ以上であってもよい。また、操作ボタン 2 0 は、ジョグダイヤルを備えたものであってもよい。この場合、ジョグダイヤルに対する操作によって、各種遊技設定を行う際に各種設定画面において選択肢 (項目)、例えば演出ステージ (背景演出)、キャラクタ及び大当たり遊技時の楽曲の他、所定演出の選択頻度や大当たり期待度などの遊技設定から所望とする項目を仮選択でき、操作ボタン 2 0 に対する操作によって仮選択された選択肢 (項目) を選択することが可能になる。

【0015】

また、操作ボタン 2 0 などの遊技者による操作を受け付ける操作手段は、1 つでもよいが複数設けてもよい。前記操作手段としては、操作ボタン 2 0 の他に、例えば回転可能なハンドル、回転可能なレバー、前後や上下などに進退 (往復移動) 可能な押し込み部材、後述の図柄表示部 3 4 1 やサブ可動表示部 3 8 に設けられるタッチパネル、又はこれらの操作手段の 2 以上の組み合わせ (例えば回転と進退が可能な操作手段) などが挙げられ、これらの操作手段に操作ボタン 2 0 を設けたもの (例えばハンドルやレバーに操作ボタン 2 0 やタッチパネルを設けた操作手段) であってもよい。

【0016】

選択決定部 2 1 は、遊技者により操作されるものであり、例えば遊技が実行されていない待機状態において遊技者の押下操作を受け付け、遊技者による各種遊技設定を行う場合に利用される押しボタンである。各種遊技設定としては、例えば遊技演出において登場するキャラクタの設定、ボタン演出などの各種演出の実行頻度の設定や、各種演出の大当たり期待度の設定などが挙げられる。この選択決定部 2 1 は、複数の選択ボタン 2 1 A 及び決定ボタン 2 1 B を含む。

【0017】

複数の選択ボタン 2 1 A は、例えば各種遊技設定を行う際に各種設定画面において選択肢 (項目) から所望とする項目を仮選択するために遊技者によって操作されるものであり、上選択ボタン 2 1 1、下選択ボタン 2 1 2、左選択ボタン 2 1 3 及び右選択ボタン 2 1 4 を含む。ここで、仮選択とは、決定ボタン 2 1 B が操作されることによって仮選択された内容が確定される (RAM 5 1 2 に記憶される) 状態であることを意味する。これらの選択ボタン 2 1 1 ~ 2 1 4 のそれぞれは、図 7 に示すように音声ランプ制御装置 5 に対する入力信号を切り換える上選択操作スイッチ 2 1 1 a、下選択操作スイッチ 2 1 1 b、左選択操作スイッチ 2 1 1 c、及び右選択操作スイッチ 2 1 1 d を備える。これらのスイッチ 2 1 1 a ~ 2 1 1 d は、音声ランプ制御装置 5 の入出力 I / F に接続されている。そのため、音声ランプ制御装置 5 では、各スイッチ 2 1 1 a ~ 2 1 1 d の入力信号に基づいて、各選択ボタン 2 1 1 ~ 2 1 4 に対する操作が行われたか否かを判断することが可能である。

【0018】

また、本実施形態では、各選択ボタン211～214に対する操作が開始されたことが検出される場合に、各選択ボタン211～214に対する操作が行われたと判断される。もちろん、各選択ボタン211～214に対する操作が継続していること、又は操作が終了したことが検出される場合に、各選択ボタン211～214に対する操作が行われたと判断されるようにしてもよい。

【0019】

一方、決定ボタン21Bは、仮選択された項目を決定するために遊技者によって操作される。また、決定ボタン21Bは、後述の音声ランプ制御装置5に対する入力信号を切り換える決定操作スイッチ21Baを備える。決定操作スイッチ21Baは、音声ランプ制御装置5の入出力I／Fに接続されている。そのため、音声ランプ制御装置5では、決定操作スイッチ21Baの入力信号に基づいて、決定操作スイッチ21Baに対する操作が行われたか否かを判断することが可能である。

【0020】

また、複数の選択ボタン21A（211～214）及び決定ボタン21Bに代えて、後述の図柄表示部341やサブ可動表示部38を遊技者の操作を受け付けるタッチパネルを備えるものとし、そのタッチパネルを操作手段として設けられることも考えられる。また、複数の選択ボタン21A（211～214）に代えて、ジョグダイヤルなどの回転部材を設けることも考えられる。また、選択操作スイッチ211a～211d及び決定操作スイッチ21Ba（図7参照）は、接点式スイッチなどであるが、遊技者による操作の有無を検出するために用いることが可能であれば、例えば圧電素子などであってもよい。

【0021】

発射ハンドル22は、遊技者が遊技球を発射させるために操作する回転式ハンドルである。遊技機10では、遊技者による発射ハンドル22の回転操作量に応じた強さで後述の遊技球発射機構32から遊技球が発射されることにより基本的な遊技が行われる。遊技機10では、遊技者により発射ハンドル22が操作されている状況では、0.6secに1個の遊技球が遊技領域に向けて発射されるように遊技球発射機構32が駆動制御される。

【0022】

上皿23は、パネル25の下方に配置されており、後述の払出機構130の払出装132から払い出された遊技球を貯留し、貯留されている遊技球を1列に整列させた状態で遊技球発射機構32に導くために用いられる。また、下皿24は、上皿23のさらに下方に設けられており、上皿23で余剰となった遊技球を貯留するために用いられる。

【0023】

パネル25は、遊技者が遊技機10の前方から内枠12の遊技盤31を視認することのできる無色透明又は有色透明のガラス又は合成樹脂である。スピーカ26は、前面枠11の上端部の左右に設けられた一対のスピーカであり、音声出力する音声演出を実行する。なお、スピーカ26の設置位置は、前面枠11の上端部に限らない。また、電飾部27は、表示ランプ、LEDなどの光源を内蔵しており、点灯色、点灯又は消灯などの点滅態様によりランプ演出を実行する。

【0024】

【内枠12の構成】

図2及び図3に示すように、内枠12は、遊技盤31、遊技球発射機構32、及び制御ユニット33を備える。内枠12は、上述のように前面枠11で左端部が回転可能に支持されることにより前面枠11に対して開閉可能である。そのため、遊技盤31、遊技球発射機構32、及び制御ユニット33は、前面枠11に対して開閉可能である。なお、図2では図示の簡略化のために遊技盤31の盤面上の記載を省略している。

【0025】

制御ユニット33は、遊技盤31の背面側に設けられており、メイン制御ユニット331及びサブ制御ユニット332を有する。なお、遊技機10では、メイン制御ユニット331からサブ制御ユニット332の一方向に、制御内容を指示するためのコマンド（制御

10

20

30

40

50

信号) が送信される。メイン制御ユニット 3 3 1 及びサブ制御ユニット 3 3 2 の詳細については後段で詳述する。

【0026】

図 4 に示すように、遊技盤 3 1 には、内レール 3 1 1、外レール 3 1 2、一般入賞口 3 1 3、第 1 入賞口 3 1 4、第 2 入賞口 3 1 5、可変入賞口 3 1 6、スルーゲート 3 1 7 L、3 1 7 R、アウト口 3 1 8、可変表示ユニット 3 4、メイン表示部 3 6、サブ可動表示部 3 8、及び可動役物部材 3 9 が設けられている。

【0027】

内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 は、遊技球発射機構 3 2 から発射された遊技球を遊技盤 3 1 の盤面上の遊技領域に向けて送り出すための搬送路である。そして、内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 から発射された後、一般入賞口 3 1 3、第 1 入賞口 3 1 4、第 2 入賞口 3 1 5 又は可変入賞口 3 1 6 に入球しなかった遊技球はアウト口 3 1 8 から排出される。

【0028】

ここで、遊技球発射機構 3 2 は、図 2 に示すように、発射レール 3 2 1、球送り装置 3 2 2、及びソレノイド 3 2 3 を備える。発射レール 3 2 1 は、遊技球発射機構 3 2 から遊技盤 3 1 の内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 に向けて形成されており、遊技球発射機構 3 2 から発射される遊技球を内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 に導くものである。球送り装置 3 2 2 は、ソレノイドなどの駆動手段を有しており、上皿 2 3 に貯留されている遊技球を 1 球ずつ発射レール 3 2 1 上に供給する。ソレノイド 3 2 3 は、発射レール 3 2 1 上に供給された遊技球を内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 に向けて発射させる駆動手段である。そして、遊技機 1 0 では、遊技者による発射ハンドル 2 2 の操作に応じてソレノイド 3 2 3 が駆動制御され、遊技球が遊技球発射機構 3 2 から遊技盤 3 1 に発射される。なお、遊技球発射機構 3 2 は、ソレノイド 3 2 3 に代えてモーターなどの他の駆動手段を用いて遊技球を発射させる機構であってもよい。

【0029】

図 4 の説明に戻り、一般入賞口 3 1 3、第 1 入賞口 3 1 4、第 2 入賞口 3 1 5、可変入賞口 3 1 6、及びアウト口 3 1 8 には、遊技盤 3 1 を前後方向に貫通する開口部が形成されている。そして、遊技盤 3 1 の背面側には、一般入賞口 3 1 3、第 1 入賞口 3 1 4、第 2 入賞口 3 1 5、及び可変入賞口 3 1 6 の各々に対応して、遊技球の入球を個別に検出可能な入球センサ 3 1 3 a、3 1 4 a、3 1 5 a、3 1 6 a (図 7 参照) が設けられている。また、一般入賞口 3 1 3、第 1 入賞口 3 1 4、第 2 入賞口 3 1 5、及びアウト口 3 1 8 の開口部を通過した遊技球は、遊技盤 3 1 の背面側に集められることで後述のアウト玉センサ 3 1 8 a (図 7 参照) によって検出される。スルーゲート 3 1 7 L、3 1 7 R は、遊技球が通過し得る上下に貫通したゲートであり、スルーゲート 3 1 7 L、3 1 7 R を通過する遊技球を個別に検出可能な入球センサ 3 1 7 L a、3 1 7 R a (図 7 参照) を有する。遊技盤 3 1 では、遊技盤 3 1 の左側領域に打ち出された遊技球がスルーゲート 3 1 7 L を通過する可能性があり、遊技盤 3 1 の右側領域に打ち出された遊技球がスルーゲート 3 1 7 R を通過する可能性がある。そして、入球センサ 3 1 7 L a、3 1 7 R a (図 7 参照) での遊技球の通過が検出されることを契機として第 2 入賞口 3 1 5 を開放するか否かの普通当たり抽選が実行される。そして、普通当たり抽選での抽選結果が当たりである場合には、後述の電動役物 3 1 5 b の開放によって第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球可能とされる。即ち、遊技機 1 0 では、確変遊技状態 (高確率モードかつ高頻度サポートモード) 及び時短遊技状態 (低確率モードかつ高頻度サポートモード) だけでなく、遊技盤 3 1 の左側領域に遊技球を打ち出すことで、通常遊技状態 (低確率モードかつ低頻度サポートモード) においても第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球を入球させることが可能である。

【0030】

なお、高確率モードは大当たり抽選の結果の大当たりとなる大当たり確率が高く (図 9 (B) 参照)、大当たり遊技が実行される大当たり遊技状態に移行され易いモードであるのに対して、低確率モードは大当たり抽選の結果の大当たりとなる大当たり確率が低く (

図 9 (A) 参照)、大当たり遊技が実行される大当たり遊技状態に移行され難いモードである。また、高頻度サポートモードは普図当たり抽選の結果の普図当たりとなる普図当たり確率が高く(図 12 (B) 参照)、後述の電動役物 3 1 5 b の作動頻度が高いために第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が許容され易いモードであるのに対して、低頻度サポートモードは普図当たり抽選の結果の普図当たりとなる普図当たり確率が低く(図 12 (A) 参照)、電動役物 3 1 5 b の作動頻度が低いために第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が許容され難いモードである。

【0031】

入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a , 3 1 7 L a , 3 1 7 R a 、及びアウト玉センサ 3 1 8 a (図 7 参照) はメイン制御ユニット 3 3 1 に電氣的に接続されており、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a , 3 1 7 L a , 3 1 7 R a 、及びアウト玉センサ 3 1 8 a の検出結果はメイン制御ユニット 3 3 1 に入力される。メイン制御ユニット 3 3 1 (MPU 4 1) は、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a での検出結果に応じて払出制御装置 7 に遊技球の払い出しを行わせるコマンドを送信する。以下、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a により遊技球の入球が検出されることを入賞と称することがある。また、メイン制御ユニット 3 3 1 (MPU 4 1) は、アウト玉センサ 3 1 8 a での検出結果に基づいてアウト玉数をカウントする。ここでカウントされるアウト玉数は、遊技球発射機構 3 2 によって遊技盤 3 1 に打ち出された発射遊技球数と一致する。

【0032】

なお、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a , 3 1 7 L a , 3 1 7 R a 、及びアウト玉センサ 3 1 8 a は、例えば電磁誘導型の近接センサであるが、他の検出手法により遊技球の入球を個別に検知することが可能な任意のセンサであってもよい。

【0033】

また、第 2 入賞口 3 1 5 には、遊技球の第 2 入賞口 3 1 5 への入球の制限の有無を切り換える電動役物(電役) 3 1 5 b が設けられている。電動役物 3 1 5 b は、遊技盤 3 1 の背面側に設けられたソレノイドなどの駆動手段によって開閉される。そして、遊技盤 3 1 では、電動役物 3 1 5 b が開くことにより第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が可能となり、電動役物 3 1 5 b が閉じることにより第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が制限される。

【0034】

さらに、可変入賞口 3 1 6 には、遊技球の可変入賞口 3 1 6 への入球の制限の有無を切り換える開閉扉 3 1 9 が設けられている。開閉扉 3 1 9 は、遊技盤 3 1 の背面側に設けられたソレノイドなどの駆動手段によって開閉される。そして、遊技盤 3 1 では、開閉扉 3 1 9 が開くことにより可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球が可能となり、開閉扉 3 1 9 が閉じることにより可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球が制限される。なお、開閉扉 3 1 9 は、大当たり遊技における開閉実行モードでのラウンド遊技において可変入賞口 3 1 6 を開放する位置に移動され、それ以外では可変入賞口 3 1 6 を閉鎖する位置で待機される。これにより、可変入賞口 3 1 6 には、大当たり遊技でのラウンド遊技において遊技盤 3 1 の右側領域に打ち出された遊技球が入球可能である。

【0035】

遊技機 1 0 では、第 1 入賞口 3 1 4 又は第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が入球センサ 3 1 4 a 又は入球センサ 3 1 5 a によって検出されると、メイン制御ユニット 3 3 1 により大当たり抽選が行われる。そして、メイン制御ユニット 3 3 1 は、大当たり抽選での抽選結果に従ってメイン表示部 3 6 の表示を制御する。また、メイン制御ユニット 3 3 1 による抽選結果は、サブ制御ユニット 3 3 2 に送信され、サブ制御ユニット 3 3 2 は、抽選結果に従って可変表示ユニット 3 4 の表示などを制御する。

【0036】

また、遊技機 1 0 では、一般入賞口 3 1 3 、第 1 入賞口 3 1 4 、第 2 入賞口 3 1 5 、及び可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球が、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a によって検出されると、予め設定された数の賞球が払い出される。例えば、一般入賞口 3 1 3 に入球した

10

20

30

40

50

場合の賞球数は10個、第1入賞口314又は第2入賞口315に入球した場合の賞球数は3個、可変入賞口316に入球した場合の賞球数は10個である。特に、遊技機10では、メイン制御ユニット331で行われた抽選結果が大当たりである場合に大当たり遊技状態に移行し、可変入賞口316が開放される後述のラウンド遊技が所定回数（例えば5回又は16回）繰り返されることにより、多量の賞球の払い出しが期待できる。

【0037】

また、第1入賞口314又は第2入賞口315に遊技球が入賞すると、大当たり抽選が実行される。そして、抽選結果が当選である場合は通常遊技状態よりも有利な予め定められた大当たり遊技状態に移行する。なお、本実施形態では、大当たり遊技状態には、5R大当たり遊技状態（5R通常大当たり遊技状態及び5R確変大当たり遊技状態）、及び16R確変大当たり遊技状態が含まれる。5R大当たり遊技状態は、所定時間が経過するまで、又は可変入賞口316に上限数（例えば9個）以上の遊技球が入賞するまで可変入賞口316が開放されるラウンド遊技が5回行われる開閉実行モードを含む遊技状態である。16R確変大当たり遊技状態は、ラウンド遊技が16回行われる開閉実行モードを含む遊技状態であり、5R大当たり遊技状態よりも多量の賞球の払い出しが期待でき、5R大当たり遊技状態よりも遊技者にとって有利な遊技状態である。

【0038】

図4に示すように、可変表示ユニット34は、遊技盤31の略中央部に形成されている開口31Aを通して視認可能に配置された液晶ディスプレイなどの図柄表示部341を有している。この図柄表示部341は、静止画又は動画を表示するものであり、図柄表示部341の表示内容は、サブ制御ユニット332によって制御される。具体的に、図柄表示部341では、第1入賞口314又は第2入賞口315への入球に応じてメイン制御ユニット331により行われる大当たり抽選での抽選結果に応じた飾り図柄の変動表示演出、及び変動表示演出に伴って実行される特図遊技演出のような種々の画像演出が行われる。また、図柄表示部341は、ドットマトリクスディスプレイ、プラズマディスプレイ、有機ELディスプレイなどを有するものであってもよく、液晶ディスプレイ又はプラズマディスプレイと、有機ELディスプレイとを組み合わせたものであってもよく、遊技者のタッチ操作を受け付けるタッチパネルをさらに有するものであってもよい。

【0039】

例えば、図柄表示部341における飾り図柄の変動表示演出は、例えば「1」～「9」の数字が付された複数種類の飾り図柄が縦方向、横方向、斜め方向などに順にスクロールすることにより行われる。なお、飾り図柄の間には他の文字又は図柄などの副図柄が表示されてもよい。また、本実施形態では、副図柄はなく、飾り図柄の種類が「1」～「9」の9種類である。

【0040】

遊技機10では、特図遊技において、図柄表示部341における図柄変動表示の開始から予め設定されている変動表示時間の経過後に、全ての飾り図柄の変動が停止するように飾り図柄の変動表示が実行される。より具体的に、飾り図柄の変動表示では、まず予め設定されている変動方向（例えば横方向、縦方向など）に沿って飾り図柄が全て変動し、複数の飾り図柄の変動が順に停止する。そして、全てのラインにおける飾り図柄の変動が停止して所定時間が経過すると、当該飾り図柄の変動表示が終了する。

【0041】

図柄表示部341における飾り図柄の変動表示が終了すると、図柄表示部341では、1又は複数の有効ラインに飾り図柄が並んだ状態が表示されることになる。このとき、飾り図柄の停止状態が、メイン制御ユニット331による大当たり抽選での抽選結果を明示又は示唆することになる。例えば、抽選結果が「5R確変大当たり」、「16R確変大当たり」又は「5R通常大当たり」である場合には、同じ種別の飾り図柄が有効ラインに並んだ状態が表示され、大当たりであることが明示される。また、大当たり種別については、有効ラインにおける飾り図柄の組み合わせによって明示される場合もあるが、必ずしも明示される訳ではない。具体的には、例えば、抽選結果が「16R確変大当たり」の場合

には、飾り図柄のうち16R確変大当たりを示す図柄組み合わせとして設定された、例えば「777」の図柄組み合わせが有効ラインに並んだ状態が表示されるか、「777」以外の同じ飾り図柄の組み合わせが有効ラインに並んだ状態が表示される。また、抽選結果が「5R確変大当たり」の場合には、飾り図柄のうち予め5R確変大当たりを示す図柄組み合わせとして設定された、例えば「333」などの図柄組み合わせが有効ラインに並んだ状態が表示されるか、「777」や「333」などの16R確変大当たり又は5R確変大当たりを示す図柄の組み合わせ以外の同じ飾り図柄の組み合わせが有効ラインに並んだ状態が表示される。また、抽選結果が「5R通常大当たり」の場合には、飾り図柄のうち予め通常大当たりを示す図柄組み合わせとして設定された、例えば「222」や「444」などの確変大当たりを示す飾り図柄の組み合わせ以外の同じ飾り図柄の組み合わせが有効ラインに並んだ状態が表示される。また、抽選結果が「外れ」の場合には、異なる飾り図柄の組み合わせが有効ラインに並んだ状態（例えば「323」又は「723」など）が表示される。

10

【0042】

また、図柄表示部341には、特図遊技において飾り図柄の変動表示と共に、大当たり抽選での抽選結果が大当たりであることの期待度を示唆する特図遊技演出が表示される。なお、抽選結果が「16R確変大当たり」の場合に16R確変大当たりを示す飾り図柄の組み合わせ以外の大当たり図柄組み合わせが有効ラインに並んだ状態が表示された場合には、特図遊技演出として、5R確変大当たり又は5R通常大当たりであることを示唆する示唆演出が実行される。この場合、大当たり遊技演出において、当該特図遊技に対する抽選結果が16R確変大当たりであることを明示する昇格演出が実行される。同様に、抽選結果が「5R確変大当たり」の場合に確変大当たりを示す飾り図柄の組み合わせ以外の大当たり図柄組み合わせが有効ラインに並んだ状態が表示された場合には、特図遊技演出として、5R通常大当たりであることを示唆する示唆演出が実行される。この場合、大当たり遊技演出において、当該特図遊技に対する抽選結果が5R確変大当たりであることを明示する昇格演出などが実行される。

20

【0043】

さらに、図柄表示部341には、遊技状態が大当たり遊技状態に移行した場合、オープニング演出、開閉実行モード演出及びエンディング演出を含む大当たり遊技演出が表示される。

30

【0044】

サブ可動表示部38は、液晶ディスプレイなどの表示装置381を備え、図柄表示部341の正面側の左側領域に設けられている。このサブ可動表示部38では、表示制御装置6の入出力I/F62を介してMPU61に接続されており（図7参照）、音声ランプ制御装置5のMPU51から送信される表示変動パターンコマンドに基づいて、MPU61の制御によって特図遊技や大当たり遊技において図柄表示部341と共に、表示装置381において画像演出が実行される。

【0045】

なお、表示装置381は、ドットマトリクスディスプレイ、プラズマディスプレイ、有機ELディスプレイなどであってもよく、液晶ディスプレイ又はプラズマディスプレイと、有機ELディスプレイとを組み合わせたものであってもよい。また、サブ可動表示部38は、表示装置381に加えて、遊技者のタッチ操作を受け付けるタッチパネルをさらに有するものであってもよい。

40

【0046】

また、サブ可動表示部38は、図5に仮想線で示す待機位置（図4に示す位置）と、図5に実線で示す作動位置との間で左右方向D3に移動可能である。

【0047】

ここで、図7に示すように、遊技機10は、サブ可動表示部38に駆動力を供給するモーター38a、及びサブ可動表示部38が待機位置に復帰していることを検出するための復帰検出部38bを有する。モーター38aは、ステッピングモーター、DCモーターな

50

どであり、復帰検出部 38 b は、光学式センサ、接点式センサなどである。サブ可動表示部 38 とモーター 38 a とは、不図示の駆動ギアなどの駆動伝達機構を介して連結されており、モーター 38 a の回転方向に応じてサブ可動表示部 38 を待機位置（図 4 参照）から作動位置（図 5 の実線位置）に向けた右方向（作動方向）、又は作動位置（図 5 の実線位置）から待機位置（図 4 参照）に向けた左方向（復帰方向）に移動させる。例えば、サブ可動表示部 38 は、モーター 38 a が正方向に回転されることで待機位置（図 4 参照）から作動位置（図 5 の実線位置）に移動され、これとは逆に、モーター 38 a が逆方向に回転されることで作動位置（図 5 の実線位置）から待機位置（図 4 参照）に移動される。

【0048】

また、遊技機 10 は、モーター 38 a 及び復帰検出部 38 b が接続されるモータードライバ 38 c を備える。モータードライバ 38 c は、音声ランプ制御装置 5 の入出力 I / F 5 2 に接続されている。そして、モータードライバ 38 c は、音声ランプ制御装置 5 からの制御指示に従ってモーター 38 a を制御する。また、モータードライバ 38 c は、復帰検出部 38 b による検出結果を取得して音声ランプ制御装置 5 に伝達することが可能である。なお、モータードライバ 38 c を省略し、モーター 38 a 及び復帰検出部 38 b が、音声ランプ制御装置 5 の入出力 I / F 5 2 に直接接続され、音声ランプ制御装置 5 によって制御されてもよい。

【0049】

このようなサブ可動表示部 38 は、特図遊技や大当たり遊技において、大当たり抽選での抽選結果に関連する演出を実行するために動作される。例えば、サブ可動表示部 38 は、特図遊技において、大当たり抽選での抽選結果が大当たりであることを示す大当たり確定演出として動作される他、抽選結果が大当たりであることの期待度を向上させるチャンスアップ演出として動作される。また、サブ可動表示部 38 は、大当たり遊技において、特図遊技演出で示唆された抽選結果よりも実際の抽選結果がより遊技者に有利であることを明示する昇格演出（大当たり遊技で実行されるラウンド数昇格演出や通常大当たりから確変大当たりへの昇格演出）に動作されるの他、大当たり遊技の終了後に実行される特図遊技の実行する権利の保留中に、大当たり抽選での抽選結果が大当たりであるものが含まれていることを報知する保留連荘確定演出として動作させることも可能である。

【0050】

なお、サブ可動表示部 38 の待機位置や作動位置は、図柄表示部 341 の正面側の左側領域に限らず他の位置であってもよい。また、サブ可動表示部 38 の数は、1 つに限らず複数であってもよく、複数のサブ可動表示部 38 は協動、連動、従動、追動するものであってもよい。また、サブ可動表示部 38 は、左右方向 D 3 に加えて、又は代えて、他の方向に移動可能であってもよい。例えば、サブ可動表示部 38 は、上下方向 D 2、斜め方向などに移動可能であってもよく、さらに、時計回り方向や反時計回り方向などに回転可能であってもよい。また、サブ可動表示部 38 は省略可能であり、サブ可動表示部 38 に代えて、移動不能な 1 以上の表示装置を設けてもよい。

【0051】

図 4 に示すように、メイン表示部 36 は、遊技盤 31 の右上部に配置された普通図柄表示部 361、第 1 特別図柄表示部 362、第 2 特別図柄表示部 363、第 1 特図保留数表示部 364 及び第 2 特図保留数表示部 365 を備える。

【0052】

普通図柄表示部 361 は、普通図柄（普図）としての LED 対を含み、スルーゲート 317 L, 317 R への入賞を契機として実行される電動役物 315 b を開放するか否かの普図当たり抽選での抽選結果を、LED 対の点消灯の組み合わせによって表示する。メイン制御ユニット 331（MPU 41）は、スルーゲート 317 L, 317 R への入賞を契機として LED 対を点滅（普通図柄を変動表示）させ、変動表示時間の経過後に各 LED を点灯又は消灯（普通図柄を停止表示）させることによって普図当たり抽選の結果を表示させる。なお、普通図柄（普図）の変動表示及び停止表示により普図当たり抽選での抽選結果を表示することを「普通図柄遊技」又は「普図遊技」と称する。

10

20

30

40

50

【0053】

第1特別図柄表示部362は、第1特別図柄（第1特図）としての7セグメント表示装置を含み、第1入賞口314への入賞を契機として実行される大当たり遊技を実行するかどうかの第1特別図柄抽選（第1特図抽選、大当たり抽選）での抽選結果を、7セグメント表示装置における7つのセグメントの点消灯の組み合わせによって表示する。メイン制御ユニット331（MPU41）は、第1入賞口314への入賞を契機として7セグメント表示装置の7つのセグメントを点滅（第1特別図柄を変動表示）させ、変動表示時間の経過後に各セグメントを点灯又は消灯（第1特別図柄を停止表示）させることによって大当たり抽選の結果を表示させる。なお、第1特別図柄（第1特図）の変動表示及び停止表示により大当たり抽選での抽選結果を表示することを「第1特別図柄遊技」又は「第1特図遊技」と称する。

10

【0054】

第2特別図柄表示部363は、第2特別図柄（第2特図）としての7セグメント表示装置を含み、第2入賞口315への入賞を契機として実行される大当たり遊技を実行するかどうかの第2特別図柄抽選（第2特図抽選、大当たり抽選）での抽選結果を、7セグメント表示装置における7つのセグメントの点消灯の組み合わせによって表示する。メイン制御ユニット331（MPU41）は、第2入賞口315への入賞を契機として7セグメント表示装置の7つのセグメントを点滅（第2特別図柄を変動表示）させ、変動表示時間の経過後に各セグメントを点灯又は消灯（第2特別図柄を停止表示）させることによって大当たり抽選の結果を表示させる。なお、第2特別図柄（第2特図）の変動表示及び停止表示により大当たり抽選での抽選結果を表示することを「第2特別図柄遊技」又は「第2特図遊技」と称する。

20

【0055】

なお、以下においては、第1特別図柄（第1特図）及び第2特別図柄（第2特図）を「特別図柄」又は「特図」と称することがあり、第1特別図柄遊技（第1特図遊技）及び第2特別図柄遊技（第2特図遊技）を「特別図柄遊技」又は「特図遊技」と称することがある。

【0056】

第1特図保留数表示部364は、4つLEDからなるLED群を含み、第1入賞口314への入賞により生じた第1特図遊技を実行する権利の保留数である第1特図保留数Nを、4つLEDの点灯個数によって表示する。

30

【0057】

第2特図保留数表示部365は、4つLEDからなるLED群を含み、第2入賞口315への入賞により生じた第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mを、4つLEDの点灯個数によって表示する。

【0058】

可動役物部材39は、図柄表示部341の上方に位置する予め定められた図4に示す待機位置（図6に仮想線で示す位置）と、待機位置よりも下方に設定される図6に実線で示す作動位置との間で、図柄表示部341の表面に沿って上下方向に移動可能である。作動位置（図6の実線参照）は、待機位置（図4参照）に比べて、図柄表示部341の中央に近い位置である。また、可動役物部材39は、作動位置（図6の実線参照）にある場合、待機位置（図4参照）にある場合に比べて、図柄表示部341の表面に対する被覆率が高い。また、可動役物部材39は、周縁部に複数のランプ391が円環状に配置されている。本実施形態では、可動役物部材39には15個のランプ391が配置されており、各ランプ391は個別に点灯及び消灯可能である。また、複数のランプ391のそれぞれは、例えばLEDランプであり、白色、黄色、緑色、赤色、又はこれらの混合色などを含む複色に点灯可能である。このように、各ランプ391は個別に点灯及び消灯を可能とし、また複色に点灯可能であることで、例えば可動役物部材39が作動された場合に各ランプ391の点灯パターン、点灯色、点灯個数によって、当該特図遊技の契機となった大当たり抽選での抽選結果が大当たりであることの期待度（大当たり期待度）を示唆し、又は

40

50

抽選結果を大当たりであることを明示することが可能になる。例えば、点灯色に関しては、白色、黄色、緑色、赤色の順に大当たり期待度が高くなるようにすることができ、また、点灯パターンと点灯色と適宜設定することで、レインボーのランプ演出を実行することでも大当たり抽選での抽選結果が大当たりであることを明示する確定演出を実行することも可能である。また、本実施形態では、可動役物部材 39 が待機位置（図 4 参照）において開口 31 A から露出しているが、開口 31 A から露出した部分のランプ 39 1 を利用して大当たり抽選での抽選結果が大当たりであることの期待度を示唆する演出が実行されるようにすることも考えられる。例えば、本実施形態では、下方側に位置する 4 つのランプ 39 1 が開口 31 A から露出しているため（図 4 参照）、これらのランプ 39 1 のうちのいずれのランプ 39 1 が点灯されるかによって大当たり期待度を示唆することが考えられる。また、下方側に位置する 4 つのランプ 39 1 に加えて、図柄表示部 34 1 に表示される画像によって大当たり期待度を示唆することも考えられる。

10

【0059】

なお、可動役物部材 39 は、待機位置において開口 31 A から露出することなく、全体が隠れたものであってもよい。また、遊技機 10 は、可動役物部材 39 を複数備えていてもよい。さらに、可動役物部材 39 は、分離された複数の可動部材が組み合わされるもの、2 以上の形態に変形可能なもの、液晶表示装置などのディスプレイを備えるものであってもよい。もちろん、可動役物部材 39 は図柄表示部 34 1 の表示画面の一部を覆うものに限らず、表示画面の全体を覆うものであってもよい。また、可動役物部材 39 の中央部は、点灯及び消灯可能な電飾部として構成してもよい。この場合、電飾部を点灯又は点滅させることで大当たり期待度を示唆し、又は大当たりを明示する演出を実行することが可能になる。

20

【0060】

このような可動役物部材 39 は、特図遊技や大当たり遊技において、大当たり抽選での抽選結果に関連する演出を実行するために動作される。例えば、可動役物部材 39 は、特図遊技において、大当たり抽選での抽選結果が大当たりであることを示す大当たり確定演出として動作される他、抽選結果が大当たりであることの期待度を向上させるチャンスアップ演出として動作される。また、可動役物部材 39 は、大当たり遊技において、特図遊技演出で示唆された抽選結果よりも実際の抽選結果がより遊技者に有利であることを明示する昇格演出（大当たり遊技で実行されるラウンド数昇格演出や通常大当たりから確変大当たりへの昇格演出）に動作されるの他、大当たり遊技の終了後に実行される特図遊技の実行する権利の保留中に、大当たり抽選での抽選結果が大当たりであるものが含まれていることを報知する保留連荘確定演出として動作させることも可能である。

30

【0061】

図 7 に示すように、遊技機 10 は、可動役物部材 39 に駆動力を供給するモーター 39 a、及び可動役物部材 39 が待機位置に復帰していることを検出するための復帰検出部 39 b を有する。モーター 39 a は、ステッピングモーター、DC モーターなどであり、復帰検出部 39 b は、光学式センサ、接点式センサなどである。可動役物部材 39 とモーター 39 a とは、不図示の駆動ギアなどの駆動伝達機構を介して連結されており、モーター 39 a の回転方向に応じて可動役物部材 39 を待機位置（図 4 参照）から作動位置（図 6 の実線参照）に向けた下方向（作動方向）、又は作動位置（図 6 の実線参照）から待機位置（図 4 参照）に向けた上方向（復帰方向）に移動させる。例えば、可動役物部材 39 は、モーター 39 a が正方向に回転されることで待機位置（図 4 参照）から作動位置（図 6 の実線参照）に移動され、これとは逆に、モーター 39 a が逆方向に回転されることで作動位置（図 6 の実線参照）から待機位置（図 4 参照）に移動される。

40

【0062】

また、遊技機 10 は、モーター 39 a 及び復帰検出部 39 b が接続されるモータードライバ 39 c を備える。モータードライバ 39 c は、音声ランプ制御装置 5 の入出力 I/F 5 2 に接続されている。そして、モータードライバ 39 c は、音声ランプ制御装置 5 からの制御指示に従ってモーター 39 a を制御する。また、モータードライバ 39 c は、復帰

50

検出部 39b による検出結果を取得して音声ランプ制御装置 5 に伝達することが可能である。なお、モータドライバ 39c を省略し、モーター 39a 及び復帰検出部 39b が、音声ランプ制御装置 5 の入出力 I / F 52 に直接接続され、音声ランプ制御装置 5 によって制御されてもよい。

【0063】

また、可動役物部材 39 の各ランプ 391 は、音声ランプ制御装置 5 の入出力 I / F 52 に個別に接続されており、音声ランプ制御装置 5 によって、各ランプ 391 が個別に点灯及び消灯され、また複数色に点灯可能である。

【0064】

また、遊技盤 31 には、磁石センサや電波センサ（共に不図示）を設けることも考えられる。磁石センサは、例えば第 1 入賞口 314 や可変入賞口 316 の周辺に設けられる。磁石センサは、メイン制御ユニットに電氣的に接続され、磁石センサの検知結果はメイン制御ユニット 331 に入力される。これにより、磁石を用いて不正に第 1 入賞口 314 や可変入賞口 316 に遊技球を誘導させようとする行為が行われた場合に、その不正行為を検知することが可能である。一方、電波センサは、例えば第 1 入賞口 314 や第 2 入賞口 315 の周辺に設けられる。電波センサは、メイン制御ユニット 331 に電氣的に接続されており、電波センサの検知結果はメイン制御ユニット 331 に入力される。これにより、不正に入球センサ 314a, 315a に電波を入力して遊技球の入球を誤検知させる行為が行われた場合に、その不正行為を検知することが可能である。なお、電波センサは、例えば 50MHz ~ 3GHz の電波を検知可能である。

【0065】

[裏パックユニット 13]

図 3 に示すように、裏パックユニット 13 は、払出機構 130 及び周辺制御ユニット 140 を備える。

【0066】

払出機構 130 は、遊技ホールの島設備（不図示）から供給される球技球を貯留するタンク 131 と、タンク 131 から上皿 23 に向けて遊技球を払い出す払出装置 132 とを備える。なお、上皿 23 の遊技球が飽和している場合、払出装置 132 から払い出される遊技球は下皿 24 に払い出される。

【0067】

周辺制御ユニット 140 は、払出制御装置 7、発射制御装置 8、及び電源制御装置 9 を備える。払出制御装置 7 は、払出装置 132 による遊技球の払出玉数などを制御する。発射制御装置 8 は、発射ハンドル 22 の操作に応じて遊技球発射機構 32 を制御する。電源制御装置 9 は、遊技機 10 が接続された島設備（不図示）から供給される電力を所定の電圧レベルに変換し、遊技機 10 内に設けられた制御装置及び駆動手段に供給する。

【0068】

[遊技機 10 のシステム構成]

次に、図 7 ~ 図 16 を参照しつつ、遊技機 10 のシステム構成について説明する。

【0069】

[メイン制御ユニット 331]

図 7 に示すように、メイン制御ユニット 331 は、遊技機 10 における遊技の主たる制御を実行する主制御装置 4 を備える。主制御装置 4 は、予め設定された大当たり遊技状態への移行の抽選として、大当たり抽選を実行する。主制御装置 4 は、MPU 41、入出力 I / F 42 及び性能情報表示装置 4A を備える。

【0070】

MPU 41 は、1 チップマイコンとして構成された演算装置である。また、MPU 41 には、ROM 411 及び RAM 412 が内蔵されている。MPU 41 は、ROM 411 などに記憶されている制御プログラムに従って処理を実行する。また、主制御装置 4 で実行される処理の一部又は全部は電子回路によって実行されてもよい。

【0071】

入出力 I / F 4 2 は、主制御装置 4 に信号を入力し、主制御装置 4 から制御信号を出力する入出力インターフェースである。また、入出力 I / F 4 2 には、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a , 3 1 7 L a , 3 1 7 R a 、及びアウト玉センサ 3 1 8 a などが接続されている。そして、MPU 4 1 は、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a , 3 1 7 L a , 3 1 7 R a からの検出信号に基づいて一般入賞口 3 1 3 、第 1 入賞口 3 1 4 、第 2 入賞口 3 1 5 、及び可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球の有無、スルーゲート 3 1 7 L , 3 1 7 R への遊技球の通過の有無を判断する。また、MPU 4 1 は、アウト玉センサ 3 1 8 a からの検出信号に基づいてアウト玉数（発射玉数）をカウントする。さらに、入出力 I / F 4 2 には、音声ランプ制御装置 5 、払出制御装置 7 、発射制御装置 8 、及び電源制御装置 9 などが接続されている。

10

【0072】

そして、MPU 4 1 は、音声ランプ制御装置 5 に、普図変動パターンコマンド、電動役物開放コマンド、電動役物閉鎖コマンド、特図変動パターンコマンド、第 1 特図保留コマンド、第 2 特図保留コマンド、特図シフトコマンド、大当たり遊技開始コマンド、オープニング開始コマンド、オープニング終了コマンド、開閉実行モード開始コマンド、ラウンド遊技開始コマンド、ラウンド遊技終了コマンド、インターバル開始コマンド、インターバル終了コマンド、開閉実行モード終了コマンド、エンディング開始コマンド、エンディング終了コマンド、大当たり遊技終了コマンド、遊技設定値変更コマンドなどのコマンドを出力する。

【0073】

普図変動パターンコマンドは、普図遊技における普通図柄の変動表示時間（普図変動パターン）及び普図当たり抽選での抽選結果を音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドである。普図変動パターンコマンドは、メイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 における普通図柄の変動表示を開始する際に、後述の普図保留格納エリア 4 1 2 c （図 1 1 参照）に記憶されている情報に基づいて、後述の図 2 4 の普図変動開始処理でのステップ S 1 7 0 9 において設定される。なお、普図変動パターンコマンドは、普図遊技における普通図柄の変動表示時間（普図変動パターン）のみを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであってもよい。この場合、普図当たり抽選での抽選結果を音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドは、普図変動パターンコマンドとは別のコマンドとして設定される。

20

【0074】

電動役物開放コマンドは、電動役物 3 1 5 b が開放（作動）されることを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドである。電動役物開放コマンドは、電動役物 3 1 5 b を開放（作動）する際に、後述の図 2 5 の普図当たり遊技制御処理でのステップ S 1 8 0 9 において設定される。

30

【0075】

電動役物閉鎖コマンドは、電動役物 3 1 5 b が閉鎖（復帰）されることを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドである。電動役物閉鎖コマンドは、電動役物 3 1 5 b を閉鎖（復帰）する際に、後述の図 2 5 の普図当たり遊技制御処理でのステップ S 1 8 1 6 において設定される。

【0076】

特図変動パターンコマンドは、特図遊技における特別図柄の変動表示時間及び大当たり抽選での抽選結果を音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、大当たり抽選での抽選結果が大当たりである場合には大当たり種別に関する情報を含む。特図変動パターンコマンドは、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄の変動表示を開始する際に、後述の特図保留格納エリア 4 1 2 b （図 8 参照）に記憶されている情報に基づいて、後述の図 2 8 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 0 5 において設定される。なお、特図変動パターンコマンドは、変動が開始される特別図柄の種別を特定可能な情報を含むが、第 1 特別図柄の変動が開始される場合の特図変動パターンコマンドと、第 2 特別図柄の変動が開始される場合の特図変動パターンコマンドとを別の特図変動コマンドとして設定してもよい。また、特図変動パターンコマンド

40

50

は、特図遊技における特別図柄の変動表示時間及びのみを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであってもよい。この場合、大当たり抽選での抽選結果や大当たり種別を音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドは、特図変動パターンコマンドとは別のコマンドとして設定される。

【0077】

第 1 特図保留コマンド及び第 2 特図保留コマンドは、第 1 入賞口 3 1 4 又は第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球によって、後述の特図保留格納エリア 4 1 2 b (図 8 参照) に記憶される第 1 特図保留数 N 又は第 2 特図保留数 M が増加する際に、増加した保留に対する大当たり抽選での抽選結果、特別図柄の変動表示時間 (特図変動パターン)、及び第 1 特図保留数 N 又は第 2 特図保留数 M を音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドである。第 1 特図保留コマンド及び第 2 特図保留コマンドは、第 1 特図保留数 N 又は第 2 特図保留数 M の増加があった場合に、後述の特図保留格納エリア 4 1 2 b (図 8 参照) に記憶されている情報に基づいて、後述の図 1 8 の始動入賞処理でのステップ S 1 1 0 5 の第 1 特図保留コマンド設定処理 (後述の図 1 9 の第 1 特図保留コマンド設定処理のステップ S 1 2 0 7 又は S 1 2 0 9) 又はステップ S 1 1 1 0 の第 2 特図保留コマンド設定処理において設定される。

10

【0078】

特図シフトコマンドは、特図遊技 (特図の変動表示) の開始によって第 1 特図保留数 N 又は第 2 特図保留数 M が減少する場合に、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4、又は第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 (図 8 参照) での大当たり抽選での抽選結果を示す特図当否情報がシフトしたことを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドである。特図シフトコマンドは、後述の図 2 7 の特図データ設定処理でのステップ S 2 0 0 8 において設定される。

20

【0079】

大当たり遊技開始コマンドは、大当たり遊技を開始すること、即ち遊技状態が大当たり遊技状態に移行することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、大当たり遊技状態に移行する際に、後述の図 2 9 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 0 4 において設定される。

【0080】

オープニング開始コマンドは、大当たり遊技のオープニングを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、大当たり遊技のオープニングを開始する際に、後述の図 2 9 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 0 8 において設定される。なお、オープニング開始コマンドは、大当たり遊技開始コマンドによって大当たり遊技のオープニングが開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知することが可能であるため、省略することができる。

30

【0081】

オープニング終了コマンドは、大当たり遊技のオープニングを終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、大当たり遊技のオープニングを終了する際に、後述の図 3 0 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 1 4 において設定される。

40

【0082】

開閉実行モード開始コマンドは、大当たり遊技の開閉実行モードを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、大当たり遊技の開閉実行モードを開始する際に、後述の図 3 0 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 1 6 において設定される。

【0083】

ラウンド遊技開始コマンドは、大当たり遊技における開閉実行モードにおいて、各ラウンド遊技を開始すること、及び当該ラウンド遊技が何ラウンド目であることを示すラウンド数情報を音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、各ラウンド遊技を開始する際に、後述の図 3 0 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 1 7 において設定され

50

る。なお、ラウンド遊技開始コマンドとは別に、ラウンド遊技開始時に、これから開始されるラウンド遊技のラウンド数を示すコマンドを設定し、そのコマンドを音声ランプ制御装置 5 に送信するようにしてもよい。

【0084】

ラウンド遊技終了コマンドは、大当たり遊技における開閉実行モードにおいて、当ラウンド遊技を終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、各ラウンド遊技を終了する際に、後述の図 3 1 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 2 9 において設定される。

【0085】

インターバル開始コマンドは、大当たり遊技における開閉実行モードにおいて、ラウンド遊技間のインターバルを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、インターバルを開始する際に、後述の図 3 1 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 3 3 において設定される。

【0086】

インターバル終了コマンドは、大当たり遊技における開閉実行モードにおいて、ラウンド遊技間のインターバルを終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、インターバルを終了する際に、後述の図 3 2 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 3 9 において設定される。

【0087】

開閉実行モード終了コマンドは、大当たり遊技の開閉実行モードを終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、開閉実行モードを終了する際に、後述の図 3 1 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 4 1 において設定される。

【0088】

エンディング開始コマンドは、大当たり遊技のエンディングを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、エンディングを開始する際に、後述の図 3 1 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 4 2 において設定される。

【0089】

エンディング終了コマンドは、大当たり遊技のエンディングを終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、エンディングを終了する際に、後述の図 3 2 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 4 8 において設定される。

【0090】

大当たり遊技終了コマンドは、大当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、大当たり遊技を終了する際に、後述の図 2 9 の大当たり遊技制御処理におけるステップ S 2 2 5 0 において設定される。

【0091】

遊技設定値変更コマンドは、遊技設定値が変更されたこと、及び変更後の遊技設定値を音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、遊技設定値が変更された際に、後述の図 3 5 の遊技設定値変更処理でのステップ S 2 4 0 8 において設定される。

【0092】

なお、前述のコマンド以外のコマンドが主制御装置 4 から音声ランプ制御装置 5 に出力されることがあるがそれらの説明は省略する。

【0093】

また、主制御装置 4 には、M P U 4 1 に動作クロックを供給する手段として、発振回路及び分周回路なども搭載される。発振回路は、予め定められた所定周波数のクロック信号を出力し、分周回路は、発振回路から出力されるクロック信号の周波数を変更して M P U 4 1 に入力する。具体的に、M P U 4 1 によって実行される後述の主タイマ割込処理の実行周期は、分周回路から出力されるクロック信号によって定まる。

【0094】

本実施形態では、分周回路から M P U 4 1 に、予め設定された間隔（例えば 4 m s e c ）でクロック信号が供給され、M P U 4 1 が、クロック信号の立ち上がり（又は立下り）

10

20

30

40

50

が発生するごとに後述の主タイマ割込処理を起動して実行するものとする。なお、発振回路及び分周回路は、サブ制御ユニット 332 及び周辺制御ユニット 140 にも必要に応じて搭載され、サブ制御ユニット 332 及び周辺制御ユニット 140 における制御主体の動作クロックを供給する。また、メイン制御ユニット 331 からサブ制御ユニット 332 及び周辺制御ユニット 140 にクロック信号が供給されてもよい。

【0095】

ROM 411 は、制御プログラム及びパラメータ情報が予め記憶された不揮発性の記憶部である。RAM 412 は、種々の情報の読み書きが可能な揮発性の記憶部であり、MPU 41 によって実行される処理の一次記憶領域（作業領域）として使用される。例えば、RAM 412 は、音声ランプ制御装置 5 などに送信されるコマンドの設定などに用いられる。なお、RAM 412 は不揮発性の記憶部であってもよい。

10

【0096】

ここで、図 8 を参照しつつ、遊技機 10 の主制御装置 4 の MPU 41 が大当たり抽選や普図当たり抽選を行うための記憶領域について説明する。具体的には、MPU 41 は、RAM 412 の抽選用カウンタ記憶エリア 412a、特図保留格納エリア 412b 及び普図保留格納エリア 412c に格納されるカウンタ情報を用いて、大当たり抽選結果及び特図の変動表示時間の設定や、普図当たり抽選結果及び普通図柄の変動表示時間の設定などを実行する。

【0097】

抽選用カウンタ記憶エリア 412a には、抽選用カウンタとして、大当たり乱数カウンタ C1、大当たり種別カウンタ C2、及びリーチ乱数カウンタ C3 が記憶されている。大当たり乱数カウンタ C1 は、大当たり遊技を実行するか否かの大当たり抽選に使用される。大当たり種別カウンタ C2 は、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に大当たり種別を判断する際に使用される。リーチ乱数カウンタ C3 は、大当たり抽選の結果が外れである場合に外れ種別を判断する際に使用される。また、抽選用カウンタ記憶エリア 412a には、大当たり乱数初期値カウンタ CIN1 及び特図変動種別カウンタ CS1 が記憶されている。大当たり乱数初期値カウンタ CIN1 は、大当たり乱数カウンタ C1 の初期値設定に使用される。特図変動種別カウンタ CS1 は、メイン表示部 36 の第 1 特別図柄表示部 362 又は第 2 特別図柄表示部 363 における特別図柄の変動表示時間の決定に使用される。さらに、抽選用カウンタ記憶エリア 412a には、抽選用カウンタとして、普通当たり乱数カウンタ C4、普通当たり種別乱数カウンタ C5、普通当たり乱数初期値カウンタ CIN2、及び普図変動種別カウンタ CS2 が記憶されている。普通当たり乱数カウンタ C4 は、第 2 入賞口 315 の電動役物 315b を電役開放状態とするか否かの普図当たり抽選に使用される。普通当たり種別乱数カウンタ C5 は、普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合に普図当たり種別（短開放又は長開放）を振り分ける際に使用される。普通当たり乱数初期値カウンタ CIN2 は、普通当たり乱数カウンタ C4 の初期値設定に使用される。普図変動種別カウンタ CS2 は、メイン表示部 36 の普通図柄表示部 361 における普通図柄の変動表示時間の決定に使用される。

20

30

【0098】

そして、各抽選用カウンタ C1～C5，CIN1，CIN2，CS1，CS2 は、MPU 41 によって短時間間隔で前回値に 1 が加算され、予め設定された最大値に達した後に 0 に戻るループカウンタとして用いられる。各抽選用カウンタ C1～C5，CIN1，CIN2，CS1，CS1 には更新後の値が記録され、大当たり抽選結果、特図の変動表示時間、大当たり種別及び外れ種別の設定や、普図当たり抽選結果、普通図柄の変動表示時間及び普図当たり種別の設定などの際に MPU 41 によって参照される。

40

【0099】

特図保留格納エリア 412b は、第 1 特図保留格納エリア REA、第 2 特図保留格納エリア REB 及び特図実行エリア AE を備える。第 1 特図保留格納エリア REA は、第 1 保留エリア REA1、第 2 保留エリア REA2、第 3 保留エリア REA3、第 4 保留エリア REA4、及び第 1 特図保留数記憶エリア NAA を含む。第 2 特図保留格納エリア REB

50

は、第 1 保留エリア R E B 1、第 2 保留エリア R E B 2、第 3 保留エリア R E B 3、第 4 保留エリア R E B 4、及び第 2 特図保留数記憶エリア N A B を含む。

【 0 1 0 0 】

そして、第 1 入賞口 3 1 4 に遊技球が入球した場合には、R A M 4 1 2 に格納されている大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び特図変動種別カウンタ C S 1 に対応する情報が、大当たり抽選で用いられる特図当否情報として取得され、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 のいずれかに格納される。また、第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球した場合には、R A M 4 1 2 に格納されている大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び特図変動種別カウンタ C S 1 に対応する情報が、大当たり抽選で用いられる特図当否情報として取得され、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のいずれかに格納される。なお、第 1 特図保留格納エリア R E A 及び第 2 特図保留格納エリア R E B ごとに対応して、抽選用カウンタ記憶エリア 4 1 2 a (大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び特図変動種別カウンタ C S 1 など) が個別に設けられてもよい。

10

【 0 1 0 1 】

このように、遊技機 1 0 では、大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 に加えて、特図変動種別カウンタ C S 1 が第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4、及び第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のいずれかに格納される。

20

【 0 1 0 2 】

そのため、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4、及び第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 に格納されている特図当否情報に基づいて実行される特図遊技に対する大当たり抽選の抽選結果に加えて、特図遊技における第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での特別図柄 (図柄表示部 3 4 1 での飾り図柄) に対する変動表示時間 (特図変動パターン) を事前に判断することが可能である。

【 0 1 0 3 】

具体的に、第 1 入賞口 3 1 4 に遊技球が入球した場合、特図当否情報は、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1、第 2 保留エリア R E A 2、第 3 保留エリア R E A 3、第 4 保留エリア R E A 4 の優先順位で空いている領域に格納される。第 1 特図保留数記憶エリア N A A には、第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 のうち特図当否情報が記憶されている数が第 1 特図保留数 N として格納される。

30

【 0 1 0 4 】

また、第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球した場合、特図当否情報は、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1、第 2 保留エリア R E B 2、第 3 保留エリア R E B 3、第 4 保留エリア R E B 4 の優先順位で空いている領域に格納される。第 2 特図保留数記憶エリア N A B には、第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のうち特図当否情報が記憶されている数が第 2 特図保留数 M として格納される。

40

【 0 1 0 5 】

即ち、遊技機 1 0 では、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4、及び第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 の最大保留数に対応する合計 8 つの記憶領域により、第 1 入賞口 3 1 4 及び第 2 入賞口 3 1 5 への入賞履歴としての特図当否情報をそれぞれ最大 4 つまで保留することが可能である。

【 0 1 0 6 】

なお、第 1 入賞口 3 1 4 及び第 2 入賞口 3 1 5 に共通して最大保留数が 8 つの保留用エリアが設けられていることも他の実施形態として考えられ、この場合でも合わせて最大 8 つまで入賞履歴としての特図当否情報を保留することが可能である。特図当否情報の記憶

50

処理は、制御プログラムに従った処理を実行することによりMPU41によって実行される。

【0107】

特図実行エリアAEは、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において特別図柄の変動表示が開始される際に、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1又は第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1に格納された特図当否情報を移動させるために用いられる記憶領域である。具体的には、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1の特図当否情報が優先して特図実行エリアAEに移動され、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1に特図当否情報が存在せず第2特図保留数記憶エリアNABに記憶される第2特図保留数Mが0である場合に、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1の特図当否情報が特図実行エリアAEに移動される。即ち、遊技機10では、第2特図遊技が第1特図遊技に優先して実行され、高頻度サポートモードである確変遊技状態及び時短遊技状態では、遊技盤31の右側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる右打ちを実行することで、主として第2特図遊技が実行される。

10

【0108】

なお、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数Nと第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mとの差が2以上である場合には、数が多い方の保留用エリアの値が優先して特図実行エリアAEに移動されることも他の実施形態として考えられる。また、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1及び第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1の特図当否情報が交互に特図実行エリアAEに移動されることも他の実施形態として考えられる。

20

【0109】

そして、MPU41は、1回の特図遊技の開始に際して、特図実行エリアAEに特図当否情報として記憶されている数値情報に基づいて大当たり抽選などを行う。このとき、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1が特図実行エリアAEに移動された場合には、第2保留エリアREA2に格納された特図当否情報は第1保留エリアREA1にシフトし、第3保留エリアREA3に格納された特図当否情報は第2保留エリアREA2にシフトし、第4保留エリアREA4に格納された特図当否情報は第3保留エリアREA3にシフトする。

30

【0110】

同じく、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1が特図実行エリアAEに移動された場合には、第2保留エリアREB2に格納された特図当否情報は第1保留エリアREB1にシフトし、第3保留エリアREB3に格納された特図当否情報は第2保留エリアREB2にシフトし、第4保留エリアREB4に格納された特図当否情報は第3保留エリアREB3にシフトする。

【0111】

大当たり乱数カウンタC1は、後述の図17の主タイマ割込処理のステップS1003において、例えば0～637の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。また、大当たり乱数カウンタC1が1周した場合、その時点の大当たり乱数初期値カウンタCIN1の値が当該大当たり乱数カウンタC1の初期値として読み込まれる。なお、大当たり乱数初期値カウンタCIN1は、大当たり乱数カウンタC1と同様に更新されるループカウンタである。そして、第1特図保留格納エリアREA1又は第2特図保留格納エリアREA2の第1～第4保留エリアREA1～REA4、REB1～REB4には、遊技球が第1入賞口314又は第2入賞口315に入賞したタイミングでの大当たり乱数カウンタC1の値が格納される。

40

【0112】

大当たり当選となる乱数の値は、ROM411における当否テーブル記憶エリアに記憶された当否テーブルにより、通常遊技状態又は時短遊技状態である低確率モード及び確変

50

遊技状態である高確率モードに対応して2種類設定されている。ここで、図9（A）は低確率モードに対応する低確率モード当否テーブル、図9（B）は高確率モードに対応する高確率モード当否テーブルの一例を示す図である。

【0113】

図9（A）及び図9（B）に示す例では、低確率モード当否テーブル及び高確率モード当否テーブルとして、それぞれ大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる確率（大当たり確率）が遊技設定値に応じて異なる複数の当否テーブルが設けられている。低確率モード当否テーブル及び高確率モード当否テーブルは、6段階の遊技設定値1から6に対応してそれぞれ6つの当否テーブルを含む。遊技設定値6、遊技設定値5、遊技設定値4、遊技設定値3、遊技設定値2及び遊技設定値1の順に、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる大当たり確率が高く遊技者に有利となる。

10

【0114】

遊技設定値1では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては206個（0～205）、高確率モード当否テーブルについては821個（0～820）である。つまり、遊技設定値1では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/318.1$ （ $206/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/79.9$ （ $820/65536$ ）である。

【0115】

遊技設定値2では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては212個（0～211）、高確率モード当否テーブルについては845個（0～844）である。つまり、遊技設定値2では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/309.1$ （ $212/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/77.6$ （ $845/65536$ ）である。

20

【0116】

遊技設定値3では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては218個（0～217）、高確率モード当否テーブルについては869個（0～868）である。つまり、遊技設定値3では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/300.6$ （ $218/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/75.4$ （ $869/65536$ ）である。

30

【0117】

遊技設定値4では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては224個（0～223）、高確率モード当否テーブルについては893個（0～892）である。つまり、遊技設定値4では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/292.6$ （ $224/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/73.4$ （ $893/65536$ ）である。

【0118】

遊技設定値5では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては230個（0～229）、高確率モード当否テーブルについては917個（0～916）である。つまり、遊技設定値5では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/284.9$ （ $230/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/71.5$ （ $917/65536$ ）である。

40

【0119】

遊技設定値6では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては236個（0～235）、高確率モード当否テーブルについては941個（0～940）である。

50

つまり、遊技設定値 6 では、低確率モードの大当たり確率が約 $1 / 277.7 (236 / 65536)$ であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約 4 倍である約 $1 / 69.6 (941 / 65536)$ である。

【0120】

なお、大当たり乱数カウンタ C 1 の値がこれらの大当たり当選となる乱数値以外である場合には大当たり抽選での抽選結果が外れとなる。

【0121】

ここで、低確率モード当否テーブル及び高確率モード当否テーブルでは、同一遊技設定値どうしの大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数が共通するが、大当たりとなる乱数が共通していないことも考えられる。また、大当たり当選となる乱数は、連続した値でなく、一部又は全部が離散した値であってもよい。

10

【0122】

また、低確率モード当否テーブル及び高確率モード当否テーブルは、6 段階の遊技設定値に応じて 6 つずつ設けられているが、各モードの当否テーブルは少なくとも 1 つあればよい。つまり、遊技設定値は 6 段階に限定されない。また、低確率モード当否テーブルを複数段階の遊技設定値に対応させて複数設ける一方、高確率モード当否テーブルを 1 つ設けることも考えられる。即ち、低確率モードに対して複数段階の遊技設定値を設け、高確率モードに対しては段階的な遊技設定値を設けず、大当たり確率を一樣とすることも考えられる。もちろん、低確率モードでの大当たり確率を一樣とし、高確率モードに対して複数段階の遊技設定値を設けてもよい。

20

【0123】

大当たり種別カウンタ C 2 は、0 ～ 19 の範囲内で順に 1 ずつ加算され、最大値に達した後に 0 に戻される。大当たり種別カウンタ C 2 は定期的に更新され、遊技球が第 1 入賞口 314 又は第 2 入賞口 315 に入賞したタイミングで特図保留格納エリア 412b に格納される。遊技機 10 では、ROM 411 における振分テーブル記憶エリアに記憶された振分テーブルにより、確変大当たり及び通常大当たりの 2 種類の大当たり種別ごとに対応する大当たり種別カウンタ C 2 の値が設定されている。

【0124】

ここで、図 9 (C) は振分テーブルの一例を示す図である。図 9 (C) に示す例では、特図遊技の種別が第 1 入賞口 314 への入賞を契機とする第 1 特図遊技である場合、5 R 確変大当たりとなる乱数の数は 0 ～ 9 の 10 個であり、16 R 確変大当たりとなる乱数の数は 10 ～ 14 の 5 個であり、5 R 通常大当たりとなる乱数の数は 15 ～ 19 の 5 個である。一方、特図遊技の種別が第 2 入賞口 315 への入賞を契機とする第 2 特図遊技である場合、5 R 確変大当たりとなる乱数の数は 0 ～ 4 の 5 個であり、16 R 確変大当たりとなる乱数の数は 5 ～ 14 の 10 個であり、5 R 通常大当たりとなる乱数の数は 15 ～ 19 の 5 個である。即ち、遊技機 10 では、第 1 特図遊技及び第 2 特図遊技における確変大当たりの確率が 75 % で同一に設定されているが、第 1 特別図柄遊技に比べて第 2 特別図柄遊技における 16 R 確変大当たりの確率が高く設定されている。即ち、確変遊技状態（高確率モードかつ電動役物 315b の開放確率が高い高頻度サポートモード）、及び時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）では、通常遊技状態（低確率モードかつ電動役物 315b の開放確率が低い低頻度サポートモード）に比べて、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなった場合の遊技球の獲得期待値が高く設定されている。

30

40

【0125】

そして、第 1 特図遊技及び第 2 特図遊技のいずれにおいても、大当たり抽選の結果が確変大当たりである場合には、大当たり遊技の終了後に確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）に移行する。遊技機 10 では確変遊技状態において実行可能な特図遊技の回数に上限値が設定されておらず、遊技機 10 が、いわゆるループ確変機として構成されている。

【0126】

また、大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合には、大当たり遊技の終了後に時

50

短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）に移行する。遊技機 10 では、時短遊技状態において実行可能な特図遊技の回数（時短遊技回数）に上限値（本実施形態では 100 回）が設定されており、この上限値の特図遊技回数内で大当たり抽選の結果が大当たりとならない場合には、上限値の特図遊技の実行後に低頻度サポートモードである通常遊技状態に移行する。なお、時短遊技状態での特図遊技回数は、100 回に限らず、他の回数であってもよい。

【0127】

なお、確変遊技状態から通常遊技状態への移行は、上限値の特図遊技が実行される場合に限らず、例えば状態移行抽選（転落抽選）に当選した場合に実行されるようにしてもよい。この場合、所定回数の特図遊技が実行されるまでは、確変遊技状態から通常遊技状態に移行（転落）しないようにし、確変遊技状態で実行される特図遊技の最低回数として当該所定回数に保証することも考えられる。これにより、確変遊技状態実行される特図遊技の回数が著しく少なくなることが防止される。

10

【0128】

なお、本実施形態では、入賞により第 1 特別図柄遊技を実行する契機となる第 1 入賞口 314、及び入賞により第 2 特別図柄遊技を実行する契機となる第 2 入賞口 315 ごとに個別の振分テーブルが設定されており、遊技球が第 1 入賞口 314 及び第 2 入賞口 315 のいずれに入賞したかに応じて大当たり種別の振り分け確率が異なるが、第 1 特別図柄遊技と第 2 特別図柄遊技とで大当たり種別の振り分け確率が同一であることも考えられる。また、遊技機 10 は、ループ確変機に限らず、V-S-T 機を含む S-T 機や一種二種混合機などとして構成することも考えられる。

20

【0129】

そして、MPU 41 は、特図実行エリア A E に記憶されている大当たり乱数カウンタ C1 及び大当たり種別カウンタ C2 の値に基づいて、大当たり抽選での抽選結果が「5R 確変大当たり」、「16R 確変大当たり」、「5R 通常大当たり」及び「外れ」のいずれであるかを判定する。

【0130】

ここで、大当たり抽選での抽選結果が 5R 確変大当たり又は 5R 通常大当たりの場合は、大当たり遊技において可変入賞口 316 が所定態様で開放されるラウンド遊技が 5 回繰り返される開閉実行モードが実行される。また、大当たり抽選での抽選結果が 16R 確変大当たりの場合は、大当たり遊技においてラウンド遊技が 16 回繰り返される開閉実行モードが実行される。なお、各ラウンド遊技での可変入賞口 316 の開放態様としては、例えば可変入賞口 316 を 1 回開放することが考えられる。もちろん、一部又は全部のラウンド遊技において、可変入賞口 316 を複数回開放させることも考えられる。

30

【0131】

5R 確変大当たり又は 16R 確変大当たりの場合には、大当たり遊技の終了後に大当たりの当選確率が高い高確率モードかつ電動役物 315b の開放確率が高い高頻度サポートモードである確変遊技状態に移行する。そして、本実施形態では、確変遊技状態は、MPU 41 によって大当たり抽選での抽選結果が「5R 確変大当たり」、「16R 確変大当たり」又は「5R 通常大当たり」であると判定されるまで継続する。

40

【0132】

一方、5R 通常大当たりの場合には、大当たり遊技の終了後に大当たりの当選確率が低い低確率モードかつ電動役物 315b の開放確率が高い高頻度サポートモードである時短遊技状態に移行する。そして、本実施形態では、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）は、例えば 100 回などの予め設定された規定回数の大当たりの抽選での抽選結果を遊技者に報知するまで継続し、又は規定回数の経過前に大当たりの抽選での抽選結果が大当たりであることを遊技者に報知した場合に終了する。

【0133】

また、特図遊技において確変遊技状態から時短遊技状態や通常遊技状態への転落抽選を行うことも他の実施形態として考えられる。なお、大当たり抽選での抽選結果が外れの場

50

合には、確変遊技状態から大当たり遊技状態及び時短遊技状態へは移行されない。本実施形態では、遊技機10が5R確変大当たり、16R確変大当たり及び5R通常大当たりの3種類の大当たり種別を有する場合を例に挙げて説明するが、これに限らず、例えば2ラウンド確変大当たり、2ラウンド通常大当たり、16R通常大当たりなどの他の大当たり種別を有することも考えられる。

【0134】

また、リーチ乱数カウンタC3は、後述の図17の主タイマ割込処理のステップS1003において、例えば0～238の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。そして、第1特図保留格納エリアREA1又は第2特図保留格納エリアREA2の第1～第4保留エリアREA1～REA4、REB1～REB4には、遊技球が第1入賞口314又は第2入賞口315に入賞したタイミングでのリーチ乱数カウンタC3の値が格納される。

10

【0135】

遊技機10では、リーチ乱数カウンタC3によって、大当たり抽選での抽選結果が外れである場合に図柄表示部341で表示される変動表示の停止結果の種別が選択される。具体的には、ROM411における外れ種別テーブル記憶エリアに記憶された外れ種別テーブルにより、リーチが発生した後に最終停止図柄がリーチ図柄の前後に1つだけずれて停止する前後外れリーチ、同じくリーチが発生した後に最終停止図柄がリーチ図柄の前後以外で停止する前後外れ以外リーチ、及びリーチが発生しない完全外れの3種類の外れ種別ごとに対応するリーチ乱数カウンタC3の値が設定されている。

20

【0136】

ここで、図9(D)は外れ種別テーブルの一例を示す図である。図9(D)に示す例では、前後外れリーチとなる乱数の値は0～8であり、前後外れ以外リーチとなる乱数の値は9～38であり、完全外れとなる乱数の値は39～238である。なお、MPU41は、5R確変大当たり、16R確変大当たり又は5R通常大当たりに当選する特図遊技、即ち大当たり遊技状態に移行する特図遊技においては、リーチ乱数カウンタC3の値に関係なくリーチ発生と判断する。

【0137】

ここに、リーチとは、図柄表示部341における図柄の変動表示が開始されてから図柄が停止表示されるまでの間に、大当たりに当選したことを示す飾り図柄の図柄組み合わせになり易い状態が示される変動状態である。一例において、図柄表示部341における有効ライン上の飾り図柄の3つの停止位置のうち2つの停止位置に同一の図柄が停止表示され、残りの1つの停止位置に対応する表示図柄が変動する状態である。また、図柄表示部341におけるリーチの変動状態中には、所定のキャラクタなどの動画が表示されて期待度を示唆するストーリー演出処理や、遊技者による操作ボタン20に対する操作が演出に反映される遊技者参加型の操作演出処理などが実行される。なお、これらの演出処理の実行中には図柄表示部341における変動表示が非表示となること、縮小又は拡大して表示されることも考えられる。

30

【0138】

特図変動種別カウンタCS1は、例えば0～199の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に0に戻される。具体的に、特図変動種別カウンタCS1は、大当たり抽選での抽選結果に応じて、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363での特別図柄（図柄表示部341における飾り図柄）の変動表示時間を示す特図変動パターン種別（特別図柄の変動表示時間）を決定するものである。このように、特図変動パターン種別が決定されることで、音声ランプ制御装置5では、高速変動演出（基本演出、非リーチ演出）のマルリーチ演出、スーパーリーチ演出、スペシャルリーチ演出などの大まかな特図遊技での変動種別（演出パターン）が、特図変動パターン種別（特別図柄の変動表示時間）に応じて決定される。特図変動種別カウンタCS1は、MPU41により後述する図21のメイン処理が1回実行されるごとにステップS1402において少なくとも1回更新され、当該メイン処理内の残余時間内でもステップS1414に

40

50

において繰り返し更新される。そして、第1特図保留格納エリアRE A 1又は第2特図保留格納エリアRE A 2の第1～第4保留エリアRE A 1～RE A 4, RE B 1～RE B 4には、遊技球が第1入賞口3 1 4又は第2入賞口3 1 5に入賞したタイミングでの特図変動種別カウンタCS 1の値が格納される。

【0 1 3 9】

そして、MP U 4 1は、特図変動種別カウンタCS 1と、大当たり抽選の結果に応じて予め設定された変動テーブル（図1 0（A）～図1 0（C）参照）とに基づいて特別図柄の変動表示時間を示す特図変動パターンを決定する。具体的に、MP U 4 1は、ROM 4 1 1の変動テーブル記憶エリアに予め記憶されている通常大当たり変動テーブル（図1 0（A）参照）、確変大当たり変動テーブル（図1 0（B）参照）、又は外れ変動テーブル（図1 0（C）参照）を参照して特図変動パターン種別を特定する。なお、これらの変動テーブルは、低確率モードと高確率モードとで別個に設けられてもよい。また、確変大当たり変動テーブルは、5 R確変大当たり及び1 6 R確変大当たりのそれぞれに対して個別に設けられてもよい。

【0 1 4 0】

ここで、図1 0（A）、図1 0（B）及び図1 0（C）は、変動テーブルの一例を示す図である。図1 0（A）に示す通常大当たり変動テーブル、図1 0（B）に示す確変大当たり変動テーブル、図1 0（C）に示す外れ変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS 1の値に応じて特図変動パターンが予め対応付けられている。そして、MP U 4 1は、大当たり抽選での抽選結果が「5 R通常大当たり」である場合は図1 0（A）に示す通常大当たり変動テーブル、抽選結果が「5 R確変大当たり」又は「1 6 R確変大当たり」である場合は図1 0（B）に示す確変大当たり変動テーブル、抽選結果が「外れ」である場合は図1 0（C）に示す外れ変動テーブルをそれぞれ参照し、特図変動パターンの種別を特定する。

【0 1 4 1】

より具体的に、図1 0（A）及び図1 0（B）に示すように、通常大当たり変動テーブル及び確変大当たり変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS 1の値に応じて特図変動パターン「0 1」～「0 3」のいずれかが選択される。ここに、特図変動パターン「0 1」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が3 0 sであるノーマルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部3 4 1などにおいてノーマルリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。ノーマルリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出となる演出パターンである。また、特図変動パターン「0 2」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が6 0 sであるスーパーリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部3 4 1などにおいてスーパーリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。スーパーリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスーパーリーチ演出となる演出パターンである。さらに、特図変動パターン「0 3」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン）として変動表示時間が最も長い9 0 sであるスペシャルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部3 4 1などにおいてスペシャルリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。スペシャルリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスペシャルリーチ演出となる演出パターンである。

【0 1 4 2】

図1 0（C）に示すように、外れ変動テーブルでは、リーチ乱数カウンタC 3の値によって決定される外れ時の飾り図柄の停止表示種別（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れ）に対応して、特図変動種別カウンタCS 1と特図変動パターンとの対応関係が定められている。より具体的に、外れ時の停止表示種別が前後外れリーチ又は前後外れ以外リーチである場合には、特図変動種別カウンタCS 1の値に応じて特図変動パターン「0 1」～「0 3」のいずれかが選択される。一方、外れ時の停止表示種別が完全外れである場合には、特図変動種別カウンタCS 1の値に応じて特図変動パターン「0 4」又は

「０５」のいずれかが選択される。なお、特図変動パターン「０４」が選択された場合、音声ランプ制御装置５では変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が７ｓであるリーチなし演出パターン（７秒非リーチ演出パターン）が決定され、図柄表示部３４１などにおいて７秒非リーチ演出パターンに従って特図遊技演出が実行される。また、特図変動パターン「０５」が選択された場合、音声ランプ制御装置５では変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が１０ｓであるリーチなし演出パターン（１０秒非リーチ演出パターン）が決定され、図柄表示部３４１などにおいて１０秒非リーチ演出パターンに従って特図遊技演出が実行される。

【０１４３】

例えば、遊技機１０では、特図変動パターン「０４」に対応する外れ時の変動表示として、キャラクタ、メッセージなどが表示される予告演出などを伴うことなく飾り図柄の変動表示が外れ図柄の組み合わせで停止表示される外れパターンの変動表示が実行される。また、遊技機１０では、特図変動パターン「０５」に対応する外れ時の変動表示として、キャラクタ、メッセージなどが表示される予告演出などを伴って飾り図柄の変動表示が外れ図柄の組み合わせで停止表示される外れパターンの変動表示が実行される。また、特図変動パターン「０５」に対応する外れ時の変動表示の際には、遊技者による操作ボタン２０の操作が反映される遊技者参加型の操作演出が予告演出として実行されることもある。

【０１４４】

なお、特図変動パターンの種別は、図１０（Ａ）、図１０（Ｂ）及び図１０（Ｃ）に示す例には限定されない。

【０１４５】

例えば、遊技機１０では、特図変動パターン「０１」に対応するノーマルリーチ演出パターンにおいて実行されるノーマルリーチ演出として、キャラクタ、ストーリーなどが異なる複数種類のノーマルリーチ演出が用意されており、その中から選択されたいずれかのノーマルリーチ演出が実行される。

【０１４６】

同じく、遊技機１０では、特図変動パターン「０２」に対応するスーパーリーチ演出パターンにおいて実行されるスーパーリーチ演出として、キャラクタ、ストーリーなどが異なる複数種類のスーパーリーチ演出が用意されており、その中から選択されたいずれかのスーパーリーチ演出が実行される。スーパーリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも変動時間が長いリーチ演出であり、ノーマルリーチ演出よりも大当たり抽選での抽選結果が大当たりである確率（期待度）が高く、スペシャルリーチ演出よりも大当たり当選している確率（期待度）が低いことを遊技者に示唆する際に実行される。

【０１４７】

さらに、遊技機１０では、特図変動パターン「０３」に対応するスペシャルリーチ演出パターンにおいて実行されるスペシャルリーチ演出として、キャラクタ及びストーリーなどが異なる複数種類のスペシャルリーチ演出が用意されており、その中から選択されたいずれかのスペシャルリーチ演出が実行される。スペシャルリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも変動時間が長いリーチ演出であって、例えばノーマルリーチ演出又はスーパーリーチ演出から発展する演出である。スペシャルリーチ演出は、ノーマルリーチ演出やスペシャルリーチ演出よりも大当たり当選している確率（期待度）が高いことを遊技者に示唆する際に実行される。

【０１４８】

なお、特図変動パターンに対応する演出パターンには、遊技者による操作ボタン２０に対する操作状況が演出に反映される操作演出、例えば単発操作が演出に反映される単発操作演出、遊技者による操作ボタン２０の連打操作が演出に反映される連打操作演出、遊技者による操作ボタン２０の長押し操作が演出に反映される長押し操作演出などの遊技者参加型の操作演出が含まれることがある。

【０１４９】

そして、ＭＰＵ４１は、メイン表示部３６の第１特別図柄表示部３６２又は第２特別図

10

20

30

40

50

柄表示部 3 6 3 での特別図柄の変動表示時間（図柄表示部 3 4 1 における飾り図柄の変動表示時間）を特定すると、その特図変動表示時間及び大当たり抽選での抽選結果を示す特図変動パターンコマンドを音声ランプ制御装置 5 に入力する。具体的に、MPU 4 1 は、抽選結果が「5 R 通常大当たり」である場合は、特図変動パターン「0 1」～「0 3」の前に 5 R 通常大当たりである旨を示す「A」を付した特図変動パターンコマンド「A 0 1」～「A 0 3」のいずれかを出力する。また、MPU 4 1 は、抽選結果が「5 R 確変大当たり」である場合は、特図変動パターン「0 1」～「0 3」の前に 5 R 確変大当たりである旨を示す「B」を付した特図変動パターンコマンド「B 0 1」～「B 0 3」のいずれかを出力する。さらに、MPU 4 1 は、抽選結果が「1 6 R 確変大当たり」である場合は、特図変動パターン「0 1」～「0 3」の前に 1 6 R 確変大当たりである旨を示す「C」を付した特図変動パターンコマンド「C 0 1」～「C 0 3」のいずれかを出力する。また、MPU 4 1 は、抽選結果が「外れ」である場合は、特図変動パターン「0 1」～「0 5」の前に外れである旨を示す「D」を付した特図変動パターンコマンド「D 0 1」～「D 0 5」のいずれかを出力する。即ち、特図変動パターンコマンドは、特別図柄の変動表示時間である特図変動パターン（特図遊技の時間）だけでなく、大当たり抽選の結果を特定する情報を含む。そして、音声ランプ制御装置 5 では、特図変動パターンコマンドに基づいて、特別図柄の変動表示時間である特図変動パターン（特図遊技の時間）だけでなく、大当たり抽選の結果を判断することが可能であり、その特別図柄の変動表示時間（特図遊技の時間）と、大当たり抽選の結果とに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などに表示される変動種別（演出パターン）や、飾り図柄の停止表示組み合わせなどの詳細を決定する。そして、音声ランプ制御装置 5 は、決定した変動種別（演出パターン）などの詳細に基づいて、図柄表示部 3 4 1 において飾り図柄を変動表示及び停止表示させると共に飾り図柄の変動表示に合わせて画像演出を実行し、さらに、飾り図柄の変動表示に合わせてスピーカ 2 6 によって音声演出を実行し、電飾部 2 7 によって電飾演出（ランプ演出）を実行させる。

【0 1 5 0】

このように、遊技機 1 0 では、主制御装置 4 の MPU 4 1 は、特図変動種別カウンタ C S 1 及び変動テーブルに基づいて、図柄表示部 3 4 1 における飾り図柄の変動表示時間を決定する簡易な処理を実行することになる。そのため、遊技機 1 0 の MPU 4 1 が 8 ビットマイコンで構成される場合であっても、その MPU 4 1 により安定して大当たり抽選を実行することができる。また、実際に図柄表示部 3 4 1 に表示される飾り図柄の変動態様の詳細は音声ランプ制御装置 5 で決定されるため、その変動態様としては多種多様な変動態様を選択的に実行することが可能である。

【0 1 5 1】

図 1 0 (A) ～ 図 1 0 (C) に示す変動テーブルは、各種遊技状態（通常遊技状態、時短遊技状態及び確変遊技状態）において共通に使用されるが、各種遊技状態ごとに個別に変動テーブルを設定してもよく、また高頻度サポートモード（時短遊技状態及び確変遊技状態）と低頻度サポートモードとで個別に変動テーブルを設定してもよい。また、各種遊技状態ごとやサポートモードごとに個別に変動テーブルを設定する場合、変動表示時間の平均値が、例えば通常遊技状態（低頻度サポートモード）のほうが、時短遊技状態及び確変遊技状態（高頻度サポートモード）よりも長く設定される。また、時短遊技状態と確変遊技状態とで異なる変動テーブルを設定する場合、変動表示時間の平均値は、時短遊技状態のほうが確変遊技状態よりも長く設定してもよいし、確変遊技状態のほうが時短遊技状態よりも長く設定してもよい。

【0 1 5 2】

ここで、図 1 1 は図 8 に示す主制御装置 4 の記憶領域の普図保留格納エリア 4 1 2 c の一例を示すブロック図である。図 1 1 に示すように、普図保留格納エリア 4 1 2 c は、普図第 1 保留エリア S E 1、普図第 2 保留エリア S E 2、普図第 3 保留エリア S E 3、普図第 4 保留エリア S E 4、普図変動保留数記憶エリア S N A 及び普図実行エリア S A E を含む。

【0 1 5 3】

普図第 1 保留エリア S E 1 ～ 普図第 4 保留エリア S E 4 は、スルーゲート 3 1 7 L , 3 1 7 R を遊技球が通過した場合に普図当たり抽選で用いられる普図当否情報として取得される普通当たり乱数カウンタ C 4、普通当たり種別乱数カウンタ C 5 及び普図変動種別カウンタ C S 2 を格納する記憶領域である。

【 0 1 5 4 】

普図変動保留数記憶エリア S N A は、普図当否情報が格納されている普図第 1 保留エリア S E 1 ～ 普図第 4 保留エリア S E 4 の数を記憶する。即ち、普図変動保留数記憶エリア S N A は、普図遊技を実行する権利の保留の数を記憶する記憶領域である。

【 0 1 5 5 】

普図実行エリア S A E は、メイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において普通図柄の変動表示が開始される際に、普図第 1 保留エリア S E 1 の普図当否情報を移動させるために用いられる記憶領域である。そして、M P U 4 1 は、1 回の普図遊技の開始に際して、普図実行エリア S A E に普図当否情報として記憶されている数値情報（普通当たり乱数カウンタ C 4、普通当たり種別乱数カウンタ C 5 及び普図変動種別カウンタ C S 2 の値）に基づいて、以下に説明する普図当たり当否テーブル（図 1 2（A）及び図 1 2（B）参照）、及び普図当たり種別振分テーブル（図 1 2（C）及び図 1 2（D）参照）を用いて普図当たり抽選を行い、普図変動テーブル（不図示）を用いて普通図柄に対する普図変動表示時間を決定する。このとき、普図第 1 保留エリア S E 1 に格納された普図当否情報が普図実行エリア S A E に移動された場合には、普図第 2 保留エリア S E 2 に格納された普図当否情報が普図第 1 保留エリア S E 1 にシフトされ、普図第 3 保留エリア S E 3 に格納された普図当否情報が普図第 2 保留エリア S E 2 にシフトされ、普図第 4 保留エリア S E 4 に格納された普図当否情報が普図第 3 保留エリア S E 3 にシフトされる。

【 0 1 5 6 】

普通当たり乱数カウンタ C 4 は、後述の図 1 7 の主タイマ割込処理のステップ S 1 0 0 3 において、例えば 0 ～ 2 9 9 の範囲内で順に 1 ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に 0 に戻される。そして、普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図第 1 保留エリア S E 1 ～ 普図第 4 保留エリア S E 4 には、スルーゲート 3 1 7 L , 3 1 7 R に遊技球が入賞したタイミングでの普通当たり乱数カウンタ C 4 の値が格納される。また、所定のタイミングにおいて、普図保留格納エリア 4 1 2 c に格納された普通当たり乱数カウンタ C 4 の値によって電動役物 3 1 5 b を所定時間だけ開放状態にするか否かの普図当たり抽選が行われる。

【 0 1 5 7 】

ここで、図 1 2（A）及び図 1 2（B）は、普図当たり当否テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり当否テーブルとして、図 1 2（A）に示す低頻度サポートモード普図当たり当否テーブルと、図 1 2（B）に示す高頻度サポートモード普図当たり当否テーブルとの 2 種類が設定されている。即ち、本実施形態では、後述のように、低頻度サポートモードと、高頻度サポートモードとで、普図当たり確率が異なり、高頻度サポートモードのほうが低頻度サポートモードよりも普図当たり確率が高く設定されている。

【 0 1 5 8 】

図 1 2（A）に示す低頻度サポートモード普図当たり当否テーブルは、低頻度サポートモードである通常遊技状態における普図当たり抽選で使用するテーブルである。図 1 2（A）に示すように、低頻度サポートモード普図当たり当否テーブルでは、普図当たり乱数カウンタ C 4 の値が 0 の場合に普図当たり、普図当たり乱数カウンタ C 4 の値が 1 ～ 2 9 9 の場合に外れに設定されている。つまり、通常遊技状態（低頻度サポートモード）では、普図当たり確率が $1 / 300$ に設定されており、電動役物 3 1 5 b の作動頻度が低くされている。

【 0 1 5 9 】

図 1 2（B）に示す高頻度サポートモード普図当たり当否テーブルは、高頻度サポートモードである確変遊技状態及び時短遊技状態における普図当たり抽選で使用するテーブ

10

20

30

40

50

ルである。図 1 2 (B) に示すように、高頻度サポートモード普図当たり当否テーブルでは、低頻度サポートモード普図当たり当否テーブルとは逆に、普図当たり乱数カウンタ C 4 の値が 0 の場合に外れ、普図当たり乱数カウンタ C 4 の値が 1 ~ 2 9 9 の場合に普図当たりに設定されている。つまり、確変遊技状態及び時短遊技状態（高頻度サポートモード）では、普図当たり確率が $299/300$ に設定され、通常遊技状態（低頻度サポートモード）よりも普図当たり確率が高く設定されていると共に、電動役物 3 1 5 b の作動頻度が高くされている。

【0 1 6 0】

なお、低頻度サポートモード普図当たり確率、及び高頻度サポートモード普図当たり確率は、図 1 2 (A) 及び図 1 2 (B) に示される例には限定されず適宜変更可能である。

10

【0 1 6 1】

普通当たり種別乱数カウンタ C 5 は、後述の図 1 7 の主タイマ割込処理のステップ S 1 0 0 3 において、例えば 0 ~ 1 9 9 の範囲内で順に 1 ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に 0 に戻される。そして、普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 には、スルーゲート 3 1 7 L, 3 1 7 R に遊技球が入賞したタイミングでの普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が格納される。また、普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 に格納された普通当たり乱数カウンタ C 4 の値が普図当たりである場合に、普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 に格納された普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値によって、普図当たりの種別（短開放普図当たり及び長開放普図当たり）、即ち電動役物 3 1 5 b の開放時間が設定される。

20

【0 1 6 2】

ここで、図 1 2 (C) 及び図 1 2 (D) は、普図当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり種別振分テーブルとして、図 1 2 (C) に示す低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルと、図 1 2 (D) に示す高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルとの 2 種類が設定されている。即ち、本実施形態では、後述のように、低頻度サポートモードと、高頻度サポートモードとで、普図当たり種別（短開放普図当たり及び長開放普図当たり）の振り分け確率が異なる。

【0 1 6 3】

ここで、短開放普図当たりの場合には、電動役物 3 1 5 b が短時間（例えば 0 . 1 秒）開放されることによって第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が短時間（例えば 0 . 1 秒）入球可能となる短開放普図当たり遊技が実行される。この短開放普図当たり遊技では、電動役物 3 1 5 b の開放時間が短いために第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球し難く、多くの場合、第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球しない。

30

【0 1 6 4】

一方、長開放普図当たりの場合、電動役物 3 1 5 b が短開放普図当たり遊技よりも長時間（例えば 6 秒）開放されることによって、短開放普図当たり遊技よりも第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が長時間（例えば 6 秒）入球可能となる長開放普図当たり遊技が実行される。この長開放普図当たり遊技では、電動役物 3 1 5 b の開放時間が長いために第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球し易く、第 2 特図遊技を実行する権利を上限数（例えば 4 個）まで保留することが可能である。

40

【0 1 6 5】

図 1 2 (C) に示す低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルは、低頻度サポートモードである通常遊技状態における普図当たり抽選で使用するテーブルである。図 1 2 (C) に示すように、低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルでは、普図当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が 0 ~ 9 9 の場合に短開放普図当たり、普図当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が 1 0 0 ~ 1 9 9 の場合に長開放普図当たりに設定されている。つまり、通常遊技状態（低頻度サポートモード）では、短開放普図当たりと長開放普図当たりとの振分率が 1 : 1 に設定されている。もちろん、通常遊技状態（低頻度サポートモード）での短開放普図当たりと長開放普図当たりとの振分率は、必ずしも 1 : 1 である必要

50

はなく適宜変更可能であり、例えば長開放普図当たりの振分率をゼロ（長開放普図当たりの普通当たり種別乱数カウンタC5の値がゼロ個）又は略ゼロ（長開放普図当たりの普通当たり種別乱数カウンタC5の値が1個又は2個）に設定することも可能である。

【0166】

図12（D）に示す高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルは、高頻度サポートモードである確変遊技状態及び時短遊技状態における普図当たり抽選で使用するテーブルである。図12（D）に示すように、高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルでは、普図当たり種別乱数カウンタC5の値が0の場合に短開放普図当たり、普図当たり種別乱数カウンタC5の値が1～199の場合に長開放普図当たりに設定されている。つまり、確変遊技状態及び時短遊技状態（高頻度サポートモード）では、短開放普図当たりよりも長開放普図当たりに振り分けられ易くなるように設定されている。もちろん、確変遊技状態及び時短遊技状態（高頻度サポートモード）での短開放普図当たりと長開放普図当たりとの振分率は、図12（D）に示される例には限定されず適宜変更可能であり、例えば短開放普図当たりの振分率をゼロ（短開放普図当たりの普通当たり種別乱数カウンタC5の値がゼロ個）に設定することも可能である。

10

【0167】

なお、電動役物315bの開放は、1回の普図当たり遊技につき1回には限定されず、複数回であってもよい。この場合、1回の普図当たり遊技での電動役物315bの各開放の開放時間や開放間隔（開放間インターバル）は、1種類であっても複数種であってもよい。

20

【0168】

普図変動種別カウンタCS2は、例えば0～99の範囲内で順に1ずつ加算されることで、後述の図21のメイン処理が1回実行されるごとにステップS1402において少なくとも1回更新され、当該メイン処理内の残余時間内でもステップS1414において繰り返し更新される。そして、普図保留格納エリア412cの普図第1保留エリアSE1～普図第4保留エリアSE4には、スルーゲート317L、317Rに遊技球が入賞したタイミングでの普図変動種別カウンタCS2の値が格納される。また、所定のタイミングにおいて、普図保留格納エリア412cに格納された普図変動種別カウンタCS2の値に基づいて、普図変動表示テーブル（不図示）を参照して普図変動表示時間が決定される。

【0169】

普図変動表示テーブル（不図示）は、例えば高頻度サポートモードである場合に参照される高頻度サポートモード普図変動テーブルと、低頻度サポートモードである場合に参照される低頻度サポートモード普図変動表示テーブルとを含む。高頻度サポートモード普図変動表示テーブル及び低頻度サポートモード普図変動表示テーブルでは、例えば普図変動種別カウンタCS2の値に対応させて複数の普図変動表示時間が設定されている。また、通常、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルのほうが、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルよりも、普図変動表示時間の平均時間が短くなるように設定されている。例えば、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルに設定される一部の変動表示時間が、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルに設定される一部の変動表示時間よりも長くなるように設定してもよく、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルに設定される全ての変動表示時間が、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルに設定される全ての変動表示時間よりも長くなるように設定してもよい。

30

40

【0170】

なお、高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとで共通の普図変動表示テーブルを設定してもよく、高頻度サポートモード普図変動表示テーブル及び低頻度サポートモード普図変動表示テーブルのうちの少なくとも一方の普図変動表示テーブルに設定される普図変動表示時間は1種類であってもよい。また、普図変動保留数Xに応じて普図変動表示時間が設定されるようにしてもよく、例えば普図変動保留数Xが多いほど普図変動表示時間が短くなるように設定してよく、普図変動保留数Xが少ないほど普図変動表示時間が長くなるように設定してよい。

50

【0171】

ここで、図13は、図1に示す遊技機の主制御装置4のMPU41におけるRAM412に設定される遊技情報格納エリア412dの一例を示すブロック図である。遊技情報格納エリア412dには、遊技履歴、出玉性能などに関する遊技情報が格納されている。本実施形態では、遊技情報格納エリア412dには、遊技情報として、「アウト玉数」、「一般入賞口払出玉数」、「第1入賞口払出玉数」、「第2入賞口払出玉数」、「可変入賞口払出玉数」、「設定値」、「ベース情報」、「連続役物比率情報」、「役物比率情報」、「累積大当たり抽選回数」、「単位大当たり抽選回数」、「大当たり回数」、及び「連続外れ回数」が格納されている。これらの遊技情報のうち、「遊技設定値」、「ベース情報」、「連続役物比率情報」、「役物比率情報」、及び「単位大当たり抽選回数」が出玉性能に関する遊技情報（性能情報）に該当する。

10

【0172】

「アウト玉数」は、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）において遊技盤31に発射された遊技球数の積算値である。この「アウト玉数」は、後述の図17の主タイマ割込処理でのステップS1001のセンサ検出処理においてアウト玉センサ318aによって検出されるアウト玉をカウントした値として格納される。

【0173】

「一般入賞口払出玉数」は、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）において一般入賞口313への入賞に対して払い出される遊技球の積算値である。この「一般入賞口払出玉数」は、通常遊技状態において入球センサ313aによって一般入賞口313への入賞が検出された場合に、後述の図21のメイン処理でのステップS1403の賞球コマンド設定処理において一般入賞口313への入賞に応じた賞球数の払い出しを払出制御装置7に行わせるための賞球コマンドを設定する際に、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。

20

【0174】

「第1入賞口払出玉数」は、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）において第1入賞口314への入賞に対して払い出される遊技球の積算値である。この「第1入賞口払出玉数」は、通常遊技状態において入球センサ314aによって第1入賞口314への入賞が検出された場合に、後述の図21のメイン処理でのステップS1403の賞球コマンド設定処理において第1入賞口314への入賞に応じた賞球数の払い出しを払出制御装置7に行わせるための賞球コマンドを設定する際に、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。

30

【0175】

「第2入賞口払出玉数」は、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）において第2入賞口315への入賞に対して払い出される遊技球の積算値である。この「第2入賞口払出玉数」は、時短遊技状態において入球センサ315aによって第2入賞口315への入賞が検出された場合に、後述の図21のメイン処理でのステップS1403の賞球コマンド設定処理において第2入賞口315への入賞に応じた賞球数の払い出しを払出制御装置7に行わせるための賞球コマンドを設定する際に、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。

40

【0176】

「可変入賞口払出玉数」は、大当たり遊技状態において可変入賞口316への入賞に対して払い出される遊技球の積算値である。この「可変入賞口払出玉数」は、大当たり遊技状態において入球センサ316aによって可変入賞口316への入賞が検出された場合に、後述の図21のメイン処理でのステップS1403の賞球コマンド設定処理において可変入賞口316への入賞に応じた賞球数の払い出しを払出制御装置7に行わせるための賞球コマンドを設定する際に、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。

【0177】

「遊技設定値」は、大当たり抽選（当否判定）で用いる低確率モード当否テーブル（図9（A）参照）及び高確率モード当否テーブル（図9（B）参照）を選択するためのもの

50

である。換言すれば、「遊技設定値」は、低確率モード及び高確率モードでの大当たり確率を規定する。本実施形態では、後述のように６段階の設定値（大当たり確率の異なる６種類の低確率モード当否テーブル（図９（Ａ）参照）及び高確率モード当否テーブル（図９（Ｂ）参照））が準備されている。「遊技設定値」は、後述の図３５の遊技設定値変更処理において更新される。

【０１７８】

「ベース情報」は、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）における払戻率（出玉率）である「ベース」に関する情報であり、この「ベース」は通常遊技状態における「アウト玉数」に対する「一般入賞口払出玉数」と「第１入賞口払出玉数」との合算払出玉数の比率である。「ベース」を数式で表すと、「ベース」＝ $100 \times (\text{「一般入賞口払出玉数」} + \text{「第１入賞口払出玉数」}) / \text{「アウト玉数」}$ である。「ベース情報」は、現状ベースＢＬ、前回６万玉ベースＢ１及び前々回６万玉ベースＢ２に関する情報を含む。ここで、前回６万玉ベースＢ１及び前々回６万玉ベースＢ２は、後述の図３６の特定性能情報更新処理においてアウト玉数が６００００玉に達するごとに更新される（ステップＳ２５０５及びＳ２５０６）。具体的には、直近のアウト玉数が６００００玉に到達したときの「ベース」は前回６万玉ベースＢ１として、もう一つ前のアウト玉数が６００００玉に到達したときの「ベース」は前々回６万玉ベースＢ２として、それぞれＲＡＭ４１２の遊技情報格納エリアの「ベース情報」として保存される。また、アウト玉数のカウンタ値が６００００玉に到達するまでは現状ベースＢＬとして演算され（ステップＳ１８０４）、現状ベースＢＬがＲＡＭ４１２の遊技情報格納エリアの「ベース情報」として保存される。また、アウト玉数のカウンタ値が６００００玉に到達するまでは現状ベースＢＬとして演算される場合、「ベース情報」には、先に説明した「一般入賞口払出玉数」、「第１入賞口払出玉数」及び「アウト玉数」とは別に、ベース演算用の「一般入賞口払出玉数」、「第１入賞口払出玉数」及び「アウト玉数」が格納される。

【０１７９】

なお、本実施形態では、「ベース情報」が「現状ベースＢＬ」、「前回６万玉ベースＢ１」及び「前々回６万玉ベースＢ２」を含んでおり、過去２回分の６万玉ベースが履歴として残されているが、過去３回分以上の６万玉ベースを履歴として残すようにしてもよい。また、「ベース情報」として、遊技機１０が遊技ホールに設置されてから現在に至るまでの累積ベースを含ませてもよい。

【０１８０】

「連続役物比率情報」は、賞球の払い出しがある全ての入賞口（一般入賞口３１３、第１入賞口３１４、第２入賞口３１５及び可変入賞口３１６）への入賞による総払出玉数において、可変入賞口払出玉数が占める比率である「連続役物比率」に関する情報である。

「連続役物比率」を数式で表すと、「連続役物比率」＝ $100 \times \text{「可変入賞口払出玉数」} / \text{「総払出玉数」}$ である。「連続役物比率情報」は、例えば後述の図３６の特定性能情報更新処理において更新される。本実施形態では、「連続役物比率情報」は、遊技機１０が遊技ホールに設置されてからの現在に至るまでの累積連続役物比率として記憶される。なお、「連続役物比率情報」は、一定期間（例えば一定数の大当たり回数（例えば１００回））に対するもの、通常遊技状態での一定数の大当たり抽選（例えば１０００回）が実行されるまでの期間、アウト玉数が一定数（例えば６万玉）に達するまでの期間）に対する連続役物比率であってもよい。もちろん、「連続役物比率情報」は、累積連続役物比率と、一定数期間での連続役物比率との両方を含んでいてもよい。

【０１８１】

「役物比率情報」は、賞球の払い出しがある全ての入賞口（一般入賞口３１３、第１入賞口３１４、第２入賞口３１５及び可変入賞口３１６）への入賞による総払出玉数において、第２入賞口払出玉数と可変入賞口払出玉数との合算払出玉数が占める比率である「役物比率」に関する情報である。「役物比率」を数式で表すと、「役物比率」＝ $100 \times (\text{「第２入賞口払出玉数」} + \text{「可変入賞口払出玉数」}) / \text{「総払出玉数」}$ である。「役物比率情報」は、例えば後述の図３６の特定性能情報更新処理において更新される。本実施形

態では、「役物比率情報」は、遊技機10が遊技ホールに設置されてからの現在に至るまでの累積役物比率として記憶される。なお、「役物比率情報」は、一定期間（例えば一定数の大当たり回数（例えば100回）に対するもの、通常遊技状態での一定数の大当たり抽選（例えば1000回）が実行されるまでの期間、アウト玉数が一定数（例えば6万玉）に達するまでの期間）に対する役物比率であってもよい。もちろん、「連続役物比率情報」は、累積役物比率と、一定数期間での役物比率との両方を含んでいてもよい。

【0182】

「累積大当たり抽選回数」は、遊技ホールの営業開始前に遊技機10の起動が開始されてから現在に至るまでに、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）において大当たり抽選を行った回数である。換言すれば、「累積大当たり抽選回数」は、通常遊技状態における第1入賞口314への入賞を契機としてメイン表示部36の第1特別図柄表示部362での第1特別図柄の変動表示が実行された累積変動表示回数でもある。「累積大当たり抽選回数」は、後述の図28の特図変動開始処理でのステップS2106でメイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において第1特図又は第2特図の変動表示を開始させるごとに1ずつ加算される。また、「累積大当たり抽選回数」は、遊技機10の主電源のオフによってRAM412の遊技情報格納エリア412dからクリアされる。

10

【0183】

「単位大当たり抽選回数」は、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）における一定数のマイナス差玉当たりの、第1入賞口314への入賞を契機として大当たり抽選を受けた回数（メイン表示部36の第1特別図柄表示部の図柄変動表示が実行された回数）である。本実施形態では、一定数は「250玉」であり、差玉は「アウト玉数」から「一般入賞口払出玉数」及び「第1入賞口払出玉数」を差し引いた玉数である。つまり、「単位大当たり抽選回数」は、遊技ホールで1000円に対して250玉の貸玉を受ける場合、1000円平均の第1特別図柄表示部362での第1特別図柄の変動表示回数（大当たり抽選を受けた回数）である。なお、「単位大当たり抽選回数」は、通常遊技状態における一定数の「アウト玉数」当たり的大当たり抽選を受けた回数であってもよい。「単位大当たり抽選回数」は、後述の図36の特定性能情報更新処理において更新される。本実施形態では、「単位大当たり抽選回数」は、遊技機10が遊技ホールに設置されてからの現在に至るまでの累積単位大当たり抽選回数として記憶される。なお、「単位大当たり抽選回数」は、一定期間（例えば一定数の大当たり回数（例えば100回）に対するもの、通常遊技状態での一定数の大当たり抽選（例えば1000回）が実行されるまでの期間、アウト玉数が一定数（例えば6万玉）に達するまでの期間）に対するものであってもよい。もちろん、「単位大当たり抽選回数」として、累積単位大当たり抽選回数と、一定数期間での単位大当たり抽選回数との両方を遊技情報として記憶してもよい。

20

30

【0184】

「大当たり回数」は、遊技ホールの営業開始前に遊技機10の起動が開始されてから現在に至るまでに行った大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなった回数である。「大当たり回数」は、例えば後述の図29の大当たり遊技制御処理において大当たり遊技を開始させるごとに1ずつ加算される。また、「大当たり回数」は、遊技機10の主電源のオフによってRAM412の遊技情報格納エリア412dからクリアされる。

40

【0185】

「連続外れ回数」は、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）において大当たり抽選での抽選結果が連続して外れとなった回数であり、抽選結果が大当たりである場合に0回にクリアされる。「連続外れ回数」は、後述の図28の特図変動開始処理でのステップS2106でメイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において第1特図又は第2特図の変動表示を開始させる場合に、ステップS2103での低確率モード当否テーブルに基づく当否判定の結果が外れであれば1ずつ加算され、当否判定の結果が大当たりである場合に0回にクリアされる。本実施形態では、「連続外れ回数」は、遊技機10の主電源のオフによってRAM412の遊技情報格納

50

エリア 4 1 2 d からクリアされる。もちろん、「連続外れ回数」は、遊技機 1 0 の主電源のオフによって遊技情報格納エリア 4 1 2 d からクリアされないようにしてもよい。

【0 1 8 6】

図 1 4 の説明に戻り、性能情報表示装置 4 A は、R A M 4 1 2 に設定される遊技情報格納エリア 4 1 2 d に遊技情報（性能情報）として格納される「ベース情報」及び「設定値」を表示するものである。性能情報表示装置 4 A は、性能表示モニタ 4 3、性能表示スイッチ 4 4、設定値表示部 4 5、設定値変更操作部 4 6 及び R O M 4 7 を備える。ここで、図 1 5 は、性能情報表示装置 4 A の一例を模式的に示す図である。

【0 1 8 7】

図 1 5 に示すように、性能表示モニタ 4 3 は、遊技機 1 0 での「ベース情報」を表示するものであり、内枠 1 2 を展開した状態において、視認可能な位置に設けられている（図 3 参照）。性能表示モニタ 4 3 は、複数（本実施形態では 4 つ）の 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 により構成されており、4 ケタ 7 セグと称されるものである。なお、性能表示モニタ 4 3 は、主制御装置 4 に設けることが好ましいが、メイン制御ユニット 3 3 1 における主制御装置 4 以外の装置に設けられてもよく、メイン制御ユニット 3 3 1 以外の遊技の他の構成要素に設けられてもよい。また、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 及び／又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 を利用して「ベース情報」を表示させることも考えられる。

【0 1 8 8】

7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 は、「0」~「9」の数字、及び「A」~「F」のアルファベットを表示可能である。なお、7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 では、アルファベットの「B」を表示する場合に数字の「8」と区別するためにドットが点灯されて「8 . 」と表示され、アルファベットの「D」を表示する場合に数字の「0」と区別するためにドットが点灯されて「0」と表示される。また、「A」~「F」のアルファベットのいずれのアルファベットを表示する場合においても、アルファベットであることを明示するためにドットを点灯させることも考えられる。

【0 1 8 9】

性能表示モニタ 4 3 は、4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 のうちの左 2 つの 7 セグメント表示器 4 3 1、4 3 2 が「ベース種別」が略記号で表示される識別セグであり、右 2 つの 7 セグメント表示器 4 3 3、4 3 4 が M P U 4 1 によって演算されるベース値（%）が表示される比率セグである。例えば、現状ベース B L が 3 1 % である場合には、識別セグである左 2 つの 7 セグメント表示器 4 3 1、4 3 2 において現状ベース B L の略記号である「B L」が「8 .」、「L」として表示され、比率セグである右 2 つの 7 セグメント表示器 4 3 3、4 3 4 においてベース値である「3 1」が「3」、「1」として表示される。つまり、4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 では、左から順に、「8 .」、「L」、「3」、「1」と表示される。

【0 1 9 0】

性能表示スイッチ 4 4 は、押下操作によって性能表示モニタ 4 3（4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4）の電源のオンオフを一括して切り替えるものであり、内枠 1 2 を展開した状態において操作容易な位置に設けられる（図 3 参照）。図示した例では、性能表示スイッチ 4 4 の上半部が押下されることで電源がオンにされ、下半部が押下されることで電源がオフにされる。性能表示スイッチ 4 4 に対して電源をオンにする操作が行われると、4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 に通電され、性能表示モニタ 4 3 でのベース情報の表示が可能にされる。一方、性能表示スイッチ 4 4 に対して電源をオフにする操作が行われると、4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 への通電が遮断され、性能表示モニタ 4 3 でのベース情報が非表示にされる。なお、性能表示スイッチ 4 4 は、主制御装置 4 以外に設けられてもよい。

【0 1 9 1】

ここで、図 1 5（A）は、性能表示モニタ 4 3 での表示例である。図 1 5（A）に示すように、性能表示スイッチ 4 4 がオフである場合、7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 が

10

20

30

40

50

消灯状態であるため、ベース情報が非表示状態とされる。図 15 (B) ~ 図 15 (D) に示すように、性能表示スイッチ 44 がオンにされると、性能表示スイッチ 44 がオフにされない限り、「ベース情報」として、現状ベース B L → 前回 6 万玉ベース B 1 → 前々回 6 万玉ベース B 2 → 現状ベース B L に順にループして、各ベースが一定時間ごとに繰り返し表示される。図 15 (B) に示す例では現状ベース B L が 28% であることを示し、図 15 (C) に示す例では前回 6 万玉ベース B 1 が 34% であることを示し、図 15 (D) に示す例では前々回 6 万玉ベース B 2 が 32% であることを示している。一方、図 15 (A) に示すように、性能表示スイッチ 44 がオフされた場合、7 セグメント表示器 431 ~ 434 が消灯され、性能表示モニタ 43 でのベース情報が非表示とされる。

【0192】

なお、性能表示モニタ 43 に「ベース情報」を表示させるのに必要なプログラム、例えば現状ベース B L、前回 6 万玉ベース B 1 及び前々回 6 万玉ベース B 2 を演算するプログラム、性能表示モニタ 43 に現状ベース B L、前回 6 万玉ベース B 1 及び前々回 6 万玉ベース B 2 を一定時間ごとに順に表示させるプログラムなどは、主制御装置 4 に MPU 41 の ROM 412 とは別に設けられる ROM 47 に格納される。これにより、MPU 41 の ROM 411 の負荷を軽減できる。但し、MPU 41 の ROM 411 に容量的な余裕がある場合には、ROM 411 に性能表示モニタ 43 に「ベース情報」を表示させるのに必要なプログラムを格納してもよい。また、主制御装置 4 にとは別に設けられる ROM などの記憶手段に性能表示モニタ 43 に「ベース情報」を表示させるのに必要なプログラムを格納してもよい。

【0193】

また、性能表示モニタ 43 では、「ベース情報」に代えて、又は「ベース情報」に加えて、「連続役物比率情報」や「役物比率情報」などの遊技情報格納エリア 412d に格納された他の性能情報を表示させてもよい。

【0194】

また、性能表示モニタ 43 は、7 セグメント表示器に限らず、ドットマトリクスディスプレイ、液晶ディスプレイや有機 EL ディスプレイなどの他の形態の表示器により構成されてもよい。

【0195】

図 14 の説明に戻り、設定値表示部 45 は、大当たり抽選で参照する低確率モード当否テーブル (図 9 (A) 参照) 及び高確率モード当否テーブル (図 9 (B) 参照) を選択するための上述の遊技設定値を表示するものであり、7 セグメント表示器によって構成されている。なお、設定値表示部 45 は、7 セグメント表示器に限らず、ドットマトリクスディスプレイ、液晶ディスプレイや有機 EL ディスプレイなどの他の形態の表示器により構成されてもよく、性能表示モニタ 43 を利用して遊技設定値を表示するようにしてもよい。

【0196】

設定値変更操作部 46 は、押下操作によって 7 セグメント表示器の電源のオンオフを切り替え、7 セグメント表示器の電源がオンである場合に回転操作されることによって設定値の変更を可能にする。設定値変更操作部 46 は、例えば押下操作によってオンオフされる接点式スイッチとしての機能と、回転操作 (所定角度の回転) によって接点が切り替えられるロータリースwitchとしての機能とを有する。ここで、図 16 は、主制御装置 4 の設定値表示部 45 での表示例を示す図である。

【0197】

図 16 (A) に示すように、設定値表示部 45 が消灯状態である場合に設定値変更操作部 46 に対する押下操作がなされると、7 セグメント表示器が通電されることで設定値表示部 45 に数字が表示される。このときに表示される数字は、RAM 412 の遊技情報格納エリア 412d に格納された設定値であり、現在の設定値を示している。図示した例では、設定値は「1」である。一方、設定値表示部 45 が点灯状態である場合に設定値変更操作部 46 に対する押下操作がなされると、7 セグメント表示器への通電が遮断されるこ

10

20

30

40

50

とで設定値表示部 4 5 が消灯状態となる。

【0198】

図 1 6 (B) に示すように、設定値表示部 4 5 が点灯状態である場合に設定値変更操作部 4 6 に対する回転操作がなされると、設定値表示部 4 5 に表示される数字が変更される。図示した例では、設定値表示部 4 5 が右回転されることで設定値表示部 4 5 に表示される数字が大きくなり、設定値表示部 4 5 が左回転されることで設定値表示部 4 5 に表示される数字が小さくなる。そして、設定値表示部 4 5 が回転されることで設定値表示部 4 5 に表示される数字が変更された場合、変更後の数字が設定値として R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存される。そのため、目的とする設定値に対応する数字を設定値表示部 4 5 に表示させた状態で設定値変更操作部 4 6 を押下して 7 セグメント表示器の電源がオフにされた場合、電源がオフされる直前に表示されていた数字が設定値として決定される。これにより、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存された設定値に応じて選択される低確率モード当否テーブル (図 9 (A) 参照) 又は高確率モード当否テーブル (図 9 (B) 参照) に基づいて大当たり抽選を行うことができる。

10

【0199】

なお、設定値を変更する方法は、設定値変更操作部 4 6 を回転させてから設定値表示部 4 5 の電源をオフにする方法には限らない。例えば、設定値変更操作部 4 6 を回転させてから操作ボタン 2 0 (図 1 参照) を押下することで設定値を決定する方法、操作ボタン 2 0 (図 1 参照) を連打又は長押しすることで設定値表示部 4 5 に表示される数字を変更させてから設定値表示部 4 5 の電源をオフにする方法、主制御装置 4 などに設けられる鍵穴に鍵を差し込んで鍵を回転させることで設定値表示部 4 5 に表示される数字を変更させてから鍵を抜く方法などであってもよい。

20

【0200】

ここで、設定値表示部 4 5 を備える性能情報表示装置 4 A は、制御ユニット 3 3 におけるメイン制御ユニット 3 3 1 の主制御装置 4 に設けられている。また、制御ユニット 3 3 は、遊技盤 3 1 の背面側に設けられ、前面枠 1 1 に対して開閉可能である。そのため、設定値表示部 4 5 は、遊技盤 3 1 の背面側に設けられ、遊技盤 3 1 と共に制御ユニット 3 3 を前面枠 1 1 に対して開閉させることで、遊技機 1 0 の外部 (前面枠 1 1 の正面側) から視認可能な状態と視認不能な状態とを選択可能である。即ち、遊技盤 3 1 (制御ユニット 3 3) を前面枠 1 1 に対して閉鎖することで設定値表示部 4 5 を視認できない一方で、遊技盤 3 1 (制御ユニット 3 3) を前面枠 1 1 に対して開放することで設定値表示部 4 5 を視認できる。これにより、遊技者が遊技機 1 0 において遊技を実行する場合、遊技盤 3 1 が開放されない限り、設定値表示部 4 5 が視認されることがないため、設定値表示部 4 5 に表示される数字によって設定値が遊技者に把握されることが防止される。そして、設定値表示部 4 5 は、点灯状態である場合に設定値変更操作部 4 6 に対する押下操作がなされることで消灯状態とされる。そのため、遊技ホールの営業時間中に設定値表示部 4 5 の消灯状態を維持することで、遊技機 1 0 などでの玉詰まりなどにより遊技盤 3 1 を開放することで設定値表示部 4 5 が視認可能な状態とされても、設定値表示部 4 5 によって設定値が遊技者に把握されることが防止できる。

30

40

【0201】

一方、設定値表示部 4 5 は、消灯状態である場合に設定値変更操作部 4 6 に対する押下操作がなされることで点灯状態とされ、遊技設定値に対応する数字が非表示にされる。そのため、遊技ホールの営業時間外において、遊技盤 3 1 を前面枠 1 1 に対して開放し、設定値変更操作部 4 6 に対する押下操作を行うことで、設定値表示部 4 5 が点灯状態とされることによって設定値表示部 4 5 に表示される数字に基づいて遊技設定値を確認することができ、さらに、設定値変更操作部 4 6 に対する回転操作によって遊技設定値を変更することができる。これにより、営業時間内での設定値の秘匿性を確保しつつ、簡易な作業によって営業時間外において設定値の変更が可能になる。

【0202】

50

なお、本実施形態では、性能情報表示装置 4 A が主制御装置 4 に設けられているが、性能情報表示装置 4 A は、メイン制御ユニット 3 3 1 において主制御装置 4 とは別に設けてもよく、制御ユニット 3 3 においてメイン制御ユニット 3 3 1 とは別に設けてもよい。

【0203】

[サブ制御ユニット 3 3 2]

図 7 に示すように、サブ制御ユニット 3 3 2 は、音声ランプ制御装置 5 及び表示制御装置 6 を備えており、主制御ユニット 3 3 1 から入力される制御信号に基づいて図柄表示部 3 4 1 における図柄変動表示及び演出表示を実行する。

【0204】

[音声ランプ制御装置 5]

音声ランプ制御装置 5 は、MPU 5 1 及び入出力 I / F 5 2などを備える。MPU 5 1 は、1チップマイコンとして構成された演算装置である。また、MPU 5 1 には、ROM 5 1 1 及び RAM 5 1 2 が内蔵されている。

【0205】

ROM 5 1 1 は、制御プログラム及びパラメータ情報が予め記憶された不揮発性の記憶部である。また、ROM 5 1 1 には、特図遊技演出、大当たり遊技演出などで使用される音声、ランプ点滅パターンなどの情報も記憶されている。RAM 5 1 2 は、種々の情報の読み書きが可能な揮発性の記憶部であり、MPU 5 1 によって実行される処理の一次記憶領域（作業領域）として使用される。なお、RAM 5 1 2 は、不揮発性の記憶部であってもよい。

【0206】

音声ランプ制御装置 5 は、ROM 5 1 1 に記憶されている制御プログラムに従った処理を MPU 5 1 によって実行することにより、主制御装置 4 から入力されるコマンド（制御信号）に基づいて、表示制御装置 6 にコマンド（制御信号）を入力し、図柄表示部 3 4 1 の表示を制御する。また、音声ランプ制御装置 5 は、図柄表示部 3 4 1 の表示に合わせてスピーカ 2 6 からの再生音声出力及び電飾部 2 7 の点滅態様も制御する。例えば、MPU 5 1 は、後述の特図遊技演出及び大当たり遊技演出を実行する場合に、図柄表示部 3 4 1 での画像表示、スピーカ 2 6 からの再生音声出力及び電飾部 2 7 の点滅態様を制御する。

【0207】

入出力 I / F 5 2 は、音声ランプ制御装置 5 に信号を入力し、音声ランプ制御装置 5 から制御信号を出力する入出力インターフェースである。具体的に、入出力 I / F 5 2 には、主制御装置 4 及び表示制御装置 6 が接続されている。そして、主制御装置 4 から音声ランプ制御装置 5 には、特図変動パターンコマンド、第 1 特図保留コマンド、第 2 特図保留コマンド、特図シフトコマンドなどのコマンドが入力される。また、音声ランプ制御装置 5 は、表示制御装置 6 に表示変動パターンコマンドなどを出力する。なお、表示制御装置 6 が、主制御装置 4 からコマンドを受信し、そのコマンドを音声ランプ制御装置 5 に入力する構成も他の実施形態として考えられる。また、サブ制御ユニット 3 3 2 が、音声ランプ制御装置 5 及び表示制御装置 6 の両方の機能を有する一つの制御装置を備える構成も他の実施形態として考えられる。

【0208】

また、入出力 I / F 5 2 には、スピーカ 2 6 及び電飾部 2 7 が接続されている。そして、音声ランプ制御装置 5 では、MPU 5 1 が、主制御装置 4 から入力されるコマンドに基づいて、スピーカ 2 6 から出力される音声、電飾部 2 7 の点滅態様が制御される。また、入出力 I / F 5 2 には、操作スイッチ 2 0 a が接続されている。これにより、MPU 5 1 は、操作ボタン 2 0 に対して操作が行われたことを検出し、その検出結果に基づいて、図柄表示部 3 4 1 で実行される画像遊技演出、スピーカ 2 6 から音声出力される音声演出、電飾部 2 7 の点滅態様によるランプ演出などを制御することも可能である。

【0209】

MPU 5 1 は、主制御装置 4 から入力される普図変動パターンコマンド、電動役物開放コマンド、電動役物閉鎖コマンド、特図変動パターンコマンド、第 1 特図保留コマンド、

10

20

30

40

50

第2特図保留コマンド、特図シフトコマンド、大当たり遊技開始コマンド、オープニング開始コマンド、オープニング終了コマンド、開閉実行モード開始コマンド、ラウンド遊技開始コマンド、ラウンド遊技終了コマンド、インターバル開始コマンド、インターバル終了コマンド、開閉実行モード終了コマンド、エンディング開始コマンド、エンディング終了コマンド、大当たり遊技終了コマンド、遊技設定値変更コマンドなどのコマンドに基づいて所定の演算処理を実行する。

【0210】

具体的に、MPU51は、特図変動パターンコマンドが入力された場合に、特図変動パターンコマンドに基づいて特図変動パターンを決定し、その特図変動パターンに対応する表示変動パターンコマンドを表示制御装置6に送信し（図47のコマンド判定処理でのステップS3107参照）、図柄表示部341における図柄変動表示を開始させる。このとき、図柄表示部341では、特図変動パターンコマンドが外れを示す場合には外れに対応する飾り図柄の組み合わせが表示される。

【0211】

〔表示制御装置6〕

表示制御装置6は、音声ランプ制御装置5から入力されるコマンド（制御信号）に基づいて図柄表示部341の表示を制御する。具体的に、表示制御装置6は、音声ランプ制御装置5から入力される表示変動パターンコマンドなどに基づいて図柄表示部341の表示を制御することにより図柄変動表示及び演出表示を実行する。

【0212】

表示制御装置6は、MPU61及び入出力I/F62などを備え、入出力I/F62には音声ランプ制御装置5及び図柄表示部341が接続されている。なお、音声ランプ制御装置5及び表示制御装置6の間は双方向通信可能であってもよい。

【0213】

MPU61は、1チップマイコンとして構成された演算装置であり、MPU61には、ROM611及びRAM612が内蔵されている。また、表示制御装置6には、時間を計時するタイマ回路、割込を受け付ける割込回路などの他の回路も内蔵されている。MPU61は、ROM611などに記憶されている制御プログラムに従って処理を実行する。また、表示制御装置6で実行される処理の一部又は全部は電子回路によって実行されてもよい。

【0214】

ROM611には、制御プログラムの他、図柄表示部341の図柄変動表示で用いられる飾り図柄などの変動図柄、予告演出画像、リーチ演出画像、大当たり演出画像、外れ演出画像などの画像が複数種類記憶されている。なお、図柄表示部341に表示される画像には静止画及び動画が含まれる。また、ROM611には、変動表示パターンコマンドごとに対応する表示スケジュールが記憶されている。具体的に、表示スケジュールには、使用する画像の種類や表示タイミングの他、変動図柄の変動表示時間も含まれる。そして、表示制御装置6では、MPU61が、変動表示パターンコマンドに対応する表示スケジュールに従って画像を図柄表示部341に表示させることにより図柄変動表示及び演出表示が実現される。

【0215】

RAM612は、種々の情報の読み書きが可能な揮発性の記憶部であり、MPU61によって実行される処理の一次記憶領域（作業領域）として使用される。なお、RAM612は不揮発性の記憶部であってもよい。

【0216】

〔払出制御装置7〕

払出制御装置7には、MPU71及び入出力I/F72などが搭載されている。MPU71は、1チップマイコンとして構成された演算装置である。また、MPU71には、ROM711及びRAM712が内蔵されている。

【0217】

R O M 7 1 1 は、制御プログラム及びパラメータ情報が予め記憶された不揮発性の記憶部である。また、R A M 7 1 2 は、種々の情報の読み書きが可能な揮発性の記憶部であり、M P U 7 1 によって実行される処理の一次記憶領域（作業領域）として使用される。なお、R A M 7 1 2 は不揮発性の記憶部であってもよい。

【0218】

入出力 I / F 7 2 は、払出制御装置 7 に信号を入力し、払出制御装置 7 から制御信号を出力する入出力インターフェースである。具体的に、入出力 I / F 7 2 には、払出装置 1 3 2 及び球貸装置 1 0 0 が接続されている。

【0219】

払出装置 1 3 2 は、前述したように、タンク 1 3 1 から上皿 2 3 に向けて遊技球を払い出すものであり、遊技球の払出の有無を切り換える球止部材を駆動させるモーターなどの駆動部 1 3 2 a と、払い出される遊技球を個別に検出する払出センサ 1 3 2 b とを備える。払出制御装置 7 は、払出センサ 1 3 2 b による検出結果に基づいて駆動部 1 3 2 a を制御することにより任意の数の遊技球を払い出す。また、払出制御装置 7 には、状態復帰スイッチ 7 3 が設けられている。状態復帰スイッチ 7 3 は、例えば、払出装置 1 3 2 の球詰まりなどの払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。

【0220】

球貸装置 1 0 0 は、遊技機 1 0 と併せて島設備に設置される。そして、球貸装置 1 0 0 は、遊技機 1 0 の前面枠 1 1 に設けられている不図示の球貸操作装置の操作に応じて、球貸装置 1 0 0 に挿入されているカードなどの記録媒体に記憶されている金額の範囲内で予め設定された金額に相当する数の遊技球を払い出して遊技者に貸し出すことが可能である。具体的には、球貸装置 1 0 0 から払出制御装置 7 に、所定数の遊技球を払い出す旨の制御信号が入力されることにより、M P U 7 1 により払出装置 1 3 2 が制御されて所定数の遊技球が払い出される。なお、記録媒体はカードに限らず、例えば I C チップを内蔵するコイン型、スティック型の記憶媒体であってもよい。また、球貸装置 1 0 0 は、現金の挿入によりその現金に応じた所定数の遊技球を貸し出すことが可能なものであってもよい。

【0221】

【発射制御装置 8】

発射制御装置 8 は、遊技球発射機構 3 2 の駆動を制御する発射制御 I C 8 1 を備える。具体的に、発射制御 I C 8 1 は、発射ハンドル 2 2 が回転操作されている間、遊技球発射機構 3 2 の球送り装置 3 2 2 を駆動させることにより、上皿 2 3 に貯留されている遊技球を発射レール 3 2 1 上に供給させる。そして、発射制御 I C 8 1 は、発射ハンドル 2 2 の操作量を検出し、その操作量に応じて遊技球発射機構 3 2 のソレノイド 3 2 3 を駆動させることにより、発射レール 3 2 1 上の遊技球を遊技盤 3 1 に向けて発射させる。このとき、発射制御 I C 8 1 は、予め設定された周期（例えば 0 . 6 s e c）で O N O F F が切り替わるクロック信号を駆動信号として球送り装置 3 2 2 及びソレノイド 3 2 3 を駆動させる。これにより、遊技機 1 0 では、0 . 6 s e c ごとに 1 個の遊技球が遊技領域に向けて発射される。

【0222】

また、発射ハンドル 2 2 には、遊技者による回転操作量を検出するための可変抵抗が設けられており、発射ハンドル 2 2 の回転操作量に応じて電圧が発射制御 I C 8 1 に入力される。これにより、発射制御 I C 8 1 は、発射ハンドル 2 2 の回転操作量に応じて入力される電圧値に基づいて、発射ハンドル 2 2 の回転操作量が多いほど遊技球発射機構 3 2 からの遊技球の発射強度が強くなるようにソレノイド 3 2 3 への印加電圧を調整する。

【0223】

さらに、発射ハンドル 2 2 には、遊技者が発射ハンドル 2 2 に触れていることを検出するためのタッチセンサ 2 1 a、及び遊技者が任意に遊技球の発射を停止させるための操作を行う球止めスイッチ 2 1 b が設けられている。発射制御 I C 8 1 は、タッチセンサ 2 1 a 及び球止めスイッチ 2 1 b を用いて、タッチセンサ 2 1 a により遊技者が発射ハンドル

10

20

30

40

50

２２に触れていないことを検出した場合、又は球止めスイッチ２１ｂが遊技者によって操作されていることを検出した場合に、遊技球発射機構３２による遊技球の発射を停止させる。これにより、例えば発射ハンドル２２が回転操作された状態で固定され、遊技者が発射ハンドル２２に触れていない状況における遊技が防止される。また、遊技者は、発射ハンドル２２を回転操作したまま親指などで球止めスイッチ２１ｂを任意のタイミングで操作することにより、球技球の発射を停止させることができる。

【０２２４】

〔電源制御装置９〕

電源制御装置９は、種々のセンサ、駆動部などを駆動するための＋１２Ｖ電圧、制御装置で使用されるロジック用の＋５Ｖ電圧などを生成する。そして、電源制御装置９は、生成した＋１２Ｖ又は＋５Ｖの電圧を、主制御装置４、音声ランプ制御装置５、表示制御装置６、払出制御装置７、発射制御装置８などに供給する。

【０２２５】

なお、電源制御装置９には、遊技機１０の電源をＯＮＯＦＦするための電源スイッチ９０、遊技機１０を初期状態に戻す際に操作されるＲＡＭ消去スイッチ９１が設けられている。遊技機１０は、ＲＡＭ消去スイッチ９１がＯＮの状態では電源スイッチ９０が操作されて電源が投入された場合に初期化される。

【０２２６】

また、電源制御装置９には、電源設備から供給される電力により充電される充電手段としてコンデンサ及び二次電池が設けられている。これにより、遊技機１０では、電源設備からの電力供給が遮断された場合でも、制御装置に設けられたＲＡＭの情報が、前記コンデンサから放電される電力によって所定期間保持される。また、遊技機１０では、電源設備からの電力供給が遮断された場合でも、制御装置が、二次電池から放電される電力により所定期間の間は駆動可能である。

【０２２７】

さらに、電源制御装置９は、電力供給が遮断されたと判断した場合に、主制御装置４、音声ランプ制御装置５、払出制御装置７などに停電信号を入力する。例えば、電源制御装置９は、電源設備から供給される電力に基づいて予め設定された２４Ｖの直流電圧を出力する場合、その直流電圧が予め設定された２２Ｖ未満に達した場合に停電状態であると判断する。なお、主制御装置４、音声ランプ制御装置５、払出制御装置７などは、電源制御装置９から停電信号を受信すると、実行中の制御を中断して所定のＮＭＩ割込処理を実行する。

【０２２８】

〔主制御装置４の処理〕

次に、図１７～図４１を参照しつつ、主制御装置４のＭＰＵ４１によって実行される処理について説明する。具体的に、遊技機１０において、ＭＰＵ４１は、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理、立ち上げ処理後に実行されるメイン処理、定期的に起動される主タイマ割込処理、停電時に実行されるＮＭＩ割込処理などを実行する。なお、本実施形態では、立ち上げ処理、ＮＭＩ割込処理などについては説明を省略し、主タイマ割込処理及びメイン処理について説明する。また、立ち上げ処理では、ＲＡＭ４１２が正常に動作しているか否かが確認され、ＲＡＭ４１２が正常に動作していることを条件に主タイマ割込処理の実行が許可される。

【０２２９】

〔主制御装置４の主タイマ割込処理〕

ここで、図１７は、主制御装置４のＭＰＵ４１により実行される主タイマ割込処理の手順の一例を説明するためのフローチャートである。主タイマ割込処理は、例えば２ｍｓｅｃごとに実行される。以下、図１７を参照しつつ、主タイマ割込処理を説明する。

【０２３０】

<ステップＳ１００１>

図１７に示すように、ステップＳ１００１では、ＭＰＵ４１は、主制御装置４に接続さ

10

20

30

40

50

れているセンサなどの検出状態を判断するセンサ検出処理を実行する。例えば、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a , 3 1 7 L a , 3 1 7 R a 、アウト玉センサ 3 1 8 a などの検出状態を判断する。このとき、MPU 4 1 は、入球センサ 3 1 3 a ~ 3 1 6 a , 3 1 7 L a , 3 1 7 R a のいずれかへの遊技球の入球が検出された場合には、その情報を入賞検知情報として RAM 4 1 2 に保存する。また、MPU 4 1 は、アウト玉センサ 3 1 8 a によってアウト玉が検出された場合には、RAM 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に記憶されたアウト玉数に 1 加算して遊技情報格納エリア 4 1 2 d のアウト玉数を更新する。

【0231】

<ステップ S 1 0 0 2>

次に、ステップ S 1 0 0 2 では、MPU 4 1 は、大当たり乱数初期値カウンタ C I N 1 及び普通当たり乱数初期値カウンタ C I N 2 の更新を実行する。具体的には、MPU 4 1 は、大当たり乱数初期値カウンタ C I N 1 及び普通当たり乱数初期値カウンタ C I N 2 でのカウンタ値に 1 を加算し、そのカウンタ値が最大値に達した場合は当該カウンタ値を 0 にクリアする。

10

【0232】

<ステップ S 1 0 0 3>

続いて、ステップ S 1 0 0 3 では、MPU 4 1 は、大当たり乱数カウンタ C 1 、大当たり種別カウンタ C 2 、リーチ乱数カウンタ C 3 、普通当たり乱数カウンタ C 4 、及び普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の更新を実行する。具体的には、MPU 4 1 は、大当たり乱数カウンタ C 1 、大当たり種別カウンタ C 2 、リーチ乱数カウンタ C 3 、普通当たり乱数カウンタ C 4 、及び普通当たり種別乱数カウンタ C 5 でのカウンタ値にそれぞれ 1 を加算し、それらのカウンタ値が最大値に達した場合は当該カウンタ値を 0 にクリアする。

20

【0233】

<ステップ S 1 0 0 4 及び S 1 0 0 5>

その後、MPU 4 1 は、第 1 入賞口 3 1 4 又は第 2 入賞口 3 1 5 への入賞に伴う始動入賞処理を実行し（ステップ S 1 0 0 4 ）、発射制御処理を実行する（ステップ S 1 0 0 5 ）。なお、始動入賞処理の詳細は、図 1 8 を参照して後述する。

【0234】

発射制御処理は、遊技者が発射ハンドル 2 2 に触れていることがタッチセンサ 2 1 a により検出されており、発射を停止させるための球止めスイッチ 2 1 b が操作されていないことを条件に、遊技球の発射を有効にする処理である。また、発射制御処理は、遊技者が発射ハンドル 2 2 に触れていないことがタッチセンサ 2 1 a により検出されている場合、又は球止めスイッチ 2 1 b が操作されている場合には、遊技球の発射を無効にする処理である。MPU 4 1 は、遊技球の発射が有効である場合に、発射制御装置 8 に対して遊技球の発射指示をする。

30

【0235】

<ステップ S 1 0 0 6>

ステップ S 1 0 0 6 では、MPU 4 1 は、スルーゲート 3 1 7 L , 3 1 7 R を遊技球が通過した場合に、MPU 4 1 によって、RAM 4 1 2 の普図保留格納エリア 4 1 2 c に格納される情報を更新するスルーゲート処理を実行し、当該主タイマ割込処理を終了する。なお、スルーゲート処理の詳細は、図 2 0 を参照して後述する。

40

【0236】

[始動入賞処理]

ここで、図 1 8 は、図 1 7 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1 0 0 4 で MPU 4 1 により実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 1 8 を参照しつつ、始動入賞処理を説明する。

【0237】

<ステップ S 1 1 0 1>

図 1 8 に示すように、ステップ S 1 1 0 1 では、MPU 4 1 は、第 1 入賞口 3 1 4 に対する入賞があったか否かを判断する。ここで、MPU 4 1 は、第 1 入賞口 3 1 4 に対する

50

入賞があったと判断すると（ステップ S 1 1 0 1 : Y e s）、処理をステップ S 1 1 0 2 に移行し、第 1 入賞口 3 1 4 に対する入賞がなかったと判断すると（ステップ S 1 1 0 1 : N o）、処理をステップ S 1 1 0 6 に移行する。

【 0 2 3 8 】

<ステップ S 1 1 0 2 及び S 1 1 0 3>

ステップ S 1 1 0 2 では、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の第 1 特図保留数記憶エリア N A A に記憶されている第 1 特図保留数 N が最大保留数（本実施形態では 4）であるか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、第 1 特図保留数 N が最大保留数であれば（ステップ S 1 1 0 2 : Y e s）、処理をステップ S 1 1 0 6 に移行する。一方、M P U 4 1 は、第 1 特図保留数 N が最大保留数でなければ（ステップ S 1 1 0 2 : N o）、第 1 特図保留数 N に 1 を加算する処理を実行する（ステップ S 1 1 0 3）。

10

【 0 2 3 9 】

<ステップ S 1 1 0 4>

ステップ S 1 1 0 4 では、M P U 4 1 は、図 1 7 の主タイマ割込処理でのステップ S 1 0 0 3 で更新される大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 と、後述の図 2 1 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 2 及び S 1 4 1 4 で更新される特図変動種別カウンタ C S 1 とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値を R A M 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 のうち最初の空き保留エリアに格納する。

【 0 2 4 0 】

20

<ステップ S 1 1 0 5>

ステップ S 1 1 0 5 では、M P U 4 1 は、ステップ S 1 1 0 4 で取得された第 1 特図保留に対する特図当否情報が後述の図 2 8 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて第 1 特図保留コマンドを R A M 4 1 2 に設定する第 1 特図保留コマンド設定処理を実行する。なお、第 1 特図保留コマンド設定処理の詳細は、図 1 9 を参照して後述する。

【 0 2 4 1 】

<ステップ S 1 1 0 6>

ステップ S 1 1 0 6 では、M P U 4 1 は、第 2 入賞口 3 1 5 に対する入賞があったか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、第 2 入賞口 3 1 5 に対する入賞があったと判断すると（ステップ S 1 1 0 6 : Y e s）、処理をステップ S 1 1 0 7 に移行し、第 2 入賞口 3 1 5 に対する入賞がなかったと判断すると（ステップ S 1 1 0 6 : N o）、当該始動入賞処理を終了する。

30

【 0 2 4 2 】

<ステップ S 1 1 0 7 及び S 1 1 0 8>

ステップ S 1 1 0 7 では、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の第 2 特図保留数記憶エリア N A B に記憶されている第 2 特図保留数 M が最大保留数（本実施形態では 4）であるか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、第 2 特図保留数 M が最大保留数であれば（ステップ S 1 1 0 7 : Y e s）、当該始動入賞処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、第 2 特図保留数 M が最大保留数でなければ（ステップ S 1 1 0 7 : N o）、更新処理として、第 2 特図保留数 M に 1 を加算する処理を実行する（ステップ S 1 1 0 8）。

40

【 0 2 4 3 】

<ステップ S 1 1 0 9>

ステップ S 1 1 0 9 では、M P U 4 1 は、図 1 7 の主タイマ割込処理でのステップ S 1 0 0 3 で更新される大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 と、後述の図 2 1 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 2 及び S 1 4 1 4 で更新される特図変動種別カウンタ C S 1 とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値を R A M 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のうち最初の空き保留エリアに格納する。

50

【0244】

<ステップS1110>

ステップS1110では、MPU41は、ステップS1109で取得された第2特図保留に対する特図当否情報が後述の図28の特図変動開始処理でのステップS2102又はS2103において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて第2特図保留コマンドをRAM412に設定する第2特図保留コマンド設定処理を実行する。ここで、第2特図保留コマンド設定処理は、図19を参照して後述する第1特図保留コマンド設定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、第2特図保留コマンド設定処理は、図19の第1特図保留コマンド設定処理において、「第1特図保留コマンド」を「第2特図保留コマンド」と、「第1特図保留数N」を「第2特図保留数M」と読み替えればよい。

10

【0245】

[第1特図保留コマンド設定処理]

ここで、図19は、図18の始動入賞処理におけるステップS1105でMPU41により実行される第1特図保留コマンド設定処理の手順を示すフローチャートである。なお、第1特図保留コマンドには、当該コマンドが第1特図保留コマンドである旨を示す情報と、大当たり抽選の結果（大当たり種別又は外れ）、特図変動表示時間及び第1特図保留数Nなどの情報が含まれる。以下、図19を参照しつつ、第1特図保留コマンド設定処理を説明する。

20

【0246】

<ステップS1201>

図19に示すように、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAから第1特図保留数Nを読み出すと共に、それぞれの第1特図保留に対応する大当たり乱数カウンタC1の値をRAM412から読み出す（ステップS1201）。

【0247】

<ステップS1202>

ステップS1202では、MPU41は、高確率モードであるか否かを判断し、高確率モードである場合（ステップS1202：Yes）、処理をステップS1203に移行する。一方、MPU41は、高確率モードでない場合（ステップS1202：No）、即ち低確率モードである場合、処理をステップS1204に移行する。例えば、MPU41は、高確率モードであるか否かを確変遊技状態フラグに基づいて判断する。確変遊技状態フラグは、確変遊技状態であるか否か、即ち高確率モードであるか否かを示すフラグである。この確変遊技状態フラグは、後述の遊技状態移行処理において、遊技状態が確変大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行される場合に図34のステップS2317でオンに設定され、遊技状態が確変遊技状態から確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行される場合に図33のステップS2309でオフに設定される。

30

【0248】

<ステップS1203及びS1204>

ステップS1203では、MPU41は、後述の図35の遊技設定値変更処理におけるステップS2410で遊技設定値に応じて保存される高確率モード当否テーブル（図9（B）参照）を読み出し、その高確率モード当否テーブルに基づいて、ステップS1201で読み出された大当たり乱数カウンタC1のカウンタ値が大当たり当選に対応する値であるか否かの当否判定を実行する。一方、ステップS1204では、MPU41は、後述の図35の遊技設定値変更処理におけるステップS2410で遊技設定値に応じて保存される低確率モード当否テーブル（図9（A）参照）を読み出し、その低確率モード当否テーブルに基づいて、ステップS1201で読み出された大当たり乱数カウンタC1のカウンタ値が大当たり当選に対応する値であるか否かの当否判定を実行する。

40

【0249】

なお、ステップS1203及びS1204では、後述の図35の遊技設定値変更処理に

50

おけるステップ S 2 4 1 0 で遊技設定値に応じて保存される高確率モード当否テーブル又は低確率モード当否テーブルに基づいて当否判定が実行されるが、ステップ S 1 2 0 3 又は S 1 2 0 4 において、後述の図 3 5 の遊技設定値変更処理におけるステップ S 2 4 0 8 で保存される遊技設定値を読み出した上で、その遊技設定値に応じた高確率モード当否テーブル又は低確率モード当否テーブルを逐一選択して当否判定を行ってもよい。

【 0 2 5 0 】

<ステップ S 1 2 0 5>

ステップ S 1 2 0 5 では、M P U 4 1 は、大当たり乱数カウンタ C 1 のカウンタ値が大当たり当選に対応する値であるか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、大当たり乱数カウンタ C 1 から読み出されたカウンタ値が大当たり当選に対応する値であると判断した場合は（ステップ S 1 2 0 5 : Y e s）、処理をステップ S 1 2 0 6 に移行する。一方、M P U 4 1 は、大当たり乱数カウンタ C 1 から読み出されたカウンタ値が大当たり当選に対応する値でないと判断した場合（ステップ S 1 2 0 5 : N o）、即ち外れである場合、処理をステップ S 1 2 0 8 に移行する。

10

【 0 2 5 1 】

<ステップ S 1 2 0 6>

ステップ S 1 2 0 6 では、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 から大当たり種別カウンタ C 2 及び特図変動種別カウンタ C S 1 のカウンタ値を読み出す。例えば、図 1 8 の始動入賞処理におけるステップ S 1 1 0 4 で特図当否情報が第 3 保留エリア R E A 3 に格納された場合には、その第 3 保留エリア R E A 3 に格納された特図当否情報に含まれる大当たり種別カウンタ C 2 及び特図変動種別カウンタ C S 1 のカウンタ値が読み出される。なお、第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 のうち図 1 8 の始動入賞処理におけるステップ S 1 1 0 4 で特図当否情報が格納された保留エリアは、第 1 特図保留数記憶エリア N A A に記憶されている保留数 N の値によって判断可能である。

20

【 0 2 5 2 】

<ステップ S 1 2 0 7>

ステップ S 1 2 0 7 では、M P U 4 1 は、大当たり種別カウンタ C 2、特図変動種別カウンタ C S 1 及び第 1 特図保留数 N を第 1 特図保留コマンドに設定する。このように、第 1 特図保留コマンドに、ステップ S 1 2 0 1 で読み出された第 1 特図保留数 N が含まれるため、第 1 特図保留コマンドを受信する音声ランプ制御装置 5 の M P U 5 1 は、第 1 特図保留コマンドに含まれる保留数 N を参照することにより、当該第 1 特図保留コマンドが第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 のいずれに格納された第 1 特図当否情報に対応するものであるかを認識することが可能である。

30

【 0 2 5 3 】

<ステップ S 1 2 0 8 及び S 1 2 0 9>

ステップ S 1 2 0 8 では、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 から特図変動種別カウンタ C S 1 のカウンタ値を読み出す。次いで、M P U 4 1 は、大当たり抽選での抽選結果が外れであることを示す情報、特図変動種別カウンタ C S 1 及び第 1 特図保留数 N を第 1 特図保留コマンドに設定する（ステップ S 1 2 0 9）。

【 0 2 5 4 】

40

なお、当該第 1 特図保留コマンド設定処理のステップ S 1 2 0 7 又は S 1 2 0 9 で設定される第 1 特図保留コマンドは、R A M 4 1 2 に記憶されており、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される後述の図 2 1 のメイン処理のステップ S 1 4 0 1 において他のコマンドと共に音声ランプ制御装置 5 に送信された後に消去される。さらに、ここで説明した第 1 特図保留コマンドの内容は一例に過ぎず、音声ランプ制御装置 5 において前記第 1 特図保留コマンドと同様の内容を把握することが可能であれば、ここで説明するものに限らない。例えば、第 1 特図保留コマンドの一部又は全部の情報が他のコマンドに含まれることも考えられる。

【 0 2 5 5 】

[スルーゲート処理]

50

ここで、図 20 は、図 17 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1006 で MPU 41 により実行されるスルーゲート処理の手順を示すフローチャートである。スルーゲート処理では、スルーゲート 317L, 317R を遊技球が通過した場合に、MPU 41 によって、RAM 412 の普図保留格納エリア 412c に格納される情報が更新される。以下、図 20 を参照しつつ、スルーゲート処理を説明する。

【0256】

<ステップ S 1301>

図 20 に示すように、スルーゲート処理では、MPU 41 は、まず左側のスルーゲート 317L を遊技球が通過したか否かを判断する（ステップ S 1301）。スルーゲート 317L を遊技球が通過したか否かは、図 17 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1001 のセンサ検出処理において RAM 412 に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。MPU 41 は、左側のスルーゲート 317L を遊技球が通過したと判断した場合（ステップ S 1301: Yes）、処理をステップ S 1303 に移行し、左側のスルーゲート 317L を遊技球が通過していないと判断した場合（ステップ S 1301: No）、処理をステップ S 1302 に移行する。

【0257】

<ステップ S 1302>

MPU 41 は、左側のスルーゲート 317L を遊技球が通過していないと判断した場合（ステップ S 1301: No）、右側のスルーゲート 317R を遊技球が通過したか否かを判断する（ステップ S 1302）。スルーゲート 317R を遊技球が通過したか否かは、図 17 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1001 のセンサ検出処理において RAM 412 に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。MPU 41 は、右側のスルーゲート 317R を遊技球が通過したと判断した場合（ステップ S 1302: Yes）、処理をステップ S 1303 に移行し、右側のスルーゲート 317R を遊技球が通過していないと判断した場合（ステップ S 1302: No）、当該スルーゲート処理を終了する。

【0258】

<ステップ S 1303>

MPU 41 は、左側のスルーゲート 317L を遊技球が通過したと判断した場合（ステップ S 1301: Yes）、又は右側のスルーゲート 317R を遊技球が通過したと判断した場合（ステップ S 1302: Yes）、RAM 412 の普図保留格納エリア 412c に設定される普図変動保留数記憶エリア SNA に記憶されている普図変動保留数 X が最大保留数（本実施形態では 4）であるか否かを判断する（ステップ S 1303）。MPU 41 は、普図変動保留数 X が最大保留数である場合（ステップ S 1303: Yes）、当該スルーゲート処理を終了し、普図変動保留数 X が最大保留数でない場合（ステップ S 1303: No）、処理をステップ S 1304 に移行する。

【0259】

<ステップ S 1304 及び S 1305>

MPU 41 は、普図変動保留数 X が最大保留数でない場合（ステップ S 1303: No）、普図変動保留数 X に 1 を加算し（ステップ S 1304）、図 17 の主タイマ割込処理のステップ S 1003 において更新される普通当たり乱数カウンタ C4 及び普通当たり種別乱数カウンタ C5 のカウンタ値、及び後述の図 21 のメイン処理のステップ S 1402 及び S 1414 において更新される普図変動種別カウンタ CS2 の値を取得し、そのカウンタ値を RAM 412 における普図保留格納エリア 412c の普図第 1 保留エリア SE1 ~ 普図第 4 保留エリア SE4 のうち最初の空き保留エリアに格納し（ステップ S 1305）、当該スルーゲート処理を終了する。

【0260】

[主制御装置 4 のメイン処理]

次に、図 21 を参照しつつ、主制御装置 4 の MPU 41 によって実行されるメイン処理について説明する。メイン処理では普図遊技、特図遊技及び大当たり遊技の進行に対する主要な制御処理が実行される。メイン処理では、ステップ S 1401 ~ S 1411 の処理

10

20

30

40

50

が、例えば4msec周期の定期処理として実行され、ステップS1413及びS1414のカウンタ更新処理がステップS1401～S1411の処理の終了後から次周期までの残余時間で実行される。

【0261】

<ステップS1401>

図21に示すように、ステップS1401では、MPU41は、図17の主タイマ割込処理又は前回のメイン処理で設定されたコマンドなどの出力データをサブ制御ユニット332や周辺制御ユニット140などの制御装置に送信する外部出力処理を実行する。例えば、RAM412において普図変動パターンコマンド、電動役物開放コマンド、電動役物閉鎖コマンド、特図変動パターンコマンド、第1特図保留コマンド、第2特図保留コマンド、特図シフトコマンド、大当たり遊技開始コマンド、オープニング開始コマンド、オープニング終了コマンド、開閉実行モード開始コマンド、ラウンド遊技開始コマンド、ラウンド遊技終了コマンド、インターバル開始コマンド、インターバル終了コマンド、開閉実行モード終了コマンド、エンディング開始コマンド、エンディング終了コマンド、大当たり遊技終了コマンド、遊技設定値変更コマンドなどのコマンドが設定されている場合には、音声ランプ制御装置5にそのコマンドを送信する。また、当該メイン処理での後述のステップS1403の賞球コマンド設定処理においてRAM412に賞球コマンドが設定されている場合には、その賞球コマンドを払出制御装置7に対して送信する。

10

【0262】

<ステップS1402>

ステップS1402では、MPU41は、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2の値を更新する。具体的には、MPU41は、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2でのカウンタ値に1を加算し、そのカウンタ値が最大値に達した場合は当該カウンタ値を0にクリアする。

20

【0263】

<ステップS1403>

ステップS1403では、MPU41は、払出制御装置7及びサブ制御ユニット332に出力する賞球コマンドをRAM412に設定する。具体的に、MPU41は、RAM412に記憶されている入賞検知情報に基づいて、一般入賞口313、第1入賞口314、第2入賞口315、可変入賞口316などに入賞が発生したか否かを判断する。そして、入賞が発生している場合は、その入賞に応じて払い出す賞球数を示す賞球コマンドをRAM412に設定する。このとき、MPU41は、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）では、一般入賞口313又は第1入賞口314に入賞が発生している場合に、RAM412の遊技情報格納エリア412dに格納される一般入賞口払出玉数又は第1入賞口払出玉数を、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。また、MPU41は、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）又は確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）では、第2入賞口315に入賞が発生している場合に、RAM412の遊技情報格納エリア412dに格納される第2入賞口払出玉数を、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。さらに、MPU41は、大当たり遊技状態では、可変入賞口316に入賞が発生している場合に、RAM412の遊技情報格納エリア412dに格納される可変入賞口払出玉数を、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。

30

40

【0264】

<ステップS1404>

ステップS1404では、MPU41は、普図遊技の進行を制御する普図遊技制御処理を実行する。なお、普図遊技制御処理の詳細は、図22～図24を参照して後述する。

【0265】

<ステップS1405>

ステップS1405では、MPU41は、普図当たり抽選の結果が当たりである場合に実行される普図当たり遊技の進行を制御する普図当たり遊技制御処理を実行する。なお、

50

普図当たり遊技制御処理の詳細は、図 25 を参照して後述する。

【0266】

<ステップ S1406>

ステップ S1406 では、MPU41 は、特図遊技の進行を制御する特図遊技制御処理を実行する。なお、特図遊技制御処理の詳細については図 26～図 28 を参照して後述するが、特図遊技制御処理では、特別図柄の変動表示を開始する場合に、図柄表示部 341 における図柄変動表示に必要な特図変動パターンコマンドが設定される。このとき、MPU41 は、図 17 の主タイマ割込処理のステップ S1003 で更新される大当たり乱数カウンタ C1、大当たり種別カウンタ C2 及びリーチ乱数カウンタ C3、並びに本処理のステップ S1402 及び S1414 で更新される特図変動種別カウンタ CS1 の各値に基づいて、大当たり抽選の抽選結果及び変動表示時間を示す特図変動パターンコマンドを RAM412 に設定する。

10

【0267】

<ステップ S1407>

ステップ S1407 では、MPU41 は、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大当たり遊技の進行を制御する大当たり遊技制御処理を実行する。なお、大当たり遊技制御処理の詳細は、図 29～図 32 を参照して後述する。

【0268】

<ステップ S1408>

ステップ S1408 では、MPU41 は、各種遊技状態（通常遊技状態、時短遊技状態、確変遊技状態、確変大当たり遊技状態及び通常大当たり遊技状態）の移行を制御する遊技状態移行処理を実行する。なお、遊技状態移行処理の詳細は、図 33 及び図 34 を参照して後述する。

20

【0269】

<ステップ S1409>

ステップ S1409 では、MPU41 は、遊技設定値変更処理を実行する。この遊技設定値変更処理では、設定値変更操作部 46 に対する操作に応じて設定値の表示若しくは非表示、又は遊技情報格納エリア 412d に格納された遊技設定値の変更を制御する処理が実行される。なお、遊技設定値変更処理の詳細は、図 35 を参照して後述する。

【0270】

また、本実施形態では、遊技設定値変更処理がメイン処理において実行されるが、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理、又は立ち上げ処理後から遊技球の打ち出しが開始されるまでの間に限定して実行されることも考えられる。これにより、遊技者により遊技が開始されて以降は、次の電源投入がなされるまでは遊技設定値の変更が行えないため、遊技ホールの営業時間内で遊技設定値の変更がなされることを防止できる。

30

【0271】

<ステップ S1410>

ステップ S1410 では、MPU41 は、遊技情報のうちの特定性能情報更新処理を実行する。本実施形態では、特定性能情報として、ベース情報などが更新される。なお、特定性能情報更新処理の詳細は、図 36 及び図 37 を参照して後述する。

40

【0272】

<ステップ S1411>

ステップ S1411 では、MPU41 は、性能表示モニタ 43 の表示制御処理を実行する。この性能表示モニタ 43 の表示制御処理では、ステップ S1410 の特定性能情報更新処理で更新されるベース情報を性能表示モニタ 43 に表示させる処理が実行される。なお、性能表示モニタ 43 の表示制御処理の詳細は、図 38～図 41 を参照して後述する。

【0273】

<ステップ S1412>

ステップ S1412 では、MPU41 は、次のメイン処理の実行タイミングが到来したか否か、即ち今回のメイン処理の開始から所定時間（本実施形態では 4 msec）が経過

50

したか否かを判断する。ここで、MPU41は、次のメイン処理の実行タイミングが到来したと判断すると（ステップS1412：Yes）、処理をステップS1401に移行させ、前述したS1401以降の各処理を実行する。一方、MPU41は、次のメイン処理の実行タイミングが到来していないと判断すると（ステップS1412：No）、次のメイン処理の実行タイミングが到来するまでの間、即ち次のメイン処理の実行タイミングに至るまでの残余時間の間は、次のメイン処理の実行タイミングが到来したと判断するまで（ステップS1412：Yes）、ステップS1413及びステップS1414を繰り返し実行する。

【0274】

<ステップS1413>

ステップS1413では、MPU41は、大当たり乱数初期値カウンタCIN1及び普通当たり乱数初期値カウンタCIN2を更新する。具体的には、MPU41は、大当たり乱数初期値カウンタCIN1及び普通当たり乱数初期値カウンタCIN2でのカウンタ値に1を加算し、そのカウンタ値が最大値に達した場合には当該カウンタ値を0にクリアする。

【0275】

<ステップS1414>

ステップS1414では、MPU41は、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2を更新する。具体的には、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2でのカウンタ値に1を加算し、それらのカウンタ値が最大値に達した場合には当該カウンタ値を0にクリアする。そして、MPU41は、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2を更新した後、処理をステップS1412に戻す。

【0276】

[普図遊技制御処理]

ここで、図22は、図21のメイン処理でのステップS1404において実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図遊技制御処理では、メイン表示部36の普通図柄表示部361での普図の変動表示及び停止表示を制御する処理などが実行される。以下、図22を参照しつつ、普図遊技制御処理を説明する。

【0277】

<ステップS1501>

図22に示すように、普図遊技制御処理では、まずMPU41は、普通図柄が変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1501）。普図変動表示中フラグは、後述の図24の普図変動開始処理において、普通図柄の変動表示（普図遊技）が開始される場合にステップS1711でオンに設定され、普通図柄が停止表示（普図遊技が終了）される場合に当該普図遊技制御処理におけるステップS1510でオフに設定される。

【0278】

MPU41は、普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1501：Yes）、即ち普図遊技の実行中である場合、処理をステップS1507に移行する。一方、MPU41は、普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1501：No）、即ち普図遊技の実行中でない場合、処理をステップS1502に移行する。

【0279】

<ステップS1502>

普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1501：No）、即ち普図遊技の実行中でない場合、MPU41は、電動役物315bが開放中（普図当たり遊技の実行中）であることを示す電動役物開放中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1502）。電動役物開放中フラグは、後述の図25の普図当たり遊技制御処理において、電動役物315bを開放する場合にステップS1811でオンに設定され、電動役物315bを閉鎖する場合にステップS1818でオフに設定される。

10

20

30

40

50

【0280】

MPU41は、電動役物開放中フラグがオンである場合（ステップS1502：Yes）、即ち普図当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップS1502：No）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1503に移行する。

【0281】

<ステップS1503>

電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップS1502：No）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1503）。大当たり遊技中フラグは、後述の図29の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS2206でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップS2252でオフに設定される。

10

【0282】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1503：Yes）、大当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中には普図遊技が開始されない。

【0283】

もちろん、大当たり遊技の実行中に普図遊技が開始されるようにしてもよい。この場合、大当たり遊技が開始される前のサポートモード種別（高頻度サポートモード及び低頻度サポートモードの別）に従って、即ち大当たり遊技状態に移行される前の遊技状態に従って、普図保留格納エリア412cの普図第1保留エリアSE1から普図実行エリアSAEに移動された当否情報（普図当たり乱数カウンタC4、普図当たり種別乱数カウンタC5及び普図変動種別カウンタCS2の値）に基づいて、普図当たり抽選に対する当否判定が実行される。つまり、大当たり遊技が実行される前の遊技状態が高頻度サポートモードである確変遊技状態又は時短遊技状態である場合、高頻度サポートモード用の普図当たり当否テーブル（図12（B）参照）、普図当たり種別テーブル（図12（D）参照）及び普図変動テーブル（不図示）に基づいて、普図当たり抽選（普図当たり又は外れ）、普図当たり種別（長開放普図当たり又は短開放普図当たり）、及び普図変動表示時間が設定される。一方、大当たり遊技が実行される前の遊技状態が低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合、低頻度サポートモード用の普図当たり当否テーブル（図12（A）参照）、普図当たり種別テーブル（図12（C）参照）及び普図変動テーブル（不図示）に基づいて、普図当たり抽選（普図当たり又は外れ）、普図当たり種別（長開放普図当たり又は短開放普図当たり）、及び普図変動表示時間が設定される。

20

30

【0284】

一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1503：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1504に移行する。

【0285】

<ステップS1504>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1503：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、RAM412の普図保留格納エリア412cに設定される普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xが0であるか否かを判断する（ステップS1504）。MPU41は、普図変動保留数Xが0である場合（ステップS1504：Yes）、当該普図遊技制御処理を終了し、普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1504：No）、処理をステップS1505に移行する。

40

【0286】

<ステップS1505>

普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1504：No）、MPU41は、普図保留格納エリア412cに記憶されている普図当否情報について普図データ設定処理を

50

実行し（ステップ S 1 5 0 5）、処理をステップ S 1 5 0 6に移行する。なお、普図データ設定処理の詳細は図 2 3を参照して後述する。

【0 2 8 7】

<ステップ S 1 5 0 6>

ステップ S 1 5 0 6では、MPU 4 1は、普図保留格納エリア 4 1 2 cに記憶されている情報に基づく普通図柄の変動表示をメイン表示部 3 6の普通図柄表示部 3 6 1に実行させるための普図変動開始処理を実行し、当該普図遊技制御処理を終了する。なお、普図変動開始処理の詳細は、図 2 4を参照して後述する。

【0 2 8 8】

<ステップ S 1 5 0 7>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1：Y e s）、即ち普図遊技の実行中である場合、MPU 4 1は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 7）。大当たり遊技中フラグは、後述の図 2 9の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップ S 2 2 0 6でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップ S 2 2 5 2でオフに設定される。

【0 2 8 9】

MPU 4 1は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 7：Y e s）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップ S 1 5 0 9に移行する。一方、MPU 4 1は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 7：N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 8に移行する。

【0 2 9 0】

<ステップ S 1 5 0 8>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 7：N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU 4 1は、普図変動表示の開始から普図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 8）。即ち、MPU 4 1は、メイン表示部 3 6の普通図柄表示部 3 6 1において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングであるか否かを判断する。

【0 2 9 1】

MPU 4 1は、普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 0 8：Y e s）、即ちメイン表示部 3 6の普通図柄表示部 3 6 1において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、処理をステップ S 1 5 0 9に移行する。一方、MPU 4 1は、普図変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 1 5 0 8：N o）、即ちメイン表示部 3 6の普通図柄表示部 3 6 1において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングでない場合、当該普図遊技制御処理を終了する。

【0 2 9 2】

<ステップ S 1 5 0 9～S 1 5 1 1>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1：Y e s）に大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 7：Y e s）、即ち普図遊技の実行中に大当たり遊技が開始される場合、又は普通図柄の普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 0 8：Y e s）、即ち変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、MPU 4 1は、当該普図遊技に対応する普図当たり抽選の結果に応じた図柄に普通図柄を停止表示させ（ステップ S 1 5 0 9）、普通図柄の変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグをオフに設定する（ステップ S 1 5 1 0）。さらに、MPU 4 1は、普通図柄が停止表示されたこと、即ち普図遊技が終了したことを示す普図変動停止表示フラグをオンに設定し（ステップ S 1 5 1 1）、当該普図遊技制御処理を終了する。

【0 2 9 3】

なお、普図変動停止表示フラグは、後述の図 2 5の普図当たり遊技制御処理のステップ

10

20

30

40

50

S 1 8 0 1において、普図当たり遊技を開始（電動役物 3 1 5 bを開放）するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

【0 2 9 4】

また、本実施形態では、普通図柄の普図変動表示時間が経過することにより変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合に限らず、普図遊技の実行中に大当たり遊技が開始される場合には、変動表示される普通図柄が停止表示される（普図遊技が終了される）。即ち、普図遊技は、大当たり遊技が開始される場合には、普通図柄の普図変動表示時間が経過する前に強制終了される。もちろん、普図遊技は、大当たり遊技が開始される場合にも普通図柄の普図変動表示時間が経過するまで継続して実行するようにしてもよい。

10

【0 2 9 5】

〔普図データ設定処理〕

ここで、図 2 3 は、図 2 2 のステップ S 1 5 0 5 において M P U 4 1 によって実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図データ設定処理では、図 1 1 の主制御装置 4 の記憶領域における普図保留格納エリア 4 1 2 c の記憶内容が更新される。以下、図 2 3 を参照しつつ、普図データ設定処理を説明する。

【0 2 9 6】

<ステップ S 1 6 0 1 ~ S 1 6 0 3 >

図 2 3 に示すように、普図データ設定処理では、まず M P U 4 1 は、普図変動保留数記憶エリア S N A に記憶されている普図変動保留数 X を 1 減算し（ステップ S 1 6 0 1）、普図第 1 保留エリア S E 1 から普図実行エリア S A E に普図当否情報を移動させる（ステップ S 1 6 0 2）。続いて、M P U 4 1 は、普図第 2 保留エリア S E 2 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 に格納されている普図当否情報を 1 つずつシフトさせる（ステップ S 1 6 0 3）。具体的に、ステップ S 1 6 0 3 では、普図第 2 保留エリア S E 2 の普図当否情報を普図第 1 保留エリア S E 1 に移動させ、普図第 3 保留エリア S E 3 の普図当否情報を普図第 2 保留エリア S E 2 に移動させ、普図第 4 保留エリア S E 4 の普図当否情報を普図第 3 保留エリア S E 3 に移動させる。

20

【0 2 9 7】

〔普図変動開始処理〕

ここで、図 2 4 は、図 2 2 のステップ S 1 5 0 6 において M P U 4 1 によって実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図変動開始処理では、普通図柄表示部 3 6 1 での普通図柄の変動表示が開始されると共に、普図当たり抽選での抽選結果に基づいて各種のコマンドやフラグが設定される。以下、図 2 4 を参照しつつ、普図変動開始処理を説明する。

30

【0 2 9 8】

<ステップ S 1 7 0 1 >

図 2 4 に示すように、普図変動開始処理では、M P U 4 1 は、高頻度サポートモード（確変遊技状態又は時短遊技状態）であることを示す高頻度サポートモードフラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 7 0 1）。高頻度サポートモードフラグは、後述の遊技状態移行処理において、大当たり遊技が終了する場合に図 3 4 のステップ S 2 3 1 3 でオンに設定され、遊技状態が確変遊技状態又は時短遊技状態から確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行する場合に図 3 3 のステップ S 2 3 0 7 で、又は遊技状態が時短遊技状態から通常遊技状態に移行する場合に図 3 4 のステップ S 2 3 2 6 でオフに設定される。

40

【0 2 9 9】

M P U 4 1 は、高頻度サポートモードフラグがオンである場合（ステップ S 1 7 0 1 : Y e s）、即ち高頻度サポートモードである確変遊技状態又は時短遊技状態である場合、処理をステップ S 1 7 0 2 に移行し、高頻度サポートモードフラグがオフである場合（ステップ S 1 7 0 1 : N o）、即ち低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合、処理をステップ S 1 7 0 3 に移行する。

50

【0300】

<ステップS1702及びS1703>

高頻度サポートモードである確変遊技状態又は時短遊技状態である場合（ステップS1701：Yes）、MPU41は、高頻度サポートモードに基づく普図当たり当否判定を行う（ステップS1702）。具体的には、MPU41は、高頻度サポートモード普図当たり当否テーブル（図12（B）参照）及び高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル（図12（D）参照）に基づいて、普図保留格納エリア412cの普図実行エリアSAEに格納された普図当否情報に数値情報として含まれる普通当たり乱数カウンタC4及び普通当たり種別乱数カウンタC5の値が普図当たりに対応する値であるか否かの当否判定を行う。

10

【0301】

一方、低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合（ステップS1701：No）、低頻度サポートモードに基づく普図当たり当否判定を行う（ステップS1703）。具体的には、MPU41は、低頻度サポートモード普図当たり当否テーブル（図12（A）参照）及び低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル（図12（C）参照）に基づいて、普図保留格納エリア412cの普図実行エリアSAEに格納された普図当否情報に数値情報として含まれる普通当たり乱数カウンタC4及び普通当たり種別乱数カウンタC5が普図当たり当選に対応する値であるか否かの当否判定を行う。

【0302】

<ステップS1704及びS1705>

MPU41は、普図当たりの当否判定を行った場合（ステップS1702又はS1703）、当否判定の結果が、第2入賞口315が長開放される長開放普図当たりであるか否かを判断する（ステップS1704）。MPU41は、当否判定の結果が長開放普図当たりである場合（ステップS1704：Yes）、当否判定の結果が長開放普図当たりであることを示す長開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップS1705）、処理をステップS1708に移行する。一方、MPU41は、当否判定の結果が長開放普図当たりでない場合（ステップS1704：No）、処理をステップS1706に移行する。

20

【0303】

<ステップS1706及びS1707>

当否判定の結果が長開放普図当たりでない場合（ステップS1704：No）、MPU41は、当否判定の結果が、第2入賞口315が短開放される短開放普図当たりであるか否かを判断する（ステップS1706）。MPU41は、当否判定の結果が短開放普図当たりである場合（ステップS1706：Yes）、当否判定の結果が短開放普図当たりであることを示す短開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップS1707）、処理をステップS1708に移行する。一方、MPU41は、当否判定の結果が短開放普図当たりでない場合（ステップS1706：No）、即ち当否判定の結果が外れである場合、処理をステップS1708に移行する。

30

【0304】

<ステップS1708及びS1709>

長開放普図当たりフラグがオンに設定された場合（ステップS1705）、短開放普図当たりフラグがオンに設定された場合（ステップS1707）、又は当否判定の結果が外れである場合（ステップS1706：No）、MPU41は、普図遊技におけるメイン表示部36の普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示時間である普図変動パターンを、普図変動表示テーブル（不図示）を参照して設定する普図変動パターン設定処理を実行する。普図変動表示テーブル（不図示）は、前述のように、高頻度サポートモードである場合に参照される高頻度サポートモード普図変動テーブルと、低頻度サポートモードである場合に参照される低頻度サポートモード普図変動表示テーブルとを含む。そのため、当該普図変動パターン設定処理では、サポートモード種別に応じた普図変動表示テーブルに基づいて普図変動パターンが設定される。なお、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルのほうが、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルよりも、普通図柄の変動表示

40

50

時間の平均時間が短くなるように設定されているため、高頻度サポートモードでは、低頻度サポートモードに比べて普図遊技が実行される時間が短くなる。

【0305】

そして、MPU41は、ステップS1708で設定される普図変動パターンに加え、ステップS1702又はS1703での当否判定の結果（普図当たり抽選の結果）と、サポートモードの種別（高頻度サポートモード及び低頻度サポートモードの別）とを音声ランプ制御装置5に通知するための普図変動パターンコマンドを設定し（ステップS1709）、処理をステップS1710に移行する。

【0306】

なお、普図変動パターンコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これに対して、音声ランプ制御装置5では、普図変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部341などに対して普図遊技に対応した演出、例えば普図遊技が実行されていることを示す演出や普図当たり抽選の結果を示す演出を実行させる。

【0307】

また、普図変動パターンコマンドは、少なくとも普図変動パターンを音声ランプ制御装置5に通知するコマンドであればよく、普図当たり抽選の結果やサポートモードの種別は、必ずしも普図変動パターンコマンドとして音声ランプ制御装置5に通知する必要はない。例えば、普図当たり抽選の結果は、ステップS1702又はS1703において当否判定を行った場合に普図当たり抽選結果コマンドを設定することで、サポートモードの種別は、高頻度サポートモード又は低頻度サポートモードに移行された場合に、移行後のサポートモードの種別を識別可能なサポートモード種別コマンドを設定することで、音声ランプ制御装置5に通知するようにしてもよい。

【0308】

<ステップS1710及びS1711>

ステップS1710では、MPU41は、メイン表示部36の普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示を開始する（ステップS1710）。そして、MPU41は、普通図柄が変動表示されていること、即ち普図遊技が実行されていることを示す普図変動表示中フラグをオンに設定し（ステップS1711）、当該普図変動開始処理を終了する。

【0309】

なお、普図変動表示中フラグは、図22の普図遊技制御処理でのステップS1501において、普図遊技の実行中（普通図柄の変動表示中）であるかを判断するために参照される。

【0310】

[普図当たり遊技制御処理]

ここで、図25は、図21のメイン処理でのステップS1405において実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図当たり遊技制御処理では、普図当たり抽選の結果が当たりである場合に、電動役物315bの開閉制御を行うことによって第2入賞口315への遊技球の入球を許容する許容状態と制限する制限状態とを切り替える処理が実行される。以下、図25を参照しつつ、普図当たり遊技制御処理を説明する。

【0311】

<ステップS1801>

図25に示すように、普図当たり遊技制御処理では、まずMPU41は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1801）。即ち、MPU41は、普図当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。なお、普図変動停止表示フラグは、図22の普図遊技制御処理において普通図柄が停止表示される場合にステップS1511でオンに設定される。

【0312】

10

20

30

40

50

MPU41は、普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップS1801：Yes）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップS1802に移行する。一方、MPU41は、普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップS1801：No）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理をステップS1813に移行する。

【0313】

<ステップS1802>

普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップS1801：Yes）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1802）。大当たり遊技中フラグは、後述の図29の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS2206でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップS2252でオフに設定される。

【0314】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1802：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技が開始されることで強制終了される場合には、当該普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合であっても普図当たり遊技が開始されない。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中は普図当たり遊技が開始されることはない。もちろん、大当たり遊技の実行中に新たな普図遊技を開始させてもよい。

【0315】

一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1802：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1803に移行する。

【0316】

<ステップS1803>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1802：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS1803）。長開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合に、図24の普図変動開始処理のステップS1705においてオンに設定される。即ち、MPU41は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであるか否かを判断する。MPU41は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1803：Yes）、処理をステップS1804に移行し、長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS1803：No）、処理をステップS1806に移行する。

【0317】

<ステップS1804及びS1805>

長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1803：Yes）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合、MPU41は、長開放普図当たり遊技における電動役物315bの開放時間（第2入賞口315への遊技球の入球可能時間）である6秒に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする（ステップS1804）。開放時間カウンタは、電動役物315bの復帰タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理のステップS1815において参照される。そして、MPU41は、長開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS1805）、処理をステップS1809に移行する。

【0318】

<ステップS1806>

長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS1803：No）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりでない場合、M

10

20

30

40

50

MPU41は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS1806）。短開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合に、図24の普図変動開始処理のステップS1707においてオンに設定される。即ち、MPU41は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであるか否かを判断する。MPU41は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1806：Yes）、処理をステップS1807に移行し、短開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS1806：No）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が外れである場合、処理をステップS1812に移行する。

10

【0319】

＜ステップS1807及びS1808＞

短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1806：Yes）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合、MPU41は、短開放普図当たり遊技における電動役物315bの開放時間（第2入賞口315への遊技球の入球可能時間）である0.1秒に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする（ステップS1807）。そして、MPU41は、短開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS1808）、処理をステップS1809に移行する。

【0320】

＜ステップS1809～S1811＞

普図当たり抽選の結果が当たりである場合に普図当たり種別を示すフラグ（長開放普図当たりフラグ又は短開放普図当たりフラグ）をオフに設定した場合（ステップS1805又はS1808）、MPU41は、電動役物315bを作動させる（ステップS1809）。これにより、第2入賞口315を開放し、第2入賞口315への遊技球の入球を許容する許容状態とする。そして、MPU41は、電動役物315bが開放されていることを音声ランプ制御装置5に通知する電動役物開放コマンドを設定すると共に（ステップS1810）、電動役物315bが開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオンに設定し（ステップS1811）、処理をステップS1812に移行する。

20

【0321】

なお、電動役物開放コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これより、音声ランプ制御装置5は、電動役物開放コマンドに基づいて、例えば図柄表示部341などに対して電動役物315bが開放されていることを示す演出を開始させることができる。

30

【0322】

＜ステップS1812＞

普図当たり抽選の結果が当たりである場合に電動役物315bを開放させる処理などを実行した場合（ステップS1803～S1811）、又は長開放普図当たりフラグ及び短開放普図当たりフラグが共にオフに設定されている場合（普図当たり抽選の結果が外れである場合）（ステップS1803及びステップS1806が共にNo）、MPU41は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグをオフに設定し（ステップS1812）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

40

【0323】

＜ステップS1813＞

普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップS1801：No）、MPU41は、当該普図当たり遊技制御処理のステップS1811において電動役物315bを開放させた場合にオンに設定される電動役物開放中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS1813）。即ち、MPU41は、普図当たり遊技が実行中であるか否かを判断する。MPU41は、電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップS1813：Yes）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、処理をステップ

50

S 1 8 1 4に移行する。一方、M P U 4 1は、電動役物開放中フラグがオフに設定されている場合（ステップS 1 8 1 3：N o）、即ち普図当たり遊技が実行中でない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【0324】

<ステップS 1 8 1 4及びS 1 8 1 5>

電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップS 1 8 1 3：Y e s）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、M P U 4 1は、当該普図当たり遊技制御処理のステップS 1 8 0 4又はS 1 8 0 7においてセットされる開放時間カウンタの値から1減算し（ステップS 1 8 1 4）、減算後の開放時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS 1 8 1 5）。即ち、M P U 4 1は、電動役物3 1 5 bを復帰させるタイミングであるか否かを判断する。M P U 4 1は、減算後の開放時間カウンタの値が0である場合（ステップS 1 8 1 5：Y e s）、即ち電動役物3 1 5 bを復帰させるタイミングである場合、処理をステップS 1 8 1 6に移行する。一方、M P U 4 1は、減算後の開放時間カウンタの値が0でない場合（ステップS 1 8 1 5：N o）、即ち電動役物3 1 5 bを復帰させるタイミングでない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【0325】

<ステップS 1 8 1 6～S 1 8 1 8>

減算後の開放時間カウンタの値が0である場合（ステップS 1 8 1 5：Y e s）、即ち電動役物3 1 5 bを復帰させるタイミングである場合、M P U 4 1は、電動役物3 1 5 bを復帰させる（ステップS 1 8 1 6）。これにより、第2入賞口3 1 5が閉鎖され、第2入賞口3 1 5への遊技球の入球が制限される。そして、M P U 4 1は、電動役物3 1 5 bの閉鎖されたことを音声ランプ制御装置5に通知する電動役物閉鎖コマンドを設定すると共に（ステップS 1 8 1 7）、電動役物3 1 5 bが開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオフに設定し（ステップS 1 8 1 8）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【0326】

なお、電動役物閉鎖コマンドは、M P U 4 1により実行される次のメイン処理（図21参照）のステップS 1 4 0 1の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、電動役物閉鎖コマンドに基づいて、例えば図柄表示部3 4 1などにおいて実行される電動役物が開放されていることを示す演出を終了させることができる。

【0327】

〔特図遊技制御処理〕

ここで、図26は、図21のメイン処理でのステップS 1 4 0 6において実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技制御処理では、主制御装置4のR A M 4 1 2に設定される特図保留格納エリア4 1 2 bの記憶内容が更新されると共に、第1特図遊技又は第2特図遊技の進行の制御、例えば第1特別図柄表示部3 6 2での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部3 6 3での第2特別図柄の変動表示及び停止表示が制御される。以下、図26を参照しつつ、特図遊技制御処理を説明する。

【0328】

<ステップS 1 9 0 1>

図26に示すように、ステップS 1 9 0 1では、M P U 4 1は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、後述の図29の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS 2 2 0 6でオンに設定されると共に、大当たり遊技が終了する場合にステップS 2 2 5 2でオフに設定される。

【0329】

M P U 4 1は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS 1 9 0 1：Y e s）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もち

10

20

30

40

50

ろん、大当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。

【0330】

一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1902に移行する。

【0331】

<ステップS1902>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（第1特図遊技又は第2特図遊技の実行中）であることを示す特図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1902）。特図変動表示中フラグは、後述の図28の特図変動開始処理において第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示が開始される場合にステップS2107でオンに設定され、当該特図遊技制御処理において第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示される場合にステップS1909でオフに設定される。

10

【0332】

MPU41は、特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1902：Yes）、即ち特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、処理をステップS1906に移行する。一方、MPU41は、特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1902：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、処理をステップS1903に移行する。

20

【0333】

<ステップS1903>

特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1902：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、MPU41は、特図保留格納エリア412bの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数N、及び第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mの両方が0であるか否かを判断する（ステップS1903）。

【0334】

MPU41は、第1特図保留数N及び第2特図保留数Mの両方が0である場合（ステップS1903：Yes）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のいずれもない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、第1特図保留数N及び第2特図保留数Mのいずれか一方が0でない場合は（ステップS1903：No）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、処理をステップS1904に移行する。

30

【0335】

<ステップS1904>

第1特図保留数N及び第2特図保留数Mのいずれか一方が0でない場合は（ステップS1903：No）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、MPU41は、特図保留格納エリア412bに記憶されている特図当否情報のデータ（特図データ）に関する特図データ設定処理を実行し（ステップS1904）、処理をステップS1905に移行する。なお、特図データ設定処理の詳細は、図27を参照して後述する。

40

【0336】

<ステップS1905>

ステップS1905では、MPU41は、第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示を開始（第1特図遊技又は第2特図遊技を実行）させるための特図変動開始処理を実行し、当該特図遊技制御処理を終了する。なお、特図変動開始処理の詳細は、図28を参照して後述する。

【0337】

<ステップS1906>

50

特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 9 0 2 : Y e s）、即ち第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から、後述の図 2 8 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 0 4 の特図変動パターン設定処理で設定される第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄に対する特図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 1 9 0 6）。即ち、M P U 4 1 は、変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングであるか否かを判断する。

【 0 3 3 8 】

第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から特図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 9 0 6 : Y e s）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、処理をステップ S 1 9 0 7 に移行する。一方、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 1 9 0 6 : N o）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

【 0 3 3 9 】

<ステップ S 1 9 0 7 ~ S 1 9 0 9 >

第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 9 0 6 : Y e s）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、M P U 4 1 は、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において、当該特図遊技に対応する大当たり抽選の結果に応じた態様で特別図柄を停止表示させる（ステップ S 1 9 0 7）。そして、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 1 9 0 8）、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオフに設定し（ステップ S 1 9 0 9）、当該特図遊技制御処理を終了する。

【 0 3 4 0 】

[特図データ設定処理]

ここで、図 2 7 は、図 2 6 のステップ S 1 9 0 4 において M P U 4 1 によって実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図データ設定処理では、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の記憶内容が更新される。以下、図 2 7 を参照しつつ、特図データ設定処理を説明する。

【 0 3 4 1 】

<ステップ S 2 0 0 1 >

図 2 7 に示すように、ステップ S 2 0 0 1 では、M P U 4 1 は、第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留数 M が 0 であるか否かを判断する。M P U 4 1 は、第 2 特図保留数 M が 0 である場合（ステップ S 2 0 0 1 : Y e s）、即ち第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留がなく第 1 特図遊技に対する第 1 特図保留がある場合（図 2 6 の特図遊技制御処理でのステップ S 1 9 0 3 参照）、処理をステップ S 2 0 0 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、第 2 特図保留数 M が 0 でない場合（ステップ S 2 0 0 1 : N o）、即ち第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留がある場合、処理をステップ S 2 0 0 5 に移行する。つまり、M P U 4 1 は、第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留数 M が 0 であるか否かを判断することで、第 1 特図遊技よりも第 2 特図遊技を優先して開始させる。

【 0 3 4 2 】

なお、本実施形態では、第 2 特図遊技が第 1 特図遊技よりも優先して開始されるが、第 1 特図遊技が第 2 特図遊技よりも優先して開始されるようにしてもよく、また、第 1 入賞口 3 1 4 又は第 2 入賞口 3 1 5 に対する遊技球の入球順（保留順）に特図遊技を開始させ、第 1 特図遊技及び第 2 特図遊技のいずれか一方が実行されるようにしてもよい。また、第 1 特図遊技と第 2 特図遊技との開始に優先順位を設けることなく、第 1 特図遊技と第 2 特図遊技とが互いに独立して実行され、第 1 特図遊技と第 2 特図遊技とが同時に実行され得るようにしてもよい（いわゆる特図の同時変動）。

【0343】

<ステップS2002～S2004>

第2特図保留数Mが0である場合（ステップS2001：Yes）、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数Nを1減算し（ステップS2002）、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1から特図実行エリアAEに特図当否情報を移動させる（ステップS2003）。続いて、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2～第4保留エリアREA4の特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS2004）。具体的に、ステップS2004では、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2の特図当否情報を第1保留エリアREA1に移動させ、第3保留エリアREA3の特図当否情報を第2保留エリアREA2に移動させ、第4保留エリアREA4の特図当否情報を第3保留エリアREA3に移動させる。MPU41は、ステップS2004の処理が終了した場合、処理をステップS2008に移行する。

10

【0344】

<ステップS2005～S2007>

第2特図保留数Mが0でない場合（ステップS2001：No）、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mを1減算し（ステップS2005）、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1から特図実行エリアAEに特図当否情報を移動させる（ステップS2006）。続いて、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2保留エリアREB2～第4保留エリアREB4の特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS2007）。具体的に、ステップS2007では、第2保留エリアREB2の特図当否情報を第1保留エリアREB1に移動させ、第3保留エリアREB3の特図当否情報を第2保留エリアREB2に移動させ、第4保留エリアREB4の特図当否情報を第3保留エリアREB3に移動させる。MPU41は、ステップS2007の処理が終了した場合、処理をステップS2008に移行する。

20

【0345】

<ステップS2008>

ステップS2008では、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4の特図当否情報がシフトした旨を示す特図シフトコマンドをRAM412に設定し、当該特図データ設定処理を終了する。この特図シフトコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図シフトコマンドに基づいて、図柄表示部341に表示される第1特図保留や第2特図保留に対応させた保留表示の表示数などを変更することができる。

30

【0346】

[特図変動開始処理]

ここで、図28は、図26のステップS1905においてMPU41によって実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図変動開始処理では、第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示の開始により第1特別遊技又は第2特図遊技（特図遊技）が開始され、特図遊技の開始に伴う各種処理が実行される。以下、図28を参照しつつ、特図変動開始処理を説明する。

40

【0347】

<ステップS2101>

図28に示すように、ステップS2101では、MPU41は、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態であるか否かを判断する。高確率モードであるか否かは、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態であることを示す確変遊技状態フラグがオンに設定されているか否かによって判断される。確変遊技状態フラグは、後述の遊技状態移行処理に

50

において、図 3 4 のステップ S 2 3 1 7 で遊技状態が確変大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行される場合にオンに設定され、図 3 3 のステップ S 2 3 0 9 で遊技状態が確変遊技状態から確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行される場合にオフに設定される。

【0348】

M P U 4 1 は、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態である場合（ステップ S 2 1 0 1 : Y e s ）、処理をステップ S 2 1 0 2 に移行し、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態でない場合（ステップ S 2 1 0 1 : N o ）、即ち遊技状態が低確率モードである時短遊技状態又は通常遊技状態である場合、処理をステップ S 2 1 0 3 に移行する。

【0349】

<ステップ S 2 1 0 2 及び S 2 1 0 3 >

遊技状態が高確率モードである確変遊技状態である場合（ステップ S 2 1 0 1 : Y e s ）、M P U 4 1 は、後述の図 3 5 の遊技設定値変更処理でのステップ S 2 4 1 0 において遊技設定値に応じて保存される高確率モード当否テーブル（図 9（B）参照）を読み出し、その高確率モード当否テーブルに基づいて当否判定を実行する（ステップ S 2 1 0 2 ）。

【0350】

一方、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態でない場合（ステップ S 2 1 0 1 : N o ）、即ち遊技状態が低確率モードである時短遊技状態又は通常遊技状態である場合、M P U 4 1 は、後述の図 3 5 の遊技設定値変更処理でのステップ S 2 4 1 0 において、遊技設定値に応じて保存される低確率モード当否テーブル（図 9（A）参照）を読み出し、その低確率モード当否テーブルに基づいて当否判定を実行する（ステップ S 2 1 0 3 ）。

【0351】

なお、ステップ S 2 1 0 2 及び S 2 1 0 3 では、後述の図 3 5 の遊技設定値変更処理でのステップ S 2 4 1 0 において遊技設定値に応じて保存される高確率モード当否テーブル又は低確率モード当否テーブルに基づいて当否判定が実行されるが、ステップ S 2 1 0 2 及び S 2 1 0 3 において、後述の図 3 5 の遊技設定値変更処理におけるステップ S 2 4 0 8 で保存される遊技設定値を読み出した上で、その遊技設定値に応じた高確率モード当否テーブル又は低確率モード当否テーブルを逐一選択して当否判定を行ってもよい。

【0352】

<ステップ S 2 1 0 4 >

ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 において当否判定を行った場合、M P U 4 1 は、当該特図遊技におけるメイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとして設定する（ステップ S 2 1 0 4 ）。

【0353】

なお、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示時間（特図変動パターン）は、ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 での当否判定の結果が通常大当たりである場合には、特図変動種別カウンタ C S 1 と通常大当たり変動テーブル（図 1 0（A）参照）とに基づいて設定され、ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 での当否判定の結果が確変大当たりである場合には、特図変動種別カウンタ C S 1 と確変大当たり変動テーブル（図 1 0（B）参照）とに基づいて設定され、ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 での当否判定の結果が外れである場合には、特図変動種別カウンタ C S 1 と外れ変動テーブル（図 1 0（C）参照）とに基づいて設定される。

【0354】

<ステップ S 2 1 0 5 >

ステップ S 2 1 0 5 では、M P U 4 1 は、ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 での当否判定の結果である当該特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップ S 2 1 0 4 で設定された特図変動パターンを含む特図変動パターンコマンドを R A M 4 1 2 に設定し、処理をステップ S 2 1 0 6 に移行する。特図変動パターンコマンドは、M P U 4 1

10

20

30

40

50

により実行される次のメイン処理（図 2 1 参照）のステップ S 1 4 0 1 において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、特図変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などでの特図遊技演出を実行することができる。

【 0 3 5 5 】

なお、前述したように、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「通常大当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 3」に 5 R 通常大当たりである旨を示す「A」を付した「A 0 1」～「A 0 3」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして RAM 4 1 2 に設定する。また、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「5 R 確変大当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 3」に 5 R 確変大当たりである旨を示す「B」を付した「B 0 1」～「B 0 3」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして RAM 4 1 2 に設定する。さらに、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「1 6 R 確変大当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 3」に 1 6 R 確変大当たりである旨を示す「C」を付した「C 0 1」～「C 0 3」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして RAM 4 1 2 に設定する。また、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「外れ」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 8」に外れである旨を示す「D」を付した「D 0 1」～「D 0 8」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして RAM 4 1 2 に設定する。また、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「外れ」である場合、外れ種別（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れ）を示す情報を特図変動パターンコマンドに含ませる。

【 0 3 5 6 】

<ステップ S 2 1 0 6 >

ステップ S 2 1 0 6 では、MPU 4 1 は、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での特別図柄の変動表示を開始させることで特図遊技を開始させ、処理をステップ S 2 1 0 7 に移行する。

【 0 3 5 7 】

なお、MPU 4 1 は、特別図柄の変動表示を開始させた場合、RAM 4 1 2 に設定される遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存された「累積大当たり抽選回数」に 1 加算する。さらに、MPU 4 1 は、ステップ S 2 1 0 3 での低確率モード当否テーブルに基づく当否判定の結果が外れである場合、遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存された「連続外れ回数」に 1 加算し、当否結果が大当たりである場合に「連続外れ回数」を 0 回にクリアする。

【 0 3 5 8 】

<ステップ S 2 1 0 7 >

ステップ S 2 1 0 7 では、MPU 4 1 は、特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定し、処理をステップ S 2 1 0 8 に移行する。特図変動表示中フラグは、図 2 6 の特図遊技制御処理におけるステップ S 1 9 0 2 において、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）であるか否かを判断するために参照される。

【 0 3 5 9 】

<ステップ S 2 1 0 8 >

ステップ S 2 1 0 8 では、MPU 4 1 は、特別図柄が変動停止（特図遊技が終了）されたことを示す特図変動停止フラグをオフに設定し、処理をステップ S 2 1 0 9 に移行する。特図変動停止フラグは、図 2 6 の特図遊技制御処理におけるステップ S 1 9 0 8 においてメイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 が停止表示される場合にオンに設定され、後述の図 2 9 の大当たり遊技制御処理のステップ S 2 2 0 2 において大当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断するために参照される。

【 0 3 6 0 】

<ステップ S 2 1 0 9 >

ステップ S 2 1 0 9 では、MPU 4 1 は、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）であることを示す時短遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。時短

10

20

30

40

50

遊技状態フラグは、後述の遊技状態移行処理において、図34のステップS2321で通常大当たり遊技が終了する場合にオンに設定され、図33のステップS2310又は図34のステップS2325で遊技状態が時短遊技状態から大当たり遊技状態又は通常遊技状態に移行される場合にオフに設定される。

【0361】

MPU41は、時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS2109：Yes）、即ち時短遊技状態である場合、処理をステップS2110に移行する。一方、MPU41は、時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップS2109：Yes）、即ち時短遊技状態でない場合、当該特図変動開始処理を終了する。

【0362】

<ステップS2110>

時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS2109：Yes）、即ち時短遊技状態である場合、MPU41は、時短遊技状態で実行可能な特図遊技の残り回数を示す時短回数カウンタの値から1減算し（ステップS2110）、当該特図変動開始処理を終了する。なお、時短回数カウンタは、後述の図34の遊技状態移行処理でのステップS2320において、遊技状態が大当たり遊技状態から時短遊技状態に移行される場合にセットされる。

【0363】

なお、本実施形態では、時短回数カウンタが、遊技状態が大当たり遊技状態から時短遊技状態に移行される場合にセットされるが、時短回数カウンタは、遊技状態が大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行される場合にセットされる場合にもセットされるようにしてもよい。即ち、確変遊技状態において実行される最大特図遊技回数を有限回に設定することで、当該遊技機10を、いわゆるST機として構成することもできる。

【0364】

また、当該遊技機10は、大当たり抽選での抽選結果が通常大当たりであることに基いて実行される通常大当たり遊技が終了する場合、大当たり遊技状態から時短遊技状態に移行することなく通常遊技状態に移行するように設定することも可能であり、この場合には、通常大当たり遊技の終了後には時短回数カウンタはセットされない。

【0365】

[大当たり遊技制御処理]

ここで、図29～図32は、図21のメイン処理でのステップS1407において実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。大当たり遊技制御処理では、可変入賞口316に設けられる開閉扉319の開閉制御などの大当たり遊技の進行を制御する処理が実行される。以下、図29～図32を参照しつつ、大当たり遊技制御処理を説明する。

【0366】

<ステップS2201>

図29に示すように、ステップS2201では、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技を開始する場合に当該大当たり遊技制御処理のステップS2206においてオンに設定され、大当たり遊技を終了する場合に当該大当たり遊技制御処理のステップS2252においてオフに設定される。

【0367】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS2201：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップS2211に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS2201：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS2202に移行する。

【0368】

<ステップS2202>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS2201：No）、即ち大当たり

10

20

30

40

50

遊技の実行中でない場合、MPU41は、特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンであるか否かを判断する。特図変動停止フラグは、特別図柄が停止表示された場合に、図26の特図遊技制御処理でのステップS1908においてオンに設定され、特別図柄の変動表示が開始された場合に、図28の特図変動開始処理でのステップS2108においてオフに設定される。即ち、MPU41は、大当たり遊技の実行中でない場合に開始された特図遊技が終了したか否かを判断することで、大当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。

【0369】

MPU41は、特図変動停止フラグがオンである場合（ステップS2202：Yes）、即ち特別図柄が停止表示されたために大当たり遊技を開始可能である場合、処理をステップS2203に移行する。一方、MPU41は、特図変動停止フラグがオフである場合（ステップS2202：No）、即ち特別図柄が変動表示中であるために大当たり遊技を開始できない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【0370】

なお、本実施形態では、特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合には大当たり遊技が開始（実行）されないが、特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）に大当たり遊技が開始（実行）可能としてもよい。例えば、第1特図の変動表示中に大当たり遊技が開始（実行）され、これとは逆に、第2特図の変動表示中に大当たり遊技が開始（実行）されるようにしてもよい。具体的には、前述のように第1特図と第2特図との同時変動に変更可能とすることで、第1特図遊技に対する大当たり遊技の実行中に第2特図遊技が実行され、第2特図遊技に対する大当たり遊技の実行中に第1特図遊技が実行されるようにしてもよい。さらに、第1特図遊技に対する大当たり遊技と、第2特図遊技に対する大当たり遊技とが同時実行されるようにしてもよいし、第1特図遊技に対する大当たり遊技及び第2特図遊技に対する大当たり遊技のうちの一方の大当たり遊技の実行中に他方の大当たり遊技の開始条件が成立する場合に、一方の大当たり遊技の終了後に他方の大当たり遊技が開始されるようにしてもよい。

【0371】

<ステップS2203>

特図変動停止フラグがオンである場合（ステップS2202：Yes）、即ち特別図柄が停止表示された場合、MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりであるか否かを判断する。特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりであるか否かは、例えばRAM41に設定される特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAEに格納されている大当たり抽選に対する特図当否情報に基づいて判断される。

【0372】

MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップS2203：Yes）、処理をステップS2204に移行する。一方、MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりでない場合（ステップS2203：No）、即ち大当たり抽選の結果が外れである場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【0373】

<ステップS2204>

特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップS2203：Yes）、MPU41は、大当たり遊技を開始すること、及び大当たり遊技の種別（確変大当たり遊技又は通常大当たり遊技）を音声ランプ制御装置5に通知する大当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップS2204）、処理をステップS2205に移行する。大当たり遊技開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、大当たり遊技開始コマンドに基づいて、大当たり遊技種別に応じた大当たり遊技演出を実行することができる。

【0374】

<ステップS2205>

ステップS2205では、MPU41は、大当たり遊技を開始することを示す大当たり遊技開始フラグをオンに設定し、処理をステップS2206に移行する。大当たり遊技開始フラグは、後述の図33の遊技状態移行処理でのステップS2301において、遊技状態を確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行するか否かを判断する場合に参照される。

【0375】

<ステップS2206>

ステップS2206では、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオンに設定し、処理をステップS2207に移行する。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技の実行中であるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理のステップS2201の他、図22の普図遊技制御処理のステップS1503及び図26の特図遊技制御処理のステップS1901において参照される。

10

【0376】

<ステップS2207>

ステップS2207では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタをセットし、処理をステップS2208に移行する。具体的には、MPU41は、大当たり抽選の結果が5R確変大当たり及び5R通常大当たりである場合にラウンド数カウンタに「5」をセットし、大当たり抽選の結果が16R確変大当たりである場合にラウンド数カウンタに「16」をセットする。

20

【0377】

<ステップS2208>

ステップS2208では、MPU41は、大当たり遊技のオープニングを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するオープニング開始コマンドを設定し、処理をステップS2209に移行する。オープニング開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、オープニング開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてオープニング演出を開始させることができる。

30

【0378】

<ステップS2209>

ステップS2209では、MPU41は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタをセットし、処理をステップS2210に移行する。オープニング時間カウンタは、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図30のステップS2213において参照される。

【0379】

<ステップS2210>

ステップS2210では、MPU41は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオンに設定し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。オープニング中フラグは、オープニング中であるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理でのステップS2211において参照される。

40

【0380】

<ステップS2211>

大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS2201：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、MPU41は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS2211）。

【0381】

MPU41は、オープニング中フラグがオンである場合（ステップS2211：Yes）、即ちオープニングの実行中である場合、処理を図30のステップS2212に移行す

50

る。一方、オープニング中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 1 1 : N o）、即ちオープニングの実行中でない場合、処理をステップ S 2 2 2 2 に移行する。

【 0 3 8 2 】

<ステップ S 2 2 1 2 及び S 2 2 1 3>

オープニング中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 1 1 : Y e s）、即ちオープニングの実行中である場合、図 3 0 に示すように、M P U 4 1 は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタの値から 1 減算し（ステップ S 2 2 1 2）、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 2 2 1 3）。即ち、M P U 4 1 は、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断する。

【 0 3 8 3 】

M P U 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 1 3 : Y e s）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、処理をステップ S 2 2 1 4 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 2 1 3 : N o）、即ちオープニングを終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【 0 3 8 4 】

<ステップ S 2 2 1 4 及び S 2 2 1 5>

減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 1 3 : Y e s）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技のオープニングが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するオープニング終了コマンドを設定する（ステップ S 2 2 1 4）をプニング終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 1 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、オープニング終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるオープニング演出を終了させることができる。

【 0 3 8 5 】

そして、M P U 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 1 5）、処理をステップ S 2 2 1 6 に移行する。

【 0 3 8 6 】

<ステップ S 2 2 1 6>

ステップ S 2 2 1 6 では、M P U 4 1 は、複数回（5 回又は 1 6 回）のラウンド遊技が実行される開閉実行モードが開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する開閉実行モード開始コマンドを設定し、処理をステップ S 2 2 1 7 に移行する。開閉実行モード開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 1 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、開閉実行モード開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される開閉実行モード演出を開始させることができる。

【 0 3 8 7 】

<ステップ S 2 2 1 7>

ステップ S 2 2 1 7 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知するラウンド遊技開始コマンドを設定し、処理をステップ S 2 2 1 8 に移行する。ラウンド遊技開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 1 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、ラウンド遊技開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいてラウンド数表示などを含む各ラウンド遊技に対応するラウンド遊技演出を開始させることができる。

【 0 3 8 8 】

なお、本実施形態では、各ラウンド遊技において個別にラウンド遊技演出が実行されるが、ラウンド遊技演出は、開閉実行モードにおいて一連の 1 つの演出を実行し、各ラウンド遊技において当該ラウンド遊技のラウンド数を表示するものであってもよい。この場合

10

20

30

40

50

、ラウンド遊技間ではインターバル演出を実行しなくてもよいし、またインターバル演出として次回に実行されるラウンド遊技のラウンド数を表示する演出を実行してもよい。

【0389】

<ステップS2218及びS2219>

ステップS2218では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数
を示すラウンド数カウンタから1減算し、さらに、開閉扉319を作動することによって
可変入賞口316を開放させ（ステップS2219）、処理をステップS2220に移行
する。

【0390】

<ステップS2220及びS2221>

ステップS2220では、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウ
ンド遊技中フラグをオンに設定し、さらに、ラウンド遊技の残り時間を示すラウンド遊技
時間カウンタをセットし（ステップS2221）、当該大当たり遊技制御処理を終了する
。ラウンド遊技時間カウンタは、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉31
9を復帰させて可変入賞口316を閉鎖）するタイミングであるか判断するために、当該
大当たり遊技制御処理の図31のステップS2224において参照される。

【0391】

<ステップS2222>

図29に戻り、オープニング中フラグがオフである場合（ステップS2211：No）
、即ちオープニングの実行中でない場合、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であるこ
とを示すラウンド遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS2
222）。即ち、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であるか否かを判断する。

【0392】

MPU41は、ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップS2222：Yes）
、即ちラウンド遊技の実行中である場合、処理を図31のステップS2223に移行す
る。一方、MPU41は、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップS2222
：No）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、処理をステップS2226に移行する
。

【0393】

<ステップS2223及びS2224>

ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップS2222：Yes）、即ちラウ
ンド遊技の実行中である場合、図31に示すように、MPU41は、ラウンド遊技の残り時
間を示すラウンド遊技時間カウンタの値から1減算する。そして、MPU41は、減算後
のラウンド遊技時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS2224）。
即ち、MPU41は、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰に
より可変入賞口を閉鎖）するタイミングであるか否かを判断する。

【0394】

MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS2
224：Yes）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰
により可変入賞口を閉鎖）するタイミングである場合、処理をステップS2228に移行
する。一方、MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ス
テップS2224：No）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉31
9の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングでない場合、処理をステップS222
5に移行する。

【0395】

<ステップS2225>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2224：No）
、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰により可変入賞口
を閉鎖）するタイミングでない場合、MPU41は、可変入賞口316に対する遊技球の
入球があったか否かを判断する（ステップS2225）。可変入賞口316に対する遊技

10

20

30

40

50

球の入球があったか否かは、図 17 の主タイマ割込処理でのステップ S 1 0 0 1 のセンサ検出処理において、入球センサ 3 1 6 a への遊技球の入球が検出された場合に R A M 4 1 2 に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。

【 0 3 9 6 】

M P U 4 1 は、可変入賞口 3 1 6 に対する遊技球の入球があった場合（ステップ S 2 2 2 5 : Y e s ）、処理をステップ S 2 2 2 6 に移行し、可変入賞口 3 1 6 に対する遊技球の入球がなかった場合（ステップ S 2 2 2 5 : N o ）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【 0 3 9 7 】

<ステップ S 2 2 2 6 及び S 2 2 2 7>

可変入賞口 3 1 6 に対する遊技球の入球があった場合（ステップ S 2 2 2 5 : Y e s ）、M P U 4 1 は、当該ラウンド遊技での可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球数を示す入球数カウンタの値に 1 加算する（ステップ S 2 2 2 6 ）。そして、M P U 4 1 は、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 に達したか否か（ステップ S 2 2 2 7 ）、即ち可変入賞口 3 1 6 への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングであるか否かを判断する。

【 0 3 9 8 】

M P U 4 1 は、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 に達している場合（ステップ S 2 2 2 7 : Y e s ）、即ち可変入賞口 3 1 6 への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングである場合、処理をステップ S 2 2 2 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 に達していない場合（ステップ S 2 2 2 7 : N o ）、即ち可変入賞口 3 1 6 への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【 0 3 9 9 】

<ステップ S 2 2 2 8>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 2 4 : Y e s ）、又は入球数カウンタの値が 1 0 に達した場合（ステップ S 2 2 2 7 : Y e s ）、M P U 4 1 は、開閉扉 3 1 9 を復帰することによって可変入賞口を閉鎖し（ステップ S 2 2 2 8 ）、処理をステップ S 2 2 2 9 に移行する。即ち、M P U 4 1 は、規定時間の経過により、又は可変入賞口 3 1 6 への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了するタイミングである場合、可変入賞口 3 1 6 を閉鎖してラウンド遊技を終了する。

【 0 4 0 0 】

<ステップ S 2 2 2 9 ~ S 2 2 3 1>

ステップ S 2 2 2 9 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技が終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するラウンド遊技終了コマンドを設定する。ラウンド遊技終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 1 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 では、ラウンド遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるラウンド遊技演出を終了させることができる。

【 0 4 0 1 】

そして、M P U 4 1 は、当該ラウンド遊技での可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球数を示す入球数カウンタをクリアする共に（ステップ S 2 2 3 0 ）、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 3 1 ）、処理をステップ S 2 2 3 2 に移行する。

【 0 4 0 2 】

<ステップ S 2 2 3 2>

ステップ S 2 2 3 2 では、M P U 4 1 は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタが 0 であるか否か（ステップ S 2 2 3 2 ）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである（未実行のラウンド遊技がある）か否かを判断する。

【0403】

MPU41は、ラウンド数カウンタが0である場合（ステップS2232：Yes）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、処理をステップS2241に移行する。一方、MPU41は、ラウンド数カウンタが0でない場合（ステップS2232：No）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、処理をステップS2233に移行する。

【0404】

<ステップS2233>

ラウンド数カウンタが0でない場合（ステップS2232：No）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するインターバル開始コマンドを設定し（ステップS2233）、処理をステップS2234に移行する。インターバル開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、インターバル開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてインターバル演出を開始させることができる。

10

【0405】

なお、本実施形態では、ラウンド遊技間のインターバルにおいてインターバル演出が実行されるが、インターバル演出を省略し、インターバルにおいて、先に実行されたラウンド遊技に対するラウンド遊技演出を継続して実行してもよく、また次に実行されるラウンド遊技に対するラウンド遊技演出を実行してもよい。

20

【0406】

<ステップS2234及びS2235>

ステップS2234では、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、インターバルの残り時間を示すインターバル時間カウンタをセットし（ステップS2235）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。インターバル時間カウンタは、インターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるかを判断するために、当該大当たり遊技制御処理での図32のステップS2238において参照される。

【0407】

<ステップS2236>

図29に戻り、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップS2222：No）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグがオンであるか否を判断する（ステップS2236）。インターバル中フラグは、インターバルを開始する場合に当該大当たり遊技制御処理での図31のステップS2234においてオンに設定され、インターバルを終了する場合に当該大当たり遊技制御処理での図32のステップS2240においてオフに設定される。

30

【0408】

MPU41は、インターバル中フラグがオンである場合（ステップS2236：Yes）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、処理を図32のステップS2237に移行する。一方、MPU41は、インターバル中フラグがオフである場合（ステップS2236：No）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、処理をステップS2245に移行する。

40

【0409】

<ステップS2237及びS2238>

インターバル中フラグがオンである場合（ステップS2236：Yes）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、図32に示すように、MPU41は、インターバルの残り時間を示すインターバル時間カウンタの値から1減算する（ステップS2237）。そして、MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0であるか否か（ステップS2238）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミン

50

グであるか否かを判断する。

【0410】

MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0である場合（ステップS2238：Yes）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS2239に移行する。一方、MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2238：No）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【0411】

<ステップS2239及びS2240>

減算後のインターバル時間カウンタの値が0である場合（ステップS2238：Yes）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、MPU41は、インターバルが終了することを音声ランプ制御装置5に通知するインターバル終了コマンドを設定する。インターバル終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、インターバル終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行されるインターバル演出を終了させることができる。

【0412】

そして、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオフに設定し（ステップS2240）、処理を前述のステップS2217に移行する。処理を前述の図30のステップS2217に移行することにより、ラウンド遊技の開始に関するステップS2217～S2221の処理を実行し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【0413】

<ステップS2241>

図31に戻り、ラウンド数カウンタが0である場合（ステップS2232：Yes）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、MPU41は、大当たり遊技の開閉実行モードを終了することを音声ランプ制御装置5に通知する開閉実行モード終了コマンドを設定し（ステップS2241）、処理をステップS2242に移行する。開閉実行モード終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、開閉実行モード終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行されるラウンド遊技演出（開閉実行モード演出）を終了させることができる。

【0414】

<ステップS2242>

ステップS2242では、MPU41は、大当たり遊技のエンディングを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング開始コマンドを設定し、処理をステップS2243に移行する。エンディング開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5では、エンディング開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてエンディング演出を開始させることができる。

【0415】

<ステップS2243及びS2244>

ステップS2243では、MPU41は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、エンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタをセットし（ステップS2244）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。エンディング時間カウンタは、エンディング（大当たり遊技）を終了

10

20

30

40

50

するタイミングであるかを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図 3 2 でのステップ S 2 2 4 7 において参照される。

【0 4 1 6】

<ステップ S 2 2 4 5>

図 2 9 に戻り、インターバル中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 3 6 : N o）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 2 2 4 5）。

【0 4 1 7】

M P U 4 1 は、エンディング中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 4 5 : Y e s）、即ちエンディングの実行中である場合、処理を図 3 2 のステップ S 2 2 4 6 に移行する。一方、M P U 4 1 は、エンディング中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 4 5 : N o）、即ちエンディングの実行中でない場合、処理をステップ S 2 2 5 0 に移行する。

10

【0 4 1 8】

<ステップ S 2 2 4 6 及び S 2 2 4 7>

エンディング中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 4 5 : Y e s）、即ちエンディングの実行中である場合、図 3 2 に示すように、M P U 4 1 は、エンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタの値から 1 減算する（ステップ S 2 2 4 6）。そして、M P U 4 1 は、減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 2 2 4 7）。即ち、M P U 4 1 は、エンディング（大当たり遊技）を終了する

20

【0 4 1 9】

M P U 4 1 は、減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 4 7 : Y e s）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 2 2 4 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 2 4 7 : N o）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【0 4 2 0】

<ステップ S 2 2 4 8 及び S 2 2 4 9>

減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 4 7 : Y e s）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技のエンディングを終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するエンディング終了コマンドを設定する。エンディング終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 1 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、エンディング終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるエンディング演出を終了させることができる。

30

【0 4 2 1】

そして、M P U 4 1 は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 4 9）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

40

【0 4 2 2】

<ステップ S 2 2 5 0>

図 2 9 に戻り、エンディング中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 4 5 : N o）、即ちオープニング中、ラウンド遊技中、インターバル中及びエンディング中のいずれでもない場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知する大当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップ S 2 2 5 0）、処理をステップ S 2 2 5 1 に移行する。大当たり遊技終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 1 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、大当たり遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される大当たり遊技演出を終了させること

50

ができる。

【0423】

＜ステップS2251及びS2252＞

ステップS2251では、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオンに設定する。大当たり遊技終了フラグは、大当たり遊技状態から高頻度サポートモード（確変遊技状態又は時短遊技状態）に移行するか否かを判断するために、後述の図34の遊技状態移行処理のステップS2312において参照される。

【0424】

そして、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップS2252）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

10

【0425】

〔遊技状態移行処理〕

ここで、図33及び図34は、図21のメイン処理のステップS1408で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャートである。遊技状態移行処理では、各種遊技状態（通常遊技状態、時短遊技状態、確変遊技状態、確変大当たり遊技状態及び通常大当たり遊技状態）の移行を制御する処理が実行される。以下、図33及び図34を参照しつつ、遊技状態移行処理を説明する。

【0426】

＜ステップS2301＞

図33に示すように、ステップS2301では、MPU41は、大当たり遊技を開始することを示す大当たり遊技開始フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技開始フラグは、図29の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS2205においてオンに設定され、大当たり遊技が終了される場合にステップS2252においてオフに設定される。

20

【0427】

MPU41は、大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS2301：Yes）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS2302に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS2301：No）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングでない場合、処理を図34のステップS2312に移行する。

30

【0428】

＜ステップS2302及びS2303＞

大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS2301：Yes）、即ち大当たり遊技を開始する場合、MPU41は、大当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS2302）、開始する大当たり遊技が確変大当たり遊技であるか否かを判断する（ステップS2303）。開始する大当たり遊技が確変大当たり遊技であるか否かは、RAM412に設定される特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAE（図8参照）に格納された特図当否情報に基づいて判断される。

【0429】

MPU41は、確変大当たり遊技を開始する場合（ステップS2303：Yes）、処理をステップS2304に移行する。一方、確変大当たり遊技を開始しない場合（ステップS2303：No）、即ち通常大当たり遊技を開始する場合、処理をステップS2305に移行する。

40

【0430】

＜ステップS2304＞

確変大当たり遊技を開始する場合（ステップS2303：Yes）、MPU41は、確変大当たり遊技が実行される確変大当たり遊技状態であることを示す確変大当たり遊技状態フラグをオンに設定し（ステップS2304）、処理をステップS2305に移行する。確変大当たり遊技状態フラグは、大当たり遊技を終了する場合に、遊技状態を確変遊技状態及び通常遊技状態のいずれに移行するか否かを判断するために、当該遊技状態移行処

50

理の図 3 4 のステップ S 2 3 1 5 において参照される。

【 0 4 3 1 】

<ステップ S 2 3 0 5 及び S 2 3 0 6 >

ステップ S 2 3 0 5 では、MP U 4 1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。通常遊技状態フラグは、時短遊技状態から通常遊技状態に移行する場合に当該遊技状態移行処理の図 3 4 のステップ S 2 3 2 4 においてオンに設定され、通常遊技状態から大当たり遊技状態（確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態）に移行する場合に、当該遊技状態移行処理のステップ S 2 3 0 6 においてオフに設定される。

【 0 4 3 2 】

MP U 4 1 は、通常遊技状態フラグがオンである場合（ステップ S 2 3 0 5 : Y e s）、即ち通常遊技状態である場合、通常遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 2 3 0 6）、当該遊技状態移行処理を終了する。一方、MP U 4 1 は、通常遊技状態フラグがオフである場合（ステップ S 2 3 0 5 : N o）、即ち通常遊技状態でなく高頻度サポートモード（確変遊技状態又は時短遊技状態）である場合、処理をステップ S 2 3 0 7 に移行する。

【 0 4 3 3 】

<ステップ S 2 3 0 7 >

通常遊技状態フラグがオフである場合（ステップ S 2 3 0 5 : N o）、即ち通常遊技状態でなく高頻度サポートモード（確変遊技状態又は時短遊技状態）である場合、MP U 4 1 は、高頻度サポートモードであることを示す高頻度サポートモードフラグをオフに設定し（ステップ S 2 3 0 7）、処理をステップ S 2 3 0 8 に移行する。

【 0 4 3 4 】

<ステップ S 2 3 0 8 及び S 2 3 0 9 >

ステップ S 2 3 0 8 では、MP U 4 1 は、確変遊技状態であることを示す確変遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。確変遊技状態フラグは、当該遊技状態移行処理において、確変大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行する場合に図 3 4 のステップ S 2 3 1 7 においてオンに設定され、確変遊技状態から大当たり遊技状態（確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態）に移行する場合にステップ S 2 3 0 9 においてオフに設定される。

【 0 4 3 5 】

MP U 4 1 は、確変遊技状態フラグがオンである場合（ステップ S 2 3 0 8 : Y e s）、即ち確変遊技状態である場合、確変遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 2 3 0 9）、当該遊技状態移行処理を終了する。一方、MP U 4 1 は、確変遊技状態フラグがオフである場合（ステップ S 2 3 0 8 : N o）、即ち通常遊技状態でも確変遊技状態でもなく時短遊技状態である場合、処理をステップ S 2 3 1 0 に移行する。

【 0 4 3 6 】

<ステップ S 2 3 1 0 及び S 2 3 1 1 >

確変遊技状態フラグがオフである場合（ステップ S 2 3 0 8 : N o）、即ち時短遊技状態である場合、MP U 4 1 は、時短遊技状態であることを示す時短遊技状態フラグをオフに設定する（ステップ S 2 3 1 0）。そして、MP U 4 1 は、時短遊技状態で実行可能な残りの時短遊技回数を示す時短回数カウンタをクリアし（ステップ S 2 3 1 1）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【 0 4 3 7 】

<ステップ S 2 3 1 2 >

大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップ S 2 3 0 1 : N o）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングでない場合、MP U 4 1 は、図 3 4 に示すように、大当たり遊技を終了することを示す大当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 2 3 1 2）。大当たり遊技終了フラグは、大当たり遊技が終了する場合に、図 2 9 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 2 2 5 1 においてオンに設定される。

【0438】

MPU41は、大当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS2312：Yes）、即ち大当たり遊技を終了する場合、処理をステップS2313に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップS2312：No）、即ち大当たり遊技を終了するタイミングでない場合、処理をステップS2322に移行する。

【0439】

<ステップS2313及びS2314>

大当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS2312：Yes）、即ち大当たり遊技を終了する場合、MPU41は、高頻度サポートモードであることを示す高頻度サポートモードフラグをオンに設定すると共に（ステップS2313）、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップS2314）、処理をステップS2315に移行する。

10

【0440】

<ステップS2315>

ステップS2315では、MPU41は、確変大当たり遊技が実行される確変大当たり遊技状態であることを示す確変大当たり遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。確変大当たり遊技状態フラグは、当該遊技状態移行処理において、確変遊技状態、通常遊技状態又は時短遊技状態から確変大当たり遊技状態に移行される場合に図33のステップS2304においてオンに設定され、確変大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行される場合にステップS2318においてオフに設定される。

20

【0441】

MPU41は、確変大当たり遊技状態フラグがオンである場合（ステップS2315：Yes）、即ち確変大当たり遊技状態である場合、処理をステップS2316に移行する。一方、MPU41は、確変大当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップS2315：No）、即ち確変大当たり遊技状態でなく通常大当たり遊技状態である場合、処理をステップS2319に移行する。

【0442】

<ステップS2316>

確変大当たり遊技状態フラグがオンである場合（ステップS2315：Yes）、即ち確変大当たり遊技状態である場合、MPU41は、確変遊技状態であることを音声ランプ制御装置5に通知する確変遊技状態コマンドを設定し（ステップS2316）、処理をステップS2317に移行する。確変遊技状態コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、確変遊技状態コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて確変遊技状態に対応する特図演出を実行することができる。

30

【0443】

<ステップS2317>

ステップS2317では、MPU41は、確変遊技状態であることを示す確変遊技状態フラグをオンに設定し、処理をステップS2318に移行する。確変遊技状態フラグは、大当たり遊技を開始するときの遊技状態を特定するために、当該遊技状態移行処理での図33のステップS2308において参照される。

40

【0444】

<ステップS2318>

ステップS2318では、MPU41は、確変大当たり遊技状態であることを示す確変大当たり遊技状態フラグをオフに設定し、当該遊技状態移行処理を終了する。

【0445】

<ステップS2319>

確変大当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップS2315：No）、即ち確

50

変大当たり遊技状態ではなく通常大当たり遊技状態である場合、MPU41は、時短遊技状態であることを音声ランプ制御装置5に通知する時短遊技状態コマンドを設定し（ステップS2319）、処理をステップS2320に移行する。時短遊技状態コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図21参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、時短遊技状態コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて時短遊技状態に対応する特図演出を実行することができる。

【0446】

＜ステップS2320及びS2321＞

ステップS2320では、MPU41は、時短遊技状態において実行可能な残りの特図回数を示す時短回数カウンタをセットする。具体的には、MPU41は、時短遊技状態である実行可能な特図回数の上限値（本実施形態では100回）を時短回数カウンタにセットする。時短回数カウンタは、時短遊技状態において特図遊技を開始するたびに図28の特図変動開始処理でのステップS2110において1ずつ減算され、規定回数の特図遊技の実行により時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるか否かを判断するために、当該遊技状態移行処理のステップS2323において参照される。

10

【0447】

そして、MPU41は、時短遊技状態であることを示す時短遊技状態フラグをオンに設定し（ステップS2321）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【0448】

20

＜ステップS2322＞

大当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップS2312：No）、即ち大当たり遊技を終了するタイミングでない場合、MPU41は、時短遊技状態であることを示す時短遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS2322）。

【0449】

MPU41は、時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS2322：Yes）、即ち時短遊技状態である場合、処理をステップS2323に移行する。一方、MPU41は、時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップS2322：No）、即ち時短遊技状態でない場合、当該遊技状態移行処理を終了する。

【0450】

30

＜ステップS2323＞

時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS2322：Yes）、即ち時短遊技状態である場合、MPU41は、時短遊技状態において実行可能な残りの特図回数を示す時短回数カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS2323）。即ち、MPU41は、規定回数の特図遊技の実行により時短遊技状態から通常遊技状態に移行するか否かを判断する。

【0451】

MPU41は、時短回数カウンタの値が0である場合（ステップS2323：Yes）、即ち規定回数の特図遊技の実行により時短遊技状態から通常遊技状態に移行する場合、処理をステップS2324に移行する。一方、MPU41は、時短回数カウンタの値が0でない場合（ステップS2323：No）、即ち時短遊技状態から通常遊技状態に移行しない場合、当該遊技状態移行処理を終了する。

40

【0452】

＜ステップS2324～S2326＞

時短回数カウンタの値が0である場合（ステップS2323：Yes）、即ち規定回数の特図遊技の実行により時短遊技状態から通常遊技状態に移行する場合、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS2324）。そして、MPU41は、時短遊技状態であることを示す時短遊技状態フラグをオフに設定すると共に（ステップS2325）、高頻度サポートモードであることを示す高頻度サポートモードフラグをオフに設定し（ステップS2326）、当該遊技状態移行処理

50

を終了する。

【0453】

〔遊技設定値変更処理〕

ここで、図35は、図21のメイン処理のステップS1409で実行される遊技設定値変更処理の手順の一例を示すフローチャートである。遊技設定値変更処理では、設定値変更操作部46に対する操作に応じて設定値の表示若しくは非表示、又は遊技情報格納エリア412dに格納された遊技設定値の変更を制御する処理が実行される。以下、図35を参照しつつ、設定値変更処理を説明する。

【0454】

＜ステップS2401＞

図35に示すように、ステップS2401では、MPU41は、設定値表示部45に遊技設定値が表示されていることを示す遊技設定値表示中フラグがオンであるか否かを判断する。遊技設定値表示中フラグは、設定値表示部45の電源がオフからオンに切り替えられることによって設定値表示部45に遊技設定値が表示される場合に、当該遊技設定値変更処理での後述のステップS2405においてオンに設定され、設定値表示部45の電源がオンからオフに切り替えられることによって設定値表示部45に遊技設定値が非表示とされる場合に、当該遊技設定値変更処理での後述のステップS2412においてオフに設定される。

【0455】

MPU41は、遊技設定値表示中フラグがオンである場合（ステップS2401：Yes）、即ち設定値表示部45に遊技設定値が表示されている場合、処理をステップS2406に移行する。一方、MPU41は、遊技設定値表示中フラグがオフである場合（ステップS2401：No）、即ち設定値表示部45に遊技設定値が表示されていない場合、処理をステップS2402に移行する。

【0456】

＜ステップS2402＞

遊技設定値表示中フラグがオフである場合（ステップS2401：No）、即ち設定値表示部45に遊技設定値が表示されていない場合、MPU41は、設定値表示部45の電源がオフからオンに切り替えられたか否か（ステップS2402）、即ち設定値変更操作部46に対して設定値表示部45の電源をオンにする操作がなされたか否かを判断する。

【0457】

MPU41は、設定値表示部45の電源がオフからオンに切り替えられた場合（ステップS2402：Yes）、即ち設定値変更操作部46に対して設定値表示部45の電源をオンにする操作がなされた場合、処理をステップS2403に移行する。一方、MPU41は、設定値表示部45の電源がオフからオンに切り替えられない場合（ステップS2402：No）、即ち設定値変更操作部46に対して設定値表示部45の電源をオンにする操作がなされない場合、当該遊技設定値変更処理を終了する。

【0458】

＜ステップS2403～S2405＞

設定値表示部45の電源がオフからオンに切り替えられた場合（ステップS2402：Yes）、MPU41は、RAM412の遊技情報格納エリア412dに保存されている遊技設定値を読み出し（ステップS2403）、読み出した遊技設定値を示す数字を設定値表示部45に表示させる（ステップS2404）。これにより、現在の遊技設定値を確認することができる。そして、MPU41は、設定値表示部45に遊技設定値が表示されていることを示す設定値表示中フラグをオンに設定し（ステップS2405）、当該設定値変更処理を終了する。

【0459】

＜ステップS2406＞

設定値表示中フラグがオンに設定されている場合（ステップS2401：Yes）、MPU41は、設定値変更操作部46が所定角度回転されたか否かを判断する（ステップS

10

20

30

40

50

2406)。即ち、MPU41は、遊技設定値を変更する回転操作がなされたか否かを判断する。MPU41は、設定値変更操作部46が所定角度回転された場合（ステップS2406：Yes）、処理をステップS2407に移行し、設定値変更操作部46が回転されていない場合（ステップS2406：No）、処理をステップS2409に移行する。

【0460】

<ステップS2407及びS2408>

設定値変更操作部46が所定角度回転された場合（ステップS2406：Yes）、MPU41は、設定値表示部45での表示を変更する処理を実行する（ステップS2407）。例えば、MPU41は、設定値変更操作部46が右方向に所定角度回転された場合に回転前に設定値表示部45で表示されている数字よりも1つ大きい数字を表示させ、これとは逆に、設定値変更操作部46が左方向に所定角度回転された場合に回転前に設定値表示部45で表示されている数字よりも1つ小さい数字を表示させる。

10

【0461】

なお、回転前に設定値表示部45で表示されている数字が「6」である場合に右方向に設定値変更操作部46が所定角度回転された場合には設定値表示部45に表示される数字が「1」に変更され、回転前に設定値表示部45で表示されている数字が「1」である場合に左方向に設定値変更操作部46が所定角度回転された場合、設定値表示部45に表示される数字が「6」に変更される。また、設定値表示部45で表示されている数字が「6」である場合に、それ以上右方向に回転しないようにし、設定値表示部45で表示されている数字が「1」である場合に、それ以上左方向に回転しないようにしてもよい。

20

【0462】

そして、MPU41は、設定値表示部45に表示中の数字を遊技設定値としてRAM412の遊技情報格納エリア412dの遊技設定値に上書き保存し（ステップS2408）、当該設定値変更処理を終了する。これにより、設定値変更操作部46の電源がオンからオフに切り替えられた場合に電源がオフにされる直前にRAM412に保存されている遊技設定値が有効な遊技設定値として最終的にRAM412の遊技情報格納エリア412dに保存される。そのため、設定値変更操作部46が回転させることによって設定値表示部45に表示される数字を変更することで、RAM412に保存される遊技設定値が変更される。そして、目的とする遊技設定値に対応する数字が設定値表示部45に表示された状態で設定値表示部45の電源をオフにすることで遊技設定値を確定させることができる。

30

【0463】

なお、ステップS2408では、MPU41は、遊技設定値が変更されたこと、及び変更後の遊技設定値を音声ランプ制御装置5に通知する遊技設定値変更コマンドを設定する。

【0464】

<ステップS2409>

設定値変更操作部46が所定角度回転されていない場合（ステップS2406：No）、MPU41は、設定値表示部45の電源がオンからオフに切り替えられたか否か（ステップS2409）、即ち設定値変更操作部46に対して設定値表示部45の電源をオフにする操作がなされたか否かを判断する。MPU41は、設定値表示部45の電源がオンからオフに切り替えられた場合（ステップS2409：Yes）、処理をステップS2410に移行し、設定値表示部45の電源がオンからオフに切り替えられていない場合（ステップS2409：No）、当該設定値変更処理を終了する。

40

【0465】

<ステップS2410～S2412>

設定値表示部45の電源がオンからオフに切り替えられた場合（ステップS2409：Yes）、MPU41は、RAM412の遊技情報格納エリア412dに保存された遊技設定値に応じた低確率モード当否テーブル（図9（A）参照）及び高確率モード当否テーブル（図9（B）参照）を選択してRAM412に保存する（ステップS2410）。

【0466】

50

ここで、ステップ S 2 4 1 0 では、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存された遊技設定値に応じた低確率モード当否テーブル（図 9（A）参照）及び高確率モード当否テーブル（図 9（B）参照）が選択される。つまり、低確率モード当否テーブルと高確率モード当否テーブルとで同一遊技設定値の当否テーブルが選択されるため、遊技設定値の変更操作が容易である。但し、低確率モードでの設定値と高確率モードでの遊技設定値とを個別に変更可能としてもよい。この場合、例えば低確率モードの設定値を「1」とし、高確率モードの設定値を「6」とするなどように、低確率モードと高確率モードとで異なる段階（数値）の設定値とすることが可能になる。

【0467】

そして、M P U 4 1 は、設定値表示部 4 5 での遊技設定値に対応する数字を非表示すると共に（ステップ S 2 4 1 1）、設定値表示中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 4 1 2）、当該設定値変更処理を終了する。

【0468】

〔特定性能情報更新処理〕

ここで、図 3 6 は、図 2 1 のメイン処理でのステップ S 1 4 1 0 で実行される特定性能情報更新処理の手順の一例を示すフローチャートである。特定性能情報更新処理では、ベース情報などの特定性能情報が更新される。また、図 3 7 は、図 3 6 の特定性能情報更新処理で更新されるベース情報の一例を示す図である。以下、図 3 6 及び図 3 7 を参照しつつ特定性能情報更新処理を説明する。

【0469】

<ステップ S 2 5 0 1 ~ S 2 5 0 3>

図 3 6 に示すように、ステップ S 2 5 0 1 では、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d から現状ベース演算用の各種払出玉数、例えば通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）における「一般入賞口払出玉数」及び「第 1 入賞口払出玉数」を読み出し、さらに R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d から現状ベース演算用の通常遊技状態における「アウト玉数」を読み出す（ステップ S 2 5 0 2）。そして、M P U 4 1 は、現状ベース演算用の通常遊技状態における「一般入賞口払出玉数」、「第 1 入賞口払出玉数」及び「アウト玉数」に基づいて、通常遊技状態における「アウト玉数」に対する「一般入賞口払出玉数」と「第 1 入賞口払出玉数」との合算払出玉数の比率である「現状ベース B L」を演算し、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存される「現状ベース B L」を更新し（ステップ S 2 5 0 3）、処理をステップ S 2 5 0 4 に移行する。

【0470】

<ステップ S 2 5 0 4>

ステップ S 2 5 0 4 では、M P U 4 1 は、ステップ S 2 5 0 2 において R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d から読み出した現状ベース演算用の通常遊技状態におけるアウト玉数が 6 0 0 0 0 玉に達しているか否かを判断する。M P U 5 1 は、現状ベース演算用の通常遊技状態におけるアウト玉数が 6 0 0 0 0 玉に達している場合（ステップ S 2 5 0 4 : Y e s）、処理をステップ S 2 5 0 5 に移行し、当該アウト玉数が 6 0 0 0 0 玉に達していない場合（ステップ S 2 5 0 4 : N o）、処理をステップ S 2 5 0 9 に移行する。

【0471】

<ステップ S 2 5 0 5 ~ S 2 5 0 8>

現状ベース演算用の通常遊技状態におけるアウト玉数 6 0 0 0 0 玉に達している場合（ステップ S 2 5 0 4 : Y e s）、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存されている各種ベース情報を更新する（ステップ S 2 5 0 5 ~ S 2 5 0 7）。具体的には、図 3 7（A）及び図 3 7（B）に示すように、M P U 4 1 は、ベース情報において、前回 6 万玉ベース B 1 を前々回 6 万玉ベースにシフトさせ（ステップ S 2 5 0 5）、現状ベース B L を前回 6 万玉ベース B 1 にシフトさせ（ステップ S 2 5 0 6）、現状ベース B L を 0 にクリアする（ステップ S 2 5 0 7）。

10

20

30

40

50

【0472】

そして、MPU41は、RAM412の遊技情報格納エリア412dにおけるベース情報として記憶されるベース演算用の通常遊技状態の一般入賞口払出玉数、第1入賞口払出玉数及びアウト玉数を0玉にクリアし（ステップS2508）、処理をステップS2509に移行する。

【0473】

<ステップS2509>

RAM412の遊技情報格納エリア412dに保存されているベース情報を更新した場合（ステップS2505～S2508）、又はアウト玉数が60000玉に達していない場合（ステップS2504：No）、MPU51は、ベース情報以外の他の特定性能情報（例えば単位大当たり抽選回数、連続役物比率、役物比率）を、演算に必要な情報を遊技情報格納エリア412dから読み出した上で、読み出した情報に基づいて他の特定性能情報を演算し、RAM412の遊技情報格納エリア412dに保存される他の特定性能情報の値を更新し（ステップS2509）、当該特定性能情報更新処理を終了する。

10

【0474】

[性能表示モニタの表示制御処理]

ここで、図38～図41は、図21のメイン処理のステップS1411で実行される性能表示モニタ43の表示制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図38～図41を参照しつつ、性能表示モニタ43の表示制御処理を説明する。

【0475】

20

<ステップS2601>

図38に示すように、ステップS2601では、MPU41は、性能表示モニタ43において現状ベースBLが表示されていることを示すBL表示中フラグがオンに設定されているか否かを判断する。ここで、BL表示中フラグは、性能表示モニタ43において現状ベースBLの表示が開始される場合に、当該表示制御処理での後述のステップS2606又は図41のステップS2630でオンに設定される。

【0476】

MPU41は、BL表示中フラグがオンに設定されている場合（ステップS2601：Yes）、即ち性能表示モニタ43において現状ベースBLが表示されている場合、処理を図39のステップS2608に移行する。一方、MPU41は、BL表示中フラグがオフに設定されている場合（ステップS2601：No）、即ち性能表示モニタ43において現状ベースBLが表示されていない場合、処理をステップS2602に移行する。

30

【0477】

<ステップS2602>

BL表示中フラグがオフに設定されている場合（ステップS2601：No）、即ち性能表示モニタ43において現状ベースBLが表示されていない場合、MPU41は、性能表示モニタ43において前回6万玉ベースB1が表示されていることを示すB1表示中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS2602）。ここで、B1表示中フラグは、性能表示モニタ43において前回6万玉ベースB1の表示が開始される場合に、当該表示制御処理での後述の図39のステップS2612でオンに設定される。

40

【0478】

MPU41は、B1表示中フラグがオンに設定されている場合（ステップS2602：Yes）、即ち性能表示モニタ43において前回6万玉ベースB1が表示されている場合、処理を図40のステップS2617に移行する。一方、MPU41は、B1表示中フラグがオフに設定されている場合（ステップS2602：No）、即ち性能表示モニタ43において前回6万玉ベースB1が表示されていない場合、処理をステップS2603に移行する。

【0479】

<ステップS2603>

B1表示中フラグがオフに設定されている場合（ステップS2602：No）、即ち性

50

能表示モニタ 4 3 において前回 6 万玉ベース B 1 が表示されていない場合、M P U 4 1 は、性能表示モニタ 4 3 において前々回 6 万玉ベース B 2 が表示されていることを示す B 2 表示中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 2 6 0 3）。ここで、B 2 表示中フラグは、性能表示モニタ 4 3 において前々回 6 万玉ベース B 2 の表示が開始される場合に、当該表示制御処理での後述の図 4 0 のステップ S 2 6 2 1 でオンに設定される。

【0 4 8 0】

M P U 4 1 は、B 2 表示中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 6 0 3：Y e s）、即ち性能表示モニタ 4 3 において前々回 6 万玉ベース B 2 が表示されている場合、処理を図 4 1 のステップ S 2 6 2 6 に移行する。一方、M P U 4 1 は、B 2 表示中フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 6 0 3：N o）、即ち性能表示モニタ 4 3 において前々回 6 万玉ベース B 2 が表示されていない場合、処理をステップ S 2 6 0 4 に移行する。

10

【0 4 8 1】

<ステップ S 2 6 0 4>

B 2 表示中フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 6 0 3：N o）、M P U 4 1 は、性能表示スイッチ 4 4 がオフからオンに切り替えられたか否かを判断する（ステップ S 2 6 0 4）。性能表示スイッチ 4 4 がオフからオンに切り替えられた場合（ステップ S 2 6 0 4：Y e s）、処理をステップ S 2 6 0 5 に移行し、性能表示スイッチ 4 4 がオフからオンに切り替えられていない場合（ステップ S 2 6 0 4：N o）、当該表示制御処理を終了する。

20

【0 4 8 2】

<ステップ S 2 6 0 5～S 2 6 0 7>

性能表示スイッチ 4 4 がオフからオンに切り替えられた場合（ステップ S 2 6 0 4：Y e s）、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存されたベース情報に含まれる現状ベース B L を性能表示モニタ 4 3 に表示させる（ステップ S 2 6 0 5）。例えば、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存されたベース情報が図 3 7（A）に示す例である場合には、現状ベース B L が 2 9 %であることを示す「8.」、「L」、「2」、「9」が性能表示モニタ 4 3 を構成する 4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1～4 3 4 に表示され、ベース情報が図 3 7（B）に示す例である場合には現状ベース B L が 0 %であることを示す「8.」、「L」、「0」、「0」が性能表示モニタ 4 3 を構成する 4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1～4 3 4 に表示される。そして、M P U 4 1 は、性能表示モニタ 4 3 において現状ベース B L が表示されていることを示す B L 表示中フラグをオンに設定する（ステップ S 2 6 0 6）。さらに、M P U 4 1 は、現状ベース B L を性能表示モニタ 4 3 に一定時間表示させるために、性能表示モニタ 4 3 における現状ベース B L の残り表示時間を示す B L 表示時間カウンタをセットし（ステップ S 2 6 0 7）、当該表示制御処理を終了する。

30

【0 4 8 3】

<ステップ S 2 6 0 8 及び S 2 6 0 9>

B L 表示中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 6 0 1：Y e s）、即ち性能表示モニタ 4 3 において現状ベース B L が表示されている場合、図 3 9 に示すように、M P U 4 1 は、図 3 8 のステップ S 2 6 0 7 でセットされる性能表示モニタ 4 3 における現状ベース B L の残り表示時間を示す B L 表示時間カウンタの値を 1 減算し（ステップ S 2 6 0 8）、減算後の B L 表示時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 2 6 0 9）。即ち、M P U 4 1 は、性能表示モニタ 4 3 における表示を現状ベース B L から前回 6 万玉ベース B 1 に切り替えるタイミングであるか否かを判断する。

40

【0 4 8 4】

M P U 4 1 は、減算後の B L 表示時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 6 0 9：Y e s）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を現状ベース B L から前回 6 万玉ベース B 1 に切り替えるタイミングである場合、処理をステップ S 2 6 1 0 に移行する。一

50

方、MPU41は、減算後のBL表示時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2609：No）、即ち性能表示モニタ43における表示を現状ベースBLから前回6万玉ベースB1に切り替えるタイミングでない場合、処理をステップS2614に移行する。

【0485】

<ステップS2610～S2613>

減算後のBL表示時間カウンタの値が0である場合（ステップS2609：Yes）、即ち性能表示モニタ43における表示を現状ベースBLから前回6万玉ベースB1に切り替えるタイミングである場合、MPU41は、性能表示モニタ43において現状ベースBLが表示されていることを示すBL表示中フラグをオフに設定し（ステップS2610）、RAM412の遊技情報格納エリア412dに保存されたベース情報に含まれる前回6万玉ベースB1を性能表示モニタ43に表示させる（ステップS2611）。例えば、RAM412の遊技情報格納エリア412dに保存されたベース情報が図37（A）に示す例である場合には前回6万玉ベースB1が33%であることを示す「8.」、「1」、「3」、「3」が性能表示モニタ43を構成する4つの7セグメント表示器431～434に表示され、ベース情報が図37（B）に示す例である場合には前回6万玉ベースB1が29%であることを示す「8.」、「1」、「2」、「9」が性能表示モニタ43を構成する4つの7セグメント表示器431～434に表示される。そして、MPU41は、性能表示モニタ43において前回6万玉ベースB1が表示されていることを示すB1表示中フラグをオンに設定する（ステップS2612）。さらに、MPU41は、前回6万玉ベースB1を性能表示モニタ43に一定時間表示させるために、性能表示モニタ43における前回6万玉ベースB1の残り表示時間を示すB1表示時間カウンタをセットし（ステップS2613）、当該表示制御処理を終了する。

10

20

【0486】

<ステップS2614>

減算後のBL表示時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2609：No）、即ち性能表示モニタ43における表示を現状ベースBLから前回6万玉ベースB1に切り替えるタイミングでない場合、MPU41は、性能表示スイッチ44がオンからオフに切り替えられたか否かを判断する（ステップS2614）。MPU41は、性能表示スイッチ44がオンからオフに切り替えられた場合（ステップS2614：Yes）、処理をステップS2615に移行し、性能表示スイッチ44がオンからオフに切り替えられていない場合（ステップS2614：No）、当該表示制御処理を終了する。

30

【0487】

なお、性能表示スイッチ44がオンからオフに切り替えられた場合（ステップS2614：Yes）、性能表示モニタ43では、7セグメント表示器431～434への通電が遮断されることで現状ベースBLを示すアルファベット及び数字が消灯される。

【0488】

<ステップS2615及びS2616>

性能表示スイッチ44がオンからオフに切り替えられた場合（ステップS2614：Yes）、MPU41は、性能表示モニタ43において現状ベースBLが表示されていることを示すBL表示中フラグをオフに設定する（ステップS2615）。さらに、MPU41は、性能表示モニタ43における現状ベースBLの残り表示時間を示すBL表示時間カウンタの値を0にクリアし（ステップS2616）、当該表示制御処理を終了する。

40

【0489】

<ステップS2617及びS2618>

図38に戻り、B1表示中フラグがオンに設定されている場合（ステップS2602：Yes）、即ち性能表示モニタ43において前回6万玉ベースB1が表示されている場合、図40に示すように、MPU41は、図39のステップS2613でセットされる性能表示モニタ43における前回6万玉ベースB1の残り表示時間を示すB1表示時間カウンタの値を1減算し（ステップS2617）、減算後のB1表示時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS2618）。即ち、MPU41は、性能表示モニタ43

50

における表示を前回 6 万玉ベース B 1 から前々回 6 万玉ベース B 2 に切り替えるタイミングであるか否かを判断する。

【0490】

MPU41 は、減算後の B 1 表示時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 6 1 8：Y e s）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を前回 6 万玉ベース B 1 から前々回 6 万玉ベース B 2 に切り替えるタイミングである場合、処理をステップ S 2 6 1 9 に移行する。一方、MPU41 は、減算後の B 1 表示時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 6 1 8：N o）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を前回 6 万玉ベース B 1 から前々回 6 万玉ベース B 2 に切り替えるタイミングでない場合、処理をステップ S 2 6 2 3 に移行する。

10

【0491】

<ステップ S 2 6 1 9 ~ S 2 6 2 2 >

減算後の B 1 表示時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 6 1 8：Y e s）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を前回 6 万玉ベース B 1 から前々回 6 万玉ベース B 2 に切り替えるタイミングである場合、MPU41 は、性能表示モニタ 4 3 において前回 6 万玉ベース B 1 が表示されていることを示す B 1 表示中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 6 1 9）、RAM 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存されたベース情報に含まれる前々回 6 万玉ベース B 2 を性能表示モニタ 4 3 に表示させる（ステップ S 2 6 2 0）。例えば、RAM 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存されたベース情報が図 3 7（A）に示す例である場合には前々回 6 万玉ベース B 2 が 3 2 %であることを示す「8.」、「2」、「3」、「2」が性能表示モニタ 4 3 を構成する 4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 に表示され、ベース情報が図 3 7（B）に示す例である場合には前々回 6 万玉ベース B 2 が 3 3 %であることを示す「8.」、「2」、「3」、「3」が性能表示モニタ 4 3 を構成する 4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 に表示される。そして、MPU41 は、性能表示モニタ 4 3 において前々回 6 万玉ベース B 2 が表示されていることを示す B 2 表示中フラグをオンに設定する（ステップ S 2 6 2 1）。さらに、MPU41 は、前々回 6 万玉ベース B 2 を性能表示モニタ 4 3 に一定時間表示させるために、性能表示モニタ 4 3 における前々回 6 万玉ベース B 2 の残り表示時間を示す B 2 表示時間カウンタをセットし（ステップ S 2 6 2 2）、当該表示制御処理を終了する。

20

【0492】

<ステップ S 2 6 2 3 >

減算後の B 1 表示時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 6 1 8：N o）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を前回 6 万玉ベース B 1 から前々回 6 万玉ベース B 2 に切り替えるタイミングでない場合、MPU41 は、性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられたか否かを判断する（ステップ S 2 6 2 3）。性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられた場合（ステップ S 2 6 2 3：Y e s）、処理をステップ S 2 6 2 4 に移行し、性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられていない場合（ステップ S 2 6 2 3：N o）、当該表示制御処理を終了する。

30

【0493】

なお、性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられた場合（ステップ S 2 6 2 3：Y e s）、性能表示モニタ 4 3 では、7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 への通電が遮断されることで前回 6 万玉ベース B 1 を示すアルファベット及び数字が消灯される。

40

【0494】

<ステップ S 2 6 2 4 及び S 2 6 2 5 >

性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられた場合（ステップ S 2 6 2 3：Y e s）、MPU41 は、性能表示モニタ 4 3 において前回 6 万玉ベース B 1 が表示されていることを示す B 1 表示中フラグをオフに設定すると共に（ステップ S 2 6 2 4）、B 1 表示時間カウンタの値を 0 にクリアし（ステップ S 2 6 2 5）、当該表示制御処理を終了する。

【0495】

50

<ステップ S 2 6 2 6 及び S 2 6 2 7>

図 3 8 に戻り、B 2 表示中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 6 0 3 : Y e s ）、即ち性能表示モニタ 4 3 において前々回 6 万玉ベース B 2 が表示されている場合、図 4 1 に示すように、M P U 4 1 は、図 4 0 のステップ S 2 6 2 2 でセットされる性能表示モニタ 4 3 における前々回 6 万玉ベース B 2 の残り表示時間を示す B 2 表示時間カウンタの値を 1 減算し（ステップ S 2 6 2 6 ）、減算後の B 2 表示時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 2 6 2 7 ）。即ち、M P U 4 1 は、性能表示モニタ 4 3 における表示を前々回 6 万玉ベース B 2 から現状ベース B L に切り替えるタイミングであるか否かを判断する。

【 0 4 9 6 】

M P U 4 1 は、減算後の B 2 表示時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 6 2 7 : Y e s ）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を前々回 6 万玉ベース B 2 から現状ベース B L に切り替えるタイミングである場合、処理をステップ S 2 6 2 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後の B 2 表示時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 6 2 7 : N o ）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を前々回 6 万玉ベース B 2 から現状ベース B L に切り替えるタイミングでない場合、処理をステップ S 2 6 3 2 に移行する。

【 0 4 9 7 】

<ステップ S 2 6 2 8 ~ S 2 6 3 1>

減算後の B 2 表示時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 6 2 7 : Y e s ）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を前々回 6 万玉ベース B 2 から現状ベース B L に切り替えるタイミングである場合、M P U 4 1 は、性能表示モニタ 4 3 において前々回 6 万玉ベース B 2 が表示されていることを示す B 2 表示中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 6 2 8 ）、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存されたベース情報に含まれる現状ベース B L を性能表示モニタ 4 3 に表示させる（ステップ S 2 6 2 9 ）。例えば、R A M 4 1 2 の遊技情報格納エリア 4 1 2 d に保存されたベース情報が図 3 7 （ A ）に示す例である場合には現状ベース B L が 2 9 %であることを示す「 8 . 」、「 L 」、「 2 」、「 9 」が性能表示モニタ 4 3 を構成する 4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 に表示され、ベース情報が図 3 7 （ B ）に示す例である場合には現状ベース B L が 0 %であることを示す「 8 . 」、「 L 」、「 0 」、「 0 」が性能表示モニタ 4 3 を構成する 4 つの 7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 に表示される。そして、M P U 4 1 は、性能表示モニタ 4 3 において現状ベース B L が表示されていることを示す B L 表示中フラグをオンに設定し（ステップ S 2 6 3 0 ）、現状ベース B L を性能表示モニタ 4 3 に一定時間表示させるための B L 表示時間カウンタをセットし（ステップ S 2 6 3 1 ）、当該表示制御処理を終了する。

【 0 4 9 8 】

<ステップ S 2 6 3 2>

減算後の B 2 表示時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 6 2 7 : N o ）、即ち性能表示モニタ 4 3 における表示を前々回 6 万玉ベース B 2 から現状ベース B L に切り替えるタイミングでない場合、M P U 4 1 は、性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられたか否かを判断する（ステップ S 2 6 3 2 ）。性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられた場合（ステップ S 2 6 3 2 : Y e s ）、処理をステップ S 2 6 3 3 に移行し、性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられていない場合（ステップ S 2 6 3 2 : N o ）、当該表示制御処理を終了する。

【 0 4 9 9 】

なお、性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられた場合（ステップ S 2 6 3 2 : Y e s ）、性能表示モニタ 4 3 では、7 セグメント表示器 4 3 1 ~ 4 3 4 への通電が遮断されることで前々回 6 万玉ベース B 2 を示すアルファベット及び数字が消灯される。

【 0 5 0 0 】

また、本実施形態では、性能表示スイッチ 4 4 のオンにより性能表示モニタ 4 3 にベー

10

20

30

40

50

ス情報が表示され、性能表示スイッチ 4 4 のオフにより性能表示モニタ 4 3 でのベース情報が非表示とされるが、ベース情報は、遊技機 1 0 の電源がオンである間、性能表示モニタ 4 3 に常時表示されるようにしてもよく、前面枠 1 1 が開放されている間に性能表示モニタ 4 3 に表示されるようにしてもよい。

【0501】

<ステップ S 2 6 3 3 及び S 2 6 3 4>

性能表示スイッチ 4 4 がオンからオフに切り替えられた場合（ステップ S 2 6 3 2 : Yes）、MPU 4 1 は、性能表示モニタ 4 3 において前々回 6 万玉ベース B 2 が表示されていることを示す B 2 表示中フラグをオフに設定する（ステップ S 2 6 3 3）。さらに、MPU 4 1 は、前々回 6 万玉ベース B 2 の残り表示時間を示す B 2 表示時間カウンタの値を 0 にクリアし（ステップ S 2 6 3 4）、当該表示制御処理を終了する。

10

【0502】

〔音声ランプ制御装置 5 の処理〕

次に、図 4 2 ～図 5 4 を参照しつつ、音声ランプ制御装置 5 で MPU 5 1 によって実行される処理について説明する。

【0503】

なお、本実施形態で音声ランプ制御装置 5 の MPU 5 1 が実行する処理の一部又は全部が、表示制御装置 6 の MPU 6 1 によって実行されることも他の実施形態として考えられる。また、音声ランプ制御装置 5 では、MPU 5 1 が、スピーカ 2 6 及び電飾部 2 7 の制御処理、音声ランプ制御装置 5 の立ち上げ時の立ち上げ処理、停電時の NMI 割込処理なども実行するが、それらの処理については説明を省略する。

20

【0504】

〔音声ランプ制御装置 5 の副タイマ割込処理〕

ここで、図 4 2 は、音声ランプ制御装置 5 の MPU 5 1 によって実行される副タイマ割込処理の手順の一例を示すフローチャートである。MPU 5 1 は、例えば副タイマ割込処理を 1 m s e c 周期の定期処理として実行する。

【0505】

図 4 2 に示すように、MPU 5 1 は、副タイマ割込処理において、カウンタ更新処理（ステップ S 2 7 0 1）、操作検出処理（ステップ S 2 7 0 2）、コマンド判定処理（ステップ S 2 7 0 3）、特図遊技演出制御処理（ステップ S 2 7 0 4）、及び大当たり遊技演出制御処理（ステップ S 2 7 0 5）を実行する。

30

【0506】

〔カウンタ更新処理〕

カウンタ更新処理（ステップ S 2 7 0 1）では、MPU 5 1 は、演出パターン種別カウンタ、第 1 停止図柄種別カウンタ、変動表示カウンタなどの更新を実行する。具体的には、MPU 5 1 は、演出種別カウンタ及び第 1 停止図柄種別カウンタでのカウンタ値に 1 を加算し、そのカウンタ値が最大値に達した場合は当該カウンタ値を 0 にクリアする。演出パターン種別カウンタは、主制御装置 4 から受信する特図変動パターンコマンドに基づいて変動種別（演出パターン）を決定するために使用される。例えば、演出種別カウンタは 0 ～ 1 0 9 の間でループするループカウンタである。また、第 1 停止図柄種別カウンタは、主制御装置 4 から受信する特図変動パターンコマンドに基づいて最初に停止される飾り図柄の種別を決定するために使用される。例えば、第 1 停止図柄種別カウンタは 0 ～ 9 9 の間でループするループカウンタである。一方、MPU 5 1 は、変動表示カウンタを 1 減算する。この変動表示カウンタは、図柄表示部 3 4 1 の変動表示時間を計時するためのものであり、変動表示カウンタでのカウンタ値は残り変動表示時間が 0 になる場合に 0 になるように設定される。従って、変動表示カウンタのカウンタ値に基づいて、残りの変動表示時間、変動中であること、図柄表示部 3 4 1 の変動表示が終了したことなどを把握できる。

40

【0507】

〔操作検出処理〕

50

次に、図 4 2 の副タイマ割込処理のステップ S 2 7 0 2 で実行される操作検出処理の手順の一例を説明する。ここで、図 4 3 は、操作検出処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【0508】

図 4 3 に示すように、操作検出処理では、M P U 4 1 は、操作ボタン操作検出処理（ステップ S 2 8 0 1）、操作検出パターン判定処理（ステップ S 2 8 0 2）、選択ボタン操作検出処理（ステップ S 2 8 0 3）、選択操作検出パターン判定処理（ステップ S 2 8 0 4）、決定ボタン操作検出処理（ステップ S 2 8 0 5）、及び決定操作検出パターン判定処理（ステップ S 2 8 0 6）を実行する。

【0509】

[操作ボタン操作検出処理]

操作ボタン操作検出処理（操作検出処理のステップ S 2 8 0 1）では、操作ボタン 2 0 の操作状態を検出し、過去 3 回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。遊技機 1 0 では、M P U 4 1 によって操作ボタン操作検出処理が実行されることにより、副タイマ割込処理の割込周期に対応した予め定められた間隔（本実施形態では 1 m s e c 間隔）で操作ボタン 2 0 の操作の有無が判断されることになる。ここで、図 4 4 は、操作ボタン操作検出処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 4 4 を参照しつつ操作ボタン操作検出処理を説明する。

【0510】

<ステップ S 2 9 0 1 ~ S 2 9 0 3 >

図 4 4 に示すように、操作ボタン操作検出処理では、M P U 4 1 は、第 2 検出フラグの設定を第 1 検出フラグにシフト（上書き）させる（ステップ S 2 9 0 1）。次いで、M P U 4 1 は、第 3 検出フラグの設定を第 2 検出フラグにシフト（上書き）させる（ステップ S 2 9 0 2）。その後、M P U 4 1 は、操作スイッチ 2 0 a により検出される操作ボタン 2 0 の操作状態を第 3 検出フラグに設定（上書き）し（ステップ S 2 9 0 3）、当該操作検出処理を終了する。

【0511】

このように、操作ボタン操作検出処理では、ステップ S 2 9 0 1 ~ S 2 9 0 3 の処理が実行されることにより、操作ボタン 2 0 の操作履歴として 1 m s e c 間隔の直近の 3 回分の操作状態が第 1 検出フラグ ~ 第 3 検出フラグとして R A M 5 1 2 に記憶される。具体的に、第 3 検出フラグとして直近の操作状態が記憶され、第 2 検出フラグとして一つ前の操作状態が記憶され、第 1 検出フラグとして二つ前の操作状態が記憶される。

【0512】

[操作検出パターン判定処理]

図 4 3 の説明に戻り、操作検出処理でのステップ S 2 8 0 2 の操作検出パターン判定処理では、第 1 操作検出フラグ、第 2 操作検出フラグ及び第 3 操作検出フラグに基づいて判定される操作ボタン 2 0 の操作履歴から操作ボタン 2 0 に対する操作状態を判定するための操作パターンフラグを設定する。操作パターンフラグは第 1 ~ 第 3 操作パターンフラグからなり、第 1 ~ 第 3 操作パターンフラグのオン及びオフの組み合わせによって操作ボタン 2 0 の操作状態を判定できる。例えば、第 1 操作パターンフラグのみがオンに設定されている場合には、操作ボタン 2 0 に対する操作が継続されていると判定できる（図 4 6（A）参照）。また、第 2 操作パターンフラグのみがオンに設定されている場合には、操作ボタン 2 0 に対する操作が開始されたと判定できる（図 4 6（A）参照）。また、第 3 操作パターンフラグのみがオンに設定されている場合には、操作ボタン 2 0 に対する操作が終了したと判定できる（図 4 6（A）参照）。そして、第 1 ~ 第 3 操作パターンフラグの全てがオフに設定されている場合には、操作ボタン 2 0 に対する操作がなされていないと判定できる（図 4 6（A）参照）。ここで、図 4 5 は、操作検出パターン判定処理の手順の一例を示すフローチャートである。また、図 4 6（A）は、操作ボタン 2 0 に対する検出パターンと操作状況との関係を示すテーブルである。以下、図 4 5 及び図 4 6（A）を参照しつつ操作ボタン操作検出処理を説明する。

【0513】

<ステップS3001>

図45に示すように、操作検出パターン判定処理では、MPU41は、3回前の操作ボタン20の操作状態を示す第1操作検出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3001）。ここで、MPU41は、第1操作検出フラグがオンである場合（ステップS3001：Yes）、処理をステップS3002に移行し、第1操作検出フラグがオフである場合（ステップS3001：No）、処理をステップS3005に移行する。

【0514】

<ステップS3002>

第1操作検出フラグがオンである場合（ステップS3001：Yes）、MPU41は、2回前の操作ボタン20の操作状態を示す第2操作検出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3002）。ここで、MPU41は、第2操作検出フラグがオンである場合（ステップS3002：Yes）、処理をステップS3003に移行し、第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS3002：No）、処理をステップS3008に移行する。

【0515】

<ステップS3003>

第2操作検出フラグがオンである場合（ステップS3002：Yes）、MPU41は、直近の操作ボタン20の操作状態を示す第3操作検出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3003）。ここで、MPU41は、第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS3003：Yes）、処理をステップS3004に移行し、第3操作検出フラグがオフである場合（ステップS3003：No）、処理をステップS3010に移行する。

【0516】

<ステップS3004>

第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS3003：Yes）、MPU41は、第1操作パターンフラグをオン、第2操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定し（ステップS3004）、当該操作検出パターン判定処理を終了する。即ち、MPU41は、操作ボタン20の3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1操作パターンフラグをオンに設定し、第2操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定する（図46（A）参照）。そして、第1操作パターンフラグは、操作ボタン20の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。例えば、第1操作パターンフラグがオンに設定されている場合、MPU41は、操作ボタン操作継続コマンドをRAM412に設定し、この操作ボタン操作継続コマンドを音声ランプ制御装置5に送信するようにしてもよい。これにより、音声ランプ制御装置5は、操作ボタン20に対する操作が継続していると判断できるため、操作ボタン操作継続コマンドが連続して送信される回数に基づいて操作ボタン20が継続操作されている時間を把握できる。そのため、音声ランプ制御装置5は、操作ボタン20が継続操作されている時間に基づいて操作ボタン20に対して長押し操作を行われたか否かを判断できるため、長押し操作に基づく操作ボタン演出を実行させることが可能になる。

【0517】

<ステップS3005>

第1操作検出フラグがオフである場合（ステップS3001：No）、MPU41は、2回前の操作ボタン20の操作状態を示す第2操作検出フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3005）。ここで、MPU41は、第2操作検出フラグがオンである場合（ステップS3005：Yes）、処理をステップS3006に移行し、第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS3005：No）、処理をステップS3010に移行する。

10

20

30

40

50

【0518】

<ステップS3006>

第2操作検出フラグがオンである場合（ステップS3005：Yes）、MPU41は、直近の操作ボタン20の操作状態を示す第3操作検出フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3006）。ここで、MPU41は、第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS3006：Yes）、処理をステップS3007に移行し、第3操作検出フラグがオフである場合（ステップS3006：No）、処理をステップS3010に移行する。

【0519】

<ステップS3007>

第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS3006：Yes）、MPU41は、第2操作パターンフラグをオン、第1操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定する（ステップS3007）。即ち、MPU41は、操作ボタン20の3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2操作パターンフラグをオンに設定し、第1操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定し（図46（A）参照）、当該操作検出パターン判定処理を終了する。そして、第2操作パターンフラグは、操作ボタン20が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（操作ボタン20の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。このように、第2操作パターンフラグを用いて、操作ボタン20が非操作状態から操作状態に変化したか否かを判断すれば、操作ボタン20の3回分の操作状態が反映されるため、電波又は静電気などのノイズに起因する操作ボタン20の操作開始の誤検出が防止され、遊技者が意図しないタイミングで操作ボタン20の操作開始が演出表示に反映されることが防止される。

【0520】

<ステップS3008>

第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS3002：No）、MPU41は、直近の操作ボタン20の操作状態を示す第3操作検出フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3008）。ここで、MPU41は、第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS3008：Yes）、処理をステップS3010に移行し、第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS3008：No）、処理をステップS3009に移行する。

【0521】

<ステップS3009>

第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS3008：No）、MPU41は、第3操作パターンフラグをオン、第1操作パターンフラグ及び第2操作パターンフラグをオフに設定し（ステップS3009）、当該操作検出パターン判定処理を終了する。即ち、MPU41は、操作ボタン20の3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3操作パターンフラグをオンに設定し、第1操作パターンフラグ及び第2操作パターンフラグをオフに設定する（図46（A）参照）。そして、第3操作パターンフラグは、操作ボタン20が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（操作ボタン20の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用することができる。

【0522】

<ステップS3010>

第3操作検出フラグがオフである場合（ステップS3003：No）、第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS3005：No）、第3操作検出フラグがオフである場合（ステップS3006：No）、又は第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS3008：Yes）、MPU41は、第1操作パターンフラグ、第2操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定し（ステップS3010）、当該操作検出パターン判定処理を終了する。即ち、MPU41は、操作ボタン20の3回分の操作状態

10

20

30

40

50

として「OFF」、「OFF」、「OFF」など上記以外の操作パターンが発生した場合に、第1～第3操作パターンフラグの全てをオフに設定する（図46（A）参照）。なお、MPU41は、第1～第3操作パターンフラグの全てがオフの場合、操作ボタン20が非操作状態であると判定する。

【0523】

〔選択ボタン操作検出処理〕

図43の説明に戻り、選択ボタン操作検出処理（ステップS2803）では、MPU41は、上選択ボタン操作処理、下選択ボタン操作処理、左選択ボタン操作処理及び右選択ボタン操作処理を実行する。

【0524】

＜上選択ボタン操作処理＞

上選択ボタン操作処理では、MPU41は、上選択ボタン211の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、上選択ボタン操作処理は、図44の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、上選択ボタン操作処理は、図44の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「上選択操作検出フラグ」と読み替えればよい。

【0525】

＜下選択ボタン操作処理＞

下選択ボタン操作処理では、MPU41は、下選択ボタン212の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、下選択ボタン操作処理は、図44の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、下選択ボタン操作処理は、図44の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「下選択操作検出フラグ」と読み替えればよい。

【0526】

＜左選択ボタン操作処理＞

左選択ボタン操作処理では、MPU41は、左選択ボタン213の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、左選択ボタン操作処理は、図44の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、左選択ボタン操作処理は、図44の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「左選択操作検出フラグ」と読み替えればよい。

【0527】

＜右選択ボタン操作処理＞

右選択ボタン操作処理では、MPU41は、右選択ボタン214の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、右選択ボタン操作処理は、図44の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、右選択ボタン操作処理は、図44の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「右選択操作検出フラグ」と読み替えればよい。

【0528】

〔選択操作検出パターン判定処理〕

図43の説明に戻り、選択操作検出パターン判定処理（ステップS2804）では、MPU41は、上選択操作検出パターン判定処理、下選択操作検出パターン判定処理、左選択操作検出パターン判定処理及び右選択操作検出パターン判定処理を実行する。

【0529】

＜上選択操作検出パターン判定処理＞

上選択操作検出パターン判定処理では、MPU41は、第1上選択操作検出フラグ、第2上選択操作検出フラグ及び第3上選択操作検出フラグに基づいて判定される上選択ボタン211の操作履歴から上選択ボタン211に対する操作状態を判定するための上操作パターンフラグを設定する。ここで、上選択操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、上選択操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検

10

20

30

40

50

出フラグ」を「上選択操作検出フラグ」と、「操作パターンフラグ」を「上選択操作パターンフラグ」と読み替えればよい。

【0530】

ここで、図46(B)に示すように、上選択操作検出パターン判定処理においてMPU41は、上選択ボタン211の3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1上選択操作パターンフラグをオンに設定し、第2上選択操作パターンフラグ及び第3上選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第1上選択操作パターンフラグは、上選択ボタン211の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。

【0531】

また、MPU41は、上選択ボタン211の3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2上選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1上選択操作パターンフラグ及び第3上選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第2上選択操作パターンフラグは、上選択ボタン211が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（上選択ボタン211の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

【0532】

さらに、MPU41は、上選択ボタン211の3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3上選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1上選択操作パターンフラグ及び第2上選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第3上選択操作パターンフラグは、上選択ボタン211が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（上選択ボタン211の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

【0533】

また、MPU41は、上選択ボタン211の3回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第1～第3上選択操作パターンフラグの全てをオフに設定する。なお、MPU41は、第1～第3上選択操作パターンフラグの全てがオフの場合、上選択ボタン211が非操作状態であると判定する。

【0534】

<下選択操作検出パターン判定処理>

下選択操作検出パターン判定処理では、MPU41は、第1下選択操作検出フラグ、第2下選択操作検出フラグ及び下選択操作検出フラグに基づいて判定される下選択ボタン212の操作履歴から下選択ボタン212に対する操作状態を判断するための下操作パターンフラグを設定する。ここで、下選択操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、下選択操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「下選択操作検出フラグ」と、「操作パターンフラグ」を「下選択操作パターンフラグ」と読み替えればよい。

【0535】

ここで、図46(C)に示すように、下選択操作検出パターン判定処理においてMPU41は、下選択ボタン212の3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1下選択操作パターンフラグをオンに設定し、第2下選択操作パターンフラグ及び第3下選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第1下選択操作パターンフラグは、下選択ボタン212の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。

【0536】

また、MPU41は、下選択ボタン212の3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2下選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1下選択操作パターンフラグ及び第3下選択操作パターンフラグをオフに設

10

20

30

40

50

定する。そして、第2下選択操作パターンフラグは、下選択ボタン212が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（下選択ボタン212の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

【0537】

さらに、MPU41は、下選択ボタン212の3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3下選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1下選択操作パターンフラグ及び第2下選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第3下選択操作パターンフラグは、下選択ボタン212が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（下選択ボタン212の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

10

【0538】

また、MPU41は、下選択ボタン212の3回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第1～第3下選択操作検出フラグの全てをオフに設定する。なお、MPU41は、第1～第3下選択操作パターンフラグの全てがオフの場合、下選択ボタン212が非操作状態であると判定する。

【0539】

<左選択操作検出パターン判定処理>

左選択操作検出パターン判定処理では、MPU41は、第1左選択操作検出フラグ、第2左選択操作検出フラグ及び左選択操作検出フラグに基づいて判定される左選択ボタン213の操作履歴から左選択ボタン213に対する操作状態を判断するための左操作パターンフラグを設定する。ここで、左選択操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、左選択操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「左選択操作検出フラグ」と、「操作パターンフラグ」を「左選択操作パターンフラグ」と読み替えればよい。

20

【0540】

ここで、図46（D）に示すように、左選択操作検出パターン判定処理においてMPU41は、左選択ボタン213の3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1左選択操作パターンフラグをオンに設定し、第2左選択操作パターンフラグ及び第3左選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第1左選択操作パターンフラグは、左選択ボタン213の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。

30

【0541】

また、MPU41は、左選択ボタン213の3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2左選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1左選択操作パターンフラグ及び第3左選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第2左選択操作パターンフラグは、左選択ボタン213が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（左選択ボタン213の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

【0542】

さらに、MPU41は、左選択ボタン213の3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3左選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1左選択操作パターンフラグ及び第2左選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第3左選択操作パターンフラグは、左選択ボタン213が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（左選択ボタン213の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

40

【0543】

また、MPU41は、左選択ボタン213の3回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第1～第3左選択操作パターンフラグの全てをオフに設定する。なお、MPU41は、第1～第3左選択操

50

作パターンフラグの全てがオフの場合、左選択ボタン 2 1 3 が非操作状態であると判定する。

【0544】

＜右選択操作検出パターン判定処理＞

右選択操作検出パターン判定処理では、MPU41は、第1右選択操作検出フラグ、第2右選択操作検出フラグ及び右選択操作検出フラグに基づいて判定される右選択ボタン 2 1 4 の操作履歴から右選択ボタン 2 1 4 に対する操作状態を判定するための右操作パターンフラグを設定する。ここで、右選択操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、右選択操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「右選択操作検出フラグ」と、「操作パターンフラグ」を「右選択操作パターンフラグ」と読み替えればよい。

10

【0545】

ここで、図46(E)に示すように、右選択操作検出パターン判定処理においてMPU41は、右選択ボタン 2 1 4 の3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1右選択操作パターンフラグをオンに設定し、第2右選択操作パターンフラグ及び第3右選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第1右選択操作パターンフラグは、右選択ボタン 2 1 4 の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。

20

【0546】

また、MPU41は、右選択ボタン 2 1 4 の3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2右選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1右選択操作パターンフラグ及び第3右選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第2右選択操作パターンフラグは、右選択ボタン 2 1 4 が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（右選択ボタン 2 1 4 の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

【0547】

さらに、MPU41は、右選択ボタン 2 1 4 の3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3右選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1右選択操作パターンフラグ及び第2右選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第3右選択操作パターンフラグは、右選択ボタン 2 1 4 が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（右選択ボタン 2 1 4 の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

30

【0548】

また、MPU41は、右選択ボタン 2 1 4 の3回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第1～第3右選択操作パターンフラグの全てをオフに設定する。なお、MPU41は、第1～第3右選択操作パターンフラグの全てがオフの場合、右選択ボタン 2 1 4 が非操作状態であると判定する。

【0549】

〔決定ボタン操作検出処理〕

図43の説明に戻り、決定ボタン操作検出処理（ステップS2805）では、MPU41は、決定ボタン 2 1 B の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、決定ボタン操作検出処理は、図44の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、決定ボタン操作検出処理は、図57の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「決定ボタン操作検出フラグ」と読み替えればよい。

40

【0550】

〔決定操作検出パターン判定処理〕

決定操作検出パターン判定処理（ステップS2806）では、MPU41は、第1決定

50

操作検出フラグ、第2決定操作検出フラグ及び第3決定操作検出フラグに基づいて判定される決定ボタン21Bの操作履歴から決定ボタン21Bに対する操作状態を判定するための操作パターンフラグを設定する。ここで、決定操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、決定操作検出パターン判定処理は、図45の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「決定操作検出フラグ」と読み替えればよい。

【0551】

ここで、図46(F)に示すように、決定操作検出パターン判定処理においてMPU41は、決定ボタン21Bの3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1決定操作パターンフラグをオンに設定し、第2決定操作

10

【0552】

また、MPU41は、決定ボタン21Bの3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2決定操作パターンフラグをオンに設定し、第1決定操作パターンフラグ及び第3決定操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第2決定操作パターンフラグは、決定ボタン21Bが非操作状態から操作状態に変化したか否かを（決定ボタン21Bの操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

20

【0553】

さらに、MPU41は、決定ボタン21Bの3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3決定操作パターンフラグをオンに設定し、第1決定操作パターンフラグ及び第2決定操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第3決定操作パターンフラグは、決定ボタン21Bが操作状態から非操作状態に変化したか否かを（決定ボタン21Bの操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

【0554】

また、MPU41は、決定ボタン21Bの3回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第1～第3決定操作パターンフラグの全てをオフに設定する。なお、MPU41は、第1～第3決定操作パターンフラグの全てがオフの場合、決定ボタン21Bが非操作状態であると判定する。

30

【0555】

【コマンド判定処理】

次に、図42の副タイマ割込処理のステップS2703で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を説明する。ここで、図47及び図48は、コマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【0556】

<ステップS3101>

図47に示すように、コマンド判定処理では、まずMPU51は、主制御装置4からコマンドを受信したか否かを判断する（ステップS3101）。ここで、MPU51は、コマンドを受信した場合（ステップS3101：Yes）、処理をステップS3102に移行する。一方、MPU51は、コマンドを受信していない場合（ステップS3101：No）、当該コマンド判定処理を終了する。

40

【0557】

なお、主制御装置4から受信したコマンドは、RAM512の未処理コマンド記憶エリアに格納され、MPU51は、未処理コマンド記憶エリアを参照することによりコマンドの受信の有無を判断する。また、未処理コマンド記憶エリアに記憶されているコマンドは、本ステップS3101でコマンドを受信したと判断され、処理の対象となった場合に未処理コマンド記憶エリアから消去され、例えば処理作業用記憶エリアに記憶される。

50

【0558】

<ステップS3102>

コマンドを受信した場合（ステップS3101：Yes）、MPU51は、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドであるか否かを判断する（ステップS3102）。特図変動パターンコマンドは、特図遊技における特別図柄の変動表示時間（特図変動パターン）及び大当たり抽選での抽選結果を示すコマンドである。

【0559】

ここで、MPU51は、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドである場合（ステップS3102：Yes）、処理をステップS3103に移行し、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合（ステップS3102：No）、処理をステップS3107に移行する。

10

【0560】

<ステップS3103及びS3104>

受信したコマンドが特図変動パターンコマンドである場合（ステップS3102：Yes）、MPU51は、主制御装置4から受信した特図変動パターンコマンドに基づいて、変動種別（演出パターン）設定処理（ステップS3103）及び停止図柄組み合わせ設定処理（ステップS3104）を実行する。以下、変動種別（演出パターン）設定処理及び停止図柄組み合わせ設定処理の詳細を説明する。

【0561】

[変動種別（演出パターン）設定処理]

20

変動種別（演出パターン）設定処理では、特図遊技において各種演出手段（図柄表示部341、スピーカ26、電飾部27、可動役物部材39、サブ可動表示部38）に実行させる特図遊技演出が設定される。具体的には、MPU51は、特図変動パターンコマンドに基づいて、変動種別テーブル（図49参照）を参照して、変動種別（演出パターン）及び変動表示時間が設定され、さらに変動種別（演出パターン）に応じた演出パターン種別選択テーブル（図50参照）に基づいて演出パターン種別を設定する。

【0562】

ここで、図49は、変動種別（演出パターン）を決定する際にMPU51によって参照される変動種別テーブルの一例を示す図である。

【0563】

30

図49に示すように、変動種別テーブルでは、特図変動パターンコマンドに対応する変動表示時間及び変動種別（演出パターン）の内容が定められている。例えば、抽選結果が「通常大当たり」であり特図変動パターンが「01」である特図変動パターンコマンド「A01」には、変動表示時間「30s」及び変動種別「ノーマルリーチ演出パターン」が対応付けられている。また、抽選結果が「5R確変大当たり」であり特図変動パターンが「02」である特図変動パターンコマンド「B02」には、変動表示時間「60s」及び変動種別「スーパーリーチ演出パターン」が対応付けられており、抽選結果が「16R確変大当たり」であり特図変動パターンが「03」である特図変動パターンコマンド「C03」には変動表示時間「90s」及び変動種別「スペシャルリーチ演出パターン」が対応付けられている。さらに、抽選結果が「外れ」であり特図変動パターンが「04」である特図変動パターンコマンド「D04」には、変動表示時間「7s」及び変動種別「非リーチ演出パターン」が対応付けられており、抽選結果が「外れ」であり特図変動パターンが「05」である特図変動パターンコマンド「D05」には、変動表示時間「10s」及び変動種別「非リーチ演出パターン」が対応付けられている。

40

【0564】

また、図50（A）～図50（C）は、演出パターン種別選択テーブルの一例を示す図である。演出パターン種別選択テーブルは、変動種別（演出パターン）ごとに設定されている。具体的に、図50（A）は特図遊技演出における最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出である場合に参照されるノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブルであり、図50（B）は特図遊技演出における最終の個別演出種別がスーパーリーチ演出である場

50

合に参照されるスーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルであり、図50(C)は特図遊技演出における最終の個別演出種別がスペシャルリーチ演出である場合に参照されるスペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルである。

【0565】

なお、本実施形態では、変動種別各々に対応する演出種別が5種類である場合を例に挙げて説明するが、演出種別は6種類以上であってよい。また、図50では、変動種別がリーチなしの場合の演出種別テーブルは省略している。

【0566】

図50(A)に示すノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブルでは、抽選結果(5R通常大当たり、5R確変大当たり、16R確変大当たり、及び外れ)に応じて、演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別として「演出パターンX1」～「演出パターンX5」が定められている。そして、MPU51は、変動種別(演出パターン)がノーマルリーチ演出パターンであると判断した場合には、演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別を抽選結果に応じてノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブルから選択する。ここで、ノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブルに含まれる演出パターンX1～演出パターンX3は、例えば飾り図柄が高速変動する高速変動演出の終了後に飾り図柄がリーチ状態となるノーマルリーチ演出が実行される演出であり、最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出となる演出である。

【0567】

また、図50(B)に示すスーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルでは、抽選結果に応じて演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別として「演出パターンY1」～「演出パターンY5」が定められている。そして、MPU51は、変動種別(演出パターン)がスーパーリーチ演出パターンであると判断した場合には、演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別を抽選結果に応じてスーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルから選択する。ここで、スーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルに含まれる演出パターンY1～演出パターンY3は、例えば高速変動演出の終了後にノーマルリーチ演出が実行され、さらに最終の個別演出種別としてノーマルリーチ演出よりも大当たり期待度の高く、ノーマルリーチ演出よりも演出実行時間の長いスーパーリーチ演出に発展する演出である。なお、スーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルは、ノーマルリーチ演出を経由することなく、高速変動演出の終了後にスーパーリーチ演出に発展するスーパーリーチ演出パターンを含んでいてもよい。

【0568】

さらに、図50(C)に示すスペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルでは、抽選結果に応じて演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別として「演出パターンZ1」～「演出パターンZ5」が定められている。そして、MPU51は、変動種別(演出パターン)がスペシャルリーチ演出パターンであると判断した場合には、演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別を抽選結果に応じてスペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルから選択する。ここで、スペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルに含まれる演出パターンZ1～演出パターンZ3は、例えば高速変動演出の終了後にノーマルリーチ演出及びスーパーリーチ演出が実行され、さらに最終の個別演出種別としてノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出よりも大当たり期待度の高く、ノーマルリーチ演出よりも演出実行時間の長いスペシャルリーチ演出に発展する演出である。なお、スペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルは、ノーマルリーチ演出及びスーパーリーチ演出の少なくとも一方を経由することなく、高速変動演出又はノーマルリーチ演出の終了後などにスペシャルリーチ演出に発展するスペシャルリーチ演出パターンを含んでいてもよい。

【0569】

〔停止図柄組み合わせ設定処理〕

停止図柄組み合わせ設定処理では、特図遊技において図柄表示部341で変動表示される複数の飾り図柄(例えば3つ)が有効ラインに停止表示される場合の図柄組み合わせが

設定される。具体的には、MPU51は、特図変動パターンコマンドに基づいて、第1停止図柄選択テーブル（図51（B）参照）を参照して停止図柄組み合わせが設定される。

【0570】

ここで、図51（A）は、飾り図柄種別と飾り図柄の色との関係を示す図である。図51（A）に示すように、本実施形態では、飾り図柄として数字の「1」～「9」が設定されており、これらの数字のうち、「3」及び「7」が赤色であり、「1」、「5」及び「9」が緑色であり、「2」、「4」、「6」及び「8」が赤色である。そして、本実施形態では、図柄表示部341に設定される1又は複数の有効ライン上に停止表示される飾り図柄の組み合わせによって、当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が報知される。例えば、大当たり抽選の結果が大当たりである場合には有効ライン上に同じ数字の飾り図柄がゾロ目で停止表示され、大当たり抽選の結果が外れである場合には有効ライン上に飾り図柄がゾロ目以外で停止表示される。

10

【0571】

また、飾り図柄の種別（数字、色）に遊技者の有利さに差を設けることも考えられる。例えば偶数よりも奇数のほうが遊技者に有利であり、奇数の中でも赤色の「3」及び「7」のほうが、緑色の「1」、「5」及び「9」よりも遊技者に有利に設定することが考えられる。この場合、例えば大当たり抽選の結果が大当たりである場合、停止表示される飾り図柄の組み合わせによって大当たり種別を明示又は示唆してもよい。例えば、停止図柄組み合わせが「777」である場合に16R確変大当たりであることを明示し、停止図柄組み合わせが「333」である場合に確変大当たりであることを明示し、停止図柄組み合わせが偶数のゾロ目である場合に5R通常大当たりであることを示唆するようにしてもよい。また、大当たり抽選の結果が外れである場合、停止表示される飾り図柄の組み合わせによって、当該特図遊技の後に実行される特図遊技の特定の保留に対する大当たり抽選の結果が大当たりであることの期待度（大当たり期待度）を明示又は示唆するようにしてもよい。例えば、特定の保留に対する特図遊技が実行されるまでの特図遊技において同色のバラケ目を、いわゆるチャンス目として停止表示させ、バラケ目（チャンス目）の色によって大当たり期待度を、いわゆる先読み演出として明示又は示唆するようにしてもよい。具体的には、特定の保留に対する特図遊技の大当たり期待度を、赤色のバラケ目（チャンス目）が最も高く、緑色のバラケ目（チャンス目）が次に高く、青色のバラケ目が最も低く設定し、特定の保留に対する特図遊技の変動パターンや当否情報に応じた色のバラケ目（チャンス目）が停止表示されるようにしてもよい。

20

30

【0572】

本実施形態では、飾り図柄の停止図柄組み合わせは、第1停止図柄、第2停止図柄及び最終停止図柄からなる。第1停止図柄は、図柄表示部341において最初に停止表示される飾り図柄であり、第2停止図柄は、2番目に停止表示される飾り図柄であり、最終停止図柄は、最後に停止表示される図柄である。

【0573】

ここで、図51（B）は、第1停止図柄選択テーブルの一例を示す図である。図51（B）に示すように、第1停止図柄選択テーブルでは、図柄表示部341において最初に停止表示させる飾り図柄（第1停止図柄）が定められている。なお、図51（B）は、飾り図柄が「1」～「9」であり、「333」が確変大当たり（5R確変大当たり及び16R確変大当たりのいずれか）であることを示す図柄組み合わせ、「777」が16R確変大当たりであることを示す図柄組み合わせ、「333」及び「777」以外のゾロ目が5R通常大当たり、5R確変大当たり及び16R確変大当たりのいずれかであることを示す図柄組み合わせであることを前提としている。

40

【0574】

抽選結果が「5R通常大当たり」には、第1停止図柄として「3」及び「7」の振り分けはなく、「3」及び「7」以外の飾り図柄から予め定められた確率で第1停止図柄決定される。即ち、抽選結果が「5R通常大当たり」の場合、5R確変大当たり又は16R確変大当たり（確変大当たり）であることを示す「333」又は「777」の図柄組み合わ

50

せが停止表示されることはない。

【0575】

また、抽選結果が「5R確変大当たり」には、第1停止図柄として「7」の振り分けはなく、「7」以外の飾り図柄から予め定められた確率で第1停止図柄決定される。即ち、抽選結果が「5R確変大当たり」の場合、16R確変大当たりであることを示す「777」の図柄組み合わせが停止表示されることはない。一方、抽選結果が「5R確変大当たり」の場合であっても、5R確変大当たりであることを示す「333」の図柄組み合わせ以外のゾロ目の図柄組み合わせが停止表示され得る。即ち、抽選結果が「5R確変大当たり」の場合であっても、飾り図柄の停止表示結果が5R通常大当たりを示唆する「333」の図柄組み合わせ以外のゾロ目の図柄組み合わせが停止表示され得る。そして、抽選結果が「5R確変大当たり」である場合に、第1停止図柄として「7」を除く「3」以外の飾り図柄が決定された場合、MPU51は大当たり遊技において5R確変大当たりであることを明示する5R確変昇格演出を実行させる。

10

【0576】

さらに、抽選結果が「16R確変大当たり」には、「1」～「9」の全ての飾り図柄に対する振り分けがあり、「1」～「9」の飾り図柄から予め定められた確率で第1停止図柄決定される。即ち、抽選結果が「16R確変大当たり」の場合であっても、16R確変大当たりであることを示す「777」の図柄組み合わせ以外のゾロ目の図柄組み合わせが停止表示され得る。即ち、抽選結果が「16R確変大当たり」の場合であっても、飾り図柄の停止表示結果が5R確変大当たり又は5R通常大当たりを示唆する「777」の図柄組み合わせ以外のゾロ目の図柄組み合わせが停止表示され得る。そして、抽選結果が「16R確変大当たり」である場合に、第1停止図柄として「7」が決定された場合、MPU51は大当たり遊技において16R確変大当たりであることを明示する16R確変昇格演出を実行させる。

20

【0577】

そして、MPU51は、抽選結果が大当たりである場合に第1停止図柄を決定すると、第2停止図柄及び最終停止図柄を先に決定した第1停止図柄と同じ図柄に決定する。これにより、当該特図遊技において図柄表示部341の有効ラインに停止表示される停止図柄組み合わせが決定される。

【0578】

一方、抽選結果が「外れ」には、「1」～「9」の全ての飾り図柄に対する振り分けがあり、「1」～「9」の飾り図柄から予め定められた確率で第1停止図柄決定される。そして、MPU51は、抽選結果が「外れ」である場合に第1停止図柄を決定すると、外れ種別テーブル（図9（D）参照）に基づいて選択された外れ種別、及び先に決定した第1停止図柄に基づいて第2停止図柄を決定する。例えば、前記外れ種別が前後外れリーチである場合、第2停止図柄が第1停止図柄と同じ図柄に決定され、最終停止図柄が第1停止図柄の前後の図柄に決定される。また、前記外れ種別が前後外れ以外リーチである場合、第2停止図柄が第1停止図柄と同じ図柄に決定され、最終停止図柄が第1停止図柄及び第1停止図柄の前後の図柄とは異なる図柄に決定される。また、前記外れ種別が完全外れである場合、第2停止図柄が第1停止図柄とは異なる図柄に決定され、最終停止図柄が第1停止図柄及び第2停止図柄とは無関係に決定される。なお、飾り図柄の停止図柄組み合わせは、表示制御装置6において決定してもよく、第1停止図柄のみを音声ランプ制御装置5において決定し、第2停止図柄及び最終停止図柄を表示制御装置6において決定してもよい。

30

40

【0579】

<ステップS3105>

図47のコマンド判定処理の説明に戻り、ステップS3105では、MPU51は、受信した特図変動パターンコマンドに対応する変動表示時間を変動表示カウンタに設定する。変動表示時間は、特図変動パターンコマンドに含まれる変動パターン情報に応じて判断される。そして、変動表示カウンタは、図42の副タイマ割込処理でのステップS270

50

1のカウンタ更新処理で1ずつ減算され、MPU51は、変動表示カウンタに基づいて、図柄変動表示中であるか否か、変動表示時間の残り時間などを判断することが可能である。例えば、MPU51は、変動表示カウンタが0になった場合に図柄変動表示の終了と判断することが可能である。

【0580】

<ステップS3106>

ステップS3106では、MPU51は、当該コマンド判定処理のステップS3103で設定された演出パターン種別、及びステップS3104で決定された飾り図柄の停止図柄組み合わせの内容を特定するための表示変動パターンコマンドを表示制御装置6に出力し、当該コマンド判定処理を終了する。表示変動パターンコマンドは、演出パターン種別及び飾り図柄の停止図柄組み合わせを識別するための情報である。一方、表示制御装置6のROM611には、表示変動パターンコマンド各々に対応する飾り図柄の変動画像及び演出画像などが記憶されている。これにより、表示制御装置6では、MPU61が、表示変動パターンコマンドに対応する飾り図柄の停止図柄組み合わせ、変動種別及び演出種別に応じて図柄表示部341における変動表示及び演出表示を実行する。

10

【0581】

具体的に、図柄表示部341では、表示制御装置6のMPU61は、予め設定されている変動表示時間が経過するまでの間に複数の飾り図柄（例えば3つ）の変動表示を実行し、複数の飾り図柄の変動が順に停止表示させる。飾り図柄の変動表示中には、表示変動パターンコマンドによって特定される変動種別（演出パターン種別）の内容に対応する各種の演出が図柄表示部341、スピーカ26、電飾部27などで実行される。

20

【0582】

また、MPU51は、表示変動パターンコマンドを表示制御装置6に出力する場合に、例えば特図遊技演出中フラグをオンに設定する。この特図遊技演出中フラグは、特図遊技演出が実行されていることを示すフラグである。

【0583】

<ステップS3107>

受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合（ステップS3102：No）、MPU51は、受信したコマンドが特図シフトコマンドであるか否かを判断する（ステップS3107）。特図シフトコマンドは、特図遊技（特図の変動表示）の開始によって第1特図保留数N又は第2特図保留数Mが減少する場合に、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4（図8参照）での大当たり抽選での抽選結果を示す特図当否情報がシフトしたこと示すコマンドである。

30

【0584】

MPU51は、受信したコマンドが特図シフトコマンドである場合（ステップS3107：Yes）、処理をステップS3108に移行し、受信したコマンドが特図シフトコマンドでない場合（ステップS3107：No）、処理をステップS3110に移行する。

【0585】

<ステップS3108及びS3109>

受信したコマンドが特図シフトコマンドである場合（ステップS3107：Yes）、MPU51は、特図データ設定処理（ステップS3108）及び特図データ画像表示処理（ステップS3109）を実行し、当該コマンド判定処理を終了する。

40

【0586】

ここで、ステップS3108で実行される特図データ設定処理は、音声ランプ制御装置5のRAM512に設定される特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図当否情報のデータ（特図データ）をシフト（更新）する処理である。特図保留格納エリア対応領域（図示略）は、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412b（図8参照）に対応する領域であり、当該特図保留格納エリア412bと同等な特図データが格納されている。特図保留格納エリア対応領域（図示略）は、特図保留格納エ

50

リア 4 1 2 b の第 1 特図保留格納エリア R E A、第 2 特図保留格納エリア R E B、及び特図実行エリア A E（図 8 参照）のそれぞれに対応する第 1 特図保留格納エリア対応領域、第 2 特図保留格納エリア対応領域、及び特図実行エリア対応領域を含む。また、第 1 特図保留格納エリア対応領域は、特図保留格納エリア 4 1 2 b における第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 ～第 4 保留エリア R E A 1 ～ R E A 4（図 8 参照）に対応する第 1 特図第 1 ～第 4 保留エリア対応領域（図示略）、第 1 特図保留数記憶エリア（図 8 参照）に対応する第 1 特図保留数記憶エリア対応領域を含む。さらに、第 2 特図保留格納エリア対応領域は、特図保留格納エリア 4 1 2 b における第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 ～第 4 保留エリア R E B 1 ～ R E B 4（図 8 参照）に対応する第 2 特図第 1 ～第 4 保留エリア対応領域、第 2 特図保留数記憶エリア（図 8 参照）に対応する第 2 特図保留数記憶エリア対応領域を含む。

10

【 0 5 8 7 】

一方、ステップ S 3 1 0 9 で実行される特図データ画像表示処理は、ステップ S 3 1 0 8 においてシフト（更新）された R A M 5 1 2 の特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、図柄表示部 3 4 1 に表示される特図データに関する画像（特図データ画像）（図 5 2 及び図 5 3 参照）をシフトする処理である。

【 0 5 8 8 】

ここで、図 5 2 は、特図シフトコマンドの受信前後での図柄表示部 3 4 1 に表示される特図データ画像の例を示す図である。具体的には、図 5 2（A 1）及び図 5 2（A 2）は特図シフトコマンドを受信する前の特図データ画像の例を示す図であり、図 5 2（B 1）は図 5 2（A 1）に示す特図データ画像の表示状態において第 1 特図遊技に対する特図シフトコマンドを受信した後の特図データ画像の例であり、図 5 2（B 2）は図 5 2（A 2）に示す特図データ画像の表示状態において第 2 特図遊技に対する特図シフトコマンドを受信した後の特図データ画像の例である。

20

【 0 5 8 9 】

図 5 2（A 1）及び図 5 2（A 2）に示すように、特図データ画像は、図柄表示部 3 4 1 に設定される特図データ画像表示部 7 5、7 6、7 7 に表示される。特図データ画像表示部 7 5、7 6、7 7 は、R A M 5 1 2 に設定される前述の特図保留格納エリア対応領域（図示略）の特図実行エリア対応領域（図示略）、第 1 特図保留格納エリア対応領域、及び第 2 特図保留格納エリア対応領域に対応して、当該特図変動画像表示領域 7 5、第 1 特図保留画像表示領域 7 6 及び第 2 特図保留画像表示領域 7 7 を含む。

30

【 0 5 9 0 】

当該特図変動画像表示領域 7 5 は、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E（図 8 参照）に対応する前述の特図保留格納エリア対応領域の特図実行エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、当該特図遊技に対する当該特図遊技画像を表示する領域である。そして、当該特図変動画像表示領域 7 5 には、特図実行エリア対応領域に特図データが格納されている場合に、当該特図遊技画像が表示される一方、特図実行エリア対応領域に特図データが格納されていない場合には、当該特図遊技画像が表示されない。即ち、当該特図遊技画像は、特別図柄の変動表示中に表示され、特別図柄の停止表示により非表示とされる。換言すれば、当該特図遊技画像が表示されることにより特図遊技の実行中であることが明示され、当該特図遊技画像が非表示とされることにより特図遊技の終了が明示される。

40

【 0 5 9 1 】

なお、図 5 2（A 1）及び図 5 2（A 2）に示す例では、特図実行エリア対応領域に特図データが格納されており、当該特図変動画像表示領域 7 5 に当該特図遊技画像（クロスハッチングを施した丸部分）が表示されている状態を示している。

【 0 5 9 2 】

第 1 特図保留画像表示領域 7 6 は、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 1 特図保留格納エリア R E A（図 8 参照）に対応する前述の特図保留格納エリア対応領域の第 1 特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図

50

データに基づいて、第1特図遊技に対する第1特図保留画像を表示する領域である。この第1特図保留画像表示領域76は、前述の特図保留格納エリア対応領域における第1特図保留格納エリア対応領域の第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）に対応して、第1特図第1保留画像表示領域761、第1特図第2保留画像表示領域762、第1特図第3保留画像表示領域763、及び第1特図第4保留画像表示領域764を含む。そして、第1特図保留画像表示領域76には、第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のいずれかに特図データが格納されている場合に第1特図保留画像が表示される一方、第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のいずれにも特図データが格納されていない場合に第1特図保留画像が表示されない。即ち、第1特図保留画像は、第1特図遊技に対する保留がある場合には、第1特図保留数Nに対応する数だけ表示され、第1特図遊技に対する保留がない場合には表示されない。換言すれば、第1特図保留画像の表示数に基づいて、第1特図遊技に対する第1特図保留数Nが明示される。

10

【0593】

なお、図52（A1）に示す例では、第1特図第1～第3保留画像表示領域761～763に第1特図保留画像が表示され、第1特図第4保留画像表示領域764には第1特図保留画像が表示されていない。つまり、図52（A1）に示す例では、第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のうちの第1特図第1～第3保留エリア対応領域に特図データが格納され、第1特図第4保留エリア対応領域には特図データが格納されておらず、第1特図遊技に対する第1特図保留数Nが3個であることを示している。

【0594】

20

第2特図保留画像表示領域77は、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの第2特図保留格納エリアREB（図8参照）に対応する前述の特図保留格納エリア対応領域の第2特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、第2特図遊技に対する第2特図保留画像を表示する領域である。この第2特図保留画像表示領域77は、前述の特図保留格納エリア対応領域における第2特図保留格納エリア対応領域の第2特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）に対応して、第2特図第1保留画像表示領域771、第2特図第2保留画像表示領域772、第2特図第3保留画像表示領域773、及び第2特図第4保留画像表示領域774を含む。そして、第2特図保留画像表示領域77には、第2特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のいずれかに特図データが格納されている場合に第2特図保留画像が表示される一方、第2特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のいずれにも特図データが格納されていない場合に第2特図保留画像が表示されない。即ち、第2特図保留画像は、第2特図遊技に対する保留がある場合には、第2特図保留数Mに対応する数だけ表示され、第2特図遊技に対する保留がない場合には表示されない。換言すれば、第2特図保留画像の表示数に基づいて、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが明示される。

30

【0595】

なお、図52（A2）に示す例では、第2特図第1～第2保留画像表示領域771～772に第2特図保留画像が表示され、第2特図第3～第4保留画像表示領域773～774には第2特図保留画像が表示されていない。つまり、図52（A2）に示す例では、第2特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のうちの第2特図第1～第2保留エリア対応領域に特図データが格納され、第2特図第3～第4保留エリア対応領域には特図データが格納されておらず、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが2個であることを示している。

40

【0596】

そして、特図データ画像表示処理では、受信した特図シフトコマンドが第1特図に対するものである場合、即ち第1特図遊技が開始される場合、特図保留格納エリア対応領域の特図実行エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて当該特図変動画像表示領域75に当該特図遊技画像を表示し、さらに、特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて第1特図保留画像表示領域76に第1特図保留画像を表示する。例えば、図52（A1）に示す第1特

50

図に対する第1特図保留数Nが3個で第2特図に対する第2特図保留数Mが0個である状態において、特図遊技が終了することによって新たな第1特図遊技が開始される場合、図52(B1)に示すように、当該特図変動画像表示領域75に当該特図遊技画像が表示されると共に、第1特図保留画像表示領域76の第1特図第1～第2保留画像表示領域761～762に第1特図保留画像を表示する。即ち、図52(A1)及び図52(B1)に示すように、新たな第1特図遊技が開始されることによって、当該第1特図遊技の開始前に第1特図保留画像表示領域76の第1特図第1保留画像表示領域761に表示されていた第1特図保留画像が当該特図変動画像表示領域75に当該特図遊技画像としてシフトされ、当該第1特図遊技の開始前に第1特図保留画像表示領域76の第1特図第2～第3保留画像表示領域762～763に表示されていた第1特図保留画像のそれぞれが第1特図保留画像表示領域76の第1特図第1～第2保留画像表示領域761～762にシフトされる。

10

【0597】

一方、特図データ画像表示処理では、受信した特図シフトコマンドが第2特図に対するものである場合、即ち第2特図遊技が開始される場合、特図保留格納エリア対応領域の特図実行エリア対応領域(図示略)に格納された特図データに基づいて当該特図変動画像表示領域75に当該特図遊技画像を表示し、さらに、特図保留格納エリア対応領域の第2特図保留格納エリア対応領域(図示略)に格納された特図データに基づいて第2特図保留画像表示領域77に第2特図保留画像を表示する。例えば、図52(A2)に示す第2特図に対する第1特図保留数Nが1個で第2特図に対する第2特図保留数Mが2個である状態において、特図遊技が終了することによって新たな第2特図遊技が開始される場合、図52(B2)に示すように、当該特図変動画像表示領域75に当該特図遊技画像が表示されると共に、第2特図保留画像表示領域77の第2特図第1保留画像表示領域771に第2特図保留画像を表示する。即ち、図52(A2)及び図52(B2)に示すように、新たな第2特図遊技が開始されることによって、当該第2特図遊技の開始前に第2特図保留画像表示領域77の第2特図第1保留画像表示領域771に表示されていた第2特図保留画像が当該特図変動画像表示領域75に当該特図遊技画像としてシフトされ、当該第2特図遊技の開始前に第2特図保留画像表示領域77の第2特図第2保留画像表示領域772に表示されていた第2特図保留画像が第2特図保留画像表示領域77の第2特図第1保留画像表示領域771にシフトされる。

20

30

【0598】

なお、特図データ画像表示部75, 76, 77における特図データ画像は、当該特図遊技の開始から当該特図遊技の終了まで継続表示してもよいが、当該特図遊技の実行中の一部期間において非表示状態としてもよい。例えば、当該特図遊技においてスーパーリーチ演出やスペシャルリーチ演出が実行される場合、スーパーリーチ演出やスペシャルリーチ演出が実行されている間、これらの演出の視認を阻害しないように特図データ画像を非表示としてもよい。この場合、スーパーリーチ演出やスペシャルリーチ演出の終了前や終了後から特図データ画像を再表示してもよく、そのまま非表示状態を継続してもよい。また、特図データ画像が非表示とされる場合、特図データ画像が非表示とされる間、第1特図遊技に対する第1特図保留数Nや第2特図遊技に対する第2特図保留数Mを明示する数字などの画像を表示することも考えられる。

40

【0599】

特図データ画像表示部75, 76, 77における特図データ画像は、その表示態様によって、当該特図遊技や保留された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりであることに対する期待度(大当たり期待度)を明示又は示唆するものであってもよい。例えば、特図データ画像として大当たり期待度に対応させた複数の表示態様(色、形状、柄、エフェクト、これらの2以上の組み合わせなどの形態)を設定し、大当たり抽選の結果に基づいて複数の表示態様から特図データ画像に対する所定の表示態様を設定するようにしてもよい。そして、特図データ画像の表示態様に基づいて大当たり期待度を明示又は示唆する場合、特図データ画像に対する特図遊技が終了するまでの間で特図データ画像の表示態

50

様を変化（いわゆる保留変化）させるようにしてもよい。この場合、特図データ画像の表示態様の变化は、例えば大当たり期待度が同等又は高くなる（昇格する）ように実行され、大当たり期待度が低くなる（降格する）変化は実行されない。もちろん、大当たり期待度が低くなる特図データ画像の表示態様の变化（降格変化）が実行される場合に、大当たり期待度が逆に高くなるようにすることも考えられる。また、特図データ画像の表示態様を変化させるタイミングは、特に制限はなく、当該特図遊技の開始時（特図データ画像がシフトするタイミング）、当該特図遊技の開始から一定期間経過後（例えば当該特図遊技の開始からリーチ演出が開始されるまで、リーチ演出の実行中、より大当たり期待度が高いリーチ演出への発展前後）などが考えられる。

【0600】

10

また、図52に示す例では、特図データ画像表示部75、76、77として、当該特図変動画像表示領域75、第1特図保留画像表示領域76及び第2特図保留画像表示領域77の3種類が設定されているが、遊技状態に応じて特図データ画像表示部75、76、77の表示内容を変化させることも考えられる。例えば、通常遊技状態では、第2特図保留画像表示領域77を表示せず、当該特図変動画像表示領域75と第1特図保留画像表示領域76とを表示し、確変遊技状態及び時短遊技状態では、第1特図保留画像表示領域76を表示せず、当該特図変動画像表示領域75と第2特図保留画像表示領域77とを表示することも考えられる。

【0601】

20

<ステップS3110>

図47の説明に戻り、受信したコマンドが特図シフトコマンドでない場合（ステップS3107：No）、MPU51は、受信したコマンドが第1特図保留コマンドであるか否かを判断する（ステップS3110）。第1特図保留コマンドは、第1特図遊技に対する第1特図保留数Nが増加することを示す情報と、増加後の第1特図保留数Nに関する情報と、増加する第1保留に対する特図変動パターン（特図変動表示時間）及び大当たり抽選の結果に関する情報と、を含む。

【0602】

30

MPU51は、受信したコマンドが第1特図保留コマンドである場合（ステップS3110：Yes）、処理をステップS3111に移行し、受信したコマンドが第1特図保留コマンドでない場合（ステップS3110：No）、処理をステップS3113に移行する。

【0603】

<ステップS3111及びS3112>

受信したコマンドが第1特図保留コマンドである場合（ステップS3110：Yes）、MPU51は、第1特図保留情報更新処理（ステップS3111）及び第1特図保留画像表示処理（ステップS3112）を実行し、当該コマンド判定処理を終了する。

【0604】

40

ここで、ステップS3111で実行される第1特図保留情報更新処理は、前述の特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に特図当否情報のデータ（特図データ）を追加（更新）する処理である。具体的には、第1特図保留情報更新処理では、主制御装置4のRAM412における特図保留格納エリア412bの第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4（図8参照）のうち最初の空き保留エリアに格納された特図当否情報に対応する特図データが、当該特図当否情報が格納された第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4に対応して設定される第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）に格納される。例えば、特図保留格納エリア412bにおける第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2（図8参照）に特図当否情報が格納された場合には、第2保留エリアREA2に対応して設定される第1特図第2保留エリア対応領域（図示略）に特図データが格納される。また、第1特図保留情報更新処理では、特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留数記憶エリア対応領域（図示略）に記憶される第1特図保留数Nに1加算される。

50

【0605】

一方、ステップS3112で実行される第1特図保留画像表示処理は、ステップS3112において第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に追加（更新）された特図データに基づいて、第1特図保留画像表示領域76に第1特図保留画像を追加する処理が実行される。

【0606】

ここで、図53は、第1特図保留コマンド又は第2特図保留コマンドの受信前後での図柄表示部341に表示される特図データ画像の例を示す図である。具体的には、図53（A）は第1特図保留コマンド又は第2特図保留コマンドを受信する前の特図データ画像の例を示す図であり、図53（B）は図53（A）に示す特図データ画像の表示状態において第1特図遊技に対する第1特図保留コマンドを受信した後の特図データ画像の例である。

10

【0607】

図53（A）では、当該特図変動画像が表示され、第1特図保留画像が1つ、第2特図保留画像が2つ表示された状態を示している。つまり、図53（A）に示す例では、当該特図遊技が実行中であり、第1特図遊技に対する第1特図保留数Nが1個、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが2個であることを示している。

【0608】

そして、図53（A）に示す特図データの表示状態において第1特図保留コマンドを受信した場合に実行される第1特図保留画像表示処理では、即ち第1特図遊技に対する保留が増加して2個となる場合、特図保留格納エリア対応領域における第1特図保留格納エリア対応領域の第1特図第2保留エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、図53（B）に示すように、第1特図保留画像表示領域76の第1特図第2保留画像表示領域762に第1特図保留画像を表示する。

20

【0609】

<ステップS3113>

受信したコマンドが第1特図保留コマンドでない場合（ステップS3110：No）、MPU51は、受信したコマンドが第2特図保留コマンドであるか否かを判断する（ステップS3113）。第2特図保留コマンドは、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが増加することを示す情報と、増加後の第2特図保留数Mに関する情報と、増加する第2保留に対する特図変動パターン（特図変動表示時間）及び大当たり抽選の結果に関する情報と、を含む。

30

【0610】

MPU51は、受信したコマンドが第2特図保留コマンドである場合（ステップS3113：Yes）、処理をステップS3114に移行し、受信したコマンドが第2特図保留コマンドでない場合（ステップS3113：No）、処理をステップS3116に移行する。

【0611】

<ステップS3114及びS3115>

受信したコマンドが第2特図保留コマンドである場合（ステップS3113：Yes）、MPU51は、第2特図保留情報更新処理（ステップS3114）及び第2特図保留画像表示処理（ステップS3115）を実行し、当該コマンド判定処理を終了する。

40

【0612】

ここで、ステップS3114で実行される第2特図保留情報更新処理は、前述の特図保留格納エリア対応領域の第2特図保留格納エリア対応領域（図示略）に特図当否情報のデータ（特図データ）を追加（更新）する処理である。具体的には、第2特図保留情報更新処理では、主制御装置4のRAM412における特図保留格納エリア412bの第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4（図8参照）のうち最初の空き保留エリアに格納された特図当否情報に対応する特図データが、当該特図当否情報が格納された第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4に対応して設

50

定される第2特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）に格納される。例えば、特図保留格納エリア412bにおける第2特図保留格納エリアREBの第3保留エリアREB3（図8参照）に特図当否情報が格納された場合には、第3保留エリアREB3に対応して設定される第1特図第3保留エリア対応領域（図示略）に特図データが格納される。また、第2特図保留情報更新処理では、特図保留格納エリア対応領域の第2特図保留数記憶エリア対応領域（図示略）に記憶される第2特図保留数Mに1加算される。

【0613】

一方、ステップS3115で実行される第2特図保留画像表示処理は、ステップS3114において第2特図保留格納エリア対応領域（図示略）に追加（更新）された特図データに基づいて、第2特図保留画像表示領域77に第2特図保留画像を追加する処理が実行される。

10

【0614】

ここで、図53（C）は図53（A）に示す特図データ画像の表示状態において第2特図遊技に対する第2特図保留コマンドを受信した後の特図データ画像の例である。

【0615】

図53（A）に示す特図データの表示状態において第2特図保留コマンドを受信した場合に実行される第2特図保留画像表示処理では、即ち第2特図遊技に対する保留が増加して3個となる場合、特図保留格納エリア対応領域における第2特図保留格納エリア対応領域の第2特図第3保留エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、図53（C）に示すように、第2特図保留画像表示領域77の第2特図第3保留画像表示領域773に第2特図保留画像を表示する。

20

【0616】

<ステップS3116>

受信したコマンドが第2特図保留コマンドでない場合（ステップS3113：No）、MPU51は、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3116）。大当たり遊技開始コマンドは、大当たり遊技を開始することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図29の大当たり遊技制御処理でのステップS2204において大当たり遊技を開始する場合に設定される。

【0617】

MPU51は、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドである場合（ステップS3116：Yes）、処理をステップS3117に移行し、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップS3116：No）、処理をステップS3119に移行する。

30

【0618】

<ステップS3117及びS3118>

大当たり遊技開始コマンドを受信した場合（ステップS3116：Yes）、MPU51は、大当たり遊技演出設定処理を実行すると共に（ステップS3117）、大当たり遊技中フラグをオンに設定し（ステップS3118）、当該コマンド判定処理を終了する。

【0619】

大当たり遊技演出設定処理では、大当たり遊技において実行されるオープニング演出、開閉実行モード演出（ラウンド遊技演出及びインターバル演出）及びエンディング演出を含む大当たり演出を設定する処理が実行される。

40

【0620】

また、大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技の実行中であることを示すフラグであり、後述の図54の大当たり遊技演出制御処理でのステップS3201において、大当たり遊技の実行中であるか否か、即ち大当たり遊技演出の進行を制御するか否かを判断するために参照される。

【0621】

<ステップS3119>

受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップS3116：No

50

）、MPU51は、受信したコマンドがオープニング開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3119）。オープニング開始コマンドは、大当たり遊技のオープニングを開始することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図29の大当たり遊技制御処理でのステップS2208においてオープニングを開始する場合に設定される。

【0622】

MPU51は、受信したコマンドがオープニング開始コマンドである場合（ステップS3119：Yes）、処理をステップS3120に移行し、受信したコマンドがオープニング開始コマンドでない場合（ステップS3119：No）、処理をステップS3121に移行する。

10

【0623】

<ステップS3120>

オープニング開始コマンドを受信した場合（ステップS3119：Yes）、MPU52は、オープニング演出開始フラグをオンに設定し（ステップS3120）、当該コマンド判定処理を終了する。オープニング演出開始フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を開始させるフラグであり、後述の図54の大当たり遊技演出制御処理でのステップS3202において、オープニング演出を開始させるか否かを判断するために参照される。

【0624】

<ステップS3121>

受信したコマンドがオープニング開始コマンドでない場合（ステップS3119：No）、MPU51は、受信したコマンドがオープニング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3121）。オープニング終了コマンドは、大当たり遊技のオープニングを終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図30の大当たり遊技制御処理でのステップS2214においてオープニングを終了する場合に設定される。

20

【0625】

MPU51は、受信したコマンドがオープニング終了コマンドである場合（ステップS3121：Yes）、処理をステップS3122に移行し、受信したコマンドがオープニング終了コマンドでない場合（ステップS3121：No）、処理を図48のステップS3123に移行する。

30

【0626】

<ステップS3122>

オープニング終了コマンドを受信した場合（ステップS3121：Yes）、MPU41は、オープニング演出終了フラグをオンに設定し（ステップS3122）、当該コマンド判定処理を終了する。オープニング演出終了フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を終了させるフラグであり、後述の図54の大当たり遊技演出制御処理でのステップS3205において、オープニング演出を終了させるか否かを判断するために参照される。

【0627】

<ステップS3123>

受信したコマンドがオープニング終了コマンドでない場合（ステップS3121：No）、図48に示すように、MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3123）。ラウンド遊技開始コマンドは、開閉実行モードのラウンド遊技を開始することを示すと共に、今回実行されるラウンド遊技のラウンド数を示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図30の大当たり遊技制御処理でのステップS2217において開閉実行モードのラウンド遊技を開始する場合に設定される。

40

【0628】

MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドである場合（ステップS3123：Yes）、処理をステップS3124に移行し、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドでない場合（ステップS3123：No）、処理をステップS3126

50

に移行する。

【0629】

<ステップS3124及びS3125>

ラウンド遊技開始コマンドを受信した場合（ステップS3123：Yes）、MPU51は、ラウンド遊技演出開始フラグをオンに設定し（ステップS3124）、当該ラウンド遊技が何ラウンド目であるかを示すラウンド数情報をRAM512にセットし（ステップS3125）、当該コマンド判定処理を終了する。ラウンド遊技演出開始フラグは、後述の図54の大当たり遊技演出制御処理のステップS3208において開閉実行モード演出の各ラウンド遊技演出を開始させるか否かを判断するために参照される。

【0630】

<ステップS3126>

受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドでない場合（ステップS3123：No）、MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3126）。ラウンド遊技終了コマンドは、開閉実行モードのラウンド遊技を終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図31の大当たり遊技制御処理でのステップS2229においてラウンド遊技を終了する場合に設定される。

【0631】

MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドである場合（ステップS3126：Yes）、処理をステップS3127に移行し、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドでない場合（ステップS3126：No）、処理をステップS3128に移行する。

【0632】

<ステップS3127>

ラウンド遊技終了コマンドを受信した場合（ステップS3126：Yes）、MPU51は、ラウンド遊技演出終了フラグをオンに設定し（ステップS3127）、当該コマンド判定処理を終了する。ラウンド遊技終了フラグは、後述の図54の大当たり遊技演出制御処理でのステップS3211においてラウンド遊技演出終了するか否かを判断する場合に参照される。

【0633】

<ステップS3128>

受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドでない場合（ステップS3126：No）、MPU51は、受信したコマンドがインターバル開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3128）。インターバル開始コマンドは、開閉実行モードにおけるラウンド遊技間のインターバルを開始することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図31の大当たり遊技制御処理でのステップS2233においてインターバルを開始させる場合に設定される。

【0634】

ここで、MPU51は、受信したコマンドがインターバル開始コマンドである場合（ステップS3128：Yes）、処理をステップS3129に移行し、受信したコマンドがインターバル開始コマンドでない場合（ステップS3128：No）、処理をステップS3130に移行する。

【0635】

<ステップS3129>

受信したコマンドがインターバル開始コマンドである場合（ステップS3128：Yes）、MPU51は、インターバル演出開始フラグをオンに設定し（ステップS3129）、当該コマンド判定処理を終了する。インターバル演出開始フラグは、後述の図54の大当たり遊技演出制御処理でのステップS3214においてインターバル演出を開始するか否かを判断する場合に参照される。

【0636】

10

20

30

40

50

<ステップ S 3 1 3 0>

受信したコマンドがインターバル開始コマンドでない場合（ステップ S 3 1 2 8：No）、MPU 5 1 は、受信したコマンドがインターバル終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 1 3 0）。インターバル終了コマンドは、開閉実行モードにおけるラウンド遊技間のインターバルを終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の MPU 4 1 によって実行される図 3 2 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 2 2 3 9 においてインターバルを終了させる場合に設定される。

【0637】

ここで、MPU 5 1 は、受信したコマンドがインターバル終了コマンドである場合（ステップ S 3 1 3 0：Yes）、処理をステップ S 3 1 3 1 に移行し、受信したコマンドがインターバル終了コマンドでない場合（ステップ S 3 1 3 0：No）、処理をステップ S 3 1 3 2 に移行する。

10

【0638】

<ステップ S 3 1 3 1>

受信したコマンドがインターバル終了コマンドである場合（ステップ S 3 1 3 0：Yes）、MPU 5 1 は、インターバル演出終了フラグをオンに設定し（ステップ S 3 1 3 1）、当該コマンド判定処理を終了する。インターバル演出終了フラグは、後述の図 5 4 の大当たり遊技演出制御処理でのステップ S 3 2 1 7 においてインターバル演出を終了するか否かを判断する場合に参照される。

20

【0639】

<ステップ S 3 1 3 2>

受信したコマンドがインターバル終了コマンドでない場合（ステップ S 3 1 3 0：No）、MPU 5 1 は、受信したコマンドがエンディング開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 1 3 2）。エンディング開始コマンドは、大当たり遊技におけるエンディングを開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の MPU 4 1 によって実行される図 3 1 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 2 2 4 2 においてエンディングを開始させる場合に設定される。

【0640】

ここで、MPU 5 1 は、受信したコマンドがエンディング開始コマンドである場合（ステップ S 3 1 3 2：Yes）、処理をステップ S 3 1 3 3 に移行し、受信したコマンドがエンディング開始コマンドでない場合（ステップ S 3 1 3 2：No）、処理をステップ S 3 1 3 4 に移行する。

30

【0641】

<ステップ S 3 1 3 3>

受信したコマンドがエンディング開始コマンドである場合（ステップ S 3 1 3 2：Yes）、MPU 5 1 は、エンディング演出開始フラグをオンに設定し（ステップ S 3 1 3 3）、当該コマンド判定処理を終了する。エンディング演出開始フラグは、後述の図 5 4 の大当たり遊技演出制御処理のステップ S 3 2 2 0 においてエンディング演出を開始するか否かを判断する場合に参照される。

【0642】

<ステップ S 3 1 3 4>

受信したコマンドがエンディング開始コマンドでない場合（ステップ S 3 1 3 2：No）、MPU 5 1 は、受信したコマンドがエンディング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 1 3 4）。エンディング終了コマンドは、大当たり遊技のエンディングが終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の MPU 4 1 によって実行される図 3 2 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 2 2 4 8 においてエンディングを終了させる場合に設定される。

40

【0643】

ここで、MPU 5 1 は、受信したコマンドがエンディング終了コマンドである場合（ステップ S 3 1 3 4：Yes）、処理をステップ S 3 1 3 5 に移行し、受信したコマンドが

50

エンディング終了コマンドでない場合（ステップ S 3 1 3 4 : N o）、処理をステップ S 3 1 3 6 に移行する。

【 0 6 4 4 】

<ステップ S 3 1 3 5>

受信したコマンドがエンディング終了コマンドである場合（ステップ S 3 1 3 4 : Y e s）、M P U 5 1 は、エンディング演出終了フラグをオンに設定し（ステップ S 3 1 3 5）、当該コマンド判定処理を終了する。エンディング演出終了フラグは、後述の図 5 4 の大当たり遊技演出制御処理のステップ S 3 2 2 3 においてエンディング演出を終了するか否かを判断する場合に参照される。

【 0 6 4 5 】

<ステップ S 3 1 3 6>

受信したコマンドがエンディング終了コマンドでない場合（ステップ S 3 1 3 4 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 1 3 6）。大当たり遊技終了コマンドは、大当たり遊技を終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 2 9 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 2 2 5 0 において大当たり遊技を終了する場合に設定される。

【 0 6 4 6 】

ここで、M P U 5 1 は、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドである場合（ステップ S 3 1 3 6 : Y e s）、処理をステップ S 3 1 3 7 に移行し、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 3 1 3 6 : N o）、処理をステップ S 3 1 3 9 に移行する。

【 0 6 4 7 】

<ステップ S 3 1 3 7>

受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドである場合（ステップ S 3 1 3 6 : Y e s）、M P U 5 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 1 3 7）、当該コマンド判定処理を終了する。

【 0 6 4 8 】

<ステップ S 3 1 3 8>

受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 3 1 3 6 : N o）、M P U 5 1 は、主制御装置 4 から受信したその他のコマンドに基づく処理を実行し（ステップ S 3 1 3 8）、当該コマンド判定処理を終了する。

【 0 6 4 9 】

〔大当たり遊技演出制御処理〕

次に、図 4 2 の副タイマ割込処理のステップ S 2 7 0 5 で実行される大当たり遊技演出制御処理の手順の一例を説明する。大当たり遊技演出制御処理では、図 4 7 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定される大当たり遊技演出に基づいて、大当たり遊技の進行に応じて大当たり遊技演出を制御する処理が実行される。ここで、図 5 4 は、大当たり遊技演出制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 5 4 を参照しつつ大当たり遊技演出制御処理を説明する。

【 0 6 5 0 】

<ステップ S 3 2 0 1>

図 5 4 に示すように、大当たり遊技演出制御処理では、まず M P U 5 1 は、大当たり遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 2 0 1）。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技の実行中であることを示すフラグであり、図 4 7 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 1 8 において、大当たり遊技開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、大当たり遊技の実行中であるか否かを判断する。

【 0 6 5 1 】

M P U 5 1 は、大当たり遊技中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 0

10

20

30

40

50

1 : Yes)、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップ S 3 2 0 2 に移行する。一方、MP U 5 1 は、大当たり遊技中フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 1 : No)、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【0652】

<ステップ S 3 2 0 2>

大当たり遊技中フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 1 : Yes)、即ち大当たり遊技の実行中である場合、MP U 5 1 は、オープニング演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 3 2 0 2) をプニング演出開始フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を開始させるフラグであり、図 47 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 2 0 において、オープニング開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MP U 5 1 は、オープニング演出を開始するタイミングであるか否かを判断する。

10

【0653】

MP U 5 1 は、オープニング演出開始フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 2 : Yes)、即ちオープニング演出を開始するタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 0 3 に移行する。一方、MP U 5 1 は、オープニング演出開始フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 2 : No)、即ちオープニング演出を開始するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 2 0 5 に移行する。

20

【0654】

<ステップ S 3 2 0 3 及び S 3 2 0 4>

オープニング演出開始フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 2 : Yes)、即ちオープニング演出を開始するタイミングである場合、MP U 5 1 は、図 47 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定されるオープニング演出を開始させる処理を実行する (ステップ S 3 2 0 3)。そして、MP U 5 1 は、オープニング演出開始フラグをオフに設定し (ステップ S 3 2 0 4)、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【0655】

<ステップ S 3 2 0 5>

オープニング演出開始フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 2 : No)、即ちオープニング演出を開始するタイミングでない場合、MP U 5 1 は、オープニング演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 3 2 0 5) をプニング演出終了フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を終了させるフラグであり、図 47 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 2 2 において、オープニング終了コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MP U 5 1 は、オープニング演出を終了するタイミングであるか否かを判断する。

30

【0656】

MP U 5 1 は、オープニング演出終了フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 5 : Yes)、即ちオープニング演出を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 0 6 に移行する。一方、MP U 5 1 は、オープニング演出終了フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 5 : No)、即ちオープニング演出を終了するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 2 0 8 に移行する。

40

【0657】

<ステップ S 3 2 0 6 及び S 3 2 0 7>

オープニング演出終了フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 3 2 0 5 : Yes)、即ちオープニング演出を終了するタイミングである場合、MP U 5 1 は、オープニング演出を終了させる処理を実行する (ステップ S 3 2 0 6)。そして、MP U 5 1 は、オープニング演出終了フラグをオフに設定し (ステップ S 3 2 0 7)、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【0658】

50

<ステップ S 3 2 0 8>

オープニング演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 0 5 : N o）、即ちオープニング演出を終了するタイミングでない場合、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 2 0 8）。ラウンド遊技演出開始フラグは、大当たり遊技のラウンド遊技演出を開始させるフラグであり、図 4 8 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 2 4 において、ラウンド遊技開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出を開始するタイミングであるか否かを判断する。

【0 6 5 9】

M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 0 8 : Y e s）、即ちラウンド遊技演出を開始するタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 0 9 に移行する。一方、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 0 8 : N o）、即ちラウンド遊技演出を開始するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 2 1 1 に移行する。

10

【0 6 6 0】

<ステップ S 3 2 0 9 及び S 3 2 1 0>

ラウンド遊技演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 0 8 : Y e s）、即ちラウンド遊技演出を開始するタイミングである場合、M P U 5 1 は、図 4 7 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定される大当たり遊技演出のラウンド遊技演出を開始させる処理を実行する（ステップ S 3 2 0 9）。そして、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出開始フラグをオフに設定し（ステップ S 3 2 1 0）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

20

【0 6 6 1】

<ステップ S 3 2 1 1>

ラウンド遊技演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 0 8 : N o）、即ちラウンド遊技演出を開始するタイミングでない場合、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 2 1 1）。ラウンド遊技演出終了フラグは、大当たり遊技のラウンド遊技演出を終了させるフラグであり、図 4 8 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 2 7 において、ラウンド遊技終了コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出を終了するタイミングであるか否かを判断する。

30

【0 6 6 2】

M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 1 : Y e s）、即ちラウンド遊技演出を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 1 2 に移行する。一方、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 1 : N o）、即ちラウンド遊技演出を終了するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 2 1 4 に移行する。

【0 6 6 3】

<ステップ S 3 2 1 2 及び S 3 2 1 3>

ラウンド遊技演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 1 : Y e s）、即ちラウンド遊技演出を終了するタイミングである場合、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出を終了させる処理を実行する（ステップ S 3 2 1 2）。そして、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグをオフに設定し（ステップ S 3 2 1 3）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

40

【0 6 6 4】

<ステップ S 3 2 1 4>

ラウンド遊技演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 1 : N o）、即ちラウンド遊技演出を終了するタイミングでない場合、M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 2 1 4）。インターバル演出開始フラグは、大当たり遊技のインターバル演出を開始させるフラグであ

50

り、図 48 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 2 9 において、インターバル開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出を開始するタイミングであるか否かを判断する。

【0665】

M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 4 : Y e s ）、即ちインターバル演出を開始するタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 1 5 に移行する。一方、M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 4 : N o ）、即ちインターバル演出を開始するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 2 1 7 に移行する。

【0666】

<ステップ S 3 2 1 5 及び S 3 2 1 6 >

インターバル演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 4 : Y e s ）、即ちインターバル演出を開始するタイミングである場合、M P U 5 1 は、図 47 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定される大当たり遊技演出のインターバル演出を開始させる処理を実行する（ステップ S 3 2 1 5 ）。そして、M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグをオフに設定し（ステップ S 3 2 1 6 ）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【0667】

<ステップ S 3 2 1 7 >

インターバル演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 4 : N o ）、即ちインターバル演出を開始するタイミングでない場合、M P U 5 1 は、インターバル演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 2 1 7 ）。インターバル演出終了フラグは、大当たり遊技のインターバル演出を終了させるフラグであり、図 48 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 3 1 において、インターバル終了コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、インターバル演出を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【0668】

M P U 5 1 は、インターバル演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 7 : Y e s ）、即ちインターバル演出を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 1 8 に移行する。一方、M P U 5 1 は、インターバル演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 7 : N o ）、即ちインターバル演出を終了するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 2 2 0 に移行する。

【0669】

<ステップ S 3 2 1 8 及び S 3 2 1 9 >

インターバル演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 7 : Y e s ）、即ちインターバル演出を終了するタイミングである場合、M P U 5 1 は、インターバル演出を終了させる処理を実行する（ステップ S 3 2 1 8 ）。そして、M P U 5 1 は、インターバル演出終了フラグをオフに設定し（ステップ S 3 2 1 9 ）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【0670】

<ステップ S 3 2 2 0 >

インターバル演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 2 1 7 : N o ）、即ちインターバル演出を終了するタイミングでない場合、M P U 5 1 は、エンディング演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 2 2 0 ）。エンディング演出開始フラグは、大当たり遊技のエンディング演出を開始させるフラグであり、図 48 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 3 3 において、エンディング開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、エンディング演出を開始するタイミングであるか否かを判断する。

【0671】

M P U 5 1 は、エンディング演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S

10

20

30

40

50

3 2 2 0 : Y e s)、即ちエンディング演出を開始するタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 2 1 に移行する。一方、M P U 5 1 は、エンディング演出開始フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 3 2 2 0 : N o)、即ちエンディング演出を開始するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 2 2 3 に移行する。

【 0 6 7 2 】

<ステップ S 3 2 2 1 及び S 3 2 2 2 >

エンディング演出開始フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 3 2 2 0 : Y e s)、即ちエンディング演出を開始するタイミングである場合、M P U 5 1 は、図 4 7 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定される大当たり遊技演出のエンディング演出を開始させる処理を実行する (ステップ S 3 2 2 1)。そして、M P U 5 1 は、エンディング演出開始フラグをオフに設定し (ステップ S 3 2 2 2)、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【 0 6 7 3 】

<ステップ S 3 2 2 3 >

エンディング演出開始フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 3 2 2 0 : N o)、即ちエンディング演出を開始するタイミングでない場合、M P U 5 1 は、エンディング演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 3 2 2 3)。エンディング演出終了フラグは、大当たり遊技のエンディング演出を終了させるフラグであり、図 4 8 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 3 5 において、エンディング終了コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、エンディング演出を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【 0 6 7 4 】

M P U 5 1 は、エンディング演出終了フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 3 2 2 3 : Y e s)、即ちエンディング演出を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 2 4 に移行する。一方、M P U 5 1 は、エンディング演出終了フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 3 2 2 3 : N o)、即ちエンディング演出を終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【 0 6 7 5 】

<ステップ S 3 2 2 4 及び S 3 2 2 5 >

エンディング演出終了フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 3 2 2 3 : Y e s)、即ちエンディング演出を終了するタイミングである場合、M P U 5 1 は、エンディング演出を終了させる処理を実行する (ステップ S 3 2 2 4)。そして、M P U 5 1 は、エンディング演出終了フラグをオフに設定し (ステップ S 3 2 2 5)、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【 0 6 7 6 】

〔他の実施形態〕

以下、本発明に係る遊技機 1 0 の他の実施形態について説明する。また、下記の他の実施形態において、前述の第 1 の実施形態で説明した遊技機 1 0 と同様の構成、及び処理手順と同様のステップについては説明を省略する。なお、前述の第 1 の実施形態及び下記の他の実施形態の各構成及び各処理機能を取捨選択して任意に組み合わせることも可能である。

【 0 6 7 7 】

〔第 2 の実施形態〕

本遊技機は、本発明の具体的な構成として、第 1 数値情報設定手段及び第 2 数値情報設定手段としての「数値記憶処理」を備え、また減算手段としての「減算処理」を備え、また特定演出としての「表示演出」を備え、また演出表示手段としての「演出表示処理」を備え、また特定遊技状態及び所定遊技状態としての「遊技状態」を備え、また更新手段としての「更新処理」を備え、また特定対応表示としての「対応表示」を備える。

【 0 6 7 8 】

第 1 数値情報設定手段及び第 2 数値情報設定手段は、遊技に関する各種数値情報を設定

10

20

30

40

50

(記憶) する処理であればよい。第1数値情報設定手段及び第2数値情報設定手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば始動入賞により取得される各種カウンタの値に対応する数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第1入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第1特図大当たり抽選により取得される各種カウンタの値に対応する数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第2入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第2特図大当たり抽選により取得される各種カウンタの値に対応する数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第1特図遊技に対する第1特図の変動表示時間に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第2特図遊技に対する第2特図の変動表示時間に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第1特図遊技によって報知される大当たり抽選の結果に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第2特図遊技によって報知される大当たり抽選の結果に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、普図当たり抽選により取得される各種カウンタの値に対応する数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、普図遊技に対する普図の変動表示時間に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、普図遊技によって報知される普図当たり抽選の結果に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、大当たり遊技でのラウンド遊技回数に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、高サポートモード(第2入賞口に設けられる電動役物の作動頻度又は作動確率が高い状態)での特図遊技の最大実行回数に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、大当たり遊技の終了後に移行される高サポートモードであるa時短遊技状態での特図遊技の最大実行回数に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、大当たり遊技の終了後から特定回数の特図遊技の実行により移行される高サポートモードであるb時短遊技状態での特図遊技の最大実行回数に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである特図遊技の終了後に移行される高サポートモードであるc時短遊技状態での特図遊技の最大実行回数に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、b時短遊技状態に移行されるまでの必要な残りの特図遊技回数に対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第1特図遊技を実行する権利の保留数である第1特図保留数Nに対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mに対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、普図遊技を実行する権利の保留数である普図変動保留数Xに対応した数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、表示装置に表示される第1特図保留数Nに対応する数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、表示装置に表示される第2特図保留数Mに対応する数値情報を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、表示装置に表示される普図変動保留数Xに対応する数値情報を設定する処理、第1特図保留数Nに対応した第1特図保留画像の表示装置での表示数を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、第2特図保留数Mに対応した第2特図保留画像の表示装置での表示数を所定の記憶領域に設定(記憶)する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【0679】

減算手段は、各種数値情報を減算する処理であればよい。減算手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば第1特図遊技での第1特図の変動表示時間に対応した数値情報を減算する処理、第2特図遊技での第2特図の変動表示時間に対応した数値情報を減算する処理、普図遊技での普図の変動表示時間に対応した数値情報を減算する処理、大当たり遊技でのラウンド遊技回数に対応した数値情報を減算する処理、高サポートモードでの特図遊技の最大実行回数に対応した数値情報を減算する処理、a時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技の最大回数に対応した数値情報を減算する処理、b時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技の最大回数に対応した数値情報を減算する処理、c時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技の最大回数に対応した数値情報を減算する処理、b時短遊技状態に移行されるまでの必要な残りの特図遊技回数に対応した数値情報を減算する処理、第1特図遊技を実行する権利の保留数である第1特図保留数Nに

応した数値情報を減算する処理、第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mに対応した数値情報を減算する処理、普図遊技を実行する権利の保留数である普図変動保留数Xに対応した数値情報を減算する処理、表示装置に表示される第1特図保留数Nに対応する数値情報を減算する処理、表示装置に表示される第2特図保留数Mに対応する数値情報を減算する処理、表示装置に表示される普図変動保留数Xに対応する数値情報を減算する処理、第1特図保留数Nに対応した第2特図保留画像の表示装置での表示数を減算する処理、第2特図保留数Mに対応した第2特図保留画像の表示装置での表示数を減算する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【0680】

更新手段は、各種数値情報を更新する処理であればよい。更新手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば大当たり抽選により取得される各種カウンタの値に対応する数値情報を記憶する所定の記憶領域での数値情報を更新する処理、第1特図遊技での第1特図の変動表示時間に対応した数値情報を更新する処理、第2特図遊技での第2特図の変動表示時間に対応した数値情報を更新する処理、普図遊技での普図の変動表示時間に対応した数値情報を更新する処理、大当たり遊技でのラウンド遊技回数に対応した数値情報を更新する処理、高サポートモードでの特図遊技の最大実行回数に対応した数値情報を更新する処理、a時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技の最大回数に対応した数値情報を更新する処理、b時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技の最大回数に対応した数値情報を更新する処理、c時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技の最大回数に対応した数値情報を更新する処理、b時短遊技状態に移行されるまでの必要な残りの特図遊技回数に対応した数値情報を更新する処理、第1特図遊技を実行する権利の保留数である第1特図保留数Nに対応した数値情報を更新する処理、第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mに対応した数値情報を更新する処理、普図遊技を実行する権利の保留数である普図変動保留数Xに対応した数値情報を更新する処理、表示装置に表示される第1特図保留数Nに対応する数値情報を更新する処理、表示装置に表示される第2特図保留数Mに対応する数値情報を更新する処理、表示装置に表示される普図変動保留数Xに対応する数値情報を更新する処理、第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mに対応した第2特図保留画像の表示装置での表示数を更新する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【0681】

特定演出は、所定の遊技状態において実行される演出であればよい。特定演出としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば第1特図遊技の実行中に実行される演出、第2特図遊技の実行中に実行される演出、大当たり遊技の実行中に実行される演出、小当たり遊技の実行中に実行される演出、普図遊技の実行中に実行される演出、普図当たり遊技の実行中に実行される演出、低サポートモード（第2入賞口に設けられる電動役物の作動頻度又は確率が低い状態）の実行中に実行される演出、高サポートモードの実行中に実行される演出、大当たり遊技が発生し易い状態において実行される演出、大当たり抽選での抽選結果が遊技者に有利な大当たりなる確率の高い状態において実行される演出、小当たり遊技が発生し易い状態において実行される演出、大当たり抽選での抽選結果が遊技者に有利な小当たりなる確率の高い状態において実行される演出、a時短遊技状態の実行中に実行される演出、b時短遊技状態の実行中に実行される演出、c時短遊技状態の実行中に実行される演出、通常遊技状態での第1特図遊技の実行中に実行される演出、通常遊技状態での第2特図遊技の実行中に実行される演出、a時短遊技状態での第1特図遊技の実行中に実行される演出、a時短遊技状態での第2特図遊技の実行中に実行される演出、b時短遊技状態での第1特図遊技の実行中に実行される演出、b時短遊技状態での第2特図遊技の実行中に実行される演出、c時短遊技状態での第1特図遊技の実行中に実行される演出、c時短遊技状態での第2特図遊技の実行中に実行される演出、通常遊技状態において第1入賞口に遊技球が入球することを契機として実行される第1特図遊技の実行中に実行される演出、通常遊技状態において第2入賞口に遊技球が入球することを契機として実行される第2特図遊技の実行中に実行される演出、a時短遊技状態において第1入賞口に遊

技球が入球することを契機として実行される第1特図遊技の実行中に実行される演出、a時短遊技状態において第2入賞口に遊技球が入球することを契機として実行される第2特図遊技の実行中に実行される演出、b時短遊技状態において第1入賞口に遊技球が入球することを契機として実行される第1特図遊技の実行中に実行される演出、b時短遊技状態において第2入賞口に遊技球が入球することを契機として実行される第2特図遊技の実行中に実行される演出、c時短遊技状態において第1入賞口に遊技球が入球することを契機として実行される第1特図遊技の実行中に実行される演出、c時短遊技状態において第2入賞口に遊技球が入球することを契機として実行される第2特図遊技の実行中に実行される演出、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【0682】

演出表示手段は、所定の遊技状態において演出を表示する処理であればよい。演出表示手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば第1特図遊技に対する演出を表示する処理、第2特図遊技に対する演出を表示する処理、大当たり遊技に対する演出を表示する処理、小当たり遊技に対する演出を表示する処理、普図遊技に対する演出を表示する処理、普図当たり遊技に対する演出を表示する処理、低サポートモードに対する演出を表示する処理、高サポートモードに対する演出を表示する処理、大当たり遊技が発生し易い状態において演出を表示する処理、大当たり抽選での抽選結果が遊技者に有利な大当たりなる確率の高い状態において演出を表示する処理、小当たり遊技が発生し易い状態において演出を表示する処理、大当たり抽選での抽選結果が遊技者に有利な小当たりなる確率の高い状態において演出を表示する処理、a時短遊技状態において演出を表示する処理、b時短遊技状態において演出を表示する処理、c時短遊技状態において演出を表示する処理、通常遊技状態において演出を表示する処理、通常遊技状態において演出を表示する処理、a時短遊技状態での第1特図遊技に対して演出を表示する処理、a時短遊技状態での第2特図遊技に対して演出を表示する処理、b時短遊技状態での第1特図遊技に対して演出を表示する処理、b時短遊技状態での第2特図遊技に対して演出を表示する処理、c時短遊技状態での第1特図遊技に対して演出を表示する処理、c時短遊技状態での第2特図遊技に対して演出を表示する処理、通常遊技状態において第1入賞口に遊技球が入球することを契機として実行される第1特図遊技に対して演出を表示する処理、通常遊技状態における第2入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第2特図遊技に対して演出を表示する処理、a時短遊技状態における第1入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第1特図遊技に対して演出を表示する処理、a時短遊技状態における第2入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第2特図遊技に対して演出を表示する処理、b時短遊技状態における第1入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第1特図遊技に対して演出を表示する処理、b時短遊技状態における第2入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第2特図遊技に対して演出を表示する処理、c時短遊技状態における第1入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第1特図遊技に対して演出を表示する処理、c時短遊技状態における第2入賞口への遊技球の入球を契機として実行される第2特図遊技に対して演出を表示する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【0683】

特定遊技状態は、複数種の遊技のうちの特定遊技を実行可能な遊技状態であればよい。特定遊技状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば第1特図遊技を実行可能な遊技状態、第1特図遊技を実行可能な権利が保留された状態、第2特図遊技を実行可能な遊技状態、第2特図遊技を実行可能な権利が保留された状態、第2特図遊技を実行可能な遊技状態、大当たり遊技を実行可能な遊技状態、小当たり遊技を実行可能な遊技状態、普図遊技を実行可能な遊技状態、普図当たり遊技を実行可能な遊技状態、低サポートモードである遊技状態、低サポートモードかつ大当たり確率が低い低確率モードである通常遊技状態、高サポートモードである遊技状態、高サポートモードかつ大当たり確率が高い高確率モードである確変遊技状態、高サポートモードかつ低確率モードである時短遊技状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態、c時短遊技状態、大当たり遊技が発生し易い遊技状態、大当たり抽選での抽選結果が遊技者に有利な大当たりなる確率の高い遊技状態、小

10

20

30

40

50

当たり遊技が発生し易い遊技状態、大当たり抽選での抽選結果が遊技者に有利な小当たりなる確率の高い遊技状態、遊技盤の左側領域への遊技球の打ち出し（いわゆる左打ち）が奨励される遊技状態、遊技盤の右側領域への遊技球の打ち出し（いわゆる右打ち）が奨励される遊技状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【0684】

特定対応表示は、各種数値情報に対応した表示であればよい。特定対応表示としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば大当たり遊技でのラウンド遊技数に対応した表示、当該大当たり遊技での出玉に対応した表示、大当たり連荘回数に対応した表示、大当たり連荘中の総出玉に対応した表示、確変遊技状態において実行可能な残りの特図遊技回数に対応した表示、通常遊技状態におけるb時短遊技状態に移行されるまでに必要な残り特図遊技回数に対応する表示、時短遊技状態において実行可能な残り特図遊技回数に対応する表示、a時短遊技状態において実行可能な残り特図遊技回数に対応する表示、b時短遊技状態において実行可能な残り特図遊技回数に対応する表示、c時短遊技状態において実行可能な残り特図遊技回数に対応する表示、大当たり遊技が発生し易い状態において実行可能な残り特図遊技回数に対応する表示、大当たり抽選での抽選結果が遊技者に有利な大当たりなる確率の高い状態において実行可能な残り特図遊技回数に対応する表示、小当たり遊技が発生し易い状態において実行可能な残り特図遊技回数に対応する表示、大当たり抽選での抽選結果が遊技者に有利な小当たりなる確率の高い状態において実行可能な残り特図遊技回数に対応する表示、第1特図遊技を実行する権利の保留数である第1特図保留数Nに対応した表示、第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mに対応した表示、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

【0685】

ところで、遊技機には、発生条件及び遊技価値の異なる複数種類の遊技状態が設けられている。そして、各遊技状態である旨を報知している。各遊技状態は、各々重複せずに単独で成立するものが多いが、種類によっては重複して発生することもあり得る。例えば、従来では、より価値の低い遊技状態中に条件を満たすことで、より価値の高い遊技状態に移行するものがあった。この場合には、遊技者にとって好ましい遊技状態の移行であるので、遊技状態が移行することに基づいて報知を切り替えている。

【0686】

しかしながら、ある遊技状態中に、それよりも価値が低い遊技状態が発生した場合は、発生して価値の低い遊技状態に報知を切り替えることが必ずしも遊技者の希望とは限らない。そのため、遊技状態の重複時の報知制御を好適に行うことが望まれる。

30

【0687】

そして、遊技機としては、第1特図遊技を実行する契機を与える第1入賞口と、第2特図遊技を実行する契機を与える第2入賞口とを備えるものがあり、第2入賞口には、電動役物315bが設けられることで、第2入賞口への遊技球の入球が制限させる状態と許容される状態とが切り替えられる。この場合の遊技状態としては、電動役物315bの作動頻度又は作動確率が低い低サポートモードと、電動役物315bの作動頻度又は作動確率が高い高サポートモードとが設定される。そして、遊技状態としては、大当たり確率が低く、かつ低サポートモードである通常遊技状態と、大当たり確率が低く、かつ高サポートモードである時短遊技状態とが設定されることがある。また、時短遊技状態としては、大当たり遊技の終了後に移行され得るa時短遊技状態の他に、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである場合に移行されるc時短遊技状態が設定されることがある。

40

【0688】

一方、遊技機では、遊技状態や遊技状況に応じた各種演出が実行される。例えば、大当たり遊技の終了後には、大当たり遊技が連荘し易い有利な状態であることを明示する演出（例えばRUSH演出）が実行されることがある。RUSH演出などでは、バトル演出やミッション演出などの所定の演出によって大当たり抽選結果が報知される。また、c時短遊技状態ではc時短遊技状態であることを明示するc時短遊技状態演出が実行される。c時短遊技状態演出では、c時短遊技状態に固有の背景画像やc時短遊技状態であることを

50

示す画像が表示され、その他にc時短遊技状態での残りの特図遊技回数を示す画像などが表示される。

【0689】

しかしながら、RUSH演出の実行中にc時短遊技状態に移行することがある。この場合、c時短遊技状態に対するc時短遊技状態演出をRUSH演出よりも優先して実行すると、RUSH演出が途中で終了してc時短遊技状態演出に切り替えられてしまう。そのため、バトル演出やミッション演出などのRUSH演出において、大当たり抽選結果の結果を確認することができなくなる。その結果、RUSH演出の実行中にc時短遊技状態演出に切り替えられると、RUSH演出が形骸化されてしまい、遊技の興味が低下することが懸念される。

10

【0690】

これに対して、本発明では、特定演出を実行中の第2遊技回動作の実行中において特定条件が成立した場合であっても、特定対応表示が開始されない。また、本発明では、特定演出を実行中の第2遊技回動作の実行中において更新条件が成立した場合であっても、更新後の特定対応表示が開始されない。このように、特定演出を実行中の第2遊技回動作の実行中において特定条件又は更新条件が成立した場合、特定対応表示が開始されないことで、特定演出を実行中の第2遊技回動作の実行中において特定条件又は更新条件が成立した場合であっても、特定対応表示によって特定演出が途中で終了されることが防止されるため、特定演出が途中で終了されることに起因する遊技の興味の低下が防止される。

【0691】

一方、本発明では、特定演出の終了に基づいて、特定演出の終了の時点での第2計数手段の第2数値情報に対応した特定対応表示が開始される。このように、特定演出の終了の時点での第2計数手段の第2数値情報に対応した特定対応表示が開始されることで、特定演出を途中で終了させることなく特定対応表示を開始させることができるため、特定対応表示が開始されないことに起因する遊技の興味の低下が防止される。

20

【0692】

具体的には、本実施形態では、時短大当たり遊技の終了後に移行するa時短遊技状態において、第2入球手段としての第2入賞口315への遊技球に基づいて実行される第2遊技回動作としての第2特図遊技を実行する権利に対する第2保留の数に対応する第1数値情報としての第2特図保留数Mが、数値記憶処理としての始動入賞処理でのステップS1108（図63参照）において、第1計数手段としての第2特図保留数記憶エリアNABに設定され、減算条件としての当該第2特図保留に対する第2特図遊技の開始に基づき、減算処理としての特図データ設定処理でのステップS3806（図72参照）において、第2特図保留数記憶エリアNABに設定された第2特図保留数Mが減算される。また、本実施形態では、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球に基づいて実行される第2特図遊技に対して、表示演出としてのRUSH演出が、演出表示処理としての変動種別（演出パターン）設定処理において設定される。

30

【0693】

さらに、本実施形態では、特定条件としての大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れであることを報知する特図遊技の終了に基づき、遊技状態としてのc時短遊技状態に移行され、c時短遊技状態において実行可能な最大の特図遊技回数に対応する第2数値情報が、数値記憶処理としての遊技状態の移行処理でのステップS4211（図80参照）において、第2計数手段としてのc時短回数カウンタに設定される。また、本実施形態では、c時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技の回数が、更新条件としての特図遊技の開始に基づき、特図遊技制御処理でのステップS3724（図71参照）において更新され、更新後のc時短回数カウンタの値に基づいて、対応表示としての残りのc時短遊技回数表示（演出）を実行可能である。

40

【0694】

そして、本実施形態では、大当たり遊技の終了後に移行するa時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球に基づいて実行される第2特図遊技に対して、演出表示処理として

50

の変動種別（演出パターン）設定処理において表示演出としての R U S H 演出の実行中に、大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであることに基づいて、遊技状態としての c 時短遊技状態に移行される場合、R U S H 演出の実行中は c 時短遊技状態での対応表示としての残りの c 時短遊技回数表示（演出）が実行されない。このように、R U S H 演出中に c 時短遊技状態に移行される場合、R U S H 演出の実行中は c 時短遊技状態での残りの c 時短遊技回数表示（演出）が実行されないことで、R U S H 演出中に大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであることに基づいて c 時短遊技状態に移行される場合であっても、残りの c 時短遊技回数表示（演出）によって R U S H 演出が途中で終了されることが防止されるため、R U S H 演出が途中で終了されることに起因する遊技の興趣の低下が防止される。

【0695】

10

また、本実施形態では、表示演出としての R U S H 演出の実行中に遊技状態としての c 時短遊技状態に移行した場合、R U S H 演出の終了後に残りの c 時短遊技回数表示（演出）が実行される。そのため、本実施形態では、R U S H 演出の終了に基づいて、R U S H 演出の終了の時点での c 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数の表示が開始される。このように、R U S H 演出の終了に基づいて、R U S H 演出の終了の時点での c 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数の表示が開始されることで、R U S H 演出を途中で終了させることなく、c 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数の表示が開始させることができるため、c 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数の表示が開始されないことに起因する遊技の興趣の低下が防止される。

【0696】

20

以下、本実施形態について、図 55～図 92 を参照して前述の第 1 の実施形態との相違点を中心に説明する。但し、本実施形態において重要な事項については、前述の第 1 の実施形態において既に説明している場合であっても改めて説明することがある。

【0697】

〔遊技機 10 の構成〕

まず、図 55～図 57 を参照しつつ、遊技機 10 の構成について説明する。ここで、図 55 は本実施形態に係る遊技機 10 の遊技盤 31 の一例を示す正面図であり、図 56 及び図 57 は、図 55 に示す遊技盤 31 に設けられる羽役物装置 83 の要部を示す断面図である。

【0698】

30

〔スルーゲート 317R〕

図 55 に示すように、本実施形態に係る遊技機 10 では、遊技盤 31 の右側領域にのみスルーゲート 317R が設けられ、遊技盤 31 の左側領域にはスルーゲートが設けられていない。ここで、前述の第 1 の実施形態において説明したように、第 2 入賞口 315 には、遊技盤 31 の右側領域に遊技球を打ち出された遊技球が入球可能である。また、第 2 入賞口 315 には、第 2 入賞口 315 への遊技球の入球が制限させる状態と許容される状態とを切り替える電動役物 315b が設けられている。そして、電動役物 315b は、スルーゲート 317R を遊技球が通過することを契機として実行される普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合に作動される（図 68 及び図 69 参照）。そのため、電動役物 315b を作動させて遊技球を第 2 入賞口 315 に入球させるためには、遊技盤 31 の右側領域に遊技球を打ち出す右打ちを行う必要がある。なお、本実施形態では、遊技盤 31 の左側領域にスルーゲートが設けられていないため、前述の第 1 の実施形態の図 20 のスルーゲート処理において、ステップ S1301 が省略される。

【0699】

40

〔羽役物装置 83〕

本実施形態に係る遊技機 10 は、前述の第 1 の実施形態とは異なり、ループ確変機ではなく 1 種 2 種混合機として構成されており、遊技盤 31 の右側領域に設けられた羽役物装置 83 を備える。羽役物装置 83 は、第 2 特図遊技における大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行される小当たり遊技において作動されるものであり、小当たり遊技での後述の V 入賞口 833 への遊技球の入球による 2 種大当たり遊技の実行の契機を与える

50

ものである。

【0700】

羽役物装置83は、可変入賞口316の上方かつ図柄表示部341の右側に設けられている。図83に示すように、羽役物装置83は、遊技球99を羽役物装置83の内部に導入する導入口831、及びこの導入口831を閉鎖する閉鎖位置（図56の実線の位置）と導入口831を開放する開放位置（図56の一点鎖線の位置）との間で、ソレノイド（不図示）等の駆動手段によって回動される可動羽部832を有する。可動羽部832が待機位置にあることで可動羽部832によって導入口831が閉鎖された状態では、遊技球99が羽役物装置83の内部に導入されることはない。一方、図57（A）及び図57（B）に示すように、可動羽部832が開放位置にあることで導入口831が開放された状態では、可動羽部832によって遊技球99の受け取りが可能である。可動羽部832によって受け取られた遊技球99は、導入口831を介して羽役物装置83の内部に導入され得る。可動羽部832は、第2入賞口315の入賞を契機とする大当たり抽選での抽選結果が小当たり（図61（A）参照）である場合に開放位置に作動され、導入口831を所定時間、例えば羽役物装置83に1～3個の遊技球99が入球する時間（1.8秒以下）だけ開放する。もちろん、小当たり時の導入口831の開放時間は、適宜設定すればよく、先に示した時間には限定されない。

10

【0701】

羽役物装置83の内部には、V入賞口833、通常入賞口834及びV入賞口開閉部835が設けられている。V入賞口833及び通常入賞口834には、それぞれ入球センサ（不図示）が設けられており、これらの入球センサによってV入賞口833又は通常入賞口834に遊技球が入賞したことが検知される。V入賞口開閉部835は、V入賞口833を閉鎖状態とする閉鎖位置（図57（A）参照）とV入賞口833を開放する開放位置（図57（B）参照）との間で、ソレノイド（不図示）等の駆動手段によって回動される。V入賞口開閉部835は、通常はV入賞口833を閉鎖する閉鎖位置で待機しており、大当たり抽選での抽選結果が小当たりである場合に、所定のタイミングで作動されることで、V入賞口833が開放される。

20

【0702】

〔遊技機10のシステム構成〕

次に、図58～図62を参照しつつ、本実施形態の遊技機10の主制御装置4において使用される各種テーブル等について説明する。

30

【0703】

〔普図当たり当否テーブル等〕

ここで、図58は、普図当たり当否テーブル等の一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり当否テーブルとして、図58（A）に示す通常遊技状態普図当たり当否テーブルと、図58（B）に示す時短遊技状態普図当たり当否テーブルとの2種類が設定されている。即ち、本実施形態では、後述のように、通常遊技状態と、時短遊技状態とで、普図当たり確率が異なり、時短遊技状態のほうが通常遊技状態よりも普図当たり確率が高く設定されている。

【0704】

図58（A）に示す通常遊技状態普図当たり当否テーブルは、第2入賞口315に設けられる電動役物315bの作動頻度又は作動確率が低い低サポートモードである通常遊技状態における普図当たり抽選で使用されるテーブルである。図58（A）に示すように、通常遊技状態普図当たり当否テーブルでは、普図当たり乱数カウンタC4の値が0の場合に普図当たり、普図当たり乱数カウンタC4の値が1～299の場合に外れに設定されている。つまり、通常遊技状態（低サポートモード）は、普図当たり抽選における普図当たり確率が $1/300$ に設定されており、第2入賞口315が開放され難い低利益状態である。

40

【0705】

図58（B）に示す時短遊技状態普図当たり当否テーブルは、第2入賞口315に設け

50

られる電動役物 3 1 5 b の作動頻度又は作動確率が高い高サポートモードである時短遊技状態における普図当たり抽選で使用されるテーブルである。図 5 8 (B) に示すように、時短遊技状態普図当たり当否テーブルでは、通常遊技状態普図当たり当否テーブルとは逆に、普図当たり乱数カウンタ C 4 の値が 0 の場合に外れ、普図当たり乱数カウンタ C 4 の値が 1 ~ 2 9 9 の場合に普図当たりに設定されている。つまり、時短遊技状態（高サポートモード）では、普図当たり抽選における普図当たり確率が $299 / 300$ に設定され、通常遊技状態（低サポートモード）よりも普図当たり確率が高く設定されていると共に、第 2 入賞口 3 1 5 が開放され易い高利益状態である。

【0706】

このように、低サポートモードである遊技状態は、第 2 入賞口 3 1 5 が開放され難いため、第 2 入賞口 3 1 5 が開放されることにより遊技者が特段の利益を得る可能性が低い。

10

【0707】

なお、本実施形態では、後述のように時短遊技状態として、大当たり遊技の終了後に移行される a 時短遊技状態と、大当たり遊技の終了後に規定回数（例えば 1 0 0 0 回）の変動遊技の実行後に移行される b 時短遊技状態と、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである場合に移行される c 時短遊技状態と、が設定されているが、a ~ c 時短遊技状態のいずれにおいても、普図当たり確率が同一に設定されている。もちろん、普図当たり確率は、時短遊技状態の種別によって異なるように設定してもよい。また、通常遊技状態（低サポートモード）での普図当たり確率、及び時短遊技状態（高サポートモード）での普図当たり確率は、図 5 8 (A) 及び図 5 8 (B) に示される例には限定されず、適宜変更可能である。また、短遊技状態普図当たり当否テーブルを参照する遊技状態として、特図確率変動状態である場合や、時短遊技状態である場合に参照しても良い。

20

【0708】

ここで、図 5 8 (C) 及び図 5 8 (D) は、普図変動テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図変動テーブルとして、図 5 8 (C) に示す通常遊技状態普図変動テーブルと、時短遊技状態普図変動テーブルとの 2 種類が設定されている。即ち、本実施形態では、後述のように、通常遊技状態と、時短遊技状態とで、普図変動時間が異なり、時短遊技状態のほうが通常遊技状態よりも普図変動時間が短く設定されている。

【0709】

具体的には、図 5 8 (C) に示すように、通常遊技状態普図変動テーブルでは、普図変動種別カウンタ C S 2 の値が 0 ~ 9 8 の場合に 3 0 秒、普図変動種別カウンタ C S 2 の値が 9 9 の場合に 1 秒に設定されている。即ち、通常遊技状態では、普図変動時間が長く設定され、電動役物 3 1 5 b の作動頻度（第 2 入賞口 3 1 5 の開放頻度）が低く設定されている。

30

【0710】

一方、図 5 8 (D) に示すように、時短遊技状態普図変動テーブルでは、普図変動種別カウンタ C S 2 の値が 0 ~ 9 9 の場合に 1 秒に設定されている。即ち、時短遊技状態では、普図変動時間が短く設定され、電動役物 3 1 5 b の作動頻度（第 2 入賞口 3 1 5 の開放頻度）が高く設定されている。

【0711】

40

ここで、図 5 8 (E) は、遊技状態の種別と、普図当たり抽選での抽選結果が普図当たりである場合に実行される普図当たり遊技での電動役物 3 1 5 b の開放態様（開放時間）との関係の一例を示す図である。

【0712】

図 5 8 (E) に示すように、普図当たり抽選結果が普図当たりである場合には、前述のように普図当たり遊技において電動役物 3 1 5 b が開放されることによって第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球 9 9 が入球可能とされるが、普図当たり遊技での電動役物 3 1 5 b の開放形態（最大開放時間）は普図当たり抽選が実行された遊技状態に応じて設定されている。なお、本実施形態では、最大開放時間の経過前であっても、第 2 入賞口 3 1 5 に 5 個の遊技球が入球した場合に電動役物 3 1 5 b が閉鎖され、1 回の電動役物 3 1 5 b の開放による

50

第2入賞口315への遊技球の最大入賞個数が5個に設定されている。

【0713】

具体的には、低サポートモードである通常遊技状態、及び大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであることを契機として移行するc時短遊技状態では、電動役物315bの最大開放時間が、遊技球の発射間隔（0.6秒）よりも短い0.1秒（短開放）に設定されている。この短開放では、遊技球を遊技盤31の右側領域に連続して打ち出した場合であっても第2入賞口315への遊技球の入球は不能又は著しく困難に設定されている。そのため、通常遊技状態及びc時短遊技状態では、遊技盤31の左側領域に遊技球を打ち出す左打ちが奨励される。また、c時短遊技状態では、最大時短遊技回数が時短図柄停止外れの種別に応じて10回、20回、30回又は40回に設定されており、大当たり抽選の結果が外れである最大時短遊技回数の特図遊技が実行された場合に通常遊技状態に移行される。

10

【0714】

ここで、前述のように、c時短遊技状態へは大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである場合に移行する。また、後述のように、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである場合の特図遊技では、図柄表示部341において、飾り図柄が時短図柄停止外れに対応した組み合わせで停止表示される。また、本実施形態では、前述のようにc時短遊技状態での最大時短遊技回数として複数種類（4種類）設定されており、最大時短遊技回数に対応した時短図柄が停止表示される。例えば、後述のように、最大時短遊技回数が10回である時短図柄停止外れAの場合には非リーチである「119」又は「991」が停止表示され、最大時短遊技回数が20回である時短図柄停止外れBの場合には非リーチである「554」又は「556」が停止表示され、最大時短遊技回数が30回である時短図柄停止外れCの場合には非リーチである「332」又は「334」が停止表示され、最大時短遊技回数が40回である時短図柄停止外れDの場合には非リーチである「776」又は「778」が停止表示される（図61（D）参照）。これにより、遊技者は、飾り図柄が停止表示組み合わせから、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れであることを把握することが可能になり、さらに、c時短遊技状態での最大時短遊技回数を把握することが可能になる。

20

【0715】

なお、本実施形態では、c時短遊技状態での最大時短遊技回数が4種類に設定されているが、c時短遊技状態での最大時短遊技回数を1種類～3種類に設定することも考えられ、4種類以外の複数種類設定することも考えられる。また、c時短遊技状態での最大時短遊技回数についても、種々に変更可能である。

30

【0716】

一方、大当たり遊技の終了後に移行されるa時短遊技状態では、電動役物315bの最大開放時間が遊技球の発射間隔の2.5倍である1.5秒（長開放）に設定されている。この長開放では、遊技球を遊技盤31の右側領域に連続して打ち出した場合に最大入賞個数である5個の遊技球の入球が可能である。そのため、a時短遊技状態では、遊技盤31の右側領域に遊技球を打ち出す右打ちが奨励される。また、a時短遊技状態では、最大時短遊技回数が1回に設定されており、普図当たり遊技が1回実行された場合に通常遊技状態に移行される。

40

【0717】

また、大当たり遊技の終了後に規定回数（例えば1000回）の変動遊技の実行後に移行されるb時短遊技状態では、電動役物315bの最大開放時間が遊技球の発射間隔の5倍である3秒（中開放）に設定されている。この中開放では、遊技球99を連続して打ち出した場合の入球期待数が1個以上に設定されており、例えば1回の普図当たりに対して第2入賞口315に1球～3球程度の遊技球が入球される。そのため、b時短遊技状態では、遊技盤31の右側領域に遊技球を打ち出す右打ちが奨励される。また、b時短遊技状態では、最大時短遊技回数が500回に設定されており、大当たり抽選の結果が外れである特図遊技が500回実行された場合に通常遊技状態に移行される。

50

【0718】

なお、本実施形態では、最大開放時間の経過前であっても、第2入賞口315に5個の遊技球が入球した場合に電動役物315bが復帰されることによって第2入賞口315が閉鎖される。

【0719】

なお、各種遊技状態における普図当たり遊技での電動役物315bの最大開放時間及び最大開放回数は、図58(E)に示す例には限定されず、適宜変更可能である。

【0720】

また、図58(E)に示す例では、各遊技状態に対して、普図当たり遊技として電動役物315bの最大開放時間及び最大開放回数が1種類だけ設定されているが、通常遊技状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態及びc時短遊技状態うちの少なくとも1つの遊技状態に対して、普図当たり遊技での電動役物315bの最大開放時間及び最大開放時間の少なくとも一方を複数種設定してもよい。

【0721】

[第1特図大当たり当否テーブル]

第1特図大当たり当否テーブルは、第1入賞口314への遊技球の入球した契機として実行される第1特図大当たり抽選に使用される。ここで、図59(A)は、第1特図大当たり当否テーブルの一例を示す図である。

【0722】

図59(A)に示すように、第1特図大当たり当否テーブルは、6段階の遊技設定値1から6に対応した6つの大当たり当否テーブルを含む。各大当たり当否テーブルでは、第1特図大当たり抽選での抽選結果として、大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)に応じて、大当たり及び外れのいずれかが選択される。また、第1特図大当たり当否テーブルでは、遊技設定値6、遊技設定値5、遊技設定値4、遊技設定値3、遊技設定値2及び遊技設定値1の順に(遊技設定値の値が大きい順に)、第1特図大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる大当たり確率が高く遊技者に有利となる。

【0723】

遊技設定値1の第1特図大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)のうち、0～205の206個の乱数値が大当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、大当たり確率が約 $1/318.1$ ($206/65536$)に設定されている。

【0724】

遊技設定値2の第1特図大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)のうち、0～211の212個の乱数値が大当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、大当たり確率が約 $1/309.1$ ($212/65536$)に設定されている。

【0725】

遊技設定値3の第1特図大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)のうち、0～217の218個の乱数値が大当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、大当たり確率が約 $1/300.6$ ($218/65536$)に設定されている。

【0726】

遊技設定値4の第1特図大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)のうち、0～223の224個の乱数値が大当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、大当たり確率が約 $1/292.6$ ($224/65536$)に設定されている。

【0727】

遊技設定値5の第1特図大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)のうち、0～229の230個の乱数値が大当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、大当たり確率が約 $1/284.9$

10

20

30

40

50

(230 / 65536) に設定されている。

【0728】

遊技設定値6の第1特図大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)のうち、0～235の236個の乱数値が大当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、大当たり確率が約1 / 277.7 (236 / 65536) に設定されている。

【0729】

そして、遊技設定値に応じて選択される大当たり当否テーブルに基づいて第1特図大当たり抽選を行った場合、大当たり乱数カウンタC1の値が大当たりとなるものである場合に大当たり遊技が実行される。

【0730】

なお、本実施形態の第1特図大当たり当否テーブルでは、大当たり乱数値が連続した値であったが、大当たり乱数値は連続した値でなく一部又は全部が離散した値であってもよい。

【0731】

また、第1特図大当たり当否テーブルは、6段階の遊技設定値に応じて6つ設けられているが、第1特図大当たり当否テーブルは少なくとも1つあればよく、遊技設定値は6段階に限定されない。

【0732】

【第1特図大当たり種別振分テーブル】

第1特図大当たり種別振分テーブルは、第1入賞口314への遊技球の入球を契機として実行される第1特図大当たり抽選での抽選結果が大当たりである場合に、大当たりの種別を振り分けるため使用される。ここで、図59(B)は通常-a時短第1特図大当たり種別振分テーブルの一例を示す図であり、図59(C)はb時短-c時短第1特図大当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。

【0733】

図59(B)に示す通常-a時短第1特図大当たり種別振分テーブルは、第1特図の変動開始時の遊技状態が通常遊技状態又はa時短遊技状態である場合に使用されるものである。通常-a時短第1特図大当たり種別振分テーブルでは、0～19の20個の大当たり種別カウンタC2の値(乱数値)のうち、0～11の12個の乱数値が4R時短大当たりであり、12～19の8個の乱数値が4R通常大当たりである。本実施形態では、第1特図大当たりとして、4R時短大当たり及び4R通常大当たりの2種類が設定され、4R時短大当たりの振り分け率が60%に設定され、4R通常大当たりの振り分け率が40%に設定されている。

【0734】

ここで、第1特図大当たり抽選での抽選結果が4R時短大当たり及び4R通常大当たりである場合には、可変入賞口316が開放されるラウンド遊技が2回繰り返される開閉実行モードが実行される。

【0735】

そして、4R時短大当たりでは、この4R時短大当たりに基づいて実行される大当たり遊技の終了後には、高サポートモードであるa時短遊技状態に移行される。このa時短遊技状態は、電動役物315bの作動回数が1回であるが、電動役物315bの最大開放時間が遊技球の発射間隔である0.6秒の25倍である15秒に設定されている。また、1回の電動役物315bの開放による遊技球の最大入賞個数は5個である。そのため、a時短遊技状態に移行した場合、最大で5回の第2特図遊技が実行可能である。4R通常大当たりでは、この4R通常大当たりに基づいて実行される大当たり遊技の終了後には、低サポートモードである通常遊技状態に移行される。

【0736】

図59(C)に示すb-c時短第1特図大当たり種別振分テーブルは、第1特図の変動開始時の遊技状態がb時短遊技状態又はc時短遊技状態である場合に使用されるものであ

10

20

30

40

50

る。bーc時短第1特図大当たり種別振分テーブルでは、0～19の20個の大当たり種別カウンタC2の値（乱数値）の全てである20個の乱数値が4R時短大当たりである。即ち、b時短遊技状態又はc時短遊技状態において第1特図大当たりになった場合、当該第1特図大当たりに基づいて実行される大当たり遊技の終了後に必ずa時短遊技状態に移行する、いわゆるRUSH直撃大当たりとなる。なお、RUSHとは、後述のように第2入賞口315への遊技球の入球に基づく大当たり抽選の結果が小当たりとなる確率が高く（本実施形態では20%（図61（A）参照））、小当たりを契機とする大当たり遊技が連続して実行され易い遊技者に有利な状態である。

【0737】

〔第1特図大当たり変動テーブル〕

第1特図大当たり変動テーブルは、第1特図大当たり抽選での抽選結果が大当たりである場合に、当該第1特図大当たり抽選に対して実行される第1特図遊技における第1特図の特図変動パターン（変動表示時間）を設定するために使用される。ここで、図59（D）は、第1特図大当たり変動テーブルの一例を示す図である。

【0738】

図59（D）に示すように、第1特図大当たり変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS1の値に応じて特図変動パターンが予め対応付けられている。この第1特図大当たり変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS1の値（乱数値）に応じて特図変動パターン「01」～「03」のいずれかが選択される。具体的には、第1特図大当たり変動テーブルでは、0～199の200個の特図変動種別カウンタCS1の値のうち、0～9の10個の乱数値には変動表示時間が30秒である特図変動パターン「01」が対応し、10～119の110個の乱数値には変動表示時間が60秒である特図変動パターン「02」が対応し、120～199の80個の乱数値には変動表示時間が90秒である特図変動パターン「03」が対応している。

【0739】

ここで、特図変動パターン「01」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン種別）として特図変動表示時間が30sであるノーマルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてノーマルリーチ演出パターンが実行される。ノーマルリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出となる演出パターンである。また、特図変動パターン「02」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン種別）として特図変動表示時間が60sであるスーパーリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてスーパーリーチ演出パターンが実行される。スーパーリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスーパーリーチ演出となる演出パターンである。さらに、特図変動パターン「03」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン）として特図変動表示時間が最も長い90sであるスペシャルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてスペシャルリーチ演出パターンが実行される。スペシャルリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスペシャルリーチ演出となる演出パターンである。

【0740】

〔第1特図外れ種別振分テーブル〕

第1特図外れ種別振分テーブルは、第1特図大当たり抽選での抽選結果が外れである場合に外れの種別を振り分けるため使用される。ここで、図59（E）は、第1特図外れ種別振分テーブルの一例を示す図である。

【0741】

図59（E）に示すように、第1特図外れ種別振分テーブルでは、リーチ乱数カウンタC3の値（乱数値）に応じて外れ種別が規定されている。具体的には、第1特図外れ種別振分テーブルでは、0～238の239個のリーチ乱数カウンタC3の値のうち、0～8の9個の乱数値が前後外れリーチであり、9～38の30個の乱数値が前後外れ以外リーチであり、39～238の200個の乱数値が完全外れである。

【0742】

ここで、リーチとは、図柄表示部341における飾り図柄の変動表示が開始されてから飾り図柄が停止表示されるまでの間に、大当たりに当選したことを示す飾り図柄の図柄組み合わせになりやすい状態が示される変動状態である。一例において、図柄表示部341における有効ライン上の3つの停止位置のうち2つの停止位置に同一の飾り図柄が停止表示され、残りの1つの停止位置に対応する飾り図柄が変動する状態である。また、図柄表示部341におけるリーチの変動状態中には、所定のキャラクタなどの動画が表示されて期待度を示唆するストーリー演出処理や、遊技者による操作ボタン20に対する操作が演出に反映される遊技者参加型の操作演出処理などが実行される。なお、これらの演出処理の実行中には図柄表示部341における飾り図柄の変動表示が非表示となること、縮小又は拡大して表示されることも考えられる。

10

【0743】

そして、前後外れリーチは、飾り図柄によるリーチが発生した後に最終停止図柄がリーチ図柄の前後に1つだけずれて停止する外れであり、前後外れ以外リーチは、飾り図柄によるリーチが発生した後に最終停止図柄がリーチ図柄の前後以外で停止する外れである。また、完全外れは、飾り図柄によるリーチが発生しない外れ（非リーチ外れ）である。

【0744】

なお、第1特図外れ種別振分テーブルでは、外れ種別としてc時短遊技状態に移行する時短図柄停止外れが設定されていないが、外れ種別として時短図柄停止外れを設定してもよい。

20

【0745】

[第1特図外れ変動テーブル]

第1特図外れ変動テーブルは、第1特図大当たり抽選での抽選結果が外れである場合に、当該第1特図大当たり抽選に対して実行される第1特図遊技における第1特図の特図変動パターン（変動表示時間）を設定するために使用される。ここで、図59（F）は、第1特図外れ変動テーブルの一例を示す図である。

【0746】

図59（F）に示すように、第1特図外れ変動テーブルでは、外れ種別及び特図変動種別カウンタCS1の値（乱数値）に応じて第1特図の特図変動パターン（変動表示時間）が規定されている。この第1特図外れ変動テーブルは、外れリーチ（前後外れリーチ及び前後外れ以外リーチ）用外れ第1特図外れ変動テーブル、及び完全外れ用第1特図外れ変動テーブルを含む。

30

【0747】

外れリーチ（前後外れリーチ及び前後外れ以外リーチ）用外れ第1特図外れ変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS1の値（乱数値）に応じて特図変動パターン「01」～「03」のいずれかが選択される。具体的には、外れリーチ（前後外れリーチ及び前後外れ以外リーチ）用外れ第1特図外れ変動テーブルでは、0～199の200個の特図変動種別カウンタCS1の値のうち、0～99の100個の乱数値には特図変動表示時間が30秒である特図変動パターン「01」が対応し、100～149の50個の乱数値には特図変動表示時間が60秒である特図変動パターン「02」が対応し、150～199の50個の乱数値には特図変動表示時間が90秒である特図変動パターン「03」が対応している。

40

【0748】

完全外れ用第1特図外れ変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS1の値（乱数値）に応じて特図変動パターン「04」及び「05」のいずれかが選択される。具体的には、完全外れ用第1特図外れ変動テーブルでは、0～199の200個の特図変動種別カウンタCS1の値のうち、0～149の150個の乱数値には特図変動表示時間が7秒である特図変動パターン「04」が対応し、150～199の50個の乱数値には特図変動表示時間が10秒である特図変動パターン「05」が対応している。

【0749】

50

[b時短－c時短第2特図大当たり当否テーブル]

b時短－c時短第2特図大当たり当否テーブルは、b時短遊技状態及びc時短遊技状態において、第2入賞口315への遊技球の入球した契機として実行される第2特図大当たり抽選に使用される。ここで、図60(A)は、b時短－c時短第2特図大当たり当否テーブルの一例を示す図である。

[0750]

図60(A)に示すように、b時短－c時短第2特図大当たり当否テーブルは、前述の第1特図大当たり当否テーブル(図59(A)参照)と同様である。なお、本実施形態では、b時短－c時短第2特図大当たり当否テーブルが第1特図大当たり当否テーブル(図59(A)参照)とは別に設定されているが、b時短－c時短第2特図大当たり当否テーブルを省略し、b時短遊技状態及びc時短遊技状態における第2特図大当たり抽選において第1特図大当たり当否テーブル(図59(A)参照)を使用してもよい。

[0751]

[b時短－c時短第2特図大当たり種別振分テーブル]

b時短－c時短第2特図大当たり種別振分テーブルは、第2特図の変動開始時の遊技状態が通常遊技状態又はa時短遊技状態である場合において、第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される第2特図大当たり抽選での抽選結果が大当たりである場合に、大当たりの種別を振り分けるため使用される。ここで、図60(B)はb時短－c時短第2特図大当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。

[0752]

図60(B)に示すように、b時短－c時短第2特図大当たり種別振分テーブルでは、0～19の20個の大当たり種別カウンタC2の値(乱数値)の全てである20個の乱数値が4R時短大当たりである。即ち、b時短遊技状態又はc時短遊技状態において第2特図大当たりになった場合、当該第2特図大当たりに基づいて実行される大当たり遊技の終了後に必ずa時短遊技状態に移行する、いわゆるRUSH直撃大当たりとなる。なお、RUSHとは、後述のように第2入賞口315への遊技球の入球に基づく大当たり抽選の結果が小当たりとなる確率が高く(本実施形態では20%(図61(A)参照))、小当たりを契機とする大当たり遊技が連続して実行され易い遊技者に有利な状態である。

[0753]

[b時短－c時短第2特図大当たり変動テーブル]

第1特図大当たり変動テーブルは、第2特図の変動開始時の遊技状態がb時短遊技状態又はc時短遊技状態である場合において、第2特図大当たり抽選での抽選結果が大当たりである場合に、当該第2特図大当たり抽選に対して実行される第2特図遊技における第2特図の特図変動パターン(変動表示時間)を設定するために使用される。ここで、図60(C)は、b時短－c時短第2特図大当たり変動テーブルの一例を示す図である。

[0754]

図60(D)に示すように、b時短－c時短第2特図大当たり変動テーブルは、前述の第1特図大当たり変動テーブル(図59(D)参照)と同様である。なお、本実施形態では、b時短－c時短第2特図大当たり変動テーブルが第1特図大当たり変動テーブル(図59(D)参照)とは別に設定されているが、b時短－c時短第2特図大当たり変動テーブルを省略し、b時短遊技状態及びc時短遊技状態における第2特図大当たり抽選において第1特図大当たり変動テーブル(図59(D)参照)を使用してもよい。

[0755]

[b時短－c時短第2特図外れ種別振分テーブル]

b時短－c時短第2特図外れ種別振分テーブルは、第2特図の変動開始時の遊技状態がb時短遊技状態又はc時短遊技状態である場合において、第2特図大当たり抽選での抽選結果が外れである場合に外れの種別を振り分けるため使用される。ここで、図60(D)は、b時短－c時短第2特図外れ種別振分テーブルの一例を示す図である。

[0756]

図60(D)に示すように、b時短－c時短第2特図外れ種別振分テーブルは、前述の

10

20

30

40

50

第1特図外れ種別振分テーブル（図59（E）参照）と同様である。なお、本実施形態では、b時短－c時短第2特図外れ種別振分テーブルが第1特図外れ種別振分テーブル（図59（E）参照）とは別に設定されているが、b時短－c時短第2特図外れ種別振分テーブルを省略し、b時短遊技状態及びc時短遊技状態における第2特図大当たり抽選において第1特図外れ種別振分テーブル（図59（E）参照）を使用してもよい。

【0757】

なお、b時短－c時短第2特図外れ種別振分テーブルでは、外れ種別としてc時短遊技状態に移行する時短図柄停止外れが設定されていないが、外れ種別として時短図柄停止外れを設定してもよい。

【0758】

〔b時短－c時短第2特図外れ変動テーブル〕

b時短－c時短第2特図外れ変動テーブルは、第2特図の変動開始時の遊技状態がb時短遊技状態又はc時短遊技状態である場合において、第2特図大当たり抽選での抽選結果が外れである場合に、当該第2特図大当たり抽選に対して実行される第2特図遊技における第2特図の特図変動パターン（変動表示時間）を設定するために使用される。ここで、図60（E）は、第1特図外れ変動テーブルの一例を示す図である。

【0759】

図60（E）に示すように、b時短－c時短第2特図外れ変動テーブルは、前述の第1特図外れ変動テーブル（図59（F）参照）と同様である。なお、本実施形態では、b時短－c時短第2特図外れ変動テーブルが第1特図外れ変動テーブル（図59（F）参照）とは別に設定されているが、b時短－c時短第2特図外れ変動テーブルを省略し、b時短遊技状態及びc時短遊技状態における第2特図大当たり抽選において第1特図外れ変動テーブル（図59（F）参照）を使用してもよい。

【0760】

〔通常－a時短第2特図大当たり当否テーブル〕

通常－a時短第2特図大当たり当否テーブルは、通常遊技状態及びa時短遊技状態において、第2入賞口315への遊技球の入球した契機として実行される第2特図大当たり抽選に使用される。ここで、図61（A）は、通常－a時短第2特図大当たり当否テーブルの一例を示す図である。

【0761】

図61（A）に示すように、通常－a時短第2特図大当たり当否テーブルは、前述の第1特図大当たり当否テーブル（図59（A）参照）とは異なり、第2特図大当たり抽選の結果として「大当たり」が設定されておらず、「小当たり」及び「外れ」の2種類が設定され、小当たり確率及び外れ確率が全ての遊技設定値で同一に設定されている。具体的には、通常－a時短第2特図大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値（乱数値）のうち、0～13106の13107個の乱数値が大当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、小当たり確率が約1／5（13107／65536）に設定されている。

【0762】

なお、通常－a時短第2特図大当たり当否テーブルによって規定される小当たり確率は、図61（A）に示す例には限定されず、適宜変更可能である。

【0763】

また、通常－a時短第2特図大当たり当否テーブルにおける第2特図大当たり抽選の結果として「大当たり」を設定してもよい。この場合、大当たり確率は、遊技設定値ごとに異なる確率となるように第1特図大当たり当否テーブル（図59（A）参照）と同様とすることが考えられる。

【0764】

〔a時短第2特図外れ種別振分テーブル〕

a時短第2特図外れ種別振分テーブルは、第2特図の変動開始時の遊技状態がa時短遊技状態である場合において、第2特図大当たり抽選での抽選結果が外れである場合に外れ

10

20

30

40

50

の種別を振り分けるため使用される。ここで、図 6 1 (B) は、a 時短第 2 特図外れ種別振分テーブルの一例を示す図である。

【0765】

図 6 1 (B) に示すように、a 時短第 2 特図外れ種別振分テーブルでは、前述の第 1 特図外れ種別振分テーブル (図 5 9 (E) 参照) とは異なり、外れ種別として前後外れリーチ及び前後外れ以外リーチが設定されておらず、完全外れのみが設定されている。具体的には、a 時短第 2 特図外れ種別振分テーブルでは、0 ~ 238 の 239 個のリーチ乱数カウンタ C 3 の値の全ての乱数値が完全外れに設定されている。

【0766】

なお、a 時短第 2 特図外れ種別振分テーブルでは、外れ種別として前後外れリーチ及び前後外れ以外リーチを設定してもよい。また、a 時短第 2 特図外れ種別振分テーブルでは、外れ種別として c 時短遊技状態に移行する時短図柄停止外れが設定されていないが、外れ種別として時短図柄停止外れを設定してもよい。

【0767】

[通常遊技状態第 2 特図外れ種別振分テーブル]

通常遊技状態第 2 特図外れ種別振分テーブルは、第 2 特図の変動開始時の遊技状態が通常遊技状態である場合において、第 2 特図大当たり抽選での抽選結果が外れである場合に外れの種別を振り分けるため使用される。ここで、図 6 1 (C) は、通常遊技状態第 2 特図外れ種別振分テーブルの一例を示す図である。

【0768】

図 6 1 (C) に示すように、通常遊技状態第 2 特図外れ種別振分テーブルでは、前述の第 1 特図外れ種別振分テーブル (図 5 9 (E) 参照) とは異なり、外れ種別として前後外れリーチ及び前後外れ以外リーチが設定されておらず、完全外れ及び時短図柄停止外れが設定されている。具体的には、通常遊技状態第 2 特図外れ種別振分テーブルでは、0 ~ 238 の 239 個のリーチ乱数カウンタ C 3 の値のうち、0 ~ 226 の 227 個の乱数値が完全外れであり、227 ~ 238 の 12 個の乱数値が c 時短遊技状態に移行する時短図柄停止外れ (時短図柄停止外れ A ~ D) である。即ち、通常遊技状態第 2 特図外れ種別振分テーブルでは、時短図柄停止外れ (時短図柄停止外れ A ~ D) となる確率が約 5 % に設定されてる。

【0769】

図 6 1 (C) 及び図 6 1 (D) に示すように、本実施形態では、時短図柄停止外れとして、c 時短遊技状態において実行可能な最大時短遊技回数が異なる時短図柄停止外れ a 時短図柄停止外れ b 時短図柄停止外れ C 及び時短図柄停止外れ D の 4 種類が設定されており、各時短図柄停止外れ A ~ D の確率は、それぞれ $3 / 239$ (約 1.25 %) に設定されている。

【0770】

時短図柄停止外れ A は、c 時短遊技状態において実行可能な最大の特図遊技回数 (最大時短遊技回数) が 10 回であり、リーチ乱数カウンタ C 3 の値が 227 ~ 229 のいずれかである場合に設定される。そして、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れ A である場合に実行される特図遊技では、図柄表示部 341 において変動表示される飾り図柄が、「119」又は「991」で停止表示される。つまり、時短図柄停止外れ A には、飾り図柄の停止表示組み合わせとして「119」及び「991」が対応付けされており、飾り図柄の停止表示組み合わせとしての「119」及び「991」が、時短図柄に該当する。

【0771】

時短図柄停止外れ B は、c 時短遊技状態において実行可能な最大の特図遊技回数 (最大時短遊技回数) が 20 回であり、リーチ乱数カウンタ C 3 の値が 230 ~ 232 のいずれかである場合に設定される。そして、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れ B である場合に実行される特図遊技では、図柄表示部 341 において変動表示される飾り図柄が、「554」又は「556」で停止表示される。つまり、時短図柄停止外れ B には、飾り図柄の停止表示組み合わせとして「554」及び「556」が対応付けされており、飾り図柄

の停止表示組み合わせとしての「5 5 4」及び「5 5 6」が、時短図柄に該当する。

【0 7 7 2】

時短図柄停止外れCは、c時短遊技状態において実行可能な最大の特図遊技回数（最大時短遊技回数）が30回であり、リーチ乱数カウンタC3の値が233～235のいずれかである場合に設定される。そして、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れCである場合に実行される特図遊技では、図柄表示部341において変動表示される飾り図柄が、「332」又は「334」で停止表示される。つまり、時短図柄停止外れCには、飾り図柄の停止表示組み合わせとしての「332」及び「334」が対応付けされており、飾り図柄の停止表示組み合わせとしての「332」及び「334」が、時短図柄に該当する。

【0 7 7 3】

時短図柄停止外れDは、c時短遊技状態において実行可能な最大の特図遊技回数（最大時短遊技回数）が40回であり、リーチ乱数カウンタC3の値が236～238のいずれかである場合に設定される。そして、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れDである場合に実行される特図遊技では、図柄表示部341において変動表示される飾り図柄が、「776」又は「778」で停止表示される。つまり、時短図柄停止外れDには、飾り図柄の停止表示組み合わせとしての「776」及び「778」が対応付けされており、飾り図柄の停止表示組み合わせとしての「776」及び「778」が、時短図柄に該当する。

【0 7 7 4】

このように、本実施形態では、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである場合に図柄表示部341において変動表示される飾り図柄が、時短図柄で停止表示される。そのため、遊技者は、飾り図柄がリーチとならず、大当たり抽選結果が外れであるために大当たりが期待できない状況においても、時短図柄が停止表示されることを期待しつつ、遊技の進行を楽しむことができる。また、遊技者は、時短図柄の種別（停止表示される飾り図柄の組み合わせ種別）に基づいて、時短遊技状態において実行可能な最大時短遊技回数を把握することができる。そのため、最大時短遊技回数が多い時短図柄が停止表示されることを期待しつつ、遊技の進行を楽しむことができる。

【0 7 7 5】

なお、本実施形態では、時短図柄停止外れが4種類設定されているが、時短図柄停止外れは4種類に限定されず、また複数種である必要もなく、例えば1種類であってもよい。また、時短図柄停止外れを複数種類設定する場合、各時短図柄停止外れの確率（振り分け）を均等にする必要はなく、一部又は全部の時短図柄停止外れの確率（振り分け）が他の時短図柄停止外れとは異なってもよい。

【0 7 7 6】

また、本実施形態では、1種類の時短図柄停止外れに対して2種類の時短図柄が対応付けられているが、1種類の時短図柄停止外れに対して1種類の時短図柄を対応付けてもよく、また、一部又は全部の時短図柄停止外れに対応付けられる時短図柄の数が、他の時短図柄停止外れに対応付けられる時短図柄の数とは異なってもよい。さらに、1種類の時短図柄に対して複数種の最大時短遊技回数に対応付けられてもよい。

【0 7 7 7】

また、本実施形態では、大当たり抽選結果が時短図柄停止外れである場合、図柄表示部341で変動表示される飾り図柄が時短図柄で停止表示されるが、これに加えて、又はこれに代えて、第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の停止表示図柄として時短図柄停止外れに対応する（時短）図柄を設定してもよい。この場合、第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の停止表示図柄の種別と、時短遊技状態において実行可能な最大の特図遊技回数（最大時短遊技回数）を対応付けしてもよい。

【0 7 7 8】

そして、前述の通常遊技状態第2特図外れ種別振分テーブルでは、時短図柄停止外れが設定されているが、他の外れ種別振分テーブルには時短図柄停止外れが設定されていない（図59（E）、図60（D）及び図61（B）参照）。即ち、特図大当たり抽選の結果

10

20

30

40

50

が時短図柄停止外れとなるのは、第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される通常遊技状態における第2特図の開始時の第2特図大当たり抽選のみである。

【0779】

ここで、本実施形態では、a時短遊技状態において実行される普図当たり遊技が1回で、この1回の普図当たり遊技での最大開放時間が15秒で最大入賞個数が5個に設定されている(図58(E)参照)。そのため、a時短遊技状態の移行に基づいて普図当たり遊技が実行される場合(電動役物315bの作動によって第2入賞口315が開放される場合)、第2特図の当該変動表示に加え、最大で4個の第2特図保留(いわゆる残保留)に基づく第2特図の変動表示の計5回の第2特図遊技を実行することが可能になる。そして、a時短遊技状態における普図当たり遊技の最大開放時間が15秒であるのに対して、後述のようにa時短遊技状態において開始される第2特図遊技の変動表示時間(変動パターン)は40秒であるため(図62(A)参照)、a時短遊技状態の移行後に最初に行われる当該第2特図遊技が終了する前に普図当たり遊技が終了することでa時短遊技状態から通常遊技状態に移行する。その結果、当該第2特図遊技の終了後に実行される第2特図保留(残保留)に基づく第2特図遊技は、通常遊技状態において開始される。また、前述のように、通常遊技状態での普図当たり遊技における電動役物315bの最大開放時間は0.1秒であり(図58(E)参照)、通常遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球は不能又は著しく困難で、遊技盤31の左側領域に遊技球を打ち出す左打ちが奨励されることから、通常遊技状態での普図当たり遊技に基づく第2入賞口315への遊技球の入球によって第2特図遊技が実行されることは実質的にない。従って、通常遊技状態において第2特図遊技が開始されるのは、時短大当たり遊技の終了後にa時短遊技状態に移行された場合に実行される普図当たり遊技において第2入賞口315への遊技球の入球によって保留された第2特図遊技である。換言すれば、通常遊技状態第2特図外れ種別振分テーブルは、時短大当たり遊技の終了後に移行するa時短遊技状態において電動役物315bの作動によって第2入賞口315に遊技球が入球することで、第2特図保留数Mが1以上である場合(残保留がある場合)、当該第2特図保留(残保留)に基づいて実行される第2特図遊技を開始するときに参照される。

【0780】

そして、本実施形態では、後述のように、表示演出がa時短遊技状態に移行されることに基づいて普図当たり遊技が実行される場合(電動役物315bの作動によって第2入賞口315が開放される場合)、第2特図の当該変動表示に加え、最大で4個の第2特図保留(いわゆる残保留)に基づく第2特図の変動表示が最大で計5回実行される第2特図遊技において、バトル演出を含む表示演出としてのRUSH演出が図柄表示部341などにおいて行われる。また、バトル演出は、後述のようにa時短遊技状態への移行を契機とする第2特図保留(残保留)に対して実行される残保留演出である。一方、大当たり抽選結果が時短図柄停止外れである場合には、c時短遊技状態に移行するが、このc時短遊技状態ではc時短遊技状態であることを識別可能なc時短遊技状態に固有のc時短遊技演出(固有の背景演出や残りの時短回数表示演出などの表示演出)が図柄表示部341などにおいて実行される(図88(C)参照)。

【0781】

このように、a時短遊技状態では、普図当たり遊技が1回のみ実行されるが、当該普図当たり遊技の終了後はa時短遊技状態から通常遊技状態に移行され、a時短遊技状態における第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される残保留の中に大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであることを報知するものが含まれる場合、時短図柄停止外れであることを報知した第2特図遊技の終了後にc時短遊技状態に移行される。即ち、本実施形態では、a時短遊技状態における第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される残保留を含めた第2特図遊技が実行可能な遊技状態と、通常遊技状態又はc時短遊技状態とが重複して発生する。

【0782】

そして、a時短遊技状態における第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行

される残保留を含めた第2特図遊技（大当たり連荘状態である、いわゆるRUSH状態）は、大当たり遊技を発生させる契機を与える小当たり遊技を高確率で発生させるため（図61（A）参照）、大当たり遊技が発生し易いために遊技価値の高い遊技状態である。これに対して、通常遊技状態及びc時短遊技状態は、第2入賞口315への遊技球の入球が不能又は困難であるために、第1入賞口314への遊技球の入球を契機として大当たり抽選が実行されるために大当たり遊技を発生させ難い（図61（A）参照）。そのため、a時短遊技状態における第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される残保留を含めた第2特図遊技を実行可能な遊技状態は、大当たり遊技を発生させ易い点で、通常遊技状態及びc時短遊技状態よりも遊技価値が高い遊技状態である。

【0783】

また、本実施形態では、a時短遊技状態における第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される残保留を含めた第2特図遊技においてRUSH演出が表示演出として実行される（図89～図91参照）。特に、残保留に対応する第2特図遊技に対しては、表示演出としてバトル演出が実行される。一方、通常遊技状態では通常遊技状態であることを明示又は示唆する固有の表示演出が実行され（図88（A）参照）、c時短遊技状態ではc時短遊技状態であることを明示又は示唆する固有の表示演出が実行される（図88（C）参照）。そのため、残保留中に大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであるものが含まれる場合に、表示演出として、遊技価値が高い残保留に対応する第2特図遊技に対して実行されるバトル演出よりも、遊技価値の低い通常遊技状態又はc時短遊技状態に対応して実行される通常遊技状態演出又はc時短遊技演出を優先すると、バトル演出が途中で打ち切れ、図柄表示部341からはバトルの結果（小当たりの当否）を判断することができなくなる。そこで、本実施形態では、表示演出として、遊技価値が高い残保留に対応する第2特図遊技が実行可能な遊技状態において実行されるバトル演出（特定演出としてのRUSH演出）を、バトル演出が実行される遊技状態よりも遊技価値が低い通常遊技状態及びc時短遊技状態において実行され得る通常遊技状態演出及びc時短遊技演出よりも優先して実行する。つまり、本実施形態では、遊技価値が異なる遊技状態が重複して実行される場合に、遊技価値が高い方の遊技状態に対する表示演出を優先して実行する。その結果、表示演出としてのバトル演出が開始された場合に、遊技状態の重複によってバトル演出が中断されることなく、バトル演出におけるバトル結果に基づいて小当たりの当否を遊技者に報知することが可能になる。特に、残保留中に大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであるものが含まれ、当該時短図柄停止外れに基づいてc時短遊技状態に移行される場合であっても、表示演出としてのバトル演出によってバトル結果に基づいて小当たりの当否を遊技者に報知することが可能になる。

【0784】

また、前述のように、a時短遊技状態では、普図当たり遊技が1回のみ実行され、当該普図当たり遊技の終了後はa時短遊技状態から通常遊技状態に移行され、a時短遊技状態における第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される残保留の中に大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであることを報知するものが含まれる場合には、時短図柄停止外れであることを報知した第2特図遊技の終了後に、MPU41の遊技制御によりc時短遊技状態に移行される。つまり、表示演出としてのバトル演出の終了時点では、通常遊技状態又はc時短遊技状態である。そのため、a時短遊技状態における第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される残保留に対する大当たり抽選結果が全て外れである場合、表示演出としてのRUSH演出の終了後に、RUSH演出の終了時点での遊技状態（時短図柄停止外れの有無）に応じて、表示演出として通常遊技状態演出又はc時短遊技状態演出が実行される。

【0785】

ここで、通常遊技状態とc時短遊技状態とは、大当たり遊技を発生し難い点で共通するが（図59（A）参照）、通常遊技状態ではRUSH突入（大当たり連荘高確率状態発生）の契機となる時短大当たりの振り分けが50%であるのに対して（図59（B）参照）、c時短遊技状態ではRUSH突入（大当たり連荘高確率状態発生）の契機となる時短大

当たりの振り分けが100%であり（図59（C）参照）、c時短遊技状態での大当たりはRUSH直撃である大当たりとなる。そのため、RUSH突入（大当たり連荘高確率状態発生）の契機となる時短大当たりの振り分けが高い点で、c時短遊技状態は通常遊技状態よりも遊技者にとって遊技価値が高い遊技状態である。つまり、表示演出としてのRUSH演出の終了後は、表示演出として通常遊技状態演出又はc時短遊技状態演出が実行されるが、遊技者からすれば、RUSH演出の終了後にc時短遊技状態演出が実行されるほうが好ましい状態である。そこで、本実施形態では、表示演出としてのRUSH演出の終了後に、表示演出としてのc時短遊技状態演出及び通常遊技状態演出のいずれが実行されるかを明示又は示唆する後述の分岐演出が表示演出として実行される（図92参照）。そのため、遊技者は、残保留に基づいて実行されるバトル演出が小当たりに当選していないことを報知する場合であっても、RUSH直撃のチャンスであるc時短遊技演出がバトル演出の終了後に引き続いて実行されることで、遊技に対する興味を持続することが可能になるため、遊技の興味が向上される。

10

【0786】

〔V入賞時大当たり種別振分テーブル〕

V入賞時大当たり種別振分テーブルは、小当たり遊技においてV入賞口833に遊技球が入球することに基づいて実行される大当たり遊技の種別を振り分けるために使用される。ここで、図61（E）は、V入賞時大当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。

【0787】

図61（E）に示すように、V入賞時大当たり種別振分テーブルでは、大当たり種別として16R時短大当たり及び4R時短大当たりは設定されている。16R時短大当たりは、開閉実行モードにおいてラウンド遊技が16回実行され、当該16R時短大当たり遊技の終了後にa時短遊技状態に移行される大当たりである。4R時短大当たりは、開閉実行モードにおいてラウンド遊技が4回実行され、当該4R時短大当たり遊技の終了後にa時短遊技状態に移行される大当たりである。そして、V入賞時大当たり種別振分テーブルでは、0～19の大当たり種別カウンタの値のうちの0～3が16R時短大当たりであり、4～19が4R時短大当たりである。即ち、V入賞時大当たり種別振分テーブルでは、16R時短大当たりの確率（振り分け）が20%であり、4R時短大当たりの確率（振り分け）が80%である。

20

【0788】

なお、本実施形態では、小当たり遊技においてV入賞口833に遊技球が入球することに基づいて実行される大当たり遊技の種別が2種類設定されているが、当該大当たり遊技の種別は1種類であっても、3種類以上であってもよく、当該大当たり遊技において実行されるラウンド遊技数も4R及び16Rには限定されない。

30

【0789】

〔a時短第2特図変動テーブル〕

a時短第2特図変動テーブルは、第2特図の変動開始時の遊技状態がa時短遊技状態である場合に第2特図遊技における第2特図の特図変動パターン（変動表示時間）を設定するために使用される。ここで、図62（A）は、a時短第2特図変動テーブルの一例を示す図である。

40

【0790】

図62（A）に示すように、a時短第2特図変動テーブルは、前述の第1特図大当たり変動テーブル（図59（D）参照）や第1特図外れ変動テーブル（図59（F）参照）とは異なり、大当たり抽選の結果が大当たりであるか外れであるかは問わず参照されるテーブルであり、その変動パターン（変動表示時間）は40秒である特図変動パターン「08」の1種類のみ設定されている。これにより、a時短遊技状態に移行された場合の最初の第2特図遊技の実行中にa時短遊技状態から通常遊技状態に確実に移行させることができる。また、前述のように、a時短遊技状態に移行された場合、図柄表示部341などにおいてRUSH演出が実行されるが、a時短遊技状態に移行された場合の最初の第2特図遊技では、RUSH演出のうちの後述の一発告知演出としてボタン演出が実行され（図89

50

(D) 参照)、このボタン演出によって小当たりの当否が報知される。そして、a 時短第 2 特図変動テーブルに設定される変動パターン(変動表示時間)が 40 秒の 1 種類のみであることで、RUSH 演出におけるバトル演出が開始される前のボタン演出をテンポ良く実行でき、スムーズにバトル演出に移行させさせることが可能になる。

【0791】

[通常遊技状態第 2 特図保留第 2 特図変動テーブル]

通常遊技状態第 2 特図保留第 2 特図変動テーブルは、第 2 特図の変動開始時の遊技状態が通常遊技状態である場合に第 2 特図遊技における第 2 特図の特図変動パターン(変動表示時間)を設定するために使用される。つまり、通常遊技状態第 2 特図保留第 2 特図変動テーブルは、a 時短遊技状態への移行を契機とする第 2 特図保留(残保留)に対する第 2 特図遊技を開始する場合に使用される。ここで、図 62(B)は、通常遊技状態第 2 特図保留第 2 特図変動テーブルの一例を示す図である。

10

【0792】

図 62(B)に示すように、通常遊技状態第 2 特図保留第 2 特図変動テーブルは、前述の第 1 特図大当たり変動テーブル(図 59(D)参照)や第 1 特図外れ変動テーブル(図 59(F)参照)とは異なり、大当たり抽選の結果が大当たりであるか外れであるかは問わず参照されるテーブルであり、その第 2 特図変動パターン(変動表示時間)の種別は、残保留パターンに応じて設定されている。本実施形態では、残保留パターンとして 1~8 の 8 種類が設定されている。

【0793】

20

図 62(C)及び図 62(D)に示すように、残保留パターン 1 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行(a 時短遊技状態に移行してから最初に開始された第 2 特図遊技が終了)した場合の第 2 特図残保留数が 1 個であり、その 1 個の第 2 特図残保留に対する大当たり抽選の結果が外れとなるパターンである。残保留パターン 2 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行(a 時短遊技状態に移行してから最初に開始された第 2 特図遊技が終了)した場合の第 2 特図残保留数が 2 個であり、その 2 個の第 2 特図残保留に対する大当たり抽選の結果が全て外れとなるパターンである。残保留パターン 3 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行(a 時短遊技状態に移行してから最初に開始された第 2 特図遊技が終了)した場合の第 2 特図残保留数が 3 個であり、その 3 個の第 2 特図残保留に対する大当たり抽選の結果が全て外れとなるパターンである。残保留パターン 4 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行(a 時短遊技状態に移行してから最初に開始された第 2 特図遊技が終了)した場合の第 2 特図残保留数が 4 個であり、その 4 個の第 2 特図残保留に対する大当たり抽選の結果が外れとなるパターンである。

30

【0794】

一方、残保留パターン 5 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行(a 時短遊技状態に移行してから最初に開始された第 2 特図遊技が終了)した場合の第 2 特図残保留数が 1 個~4 個であり、第 2 特図保留中の最初に開始される第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりとなるパターンである。残保留パターン 6 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行(a 時短遊技状態に移行してから最初に開始された第 2 特図遊技が終了)した場合の第 2 特図残保留数が 2 個~4 個であり、第 2 特図保留中の最初に開始される第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が外れで、第 2 特図保留中の 2 番目に開始される第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりとなるパターンである。残保留パターン 7 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行(a 時短遊技状態に移行してから最初に開始された第 2 特図遊技が終了)した場合の第 2 特図残保留数が 3 個~4 個であり、第 2 特図保留中の最初及び 2 番目に開始される第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が外れで、第 2 特図保留中の 3 番目に開始される第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりとなるパターンである。残保留パターン 8 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行(a 時短遊技状態に移行してから最初に開始された第 2 特図遊技が終了)した場合の第 2 特図残保留数が 4 個であり、第 2 特図保留中の最初から 3 番目までに開始される第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が外れで、第 2 特図保留中の 4 番目に開始され

40

50

る第2特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりとなるパターンである。

【0795】

図62(B)及び図62(D)に示すように、本実施形態では、残保留パターン1, 5に対しては、1個の第2特図残保留に対する第2特図変動パターンとして第2特図変動表示時間が120秒である特図変動パターン「09」が設定され、第2特図の残保留に対して120秒の第2特図遊技が1回実行される。残保留パターン2, 6に対しては、最初から2個までの第2特図残保留のそれぞれに対する第2特図変動パターンとして第2特図変動表示時間が60秒である特図変動パターン「02」が設定され、第2特図の残保留に対して60秒の第2特図遊技が2回実行される。残保留パターン3, 7に対しては、最初から3個までの第2特図残保留のそれぞれに対する第2特図変動パターンとして第2特図変動表示時間が40秒である特図変動パターン「10」が設定され、第2特図の残保留に対して40秒の第2特図遊技が3回実行される。残保留パターン4, 8に対しては、最初から4個までの第2特図残保留のそれぞれに対する第2特図変動パターンとして第2特図変動表示時間が30秒である特図変動パターン「01」が設定され、第2特図の残保留に対して30秒の第2特図遊技が4回実行される。つまり、各残保留パターンに対しては、各残保留パターンにおいて実行される第2特図遊技の合計の変動表示時間が120秒に画一化されている。そのため、後述のRUSH演出のうちのバトル演出(残保留演出)は、120秒で完結する表示演出として実行され、バトル演出中に何回の第2特図残保留に対する第2特図遊技が実行されたかをし難くなっている。

【0796】

なお、各残保留パターンにおいて実行される第2特図遊技の合計の変動表示時間が120秒に限らず、適宜変更可能である。また、各残保留パターンで実行される第2特図の変動表示時間は、必ずしも均等である必要はない。また、各残保留パターンにおいて実行される第2特図遊技の合計の変動表示時間は、画一化する必要はなく残保留パターンごとに異なってもよく、各残保留パターンに複数の変動表示時間が対応付けられてもよい。

【0797】

〔主制御装置4の主タイマ割込み処理〕

本実施形態での主制御装置4の主タイマ割込み処理は、基本的に、前述の第1の実施形態での主制御装置4の主タイマ割込み処理と同様であるが、始動入賞処理における第1特図保留コマンド設定処理及び第2特図保留コマンド設定処理の手順が前述の第1の実施形態とは異なる。

【0798】

〔始動入賞処理〕

ここで、図63は、図17の主タイマ割込処理におけるステップS1004でMPU41により実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図18を参照しつつ、始動入賞処理を説明する。

【0799】

<ステップS1101>

図63に示すように、ステップS1101では、MPU41は、第1入賞口314に対する入賞があったか否かを判断する。ここで、MPU41は、第1入賞口314に対する入賞があったと判断すると(ステップS1101: Yes)、特定条件の成立となり、処理をステップS1102に移行し、第1入賞口314に対する入賞がなかったと判断すると(ステップS1101: No)、処理をステップS1106に移行する。

【0800】

<ステップS1102及びS1103>

ステップS1102では、MPU41は、RAM412の第1特図保留数記憶エリアNAに記憶されている第1特図保留数Nが最大保留数(本実施形態では4)であるか否かを判断する。ここで、MPU41は、第1特図保留数Nが最大保留数であれば(ステップS1102: Yes)、処理をステップS1106に移行する。一方、MPU41は、第1特図保留数Nが最大保留数でなければ(ステップS1102: No)、数値記憶処理と

して、第1特図保留数Nに1を加算する処理を実行する（ステップS1103）。第1特図保留数記憶エリアNAAに数値情報が記憶されている場合に、第1特図遊技を実行可能な第1特図保留遊技状態となる。

【0801】

<ステップS1104>

ステップS1104では、MPU41は、数値記憶処理として、図17の主タイマ割込処理でのステップS1003で更新される大当たり乱数カウンタC1、大当たり種別カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3と、後述の図66のメイン処理でのステップS1402及びS1414で更新される特図変動種別カウンタCS1とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値をRAM412における特図保留格納エリア412bの第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4のうち最初の空き保留エリアに格納する処理を実行する。

10

【0802】

<ステップS1105>

ステップS1105では、MPU41は、ステップS1104で取得された第1特図保留に対する特図当否情報が後述の図28の特図変動開始処理でのステップS2102又はS2103において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて第1特図保留コマンドをRAM412に設定する第1特図保留コマンド設定処理を実行する。なお、第1特図保留コマンド設定処理の詳細は、図19を参照して後述する。

20

【0803】

<ステップS1106>

ステップS1106では、MPU41は、第2入賞口315に対する入賞があったか否かを判断する。ここで、MPU41は、第2入賞口315に対する入賞があったと判断すると（ステップS1106：Yes）、処理をステップS1107に移行し、第2入賞口315に対する入賞がなかったと判断すると（ステップS1106：No）、当該始動入賞処理を終了する。

【0804】

<ステップS1107及びS1108>

ステップS1107では、MPU41は、RAM412の第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mが最大保留数（本実施形態では4）であるか否かを判断する。ここで、MPU41は、第2特図保留数Mが最大保留数であれば（ステップS1107：Yes）、当該始動入賞処理を終了する。一方、MPU41は、第2特図保留数Mが最大保留数でなければ（ステップS1107：No）、数値記憶処理として、第2特図保留数Mに1を加算する処理を実行する（ステップS1108）。第2特図保留数記憶エリアNABに数値情報が記憶されている場合に、第2特図遊技を実行可能な第1特図保留遊技状態となる。

30

【0805】

<ステップS1109>

ステップS1109では、MPU41は、数値記憶処理として、図17の主タイマ割込処理でのステップS1003で更新される大当たり乱数カウンタC1、大当たり種別カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3と、後述の図66のメイン処理でのステップS1402及びS1414で更新される特図変動種別カウンタCS1とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値をRAM412における特図保留格納エリア412bの第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4のうち最初の空き保留エリアに格納する処理を実行する。

40

【0806】

<ステップS1110>

ステップS1110では、MPU41は、ステップS1109で取得された第2特図保留に対する特図当否情報が後述の図28の特図変動開始処理でのステップS2102又は

50

S 2 1 0 3において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて第2特図保留コマンドをRAM 4 1 2に設定する第2特図保留コマンド設定処理を実行する。ここで、第2特図保留コマンド設定処理は、図19を参照して後述する第1特図保留コマンド設定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、第2特図保留コマンド設定処理は、図19の第1特図保留コマンド設定処理において、「第1特図保留コマンド」を「第2特図保留コマンド」と、「第1特図保留数N」を「第2特図保留数M」と読み替えればよい。

【0807】

〔第1特図保留コマンド設定処理〕

ここで、図64は、図63の始動入賞処理におけるステップS 1 1 0 5でMPU 4 1により実行される第1特図保留コマンド設定処理の手順を示すフローチャートである。なお、第1特図保留コマンドには、当該コマンドが第1特図保留コマンドである旨を示す情報と、大当たり抽選の結果（大当たり種別又は外れ種別）、特図変動表示時間及び第1特図保留数Nなどの情報とが含まれる。以下、図64を参照しつつ、第1特図保留コマンド設定処理を説明する。

【0808】

＜ステップS 3 3 0 1及びS 3 3 0 2＞

図64に示すように、本実施形態の第1特図保留コマンド設定処理では、MPU 4 1は、まず第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAから第1特図保留数Nを読み出すと共に、それぞれの第1特図保留に対応する大当たり乱数カウンタC 1の値をRAM 4 1 2から読み出す（ステップS 3 3 0 1）。そして、MPU 4 1は、第1特図大当たり当否テーブル（図59（A）参照）を参照し、大当たり乱数カウンタC 1の値に基づいて、始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりであるか否かを判断する（ステップS 3 3 0 2）。MPU 4 1は、始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップS 3 3 0 2：Yes）、処理をステップS 3 3 0 3に移行する。一方、MPU 4 1は、始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりでない場合（ステップS 3 3 0 2：No）、即ち外れである場合、処理をステップS 3 3 0 5に移行する。

【0809】

＜ステップS 3 3 0 3＞

始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップS 3 3 0 2：Yes）、MPU 4 1は、RAM 4 1 2から大当たり種別カウンタC 2及び特図変動種別カウンタC S 1のカウント値を読み出す（ステップS 3 3 0 3）。例えば、図63の始動入賞処理におけるステップS 1 1 0 4で特図当否情報が第3保留エリアREA 3に格納された場合には、その第3保留エリアREA 3に格納された特図当否情報に含まれる大当たり種別カウンタC 2及び特図変動種別カウンタC S 1のカウント値が読み出される。なお、第1保留エリアREA 1～第4保留エリアREA 4のうち図63の始動入賞処理におけるステップS 1 1 0 4で特図当否情報が格納された保留エリアは、第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数Nの値によって判断可能である。

【0810】

＜ステップS 3 3 0 4＞

ステップS 3 3 0 4では、MPU 4 1は、大当たり種別カウンタC 2（大当たり種別）、特図変動種別カウンタC S 1（特図変動パターン）及び第1特図保留数Nを第1特図保留コマンドに設定し、当該第1特図保留コマンド設定処理を終了する。

【0811】

＜ステップS 3 3 0 5及びS 3 3 0 6＞

始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりでない場合（ステップS 3 3 0 2：No）、即ち外れである場合、MPU 4 1は、RAM 4 1 2からリーチ乱数カウンタC 3、特図変動種別カウンタC S 1のカウント値を読み出す（ステップS 3 3 0 5）。次いで、MPU 4 1は、リーチ乱数カウンタC 3（外れ種別）、特図変動種別カウンタC S 1（特図変動パターン）及び第1特図保留数Nを第1特図保留コマンドに設定し（ステップS 3 3

06)、当該第1特図保留コマンド設定処理を終了する。

【0812】

このように、ステップS3304又はS3306において設定される第1特図保留コマンドには、ステップS3301で読み出された第1特図保留数Nが含まれる。そのため、第1特図保留コマンドを受信した音声ランプ制御装置5のMPU51は、第1特図保留コマンドに含まれる第1特図保留数Nを参照することにより、当該第1特図保留コマンドが第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4のいずれに格納された第1特図当否情報に対応するものであるかを認識することが可能である。これにより、音声ランプ制御装置5のMPU51は、第1特図保留画像表示領域76における第1特図遊技に対する対応表示としての第1特図保留画像(図88(A)及び図88(C)参照)の表示を制御することが可能になる。

10

【0813】

なお、当該第1特図保留コマンド設定処理のステップS3307又はS3309で設定される第1特図保留コマンドは、RAM412に記憶されており、主制御装置4のMPU41によって実行される後述の図66のメイン処理のステップS1401において他のコマンドと共に音声ランプ制御装置5に送信された後に消去される。さらに、ここで説明した第1特図保留コマンドの内容は一例に過ぎず、音声ランプ制御装置5において前記第1特図保留コマンドと同様の内容を把握することが可能であれば、ここで説明するものに限らない。例えば、第1特図保留コマンドの一部又は全部の情報が他のコマンドに含まれることも考えられる。

20

【0814】

〔第2特図保留コマンド設定処理〕

ここで、図65は、図63の始動入賞処理におけるステップS1110でMPU41により実行される第2特図保留コマンド設定処理の手順を示すフローチャートである。なお、第2特図保留コマンドには、当該コマンドが第2特図保留コマンドである旨を示す情報と、大当たり抽選の結果、特図変動表示時間及び第2特図保留数Mなどの情報とが含まれる。以下、図65を参照しつつ、第2特図保留コマンド設定処理を説明する。

【0815】

<ステップS3401>

図65に示すように、本実施形態の第2特図保留コマンド設定処理では、MPU41は、まず通常遊技状態であるか否かを判断する(ステップS3401)。通常遊技状態であるか否かは、図81の遊技状態の移行処理のステップS4216、S4222、S4228において、時短遊技状態(a時短遊技状態、b時短遊技状態又はc時短遊技状態)から通常遊技状態に移行される場合にオンに設定される通常遊技状態フラグに基づいて判断される。

30

【0816】

MPU41は、通常遊技状態である場合(ステップS3401:Yes)、処理をステップS3409に移行し、通常遊技状態でない場合(ステップS3401:No)、処理をステップS3402に移行する。

【0817】

<ステップS3402>

通常遊技状態でない場合(ステップS3401:Yes)、MPU41は、a時短遊技状態であるか否かを判断する(ステップS3402)。a時短遊技状態であるか否かは、図82の遊技状態の移行処理のステップS4246において、時短大当たり遊技の終了後にオンに設定されるa時短遊技状態フラグに基づいて判断される。

40

【0818】

MPU41は、a時短遊技状態である場合(ステップS3402:Yes)、処理をステップS3409に移行する。一方、MPU41は、a時短遊技状態でない場合(ステップS3402:No)、即ちa時短遊技状態又はc時短遊技状態である場合、処理をステップS3403に移行する。

50

【0819】

<ステップS3403及びS3404>

a時短遊技状態でない場合（ステップS3402：No）、即ちa時短遊技状態又はc時短遊技状態である場合、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABから第2特図保留数Mを読み出すと共に、それぞれの第2特図保留に対応する大当たり乱数カウンタC1の値をRAM412から読み出す（ステップS3403）。そして、MPU41は、b時短－c時短第2特図大当たり当否テーブル（図60（A）参照）を参照し、大当たり乱数カウンタC1の値に基づいて、始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりであるか否かを判断する（ステップS3404）。MPU41は、始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップS3404：Yes）、処理をステップS3405に移行する。一方、MPU41は、始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりでない場合（ステップS3404：No）、即ち外れである場合、処理をステップS3407に移行する。

10

【0820】

<ステップS3405>

始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップS3404：Yes）、MPU41は、RAM412から大当たり種別カウンタC2及び特図変動種別カウンタCS1のカウント値を読み出す（ステップS3405）。例えば、図63の始動入賞処理におけるステップS1104で特図当否情報が第3保留エリアREB3に格納された場合には、その第3保留エリアREB3に格納された特図当否情報に含まれる大当たり種別カウンタC2及び特図変動種別カウンタCS1のカウント値が読み出される。なお、第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4のうち図63の始動入賞処理におけるステップS1104で特図当否情報が格納された保留エリアは、第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mの値によって判断可能である。

20

【0821】

<ステップS3406>

ステップS3406では、MPU41は、大当たり種別カウンタC2（大当たり種別）、特図変動種別カウンタCS1（特図変動パターン）及び第2特図保留数Mを第2特図保留コマンドに設定し、当該第2特図保留コマンド設定処理を終了する。

【0822】

<ステップS3407及びS3408>

始動入賞に係る大当たり抽選の結果が大当たりでない場合（ステップS3404：No）、即ち外れである場合、MPU41は、RAM412からリーチ乱数カウンタC3、特図変動種別カウンタCS1のカウント値を読み出す（ステップS3407）。次いで、MPU41は、リーチ乱数カウンタC3（外れ種別）、特図変動種別カウンタCS1（特図変動パターン）及び第2特図保留数Mを第2特図保留コマンドに設定し（ステップS3408）、当該第2特図保留コマンド設定処理を終了する。

30

【0823】

<ステップS3409～S3411>

通常遊技状態である場合（ステップS3401：Yes）、又はa時短遊技状態である場合（ステップS3402：Yes）、MPU41は、特図変動パターンとして変動表示時間が40秒である特図変動パターン「08」を設定する（ステップS3409）。そして、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABから第2特図保留数Mを読み出すと共に、それぞれの第2特図保留に対応する大当たり乱数カウンタC1の値をRAM412から読み出す（ステップS3410）。さらに、MPU41は、大当たり抽選結果（大当たり種別、小当たり、外れ種別）、特図変動パターン及び第2特図保留数Mを第2特図保留コマンドに設定し（ステップS3411）、当該第2特図保留コマンド設定処理を終了する。

40

【0824】

このように、ステップS3406、S3408又はS3411において設定される第2

50

特図保留コマンドには、ステップ S 3 4 0 3 又は S 3 4 1 0 で読み出された第 2 特図保留数 M が含まれる。そのため、第 2 特図保留コマンドを受信した音声ランプ制御装置 5 の M P U 5 1 は、第 2 特図保留コマンドに含まれる第 2 特図保留数 M を参照することにより、当該第 2 特図保留コマンドが第 2 保留エリア R E B 1 ～第 4 保留エリア R E B 4 のいずれに格納された第 2 特図当否情報に対応するものであるかを認識することが可能である。これにより、音声ランプ制御装置 5 の M P U 5 1 は、第 2 特図保留画像表示領域 7 7 における第 2 特図遊技に対する対応表示としての第 2 特図保留画像（図 8 8 （B）及び図 8 8 （D）参照）の表示を制御することが可能になる。

【0825】

なお、当該第 2 特図保留コマンド設定処理のステップ S 3 4 0 6、S 3 4 0 8 又は S 3 4 1 1 において設定される第 2 特図保留コマンドで設定されるは、R A M 4 1 2 に記憶されており、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される後述の図 6 6 のメイン処理のステップ S 1 4 0 1 において他のコマンドと共に音声ランプ制御装置 5 に送信された後に消去される。さらに、ここで説明した第 2 特図保留コマンドの内容は一例に過ぎず、音声ランプ制御装置 5 において前記第 2 特図保留コマンドと同様の内容を把握することが可能であれば、ここで説明するものに限らない。例えば、第 2 特図保留コマンドの一部又は全部の情報が他のコマンドに含まれることも考えられる。

【0826】

〔主制御装置 4 のメイン処理〕

本実施形態での主制御装置 4 のメイン処理は、基本的に、前述の第 1 の実施形態での主制御装置 4 のメイン処理（図 2 1 参照）と同様であるが、図 6 6 に示すように、小当たり遊技制御処理が実行される点、一部の処理の手順の一部が異なる。以下、本実施形態での主制御装置 4 のメイン処理について、前述の第 1 の実施形態での主制御装置 4 のメイン処理との相違点と、本実施形態の説明に必要な処理とを中心に説明する。

【0827】

〔普図遊技制御処理〕

本実施形態の図 6 6 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 4 で実行される普図遊技制御処理は、普図変動開始処理が前述の第 1 の実施形態とは異なる。以下、図 6 7 を参照しつつ、本実施形態の普図変動開始処理を説明する。

【0828】

〔普図変動開始処理〕

本実施形態の普図変動開始処理では、普通図柄表示部 3 6 1 での普通図柄の変動が開始されると共に、普図当たり抽選での抽選結果が当たりである場合に普図当たり種別（電動役物 3 1 5 b の開放形態）に係るフラグが設定される。

【0829】

<ステップ S 3 5 0 1>

図 6 7 に示すように、本実施形態の普図変動開始処理では、M P U 4 1 は、まず通常遊技状態であるか否かを判断する（ステップ S 3 5 0 1）。即ち、M P U 4 1 は、普通図柄の変動表示（普図遊技）を開始させる場合の遊技状態が通常遊技状態であるか否かを判断する。つまり、普通図柄の変動開始時に低サポートモードである通常遊技状態であるか高サポートモードである時短遊技状態であるかを判断し、普通図柄の変動開始時のサポートモード種別に基づいて普図当たりの当否判定を行う。

【0830】

通常遊技状態であるか否かは、図 8 1 の遊技状態の移行処理のステップ S 4 2 1 6、S 4 2 2 2、S 4 2 2 8 において、時短遊技状態（a 時短遊技状態、b 時短遊技状態又は c 時短遊技状態）から通常遊技状態に移行される場合にオンに設定される通常遊技状態フラグに基づいて判断される。

【0831】

M P U 4 1 は、通常遊技状態である場合（ステップ S 3 5 0 1：Y e s）、処理をステップ S 3 4 0 2 に移行し、通常遊技状態でない場合（ステップ S 3 4 0 2：N o）、処理

10

20

30

40

50

をステップ S 3 4 0 5 に移行する。

【 0 8 3 2 】

<ステップ S 3 5 0 2 ~ S 3 5 0 4 >

通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 5 0 1 : Y e s ）、即ち低サポートモードである場合、M P U 4 1 は、通常遊技状態普図当たり当否テーブル（図 5 8 （ A ）参照）に基づいて普図当たり抽選についての当否判定を行い（ステップ S 3 5 0 2 ）、当否判定の結果が普図当たりであるか否かを判断する（ステップ S 3 5 0 3 ）

【 0 8 3 3 】

なお、当否判定の結果が普図当たりであるか否かは、3 1 7 R への遊技球 9 9 の入球により取得され、普図保留格納エリア 4 1 2 c （図 1 1 参照）に格納される普図当たり乱数カウンタ C 4 に基づいて判断される。

【 0 8 3 4 】

M P U 4 1 は、通常遊技状態普図当たり当否テーブルに基づく当否判定の結果が普図当たりである場合（ステップ S 3 5 0 3 : Y e s ）、短開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 3 5 0 4 ）、処理をステップ S 3 5 1 1 に移行する。短開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が電動役物 3 1 5 b の最大開放時間が 0 . 1 秒である短開放当たり（図 5 8 （ E ）参照）であることを示すフラグであり、後述の図 6 7 の普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 0 9 において、電動役物 3 1 5 b の開放時間として短開放に対応する時間に開放カウンタの値をセットするか否かを判断する場合に参照される。

【 0 8 3 5 】

一方、M P U 4 1 は、通常遊技状態普図当たり当否テーブルに基づく当否判定の結果が普図当たりでない場合（ステップ S 3 5 0 3 : N o ）、即ち当否判定の結果が外れである場合、処理をステップ S 3 5 1 1 に移行する。

【 0 8 3 6 】

<ステップ S 3 5 0 5 及び S 3 5 0 6 >

通常遊技状態でない場合（ステップ S 3 5 0 1 : N o ）、即ち高サポートモードである時短遊技状態である場合（ a 時短遊技状態、 b 時短遊技状態及び c 時短遊技状態のいずれかである場合）、M P U 4 1 は、時短遊技状態普図当たり当否テーブル（図 5 8 （ B ）参照）に基づいて普図当たり抽選についての当否判定を行い（ステップ S 3 5 0 5 ）、当否判定の結果が普図当たりであるか否かを判断する（ステップ S 3 5 0 6 ）。

【 0 8 3 7 】

なお、当否判定の結果が普図当たりであるか否かは、前述のステップ S 3 5 0 2 と同様に、スルーゲート 3 1 7 R への遊技球 9 9 の入球により取得され、普図保留格納エリア 4 1 2 c （図 1 1 参照）に格納される普図当たり乱数カウンタ C 4 の値に基づいて判断される。

【 0 8 3 8 】

M P U 4 1 は、時短遊技状態普図当たり当否テーブルに基づく当否判定の結果が普図当たりである場合（ステップ S 3 5 0 6 : Y e s ）、処理をステップ S 3 5 0 7 に移行し、当否判定の結果が普図当たりでない場合（ステップ S 3 5 0 6 : N o ）、即ち当否判定の結果が外れである場合、処理をステップ S 3 5 0 9 に移行する。

【 0 8 3 9 】

<ステップ S 3 5 0 7 及び S 3 5 0 8 >

時短遊技状態普図当たり当否テーブルに基づく当否判定の結果が普図当たりである場合（ステップ S 3 5 0 6 : Y e s ）、M P U 4 1 は、 a 時短遊技状態であるか否かを判断する（ステップ S 3 5 0 7 ）。即ち、M P U 4 1 は、普通図柄の変動表示（普図遊技）を開始させる場合の遊技状態が a 時短遊技状態であるか否かを判断する。 a 時短遊技状態であるか否かは、図 8 2 の遊技状態の移行処理のステップ S 4 2 4 6 において、時短大当たり遊技の終了後にオンに設定される a 時短遊技状態フラグに基づいて判断される。

【 0 8 4 0 】

M P U 4 1 は、a 時短遊技状態である場合（ステップ S 3 5 0 7 : Y e s）、長開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 3 5 0 8）、処理をステップ S 3 5 1 1 に移行する。長開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が電動役物 3 1 5 b の最大開放時間が 1 5 秒である長開放当たり（図 5 8（E）参照）であることを示すフラグであり、後述の図 6 8 の普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 0 3 において、電動役物 3 1 5 b の開放時間として長開放に対応する時間に開放カウンタの値をセットするか否かを判断する場合に参照される。一方、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態でない場合（ステップ S 3 5 0 7 : N o）、処理をステップ S 3 5 0 9 に移行する。

【0841】

<ステップ S 3 5 0 9 及び S 3 5 1 0>

a 時短遊技状態でない場合（ステップ S 3 5 0 7 : N o）、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態であるか否かを判断する（ステップ S 3 5 0 9）。即ち、M P U 4 1 は、普通図柄の変動表示（普図遊技）を開始させる場合の遊技状態が b 時短遊技状態であるか否かを判断する。b 時短遊技状態であるか否かは、図 8 0 の遊技状態の移行処理のステップ S 4 2 0 3 において、大当たり遊技の終了後に大当たり抽選結果が外れである特図遊技が規定回数（例えば 5 0 0 回）の実行されることに基づいて通常遊技状態から b 時短遊技状態に移行される場合にオンに設定される b 時短遊技状態フラグに基づいて判断される。

【0842】

M P U 4 1 は、b 時短遊技状態である場合（ステップ S 3 5 0 9 : Y e s）、中開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 3 5 0 9）、処理をステップ S 3 5 1 1 に移行する。中開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が電動役物 3 1 5 b の最大開放時間が 3 秒である中開放当たり（図 5 8（E）参照）であることを示すフラグであり、後述の図 6 8 の普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 0 6 において、電動役物 3 1 5 b の開放時間として中開放に対応する時間に開放カウンタの値をセットするか否かを判断する場合に参照される。一方、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態でない場合（ステップ S 3 5 0 7 : N o）、処理をステップ S 3 5 0 9 に移行する。

【0843】

<ステップ S 3 5 1 1 及び S 3 5 1 2>

普図当たり抽選での結果が外れである場合（ステップ S 3 5 0 3 又は S 3 5 0 6 : N o）、短開放普図当たりフラグをオンに設定した場合（ステップ S 3 5 0 4）、長開放普図当たりフラグをオンに設定した場合（ステップ S 3 5 0 8）、又は中開放普図当たりフラグをオンに設定した場合（ステップ S 3 5 1 0）、M P U 4 1 は、メイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 での普通図柄の変動表示を開始する（ステップ S 3 5 1 1）。そして、M P U 4 1 は、普通図柄が変動表示されていること、即ち普図遊技が実行されていることを示す普図変動表示中フラグをオンに設定し（ステップ S 3 5 1 2）、当該普図変動開始処理を終了する。

【0844】

〔普図当たり遊技制御処理〕

ここで、図 6 8 及び図 6 9 は、図 6 6 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 5 において実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図当たり遊技制御処理では、普図当たり抽選の結果が当たりである場合に、電動役物 3 1 5 b の開閉制御を行うことによって第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を許容する許容状態と制限する制限状態とを切り替える処理が実行される。以下、図 6 8 及び図 6 9 を参照しつつ、普図当たり遊技制御処理を説明する。

【0845】

<ステップ S 3 6 0 1>

図 6 8 に示すように、普図当たり遊技制御処理では、まず M P U 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 6 0 1）。即ち、M P U 4 1 は、普図当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。なお、普図変動停止表示フラグは、図 2 2

10

20

30

40

50

の普図遊技制御処理において普通図柄が停止表示される場合にステップ S 1 5 1 1 でオンに設定される。

【0846】

MPU 4 1 は、普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 0 1 : Y e s）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップ S 3 6 0 2 に移行する。一方、MPU 4 1 は、普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 0 1 : N o）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理を図 6 9 のステップ S 3 6 1 6 に移行する。

【0847】

<ステップ S 3 6 0 2>

普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 0 1 : Y e s）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、MPU 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 6 0 2）。大当たり遊技中フラグは、図 2 9 の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップ S 2 2 0 6 でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップ S 2 2 5 2 でオフに設定される。

【0848】

MPU 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 0 2 : Y e s）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技が開始されることで強制終了される場合には、当該普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合であっても普図当たり遊技が開始されない。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中は普図当たり遊技が開始されることはない。もちろん、大当たり遊技の実行中に新たな普図遊技を開始させてもよい。

【0849】

一方、MPU 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 0 2 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 3 6 0 3 に移行する。

【0850】

<ステップ S 3 6 0 3>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 0 2 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 6 0 3）。長開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合に、図 6 7 の普図変動開始処理のステップ S 3 5 0 8 においてオンに設定される。即ち、MPU 4 1 は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであるか否かを判断する。MPU 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 0 3 : Y e s）、処理をステップ S 3 6 0 4 に移行し、長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 0 3 : N o）、処理をステップ S 3 6 0 6 に移行する。

【0851】

<ステップ S 3 6 0 4 及び S 3 6 0 5>

長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 0 3 : Y e s）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合、MPU 4 1 は、数値記憶処理として、長開放普図当たり遊技における電動役物 3 1 5 b の開放時間（第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球可能時間）である 1 5 秒（図 5 8（E）参照）に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする処理を実行する（ステップ S 3 6 0 4）。開放時間カウンタは、電動役物 3 1 5 b の復帰タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 1 8 において参照される。そして、MPU 4 1 は、長開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 0 5）、処理をステップ S 3 6 1 2 に移行する。

10

20

30

40

50

【0852】

<ステップS3606>

長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3603：No）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりでない場合、MPU41は、中開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3606）。中開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が中開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が中開放普図当たりである場合に、図67の普図変動開始処理のステップS3510においてオンに設定される。即ち、MPU41は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が中開放普図当たりであるか否かを判断する。MPU41は、中開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3606：Yes）、処理をステップS3607に移行し、中開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3606：No）、処理をステップS3609に移行する。

10

【0853】

<ステップS3607及びS3608>

中開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3606：Yes）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が中開放普図当たりである場合、MPU41は、数値記憶処理として、中開放普図当たり遊技における電動役物315bの開放時間（第2入賞口315への遊技球の入球可能時間）である3秒（図58（E）参照）に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする処理を実行する（ステップS3607）。そして、MPU41は、中開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS3608）、処理をステップS3612に移行する。

20

【0854】

<ステップS3609>

中開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3606：No）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が中開放普図当たりでない場合、MPU41は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3609）。短開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合に、図67の普図変動開始処理のステップS3504においてオンに設定される。即ち、MPU41は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであるか否かを判断する。MPU41は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3609：Yes）、処理をステップS3610に移行し、短開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3609：No）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が外れである場合、処理をステップS3612に移行する。

30

【0855】

<ステップS3610及びS3611>

短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3609：Yes）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合、MPU41は、数値記憶処理として、短開放普図当たり遊技における電動役物315bの開放時間（第2入賞口315への遊技球の入球可能時間）である0.1秒（図58（E）参照）に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする処理を実行する（ステップS3610）。そして、MPU41は、短開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS3611）、処理をステップS3612に移行する。

40

【0856】

<ステップS3612～S3614>

普図当たり抽選の結果が当たりである場合に普図当たり種別を示すフラグ（長開放普図当たりフラグ、中開放普図当たりフラグ又は短開放普図当たりフラグ）をオフに設定した場合（ステップS3605、S3608又はS3611）、MPU41は、電動役物31

50

5 b を作動させる（ステップ S 3 6 1 2）。これにより、第 2 入賞口 3 1 5 を開放し、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を許容する許容状態とする。そして、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b が開放されていることを音声ランプ制御装置 5 に通知する電動役物開放コマンドを設定すると共に（ステップ S 3 6 1 3）、電動役物 3 1 5 b が開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオンに設定し（ステップ S 3 6 1 4）、処理をステップ S 3 6 1 5 に移行する。

【0857】

なお、電動役物開放コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 6 6 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これより、音声ランプ制御装置 5 は、電動役物開放コマンドに基づいて、例えば図柄表示部 3 4 1 などに対して電動役物 3 1 5 b が開放されていることを示す表示演出を開始させることができる。

【0858】

<ステップ S 3 6 1 5>

普図当たり抽選の結果が当たりである場合に電動役物 3 1 5 b を開放させる処理などを実行した場合（ステップ S 3 6 0 3 ～ S 3 6 1 4）、又は長開放普図当たりフラグ及び短開放普図当たりフラグが共にオフに設定されている場合（普図当たり抽選の結果が外れである場合）（ステップ S 3 6 0 2、S 3 6 0 6 及びステップ S 3 6 0 9 が全て N o）、M P U 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 1 5）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【0859】

<ステップ S 3 6 1 6>

普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 0 1：N o）、図 6 9 に示すように、M P U 4 1 は、当該普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 1 4 において電動役物 3 1 5 b を開放させた場合にオンに設定される電動役物開放中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 6 1 6）。即ち、M P U 4 1 は、普図当たり遊技が実行中であるか否かを判断する。M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 1 6：Y e s）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、処理をステップ S 3 6 1 7 に移行する。一方、M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 1 6：N o）、即ち普図当たり遊技が実行中でない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【0860】

<ステップ S 3 6 1 7 及び S 3 6 1 8>

電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 1 6：Y e s）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、M P U 4 1 は、更新処理として、当該普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 0 4、S 3 6 0 7 又は S 3 6 1 0 においてセットされる開放時間カウンタの値から 1 減算する処理を実行し（ステップ S 3 6 1 7）、減算後の開放時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 6 1 8）。即ち、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、減算後の開放時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 6 1 8：Y e s）、即ち電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングである場合、処理をステップ S 3 6 1 9 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後の開放時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 6 1 8：N o）、即ち電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングでない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【0861】

<ステップ S 3 6 1 9 ～ S 3 6 2 1>

減算後の開放時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 6 1 8：Y e s）、即ち電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングである場合、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b を復帰させる（ステップ S 3 6 1 9）。これにより、第 2 入賞口 3 1 5 が閉鎖され、第 2

10

20

30

40

50

入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が制限される。そして、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b の閉鎖されたことを音声ランプ制御装置 5 に通知する電動役物閉鎖コマンドを設定すると共に（ステップ S 3 6 2 0）、電動役物 3 1 5 b が開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 1）、処理をステップ S 3 8 2 2 に移行する。

【 0 8 6 2 】

なお、電動役物閉鎖コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 6 6 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、電動役物閉鎖コマンドに基づいて、例えば図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される電動役物が開放されていることを示す表示演出を終了させることができる。

10

【 0 8 6 3 】

<ステップ S 3 6 2 2 >

【 0 8 6 4 】

ステップ S 3 8 2 2 では、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する。a 時短遊技状態フラグは、図 8 2 の遊技状態の移行処理のステップ S 4 2 4 6 において、時短大当たり遊技の終了後にオンに設定される。

【 0 8 6 5 】

M P U 4 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 2 2 : Y e s）、処理をステップ S 3 8 2 3 に移行し、a 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 2 2 : N o）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

20

【 0 8 6 6 】

<ステップ S 3 6 2 3 及び S 3 6 2 4 >

a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 2 2 : Y e s）、M P U 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップ S 3 6 2 3）。通常遊技状態移行フラグは、図 8 1 の遊技状態の移行処理のステップ S 4 2 1 5 において、遊技状態を a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるか否かを判断する場合に参照される。さらに、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 4）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

30

【 0 8 6 7 】

ここで、本実施形態の普図当たり制御処理では、a 時短遊技状態において普図当たり遊技が実行される場合、当該普図当たり遊技の終了に基づいて、ステップ S 3 6 2 3 において遊技状態を a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されると共に、ステップ S 3 6 2 4 において a 時短遊技状態フラグがオフに設定される。つまり、本実施形態では、a 時短遊技状態において普図当たり遊技が開始される場合、1 回に普図当たり遊技の実行（1 回の電動役物 3 1 5 b の作動）により、遊技状態が a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行される。そして、前述のように、a 時短遊技状態の移行に基づいて普図当たり遊技が実行される場合（電動役物 3 1 5 b の作動によって第 2 入賞口 3 1 5 が開放される場合）、第 2 特図の当該変動表示に加え、最大で 4 個の第 2 特図保留（いわゆる残保留）に基づく第 2 特図の変動表示の計 5 回の第 2 特図遊技を実行することが可能になり、第 2 特図の残保留に基づく第 2 特図遊技は a 時短遊技状態から移行した通常遊技状態において開始される。

40

【 0 8 6 8 】

[特図遊技制御処理]

ここで、図 7 0 及び図 7 1 は、図 6 6 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 6 において実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技制御処理では、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の記憶内容

50

が更新されると共に、第1特図遊技又は第2特図遊技の進行の制御、例えば第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示及び停止表示が制御される。以下、図70及び図71を参照しつつ、特図遊技制御処理を説明する。

【0869】

<ステップS3701>

図70に示すように、本実施形態の特図遊技制御処理では、MPU41は、まず大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3701）。大当たり遊技中フラグは、図29の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS2206でオンに設定されると共に、大当たり遊技が終了する場合にステップS2252でオフに設定される。

10

【0870】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS3701：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もちろん、大当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。

【0871】

一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3701：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS3702に移行する。

【0872】

20

<ステップS3702>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3701：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（第1特図遊技又は第2特図遊技の実行中）であることを示す特図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3702）。特図変動表示中フラグは、後述の図71の特図変動開始処理において第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示が開始される場合にステップS3915でオンに設定され、当該特図遊技制御処理において第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示される場合にステップS3710でオフに設定される。

【0873】

MPU41は、特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS3702：Yes）、即ち特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、処理をステップS3706に移行する。一方、MPU41は、特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS3702：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、処理をステップS3703に移行する。

30

【0874】

<ステップS3703>

特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS3702：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、MPU41は、特図保留格納エリア412bの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数N、及び第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mの両方が0であるか否かを判断する（ステップS3703）。

40

【0875】

MPU41は、第1特図保留数N及び第2特図保留数Mの両方が0である場合（ステップS3703：Yes）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のいずれもない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、第1特図保留数N及び第2特図保留数Mのいずれか一方が0でない場合は（ステップS3703：No）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、処理をステップS3704に移行する。

【0876】

50

<ステップ S 3 7 0 4>

第 1 特図保留数 N 及び第 2 特図保留数 M のいずれか一方が 0 でない場合は（ステップ S 3 7 0 3 : N o）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、M P U 4 1 は、特図保留格納エリア 4 1 2 b に記憶されている特図当否情報のデータ（特図データ）に関する特図データ設定処理を実行し（ステップ S 3 7 0 4）、処理をステップ S 3 7 0 5 に移行する。なお、特図データ設定処理の詳細は、図 7 2 を参照して後述する。

【0877】

<ステップ S 3 7 0 5>

ステップ S 3 7 0 5 では、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄表示部 3 6 2 での第 1 特別図柄、又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での第 2 特別図柄の変動表示を開始（第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技を実行）させるための特図変動開始処理を実行し、当該特図遊技制御処理を終了する。なお、特図変動開始処理の詳細は、図 7 3 を参照して後述する。

10

【0878】

<ステップ S 3 7 0 6>

特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 3 7 0 2 : Y e s）、即ち第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特図遊技の変動表示の開始から、後述の図 7 3 の特図変動開始処理でのステップ S 3 9 0 3 の第 1 特図変動パターン設定処理で設定される第 1 特別図柄、又は同特図変動開始処理でのステップ S 3 9 0 7 若しくは S 3 9 0 9 の第 2 特図変動パターン設定処理 A, B で設定される第 2 特別図柄に対する特図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 3 7 0 6）。即ち、M P U 4 1 は、変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングであるか否かを判断する。

20

【0879】

第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から特図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 3 7 0 6 : Y e s）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、処理をステップ S 3 7 0 7 に移行する。一方、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 3 7 0 6 : N o）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

30

【0880】

<ステップ S 3 7 0 7 ~ S 3 7 1 0>

第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過した場合（ステップ S 3 7 0 6 : Y e s）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、M P U 4 1 は、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において、当該特図遊技に対応する大当たり抽選の結果に応じた態様で特別図柄を停止表示させる（ステップ S 3 7 0 7）。そして、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 3 7 0 8）、特図遊技が終了したことを音声ランプ制御装置 5 に通知する特図遊技終了コマンドを設定する（ステップ S 3 7 0 9）。さらに、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 7 1 0）、処理を図 7 1 のステップ S 3 7 1 1 に移行する。

40

【0881】

<ステップ S 3 7 1 1 及び S 3 7 1 2>

図 7 1 のステップ S 3 7 1 1 では、M P U 4 1 は、残設定カウンタの値が 0 であるか否かを判断する。残設定カウンタは、a 時短遊技状態において電動役物 3 1 5 b が開放されることを契機とする第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球による第 2 特図保留（残保留）に対して実行される第 2 特図遊技（特殊変動）の残り回数を示すものであり、図 7 4 の第 2 特図変動パターン設定処理 B のステップ S 4 0 1 5、又は図 7 5 のステップ S 4 0 1 9 若

50

しくは S 4 0 2 3 において設定される。

【 0 8 8 2 】

M P U 4 1 は、第 2 特図の残保留に対する特殊変動の残り回数を示す残設定カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 7 1 1 : Y e s）、特殊変動が終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知する特殊変動終了コマンドを設定し（ステップ S 3 7 1 2）、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、残設定カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 7 1 1 : N o）、処理をステップ S 3 7 1 3 に移行する。

【 0 8 8 3 】

<ステップ S 3 7 1 3>

残設定カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 7 1 1 : N o）、M P U 4 1 は、遊技状態を b 時短遊技状態に移行されるまでの残りの特図遊技回数を示す天井回数カウンタが設定されていることを示す天井回数カウンタフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 7 1 3）。天井回数カウンタは、図 8 2 の遊技状態の移行処理のステップ S 4 2 5 1 において、大当たり遊技の終了した場合にセットされ、天井回数カウンタフラグは、当該遊技状態の移行処理のステップ S 4 2 5 2 において、天井回数カウンタをセットした場合にオンに設定される。

10

【 0 8 8 4 】

M P U 4 1 は、天井回数カウンタが設定されていることを示す天井回数カウンタフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 1 3 : Y e s）、処理をステップ S 3 7 1 4 に移行し、天井回数カウンタフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 1 3 : N o）、処理をステップ S 3 7 1 7 に移行する。

20

【 0 8 8 5 】

<ステップ S 3 7 1 4 ~ S 3 7 1 6>

天井回数カウンタが設定されていることを示す天井回数カウンタフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 1 3 : Y e s）、M P U 4 1 は、更新処理として、遊技状態が b 時短遊技状態に移行されるまでの残りの特図遊技回数を示す天井回数カウンタの値から 1 減算する処理を実行し（ステップ S 3 7 1 4）、処理をステップ S 3 7 1 5 に移行する。

【 0 8 8 6 】

ステップ S 3 7 1 5 では、M P U 4 1 は、減算後の天井回数カウンタの値が 0 であるか否かを判断する。即ち、M P U 4 1 は、遊技状態を b 時短遊技状態に移行させるタイミングであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、減算後の天井回数カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 7 1 5 : Y e s）、即ち遊技状態を b 時短遊技状態に移行させるタイミングである場合、遊技状態を b 時短遊技状態に移行させる b 時短遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップ S 3 7 1 6）、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、減算後の天井回数カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 7 1 5 : N o）、即ち遊技状態を b 時短遊技状態に移行させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

30

【 0 8 8 7 】

<ステップ S 3 7 1 7 及び S 3 7 1 8>

天井回数カウンタが設定されていることを示す天井回数カウンタフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 1 3 : N o）、M P U 4 1 は、当該変動表示に対する大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れであるか否かを判断する（ステップ S 3 7 1 7）。ここで、時短図柄停止外れは、当該変動表示の終了後に遊技状態が c 時短遊技状態に移行される大当たり抽選結果である。即ち、ステップ S 3 7 1 7 では、M P U 4 1 は、当該変動表示の停止後に c 時短遊技状態に移行させるか否かを判断する。

40

【 0 8 8 8 】

M P U 4 1 は、当該変動表示に対する大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである場合（ステップ S 3 7 1 7 : Y e s）、遊技状態を c 時短遊技状態に移行させる c 時短遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップ S 3 7 1 8）、当該特図遊技制御処理を終了す

50

る。c時短遊技状態移行フラグは、図80の遊技状態の移行処理のステップS4208において、遊技状態をc時短遊技状態に移行させるか否かを判断する場合に参照される。

【0889】

一方、MPU41は、当該変動表示に対する大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れでない場合（ステップS3717：No）、即ち遊技状態をc時短遊技状態に移行させない場合、処理をステップS3719に移行する。

【0890】

<ステップS3719>

当該変動表示に対する大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れでない場合（ステップS3717：No）、即ち遊技状態をc時短遊技状態に移行させない場合、MPU41は、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3719）。b時短遊技状態フラグは、図80の遊技状態の移行処理のステップS4203において、遊技状態を通常遊技状態からb時短遊技状態に移行させる場合にオンに設定される。

【0891】

MPU41は、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3719：Yes）、処理をステップS3720に移行し、b時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3719：No）、処理をステップS3723に移行する。

【0892】

<ステップS3720～S3722>

b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3719：Yes）、MPU41は、更新処理として、b時短遊技状態で実行可能な残り時短遊技回数を示すb時短回数カウンタの値から1減算する処理を実行し（ステップS3720）、処理をステップS3721に移行する。b時短回数カウンタは、図80の遊技状態の移行処理のステップS4205において、遊技状態を通常遊技状態からb時短遊技状態に移行させた場合に設定される。

【0893】

ステップS3721では、MPU41は、減算後のb時短回数カウンタの値が0であるか否かを判断する。即ち、MPU41は、遊技状態をb時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるタイミングであるか否かを判断する。MPU41は、減算後のb時短回数カウンタの値が0である場合（ステップS3721：Yes）、即ち遊技状態をb時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるタイミングである場合、遊技状態をb時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップS3722）、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、減算後のb時短回数カウンタの値が0でない場合（ステップS3721：No）、即ち遊技状態をb時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

【0894】

<ステップS3723>

b時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3719：No）、即ち遊技状態がb時短遊技状態でない場合、MPU41は、c時短遊技状態であることを示すc時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3723）。c時短遊技状態フラグは、図80の遊技状態の移行処理のステップS4209において、遊技状態を通常遊技状態からc時短遊技状態に移行させる場合にオンに設定される。

【0895】

MPU41は、c時短遊技状態であることを示すc時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3723：Yes）、処理をステップS3724に移行し、c時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3723：No）、当該特図遊技制御処理を終了する。

【0896】

10

20

30

40

50

<ステップS 3 7 2 4～S 3 7 2 6>

c 時短遊技状態であることを示す c 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS 3 7 2 3：Y e s）、M P U 4 1 は、更新処理として、c 時短遊技状態で実行可能な残り時短遊技回数を示す c 時短回数カウンタの値から 1 減算する処理を実行し（ステップS 3 7 2 4）、処理をステップS 3 7 2 5に移行する。c 時短回数カウンタは、図 8 0 の遊技状態の移行処理のステップS 4 2 1 1において、遊技状態を通常遊技状態から c 時短遊技状態に移行させた場合に設定される。

【0 8 9 7】

ステップS 3 7 2 5では、M P U 4 1 は、減算後の c 時短回数カウンタの値が 0 であるか否かを判断する。即ち、M P U 4 1 は、遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるタイミングであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、減算後の c 時短回数カウンタの値が 0 である場合（ステップS 3 7 2 5：Y e s）、即ち遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるタイミングである場合、遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップS 3 7 2 6）、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、減算後の c 時短回数カウンタの値が 0 でない場合（ステップS 3 7 2 5：N o）、即ち遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

【0 8 9 8】

〔特図データ設定処理〕

ここで、図 7 2 は、図 7 0 の特図遊技制御処理のステップS 3 7 0 4においてM P U 4 1 によって実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の特図データ設定処理では、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の記憶内容が更新される。以下、図 7 2 を参照しつつ、特図データ設定処理を説明する。

【0 8 9 9】

なお、本実施形態の特図保留格納エリア 4 1 2 b は、前述の第 1 の実施形態と同様であるため詳細な説明は省略するが、図 8 に示すように、第 1 入賞口 3 1 4 への遊技球の入球を契機とする第 1 始動入賞に対する第 1 特図遊技を実行する権利の保留に対する当否情報を格納するための記憶領域である第 1 特図保留格納エリア R E A（第 1 保留エリア R E A 1、第 2 保留エリア R E A 2、第 3 保留エリア R E A 3、第 4 保留エリア R E A 4、及び第 1 特図保留数記憶エリア N A A）と、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を契機とする第 2 始動入賞に対する第 2 特図遊技を実行する権利の保留に対する当否情報を格納するための記憶領域である第 2 特図保留格納エリア R E B（第 1 保留エリア R E B 1、第 2 保留エリア R E B 2、第 3 保留エリア R E B 3、第 4 保留エリア R E B 4、及び第 2 特図保留数記憶エリア N A B）と、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄の変動表示が開始される際に、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 又は第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 に格納された特図当否情報を移動させるための記憶領域である特図実行エリア A E と、を備える。

【0 9 0 0】

<ステップS 3 8 0 1>

図 7 2 に示すように、本実施形態の特図データ設定処理では、M P U 4 1 は、まず第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留数 M が 0 であるか否かを判断する（ステップS 3 8 0 1）。M P U 4 1 は、第 2 特図保留数 M が 0 である場合（ステップS 3 8 0 1：Y e s）、即ち第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留がなく第 1 特図遊技に対する第 1 特図保留がある場合、処理をステップS 3 8 0 2に移行する。一方、M P U 4 1 は、第 2 特図保留数 M が 0 でない場合（ステップS 3 8 0 1：N o）、即ち第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留がある場合、処理をステップS 3 8 0 6に移行する。つまり、M P U 4 1 は、第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留数 M が 0 であるか否かを判断することで、第 1 特図遊技よりも第 2 特図遊技を優先して開始させる。

【0901】

なお、本実施形態では、第2特図遊技が第1特図遊技よりも優先して開始されるが、第1特図遊技が第2特図遊技よりも優先して開始されるようにしてもよく、また、第1入賞口314又は第2入賞口315に対する遊技球の入球順（保留順）に特図遊技を開始させ、第1特図遊技及び第2特図遊技のいずれか一方が実行されるようにしてもよい。また、第1特図遊技と第2特図遊技との開始に優先順位を設けることなく、第1特図遊技と第2特図遊技とが互いに独立して実行され、第1特図遊技と第2特図遊技とが同時に実行され得るようにしてもよい（いわゆる特図の同時変動）。

【0902】

<ステップS3802～S3804>

第2特図保留数Mが0である場合（ステップS3801：Yes）、MPU41は、更新処理として、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数Nを1減算する処理を実行し（ステップS3802）、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1から特図実行エリアAEに第1特図当否情報を移動させる（ステップS3803）。続いて、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2～第4保留エリアREA4の第1特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS3804）。具体的に、ステップS3804では、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2の第1特図当否情報を第1保留エリアREA1に移動させ、第3保留エリアREA3の第1特図当否情報を第2保留エリアREA2に移動させ、第4保留エリアREA4の第1特図当否情報を第3保留エリアREA3に移動させる。MPU41は、ステップS3804の処理が終了した場合、処理をステップS3805に移行する。

【0903】

<ステップS3805>

ステップS3805では、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4の第1特図当否情報がシフトした旨を示す第1特図シフトコマンドをRAM412に設定し、当該特図データ設定処理を終了する。この第1特図シフトコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図66参照）のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、第1特図シフトコマンドに基づいて、図柄表示部341に表示される第1特図保留に対応させた保留表示（図88（A）及び図88（C）参照）の表示数などを変更することができる。

【0904】

<ステップS3806～S3808>

第2特図保留数Mが0でない場合（ステップS3801：No）、MPU41は、減算処理として、第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mを1減算する処理を実行し（ステップS3806）、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1から特図実行エリアAEに第2特図当否情報を移動させる（ステップS3807）。続いて、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2保留エリアREB2～第4保留エリアREB4の第2特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS3808）。具体的に、ステップS3808では、第2保留エリアREB2の第2特図当否情報を第1保留エリアREB1に移動させ、第3保留エリアREB3の第2特図当否情報を第2保留エリアREB2に移動させ、第4保留エリアREB4の第2特図当否情報を第3保留エリアREB3に移動させる。MPU41は、ステップS3807の処理が終了した場合、処理をステップS3809に移行する。

【0905】

<ステップS3809>

ステップS3809では、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4の第2特図当否情報がシフトした旨を示す第2特図シフトコマンドをRAM412に設定し、当該特図データ設定処理を終了する。この第

10

20

30

40

50

２特図シフトコマンドは、ＭＰＵ４１により実行される次のメイン処理（図６６参照）のステップＳ１４０１の外部出力処理で音声ランプ制御装置５に送信される。これにより、音声ランプ制御装置５は、第２特図シフトコマンドに基づいて、図柄表示部３４１に表示される第２特図保留に対応させた保留表示（図８８（Ｂ）及び図８８（Ｄ）参照）の表示数などを変更することができる。

【０９０６】

〔特図変動開始処理〕

ここで、図７３は、図７０の特図遊技制御処理のステップＳ３７０５においてＭＰＵ４１によって実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の特図変動開始処理では、第１入賞口３１４への遊技球の始動入賞に基づく第１特別図柄表示部３６２での第１特別図柄の変動表示の開始により、又は第２入賞口３１５への遊技球の始動入賞に基づく第２特別図柄表示部３６３での第２特別図柄の変動表示の開始により、第１特別遊技又は第２特図遊技（特図遊技）が開始され、特図遊技の開始に伴う各種処理が実行される。以下、図２８を参照しつつ、特図変動開始処理を説明する。

10

【０９０７】

<ステップＳ３９０１>

図７３に示すように、本実施形態の特図変動開始処理では、ＭＰＵ４１は、まず開始される特図遊技が第１特図遊技であるか否かを判断する（ステップＳ３９０１）。ＭＰＵ４１は、開始される特図遊技が第１特図遊技である場合（ステップＳ３９０１：Ｙｅｓ）、処理をステップＳ３９０２に移行する。ＭＰＵ４１は、開始される特図遊技が第１特図遊技でない場合（ステップＳ３９０１：Ｎｏ）、即ち開始される特図遊技が第２特図遊技である場合、処理をステップＳ３９０４に移行する。

20

【０９０８】

<ステップＳ３９０２及びＳ３９０３>

開始される特図遊技が第１特図遊技である場合（ステップＳ３９０１：Ｙｅｓ）、ＭＰＵ４１は、第１特図大当たり当否テーブル（図５９（Ａ）参照）に基づいて第１特図大当たり抽選を行し（ステップＳ３９０２）、さらに第１特図変動パターン設定処理を実行し（ステップＳ３９０３）、処理をステップＳ３９１０に移行する。

【０９０９】

第１特図変動パターン設定処理では、ＭＰＵ４１は、ステップＳ３９０２での第１特図大当たり抽選の結果に基づき、第１特図大当たり変動テーブル（図５９（Ｄ）参照）又は第１特図外れ変動テーブル（図５９（Ｆ）参照）を参照し、開始される第１特図遊技における第１特図の変動表示時間である第１特図変動パターンが設定される。

30

【０９１０】

<ステップＳ３９０４>

開始される特図遊技が第１特図遊技でない場合（ステップＳ３９０１：Ｎｏ）、即ち開始される特図遊技が第２特図遊技である場合、ＭＰＵ４１は、ｂ時短遊技状態であることを示すｂ時短遊技状態がオンに設定されているか否かを判断する（ステップＳ３５０４）。即ち、ＭＰＵ４１は、第２特図の変動表示（第２特図遊技）を開始させる場合の遊技状態がｂ時短遊技状態であるか否かを判断する。なお、ｂ時短遊技状態フラグは、図８０の遊技状態の移行処理のステップＳ４２０３において、大当たり遊技の終了後に大当たり抽選結果が外れである特図遊技が規定回数（例えば５００回）の実行されることに基いて通常遊技状態からｂ時短遊技状態に移行される場合にオンに設定される。

40

【０９１１】

ＭＰＵ４１は、ｂ時短遊技状態であることを示すｂ時短遊技状態がオンに設定されている場合（ステップＳ３９０４：Ｙｅｓ）、処理をステップＳ３９０６に移行する。一方、ＭＰＵ４１は、ｂ時短遊技状態がオフに設定されている場合（ステップＳ３９０４：Ｎｏ）、処理をステップＳ３９０５に移行する。

【０９１２】

<ステップＳ３９０５>

50

b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態がオフに設定されている場合（ステップS3904：No）、MPU41は、c時短遊技状態であることを示すc時短遊技状態がオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3505）。即ち、MPU41は、第2特図の変動表示（第2特図遊技）を開始させる場合の遊技状態がc時短遊技状態であるか否かを判断する。

【0913】

MPU41は、c時短遊技状態であることを示すc時短遊技状態がオンに設定されている場合（ステップS3905：Yes）、処理をステップS3906に移行する。一方、MPU41は、c時短遊技状態がオフに設定されている場合（ステップS3905：No）、処理をステップS3908に移行する。即ち、MPU41は、第2特図の変動表示（第2特図遊技）を開始させる場合の遊技状態が、b時短遊技状態及びc時短遊技状態ではなく、通常遊技状態又はa時短遊技状態である場合、処理をステップS3908に移行する。

10

【0914】

<ステップS3906及びS3907>

b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態がオンに設定されている場合（ステップS3904：Yes）、又はc時短遊技状態であることを示すc時短遊技状態がオンに設定されている場合（ステップS3905：Yes）、即ち第2特図の変動表示（第2特図遊技）を開始させる場合の遊技状態がb時短遊技状態又はc時短遊技状態である場合、MPU41は、b時短－c時短第2特図大当たり当否テーブル（図60（A）参照）に基づいて第2特図大当たり抽選を行し（ステップS3906）、さらに第2特図変動パターン設定処理Aを実行し（ステップS3907）、処理をステップS3910に移行する。

20

【0915】

第2特図変動パターン設定処理Aでは、MPU41は、ステップS3906での第2特図大当たり抽選結果の結果に基づき、b時短－c時短第2特図大当たり変動テーブル（図60（C）参照）又はb時短－c時短第2特図外れ変動テーブル（図60（E）参照）を参照し、開始される第2特図遊技における第2特図の変動表示時間である第2特図変動パターンが設定される。

【0916】

<ステップS3908及びS3909>

c時短遊技状態がオフに設定されている場合（ステップS3905：No）、即ち第2特図の変動表示（第2特図遊技）を開始させる場合の遊技状態が、b時短遊技状態及びc時短遊技状態ではなく、通常遊技状態又はa時短遊技状態である場合、MPU41は、通常－a時短第2特図大当たり当否テーブル（図61（A）参照）に基づいて第2特図大当たり抽選を行し（ステップS3908）、さらに第2特図変動パターン設定処理を実行し（ステップS3908）、処理をステップS3910に移行する。

30

【0917】

第2特図変動パターン設定処理Bでは、MPU41は、ステップS3908での第2特図大当たり抽選結果の結果に基づき、a時短第2特図変動テーブル（図62（A）参照）又は通常第2特図変動テーブル（図62（B）参照）を参照し、開始される第2特図遊技における第2特図の変動表示時間である第2特図変動パターンが設定される。なお、第2特図変動パターン設定処理Bの詳細は、図74～図76を参照して後述する。

40

【0918】

<ステップS3910>

ステップS3910では、MPU41は、ステップS3902、S3906又はS3908での大当たり抽選の結果と、ステップS3903、S3907又はS3909で設定された特図変動パターンとを含む特図変動パターンコマンドをRAM412に設定し、処理をステップS3911に移行する。特図変動パターンコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図66参照）のステップS1401において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図変動パターンコマンド

50

に基づいて、図柄表示部 3 4 1 などでの特図遊技演出を表示演出として実行することができる。

【0919】

なお、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「4 R 時短大当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 3」に 4 R 時短大当たりである旨を示す「A」を付した「A 0 1」～「A 0 3」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして RAM 4 1 2 に設定する。また、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「4 R 通常大当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 3」に 4 R 通常大当たりである旨を示す「B」を付した「B 0 1」～「B 0 3」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして RAM 4 1 2 に設定する。さらに、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「小当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」、「0 2」、「0 8」～「0 1 0」に小当たりである旨を示す「C」を付した「C 0 1」、「C 0 2」、「C 0 8」～「C 0 1 0」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして RAM 4 1 2 に設定する。また、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「外れ」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 5」、「0 8」～「1 0」に外れである旨を示す「D」を付した「D 0 1」～「D 0 5」、「D 0 8」～「D 1 0」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして RAM 4 1 2 に設定する。また、MPU 4 1 は、大当たり抽選の結果が「外れ」である場合、外れ種別（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れ、時短図柄停止外れ）を示す情報を特図変動パターンコマンドに含ませる。

10

【0920】

<ステップ S 3 9 1 1>

特図変動パターンコマンドを設定した場合、MPU 4 1 は、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での特別図柄の変動表示を開始させることで特図遊技を開始させる（ステップ S 3 9 1 1）。具体的には、MPU 4 1 は、第 1 入賞口 3 1 4 への遊技球の始動入賞に基づく場合には、第 1 特別図柄表示部 3 6 2 での第 1 特別図柄の変動表示の開始により第 1 特別遊技を開始し、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の始動入賞に基づく場合には、第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での第 2 特別図柄の変動表示の開始により第 2 特図遊技を開始する。さらに、MPU 4 1 は、特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 1 1）、当該特図変動開始処理を終了する。

20

【0921】

【第 2 特図変動パターン設定処理 B】

ここで、図 7 4～図 7 6 は、図 7 0 の特図変動開始処理のステップ S 3 9 0 9 において MPU 4 1 によって実行される第 2 特図変動パターン設定処理 B の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の第 2 特図変動パターン設定処理 B では、主制御装置 4 の RAM 4 1 2 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の記憶内容が更新される。以下、図 7 4～図 7 6 を参照しつつ、第 2 特図変動パターン設定処理 B を説明する。

30

【0922】

<ステップ S 4 0 0 1>

図 7 4 に示すように、本実施形態の第 2 特図変動パターン設定処理 B では、MPU 4 1 は、まず時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する。a 時短遊技状態フラグは、図 8 2 の遊技状態の移行処理のステップ S 4 2 4 6 において、時短大当たり遊技の終了後にオンに設定される。

40

【0923】

MPU 4 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 0 0 1：Yes）、処理をステップ S 4 0 0 2 に移行し、a 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 0 0 1：No）、処理をステップ S 4 0 0 6 に移行する。

【0924】

<ステップ S 4 0 0 2 及び S 4 0 0 3>

a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（

50

ステップ S 4 0 0 1 : Y e s) 、 M P U 4 1 は、数値記憶処理として、当該第 2 特図遊技における第 2 特図の変動表示時間として変動パターン「08」の 40 秒 (図 6 2 (A) 参照) を設定する処理を実行すると共に (ステップ S 4 0 0 2) 、 a 時短遊技状態において第 2 特図遊技が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する特殊変動開始コマンドを設定し (ステップ S 4 0 0 3) 、処理をステップ S 4 0 0 4 に移行する。即ち、M P U 4 1 は、大当たり抽選の結果が小当たりとなる確率が高く、大当たり遊技が実行され易い特殊変動が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する。

【 0 9 2 5 】

特殊変動開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理 (図 6 6 参照) のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、特殊変動開始コマンドに基づいて、大当たり抽選の結果が小当たりとなる確率が高く、大当たり遊技が実行され易い特殊変動であることを遊技者に報知する表示演出である R U S H 演出 (図 8 9 参照) を特定演出として開始することができる。

10

【 0 9 2 6 】

< ステップ S 4 0 0 4 >

ステップ S 4 0 0 4 では、M P U 4 1 は、当該第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、当該第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合 (ステップ S 4 0 0 4 : Y e s) 、当該第 2 特図変動パターン設定処理 B を終了する。一方、M P U 4 1 は、当該第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりでない場合 (ステップ S 4 0 0 4 : N o) 、即ち当該第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が外れである場合、処理をステップ S 4 0 0 5 に移行する。

20

【 0 9 2 7 】

< ステップ S 4 0 0 5 >

当該第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりでない場合 (ステップ S 4 0 0 4 : N o) 、即ち当該第 2 特図遊技に対する大当たり抽選の結果が外れである場合、M P U 4 1 は、前記特殊変動が開始されることを示す特殊変動開始フラグをオンに設定し (ステップ S 4 0 0 5) 、当該第 2 特図変動パターン設定処理 B を終了する。特殊変動開始フラグは、開始される第 2 特図遊技が、a 時短遊技状態において開始された外れ報知の第 2 特図遊技の次に連続して実行される第 2 特図遊技 (a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づく残保留による第 2 特図遊技) であるか否かを判断するために、次のステップ S 4 0 0 6 において参照される。

30

【 0 9 2 8 】

< ステップ S 4 0 0 6 >

a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 4 0 0 1 : N o) 、M P U 4 1 は、特殊変動開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 4 0 0 6) 。即ち、M P U 4 1 は、開始される第 2 特図遊技が、a 時短遊技状態において開始された外れ報知の第 2 特図遊技の次に連続して実行される第 2 特図遊技 (a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づく残保留による第 2 特図遊技) であるか否かを判断する。

40

【 0 9 2 9 】

M P U 4 1 は、特殊変動開始フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 0 0 6 : Y e s) 、即ち開始される第 2 特図遊技が、a 時短遊技状態において開始された外れ報知の第 2 特図遊技の次に連続して実行される第 2 特図遊技 (a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づく残保留による第 2 特図遊技) である場合、処理をステップ S 4 0 0 7 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特殊変動開始フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 4 0 0 6 : N o) 、即ち開始される第 2 特図遊技が、a 時短遊技状態において開始された外れ報知の第 2 特図遊技の次に連続して実行される第 2 特図遊技 (a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づく残保留による第 2 特図

50

遊技)でない場合、処理を図76のステップS4024に移行する。

【0930】

<ステップS4007及びS4008>

特殊変動開始フラグがオンに設定されている場合(ステップS4006:Yes)、即ち開始される第2特図遊技が、a時短遊技状態において開始された外れ報知の第2特図遊技の次に連続して実行される第2特図遊技(a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留による第2特図遊技)である場合、MPU41は、特殊変動開始フラグをオフに設定し(ステップS4007)、処理をステップS4008に移行する。

【0931】

<ステップS4008及びS4009>

ステップS4008では、MPU41は、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づいて最初に実行された第2特図遊技の終了時点での第2特図遊技を実行する権利の保留である残保留に対する残保留パターン(図62(B)~図62(D)参照)及び残保留数を特定すると共に(ステップS4008)、残保留パターンコマンドを設定し(ステップS4009)、処理をステップS4010に移行する。

【0932】

残保留パターンコマンドは、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留の残保留パターン、及び残保留数を音声ランプ制御装置5に通知するコマンドである。この残保留パターンコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理(図66参照)のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、残保留パターンコマンドに基づいて、RUSH演出のうちのバトル演出(図90及び図91参照)を表示演出として開始することができる。また、音声ランプ制御装置5は、残保留パターンコマンドに基づいて、残保留数を管理することができ、その結果、図柄表示部341に残保留数を表示演出である第2特図保留画像として表示することが可能になる。

【0933】

<ステップS4010及びS4011>

ステップS4010では、MPU41は、ステップS4008で特定された残保留パターンが、残保留パターン1及び残保留パターン5のいずれかに該当するか否かを判断する。

【0934】

残保留パターンが残保留パターン1及び残保留パターン5のいずれかに該当する場合(ステップS4010:Yes)、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留である第2特図遊技に対する第2特図変動表示時間として特図変動パターン「08」である120秒を設定する処理を実行し(ステップS4011)、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。一方、MPU41は、残保留パターンが残保留パターン1及び残保留パターン5のいずれかにも該当しない場合(ステップS4010:No)、処理をステップS4012に移行する。

【0935】

<ステップS4012>

残保留パターンが残保留パターン1及び残保留パターン5のいずれかにも該当しない場合(ステップS4010:No)、MPU41は、ステップS4008で特定された残保留パターンが、残保留パターン2及び残保留パターン6のいずれかに該当するか否かを判断する(ステップS4012)。

【0936】

MPU41は、残保留パターンが残保留パターン2及び残保留パターン6のいずれかに該当する場合(ステップS4012:Yes)、処理をステップS4013に移行し、残保留パターンが残保留パターン2及び残保留パターン6のいずれにも該当しない場合(ステップS4012:No)、処理を図75のステップS4016に移行する。

【0937】

<ステップS4013>

残保留パターンが残保留パターン2及び残保留パターン6のいずれかに該当する場合（ステップS4012：Yes）、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留である第2特図遊技に対する第2特図変動表示時間として特図変動パターン「02」である60秒を設定する処理を実行し（ステップS4011）、処理をステップS4014に移行する。

【0938】

<ステップS4014及びS4015>

ステップS4014では、MPU41は、残保留パターンが残保留パターン2及び残保留パターン6のいずれかであることを示す残保留パターン2，6フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留の残り個数を示す残設定カウンタを1にセットする処理を実行し（ステップS4015）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。

【0939】

<ステップS4016>

残保留パターンが残保留パターン2及び残保留パターン6のいずれかも該当しない場合（ステップS4012：No）、図75に示すように、MPU41は、ステップS4008で特定された残保留パターンが、残保留パターン3及び残保留パターン7のいずれかに該当するか否かを判断する（ステップS4016）。

【0940】

MPU41は、残保留パターンが残保留パターン3及び残保留パターン7のいずれかに該当する場合（ステップS4016：Yes）、処理をステップS4017に移行し、残保留パターンが残保留パターン3及び残保留パターン7のいずれにも該当しない場合（ステップS4016：No）、処理をステップS4020に移行する。

【0941】

<ステップS4017>

残保留パターンが残保留パターン3及び残保留パターン7のいずれかに該当する場合（ステップS4016：Yes）、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留である第2特図遊技に対する第2特図変動表示時間として特図変動パターン「10」である40秒を設定する処理を実行し（ステップS4017）、処理をステップS4018に移行する。

【0942】

<ステップS4018及びS4019>

ステップS4018では、MPU41は、残保留パターンが残保留パターン3及び残保留パターン7のいずれかであることを示す残保留パターン3，7フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留の残り個数を示す残設定カウンタを2にセットする処理を実行し（ステップS4019）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。

【0943】

<ステップS4020>

残保留パターンが残保留パターン3及び残保留パターン7のいずれにも該当しない場合（ステップS4016：No）、MPU41は、ステップS4008で特定された残保留パターンが、残保留パターン4及び残保留パターン8のいずれかに該当するか否かを判断する（ステップS4020）。

【0944】

MPU41は、残保留パターンが残保留パターン4及び残保留パターン8のいずれかに該当する場合（ステップS4020：Yes）、処理をステップS4021に移行し、残保留パターンが残保留パターン4及び残保留パターン8のいずれにも該当しない場合（ステップS4020：No）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。

【0945】

<ステップS4021>

残保留パターンが残保留パターン4及び残保留パターン8のいずれかに該当する場合（ステップS4020：Yes）、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留である第2特図遊技に対する第2特図変動表示時間として特図変動パターン「01」である30秒を設定する処理を実行し（ステップS4021）、処理をステップS4022に移行する。

【0946】

<ステップS4022及びS4023>

ステップS4022では、MPU41は、残保留パターンが残保留パターン4及び残保留パターン8のいずれかであることを示す残保留パターン4，8フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留の残り個数を示す残設定カウンタを3にセットする処理を実行し（ステップS4023）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。

【0947】

<ステップS4024>

特殊変動開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS4006：No）、即ち開始される第2特図遊技が、a時短遊技状態において開始された外れ報知の第2特図遊技の次に連続して実行される第2特図遊技（a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留による第2特図遊技）でない場合、図75に示すように、MPU41は、残保留パターンが残保留パターン2及び残保留パターン6のいずれかであることを示す残保留パターン2，6フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4024）。

【0948】

MPU41は、残保留パターン2，6フラグがオンに設定されている場合（ステップS4024：Yes）、処理をステップS4025に移行し、残保留パターン2，6フラグがオフに設定されている場合（ステップS4024：No）、処理をステップS4029に移行する。

【0949】

<ステップS4025～S4028>

残保留パターン2，6フラグがオンに設定されている場合（ステップS4024：Yes）、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留である第2特図遊技に対する第2特図変動表示時間として特図変動パターン「02」である60秒を設定する処理を実行する（ステップS4025）。そして、MPU41は、減算処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留の残り個数を示す残設定カウンタの値から1減算する処理を実行し（ステップS4026）、減算後の残設定カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS4027）。

【0950】

MPU41は、減算後の残設定カウンタの値が0である場合（ステップS4027：Yes）、残保留パターン2，6フラグをオフに設定し（ステップS4028）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。一方、MPU41は、減算後の残設定カウンタの値が0でない場合（ステップS4027：No）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。

【0951】

<ステップS4029>

残保留パターン2，6フラグがオフに設定されている場合（ステップS4024：No）、MPU41は、残保留パターンが残保留パターン3及び残保留パターン7のいずれかであることを示す残保留パターン3，7フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4029）。

【0952】

MPU41は、残保留パターン3，7フラグがオンに設定されている場合（ステップS4029：Yes）、処理をステップS4030に移行し、残保留パターン3，7フラグがオフに設定されている場合（ステップS4029：No）、処理をステップS4034に移行する。

【0953】

＜ステップS4030～S4033＞

残保留パターン3，7フラグがオンに設定されている場合（ステップS4029：Yes）、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留である第2特図遊技に対する第2特図変動表示時間として特図変動パターン「10」である40秒を設定する処理を実行する（ステップS4030）。そして、MPU41は、減算処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留の残り個数を示す残設定カウンタの値から1減算する処理を実行し（ステップS4031）、減算後の残設定カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS4032）。

10

【0954】

MPU41は、減算後の残設定カウンタの値が0である場合（ステップS4032：Yes）、残保留パターン3，7フラグをオフに設定し（ステップS4033）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。一方、MPU41は、減算後の残設定カウンタの値が0でない場合（ステップS4032：No）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。

20

【0955】

＜ステップS4034＞

残保留パターン3，7フラグがオフに設定されている場合（ステップS4029：No）、MPU41は、残保留パターンが残保留パターン4及び残保留パターン8のいずれかであることを示す残保留パターン4，8フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4034）。

【0956】

MPU41は、残保留パターン4，8フラグがオンに設定されている場合（ステップS4034：Yes）、処理をステップS4035に移行し、残保留パターン4，8フラグがオフに設定されている場合（ステップS4034：No）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。

30

【0957】

＜ステップS4035～S4038＞

残保留パターン4，8フラグがオンに設定されている場合（ステップS4034：Yes）、MPU41は、数値記憶処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留である第2特図遊技に対する第2特図変動表示時間として特図変動パターン「01」である30秒を設定する処理を実行する（ステップS4035）。そして、MPU41は、減算処理として、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留の残り個数を示す残設定カウンタの値から1減算する処理を実行し（ステップS4036）、減算後の残設定カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS4037）。

40

【0958】

MPU41は、減算後の残設定カウンタの値が0である場合（ステップS4037：Yes）、残保留パターン4，8フラグをオフに設定し（ステップS4037）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。一方、MPU41は、減算後の残設定カウンタの値が0でない場合（ステップS4037：No）、当該第2特図変動パターン設定処理Bを終了する。

【0959】

なお、本実施形態では、特図の変動開始時の遊技状態に応じて大当たり抽選が実行され

50

るが、第1入賞口314又は第2入賞口315への遊技球の入球時の遊技状態に応じて大当たり抽選を実行してもよい。

【0960】

〔小当たり遊技制御処理〕

ここで、図77～図79は、図66のメイン処理でのステップS1407-1においてMPU41によって実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の小当たり遊技制御処理では、第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される大当たり抽選での抽選結果が小当たりであることに基づいて実行される小当たり遊技において、羽役物装置83の作動を制御する処理が実行される。

【0961】

＜ステップS4101＞

図77に示すように、本実施形態の小当たり遊技制御処理では、MPU41は、まず第1特図又は第2特図が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4101）。即ち、MPU41は、第1特図又は第2特図が停止表示されることで、小当たり遊技を開始可能なタイミングとなったか否かを判断する。なお、特図変動停止フラグは、図70の特図遊技制御処理でのステップS3709において第1特図又は第2特図を停止表示させる場合にオンに設定される。

【0962】

MPU41は、特図変動停止フラグがオンに設定されている場合（ステップS4101：Yes）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップS4102に移行する。一方、MPU41は、特図変動停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS4101：No）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理をステップS4106に移行する。

【0963】

＜ステップS4102＞

特図変動停止フラグがオンに設定されている場合（ステップS4101：Yes）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、MPU41は、当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりであるか否かを判断する（ステップS4102）。大当たり抽選の結果が小当たりであるか否かは、図73の特図変動開始処理でのステップS3808において大当たり抽選を行った場合にRAM413に記憶される大当たり抽選の結果に基づいて判断される。

【0964】

MPU41は、当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合（ステップS4102：Yes）、処理をステップS4103に移行する。一方、MPU41は、大当たり抽選の結果が小当たりでない場合（ステップS4102：No）、即ち大当たり抽選の結果が外れである場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【0965】

＜ステップS4103～S4105＞

当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合（ステップS4102：Yes）、MPU41は、小当たり遊技が開始されることを示す小当たり遊技開始フラグをオンに設定する（ステップS4103）。そして、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが実行されていることを示すオープニングフラグをオンに設定すると共に（ステップS4104）、数値記憶処理として、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタをセットする処理を実行し（ステップS4105）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【0966】

＜ステップS4106＞

特図変動停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS4101：No）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが実行されていることを示すオープニングフラグがオンに設定されているか否かを

10

20

30

40

50

判断する。

【0967】

MPU41は、オープニングフラグがオンに設定されている場合（ステップS4106：Yes）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されている場合、処理をステップS4107に移行する。一方、MPU41は、オープニングフラグがオフに設定されている場合（ステップS4106：No）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されていない場合、処理を図78のステップS4115に移行する。

【0968】

<ステップS4107～S4109>

オープニングフラグがオンに設定されている場合（ステップS4106：Yes）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されている場合、MPU41は、更新処理として、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタの値から1減算する処理を実行し（ステップS4107）、減算後のオープニング時間カウンタが0であるか否かを判断する（ステップS4108）。即ち、MPU41は、小当たり遊技において、オープニングを終了して羽役物装置83の可動羽部832の作動を開始するタイミングであるか否かを判断する。

10

【0969】

MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタが0である場合（ステップS4108：Yes）、即ち小当たり遊技において、オープニングを終了して羽役物装置83の可動羽部832の作動を開始するタイミングである場合、オープニングが実行されていることを示すオープニングフラグをオフに設定し（ステップS4105）、処理をステップS4110に移行する。一方、MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタが0でない場合（ステップS4108：No）、即ち小当たり遊技において、オープニングを終了して羽役物装置83の可動羽部832の作動を開始するタイミングでない場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

20

【0970】

<ステップS4110>

小当たり遊技において、オープニングを終了して可動羽部832の作動を開始するタイミングである場合、MPU41は、羽役物装置83の可動羽部832の作動を開始させ（ステップS4110）、処理をステップS4111に移行する（ステップS4110）。このように、小当たり遊技において羽役物装置83の可動羽部832の作動が開始されることで、羽役物装置83の導入口831が開放され、羽役物装置83の内部への遊技球の入球が可能となる。

30

【0971】

<ステップS4111及びS4112>

ステップS4111では、MPU41は、可動羽部832が作動されていることを示す可動羽部作動フラグをオンに設定する（ステップS4111）。そして、MPU41は、数値記憶処理として、可動羽部832の残りの作動時間を示す可動羽部作動時間カウンタをセットする処理を実行し（ステップS4112）、処理をステップS4113に移行する。

40

【0972】

<ステップS4113及びS4114>

ステップS4113では、MPU41は、V入賞口開閉部835の作動の待機中であることを示すV入賞口開閉部作動待機フラグをオンに設定する（ステップS4113）。そして、MPU41は、数値記憶処理として、V入賞口開閉部835の作動を開始するまでの残り時間を示すV入賞口開閉部作動待機時間カウンタをセットする処理を実行し（ステップS4114）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【0973】

<ステップS4115>

オープニングフラグがオフに設定されている場合（ステップS4106：No）、即ち

50

小当たり遊技のオープニングが実行されていない場合、図 7 8 に示すように、MPU 4 1 は、V 入賞口開閉部 8 3 5 の作動の待機中であることを示す V 入賞口開閉部作動待機フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 1 1 5）。MPU 4 1 は、V 入賞口開閉部作動待機フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 1 1 5：Yes）、処理をステップ S 4 1 1 6 に移行し、V 入賞口開閉部作動待機フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 1 1 5：No）、処理をステップ S 4 1 2 2 に移行する。

【0974】

<ステップ S 4 1 1 6 及び S 4 1 1 7>

V 入賞口開閉部作動待機フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 1 1 5：Yes）、MPU 4 1 は、更新処理として、羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 の作動を開始するまでの残り時間を示す V 入賞口開閉部作動待機時間カウンタから 1 減算する処理を実行し（ステップ S 4 1 1 6）、減算後の V 入賞口開閉部作動待機時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 4 1 1 7）。即ち、MPU 4 1 は、V 入賞口開閉部 8 3 5 の作動を開始して V 入賞口 8 3 3 を開放するタイミングであるか否かを判断する。

10

【0975】

MPU 4 1 は、減算後の V 入賞口開閉部作動待機時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 4 1 1 7：Yes）、即ち羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 の作動を開始して V 入賞口 8 3 3 を開放するタイミングである場合、処理をステップ S 4 1 1 8 に移行する。一方、MPU 4 1 は、減算後の V 入賞口開閉部作動待機時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 4 1 1 7：No）、即ち V 入賞口開閉部 8 3 5 の作動を開始（V 入賞口 8 3 3 を開放）するタイミングでない場合、処理を図 7 9 のステップ S 4 1 3 0 に移行する。

20

【0976】

<ステップ S 4 1 1 8 ~ S 4 1 2 1>

減算後の V 入賞口開閉部作動待機時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 4 1 1 7：Yes）、即ち羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 の作動を開始して V 入賞口 8 3 3 を開放するタイミングである場合、MPU 4 1 は、V 入賞口開閉部 8 3 5 の作動を開始し（ステップ S 4 1 1 8）、V 入賞口開閉部 8 3 5 が作動されていることを示す V 入賞口開閉部作動フラグをオンに設定する（ステップ S 4 1 1 9）。

30

【0977】

そして、MPU 4 1 は、数値記憶処理として、V 入賞口開閉部 8 3 5 の残りの作動時間を示す V 入賞口開閉部作動時間カウンタを設定する処理を実行すると共に（ステップ S 4 1 2 0）、V 入賞口開閉部作動待機フラグをオフに設定し（ステップ S 4 1 2 1）、処理を図 7 9 のステップ S 4 1 3 0 に移行する。

【0978】

<ステップ S 4 1 2 2>

V 入賞口開閉部作動待機フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 1 1 5：No）、MPU 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 が作動されていることを示す V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 1 2 2）。MPU 4 1 は、V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 1 2 2：Yes）、処理をステップ S 2 0 2 3 に移行し、V 入賞口開閉部作動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 1 2 2：No）、処理を図 7 9 のステップ S 4 1 3 0 に移行する。

40

【0979】

<ステップ S 4 1 2 3>

V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 1 2 2：Yes）、MPU 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 1 2 3）。V 入賞フラグは、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球した場合にステップ S 4 1 2 5 に

50

においてオンに設定される。

【0980】

MPU41は、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球したことを示すV入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップS4123：Yes）、処理をステップS4126に移行し、V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS4123：No）、処理をステップS4124に移行する。

【0981】

<ステップS4124及びS4125>

V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS4123：No）、MPU41は、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球したか否かを判断する（ステップS4124）。羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球したか否かは、例えば図66のメイン処理でのステップS1403の賞球コマンド設定処理において、V入賞口833に遊技球99が入球されたことが入球センサ（不図示）によって検知されたか否かによって判断される。

【0982】

MPU41は、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球した場合（ステップS4124：Yes）、V入賞フラグをオンに設定し（ステップS4125）、処理をステップS4126に移行する。一方、MPU41は、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球していない場合（ステップS4124：No）、処理をステップS4126に移行する。

【0983】

<ステップS4126及びS4127>

ステップS4126では、MPU41は、更新処理として、羽役物装置83のV入賞口開閉部835の残りの作動時間を示すV入賞口開閉部作動時間カウンタから1減算する処理を実行し、さらに、MPU41は、減算後のV入賞口開閉部作動時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS4127）。即ち、MPU41は、羽役物装置83のV入賞口開閉部835を復帰（V入賞口833を閉鎖）させるタイミングであるか否かを判断する。

【0984】

MPU41は、減算後のV入賞口開閉部作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS4127：Yes）、即ち羽役物装置83のV入賞口開閉部835を復帰（V入賞口833を閉鎖）させるタイミングである場合、処理をステップS4128に移行する。一方、MPU41は、減算後のV入賞口開閉部作動時間カウンタの値が0でない場合（ステップS4127：No）、即ち羽役物装置83のV入賞口開閉部835を復帰（V入賞口833を閉鎖）させるタイミングでない場合、処理を図79のステップS4130に移行する。

【0985】

<ステップS4128及びS4129>

減算後のV入賞口開閉部作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS4127：Yes）、即ち羽役物装置83のV入賞口開閉部835を復帰（V入賞口833を閉鎖）させるタイミングである場合、MPU41は、V入賞口開閉部835を復帰させると共に（ステップS4128）、V入賞口開閉部835が作動されていることを示すV入賞口開閉部作動フラグをオフに設定し（ステップS4129）、処理を図79のステップS4130に移行する。

【0986】

<ステップS4130>

図79に示すように、ステップS4130では、MPU41は、可動羽部832が作動されていることを示す可動羽部作動フラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU41は、可動羽部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4130：Yes）、処理をステップS4131に移行し、可動羽部作動フラグがオフに設定されてい

10

20

30

40

50

る場合（ステップ S 4 1 3 0 : N o）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【 0 9 8 7 】

<ステップ S 4 1 3 1 及び S 4 1 3 2 >

可動羽部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 1 3 0 : Y e s）、M P U 4 1 は、更新処理として、可動羽部 8 3 2 の残りの作動時間を示す可動羽部作動時間カウンタの値から 1 減算する処理を実行する（ステップ S 4 1 3 1）。そして、M P U 4 1 は、減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 4 1 3 2）。即ち、M P U 4 1 は、可動羽部 8 3 2 を復帰させて導入口 8 3 1 を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【 0 9 8 8 】

M P U 4 1 は、減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 4 1 3 2 : Y e s）、即ち可動羽部 8 3 2 を復帰させて導入口 8 3 1 を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 4 1 3 3 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 4 1 3 2 : N o）、即ち可動羽部 8 3 2 を復帰させて導入口 8 3 1 を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングでない場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【 0 9 8 9 】

<ステップ S 4 1 3 3 ~ S 4 1 3 5 >

減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 4 1 3 2 : Y e s）、M P U 4 1 は、可動羽部 8 3 2 を復帰させることで小当たり遊技を終了する（ステップ S 4 1 3 3）。そして、M P U 4 1 は、可動羽部 8 3 2 が作動されていることを示す可動羽部作動フラグをオフに設定すると共に（ステップ S 4 1 3 4）、小当たり遊技が終了したことを示す小当たり遊技終了フラグをオンに設定し（ステップ S 4 1 3 5）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【 0 9 9 0 】

[遊技状態の移行処理]

ここで、図 8 0 ~ 図 8 3 は、図 6 6 のメイン処理のステップ S 1 4 0 8 において M P U 4 1 によって実行される遊技状態の移行処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の遊技状態の移行処理では、各種遊技状態を移行させる処理が実行される。以下、図 8 0 ~ 図 8 3 を参照しつつ、遊技状態の移行処理を説明する。

【 0 9 9 1 】

<ステップ S 4 2 0 1 >

図 8 0 に示すように、本実施形態の遊技状態の移行処理では、M P U 4 1 は、まず通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 0 1）。通常遊技状態フラグは、当該遊技状態の移行処理において、遊技状態が通常遊技状態に移行される場合に、図 8 1 のステップ S 4 2 1 6、ステップ S 4 2 2 3、又はステップ S 4 2 2 6 においてオンに設定される一方、通常遊技状態から遊技状態が移行される場合にステップ S 4 2 0 7、S 4 2 1 3、図 8 2 のステップ S 4 2 3 8、S 4 2 4 8 又は図 8 3 のステップ S 4 2 6 3 においてオフに設定される。

【 0 9 9 2 】

M P U 4 1 は、通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 0 1 : Y e s）、即ち遊技状態が通常遊技状態である場合、処理をステップ S 4 2 0 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 0 1 : N o）、即ち遊技状態が通常遊技状態以外である場合、処理を図 8 1 のステップ S 4 2 1 4 に移行する。

【 0 9 9 3 】

<ステップ S 4 2 0 2 >

通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 0 1 : Y e s）、即ち遊技状態が通常遊技状態である場合、M P U 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態から b 時短遊技状態に移行させる b 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断

10

20

30

40

50

する（ステップ S 4 2 0 2）。b 時短遊技状態移行フラグは、図 7 1 の特図遊技制御処理のステップ S 3 7 1 6 において、大当たり遊技の終了後に大当たり抽選結果が外れである特図遊技が規定回数（例えば 5 0 0 回）の実行される場合にオンに設定される。

【0994】

M P U 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態から b 時短遊技状態に移行させる b 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 0 2：Y e s）、処理をステップ S 4 2 0 3 に移行し、b 時短遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 0 2：N o）、処理をステップ S 4 2 0 8 に移行する。

【0995】

<ステップ S 4 2 0 3 及び S 4 2 0 4>

遊技状態を通常遊技状態から b 時短遊技状態に移行させる b 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 0 2：Y e s）、M P U 4 1 は、遊技状態が b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 4 2 0 3）、b 時短遊技状態移行コマンドを設定する（ステップ S 4 2 0 4）。

【0996】

b 時短遊技状態移行コマンドは、遊技状態が b 時短遊技状態に移行したことを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、さらに、b 時短遊技状態において実行可能な最大時短遊技回数に関する情報を含む。この b 時短遊技状態移行コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 6 6 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、b 時短遊技状態移行コマンドに基づいて、遊技状態が b 時短遊技状態である場合に固有の演出（背景演出、右打ち表示、残りの b 時短遊技回数表示、チャンス告知、第 2 特図遊技の保留数表示などの表示演出）（図 8 8（B）参照）を開始することができ、さらに、更新処理によって b 時短遊技状態において実行可能な残りの時短遊技回数を管理することが可能になる。

【0997】

なお、本実施形態では、b 時短遊技状態において実行可能な最大時短遊技回数に関する情報が、b 時短遊技状態移行コマンドに含めて音声ランプ制御装置 5 に送信されるが、当該情報は、b 時短遊技状態移行コマンドとは異なるコマンドとして音声ランプ制御装置 5 に送信してもよい。

【0998】

<ステップ S 4 2 0 5～S 4 2 0 7>

ステップ S 4 2 0 5 では、M P U 4 1 は、数値記憶処理として、b 時短遊技状態において実行可能な残りの時短遊技回数を示す b 時短回数カウンタをセットする処理を実行する。b 時短遊技状態において実行可能な最大時短遊技回数は、例えば 5 0 0 回に設定される（図 5 8（E）参照）。そして、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態移行フラグ及び通常遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 4 2 0 6 及び S 4 2 0 7）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【0999】

<ステップ S 4 2 0 8>

遊技状態を通常遊技状態から b 時短遊技状態に移行させる b 時短遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 0 2：N o）、M P U 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態から c 時短遊技状態に移行させる c 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 0 8）。c 時短遊技状態移行フラグは、図 7 1 の特図遊技制御処理のステップ S 3 7 1 8 において、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである特図遊技が終了した場合にオンに設定される。

【1000】

M P U 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態から c 時短遊技状態に移行させる c 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 0 8：Y e s）、処理をステップ S 4 2 0 9 に移行し、c 時短遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステ

10

20

30

40

50

ップ S 4 2 0 2 : N o) 、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【 1 0 0 1 】

<ステップ S 4 2 0 9 及び S 4 2 1 0 >

遊技状態を通常遊技状態から c 時短遊技状態に移行させる c 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 2 0 8 : Y e s) 、 M P U 4 1 は、c 時短遊技状態であることを示す c 時短遊技状態フラグをオンに設定し (ステップ S 4 2 0 9) 、c 時短遊技状態移行コマンドを設定する (ステップ S 4 2 1 0) 。

【 1 0 0 2 】

c 時短遊技状態移行コマンドは、c 時短遊技状態に移行したことを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドであり、さらに、c 時短遊技状態において実行可能な最大時短遊技回数に関する情報を含む。この c 時短遊技状態移行コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理 (図 6 6 参照) のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、c 時短遊技状態移行コマンドに基づいて、遊技状態が c 時短遊技状態である場合に固有の演出 (背景演出、左打ち表示、残りの c 時短遊技回数表示、チャンス告知、第 1 特図遊技の保留表示などの表示演出) (図 8 8 (C) 参照) を開始することができ、さらに、更新処理によって c 時短遊技状態において実行可能な残りの時短遊技回数を管理することが可能になる。

10

【 1 0 0 3 】

なお、本実施形態では、c 時短遊技状態において実行可能な最大時短遊技回数に関する情報が、c 時短遊技状態移行コマンドに含めて音声ランプ制御装置 5 に送信されるが、当該情報は、c 時短遊技状態移行コマンドとは異なるコマンドとして音声ランプ制御装置 5 に送信してもよい。

20

【 1 0 0 4 】

<ステップ S 4 2 1 1 ~ S 4 2 1 3 >

ステップ S 4 2 1 1 では、M P U 4 1 は、数値記憶処理として、c 時短遊技状態において実行可能な残りの時短遊技回数を c 時短回数カウンタにセットする処理を実行する。c 時短遊技状態において実行可能な最大時短遊技回数は、時短図柄停止外れ種別に応じて、1 0 回 (時短図柄停止外れ A) 、2 0 回 (時短図柄停止外れ B) 、3 0 回 (時短図柄停止外れ C) 又は 4 0 回 (時短図柄停止外れ D) に設定される (図 6 1 (D) 参照)。そして、M P U 4 1 は、c 時短遊技状態移行フラグ及び通常遊技状態フラグをオフに設定し (ステップ S 4 2 1 2 及び S 4 2 1 3) 、当該遊技状態の移行処理を終了する。

30

【 1 0 0 5 】

<ステップ S 4 2 1 4 >

遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 4 2 0 1 : N o) 、即ち遊技状態が通常遊技状態以外である場合、図 8 1 に示すように、M P U 4 1 は、遊技状態が a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 4 2 1 4) 。

【 1 0 0 6 】

M P U 4 1 は、a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 2 1 4 : Y e s) 、即ち遊技状態が a 時短遊技状態である場合、処理をステップ S 4 2 1 5 に移行する。一方、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 4 2 1 4 : N o) 、即ち遊技状態が通常遊技状態及び a 時短遊技状態でない場合、処理をステップ S 4 2 2 0 に移行する。

40

【 1 0 0 7 】

<ステップ S 4 2 1 5 >

a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 2 1 4 : Y e s) 、即ち遊技状態が a 時短遊技状態である場合、M P U 4 1 は、遊技状態を a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 4 2 1 5) 。遊技状態を a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグは、a 時短遊技状態において開始された普図当たり遊技が終了

50

される場合に、図 6 9 の普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 2 3 においてオンに設定される。

【1008】

M P U 4 1 は、遊技状態を a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 1 5 : Y e s）、処理をステップ S 4 2 1 6 に移行し、通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 1 5 : N o）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1009】

<ステップ S 4 2 1 6 及び S 4 2 1 7>

遊技状態を a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 1 5 : Y e s）、M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 4 2 1 6）、通常遊技状態に移行したことを音声ランプ制御装置 5 に通知する通常遊技状態移行コマンドを設定する（ステップ S 4 2 1 7）。 10

【1010】

通常遊技状態移行コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 6 6 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、通常遊技状態移行コマンドに基づいて、遊技状態が通常遊技状態である場合に固有の演出（背景演出、第 1 特図遊技の保留表示（第 1 特図保留画像）などの表示演出）（図 8 8（A）参照）を実行することができる。 20

【1011】

<ステップ S 4 2 1 8 及び S 4 2 1 9>

ステップ S 4 2 1 8 では、M P U 4 1 は、通常遊技状態移行フラグをオフに設定し、さらに、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 4 2 1 9）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1012】

<ステップ S 4 2 2 0>

遊技状態が a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 1 4 : N o）、即ち遊技状態が通常遊技状態及び a 時短遊技状態以外である場合、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 2 0）。 30

【1013】

M P U 4 1 は、b 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 2 0 : Y e s）、即ち遊技状態が b 時短遊技状態である場合、処理をステップ S 4 2 2 1 に移行する。一方、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 2 0 : N o）、即ち遊技状態が通常遊技状態、a 時短遊技状態及び b 時短遊技状態でない場合、処理をステップ S 4 2 2 6 に移行する。

【1014】

<ステップ S 4 2 2 1>

b 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 2 0 : Y e s）、即ち遊技状態が b 時短遊技状態である場合、M P U 4 1 は、遊技状態を b 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 2 1）。遊技状態を b 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグは、規定回数（例えば 5 0 0 回（図 5 8（E）参照））の b 時短遊技の特図遊技を実行した場合に、図 7 1 の特図遊技制御処理のステップ S 3 7 2 2 においてオンに設定される。 40

【1015】

M P U 4 1 は、遊技状態を b 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 2 1 : Y e s）、処理をステップ S 4 2 2 2 に移行し、通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ 50

S 4 2 2 1 : N o) 、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1 0 1 6】

<ステップ S 4 2 2 2 及び S 4 2 2 3>

遊技状態を b 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 2 2 1 : Y e s) 、 M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し (ステップ S 4 2 2 2) 、通常遊技状態に移行したことを音声ランプ制御装置 5 に通知する通常遊技状態移行コマンドを設定する (ステップ S 4 2 2 3) 。

【1 0 1 7】

通常遊技状態移行コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理 (図 6 6 参照) のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、通常遊技状態移行コマンドに基づいて、遊技状態が通常遊技状態である場合に固有の演出 (背景演出、第 1 特図遊技の保留表示などの表示演出) (図 8 8 (A) 参照) を実行することができる。

【1 0 1 8】

<ステップ S 4 2 2 4 及び S 4 2 2 5>

ステップ S 4 2 2 4 では、M P U 4 1 は、通常遊技状態移行フラグをオフに設定し、さらに、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態フラグをオフに設定し (ステップ S 4 2 2 5) 、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1 0 1 9】

<ステップ S 4 2 2 6>

遊技状態が b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 4 2 2 0 : N o) 、即ち遊技状態が通常遊技状態、a 時短遊技状態及び b 時短遊技状態以外である場合、M P U 4 1 は、遊技状態が c 時短遊技状態であることを示す c 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 4 2 2 6) 。

【1 0 2 0】

M P U 4 1 は、c 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 2 2 6 : Y e s) 、即ち遊技状態が c 時短遊技状態である場合、処理をステップ S 4 2 2 7 に移行する。一方、M P U 4 1 は、c 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 4 2 2 6 : N o) 、即ち遊技状態が通常遊技状態、a 時短遊技状態、b 時短遊技状態及び c 時短遊技状態でない場合、処理を図 8 2 のステップ S 4 2 3 2 に移行する。

【1 0 2 1】

<ステップ S 4 2 2 7>

c 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 2 2 6 : Y e s) 、即ち遊技状態が c 時短遊技状態である場合、M P U 4 1 は、遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 4 2 2 7) 。遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグは、時短外れ停止外れ種別に応じた規定回数 (1 0 回、2 0 回、3 0 回又は 4 0 回 (図 6 1 (D) 参照)) の c 時短遊技の特図遊技を実行した場合に、図 7 1 の特図遊技制御処理のステップ S 3 7 2 6 においてオンに設定される。

【1 0 2 2】

M P U 4 1 は、遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 2 2 7 : Y e s) 、処理をステップ S 4 2 2 8 に移行し、通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 4 2 2 7 : N o) 、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1 0 2 3】

<ステップ S 4 2 2 8 及び S 4 2 2 9>

遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 4 2 2 7 : Y e s) 、M P U 4 1 は、遊技状態が通

10

20

30

40

50

常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 4 2 2 8）、通常遊技状態に移行したことを音声ランプ制御装置 5 に通知する通常遊技状態移行コマンドを設定する（ステップ S 4 2 2 9）。

【1024】

通常遊技状態移行コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 6 6 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、通常遊技状態移行コマンドに基づいて、遊技状態が通常遊技状態である場合に固有の演出（背景演出、第 1 特図遊技の保留表示などの表示演出）（図 8 8（A）参照）を実行することができる。

【1025】

10

<ステップ S 4 2 3 0 及び S 4 2 3 1>

ステップ S 4 2 3 0 では、MPU 4 1 は、通常遊技状態移行フラグをオフに設定し、さらに、MPU 4 1 は、c 時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 4 2 3 1）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1026】

<ステップ S 4 2 3 2>

c 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 2 6：No）、即ち遊技状態が通常遊技状態、a 時短遊技状態、b 時短遊技状態及び c 時短遊技状態でない場合、MPU 4 1 は、図 8 2 に示すように、大当たり遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 3 2）。大当たり遊技状態フラグは、遊技状態が、大当たり遊技が実行される大当たり遊技状態であることを示すものであり、大当たり遊技が開始される場合に、ステップ S 4 2 3 4 でオンに設定される。

20

【1027】

MPU 4 1 は、遊技状態が、大当たり遊技が実行される大当たり遊技状態であることを示す大当たり遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 2：Yes）、処理をステップ S 4 2 4 5 に移行する。一方、MPU 4 1 は、大当たり遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 2：No）、処理をステップ S 4 2 3 3 に移行する。

【1028】

<ステップ S 4 2 3 3 及び S 4 2 3 4>

30

大当たり遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 2：No）、MPU 4 1 は、大当たり遊技が開始されることを示す大当たり遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 3 3）。大当たり遊技開始フラグは、大当たり遊技が開始される場合に、図 2 9 の大当たり遊技制御処理のステップ S 2 2 0 5 においてオンに設定される。

【1029】

MPU 4 1 は、大当たり遊技が開始されることを示す大当たり遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 3：Yes）、遊技状態が、大当たり遊技が実行される大当たり遊技状態であることを示す大当たり遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 4 2 3 4）、処理をステップ S 4 2 3 5 に移行する。一方、MPU 4 1 は、大当たり遊技開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 3：No）、処理を図 8 3 のステップ S 4 2 5 3 に移行する。

40

【1030】

<ステップ S 4 2 3 5 及び S 4 2 3 6>

ステップ S 4 2 3 5 では、MPU 4 1 は、開始される大当たり遊技が、当該大当たり遊技の終了後に遊技状態が a 時短遊技状態に移行される時短大当たりであるか否かを判断する。MPU 4 1 は、開始される大当たり遊技が、当該大当たり遊技の終了後に遊技状態が a 時短遊技状態に移行される時短大当たりである場合（ステップ S 4 2 3 5：Yes）、大当たり遊技の終了後に遊技状態を a 時短遊技状態に移行させる a 時短遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップ S 4 2 3 6）、処理をステップ S 4 2 3 7 に移行する。MP

50

U 4 1 は、開始される大当たり遊技が時短大当たりでない場合（ステップ S 4 2 3 5 : N o）、処理をステップ S 4 2 3 7 に移行する。

【1 0 3 1】

<ステップ S 4 2 3 7 及び S 4 2 3 8>

ステップ S 4 2 3 7 では、M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する。即ち、M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態である場合の大当たり抽選の結果が大当たりであることに基づいて大当たり遊技が開始されるかを判断する。

【1 0 3 2】

M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 7 : Y e s）、即ち遊技状態が通常遊技状態である場合の大当たり抽選の結果が大当たりであることに基づいて大当たり遊技が開始される場合、通常遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 4 2 3 8）、処理をステップ S 4 2 4 4 に移行する。一方、M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 7 : N o）、処理をステップ S 4 2 3 9 に移行する。

10

【1 0 3 3】

<ステップ S 4 2 3 9 ~ S 4 2 4 1>

ステップ S 4 2 3 9 では、M P U 4 1 は、遊技状態が b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する。即ち、M P U 4 1 は、遊技状態が b 時短遊技状態である場合の大当たり抽選の結果が大当たりであることに基づいて大当たり遊技が開始されるか否かを判断する。

20

【1 0 3 4】

M P U 4 1 は、遊技状態が b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 9 : Y e s）、即ち遊技状態が b 時短遊技状態である場合の大当たり抽選の結果が大当たりであることに基づいて大当たり遊技が開始される場合、b 時短遊技状態フラグをオフに設定する（ステップ S 4 2 4 0）。そして、M P U 4 1 は、更新処理として、遊技状態が b 時短遊技状態である場合に実行可能な残りの時短遊技回数を示す b 時短回数カウンタをクリアする処理を実行し（ステップ S 4 2 4 1）、処理をステップ S 4 2 4 4 に移行する。

30

【1 0 3 5】

一方、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 9 : N o）、即ち開始される大当たり遊技が、遊技状態が b 時短遊技状態である場合の大当たり抽選の結果が大当たりであることに基づくものでない場合、処理をステップ S 4 2 4 2 に移行する。

【1 0 3 6】

<ステップ S 4 2 4 2 及び S 4 2 4 3>

ステップ S 4 2 4 2 では、M P U 4 1 は、c 時短遊技状態フラグをオフに設定し、さらに、M P U 4 1 は、更新処理として、遊技状態が c 時短遊技状態である場合に実行可能な残りの時短遊技回数を示す c 時短回数カウンタをクリアする処理を実行し（ステップ S 4 2 4 3）、処理をステップ S 4 2 4 4 に移行する。

40

【1 0 3 7】

<ステップ S 4 2 4 4>

M P U 4 1 は、大当たり遊技開始前の遊技状態に関するフラグをオフに設定するなどの各種処理を実行した場合（ステップ S 4 2 3 4 ~ S 4 2 4 3）、大当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップ S 4 2 4 4）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1 0 3 8】

<ステップ S 4 2 4 5 ~ S 4 2 4 9>

遊技状態が、大当たり遊技が実行される大当たり遊技状態であることを示す大当たり遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 2 : Y e s）、M P U 4 1

50

は、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS 4 2 4 5）。大当たり遊技終了フラグは、大当たり遊技が終了する場合に、図 2 9 の大当たり遊技制御処理でのステップS 2 2 5 1においてオンに設定される。

【1 0 3 9】

M P U 4 1 は、大当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS 4 2 4 5：Y e s）、即ち大当たり遊技を終了する場合、処理をステップS 4 2 4 6に移行する。一方、M P U 4 1 は、大当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップS 4 2 4 5：N o）、即ち大当たり遊技を終了しない場合、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1 0 4 0】

<ステップS 4 2 4 6～S 4 2 5 2>

大当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS 4 2 4 5：Y e s）、即ち大当たり遊技を終了する場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技の終了に基づいて遊技状態を大当たり遊技状態からa時短遊技状態に移行させるa時短遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS 4 2 4 6）。

【1 0 4 1】

M P U 4 1 は、大当たり遊技の終了に基づいて遊技状態を大当たり遊技状態からa時短遊技状態に移行させるa時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS 4 2 4 6：Y e s）、遊技状態がa時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS 4 2 4 7）。そして、M P U 4 1 は、遊技状態がa時短遊技状態に移行したことを音声ランプ制御装置5に通知するa時短遊技状態移行コマンドを設定し（ステップS 4 2 4 8）、処理をステップS 4 2 5 1に移行する。

【1 0 4 2】

a時短遊技状態移行コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 6 6 参照）のステップS 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、a時短遊技状態移行コマンドに基づいて、遊技状態がa時短遊技状態である場合に固有の演出（背景演出、R U S H表示、右打ち表示、残りのa時短遊技回数表示、第2特図遊技の保留数表示などの表示演出）（図 8 8（D）参照）を開始することができる。

【1 0 4 3】

なお、本実施形態では、遊技状態がa時短遊技状態である場合の時短遊技回数（第2入賞口3 1 5の開放回数）が1回に設定されているため、a時短遊技状態移行コマンドには、遊技状態がa時短遊技状態である場合において実行可能な最大の時短遊技回数を示す情報は含まれない。もちろん、a時短遊技状態移行コマンドに、遊技状態がa時短遊技状態である場合において実行可能な最大の時短遊技回数を示す情報を含めてもよい。

【1 0 4 4】

一方、M P U 4 1 は、a時短遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップS 4 2 4 6：N o）、遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS 4 2 4 9）。そして、M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態に移行したことを音声ランプ制御装置5に通知する通常遊技状態移行コマンドを設定し（ステップS 4 2 5 0）、処理をステップS 4 2 5 1に移行する。

【1 0 4 5】

なお、通常遊技状態移行コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 6 6 参照）のステップS 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、通常遊技状態移行コマンドに基づいて、遊技状態が通常遊技状態である場合に固有の演出（背景演出、第1特図遊技の保留表示などの表示演出）（図 8 8（A）参照）を実行することができる。

【1 0 4 6】

<ステップS 4 2 5 1～S 4 2 5 4>

ステップS 4 2 5 1では、遊技状態が大当たり遊技状態であることを示す大当たり遊技

10

20

30

40

50

状態フラグをオフに設定すると共に（ステップ S 4 2 5 1）、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオフに設定する（ステップ S 4 2 5 2）。さらに、M P U 4 1 は、数値記憶処理として、遊技状態が b 時短遊技状態に移行されるまでに必要な残りの特図遊技回数を示す天井回数カウンタを規定回数（例えば 5 0 0 回）にセットする処理を実行すると共に（ステップ S 4 2 5 3）、天井回数カウンタがセットされていることを示す天井回数カウンタフラグをオンに設定し（ステップ S 4 2 5 4）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1 0 4 7】

<ステップ S 4 2 5 5>

大当たり遊技が開始されることを示す大当たり遊技開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 3 3 : N o）、M P U 4 1 は、図 8 3 に示すように、小当たり遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 5 5）。小当たり遊技状態フラグは、遊技状態が、小当たり遊技が実行される小当たり遊技状態であることを示すものであり、小当たり遊技が開始される場合に、ステップ S 4 2 5 7 でオンに設定される。

10

【1 0 4 8】

M P U 4 1 は、遊技状態が、小当たり遊技が実行される小当たり遊技状態であることを示す小当たり遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 5 5 : Y e s）、処理をステップ S 4 2 5 9 に移行する。一方、M P U 4 1 は、小当たり遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 5 5 : N o）、処理をステップ S 4 2 5 6 に移行する。

20

【1 0 4 9】

<ステップ S 4 2 5 6 ~ S 4 2 5 8>

小当たり遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 5 5 : N o）、M P U 4 1 は、小当たり遊技が開始されることを示す小当たり遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 5 6）。小当たり遊技開始フラグは、小当たり遊技が開始される場合に、図 7 7 の小当たり遊技制御処理のステップ S 4 1 0 3 においてオンに設定される。

【1 0 5 0】

M P U 4 1 は、小当たり遊技が開始されることを示す小当たり遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 5 6 : Y e s）、遊技状態が、小当たり遊技が実行される小当たり遊技状態であることを示す小当たり遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 4 2 5 7）、小当たり遊技が開始されることを示す小当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップ S 4 2 5 8）、当該遊技状態の移行処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、小当たり遊技開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 5 6 : N o）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

30

【1 0 5 1】

<ステップ S 4 2 5 9>

遊技状態が、小当たり遊技が実行される小当たり遊技状態であることを示す小当たり遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 5 5 : Y e s）、M P U 4 1 は、小当たり遊技が終了することを示す小当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 4 2 5 9）。小当たり遊技終了フラグは、小当たり遊技が終了する場合に、図 7 9 の小当たり遊技制御処理でのステップ S 4 1 3 2 においてオンに設定される。

40

【1 0 5 2】

M P U 4 1 は、小当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップ S 4 2 5 9 : Y e s）、即ち小当たり遊技を終了する場合、処理をステップ S 4 2 6 0 に移行する。一方、M P U 4 1 は、小当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップ S 4 2 5 9 : N o）、即ち小当たり遊技を終了しない場合、当該遊技状態の移行処理を終了する。

【1 0 5 3】

50

<ステップ S 4 2 6 0 及び S 4 2 6 1>

小当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップ S 4 2 5 9：Y e s）、即ち小当たり遊技を終了する場合、M P U 4 1 は、遊技状態が、小当たり遊技が実行される小当たり遊技状態であることを示す小当たり遊技状態フラグをオフに設定すると共に（ステップ S 4 2 6 0）、小当たり遊技が終了することを示す小当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップ S 4 2 6 1）、処理をステップ S 4 2 6 2 に移行する。

【1054】

<ステップ S 4 2 6 2>

ステップ S 4 2 6 2 では、M P U 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する。V 入賞フラグは、図 7 8 の小当たり遊技制御処理でのステップ S 4 1 2 5 において、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球した場合にオンに設定される。

10

【1055】

M P U 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 6 2：Y e s）、処理をステップ S 4 2 6 3 に移行する。一方、M P U 4 1 は、V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 6 2：N o）、処理をステップ S 4 2 6 6 に移行する。

【1056】

<ステップ S 4 2 6 3 及び S 4 2 6 4>

羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 2 6 2：Y e s）、M P U 4 1 は、大当たり遊技が開始されることを示す大当たり遊技開始フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 4 2 6 3）、大当たり遊技の終了後に遊技状態を a 時短遊技状態に移行させる a 時短遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップ S 4 2 6 4）。そして、M P U 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグをオフに設定し（ステップ S 4 2 6 5）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

20

【1057】

<ステップ S 4 2 6 6 及び S 4 2 6 7>

羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 2 6 2：N o）、M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定する（ステップ S 4 2 6 6）。そして、M P U 4 1 は、遊技状態が通常遊技状態に移行したことを音声ランプ制御装置 5 に通知する通常遊技状態移行コマンドを設定し（ステップ S 4 2 6 7）、当該遊技状態の移行処理を終了する。

30

【1058】

なお、通常遊技状態移行コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 6 6 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理で音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、通常遊技状態移行コマンドに基づいて、遊技状態が通常遊技状態である場合に固有の演出（背景演出、第 1 特図遊技の保留表示などの表示演出）（図 8 8（A）参照）を実行することができる。

40

【1059】

[音声ランプ制御装置 5 の処理]

次に、図 8 4～図 8 6 を参照しつつ、音声ランプ制御装置 5 の M P U 5 1 によって実行される処理について、第 1 の実施形態との相違点を中心に説明する。本実施形態では、音声ランプ制御装置 5 の処理のうち、コマンド判定処理の一部が前述の第 1 の実施形態とは異なる。

【1060】

[コマンド判定処理]

本実施形態のコマンド判定処理では、主制御装置 4 から受信されるコマンドが判定され、そのコマンドに対応する処理が実行されるが、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 へ

50

の遊技球に基づいて実行される第2特図遊技に対して特定演出としてのRUSH演出を実行するための演出表示処理が実行される点で、前述の第1の実施形態のコマンド判定処理とは異なる。ここで、図84～図86は、図42に示す前述の第1の実施形態での副タイマ割込処理のステップS2703で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【1061】

<ステップS4501>

図84に示すように、本実施形態のコマンド判定処理では、MPU51は、コマンドを受信したか否かを判断する(ステップS4501)。MPU51は、コマンドを受信した場合(ステップS4501:Yes)、処理をステップS4502に移行し、コマンドを受信していない場合(ステップS4501:No)、当該コマンド判定処理を終了する。

10

【1062】

<ステップS4502>

コマンドを受信した場合(ステップS4501:Yes)、MPU51は、受信したコマンドが通常遊技状態移行コマンドであるか否かを判断する(ステップS4502)。通常遊技状態移行コマンドは、通常遊技状態に移行されることを示すものであり、他の遊技状態から通常遊技状態に移行される場合に、遊技状態の移行処理での図81のステップS4217、S4223、S4229又は図82のステップS4250において設定される。

【1063】

MPU51は、受信したコマンドが通常遊技状態移行コマンドである場合(ステップS4502:Yes)、処理をステップS4503に移行し、受信したコマンドが通常遊技状態移行コマンドでない場合(ステップS4502:No)、処理をステップS4505に移行する。

20

【1064】

<ステップS4503及びS4504>

受信したコマンドが通常遊技状態移行コマンドである場合(ステップS4502:Yes)、MPU51は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定する(ステップS4503)。通常遊技状態フラグは、後述の図87の変動種別(演出パターン)設定処理のステップS4618において、通常遊技状態に対応した演出を設定するか否かを判断する場合に参照される。そして、MPU51は、通常遊技状態に移行する前の遊技状態に対応する遊技状態フラグをオフに設定し(ステップS4504)、当該コマンド判定処理を終了する。

30

【1065】

<ステップS4505>

受信したコマンドが通常遊技状態移行コマンドでない場合(ステップS4502:No)、MPU51は、受信したコマンドがb時短遊技状態移行コマンドであるか否かを判断する(ステップS4505)。b時短遊技状態移行コマンドは、b時短遊技状態に移行されることを示すものであり、通常遊技状態からb時短遊技状態に移行される場合に、図80の遊技状態の移行処理でのステップS4204において設定される。

40

【1066】

MPU51は、受信したコマンドがb時短遊技状態移行コマンドである場合(ステップS4505:Yes)、処理をステップS4506に移行し、受信したコマンドがb時短遊技状態移行コマンドでない場合(ステップS4505:No)、処理をステップS4509に移行する。

【1067】

<ステップS4506～S4508>

受信したコマンドがb時短遊技状態移行コマンドである場合(ステップS4505:Yes)、MPU51は、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグをオンに設定する(ステップS4506)。b時短遊技状態フラグは、後述の図87の変動種別(

50

演出パターン) 設定処理のステップ S 4 6 1 9 において、b 時短遊技状態に対応した演出を設定するか否かを判断する場合に参照される。

【1 0 6 8】

また、MPU 5 1 は、数値記憶処理として、RAM 5 1 2 に設定される b 時短回数カウンタ用の記憶領域に、b 時短遊技状態で実行可能な最大特図遊技回数を b 時短回数カウンタの値としてセットする処理を実行する (ステップ S 4 5 0 7)。b 時短回数カウンタの値は、b 時短遊技状態において特図開始される場合、即ち b 時短遊技状態において変動パターンコマンドを受信した場合に、当該コマンド判定処理のステップ S 4 5 3 9 の時短回数カウンタ更新処理において 1 減算 (更新) される。即ち、RAM 5 1 2 の b 時短回数カウンタ用の記憶領域に設定される b 時短回数カウンタの値は、b 時短遊技状態において実行可能な残りの最大の特図遊技回数を示す。そして、MPU 5 1 は、b 時短回数カウンタの値を参照することで、b 時短遊技状態で実行可能な残りの最大特図遊技回数を把握することができる。これにより、MPU 5 1 は、b 時短遊技状態で実行可能な残りの最大特図遊技回数を図柄表示部 3 4 1 において表示演出として表示することができる (図 8 8 (B) 参照)。

10

【1 0 6 9】

さらに、MPU 5 1 は、b 時短遊技状態に移行する前の遊技状態に対する通常遊技状態フラグをオフに設定し (ステップ S 4 5 0 8)、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 0 7 0】

<ステップ S 4 5 0 9>

20

受信したコマンドが b 時短遊技状態移行コマンドでない場合 (ステップ S 4 5 0 5 : No)、MPU 5 1 は、受信したコマンドが c 時短遊技状態移行コマンドであるか否かを判断する (ステップ S 4 5 0 9)。特定条件を成立させる c 時短遊技状態移行コマンドは、特定遊技状態である c 時短遊技状態に移行されることを示すものであり、通常遊技状態から c 時短遊技状態に移行される場合に、図 8 0 の遊技状態の移行処理でのステップ S 4 2 1 0 において設定される。

【1 0 7 1】

MPU 5 1 は、受信したコマンドが c 時短遊技状態移行コマンドである場合 (ステップ S 4 5 0 9 : Yes)、処理をステップ S 4 5 1 0 に移行し、受信したコマンドが c 時短遊技状態移行コマンドでない場合 (ステップ S 4 5 0 9 : No)、処理を図 8 5 のステップ S 4 5 1 3 に移行する。

30

【1 0 7 2】

<ステップ S 4 5 1 0 ~ S 4 5 1 2>

受信したコマンドが c 時短遊技状態移行コマンドである場合 (ステップ S 4 5 0 9 : Yes)、MPU 5 1 は、c 時短遊技状態であることを示す c 時短遊技状態フラグをオンに設定する (ステップ S 4 5 1 0)。c 時短遊技状態フラグは、後述の図 8 7 の変動種別 (演出パターン) 設定処理のステップ S 4 6 2 1 において、特定遊技状態である c 時短遊技状態に対応した演出を設定するか否かを判断する場合に参照される。

【1 0 7 3】

また、MPU 5 1 は、数値記憶処理として、RAM 5 1 2 に設定される c 時短回数カウンタ用の記憶領域に、第 2 数値情報としての c 時短遊技状態で実行可能な最大特図遊技回数を c 時短回数カウンタの値としてセットする処理を実行する (ステップ S 4 5 1 1)。c 時短回数カウンタの値は、c 時短遊技状態において特図開始される場合、即ち c 時短遊技状態において変動パターンコマンドを受信した場合に、当該コマンド判定処理のステップ S 4 5 3 9 の時短回数カウンタ更新処理において 1 減算 (更新) される。即ち、RAM 5 1 2 の c 時短回数カウンタ用の記憶領域に設定される c 時短回数カウンタの値は、特定数値情報としての c 時短遊技状態において実行可能な残りの最大の特図遊技回数を示す。そして、MPU 5 1 は、第 2 数値情報としての c 時短回数カウンタの値を参照することで、c 時短遊技状態で実行可能な残りの最大特図遊技回数を把握することができる。これにより、MPU 5 1 は、c 時短遊技状態で実行可能な残りの最大特図遊技回数を特定対応表

40

50

示として図柄表示部 3 4 1 において表示することができる（図 8 8（B）参照）。

【1 0 7 4】

なお、本実施形態では、c 時短遊技状態には大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである場合に移行される。大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れとなるのは、通常遊技状態において開始される第 2 特図遊技によって報知される大当たり抽選（当否判定）に対してのみである（図 6 1（C）参照）。通常遊技状態では、電動役物 3 1 5 b の作動頻度が低く作動時間が短いため、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が期待できない。一方、時短大当たり遊技の終了後に移行される a 時短遊技状態では、1 回の電動役物 3 1 5 b の作動によって第 2 入賞口 3 1 5 に複数個の遊技球が入球可能であり、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づいて複数回の第 2 特図遊技が実行可能である。そして、a 時短遊技状態において第 2 入賞口 3 1 5 に複数個の遊技球が入球した場合、最初

10

【1 0 7 5】

ここで、大当たり遊技の実行後に a 時短遊技状態に移行される場合、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づいて実行される第 2 特図遊技に対して特定演出としての R U S H 演出が表示演出として実行される。R U S H 演出では、a 時短遊技状態において第 2 入賞口 3 1 5 に複数個の遊技球が入球した場合、a 時短遊技状態において開始される第 2 特図遊技に対しては表示演出として一発告知演出（図 8 9 参照）が実行され、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行された後に開始される第 2 特図遊技（残保留に対する第 2 特図遊技）に対しては表示演出としてバトル演出（図 9 0 及び図 9 1 参照）が実行される。そして、前述のように、通常遊技状態において開始される残保留に対する大当たり抽選に対してのみ時短図柄停止外れとなり得る。そのため、バトル演出の実行中に、通常遊技状態から c 時短遊技状態に移行され得るが、バトル演出の実行中に c 時短遊技状態に移行された場合であっても、表示演出であるバトル演出は中断されず、予め定められた所定数の残保留に対応する第 2 特図遊技に対してバトル演出が実行される。その結果、バトル演出の実行中に c 時短遊技状態に移行された場合であっても、c 時短遊技状態で実行可能な残りの最大特図遊技回数が特定対応表示として図柄表示部 3 4 1 において表示されることはない。また、バトル演出を優先して実行することで、c 時短遊技状態である場合に固有の c 時短遊技状態演出が表示演出として実行されることもない。その一方で、c 時短遊技状態に移行した場合に c 時短回数カウンタをセットし、後述の当該コマンド判定処理のステップ S 4 5 3 9 での時短回数カウンタ更新処理において c 時短遊技状態で実行可能な残りの最大特図遊技回数を更新することで、バトル演出の終了後に、特定数値情報としての c 時短回数カウンタの値に基づいて、c 時短遊技状態で実行可能な残りの最大特図遊技回数を特定対応表示として図柄表示部 3 4 1 において表示することができ、また、c 時短遊技状態演出を開始することができる。

20

30

【1 0 7 6】

さらに、M P U 5 1 は、c 時短遊技状態に移行する前の遊技状態である通常遊技状態に対する通常遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 4 5 1 2）、当該コマンド判定処理を終了する。

40

【1 0 7 7】

<ステップ S 4 5 1 3>

受信したコマンドが c 時短遊技状態移行コマンドでない場合（ステップ S 4 5 0 9：N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 1 特図シフトコマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 5 1 3）。第 1 特図シフトコマンドは、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1～第 4 保留エリア R E A 4 の第 1 特図当否情報がシフトしたことを示すものであり、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1～第 4 保

50

留エリア R E A 4 の第 1 特図当否情報がシフトした場合に、図 7 2 の特図データ設定処理でのステップ S 3 8 0 5 において設定される。

【1 0 7 8】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 1 特図シフトコマンドである場合（ステップ S 4 5 1 3 : Y e s ）、処理をステップ S 4 5 1 4 に移行し、受信したコマンドが第 1 特図シフトコマンドでない場合（ステップ S 4 5 1 3 : N o ）、処理をステップ S 4 5 1 6 に移行する。

【1 0 7 9】

<ステップ S 4 5 1 4 及び S 4 5 1 5>

受信したコマンドが第 1 特図シフトコマンドである場合（ステップ S 4 5 1 3 : Y e s ）、M P U 5 1 は、第 1 特図データ更新処理を実行すると共に（ステップ S 4 5 1 4 ）、演出表示処理としての第 1 特図データ画像表示処理を実行し（ステップ S 4 5 1 5 ）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 0 8 0】

<ステップ S 4 5 1 6>

受信したコマンドが第 1 特図シフトコマンドでない場合（ステップ S 4 5 1 3 : N o ）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 2 特図シフトコマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 5 1 6 ）。第 2 特図シフトコマンドは、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 の第 2 特図当否情報がシフトしたことを示すものであり、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 の第 2 特図当否情報がシフトした場合に、図 7 2 の特図データ設定処理でのステップ S 3 8 0 9 において設定される。

【1 0 8 1】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 2 特図シフトコマンドである場合（ステップ S 4 5 1 6 : Y e s ）、処理をステップ S 4 5 1 7 に移行し、受信したコマンドが第 2 特図シフトコマンドでない場合（ステップ S 4 5 1 6 : N o ）、処理をステップ S 4 5 1 9 に移行する。

【1 0 8 2】

<ステップ S 4 5 1 7 及びステップ S 4 5 1 8>

受信したコマンドが第 2 特図シフトコマンドである場合（ステップ S 4 5 1 6 : Y e s ）、M P U 5 1 は、第 2 特図データ更新処理を実行すると共に（ステップ S 4 5 1 7 ）、演出表示処理としての第 2 特図データ画像表示処理を実行し（ステップ S 4 5 1 8 ）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 0 8 3】

ここで、音声ランプ制御装置 5 の R A M 5 1 2 には、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b （図 8 参照）に対応する特図保留格納エリア対応領域（図示略）が設定される。この特図保留格納エリア対応領域（図示略）は、主制御装置 4 の特図保留格納エリア 4 1 2 b （図 8 参照）の第 1 特図保留格納エリア R E A 、第 2 特図保留格納エリア R E B 、及び特図実行エリア A E （図 8 参照）のそれぞれに対応する第 1 特図保留格納エリア対応領域、第 2 特図保留格納エリア対応領域、及び特図実行エリア対応領域を含む。そして、音声ランプ制御装置 5 の特図保留格納エリア対応領域（図示略）には、主制御装置 4 の特図保留格納エリア 4 1 2 b （図 8 参照）と同等な特図当否情報のデータ（特図データ）が格納されている。

【1 0 8 4】

そして、ステップ S 4 5 1 4 で実行される第 1 特図データ更新処理では、主制御装置 4 によって実行される図 7 2 の特図データ設定処理でのステップ S 3 8 0 2 ~ S 3 8 0 4 と同様な処理が更新処理として実行される。具体的には、当該第 1 特図データ設定処理では、第 1 特図保留格納エリア対応領域の第 1 特図保留数記憶エリア対応領域に記憶されている第 1 特図保留数 N が 1 減算され、第 1 特図保留格納エリア対応領域の第 1 保留エリア対応領域から特図実行エリア対応領域に第 1 特図当否情報（第 1 特図データ）が移動され、

第1特図保留格納エリア対応領域の第2保留エリアREA2～第4保留エリア対応領域の第1特図当否情報（第1特図データ）が1つつシフトされる。

【1085】

また、ステップS4517で実行される第2特図データ更新処理では、主制御装置4によって実行される図72の特図データ設定処理でのステップS3806～S3808と同様な処理が実行される。具体的には、当該第2特図データ設定処理では、減算処理として、第2特図保留格納エリア対応領域の第2特図保留数記憶エリア対応領域に記憶されている第2特図保留数Mを1減算する処理が実行され、更新処理として、第2特図保留格納エリア対応領域の第1保留エリア対応領域から特図実行エリア対応領域に第2特図当否情報（第2特図データ）が移動され、第2特図保留格納エリア対応領域の第2保留エリアREA2～第4保留エリア対応領域の第2特図当否情報（第2特図データ）が1つつシフトされる。

10

【1086】

一方、ステップS4515で実行される第1特図データ画像表示処理では、ステップS4514においてシフト（更新）されたRAM512の特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された第1特図データに基づいて、図柄表示部341に表示される第1特図データに関する画像（第1特図データ画像）（図88（A）及び図88（C）参照）がシフトされる。

【1087】

ここで、図88は、各種遊技状態での図柄表示部341での画面例である。具体的には、図88（A）はRUSH演出中を除く通常遊技状態の画面例であり、図88（B）はb時短遊技状態の画面例であり、図88（C）はc時短遊技状態の画面例であり、図88（D）はRUSH演出中の画面例である。図柄表示部341には、各種遊技状態に応じた特図データ画像表示部75，76，77が設定される。この特図データ画像表示部75，76，77は、特図データ画像表示部75，76，77は、RAM512に設定される前述の特図保留格納エリア対応領域（図示略）の特図実行エリア対応領域（図示略）、第1特図保留格納エリア対応領域、及び第2特図保留格納エリア対応領域に対応して、当該特図変動画像表示領域75、第1特図保留画像表示領域76及び第2特図保留画像表示領域77を含む。

20

【1088】

図88（A）及び図88（C）に示すように、RUSH演出中を除く通常遊技状態及びc時短遊技状態では、特図データ画像表示部75，76，77として、当該特図変動画像表示領域75及び第1特図保留画像表示領域76が設定され、第2特図保留画像表示領域77が設定されない。即ち、RUSH演出中を除く通常遊技状態及びc時短遊技状態では、特図変動画像表示領域75に特図保留格納エリア対応領域（図示略）の特図実行エリア対応領域（図示略）に格納された第1特図データに基づいて当該変動画像が表示され、第1特図保留画像表示領域76に特図保留格納エリア対応領域（図示略）の第1特図保留格納エリア対応領域に格納された第1特図データに基づいて対応表示としての第1特図保留画像が表示され、特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された第2特図データに基づく対応表示としての第2特図保留画像は表示されない。

30

40

【1089】

ここで、通常遊技状態及びc時短遊技状態では、前述のように、遊技盤31の左側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる左打ちを行い、第1入賞口314に遊技球を入球させることで第1特図大当たり抽選を受けることが奨励される。そのため、RUSH演出中を除く通常遊技状態及びc時短遊技状態において、特図データ画像表示部75，76，77として、当該特図変動画像表示領域75及び第1特図保留画像表示領域76が設定され（対応表示としての第1特図保留画像が表示され）、第2特図保留画像表示領域77が設定されない（対応表示としての第2特図保留画像が表示されない）ことで、遊技者に対して左打ちが奨励されることを示唆することが可能になる。

【1090】

50

そして、RUSH演出中を除く通常遊技状態及びc時短遊技状態において実行されるステップS4514の第1特図データ画像表示処理では、更新手段としてのステップS4514の処理においてシフト（更新）された内容に基づいて、特図保留格納エリア対応領域（図示略）の特図実行エリア対応領域（図示略）及び第1特図保留格納エリア対応領域に格納された第1特図データに基づいて、当該変動画像及び対応表示としての第1特図保留画像が表示される。これにより、図柄表示部341に表示される対応表示としての第1特図保留画像の数が、先の第1特図遊技の終了時から1つ少なくなる（図52（A1）及び図52（B1）参照）。

【1091】

なお、RUSH演出中を除く通常遊技状態及びc時短遊技状態では、当該変動画像及び対応表示として第1特図保留画像が表示され、対応表示として第2特図保留画像が表示されないが、RUSH演出中を除く通常遊技状態又はc時短遊技状態において対応表示として第2特図保留画像を表示するようにしてもよい。即ち、RUSH演出中を除く通常遊技状態及びc時短遊技状態において、対応表示として、第1特図保留画像及び第2特図保留画像の双方を表示してもよい。

【1092】

図88（B）及び図88（D）に示すように、b時短遊技状態及びRUSH演出中では、特図データ画像表示部75、76、77として、当該特図変動画像表示領域75及び第2特図保留画像表示領域77が設定され、第1特図保留画像表示領域76が設定されない。即ち、b時短遊技状態及びRUSH演出中では、特図変動画像表示領域75に特図保留格納エリア対応領域（図示略）の特図実行エリア対応領域（図示略）に格納された第2特図データに基づいて当該変動画像が表示され、第2特図保留画像表示領域77に特図保留格納エリア対応領域（図示略）の第2特図保留格納エリア対応領域に格納された第2特図データに基づいて対応表示としての第2特図保留画像が表示され、特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された第1特図データに基づく対応表示としての第1特図保留画像は表示されない。

【1093】

ここで、b時短遊技状態及びRUSH演出中では、前述のように、遊技盤31の右側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる右打ちを行い、第2入賞口315に遊技球を入球させることで第2特図大当たり抽選を受けることが奨励される。そのため、b時短遊技状態及びRUSH演出中において、特図データ画像表示部75、76、77として、当該特図変動画像表示領域75及び第2特図保留画像表示領域77が設定され（対応表示としての第2特図保留画像が表示され）、第1特図保留画像表示領域76が設定されない（対応表示としての第1特図保留画像が表示され）ことで、遊技者に対して右打ちが奨励されることを示唆することが可能になる。

【1094】

しかしながら、RUSH演出中は、遊技盤31の右側領域に遊技球を打ち出す右打ちが遊技者に有利であるために奨励されるため、遊技者が適切（意図的）に右打ちを行う限りは、例えば遊技球の打ち出し不良が発生しない限りは第1入賞口314への遊技球の始動入賞は発生しない。ところが、RUSH演出中は、高サポートモードであるためには第2特図保留数Mが最大保留数となり易く、第2特図保留数Mが最大保留数である場合には第2入賞口315に遊技球を入球させる必要はない。一方、本実施形態では、第1特図遊技よりも第2特図遊技が優先して実行される。そのため、遊技者は、第2特図保留数Mが最大保留数である場合に第1特図保留数が最大保留数でない場合には、RUSH演出の終了後に即座に第1特図遊技が連続して実行されるように、第1特図保留数を最大保留数とするために意図的に左打ちを行うことで第1入賞口314への遊技球の入球を試みることがある。また、遊技者が遊技盤31の右側領域への遊技球の打ち出しを試みる場合であっても、遊技球の打ち出し不良によって遊技者の意に反して遊技盤31の左側領域に遊技球が打ち出されてしまうことがある。このように、右打ちが奨励されるRUSH演出中においても、遊技盤31の左側領域に遊技球が打ち出される場合がある。そのため、RUSH演

出中においても第1入賞口314への遊技球の入球が発生し得る。奨励されない遊技（例えばRUSH中の左打ち）によって第1入賞口314への遊技球の入球が発生した場合であっても、遊技機としては入賞を無効にせず、正当な入球として処理する。即ち、特定条件としての第1入賞口314への遊技球の入球が発生した場合に第1特図保留コマンドが音声ランプ制御装置5に送信され、音声ランプ制御装置5のRAM512に設定される特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に情報が格納される、数値記憶処理によって第1特図に係る数値情報が記憶されるが、RUSH演出中は対応表示として第1特図保留画像が表示されることはない。即ち、RUSH演出中は、RUSH演出中は対応表示として第1特図保留画像が表示されることはないが、第1入賞口314への遊技球の入球が発生した場合などは更新処理が実行されて特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）の第1特図当否情報のデータ（第1特図データ）が更新される。

10

【1095】

そして、b時短遊技状態及びRUSH演出中において実行されるステップS4518の第2特図データ画像表示処理では、ステップS4517においてシフト（更新）された内容に基づいて、特図保留格納エリア対応領域（図示略）の特図実行エリア対応領域（図示略）及び第2特図保留格納エリア対応領域に格納された第2特図データに基づいて、当該変動画像及び対応表示としての第2特図保留画像が表示される。これにより、図柄表示部341に表示される第2特図保留画像の数が、先の第2特図遊技の終了時から1つ少なくなる（図52（A2）及び図52（B2）参照）。

20

【1096】

なお、b時短遊技状態又はRUSH演出中では、当該変動画像及び対応表示としての第2特図保留画像が表示され、対応表示としての第1特図保留画像が表示されない。これは、変動表示が実行されることのない第1特図遊技に対する対応表示としての第1特図保留画像を表示しても当該画像から得られる情報は不要な情報であって、そのような不要な情報に対する画像が表示されても遊技者からすると必要な画像の視認性が阻害されるだけだからである。しかし、b時短遊技状態又はRUSH演出中において対応表示としての第1特図保留画像を表示するようにしてもよい。即ち、RUSH演出中を除く通常遊技状態及びc時短遊技状態において、対応表示としての第1特図保留画像及び第2特図保留画像の双方を表示してもよい。

30

【1097】

ところで、本実施形態では、各種遊技状態の移行が実行されるが、遊技状態の移行の前後で、特図データ画像表示部75、76、77における対応表示としての第1特図保留画像及び第2特図保留画像の表示態様が異なることがある。例えば、遊技状態がc時短遊技状態から通常遊技状態に移行される場合には、対応表示としての第1特図保留画像の表示状態が維持されると共に、対応表示としての第2特図保留画像の非表示状態が維持される一方で（図88（C）→図88（A）参照）、遊技状態がb時短遊技状態から通常遊技状態に移行される場合には、対応表示としての第1特図保留画像が非表示状態から表示状態とされると共に、対応表示としての第2特図保留画像が表示状態から非表示状態とされる（図88（B）→図88（A））。

40

【1098】

また、遊技状態がa時短遊技状態から通常遊技状態に移行される場合、通常遊技状態であっても、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づいて実行される第2特図遊技に対しては特定演出としてのRUSH演出が実行され、このRUSH演出中は、対応表示としての第2特図保留画像の表示状態が維持されると共に、対応表示としての第1特図保留画像の非表示状態が維持される（図88（D）参照）。もちろん、RUSH演出の実行中は、第1入賞口314への遊技球の入球があった場合でも、対応表示としての第1特図保留画像の非表示状態が維持されるが、この場合、RAM512に設定される第1特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留数記憶エリア対応領域に記憶されている第1特図保留数Nが更新処理によって更新される。

50

【1099】

これに対して、大当たり遊技が実行されることなくRUSH演出が終了した場合、その時点での、RAM512に設定された特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に第1特図当否情報のデータ（第1特図データ）に基づいて、非表示状態とされていた対応表示としての第1特図保留画像が表示状態とされる一方、表示状態とされていた対応表示としての第2特図保留画像が非表示状態とされる（図88（D）→図88（A））。即ち、特定演出としてのRUSH演出の終了に伴って特図データ画像表示部75, 76, 77における対応表示としての第1特図保留画像及び第2特図保留画像の表示態様が変化する。

【1100】

10

<ステップS4519>

図85の説明に踊り、受信したコマンドが第2特図シフトコマンドでない場合（ステップS4516：No）、MPU51は、受信したコマンドが第1特図保留コマンドであるか否かを判断する（ステップS4519）。第1特図保留コマンドは、第1特図保留格納エリアREA1に格納された情報が更新されたことを示すものであり、第1入賞口314に遊技球が入球することを契機として第1特図保留格納エリアREA1に格納された情報が更新された場合に、図63の第1特図保留コマンド設定処理でのステップS3304又はS3306において設定される。

【1101】

MPU51は、受信したコマンドが第1特図保留コマンドである場合（ステップS4519：Yes）、処理をステップS4520に移行し、受信したコマンドが第1特図保留コマンドでない場合（ステップS4519：No）、処理をステップS4522に移行する。

20

【1102】

<ステップS4520及びS4521>

受信したコマンドが第1特図保留コマンドである場合（ステップS4519：Yes）、MPU51は、更新処理として第1特図保留情報の更新処理を実行すると共に（ステップS4520）、演出表示処理として対応表示としての第1特図保留画像の表示処理を実行し（ステップS4521）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1103】

30

ここで、ステップS4520で実行される第1特図保留情報の更新処理は、前述の特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に第1特図当否情報のデータ（第1特図データ）を追加（更新）する処理である。具体的には、第1特図保留情報の更新処理では、主制御装置4のRAM412における特図保留格納エリア412bの第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4（図8参照）のうち最初の空き保留エリアに格納された第1特図当否情報に対応する第1特図データが、当該第1特図当否情報が格納された第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4に対応して設定される第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）に格納される。例えば、特図保留格納エリア412bにおける第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2（図8参照）に第1特図当否情報が格納された場合には、第2保留エリアREA2に対応して設定される第1特図第2保留エリア対応領域（図示略）に第1特図データが格納される。また、第1特図保留情報の更新処理では、特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留数記憶エリア対応領域（図示略）に記憶される第1特図保留数Nに1加算され、数値記憶処理によって加算された数値情報が記憶される。

40

【1104】

一方、ステップS4521で実行される対応表示としての第1特図保留画像の表示処理は、ステップS4520において第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に追加（更新）された第1特図データに基づいて、第1特図保留画像表示領域76に対応表示として第1特図保留画像を追加する処理が実行される。

【1105】

50

<ステップ S 4 5 2 2>

受信したコマンドが第 1 特図保留コマンドでない場合（ステップ S 4 5 1 9：N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 5 2 2）。第 2 特図保留コマンドは、第 2 特図保留格納エリア R E B 1 に格納された情報が更新されたことを示すものであり、第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球することを契機として第 2 特図保留格納エリア R E A 1 に格納された情報が更新された場合に、図 6 5 の第 2 特図保留コマンド設定処理でのステップ S 3 4 0 3、S 3 4 0 6 又は S 3 4 0 8 において設定される。

【1 1 0 6】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドである場合（ステップ S 4 5 2 2：Y e s）、処理をステップ S 4 5 2 3 に移行し、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドでない場合（ステップ S 4 5 2 2：N o）、処理を図 8 6 のステップ S 4 5 2 5 に移行する。

【1 1 0 7】

<ステップ S 4 5 2 3 及び S 4 5 2 4>

受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドである場合（ステップ S 4 5 2 2：Y e s）、M P U 5 1 は、更新処理として第 2 特図保留情報の更新処理を実行すると共に（ステップ S 4 5 2 3）、演出表示処理として対応表示としての第 2 特図保留画像の表示処理を実行し（ステップ S 4 5 2 4）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 1 0 8】

ここで、ステップ S 4 5 2 3 で実行される第 2 特図保留情報の更新処理は、前述の特図保留格納エリア対応領域の第 2 特図保留格納エリア対応領域（図示略）に第 2 特図当否情報のデータ（第 2 特図データ）を追加（更新）する処理である。具体的には、第 2 特図保留情報の更新処理では、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ～第 4 保留エリア R E B 4（図 8 参照）のうち最初の空き保留エリアに格納された第 2 特図当否情報に対応する第 2 特図データが、当該第 2 特図当否情報が格納された第 1 保留エリア R E B 1 ～第 4 保留エリア R E B 4 に対応して設定される第 1 特図第 1 ～第 4 保留エリア対応領域（図示略）に格納される。例えば、特図保留格納エリア 4 1 2 b における第 2 特図保留格納エリア R E B の第 2 保留エリア R E B 2（図 8 参照）に第 2 特図当否情報が格納された場合には、第 2 保留エリア R E B 2 に対応して設定される第 2 特図第 2 保留エリア対応領域（図示略）に第 2 特図データが格納される。また、第 2 特図保留情報の更新処理では、特図保留格納エリア対応領域の第 2 特図保留数記憶エリア対応領域（図示略）に記憶される第 2 特図保留数 M に 1 加算される。

【1 1 0 9】

一方、ステップ S 4 5 2 4 で実行される対応表示としての第 2 特図保留画像の表示処理は、ステップ S 4 5 2 3 において第 2 特図保留格納エリア対応領域（図示略）に追加（更新）された第 2 特図データに基づいて、第 2 特図保留画像表示領域 7 7 に対応表示として第 2 特図保留画像を追加する処理が実行される。

【1 1 1 0】

<ステップ S 4 5 2 5>

図 8 5 の説明に戻りに、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドでない場合（ステップ S 4 5 2 2：N o）、図 8 6 に示すように、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特殊変動開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 5 2 5）。特殊変動開始コマンドは、a 時短遊技状態において第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球することに基づいて a 時短遊技状態移行後に最初に実行される第 2 特図遊技であることを示すものであり、a 時短遊技状態において最初の第 2 特図遊技が開始される場合に、図 7 4 の第 2 特図変動パターン設定処理 B でのステップ S 4 0 0 3 において設定される。

【1 1 1 1】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが特殊変動開始コマンドである場合（ステップ S 4 5

10

20

30

40

50

25: Yes)、処理をステップS4526に移行し、受信したコマンドが特殊変動開始コマンドでない場合(ステップS4525: No)、処理をステップS4527に移行する。

【1112】

＜ステップS4526＞

受信したコマンドが特殊変動開始コマンドである場合(ステップS4525: Yes)、MPU51は、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される第2特図遊技であること(小当たり確率が高く大当たり遊技が実行され易い状態であること)を報知する特定演出としてのRUSH演出を開始させるRUSH演出開始フラグをオンに設定し(ステップS4526)、当該コマンド判定処理を終了する。RUSH演出開始フラグは、RUSH演出を設定するか否かを判断するために、後述の図87の変動種別(演出パターン)設定処理のステップS4601において参照され、RUSH演出開始フラグがオンに設定されている場合にRUSH演出が設定される。

10

【1113】

RUSH演出は、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される第2特図遊技に対して設定され、前述のように1回～5回の第2特図遊技に対して設定される。このRUSH演出は、a時短遊技状態への移行後に最初に行われる第2特図遊技に対して実行される一発告知演出(図89参照)と、a時短遊技状態への移行後の2回目～5回目の第2特図遊技に対して実行されるバトル演出(図90及び図91参照)とを含む。また、RUSH演出は、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される第2特図遊技の全てが外れを報知するものである場合に、バトル演出の終了後に実行される表示演出としてのリザルト演出及び分岐演出を含む(図92参照)。

20

【1114】

ここで、図89はRUSH演出の最初に行われる一発告知演出の一例を示す図である。図89に示すように、一発告知演出は、ボタン演出して実行される。この一発告知演出では、まず遊技者に操作ボタン20に対する操作を促す操作ボタン20を模した画像が表示される(図89(A)参照)。

【1115】

そして、当該第2特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合、遊技者の操作ボタン20に対する操作によって可動役物部材39が作動され(図89(B)参照)、可動役物部材39の復帰後に飾り図柄がゾロ目で停止表示されることで(図89(A)参照)当該第2特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりであることが遊技者に報知される。

30

【1116】

一方、当該第2特図遊技に対する大当たり抽選の結果が外れである場合、遊技者の操作ボタン20に対する操作によっても可動役物部材39が作動されず(図89(D)参照)、飾り図柄がゾロ目以外のバラケ目で停止表示されることで(図89(E)参照)当該第2特図遊技に対する大当たり抽選の結果が外れであることが遊技者に報知される。

【1117】

また、図90及び図91はRUSH演出の一発告知演出の次に実行され得るバトル演出の一例を示す図である。バトル演出では、味方キャラクタと敵キャラクタとのバトルの結果によって、RUSH演出の一発告知演出の終了時における第2特図遊技を実行する権利の第2特図保留(残保留)の中に大当たり抽選結果が小当たりであるものが含まれるか否かが報知される。なお、バトル演出は、RUSH演出の一発告知演出の終了時における第2特図遊技を実行する権利の第2特図保留(残保留)がない場合には実行されず、当該残保留が1個以上ある場合に実行される。

40

【1118】

図90(A)に示すように、本実施形態では、バトル演出としてパターンA～Dの種類が設定されている。パターンA及びBは、味方キャラクタが敵キャラクタに敗北するもの

50

であり、RUSH演出の一発告知演出の終了時における第2特図遊技を実行する権利の第2特図保留（残保留）中に大当たり抽選の結果が小当たりであるものが含まれない場合に選択される。パターンC及びDは、味方キャラクタが敵キャラクタに勝利するものであり、RUSH演出の一発告知演出の終了時における第2特図遊技を実行する権利の第2特図保留（残保留）中に大当たり抽選の結果が小当たりであるものが含まれる場合に選択される。

【1119】

バトル演出のパターンAは、図柄表示部341にバトル開始の文字画像が表示され（図90（B）参照）、まず敵キャラクタが攻撃し（図90（D）参照）、敵キャラクタの攻撃が味方キャラクタにヒットし（図91（B2）参照）→味方キャラクタが敵キャラクタに敗北するものである（図91（B3）参照）。 10

【1120】

バトル演出のパターンBは、図柄表示部341にバトル開始の文字画像が表示され（図90（B）参照）、まず味方キャラクタが攻撃し（図90（C）参照）、味方キャラクタの攻撃を敵キャラクタが防御し（図91（B1）参照）→敵キャラクタが反撃し（図90（D）参照）、敵キャラクタの攻撃が味方キャラクタにヒットし（図91（B2）参照）→味方キャラクタが敵キャラクタに敗北するものである（図91（B3）参照）。 10

【1121】

バトル演出のパターンCは、図柄表示部341にバトル開始の文字画像が表示され（図89（B）参照）、まず味方キャラクタが攻撃し（図89（C）参照）、味方キャラクタの攻撃が敵キャラクタにヒットし（図91（A1）参照）→味方キャラクタが敵キャラクタに勝利するものである（図91（A3）参照）。 20

【1122】

バトル演出のパターンDは、図柄表示部341にバトル開始の文字画像が表示され（図89（B）参照）、まず敵キャラクタが攻撃し（図90（D）参照）、敵キャラクタの攻撃を味方キャラクタが防御し（図91（A2）参照）、味方キャラクタが反撃し（図90（C）参照）、味方キャラクタの攻撃が敵キャラクタにヒットし（図91（A1）参照）→味方キャラクタが敵キャラクタに勝利するものである（図91（A3）参照）。 20

【1123】

そして、バトル演出は、残保留パターンの種別に応じた第2特図遊技の回数に応じて実行される。具体的には、残保留パターン1，5では、1回の第2特図遊技に対してバトル演出が実行され、残保留パターン2，6では、2回の第2特図遊技に対してバトル演出が実行され、残保留パターン3，7では、3回の第2特図遊技に対してバトル演出が実行され、残保留パターン4，8では、1回の第2特図遊技に対してバトル演出が実行される。つまり、残保留パターン1，5を除く残保留パターン2～4及び残保留パターン6～9では、複数回の第2特図遊技に対して纏めてバトル演出が実行される。そして、本実施形態では、前述のように、第2特図遊技が第1特図遊技よりも優先して実行される。そのため、バトル演出の実行中に第1入賞口314への遊技球の入球があった場合（RAM512に設定される第1特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留数記憶エリア対応領域に記憶されている第1特図保留数Nが更新処理によって加算される場合）であっても、第2特図遊技が優先して実行される。その結果、バトル演出の実行対象となった所定数の第2特図遊技が終了するまでは、即ちRAM512に設定される第2特図保留格納エリア対応領域の第2特図保留数記憶エリア対応領域に記憶されている第2特図保留数Mが、第2特図遊技の実行により減算処理によって減算されて0（図柄表示部341に表示される第2特図保留画像の数が0）となるまでは、表示演出としてのバトル演出の実行中の第1入賞口314への遊技球の入球に基づく第1特図遊技が開始されない。これにより、バトル演出は、バトル演出の実行中の第1入賞口314への遊技球の入球に基づいて阻害されることはない。また、バトル演出の実行中の第1入賞口314への遊技球の入球に基づく第1特図遊技は、バトル演出の終了後に開始される。 30 40

【1124】

また、図 8 8 (D) に示すように、特定演出としての R U S H 演出では、例えば R U S H 中であることを示す画像 (「大当たり R U S H」の文字画像)、大当たり R U S H 回数
を示す画像 (「R U S H × 3」の文字画像)、当該大当たり R U S H での出玉総数
を示す画像 (「3 0 0 0 玉」の文字画像) が、R U S H 演出を実行中の少なくとも一部の期間で
表示される。これらの画像の一部又は全部は省略してもよく、また大当たり R U S H で実
行可能な残りの特図遊技回数を示す画像を表示することも考えられる。

【1 1 2 5】

また、図 9 2 (A) はリザルト演出での画面例を示す図であり、図 9 2 (B) ~ 図 9 2
(D) は分岐演出での画面例を示す図である。なお、図 9 2 (E) 及び図 9 2 (F) は、
分岐演出終了後の画面例を示す図である。

10

【1 1 2 6】

図 9 2 に示す表示演出としてのリザルト演出及び分岐演出は、a 時短遊技状態での第 2
入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の全てが外れを報知
するものである場合に実行される。具体的には、リザルト演出及び分岐演出は、a 時短遊
技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の数
が 1 個である場合には、外れを報知する一発告知演出 (図 8 9 (E) 参照) の終了後に、
リザルト演出及び分岐演出が実行され、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球
の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の数が 2 個 ~ 5 個である場合には、外れであ
ることを報知するバトル演出 (図 9 1 (B 3) 参照) の終了後に実行される。

【1 1 2 7】

20

図 9 2 (A) に示すように、リザルト演出では、小当たり遊技を経由しない初大当たり
遊技を契機として実行され得る当該初大当たり遊技を含めた一連の大当たり遊技 (連荘大
当たり遊技) の結果に関する画像が表示される。具体的には、本実施形態のリザルト演出で
は、「結果発表」の文字画像と共に、大当たり連荘回数を示す画像 (「R U S H 5 回」
の文字画像)、連荘大当たり遊技での出玉の合計数
を示す画像 (「合計出玉 2 6 0 0 玉」の文字画像) が表示される。これにより、遊技者は、大当たり連荘回数及び出玉の合計
数を把握することができる。

【1 1 2 8】

なお、小当たり遊技を経由しない初大当たり遊技を契機として a 時短遊技状態に移行さ
れる場合であっても、最初に移行された a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球
の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の全てが外れを報知するものである場合には
、連荘大当たりではなく、いわゆる単発大当たりとなるが、説明の簡便上、単発大当たり
の場合にも連荘と称する。そして、単発大当たりの場合には、連荘回数は 1 回となり、大
当たり連荘回数を示す画像としては「R U S H 1 回」の文字画像が表示される。

30

【1 1 2 9】

また、本実施形態のリザルト演出において表示される大当たり連荘回数は、小当たり遊
技を経由しない初大当たり遊技を含めていたが、初大当たり遊技を除外して大当たり連荘
回数をカウントし、その回数を表示するようにしてもよい。

【1 1 3 0】

また、本実施形態のリザルト演出では、遊技者に左打ちを促す画像 (左向き矢印の画像
及び「左打ち」の文字画像) が表示される。ここで、本実施形態では、a 時短遊技状態で
の第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の全てが外れ
を報知するものである場合に当該第 2 特図遊技の全てが終了した場合 (R U S H 演出が終
了した場合)、最後に実行された第 2 特図遊技の終了時点 (次に実行される第 1 特図遊技
の開始時点) での遊技状態は、通常遊技状態及び c 時短遊技状態のいずれかである。即ち
、最後に実行された第 2 特図遊技の終了時点 (次に実行される第 1 特図遊技の開始時点)
での遊技状態は、当該第 2 特図遊技の全てが完全外れである場合には通常遊技状態であり
、当該第 2 特図遊技の 1 つが時短図柄停止外れである場合には c 時短遊技状態である。そ
して、通常遊技状態及び c 時短遊技状態のいずれにおいても、遊技盤 3 1 の左側領域に遊
技球を打ち出す左打ちが奨励される。一方、本実施形態では、時短大当たり遊技の終了後

40

50

に a 時短遊技状態に移行された場合（RUSH演出の実行中）や大当たり遊技中は、前述のように遊技盤 31 の右側領域に遊技球を打ち出す右打ちが奨励される。即ち、RUSH演出においてRUSHが終了することが報知された場合には、右打ちから左打ちに切り替えることが奨励される。そのため、リザルト演出において左打ちを促す画像を表示することで、遊技者は、奨励される遊技盤 31 への遊技球の打ち出し領域が変更されたことを把握することができる。

【1131】

図 9 2（B）に示すように、分岐演出は、ボタン演出として実行される。具体的には、本実施形態の分岐演出では、分岐演出が実行されていることを示す「運命の選択」の文字画像と共に、遊技者に操作ボタン 20 に対する操作を促すために、操作ボタン 20 を模した画像及び「押せ！！」の文字画像が表示される。

10

【1132】

ここで、前述のように、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の全てが外れを報知するものである場合に当該第 2 特図遊技の全てが終了した場合（RUSH演出が終了した場合）、最後に実行された第 2 特図遊技の終了時点（次に実行される第 1 特図遊技の開始時点）での遊技状態は、c 時短遊技状態又は通常遊技状態である。そして、c 時短遊技状態では、大当たり抽選の結果が大当たりである場合の時短大当たりの振り分けが 100% であるのに対し（図 5 9（C）参照）、通常遊技状態では、大当たり抽選の結果が大当たりである場合の時短大当たりの振り分けが 50% である（図 5 9（C）参照）。そのため、c 時短遊技状態は、通常遊技状態に比べて遊技者に有利な遊技状態である。

20

【1133】

そして、図 9 2（C）に示すように、分岐演出では、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の全てが外れを報知するものである場合に当該第 2 特図遊技の全てが終了した場合（RUSH演出が終了した場合）、最後に実行された第 2 特図遊技の終了時点（次に実行される第 1 特図遊技の開始時点）での遊技状態が、通常遊技状態よりも有利な c 時短遊技状態である場合には、「おめでとう！」の文字画像が表示される。これにより、遊技者に対して、c 時短遊技状態での第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の全てが外れを報知するものである場合に当該第 2 特図遊技の全てが終了した場合（RUSH演出が終了した場合）、最後に実行された第 2 特図遊技の終了時点（次に実行される第 1 特図遊技の開始時点）での遊技状態が、通常遊技状態よりも遊技者に有利な c 時短遊技状態であることが明示又は示唆される。

30

【1134】

一方、図 9 2（D）に示すように、分岐演出では、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の全てが外れを報知するものである場合に当該第 2 特図遊技の全てが終了した場合（RUSH演出が終了した場合）、最後に実行された第 2 特図遊技の終了時点（次に実行される第 1 特図遊技の開始時点）での遊技状態が、c 時短遊技状態よりも不利な通常遊技状態である場合には、「ざんねん・・・」の文字画像が表示される。これにより、遊技者に対して、c 時短遊技状態での第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として実行される第 2 特図遊技の全てが外れを報知するものである場合に当該第 2 特図遊技の全てが終了した場合（RUSH演出が終了した場合）、最後に実行された第 2 特図遊技の終了時点（次に実行される第 1 特図遊技の開始時点）での遊技状態が、c 時短遊技状態よりも不利な通常遊技状態であることが明示又は示唆される。

40

【1135】

なお、分岐演出において「おめでとう！」又は「ざんねん・・・」の文字画像を表示する場合、遊技者に左打ちを促す画像（左向き矢印の画像及び「左打ち」の文字画像）が表示される。即ち、遊技者に左打ちを促す画像は、分岐演出の実行中において終始が表示される。もちろん、遊技者に左打ちを促す画像は、分岐演出の実行中の一部の期間において

50

表示してもよいし、省略することも考えられる。

【1136】

また、図92（C）に示すc時短遊技状態であること明示又は示唆する分岐演出の終了後は、図92（E）に示すように、c時短遊技状態での遊技に関する画像が表示される。

「大当たりでRUSH確定!!」、「突然チャンス」の文字画像がc時短遊技状態での遊技に関する画像に該当する。このように、c時短遊技状態での遊技に関する画像が表示されることで、遊技者は、RUSH演出が終了し、c時短遊技状態であることを把握することができる。そして、c時短遊技状態である場合にはRUSH演出が終了した後に、第1特図を実行する権利の保留がある場合には第1特図保留数Nに対応する数の第1特図保留画像が対応表示として表示される。即ち、RUSH演出の実行中などに第1入賞口314に遊技球が入球することを契機として第1特図を実行する権利の保留が発生した場合、RUSH演出の終了時点での第1特図保留数Nに対応する数の第1特図保留画像が対応表示として表示される。

10

【1137】

また、遊技者に左打ちを促す画像（左向き矢印の画像及び「左打ち」の文字画像）が表示される。これにより、遊技者は、右打ちから左打ちに切り替えることが望ましいことを把握することができる。なお、遊技者に左打ちを促す画像は、当該画像が表示されてから一定期間が経過するまで表示すればよく、例えばc時短遊技状態が終了するまで継続して表示してもよいし、当該画像が表示されてから一定回数の特図遊技が実行されるまで表示してもよいし、当該画像が表示されてから一定時間が経過するまで表示してもよいし、当該画像が表示されてから一定数の遊技球が連続して左打ちされるまで表示してもよい。

20

【1138】

さらに、c時短遊技状態演出の実行中は、c時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数を示す特定対応表示としての残りのc時短遊技回数表示（「残り8回」の文字画像）が表示される。

【1139】

なお、遊技者は、c時短遊技状態での遊技に関する画像が表示された時のc時短遊技回数表示に基づいて、RUSH演出の実行中に実行されたc時短遊技状態での第2特図遊技回数を把握でき、また、どの残保留に対する大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れであったかを把握することができる。例えば、図92（E）に示す例では、c時短遊技回数表示として「残り8回」の文字画像が表示されるが、このc時短遊技回数表示に基づいて、最初に設定されたc時短遊技回数が10回であり、既に2回の特図遊技がc時短遊技状態において実行されたことを把握することができる。また、3回前に実行された第2特図遊技によって報知される大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れであったことを事後的に把握することができる。

30

【1140】

一方、図92（D）に示す通常遊技状態であること明示又は示唆する分岐演出の終了後は、図92（F）に示すように、通常遊技状態での遊技に関する画像が表示される。「大当たりでRUSH確定!!」、「突然チャンス」の文字画像がc時短遊技状態での遊技に関する画像に該当する。このように、通常遊技状態での遊技に関する画像が表示されることで、遊技者は、RUSH演出が終了し、通常遊技状態であることを把握することができる。そして、通常遊技状態である場合にはRUSH演出が終了した後に、第1特図を実行する権利の保留がある場合には第1特図保留数Nに対応する数の第1特図保留画像が対応表示として表示される。即ち、RUSH演出の実行中などに第1入賞口314に遊技球が入球することを契機として第1特図を実行する権利の保留が発生した場合、RUSH演出の終了時点での第1特図保留数Nに対応する数の第1特図保留画像が対応表示として表示される。

40

【1141】

また、遊技者に左打ちを促す画像（左向き矢印の画像及び「左打ち」の文字画像）が表

50

示される。これにより、遊技者は、右打ちから左打ちに切り替えることが望ましいことを把握することができ、右打ちを継続することにより不利益を被ることを防止することができる。なお、遊技者に左打ちを促す画像は、当該画像が表示されてから一定期間が経過するまで表示すればよく、例えば当該画像が表示されてから一定回数の特図遊技が実行されるまで表示してもよいし、当該画像が表示されてから一定時間が経過するまで表示してもよいし、当該画像が表示されてから一定数の遊技球が連続して左打ちされるまで表示してもよい。

【1142】

なお、本実施形態では、リザルト演出が分岐演出よりも先に実行されるが、分岐演出はリザルト演出よりも先に実行されてもよい。

【1143】

また、本実施形態では、リザルト演出（図92（A）参照）及び分岐演出（図92（B）～図92（F）参照）が別々に実行されているが、リザルト演出及び分岐演出のうちの一方の一部又は全部が、他方に重複して実行されてもよい。例えば、図92（A）に示すリザルト演出の画面例において、図92（B）に示す画像を併せて表示してもよく、図92（C）及び図92（E）に示す分岐演出の画面例において、図92（A）に示すリザルト画像を併せて表示してもよい。

【1144】

また、本実施形態では、リザルト演出及び分岐演出をRUSH演出の一部として説明したが、リザルト演出及び分岐演出の一方又は双方はRUSH演出とは異なる演出として実行されるものであってもよい。つまり、本実施形態では、リザルト演出及び分岐演出は、残保留のうちの最後に実行される第2特図遊技において実行されるが、リザルト演出及び分岐演出のうちの一方又は双方は、リザルト演出及び分岐演出は、残保留のうちの最後に実行される第2特図遊技の終了後に実行される第1特図遊技（の開始時）において実行されてもよい。

【1145】

<ステップS4527>

図86の説明に戻り、受信したコマンドが特殊変動開始コマンドでない場合（ステップS4525：No）、MPU51は、受信したコマンドが残保留パターンコマンドであるか否かを判断する（ステップS4527）。残保留パターンコマンドは、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留の残保留パターン（図62参照）が設定される場合に、図74の第2特図変動パターン設定処理BでのステップS4009において設定される。

【1146】

MPU51は、受信したコマンドが残保留パターンコマンドである場合（ステップS4527：Yes）、処理をステップS4528に移行し、受信したコマンドが残保留パターンコマンドでない場合（ステップS4527：No）、処理をステップS4532に移行する。

【1147】

<ステップS4528～S4531>

受信したコマンドが残保留パターンコマンドである場合（ステップS4527：Yes）、MPU51は、残保留パターンコマンドに基づいて、RAM512に残保留パターンを記憶し（ステップS4528）、RUSH演出においてバトル演出を開始させるバトル演出開始フラグをオンに設定する（ステップS4529）。バトル演出開始フラグは、バトル演出を開始するか否かを判断するために、後述の図87の変動種別（演出パターン）設定処理のステップS4604において参照され、バトル演出フラグがオンに設定されている場合にバトル演出が設定される。

【1148】

さらに、MPU51は、残保留パターンコマンドに含まれる残保留数に関する情報に基づいて、数値記憶処理として、RAM512に設定される残保留数カウンタ用の記憶領域

10

20

30

40

50

に残保留数カウンタの値をセットする処理を実行する（ステップ S 4 5 3 0）。そして、M P U 5 1 は、残保留数カウンタが設定されていること（残保留があること）を示す残保留数カウンタフラグをオンに設定し（ステップ S 4 5 3 1）、当該コマンド判定処理を終了する。

【 1 1 4 9 】

当該コマンド判定処理のステップ S 4 5 3 0 では、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づいて最初に行われた第 2 特図遊技の終了時点での第 2 特図遊技を実行する権利の数（残保留数）に対応する値に残保留数カウンタの値が設定される。ここで、本実施形態では、第 2 特図の最大保留数は 4 に設定されているため、残保留数は 1 ～ 4 のいずれかとなる。そして、R A M 5 1 2 に設定される残保留数カウンタ用の記憶領域には、当該残保留数が 1 である場合には残保留数カウンタの値として 1 がセットされ、当該残保留数が 2 である場合には残保留数カウンタの値として 2 がセットされ、当該残保留数が 3 である場合には残保留数カウンタの値として 3 がセットされ、当該残保留数が 4 である場合には残保留数カウンタの値として 4 がセットされる。

10

【 1 1 5 0 】

また、残保留数カウンタの値は、後述の当該コマンド判定処理のステップ S 4 5 4 2 において、当該残保留に対する第 2 特図遊技が終了する場合に 1 ずつ減算（更新）される。そのため、残保留数カウンタの値は、当該残保留に基づいて実行可能な第 2 特図遊技のうちの未実行の第 2 特図遊技数を示すものとなる。その結果、M P U 5 1 は、残保留数カウンタを参照することで、未実行の残保留に対する第 2 特図遊技数を図柄表示部 3 4 1 に表示することが可能になる。

20

【 1 1 5 1 】

ここで、詳細は後述するが、当該残保留に基づいて実行される第 2 特図遊技に対しては、後述の変動種別（演出パターン）設定処理において、残保留パターンコマンドに基づいて特定される残保留パターン（図 6 2 （D）参照）に基づいて、バトル演出（図 9 0 及び図 9 1 参照）が設定される。例えば、残保留パターン 1 の場合には 1 つの残保留に対する 1 回の第 2 特図遊技に対してバトル演出が実行され、残保留パターン 2 の場合には 2 つの残保留に対する 2 回の第 2 特図遊技に対してバトル演出が実行され、残保留パターン 3 の場合には 3 つの残保留に対する 3 回の第 2 特図遊技に対してバトル演出が実行され、残保留パターン 4 の場合には 4 つの残保留に対する 4 回の第 2 特図遊技に対してバトル演出が実行される。換言すれば、当該残保留に対する第 2 特図遊技が終了する場合に 1 ずつ減算（更新）されることで当該残保留のうちの未実行の第 2 特図遊技数を示す残保留数カウンタの値は、バトル演出が実行される未実行の第 2 特図遊技数に一致する。そのため、R A M 5 1 2 に設定される残保留数カウンタ用の記憶領域に残保留数カウンタの値が 0 になるまでバトル演出が継続して実行される。

30

【 1 1 5 2 】

<ステップ S 4 5 3 2>

受信したコマンドが残保留パターンコマンドでない場合（ステップ S 4 5 2 7：N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特殊変動終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 5 3 2）。特殊変動終了コマンドは、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づく第 2 特図の残保留に対する特殊変動の残り回数を示す残設定カウンタの値が 0 である場合に、図 7 1 の特図遊技制御処理でのステップ S 3 7 1 2 において設定される。

40

【 1 1 5 3 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが特殊変動終了コマンドである場合（ステップ S 4 5 3 2：Y e s）、処理をステップ S 4 5 3 3 に移行し、受信したコマンドが特殊変動終了コマンドでない場合（ステップ S 4 5 3 2：N o）、処理をステップ S 4 5 3 4 に移行する。

【 1 1 5 4 】

<ステップ S 4 5 3 3>

50

受信したコマンドが特殊変動終了コマンドである場合（ステップ S 4 5 3 2：Y e s）、M P U 5 1 は、R U S H 演出を終了させる R U S H 演出終了フラグをオンに設定し（ステップ S 4 5 3 3）、当該コマンド判定処理を終了する。R U S H 演出終了フラグは、R U S H 演出を終了するか否かを判断するために、後述の図 8 7 の変動種別（演出パターン）設定処理のステップ S 4 6 1 2 において参照され、R U S H 演出終了フラグがオンに設定されている場合には R U S H 演出が終了される。

【1 1 5 5】

<ステップ S 4 5 3 4>

受信したコマンドが特殊変動終了コマンドでない場合（ステップ S 4 5 3 2：N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 5 3 4）。特図変動パターンコマンドは、第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技に対する特図変動パターンが設定された場合に、図 7 3 の特図変動開始処理でのステップ S 3 9 1 0 において設定される。

10

【1 1 5 6】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドである場合（ステップ S 4 5 3 4：Y e s）、処理をステップ S 4 5 3 5 に移行し、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合（ステップ S 4 5 3 4：N o）、処理をステップ S 4 5 4 0 に移行する。

【1 1 5 7】

<ステップ S 4 5 3 5>

受信したコマンドが特図変動パターンコマンドである場合（ステップ S 4 5 3 4：Y e s）、M P U 5 1 は、演出表示処理として、特図遊技において図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行させる変動種別（演出パターン）を設定する変動種別（演出パターン）設定処理を実行し（ステップ S 4 5 3 5）、処理をステップ S 4 5 3 6 に移行する。なお、変動種別（演出パターン）設定処理の詳細は、図 8 7 を参照して後述する。

20

【1 1 5 8】

<ステップ S 4 5 3 6>

ステップ S 4 5 3 6 では、M P U 5 1 は、前述の第 1 の実施形態でのコマンド判定処理におけるステップ S 3 1 0 4 の停止図柄組み合わせ設定処理と同様に、特図遊技において図柄表示部 3 4 1 で変動表示される複数の飾り図柄（例えば 3 つ）が有効ラインに停止表示される場合の図柄組み合わせを設定する停止図柄組み合わせ設定処理を実行し、処理をステップ S 4 5 3 7 に移行する。

30

【1 1 5 9】

なお、本実施形態では、大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れである場合、飾り図柄の停止図柄組み合わせとしては、時短図柄停止外れ種別に対応したものが設定される（図 6 1（D）参照）。具体的には、飾り図柄の停止図柄組み合わせとしては、時短図柄停止外れ A である場合には「1 1 9」又は「9 9 1」が設定され、時短図柄停止外れ B である場合には「5 5 4」又は「5 5 6」が設定され、時短図柄停止外れ C である場合には「3 3 2」又は「3 3 4」が設定され、時短図柄停止外れ D である場合には「7 7 6」又は「7 7 8」が設定される。

40

【1 1 6 0】

<ステップ S 4 5 3 7>

ステップ S 4 5 3 7 では、M P U 5 1 は、受信した特図変動パターンコマンドに対応する変動表示時間を変動表示カウンタに設定する。変動表示時間は、特図変動パターンコマンドに含まれる変動パターン情報に応じて判断される。そして、変動表示カウンタは、図 4 2 の副タイマ割込処理でのステップ S 2 7 0 1 のカウンタ更新処理で 1 ずつ減算され、M P U 5 1 は、変動表示カウンタに基づいて、図柄変動表示中であるか否か、変動表示時間の残り時間などを判断することが可能である。例えば、M P U 5 1 は、変動表示カウンタが 0 になった場合に図柄変動表示の終了と判断することが可能である。

【1 1 6 1】

50

<ステップ S 4 5 3 8>

ステップ S 4 5 3 8 では、M P U 5 1 は、当該コマンド判定処理のステップ S 4 5 3 5 で設定された演出パターン種別、及びステップ S 4 5 3 6 で決定された飾り図柄の停止図柄組み合わせの内容を特定するための表示変動パターンコマンドを表示制御装置 6 に出力し、当該コマンド判定処理を終了する。表示変動パターンコマンドは、演出パターン種別及び飾り図柄の停止図柄組み合わせを識別するための情報である。一方、表示制御装置 6 の R O M 6 1 1 には、表示変動パターンコマンド各々に対応する飾り図柄の変動画像及び演出画像などが記憶されている。これにより、表示制御装置 6 では、M P U 6 1 が、表示変動パターンコマンドに対応する飾り図柄の停止図柄組み合わせ、変動種別及び演出種別に応じて図柄表示部 3 4 1 における変動表示及び演出表示を実行する。

10

【1 1 6 2】

<ステップ S 4 5 3 9>

ステップ S 4 5 3 9 では、M P U 5 1 は、時短回数カウンタ更新処理を実行し、当該コマンド判定処理を終了する。この時短回数カウンタ更新処理では、R A M 5 1 2 に設定される b 時短回数カウンタ用又は c 時短回数カウンタ用の記憶領域にセットされた b 時短回数カウンタ又は c 時短回数カウンタの値から 1 減算し、減算後の値を記憶する処理が実行される。具体的には、M P U 5 1 は、当該コマンド判定処理のステップ S 4 5 0 6 でオンに設定される b 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合、即ち b 時短遊技状態である場合、R A M 5 1 2 に設定される b 時短回数カウンタ用の記憶領域にセットされた b 時短回数カウンタの値から 1 減算する。また、当該時短回数カウンタ更新処理では、M P U 5 1 は、当該コマンド判定処理のステップ S 4 5 1 0 でオンに設定される c 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合、即ち c 時短遊技状態である場合、R A M 5 1 2 に設定される c 時短回数カウンタ用の記憶領域にセットされた c 時短回数カウンタの値から 1 減算する。

20

【1 1 6 3】

<ステップ S 4 5 4 0>

受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合（ステップ S 4 5 3 4 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 5 4 0）。特図遊技終了コマンドは、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄が停止表示された場合に、図 7 0 の特図遊技制御処理でのステップ S 3 7 0 9 において設定される。

30

【1 1 6 4】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図遊技終了コマンドである場合（ステップ S 4 5 4 0 : Y e s）、処理をステップ S 4 5 4 1 に移行し、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合（ステップ S 4 5 4 0 : N o）、処理をステップ S 4 5 4 5 に移行する。

【1 1 6 5】

<ステップ S 4 5 4 1 ~ S 4 5 4 4>

受信したコマンドが特図遊技終了コマンドである場合（ステップ S 4 5 4 0 : Y e s）、M P U 5 1 は、残保留数カウンタが設定されていることを示す残保留数カウンタフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 5 4 1）。残保留数カウンタフラグは、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づいて最初に行われた第 2 特図遊技の終了時点での第 2 特図遊技を実行する権利の保留である残保留のうちの未実行の第 2 特図遊技数を示す残保留数カウンタが設定されていることを示すフラグである。

40

【1 1 6 6】

M P U 5 1 は、残保留数カウンタフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 5 4 1 : Y e s）、減算処理として、残保留数カウンタの値から 1 減算する処理を実行する（ステップ S 4 5 4 2）。即ち、M P U 5 1 は、特定演出としての R U S H 演出におけるバトル演出の実行中において、第 2 特図遊技の終了時に R A M 5 1 2 に設定される記憶領

50

域に記憶された残保留数カウンタの値を更新する。このように、バトル演出の実行中において、第2特図遊技の終了時にRAM512に設定される記憶領域に記憶された残保留数カウンタの値が更新（減算）されることで、例えば当該残保留中に、大当たり抽選の結果がc時短遊技状態に移行される時短図柄停止外れであるものが含まれる場合であっても、RAM512に設定される記憶領域に記憶された残保留数カウンタの値を参照することで、残保留数カウンタの値が0となるまでバトル演出を継続して実行すること可能になり、残保留数カウンタの値が0となってからc時短遊技状態である場合に固有のc時短遊技状態演出（図88（C）参照）を表示演出として実行することが可能になる。

【1167】

一方、MPU51は、残保留数カウンタフラグがオフに設定されている場合（ステップS4541：No）、即ち残保留に対する処理が必要ない場合、当該コマンド判定処理を終了する。

【1168】

さらに、MPU51は、減算後の残保留数カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS4543）。MPU51は、減算後の残保留数カウンタの値が0である場合（ステップS4543：Yes）、残保留数カウンタフラグをオフに設定し（ステップS4544）、当該コマンド判定処理を終了する。即ち、MPU51は、残保留数カウンタの値が0となった段階で、残保留数の管理（更新）を終了する。換言すれば、RAM512に設定される残保留数カウンタ用の記憶領域に残保留数カウンタの値が0となる場合にバトル演出を終了する。

【1169】

一方、MPU51は、減算後の残保留数カウンタの値が0でない場合（ステップS4543：No）、当該コマンド判定処理を終了する。即ち、MPU51は、残保留数カウンタの値が0でない場合、残保留数の管理（更新）を継続する。換言すれば、RAM512に設定される残保留数カウンタ用の記憶領域に残保留数カウンタの値が0とならない場合にバトル演出を継続する。

【1170】

なお、本実施形態では、残保留数カウンタの値は、特図変動パターンの受信時、即ち特図遊技の開始時に更新（減算）されるが、残保留数カウンタの値を特図遊技の終了時に更新（減算）してもよい。

【1171】

また、残保留パターンコマンドから特定される残保留数を管理（更新）しているが、これに代えて、残保留パターンコマンドから特定される残保留パターンに基づいてバトル演出において実行される第2特図遊技回数を特定し、当該第2特図遊技回数を管理（更新）してもよい。この場合、バトル演出において実行される第2特図遊技回数は、RAM512に設定される記憶領域に第2特図遊技回数に対応するバトル演出カウンタを設定し、このバトル演出カウンタを当該第2特図遊技の開始時（又は終了時）に更新することで、バトル演出において実行される残りの第2特図遊技回数を管理することができる。これにより、MPU51は、バトル演出カウンタの値を参照することで、バトル演出が終了する第2特図遊技を特定することが可能になる。

【1172】

<ステップS4545>

受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合（ステップS4540：No）、MPU51は、その他のコマンドに基づく処理を実行し（ステップS4545）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1173】

〔変動種別（演出パターン）設定処理〕

ここで、図87は、本実施形態の変動種別（演出パターン）設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の変動種別（演出パターン）設定処理では、遊技状態種別などに応じて、特図遊技において図柄表示部341などで実行される変動種別（演

10

20

30

40

50

出パターン)などが設定される。本実施形態の変動種別(演出パターン)設定処理では、特定演出としてのRUSH演出を設定するための演出表示手段としての、一発告知演出を設定する処理及びバトル演出を設定する処理を含む。

【1174】

<ステップS4601>

本実施形態の変動種別(演出パターン)設定処理では、MPU51は、まずRUSH演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS4601)。RUSH演出開始フラグは、特定演出としてのRUSH演出を開始させるフラグであり、特殊変動開始コマンドを受信した場合に、図86のコマンド判定処理のステップS4524においてオンに設定される。

10

【1175】

MPU51は、RUSH演出開始フラグがオンに設定されている場合(ステップS4601:Yes)、処理をステップS4602に移行し、RUSH演出開始フラグがオフに設定されている場合(ステップS4601:No)、処理をステップS4604に移行する。

【1176】

ここで、本実施形態では、ステップS4601において、RUSH演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断することで、表示演出として、b時短遊技状態演出やc時短遊技状態演出よりも優先して特定演出としてのRUSH演出を実行することが可能になる。例えば、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく第2特図の残保留が通常遊技状態において開始され、当該残保留中に大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであるものが含まれる場合、大当たり抽選結果が時短図柄停止外れである第2特図遊技の終了後にc時短遊技状態に移行する。この場合に、表示演出としてc時短遊技状態に対応するc時短遊技状態演出が実行されると、それまでRUSH演出として実行されていたバトル演出が途中で終了される。

20

【1177】

これに対して、RUSH演出フラグがオンに設定されているか否かを判断することで、表示演出としてc時短遊技状態演出よりも優先してRUSH演出を実行することが可能になる。その結果、RUSH演出として実行されていたバトル演出が途中で終了することが防止される。

30

【1178】

なお、本実施形態では、表示演出として、特定演出としてのRUSH演出をc時短遊技状態演出よりも優先して実行することでバトル演出が途中で終了することが防止されるが、RUSH演出が終了(全ての残保留の第2特図遊技が終了)するまでc時短遊技状態への移行を保留することで、バトル演出が途中で終了することを防止してもよい。

【1179】

<ステップS4602及びS4603>

RUSH演出開始フラグがオンに設定されている場合(ステップS4601:Yes)、MPU51は、RUSH演出に含まれる前述の一発告知演出(図89参照)を設定する演出表示手段としての処理を実行する(ステップS4602)。そして、MPU51は、RUSH演出開始フラグをオフに設定し(ステップS4603)、当該変動種別(演出パターン)設定処理を終了する。

40

【1180】

<ステップS4604>

RUSH演出開始フラグがオフに設定されている場合(ステップS4601:No)、MPU51は、バトル演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS4604)。バトル演出開始フラグは、特定演出としてのRUSH演出を実行する場合にRUSH演出としてバトル演出を開始させるフラグであり、残保留パターンコマンドを受信した場合に、図86のコマンド判定処理のステップS4527においてオンに設定される。即ち、バトル演出は、a時短遊技状態の移行後に最初に行われる第2特図遊技

50

に対する大当たり抽選の結果が外れである場合に、当該第2特図遊技の終了時に第2特図遊技に対する残保留がある場合に実行される。

【1181】

MPU51は、バトル演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS4604：Yes）、処理をステップS4605に移行する。一方、MPU51は、バトル演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS4604：No）、処理をステップS4611に移行する。

【1182】

<ステップS4605及びS4606>

バトル演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS4604：Yes）、MPU51は、図86のコマンド判定処理のステップS4526でRAM512に記憶される残保留パターンを特定する（ステップS4605）。そして、MPU51は、演出表示処理として、残保留パターンに基づいて、特定演出としてのRUSH演出に含まれる前述のバトル演出（図90及び図91参照）を表示演出として設定する処理を実行し（ステップS4606）、処理をステップS4607に移行する。

【1183】

ここで、本実施形態では、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球のうち、a時短遊技状態での最初の第2入賞口315への遊技球の入球に対して一発告知演出が実行され、a時短遊技状態での2個目以降の第2入賞口315への遊技球の入球に対して残保留パターンが設定される場合にバトル演出が設定される。即ち、a時短遊技状態での最初の第2入賞口315への遊技球の入球に基づく第2特図遊技の終了時に第2特図保留（残保留）がある場合にバトル演出が実行され、当該残保留が複数ある場合には、複数の第2特図保留に基づいて実行される第2特図遊技に対して纏めてバトル演出が設定される。具体的には、当該残保留に対する大当たり抽選の結果が全て外れである残保留パターン1～4（図62（C）参照）である場合には、味方キャラクタが敗北するバトル演出パターンA又はバトル演出パターンB（図90（A）参照）が設定され、当該残保留に対する大当たり抽選の結果の中に小当たりが含まれている残保留パターン5～8（図62（C）参照）である場合には、味方キャラクタが勝利するバトル演出パターンC又はバトル演出パターンD（図90（A）参照）が設定される。そして、当該残保留が複数ある場合に複数の第2特図保留に基づいて実行される第2特図遊技に対して纏めてバトル演出が設定されることで、当該残保留に対して複数回のバトル演出の設定が実行されることが防止される。

【1184】

<ステップS4607及びS4608>

ステップS4607では、MPU51は、バトル演出既設定フラグをオンに設定し、さらに、MPU51は、バトル演出開始フラグをオフに設定し（ステップS4608）、処理をステップS4609に移行する。

【1185】

バトル演出既設定フラグは、a時短遊技状態での最初の第2入賞口315への遊技球の入球に基づく第2特図遊技の終了時の1又は複数（2個～4個）の第2特図保留（残保留）があり、当該残保留に対してバトル演出が設定されていることを示すフラグであり、当該変動種別（演出パターン）設定処理のステップS4611において、バトル演出が設定されているか否かを判断するために参照される。

【1186】

なお、特定演出としてのRUSH演出（一発告知演出及びバトル演出）の実行中は、前述のように、RUSH中であることを示す画像（「大当たりRUSH」の文字画像）、大当たりRUSH回数を示す画像（「RUSH×3」の文字画像）、当該大当たりRUSHでの出玉総数を示す画像（「3000玉」の文字画像）、大当たりRUSHで実行可能な残りの特図遊技回数を示す画像などが表示されるが（図88（D）参照）、これらの画像は、一発告知演出やバトル演出を設定する場合に同時に設定してもよいし、一発告知演出

10

20

30

40

50

やバトル演出の設定時とは異なるタイミングで設定してもよい。

【1187】

<ステップS4609及びS4610>

ステップS4609では、MPU51は、ステップS4606において設定されたバトル演出がバトル演出パターンA又はバトル演出パターンBであるか否かを判断する。即ち、MPU51は、味方キャラクタがバトルで敗北するバトル演出（図90（A）参照）が設定されたか否かを判断する。

【1188】

MPU51は、ステップS4606において設定されたバトル演出がバトル演出パターンA又はバトル演出パターンBである場合（ステップS4609：Yes）、味方キャラクタがバトルで敗北するバトル演出（図90（A）参照）が設定された場合、演出表示処理として、分岐演出（図92参照）を表示演出としてセットする処理を実行し（ステップS4610）、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。

【1189】

ここで、味方キャラクタがバトルで敗北するバトル演出パターンA又はバトル演出パターンB（図90（A）参照）は、当該バトル演出が実行される残保留に対する大当たり抽選の結果が全て外れである場合に設定される。即ち、表示演出としての分岐演出（図92参照）は、バトル演出での味方の敗北によって大当たり連荘高確率状態が終了することが遊技者に明示又は示唆される場合に当該バトル演出の終了後に実行される。そして、前述のように、残保留中に対するバトル演出の実行中は、通常遊技状態又はc時短遊技状態であり、このc時短遊技状態は、大当たり連荘高確率状態に移行する契機を与える時短大当たりの確率が通常遊技状態よりも高いために通常遊技状態よりも遊技価値が高い遊技状態である。そのため、分岐演出（図92参照）では、遊技者に対する遊技価値が異なる2種類の遊技状態のうちのいずれの遊技状態であるか否か、即ち遊技者にとって遊技価値が高いc時短遊技状態であるか否かが明示又は示唆される。このように、遊技者にとって遊技価値が高いc時短遊技状態であるか否かが明示又は示唆される分岐演出が表示演出として実行されることで、バトル演出での味方キャラクタの敗北によって大当たり連荘高確率状態が終了することが遊技者に明示又は示唆されることで遊技に対する遊技者の興味が低下する状況においても、表示演出としての分岐演出によって遊技者に有利な遊技状態であるc時短遊技状態であることが明示又は示唆されることを期待しつつ遊技の進行を楽しむことができるため、遊技に対する興味の低下が防止される。

【1190】

一方、MPU51は、ステップS4606において設定されたバトル演出がバトル演出パターンA又はバトル演出パターンBでない場合（ステップS4609：No）、即ちa時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づく残保留に対する大当たり抽選の結果の中に小当たりが含まれていることに基づいて、味方キャラクタがバトルで勝利するバトル演出パターンC又はバトル演出パターンD（図90（A）参照）が設定されている場合、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。

【1191】

<ステップS4611>

バトル演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS4604：No）、MPU51は、バトル演出既設定フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4611）。即ち、MPU51は、a時短遊技状態での最初の第2入賞口315への遊技球の入球に基づく第2特図遊技の終了時の第2特図保留（残保留）に対してバトル演出が設定されているか否かを判断する。

【1192】

MPU51は、バトル演出既設定フラグがオンに設定されている場合（ステップS4611：Yes）、処理をステップS4612に移行し、バトル演出既設定フラグがオフに設定されている場合（ステップS4611：No）、処理をステップS4617に移行する。

【1193】

<ステップS4612>

バトル演出既設定フラグがオンに設定されている場合（ステップS4611：Yes）、MPU51は、特定演出としてのRUSH演出を終了させるRUSH演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4612）。即ち、MPU51は、バトル演出が実行されている場合に、RUSH演出（バトル演出）を終了させるか否かを判断する。

【1194】

MPU51は、RUSH演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップS4612：Yes）、処理をステップS4613に移行する。一方、MPU51は、RUSH演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップS4612：No）、即ちRUSH演出（バトル演出）を終了させるタイミングでない場合、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。

【1195】

<ステップS4613～S4616>

RUSH演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップS4612：Yes）、MPU51は、バトル演出が設定されていることを示すバトル演出既設定フラグをオフに設定すると共に（ステップS4613）、RUSH演出を終了させるRUSH演出終了フラグをオフに設定し（ステップS4614）、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。

【1196】

さらに、MPU51は、更新処理として、残保留数カウンタをクリアする処理を実行すると共に（ステップS4615）、残保留数カウンタフラグをオフに設定し（ステップS4616）、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。即ち、MPU51は、RUSH演出（バトル演出）を終了する場合に、残保留数の管理（更新）を終了する。つまり、MPU51は、残保留数が0でない場合に表示演出としてのバトル演出を終了する場合（残保留中に大当たり抽選の結果が小当たりであるものが含まれる場合）、残保留数の管理（更新）を終了する。

【1197】

<ステップS4617及びS4618>

バトル演出既設定フラグがオフに設定されている場合（ステップS4611：No）、即ちバトル演出（RUSH演出）の実行中でない場合、MPU51は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4617）。

【1198】

MPU51は、通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS4617：Yes）、表示演出として通常遊技状態演出を設定し（ステップS4618）、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。一方、MPU51は、通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS4617：No）、処理をステップS4619に移行する。

【1199】

そして、小当たり遊技が実行されることなくRUSH演出が終了した場合（バトル演出で味方キャラクタが敗北した場合）、RUSH演出の終了後の通常遊技状態では、第2特図保留数Mに対応する数の対応表示としての第2特図保留画像が表示されず、RUSH演出の終了時点での第1特図保留数Nに対応する数の第1特図保留画像が対応表示として表示される（図88（A）参照）。即ち、RUSH演出が終了した場合、対応表示としての特図保留画像の表示が、第2特図保留画像から第1特図保留画像に切り替えられる。これにより、遊技者に対し、RUSH演出の終了に基づき、右打ちから左打ちに切り替えることが示唆される。

【1200】

<ステップS 4 6 1 9 及び S 4 6 2 0>

通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS 4 6 1 7：No）、MPU 5 1 は、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS 4 6 1 9）。

【1 2 0 1】

MPU 5 1 は、b 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS 4 6 1 9：Yes）、表示演出として b 時短遊技状態演出を設定し（ステップS 4 6 2 0）、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。一方、MPU 5 1 は、b 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS 4 6 1 9：No）、処理をステップS 4 6 2 1 に移行する。

10

【1 2 0 2】

なお、b 時短遊技状態演出では、他の遊技状態とは異なる背景演出（ステージ演出）が表示演出として実行され、この背景演出（ステージ演出）に基づいて、b 時短遊技状態であることが識別可能とされる。また、図 8 8（B）に示すように、b 時短遊技状態演出では、b 時短遊技状態での遊技に関する画像が表示される。図 8 8（B）に示す例では、「大当たりでRUSH確定!!」、「右打ち」、「天井チャンス」の文字画像が b 時短遊技状態での遊技に関する画像に該当する。また、b 時短遊技状態演出の実行中は、b 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数を示す対応表示としての「残り 5 0 回」の文字画像が表示される。

20

【1 2 0 3】

<ステップS 4 6 2 1 及び S 4 6 2 2>

b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS 4 6 1 9：No）、MPU 5 1 は、c 時短遊技状態であることを示す c 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS 4 6 2 1）。

【1 2 0 4】

MPU 5 1 は、c 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS 4 6 2 1：Yes）、表示演出として c 時短遊技状態演出を設定し（ステップS 4 6 2 2）、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。一方、MPU 5 1 は、c 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS 4 6 2 1：No）、当該変動種別（演出パターン）設定処理を終了する。

30

【1 2 0 5】

なお、c 時短遊技状態演出では、前述のように、RUSH演出の実行中を除く c 時短遊技状態において実行されるが、表示演出として他の遊技状態とは異なる背景演出（ステージ演出）が実行され、この背景演出（ステージ演出）に基づいて、特定遊技状態としての c 時短遊技状態であることが識別可能とされる。また、図 8 8（C）に示すように、c 時短遊技状態演出では、c 時短遊技状態での遊技に関する画像が表示される。図 8 8（C）に示す例では、「大当たりでRUSH確定!!」、「左打ち」、「突然チャンス」の文字画像が c 時短遊技状態での遊技に関する画像に該当する。また、c 時短遊技状態演出の実行中は、c 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数を示す特定対応表示としての「残り 1 0 回」（残りの c 時短遊技回数表示）の文字画像が表示される。

40

【1 2 0 6】

以上のように、本発明では、特定演出を実行中の第 2 遊技回動作の実行中において特定条件が成立した場合であっても、特定対応表示が開始されない。また、本発明では、特定演出を実行中の第 2 遊技回動作の実行中において更新条件が成立した場合であっても、更新後の特定対応表示が開始されない。このように、特定演出を実行中の第 2 遊技回動作の実行中において特定条件又は更新条件が成立した場合、特定対応表示が開始されないことで、特定演出を実行中の第 2 遊技回動作の実行中において特定条件又は更新条件が成立した場合であっても、特定対応表示によって特定演出が途中で終了されることが防止されるため、特定演出が途中で終了されることに起因する遊技の興趣の低下が防止される。

【1 2 0 7】

50

一方、本発明では、特定演出の終了に基づいて、特定演出の終了の時点での第2計数手段の第2数値情報に対応した特定対応表示が開始される。このように、特定演出の終了の時点での第2計数手段の第2数値情報に対応した特定対応表示が開始されることで、特定演出を途中で終了させることなく特定対応表示を開始させることができるため、特定対応表示が開始されないことに起因する遊技の興趣の低下が防止される。

【1208】

具体的には、本実施形態では、時短大当たり遊技の終了後に移行するa時短遊技状態において、第2入球手段としての第2入賞口315への遊技球に基づいて実行される第2遊技回動作としての第2特図遊技を実行する権利に対する第2保留の数に対応する第1数値情報としての第2特図保留数Mが、数値記憶処理としての始動入賞処理でのステップS1108（図63参照）において、第1計数手段としての第2特図保留数記憶エリアNABに設定され、減算条件としての当該第2特図保留に対する第2特図遊技の開始に基づき、減算処理としての特図データ設定処理でのステップS3806（図72参照）において、第2特図保留数記憶エリアNABに設定された第2特図保留数Mが減算される。また、本実施形態では、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球に基づいて実行される第2特図遊技に対して、表示演出としてのRUSH演出が、演出表示処理としての変動種別（演出パターン）設定処理において設定される。

【1209】

さらに、本実施形態では、特定条件としての大当たり抽選の結果が時短図柄停止外れであることを報知する特図遊技の終了に基づき、遊技状態としてのc時短遊技状態に移行され、c時短遊技状態において実行可能な最大の特図遊技回数に対応する第2数値情報が、数値記憶処理としての遊技状態の移行処理でのステップS4211（図80参照）において、第2計数手段としてのc時短回数カウンタに設定される。また、本実施形態では、c時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技の回数が、更新条件としての特図遊技の開始に基づき、特図遊技制御処理でのステップS3724（図71参照）において更新され、更新後のc時短回数カウンタの値に基づいて、対応表示としての残りのc時短遊技回数表示（演出）を実行可能である。

【1210】

そして、本実施形態では、大当たり遊技の終了後に移行するa時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球に基づいて実行される第2特図遊技に対して、演出表示処理としての変動種別（演出パターン）設定処理において表示演出としてのRUSH演出の実行中に、大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであることに基づいて、遊技状態としてのc時短遊技状態に移行される場合、RUSH演出の実行中はc時短遊技状態での対応表示としての残りのc時短遊技回数表示（演出）が実行されない。このように、RUSH演出中にc時短遊技状態に移行される場合、RUSH演出の実行中はc時短遊技状態での残りのc時短遊技回数表示（演出）が実行されないことで、RUSH演出中に大当たり抽選結果が時短図柄停止外れであることに基づいてc時短遊技状態に移行される場合であっても、残りのc時短遊技回数表示（演出）によってRUSH演出が途中で終了されることが防止されるため、RUSH演出が途中で終了されることが起因する遊技の興趣の低下が防止される。

【1211】

また、本実施形態では、表示演出としてのRUSH演出の実行中に遊技状態としてのc時短遊技状態に移行した場合、RUSH演出の終了後に残りのc時短遊技回数表示（演出）が実行される。そのため、本実施形態では、RUSH演出の終了に基づいて、RUSH演出の終了の時点でのc時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数の表示が開始される。このように、RUSH演出の終了に基づいて、RUSH演出の終了の時点でのc時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数の表示が開始されることで、RUSH演出を途中で終了させることなく、c時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数の表示が開始させることができるため、c時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数の表示が開始されないことに起因する遊技の興趣の低下が防止される。

【1212】

なお、本実施形態では、RUSH演出として一発告知演出及びバトル演出が実行されるが、一発告知演出及びバトル演出の一方の演出を省略してもよく、一発告知演出及びバトル演出の一方又は双方の演出に代えて、ミッション演出などの他の演出を実行してもよい。

【1213】

また、本実施形態では、a時短遊技状態における第2入賞口315への遊技球の入球に対して実行される第2特図遊技の残保留に対して、纏めてバトル演出が設定されるが、当該残保留が複数ある場合に、各残保留に対して個別に演出を設定してもよい。

【1214】

また、本実施形態では、適用可能な範囲において、前述の第1の実施形態における設計変更事項と同様な設計変更が可能である。

【1215】

また、各実施形態において、適用可能な範囲において、他の実施形態に記載の事項を適用することも可能である。

【1216】

〔第3の実施形態〕

本遊技機は、本発明の具体的な構成として、始動入球手段としての「始動入球部」を備え、また当否抽選手段としての「抽選処理」を備え、また特定演出としての「表示演出」を備え、また表示制御手段としての「表示制御処理」を備え、また可動手段としての「可動体」を備え、また可動制御手段としての「可動体制御処理」を備え、また特定情報としての「情報」を備え、また一連の特定動作としての「連続的動作」を備え、また第1位置としての「戻り側位置」を備え、また第2位置としての「駆動側位置」を備え、また終了条件としての「終了判定条件」を備え、また判定手段としての「終了判定」を備える。

【1217】

始動入球手段は、遊技領域に設けられ、遊技球が入球可能なものであればよい。始動入球手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技球の入球を契機として特図遊技を発生させる入球口、遊技球の入球を契機として第1特図遊技を発生させる入球口（第1入賞口）、遊技球の入球を契機として第2特図遊技を発生させる入球口（第2入賞口）、遊技球の入球を契機として普図遊技を発生させる入球口（スルーゲート）、遊技球の入球を契機として可動体（電動役物、羽根物）を作動させる入球口、小当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球を契機として大当たり遊技を発生させる入球口、小当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球を契機として時短遊技状態を発生させる入球口、大当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球を契機として確変遊技状態を発生させる入球口、大当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球を契機として時短遊技状態を発生させる入球口、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【1218】

当否抽選手段は、各種抽選を実行する処理であればよい。当否抽選手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば大当たり遊技を発生させるか否かの抽選を実行する処理、小当たり遊技を発生させるか否かの抽選を実行する処理、普図当たり遊技を発生させるか否かの抽選を実行する処理、可動体（電動役物、羽根物など）を高頻度又は高確率で作動させる遊技状態から可動体を低頻度又は低確率で作動させる遊技状態に転落させるか否かの抽選を実行する処理、確変遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選を実行する処理、時短遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選を実行する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【1219】

特定演出は、各種抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出であればよい。特定演出としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば液晶ディスプレイを備える表示手段で実行される表示演出、ドットマトリクスディスプレイを備える表示手段で実行される表示演出、プラズマディスプレイを備える表示手段で実行される表示演出、有機ELディスプレイを備える表示手段で実行される表示演出、大当たり遊技を発生させるか否かの

10

20

30

40

50

当たり抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出、小当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出、普図当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出、可動体（電動役物、羽根物など）を高頻度又は高確率で作動させる遊技状態から可動体を低頻度又は低確率で作動させる遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて実行される演出、確変遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて実行される演出、時短遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて実行される演出、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて第1特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて第2特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて大当たり遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に第1特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に第2特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が小当たりを発生させるものである場合に特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が小当たりを発生させるものである場合に第1特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が小当たりを発生させるものである場合に第2特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が時短遊技状態を発生させるものである場合に特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が時短遊技状態を発生させるものである場合に第1特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が時短遊技状態を発生させるものである場合に第2特図遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技において表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が確変大当たり遊技状態（当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態に移行）を発生させるものである場合に表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が時短大当たり遊技状態（当該大当たり遊技の終了後に時短遊技状態に移行）を発生させるものである場合に表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が通常大当たり遊技状態（当該大当たり遊技の終了後に通常遊技状態に移行）を発生させるものである場合に表示手段で実行される演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技のオープニングにおいて表示手段で実行されるオープニング演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技の開閉実行モードにおいて表示手段で実行される開閉実行モード演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技のラウンド遊技において表示手段で実行されるラウンド遊技演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技のインターバルにおいて表示手段で実行されるインターバル演出、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技のエンディングにおいて表示手段で実行されるエンディング演出、普図当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて普図遊技において表示手段で実行される演出、普図当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果が普図当たりである場合に普図当たり遊技において表示手段で実行される演出、普図当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果が外れである場合に普図当たり遊技において表示手段で実行される演出、可動体を高頻度又は高確率で作動させる遊技状態から可動体を低頻度又は低確率で作動させる遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出、確変遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出、時短遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【1220】

表示制御手段は、複数の演出表示態様の中から演出を決定して実行する処理であればよい。表示制御手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば液晶ディスプレイ

10

20

30

40

50

を備える表示手段で実行される表示演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、ドットマトリクスディスプレイを備える表示手段で実行される表示演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、プラズマディスプレイを備える表示手段で実行される表示演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、有機ELディスプレイを備える表示手段で実行される表示演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、小当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、普図当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、可動体（電動役物、羽根物など）を高頻度又は高確率で作動させる遊技状態から可動体を低頻度又は低確率で作動させる遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、確変遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、時短遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて第1特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて第2特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて大当たり遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に第1特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に第2特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が小当たりを発生させるものである場合に特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が小当たりを発生させるものである場合に第1特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が小当たりを発生させるものである場合に第2特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が時短遊技状態を発生させるものである場合に特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が時短遊技状態を発生させるものである場合に第1特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が時短遊技状態を発生させるものである場合に第2特図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が確変大当たり遊技状態（当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態に移行）を発生させるものである場合に表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が時短大当たり遊技状態（当該大当たり遊技の終了後に時短遊技状態に移行）を発生させるものである場合に表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が通常大当たり遊技状態（当該大当たり遊技の終了後に通常遊技状態に移行）を発生させるものである場合に表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技のオープニングにお

10

20

30

40

50

いて表示手段で実行されるオープニング演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技の開閉実行モードにおいて表示手段で実行される開閉実行モード演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技のラウンド遊技において表示手段で実行されるラウンド遊技演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技のインターバルにおいて表示手段で実行されるインターバル演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、大当たり抽選の結果が大当たりを発生させるものである場合に大当たり遊技のエンディングにおいて表示手段で実行されるエンディング演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、普
10
図当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果に応じて普図遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、普図当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果が普図当たりである場合に普図当たり遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、普図当たり遊技を発生させるか否かの抽選の結果が外れである場合に普図当たり遊技において表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、可動体を高頻度又は高確率で作動させる遊技状態から可動体を低頻度又は低確率で作動させる遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中
20
から決定して実行する処理、確変遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、時短遊技状態から通常遊技状態に転落させるか否かの抽選の結果に応じて表示手段で実行される演出を複数の演出表示態様の中から決定して実行する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【1 2 2 1】

可動手段は、遊技領域に設けられ、演出の表示中に動作可能なものであればよい。可動手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）における演出の表示中に動作されるもの、大当たり遊技における演出の表示中に動作されるもの、小当たり遊技における演出の表示中に動作されるもの、普図当たり遊技における演出の表示中に動作されるもの、直線的経路を移動可能なもの、非直線的経路を移動可能なもの、曲線的経路を移動可能なもの、2つの位置の間を往復移動可能なもの、回転可能なもの、支点を中心として可動手段の先端部が円弧状経路に沿って移動すること
30
で回転可能なもの、形態変化が可能なもの、複数の可動部材が結合又は分離するもの、少なくとも一部が拡大可能又は縮小可能なもの、液晶ディスプレイなどの表示部を備えるもの、発光可能な発光部を備えるもの、演出として動作されるもの、特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）での演出として動作されるもの、特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）での所定演出の実行の有無を遊技者に告知するために動作されるもの、スーパーリーチの実行の有無を遊技者に告知するために動作されるもの、スペシャルリーチの実行の有無を遊技者に告知するために動作されるもの、先に示唆した状態よりも有利な状態であるか否かを告知するために動作されるもの、大当たり期待度が高いことを明示又は示唆するために動作されるもの、確変大当たりであることを告知するために動作される
40
もの、確変大当たりであることを示唆した後により出玉期待値の高い確変大当たりであることを告知するために動作されるもの、通常大当たりであることを示唆した後に確変大当たりであることを告知するために動作されるもの、通常大当たりであることを示唆した後に時短大当たりであることを告知するために動作されるもの、通常大当たりであることを示唆した後に時短大当たりであることを告知するために動作されるもの、入球口への遊技球の入球を許容又は制限（入球口を開放又は閉鎖）するために動作されるもの、遊技球の入球により特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）を実行する契機を付与する入球口への遊技球の入球を許容又は制限（入球口を開放又は閉鎖）するために動作されるもの、特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）において動作されるもの、大当たり遊技において動作されるもの、大当たり遊技のオープニングにおいて動作されるもの、大当たり遊
50

技の開閉実行モードにおいて動作されるもの、大当たり遊技における開閉実行モードのラウンド遊技において動作されるもの、大当たり遊技における開閉実行モードのインターバルにおいて動作されるもの、大当たり遊技のエンディングにおいて動作されるもの、ラウンド遊技において開閉される入球口（可変入賞口）を開放又は閉鎖するために動作されるもの、ラウンド遊技において開閉され、遊技球の入球により大当たり遊技の終了後に高頻度サポートモード（確変遊技状態又は時短遊技状態）に移行させる契機を付与する入球口（V入賞口）を開放又は閉鎖するために動作されるもの、小当たり遊技において開閉され、遊技球の入球により賞球を付与する入球口を開放又は閉鎖するために動作されるもの、小当たり遊技において開閉され、遊技球の入球により小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を発生させる契機を付与する入球口（V入賞口）を開放又は閉鎖するために動作されるもの、遊技球の流路を切り替えるために動作されるもの、遊技球を発射させるために可動される発射槌、遊技球を発射槌によって発射可能な位置に移動させる球送り装置、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【1 2 2 2】

可動制御手段は、可動手段の可動態様を決定して実行する処理であればよい。可動制御手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）における演出の表示中での可動手段の可動態様を決定して実行する処理、大当たり遊技における演出の表示中での可動手段の可動態様を決定して実行する処理、小当たり遊技における演出の表示中での可動手段の可動態様を決定して実行する処理、普図当たり遊技における演出の表示中での可動手段の可動態様を決定して実行する処理、可動手段が直線的経路を移動する可動態様を決定して可動手段を直線的経路に沿って移動させる処理、可動手段が非曲線的経路を移動する可動態様を決定して可動手段を非曲線的経路に沿って移動させる処理、可動手段が曲線的経路を移動する可動態様を決定して可動手段を曲線的経路に沿って移動させる処理、可動手段が2つの位置の間を往復移動する経路を決定して可動手段を2つの位置の間を往復移動させる処理、可動手段が回転する可動態様を決定して可動手段を回転させる処理、支点を中心として可動手段の先端部が円弧状経路に沿って移動する可動態様を決定して可動手段を回動させる処理、可動手段の形態を変化させる可動態様を決定して可動手段の形態を変化させる処理、複数の可動部材を結合又は分離させる可動態様を決定して複数の可動部材を結合又は分離させる処理、可動手段の少なくとも一部を拡大又は縮小させる可動態様を決定して可動手段の少なくとも一部を拡大又は縮小させる処理、液晶ディスプレイなどの表示部を備える可動手段の可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、発光可能な発光部を備える可動手段の可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、可動手段の演出としての可動態様を決定して演出としての可動手段を可動させる処理、可動手段を特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）での演出としての可動態様を決定して可動手段を特図遊技で可動させる処理、可動手段を特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）での所定演出の実行の有無を遊技者に告知するための可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、可動手段をスーパーリーチの実行の有無を遊技者に告知する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、可動手段をスペシャルリーチの実行の有無を遊技者に告知する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、可動手段を先に示唆した状態よりも有利な状態であるか否かを告知する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、大当たり期待度が高いことを明示又は示唆する可動態様で可動手段を可動させる可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、確変大当たりであることを告知する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、確変大当たりであることを示唆した後により出玉期待値の高い確変大当たりであることを告知する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、通常大当たりであることを示唆した後に確変大当たりであることを告知する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、通常大当たりであることを示唆した後に時短大当たりであることを告知する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、入球口への遊技球の入球を許容又は制限（入球口を開放又は閉鎖）する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、遊技球の入球により特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）を実行する契機を付与する入球口への遊技球の入球を許容又は制限

20

30

40

50

(入球口を開放又は閉鎖)する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、特図遊技(第1特図遊技又は第2特図遊技)での可動手段の可動態様を決定して特図遊技(第1特図遊技又は第2特図遊技)において可動手段を可動させる処理、大当たり遊技での可動手段の可動態様を決定して大当たり遊技において可動手段を可動させる処理、大当たり遊技のオープニングでの可動手段の可動態様を決定してオープニングにおいて可動手段を可動させる処理、大当たり遊技の開閉実行モードでの可動手段の可動態様を決定して開閉実行モードにおいて可動手段を可動させる処理、大当たり遊技における開閉実行モードのラウンド遊技での可動手段の可動態様を決定してラウンド遊技において可動手段を可動させる処理、大当たり遊技における開閉実行モードのインターバルでの可動手段の可動態様を決定してインターバルにおいて可動手段を可動させる処理、大当たり遊技のエンディングでの可動手段の可動態様を決定してエンディングにおいて可動手段を可動させる処理、ラウンド遊技において開閉される入球口(可変入賞口)を開放又は閉鎖する可動手段の可動態様を決定してラウンド遊技において可動手段を可動させる処理、可動手段による入球口への遊技球の入球を許容又は制限(入球口を開放又は閉鎖)する可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、遊技球の入球により特図遊技(第1特図遊技又は第2特図遊技)を実行する契機を付与する入球口への遊技球の入球を許容又は制限(入球口を開放又は閉鎖)する可動手段の可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、ラウンド遊技において開閉され、遊技球の入球により大当たり遊技の終了後に高頻度サポートモードに移行させる契機を付与する入球口(V入賞口)を開放又は閉鎖する可動手段の可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、ラウンド遊技において開閉され、遊技球の入球により大当たり遊技の終了後に時短遊技状態に移行させる契機を付与する入球口(V入賞口)を開放又は閉鎖する可動手段の可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、ラウンド遊技において開閉され、遊技球の入球により大当たり遊技の終了後に時短遊技状態に移行させる契機を付与する入球口(V入賞口)を開放又は閉鎖する可動手段の可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、遊技球の流路を切り替える可動手段の可動態様を決定して可動手段を可動させる処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【1223】

特定情報は、可動手段の各種可動態様に対応して1回の設定処理で設定され、1回の設定処理で設定された情報によって可動手段が一連の動作を実行可能なデータ群であればよい。特定情報としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば複数の処理によって可動手段に一連の動作を実行させるタスクテーブル(駆動データ1)、複数の処理によって可動手段に一連の動作を実行させるために可動手段の駆動源(例えばモーター)を制御するタスクテーブル(駆動データ1)、特図遊技(第1特図遊技又は第2特図遊技)において各種可動態様で可動手段を動作させる情報、大当たり遊技において各種可動態様で可動手段を動作させる情報、小当たり遊技において各種可動態様で可動手段を動作させる情報、普図当たり遊技において各種可動態様で可動手段を動作させる情報、直線的経路に沿った各種可動態様で可動手段を動作させる情報、非線形的経路に沿った各種可動態様で可動手段を動作させる情報、曲線的経路に沿った可動態様で可動手段を動作させる情報、2つの位置の間で可動手段を少なくとも1回往復させる可動態様で可動手段を動作させる情報、可動手段を各種可動態様で回転させる情報、支点を中心として可動手段の先端部を円弧状経路に沿った可動態様で動作させることで可動手段を回動させる情報、可動手段を形態変化させる各種可動態様に対応する情報、複数の可動部材を結合又は分離させる各種可動態様に対応する情報、可動手段の少なくとも一部を拡大又は縮小させる各種可動態様に対応する情報、遊技球が入球可能な入球口を可動手段の動作によって各種可動態様で開閉させる情報、遊技球の入球により特図遊技を実行する契機を付与する入賞口を可動手段の動作によって各種可動態様で開閉させる情報、遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって各種可動態様で開閉させる情報、特図遊技(第1特図遊技又は第2特図遊技)において遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって各種可動態様で開閉させる情報、大当たり遊技において遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって各種可動態様で開閉させる情報、大当たり遊技の開閉

実行モードにおいて遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって各種可動態様で複数回繰り返し開閉させる情報、大当たり遊技のラウンド遊技において遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって各種可動態様で開閉させる情報、可動手段の1の可動態様の全体又は一部の動作に対応して設定される情報、複数の可動態様に共通する可動手段の動作に対応する情報、可動手段の1の可動態様の全体又は一部の時系列動作を示す情報（シナリオデータ、駆動データ）、複数の可動態様に共通する可動手段の時系列動作を示す情報（シナリオデータ、駆動データ）に対応する情報、可動手段の1の可動態様における全体又は一部の可動時間に対応して設定される数値情報、可動手段の1の可動態様における全体又は一部の可動回数に対応して設定される数値情報、可動手段の1の可動態様に含まれる繰り返し動作の回数の全体又は一部に対応して設定される数値情報、可動手段の1の可動態様のうちの次の動作が開始されるまでの待機期間の全部又は一部に対応して設定される数値情報、可動手段の動作が開始されるまでの待機期間の全部又は一部に対応して設定される数値情報、遊技球が入球可能な入球口を可動手段の動作によって開閉させる回数の全部又は一部に対応して設定される数値情報、遊技球が入球可能な入球口を可動手段の動作によって開閉させる最大回数の全部又は一部に対応して設定される数値情報、遊技球が入球可能な入球口を可動手段の動作によって開閉させる残り回数の全部又は一部に対応して設定される数値情報、大当たり遊技において遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって開閉させる回数の全部又は一部に対応して設定される数値情報、大当たり遊技の開閉実行モードにおいて遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって繰り返し開閉させる回数の全部又は一部に対応して設定される数値情報、大当たり遊技のラウンド遊技において遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって開閉させる回数の全部又は一部に対応して設定される数値情報、大当たり遊技のラウンド遊技において遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって開閉させる最大回数の全部又は一部に対応して設定される数値情報、大当たり遊技のラウンド遊技において遊技球の入球により賞球を付与する入球口を可動手段の動作によって開閉させる残り回数の全部又は一部に対応して設定される数値情報、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【1 2 2 4】

一連の特定動作は、可動手段の可動範囲において実行される動作であればよい。一連の特定動作としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば可動手段の可動範囲において実行される連続的動作、起点（戻り側位置）と折り返し位置（駆動側位置）との間で可動手段が少なくとも1回往復される動作、可動手段が非駆動状態である場合の待機位置（戻り側位置）と可動手段が駆動状態である場合の最大可動位置（待機位置から最も離れた位置（駆動側位置））との間で可動手段が少なくとも1回往復される動作、待機位置と最大可動位置との間の中間位置を起点（戻り側位置）又は折り返し位置（駆動側位置）として可動手段が少なくとも1回往復される動作、待機位置を起点（戻り側位置）とし中間位置を折り返し位置（駆動側位置）として可動手段が少なくとも1回往復される動作、中間位置を起点（戻り側位置）とし最大可動位置を折り返し位置（駆動側位置）として可動手段が少なくとも1回往復される動作、互いに異なる中間位置のうちの一方の中間位置を起点（戻り側位置）とし他方の中間位置を折り返し位置（駆動側位置）として可動手段が少なくとも1回往復される動作、待機位置側に向けた方向への可動手段の移動を少なくとも1回含む動作、最大可動位置側に向けた方向への可動手段の移動を少なくとも1回含む動作、待機位置側に向けた方向に可動手段を移動させて待機位置（戻り側位置）又はその近傍に少なくとも1回可動手段を位置させる動作、最大可動位置側に向けた方向に可動手段を移動させて最大可動位置（駆動側位置）又はその近傍に少なくとも1回可動手段を位置させる動作、待機位置側（戻り側位置）に向けた方向に可動手段を移動させて中間位置に少なくとも1回可動手段を位置させる動作、最大可動位置側（駆動側位置）に向けた方向に可動手段を移動させて中間位置に少なくとも1回可動手段を位置させる動作、所定位置での可動手段の回転動作、待機位置（戻り側位置）での可動手段の回転動作、最大可動位置（駆動側位置）での可動手段の回転動作、中間位置での可動手段の回転動作、可動手段

を作動させることによって入賞口を少なくとも1回開閉する動作、特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）において可動手段を作動させることによって入球口を少なくとも1回開閉する動作、大当たり遊技において可動手段を作動させることによって入賞口を少なくとも1回開閉する動作、大当たり遊技の開閉実行モードにおいて可動手段を作動させることによって入賞口を少なくとも1回開閉する動作、大当たり遊技のラウンド遊技において可動手段を作動させることによって入賞口を少なくとも1回開閉する動作、小当たり遊技において可動手段を作動させることによって入球口を少なくとも1回開閉する動作、普図当たり遊技において可動手段を作動させることによって入球口を少なくとも1回開閉する動作、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【1225】

第1位置及び第2位置は、可動手段の可動範囲内に設定される互いに異なる位置であればよい。第1位置及び第2位置としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば可動手段が非駆動状態である場合の待機位置（戻り側位置）、可動手段が駆動状態である場合の最大可動位置（待機位置から最も離れた位置（駆動側位置））、待機位置と最大可動位置（待機位置から最も離れた位置）との間に設定される中間位置、当該中間位置のうちの最大可動位置よりも待機位置に近い位置、当該中間位置のうちの待機位置の近傍位置、当該中間位置のうちの待機位置よりも最大可動位置に近い位置、当該中間位置のうちの最大可動位置の近傍位置、可動手段が往復動作を行う場合の起点（戻り側位置）、可動手段が往復動作を行う場合の折り返し位置（駆動側位置）、可動手段が回転動作を行う場合の回転位置、可動手段が拡大動作又は縮小動作を行う位置、複数の可動部材の結合動作又は分離動作を行う位置、遊技球の入球が可能な入球口を閉鎖する位置（戻り側位置）又は開放する位置（駆動側位置）、遊技球の入球を契機として特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）を発生させる入球口を閉鎖する位置（戻り側位置）又は開放する位置（駆動側位置）、大当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球により賞球を付与する入球口を閉鎖する位置（戻り側位置）又は開放する位置（駆動側位置）、大当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球を契機として確変遊技状態を発生させる入球口を閉鎖する位置（戻り側位置）又は開放する位置（駆動側位置）、大当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球を契機として時短遊技状態を発生させる入球口を閉鎖する位置（戻り側位置）又は開放する位置（駆動側位置）、小当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球を契機として大当たり遊技を発生させる入球口を閉鎖する位置（戻り側位置）又は開放する位置（駆動側位置）、小当たり遊技において入球可能とされ、遊技球の入球を契機として時短遊技状態を発生させる入球口を閉鎖する位置（戻り側位置）又は開放する位置（駆動側位置）、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【1226】

終了条件は、可動手段の一連の特定動作を終了させる条件であればよい。終了条件としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば可動手段の最大可動時間が経過すること、可動手段の最大可動時間に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、可動手段の最大可動回数が経過すること、可動手段の最大可動回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、可動手段の動作に対して設定された動作データで規定される全ての処理が終了すること、可動手段の所定位置への復帰回数が規定回数であること、可動手段の所定位置への復帰回数を規定する減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、可動手段の規定回数の往復動作が終了すること、可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、特図遊技での可動手段の規定回数の往復動作が終了すること、特図遊技での可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、遊技者によって操作可能な操作手段が遊技者によって操作されること、予め設定される所定期間内に遊技者によって操作手段が操作されること、予め設

10

20

30

40

50

定される所定期間が遊技者によって操作手段が操作されずに経過すること、可動手段の最大可動時間に設定される所定期間内に遊技者によって操作手段が操作されること、可動手段の最大可動時間に設定される所定期間内が遊技者によって操作手段が操作されずに経過すること、大当たり遊技での可動手段の規定回数の往復動作が終了すること、大当たり遊技での可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、小当たり遊技での可動手段の規定回数の往復動作が終了すること、小当たり遊技での可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、普図当たり遊技での可動手段の規定回数の往復動作が終了すること、普図当たり遊技での可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了すること、可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）において可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了すること、特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）において可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、大当たり遊技において可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了すること、大当たり遊技において可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉（大当たり種別に対応した所定回数のラウンド遊技）に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、小当たり遊技において可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了すること、小当たり遊技において可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、普図当たり遊技において可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了すること、普図当たり遊技において可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であること、可動手段の動作にエラーが発生していること、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

【1227】

判定手段は、終了条件が成立しているか否かの判定であればよい。判定手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば可動手段の最大可動時間が経過しているか否かの判定、可動手段の最大可動時間に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、可動手段の最大可動回数が経過しているか否かの判定、可動手段の最大可動回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、可動手段の動作に対して設定された動作データで規定される全ての処理が終了しているか否かの判定、可動手段の所定位置への復帰回数が規定回数であるか否かの判定、可動手段の所定位置への復帰回数を規定する減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、可動手段の規定回数の往復動作が終了しているか否かの判定、可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、特図遊技での可動手段の規定回数の往復動作が終了しているか否かの判定、特図遊技での可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、遊技者によって操作可能な操作手段が遊技者によって操作された否かの判定、予め設定される所定期間内に遊技者によって操作手段が操作された否かの判定、予め設定される所定期間が遊技者によって操作手段が操作

40

50

されずに経過したか否かの判定、可動手段の最大可動時間に設定される所定期間内に遊技者によって操作手段が操作された否かの判定、可動手段の最大可動時間に設定される所定期間内が遊技者によって操作手段が操作されずに経過したか否かの判定、大当たり遊技での可動手段の規定回数の往復動作が終了しているか否かの判定、大当たり遊技での可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、小当たり遊技での可動手段の規定回数の往復動作が終了しているか否かの判定、小当たり遊技での可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、普図当たり遊技での可動手段の規定回数の往復動作が終了しているか否かの判定、普図当たり遊技での可動手段の往復動作の規定回数に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了しているか否かの判定、可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）において可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了しているか否かの判定、特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）において可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、大当たり遊技において可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了しているか否かの判定、大当たり遊技において可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉（大当たり種別に対応した所定回数のラウンド遊技）に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、小当たり遊技において可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了しているか否かの判定、小当たり遊技において可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、普図当たり遊技において可動手段の動作によって開閉される入賞口に対する規定回数の開閉が終了しているか否かの判定、普図当たり遊技において可動手段の動作による規定回数の入賞口の開閉に対応して設定される減算式数値情報（減算式カウンタ等）が0又は加算式数値情報（加算式カウンタ等）が最大値であるか否かの判定、可動手段の動作にエラーが発生しているか否かの判定、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【1228】

ところで、遊技機においては、各種遊技において駆動される可動体が設けられている。可動体は、例えば入賞口への遊技球の入球を契機して実行される大当たり抽選の結果を報知する特図遊技や、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大当たり遊技において、往復動作などの連続的動作を含む可動形態で可動される。そして、可動体の制御においては、より効率の良い制御で可動体の動作制御、終了制御を実行することが望まれる。

【1229】

遊技機では、表示手段での表示演出の実行中に可動体を可動させている。可動体の可動態様としては、興趣向上のために複数の可動形態が設けられている。ここで言う可動形態には、可動体の動作軌跡、動作回数、動作量などが含まれ、また、その組み合わせも当然に含まれる。そして、可動体は、所定の初期位置から可動限界位置の間で各種動作を行う。このとき、可動体を制御する制御部では、制御の簡略化やデータ量の削減のため共通する可動態様に対する制御やデータを共用することで、より好適に可動体を制御することが求められている。これにより、1の可動態様に対して使用される駆動データ量を少なくできるためにメモリ負担を軽減できるだけでなく、可動体を動作させる際の駆動データの読み出しや一時記憶（設定）などの回数（制御負担）が軽減される。そして、可動体が共通

の駆動データに基づいて動作される場合、共通の駆動データに基づく全ての制御処理が終了してから、その後の可動体の動作に対して各可動態様に依りて個別に設定される駆動データに基づいて可動体の次の動作が実行される。

【1230】

しかしながら、共通する可動態様を実行する場合であっても、実行する可動態様によって共通する可動態様を終了して次動作に移行する終了条件や終了タイミングが異なる場合がある。このため、従来の可動体制御においては、所定の可動態様の終了制御及び次動作への移行制御が効率良く行えていなかった。

【1231】

これに対し、本発明は、所定の可動態様の終了制御及び次動作への移行制御が効率良く行うことを目的としている。

【1232】

具体的には、遊技機では、例えば各種遊技における表示手段での表示演出の実行中に、可動体の1種である演出用役物を可動させることによって演出性を高め、遊技の興趣の向上が図られている。例えば、可動体は、表示手段での表示演出の実行中に、特図遊技においてスーパーリーチ（SPリーチ）やスペシャルリーチ（SPSPリーチ）に発展することを示唆するために駆動され、また特図遊技において通常大当たりであることを告知した後に、当該特図遊技や当該特図遊技の終了後に実行される大当たり遊技において、確変大当たりであることを示唆するために駆動される。この場合、可動体は、往復動作等の連続的動作の後に、その後の告知内容に従って、遊技者に有利な告知を行う動作が実行され、又は遊技者に不利な告知を行う動作が実行される（あるいは可動体が動作されない）。

【1233】

また、可動体の1種である演出用役物の制御において、複数の可動態様から決定される1の可動態様で可動体が可動される場合、それらの可動態様における共通の動作（例えば前述の往復動作のような連続的動作）に対して共通の1つの駆動データ（図132参照）が利用される。この駆動データは、ROMに記憶され、各種可動態様の可動体の共通の動作に対応してROMから読み出されてRAMに1回の設定処理で設定（一時記憶）され、1回の設定処理で設定された情報によって可動体の共通の連続的動作を複数の処理によって実行させるデータ群である。具体的には、本実施形態における当該駆動データは、複数の可動態様に共通の連続的動作として可動体の動作量や動作軌跡の異なる3種類の往復動作を実行させるためにステッピングモーターを制御するタスクテーブルとして設定されており、このタスクテーブルによって規定される処理を順次実行することで、表示手段の上部から中央部に向けて可動体が往復動作を行いつつ徐々に進出した後に初期位置に復帰する連続的動作が実行される。このように、複数の可動態様における共通の連続的動作に対して共通の1つの駆動データが設定されることで、1の可動態様に対して使用される駆動データ量を少なくできるためにROMのメモリ負担を軽減できるだけでなく、可動体を動作させる際のROMからの駆動データの読み出しやRAMへの設定（一時記憶）などの制御負担が軽減される。そして、可動体が共通の駆動データに基づいて動作される場合、共通の駆動データに基づく全ての制御処理が終了してから、その後の可動体の動作に対して各可動態様に依りて個別に設定される駆動データに基づいて可動体の次の動作が実行される。

【1234】

一方、可動体の連続的動作の実行期間中に設定される所定期間において遊技者による操作ボタン20に対する操作が有効とされることがある。この場合においても、操作ボタン20に対する操作が実行されたタイミングではなく、共通の駆動パターンデータに基づく全ての制御処理が終了してから、その後の可動体の動作に対して個別に設定される駆動パターンデータに基づいて可動体の次の動作が実行される。

【1235】

しかしながら、操作ボタン20に対する操作が有効とされる所定期間において操作ボタン20が操作されるタイミングは画一的ではなく不定である。そのため、操作ボタン20

10

20

30

40

50

が操作されてから、共通の駆動データに基づく可動体の制御処理が終了するまでの時間が画一的ではなく不定となる。即ち、操作ボタン20が操作によって複数の可動態様における共通の連続的動作に対する終了判定条件が成立してから、当該共通の連続的動作に対する可動体の終了制御を即座に実行でいないことがある。そのため、可動体の共通の動作後に実行される次の動作が開始されるまでの時間が不均一となることで、当該共通の連続的動作から次動作への可動体の動作移行が円滑に行えないことがある。その結果、可動体の動作移行が円滑に行えないことに、遊技者が違和感を覚えることがある。特に、例えば操作ボタン20に対する操作が有効とされる所定期間の開始直後に操作ボタン20が操作された場合には、当該所定期間の終了直前に操作ボタン20が操作される場合に比べて、可動体による次の動作が実行されるまでの時間が長く、操作ボタン20が操作されてから即座に次の動作に移行することができないことから、遊技者は、操作ボタン20が操作されてから即座に次の動作に移行されないことに違和感を覚えやすい。そして、可動体は、前述のように特図遊技や大当たり遊技での表示演出の実行中に、各種告知を行うか否かの演出のために動作されることがあることから、この場合には、可動体の動作に対して遊技者が覚える違和感が、可動体による演出効果を低下させる原因となる。

10

【1236】

これに対して、本発明では、始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選手段での抽選結果に応じて、表示手段での1の特定演出の表示中に可動制御手段によって可動手段に対する1の可動態様が決定される。また、本発明では、表示制御手段による1の特定演出の表示中に、可動制御手段によって、1の可動態様に対応して設定した特定情報に基づいて可動手段に対する一連の特定動作が実行される。

20

【1237】

さらに、本発明では、表示制御手段による1の特定演出の表示中に、可動制御手段によって、1の可動態様に対応して設定した特定情報に基づいて可動手段に対する一連の特定動作が実行される場合、初期位置側である第1位置又はその近傍に可動手段が位置される場合に判定手段によって一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かが判定される。このように、表示制御手段による1の特定演出の表示中に、可動制御手段によって、1の可動態様に対応して設定した特定情報に基づいて可動手段に対する一連の特定動作が実行される場合、初期位置側である第1位置又はその近傍に可動手段が位置される場合に判定手段によって一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かが判定されることで、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において、可動制御手段によって可動手段が初期位置側である第1位置又はその近傍に位置される毎に、判定手段によって終了条件が成立しているか否かが判定される。また、本発明では、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において判定手段によって終了条件が成立していると判定される場合、終了手段によって、第1位置又はその近傍に位置する可動手段の可動が停止されて一連の特定動作が終了される。即ち、本発明では、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において、特定情報に基づく可動手段に対する全ての可動制御を終了する前であっても、第1位置又はその近傍に可動手段が位置される毎に、終了条件が成立することを条件に、終了手段によって可動手段の可動を停止させて一連の特定動作を終了させることができる。これにより、可動手段の一連の特定動作の実行中に終了条件が成立する場合、終了条件成立後に可動手段が第1位置又はその近傍に位置された段階で、特定情報に基づく可動手段の可動を停止して一連の特定動作を終了させることができる。その結果、一連の特定動作の終了条件が成立していると判断される場合に、即座に可動手段の一連の特定動作を終了させることができるため、可動手段の終了制御を円滑に行うことができる。そのため、本発明では、可動手段の一連の特定動作から次動作に円滑に移行することができるため、一連の特定動作の終了条件の成立が判断されてから、遊技者に違和感を覚えさせることなく、可動手段の一連の特定動作を終了させることができる。従って、可動手段の一連の特定動作の終了後に引き続き他の個別の動作が実行される場合、一連の特定動作から他の個別の動作に円滑に移行できるため、一連の特定動作から他の個別の動作への移行時に遊技者が違和感を覚えることが防止される。

30

40

50

これにより、表示制御手段による 1 の特定演出の表示中に、可動手段が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動手段を動作させることが可能になる。

【1238】

より具体的には、本実施形態では、入球始動部としての第 1 入賞口 314 又は第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として抽選処理によって実行される大当たり抽選の結果を報知する第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技において、表示制御処理としての特図遊技演出設定処理によって表示演出が設定され、表示制御処理としての表示制御装置 6 での表示変動パターンコマンドを受信した場合の処理によって図柄表示部 341 において表示演出が実行される。また、本実施形態では、可動体制御処理としての役物動作演出設定処理によ

10

【1239】

また、本実施形態では、複数の可動態様 A～D における連続的動作としての共通の動作であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る駆動パターン A～C での動作に関しては 1 つの駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づいて可動体としての可動回転役物部材 37 が可動され、駆動パターン A～C での動作の終了後には、各可動態様 A～D に応じた個別の駆動データ 2～5 の情報に基づいて連続的動作としての駆動パターン D～G のいずれかで可動体としての可動回転役物部材 37 が可動される。このように、複数の可動態様 A～D における共通の動作である駆動パターン A～C での動作に関しては 1 つの駆動データ 1 の情報に基づいて可動回転役物部材 37 が可動されることで、1 の可動態様 A～D に対して使用される駆動データ量を少なくできるためにメモリ負担を軽減できるだけでなく、可動回転役物部材 37 を動作させる際の駆動データの読み出しや一時記憶などの制御負担が軽減される。

20

【1240】

そして、本実施形態では、複数の可動態様 A～D における可動回転役物部材 37 の共通の動作であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る駆動パターン A～C での動作が 1 つの駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づいて実行される場合、駆動側位置である中間作動位置 1 又は中間作動位置 2 から戻り側位置である待機位置又は中間作動位置 1 に、可動回転役物部材 37 が復帰されるタイミングで、共通の動作である駆動パターン A～C での動作の終了判定条件が成立しているか否かが、即ち遊技者により操作ボタン 20 の操作が行われたか否かが判断される。そして、複数の可動態様 A～D における可動回転役物部材 37 の共通の動作である駆動パターン A～C での動作の終了判定条件が成立していない場合には、引き続き、複数の可動態様 A～D における可動回転役物部材 37 の共通の動作である駆動パターン A～C での動作が継続される。一方、複数の可動態様 A～D における可動回転役物部材 37 の共通の動作である駆動パターン A～C での動作の終了判定条件が成立している場合（遊技者による操作ボタン 20 に対する操作がある場合）には、駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づく可動回転役物部材 37 の共通の動作である駆動パターン A～C での動作の途中でであっても、可動回転役物部材 37 の共通の動作である駆動パターン A～C での動作を終了する。そして、告知内容に従って決定される各可動態様 A～D に応じた個別の駆動データ 2～5 の情報に基づいて、連続的動作としての個別の動作である駆動パターン D～G での動作で可動体としての可動回転役物部材 37 が可動される。

30

40

【1241】

このように、本実施形態では、駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づいて、複数の可動態様 A～D における可動回転役物部材 37 の共通の動作である駆動パターン A～C での動作が 1 つの駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づいて実行される場合、駆動側位置から戻り側位置に、可動回転役物部材 37 が復帰されるタイ

50

ミングで、共通の動作である駆動パターン A～C での動作の終了判定条件が成立しているか否か（遊技者により操作ボタン 20 の操作が行われたか否か）が判断される。つまり、共通の動作である駆動パターン A～C での可動回転役物部材 37 の動作において、可動回転役物部材 37 が戻り側位置に位置される毎に、終了判定条件の成立の有無である遊技者による操作ボタン 20 に対する操作の有無が判断される。また、本実施形態では、共通の動作である駆動パターン A～C での可動回転役物部材 37 の動作において、終了判定条件が成立していると判断される場合（遊技者による操作ボタン 20 に対する操作があったと判断される場合）、戻り側位置に位置する可動回転役物部材 37 の可動が停止されて共通の動作である駆動パターン A～C での動作が終了される。これにより、共通の動作である駆動パターン A～C での可動回転役物部材 37 の動作の実行中に共通の動作である駆動パターン A～C での動作の終了判定条件が成立する場合、終了判定条件成立後に可動回転役物部材 37 が戻り側位置に位置された段階で、可動回転役物部材 37 の可動を停止して共通の動作である駆動パターン A～C での動作を終了させることができる。その結果、駆動パターン A～C での共通の動作の終了判定条件が成立していると判断される場合に、即座に可動回転役物部材 37 の駆動パターン A～C での共通の動作を終了させることができる。そのため、複数の可動態様 A～D に共通であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る連続的動作の終了判定条件の成立から即座に次の動作に移行することができる。その結果、複数の可動態様 A～D の終了判定条件の成立が判断されてから、遊技者に違和感を覚えさせることなく、可動回転役物部材 37 の動作を終了させ、可動体を次動作に円滑に移行させることができる。従って、可動回転役物部材 37 の共通の動作の終了後に引き続き他の個別の動作が実行される場合、共通の動作から他の個別の動作に円滑に移行できるため、共通の動作から他の個別の動作への移行時に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技における表示演出の実行中に、可動回転役物部材 37 が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動回転役物部材 37 を動作させることが可能になる。

【1242】

以下、本実施形態について、図 93～図 152 を参照して前述の第 1 の実施形態との相違点を中心に説明する。但し、本実施形態において重要な事項については、前述の第 1 の実施形態において既に説明している場合であっても改めて説明することがある。

【1243】

〔遊技機 10 の構成〕

まず、図 93～図 97 を参照しつつ、遊技機 10 の構成について説明する。ここで、図 93～図 95 は本実施形態に係る遊技機 10 の遊技盤 31 の一例を示す正面図、図 96 は遊技盤 31 に設けられる可動回転役物部材 37 の作動例を示す正面図、図 97 は可動回転役物部材 37 の周辺を、一部を破断して示す側面図である。

【1244】

〔前面枠 11 の構成〕

図 1～図 3 に示すように、前面枠 11 は、操作ボタン 20、選択決定部 21、発射ハンドル 22、上皿 23、下皿 24、パネル 25、スピーカ 26、及び電飾部 27などを備える。

【1245】

操作ボタン 20 は、上皿 23 の前方に設けられている。操作ボタン 20 は、押下操作の有無に応じて、後述の音声ランプ制御装置 5 に対する入力信号を切り換える操作スイッチ 20a（図 7 参照）を備える。これにより、音声ランプ制御装置 5 では、後述のように、操作ボタン 20 の操作状態（操作あり及び操作なし）を判断することが可能である（図 119 及び図 120 参照）。この操作ボタン 20 は、大当たり抽選での抽選結果を遊技者に明示する特図遊技で実行される特図遊技演出における予め定められた操作受付期間での遊技者による操作ボタン 20 に対する操作を契機として実行される操作ボタン演出（図 140 参照）などを実行させるために操作される。

【1246】

発射ハンドル 22 は、遊技者が遊技球を発射させるために操作する回転式ハンドルである。遊技機 10 では、遊技者による発射ハンドル 22 に対する所定の遊技操作として回転操作がなされた場合に、その回転操作量に応じた強さで後述の遊技球発射機構 32 から遊技球が発射されることにより基本的な遊技が行われる。例えば、遊技者による発射ハンドル 22 に対する所定の遊技操作に応じて、遊技盤 31 の左側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる左打ち、及び遊技盤 31 の右側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる右打ちを実行することができる。そして、本実施形態では、通常遊技状態では、始動入球部としての第 1 入賞口 314 に遊技球を入球させて第 1 特図遊技を実行するために左打ちが奨励され、確変遊技状態及び時短遊技状態では、スルーゲート 317R 及び始動入球部としての第 2 入賞口 315 に遊技球を入球させて第 2 特図遊技を実行するために右打ちが奨励され、大当たり遊技状態では、可変入賞口 316 に遊技球を入球させるために右打ちが奨励される。そのため、遊技者は、遊技状態に応じて奨励される所定の遊技操作を発射ハンドル 22 に対して実行することで不利益の発生を防止することができる。

10

【1247】

〔内枠 12 の構成〕

図 2 及び図 3 に示すように、内枠 12 は、遊技球発射機構 32、遊技盤 31などを備える。

【1248】

図 2 に示すように、遊技球発射機構 32 は、発射レール 321、球送り装置 322、及びソレノイド 323 を備える。発射レール 321 は、遊技球発射機構 32 から遊技盤 31 の内レール 311 及び外レール 312 に向けて形成されており、遊技球発射機構 32 から発射される遊技球を内レール 311 及び外レール 312 に導くものである。球送り装置 322 は、ソレノイドなどの駆動手段を有しており、戻り側位置と駆動側位置との間で可動体の連続的動作である往復動作を実行することで、上皿 23 に貯留されている遊技球を 1 球ずつ発射レール 321 上に供給する。ソレノイド 323 は、戻り側位置と駆動側位置との間で可動体である発射槌に連続的動作である往復動作を実行させることで、発射レール 321 上に供給された遊技球を内レール 311 及び外レール 312 に向けて発射させる駆動手段である。そして、遊技機 10 では、遊技者により発射ハンドル 22 に対する所定の遊技操作がなされている状況では、遊技者による発射ハンドル 22 の操作に応じてソレノイド 323 が駆動制御され、0.6sec に 1 個の遊技球が遊技領域に向けて発射される。なお、遊技球発射機構 32 は、ソレノイド 323 に代えてモーターなどの他の駆動手段を用いて遊技球を発射させる機構であってもよい。

20

30

【1249】

図 93 に示すように、遊技盤 31 には、内レール 311 と、外レール 312 と、一般入賞口 313 と、始動入球手段としての第 1 入賞口 314 及び第 2 入賞口 315 と、可変入賞口 316、スルーゲート 317L、317R、アウト口 318、可変表示ユニット 34、メイン表示部 36、及び可動手段としての可動回転役物部材 37 が設けられている。

【1250】

内レール 311 及び外レール 312 は、発射された遊技球を遊技盤 31 の盤面上の遊技領域に向けて送り出すための搬送路である。そして、内レール 311 及び外レール 312 から発射された後、一般入賞口 313、第 1 入賞口 314、第 2 入賞口 315 又は可変入賞口 316 に入球しなかった遊技球はアウト口 318 から排出される。一方、一般入賞口 313、第 1 入賞口 314、第 2 入賞口 315 又は可変入賞口 316 に遊技球が入球すると、予め設定された数の賞球が払い出される。例えば、一般入賞口 313 に入球した場合の賞球数は 10 個、第 1 入賞口 314 又は第 2 入賞口 315 に入球した場合の賞球数は 3 個、可変入賞口 316 に入球した場合の賞球数は 10 個である。

40

【1251】

また、スルーゲート 317L、317R に遊技球が入球した場合、賞球の払い出しはないが、スルーゲート 317L、317R に遊技球が入球することを契機として当否抽選処理である普図当たり抽選に関する処理が実行される。そして、普図当たり抽選の結果が普

50

図当たりである場合には、普図当たり遊技が実行される。この普図当たり遊技では、可動体である電動役物 3 1 5 b が作動されることで、始動入球部である第 2 入賞口 3 1 5 が開放される。つまり、電動役物 3 1 5 b に対する可動制御処理が実行されることで、複数の可動態様（0.1 秒の短開放、6 秒の長開放）から 1 の可動態様が決定され、普図当たり遊技において、1 の可動態様に応じて、電動役物 3 1 5 b が、第 2 入賞口 3 1 5 を閉鎖する待機位置（戻り側位置）と、第 2 入賞口 3 1 5 を開放する作動位置（駆動側位置）との間で往復移動される連続的動作が実行される。このように、普図当たり遊技において第 2 入賞口 3 1 5 が開放されることで第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が可能になる。

【1 2 5 2】

ここで、本実施形態では、第 2 入賞口 3 1 5 が 0.1 秒開放され、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が不能又は困難な可動態様、及び第 2 入賞口 3 1 5 が 6 秒開放され、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が容易な可動態様の 2 つの可動態様が設定されている（図 1 0 3（C）及び図 1 0 3（D）参照）。そのため、電動役物 3 1 5 b に対する可動制御処理では、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の容易さが異なり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る 2 つの可動態様から 1 の可動態様が決定され、決定された 1 の可動態様で電動役物 3 1 5 b の連続的動作が実行される。

【1 2 5 3】

また、始動入球部としての第 1 入賞口 3 1 4 又は第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球することを契機として、当否抽選手段を実行するメイン制御ユニット 3 3 1（主制御装置 4 の MPU 4 1）により、当否抽選処理としての大当たり抽選に関する処理が実行される。そして、メイン制御ユニット 3 3 1 で行われた大当たり抽選の結果は、特図（第 1 特図又は第 2 特図）が変動表示される特図遊技（第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技）によって報知され、大当たり抽選の結果が大当たりである場合には、当該特図遊技の終了後に大当たり遊技が実行される。この大当たり遊技では、開閉実行モードにおいて所定回数（例えば 5 回又は 1 6 回）のラウンド遊技が繰り返し実行される、各ラウンド遊技では、可動体である開閉扉 3 1 9 が、可変入賞口 3 1 6 を閉鎖する待機位置（戻り側位置）と、可変入賞口 3 1 6 を開放する作動位置（駆動側位置）との間で往復移動される。つまり、開閉実行モードでは、開閉扉 3 1 9 に対する可動制御処理として、複数のラウンド遊技数（例えば 5 回又は 1 6 回）から大当たり抽選の結果に応じて、ラウンド遊技数が決定され、決定された数のラウンド遊技が実行されることで、開閉扉 3 1 9 が繰り返し往復移動される連続的動作が実行される。このように、大当たり遊技では、開閉扉 3 1 9 の連続的動作によって可変入賞口 3 1 6 が繰り返し開放されるため、多量の賞球の払い出しが期待できる。

【1 2 5 4】

図 9 3～図 9 7 に示すように、可動体である可動回転役物部材 3 7 は、詳細は後述するが、役物駆動機構 3 7 a（図 9 8 参照）によって、上下動、回転、及び拡縮可能であり、特図遊技において遊技に関する所定の情報を遊技者に付与するために動作される。ここで、本実施形態では、可動回転役物部材 3 7 が、所定の演出（スーパーリーチ演出又はスペシャルリーチ演出）が実行されるか否かを遊技者に告知するために、又は大当たり抽選の結果が 5 R 通常大当たり又は 5 R 確変大当たりであることを示唆した後に 1 6 R 確変大当たりであるか否かを遊技者に告知するために、複数の可動態様から決定される 1 の可動態様で動作される。また、本実施形態では、後述のように、可動回転役物部材 3 7 の可動態様によって遊技者に各種の告知が実行され、告知内容に対応させて 4 つの可動態様が設定されている。具体的には、4 つの可動態様として、スーパーリーチ演出が実行されることを遊技者に告知する可動態様 A（SP 発展告知）、スペシャルリーチ演出が実行されることを遊技者に告知する可動態様 B（SP SP 発展告知）、確変大当たりであることを遊技者に告知する可動態様 C（確変昇格告知）、及び所定の演出（スーパーリーチ演出又はスペシャルリーチ演出）が実行されないこと、又は大当たり抽選の結果が確変大当たりでないこと（通常大当たり）を告知する可動態様 D（発展無し告知、確変昇格無し告知）が設定されている（図 1 2 9 参照）。

【1 2 5 5】

なお、可動体である可動回転役物部材 37 は、大当たり遊技において遊技に関する所定の情報を遊技者に付与するために可動されてもよい。例えば、特図遊技において大当たり抽選の結果が通常大当たりであることを明示した場合、可動回転役物部材 37 は、大当たり遊技において、大当たり抽選の結果が確変大当たりである告知する確変昇格演出として可動されてもよい。また、特図遊技を実行する権利の保留がある場合に当該大当たり遊技の終了後に実行される保留された特図遊技によって報知される大当たり抽選の結果が大当たりであることの告知（いわゆる保留連荘の告知）のために、大当たり遊技において可動回転役物部材 37 が可動されてもよい。

【1256】

また、特図遊技において可動回転役物部材 37 を可動させることで、その可動態様に依りて、当該特図遊技によって報知される大当たり抽選の結果が大当たりであるが否か、当該特図遊技によって報知される大当たり抽選の結果が大当たりであることの期待度が高いか否かなどを告知するようにしてもよい。

【1257】

可動回転役物部材 37 は、縮小状態の正面視において花を模した形状を有しており、図柄表示部 341 の前面側に配置されている。なお、可動回転役物部材 37 の設置場所は、図柄表示部 341 の前面側に限らず変更可能であり、可動回転役物部材 37 が可動可能であり、遊技者に視認可能である場所であればよい。そして、可動回転役物部材 37 は、複数の板状部材 370、回転軸 372 及び複数の拡張ガイド機構 373 を備える。

【1258】

複数の板状部材 370 は、花びらを模した同一又は略同一の形状を有し、例えば全体が樹脂により形成されている。もちろん、複数の板状部材 370 は、少なくとも 1 つが異なる形状であってもよい。また、複数の板状部材 370 は、必ずしも花びらを模した形状である必要もない。

【1259】

回転軸 372 は、後述の役物駆動機構 37a（図 98 参照）から回転駆動力が入力される部分であり、図柄表示部 341 に向けて遊技盤 31 の前後方向に延びている。回転軸 372 は、MPU 51 の制御に従って役物駆動機構 37a から回転力が入力されることによって回転状態とされ、MPU 51 の制御に従って役物駆動機構 37a から回転力の入力停止されることによって非回転状態とされる。

【1260】

なお、回転状態での回転軸 372（複数の板状部材 370）の回転速度、即ち可動回転役物部材 37 の回転速度は、特に制限はなく、また一定であっても不定であってもよく、さらには回転速度や回転方向が変化するようにしてもよい。

【1261】

回転軸 372 には、複数の拡張ガイド機構 373 が正面視において放射状に固定されている。そのため、複数の拡張ガイド機構 373 は、回転軸 372 が回転されることによって回転軸 372 を中心に回転可能である。回転軸 372 は、昇降シャフト 374 に固定された支持リング 375 に回転可能に支持されており、規制リング 376 によって前後方向の移動が規制されている。ここで、昇降シャフト 374 は、回転軸 372 を上下方向に移動させるものであり、後述の役物駆動機構 37a（図 98 参照）から入力される駆動力によって回転軸 372 を上下方向に移動させる。これにより、可動回転役物部材 37 は、回転軸 372 が上下方向への移動されることによって、全体が上下方向に移動可能である。

【1262】

各拡張ガイド機構 373 は、板状部材 370 を 1 つずつ支持しており、支持した板状部材 370 を回転軸 372 の半径方向に沿ってスライド移動させることが可能である。各拡張ガイド機構 373 は、例えば後述の役物駆動機構 37a（図 98 参照）から入力される回転力を直進力に変換することで、支持した板状部材 370 を回転軸 372 の半径方向に沿ってスライド移動させる。各拡張ガイド機構 373 としては、回転力を直進力に変換する公知の機構を採用することができる。具体的には、各拡張ガイド機構 373 としては、

ラック、スクリーシャフト、ボールねじ、無端ベルト、ワイヤ、チェーン、平歯車や傘歯車などの各種歯車、ローラなどの構成要素を1以上含むアクチュエータが挙げられる。また、各拡張ガイド機構373は、磁力や電磁力を利用したものであってもよい。

【1263】

このように、可動回転役物部材37では、回転軸372が昇降シャフト374に回転可能に支持され、回転軸372から放射状に配置された複数の拡張ガイド機構373に1つずつ板状部材370、371がスライド移動可能に支持されている。そのため、第1の回転役物部材37は、図柄表示部341の正面側において、上下方向に移動可能であり、回転軸372を中心に回転可能であり、回転軸372を中心に拡張可能である。

【1264】

ここで、図98は遊技機10のシステム構成の要部の一例を示すブロック図である。

【1265】

図98に示すように、可動回転役物部材37は、MPU51によって制御される役物駆動機構37aを介して、上下動、回転及び拡張が制御される。役物駆動機構37aは、入出力I/F52を介して音声ランプ制御装置5のMPU51に接続されている。この役物駆動機構37aは、例えば複数のモーター、可動回転役物部材37が待機位置に復帰していることを検出するための復帰検出部、及びモータードライバを有する。

【1266】

複数のモーターは、例えばステッピングモーター、DCモーターなどであり、復帰検出部は、例えば光学式センサ、接点式センサなどである。各モーターは、駆動ギアなどの駆動伝達機構を介して、可動回転役物部材37の回転軸372、複数の拡張ガイド機構373及び昇降シャフト374に連結されており、回転軸372、複数の拡張ガイド機構373及び昇降シャフト374に駆動力が入力される。可動回転役物部材37は、昇降シャフト374の駆動力が入力されることによって、可動回転役物部材37が開口31Aから露出する予め定められた図93に示す戻り側位置である待機位置（図94に仮想線で示す位置）と、可動回転役物部材37が下方に最も可動された位置であり、可動回転役物部材37の全体が露出する図94に実線で示す駆動側位置である作動位置との間で、図柄表示部341の正面側において上下方向に移動可能である。また、図96に示すように、可動回転役物部材37は、回転軸372に回転力が入力されることによって、図柄表示部341の正面側において反時計回り方向に回転可能である。なお、可動回転役物部材37の回転位置は、待機位置と作動位置との間のいずれの位置でもよいが、本実施形態では、可動回転役物部材37は作動位置において回転される。さらに、可動回転役物部材37は、拡張ガイド機構373に駆動力が入力されることによって、図柄表示部341の正面側において、回転軸372の半径方向に各板状部材370がスライド移動されることで拡張可能である。そして、可動回転役物部材37は、図柄表示部341の正面側において、縮小状態（図96（A）参照）及び拡大状態（図96（B）参照）のいずれにおいても回転可能である。

【1267】

また、役物駆動機構37aは、モータードライバが音声ランプ制御装置5の入出力I/F52に接続されている。そして、モータードライバは、音声ランプ制御装置5からの制御指示に従って各モーターを制御する。また、モータードライバは、復帰検出部による検出結果を取得して音声ランプ制御装置5に伝達することが可能である。なお、モータードライバを省略し、各モーター及び復帰検出部が、音声ランプ制御装置5の入出力I/F52に直接接続され、音声ランプ制御装置5によって制御されてもよい。

【1268】

なお、可動回転役物部材37を上下動、回転及び拡張させる構成は、特に制限はない。例えば、可動回転役物部材37を回転・拡張させる駆動力としては、モーターによって付与されるものに限らず、ソレノイドなどの他の駆動源によって付与されるものであってもよい。

【1269】

ここで、図 99 を参照しつつ、遊技機 10 の主制御装置 4 の M P U 4 1 が大当たり抽選や普図当たり抽選を行うための記憶領域について説明する。具体的には、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の抽選用カウンタ記憶エリア 4 1 2 a、特図保留格納エリア 4 1 2 b 及び普図保留格納エリア 4 1 2 c に格納されるカウンタ情報を用いて、当否抽選処理である大当たり抽選に関する処理の実行及び特図の変動表示時間の設定や、当否抽選処理である普図当たり抽選に関する処理の実行及び普通図柄の変動表示時間の設定などを実行する。

【1270】

抽選用カウンタ記憶エリア 4 1 2 a には、当否抽選処理である大当たり抽選に関する処理の実行するために使用される抽選用カウンタとして、大当たり遊技を実行するか否かの大当たり抽選に使用される大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に大当たり種別を判断する際に使用される大当たり種別カウンタ C 2、及び大当たり抽選の結果が外れである場合に外れ種別を判断する際に使用されるリーチ乱数カウンタ C 3 が記憶されている。

10

【1271】

また、抽選用カウンタ記憶エリア 4 1 2 a には、抽選用カウンタとして、大当たり乱数カウンタ C 1 の初期値設定に使用される大当たり乱数初期値カウンタ C I N 1、及びメイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 における特別図柄の変動表示時間の決定に使用される特図変動種別カウンタ C S 1 が記憶されている。

【1272】

さらに、抽選用カウンタ記憶エリア 4 1 2 a には、当否抽選処理である普図当たり抽選に関する処理の実行するために使用される抽選用カウンタとして、第 2 入賞口 3 1 5 の電動役物 3 1 5 b を電役開放状態とするか否かの普図当たり抽選に使用される普通当たり乱数カウンタ C 4、及び普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合に普図当たり種別（短開放又は長開放）を振り分ける際に使用される普通当たり種別乱数カウンタ C 5 が記憶されている。

20

【1273】

また、抽選用カウンタ記憶エリア 4 1 2 a には、抽選用カウンタとして、普通当たり乱数カウンタ C 4 の初期値設定に使用される普通当たり乱数初期値カウンタ C I N 2、及びメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 における普通図柄の変動表示時間の決定に使用される普図変動種別カウンタ C S 2 が記憶されている。

30

【1274】

そして、各抽選用カウンタ C 1 ~ C 5、C I N 1、C I N 2、C S 1、C S 2 は、M P U 4 1 によって短時間間隔で前回値に 1 が加算され、予め設定された最大値に達した後に 0 に戻るループカウンタとして用いられる。各抽選用カウンタ C 1 ~ C 5、C I N 1、C I N 2、C S 1、C S 1 には更新後の値が記録され、当否抽選処理である大当たり抽選に関する処理の実行、特図の変動表示時間の設定及び大当たり種別及び外れ種別の設定や、当否抽選処理である大当たり抽選に関する処理の実行、普通図柄の変動表示時間の設定及び普図当たり種別の設定などの際に M P U 4 1 によって参照される。

【1275】

特図保留格納エリア 4 1 2 b は、第 1 特図保留格納エリア R E A、第 2 特図保留格納エリア R E B 及び特図実行エリア A E を備える。第 1 特図保留格納エリア R E A は、第 1 保留エリア R E A 1、第 2 保留エリア R E A 2、第 3 保留エリア R E A 3、第 4 保留エリア R E A 4、及び第 1 特図保留数記憶エリア N A A を含む。第 2 特図保留格納エリア R E B は、第 1 保留エリア R E B 1、第 2 保留エリア R E B 2、第 3 保留エリア R E B 3、第 4 保留エリア R E B 4、及び第 2 特図保留数記憶エリア N A B を含む。

40

【1276】

そして、始動入球部としての第 1 入賞口 3 1 4 に遊技球が入球した場合には、R A M 4 1 2 に格納されている大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び特図変動種別カウンタ C S 1 に対応する情報が、大当たり抽選で用いられる特図当否情報として取得され、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E

50

A 1～第 4 保留エリア R E A 4 のいずれかに格納される。また、始動入球部としての第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球した場合には、R A M 4 1 2 に格納されている大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び特図変動種別カウンタ C S 1 に対応する情報が、大当たり抽選で用いられる特図当否情報として取得され、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1～第 4 保留エリア R E B 4 のいずれかに格納される。なお、第 1 特図保留格納エリア R E A 及び第 2 特図保留格納エリア R E B ごとに対応して、抽選用カウンタ記憶エリア 4 1 2 a (大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2、リーチ乱数カウンタ C 3 及び特図変動種別カウンタ C S 1 など) が個別に設けられてもよい。

【1 2 7 7】

10

このように、遊技機 1 0 では、大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 に加えて、特図変動種別カウンタ C S 1 が第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1～第 4 保留エリア R E A 4、及び第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1～第 4 保留エリア R E B 4 のいずれかに格納される。

【1 2 7 8】

そのため、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1～第 4 保留エリア R E A 4、及び第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1～第 4 保留エリア R E B 4 に格納されている特図当否情報に基づいて実行される特図遊技に対する大当たり抽選の抽選結果に加えて、特図遊技における第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での特別図柄 (図柄表示部 3 4 1 での飾り図柄) に対する変動表示時間 (特図変動パターン) を事前に判断することが可能である。

20

【1 2 7 9】

具体的に、始動入球部としての第 1 入賞口 3 1 4 に遊技球が入球した場合、特図当否情報は、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1、第 2 保留エリア R E A 2、第 3 保留エリア R E A 3、第 4 保留エリア R E A 4 の優先順位で空いている領域に格納される。第 1 特図保留数記憶エリア N A A には、第 1 保留エリア R E A 1～第 4 保留エリア R E A 4 のうち特図当否情報が記憶されている数が第 1 特図保留数 N として格納される。

【1 2 8 0】

30

また、始動入球部としての第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球した場合、特図当否情報は、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1、第 2 保留エリア R E B 2、第 3 保留エリア R E B 3、第 4 保留エリア R E B 4 の優先順位で空いている領域に格納される。第 2 特図保留数記憶エリア N A B には、第 1 保留エリア R E B 1～第 4 保留エリア R E B 4 のうち特図当否情報が記憶されている数が第 2 特図保留数 M として格納される。

【1 2 8 1】

即ち、遊技機 1 0 では、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1～第 4 保留エリア R E A 4、及び第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1～第 4 保留エリア R E B 4 の最大保留数に対応する合計 8 つの記憶領域により、始動入球部としての第 1 入賞口 3 1 4 及び第 2 入賞口 3 1 5 への入賞履歴としての特図当否情報をそれぞれ最大 4 つまで保留することが可能である。

40

【1 2 8 2】

なお、始動入球部としての第 1 入賞口 3 1 4 及び第 2 入賞口 3 1 5 に共通して最大保留数が 8 つの保留用エリアが設けられていることも他の実施形態として考えられ、この場合でも合わせて最大 8 つまで入賞履歴としての特図当否情報を保留することが可能である。特図当否情報の記憶処理は、制御プログラムに従った処理を実行することにより M P U 4 1 によって実行される。

【1 2 8 3】

特図実行エリア A E は、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄の変動表示が開始される際に、第 1 特図保留格納エリア

50

REAの第1保留エリアREA1又は第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1に格納された特図当否情報を移動させるために用いられる記憶領域である。具体的には、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1の特図当否情報が優先して特図実行エリアAEに移動され、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1に特図当否情報が存在せず第2特図保留数記憶エリアNABに記憶される第2特図保留数Mが0である場合に、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1の特図当否情報が特図実行エリアAEに移動される。即ち、遊技機10では、第2特図遊技が第1特図遊技に優先して実行され、高頻度サポートモードである確変遊技状態及び時短遊技状態では、遊技盤31の右側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる右打ちを実行することで、主として第2特図遊技が実行される。

10

【1284】

なお、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数Nと第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mとの差が2以上である場合には、数が多い方の保留用エリアの値が優先して特図実行エリアAEに移動されることも他の実施形態として考えられる。また、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1及び第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1の特図当否情報が交互に特図実行エリアAEに移動されることも他の実施形態として考えられる。

【1285】

そして、MPU41は、1回の特図遊技の開始に際して、特図実行エリアAEに特図当否情報として記憶されている数値情報に基づいて大当たり抽選などを行う。このとき、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1が特図実行エリアAEに移動された場合には、第2保留エリアREA2に格納された特図当否情報は第1保留エリアREA1にシフトし、第3保留エリアREA3に格納された特図当否情報は第2保留エリアREA2にシフトし、第4保留エリアREA4に格納された特図当否情報は第3保留エリアREA3にシフトする。

20

【1286】

同じく、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1が特図実行エリアAEに移動された場合には、第2保留エリアREB2に格納された特図当否情報は第1保留エリアREB1にシフトし、第3保留エリアREB3に格納された特図当否情報は第2保留エリアREB2にシフトし、第4保留エリアREB4に格納された特図当否情報は第3保留エリアREB3にシフトする。

30

【1287】

大当たり乱数カウンタC1は、前述の図17の主タイマ割込処理のステップS1003において、例えば0～637の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。また、大当たり乱数カウンタC1が1周した場合、その時点の大当たり乱数初期値カウンタCIN1の値が当該大当たり乱数カウンタC1の初期値として読み込まれる。なお、大当たり乱数初期値カウンタCIN1は、大当たり乱数カウンタC1と同様に更新されるループカウンタである。そして、第1特図保留格納エリアREA1又は第2特図保留格納エリアREA2の第1～第4保留エリアREA1～REA4、REB1～REB4には、遊技球が始動入球部としての第1入賞口314又は第2入賞口315に入賞したタイミングでの大当たり乱数カウンタC1の値が格納される。

40

【1288】

大当たり当選となる乱数の値は、ROM411における当否テーブル記憶エリアに記憶された当否テーブルにより、通常遊技状態又は時短遊技状態である低確率モード及び確変遊技状態である高確率モードに対応して2種類設定されている。ここで、図100(A)は低確率モードに対応する低確率モード当否テーブル、図100(B)は高確率モードに対応する高確率モード当否テーブルの一例を示す図である。

【1289】

図100(A)及び図100(B)に示す例では、低確率モード当否テーブル及び高確

50

率モード当否テーブルとして、それぞれ大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる確率（大当たり確率）が遊技設定値に応じて異なる複数の当否テーブルが設けられている。低確率モード当否テーブル及び高確率モード当否テーブルは、6段階の遊技設定値1から6に対応してそれぞれ6つの当否テーブルを含む。遊技設定値6、遊技設定値5、遊技設定値4、遊技設定値3、遊技設定値2及び遊技設定値1の順に、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる大当たり確率が高く遊技者に有利となる。

【1290】

遊技設定値1では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては206個（0～205）、高確率モード当否テーブルについては821個（0～820）である。つまり、遊技設定値1では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/318.1$ （ $206/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/79.9$ （ $820/65536$ ）である。

10

【1291】

遊技設定値2では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては212個（0～211）、高確率モード当否テーブルについては845個（0～844）である。つまり、遊技設定値2では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/309.1$ （ $212/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/77.6$ （ $845/65536$ ）である。

20

【1292】

遊技設定値3では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては218個（0～217）、高確率モード当否テーブルについては869個（0～868）である。つまり、遊技設定値3では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/300.6$ （ $218/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/75.4$ （ $869/65536$ ）である。

【1293】

遊技設定値4では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては224個（0～223）、高確率モード当否テーブルについては893個（0～892）である。つまり、遊技設定値4では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/292.6$ （ $224/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/73.4$ （ $893/65536$ ）である。

30

【1294】

遊技設定値5では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては230個（0～229）、高確率モード当否テーブルについては917個（0～916）である。つまり、遊技設定値5では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/284.9$ （ $230/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/71.5$ （ $917/65536$ ）である。

40

【1295】

遊技設定値6では、0～65535の65536個の乱数値のうち、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数値の数は、低確率モード当否テーブルについては236個（0～235）、高確率モード当否テーブルについては941個（0～940）である。つまり、遊技設定値6では、低確率モードの大当たり確率が約 $1/277.7$ （ $236/65536$ ）であり、高確率モードの大当たり確率が低確率モードの約4倍である約 $1/69.6$ （ $941/65536$ ）である。

【1296】

なお、大当たり乱数カウンタC1の値がこれらの大当たり当選となる乱数値以外である

50

場合には大当たり抽選での抽選結果が外れとなる。

【1297】

ここで、低確率モード当否テーブル及び高確率モード当否テーブルでは、同一遊技設定値どうしの大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなる乱数が共通するが、大当たりとなる乱数が共通していないことも考えられる。また、大当たり当選となる乱数は、連続した値でなく、一部又は全部が離散した値であってもよい。

【1298】

また、低確率モード当否テーブル及び高確率モード当否テーブルは、6段階の遊技設定値に応じて6つずつ設けられているが、各モードの当否テーブルは少なくとも1つあればよい。つまり、遊技設定値は6段階に限定されない。また、低確率モード当否テーブルを複数段階の遊技設定値に対応させて複数設ける一方、高確率モード当否テーブルを1つ設けることも考えられる。即ち、低確率モードに対して複数段階の遊技設定値を設け、高確率モードに対しては段階的な遊技設定値を設けず、大当たり確率を一樣とすることも考えられる。もちろん、低確率モードでの大当たり確率を一樣とし、高確率モードに対して複数段階の遊技設定値を設けてもよい。

【1299】

大当たり種別カウンタC2は、0～19の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に0に戻される。大当たり種別カウンタC2は定期的に更新され、遊技球が第1入賞口314又は第2入賞口315に入賞したタイミングで特図保留格納エリア412bに格納される。遊技機10では、ROM411における振分テーブル記憶エリアに記憶された振分テーブルにより、確変大当たり及び通常大当たりの2種類の大当たり種別ごとに対応する大当たり種別カウンタC2の値が設定されている。

【1300】

ここで、図100(C)は振分テーブルの一例を示す図である。図100(C)に示す例では、特図遊技の種別が始動入球部としての第1入賞口314への入賞を契機とする第1特図遊技である場合、5R確変大当たりとなる乱数の数は0～9の10個であり、16R確変大当たりとなる乱数の数は10～14の5個であり、5R通常大当たりとなる乱数の数は15～19の5個である。一方、特図遊技の種別が始動入球部としての第2入賞口315への入賞を契機とする第2特図遊技である場合、5R確変大当たりとなる乱数の数は0～4の5個であり、16R確変大当たりとなる乱数の数は5～14の10個であり、5R通常大当たりとなる乱数の数は15～19の5個である。

【1301】

また、遊技機10では、第1特図遊技及び第2特図遊技における確変大当たりの確率が75%で同一に設定されているが、第1特別図柄遊技に比べて第2特別図柄遊技における16R確変大当たりの確率が高く設定されている。即ち、確変遊技状態（高確率モードかつ電動役物315bの開放確率が高い高頻度サポートモード）、及び時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）では、通常遊技状態（低確率モードかつ電動役物315bの開放確率が低い低頻度サポートモード）に比べて、大当たり抽選での抽選結果が大当たりとなった場合の遊技球の獲得期待値が高く設定されている。

【1302】

そして、第1特図遊技及び第2特図遊技のいずれにおいても、大当たり抽選の結果が確変大当たりである場合には、大当たり遊技の終了後に確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）に移行する。遊技機10では確変遊技状態において実行可能な特図遊技の回数に上限値が設定されておらず、遊技機10が、いわゆるループ確変機として構成されている。

【1303】

また、大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合には、大当たり遊技の終了後に時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）に移行する。遊技機10では、時短遊技状態において実行可能な特図遊技の回数（時短遊技回数）に上限値（本実施形態では100回）が設定されており、この上限値の特図遊技回数内で大当たり抽選の結果が大

10

20

30

40

50

当たりとならない場合には、上限値の特図遊技の実行後に低頻度サポートモードである通常遊技状態に移行する。なお、時短遊技状態での特図遊技回数は、100回に限らず、他の回数であってもよい。

【1304】

なお、確変遊技状態から通常遊技状態への移行は、上限値の特図遊技が実行される場合に限らず、例えば状態移行抽選（転落抽選）に当選した場合に実行されるようにしてもよい。この場合、所定回数の特図遊技が実行されるまでは、確変遊技状態から通常遊技状態に移行（転落）しないようにし、確変遊技状態で実行される特図遊技の最低回数として当該所定回数に保証することも考えられる。これにより、確変遊技状態実行される特図遊技の回数が著しく少なくなることが防止される。

10

【1305】

また、本実施形態では、入賞により第1特別図柄遊技を実行する契機となる始動入球部としての第1入賞口314、及び入賞により第2特別図柄遊技を実行する契機となる始動入球部としての第2入賞口315ごとに個別の振分テーブルが設定されており、遊技球が第1入賞口314及び第2入賞口315のいずれに入賞したかに応じて大当たり種別の振り分け確率が異なるが、第1特別図柄遊技と第2特別図柄遊技とで大当たり種別の振り分け確率が同一であることも考えられる。また、遊技機10は、ループ確変機に限らず、V-ST機を含むST機や一種二種混合機などとして構成することも考えられる。

【1306】

そして、MPU41は、特図実行エリアAEに記憶されている大当たり乱数カウンタC1及び大当たり種別カウンタC2の値に基づいて、大当たり抽選での抽選結果が「5R確変大当たり」、「16R確変大当たり」、「5R通常大当たり」及び「外れ」のいずれであるかを判定する。

20

【1307】

ここで、大当たり抽選での抽選結果が5R確変大当たり又は5R通常大当たりの場合は、5R大当たりに対して設定される可動体である開閉扉319の可動体態様に基づいて、大当たり遊技において可変入賞口316が所定態様で開放されるラウンド遊技が5回繰り返される開閉実行モードが実行される。また、大当たり抽選での抽選結果が16R確変大当たりの場合は、16R大当たりに対して設定される可動体である開閉扉319の可動体態様に基づいて、大当たり遊技においてラウンド遊技が16回繰り返される開閉実行モードが実行される。つまり、大当たり遊技では、抽選処理における大当たり抽選の結果に応じて決定される大当たり遊技でのラウンド遊技の回数に応じた可動体態様に対応する情報が設定され、当該情報に基づいて、大当たり遊技でのラウンド遊技の回数に応じて可動体である開閉扉319が、可変入賞口316を閉鎖する戻り側位置である待機位置と、可変入賞口316を開放する駆動側位置である作動位置との間で連続的動作によって往復移動される。

30

【1308】

また、各ラウンド遊技は、後述のように、可変入賞口316の最大開放時間が経過した場合、又は遊技者による発射ハンドル22に対する適切な所定の遊技操作がなされることによって当該最大開放時間の経過前に最大入賞個数の遊技球が入球した場合に終了するため、各ラウンド遊技の終了判定条件の成立タイミングは不定となり得る。そして、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得ることで、各ラウンド遊技において可動体である開閉扉319が駆動側位置である作動位置に可動される期間が不定となる。即ち、開閉扉319の連続的動作が実行される開閉実行モードでは、開閉扉319が駆動側位置である作動位置に可動される期間として、少なくとも第1の期間（例えば可変入賞口316の最大開放時間の経過前に最大入賞個数の遊技球が入球した場合）と、第1の期間より長時間の第2の期間（例えば可変入賞口316の最大開放時間が経過した場合）と、を含む。

40

【1309】

さらに、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得ることで、開閉実行モード（大当たり遊技）の終了タイミングも不定となり得る結果、開閉実行モード（大当たり遊技）

50

の実行期間も不定となり得る。つまり、開閉実行モード（大当たり遊技）の実行期間として、大当たり遊技の種別に応じて、少なくとも5R確変大当たり遊技及び5R通常大当たり遊技の開閉実行モード（大当たり遊技）の実行期間に対応する第1の期間と、16R確変大当たり遊技の開閉実行モード（大当たり遊技）の実行期間に対応する第1の期間より長期間の第2の期間と、を含む。

【1310】

なお、本実施形態では、後述のように、大当たり遊技における1回のラウンド遊技において、可動体である開閉扉319が可変入賞口316を閉鎖する待機位置（戻り側位置）と、可変入賞口316を開放する作動位置（駆動側位置）との間で1回往復移動されるが、1回の大当たり遊技において実行される複数回のラウンド遊技のうちの少なくとも1回のラウンド遊技において、可動体である開閉扉319が可変入賞口316を閉鎖する待機位置（戻り側位置）と、可変入賞口316を開放する作動位置（駆動側位置）との間で複数回往復移動され、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る連続的動作の可動態様を採用することで、大当たり遊技に対する可変入賞口316の開閉態様（可動体である開閉扉319の可動態様）を複数設定することも考えられる。

10

【1311】

また、本実施形態では、後述のように、大当たり遊技における各ラウンド遊技での可変入賞口の最大開放時間が均一であるが、各ラウンド遊技における可変入賞口の最大開放時間を複数設定することで、大当たり遊技に対する可変入賞口316の開閉態様（可動体である開閉扉319の可動態様）を複数設定することも考えられる。

20

【1312】

また、5R確変大当たり又は16R確変大当たりの場合には、可動体である開閉扉319が戻り側位置である待機位置に位置された状態とされた大当たり遊技の終了後に、第1の制御によって大当たりの当選確率が高い高確率モードかつ可動体である電動役物315bの開放確率が高い高頻度サポートモードである確変遊技状態に移行される。そして、本実施形態では、確変遊技状態は、MPU41により実行される抽選処理での大当たり抽選の結果が「5R確変大当たり」、「16R確変大当たり」又は「5R通常大当たり」であると判定されるまで継続する。

【1313】

一方、5R通常大当たりの場合には、可動体である開閉扉319が戻り側位置である待機位置に位置された状態とされた大当たり遊技の終了後に、第2の制御によって大当たりの当選確率が低い低確率モードかつ可動体である電動役物315bの開放確率が高い高頻度サポートモードである時短遊技状態に移行される。そして、本実施形態では、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）は、例えば100回などの予め設定された規定回数の抽選処理での大当たりの抽選の結果を遊技者に報知するまで継続し、又は規定回数の経過前に抽選処理での大当たりの抽選の結果が大当たりであることを遊技者に報知した場合に終了する。

30

【1314】

また、特図遊技において確変遊技状態から時短遊技状態や通常遊技状態へ転落させるか否かの抽選処理を行うことも他の実施形態として考えられる。なお、抽選処理による大当たり抽選の結果が外れの場合には、確変遊技状態から大当たり遊技状態及び時短遊技状態へは移行されない。本実施形態では、遊技機10が5R確変大当たり、16R確変大当たり及び5R通常大当たりの3種類の大当たり種別を有する場合を例に挙げて説明するが、これに限らず、例えば2ラウンド確変大当たり、2ラウンド通常大当たり、16R通常大当たりなどの他の大当たり種別を有することも考えられる。

40

【1315】

また、リーチ乱数カウンタC3は、前述の図17の主タイマ割込処理のステップS1003において、例えば0～238の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。そして、第1特図保留格納エリアREA1又は第2特図保留格納エリアREA2の第1～第4保留エリアREA1～REA4、REB1～

50

REB 4には、遊技球が始動入球部である第1入賞口314又は第2入賞口315に入賞したタイミングでのリーチ乱数カウンタC3の値が格納される。

【1316】

遊技機10では、リーチ乱数カウンタC3によって、大当たり抽選での抽選結果が外れである場合に図柄表示部341で表示される変動表示の停止結果の種別が選択される。具体的には、ROM411における外れ種別テーブル記憶エリアに記憶された外れ種別テーブルにより、リーチが発生した後に最終停止図柄がリーチ図柄の前後に1つだけずれて停止する前後外れリーチ、同じくリーチが発生した後に最終停止図柄がリーチ図柄の前後以外で停止する前後外れ以外リーチ、及びリーチが発生しない完全外れの3種類の外れ種別ごとに対応するリーチ乱数カウンタC3の値が設定されている。

10

【1317】

ここで、図100(D)は外れ種別テーブルの一例を示す図である。図100(D)に示す例では、前後外れリーチとなる乱数の値は0~8であり、前後外れ以外リーチとなる乱数の値は9~38であり、完全外れとなる乱数の値は39~238である。なお、MPU41は、5R確変大当たり、16R確変大当たり又は5R通常大当たりに当選する特図遊技、即ち大当たり遊技状態に移行する特図遊技においては、リーチ乱数カウンタC3の値に関係なくリーチ発生と判断する。

【1318】

ここに、リーチとは、図柄表示部341における図柄の変動表示が開始されてから図柄が停止表示されるまでの間に、大当たり当選したことを示す飾り図柄の図柄組み合わせになり易い状態が示される変動状態である。一例において、図柄表示部341における有効ライン上の飾り図柄の3つの停止位置のうち2つの停止位置に同一の図柄が停止表示され、残りの1つの停止位置に対応する表示図柄が変動する状態である。また、図柄表示部341におけるリーチの変動状態中には、所定のキャラクタなどの動画が表示されて期待度を示唆するストーリー演出処理や、遊技者による操作ボタン20に対する操作が演出に反映される遊技者参加型の操作演出処理などが実行される。なお、これらの演出処理の実行中には図柄表示部341における変動表示が非表示となること、縮小又は拡大して表示されることも考えられる。

20

【1319】

特図変動種別カウンタCS1は、例えば0~199の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値に達した後に0に戻される。具体的に、特図変動種別カウンタCS1は、大当たり抽選での抽選結果に応じて、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363での特別図柄(図柄表示部341における飾り図柄)の変動表示時間を示す特図変動パターン種別(特別図柄の変動表示時間)を決定するものである。特図変動パターン種別(特別図柄の変動表示時間)は、メイン制御ユニット331による大当たり抽選の結果と共に、音声ランプ制御装置5に特図変動パターンコマンドとして送信される。音声ランプ制御装置5では、特図変動パターンコマンドに基づいて、表示制御処理や可動制御処理を実行することで、特図遊技(第1特図遊技又は第2特図遊技)や大当たり遊技での、可変表示ユニット34(図柄表示部341)での表示演出や可動体である可動回転役物部材37の動作などを制御する。具体的には、特図遊技が開始される場合に大当たり抽選の結果に従って表示制御処理を実行することで、特図遊技で実行される表示演出が決定され、決定された表示演出が特図遊技において図柄表示部341で実行される。また、大当たり抽選の結果が大当たりである場合には、大当たりが開始される場合に表示制御処理を実行することで、大当たり遊技で実行される表示演出が決定され、決定された表示演出が大当たり遊技において図柄表示部341で実行される。また、この大当たり遊技が実行される表示演出の中にスピーカ26での音声演出及び電飾部27でのランプ演出が実行される。また、特図遊技が開始される場合に大当たり抽選の結果に従って可動制御処理を実行することで、特図遊技で実行される可動回転役物部材37の連続的動作が複数の可動状態様から決定され得り、可動回転役物部材37の連続的動作が決定された場合には、特図遊技において可動回転役物部材37の連続的動作が実行される。また、大当たり抽選の結果

30

40

50

果が大当たりである場合には、大当たりが開始される場合に可動制御処理を実行することで、大当たり遊技で実行される表示演出が決定され得り、可動回転役物部材 37 の連続的動作が決定された場合には、大当たり遊技において可動回転役物部材 37 の連続的動作が実行される。

【1320】

また、特図変動種別カウンタ CS1 は、MPU41 により後述する図 104 のメイン処理が 1 回実行されるごとにステップ S1402 において少なくとも 1 回更新され、当該メイン処理内の残余時間内でもステップ S1414 において繰り返し更新される。そして、第 1 特図保留格納エリア REA1 又は第 2 特図保留格納エリア REA2 の第 1 ～第 4 保留エリア REA1 ～ REA4, REB1 ～ REB4 には、遊技球が始動入球部である第 1 入賞口 314 又は第 2 入賞口 315 に入賞したタイミングでの特図変動種別カウンタ CS1 の値が格納される。

10

【1321】

そして、MPU41 は、特図変動種別カウンタ CS1 と、抽選処理による大当たり抽選の結果に応じて予め設定された変動テーブル（図 101（A）～図 101（C）参照）とに基づいて特別図柄の変動表示時間を示す特図変動パターンを決定する。具体的に、MPU41 は、ROM411 の変動テーブル記憶エリアに予め記憶されている通常大当たり変動テーブル（図 101（A）参照）、確変大当たり変動テーブル（図 101（B）参照）、又は外れ変動テーブル（図 101（C）参照）を参照して特図変動パターン種別を特定する。なお、これらの変動テーブルは、低確率モードと高確率モードとで別個に設けられてもよい。また、確変大当たり変動テーブルは、5R 確変大当たり及び 16R 確変大当たりのそれぞれに対して個別に設けられてもよい。

20

【1322】

ここで、図 101（A）、図 101（B）及び図 101（C）は、変動テーブルの一例を示す図である。図 101（A）に示す通常大当たり変動テーブル、図 101（B）に示す確変大当たり変動テーブル、図 101（C）に示す外れ変動テーブルでは、特図変動種別カウンタ CS1 の値に応じて特図変動パターンが予め対応付けられている。そして、MPU41 は、抽選処理による大当たり抽選での抽選結果が「5R 通常大当たり」である場合は図 101（A）に示す通常大当たり変動テーブル、抽選処理による抽選結果が「5R 確変大当たり」又は「16R 確変大当たり」である場合は図 101（B）に示す確変大当たり変動テーブル、抽選処理による抽選結果が「外れ」である場合は図 101（C）に示す外れ変動テーブルをそれぞれ参照し、特図変動パターンの種別を特定する。

30

【1323】

より具体的に、図 101（A）及び図 101（B）に示すように、通常大当たり変動テーブル及び確変大当たり変動テーブルでは、特図変動種別カウンタ CS1 の値に応じて特図変動パターン「01」～「03」のいずれかが選択される。

【1324】

ここで、通常大当たり変動テーブル又は確変大当たり変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「01」が選択された場合、サブ制御ユニット 332 による表示制御処理により、変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が 30 s であるノーマルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部 341 などにおいてノーマルリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。ノーマルリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出となる演出パターンである。

40

【1325】

さらに、通常大当たり変動テーブル又は確変大当たり変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「01」が選択された場合、サブ制御ユニット 332 による可動制御処理により、図柄表示部 341 での表示演出としてノーマルリーチ演出パターンに対応した演出が実行される場合の可動回転役物部材 37 の可動態様として、確変大当たりであることを告知する連続的動作として可動態様 C（図 129（C）参照）又は通常大当たりであることを告知する連続的動作として可動態様 D（図 129（D）参照）が決定され、図柄

50

表示部 3 4 1 でのノーマルリーチ演出パターンに対応した演出の実行中に、可動回転役物部材 3 7 が可動態様 C (図 1 2 9 (C) 参照) 又は可動態様 D (図 1 2 9 (D) 参照) で動作される。

【1 3 2 6】

また、通常大当たり変動テーブル又は確変大当たり変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「0 2」が選択された場合、サブ制御ユニット 3 3 2 による表示制御処理により、音声ランプ制御装置 5 では変動種別 (演出パターン種別) として変動表示時間が 6 0 s であるスーパーリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部 3 4 1 などにおいてスーパーリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。スーパーリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスーパーリーチ演出となる演出パターンである。

10

【1 3 2 7】

さらに、通常大当たり変動テーブル又は確変大当たり変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「0 2」が選択された場合、サブ制御ユニット 3 3 2 による可動制御処理により、図柄表示部 3 4 1 での表示演出としてスーパーリーチ演出パターンに対応した演出が実行される場合の可動回転役物部材 3 7 の可動態様として、スーパーリーチ演出に発展することを告知する連続的動作として可動態様 A (図 1 2 9 (A) 参照) と、確変大当たりであることを告知する連続的動作として可動態様 C (図 1 2 9 (C) 参照) 又は通常大当たりであることを告知する連続的動作として可動態様 D (図 1 2 9 (D) 参照) とが決定され、図柄表示部 3 4 1 でのスーパーリーチ演出パターンに対応した演出の実行中に、可動回転役物部材 3 7 が、可動態様 A (図 1 2 9 (A) 参照) と、可動態様 C (図 1 2 9 (C) 参照) 又は可動態様 D (図 1 2 9 (D) 参照) で動作される。

20

【1 3 2 8】

さらに、通常大当たり変動テーブル又は確変大当たり変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「0 3」が選択された場合、サブ制御ユニット 3 3 2 による表示制御処理により、変動種別 (演出パターン) として変動表示時間が最も長い 9 0 s であるスペシャルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部 3 4 1 などにおいてスペシャルリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。スペシャルリーチ演出パターンは、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスペシャルリーチ演出となる演出パターンである。

30

【1 3 2 9】

また、通常大当たり変動テーブル又は確変大当たり変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「0 3」が選択された場合、サブ制御ユニット 3 3 2 による可動制御処理により、図柄表示部 3 4 1 での表示演出としてスペシャルリーチ演出パターンに対応した演出が実行される場合の可動回転役物部材 3 7 の可動態様として、スーパーリーチ演出に発展することを告知する連続的動作として可動態様 A (図 1 2 9 (A) 参照) と、スペシャルリーチ演出に発展することを告知する連続的動作として可動態様 B (図 1 2 9 (A) 参照) と、確変大当たりであることを告知する連続的動作として可動態様 C (図 1 2 9 (C) 参照) 又は通常大当たりであることを告知する連続的動作として可動態様 D (図 1 2 9 (D) 参照) とが決定され、図柄表示部 3 4 1 でのスーパーリーチ演出パターンに対応した演出の実行中に、可動回転役物部材 3 7 が、可動態様 A (図 1 2 9 (A) 参照) と、可動態様 B (図 1 2 9 (B) 参照) と、可動態様 C (図 1 2 9 (C) 参照) 又は可動態様 D (図 1 2 9 (D) 参照) で動作される。

40

【1 3 3 0】

図 1 0 1 (C) に示すように、外れ変動テーブルでは、リーチ乱数カウンタ C 3 の値によって決定される外れ時の飾り図柄の停止表示種別 (前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れ) に対応して、特図変動種別カウンタ C S 1 と特図変動パターンとの対応関係が定められている。より具体的に、外れ時の停止表示種別が前後外れリーチ又は前後外れ以外リーチである場合には、特図変動種別カウンタ C S 1 の値に応じて特図変動パターン「0 1」～「0 3」のいずれかが選択される。そして、外れ変動テーブルが参照される

50

場合に特図変動パターン「01」～「03」のいずれかが選択される場合、前述の通常大当たり変動テーブル又は確変大当たり変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「01」～「03」のいずれかが選択される場合と同様に、サブ制御ユニット332による可動制御処理により、変動種別（演出パターン）として、特図変動パターン「01」～「03」の種別に応じて所定のリーチ演出パターン（ノーマルリーチ演出パターン、スーパーリーチ演出パターン、又はスペシャルリーチ演出パターン）が決定され、図柄表示部341などにおいて所定のリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。

【1331】

また、外れ変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「01」が選択された場合、サブ制御ユニット332による可動制御処理により、図柄表示部341での表示演出としてノーマルリーチ演出パターンに対応した演出が実行される場合の可動回転役物部材37の可動態様として、スーパーリーチ演出に発展しないことを告知する連続的動作として可動態様D（図129（D）参照）が決定され、図柄表示部341でのノーマルリーチ演出パターンに対応した演出の実行中に、可動回転役物部材37が、可動態様D（図129（D）参照）で動作される。

10

【1332】

また、外れ変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「02」が選択された場合、サブ制御ユニット332による可動制御処理により、図柄表示部341での表示演出としてスーパーリーチ演出パターンに対応した演出が実行される場合の可動回転役物部材37の可動態様として、スーパーリーチ演出に発展することを告知する連続的動作として可動態様A（図129（A）参照）と、スペシャルリーチ演出に発展しないことを告知する連続的動作として可動態様D（図129（D）参照）とが決定され、図柄表示部341でのノーマルリーチ演出パターンに対応した演出の実行中に、可動回転役物部材37が、可動態様A（図129（A）参照）と可動態様D（図129（D）参照）とで動作される。

20

【1333】

また、外れ変動テーブルが参照される場合に特図変動パターン「03」が選択された場合、サブ制御ユニット332による可動制御処理により、図柄表示部341での表示演出としてスペシャルリーチ演出パターンに対応した演出が実行される場合の可動回転役物部材37の可動態様として、スーパーリーチ演出に発展することを告知する連続的動作として可動態様A（図129（A）参照）と、スペシャルリーチ演出に発展することを告知する連続的動作として可動態様B（図129（B）参照）とが決定され、図柄表示部341でのノーマルリーチ演出パターンに対応した演出の実行中に、可動回転役物部材37が、可動態様A（図129（A）参照）と可動態様B（図129（B）参照）とで動作される。

30

【1334】

一方、外れ時の停止表示種別が完全外れである場合には、特図変動種別カウンタCS1の値に応じて特図変動パターン「04」又は「05」のいずれかが選択される。なお、特図変動パターン「04」が選択された場合、サブ制御ユニット332による表示制御処理により、変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が7sであるリーチなし演出パターン（7秒非リーチ演出パターン）が決定され、図柄表示部341などにおいて7秒非リーチ演出パターンに従って特図遊技演出が実行される。また、特図変動パターン「05」が選択された場合、サブ制御ユニット332による表示制御処理により、変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が10sであるリーチなし演出パターン（10秒非リーチ演出パターン）が決定され、図柄表示部341などにおいて10秒非リーチ演出パターンに従って特図遊技演出が実行される。なお、外れ時の停止表示種別が完全外れである場合には、可動回転役物部材37が可動されない。

40

【1335】

例えば、遊技機10では、特図変動パターン「04」に対応する外れ時の変動表示として、キャラクタ、メッセージなどが表示される予告演出などを伴うことなく飾り図柄の変

50

動表示が外れ図柄の組み合わせで停止表示される外れパターンの変動表示が実行される。また、遊技機 10 では、特図変動パターン「05」に対応する外れ時の変動表示として、キャラクタ、メッセージなどが表示される予告演出などを伴って飾り図柄の変動表示が外れ図柄の組み合わせで停止表示される外れパターンの変動表示が実行される。また、特図変動パターン「05」に対応する外れ時の変動表示の際には、遊技者による操作ボタン 20 の操作が反映される遊技者参加型の操作演出が予告演出として実行されることもある。

【1336】

なお、特図変動パターンの種別は、図 101 (A)、図 101 (B) 及び図 101 (C) に示す例には限定されない。

【1337】

例えば、遊技機 10 では、特図変動パターン「01」に対応するノーマルリーチ演出パターンにおいて実行されるノーマルリーチ演出として、キャラクタ、ストーリーなどが異なる複数種類のノーマルリーチ演出が用意されており、その中から選択されたいずれかのノーマルリーチ演出が実行される。

【1338】

同じく、遊技機 10 では、特図変動パターン「02」に対応するスーパーリーチ演出パターンにおいて実行されるスーパーリーチ演出として、キャラクタ、ストーリーなどが異なる複数種類のスーパーリーチ演出が用意されており、その中から選択されたいずれかのスーパーリーチ演出が実行される。スーパーリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも変動時間が長いリーチ演出であり、ノーマルリーチ演出よりも大当たり抽選での抽選結果が大当たりである確率（期待度）が高く、スペシャルリーチ演出よりも大当たり当選している確率（期待度）が低いことを遊技者に示唆する際に実行される。

【1339】

さらに、遊技機 10 では、特図変動パターン「03」に対応するスペシャルリーチ演出パターンにおいて実行されるスペシャルリーチ演出として、キャラクタ及びストーリーなどが異なる複数種類のスペシャルリーチ演出が用意されており、その中から選択されたいずれかのスペシャルリーチ演出が実行される。スペシャルリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも変動時間が長いリーチ演出であって、例えばノーマルリーチ演出又はスーパーリーチ演出から発展する演出である。スペシャルリーチ演出は、ノーマルリーチ演出やスペシャルリーチ演出よりも大当たり当選している確率（期待度）が高いことを遊技者に示唆する際に実行される。

【1340】

なお、特図変動パターンに対応する演出パターンには、遊技者による操作ボタン 20 に対する操作状況が演出に反映される操作演出、例えば単発操作が演出に反映される単発操作演出、遊技者による操作ボタン 20 の連打操作が演出に反映される連打操作演出、遊技者による操作ボタン 20 の長押し操作が演出に反映される長押し操作演出などの遊技者参加型の操作演出が含まれることがある。

【1341】

なお、本実施形態では、後述のように、16R 確変大当たりであるか否かを遊技者に告知する場合に単発操作演出が実行される。具体的には、16R 確変大当たりであることを告知するために可動回転役物部材 37 の可動態様として、可動態様 C（図 129 (C) 参照）又は可動態様 D（図 129 (D) 参照）が設定された場合、可動態様 C 及び可動態様 D の共通の動作である駆動パターン A～C の動作の実行中に設定される有効期間の終了判定条件（操作ボタン 20 の操作又は有効期間の経過）が成立したと終了判定されるまで、図柄表示部 341 において単発操作演出が実行される（図 140 (C) 参照）。

【1342】

そして、MPU 41 は、メイン表示部 36 の第 1 特別図柄表示部 362 又は第 2 特別図柄表示部 363 での特別図柄の変動表示時間（図柄表示部 341 における飾り図柄の変動表示時間）を特定すると、その特図変動表示時間、及び抽選処理による大当たり抽選の結果を示す特図変動パターンコマンドを音声ランプ制御装置 5 に入力する。具体的に、MP

10

20

30

40

50

U 4 1 は、大当たり抽選の結果が「5 R 通常大当たり」である場合は、特図変動パターン「0 1」～「0 3」の前に 5 R 通常大当たりである旨を示す「A」を付した特図変動パターンコマンド「A 0 1」～「A 0 3」のいずれかを出力する。また、M P U 4 1 は、大当たり抽選の結果が「5 R 確変大当たり」である場合は、特図変動パターン「0 1」～「0 3」の前に 5 R 確変大当たりである旨を示す「B」を付した特図変動パターンコマンド「B 0 1」～「B 0 3」のいずれかを出力する。さらに、M P U 4 1 は、大当たり抽選の結果が「1 6 R 確変大当たり」である場合は、特図変動パターン「0 1」～「0 3」の前に 1 6 R 確変大当たりである旨を示す「C」を付した特図変動パターンコマンド「C 0 1」～「C 0 3」のいずれかを出力する。また、M P U 4 1 は、大当たり抽選の結果が「外れ」である場合は、特図変動パターン「0 1」～「0 5」の前に外れである旨を示す「D」を付した特図変動パターンコマンド「D 0 1」～「D 0 5」のいずれかを出力する。即ち、特図変動パターンコマンドは、特別図柄の変動表示時間である特図変動パターン（特図遊技の時間）だけでなく、抽選処理による大当たり抽選の結果を特定する情報を含む。そして、音声ランプ制御装置 5 では、特図変動パターンコマンドに基づいて、特別図柄の変動表示時間である特図変動パターン（特図遊技の時間）だけでなく、大当たり抽選の結果を判断することが可能であり、その特別図柄の変動表示時間（特図遊技の時間）と、大当たり抽選の結果とに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などで表示される変動種別（演出パターン）や、飾り図柄の停止表示組み合わせなどの詳細を決定する。そして、音声ランプ制御装置 5 は、決定した変動種別（演出パターン）などの詳細に基づいて、図柄表示部 3 4 1 において飾り図柄を変動表示及び停止表示させると共に飾り図柄の変動表示に合わせて画像演出を実行し、さらに、飾り図柄の変動表示に合わせてスピーカ 2 6 によって音声演出を実行し、電飾部 2 7 によって電飾演出（ランプ演出）を実行させ、必要に応じて、可動回転役物部材 3 7 を所定の可動態様 A ～ D で可動させる。

10

20

30

40

50

【1 3 4 3】

このように、遊技機 1 0 では、主制御装置 4 の M P U 4 1 は、特図変動種別カウンタ C S 1 及び変動テーブルに基づいて、図柄表示部 3 4 1 における飾り図柄の変動表示時間を決定する簡易な処理を実行することになる。そのため、遊技機 1 0 の M P U 4 1 が 8 ビットマイコンで構成される場合であっても、その M P U 4 1 により安定して大当たり抽選を実行することができる。また、実際に図柄表示部 3 4 1 に表示される飾り図柄の変動態様の詳細は音声ランプ制御装置 5 で決定されるため、その変動態様としては多種多様な変動態様を選択的に実行することが可能である。

【1 3 4 4】

図 1 0 1 (A) ～ 図 1 0 1 (C) に示す変動テーブルは、各種遊技状態（通常遊技状態、時短遊技状態及び確変遊技状態）において共通に使用されるが、各種遊技状態ごとに個別に変動テーブルを設定してもよく、また高頻度サポートモード（時短遊技状態及び確変遊技状態）と低頻度サポートモードとで個別に変動テーブルを設定してもよい。また、各種遊技状態ごとやサポートモードごとに個別に変動テーブルを設定する場合、変動表示時間の平均値が、例えば通常遊技状態（低頻度サポートモード）のほうが、時短遊技状態及び確変遊技状態（高頻度サポートモード）よりも長く設定される。また、時短遊技状態と確変遊技状態とで異なる変動テーブルを設定する場合、変動表示時間の平均値は、時短遊技状態のほうが確変遊技状態よりも長く設定してもよいし、確変遊技状態のほうが時短遊技状態よりも長く設定してもよい。

【1 3 4 5】

ここで、図 1 0 2 は図 9 9 に示す主制御装置 4 の記憶領域の普図保留格納エリア 4 1 2 c の一例を示すブロック図である。図 1 0 2 に示すように、普図保留格納エリア 4 1 2 c は、普図第 1 保留エリア S E 1、普図第 2 保留エリア S E 2、普図第 3 保留エリア S E 3、普図第 4 保留エリア S E 4、普図変動保留数記憶エリア S N A 及び普図実行エリア S A E を含む。

【1 3 4 6】

普図第 1 保留エリア S E 1 ～ 普図第 4 保留エリア S E 4 は、スルーゲート 3 1 7 L , 3

17Rを遊技球が通過した場合に普図当たりであるか否かの抽選処理において実行される普図当たり抽選で用いられる普図当否情報として取得される普通当たり乱数カウンタC4、普通当たり種別乱数カウンタC5及び普図変動種別カウンタCS2を格納する記憶領域である。

【1347】

普図変動保留数記憶エリアSNAは、普図当否情報が格納されている普図第1保留エリアSE1～普図第4保留エリアSE4の数を記憶する。即ち、普図変動保留数記憶エリアSNAは、普図遊技を実行する権利の保留の数を記憶する記憶領域である。

【1348】

普図実行エリアSAEは、メイン表示部36の普通図柄表示部361において普通図柄の変動表示が開始される際に、普図第1保留エリアSE1の普図当否情報を移動させるために用いられる記憶領域である。そして、MPU41は、1回の普図遊技の開始に際して、普図実行エリアSAEに普図当否情報として記憶されている数値情報（普通当たり乱数カウンタC4、普通当たり種別乱数カウンタC5及び普図変動種別カウンタCS2の値）に基づいて、以下に説明する普図当たり当否テーブル（図103（A）及び図103（B）参照）、及び普図当たり種別振分テーブル（図103（C）及び図103（D）参照）を用いて普図当たり抽選を行い、普図変動テーブル（不図示）を用いて普通図柄に対する普図変動表示時間を決定する。このとき、普図第1保留エリアSE1に格納された普図当否情報が普図実行エリアSAEに移動された場合には、普図第2保留エリアSE2に格納された普図当否情報が普図第1保留エリアSE1にシフトされ、普図第3保留エリアSE3に格納された普図当否情報が普図第2保留エリアSE2にシフトされ、普図第4保留エリアSE4に格納された普図当否情報が普図第3保留エリアSE3にシフトされる。

【1349】

普通当たり乱数カウンタC4は、前述の図17の主タイマ割込処理のステップS1003において、例えば0～299の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。そして、普図保留格納エリア412cの普図第1保留エリアSE1～普図第4保留エリアSE4には、スルーゲート317L、317Rに遊技球が入賞したタイミングでの普通当たり乱数カウンタC4の値が格納される。また、所定のタイミングにおいて、普図保留格納エリア412cに格納された普通当たり乱数カウンタC4の値によって電動役物315bを所定時間だけ開放状態にするか否かの普図当たり抽選が行われる。

【1350】

ここで、図103（A）及び図103（B）は、普図当たり当否テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり当否テーブルとして、図103（A）に示す低頻度サポートモード普図当たり当否テーブルと、図103（B）に示す高頻度サポートモード普図当たり当否テーブルとの2種類が設定されている。即ち、本実施形態では、低頻度サポートモードと、高頻度サポートモードとで、普図当たりであるか否かの抽選処理において実行される普図当たり抽選での普図当たり確率が異なり、高頻度サポートモードのほうが低頻度サポートモードよりも普図当たり確率が高く設定されている。

【1351】

図103（A）に示す低頻度サポートモード普図当たり当否テーブルは、低頻度サポートモードである通常遊技状態における普図当たりであるか否かの抽選処理において実行される普図当たり抽選で使用されるテーブルである。図103（A）に示すように、低頻度サポートモード普図当たり当否テーブルでは、普図当たり乱数カウンタC4の値が0の場合に普図当たり、普図当たり乱数カウンタC4の値が1～299の場合に外れに設定されている。つまり、通常遊技状態（低頻度サポートモード）では、普図当たり確率が1／300に設定されており、電動役物315bの作動頻度が低くされている。

【1352】

図103（B）に示す高頻度サポートモード普図当たり当否テーブルは、高頻度サポートモードである確変遊技状態及び時短遊技状態における普図当たりであるか否かの抽選処

10

20

30

40

50

理において実行される普図当たり抽選で使用するテーブルである。図 103 (B) に示すように、高頻度サポートモード普図当たり当否テーブルでは、低頻度サポートモード普図当たり当否テーブルとは逆に、普図当たり乱数カウンタ C 4 の値が 0 の場合に外れ、普図当たり乱数カウンタ C 4 の値が 1 ~ 299 の場合に普図当たり設定されている。つまり、確変遊技状態及び時短遊技状態（高頻度サポートモード）では、普図当たり確率が $299 / 300$ に設定され、通常遊技状態（低頻度サポートモード）よりも普図当たり確率が高く設定されていると共に、電動役物 315 b の作動頻度が高くされている。

【1353】

なお、低頻度サポートモード普図当たり確率、及び高頻度サポートモード普図当たり確率は、図 103 (A) 及び図 103 (B) に示される例には限定されず適宜変更可能である。

10

【1354】

普通当たり種別乱数カウンタ C 5 は、前述の図 17 の主タイマ割込処理のステップ S 1003 において、例えば 0 ~ 199 の範囲内で順に 1 ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に 0 に戻される。そして、普図保留格納エリア 412 c の普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 には、スルーゲート 317 L, 317 R に遊技球が入賞したタイミングでの普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が格納される。また、普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 に格納された普通当たり乱数カウンタ C 4 の値が普図当たりである場合に、普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 に格納された普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値によって、普図当りの種別（短開放普図当たり及び長開放普図当たり）、即ち電動役物 315 b の開放時間が設定される。

20

【1355】

ここで、図 103 (C) 及び図 103 (D) は、普図当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり種別振分テーブルとして、図 103 (C) に示す低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルと、図 103 (D) に示す高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルとの 2 種類が設定されている。即ち、本実施形態では、低頻度サポートモードと、高頻度サポートモードとで、普図当たり種別（短開放普図当たり及び長開放普図当たり）の振り分け確率が異なる。また、本実施形態では、普図当たり遊技における第 2 入賞口 315 の最大開放時間が 2 種類設定されることで、普図当たり遊技における第 2 入賞口 315 の開閉態様（可動体である電動役物 315 b の可動態様）として終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る 2 種類の開閉態様が設定されている。もちろん、普図当たり遊技における第 2 入賞口 315 の開閉態様は 3 種類以上であってもよい。

30

【1356】

ここで、短開放普図当たりの場合には、可動体である電動役物 315 b が短時間（例えば 0.1 秒）開放されることによって始動入球部である第 2 入賞口 315 に遊技球が短時間（例えば 0.1 秒）入球可能となる短開放普図当たり遊技が実行される。この短開放普図当たり遊技では、電動役物 315 b の開放時間（例えば 0.1 秒）に対応した情報が設定され、可動体である電動役物 315 b が戻り側位置である待機位置から駆動側位置である作動位置に可動される。その後、電動役物 315 b の開放時間の経過により終了判定条件が成立していると終了判定される場合に電動役物 315 b が駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰される。短開放普図当たり遊技では、電動役物 315 b の開放時間が短いために第 2 入賞口 315 に遊技球が入球し難く、多くの場合、第 2 入賞口 315 に遊技球が入球しない。

40

【1357】

一方、長開放普図当たりの場合、可動体である電動役物 315 b が短開放普図当たり遊技よりも長時間（例えば 6 秒）開放されることによって、短開放普図当たり遊技よりも始動入球部である第 2 入賞口 315 に遊技球が長時間（例えば 6 秒）入球可能となる長開放普図当たり遊技が実行される。この長開放普図当たり遊技では、電動役物 315 b の開放

50

時間（例えば 6 秒）に対応した情報が設定され、可動体である電動役物 3 1 5 b が戻り側位置である待機位置から駆動側位置である作動位置に可動される。その後、電動役物 3 1 5 b の開放時間の経過により終了判定条件が成立していると終了判定される場合に電動役物 3 1 5 b が駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰される。長開放普図当たり遊技では、電動役物 3 1 5 b の開放時間が長いために第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球し易く、第 2 特図遊技を実行する権利を上限数（例えば 4 個）まで保留することが可能である。

【1 3 5 8】

図 1 0 3（C）に示す低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルは、低頻度サポートモードである通常遊技状態における普図当たりであるか否かの抽選処理において実行される普図当たり抽選で使用するテーブルである。図 1 0 3（C）に示すように、低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルでは、普図当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が 0 ～ 9 9 の場合に短開放普図当たり、普図当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が 1 0 0 ～ 1 9 9 の場合に長開放普図当たり設定されている。つまり、通常遊技状態（低頻度サポートモード）では、短開放普図当たりと長開放普図当たりとの振分率が 1：1 に設定されている。もちろん、通常遊技状態（低頻度サポートモード）での短開放普図当たりと長開放普図当たりとの振分率は、必ずしも 1：1 である必要はなく適宜変更可能であり、例えば長開放普図当たりの振分率をゼロ（長開放普図当たりの普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値がゼロ個）又は略ゼロ（長開放普図当たりの普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が 1 個又は 2 個）に設定することも可能である。

【1 3 5 9】

図 1 0 3（D）に示す高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルは、高頻度サポートモードである確変遊技状態及び時短遊技状態における普図当たりであるか否かの抽選処理において実行される普図当たり抽選で使用するテーブルである。図 1 0 3（D）に示すように、高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルでは、普図当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が 0 の場合に短開放普図当たり、普図当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が 1 ～ 1 9 9 の場合に長開放普図当たり設定されている。つまり、確変遊技状態及び時短遊技状態（高頻度サポートモード）では、短開放普図当たりよりも長開放普図当たりに振り分けられ易くなるように設定されている。もちろん、確変遊技状態及び時短遊技状態（高頻度サポートモード）での短開放普図当たりと長開放普図当たりとの振分率は、図 1 0 3（D）に示される例には限定されず適宜変更可能であり、例えば短開放普図当たりの振分率をゼロ（短開放普図当たりの普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値がゼロ個）に設定することも可能である。

【1 3 6 0】

なお、可動体である電動役物 3 1 5 b の可動態様は、1 回の普図当たり遊技につき 1 回には限定されず、複数回であってもよい。この場合、1 回の普図当たり遊技での電動役物 3 1 5 b の各開放の開放時間や開放間隔（開放間インターバル）は、1 種類であっても複数種であってもよい。つまり、普図当たり遊技における電動役物 3 1 5 b の可動態様は、前述の短開放及び長開放の 2 種類に限らず、種々に変更可能である。

【1 3 6 1】

普図変動種別カウンタ C S 2 は、例えば 0 ～ 9 9 の範囲内で順に 1 ずつ加算されることで、後述の図 1 0 4 のメイン処理が 1 回実行されるごとにステップ S 1 4 0 2 において少なくとも 1 回更新され、当該メイン処理内の残余時間内でもステップ S 1 4 1 4 において繰り返し更新される。そして、普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図第 1 保留エリア S E 1 ～普図第 4 保留エリア S E 4 には、始動入球部であるスルーゲート 3 1 7 L，3 1 7 R に遊技球が入賞したタイミングでの普図変動種別カウンタ C S 2 の値が格納される。また、所定のタイミングにおいて、普図保留格納エリア 4 1 2 c に格納された普図変動種別カウンタ C S 2 の値に基づいて、普図変動表示テーブル（不図示）を参照して普図変動表示時間が決定される。

【1 3 6 2】

普図変動表示テーブル（不図示）は、例えば高頻度サポートモードである場合に参照される高頻度サポートモード普図変動テーブルと、低頻度サポートモードである場合に参照される低頻度サポートモード普図変動表示テーブルとを含む。高頻度サポートモード普図変動表示テーブル及び低頻度サポートモード普図変動表示テーブルでは、例えば普図変動種別カウンタCS2の値に対応させて複数の普図変動表示時間が設定されている。また、通常、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルのほうが、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルよりも、普図変動表示時間の平均時間が短くなるように設定されている。例えば、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルに設定される一部の変動表示時間が、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルに設定される一部の変動表示時間よりも長くなるように設定してもよく、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルに設定される全ての変動表示時間が、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルに設定される全ての変動表示時間よりも長くなるように設定してもよい。

10

【1363】

なお、高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとで共通の普図変動表示テーブルを設定してもよく、高頻度サポートモード普図変動表示テーブル及び低頻度サポートモード普図変動表示テーブルのうちの少なくとも一方の普図変動表示テーブルに設定される普図変動表示時間は1種類であってもよい。また、普図変動保留数Xに応じて普図変動表示時間が設定されるようにしてもよく、例えば普図変動保留数Xが多いほど普図変動表示時間が短くなるように設定してよく、普図変動保留数Xが少ないほど普図変動表示時間が長くなるように設定してよい。

20

【1364】

また、本実施形態では、後述のように、普図当たり遊技において、可動体である電動役物315bが第2入賞口315を閉鎖する待機位置（戻り側位置）と、第2入賞口315を開放する作動位置（駆動側位置）との間で1回往復移動されるが、1回の普図当たり遊技において可動体である電動役物315bが第2入賞口315を閉鎖する待機位置（戻り側位置）と、第2入賞口315を開放する作動位置（駆動側位置）との間で複数回往復移動される連続的動作の可動態様を採用することで、普図当たり遊技に対する第2入賞口315の開閉態様（可動体である電動役物315bの可動態様）として、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る複数の開閉態様を設定することも考えられる。

【1365】

30

〔主制御装置4の処理〕

次に、図104～図115を参照しつつ、主制御装置4のMPU41によって実行される処理について説明する。具体的に、遊技機10において、MPU41は、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理、立ち上げ処理後に実行されるメイン処理、定期的に起動される主タイマ割込処理、停電時に実行されるNMI割込処理などを実行する。なお、本実施形態では、メイン処理について説明する。

【1366】

〔主制御装置4のメイン処理〕

次に、図104を参照しつつ、主制御装置4のMPU41によって実行されるメイン処理について説明する。メイン処理では普図遊技、特図遊技及び大当たり遊技の進行に対する主要な制御処理が実行される。メイン処理では、ステップS1401～S1411の処理が、例えば4msec周期の定期処理として実行され、ステップS1413及びS1414のカウンタ更新処理がステップS1401～S1411の処理の終了後から次周期までの残余時間で実行される。

40

【1367】

<ステップS1401>

図104に示すように、ステップS1401では、MPU41は、図17の主タイマ割込処理又は前回のメイン処理で設定されたコマンドなどの出力データをサブ制御ユニット332や周辺制御ユニット140などの制御装置に送信する外部出力処理を実行する。例えば、RAM412において普図変動パターンコマンド、電動役物開放コマンド、電動役

50

物閉鎖コマンド、特図変動パターンコマンド、第1特図保留コマンド、第2特図保留コマンド、特図シフトコマンド、大当たり遊技開始コマンド、オープニング開始コマンド、オープニング終了コマンド、開閉実行モード開始コマンド、ラウンド遊技開始コマンド、ラウンド遊技終了コマンド、インターバル開始コマンド、インターバル終了コマンド、開閉実行モード終了コマンド、エンディング開始コマンド、エンディング終了コマンド、大当たり遊技終了コマンド、遊技設定値変更コマンドなどのコマンドが設定されている場合には、音声ランプ制御装置5にそのコマンドを送信する。また、当該メイン処理での後述のステップS1403の賞球コマンド設定処理においてRAM412に賞球コマンドが設定されている場合には、その賞球コマンドを払出制御装置7に対して送信する。

10

【1368】

<ステップS1402>

ステップS1402では、MPU41は、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2の値を更新する。具体的には、MPU41は、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2でのカウンタ値に1を加算し、そのカウンタ値が最大値に達した場合は当該カウンタ値を0にクリアする。

【1369】

<ステップS1403>

ステップS1403では、MPU41は、払出制御装置7及びサブ制御ユニット332に出力する賞球コマンドをRAM412に設定する。具体的に、MPU41は、RAM412に記憶されている入賞検知情報に基づいて、一般入賞口313、第1入賞口314、第2入賞口315、可変入賞口316などに入賞が発生したか否かを判断する。そして、入賞が発生している場合は、その入賞に応じて払い出す賞球数を示す賞球コマンドをRAM412に設定する。このとき、MPU41は、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）では、一般入賞口313又は第1入賞口314に入賞が発生している場合に、RAM412の遊技情報格納エリア412dに格納される一般入賞口払出玉数又は第1入賞口払出玉数を、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。また、MPU41は、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）又は確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）では、第2入賞口315に入賞が発生している場合に、RAM412の遊技情報格納エリア412dに格納される第2入賞口払出玉数を、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。さらに、MPU41は、大当たり遊技状態では、可変入賞口316に入賞が発生している場合に、RAM412の遊技情報格納エリア412dに格納される可変入賞口払出玉数を、今回の入賞による払出玉数を加算した値に更新する。

20

30

【1370】

<ステップS1404>

ステップS1404では、MPU41は、普図遊技の進行を制御する普図遊技制御処理を実行する。なお、普図遊技制御処理の詳細は、図105～図107を参照して後述する。

【1371】

<ステップS1405>

ステップS1405では、MPU41は、普図当たり抽選の結果が当たりである場合に実行される普図当たり遊技の進行を制御する可動体制御処理としての普図当たり遊技制御処理を実行する。なお、普図当たり遊技制御処理の詳細は、図108を参照して後述する。

40

【1372】

<ステップS1406>

ステップS1406では、MPU41は、特図遊技の進行を制御する特図遊技制御処理を実行する。なお、特図遊技制御処理の詳細については図109～図111を参照して後述するが、特図遊技制御処理では、特別図柄の変動表示を開始する場合に、図柄表示部341における図柄変動表示に必要な特図変動パターンコマンドが設定される。このとき、

50

MPU41は、図17の主タイマ割込処理のステップS1003で更新される大当たり乱数カウンタC1、大当たり種別カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3、並びに本処理のステップS1402及びS1414で更新される特図変動種別カウンタCS1の各値に基づいて、大当たり抽選の抽選結果及び変動表示時間を示す特図変動パターンコマンドをRAM412に設定する。

【1373】

<ステップS1407>

ステップS1407では、MPU41は、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大当たり遊技の進行を制御する可動体制御処理としての大当たり遊技制御処理を実行する。なお、大当たり遊技制御処理の詳細は、図112～図115を参照して後述する。

10

【1374】

<ステップS1408>

ステップS1408では、MPU41は、各種遊技状態（通常遊技状態、時短遊技状態、確変遊技状態、確変大当たり遊技状態及び通常大当たり遊技状態）の移行を制御する遊技状態移行処理を実行する。なお、本実施形態の遊技状態移行処理は、図33及び図34を参照して説明した前述の第1の実施形態の遊技状態移行処理と同様であるため、ここでの詳細な説明は省略する。

【1375】

<ステップS1409>

ステップS1409では、MPU41は、遊技設定値変更処理を実行する。この遊技設定値変更処理では、設定値変更操作部46に対する操作に応じて設定値の表示若しくは非表示、又は遊技情報格納エリア412dに格納された遊技設定値の変更を制御する処理が実行される。なお、本実施形態の遊技設定値変更処理は、図35を参照して説明した前述の第1の実施形態の遊技設定値変更処理と同様であるため、ここでの詳細な説明は省略する。

20

【1376】

また、本実施形態では、遊技設定値変更処理がメイン処理において実行されるが、電源投入に伴い起動される立ち上げ処理、又は立ち上げ処理後から遊技球の打ち出しが開始されるまでの間に限定して実行されることも考えられる。これにより、遊技者により遊技が開始されて以降は、次の電源投入がなされるまでは遊技設定値の変更が行えないため、遊技ホールの営業時間内で遊技設定値の変更がなされることを防止できる。

30

【1377】

<ステップS1410>

ステップS1410では、MPU41は、遊技情報のうちの特定性能情報更新処理を実行する。本実施形態では、特定性能情報として、ベース情報などが更新される。なお、本実施形態の特定性能情報更新処理は、図36及び図37を参照して説明した前述の第1の実施形態の特定性能情報更新処理と同様であるため、ここでの詳細な説明は省略する。

【1378】

<ステップS1411>

ステップS1411では、MPU41は、性能表示モニタ43の表示制御処理を実行する。この性能表示モニタ43の表示制御処理では、ステップS1410の特定性能情報更新処理で更新されるベース情報を性能表示モニタ43に表示させる処理が実行される。なお、本実施形態の性能表示モニタ43の表示制御処理は、図38～図41を参照して説明した前述の第1の実施形態の性能表示モニタ43の表示制御処理と同様であるため、ここでの詳細な説明は省略する。

40

【1379】

<ステップS1412>

ステップS1412では、MPU41は、次のメイン処理の実行タイミングが到来したか否か、即ち今回のメイン処理の開始から所定時間（本実施形態では4msec）が経過

50

したか否かを判断する。ここで、MPU41は、次のメイン処理の実行タイミングが到来したと判断すると（ステップS1412：Yes）、処理をステップS1401に移行させ、前述したS1401以降の各処理を実行する。一方、MPU41は、次のメイン処理の実行タイミングが到来していないと判断すると（ステップS1412：No）、次のメイン処理の実行タイミングが到来するまでの間、即ち次のメイン処理の実行タイミングに至るまでの残余時間の間は、次のメイン処理の実行タイミングが到来したと判断するまで（ステップS1412：Yes）、ステップS1413及びステップS1414を繰り返し実行する。

【1380】

<ステップS1413>

ステップS1413では、MPU41は、大当たり乱数初期値カウンタCIN1及び普通当たり乱数初期値カウンタCIN2を更新する。具体的には、MPU41は、大当たり乱数初期値カウンタCIN1及び普通当たり乱数初期値カウンタCIN2でのカウンタ値に1を加算し、そのカウンタ値が最大値に達した場合には当該カウンタ値を0にクリアする。

【1381】

<ステップS1414>

ステップS1414では、MPU41は、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2を更新する。具体的には、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2でのカウンタ値に1を加算し、それらのカウンタ値が最大値に達した場合には当該カウンタ値を0にクリアする。そして、MPU41は、特図変動種別カウンタCS1及び普図変動種別カウンタCS2を更新した後、処理をステップS1412に戻す。

【1382】

[普図遊技制御処理]

ここで、図105は、図104のメイン処理でのステップS1404において実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図遊技制御処理では、メイン表示部36の普通図柄表示部361での普図の変動表示及び停止表示を制御する処理などが実行される。以下、図105を参照しつつ、普図遊技制御処理を説明する。

【1383】

<ステップS3201>

図105に示すように、普図遊技制御処理では、まずMPU41は、普通図柄が変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3201）。普図変動表示中フラグは、後述の図107の普図変動開始処理において、普通図柄の変動表示（普図遊技）が開始される場合にステップS3411でオンに設定され、普通図柄が停止表示（普図遊技が終了）される場合に当該普図遊技制御処理におけるステップS3210でオフに設定される。

【1384】

MPU41は、普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS3201：Yes）、即ち普図遊技の実行中である場合、処理をステップS3207に移行する。一方、MPU41は、普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS3201：No）、即ち普図遊技の実行中でない場合、処理をステップS3202に移行する。

【1385】

<ステップS3202>

普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS3201：No）、即ち普図遊技の実行中でない場合、MPU41は、可動体である電動役物315bが開放中（普図当たり遊技の実行中）であることを示す電動役物開放中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3202）。電動役物開放中フラグは、後述の図108の可動体制御処理としての普図当たり遊技制御処理において、可動体である電動役物315bを開放する場合（可動体である電動役物315bが駆動側位置である作動位置に位置された場合）にステ

10

20

30

40

50

ップS 3 5 1 1でオンに設定され、電動役物3 1 5 bを閉鎖する場合（可動体である電動役物3 1 5 bが戻り側位置である待機位置に位置された場合）にステップS 3 5 1 8でオフに設定される。

【1 3 8 6】

M P U 4 1は、電動役物開放中フラグがオンである場合（ステップS 3 2 0 2：Y e s）、即ち普図当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。一方、M P U 4 1は、電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップS 3 2 0 2：N o）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS 3 2 0 3に移行する。

【1 3 8 7】

<ステップS 3 2 0 3>

電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップS 3 2 0 2：N o）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS 3 2 0 3）。大当たり遊技中フラグは、後述の図1 1 2の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS 3 9 0 6でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップS 3 9 5 2でオフに設定される。

【1 3 8 8】

M P U 4 1は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS 3 2 0 3：Y e s）、大当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中には普図遊技が開始されない。

【1 3 8 9】

もちろん、大当たり遊技の実行中に普図遊技が開始されるようにしてもよい。この場合、大当たり遊技が開始される前のサポートモード種別（高頻度サポートモード及び低頻度サポートモードの別）に従って、即ち大当たり遊技状態に移行される前の遊技状態に従って、普図保留格納エリア4 1 2 cの普図第1保留エリアS E 1から普図実行エリアS A Eに移動された当否情報（普図当たり乱数カウンタC 4、普図当たり種別乱数カウンタC 5及び普図変動種別カウンタC S 2の値）に基づいて、普図当たり抽選に対する当否判定が実行される。つまり、大当たり遊技が実行される前の遊技状態が高頻度サポートモードである確変遊技状態又は時短遊技状態である場合、高頻度サポートモード用の普図当たり当否テーブル（図1 0 3（B）参照）、普図当たり種別テーブル（図1 0 3（D）参照）及び普図変動テーブル（不図示）に基づいて、普図当たり抽選（普図当たり又は外れ）、普図当たり種別（長開放普図当たり又は短開放普図当たり）、及び普図変動表示時間が設定される。一方、大当たり遊技が実行される前の遊技状態が低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合、低頻度サポートモード用の普図当たり当否テーブル（図1 0 3（A）参照）、普図当たり種別テーブル（図1 0 3（C）参照）及び普図変動テーブル（不図示）に基づいて、普図当たり抽選（普図当たり又は外れ）、普図当たり種別（長開放普図当たり又は短開放普図当たり）、及び普図変動表示時間が設定される。

【1 3 9 0】

一方、M P U 4 1は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS 3 2 0 3：N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS 3 2 0 4に移行する。

【1 3 9 1】

<ステップS 3 2 0 4>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS 3 2 0 3：N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1は、R A M 4 1 2の普図保留格納エリア4 1 2 cに設定される普図変動保留数記憶エリアS N Aに記憶されている普図変動保留数Xが0であるか否かを判断する（ステップS 3 2 0 4）。M P U 4 1は、普図変動保留数Xが0である場合（ステップS 3 2 0 4：Y e s）、当該普図遊技制御処理を終了し、普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS 3 2 0 4：N o）、処理をステップS 3 2 0 5に移行する。

【1 3 9 2】

10

20

30

40

50

<ステップ S 3 2 0 5>

普図変動保留数 X が 0 でない場合は（ステップ S 3 2 0 4：No）、MPU 4 1 は、普図保留格納エリア 4 1 2 c に記憶されている普図当否情報について普図データ設定処理を実行し（ステップ S 3 2 0 5）、処理をステップ S 3 2 0 6 に移行する。なお、普図データ設定処理の詳細は図 1 0 6 を参照して後述する。

【1 3 9 3】

<ステップ S 3 2 0 6>

ステップ S 3 2 0 6 では、MPU 4 1 は、普図保留格納エリア 4 1 2 c に記憶されている情報に基づく普通図柄の変動表示をメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 に実行させるための普図変動開始処理を実行し、当該普図遊技制御処理を終了する。なお、普図変動開始処理の詳細は、図 1 0 7 を参照して後述する。

10

【1 3 9 4】

<ステップ S 3 2 0 7>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 3 2 0 1：Yes）、即ち普図遊技の実行中である場合、MPU 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 2 0 7）。大当たり遊技中フラグは、後述の図 1 1 2 の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップ S 3 9 0 6 でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップ S 3 9 5 2 でオフに設定される。

20

【1 3 9 5】

MPU 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 3 2 0 7：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップ S 3 2 0 9 に移行する。一方、MPU 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 3 2 0 7：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 3 2 0 8 に移行する。

【1 3 9 6】

<ステップ S 3 2 0 8>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 3 2 0 7：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU 4 1 は、普図変動表示の開始から普図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 3 2 0 8）。即ち、MPU 4 1 は、メイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングであるか否かを判断する。

30

【1 3 9 7】

MPU 4 1 は、普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 3 2 0 8：Yes）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、処理をステップ S 3 2 0 9 に移行する。一方、MPU 4 1 は、普図変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 3 2 0 8：No）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングでない場合、当該普図遊技制御処理を終了する。

40

【1 3 9 8】

<ステップ S 3 2 0 9～S 3 2 1 1>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 3 2 0 1：Yes）に大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 3 2 0 7：Yes）、即ち普図遊技の実行中に大当たり遊技が開始される場合、又は普通図柄の普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 3 2 0 8：Yes）、即ち変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、MPU 4 1 は、当該普図遊技に対応する普図当たり抽選の結果に応じた図柄に普通図柄を停止表示させ（ステップ S 3 2 0 9）、普通図柄の変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグをオフに設定する（ステップ S 3 2 1 0）。さらに、MPU 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと、即ち普図遊技が終了したことを示す普図変動停止表示フラグをオンに設定し（ステップ S 3 2 1 1

50

）、当該普図遊技制御処理を終了する。

【1399】

なお、普図変動停止表示フラグは、後述の図108の普図当たり遊技制御処理のステップS3501において、普図当たり遊技を開始（可動体である電動役物315bを開放）するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

【1400】

また、本実施形態では、普通図柄の普図変動表示時間が経過することにより変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合に限らず、普図遊技の実行中に大当たり遊技が開始される場合には、変動表示される普通図柄が停止表示される（普図遊技が終了される）。即ち、普図遊技は、大当たり遊技が開始される場合には、普通図柄の普図変動表示時間が経過する前に強制終了される。もちろん、普図遊技は、大当たり遊技が開始される場合にも普通図柄の普図変動表示時間が経過するまで継続して実行するようにしてもよい。

【1401】

〔普図データ設定処理〕

ここで、図106は、図105のステップS3205においてMPU41によって実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図データ設定処理では、図102の主制御装置4の記憶領域における普図保留格納エリア412cの記憶内容が更新される。以下、図106を参照しつつ、普図データ設定処理を説明する。

【1402】

<ステップS3301～S3303>

図106に示すように、普図データ設定処理では、まずMPU41は、普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xを1減算し（ステップS3301）、普図第1保留エリアSE1から普図実行エリアSAEに普図当否情報を移動させる（ステップS3302）。続いて、MPU41は、普図第2保留エリアSE2～普図第4保留エリアSE4に格納されている普図当否情報を1つつシフトさせる（ステップS3303）。具体的に、ステップS3303では、普図第2保留エリアSE2の普図当否情報を普図第1保留エリアSE1に移動させ、普図第3保留エリアSE3の普図当否情報を普図第2保留エリアSE2に移動させ、普図第4保留エリアSE4の普図当否情報を普図第3保留エリアSE3に移動させる。

【1403】

〔普図変動開始処理〕

ここで、図107は、図105のステップS3206においてMPU41によって実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図変動開始処理では、普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示が開始されると共に、普図当たり抽選での抽選結果に基づいて各種のコマンドやフラグが設定される。以下、図107を参照しつつ、普図変動開始処理を説明する。

【1404】

<ステップS3401>

図107に示すように、普図変動開始処理では、MPU41は、高頻度サポートモード（確変遊技状態又は時短遊技状態）であることを示す高頻度サポートモードフラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3401）。高頻度サポートモードフラグは、前述の遊技状態移行処理において、大当たり遊技が終了する場合に図34のステップS2313でオンに設定され、遊技状態が確変遊技状態又は時短遊技状態から確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行する場合に図33のステップS2307で、又は遊技状態が時短遊技状態から通常遊技状態に移行する場合に図34のステップS2326でオフに設定される。

【1405】

MPU41は、高頻度サポートモードフラグがオンである場合（ステップS3401：Yes）、即ち高頻度サポートモードである確変遊技状態又は時短遊技状態である場合、

処理をステップ S 3 4 0 2 に移行し、高頻度サポートモードフラグがオフである場合（ステップ S 3 4 0 1：No）、即ち低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合、処理をステップ S 3 4 0 3 に移行する。

【1 4 0 6】

<ステップ S 3 4 0 2 及び S 3 4 0 3>

高頻度サポートモードである確変遊技状態又は時短遊技状態である場合（ステップ S 3 4 0 1：Yes）、MPU 4 1 は、高頻度サポートモードに基づく普図当たり当否判定を行う（ステップ S 3 4 0 2）。具体的には、MPU 4 1 は、高頻度サポートモード普図当たり当否テーブル（図 1 0 3（B）参照）及び高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル（図 1 0 3（D）参照）に基づいて、普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図実行エ

10

リア S A E に格納された普図当否情報に数値情報として含まれる普通当たり乱数カウンタ C 4 及び普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が普図当たりに対応する値であるか否かの当否判定を行う。つまり、MPU 4 1 は、高頻度サポートモードである場合、高頻度サポートモード普図当たり当否テーブル及び高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルに基づいて、普図当たりであるか否かを判定する抽選処理を実行する。

【1 4 0 7】

一方、低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合（ステップ S 3 4 0 1：No）、低頻度サポートモードに基づく普図当たり当否判定を行う（ステップ S 3 4 0 3）。具体的には、MPU 4 1 は、低頻度サポートモード普図当たり当否テーブル（図 1 0 3（A）参照）及び低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル（図 1 0 3（C）参照）に基づいて、普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図実行エリア S A E に格納された普図当否情報に数値情報として含まれる普通当たり乱数カウンタ C 4 及び普通当たり種別乱数カウンタ C 5 が普図当たり当選に対応する値であるか否かの当否判定を行う。つまり、MPU 4 1 は、低頻度サポートモードである場合、低頻度サポートモード普図当たり当否テーブル及び低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブルに基づいて、普図当たりであるか否かを判定する抽選処理を実行する。

20

【1 4 0 8】

<ステップ S 3 4 0 4 及び S 3 4 0 5>

MPU 4 1 は、普図当たりであるか否かの判定する抽選処理による普図当たりの当否判定を行った場合（ステップ S 3 4 0 2 又は S 3 4 0 3）、当否判定の結果が、始動入球部である第 2 入賞口 3 1 5 が長開放される長開放普図当たりであるか否かを判断する（ステップ S 3 4 0 4）。MPU 4 1 は、当否判定の結果が長開放普図当たりである場合（ステップ S 3 4 0 4：Yes）、当否判定の結果が長開放普図当たりであることを示す長開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 3 4 0 5）、処理をステップ S 3 4 0 8 に移行する。一方、MPU 4 1 は、当否判定の結果が長開放普図当たりでない場合（ステップ S 3 4 0 4：No）、処理をステップ S 3 4 0 6 に移行する。

30

【1 4 0 9】

<ステップ S 3 4 0 6 及び S 3 4 0 7>

当否判定の結果が長開放普図当たりでない場合（ステップ S 3 4 0 4：No）、MPU 4 1 は、当否判定の結果が、始動入球部である第 2 入賞口 3 1 5 が短開放される短開放普図当たりであるか否かを判断する（ステップ S 3 4 0 6）。MPU 4 1 は、当否判定の結果が短開放普図当たりである場合（ステップ S 3 4 0 6：Yes）、当否判定の結果が短開放普図当たりであることを示す短開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 3 4 0 7）、処理をステップ S 3 4 0 8 に移行する。一方、MPU 4 1 は、当否判定の結果が短開放普図当たりでない場合（ステップ S 3 4 0 6：No）、即ち当否判定の結果が外れである場合、処理をステップ S 3 4 0 8 に移行する。

40

【1 4 1 0】

<ステップ S 3 4 0 8 及び S 3 4 0 9>

長開放普図当たりフラグがオンに設定された場合（ステップ S 3 4 0 5）、短開放普図当たりフラグがオンに設定された場合（ステップ S 3 4 0 7）、又は当否判定の結果が外

50

れである場合（ステップS3406：No）、MPU41は、普図遊技におけるメイン表示部36の普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示時間である普図変動パターンを、普図変動表示テーブル（不図示）を参照して設定する普図変動パターン設定処理を実行する。普図変動表示テーブル（不図示）は、前述のように、高頻度サポートモードである場合に参照される高頻度サポートモード普図変動テーブルと、低頻度サポートモードである場合に参照される低頻度サポートモード普図変動表示テーブルとを含む。そのため、当該普図変動パターン設定処理では、サポートモード種別に応じた普図変動表示テーブルに基づいて普図変動パターンが設定される。なお、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルのほうが、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルよりも、普通図柄の変動表示時間の平均時間が短くなるように設定されているため、高頻度サポートモードでは、低頻度サポートモードに比べて普図遊技が実行される時間が短くなる。

10

【1411】

そして、MPU41は、ステップS3408で設定される普図変動パターンに加え、ステップS3402又はS3403での普図当たりであるか否かの判定する抽選処理による当否判定の結果（普図当たり抽選の結果）と、サポートモードの種別（高頻度サポートモード及び低頻度サポートモードの別）とを音声ランプ制御装置5に通知するための普図変動パターンコマンドを設定し（ステップS3409）、処理をステップS3410に移行する。

【1412】

なお、普図変動パターンコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これに対して、音声ランプ制御装置5では、普図変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部341などに対して普図遊技に対応した演出、例えば普図遊技が実行されていることを示す演出や普図当たり抽選の結果を示す演出を実行させる。

20

【1413】

また、普図変動パターンコマンドは、少なくとも普図変動パターンを音声ランプ制御装置5に通知するコマンドであればよく、普図当たり抽選の結果やサポートモードの種別は、必ずしも普図変動パターンコマンドとして音声ランプ制御装置5に通知する必要はない。例えば、普図当たり抽選の結果は、ステップS3402又はS3403において当否判定を行った場合に普図当たり抽選結果コマンドを設定することで、サポートモードの種別は、高頻度サポートモード又は低頻度サポートモードに移行された場合に、移行後のサポートモードの種別を識別可能なサポートモード種別コマンドを設定することで、音声ランプ制御装置5に通知するようにしてもよい。

30

【1414】

<ステップS3410及びS3411>

ステップS3410では、MPU41は、メイン表示部36の普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示を開始する（ステップS3410）。そして、MPU41は、普通図柄が変動表示されていること、即ち普図遊技が実行されていることを示す普図変動表示中フラグをオンに設定し（ステップS3411）、当該普図変動開始処理を終了する。

【1415】

なお、普図変動表示中フラグは、図105の普図遊技制御処理でのステップS3201において、普図遊技の実行中（普通図柄の変動表示中）であるかを判断するために参照される。

40

【1416】

〔普図当たり遊技制御処理〕

ここで、図108は、図104のメイン処理でのステップS1405において実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図当たり遊技制御処理では、普図当たりであるか否かの判定する抽選処理による普図当たり抽選の結果が当たりである場合に、可動体である電動役物315bの連続的動作による開閉制御を行うことによって始動入球部である第2入賞口315への遊技球の入球を許容する許容状態と

50

制限する制限状態とを切り替える可動体制御処理が実行される。以下、図 108 を参照しつつ、普図当たり遊技制御処理を説明する。

【1417】

<ステップ S3501>

図 108 に示すように、普図当たり遊技制御処理では、まず MPU41 は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S3501）。即ち、MPU41 は、可動体である電動役物 315b に連続的動作を実行させる普図当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。なお、普図変動停止表示フラグは、図 105 の普図遊技制御処理において普通図柄が停止表示される場合にステップ S3211 でオンに設定される。

10

【1418】

MPU41 は、普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S3501：Yes）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップ S3502 に移行する。一方、MPU41 は、普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップ S3501：No）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理をステップ S3513 に移行する。

【1419】

<ステップ S3502>

普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S3501：Yes）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、MPU41 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S3502）。大当たり遊技中フラグは、後述の図 112 の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップ S2906 でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップ S3952 でオフに設定される。

20

【1420】

MPU41 は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S3502：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技が開始されることで強制終了される場合には、当該普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合であっても普図当たり遊技が開始されない。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中は普図当たり遊技が開始されることはない。もちろん、大当たり遊技の実行中に新たな普図遊技を開始させてもよい。

30

【1421】

一方、MPU41 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S3502：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S3503 に移行する。

【1422】

<ステップ S3503>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S3502：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S3503）。長開放普図当たりフラグは、普図当たりであるか否かの判定する抽選処理による普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合に、図 107 の普図変動開始処理のステップ S3405 においてオンに設定される。即ち、MPU41 は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであるか否かを判断する。MPU41 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S3503：Yes）、処理をステップ S3504 に移行し、長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S3503：No）、処理をステップ S3506 に移行する。

40

【1423】

<ステップ S3504 及び S3505>

50

長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 5 0 3 : Y e s）、即ち終了した普図遊技に対する抽選処理による普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合、M P U 4 1 は、可動体制御処理として、長開放普図当たり遊技における電動役物 3 1 5 b の開放時間（第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球可能時間）である 6 秒に対応する情報に基づいて、可動体である電動役物 3 1 5 b の可動態様として長開放を実行するために開放時間カウンタの値としてセットする処理を実行する（ステップ S 3 5 0 4）。開放時間カウンタは、駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 5 1 5 において参照される。そして、M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップ S 3 5 0 5）、処理をステップ S 3 5 0 9 に移行する。

10

【 1 4 2 4 】

<ステップ S 3 5 0 6>

長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 5 0 3 : N o）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりでない場合、M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 5 0 6）。短開放普図当たりフラグは、普図当たりであるか否かの判定する抽選処理による普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合に、図 2 4 の普図変動開始処理のステップ S 1 7 0 7 においてオンに設定される。即ち、M P U 4 1 は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 5 0 6 : Y e s）、処理をステップ S 3 5 0 7 に移行し、短開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 5 0 6 : N o）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が外れである場合、処理をステップ S 3 5 1 2 に移行する。

20

【 1 4 2 5 】

<ステップ S 3 5 0 7 及び S 3 5 0 8>

短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 5 0 6 : Y e s）、即ち終了した普図遊技に対する抽選処理による普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合、M P U 4 1 は、可動体制御処理として、短開放普図当たり遊技における電動役物 3 1 5 b の開放時間（第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球可能時間）である 0 . 1 秒に対応する情報に基づいて、可動体である電動役物 3 1 5 b の可動態様として短開放を実行するために開放時間カウンタの値としてセットする処理を実行する（ステップ S 3 5 0 7）。開放時間カウンタは、駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理のステップ S 3 5 1 5 において参照される。そして、M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップ S 3 5 0 8）、処理をステップ S 3 5 0 9 に移行する。

30

【 1 4 2 6 】

<ステップ S 3 5 0 9 ~ S 3 5 1 1>

抽選処理による普図当たり抽選の結果が当たりである場合に普図当たり種別を示すフラグ（長開放普図当たりフラグ又は短開放普図当たりフラグ）をオフに設定した場合（ステップ S 3 5 0 5 又は S 3 5 0 8）、M P U 4 1 は、戻り側位置である待機位置から駆動側位置である作動位置に可動体である電動役物 3 1 5 b を作動させる可動体制御処理を実行する（ステップ S 3 5 0 9）。これにより、始動入球部である第 2 入賞口 3 1 5 を開放し、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を許容する許容状態とする。そして、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b が開放されていることを音声ランプ制御装置 5 に通知する電動役物開放コマンドを設定すると共に（ステップ S 3 5 1 0）、電動役物 3 1 5 b が開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオンに設定し（ステップ S 3 5 1 1）、処理をステップ S 3 5 1 2 に移行する。

40

【 1 4 2 7 】

なお、電動役物開放コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1

50

04参照)のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これより、音声ランプ制御装置5は、電動役物開放コマンドに基づいて、例えば図柄表示部341などに対して電動役物315bが開放されていることを示す演出を開始させることができる。

【1428】

<ステップS3512>

抽選処理による普図当たり抽選の結果が当たりである場合に可動体である電動役物315bを開放させる可動体制御処理などを実行した場合(ステップS3503~S3511)、又は長開放普図当たりフラグ及び短開放普図当たりフラグが共にオフに設定されている場合(抽選処理による普図当たり抽選の結果が外れである場合)(ステップS3503及びステップS3506が共にNo)、MPU41は、普通図柄が停止表示されたこと(普図遊技が終了したこと)を示す普図変動停止表示フラグをオフに設定し(ステップS3512)、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

10

【1429】

<ステップS3513>

普図変動停止表示フラグがオフである場合(ステップS3501:No)、MPU41は、当該普図当たり遊技制御処理のステップS3511において電動役物315bを開放させた場合にオンに設定される電動役物開放中フラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS3513)。即ち、MPU41は、普図当たり遊技が実行中であるか否かを判断する。MPU41は、電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合(ステップS3513:Yes)、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、処理をステップS3514に移行する。一方、MPU41は、電動役物開放中フラグがオフに設定されている場合(ステップS3513:No)、即ち普図当たり遊技が実行中でない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

20

【1430】

<ステップS3514及びS3515>

電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合(ステップS3513:Yes)、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、MPU41は、当該普図当たり遊技制御処理のステップS3504又はS3507においてセットされる開放時間カウンタの値から1減算し(ステップS3514)、減算後の開放時間カウンタの値が0であるか否かを判断する(ステップS3515)。即ち、MPU41は、可動体制御処理として、終了判定条件の成立により、可動体である電動役物315bを駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰させるタイミングであるか否かの終了判定を行う。

30

【1431】

MPU41は、減算後の開放時間カウンタの値が0である場合(ステップS3515:Yes)、即ち電動役物315bを戻り側位置である待機位置に復帰させるタイミングである場合、処理をステップS3516に移行する。一方、MPU41は、減算後の開放時間カウンタの値が0でない場合(ステップS3515:No)、即ち電動役物315bを戻り側位置である待機位置に復帰させるタイミングでない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

40

【1432】

<ステップS3516~S3518>

減算後の開放時間カウンタの値が0である場合(ステップS3515:Yes)、即ち電動役物315bを戻り側位置である待機位置に復帰させるタイミングである場合、MPU41は、可動体である電動役物315bを駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰させる(ステップS3516)。これにより、始動入球部である第2入賞口315が閉鎖され、第2入賞口315への遊技球の入球が制限される。そして、MPU41は、電動役物315bの閉鎖されたことを音声ランプ制御装置5に通知する電動役物閉鎖コマンドを設定すると共に(ステップS3517)、電動役物315bが開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオフに設定し(ステップS3518)、当該

50

普図当たり遊技制御処理を終了する。

【1433】

なお、電動役物閉鎖コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、電動役物閉鎖コマンドに基づいて、例えば図柄表示部341などにおいて実行される電動役物が開放されていることを示す演出を終了させることができる。

【1434】

また、本実施形態では、1回の普図当たり遊技において可動体である電動役物315bを駆動側位置に1回だけ駆動される場合（第2入賞口315が1回開放される場合）について説明したが、1回の普図当たり遊技において電動役物315bを駆動側位置に複数回駆動されてもよく（第2入賞口315が複数回開放されてもよく）、この場合には、第2入賞口315の閉鎖時（可動体としての電動役物315bが戻り側位置である待機位置にある場合）に普図当たり遊技を終了させる終了判定条件が成立しているかの終了判定が行われ、第2入賞口315の開放時に普図当たり遊技の終了判定条件を設定して第2入賞口315の開放時に終了判定を実行しない。これは、第2入賞口315の開放中は普図当たり遊技を終了することができないので、制御上、普図当たり遊技が終了しているのに第2入賞口315が開放されることになり、不具合が生じるためである。また、この不具合を制御で対応すると無駄な制御が増えてしまう。そのため、第2入賞口315の閉鎖時（可動体としての電動役物315bが戻り側位置である待機位置にある場合）に普図当たり遊技を終了させる終了判定条件が成立しているかの終了判定を行うことで、効率良く可動体である電動役物315bの可動制御及び終了制御を実行することが可能になる。もちろん、1回の普図当たり遊技において可動体である電動役物315bを駆動側位置に1回だけ駆動される場合においても、第2入賞口315の閉鎖時に普図当たり遊技を終了させる終了判定条件が成立しているかの終了判定を行うようにしてもよい。

【1435】

〔特図遊技制御処理〕

ここで、図109は、図104のメイン処理でのステップS1406において実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技制御処理では、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの記憶内容が更新されると共に、第1特図遊技又は第2特図遊技の進行の制御、例えば第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示及び停止表示が制御される。以下、図109を参照しつつ、特図遊技制御処理を説明する。

【1436】

<ステップS3601>

図109に示すように、ステップS3601では、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、後述の図112の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS3906でオンに設定されると共に、大当たり遊技が終了する場合にステップS3552でオフに設定される。

【1437】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS3601：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もちろん、大当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。

【1438】

一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3601：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS3602に移行する。

【1439】

<ステップS3602>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 0 1 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技の実行中）であることを示す特図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 6 0 2）。特図変動表示中フラグは、後述の図 1 1 1 の特図変動開始処理において第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示が開始される場合にステップ S 3 8 0 7 でオンに設定され、当該特図遊技制御処理において第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が停止表示される場合にステップ S 3 6 0 9 でオフに設定される。

【 1 4 4 0 】

M P U 4 1 は、特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 0 2 : Y e s）、即ち特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、処理をステップ S 3 6 0 6 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 0 2 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、処理をステップ S 3 6 0 3 に移行する。

10

【 1 4 4 1 】

<ステップ S 3 6 0 3 >

特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 0 2 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、M P U 4 1 は、特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 1 特図保留数記憶エリア N A A に記憶されている第 1 特図保留数 N、及び第 2 特図保留数記憶エリア N A B に記憶されている第 2 特図保留数 M の両方が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 6 0 3）。

20

【 1 4 4 2 】

M P U 4 1 は、第 1 特図保留数 N 及び第 2 特図保留数 M の両方が 0 である場合（ステップ S 3 6 0 3 : Y e s）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のいずれもない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、第 1 特図保留数 N 及び第 2 特図保留数 M のいずれか一方が 0 でない場合は（ステップ S 3 6 0 3 : N o）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、処理をステップ S 3 6 0 4 に移行する。

【 1 4 4 3 】

<ステップ S 3 6 0 4 >

第 1 特図保留数 N 及び第 2 特図保留数 M のいずれか一方が 0 でない場合は（ステップ S 3 6 0 3 : N o）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、M P U 4 1 は、特図保留格納エリア 4 1 2 b に記憶されている特図当否情報のデータ（特図データ）に関する特図データ設定処理を実行し（ステップ S 3 6 0 4）、処理をステップ S 3 6 0 5 に移行する。なお、特図データ設定処理の詳細は、図 1 1 0 を参照して後述する。

30

【 1 4 4 4 】

<ステップ S 3 6 0 5 >

ステップ S 3 6 0 5 では、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄表示部 3 6 2 での第 1 特別図柄、又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での第 2 特別図柄の変動表示を開始（第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技を実行）させるための特図変動開始処理を実行し、当該特図遊技制御処理を終了する。なお、特図変動開始処理の詳細は、図 1 1 1 を参照して後述する。

40

【 1 4 4 5 】

<ステップ S 3 6 0 6 >

特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 0 2 : Y e s）、即ち第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特図遊技の変動表示の開始から、後述の図 1 1 1 の特図変動開始処理でのステップ S 3 8 0 4 の特図変動パターン設定処理で設定される第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄に対する特図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 3 6 0 6）。即ち、M P U 4 1 は、変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させる

50

タイミングであるか否かを判断する。

【1446】

第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から特図変動表示時間が経過した場合（ステップS3606：Yes）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、処理をステップS3607に移行する。一方、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過していない場合（ステップS3606：No）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

【1447】

<ステップS3607～S3609>

第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過した場合（ステップS3606：Yes）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、MPU41は、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において、当該特図遊技に対応する大当たり抽選の結果に応じた態様で特別図柄を停止表示させる（ステップS3607）。そして、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグをオンに設定すると共に（ステップS3608）、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオフに設定し（ステップS3609）、当該特図遊技制御処理を終了する。

【1448】

〔特図データ設定処理〕

ここで、図110は、図109のステップS3604においてMPU41によって実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図データ設定処理では、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの記憶内容が更新される。以下、図110を参照しつつ、特図データ設定処理を説明する。

【1449】

<ステップS3701>

図110に示すように、ステップS3701では、MPU41は、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが0であるか否かを判断する。MPU41は、第2特図保留数Mが0である場合（ステップS3701：Yes）、即ち第2特図遊技に対する第2特図保留がなく第1特図遊技に対する第1特図保留がある場合（図109の特図遊技制御処理でのステップS3603参照）、処理をステップS3702に移行する。一方、MPU41は、第2特図保留数Mが0でない場合（ステップS3701：No）、即ち第2特図遊技に対する第2特図保留がある場合、処理をステップS3705に移行する。つまり、MPU41は、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが0であるか否かを判断することで、第1特図遊技よりも第2特図遊技を優先して開始させる。

【1450】

なお、本実施形態では、第2特図遊技が第1特図遊技よりも優先して開始されるが、第1特図遊技が第2特図遊技よりも優先して開始されるようにしてもよく、また、始動入球部である第1入賞口314又は第2入賞口315に対する遊技球の入球順（保留順）に特図遊技を開始させ、第1特図遊技及び第2特図遊技のいずれか一方が実行されるようにしてもよい。また、第1特図遊技と第2特図遊技との開始に優先順位を設けることなく、第1特図遊技と第2特図遊技とが互いに独立して実行され、第1特図遊技と第2特図遊技とが同時に実行され得るようにしてもよい（いわゆる特図の同時変動）。

【1451】

<ステップS3702～S3704>

第2特図保留数Mが0である場合（ステップS3701：Yes）、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数Nを1減算し（ステップS3702）、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1から特図実行エリアAEに特図当否情報を移動させる（ステップS37

10

20

30

40

50

03)。続いて、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2～第4保留エリアREA4の特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS3704）。具体的に、ステップS3704では、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2の特図当否情報を第1保留エリアREA1に移動させ、第3保留エリアREA3の特図当否情報を第2保留エリアREA2に移動させ、第4保留エリアREA4の特図当否情報を第3保留エリアREA3に移動させる。MPU41は、ステップS3704の処理が終了した場合、処理をステップS3708に移行する。

【1452】

<ステップS3705～S3707>

第2特図保留数Mが0でない場合（ステップS3701：No）、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mを1減算し（ステップS3705）、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1から特図実行エリアAEに特図当否情報を移動させる（ステップS3706）。続いて、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2保留エリアREB2～第4保留エリアREB4の特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS3707）。具体的に、ステップS3707では、第2保留エリアREB2の特図当否情報を第1保留エリアREB1に移動させ、第3保留エリアREB3の特図当否情報を第2保留エリアREB2に移動させ、第4保留エリアREB4の特図当否情報を第3保留エリアREB3に移動させる。MPU41は、ステップS3707の処理が終了した場合、処理をステップS3708に移行する。

【1453】

<ステップS3708>

ステップS3708では、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4の特図当否情報がシフトした旨を示す特図シフトコマンドをRAM412に設定し、当該特図データ設定処理を終了する。この特図シフトコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図シフトコマンドに基づいて、図柄表示部341に表示される第1特図保留や第2特図保留に対応させた保留表示の表示数などを変更することができる。

【1454】

〔特図変動開始処理〕

ここで、図111は、図109のステップS3605においてMPU41によって実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図変動開始処理では、第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示の開始により第1特別遊技又は第2特図遊技（特図遊技）が開始され、特図遊技の開始に伴う各種処理が実行される。以下、図111を参照しつつ、特図変動開始処理を説明する。

【1455】

<ステップS3801>

図111に示すように、ステップS3801では、MPU41は、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態であるか否かを判断する。高確率モードであるか否かは、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態であることを示す確変遊技状態フラグがオンに設定されているか否かによって判断される。確変遊技状態フラグは、前述の遊技状態移行処理において、図34のステップS2317で遊技状態が確変大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行される場合にオンに設定され、図33のステップS2309で遊技状態が確変遊技状態から確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行される場合にオフに設定される。

【1456】

MPU41は、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態である場合（ステップS3

10

20

30

40

50

801: Yes)、処理をステップS3802に移行し、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態でない場合(ステップS3801: No)、即ち遊技状態が低確率モードである時短遊技状態又は通常遊技状態である場合、処理をステップS3803に移行する。

【1457】

＜ステップS3802及びS3803＞

遊技状態が高確率モードである確変遊技状態である場合(ステップS3801: Yes)、MPU41は、前述の図35の遊技設定値変更処理でのステップS2410において遊技設定値に応じて保存される高確率モード当否テーブル(図100(B)参照)を読み出し、その高確率モード当否テーブルに基づいて当否判定を実行する(ステップS3802)。

10

【1458】

一方、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態でない場合(ステップS3801: No)、即ち遊技状態が低確率モードである時短遊技状態又は通常遊技状態である場合、MPU41は、前述の図35の遊技設定値変更処理でのステップS2410において、遊技設定値に応じて保存される低確率モード当否テーブル(図100(A)参照)を読み出し、その低確率モード当否テーブルに基づいて当否判定を実行する(ステップS3803)。

【1459】

なお、ステップS3802及びS3803では、前述の図35の遊技設定値変更処理でのステップS2410において遊技設定値に応じて保存される高確率モード当否テーブル又は低確率モード当否テーブルに基づいて当否判定が実行されるが、ステップS3802及びS3803において、前述の図35の遊技設定値変更処理におけるステップS2408で保存される遊技設定値を読み出した上で、その遊技設定値に応じた高確率モード当否テーブル又は低確率モード当否テーブルを逐一選択して当否判定を行ってもよい。

20

【1460】

＜ステップS3804＞

ステップS3802又はS3803において当否判定を行った場合、MPU41は、当該特図遊技におけるメイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363での第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとして設定する(ステップS3804)。

30

【1461】

なお、第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示時間(特図変動パターン)は、ステップS3802又はS3803での当否判定の結果が通常大当たりである場合には、特図変動種別カウンタCS1と通常大当たり変動テーブル(図101(A)参照)とに基づいて設定され、ステップS3802又はS3803での当否判定の結果が確変大当たりである場合には、特図変動種別カウンタCS1と確変大当たり変動テーブル(図101(B)参照)とに基づいて設定され、ステップS3802又はS3803での当否判定の結果が外れである場合には、特図変動種別カウンタCS1と外れ変動テーブル(図101(C)参照)とに基づいて設定される。

【1462】

40

＜ステップS3805＞

ステップS3805では、MPU41は、ステップS3802又はS3803での当否判定の結果である当該特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップS3804で設定された特図変動パターンを含む特図変動パターンコマンドをRAM412に設定し、処理をステップS3806に移行する。特図変動パターンコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理(図104参照)のステップS1401において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部341などでの特図遊技演出を実行することができる。

【1463】

50

なお、前述したように、MPU41は、大当たり抽選の結果が「通常大当たり」である場合、特図変動パターン「01」～「03」に5R通常大当たりである旨を示す「A」を付した「A01」～「A03」のいずれかを特図変動パターンコマンドとしてRAM412に設定する。また、MPU41は、大当たり抽選の結果が「5R確変大当たり」である場合、特図変動パターン「01」～「03」に5R確変大当たりである旨を示す「B」を付した「B01」～「B03」のいずれかを特図変動パターンコマンドとしてRAM412に設定する。さらに、MPU41は、大当たり抽選の結果が「16R確変大当たり」である場合、特図変動パターン「01」～「03」に16R確変大当たりである旨を示す「C」を付した「C01」～「C03」のいずれかを特図変動パターンコマンドとしてRAM412に設定する。また、MPU41は、大当たり抽選の結果が「外れ」である場合、特図変動パターン「01」～「08」に外れである旨を示す「D」を付した「D01」～「D08」のいずれかを特図変動パターンコマンドとしてRAM412に設定する。また、MPU41は、大当たり抽選の結果が「外れ」である場合、外れ種別（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れ）を示す情報を特図変動パターンコマンドに含ませる。

10

【1464】

<ステップS3806>

ステップS3806では、MPU41は、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363での特別図柄の変動表示を開始させることで特図遊技を開始させ、処理をステップS3807に移行する。

【1465】

20

なお、MPU41は、特別図柄の変動表示を開始させた場合、RAM412に設定される遊技情報格納エリア412dに保存された「累積大当たり抽選回数」に1加算する。さらに、MPU41は、ステップS3803での低確率モード当否テーブルに基づく当否判定の結果が外れである場合、遊技情報格納エリア412dに保存された「連続外れ回数」に1加算し、当否結果が大当たりである場合に「連続外れ回数」を0回にクリアする。

【1466】

<ステップS3807>

ステップS3807では、MPU41は、特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定し、処理をステップS3808に移行する。特図変動表示中フラグは、図109の特図遊技制御処理におけるステップS3602において、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）であるか否かを判断するために参照される。

30

【1467】

<ステップS3808>

ステップS3808では、MPU41は、特別図柄が変動停止（特図遊技が終了）されたことを示す特図変動停止フラグをオフに設定し、処理をステップS3809に移行する。特図変動停止フラグは、図109の特図遊技制御処理におけるステップS3608においてメイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363が停止表示される場合にオンに設定され、後述の図112の大当たり遊技制御処理のステップS3902において大当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断するために参照される。

40

【1468】

<ステップS3809>

ステップS3809では、MPU41は、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）であることを示す時短遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。時短遊技状態フラグは、前述の遊技状態移行処理において、図34のステップS2321で通常大当たり遊技が終了する場合にオンに設定され、図33のステップS2310又は図34のステップS2325で遊技状態が時短遊技状態から大当たり遊技状態又は通常遊技状態に移行される場合にオフに設定される。

50

【1469】

MPU41は、時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS3809：Yes）、即ち時短遊技状態である場合、処理をステップS3810に移行する。一方、MPU41は、時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3809：Yes）、即ち時短遊技状態でない場合、当該特図変動開始処理を終了する。

【1470】

<ステップS3810>

時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS3809：Yes）、即ち時短遊技状態である場合、MPU41は、時短遊技状態で実行可能な特図遊技の残り回数を示す時短回数カウンタの値から1減算し（ステップS3810）、当該特図変動開始処理を終了する。なお、時短回数カウンタは、前述の図34の遊技状態移行処理でのステップS2320において、遊技状態が大当たり遊技状態から時短遊技状態に移行される場合にセットされる。

10

【1471】

なお、本実施形態では、時短回数カウンタが、遊技状態が大当たり遊技状態から時短遊技状態に移行される場合にセットされるが、時短回数カウンタは、遊技状態が大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行される場合にセットされる場合にもセットされるようにしてもよい。即ち、確変遊技状態において実行される最大特図遊技回数を有限回に設定することで、当該遊技機10を、いわゆるST機として構成することもできる。

20

【1472】

また、当該遊技機10は、大当たり抽選での抽選結果が通常大当たりであることに基いて実行される通常大当たり遊技が終了する場合、大当たり遊技状態から時短遊技状態に移行することなく通常遊技状態に移行するように設定することも可能であり、この場合には、通常大当たり遊技の終了後には時短回数カウンタはセットされない。

【1473】

[大当たり遊技制御処理]

ここで、図112～図115は、図104のメイン処理でのステップS1407において実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。大当たり遊技制御処理では、可変入賞口316に設けられる可動体である開閉扉319を開閉する可動体制御処理などの大当たり遊技の進行を制御する処理が実行される。以下、図112～図115を参照しつつ、大当たり遊技制御処理を説明する。

30

【1474】

<ステップS3901>

図112に示すように、ステップS3901では、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技を開始する場合に当該大当たり遊技制御処理のステップS3906においてオンに設定され、大当たり遊技を終了する場合に当該大当たり遊技制御処理のステップS3952においてオフに設定される。

【1475】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS3901：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップS3911に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3901：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS3902に移行する。

40

【1476】

<ステップS3902>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3901：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンであるか否かを判断する。特図変動停止フラグは、特別図柄が停止表示された場合に、図109の特図遊技制御処理でのステップS3608においてオンに設定され、特別図柄の変動表示が開始された場合に、図111の特図変動開始処理でのステッ

50

ブ S 3 8 0 8 においてオフに設定される。即ち、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中ではない場合に開始された特図遊技が終了したか否かを判断することで、大当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。

【 1 4 7 7 】

M P U 4 1 は、特図変動停止フラグがオンである場合（ステップ S 3 9 0 2 : Y e s）、即ち特別図柄が停止表示されたために大当たり遊技を開始可能である場合、処理をステップ S 3 9 0 3 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特図変動停止フラグがオフである場合（ステップ S 3 9 0 2 : N o）、即ち特別図柄が変動表示中であるために大当たり遊技を開始できない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【 1 4 7 8 】

なお、本実施形態では、特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合には大当たり遊技が開始（実行）されないが、特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）に大当たり遊技が開始（実行）可能としてもよい。例えば、第 1 特図の変動表示中に大当たり遊技が開始（実行）され、これとは逆に、第 2 特図の変動表示中に大当たり遊技が開始（実行）されるようにしてもよい。具体的には、前述のように第 1 特図と第 2 特図との同時変動に変更可能とすることで、第 1 特図遊技に対する大当たり遊技の実行中に第 2 特図遊技が実行され、第 2 特図遊技に対する大当たり遊技の実行中に第 1 特図遊技が実行されるようにしてもよい。さらに、第 1 特図遊技に対する大当たり遊技と、第 2 特図遊技に対する大当たり遊技とが同時実行されるようにしてもよいし、第 1 特図遊技に対する大当たり遊技及び第 2 特図遊技に対する大当たり遊技のうちの一方の大当たり遊技の実行中に他方の大当たり遊技の開始条件が成立する場合に、一方の大当たり遊技の終了後に他方の大当たり遊技が開始されるようにしてもよい。

【 1 4 7 9 】

<ステップ S 3 9 0 3>

特図変動停止フラグがオンである場合（ステップ S 3 9 0 2 : Y e s）、即ち特別図柄が停止表示された場合、M P U 4 1 は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する抽選処理による大当たり抽選の結果が大当たりであるか否かを判断する。特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりであるか否かは、例えば R A M 4 1 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E に格納されている大当たり抽選に対する特図当否情報に基づいて判断される。

【 1 4 8 0 】

M P U 4 1 は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する抽選処理による大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップ S 3 9 0 3 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 0 4 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりでない場合（ステップ S 3 9 0 3 : N o）、即ち大当たり抽選の結果が外れである場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【 1 4 8 1 】

<ステップ S 3 9 0 4>

特別図柄が停止表示された特図遊技に対する抽選処理による大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップ S 3 9 0 3 : Y e s）、M P U 4 1 は、大当たり遊技を開始すること、及び大当たり遊技の種別（確変大当たり遊技又は通常大当たり遊技）を音声ランプ制御装置 5 に通知する大当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップ S 3 9 0 4）、処理をステップ S 3 9 0 5 に移行する。大当たり遊技開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 0 4 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、大当たり遊技開始コマンドに基づいて、大当たり遊技種別に応じた図柄表示部 3 4 1 で実行される表示演出などの大当たり遊技演出を実行することができる。

【 1 4 8 2 】

<ステップ S 3 9 0 5>

ステップ S 3 9 0 5 では、M P U 4 1 は、大当たり遊技を開始することを示す大当たり

10

20

30

40

50

遊技開始フラグをオンに設定し、処理をステップ S 3 9 0 6 に移行する。大当たり遊技開始フラグは、前述の図 3 3 の遊技状態移行処理でのステップ S 2 3 0 1 において、遊技状態を確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行するか否かを判断する場合に参照される。

【1 4 8 3】

<ステップ S 3 9 0 6>

ステップ S 3 9 0 6 では、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオンに設定し、処理をステップ S 3 9 0 7 に移行する。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技の実行中であるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理のステップ S 3 9 0 1 の他、図 1 0 5 の普図遊技制御処理のステップ S 3 2 0 3 及び図 1 0 9 の特図遊技制御処理のステップ S 3 6 0 1 において参照される。

10

【1 4 8 4】

<ステップ S 3 9 0 7>

ステップ S 3 9 0 7 では、M P U 4 1 は、大当たり種別に応じて、開閉実行モードで実行される最大ラウンド遊技回数に対応して設定した情報（ラウンド数情報）に基づいて、残りのラウンド遊技回数を示す減算式のラウンド数カウンタをセットする可動体制御処理を実行し、処理をステップ S 3 9 0 8 に移行する。具体的には、M P U 4 1 は、大当たり抽選の結果が 5 R 確変大当たり及び 5 R 通常大当たりである場合にラウンド数カウンタに「5」をセットし、大当たり抽選の結果が 1 6 R 確変大当たりである場合にラウンド数カウンタに「1 6」をセットする。これにより、ラウンド遊技では、大当たり種別に対応してラウンド数カウンタとして設定される情報に基づいて、可動体である開閉扉 3 1 9 が大当たり種別に応じた数だけ戻り側位置である待機位置と駆動側位置である作動位置との間で往復移動され、大当たり種別によって終了判定条件の成立タイミングが不定である連続的動作が実行される可動体制御処理が実行される。

20

【1 4 8 5】

なお、本実施形態では、ラウンド数カウンタが減算式のカウンタとして設定されるが、ラウンド数カウンタは加算式のカウンタとして設定してもよい。ラウンド数カウンタが加算式のカウンタとして設定される場合、例えばラウンド数カウンタの値が最大ラウンド遊技回数に対応した数値となった場合に、開閉実行モードの終了判定条件が成立し、M P U 5 1 によって当該終了判定条件が成立したとの終了判定がなされた場合に開閉実行モードが終了される。つまり、成立タイミングが不定である開閉実行モードの終了判定条件が成立したとの終了判定がなされた場合に、M P U 4 1 によって可動体である開閉扉 3 1 9 の連続的動作が終了される可動体制御処理が実行される。

30

【1 4 8 6】

<ステップ S 3 9 0 8>

ステップ S 3 9 0 8 では、M P U 4 1 は、大当たり遊技のオープニングを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するオープニング開始コマンドを設定し、処理をステップ S 3 9 0 9 に移行する。オープニング開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 0 4 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、オープニング開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 において実行される表示演出などのオープニング演出を開始させることができる。

40

【1 4 8 7】

<ステップ S 3 9 0 9>

ステップ S 3 9 0 9 では、M P U 4 1 は、大当たり遊技において実行される最大オープニング時間に対応して設定した情報（オープニング時間情報）に基づいて、オープニングの残り時間を示す情報としての減算式のオープニング時間カウンタをセットし、処理をステップ S 3 9 1 0 に移行する。オープニング時間カウンタは、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図 1 1 3 のステップ S 3 9 1 3 において参照される。

50

【1488】

なお、本実施形態では、オープニング時間カウンタが減算式のカウンタとして設定されるが、オープニング時間カウンタは加算式のカウンタとして設定してもよい。オープニング時間カウンタが加算式のカウンタとして設定される場合、例えばオープニング時間カウンタの値が最大オープニング時間に対応して設定される最大値となった場合に、オープニングの終了判定条件が成立し、MPU41によって当該終了判定条件が成立したとの終了判定がなされた場合にオープニングが終了される。

【1489】

<ステップS3910>

ステップS3910では、MPU41は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオンに設定し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。オープニング中フラグは、オープニング中であるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理でのステップS3911において参照される。

10

【1490】

<ステップS3911>

大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS3901：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、MPU41は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3911）。

【1491】

MPU41は、オープニング中フラグがオンである場合（ステップS3911：Yes）、即ちオープニングの実行中である場合、処理を図113のステップS3912に移行する。一方、オープニング中フラグがオフである場合（ステップS3911：No）、即ちオープニングの実行中でない場合、処理をステップS3922に移行する。

20

【1492】

<ステップS3912及びS3913>

オープニング中フラグがオンである場合（ステップS3911：Yes）、即ちオープニングの実行中である場合、図113に示すように、MPU41は、オープニングの残り時間を示す情報としてのオープニング時間カウンタの値から1減算し（ステップS3912）、減算後のオープニング時間カウンタの値がオープニングの終了判定条件である0であるか否かの終了判定を行う（ステップS3913）。即ち、MPU41は、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断する。

30

【1493】

MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタの値が0である場合（ステップS3913：Yes）、即ちオープニングの終了判定条件が成立しているとの終了判定に基づいてオープニングを終了するタイミングであると判断される場合、処理をステップS3914に移行する。一方、MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3913：No）、即ちオープニングの終了判定条件が成立していないとの判定に基づいてオープニングを終了するタイミングでないと判断される場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【1494】

<ステップS3914及びS3915>

減算後のオープニング時間カウンタの値が0である場合（ステップS3913：Yes）、即ちオープニングの終了判定条件が成立しているとの終了判定に基づいてオープニングを終了するタイミングであると判断される場合、MPU41は、大当たり遊技のオープニングが終了することを音声ランプ制御装置5に通知するオープニング終了コマンドを設定する（ステップS3914）オープニング終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、オープニング終了コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などのオープニング演出を終了させることができる。

40

50

【1495】

そして、MPU41は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオフに設定し（ステップS3915）、処理をステップS3916に移行する。

【1496】

＜ステップS3916＞

ステップS3916では、MPU41は、複数回（5回又は16回）のラウンド遊技が実行される開閉実行モードが開始されること、即ち可動体である開閉扉319の連続的動作である開閉扉319の開閉が大当たり種別に応じて決定される可動態様で実行されることを音声ランプ制御装置5に通知する開閉実行モード開始コマンドを設定し、処理をステップS3917に移行する。開閉実行モード開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、開閉実行モード開始コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などの開閉実行モード演出を開始させることができる。

10

【1497】

＜ステップS3917＞

ステップS3917では、MPU41は、ラウンド遊技が開始されることを音声ランプ制御装置5に通知するラウンド遊技開始コマンドを設定し、処理をステップS3918に移行する。ラウンド遊技開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、ラウンド遊技開始コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などのラウンド遊技演出を開始させることができ、また各ラウンド遊技において図柄表示部341にラウンド数を表示することができる。

20

【1498】

なお、本実施形態では、各ラウンド遊技において個別にラウンド遊技演出が実行されるが、ラウンド遊技演出は、開閉実行モードにおいて一連の1つの表示演出などを実行し、各ラウンド遊技において当該表示演出に加えてラウンド遊技のラウンド数を表示するものであってもよい。この場合、ラウンド遊技間ではインターバル演出が実行しなくてもよいし、またインターバル演出として次回に実行されるラウンド遊技のラウンド数を表示する演出を実行してもよい。

30

【1499】

＜ステップS3918及びS3919＞

ステップS3918では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示す情報としての減算式のラウンド数カウンタの値から1減算し、さらに可動体である開閉扉319を戻り側位置である待機位置から駆動側位置である作動位置に可動させることによって可変入賞口316を開放させる可動体制御処理を実行し（ステップS3919）、処理をステップS3920に移行する。

【1500】

＜ステップS3920及びS3921＞

ステップS3920では、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオンに設定し、さらに、ラウンド遊技の最大時間（可動体である開閉扉319の最大可動時間）に対応して設定したラウンド遊技時間の情報に基づいて、ラウンド遊技の残り時間を示す情報としての減算式のラウンド遊技時間カウンタをセットする可動体制御処理を実行し（ステップS3921）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。ラウンド遊技時間カウンタは、可動体制御処理において規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰）させる終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を実行するために、当該大当たり遊技制御処理の図214のステップS3924において参照される。

40

【1501】

50

なお、本実施形態では、ラウンド遊技時間カウンタが減算式のカウンタとして設定されるが、ラウンド遊技時間カウンタは加算式のカウンタとして設定してもよい。ラウンド遊技時間カウンタが加算式のカウンタとして設定される場合、例えば可動体制御処理では、ラウンド遊技時間カウンタの値が最大ラウンド遊技時間に対応して設定される最大値となった場合に、ラウンド遊技の終了判定条件が成立し、MPU41によって当該終了判定条件が成立したとの終了判定がなされた場合にラウンド遊技が終了される。

【1502】

<ステップS3922>

図112に戻り、オープニング中フラグがオフである場合（ステップS3911：No）、即ちオープニングの実行中でない場合、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3922）。即ち、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であるか否かを判断する。

10

【1503】

MPU41は、ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップS3922：Yes）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、処理を図114のステップS3923に移行する。一方、MPU41は、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップS3922：No）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、処理をステップS3926に移行する。

【1504】

<ステップS3923及びS3924>

20

ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップS3922：Yes）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、図114に示すように、MPU41は、ラウンド遊技の残り時間を示す情報としてのラウンド遊技時間カウンタの値から1減算する。そして、MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3924）。即ち、MPU41は、可動体制御処理として、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰）させる終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行う。

【1505】

MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS3924：Yes）、即ち可動体制御処理での終了判定によって規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰）させる終了判定条件の成立によりラウンド遊技を終了させると判定される場合、処理をステップS3928に移行する。一方、MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3924：No）、即ち可動体制御処理での終了判定によって規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰）させる終了判定条件の不成立によりラウンド遊技を終了させないと判定される場合、処理をステップS3925に移行する。

30

【1506】

<ステップS3925>

40

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3924：No）、即ち終了判定によって規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰）させる終了判定条件の不成立によりラウンド遊技を終了させないと判定される場合、MPU41は、可変入賞口316に対する遊技球の入球があったか否かを判断する（ステップS3925）。可変入賞口316に対する遊技球の入球があったか否かは、図17の主タイマ割込処理でのステップS1001のセンサ検出処理において、入球センサ316aへの遊技球の入球が検出された場合にRAM412に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。

【1507】

MPU41は、可変入賞口316に対する遊技球の入球があった場合（ステップS39

50

25 : Yes)、処理をステップS3926に移行し、可変入賞口316に対する遊技球の入球がなかった場合(ステップS3925 : No)、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【1508】

<ステップS3926及びS3927>

可変入賞口316に対する遊技球の入球があった場合(ステップS3925 : Yes)、MPU41は、当該ラウンド遊技での可変入賞口316への遊技球の入球数を示す情報としての加算式の入球数カウンタの値に1加算する(ステップS3926)。そして、MPU41は、加算後の入球数カウンタの値が10に達したか否か(ステップS3927)、即ち可動体制御処理として、可変入賞口316への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了(可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰)させる終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行う。即ち、ラウンド遊技の終了判定条件は、規定時間の経過及び可変入賞口316への上限数の遊技球の入球であり、ラウンド遊技の終了判定条件の成立タイミングは不定であるため、ラウンド遊技の実行中は、これらの終了判定条件のいずれかが成立しているか否かの終了判定が実行される。

【1509】

MPU41は、加算後の入球数カウンタの値が10に達している場合(ステップS3927 : Yes)、即ち可動体制御処理での終了判定により可変入賞口316への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了(可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰)させる終了判定条件が成立していると判定される場合、処理をステップS3928に移行する。一方、MPU41は、加算後の入球数カウンタの値が10に達していない場合(ステップS3927 : No)、即ち可動体制御処理での終了判定により可変入賞口316への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了(可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰)させる終了判定条件が成立していないと判定される場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【1510】

なお、本実施形態では、入球数カウンタが加算式のカウンタとして設定されるが、入球数カウンタは減算式のカウンタとして設定してもよい。入球数カウンタが減算式のカウンタとして設定される場合、例えば可動体制御処理では、入球数カウンタの値が最大入球数に対応して設定される最大値となった場合に、ラウンド遊技の終了判定条件が成立し、MPU41によって当該終了判定条件が成立したとの終了判定がなされた場合にラウンド遊技が終了される。

【1511】

<ステップS3928>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0である場合(ステップS3924 : Yes)、又は入球数カウンタの値が10に達した場合(ステップS3927 : Yes)、MPU41は、可動体制御処理として、可動体としての開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰させることによって可変入賞口を閉鎖し(ステップS3928)、処理をステップS3929に移行する。即ち、MPU41は、可動体制御処理での終了判定によりラウンド遊技を終了させる終了判定条件が成立していると判定される場合、可動体である開閉扉319を駆動側位置である作動位置から戻り側位置である待機位置に復帰させることによって可変入賞口316を閉鎖してラウンド遊技を終了する。

【1512】

<ステップS3929～S3931>

ステップS3929では、MPU41は、ラウンド遊技が終了することを音声ランプ制御装置5に通知するラウンド遊技終了コマンドを設定する。ラウンド遊技終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理(図104参照)でのステップS140

1の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5では、ラウンド遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などのラウンド遊技演出を終了させることができる。

【1513】

そして、MPU41は、当該ラウンド遊技での可変入賞口316への遊技球の入球数を示す情報としての入球数カウンタをクリアする共に（ステップS3930）、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオフに設定し（ステップS3930）、処理をステップS3932に移行する。

【1514】

<ステップS3932>

ステップS3932では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示す情報としてのラウンド数カウンタが0であるか否か（ステップS3932）、即ち可動体制御処理として、開閉実行モードを終了させる終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行う。

【1515】

MPU41は、ラウンド数カウンタが0である場合（ステップS3932：Yes）、即ち可動体制御処理での終了判定により開閉実行モードを終了させる終了判定条件が成立している（未実行のラウンド遊技がない）と判定される場合、処理をステップS3941に移行する。一方、MPU41は、ラウンド数カウンタが0でない場合（ステップS3932：No）、即ち可動体制御処理での終了判定により開閉実行モードを終了させる終了判定条件が成立していない（未実行のラウンド遊技がある）と判定される場合、処理をステップS3933に移行する。

【1516】

ここで、可変入賞口316の開放時（可動体としての開閉扉319が駆動側位置である作動位置にある場合）に、開閉実行モードの終了判定条件を設定（5R目又は16R目の開放）して可変入賞口316の開放時に終了判定を実行しないのは、可変入賞口316の開放中は開閉実行モードを終了することができないので、制御上、開閉実行モードが終了しているのに可変入賞口316が開放されることになり、不具合が生じるためである。また、この不具合を制御で対応すると無駄な制御が増えてしまう。そのため、可変入賞口316の閉鎖時（可動体としての開閉扉319が戻り側位置である待機位置にある場合）に開閉実行モードを終了させる終了判定条件が成立しているかの終了判定を行うことで、効率良く可動体である開閉扉319の可動制御及び終了制御を実行することが可能になる。

【1517】

<ステップS3933>

ラウンド数カウンタが0でない場合（ステップS3932：No）、即ち可動体制御処理での終了判定により開閉実行モードを終了させる終了判定条件が成立していない（未実行のラウンド遊技がある）と判定される場合、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するインターバル開始コマンドを設定し（ステップS3933）、処理をステップS3934に移行する。インターバル開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、インターバル開始コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などのインターバル演出を開始させることができる。

【1518】

なお、本実施形態では、ラウンド遊技間のインターバルにおいて表示演出などのインターバル演出が実行されるが、インターバル演出を省略し、インターバルにおいて、先に実行されたラウンド遊技に対する表示演出などのラウンド遊技演出を継続して実行してもよく、また次に実行されるラウンド遊技に対する表示演出などのラウンド遊技演出を実行してもよい。

【1519】

10

20

30

40

50

<ステップ S 3 9 3 4 及び S 3 9 3 5>

ステップ S 3 9 3 4 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオンに設定する。そして、M P U 4 1 は、インターバルの残り時間を示す情報として減算式のインターバル時間カウンタをセットし（ステップ S 3 9 3 5）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。インターバル時間カウンタは、可動体制御処理として、インターバルを終了（ラウンド遊技を開始）させる終了判定条件が成立しているか否か終了判定を行うために、当該大当たり遊技制御処理での図 1 1 5 のステップ S 3 9 3 8 において参照される。

【1 5 2 0】

<ステップ S 3 9 3 6>

図 1 1 2 に戻り、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 3 9 2 2：N o）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 3 6）。インターバル中フラグは、インターバルを開始する場合に当該大当たり遊技制御処理での図 1 1 4 のステップ S 3 9 3 4 においてオンに設定され、インターバルを終了する場合に当該大当たり遊技制御処理での図 1 1 5 のステップ S 3 9 4 0 においてオフに設定される。

【1 5 2 1】

M P U 4 1 は、インターバル中フラグがオンである場合（ステップ S 3 9 3 6：Y e s）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、処理を図 1 1 5 のステップ S 3 9 3 7 に移行する。一方、M P U 4 1 は、インターバル中フラグがオフである場合（ステップ S 3 9 3 6：N o）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、処理をステップ S 3 9 4 5 に移行する。

【1 5 2 2】

<ステップ S 3 9 3 7 及び S 3 9 3 8>

インターバル中フラグがオンである場合（ステップ S 3 9 3 6：Y e s）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、図 1 1 5 に示すように、M P U 4 1 は、インターバルの残り時間を示す情報としてのインターバル時間カウンタの値から 1 減算する（ステップ S 3 9 3 7）。そして、M P U 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 であるか否か（ステップ S 3 9 3 8）、即ち可動体制御処理での終了判定として、インターバルを終了（ラウンド遊技を開始）させる終了判定条件が成立しているか否かを判定する。

【1 5 2 3】

M P U 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 9 3 8：Y e s）、即ち可動体制御処理での終了判定においてインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）させる終了判定条件が成立していると判定される場合、処理をステップ S 3 9 3 9 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 9 3 8：N o）、即ち可動体制御処理での終了判定においてインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）させる終了判定条件が成立していないと判定される場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【1 5 2 4】

<ステップ S 3 9 3 9 及び S 3 9 4 0>

減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 9 3 8：Y e s）、即ち可動体制御処理での終了判定においてインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）させる終了判定条件が成立していると判定される場合、M P U 4 1 は、インターバルが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するインターバル終了コマンドを設定する。インターバル終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 0 4 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、インターバル終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 において実行される表示演出などのインターバル演出を終了させることがで

10

20

30

40

50

きる。

【1525】

そして、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオフに設定し（ステップS3940）、処理を前述のステップS3917に移行する。処理を前述の図113のステップS3917に移行することにより、ラウンド遊技の開始に関するステップS3917～S3921の処理を実行し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【1526】

<ステップS3941>

図114に戻り、ラウンド数カウンタが0である場合（ステップS3932：Yes）、即ち可動体制御処理での終了判定により開閉実行モードを終了させる終了判定条件が成立している（未実行のラウンド遊技がない）と判定される場合、MPU41は、大当たり遊技の開閉実行モードを終了することを音声ランプ制御装置5に通知する開閉実行モード終了コマンドを設定し（ステップS3941）、処理をステップS3942に移行する。開閉実行モード終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、開閉実行モード終了コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などのラウンド遊技演出（開閉実行モード演出）を終了させることができる。

【1527】

<ステップS3942>

ステップS3942では、MPU41は、大当たり遊技のエンディングを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング開始コマンドを設定し、処理をステップS3943に移行する。エンディング開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5では、エンディング開始コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などのエンディング演出を開始させることができる。

【1528】

<ステップS3943及びS3944>

ステップS3943では、MPU41は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、エンディングの残り時間を示す情報として減算式のエンディング時間カウンタをセットし（ステップS3944）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。エンディング時間カウンタは、エンディング（大当たり遊技）の終了判定条件の成立によりエンディング（大当たり遊技）を終了させるか否かの終了判定のため、当該大当たり遊技制御処理の図115でのステップS3947において参照される。

【1529】

なお、本実施形態では、エンディング時間カウンタが減算式のカウンタとして設定されるが、エンディング時間カウンタは加算式のカウンタとして設定してもよい。エンディング時間カウンタが加算式のカウンタとして設定される場合、例えばエンディング時間カウンタの値が最大オープニング時間に対応して設定される最大値となった場合に、エンディングの終了判定条件が成立し、MPU41によって当該終了判定条件が成立したとの終了判定がなされた場合にエンディングが終了される。

【1530】

<ステップS3945>

図112に戻り、インターバル中フラグがオフである場合（ステップS3936：No）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3945）。

【1531】

MPU41は、エンディング中フラグがオンである場合（ステップS3945：Yes）、即ちエンディングの実行中である場合、処理を図115のステップS3946に移行する。一方、MPU41は、エンディング中フラグがオフである場合（ステップS3945：No）、即ちエンディングの実行中でない場合、処理をステップS3950に移行する。

【1532】

<ステップS3946及びS3947>

エンディング中フラグがオンである場合（ステップS3945：Yes）、即ちエンディングの実行中である場合、図115に示すように、MPU41は、エンディングの残り時間を示す情報としてのエンディング時間カウンタの値から1減算する（ステップS3946）。そして、MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3947）。即ち、MPU41は、エンディングの終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行う。

10

【1533】

MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0である場合（ステップS3947：Yes）、即ち終了判定によりエンディングの終了判定条件が成立していると判定される場合、処理をステップS3948に移行する。一方、MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3947：No）、即ち終了判定によりエンディングの終了判定条件が成立していないと判定される場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

20

【1534】

<ステップS3948及びS3949>

減算後のエンディング時間カウンタの値が0である場合（ステップS3947：Yes）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、MPU41は、大当たり遊技のエンディングを終了することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング終了コマンドを設定する。エンディング終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、エンディング終了コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などのエンディング演出を終了させることができる。

30

【1535】

そして、MPU41は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオフに設定し（ステップS3949）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【1536】

<ステップS3950>

図112に戻り、エンディング中フラグがオフである場合（ステップS3945：No）、即ちオープニング中、ラウンド遊技中、インターバル中及びエンディング中のいずれでもない場合、MPU41は、大当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置5に通知する大当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップS3950）、処理をステップS3951に移行する。大当たり遊技終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図104参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、大当たり遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部341において実行される表示演出などの大当たり遊技演出を終了させることができる。

40

【1537】

<ステップS3951及びS3952>

ステップS3951では、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオンに設定する。大当たり遊技終了フラグは、大当たり遊技状態から高頻度サポートモード（確変遊技状態又は時短遊技状態）に移行するか否かを判断するために、前述の図34の遊技状態移行処理のステップS2312において参照される。

50

【1538】

そして、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップS3952）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【1539】

〔音声ランプ制御装置5の処理〕

次に、図116～図150を参照しつつ、音声ランプ制御装置5でMPU51によって実行される処理について説明する。

【1540】

なお、本実施形態で音声ランプ制御装置5のMPU51が実行する処理の一部又は全部が、表示制御装置6のMPU61によって実行されることも他の実施形態として考えられる。また、音声ランプ制御装置5では、MPU51が、スピーカ26及び電飾部27の制御処理、音声ランプ制御装置5の立ち上げ時の立ち上げ処理、停電時のNMI割込処理なども実行するが、それらの処理については説明を省略する。

10

【1541】

〔音声ランプ制御装置5の副タイマ割込処理〕

ここで、図116は、音声ランプ制御装置5のMPU51によって実行される副タイマ割込処理の手順の一例を示すフローチャートである。MPU51は、例えば副タイマ割込処理を1msec周期の定期処理として実行する。

【1542】

図116に示すように、MPU51は、副タイマ割込処理において、カウンタ更新処理（ステップS2701）、操作検出処理（ステップS2702）、コマンド判定処理（ステップS2703）、特図遊技演出制御処理（ステップS2704）、及び大当たり遊技演出制御処理（ステップS2705）を実行する。

20

【1543】

〔カウンタ更新処理〕

カウンタ更新処理（ステップS2701）では、MPU51は、演出パターン種別カウンタ、第1停止図柄種別カウンタ、変動表示カウンタなどの更新を実行する。具体的には、MPU51は、演出種別カウンタ及び第1停止図柄種別カウンタでのカウンタ値に1を加算し、そのカウンタ値が最大値に達した場合は当該カウンタ値を0にクリアする。演出パターン種別カウンタは、主制御装置4から受信する特図変動パターンコマンドに基づいて変動種別（演出パターン）を決定するために使用される。例えば、演出種別カウンタは0～109の間でループするループカウンタである。また、第1停止図柄種別カウンタは、主制御装置4から受信する特図変動パターンコマンドに基づいて最初に停止される飾り図柄の種別を決定するために使用される。例えば、第1停止図柄種別カウンタは0～99の間でループするループカウンタである。一方、MPU51は、変動表示カウンタを1減算する。この変動表示カウンタは、図柄表示部341の変動表示時間を計時するためのものであり、変動表示カウンタでのカウンタ値は残り変動表示時間が0になる場合に0になるように設定される。従って、変動表示カウンタのカウンタ値に基づいて、残りの変動表示時間、変動中であること、図柄表示部341の変動表示が終了したことなどを把握できる。

30

40

【1544】

〔操作検出処理〕

次に、図116の副タイマ割込処理のステップS2702で実行される操作検出処理の手順の一例を説明する。ここで、図117は、操作検出処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【1545】

図117に示すように、操作検出処理では、MPU41は、操作ボタン操作検出処理（ステップS4001）、操作検出パターン判定処理（ステップS4002）、選択ボタン操作検出処理（ステップS4003）、選択操作検出パターン判定処理（ステップS4004）、決定ボタン操作検出処理（ステップS4005）、及び決定操作検出パターン判

50

定処理（ステップ S 4 0 0 6）を実行する。

【1 5 4 6】

〔操作ボタン操作検出処理〕

操作ボタン操作検出処理（操作検出処理のステップ S 4 0 0 1）では、操作ボタン 2 0 の操作状態を検出し、過去 3 回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。遊技機 1 0 では、M P U 4 1 によって操作ボタン操作検出処理が実行されることにより、副タイマ割込処理の割込周期に対応した予め定められた間隔（本実施形態では 1 m s e c 間隔）で操作ボタン 2 0 の操作の有無が判断されることになる。ここで、図 1 1 8 は、操作ボタン操作検出処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 1 1 8 を参照しつつ操作ボタン操作検出処理を説明する。

10

【1 5 4 7】

<ステップ S 4 1 0 1 ~ S 4 1 0 3>

図 1 1 8 に示すように、操作ボタン操作検出処理では、M P U 4 1 は、第 2 検出フラグの設定を第 1 検出フラグにシフト（上書き）させる（ステップ S 4 1 0 1）。次いで、M P U 4 1 は、第 3 検出フラグの設定を第 2 検出フラグにシフト（上書き）させる（ステップ S 4 1 0 2）。その後、M P U 4 1 は、操作スイッチ 2 0 a により検出される操作ボタン 2 0 の操作状態を第 3 検出フラグに設定（上書き）し（ステップ S 4 1 0 3）、当該操作検出処理を終了する。

【1 5 4 8】

このように、操作ボタン操作検出処理では、ステップ S 4 1 0 1 ~ S 4 1 0 3 の処理が実行されることにより、操作ボタン 2 0 の操作履歴として 1 m s e c 間隔の直近の 3 回分の操作状態が第 1 検出フラグ ~ 第 3 検出フラグとして R A M 5 1 2 に記憶される。具体的に、第 3 検出フラグとして直近の操作状態が記憶され、第 2 検出フラグとして一つ前の操作状態が記憶され、第 1 検出フラグとして二つ前の操作状態が記憶される。

20

【1 5 4 9】

〔操作検出パターン判定処理〕

図 1 1 7 の説明に戻り、操作検出処理でのステップ S 4 0 0 2 の操作検出パターン判定処理では、第 1 操作検出フラグ、第 2 操作検出フラグ及び第 3 操作検出フラグに基づいて判定される操作ボタン 2 0 の操作履歴から操作ボタン 2 0 に対する操作状態を判定するための操作パターンフラグを設定する。操作パターンフラグは第 1 ~ 第 3 操作パターンフラグからなり、第 1 ~ 第 3 操作パターンフラグのオン及びオフの組み合わせによって操作ボタン 2 0 の操作状態を判定できる。例えば、第 1 操作パターンフラグのみがオンに設定されている場合には、操作ボタン 2 0 に対する操作が継続されていると判定できる（図 1 2 0（A）参照）。また、第 2 操作パターンフラグのみがオンに設定されている場合には、操作ボタン 2 0 に対する操作が開始されたと判定できる（図 1 2 0（A）参照）。また、第 3 操作パターンフラグのみがオンに設定されている場合には、操作ボタン 2 0 に対する操作が終了したと判定できる（図 1 2 0（A）参照）。そして、第 1 ~ 第 3 操作パターンフラグの全てがオフに設定されている場合には、操作ボタン 2 0 に対する操作がなされていないと判定できる（図 1 2 0（A）参照）。ここで、図 1 1 9 は、操作検出パターン判定処理の手順の一例を示すフローチャートである。また、図 1 2 0（A）は、操作ボタン 2 0 に対する検出パターンと操作状況との関係を示すテーブルである。以下、図 1 1 9 及び図 1 2 0（A）を参照しつつ操作ボタン操作検出処理を説明する。

30

40

【1 5 5 0】

<ステップ S 4 2 0 1>

図 1 1 9 に示すように、操作検出パターン判定処理では、M P U 4 1 は、3 回前の操作ボタン 2 0 の操作状態を示す第 1 操作検出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 2 0 1）。ここで、M P U 4 1 は、第 1 操作検出フラグがオンである場合（ステップ S 4 2 0 1：Y e s）、処理をステップ S 4 2 0 2 に移行し、第 1 操作検出フラグがオフである場合（ステップ S 4 2 0 1：N o）、処理をステップ S 4 2 0 5 に移行する。

50

【1551】

<ステップS4202>

第1操作検出フラグがオンである場合（ステップS4201：Yes）、MPU41は、2回前の操作ボタン20の操作状態を示す第2操作検出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4202）。ここで、MPU41は、第2操作検出フラグがオンである場合（ステップS4202：Yes）、処理をステップS4203に移行し、第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS4202：No）、処理をステップS4208に移行する。

【1552】

<ステップS4203>

第2操作検出フラグがオンである場合（ステップS4202：Yes）、MPU41は、直近の操作ボタン20の操作状態を示す第3操作検出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4203）。ここで、MPU41は、第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS4203：Yes）、処理をステップS4204に移行し、第3操作検出フラグがオフである場合（ステップS4203：No）、処理をステップS4210に移行する。

【1553】

<ステップS4204>

第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS4203：Yes）、MPU41は、第1操作パターンフラグをオン、第2操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定し（ステップS4204）、当該操作検出パターン判定処理を終了する。即ち、MPU41は、操作ボタン20の3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1操作パターンフラグをオンに設定し、第2操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定する（図120（A）参照）。そして、第1操作パターンフラグは、操作ボタン20の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。例えば、第1操作パターンフラグがオンに設定されている場合、MPU41は、操作ボタン操作継続コマンドをRAM412に設定し、この操作ボタン操作継続コマンドを音声ランプ制御装置5に送信するようにしてもよい。これにより、音声ランプ制御装置5は、操作ボタン20に対する操作が継続していると判断できるため、操作ボタン操作継続コマンドが連続して送信される回数に基づいて操作ボタン20が継続操作されている時間を把握できる。そのため、音声ランプ制御装置5は、操作ボタン20が継続操作されている時間に基づいて操作ボタン20に対して長押し操作を行われたか否かを判断できるため、長押し操作に基づく操作ボタン演出を実行させることが可能になる。

【1554】

<ステップS4205>

第1操作検出フラグがオフである場合（ステップS4201：No）、MPU41は、2回前の操作ボタン20の操作状態を示す第2操作検出フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS4205）。ここで、MPU41は、第2操作検出フラグがオンである場合（ステップS4205：Yes）、処理をステップS4206に移行し、第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS4205：No）、処理をステップS4210に移行する。

【1555】

<ステップS4206>

第2操作検出フラグがオンである場合（ステップS4205：Yes）、MPU41は、直近の操作ボタン20の操作状態を示す第3操作検出フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS4206）。ここで、MPU41は、第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS4206：Yes）、処理をステップS4207に移行し、第3操作検出フラグがオフである場合（ステップS4206：No）、処理をステップS4210に移行する。

【1556】

<ステップS4207>

第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS4206：Yes）、MPU41は、第2操作パターンフラグをオン、第1操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定する（ステップS4207）。即ち、MPU41は、操作ボタン20の3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2操作パターンフラグをオンに設定し、第1操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定し（図120（A）参照）、当該操作検出パターン判定処理を終了する。そして、第2操作パターンフラグは、操作ボタン20が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（操作ボタン20の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。このように、第2操作パターンフラグを用いて、操作ボタン20が非操作状態から操作状態に変化したか否かを判断すれば、操作ボタン20の3回分の操作状態が反映されるため、電波又は静電気などのノイズに起因する操作ボタン20の操作開始の誤検出が防止され、遊技者が意図しないタイミングで操作ボタン20の操作開始が演出表示に反映されることが防止される。

10

【1557】

<ステップS4208>

第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS4202：No）、MPU41は、直近の操作ボタン20の操作状態を示す第3操作検出フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS4208）。ここで、MPU41は、第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS4208：Yes）、処理をステップS4210に移行し、第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS4208：No）、処理をステップS4209に移行する。

20

【1558】

<ステップS4209>

第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS4208：No）、MPU41は、第3操作パターンフラグをオン、第1操作パターンフラグ及び第2操作パターンフラグをオフに設定し（ステップS4209）、当該操作検出パターン判定処理を終了する。即ち、MPU41は、操作ボタン20の3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3操作パターンフラグをオンに設定し、第1操作パターンフラグ及び第2操作パターンフラグをオフに設定する（図120（A）参照）。そして、第3操作パターンフラグは、操作ボタン20が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（操作ボタン20の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用することができる。

30

【1559】

<ステップS4210>

第3操作検出フラグがオフである場合（ステップS4203：No）、第2操作検出フラグがオフである場合（ステップS4205：No）、第3操作検出フラグがオフである場合（ステップS4206：No）、又は第3操作検出フラグがオンである場合（ステップS4208：Yes）、MPU41は、第1操作パターンフラグ、第2操作パターンフラグ及び第3操作パターンフラグをオフに設定し（ステップS4210）、当該操作検出パターン判定処理を終了する。即ち、MPU41は、操作ボタン20の3回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」など上記以外の操作パターンが発生した場合に、第1～第3操作パターンフラグの全てをオフに設定する（図120（A）参照）。なお、MPU41は、第1～第3操作パターンフラグの全てがオフの場合、操作ボタン20が非操作状態であると判定する。

40

【1560】

[選択ボタン操作検出処理]

図117の説明に戻り、選択ボタン操作検出処理（ステップS4003）では、MPU41は、上選択ボタン操作処理、下選択ボタン操作処理、左選択ボタン操作処理及び右選

50

択ボタン操作処理を実行する。

【1561】

＜上選択ボタン操作処理＞

上選択ボタン操作処理では、MPU41は、上選択ボタン211の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、上選択ボタン操作処理は、図118の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、上選択ボタン操作処理は、図118の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「上選択操作検出フラグ」と読み替えばよい。

【1562】

＜下選択ボタン操作処理＞

下選択ボタン操作処理では、MPU41は、下選択ボタン212の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、下選択ボタン操作処理は、図118の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、下選択ボタン操作処理は、図118の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「下選択操作検出フラグ」と読み替えばよい。

【1563】

＜左選択ボタン操作処理＞

左選択ボタン操作処理では、MPU41は、左選択ボタン213の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、左選択ボタン操作処理は、図118の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、左選択ボタン操作処理は、図118の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「左選択操作検出フラグ」と読み替えばよい。

【1564】

＜右選択ボタン操作処理＞

右選択ボタン操作処理では、MPU41は、右選択ボタン214の操作状態を検出し、過去3回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、右選択ボタン操作処理は、図118の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、右選択ボタン操作処理は、図118の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「右選択操作検出フラグ」と読み替えばよい。

【1565】

〔選択操作検出パターン判定処理〕

図117の説明に戻り、選択操作検出パターン判定処理（ステップS4004）では、MPU41は、上選択操作検出パターン判定処理、下選択操作検出パターン判定処理、左選択操作検出パターン判定処理及び右選択操作検出パターン判定処理を実行する。

【1566】

＜上選択操作検出パターン判定処理＞

上選択操作検出パターン判定処理では、MPU41は、第1上選択操作検出フラグ、第2上選択操作検出フラグ及び第3上選択操作検出フラグに基づいて判定される上選択ボタン211の操作履歴から上選択ボタン211に対する操作状態を判定するための上操作パターンフラグを設定する。ここで、上選択操作検出パターン判定処理は、図119の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、上選択操作検出パターン判定処理は、図119の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「上選択操作検出フラグ」と、「操作パターンフラグ」を「上選択操作パターンフラグ」と読み替えばよい。

【1567】

ここで、図120（B）に示すように、上選択操作検出パターン判定処理においてMPU41は、上選択ボタン211の3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1上選択操作パターンフラグをオンに設定し、第2上選択操作パターンフラグ及び第3上選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第1上選択操作パターンフラグは、上選択ボタン211の操作状態が継続しているか否

10

20

30

40

50

かを判断するための指標として利用することができる。

【1568】

また、MPU41は、上選択ボタン211の3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2上選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1上選択操作パターンフラグ及び第3上選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第2上選択操作パターンフラグは、上選択ボタン211が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（上選択ボタン211の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

【1569】

さらに、MPU41は、上選択ボタン211の3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3上選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1上選択操作パターンフラグ及び第2上選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第3上選択操作パターンフラグは、上選択ボタン211が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（上選択ボタン211の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

【1570】

また、MPU41は、上選択ボタン211の3回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第1～第3上選択操作パターンフラグの全てをオフに設定する。なお、MPU41は、第1～第3上選択操作パターンフラグの全てがオフの場合、上選択ボタン211が非操作状態であると判定する。

【1571】

<下選択操作検出パターン判定処理>

下選択操作検出パターン判定処理では、MPU41は、第1下選択操作検出フラグ、第2下選択操作検出フラグ及び下選択操作検出フラグに基づいて判定される下選択ボタン212の操作履歴から下選択ボタン212に対する操作状態を判断するための下操作パターンフラグを設定する。ここで、下選択操作検出パターン判定処理は、図119の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、下選択操作検出パターン判定処理は、図119の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「下選択操作検出フラグ」と、「操作パターンフラグ」を「下選択操作パターンフラグ」と読み替えればよい。

【1572】

ここで、図120（C）に示すように、下選択操作検出パターン判定処理においてMPU41は、下選択ボタン212の3回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第1下選択操作パターンフラグをオンに設定し、第2下選択操作パターンフラグ及び第3下選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第1下選択操作パターンフラグは、下選択ボタン212の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。

【1573】

また、MPU41は、下選択ボタン212の3回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第2下選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1下選択操作パターンフラグ及び第3下選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第2下選択操作パターンフラグは、下選択ボタン212が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（下選択ボタン212の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

【1574】

さらに、MPU41は、下選択ボタン212の3回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第3下選択操作パターンフラグをオンに設定し、第1下選択操作パターンフラグ及び第2下選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第3下選択操作パターンフラグは、下選択ボタン212が操作状態

から非操作状態に変化したか否かを（下選択ボタン 2 1 2 の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

【1 5 7 5】

また、MPU 4 1 は、下選択ボタン 2 1 2 の 3 回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第 1～第 3 下選択操作検出フラグの全てをオフに設定する。なお、MPU 4 1 は、第 1～第 3 下選択操作パターンフラグの全てがオフの場合、下選択ボタン 2 1 2 が非操作状態であると判定する。

【1 5 7 6】

＜左選択操作検出パターン判定処理＞

左選択操作検出パターン判定処理では、MPU 4 1 は、第 1 左選択操作検出フラグ、第 2 左選択操作検出フラグ及び左選択操作検出フラグに基づいて判定される左選択ボタン 2 1 3 の操作履歴から左選択ボタン 2 1 3 に対する操作状態を判定するための左操作パターンフラグを設定する。ここで、左選択操作検出パターン判定処理は、図 1 1 9 の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、左選択操作検出パターン判定処理は、図 1 1 9 の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「左選択操作検出フラグ」と、「操作パターンフラグ」を「左選択操作パターンフラグ」と読み替えればよい。

【1 5 7 7】

ここで、図 1 2 0 (D) に示すように、左選択操作検出パターン判定処理において MPU 4 1 は、左選択ボタン 2 1 3 の 3 回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第 1 左選択操作パターンフラグをオンに設定し、第 2 左選択操作パターンフラグ及び第 3 左選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 1 左選択操作パターンフラグは、左選択ボタン 2 1 3 の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。

【1 5 7 8】

また、MPU 4 1 は、左選択ボタン 2 1 3 の 3 回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第 2 左選択操作パターンフラグをオンに設定し、第 1 左選択操作パターンフラグ及び第 3 左選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 2 左選択操作パターンフラグは、左選択ボタン 2 1 3 が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（左選択ボタン 2 1 3 の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

【1 5 7 9】

さらに、MPU 4 1 は、左選択ボタン 2 1 3 の 3 回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第 3 左選択操作パターンフラグをオンに設定し、第 1 左選択操作パターンフラグ及び第 2 左選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 3 左選択操作パターンフラグは、左選択ボタン 2 1 3 が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（左選択ボタン 2 1 3 の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

【1 5 8 0】

また、MPU 4 1 は、左選択ボタン 2 1 3 の 3 回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第 1～第 3 左選択操作パターンフラグの全てをオフに設定する。なお、MPU 4 1 は、第 1～第 3 左選択操作パターンフラグの全てがオフの場合、左選択ボタン 2 1 3 が非操作状態であると判定する。

【1 5 8 1】

＜右選択操作検出パターン判定処理＞

右選択操作検出パターン判定処理では、MPU 4 1 は、第 1 右選択操作検出フラグ、第 2 右選択操作検出フラグ及び右選択操作検出フラグに基づいて判定される右選択ボタン 2 1 4 の操作履歴から右選択ボタン 2 1 4 に対する操作状態を判定するための右操作パターンフラグを設定する。ここで、右選択操作検出パターン判定処理は、図 1 1 9 の操作検出

パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、右選択操作検出パターン判定処理は、図 1 1 9 の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「右選択操作検出フラグ」と、「操作パターンフラグ」を「右選択操作パターンフラグ」と読み替えればよい。

【1 5 8 2】

ここで、図 1 2 0 (E) に示すように、右選択操作検出パターン判定処理において M P U 4 1 は、右選択ボタン 2 1 4 の 3 回分の操作状態として「O N」、「O N」、「O N」の操作パターンが発生した場合に、第 1 右選択操作パターンフラグをオンに設定し、第 2 右選択操作パターンフラグ及び第 3 右選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 1 右選択操作パターンフラグは、右選択ボタン 2 1 4 の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。

10

【1 5 8 3】

また、M P U 4 1 は、右選択ボタン 2 1 4 の 3 回分の操作状態として「O F F」、「O N」、「O N」の操作パターンが発生した場合に、第 2 右選択操作パターンフラグをオンに設定し、第 1 右選択操作パターンフラグ及び第 3 右選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 2 右選択操作パターンフラグは、右選択ボタン 2 1 4 が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（右選択ボタン 2 1 4 の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

【1 5 8 4】

さらに、M P U 4 1 は、右選択ボタン 2 1 4 の 3 回分の操作状態として「O N」、「O F F」、「O F F」の操作パターンが発生した場合に、第 3 右選択操作パターンフラグをオンに設定し、第 1 右選択操作パターンフラグ及び第 2 右選択操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 3 右選択操作パターンフラグは、右選択ボタン 2 1 4 が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（右選択ボタン 2 1 4 の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

20

【1 5 8 5】

また、M P U 4 1 は、右選択ボタン 2 1 4 の 3 回分の操作状態として「O F F」、「O F F」、「O F F」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第 1 ～ 第 3 右選択操作パターンフラグの全てをオフに設定する。なお、M P U 4 1 は、第 1 ～ 第 3 右選択操作パターンフラグの全てがオフの場合、右選択ボタン 2 1 4 が非操作状態であると判定する。

30

【1 5 8 6】

〔決定ボタン操作検出処理〕

図 1 1 7 の説明に戻り、決定ボタン操作検出処理（ステップ S 4 0 0 5）では、M P U 4 1 は、決定ボタン 2 1 B の操作状態を検出し、過去 3 回分の操作履歴を順次更新するための処理を実行する。ここで、決定ボタン操作検出処理は、図 1 1 8 の操作ボタン操作検出処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、決定ボタン操作検出処理は、図 1 1 8 の操作ボタン操作検出処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「決定ボタン操作検出フラグ」と読み替えればよい。

【1 5 8 7】

〔決定操作検出パターン判定処理〕

決定操作検出パターン判定処理（ステップ S 4 0 0 6）では、M P U 4 1 は、第 1 決定操作検出フラグ、第 2 決定操作検出フラグ及び第 3 決定操作検出フラグに基づいて判定される決定ボタン 2 1 B の操作履歴から決定ボタン 2 1 B に対する操作状態を判定するための操作パターンフラグを設定する。ここで、決定操作検出パターン判定処理は、図 1 1 8 の操作検出パターン判定処理と同様であるため、詳細な説明は省略する。なお、決定操作検出パターン判定処理は、図 1 1 8 の操作検出パターン判定処理の各ステップにおいて、「操作検出フラグ」を「決定操作検出フラグ」と読み替えればよい。

40

【1 5 8 8】

ここで、図 1 2 0 (F) に示すように、決定操作検出パターン判定処理において M P U

50

4 1 は、決定ボタン 2 1 B の 3 回分の操作状態として「ON」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第 1 決定操作パターンフラグをオンに設定し、第 2 決定操作パターンフラグ及び第 3 決定操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 1 決定操作パターンフラグは、決定ボタン 2 1 B の操作状態が継続しているか否かを判断するための指標として利用することができる。

【1589】

また、MPU 4 1 は、決定ボタン 2 1 B の 3 回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生した場合に、第 2 決定操作パターンフラグをオンに設定し、第 1 決定操作パターンフラグ及び第 3 決定操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 2 決定操作パターンフラグは、決定ボタン 2 1 B が非操作状態から操作状態に変化したか否かを（決定ボタン 2 1 B の操作が開始されたか否か）を判断するための指標として利用される。

10

【1590】

さらに、MPU 4 1 は、決定ボタン 2 1 B の 3 回分の操作状態として「ON」、「OFF」、「OFF」の操作パターンが発生した場合に、第 3 決定操作パターンフラグをオンに設定し、第 1 決定操作パターンフラグ及び第 2 決定操作パターンフラグをオフに設定する。そして、第 3 決定操作パターンフラグは、決定ボタン 2 1 B が操作状態から非操作状態に変化したか否かを（決定ボタン 2 1 B の操作が終了したか否か）を判断するための指標として利用される。

20

【1591】

また、MPU 4 1 は、決定ボタン 2 1 B の 3 回分の操作状態として「OFF」、「OFF」、「OFF」などの上記以外の操作パターンが発生した場合に、第 1 ～ 第 3 決定操作パターンフラグの全てをオフに設定する。なお、MPU 4 1 は、第 1 ～ 第 3 決定操作パターンフラグの全てがオフの場合、決定ボタン 2 1 B が非操作状態であると判定する。

【1592】

〔コマンド判定処理〕

次に、図 1 1 6 の副タイマ割込処理のステップ S 2 7 0 3 で実行されるコマンド判定処理の手順の一例を説明する。ここで、図 1 2 1 及び図 1 2 2 は、コマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャートである。

30

【1593】

<ステップ S 4 3 0 1>

図 1 2 1 に示すように、コマンド判定処理では、まず MPU 5 1 は、主制御装置 4 からコマンドを受信したか否かを判断する（ステップ S 4 3 0 1）。ここで、MPU 5 1 は、コマンドを受信した場合（ステップ S 4 3 0 1：Yes）、処理をステップ S 4 3 0 2 に移行する。一方、MPU 5 1 は、コマンドを受信していない場合（ステップ S 4 3 0 1：No）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1594】

なお、主制御装置 4 から受信したコマンドは、RAM 5 1 2 の未処理コマンド記憶エリアに格納され、MPU 5 1 は、未処理コマンド記憶エリアを参照することによりコマンドの受信の有無を判断する。また、未処理コマンド記憶エリアに記憶されているコマンドは、本ステップ S 4 3 0 1 でコマンドを受信したと判断され、処理の対象となった場合に未処理コマンド記憶エリアから消去され、例えば処理作業用記憶エリアに記憶される。

40

【1595】

<ステップ S 4 3 0 2>

コマンドを受信した場合（ステップ S 4 3 0 1：Yes）、MPU 5 1 は、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 3 0 2）。特図変動パターンコマンドは、特図遊技における特別図柄の変動表示時間（特図変動パターン）及び大当たり抽選での抽選結果を示すコマンドである。

【1596】

ここで、MPU 5 1 は、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドである場合（ス

50

テップ S 4 3 0 2 : Y e s) 、処理をステップ S 4 3 0 3 に移行し、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合 (ステップ S 4 3 0 2 : N o) 、処理をステップ S 4 3 0 7 に移行する。

【 1 5 9 7 】

<ステップ S 4 3 0 3 及び S 4 3 0 4 >

受信したコマンドが特図変動パターンコマンドである場合 (ステップ S 4 3 0 2 : Y e s) 、M P U 5 1 は、主制御装置 4 から受信した特図変動パターンコマンドに基づいて、停止図柄組み合わせ設定処理 (ステップ S 4 3 0 3) 及び変動種別 (演出パターン) 設定処理 (ステップ S 4 3 0 4) を実行する。なお、停止図柄組み合わせ設定処理の詳細は、図 1 2 3 及び図 1 2 4 を参照し、変動種別 (演出パターン) 設定処理の詳細は、図 1 2 5 ~ 図 1 3 8 を参照して説明する。

10

【 1 5 9 8 】

<ステップ S 4 3 0 5 >

図 1 2 1 のコマンド判定処理の説明に戻り、ステップ S 4 3 0 5 では、M P U 5 1 は、受信した特図変動パターンコマンドに対応する変動表示時間を変動表示カウンタに設定する。変動表示時間は、特図変動パターンコマンドに含まれる変動パターン情報に応じて判断される。そして、変動表示カウンタは、図 1 1 6 の副タイマ割込処理でのステップ S 2 7 0 1 のカウンタ更新処理で 1 ずつ減算され、M P U 5 1 は、変動表示カウンタに基づいて、図柄変動表示中であるか否か、変動表示時間の残り時間などを判断することが可能である。例えば、M P U 5 1 は、変動表示カウンタが 0 になった場合に図柄変動表示の終了と判断することが可能である。

20

【 1 5 9 9 】

<ステップ S 4 3 0 6 >

ステップ S 4 3 0 6 では、M P U 5 1 は、当該コマンド判定処理のステップ S 4 3 0 3 で決定された飾り図柄の停止図柄組み合わせの内容、及びステップ S 4 3 0 4 で設定された演出パターン種別を特定するための表示変動パターンコマンドを表示制御装置 6 に出力し、当該コマンド判定処理を終了する。表示変動パターンコマンドは、演出パターン種別及び飾り図柄の停止図柄組み合わせを識別するための情報である。一方、表示制御装置 6 の R O M 6 1 1 には、表示変動パターンコマンド各々に対応する飾り図柄の変動画像及び演出画像などが記憶されている。これにより、表示制御装置 6 では、M P U 6 1 が、表示変動パターンコマンドに対応する飾り図柄の停止図柄組み合わせ、変動種別及び演出種別に応じて図柄表示部 3 4 1 における変動表示及び演出表示などの表示演出を実行する。

30

【 1 6 0 0 】

具体的に、図柄表示部 3 4 1 では、表示制御装置 6 の M P U 6 1 は、予め設定されている変動表示時間が経過するまでの間に複数の飾り図柄 (例えば 3 つ) の変動表示を実行し、複数の飾り図柄の変動が順に停止表示させる。飾り図柄の変動表示中には、表示変動パターンコマンドによって特定される変動種別 (演出パターン種別) の内容に対応する各種の演出が図柄表示部 3 4 1 、スピーカ 2 6 、電飾部 2 7 などで行われる。

【 1 6 0 1 】

また、M P U 5 1 は、表示変動パターンコマンドを表示制御装置 6 に出力する場合に、例えば特図遊技演出中フラグをオンに設定する。この特図遊技演出中フラグは、特図遊技演出が実行されていることを示すフラグである。

40

【 1 6 0 2 】

<ステップ S 4 3 0 7 >

受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合 (ステップ S 4 3 0 2 : N o) 、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図シフトコマンドであるか否かを判断する (ステップ S 4 3 0 7) 。特図シフトコマンドは、特図遊技 (特図の変動表示) の開始によって第 1 特図保留数 N 又は第 2 特図保留数 M が減少する場合に、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 、又は第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 (図 9 9 参照) での大当たり

50

抽選での抽選結果を示す特図当否情報がシフトしたこと示すコマンドである。

【1603】

MPU51は、受信したコマンドが特図シフトコマンドである場合（ステップS4307：Yes）、処理をステップS4308に移行し、受信したコマンドが特図シフトコマンドでない場合（ステップS4307：No）、処理をステップS4310に移行する。

【1604】

<ステップS4308及びS4309>

受信したコマンドが特図シフトコマンドである場合（ステップS4307：Yes）、MPU51は、特図データ設定処理（ステップS4308）及び特図データ画像表示処理（ステップS4309）を実行し、当該コマンド判定処理を終了する。

【1605】

ここで、ステップS4308で実行される特図データ設定処理は、音声ランプ制御装置5のRAM512に設定される特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図当否情報のデータ（特図データ）をシフト（更新）する処理である。特図保留格納エリア対応領域（図示略）は、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412b（図99参照）に対応する領域であり、当該特図保留格納エリア412bと同等な特図データが格納されている。特図保留格納エリア対応領域（図示略）は、特図保留格納エリア412bの第1特図保留格納エリアREA、第2特図保留格納エリアREB、及び特図実行エリアAE（図99参照）のそれぞれに対応する第1特図保留格納エリア対応領域、第2特図保留格納エリア対応領域、及び特図実行エリア対応領域を含む。また、第1特図保留格納エリア対応領域は、特図保留格納エリア412bにおける第1特図保留格納エリアREAの第1～第4保留エリアREA1～REA4（図99参照）に対応する第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）、第1特図保留数記憶エリア（図99参照）に対応する第1特図保留数記憶エリア対応領域を含む。さらに、第2特図保留格納エリア対応領域は、特図保留格納エリア412bにおける第2特図保留格納エリアREBの第1～第4保留エリアREB1～REB4（図99参照）に対応する第2特図第1～第4保留エリア対応領域、第2特図保留数記憶エリア（図99参照）に対応する第2特図保留数記憶エリア対応領域を含む。

【1606】

一方、ステップS4309で実行される特図データ画像表示処理は、ステップS4308においてシフト（更新）されたRAM512の特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、図柄表示部341に表示される特図データに関する画像（特図データ画像）をシフトする処理である。

【1607】

ここで、特図データ画像は、図柄表示部341に設定される特図データ画像表示部に表示される（図示略）。特図データ画像表示部は、RAM512に設定される前述の特図保留格納エリア対応領域（図示略）の特図実行エリア対応領域（図示略）、第1特図保留格納エリア対応領域、及び第2特図保留格納エリア対応領域に対応して、当該特図変動画像表示領域、第1特図保留画像表示領域及び第2特図保留画像表示領域を含む。

【1608】

当該特図変動画像表示領域は、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAE（図99参照）に対応する前述の特図保留格納エリア対応領域の特図実行エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、当該特図遊技に対する当該特図遊技画像を表示する領域である。そして、当該特図変動画像表示領域には、特図実行エリア対応領域に特図データが格納されている場合に、当該特図遊技画像が表示される一方、特図実行エリア対応領域に特図データが格納されていない場合には、当該特図遊技画像が表示されない。即ち、当該特図遊技画像は、特別図柄の変動表示中に表示され、特別図柄の停止表示により非表示とされる。換言すれば、当該特図遊技画像が表示されることにより特図遊技の実行中であることが明示され、当該特図遊技画像が非表示とされることにより特図遊技の終了が明示される。

【1609】

第1特図保留画像表示領域76は、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの第1特図保留格納エリアREA（図99参照）に対応する前述の特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、第1特図遊技に対する第1特図保留画像を表示する領域である。この第1特図保留画像表示領域は、前述の特図保留格納エリア対応領域における第1特図保留格納エリア対応領域の第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）に対応して、第1特図第1保留画像表示領域、第1特図第2保留画像表示領域、第1特図第3保留画像表示領域、及び第1特図第4保留画像表示領域を含む。そして、第1特図保留画像表示領域には、第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のいずれかに特図データが格納されている場合に第1特図保留画像が表示される一方、第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のいずれにも特図データが格納されていない場合に第1特図保留画像が表示されない。即ち、第1特図保留画像は、第1特図遊技に対する保留がある場合には、第1特図保留数Nに対応する数だけ表示され、第1特図遊技に対する保留がない場合には表示されない。換言すれば、第1特図保留画像の表示数に基づいて、第1特図遊技に対する第1特図保留数Nが明示される。

10

【1610】

第2特図保留画像表示領域は、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの第2特図保留格納エリアREB（図99参照）に対応する前述の特図保留格納エリア対応領域の第2特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて、第2特図遊技に対する第2特図保留画像を表示する領域である。この第2特図保留画像表示領域は、前述の特図保留格納エリア対応領域における第2特図保留格納エリア対応領域の第2特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）に対応して、第2特図第1保留画像表示領域、第2特図第2保留画像表示領域、第2特図第3保留画像表示領域、及び第2特図第4保留画像表示領域を含む。そして、第2特図保留画像表示領域には、第2特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のいずれかに特図データが格納されている場合に第2特図保留画像が表示される一方、第2特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）のいずれにも特図データが格納されていない場合に第2特図保留画像が表示されない。即ち、第2特図保留画像は、第2特図遊技に対する保留がある場合には、第2特図保留数Mに対応する数だけ表示され、第2特図遊技に対する保留がない場合には表示されない。換言すれば、第2特図保留画像の表示数に基づいて、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが明示される。

20

30

【1611】

そして、特図データ画像表示処理では、受信した特図シフトコマンドが第1特図に対するものである場合、即ち第1特図遊技が開始される場合、特図保留格納エリア対応領域の特図実行エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて当該特図変動画像表示領域75に当該特図遊技画像を表示し、さらに、特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて第1特図保留画像表示領域76に第1特図保留画像を表示する。

【1612】

一方、特図データ画像表示処理では、受信した特図シフトコマンドが第2特図に対するものである場合、即ち第2特図遊技が開始される場合、特図保留格納エリア対応領域の特図実行エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて当該特図変動画像表示領域75に当該特図遊技画像を表示し、さらに、特図保留格納エリア対応領域の第2特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図データに基づいて第2特図保留画像表示領域77に第2特図保留画像を表示する。

40

【1613】

<ステップS4310>

図121の説明に戻り、受信したコマンドが特図シフトコマンドでない場合（ステップS4307：No）、MPU51は、受信したコマンドが第1特図保留コマンドであるか

50

否かを判断する（ステップ S 4 3 1 0）。第 1 特図保留コマンドは、第 1 特図遊技に対する第 1 特図保留数 N が増加することを示す情報と、増加後の第 1 特図保留数 N に関する情報と、増加する第 1 保留に対する特図変動パターン（特図変動表示時間）及び大当たり抽選の結果に関する情報と、を含む。

【1 6 1 4】

MPU 5 1 は、受信したコマンドが第 1 特図保留コマンドである場合（ステップ S 4 3 1 0：Y e s）、処理をステップ S 4 3 1 1 に移行し、受信したコマンドが第 1 特図保留コマンドでない場合（ステップ S 4 3 1 0：N o）、処理をステップ S 4 3 1 3 に移行する。

【1 6 1 5】

<ステップ S 4 3 1 1 及び S 4 3 1 2>

受信したコマンドが第 1 特図保留コマンドである場合（ステップ S 4 3 1 0：Y e s）、MPU 5 1 は、第 1 特図保留情報更新処理（ステップ S 4 3 1 1）及び第 1 特図保留画像表示処理（ステップ S 4 3 1 2）を実行し、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 6 1 6】

ここで、ステップ S 4 3 1 1 で実行される第 1 特図保留情報更新処理は、前述の特図保留格納エリア対応領域の第 1 特図保留格納エリア対応領域（図示略）に特図当否情報のデータ（特図データ）を追加（更新）する処理である。具体的には、第 1 特図保留情報更新処理では、主制御装置 4 の RAM 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ～第 4 保留エリア R E A 4（図 9 9 参照）のうち最初の空き保留エリアに格納された特図当否情報に対応する特図データが、当該特図当否情報が格納された第 1 保留エリア R E A 1 ～第 4 保留エリア R E A 4 に対応して設定される第 1 特図第 1 ～第 4 保留エリア対応領域（図示略）に格納される。例えば、特図保留格納エリア 4 1 2 b における第 1 特図保留格納エリア R E A の第 2 保留エリア R E A 2（図 9 9 参照）に特図当否情報が格納された場合には、第 2 保留エリア R E A 2 に対応して設定される第 1 特図第 2 保留エリア対応領域（図示略）に特図データが格納される。また、第 1 特図保留情報更新処理では、特図保留格納エリア対応領域の第 1 特図保留数記憶エリア対応領域（図示略）に記憶される第 1 特図保留数 N に 1 加算される。

【1 6 1 7】

一方、ステップ S 4 3 1 2 で実行される第 1 特図保留画像表示処理は、ステップ S 4 3 1 2 において第 1 特図保留格納エリア対応領域（図示略）に追加（更新）された特図データに基づいて、第 1 特図保留画像表示領域に第 1 特図保留画像を追加する処理が実行される。

【1 6 1 8】

<ステップ S 4 3 1 3>

受信したコマンドが第 1 特図保留コマンドでない場合（ステップ S 4 3 1 0：N o）、MPU 5 1 は、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 3 1 3）。第 2 特図保留コマンドは、第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留数 M が増加することを示す情報と、増加後の第 2 特図保留数 M に関する情報と、増加する第 2 保留に対する特図変動パターン（特図変動表示時間）及び大当たり抽選の結果に関する情報と、を含む。

【1 6 1 9】

MPU 5 1 は、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドである場合（ステップ S 4 3 1 3：Y e s）、処理をステップ S 4 3 1 4 に移行し、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドでない場合（ステップ S 4 3 1 3：N o）、処理をステップ S 4 3 1 6 に移行する。

【1 6 2 0】

<ステップ S 4 3 1 4 及び S 4 3 1 5>

受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドである場合（ステップ S 4 3 1 3：Y e s）、MPU 5 1 は、第 2 特図保留情報更新処理（ステップ S 4 3 1 4）及び第 2 特図保留画

10

20

30

40

50

像表示処理（ステップ S 4 3 1 5）を実行し、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 6 2 1】

ここで、ステップ S 4 3 1 4 で実行される第 2 特図保留情報更新処理は、前述の特図保留格納エリア対応領域の第 2 特図保留格納エリア対応領域（図示略）に特図当否情報のデータ（特図データ）を追加（更新）する処理である。具体的には、第 2 特図保留情報更新処理では、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ～第 4 保留エリア R E B 4（図 9 9 参照）のうち最初の空き保留エリアに格納された特図当否情報に対応する特図データが、当該特図当否情報が格納された第 1 保留エリア R E B 1 ～第 4 保留エリア R E B 4 に対応して設定される第 2 特図第 1 ～第 4 保留エリア対応領域（図示略）に格納される。例えば、特図保留格納エリア 4 1 2 b における第 2 特図保留格納エリア R E B の第 3 保留エリア R E B 3（図 9 9 参照）に特図当否情報が格納された場合には、第 3 保留エリア R E B 3 に対応して設定される第 1 特図第 3 保留エリア対応領域（図示略）に特図データが格納される。また、第 2 特図保留情報更新処理では、特図保留格納エリア対応領域の第 2 特図保留数記憶エリア対応領域（図示略）に記憶される第 2 特図保留数 M に 1 加算される。

10

【1 6 2 2】

一方、ステップ S 4 3 1 5 で実行される第 2 特図保留画像表示処理は、ステップ S 4 3 1 4 において第 2 特図保留格納エリア対応領域（図示略）に追加（更新）された特図データに基づいて、第 2 特図保留画像表示領域 7 7 に第 2 特図保留画像を追加する処理が実行される。

20

【1 6 2 3】

<ステップ S 4 3 1 6>

受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドでない場合（ステップ S 4 3 1 3：N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 4 3 1 6）。大当たり遊技開始コマンドは、大当たり遊技を開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 1 2 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 9 0 4 において大当たり遊技を開始する場合に設定される。

【1 6 2 4】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドである場合（ステップ S 4 3 1 6：Y e s）、処理をステップ S 4 3 1 7 に移行し、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップ S 4 3 1 6：N o）、処理をステップ S 4 3 1 9 に移行する。

30

【1 6 2 5】

<ステップ S 4 3 1 7 及び S 4 3 1 8>

大当たり遊技開始コマンドを受信した場合（ステップ S 4 3 1 6：Y e s）、M P U 5 1 は、大当たり遊技演出設定処理を実行すると共に（ステップ S 4 3 1 7）、大当たり遊技中フラグをオンに設定し（ステップ S 4 3 1 8）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 6 2 6】

大当たり遊技演出設定処理では、大当たり遊技において実行されるオープニング演出、開閉実行モード演出（ラウンド遊技演出及びインターバル演出）及びエンディング演出を含む大当たり演出を設定する処理が実行される。オープニング演出及びエンディング演出は、可動体である開閉扉 3 1 9 によって可変入賞口 3 1 6 が閉鎖された状態で開閉扉 3 1 9 とは異なる制御対象である図柄表示部 3 4 1 において表示制御処理により実行される表示演出である。具体的には、オープニング演出は可動体制御処理によって開閉扉 3 1 9 の開閉が開始される前に図柄表示部 3 4 1 において実行され、エンディング演出は可動体制御処理によって開閉扉 3 1 9 の開閉が終了された後に図柄表示部 3 4 1 において実行される。開閉実行モード演出（ラウンド遊技演出及びインターバル演出）は、可動体制御処理による開閉扉 3 1 9 の可動によって可変入賞口 3 1 6 が開閉される状態において実行される表示演出である。つまり、開閉扉 3 1 9 による可変入賞口 3 1 6 の開閉は、図柄表示部 3 4 1 における表示演出としての開閉実行モード演出の表示中に実行される。

40

50

【1627】

この大当たり遊技演出設定処理では、大当たり遊技でのオープニング、開閉実行モード（ラウンド遊技及びインターバル）及びエンディングにおいて図柄表示部341で実行される表示演出を設定する表示制御処理が実行され、さらに、大当たり遊技でのオープニング、開閉実行モード（ラウンド遊技及びインターバル）及びエンディングにおいて実行されるスピーカ26での音声演出及び電飾部27でのランプ演出を設定する処理が実行される。また、開閉実行モード（ラウンド遊技及びインターバル）での演出の実行中に、可動体である開閉扉319が開閉動作される。

【1628】

なお、オープニング演出、開閉実行モード演出（ラウンド遊技演出及びインターバル演出）及びエンディング演出は、1種類でも複数種類であってもよい。例えば、オープニング演出、開閉実行モード演出（ラウンド遊技演出及びインターバル演出）及びエンディング演出を複数種類設定する場合、確変大当たりである場合の演出、通常大当たりである場合の演出、確変遊技状態が継続する場合の演出などを設定することが考えられる。

10

【1629】

また、大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技の実行中であることを示すフラグであり、後述の図152の大当たり遊技演出制御処理でのステップS5201において、大当たり遊技の実行中であるか否か、即ち大当たり遊技演出の進行を制御するか否かを判断するために参照される。

20

【1630】

<ステップS4319>

受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップS4316：No）、MPU51は、受信したコマンドがオープニング開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS4319）オープニング開始コマンドは、大当たり遊技のオープニングを開始することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図112の大当たり遊技制御処理でのステップS3908においてオープニングを開始する場合に設定される。

【1631】

MPU51は、受信したコマンドがオープニング開始コマンドである場合（ステップS4319：Yes）、処理をステップS4320に移行し、受信したコマンドがオープニング開始コマンドでない場合（ステップS4319：No）、処理をステップS4321に移行する。

30

【1632】

<ステップS4320>

オープニング開始コマンドを受信した場合（ステップS4319：Yes）、MPU52は、オープニング演出開始フラグをオンに設定し（ステップS4320）、当該コマンド判定処理を終了する。オープニング演出開始フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を開始させるフラグであり、後述の図152の大当たり遊技演出制御処理でのステップS5202において、オープニング演出を開始させるか否かを判断するために参照される。

40

【1633】

<ステップS4321>

受信したコマンドがオープニング開始コマンドでない場合（ステップS4319：No）、MPU51は、受信したコマンドがオープニング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS4321）オープニング終了コマンドは、大当たり遊技のオープニングを終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図113の大当たり遊技制御処理でのステップS3914においてオープニングを終了する場合に設定される。

【1634】

MPU51は、受信したコマンドがオープニング終了コマンドである場合（ステップS

50

4 3 2 1 : Y e s) 、処理をステップ S 4 3 2 2 に移行し、受信したコマンドがオープニング終了コマンドでない場合 (ステップ S 4 3 2 1 : N o) 、処理を図 1 2 2 のステップ S 4 3 2 3 に移行する。

【 1 6 3 5 】

<ステップ S 4 3 2 2 >

オープニング終了コマンドを受信した場合 (ステップ S 4 3 2 1 : Y e s) 、M P U 4 1 は、オープニング演出終了フラグをオンに設定し (ステップ S 4 3 2 2) 、当該コマンド判定処理を終了する。オープニング演出終了フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を終了させるフラグであり、後述の図 1 5 2 の大当たり遊技演出制御処理でのステップ S 5 2 0 5 において、オープニング演出を終了させるか否かを判断するために参照される。

10

【 1 6 3 6 】

<ステップ S 4 3 2 3 >

受信したコマンドがオープニング終了コマンドでない場合 (ステップ S 4 3 2 1 : N o) 、図 1 2 2 に示すように、M P U 5 1 は、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドであるか否かを判断する (ステップ S 4 3 2 3) 。ラウンド遊技開始コマンドは、開閉実行モードのラウンド遊技を開始することを示すと共に、今回実行されるラウンド遊技のラウンド数を示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 1 3 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 9 1 7 において開閉実行モードのラウンド遊技を開始する場合に設定される。

20

【 1 6 3 7 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドである場合 (ステップ S 4 3 2 3 : Y e s) 、処理をステップ S 4 3 2 4 に移行し、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドでない場合 (ステップ S 4 3 2 3 : N o) 、処理をステップ S 4 3 2 6 に移行する。

【 1 6 3 8 】

<ステップ S 4 3 2 4 及び S 4 3 2 5 >

ラウンド遊技開始コマンドを受信した場合 (ステップ S 4 3 2 3 : Y e s) 、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出開始フラグをオンに設定し (ステップ S 4 3 2 4) 、当該ラウンド遊技が何ラウンド目であるかを示すラウンド数情報を R A M 5 1 2 にセットし (ステップ S 4 3 2 5) 、当該コマンド判定処理を終了する。ラウンド遊技演出開始フラグは、後述の図 1 5 2 の大当たり遊技演出制御処理のステップ S 5 2 0 8 において開閉実行モード演出の各ラウンド遊技演出を開始させるか否かを判断するために参照される。

30

【 1 6 3 9 】

<ステップ S 4 3 2 6 >

受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドでない場合 (ステップ S 4 3 2 3 : N o) 、M P U 5 1 は、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドであるか否かを判断する (ステップ S 4 3 2 6) 。ラウンド遊技終了コマンドは、開閉実行モードのラウンド遊技を終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 1 4 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 9 2 9 においてラウンド遊技を終了する場合に設定される。

40

【 1 6 4 0 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドである場合 (ステップ S 4 3 2 6 : Y e s) 、処理をステップ S 4 3 2 7 に移行し、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドでない場合 (ステップ S 4 3 2 6 : N o) 、処理をステップ S 4 3 2 8 に移行する。

【 1 6 4 1 】

<ステップ S 4 3 2 7 >

ラウンド遊技終了コマンドを受信した場合 (ステップ S 4 3 2 6 : Y e s) 、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグをオンに設定し (ステップ S 4 3 2 7) 、当該コマン

50

ド判定処理を終了する。ラウンド遊技終了フラグは、後述の図152の大当たり遊技演出制御処理でのステップS5211においてラウンド遊技演出終了するか否かを判断する場合に参照される。

【1642】

<ステップS4328>

受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドでない場合（ステップS4326：No）、MPU51は、受信したコマンドがインターバル開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS4328）。インターバル開始コマンドは、開閉実行モードにおけるラウンド遊技間のインターバルを開始することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図114の大当たり遊技制御処理でのステップS3933においてインターバルを開始させる場合に設定される。

10

【1643】

ここで、MPU51は、受信したコマンドがインターバル開始コマンドである場合（ステップS4328：Yes）、処理をステップS4329に移行し、受信したコマンドがインターバル開始コマンドでない場合（ステップS4328：No）、処理をステップS4330に移行する。

【1644】

<ステップS4329>

受信したコマンドがインターバル開始コマンドである場合（ステップS4328：Yes）、MPU51は、インターバル演出開始フラグをオンに設定し（ステップS4329）、当該コマンド判定処理を終了する。インターバル演出開始フラグは、後述の図152の大当たり遊技演出制御処理でのステップS5214においてインターバル演出を開始するか否かを判断する場合に参照される。

20

【1645】

<ステップS4330>

受信したコマンドがインターバル開始コマンドでない場合（ステップS4328：No）、MPU51は、受信したコマンドがインターバル終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS4330）。インターバル終了コマンドは、開閉実行モードにおけるラウンド遊技間のインターバルを終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図115の大当たり遊技制御処理でのステップS3939においてインターバルを終了させる場合に設定される。

30

【1646】

ここで、MPU51は、受信したコマンドがインターバル終了コマンドである場合（ステップS4330：Yes）、処理をステップS4331に移行し、受信したコマンドがインターバル終了コマンドでない場合（ステップS4330：No）、処理をステップS4332に移行する。

【1647】

<ステップS4331>

受信したコマンドがインターバル終了コマンドである場合（ステップS4330：Yes）、MPU51は、インターバル演出終了フラグをオンに設定し（ステップS4331）、当該コマンド判定処理を終了する。インターバル演出終了フラグは、後述の図152の大当たり遊技演出制御処理でのステップS5217においてインターバル演出を終了するか否かを判断する場合に参照される。

40

【1648】

<ステップS4332>

受信したコマンドがインターバル終了コマンドでない場合（ステップS4330：No）、MPU51は、受信したコマンドがエンディング開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS4332）。エンディング開始コマンドは、大当たり遊技におけるエンディングを開始することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図114の大当たり遊技制御処理でのステップS3942においてエンディングを開

50

始させる場合に設定される。

【1649】

ここで、MPU51は、受信したコマンドがエンディング開始コマンドである場合（ステップS4332：Yes）、処理をステップS4333に移行し、受信したコマンドがエンディング開始コマンドでない場合（ステップS4332：No）、処理をステップS4334に移行する。

【1650】

<ステップS4333>

受信したコマンドがエンディング開始コマンドである場合（ステップS4332：Yes）、MPU51は、エンディング演出開始フラグをオンに設定し（ステップS4333）、当該コマンド判定処理を終了する。エンディング演出開始フラグは、後述の図152の大当たり遊技演出制御処理のステップS5220においてエンディング演出を開始するか否かを判断する場合に参照される。

10

【1651】

<ステップS4334>

受信したコマンドがエンディング開始コマンドでない場合（ステップS4332：No）、MPU51は、受信したコマンドがエンディング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS4334）。エンディング終了コマンドは、大当たり遊技のエンディングが終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図115の大当たり遊技制御処理でのステップS3948においてエンディングを終了させる場合に設定される。

20

【1652】

ここで、MPU51は、受信したコマンドがエンディング終了コマンドである場合（ステップS4334：Yes）、処理をステップS4335に移行し、受信したコマンドがエンディング終了コマンドでない場合（ステップS4334：No）、処理をステップS4336に移行する。

【1653】

<ステップS4335>

受信したコマンドがエンディング終了コマンドである場合（ステップS4334：Yes）、MPU51は、エンディング演出終了フラグをオンに設定し（ステップS4335）、当該コマンド判定処理を終了する。エンディング演出終了フラグは、後述の図152の大当たり遊技演出制御処理のステップS5223においてエンディング演出を終了するか否かを判断する場合に参照される。

30

【1654】

<ステップS4336>

受信したコマンドがエンディング終了コマンドでない場合（ステップS4334：No）、MPU51は、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS4336）。大当たり遊技終了コマンドは、大当たり遊技を終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図112の大当たり遊技制御処理でのステップS3950において大当たり遊技を終了する場合に設定される。

40

【1655】

ここで、MPU51は、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドである場合（ステップS4336：Yes）、処理をステップS4337に移行し、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドでない場合（ステップS4336：No）、処理をステップS4339に移行する。

【1656】

<ステップS4337>

受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドである場合（ステップS4336：Yes）、MPU51は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオ

50

フに設定し（ステップ S 4 3 3 7）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 6 5 7】

<ステップ S 4 3 3 8>

受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 4 3 3 6：No）、MPU 5 1 は、主制御装置 4 から受信したその他のコマンドに基づく処理を実行し（ステップ S 4 3 3 8）、当該コマンド判定処理を終了する。

【1 6 5 8】

〔停止図柄組み合わせ設定処理〕

次に、図 1 2 1 のコマンド処理のステップ S 4 3 0 3 で実行される停止図柄組み合わせ設定処理の手順の一例を説明する。停止図柄組み合わせ設定処理では、特図遊技において図柄表示部 3 4 1 で変動表示される複数の飾り図柄（例えば 3 つ）が有効ラインに停止表示される場合の図柄組み合わせが設定される。具体的には、MPU 5 1 は、特図変動パターンコマンドに基づいて、後述の第 1 停止図柄選択テーブル（図 1 2 3 参照）を参照して停止図柄組み合わせが設定される。ここで、図 1 2 3 は第 1 停止図柄選択テーブルの一例を示す図であり、図 1 2 4 は停止図柄組み合わせ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 1 2 3 及び図 1 2 4 を参照しつつ停止図柄組み合わせ設定処理を説明する。

10

【1 6 5 9】

図 1 2 3 に示すように、第 1 停止図柄選択テーブルでは、図柄表示部 3 4 1 において最初に停止表示させる飾り図柄（第 1 停止図柄）が定められている。なお、図 1 2 3 は、飾り図柄が「1」～「9」であり、「3 3 3」が確変大当たり（5 R 確変大当たり及び 1 6 R 確変大当たりのいずれか）であることを示す図柄組み合わせ、「7 7 7」が 1 6 R 確変大当たりであることを示す図柄組み合わせ、「3 3 3」及び「7 7 7」以外のゾロ目が 5 R 通常大当たり、5 R 確変大当たり及び 1 6 R 確変大当たりのいずれかであることを示す図柄組み合わせであることを前提としている。

20

【1 6 6 0】

抽選結果が「5 R 通常大当たり」には、第 1 停止図柄として「3」及び「7」の振り分けはなく、「3」及び「7」以外の飾り図柄から予め定められた確率で第 1 停止図柄決定される。即ち、抽選結果が「5 R 通常大当たり」の場合、5 R 確変大当たり又は 1 6 R 確変大当たり（確変大当たり）であることを示す「3 3 3」又は「7 7 7」の図柄組み合わせが停止表示されることはない。

30

【1 6 6 1】

また、抽選結果が「5 R 確変大当たり」には、第 1 停止図柄として「7」の振り分けはなく、「7」以外の飾り図柄から予め定められた確率で第 1 停止図柄決定される。即ち、抽選結果が「5 R 確変大当たり」の場合、1 6 R 確変大当たりであることを示す「7 7 7」の図柄組み合わせが停止表示されることはない。一方、抽選結果が「5 R 確変大当たり」の場合であっても、5 R 確変大当たりであることを示す「3 3 3」の図柄組み合わせ以外のゾロ目の図柄組み合わせが停止表示され得る。即ち、抽選結果が「5 R 確変大当たり」の場合であっても、飾り図柄の停止表示結果が 5 R 通常大当たりを示唆する「3 3 3」の図柄組み合わせ以外のゾロ目の図柄組み合わせが停止表示され得る。

40

【1 6 6 2】

さらに、抽選結果が「1 6 R 確変大当たり」には、「1」～「9」の全ての飾り図柄に対する振り分けがあり、「1」～「9」の飾り図柄から予め定められた確率で第 1 停止図柄決定される。即ち、抽選結果が「1 6 R 確変大当たり」の場合であっても、1 6 R 確変大当たりであることを示す「7 7 7」の図柄組み合わせ以外のゾロ目の図柄組み合わせが停止表示され得る。即ち、抽選結果が「1 6 R 確変大当たり」の場合であっても、飾り図柄の停止表示結果が 5 R 確変大当たり又は 5 R 通常大当たりを示唆する「7 7 7」の図柄組み合わせ以外のゾロ目の図柄組み合わせが停止表示され得る。

【1 6 6 3】

そして、MPU 5 1 は、抽選結果が大当たりである場合に第 1 停止図柄を決定すると、

50

第2停止図柄及び最終停止図柄を先に決定した第1停止図柄と同じ図柄に決定する。これにより、当該特図遊技において図柄表示部341の有効ラインに停止表示される停止図柄組み合わせが決定される。

【1664】

一方、抽選結果が「外れ」には、「1」～「9」の全ての飾り図柄に対する振り分けがあり、「1」～「9」の飾り図柄から予め定められた確率で第1停止図柄決定される。そして、MPU51は、抽選結果が「外れ」である場合に第1停止図柄を決定すると、外れ種別テーブル（図100（D）参照）に基づいて選択された外れ種別、及び先に決定した第1停止図柄に基づいて第2停止図柄を決定する。例えば、前記外れ種別が前後外れリーチである場合、第2停止図柄が第1停止図柄と同じ図柄に決定され、最終停止図柄が第1停止図柄の前後の図柄に決定される。また、前記外れ種別が前後外れ以外リーチである場合、第2停止図柄が第1停止図柄と同じ図柄に決定され、最終停止図柄が第1停止図柄及び第1停止図柄の前後の図柄とは異なる図柄に決定される。また、前記外れ種別が完全外れである場合、第2停止図柄が第1停止図柄とは異なる図柄に決定され、最終停止図柄が第1停止図柄及び第2停止図柄とは無関係に決定される。なお、飾り図柄の停止図柄組み合わせは、表示制御装置6において決定してもよく、第1停止図柄のみを音声ランプ制御装置5において決定し、第2停止図柄及び最終停止図柄を表示制御装置6において決定してもよい。

10

【1665】

ここで、図124は、停止図柄組み合わせ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図124を参照しつつ停止図柄組み合わせ設定処理の手順の一例を説明する。

20

【1666】

<ステップS4401～S4403>

図124に示すように、第1停止図柄選択テーブルでは、MPU51は、まず第1停止図柄種別カウンタの値を特定すると共に（ステップS4401）、大当たり抽選の結果を特定する（ステップS4402）。そして、MPU51は、ステップS4401において特定される第1停止図柄種別カウンタの値と、ステップS4402において特定される大当たり抽選の結果とに基づいて、停止図柄組み合わせを設定し（ステップS4403）、処理をステップS4404に移行する。

30

【1667】

<ステップS4404>

ステップS4404では、MPU51は、ステップS4402において特定される大当たり抽選の結果が16R確変大当たりであるか否かを判断する。そして、MPU51は、大当たり抽選の結果が16R確変大当たりである場合（ステップS4404：Yes）、処理をステップS4405に移行し、大当たり抽選の結果が16R確変大当たりでない場合（ステップS4404：No）、処理をステップS4406に移行する。

【1668】

<ステップS4405>

大当たり抽選の結果が16R確変大当たりである場合（ステップS4404：Yes）、MPU51は、ステップS4403において設定される停止図柄組み合わせが16R確変大当たりであることを告知する「777」であるか否かを判断する。そして、MPU51は、停止図柄組み合わせが「777」である場合（ステップS4405：Yes）、処理をステップS4406に移行し、停止図柄組み合わせが「777」でない場合（ステップS4405：No）、処理をステップS4407に移行する。

40

【1669】

<ステップS4406>

大当たり抽選の結果が16R確変大当たりでない場合（ステップS4404：No）、又は停止図柄組み合わせが「777」である場合（ステップS4405：Yes）、MPU51は、16R確変非昇格フラグをオンに設定し（ステップS4406）、当該停止図

50

柄組み合わせ設定処理を終了する。16R確変非昇格フラグは、可動体である可動回転役物部材37を駆動パターンG（図129（D）及び図137参照）で可動させることによる16R確変昇格演出を実行させると共に、この16R確変昇格演出の実行前にボタン演出（図140参照）を実行させるフラグであり、後述の可動回転役物制御処理での図144のステップS4945又は図145のステップS4953において可動回転役物部材37を駆動パターンG（図129（D）及び図137参照）で可動させるか否かを判断するために、又は後述の図139のボタン演出設定処理でのステップS4702においてボタン演出を実行するか否かを判断するために参照される。

【1670】

<ステップS4407>

ステップS4403において設定される停止図柄組み合わせが16R確変大当たりであることを告知する「777」でない場合（ステップS4405：No）、MPU51は、16R確変昇格フラグをオンに設定し、当該停止図柄組み合わせ設定処理を終了する。16R確変昇格フラグは、可動体である可動回転役物部材37を駆動パターンF（図129（C）及び図135参照）で可動させることによる16R確変昇格演出を実行させると共に、この16R確変昇格演出の実行前にボタン演出（図140参照）を実行させるフラグであり、後述の可動回転役物制御処理での図144のステップS4942又は図145のステップS4950において可動回転役物部材37を駆動パターンF（図129（C）及び図135参照）で可動させる駆動データ4をセットするか否かを判断するために、又は後述の図139のボタン演出設定処理でのステップS4701においてボタン演出を実行するか否かを判断するために参照される。

【1671】

〔変動種別（演出パターン）設定処理〕

次に、図121のコマンド処理のステップS4304で実行される変動種別（演出パターン）設定処理の手順の一例を説明する。変動種別（演出パターン）設定処理では、特図遊技において各種演出手段（図柄表示部341、スピーカ26、電飾部27、可動回転役物部材37）に実行させる特図遊技演出が設定される。以下、図125～図140を参照しつつ変動種別（演出パターン）設定処理を説明する。

【1672】

<ステップS4501>

図125に示すように、変動種別（演出パターン）設定処理では、MPU51は、まず特図変動パターンコマンドに基づいて、変動種別テーブル（図126参照）を参照して、変動種別（演出パターン）及び変動表示時間を設定し、さらに変動種別（演出パターン）に応じた演出パターン種別選択テーブル（図127参照）に基づいて演出パターン種別を設定する（ステップS4501）。

【1673】

ここで、図126は、変動種別（演出パターン）を決定する際にMPU51によって参照される変動種別テーブルの一例を示す図である。

【1674】

図126に示すように、変動種別テーブルでは、特図変動パターンコマンドに対応する変動表示時間及び変動種別（演出パターン）の内容が定められている。例えば、抽選結果が「通常大当たり」であり特図変動パターンが「01」である特図変動パターンコマンド「A01」には、変動表示時間「30s」及び変動種別「ノーマルリーチ演出パターン」が対応付けられている。また、抽選結果が「5R確変大当たり」であり特図変動パターンが「02」である特図変動パターンコマンド「B02」には、変動表示時間「60s」及び変動種別「スーパーリーチ演出パターン」が対応付けられており、抽選結果が「16R確変大当たり」であり特図変動パターンが「03」である特図変動パターンコマンド「C03」には変動表示時間「90s」及び変動種別「スペシャルリーチ演出パターン」が対応付けられている。さらに、抽選結果が「外れ」であり特図変動パターンが「04」である特図変動パターンコマンド「D04」には、変動表示時間「7s」及び変動種別「非リ

10

20

30

40

50

ーチ演出パターン」が対応付けられており、抽選結果が「外れ」であり特図変動パターンが「05」である特図変動パターンコマンド「D05」には、変動表示時間「10s」及び変動種別「非リーチ演出パターン」が対応付けられている。

【1675】

また、図127(A)～図127(C)は、演出パターン種別選択テーブルの一例を示す図である。演出パターン種別選択テーブルは、変動種別(演出パターン)ごとに設定されている。具体的に、図127(A)は特図遊技演出における最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出である場合に参照されるノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブルであり、図127(B)は特図遊技演出における最終の個別演出種別がスーパーリーチ演出である場合に参照されるスーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルであり、図127(C)は特図遊技演出における最終の個別演出種別がスペシャルリーチ演出である場合に参照されるスペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルである。

10

【1676】

なお、本実施形態では、変動種別各々に対応する演出種別が5種類である場合を例に挙げて説明するが、演出種別は6種類以上であってよい。また、図127では、変動種別がリーチなしの場合の演出種別テーブルは省略している。

【1677】

図127(A)に示すノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブルでは、抽選結果(5R通常大当たり、5R確変大当たり、16R確変大当たり、及び外れ)に応じて、演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別として「演出パターンX1」～「演出パターンX5」が定められている。そして、MPU51は、変動種別(演出パターン)がノーマルリーチ演出パターンであると判断した場合には、演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別を抽選結果に応じてノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブルから選択する。ここで、ノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブルに含まれる演出パターンX1～演出パターンX3は、例えば飾り図柄が高速変動する高速変動演出の終了後に飾り図柄がリーチ状態となるノーマルリーチ演出が実行される演出であり、最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出となる演出である。

20

【1678】

また、図127(B)に示すスーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルでは、抽選結果に応じて演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別として「演出パターンY1」～「演出パターンY5」が定められている。そして、MPU51は、変動種別(演出パターン)がスーパーリーチ演出パターンであると判断した場合には、演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別を抽選結果に応じてスーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルから選択する。ここで、スーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルに含まれる演出パターンY1～演出パターンY3は、例えば高速変動演出の終了後にノーマルリーチ演出が実行され、さらに最終の個別演出種別としてノーマルリーチ演出よりも大当たり期待度の高く、ノーマルリーチ演出よりも演出実行時間の長いスーパーリーチ演出に発展する演出である。なお、スーパーリーチ演出パターン種別選択テーブルは、ノーマルリーチ演出を経由することなく、高速変動演出の終了後にスーパーリーチ演出に発展するスーパーリーチ演出パターンを含んでいてもよい。

30

40

【1679】

さらに、図127(C)に示すスペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルでは、抽選結果に応じて演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別として「演出パターンZ1」～「演出パターンZ5」が定められている。そして、MPU51は、変動種別(演出パターン)がスペシャルリーチ演出パターンであると判断した場合には、演出パターン種別カウンタのカウンタ値に対応する演出パターン種別を抽選結果に応じてスペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルから選択する。ここで、スペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルに含まれる演出パターンZ1～演出パターンZ3は、例えば高速変動演出の終了後にノーマルリーチ演出及びスーパーリーチ演出が実行され、さらに最終の個別演出種別としてノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出よりも大

50

当たり期待度の高く、ノーマルリーチ演出よりも演出実行時間の長いスペシャルリーチ演出に発展する演出である。なお、スペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブルは、ノーマルリーチ演出及びスーパーリーチ演出の少なくとも一方を経由することなく、高速変動演出又はノーマルリーチ演出の終了後などにスペシャルリーチ演出に発展するスペシャルリーチ演出パターンを含んでいてもよい。

【1680】

＜ステップS4502及びS4503＞

図125の説明に戻り、ステップS4502では、MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがノーマルリーチ演出パターンであるか否かを判断する。MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがノーマルリーチ演出パターンである場合（ステップS4502：Yes）のマルリーチフラグを設定し（ステップS4503）、処理をステップS4508に移行する。ノーマルリーチフラグは、後述の図138の役物作動演出設定処理のステップS4601において参照される。一方、MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがノーマルリーチ演出パターンでない場合（ステップS4502：No）、処理をステップS4504に移行する。

10

【1681】

＜ステップS4504及びS4505＞

ステップS4501において設定された演出パターンがノーマルリーチ演出パターンでない場合（ステップS4502：No）、MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがスーパーリーチ演出パターンであるか否かを判断する（ステップS4504）。MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがスーパーリーチ演出パターンである場合（ステップS4504：Yes）、スーパーリーチフラグを設定し（ステップS4505）、処理をステップS4508に移行する。スーパーリーチフラグは、後述の図138の役物作動演出設定処理のステップS4606において参照される。一方、MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがスーパーリーチ演出パターンでない場合（ステップS4504：No）、処理をステップS4506に移行する。

20

【1682】

＜ステップS4506及びS4507＞

ステップS4501において設定された演出パターンがスーパーリーチ演出パターンでない場合（ステップS4504：No）、MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがスペシャルリーチ演出パターンであるか否かを判断する（ステップS4506）。MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがスペシャルリーチ演出パターンである場合（ステップS4506：Yes）、スペシャルリーチフラグを設定し（ステップS4507）、処理をステップS4508に移行する。スペシャルリーチフラグは、後述の図138の役物作動演出設定処理のステップS4614において参照される。一方、MPU51は、ステップS4501において設定された演出パターンがスペシャルリーチ演出パターンでない場合（ステップS4506：No）、処理をステップS4508に移行する。

30

40

【1683】

＜ステップS4408＞

ステップS4408では、MPU51は、役物作動演出設定処理を実行し、処理をステップS4409に移行する。役物作動演出設定処理では、詳細は後述するが、特図遊技演出においてスーパーリーチ演出やスペシャルリーチ演出や実行される場合、抽選処理での大当たり抽選の結果が大当たりである場合に、特図遊技演出における可動体である可動回転役物部材37の動作を設定する可動体制御処理が実行される。

【1684】

＜ステップS4409＞

ステップS4409では、MPU51は、ボタン演出設定処理を実行し、当該特図遊技

50

設定処理を終了する。ボタン演出設定処理は、詳細は後述するが、特図遊技演出の実行期間中に飾り図柄を有効ラインにゾロ目で仮停止表示させてから飾り図柄を確定停止表示させるまでの間において、可動回転役物部材 37 の動作によって 16 R 確変大当たりに昇格させるか否かを遊技者に告知する前に操作ボタン 20 に対する遊技者の操作を促す演出が設定される。

【1685】

〔役物作動演出設定処理〕

次に、図 125 の特図遊技演出設定処理のステップ S 4508 において実行される役物作動演出設定処理について説明するが、その前に、可動体である可動回転役物部材 37 の作動タイミングや可動態様について先に説明する。

10

【1686】

ここで、図 128 は、可動体である可動回転役物部材 37 の作動タイミングの一例を示す図である。本実施形態では、可動回転役物部材 37 は、スーパーリーチ演出に発展することの告知、スーパーリーチ演出に発展しないことの告知、スペシャルリーチ演出に発展することの告知、スペシャルリーチ演出に発展しないことの告知、16 R 確変大当たりであることを告知、16 R 確変大当たりであることの告知のために作動される。

【1687】

図 128 に示すように、可動回転役物部材 37 の作動タイミングは、図 125 の特図遊技演出設定処理のステップ S 4501 において設定される演出種別（演出パターン）に応じて設定される。

20

【1688】

具体的には、演出種別（演出パターン）が完全外れ演出パターンである場合には、可動回転役物部材 37 の作動タイミングは設定されていない。即ち、演出種別（演出パターン）が完全外れである場合には、可動回転役物部材 37 が作動されない。

【1689】

演出種別（演出パターン）がノーマルリーチ演出パターンである場合には、可動回転役物部材 37 の作動タイミングとして役物作動タイミング A が設定される。役物作動タイミング A は、ノーマルリーチ演出の終盤に設定され、特図遊技の開始から時間 T 1 が経過した時点で開始される。

【1690】

そして、ノーマルリーチ演出パターンである場合の役物作動タイミング A では、可動体である可動回転役物部材 37 が、抽選処理での大当たり抽選の結果が 16 R 確変大当たりである場合には 16 R 確変大当たりであること（16 R 確変昇格）を告知する後述の可動態様 C（図 129（C）参照）で作動され、大当たり抽選の結果が 5 R 確変大当たり又は 5 R 通常大当たりである場合には 16 R 確変大当たりでないこと（16 R 確変非昇格）を告知する後述の可動態様 D（図 129（D）参照）で作動され、大当たり抽選の結果が外れである場合には、スペシャルリーチに発展しないこと（SP 非発展）を告知する後述の可動態様 D（図 129（D）参照）で作動される。

30

【1691】

演出種別（演出パターン）がスーパーリーチ演出パターンである場合には、可動回転役物部材 37 の作動タイミングとして役物作動タイミング A 及び役物作動タイミング B が設定される。役物作動タイミング A は、ノーマルリーチ演出の終盤に設定され、特図遊技の開始から時間 T 1 が経過した時点で開始される。役物作動タイミング B は、スーパーリーチ演出の終盤に設定され、特図遊技の開始から時間 T 2 が経過した時点で開始される。

40

【1692】

そして、スーパーリーチ演出パターンである場合の役物作動タイミング A では、可動体である可動回転役物部材 37 が、抽選処理での大当たり抽選の結果とは無関係に、スーパーリーチに発展すること（SP 発展）を告知する後述の可動態様 A（図 129（A）参照）で作動される。

【1693】

50

また、スーパーリーチ演出パターンである場合の役物作動タイミング B では、可動体である可動回転役物部材 37 が、抽選処理での大当たり抽選の結果が 16 R 確変大当たりである場合には 16 R 確変大当たりであること（16 R 確変昇格）を告知する後述の可動態様 C（図 129（C）参照）で作動され、大当たり抽選の結果が 5 R 確変大当たり又は 5 R 通常大当たりである場合には 16 R 確変大当たりでないこと（16 R 確変非昇格）を告知する後述の可動態様 D（図 129（D）参照）で作動され、大当たり抽選の結果が外れである場合には、スペシャルリーチに発展しないこと（SPSP 非発展）を告知する可動態様 D（図 129（D）参照）で作動される。

【1694】

演出種別（演出パターン）がスペシャルリーチ演出パターンである場合には、可動回転役物部材 37 の作動タイミングとして役物作動タイミング A、役物作動タイミング B 及び役物作動タイミング C が設定される。役物作動タイミング A は、ノーマルリーチ演出の終盤に設定され、特図遊技の開始から時間 T1 が経過した時点で開始される。役物作動タイミング B は、スーパーリーチ演出の終盤に設定され、特図遊技の開始から時間 T2 が経過した時点で開始される。役物作動タイミング C は、スペシャルリーチ演出の終盤に設定され、特図遊技の開始から時間 T3 が経過した時点で開始される。

【1695】

そして、スペシャルリーチ演出パターンである場合の役物作動タイミング A では、可動体である可動回転役物部材 37 が、抽選処理での大当たり抽選の結果とは無関係に、スーパーリーチに発展すること（SP 発展）を告知する後述の可動態様 A（図 129（A）参照）で作動される。

【1696】

また、スペシャルリーチ演出パターンである場合の役物作動タイミング B では、可動体である可動回転役物部材 37 が、抽選処理での大当たり抽選の結果とは無関係に、スペシャルリーチに発展すること（SPSP 発展）を告知する後述の可動態様 A（図 129（A）参照）で作動される。

【1697】

また、スペシャルリーチ演出パターンである場合の役物作動タイミング C では、可動体である可動回転役物部材 37 が、抽選処理での大当たり抽選の結果が 16 R 確変大当たりである場合には 16 R 確変大当たりであること（16 R 確変昇格）を告知する後述の可動態様 C（図 129（C）参照）で作動され、大当たり抽選の結果が 5 R 確変大当たり又は 5 R 通常大当たりである場合には 16 R 確変大当たりでないこと（16 R 確変非昇格）を告知する後述の可動態様 D（図 129（D）参照）で作動される。

【1698】

ここで、図 129（A）～図 129（D）は、可動体である可動回転役物部材 37 の可動態様などの一例を示す図である。図 129（A）～図 129（D）に示すように、本実施形態では、可動回転役物部材 37 の可動態様として、可動態様 A、可動態様 B、可動態様 C 及び可動態様 D が設定されている。

【1699】

図 129（A）に示す可動態様 A は、スーパーリーチ演出に発展することを告知するものであり、可動体制御処理による可動態様 A での可動回転役物部材 37 の制御の終了後には可動回転役物部材 37 とは異なる制御対象である図柄表示部 341 において表示制御処理によって表示演出としてスーパーリーチ演出を表示する制御が実行される。図 129（B）に示す可動態様 B は、スペシャルリーチ演出に発展することを告知するものであり、可動体制御処理による可動態様 B での可動回転役物部材 37 の制御の終了後には可動回転役物部材 37 とは異なる制御対象である図柄表示部 341 において表示制御処理によって表示演出としてスペシャルリーチ演出を表示する制御が実行される。図 129（C）に示す可動態様 C は、16 R 確変大当たりであることを告知するものであり、例えば可動体制御処理による可動態様 C での可動回転役物部材 37 の制御の終了後には可動回転役物部材 37 とは異なる制御対象である図柄表示部 341 において 16 R 確変大当たりであること

を告知する表示演出を表示する制御が実行される。

【1700】

一方、図129(D)に示す可動態様Dは、スーパーリーチ演出に発展しないこと、スペシャルリーチ演出に発展しないこと、又は16R確変大当たりでないことを告知するものである。この場合においても、可動体制御処理による可動態様Dでの可動回転役物部材37の制御の終了後には可動回転役物部材37とは異なる制御対象である図柄表示部341において表示制御処理によって表示演出を表示する制御を実行してもよい。

【1701】

このように、本実施形態では、可動体である可動回転役物部材37の一連の特定動作を終了した後に実行される制御が、可動回転役物部材37とは異なる制御対象を含む。このように、可動回転役物部材37の一連の特定動作を終了した後に実行される制御が、可動回転役物部材37とは異なる制御対象を含むことで、可動回転役物部材37の一連の特定動作の終了後に、可動回転役物部材37とは異なる制御対象において可動回転役物部材37によって付与される情報を改めて付与することが可能になる。これにより、遊技者が可動回転役物部材37の動作を見逃した場合や、可動回転役物部材37の動作によって付与される内容を理解していない場合であっても、可動回転役物部材37とは異なる制御対象において遊技者に情報を改めて付与することが可能になる。また、本実施形態では、可動体である可動回転役物部材37の一連の特定動作を終了した後に実行される制御が、可動回転役物部材37とは異なる制御対象を含むことで、可動回転役物部材37の動作に応じて、後に実行される演出を明示又は示唆することも可能になる。これにより、遊技者は、可動回転役物部材37の動作に着目し、遊技者に有利な演出が実行されることが明示又は示唆されることを期待しつつ遊技の進行を楽しむことができるため、遊技の興趣が向上される。

【1702】

可動態様A、可動態様B、可動態様C及び可動態様Dは、可動体である可動回転役物部材37の動作として共通の連続的動作を含む。この共通の連続的動作では、後述の駆動パターンA、駆動パターンB及び駆動パターンCに従って可動回転役物部材37が可動される。そして、図129(A)に示す可動態様Aでは、可動回転役物部材37が、共通の連続的動作（駆動パターンA、駆動パターンB及び駆動パターンC）の後に、後述の駆動パターンDに従って可動される。図129(B)に示す可動態様Bでは、可動回転役物部材37が、共通の連続的動作（駆動パターンA、駆動パターンB及び駆動パターンC）の後に、後述の駆動パターンEに従って可動される。図129(C)に示す可動態様Cでは、可動回転役物部材37が、共通の連続的動作（駆動パターンA、駆動パターンB及び駆動パターンC）の後に、後述の駆動パターンFに従って可動される。図129(D)に示す可動態様Dでは、可動回転役物部材37が、共通の連続的動作（駆動パターンA、駆動パターンB及び駆動パターンC）の後に、後述の駆動パターンGに従って可動される。

【1703】

また、図129(E)に示すように、音声ランプ制御装置5のROM511には、可動体である可動回転役物部材37の所定の可動態様で動作させるための情報として駆動データを格納した駆動データ記憶エリアが設定されている。この駆動データ記憶エリアには、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）、駆動データ2（役物動作シナリオデータ2）、駆動データ3（役物動作シナリオデータ3）、駆動データ4（役物動作シナリオデータ4）及び駆動データ5（役物動作シナリオデータ5）が格納されている。駆動データ1に基づいて可動体である可動回転役物部材37の動作を制御する場合、ROM511に設定された駆動データ記憶エリアから、可動回転役物部材37の可動態様に対応する駆動データが読み出され、読み出された駆動データがRAM512に設けられた一時記憶領域に設定される。そして、MPU51は、RAM512の一時記憶領域に設定された駆動データ1に基づいて可動体である可動回転役物部材37の動作を制御する。ここで、ROM511は不揮発メモリであるために駆動データを格納するには好適であるが、読み出し速度が遅いため、ROM511から駆動データを直接読み出して可動回転役物部材37の動作

制御を行うには不向きである。そのため、ROM 511の駆動データ記憶エリアから読み出した駆動データをRAM 512の一時記憶領域に設定して可動回転役物部材37の動作を制御することで、ROM 511の駆動データ記憶エリアから駆動データを直読みして可動回転役物部材37の動作を制御する場合に比べて、可動回転役物部材37の動作速度を向上させることが可能になる。

【1704】

駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）は、その内容の詳細は図132を参照して後述するが、可動体である可動回転役物部材37の可動態様A～Dにおいて、可動回転役物部材37に対して共通の連続的動作を実行させる情報である。即ち、可動態様A～Dで可動体である可動回転役物部材37を動作させることが決定された場合には、ROM 511の駆動データ記憶エリアから読み出した駆動データ1をRAM 512の一時記憶領域に1回設定するだけで、可動回転役物部材37に対して共通の連続的動作を実行させることが可能になる。また、駆動データ1に基づいて可動回転役物部材37の共通の連続的動作が制御されることで、可動回転役物部材37の制御の簡略化やデータ量の削減することが可能になる。これにより、1の可動態様に対して使用される駆動データ量を少なくできるためにメモリ負担を軽減できるだけでなく、可動体である可動回転役物部材37を動作させる際の駆動データの読み出しや一時記憶などの制御負担が軽減される。そして、可動回転役物部材37が共通の駆動データ1に基づいて動作される場合、共通の駆動データ1に基づく全ての制御処理が終了してから、その後の可動回転役物部材37の動作に対して各可動態様に応じて個別に設定される駆動データ2～5に基づいて可動回転役物部材37の次の動作が実行される。

【1705】

駆動データ2（役物動作シナリオデータ2）は、その内容の詳細は図133（B）を参照して後述するが、スーパーリーチに発展すること（SP発展）を告知する可動回転役物部材37の可動態様Aにおいて、共通の連続的動作（駆動パターンA～C）の後に、個別の動作として後述の駆動パターンD（図133（A）参照）で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

【1706】

駆動データ3（役物動作シナリオデータ3）は、その内容の詳細は図134（B）を参照して後述するが、スペシャルリーチに発展すること（SPSP発展）を告知する可動回転役物部材37の可動態様Bにおいて、共通の連続的動作（駆動パターンA～C）の後に、個別の動作として後述の駆動パターンE（図134（A）参照）で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

【1707】

駆動データ4（役物動作シナリオデータ4）は、その内容の詳細は図136を参照して後述するが、16R確変大当たりであること（16R確変昇格）を告知する可動回転役物部材37の可動態様Cにおいて、共通の連続的動作（駆動パターンA～C）の後に、個別の動作として後述の駆動パターンF（図135参照）で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

【1708】

駆動データ5（役物動作シナリオデータ5）は、その内容の詳細は図137（B）を参照して後述するが、スーパーリーチに発展しないこと（SP非発展）、スペシャルリーチに発展しないこと（SPSP非発展）、又は16R確変大当たりでないこと（16R確変非昇格）を告知する可動回転役物部材37の可動態様Dにおいて、共通の連続的動作（駆動パターンA～C）の後に、個別の動作として後述の駆動パターンG（図137（A）参照）で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

【1709】

このように、可動態様A、可動態様B、可動態様C及び可動態様Dは、可動体である可動回転役物部材37の動作として共通の連続的動作を含む。そして、可動態様A～Dのうち、可動態様A、可動態様B及び可動態様Cは、可動回転役物部材37の動作によって遊

技者に有利な告知を行うものである。一方、可動態様 A～D のうち、可動態様 D は、可動回転役物部材 37 の動作によって遊技者に不利な告知を行うものである。即ち、本実施形態では、可動態様 A～D に共通の連続的動作による可動体である可動回転役物部材 37 の制御の終了後に、可動態様 A～C では遊技者に有利な告知を行う第 1 の制御が実行され、可動態様 D では遊技者に不利な告知を行う第 2 の制御が実行される。

【1710】

また、本実施形態では、詳細は後述するが、可動態様 A～D に共通の連続的動作の終了時には、可動体である可動回転役物部材 37 が戻り側位置である待機位置に位置された状態で可動が停止される。即ち、本実施形態では、可動態様 A～D に共通の連続的動作による可動体である可動回転役物部材 37 の制御の終了後に、可動態様 A～C では遊技者に有利な告知を行う第 1 の制御が実行される場合、及び可動態様 D では遊技者に不利な告知を行う第 2 の制御が実行される場合のいずれにおいても、可動回転役物部材 37 が戻り側位置である待機位置に位置された状態で可動回転役物部材 37 の動作が開始される。そのため、可動態様 A～D に共通の連続的動作が終了した場合に、その後の可動回転役物部材 37 に対する制御が第 1 の制御及び第 2 の制御のいずれの場合であっても、違和感なく円滑に、その後の可動回転役物部材 37 に対する制御を開始させることができる。その結果、連続的動作の終了判定条件が成立していると終了判定される場合、その終了判定のタイミングが不定であったとしても、当該連続的動作から、第 1 の制御及び第 2 の制御によって実行される駆動パターン D～G による次動作に移行させることができる。

【1711】

ここで、図 130 (A) は可動体である可動回転役物部材 37 の共通の連続的動作である駆動パターン A での可動回転役物部材 37 の動作の一例を示す図であり、図 130 (B) は可動体である可動回転役物部材 37 の共通の連続的動作である駆動パターン B での可動回転役物部材 37 の動作の一例を示す図であり、図 131 は可動体である可動回転役物部材 37 の共通の連続的動作である駆動パターン C での可動回転役物部材 37 の動作の一例を示す図である。

【1712】

図 130 (A) に示すように、可動回転役物部材 37 の共通の連続的動作である駆動パターン A は、可動回転役物部材 37 が、戻り側位置である待機位置 (図 130 (A1) 参照) と、駆動側位置である中間作動位置 1 (図 130 (A2) 参照) との間で 2 往復される駆動パターンである (図 130 (A3) 参照)。なお、中間作動位置 1 は、可動回転役物部材 37 の待機位置と最大作動位置 (待機位置から最も離れた位置) との間における待機位置よりの位置 (待機位置の近傍) に設定される。

【1713】

図 130 (B) に示すように、可動回転役物部材 37 の共通の連続的動作である駆動パターン B は、可動回転役物部材 37 が、戻り側位置である待機位置 (図 130 (B1) 参照) と、駆動側位置である中間作動位置 2 (図 130 (B2) 参照) との間で 2 往復される駆動パターンである (図 130 (B3) 参照)。なお、中間作動位置 2 は、可動回転役物部材 37 の待機位置と最大作動位置 (待機位置から最も離れた位置) との間における中間作動位置 1 よりも最大作動位置よりの位置に設定される。

【1714】

図 131 に示すように、可動回転役物部材 37 の共通の連続的動作である駆動パターン C は、可動回転役物部材 37 が、待機位置 (図 131 (A1) 参照) から中間作動位置 1 (図 131 (A2) 参照) に可動された後、戻り側位置である中間作動位置 1 (図 131 (A2) 参照) と、駆動側位置である中間作動位置 2 (図 131 (A3) 参照) との間で 2 往復され、その後に中間作動位置 1 (図 131 (A2) 参照) から待機位置に復帰される駆動パターンである (図 131 (A4) 参照)。

【1715】

前述のように、可動体である可動回転役物部材 37 の共通の連続的動作 (駆動パターン A～C) は、音声ランプ制御装置 5 の RAM 512 に設定された駆動データ記憶エリアに

格納された情報である駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づいて実現される。ここで、図132は、駆動データ記憶エリアに格納された情報である駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）の一例を示す図である。なお、図132に示す駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）は、可動体である可動回転役物部材37の共通の連続的動作を行わせる制御内容と制御順序を規定したデータ群であり、可動回転役物部材37の上下動が昇降用のステップングモーターによって制御される場合の一例である。

【1716】

図132に示すように、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）は、処理No. 01～処理No. 29に従って駆動パターンA～Cで可動回転役物部材37を動作させるものであり、処理No. 01～処理No. 29のうち、処理No. 01～処理No. 09が駆動パターンAに対する処理に対応し、処理No. 10～処理No. 17が駆動パターンBに対する処理に対応し、処理No. 18～処理No. 29が駆動パターンCに対する処理に対応する。

【1717】

連続的動作である駆動パターンAに対する処理No. 01～処理No. 09の処理では、まず駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）がRAM512の一時記憶領域に設定されてから昇降用のステップングモーターの回転停止状態を200ms維持した後（処理No. 01）、昇降用のステップングモーターを正方向に12ステップ回転させる（処理No. 02）。これにより、可動回転役物部材37が下方方向に12mm移動され、可動回転役物部材37が駆動側位置である中間作動位置1に位置される。そして、昇降用のステップングモーター回転停止状態が12ms維持した後（処理No. 03）、昇降用のステップングモーターを逆方向に12ステップ回転させる（処理No. 04）。これにより、中間作動位置1での可動回転役物部材37の停止状態が12ms維持された後に可動回転役物部材37が上方方向に12mm移動されることで、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置される。その結果、可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置と駆動側位置である中間作動位置1との間で1往復される。その後、昇降用のステップングモーターの回転停止状態が40ms維持した後（処理No. 05）、処理No. 06～処理No. 09の処理を実行することで、前述の処理No. 02～処理No. 05の処理を実行した場合と同様に、可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置と駆動側位置である中間作動位置1との間で1往復される。その結果、処理No. 01～処理No. 09の処理を実行することによって、可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置（図130（A1）参照）と駆動側位置である中間作動位置1（図130（A2）参照）との間で2往復される駆動パターンAの動作が実行される。

【1718】

連続的動作である駆動パターンBに対する処理No. 10～処理No. 17の処理では、まず昇降用のステップングモーターを正方向に36ステップ回転させる（処理No. 10）。これにより、可動回転役物部材37が下方方向に36mm移動され、可動回転役物部材37が駆動側位置である中間作動位置2に位置される。そして、昇降用のステップングモーターの回転停止状態を36ms維持した後（処理No. 11）、昇降用のステップングモーターを逆方向に36ステップ回転させ（処理No. 12）、昇降用のステップングモーターの回転停止状態を40ms維持する（処理No. 13）。これにより、可動回転役物部材37が上方方向に36mm移動され、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置されることで、可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置と駆動側位置である中間作動位置2との間で1往復される。さらに、処理No. 14～処理No. 17の処理を実行することで、前述の処理No. 10～処理No. 13の処理を実行した場合と同様に、可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置と駆動側位置である中間作動位置2との間で1往復される。その結果、処理No. 10～処理No. 17の処理を実行することによって、可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置（図130（B1）参照）と駆動側位置である中間作動位置2（図130（B2）参照）との間で2往復される駆動パターンBの動作が実行される。

【1719】

連続的動作である駆動パターンCに対する処理No. 18～処理No. 29の処理では、まず昇降用のステップングモーターを正方向に12ステップ回転させ（処理No. 18）、昇降用のステップングモーターの回転停止状態を40msec維持する（処理No. 19）。これにより、可動回転役物部材37が下方方向に12mm移動され、可動回転役物部材37が待機位置（図131（A1）参照）から中間作動位置1（図131（A2）参照）に位置される。前述のように、駆動パターンCでの中間作動位置1は、駆動パターンCでの中間作動位置1と中間作動位置2との間の往復動作での戻り側位置となる。そして、昇降用のステップングモーターを正方向にさらに24ステップ回転させ（処理No. 20）、昇降用のステップングモーターの回転停止状態を24msec維持する（処理No. 21）。これにより、可動回転役物部材37が下方方向にさらに24mm移動され、可動回転役物部材37が中間作動位置2に位置される（図130（A3）参照）。前述のように、駆動パターンCでの中間作動位置2は、駆動パターンCでの中間作動位置1と中間作動位置2との間の往復動作での駆動側位置となる。さらに、昇降用のステップングモーターを逆方向に24ステップ回転させ（処理No. 22）、昇降用のステップングモーターの回転停止状態を40msec維持する（処理No. 23）。これにより、可動回転役物部材37が上方方向に24mm移動され、可動回転役物部材37が戻り側位置である中間作動位置1（図131（A2）参照）に位置されることで、可動回転役物部材37が、戻り側位置である中間作動位置1と駆動側位置である中間作動位置2との間で1往復される。その後、処理No. 24～処理No. 27の処理を実行することで、前述の処理No. 20～処理No. 23の処理を実行した場合と同様に、可動回転役物部材37が、戻り側位置である中間作動位置1（図131（A2）参照）と駆動側位置である中間作動位置2（図131（A3）参照）との間で1往復される。その結果、処理No. 20～処理No. 27の処理を実行することによって、可動回転役物部材37が、戻り側位置である中間作動位置1（図131（A2）参照）と駆動側位置である中間作動位置2（図131（A3）参照）との間で2往復される。さらに、昇降用のステップングモーターを逆方向にさらに12ステップ回転させ（処理No. 28）、昇降用のステップングモーターの回転停止状態を40msec維持する（処理No. 29）。これにより、可動回転役物部材37が待機位置に復帰される（図131（A1）参照）。その結果、処理No. 18～処理No. 29の処理が実行されることで、可動回転役物部材37に対する駆動パターンCの動作が実行される。

【1720】

ここで、駆動データ1では、可動体である可動回転役物部材37が駆動パターンAで動作される場合の駆動側位置である中間作動位置1において停止状態とされる期間が、可動回転役物部材37の往復動作における上動及び下動のステップ数（12ステップ）に対応して12msecに設定されている。また、駆動データ1では、可動体である可動回転役物部材37が駆動パターンBで動作される場合の駆動側位置である中間作動位置2において停止状態とされる期間が、可動回転役物部材37の往復動作における上動及び下動のステップ数（36ステップ）に対応して36msecに設定されている。さらに、駆動データ1では、可動体である可動回転役物部材37が駆動パターンCで動作される場合の駆動側位置である中間作動位置2において停止状態とされる期間が、可動回転役物部材37の往復動作における上動及び下動のステップ数（24ステップ）に対応して24msecに設定されている。即ち、駆動データ1に基づいて実行される可動回転役物部材37の連続的動作では、可動回転役物部材37の往復動作の移動量に応じて、駆動側位置での停止時間が設定され、往復動作の移動量が大きいほど駆動側位置での停止時間が長く設定されている。つまり、本実施形態では、駆動データ1に基づいて実行される可動回転役物部材37の連続的動作において可動回転役物部材37が駆動側位置に可動されている期間として、少なくとも第1の期間と、第1の期間より長時間の第2の期間とを含む3種類が設定されている。そして、駆動データ1に基づいて実行される可動回転役物部材37の連続的動作において往復動作の移動量が大きいほど駆動側位置での停止時間が長く設定されること

で、連続的動作での往復動作における可動回転役物部材 37 の移動量が大きいほど、可動回転役物部材 37 がゆったりと動作する駆動パターンとなる。つまり、駆動データ 1 に基づいて実行される可動回転役物部材 37 の連続的動作において可動回転役物部材 37 が駆動側位置に可動されている期間が複数設定されることで、例えば少なくとも第 1 の期間と、当該連続的動作において、第 1 の期間より長時間の第 2 の期間とを含むことで、多様な態様の駆動パターンで可動回転役物部材 37 を動作させることができるため、当該連続的動作を多様化することが可能になる。これにより、可動回転役物部材 37 が図柄表示部 341 での表示演出の実行中に演出目的で可動される場合に、その演出性を向上させることが可能になるため、遊技の興趣が向上される。

【1721】

なお、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作において可動回転役物部材 37 が駆動側位置に可動される期間は、少なくとも第 1 の期間と、第 1 の期間より長時間の第 2 の期間とを含めばよく、往復動作における可動回転役物部材 37 の移動量と無関係に設定してもよい。

【1722】

また、本実施形態では、駆動データ 1（役物動作シナリオデータ 1）において規定される処理 No. 05、処理 No. 09、処理 No. 13、処理 No. 17、処理 No. 23、処理 No. 27、及び処理 No. 29 の処理が実行されている間、駆動データ 1 に基づく可動体である可動回転役物部材 37 の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が実行される。即ち、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の開始から異なるタイミングで複数回の終了判定が実行される。そして、詳細は後述するが、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の終了判定条件が成立しているとの終了判定がなされた場合には、当該連続的動作が終了される。つまり、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の終了タイミングは不定である。その結果、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の実行期間が不定となり、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の実行期間として、少なくとも第 1 の期間と当該第 1 の期間より長時間の第 2 の期間とを含む。

【1723】

一方、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作が特図遊技の実行時間は、特図の変動開始において設定される期間であり、特図の変動途中に変更されることはない。その結果、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の実行期間が不定となり、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の実行期間として、少なくとも第 1 の期間と当該第 1 の期間より長時間の第 2 の期間とを含む場合、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の終了後の期間、即ち特図遊技の残りの変動時間も不定となる。これにより、不定なる特図遊技の残りの変動時間に応じた表示演出を図柄表示部 341 において実行することが可能になる。例えば、特図遊技の残りの変動時間が長い場合の表示演出と、特図遊技の残りの変動時間が短い場合の表示演出とを異ならせることが可能になる。そして、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の終了判定条件が、遊技者による操作ボタン 20 に対する操作である場合、遊技者が操作ボタン 20 を操作するタイミングが早いほど、特図遊技の残りの変動時間が長くなる。そのため、特図遊技の残りの変動時間が短い場合の表示演出、例えば遊技者が操作ボタン 20 を操作するタイミングが遅く連続的動作の実行期間が第 1 の期間より長時間の第 2 の期間である場合の表示演出として、デフォルトの表示演出を実行する一方で、特図遊技の残りの変動時間が長い場合、例えば遊技者が操作ボタン 20 を操作するタイミングが早く連続的動作の実行期間が第 1 の期間である場合の表示演出として、プレミアム演出を実行することが可能になる。これにより、表示演出としてプレミアム演出が実行されることを目的として、操作ボタン 20 を操作することを遊技者に促すことが可能になる。

【1724】

ここで、可動体には複数の動作からなる種々の可動態様があり、抽選などで実行すべき可動態様が決定される。一方、可動体の可動態様には共通した動作を有する。このとき、

10

20

30

40

50

可動体の可動態様のうちの一動作（初期位置から少し下動する、その下動位置から初期位置に復帰するなど）毎に別々に駆動データを設定すると、一動作毎に、次に実行する一動作の特定、次に実行する一動作の駆動データのROMからの読み出し及びRAMへの設定、実行中の一動作の終了条件の設定及び終了判定といった一連の処理を行う必要がある。そして、可動体の可動態様は、複数の一動作を含んでいるため、前述の一連の処理を、実行中の可動態様に含まれる一動作毎に実行するとすると、処理工数が多くなるために制御負担が大きい。しかも、可動体の1の可動態様のうちの一動作が他の可動態様の一動作と共通するものである場合に、同じ駆動データを重複してROMに記憶しておくことはデータ量が多くなるため無駄である。そのため、可動体の複数の可動態様に共通する動作に対して共通の1つの駆動データ（データリスト、タスクデータ）としてROMに記憶しておくことで、ROMからの共通の1つの駆動データの1回の読み出し、及びRAMへの共通の1つの駆動データの1回の設定によって、可動体に共通の動作を実行させることが可能になる。これにより、可動体に共通の動作を実行させる場合に、ROMに必要なデータ量を削減でき、ROMからの駆動データの読み出し、RAMへの駆動データの設定といった制御を簡略化できる。

10

【1725】

これに対して、本実施形態では、可動回転役物部材37に対して複数の可動態様（可動態様A～D）が設けられ、これらの可動態様A～Dのうちの駆動パターンA～Cの動作が共通する。そして、本実施形態では、可動体である可動回転役物部材37に対する複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作（駆動パターンA～C）に対する駆動データ1がROMに記憶されている。そのため、可動回転役物部材37に対する複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作が実行される場合には、ROMから駆動データ1が1回読み出され、RAMに駆動データ1が1回設定される。これにより、各可動態様A～Dを実現するために必要な駆動データ量を少なくできるため、メモリ負担を軽減できるだけでなく、可動回転役物部材37を動作させる際の駆動データの読み出しや一時記憶（設定）などの制御負担が軽減される。

20

【1726】

ところで、可動体に対する複数の可動態様に共通の連続的動作が共通の1つの駆動データに基づいて実行される場合であっても、複数の可動態様の中に他の可動形態とは終了判定条件が異なるものが含まれることがある。即ち、可動体に対する複数の可動態様に共通の連続的動作の終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る。例えば、終了判定条件として、共通の連続的動作の実行期間中に設定される所定期間内に遊技者による操作手段に対する操作の実行が設定される場合がある。即ち、可動体に対する複数の可動態様に共通の連続的動作の終了タイミングや、共通の連続的動作から次の動作に移行するタイミングが不定となる。しかしながら、可動体に対する複数の可動態様に共通の連続的動作が共通の1つの駆動データに基づいて実行される場合、共通の1つの駆動データによって規定される全ての処理（動作）が終了するまで、共通の連続的動作を終了することができず、次の動作に移行することができない。

30

【1727】

また、不定なタイミングで成立する終了判定条件に対応するために、共通の連続的動作における一動作毎に終了判定条件が成立しているか否かの終了判定、次の一動作の特定、次の一動作に対する駆動データのROMからの読み出し、及び次の一動作に対する駆動データのRAMへの設定を行うとすると、不定なタイミングで終了判定条件が成立する場合であっても、終了判定条件が成立してから即座に次の動作に移行することができる反面、一動作毎に駆動データを設ける場合と同様に、制御及びデータ量の負担が大きくなる。

40

【1728】

これに対して、本実施形態では、可動体制御処理として、駆動データ1（役物動作シナリオデータ）に基づいて可動回転役物部材37を終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る駆動パターンAで動作させる場合、処理No. 05及び処理No. 09の処理が実行されることで可動体である可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置である待機

50

位置に位置される場合に、駆動データ1（役物動作シナリオデータ）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作に対する終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が行われる。具体的には、本実施形態では、図145の可動回転役物制御処理のステップS4948において処理No. 05及び処理No. 09の処理が実行されていると判断される場合に、当該可動回転役物制御処理のステップS4949において、終了判定条件である遊技者による操作ボタン20に対する操作がなされているか否かを判断する終了判定が行われる。そして、処理No. 05又は処理No. 09の処理の実行中の終了判定において終了判定条件が成立していると判定される場合、駆動データ1によって規定される全ての処理を実行することなく、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37（昇降用のステッピングモーター）の制御が終了される。即ち、処理No. 05又は処理No. 09の処理の実行中の終了判定において終了判定条件が成立していると判定される場合、可動体である可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置に位置される状態で、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37の連続的動作が終了される。

10

【1729】

また、本実施形態では、可動体制御処理として、駆動データ1（役物動作シナリオデータ）に基づいて可動回転役物部材37を終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る駆動パターンBで動作させる場合、処理No. 13及び処理No. 17の処理が実行されることで可動体である可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置である待機位置に位置される場合に、駆動データ1（役物動作シナリオデータ）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作に対する終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が行われる。具体的には、本実施形態では、図145の可動回転役物制御処理のステップS4948において処理No. 13及び処理No. 17の処理が実行されていると判断される場合に、当該可動回転役物制御処理のステップS4949において、終了判定条件である遊技者による操作ボタン20に対する操作がなされているか否かを判断する終了判定が行われる。そして、処理No. 13又は処理No. 17の処理の実行中の終了判定において終了判定条件が成立していると判定される場合、駆動データ1によって規定される全ての処理を実行することなく、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37（昇降用のステッピングモーター）の制御が終了される。即ち、処理No. 13又は処理No. 17の処理の実行中の終了判定において終了判定条件が成立していると判定される場合、可動体である可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置に位置される状態で、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37の連続的動作が終了される。

20

30

【1730】

また、本実施形態では、可動体制御処理として、駆動データ1（役物動作シナリオデータ）に基づいて可動回転役物部材37を終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る駆動パターンCで動作させる場合、処理No. 23及び処理No. 27の処理が実行されることで可動体である可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置である中間作動位置1に位置される場合に、駆動データ1（役物動作シナリオデータ）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作に対する終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が行われる。具体的には、本実施形態では、図145の可動回転役物制御処理のステップS4948において処理No. 23及び処理No. 27の処理が実行されていると判断される場合に、当該可動回転役物制御処理のステップS4949において、終了判定条件である遊技者による操作ボタン20に対する操作がなされているか否かを判断する終了判定が行われる。そして、処理No. 23又は処理No. 27の処理の実行中の終了判定において終了判定条件が成立していると判定される場合、処理を処理No. 28に移行し、処理No. 28及び処理No. 29の処理を実行することで、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37（昇降用のステッピングモーター）の制御が終了される。即ち、処理No. 23又は処理No. 27の処理の実行中の終了判定において終了判定条件が成立していると判定される場合、可動体である可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置である中間作動位置1から、待機位置に復帰させた後に、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37の連続的動作が終了される。

40

50

【1731】

つまり、駆動データ1（役物動作シナリオデータ）に基づいて可動回転役物部材37を終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る駆動パターンA～Cで動作させる場合、駆動データ1に基づいて実行される複数の可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作は、終了判定条件がいずれのタイミングで成立する場合であっても、可動体である可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置に位置された状態で終了される。

【1732】

このように、本実施形態では、可動体制御処理として、可動体である可動回転役物部材37に対する複数の可動態様A～Dに共通であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る連続的動作（駆動パターンA～C）が、共通の1つの駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に対応する情報に基づいて実行される。そのため、各可動態様に含まれる一動作毎に駆動データを設定する場合に比べて、前述のように制御及びデータ量の負担を軽減できる。

【1733】

また、本実施形態では、可動体制御処理として、可動体である可動回転役物部材37に対する複数の可動態様A～Dに共通であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る連続的動作（駆動パターンA～C）が、1つの駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に対応する情報に基づいて実行される場合、可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置である復帰位置又は中間作動位置1に位置される場合に、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作の終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が行われる。これにより、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作の終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が可動回転役物部材37の往復動作の戻り側位置で行われるため、当該終了判定において終了判定条件が成立していると判定された場合に、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる場合に、可動体である可動回転役物部材37を移動させる必要がないか、可動回転役物部材37の移動距離を小さくできる。また、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく連続的動作を終了させる終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が、可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置に位置される毎に実行されることで、当該連続的動作において複数回の終了判定が繰り返し実行される。その結果、終了判定において駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作の終了判定条件が成立していると判定される場合に、当該連続的動作を終了判定条件が成立していると判定されてから即座に終了させることができるだけでなく、終了判定条件の成立から即座に終了させることができる。そのため、複数の可動態様A～Dに共通であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る連続的動作の終了判定条件の成立から即座に次の動作に移行することができる。

【1734】

さらに、複数の可動態様A～Dに共通であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る連続的動作の終了判定条件の成立から即座に次の動作に移行することができることで、複数の可動態様A～Dにおけるに共通の連続的動作から各可動態様A～Dの個別の次動作に移行される場合、共通の連続的動作と別の次動作との間の動作移行円滑を行うことができるため、先の動作移行に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、可動体である可動回転役物部材37が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動回転役物部材37を動作させることが可能になる。

【1735】

なお、本実施形態では、駆動データ1がステップモーターを制御するデータ群として構成され、駆動データ1において実行されている処理No.を特定し、特定された処理No.に基づいて終了判定を実行するタイミングであるか否かが判断されていたが、駆動データ1は終了判定を行う処理を実行させるデータ群として構成してもよい。例えば、図

163に示すように、駆動データ1は、可動体である可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置である待機位置に復帰されている間、即ち処理No.06、処理No.11、処理No.16、処理No.21、処理No.28、処理No.34、及び処理No.37において終了判定が実行されるデータ群として構成することができる。このような駆動データ1においても、可動回転役物部材37が待機位置に復帰される毎に終了判定が実行されるため、不定なタイミングで終了判定条件が成立する場合であっても、制御及びデータ量の負担を軽減しつつ、終了判定条件が成立してから即座に可動回転役物部材37の次の動作に移行することができる。加えて、駆動データ1において規定される順序で処理を実行するだけで、共通の連続的動作の終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行うことができるため、共通の連続的動作の終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行うために駆動データ1において実行されている処理No.を特定する必要がないという利点がある。

10

【1736】

ここで、図133(A)及び図133(B)は、駆動パターンDを説明するための図である。駆動パターンDは、スーパーリーチに発展すること(SP発展)を告知する可動態様Aにおいて、各可動態様A~Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了後に実行される個別の動作のパターンである。なお、図133(B)に示す駆動データ2(役物動作シナリオデータ2)は、可動回転役物部材37の上下動が昇降用のステップングモーターによって制御される場合の一例である。

【1737】

20

図133(A)に示すように、駆動パターンDは、可動体である可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置(図133(A1)参照)から駆動側位置である可動回転役物部材37の最大作動位置において一定時間(例えば2秒)停止させた後(図133(A2)参照)、戻り側位置である待機位置に復帰(図133(A3)参照)される往復動作が実行される駆動パターンである。即ち、本実施形態では、各可動態様A~Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了後に、可動回転役物部材37が最大作動位置に可動されて一定時間停止される動作が実行されることで、スーパーリーチに発展すること(SP発展)が告知される。

【1738】

図133(B)に示すように、駆動パターンDは、可動体である可動回転役物部材37が、駆動データ2(役物動作シナリオデータ2)に対応する情報に基づいて動作される駆動パターンである。この駆動データ2(役物動作シナリオデータ2)は、処理No.01~処理No.05に従って昇降用のステップングモーターを制御するためのものである。

30

【1739】

処理No.01では、駆動データ2(役物動作シナリオデータ2)が読み出されてから昇降用のステップングモーターの回転停止状態が10msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態が維持される(図133(A1)参照)。

【1740】

処理No.02では、昇降用のステップングモーターが正方向に72ステップ回転される。さらに、処理No.03では、昇降用のステップングモーターの回転停止状態が2000msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が下方向に72mm移動されることで、可動回転役物部材37が駆動側位置である最大作動位置に位置され、可動回転役物部材37が最大作動位置に位置された状態が2秒間維持される(図133(A2)参照)。

40

【1741】

処理No.04では、昇降用のステップングモーターが逆方向に72ステップ回転される。さらに、処理No.05では、昇降用のステップングモーターの停止状態が10msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が上方向に72mm移動されることで、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置される。その結果、駆動パ

50

ターンDでは、可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置と駆動側位置である最大作動位置との間で1往復される。

【1742】

ここで、図134(A)及び図134(B)は、駆動パターンEを説明するための図である。駆動パターンEは、スペシャルリーチに発展すること(S P S P発展)を告知する可動態様Bにおいて、各可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了後に実行される個別の動作のパターンである。なお、図134(B)に示す駆動データ3(役物動作シナリオデータ3)は、可動回転役物部材37の上下動が昇降用のステップングモーターによって制御され、可動回転役物部材37の拡張が拡張用のステップングモーターによって制御される場合の一例である。

10

【1743】

図134(A)に示すように、駆動パターンEは、可動体である可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置(図134(A1)参照)から駆動側位置である可動回転役物部材37の最大作動位置において一定時間(例えば2秒)停止された後(図133(A2)～図133(A4)参照)、戻り側位置である待機位置に復帰(図133(A5)参照)される往復動作が実行される点で、前述の駆動パターンDと共通するが、可動回転役物部材37が最大作動位置において一定時間(例えば2秒)停止されている間に拡張(図133(A2)～図133(A4)参照)される点で駆動パターンDとは異なる。即ち、本実施形態では、各可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了後に、可動回転役物部材37が最大作動位置に可動されると共に、可動回転役物部材37が最大作動位置において拡張されることで、スペシャルリーチに発展すること(S P S P発展)が告知される。

20

【1744】

図134(B)に示すように、駆動パターンEは、可動体である可動回転役物部材37が、駆動データ3(役物動作シナリオデータ3)に対応する情報に基づいて動作される駆動パターンである。この駆動データ3(役物動作シナリオデータ3)は、処理No.01～処理No.07に従って昇降用のステップングモーター及び拡張用のステップングモーターを制御するためのものである。

【1745】

処理No.01では、駆動データ3(役物動作シナリオデータ3)が読み出されてから昇降用のステップングモーターの回転停止状態が10msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態が維持される(図134(A1)参照)。

30

【1746】

処理No.02では、昇降用のステップングモーターが正方向に72ステップ回転される。これにより、可動回転役物部材37が下方に72mm移動され、可動回転役物部材37が駆動側位置である最大作動位置に位置される(図134(A2)参照)。

【1747】

なお、処理No.01及び処理No.02では、拡張用のステップングモーターの回転停止状態が維持される。

40

【1748】

処理No.03では、昇降用のステップングモーターの回転停止状態が2000msec維持されると共に、拡張用のステップングモーターが正方向に50ステップ回転される。さらに、処理No.04では、拡張用のステップングモーターの回転停止状態が1900msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が駆動側位置である最大作動位置で拡大した状態とされ、この拡大状態が維持される(図134(A3)参照)。

【1749】

処理No.05では、拡張用のステップングモーターが逆方向に50ステップ回転される。これにより、可動回転役物部材37が駆動側位置である最大作動位置で縮小した状態に復帰される(図134(A4)参照)。

50

【1750】

処理No. 06では、昇降用のステップングモーターが逆方向に72ステップ回転される。さらに、処理No. 07では、昇降用のステップングモーターの回転停止状態が10 msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に復帰される（図134（A5）参照）。

【1751】

なお、処理No. 06及び処理No. 07では、拡縮用のステップングモーターの回転停止状態が維持される。

【1752】

ここで、図135及び図136は、駆動パターンFを説明するための図である。駆動パターンFは、抽選処理での大当たり抽選の結果が16R確変大当たりであること（確変昇格）を告知する可動態様Bにおいて、各可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了後に実行される個別の動作のパターンである。なお、図136に示す駆動データ4（役物動作シナリオデータ4）は、可動回転役物部材37の上下動が昇降用のステップングモーターによって制御され、可動回転役物部材37の拡縮が拡縮用のステップングモーターによって制御され、可動回転役物部材37の回転が回転用のステップングモーターによって制御される場合の一例である。

【1753】

図135に示すように、駆動パターンFは、可動体である可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置（図134（A1）参照）から駆動側位置である可動回転役物部材37の最大作動位置において一定時間（例えば2秒）停止された後（図133（A2）～図133（A4）参照）、戻り側位置である待機位置に復帰（図133（A5）参照）される往復動作が実行される点で、前述の駆動パターンD及び駆動パターンEと共通するが、可動回転役物部材37が最大作動位置において一定時間（例えば2秒）停止されている間に拡縮及び回転（図133（A3）及び図133（A4）参照）される点で駆動パターンDとは異なり、可動回転役物部材37が最大作動位置において一定時間（例えば2秒）停止されている間に回転（図133（A3）及び図133（A4）参照）される点で駆動パターンEとは異なる。即ち、本実施形態では、各可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了後に、可動回転役物部材37が最大作動位置に可動されると共に、可動回転役物部材37が最大作動位置において拡縮及び回転されることで、抽選処理での大当たり抽選の結果が16R確変大当たりであること（確変昇格）が告知される。

【1754】

図136に示すように、駆動パターンFは、可動体である可動回転役物部材37が、駆動データ4（役物動作シナリオデータ4）に対応する情報に基づいて動作される駆動パターンである。この駆動データ4（役物動作シナリオデータ4）は、処理No. 01～処理No. 07に従って昇降用のステップングモーター、拡縮用のステップングモーター及び回転用のステップングモーターを制御するためのものである。

【1755】

処理No. 01では、駆動データ4（役物動作シナリオデータ4）が読み出されてから昇降用のステップングモーターの回転停止状態が10 msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態が維持される（図136（A1）参照）。

【1756】

処理No. 02では、昇降用のステップングモーターが正方向に72ステップ回転される。これにより、可動回転役物部材37が下方向に72 mm移動され、可動回転役物部材37が駆動側位置である最大作動位置に位置される（図135（A2）参照）。

【1757】

なお、処理No. 01及び処理No. 02では、拡縮用のステップングモーター及び回転用のステップングモーターの回転停止状態が維持される。

【1758】

処理No. 03では、昇降用のステップングモーターの回転停止状態が2000msc維持されると共に、拡張用のステップングモーターが正方向に50ステップ回転され、回転用のステップングモーターが正方向に2000ステップ回転される。さらに、処理No. 04では、拡張用のステップングモーターの回転停止状態が1900msc維持される。これにより、可動回転役物部材37が駆動側位置である最大作動位置で拡大した状態で回転され、この拡大状態での回転が維持される（図135（A3）参照）。

【1759】

処理No. 05では、拡張用のステップングモーターが逆方向に50ステップ回転され、回転用のステップングモーターの回転が停止される。これにより、可動回転役物部材37が駆動側位置である最大作動位置で非回転の拡大状態とされる（図135（A4）参照）。

【1760】

処理No. 05では、拡張用のステップングモーターが逆方向に50ステップ回転される。これにより、可動回転役物部材37が駆動側位置である最大作動位置で縮小した状態に復帰される（図134（A4）参照）。

【1761】

処理No. 06では、昇降用のステップングモーターが逆方向に72ステップ回転される。さらに、処理No. 07では、昇降用のステップングモーターの回転停止状態が10msc維持される。これにより、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に復帰される（図135（A5）参照）。

【1762】

なお、処理No. 06及び処理No. 07では、拡張用のステップングモーターの回転停止状態が維持される。

【1763】

ところで、駆動パターンDは、可動態様Aにおいて駆動パターンA～Cの連続的動作の終了後に実行される駆動パターンであり（図129（A）参照）、可動体である可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態から処理が開始される（図133（B）参照）。駆動パターンEは、可動態様Bにおいて駆動パターンA～Cの連続的動作の終了後に実行される駆動パターンであり（図129（B）参照）、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態から処理が開始される（図134（B）参照）。駆動パターンFは、可動態様Cにおいて駆動パターンA～Cの連続的動作の終了後に実行される駆動パターンであり（図129（C）参照）、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態から処理が開始される（図136参照）。駆動パターンGは、可動態様Dにおいて駆動パターンA～Cの連続的動作の終了後に実行される駆動パターンであり（図129（D）参照）、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態から処理が開始される（図137（B）参照）。つまり、複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作の終了後に実行される個別の動作は、いずれも可動体である可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態から処理が開始される

【1764】

一方、複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作は、前述のように可動体である可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態で終了される。つまり、複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作を終了する場合の可動回転役物部材37の位置と、当該連続的動作の終了後に可動態様A～Dに応じて実行される個別の動作を開始する可動回転役物部材37の位置とが、いずれも待機位置で共通する。そのため、複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作が終了した場合に、違和感なく円滑に、可動態様A～Dに応じて実行される個別の動作を開始させることができる。その結果、駆動データ1に基づいて可動回転役物部材37を終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作を実行させる場合に、いずれのタイミングで終了判定条件の成

立した場合であっても、可動態様 A ～ D に共通の連続的動作から可動態様 A ～ D に固有に動作に移行させることができる。

【1765】

ここで、図137(A)及び図137(B)は、駆動パターンGを説明するための図である。駆動パターンGは、スーパーリーチに発展しないこと(SP非発展)、スペシャルリーチに発展しないこと(SPSP非発展)、又は抽選処理での大当たり抽選の結果が16R確変大当たりでないこと(16R確変非昇格)を告知する可動態様Dにおいて、各可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了後に実行される個別の動作のパターンである。なお、図134(B)に示す駆動データ5(役物動作シナリオデータ5)は、可動回転役物部材37の上下動が昇降用のステップングモーターによって制御される場合の一例である。

10

【1766】

図137(A)に示すように、駆動パターンGは、可動体である可動回転役物部材37が、戻り側位置である待機位置(図137(A1)参照)から駆動側位置である中間作動位置1において一定時間(例えば0.04秒)停止された後(図137(A2)参照)、戻り側位置である待機位置に復帰(図137(A1)参照)される往復動作が実行される駆動パターンである。即ち、本実施形態では、各可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了後に、可動回転役物部材37が待機位置と中間作動位置1との間で往復されることで、つまり、可動回転役物部材37が最大可動位置まで可動されないことで、スーパーリーチに発展しないこと(SP非発展)、スペシャルリーチに発展しないこと(SPSP非発展)、又は抽選処理での大当たり抽選の結果が16R確変大当たりでないこと(16R確変非昇格)が告知される。

20

【1767】

図137(B)に示すように、駆動パターンGは、可動体である可動回転役物部材37が、駆動データ5(役物動作シナリオデータ5)に対応する情報に基づいて動作される駆動パターンである。この駆動データ5(役物動作シナリオデータ5)は、処理No.01～処理No.05に従って昇降用のステップングモーターを制御するためのものである。

【1768】

処理No.01では、駆動データ5(役物動作シナリオデータ5)が読み出されてから昇降用のステップングモーターの回転停止状態が10msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に位置した状態が維持される(図137(A1)参照)。

30

【1769】

処理No.02では、昇降用のステップングモーターが正方向に12ステップ回転される。さらに、処理No.03では、昇降用のステップングモーターの回転停止状態が40msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が下方方向に12mm移動され、可動回転役物部材37が駆動側位置である中間作動位置1に位置される(図137(A2)参照)。

【1770】

処理No.04では、昇降用のステップングモーターが逆方向に12ステップ回転される。さらに、処理No.05では、昇降用のステップングモーターの回転停止状態が10msec維持される。これにより、可動回転役物部材37が戻り側位置である待機位置に復帰される(図137(A1)参照)。

40

【1771】

ここで、図138は、図125の特図遊技演出設定処理のステップS4508で実行される役物作動演出設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の役物作動演出設定処理では、可動回転役物部材37の可動タイミング及び可動態様を設定する可動体制御処理が実行される。以下、図138を参照しつつ、本実施形態の役物作動演出設定処理の手順の一例を説明する。

【1772】

50

<ステップ S 4 6 0 1>

図 1 3 8 に示すように、本実施形態の役物作動演出設定処理では、M P U 5 1 は、まず当該特図遊技に対する特図遊技演出としてノーマルリーチ演出パターンが設定されていることを示すノーマルリーチフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 6 0 1）のマルリーチフラグは、図 1 2 5 の特図遊技演出設定処理でのステップ S 4 5 0 2 においてノーマルリーチ演出パターンが設定されていると判断される場合に同特図遊技演出設定処理でのステップ S 4 5 0 3 においてオンに設定される。

【1 7 7 3】

M P U 5 1 は、ノーマルリーチフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 6 0 1：Y e s）、処理をステップ S 4 6 0 2 に移行し、ノーマルリーチフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 6 0 1：N o）、処理をステップ S 4 6 0 6 に移行する。

10

【1 7 7 4】

<ステップ S 4 6 0 2 及び S 4 6 0 3>

ノーマルリーチフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 6 0 1：Y e s）、M P U 5 1 は、T 1 カウンタをセットし（ステップ S 4 6 0 2）、さらに、T 1 駆動フラグをオンに設定し（ステップ S 4 6 0 3）、処理をステップ S 4 6 0 4 に移行する。

【1 7 7 5】

T 1 カウンタは、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング A が開始されるまでの残り時間を示すカウンタである。T 1 駆動フラグは、役物作動タイミング A の開始タイミングである時間 T 1 において可動体である可動回転役物部材 3 7 の駆動を開始させるフラグである。つまり、ノーマルリーチ演出パターンが設定されている場合には、T 1 駆動フラグがオンで T 1 カウンタの値が 0 である場合に可動回転役物部材 3 7 の駆動を開始されることで、役物作動タイミング A において可動回転役物部材 3 7 が可動される（図 1 2 8 参照）。

20

【1 7 7 6】

<ステップ S 4 6 0 4 及び S 4 6 0 5>

ステップ S 4 6 0 4 では、M P U 5 1 は、抽選処理での大当たり抽選の結果が外れであるか否かを判断する。M P U 5 1 は、大当たり抽選の結果が外れである場合（ステップ S 4 6 0 4：Y e s）、スーパーリーチに発展しない外れ（ノーマルリーチ外れ）であることを示す S P 非発展フラグをオンに設定し（ステップ S 4 6 0 4）、当該役物作動演出設定処理を終了する。即ち、S P 非発展フラグをオンに設定されることで、ノーマルリーチ演出パターンが設定されている場合に抽選処理での大当たり抽選の結果が外れである場合には、役物作動タイミング A において、スーパーリーチに発展しないことを告知するために可動回転役物部材 3 7 が可動される。

30

【1 7 7 7】

一方、大当たり抽選の結果が外れでない場合（ステップ S 4 6 0 4：N o）、即ち大当たりである場合、当該役物作動演出設定処理を終了する。なお、ノーマルリーチ演出パターンが設定されている場合に抽選処理での大当たり抽選の結果が外れでない場合（大当たりである場合）には、大当たり種別に応じて、1 6 R 確変大当たりであることの告知、又は 1 6 R 確変大当たりでないことの告知のために、役物作動タイミング A において可動回転役物部材 3 7 が可動される。

40

【1 7 7 8】

<ステップ S 4 6 0 6>

ノーマルリーチフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 6 0 1：N o）、M P U 5 1 は、当該特図遊技に対する特図遊技演出としてスーパーリーチ演出パターンが設定されていることを示すスーパーリーチフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 6 0 6）。スーパーリーチフラグは、図 1 2 5 の特図遊技演出設定処理でのステップ S 4 5 0 4 においてスーパーリーチ演出パターンが設定されていると判断される場合に同特図遊技演出設定処理でのステップ S 4 5 0 5 においてオンに設定される。

【1 7 7 9】

50

MPU51は、スーパーリーチフラグがオンに設定されている場合（ステップS4606：Yes）、処理をステップS4607に移行し、スーパーリーチフラグがオフに設定されている場合（ステップS4606：No）、処理をステップS4614に移行する。

【1780】

<ステップS4607～S4609>

スーパーリーチフラグがオンに設定されている場合（ステップS4606：Yes）、MPU51は、T1カウンタをセットすると共に（ステップS4607）、T1駆動フラグをオンに設定する（ステップS4608）。さらに、MPU51は、スーパーリーチに発展することを示すSP発展フラグをオンに設定し（ステップS4609）、処理をステップS4610に移行する。

【1781】

T1カウンタは、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングAが開始されるまでの残り時間を示すカウンタである。T1駆動フラグは、役物作動タイミングAの開始タイミングである時間T1において可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるフラグである。SP発展フラグは、スーパーリーチに発展することを示すフラグであり、可動回転役物部材37の動作によってスーパーリーチに発展することを告知する否かを判断するために、後述の図144の可動回転役物制御処理でのステップS4930において参照される。つまり、スーパーリーチ演出パターンが設定されている場合には、T1駆動フラグがオンでT1カウンタの値が0である場合に可動回転役物部材37の駆動を開始されることで、役物作動タイミングAにおいてスーパーリーチに発展することを告知するために可動回転役物部材37が可動される（図128参照）。

【1782】

<ステップS4610及びS4611>

ステップS4610では、MPU51は、T2カウンタをセットし、さらに、T2駆動フラグをオンに設定し（ステップS4611）、処理をステップS4612に移行する。

【1783】

T2カウンタは、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングBが開始されるまでの残り時間を示すカウンタである。T2駆動フラグは、役物作動タイミングBの開始タイミングである時間T2において可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるフラグである。つまり、スーパーリーチ演出パターンが設定されている場合には、T2駆動フラグがオンでT2カウンタの値が0である場合に可動回転役物部材37の駆動を開始されることで、役物作動タイミングBにおいて可動回転役物部材37が可動される（図128参照）。

【1784】

<ステップS4612及びS4613>

ステップS4612では、MPU51は、抽選処理での大当たり抽選の結果が外れであるか否かを判断する。MPU51は、大当たり抽選の結果が外れである場合（ステップS4612：Yes）、SPSP非発展フラグをオンに設定し（ステップS4613）、当該役物作動演出設定処理を終了する。SPSP非発展フラグは、スペシャルリーチに発展しない外れ（スーパーリーチ外れ）であることを示すフラグであり、可動回転役物部材37の動作によってスーパーリーチに発展することを告知する否かを判断するために、後述の図144の可動回転役物制御処理でのステップS4941において参照される。つまり、SPSP非発展フラグをオンに設定されることで、スペシャルリーチ演出パターンが設定されている場合に抽選処理での大当たり抽選の結果が外れである場合には、役物作動タイミングBにおいて、スペシャルリーチに発展しないことを告知するために可動回転役物部材37が可動される。

【1785】

一方、大当たり抽選の結果が外れでない場合（ステップS4612：No）、即ちったりである場合、当該役物作動演出設定処理を終了する。なお、スーパーリーチ演出パターンが設定されている場合に抽選処理での大当たり抽選の結果が外れでない場合（大当た

10

20

30

40

50

りである場合)には、大当たり種別に応じて、16R確変大当たりであることの告知、又は16R確変大当たりでないことの告知のために、役物作動タイミングBにおいて可動回転役物部材37が可動される。

【1786】

<ステップS4614>

スーパーリーチフラグがオフに設定されている場合(ステップS4606:No)、MPU51は、当該特図遊技に対する特図遊技演出としてスペシャルリーチ演出パターンが設定されていることを示すスペシャルリーチフラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS4614)。スペシャルリーチフラグは、図125の特図遊技演出設定処理でのステップS4506においてスペシャルリーチ演出パターンが設定されていると判断される場合に同特図遊技演出設定処理でのステップS4507においてオンに設定される。

10

【1787】

MPU51は、スペシャルリーチフラグがオンに設定されている場合(ステップS4614:Yes)、処理をステップS4615に移行する。一方、MPU51は、スーパーリーチフラグがオフに設定されている場合(ステップS4614:No)、当該役物作動演出設定処理を終了する。即ち、リーチ演出パターンでない非リーチ演出パターンが設定されている場合には、可動体である可動回転役物部材37を作動させるフラグがオンに設定されず、可動回転役物部材37を作動させるタイミングも設定されないこと。これにより、非リーチ演出パターンでは、可動回転役物部材37が可動されない。

20

【1788】

<ステップS4615～S4617>

スペシャルリーチフラグがオンに設定されている場合(ステップS4614:Yes)、MPU51は、T1カウンタをセットすると共に(ステップS4615)、T1駆動フラグをオンに設定する(ステップS4616)。さらに、MPU51は、スーパーリーチに発展することを示すSP発展フラグをオンに設定し(ステップS4617)、処理をステップS4618に移行する。

【1789】

T1カウンタは、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングAが開始されるまでの残り時間を示すカウンタである。T1駆動フラグは、役物作動タイミングAの開始タイミングである時間T1において可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるフラグである。SP発展フラグは、スーパーリーチに発展することを示すフラグであり、可動回転役物部材37の動作によってスーパーリーチに発展することを告知する否かを判断するために、後述の図144の可動回転役物制御処理でのステップS4930において参照される。つまり、スペシャルリーチ演出パターンが設定されている場合には、T1駆動フラグがオンでT1カウンタの値が0である場合に可動回転役物部材37の駆動を開始されることで、役物作動タイミングAにおいてスーパーリーチに発展することを告知するために可動回転役物部材37が可動される(図128参照)。

30

【1790】

<ステップS4618～S4620>

ステップS4618では、MPU51は、T2カウンタをセットする。さらに、MPU51は、T2駆動フラグをオンに設定すると共に(ステップS4619)、スペシャルリーチに発展することを示すSPSP発展フラグをオンに設定し(ステップS4620)、処理をステップS4621に移行する。

40

【1791】

T2カウンタは、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングBが開始されるまでの残り時間を示すカウンタである。T2駆動フラグは、役物作動タイミングBの開始タイミングである時間T2において可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるフラグである。つまり、スペシャルリーチ演出パターンが設定されている場合には、T2駆動フラグがオンでT2カウンタの値が0である場合に可動回転役物部材37の

50

駆動を開始されることで、役物作動タイミング B においてスペシャルリーチに発展することを告知するために可動回転役物部材 37 が可動される（図 128 参照）。

【1792】

<ステップ S 4621 及び S 4622>

ステップ S 4621 では、MPU 51 は、T3 カウンタをセットする。さらに、MPU 51 は、T3 駆動フラグをオンに設定し（ステップ S 4622）、当該役物作動演出設定処理を終了する。

【1793】

T3 カウンタは、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング C が開始されるまでの残り時間を示すカウンタである。T3 駆動フラグは、役物作動タイミング C の開始タイミングである時間 T3 において可動体である可動回転役物部材 37 の駆動を開始させるフラグである。つまり、スペシャルリーチ演出パターンが設定されている場合には、T3 駆動フラグがオンで T3 カウンタの値が 0 である場合に可動回転役物部材 37 の駆動を開始されることで、役物作動タイミング C において可動回転役物部材 37 が可動される（図 128 参照）。

【1794】

[ボタン演出設定処理]

次に、図 125 の特図遊技演出設定処理のステップ S 4509 において実行されるボタン演出設定処理について説明する。ここで、図 139 は、本実施形態のボタン演出設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 139 を参照しつつ本実施形態のボタン演出設定処理について説明する。

【1795】

<ステップ S 4701>

図 139 に示すように、本実施形態のボタン演出設定処理では、MPU 51 は、まず 16R 確変昇格フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4701）。16R 確変昇格フラグは、可動体である可動回転役物部材 37 を駆動パターン F（図 129（F）及び図 135 参照）で可動させることによる 16R 確変昇格演出を実行させると共に、この 16R 確変昇格演出の実行前にボタン演出（図 140 参照）を実行させるフラグである。この 16R 確変昇格フラグは、抽選処理での大当たり抽選の結果が 16R 確変大当たりである場合に、飾り図柄の停止表示の組み合わせとして「777」以外が設定される場合に、図 124 の停止図柄組み合わせ設定処理でのステップ S 4407 においてオンに設定される。

【1796】

MPU 51 は、16R 確変昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4701：Yes）、処理をステップ S 4703 に移行し、16R 確変昇格フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4701：No）、処理をステップ S 4702 に移行する。

【1797】

<ステップ S 4702>

16R 確変昇格フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4701：No）、MPU 51 は、16R 確変非昇格フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4702）。16R 確変非昇格フラグは、可動体である可動回転役物部材 37 を駆動パターン G（図 129（D）及び図 137 参照）で可動させることによる 16R 確変昇格演出を実行させると共に、この 16R 確変昇格演出の実行前にボタン演出（図 140 参照）を実行させるフラグである。この 16R 確変非昇格フラグは、抽選処理での大当たり抽選の結果が 5R 確変大当たり若しくは 5R 通常大当たりである場合、又は大当たり抽選の結果が 16R 確変大当たりである場合に、飾り図柄の停止表示の組み合わせとして「777」以外が設定される場合に、図 124 の停止図柄組み合わせ設定処理でのステップ S 4406 においてオンに設定される。

【1798】

MPU 51 は、16R 確変非昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 47

02:Yes)、処理をステップS4703に移行し、16R確変非昇格フラグがオフに設定されている場合(ステップS4702:No)、当該ボタン演出設定処理を終了する。

【1799】

＜ステップS4703及びS4704＞

16R確変昇格フラグがオンに設定されている場合(ステップS4701:Yes)、又は16R確変非昇格フラグがオンに設定されている場合(ステップS4702:Yes)、MPU51は、T3駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS4703)。T3駆動フラグは、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングCの開始タイミングである時間T3(図128参照)において、可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるフラグであり、スペシャルリーチ演出パターンが設定されている場合に、図138の役物作動演出設定処理でのステップS4622においてオンに設定される。即ち、MPU51は、図138の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材37を最後に可動させるタイミングが、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングCであるか否かを判断する。

10

【1800】

MPU51は、T3駆動フラグがオンに設定されている場合(ステップS4703:Yes)、即ち図138の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材37を最後に可動させるタイミングが、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングCである場合、T3ボタン演出フラグをオンに設定し(ステップS4704)、当該ボタン演出設定処理を終了する。T3ボタン演出フラグは、当該特図遊技の開始から時間T3が経過した役物作動タイミングC(図128参照)においてボタン演出を実行させるフラグであり、後述の図150のボタン演出設定処理でのステップS5107において、ボタン演出を実行するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

20

【1801】

一方、MPU51は、T3駆動フラグがオフに設定されている場合(ステップS4703:No)、即ち図138の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材37を最後に可動させるタイミングが、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングCでない場合、処理をステップS4705に移行する。

【1802】

ここで、ボタン演出は、可動体である可動回転役物部材37の可動による16R確変昇格演出又は16R確変非昇格演出が実行される場合に、16R確変昇格演出又は16R確変非昇格演出が実行される役物作動タイミングA～C(図128参照)において、遊技者に操作ボタン20に対する操作を促すために図柄表示部341に所定の画像が表示される表示演出を含む。ボタン演出は、操作ボタン20に対する所定の遊技操作としての押下操作が有効とされる期間(ボタン操作有効期間)において実行される、ボタン操作有効期間は、16R確変昇格演出又は16R確変非昇格演出が実行される役物作動タイミングA～C(図128参照)に設定される。また、ボタン演出は、ボタン操作有効期間が開始した場合に開始され、ボタン操作有効期間内に遊技者によって操作ボタン20が押下操作された場合、又はボタン操作有効期間の経過により終了する。例えば、図140に示すように、ボタン演出では、図柄表示部341において、操作ボタン20を模した画像と、ボタン操作有効期間の残り期間を示す画像と、が表示される。もちろん、図140に示すボタン演出での画像は一例であり、種々に変更可能である。

30

40

【1803】

また、ボタン演出が実行されている場合(ボタン操作有効期間内)に遊技者によって操作ボタン20に対して所定の遊技操作として押下操作がなされた場合、可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作の終了判定条件の成立によって当該連続的動作が終了され、その後、可動体である可動回転役物部材37が可動されることによって16R確変昇格演出又は16R確変非昇格演出が実行される。また、ボタン演出が実行されている場合(ボタン操作有効期間内)に遊技者によって操作ボタン20が操作されなかった

50

場合、ボタン操作有効期間の経過後に可動体である可動回転役物部材 37 が可動されることによって 16 R 確変昇格演出又は 16 R 確変非昇格演出が実行される。

【1804】

<ステップ S 4705 及び S 4706>

T 3 駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4703：No）、即ち図 138 の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材 37 を最後に可動させるタイミングが、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング C でない場合、MPU 51 は、T 2 駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4703）。T 2 駆動フラグは、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング B の開始タイミングである時間 T 2（図 128 参照）において、可動体である可動回転役物部材 37 の駆動を開始させるフラグであり、スーパーリーチ演出パターンが設定されている場合に、図 138 の役物作動演出設定処理でのステップ S 4611 においてオンに設定される。即ち、MPU 51 は、図 138 の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材 37 を最後に可動させるタイミングが、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング B であるか否かを判断する。

10

【1805】

MPU 51 は、T 2 駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4705：Yes）、即ち図 138 の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材 37 を最後に可動させるタイミングが、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング B である場合、T 2 ボタン演出フラグをオンに設定し（ステップ S 4705）、当該ボタン演出設定処理を終了する。T 2 ボタン演出フラグは、当該特図遊技の開始から時間 T 2 が経過した役物作動タイミング B（図 128 参照）においてボタン演出を実行させるフラグであり、後述の図 150 のボタン演出設定処理でのステップ S 5104 において、ボタン演出を実行するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

20

【1806】

一方、MPU 51 は、T 2 駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4705：No）、即ち図 138 の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材 37 を最後に可動させるタイミングが、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング B でない場合、処理をステップ S 4707 に移行する。

【1807】

<ステップ S 4707 及び S 4708>

T 2 駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4705：No）、即ち図 138 の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材 37 を最後に可動させるタイミングが、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング B でない場合、MPU 51 は、T 1 駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4707）。T 1 駆動フラグは、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング A の開始タイミングである時間 T 1（図 128 参照）において、可動体である可動回転役物部材 37 の駆動を開始させるフラグであり、ノーマルリーチ演出パターンが設定されている場合に、図 138 の役物作動演出設定処理でのステップ S 4603 においてオンに設定される。即ち、MPU 51 は、図 138 の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材 37 を最後に可動させるタイミングが、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング A であるか否かを判断する。

30

40

【1808】

MPU 51 は、T 1 駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4707：Yes）、即ち図 138 の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材 37 を最後に可動させるタイミングが、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング A である場合、T 1 ボタン演出フラグをオンに設定し（ステップ S 4708）、当該ボタン演出設定処理を終了する。T 1 ボタン演出フラグは、当該特図遊技の開始から時間 T 1 が経過した役物作動タイミング A（図 128 参照）においてボタン演出を実行させるフラグであり、後述の図 150 のボタン演出設定処理でのステップ S 5101 において

50

、ボタン演出を実行するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

【1809】

一方、MPU51は、T1駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4707：No）、即ち図138の役物作動演出設定処理において設定された可動回転役物部材37を最後に可動させるタイミングが、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングAでない場合、当該ボタン演出設定処理を終了する。

【1810】

〔特図遊技演出制御処理〕

次に、図53の副タイマ割込処理でのステップS2704において実行される特図遊技演出制御処理を説明する。本実施形態の特図遊技演出制御処理では、図125の特図遊技演出設定処理において設定された特図遊技演出に基づいて、特図遊技において実行される特図遊技演出が制御される。ここで、図141は、特図遊技演出制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図141を参照しつつ特図遊技演出制御処理の一例を説明する。

10

【1811】

<ステップS4801>

本実施形態の特図遊技演出制御処理では、MPU51は、まず図138の可動体制御処理としての役物作動演出設定処理において設定された役物作動演出に基づいて、特図遊技における可動体である可動回転役物部材37の動作を制御する可動体制御処理としての可動回転役物制御処理が実行される（ステップS4801）。なお、可動回転役物制御処理の詳細は、図142～図149を参照しつつ後述する。

20

【1812】

<ステップS4802>

ステップS4802では、MPU51は、図139のボタン演出設定処理において設定されたボタン演出に基づいて、特図遊技におけるボタン演出の実行を制御するボタン演出制御処理が実行される。なお、ボタン演出制御処理の詳細は、図150及び図151を参照しつつ後述する。

【1813】

<ステップS4803>

ステップS4803では、MPU51は、特図遊技において、役物作動演出及びボタン演出以外の演出に関するその他の演出制御処理を実行する。

30

【1814】

〔可動回転役物制御処理〕

次に、図141の特図遊技演出制御処理のステップS4801で実行される可動回転役物制御処理の一例を説明する。本実施形態の可動回転役物制御処理では、図138の役物作動演出設定処理において設定された役物作動演出に基づいて、可動体である可動回転役物部材37の動作を制御する可動体制御処理が実行される。ここで、図142～図149は、可動回転役物制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図142～図149を参照しつつ可動回転役物制御処理を説明する。

【1815】

40

<ステップS4901及びS4902>

図142に示すように、本実施形態の可動回転役物制御処理では、まずMPU51は、T1駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4901）。T1駆動フラグは、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングA（図128参照）の開始タイミングである時間T1において可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるフラグである。

【1816】

MPU51は、T1駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4901：Yes）、役物作動タイミングAが開始されるまでの残り時間を示すT1カウンタの値から1減算し（ステップS4902）、処理をステップS4903に移行する。一方、MPU

50

51は、T1駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4901：No）、処理をステップS4903に移行する。

【1817】

<ステップS4903及びS4904>

ステップS4903では、MPU51は、T2駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4903）。T2駆動フラグは、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングB（図128参照）の開始タイミングである時間T2において可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるフラグである。

【1818】

MPU51は、T2駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4903：Yes）、役物作動タイミングBが開始されるまでの残り時間を示すT2カウンタの値から1減算し（ステップS4904）、処理をステップS4905に移行する。一方、MPU51は、T2駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4903：No）、処理をステップS4905に移行する。

【1819】

<ステップS4905及びS4906>

ステップS4905では、MPU51は、T3駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4905）。T3駆動フラグは、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミングC（図128参照）の開始タイミングである時間T3において可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるフラグである。

【1820】

MPU51は、T3駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4905：Yes）、役物作動タイミングCが開始されるまでの残り時間を示すT3カウンタの値から1減算し（ステップS4906）、処理をステップS4907に移行する。一方、MPU51は、T3駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4905：No）、処理をステップS4907に移行する。

【1821】

<ステップS4907>

ステップS4907では、MPU51は、T1駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU51は、T1駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4907：Yes）、処理をステップS4908に移行する。一方、MPU51は、T1駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4907：No）、処理をステップS4910に移行する。

【1822】

<ステップS4908及びS4909>

T1駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4907：Yes）、MPU51は、役物作動タイミングAが開始されるまでの残り時間を示すT1カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS4908）。即ち、可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングであるか否かを判断する。

【1823】

MPU51は、T1カウンタの値が0である場合（ステップS4908：Yes）、即ち可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングである場合、T1駆動フラグをオフに設定し（ステップS4908）、処理をステップS4916に移行する。一方、MPU51は、T1カウンタの値が0でない場合（ステップS4908：No）、即ち可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングでない場合、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1824】

<ステップS4910>

T1駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4907：No）、MPU51は、T2駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4910）

。MPU51は、T2駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4910：Yes）、処理をステップS4911に移行する。一方、MPU51は、T2駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4910：No）、処理をステップS4913に移行する。

【1825】

<ステップS4911及びS4912>

T2駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4910：Yes）、MPU51は、役物作動タイミングBが開始されるまでの残り時間を示すT2カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS4911）。即ち、可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングであるか否かを判断する。

10

【1826】

MPU51は、T2カウンタの値が0である場合（ステップS4910：Yes）、即ち可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングである場合、T2駆動フラグをオフに設定し（ステップS4912）、処理をステップS4916に移行する。一方、MPU51は、T2カウンタの値が0でない場合（ステップS4911：No）、即ち可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングでない場合、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1827】

<ステップS4913>

T2駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4910：No）、MPU51は、T3駆動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4913）。MPU51は、T3駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4913：Yes）、処理をステップS4914に移行する。一方、MPU51は、T3駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4913：No）、処理を図143のステップS4920に移行する。

20

【1828】

<ステップS4914及びS4915>

T3駆動フラグがオンに設定されている場合（ステップS4914：Yes）、MPU51は、役物作動タイミングCが開始されるまでの残り時間を示すT3カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS4914）。即ち、可動体である可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングであるか否かを判断する。

30

【1829】

MPU51は、T3カウンタの値が0である場合（ステップS4914：Yes）、即ち可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングである場合、T3駆動フラグをオフに設定し（ステップS4915）、処理をステップS4916に移行する。一方、MPU51は、T3カウンタの値が0でない場合（ステップS4914：No）、即ち可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングでない場合、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1830】

<ステップS4916>

可動回転役物部材37の駆動を開始させるタイミングである場合、MPU51は、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）（図132参照）をセットする（ステップS4916）。駆動データ1は、可動体である可動回転役物部材37の可動態様A～Dにおいて、可動回転役物部材37に対して共通の連続的動作（駆動パターンA～C）を実行させる情報である。即ち、MPU51は、可動態様を問わず、共通の駆動データ1に基づいて可動回転役物部材37の動作を制御する。

40

【1831】

このように、本実施形態では、可動体である可動回転役物部材37に対する複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作（駆動パターンA～C）が、共通の1つの駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に対応する情報に基づいて実行される。また、前述のように

50

、駆動データ1は、ROMに記憶されており、可動回転役物部材37に対する複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作が実行される場合には、ROMから駆動データ1が1回読み出され、RAMに駆動データ1が1回設定される。そして、可動回転役物部材37は、ROMからの駆動データ1の1回の読み出し、及びRAMへの駆動データ1の1回の設定により、複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作によって可動される。これにより、各可動態様A～Dを実現するために必要な駆動データ量を少なくできるため、メモリ負担を軽減できるだけでなく、可動回転役物部材37を動作させる際の駆動データの読み出しや一時記憶などの制御負担が軽減される。

【1832】

＜ステップS4917～S4919＞

ステップS4917では、MPU51は、駆動データ1（図132参照）に規定される処理手順に従って可動回転役物部材37に連続的動作（駆動パターンA～C）を実行させるために駆動データ1シナリオタイマをセットすると共に（ステップS4917）、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ1がセットされていることを示す駆動データ1セットフラグをオンに設定する（ステップS4918）。そして、MPU51は、駆動データ1（図132参照）の処理No. 1を開始させ（ステップS4919）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1833】

＜ステップS4920＞

T3 駆動フラグがオフに設定されている場合（ステップS4913：No）、図143に示すように、MPU51は、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ1がセットされていることを示す駆動データ1セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4920）。

【1834】

MPU51は、駆動データ1セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS4920：Yes）、処理をステップS4921に移行し、駆動データ1セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS4920：No）、処理を図146のステップS4961に移行する。

【1835】

＜ステップS4921～S4923＞

駆動データ1セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS4920：Yes）、MPU51は、駆動データ1シナリオタイマを更新し（ステップS4921）、更新後の駆動データ1シナリオタイマの値に基づいて、駆動データ1に規定される次の処理に移行するタイミングであるか否かを判断する（ステップS4922）。

【1836】

MPU51は、駆動データ1に規定される次の処理に移行するタイミングである場合（ステップS4922：Yes）、駆動データ1に規定される次の処理を開始し（ステップS4923）、当該可動回転役物制御処理を終了する。例えば、図132に示すように、駆動データ1における処理No. 5を実行している場合には、即ち昇降用のステッピングモーターを回転停止状態としている場合、処理を処理No. 6に移行することで昇降用のステッピングモーターを正方向に12ステップ回転させる処理が実行される。

【1837】

このように、ステップS4921において更新される駆動データ1シナリオタイマを参照し、駆動データ1における次の処理を順次実行することで、駆動データ1における処理No. 1～処理No. 29の全ての処理が実行される。これにより、可動体である可動回転役物部材37に対する複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作（駆動パターンA～C）が実行される。

【1838】

一方、MPU51は、駆動データ1に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合（ステップS4922：No）、ステップS4924に移行する。

10

20

30

40

50

【1839】

<ステップS4924>

駆動データ1に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合（ステップS4922：No）、MPU51は、処理No. 28実行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4924）。処理No. 28実行フラグは、駆動データ1における処理No. 28（図132参照）を実行させるフラグであり、可動体である可動回転役物部材37が戻り側位置である中間作動位置1において停止状態とされている間に、複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作の終了判定条件が成立していると判断される場合（操作ボタン20に対する操作があったと判断される場合）に、当該可動回転役物制御処理の後述の図145のステップS4959においてオンに設定される。つまり、処理No. 28実行フラグは、可動回転役物部材37が中間作動位置1において停止状態とされている間に可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる場合に、駆動データ1の処理No. 28に処理をスキップすることで、可動回転役物部材37が待機位置に復帰された状態で連続的動作を終了させるフラグである。これにより、可動回転役物部材37が待機位置にない状態であっても、即座に可動回転役物部材37を待機位置に復帰させて連続的動作を終了させることができる。

10

【1840】

そして、MPU51は、処理No. 28実行フラグがオンに設定されている場合（ステップS4924：Yes）、処理をステップS4925に移行し、処理No. 28実行フラグがオフに設定されている場合（ステップS4924：No）、処理を図144のステップS4927に移行する。

20

【1841】

<ステップS4925及びS4926>

処理No. 28実行フラグがオンに設定されている場合（ステップS4924：Yes）、MPU51は、駆動データ1の処理No. 28の処理を実行する（ステップS4925）。そして、MPU51は、駆動データ1シナリオタイマを再セットし（ステップS4926）、当該可動回転役物制御処理を終了する。具体的には、MPU51は、駆動データ1シナリオタイマの値として、駆動データ1の全ての処理を実行する場合の処理No. 28が開始されるときに値にセットする。これにより、駆動データ1の処理No. 28及び処理No. 29（図132参照）の処理を順次実行し、可動回転役物部材37が待機位置に復帰された状態で駆動データ1に基づく可動回転役物部材37の処理を終了することができる。

30

【1842】

<ステップS4927>

駆動データ1に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合（ステップS4922：No）、図144に示すように、MPU51は、駆動データ1シナリオタイマの値が最大値であるか否かを判断する（ステップS4927）。即ち、MPU51は、駆動データ1によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであるかの終了判定を行う。

40

【1843】

MPU51は、駆動データ1シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS4927：Yes）、即ち駆動データ1によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、処理をステップS4928に移行する。一方、MPU51は、駆動データ1シナリオタイマの値が最大値でない場合（ステップS4927：No）、即ち駆動データ1によって規定される全ての処理が終了されていないことに基づく終了判定条件の不成立により、駆動データ1に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングでないと終了判定される場合、処理を図145のステップS4948に移行する。

50

【1844】

<ステップS4928及びS4929>

駆動データ1シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS4927：Yes）、即ち終了判定条件の成立により駆動データ1に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、MPU51は、駆動データ1（図132参照）に規定される処理手順に従って可動回転役物部材37に連続的動作（駆動パターンA～C）を実行させるための駆動データ1シナリオタイマをクリアする（ステップS4948）。そして、MPU51は、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ1がセットされていることを示す駆動データ1セットフラグをオフに設定し（ステップS4929）、処理をステップS4930に移行する。即ち、駆動データ1シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS4927：Yes）、可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる。

10

【1845】

<ステップS4930>

ステップS4930では、MPU51は、スーパーリーチに発展することを示すSP発展フラグがオンに設定されているか否かを判断する。

【1846】

MPU51は、スーパーリーチに発展することを示すSP発展フラグがオンに設定されている場合（ステップS4930：Yes）、処理をステップS4931に移行し、SP発展フラグがオフに設定されている場合（ステップS4930：No）、処理をステップS4933に移行する。

20

【1847】

<ステップS4931及びS4932>

スーパーリーチに発展することを示すSP発展フラグがオンに設定されている場合（ステップS4930：Yes）、MPU51は、駆動データ2未セットフラグをオンに設定する（ステップS4931）。駆動データ2未セットフラグは、駆動データ2をセットさせるフラグであり、後述の図146のステップS4961において駆動データ2をセットするか否かを判断するために参照される。

【1848】

なお、駆動データ2は、スーパーリーチに発展すること（SP発展）を告知する可動回転役物部材37の可動態様Aにおいて、駆動データ1に基づく共通の連続的動作（駆動パターンA～C）の後に、個別の動作として駆動パターンD（図129（A）及び図133参照）で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

30

【1849】

そして、MPU51は、SP発展フラグをオフに設定し（ステップS4932）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1850】

<ステップS4933>

スーパーリーチに発展することを示すSP発展フラグがオフに設定されている場合（ステップS4930：No）、MPU51は、スーパーリーチに発展しないことを示すSP非発展フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4933）。

40

【1851】

MPU51は、スーパーリーチに発展しないことを示すSP非発展フラグがオンに設定されている場合（ステップS4933：Yes）、処理をステップS4934に移行し、SP非発展フラグがオフに設定されている場合（ステップS4933：No）、処理をステップS4936に移行する。

【1852】

<ステップS4934及びS4935>

スーパーリーチに発展しないことを示すSP非発展フラグがオンに設定されている場合（ステップS4933：Yes）、MPU51は、駆動データ5未セットフラグをオンに

50

設定する（ステップ S 4 9 3 4）。駆動データ 5 未セットフラグは、駆動データ 5 をセットさせるフラグであり、後述の図 1 4 9 のステップ S 5 0 0 0 において駆動データ 5 をセットするか否かを判断するために参照される。

【1 8 5 3】

なお、駆動データ 5 は、スーパーリーチに発展しないこと（S P 非発展）を告知する可動回転役物部材 3 7 の可動態様 D において、駆動データ 1 に基づく共通の連続的動作（駆動パターン A ～ C）の後に、個別の動作として駆動パターン G（図 1 2 9（D）及び図 1 3 7 参照）で可動回転役物部材 3 7 を可動させる情報である。

【1 8 5 4】

そして、M P U 5 1 は、S P 非発展フラグをオフに設定し（ステップ S 4 9 3 5）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

10

【1 8 5 5】

<ステップ S 4 9 3 6>

S P 非発展フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 3：N o）、M P U 5 1 は、スペシャルリーチに発展することを示す S P S P 発展フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 9 3 6）。

【1 8 5 6】

M P U 5 1 は、スペシャルリーチに発展することを示す S P S P 発展フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 6：Y e s）、処理をステップ S 4 9 3 7 に移行し、S P S P 発展フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 6：N o）、処理をステップ S 4 9 3 9 に移行する。

20

【1 8 5 7】

<ステップ S 4 9 3 7 及び S 4 9 3 8>

スペシャルリーチに発展することを示す S P S P 発展フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 6：Y e s）、M P U 5 1 は、駆動データ 3 未セットフラグをオンに設定する（ステップ S 4 9 3 7）。駆動データ 3 未セットフラグは、駆動データ 3 をセットさせるフラグであり、後述の図 1 4 7 のステップ S 4 9 7 4 において駆動データ 3 をセットするか否かを判断するために参照される。

【1 8 5 8】

なお、駆動データ 3 は、スペシャルリーチに発展すること（S P S P 発展）を告知する可動回転役物部材 3 7 の可動態様 B において、駆動データ 1 に基づく共通の連続的動作（駆動パターン A ～ C）の後に、個別の動作として駆動パターン E（図 1 2 9（B）及び図 1 3 4 参照）で可動回転役物部材 3 7 を可動させる情報である。

30

【1 8 5 9】

そして、M P U 5 1 は、S P S P 発展フラグをオフに設定し（ステップ S 4 9 3 8）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1 8 6 0】

<ステップ S 4 9 3 9>

S P S P 発展フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 6：N o）、M P U 5 1 は、スペシャルリーチに発展しないことを示す S P S P 非発展フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 9 3 9）。

40

【1 8 6 1】

M P U 5 1 は、スペシャルリーチに発展しないことを示す S P S P 非発展フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 9：Y e s）、処理をステップ S 4 9 4 0 に移行し、S P S P 非発展フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 9：N o）、処理をステップ S 4 9 4 2 に移行する。

【1 8 6 2】

<ステップ S 4 9 4 0 及び S 4 9 4 1>

スペシャルリーチに発展しないことを示す S P S P 非発展フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 9：Y e s）、M P U 5 1 は、駆動データ 5 未セットフラグを

50

オンに設定する（ステップ S 4 9 4 0）。駆動データ 5 未セットフラグは、駆動データ 5 をセットさせるフラグであり、後述の図 1 4 9 のステップ S 5 0 0 0 において駆動データ 5 をセットするか否かを判断するために参照される。

【1 8 6 3】

なお、駆動データ 5 は、スペシャルリーチに発展しないこと（S P S P 非発展）を告知する可動回転役物部材 3 7 の可動態様 D において、駆動データ 1 に基づく共通の連続的動作（駆動パターン A ～ C）の後に、個別の動作として駆動パターン G（図 1 2 9（D）及び図 1 3 7 参照）で可動回転役物部材 3 7 を可動させる情報である。

【1 8 6 4】

そして、M P U 5 1 は、S P S P 非発展フラグをオフに設定し（ステップ S 4 9 4 1）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

10

【1 8 6 5】

<ステップ S 4 9 4 2>

S P S P 非発展フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 3 9：N o）、M P U 5 1 は、1 6 R 確変昇格フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 9 4 2）。1 6 R 確変昇格フラグは、可動体である可動回転役物部材 3 7 を駆動パターン F（図 1 2 9（C）及び図 1 3 5 参照）で可動させることによる 1 6 R 確変昇格演出を実行させると共に、この 1 6 R 確変昇格演出の実行前にボタン演出（図 1 4 0 参照）を実行させるフラグである。

【1 8 6 6】

20

M P U 5 1 は、1 6 R 確変昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 4 2：Y e s）、処理をステップ S 4 9 4 3 に移行し、1 6 R 確変昇格フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 4 2：N o）、処理をステップ S 4 9 4 5 に移行する。

【1 8 6 7】

<ステップ S 4 9 4 3 及び S 4 9 4 4>

1 6 R 確変昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 4 2：Y e s）、M P U 5 1 は、駆動データ 4 未セットフラグをオンに設定する（ステップ S 4 9 4 3）。駆動データ 4 未セットフラグは、駆動データ 4 をセットさせるフラグであり、後述の図 1 4 8 のステップ S 4 9 8 7 において駆動データ 4 をセットするか否かを判断するために参照される。

30

【1 8 6 8】

なお、駆動データ 4 は、スペシャルリーチに発展しないこと（S P S P 非発展）を告知する可動回転役物部材 3 7 の可動態様 C において、駆動データ 1 に基づく共通の連続的動作（駆動パターン A ～ C）の後に、個別の動作として駆動パターン F（図 1 2 9（C）及び図 1 3 5 参照）で可動回転役物部材 3 7 を可動させる情報である。

【1 8 6 9】

そして、M P U 5 1 は、1 6 R 確変昇格フラグをオフに設定し（ステップ S 4 9 4 4）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1 8 7 0】

<ステップ S 4 9 4 5>

40

1 6 R 確変昇格フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 4 2：N o）、M P U 5 1 は、1 6 R 確変非昇格フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 9 4 5）。1 6 R 確変非昇格フラグは、可動体である可動回転役物部材 3 7 を駆動パターン G（図 1 2 9（D）及び図 1 3 7 参照）で可動させることによる 1 6 R 確変昇格演出を実行させると共に、この 1 6 R 確変昇格演出の実行前にボタン演出（図 1 4 0 参照）を実行させるフラグである。

【1 8 7 1】

M P U 5 1 は、1 6 R 確変非昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 4 5：Y e s）、処理をステップ S 4 9 4 6 に移行し、1 6 R 確変非昇格フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 4 5：N o）、当該可動回転役物制御処理を終了す

50

る。

【1872】

<ステップS4946及びS4947>

16R確変非昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップS4945：Yes）、MPU51は、駆動データ5未セットフラグをオンに設定する（ステップS4946）。駆動データ5未セットフラグは、駆動データ5をセットさせるフラグであり、後述の図149のステップS5000において駆動データ5をセットするか否かを判断するために参照される。

【1873】

なお、駆動データ5は、16R確変大当たりに昇格しないこと（16R確変非昇格）を告知する可動回転役物部材37の可動態様Dにおいて、駆動データ1に基づく共通の連続的動作（駆動パターンA～C）の後に、個別の動作として駆動パターンG（図129（D）及び図137参照）で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

【1874】

そして、MPU51は、16R確変非昇格フラグをオフに設定し（ステップS4947）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1875】

<ステップS4948>

駆動データ1シナリオタイマの値が最大値でない場合（ステップS4927：No）、図145に示すように、MPU51は、終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行うタイミングであるか否かを判断する（ステップS4948）。具体的には、MPU51は、駆動データ1に基づいて実行される処理のうち、処理No.05、処理No.09、処理No.5、処理No.13、処理No.17、処理No.23、処理No.27及び処理No.29（図132参照）のいずれかであるか否かを判断する。

【1876】

MPU51は、終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行うタイミングである場合（ステップS4948：Yes）、処理をステップS4949に移行し、終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行うタイミングでない場合（ステップS4948：No）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1877】

ここで、図132に示すように、駆動データ1に基づいて実行される、処理No.05、処理No.09、処理No.5、処理No.13、処理No.17、処理No.23、処理No.27及び処理No.29（図132参照）の処理は、駆動データ1に基づいて実行される駆動パターンA～Cでの連続的動作である可動体である可動回転役物部材37の往復動作のうちの駆動側位置から戻り側位置である待機位置又は中間作動位置1に位置されるタイミングで実行される。即ち、本実施形態では、可動体制御処理として、可動体である可動回転役物部材37に対する複数の可動態様A～Dに共通の連続的動作（駆動パターンA～C）が、1つの駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に対応する情報に基づいて実行される場合、可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置である復帰位置又は中間作動位置1に位置される場合に、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作の終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が行われる。これにより、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作の終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が可動回転役物部材37の往復動作の戻り側位置で行われるため、当該終了判定において終了判定条件が成立していると判定された場合に、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる場合に、可動体である可動回転役物部材37を移動させる必要がないか、可動回転役物部材37の移動距離を小さくできる。また、駆動データ1（役物動作シナリオデータ1）に基づく連続的動作を終了させる終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が、可動回転役物部材37が往復動作の戻り側位置に位置される毎に実行されることで、当該連続的動作において複数回の終了判定が繰

10

20

30

40

50

り返し実行される。その結果、終了判定において駆動データ 1（役物動作シナリオデータ 1）に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の終了判定条件が成立していると判定される場合に、当該連続的動作を終了判定条件が成立していると判定されてから即座に終了させることができるだけでなく、終了判定条件の成立から即座に終了させることができる。そのため、終了判定において終了判定条件の成立が判断されてから、また終了判定条件が成立してから、遊技者に違和感を覚えさせることなく、可動回転役物部材 37 の動作を終了させることができる。従って、駆動データ 1（役物動作シナリオデータ 1）に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作の終了後に引き続いて、各可動態様 A～D に固有の駆動パターン D～G での可動回転役物部材 37 の個別の動作が実行される場合、複数の可動態様 A～D に共通の連続的動作から、他の各可動態様 A～D の個別の動作に円滑に移行できるため、各可動態様 A～D において可動回転役物部材 37 が可動される場合に、複数の可動態様 A～D に共通の連続的動作から、他の各可動態様 A～D の個別の動作に移行される場合に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、可動体である可動回転役物部材 37 が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動回転役物部材 37 を動作させることが可能になる。

10

【1878】

なお、本実施形態では、可動体である可動回転役物部材 37 に対する複数の可動態様 A～D に共通の連続的動作において戻り側位置である復帰位置又は中間作動位置 1 に位置される場合に、当該連続的動作の終了判定条件が成立しているか否かの終了判定が行われるが、当該連続的動作において可動回転役物部材 37 が駆動側位置側に可動されている間は終了判定条件が成立しているか否かの終了判定は行われない。これは、可動回転役物部材 37 が駆動側位置側に可動されている間に即座に可動回転役物部材 37 を可動停止すると、連続的動作の次の動作を開始させるために次の動作の開始時に可動回転役物部材 37 を次の動作の開始位置に可動させるか、連続的動作における終了判定時の駆動側位置側の可動停止位置を開始して次の動作での可動回転役物部材 37 の可動を開始させる必要がある結果、無駄な制御や複雑な制御を行う必要があり、また連続的動作から次の動作への移行を円滑に行えないおそれがあるからである。そのため、当該連続的動作において可動回転役物部材 37 が駆動側位置側に可動されている間は終了判定条件が成立しているか否かの終了判定は行われないことで、無駄な制御や複雑な制御を行う必要がないために連続的動作における可動回転役物部材 37 の終了制御を適切に行うことができ、また連続的動作から次の動作への移行を円滑に行えるために可動回転役物部材 37 の可動制御を好適に行うことができる。

20

30

【1879】

<ステップ S4949>

図 132 の説明に戻り、終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行うタイミングである場合（ステップ S4948：Yes）、MPU51 は、遊技者によって操作ボタン 20 に対して所定の遊技操作である押下操作がなされたか否かを判断する（ステップ S4949）。即ち、MPU51 は、駆動データ 1 に基づく可動体である可動回転役物部材 37 の連続的動作（駆動パターン A～C）の実行中に、遊技者による操作ボタン 20 に対する所定の遊技操作である押下操作に基づく終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行う。なお、遊技者によって操作ボタン 20 に対する操作がなされたか否かは、図 119 の操作検出パターン判定処理において、操作ボタン 20 の 3 回分の操作状態として「OFF」、「ON」、「ON」の操作パターンが発生しているか否かによって判断する。

40

【1880】

このように、駆動データ 1 に基づく可動体である可動回転役物部材 37 の連続的動作の終了判定条件が、遊技者による操作ボタン 20 に対する所定の遊技操作である押下操作である。一方、前述のように、終了判定条件が成立しているか否かの終了判定を行うタイミングは、駆動データ 1 に基づいて実行される、処理 No. 05、処理 No. 09、処理 No. 5、処理 No. 13、処理 No. 17、処理 No. 23、処理 No. 27 及び処理 No. 29（図 132 参照）の処理の実行中であり、駆動データ 1 に基づいて実行される駆

50

動パターン A ～ C での連続的動作である可動体である可動回転役物部材 3 7 の往復動作のうちの駆動側位置から戻り側位置である待機位置又は中間作動位置 1 に位置されるタイミングである。そのため、遊技者による操作ボタン 2 0 に対する押下操作によって可動体である可動回転役物部材 3 7 の連続的動作に対する全ての制御処理が終了する前に連続的動作の終了判定条件が成立する場合であっても、戻り側位置である待機位置又は中間作動位置 1 に可動回転役物部材 3 7 が位置される場合に連続的動作の終了判定条件が成立しているか否かが判定される。そのため、遊技者の遊技者による操作ボタン 2 0 に対する押下操作によって可動回転役物部材 3 7 の連続的動作に対する全ての制御処理が終了する前に連続的動作の終了判定条件が成立する場合、終了判定条件の成立後に可動回転役物部材 3 7 が待機位置又は中間作動位置 1 に位置された段階で、連続的動作を終了させることができる。その結果、連続的動作の終了判定条件が成立した場合に、即座に可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させることができるため、連続的動作の終了判定条件が成立してから、遊技者に違和感を覚えさせることなく、可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させることができる。従って、可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了後に引き続き次の動作（駆動パターン C 又は駆動パターン D の動作）が実行される場合、連続的動作から次の動作に円滑に移行できるため、連続的動作から他の動作への移行時に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、図柄表示部 3 4 1 での表示演出の表示中に、可動回転役物部材 3 7 が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動回転役物部材 3 7 を動作させることが可能になる。

10

【1881】

20

MPU51 は、遊技者によって操作ボタン 2 0 に対して所定の遊技操作である押下操作がなされた（ステップ S 4 9 4 9 : Y e s）、処理をステップ S 4 9 5 0 に移行し、MPU51 は、遊技者によって操作ボタン 2 0 に対して所定の遊技操作である押下操作がなされていない場合（ステップ S 4 9 4 9 : N o）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1882】

<ステップ S 4 9 5 0>

遊技者によって操作ボタン 2 0 に対して所定の遊技操作である押下操作がなされた場合（ステップ S 4 9 4 9 : Y e s）、MPU51 は、16R 確変昇格フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4 9 5 0）。16R 確変昇格フラグは、可動体である可動回転役物部材 3 7 を駆動パターン F（図 1 2 9（C）及び図 1 3 5 参照）で可動させることによる 16R 確変昇格演出を実行させると共に、この 16R 確変昇格演出の実行前にボタン演出（図 1 4 0 参照）を実行させるフラグである。

30

【1883】

MPU51 は、16R 確変昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 5 0 : Y e s）、処理をステップ S 4 9 5 1 に移行し、16R 確変昇格フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4 9 5 0 : N o）、処理をステップ S 4 9 5 3 に移行する。

【1884】

<ステップ S 4 9 5 1 及び S 4 9 5 2>

16R 確変昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4 9 5 0 : Y e s）、MPU51 は、駆動データ 4 未セットフラグをオンに設定する（ステップ S 4 9 5 1）。駆動データ 4 未セットフラグは、駆動データ 4 をセットさせるフラグであり、後述の図 1 4 8 のステップ S 4 9 8 7 において駆動データ 4 をセットするか否かを判断するために参照される。

40

【1885】

なお、駆動データ 4 は、16R 確変大当たりであること（16R 確変昇格）を告知する可動回転役物部材 3 7 の可動態様 C において、駆動データ 1 に基づく共通の連続的動作（駆動パターン A ～ C）の後に、個別の動作として駆動パターン F（図 1 2 9（C）及び図 1 3 5 参照）で可動回転役物部材 3 7 を可動させる情報である。

【1886】

そして、MPU51 は、16R 確変昇格フラグをオフに設定し（ステップ S 4 9 5 2）

50

、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1887】

＜ステップS4953＞

16R確変昇格フラグがオフに設定されている場合（ステップS4950：No）、MPU51は、16R確変非昇格フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4953）。16R確変非昇格フラグは、可動体である可動回転役物部材37を駆動パターンG（図129（D）及び図137参照）で可動させることによる16R確変昇格演出を実行させると共に、この16R確変昇格演出の実行前にボタン演出（図140参照）を実行させるフラグである。

【1888】

MPU51は、16R確変非昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップS4953：Yes）、処理をステップS4954に移行し、16R確変非昇格フラグがオフに設定されている場合（ステップS4953：No）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1889】

＜ステップS4954及びS4955＞

16R確変非昇格フラグがオンに設定されている場合（ステップS4953：Yes）、MPU51は、駆動データ5未セットフラグをオンに設定する（ステップS4954）。駆動データ5未セットフラグは、駆動データ5をセットさせるフラグであり、後述の図149のステップS5000において駆動データ5をセットするか否かを判断するために参照される。

【1890】

なお、駆動データ5は、16R確変大当たりに昇格しないこと（16R確変非昇格）を告知する可動回転役物部材37の可動態様Dにおいて、駆動データ1に基づく共通の連続的動作（駆動パターンA～C）の後に、個別の動作として駆動パターンG（図129（D）及び図137参照）で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

【1891】

そして、MPU51は、16R確変非昇格フラグをオフに設定し（ステップS4955）、処理をステップS4956に移行する。

【1892】

＜ステップS4956＞

ステップS4956では、MPU51は、終了判定を行った駆動データ1の処理が、処理No.05、No.09、No.13、No.17（図132参照）のいずれかであるか否かを判断する。即ち、MPU51は、複数の可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン20に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材37が待機位置において停止状態とされているか否かを判断する。

【1893】

MPU51は、終了判定を行った駆動データ1の処理が、処理No.05、No.09、No.13、No.17のいずれかである場合（ステップS4956：Yes）、即ち複数の可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン20に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材37が待機位置において停止状態とされている場合、処理をステップS4956に移行する。一方、MPU51は、終了判定を行った駆動データ1の処理が、処理No.05、No.09、No.13、No.17のいずれかでない場合（ステップS4956：No）、即ち複数の可動態様A～Dに共通の可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン20に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材37が待機位置において停止状態とされていない場合、処理をステップS4959に移行する。

【1894】

<ステップ S 4 9 5 7 及び S 4 9 5 8>

終了判定を行った駆動データ 1 の処理が、処理 No. 05、No. 09、No. 13、No. 17 のいずれかである場合（ステップ S 4 9 5 6：Yes）、即ち複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン 20 に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材 3 7 が待機位置において停止状態とされている場合、MPU 5 1 は、駆動データ 1（図 1 3 2 参照）に規定される処理手順に従って可動回転役物部材 3 7 に連続的動作（駆動パターン A～C）を実行させるための駆動データ 1 シナリオタイマをクリアする（ステップ S 4 9 5 7）。そして、MPU 5 1 は、可動回転役物部材 3 7 の動作を制御するために駆動データ 1 がセットされていることを示す駆動データ 1 セットフラグをオフに設定し（ステップ S 4 9 5 8）、当該可動回転役物制御処理を終了する。即ち、可動体である可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン 20 に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材 3 7 が待機位置において停止状態とされている場合には、駆動データ 1 セットフラグをオフに設定することで駆動データ 1 に基づく処理を終了し、可動回転役物部材 3 7 が待機位置に停止された状態で複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる。

10

【1 8 9 5】

<ステップ S 4 9 5 9>

終了判定を行った駆動データ 1 の処理が、処理 No. 05、No. 09、No. 13、No. 17 のいずれかでない場合（ステップ S 4 9 5 6：No）、即ち複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン 20 に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材 3 7 が待機位置において停止状態とされていない場合、MPU 5 1 は、終了判定を行った駆動データ 1 の処理が、処理 No. 23、No. 27（図 1 3 2 参照）のいずれかであるか否かを判断する（ステップ S 4 9 5 9）。即ち、MPU 5 1 は、複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン 20 に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材 3 7 が中間作動位置 1 において停止状態とされているか否かを判断する。

20

30

【1 8 9 6】

MPU 5 1 は、終了判定を行った駆動データ 1 の処理が、処理 No. 23、No. 27（図 1 3 2 参照）のいずれかである場合（ステップ S 4 9 5 9：Yes）、即ち複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン 20 に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材 3 7 が中間作動位置 1 において停止状態とされている場合、処理をステップ S 4 9 6 0 に移行する。

【1 8 9 7】

一方、MPU 5 1 は、終了判定を行った駆動データ 1 の処理が、処理 No. 23、No. 27（図 1 3 2 参照）のいずれでもない場合（ステップ S 4 9 5 9：No）、即ち複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン 20 に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物部材 3 7 が中間作動位置 1 において停止状態とされていない場合、当該可動回転役物制御処理を終了する。

40

【1 8 9 8】

<ステップ S 4 9 6 0>

終了判定を行った駆動データ 1 の処理が、処理 No. 23、No. 27（図 1 3 2 参照）のいずれかである場合（ステップ S 4 9 5 9：Yes）、即ち複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる終了判定条件が成立している（操作ボタン 20 に対する操作がなされた）と判断されたタイミングにおいて、可動回転役物

50

部材 37 が中間作動位置 1 において停止状態とされている場合、MPU51 は、処理 No. 28 実行フラグがオンに設定し（ステップ S 4960）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1899】

ここで、前述のように、処理 No. 28 実行フラグは、駆動データ 1 における処理 No. 28（図 132 参照）を実行させることで、可動回転役物部材 37 が待機位置に復帰された状態で、複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 37 の連続的動作を終了させるフラグであり、当該可動回転役物制御処理の図 143 のステップ S 4924 において、中間作動位置 1 において停止状態とされている可動体である可動回転役物部材 37 を待機位置に復帰させて、複数の可動態様 A～D に共通の可動回転役物部材 37 の連続的動作を終了させるか否かを判断するために参照される。

10

【1900】

<ステップ S 4961>

駆動データ 1 シナリオタイマの値が最大値でない場合（ステップ S 4927：No）、即ち駆動データ 1 によって規定される全ての処理が終了されていないことに基づく終了判定条件の不成立により、駆動データ 1 に基づく可動回転役物部材 37 の連続的動作を終了させるタイミングでないと終了判定される場合、図 146 に示すように、MPU51 は、駆動データ 2 未セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4961）。駆動データ 2 未セットフラグは、駆動データ 2 をセットさせるフラグである。

【1901】

MPU51 は、駆動データ 2 未セットフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4961：Yes）、処理をステップ S 4962 に移行し、駆動データ 2 未セットフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4961：No）、処理をステップ S 4967 に移行する。

20

【1902】

<ステップ S 4962～S 4966>

駆動データ 2 未セットフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4961：Yes）、MPU51 は、駆動データ 2 未セットフラグをオフに設定すると共に（ステップ S 4962）、駆動データ 2（役物動作シナリオデータ 2）（図 133（B）参照）をセットする（ステップ S 4963）。駆動データ 2 は、スーパーリーチに発展すること（SP 発展）を告知する可動回転役物部材 37 の可動態様 A（図 129（A）参照）において、共通の連続的動作（駆動パターン A～C）の後に、個別の動作として駆動パターン D（図 133（A）参照）で可動回転役物部材 37 を可動させる情報である。

30

【1903】

そして、MPU51 は、駆動データ 2（図 133（B）参照）に規定される処理手順に従って可動回転役物部材 37 を駆動パターン D で可動させるために駆動データ 2 シナリオタイマをセットすると共に（ステップ S 4964）、可動回転役物部材 37 の動作を制御するために駆動データ 2 がセットされていることを示す駆動データ 2 セットフラグをオンに設定する（ステップ S 4965）。さらに、MPU51 は、駆動データ 2 の処理 No. 1 を開始させ（ステップ S 4966）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

40

【1904】

<ステップ S 4967>

駆動データ 2 未セットフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4961：No）、MPU51 は、可動回転役物部材 37 の動作を制御するために駆動データ 2 がセットされていることを示す駆動データ 2 セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 4967）。

【1905】

MPU51 は、駆動データ 2 セットフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 4967：Yes）、処理をステップ S 4968 に移行し、駆動データ 2 セットフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 4967：No）、処理を図 147 のステップ S 4

50

974に移行する。

【1906】

<ステップS4968～S4970>

駆動データ2セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS4967：Yes）、MPU51は、駆動データ2シナリオタイマを更新し（ステップS4968）、更新後の駆動データ2シナリオタイマの値に基づいて、駆動データ2に規定される次の処理に移行するタイミングであるか否かを判断する（ステップS4969）。

【1907】

MPU51は、駆動データ2に規定される次の処理に移行するタイミングである場合（ステップS4969：Yes）、駆動データ2に規定される次の処理を開始し（ステップS4970）、当該可動回転役物制御処理を終了する。例えば、図133（B）に示すように、駆動データ2における処理No. 3を実行している場合には、即ち昇降用のステッピングモーターを回転停止状態としている場合、処理を処理No. 4に移行することで昇降用のステッピングモーターを逆方向に72ステップ回転させる処理が実行される。

10

【1908】

このように、ステップS4968において更新される駆動データ2シナリオタイマを参照し、駆動データ2における次の処理を順次実行することで、駆動データ2における処理No. 01～処理No. 05の全ての処理が実行される。これにより、可動体である可動回転役物部材37に対して個別の動作として駆動パターンD（図133（A）参照）で可動回転役物部材37の動作が実行される。

20

【1909】

一方、MPU51は、駆動データ2に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合（ステップS4969：No）、処理をステップS4971に移行する。

【1910】

<ステップS4971>

駆動データ2に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合（ステップS4969：No）、MPU51は、駆動データ2シナリオタイマの値が最大値であるか否かを判断する（ステップS4971）。即ち、MPU51は、駆動データ2によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ2に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであるかの終了判定を行う。

30

【1911】

MPU51は、駆動データ2シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS4971：Yes）、即ち駆動データ2（図133（B）参照）によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ2に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、処理をステップS4972に移行する。一方、MPU51は、駆動データ2シナリオタイマの値が最大値でない場合（ステップS4971：No）、即ち駆動データ2によって規定される全ての処理が終了されていないことに基づく終了判定条件の不成立により、駆動データ2に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングでないと終了判定される場合、当該可動回転役物制御処理を終了する。

40

【1912】

<ステップS4972及びS4973>

駆動データ2シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS4971：Yes）、即ち終了判定条件の成立により駆動データ2に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、MPU51は、駆動データ2（図133（B）参照）に規定される処理手順に従って可動回転役物部材37を駆動パターンDで可動させるために駆動データ2シナリオタイマをクリアする（ステップS4972）。そして、MPU51は、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ2がセットされていることを示す駆動データ2セットフラグをオフに設定し（ステップS4

50

973)、当該可動回転役物制御処理を終了する。即ち、駆動データ2シナリオタイマの値が最大値である場合(ステップS4971:Yes)、可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる。

【1913】

<ステップS4974>

駆動データ2セットフラグがオフに設定されている場合(ステップS4967:No)、図147に示すように、MPU51は、駆動データ3未セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS4974)。駆動データ3未セットフラグは、駆動データ3をセットさせるフラグである。

【1914】

MPU51は、駆動データ3未セットフラグがオンに設定されている場合(ステップS4974:Yes)、処理をステップS4975に移行し、駆動データ3未セットフラグがオフに設定されている場合(ステップS4974:No)、処理をステップS4980に移行する。

【1915】

<ステップS4975～S4979>

駆動データ3未セットフラグがオンに設定されている場合(ステップS4974:Yes)、MPU51は、駆動データ3未セットフラグをオフに設定すると共に(ステップS4975)、駆動データ3(役物動作シナリオデータ3)(図134(B)参照)をセットする(ステップS4976)。駆動データ3は、スペシャルリーチに発展すること(SPP発展)を告知する可動回転役物部材37の可動態様B(図129(B)参照)において、共通の連続的動作(駆動パターンA～C)の後に、個別の動作として駆動パターンE(図134(A)参照)で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

【1916】

そして、MPU51は、駆動データ3(図134(B)参照)に規定される処理手順に従って可動回転役物部材37を駆動パターンEで可動させるために駆動データ3シナリオタイマをセットすると共に(ステップS4977)、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ3がセットされていることを示す駆動データ3セットフラグをオンに設定する(ステップS4978)。さらに、MPU51は、駆動データ3の処理No.1を開始させ(ステップS4979)、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1917】

<ステップS4980>

駆動データ3未セットフラグがオフに設定されている場合(ステップS4974:No)、MPU51は、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ3がセットされていることを示す駆動データ3セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS4980)。

【1918】

MPU51は、駆動データ3セットフラグがオンに設定されている場合(ステップS4980:Yes)、処理をステップS4981に移行し、駆動データ3セットフラグがオフに設定されている場合(ステップS4980:No)、処理を図148のステップS4987に移行する。

【1919】

<ステップS4981～S4983>

駆動データ3セットフラグがオンに設定されている場合(ステップS4980:Yes)、MPU51は、駆動データ3シナリオタイマを更新し(ステップS4981)、更新後の駆動データ3シナリオタイマの値に基づいて、駆動データ3に規定される次の処理に移行するタイミングであるか否かを判断する(ステップS4982)。

【1920】

MPU51は、駆動データ3に規定される次の処理に移行するタイミングである場合(ステップS4982:Yes)、駆動データ3に規定される次の処理を開始し(ステップ

10

20

30

40

50

S 4 9 8 3)、当該可動回転役物制御処理を終了する。例えば、図 1 3 4 (B) に示すように、駆動データ 3 における処理 No. 2 を実行している場合には、即ち昇降用のステッピングモーターを正方向に回転させている場合、処理を処理 No. 3 に移行することで昇降用のステッピングモーターを回転停止状態とする。

【1 9 2 1】

このように、ステップ S 4 9 8 1 において更新される駆動データ 3 シナリオタイマを参照し、駆動データ 3 における次の処理を順次実行することで、駆動データ 3 における処理 No. 0 1 ~ 処理 No. 0 7 の全ての処理が実行される。これにより、可動体である可動回転役物部材 3 7 に対して個別の動作として駆動パターン E (図 1 3 4 (A) 参照) で可動回転役物部材 3 7 の動作が実行される。

【1 9 2 2】

一方、MPU 5 1 は、駆動データ 3 に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合 (ステップ S 4 9 8 2 : No)、処理をステップ S 4 9 8 4 に移行する。

【1 9 2 3】

<ステップ S 4 9 8 4>

駆動データ 3 に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合 (ステップ S 4 9 8 2 : No)、MPU 5 1 は、駆動データ 3 シナリオタイマの値が最大値であるか否かを判断する (ステップ S 4 9 8 4)。即ち、MPU 5 1 は、駆動データ 3 によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ 3 に基づく可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させるタイミングであるかの終了判定を行う。

【1 9 2 4】

MPU 5 1 は、駆動データ 3 シナリオタイマの値が最大値である場合 (ステップ S 4 9 8 4 : Yes)、即ち駆動データ 3 (図 1 3 4 (B) 参照) によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ 3 に基づく可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、処理をステップ S 4 9 8 5 に移行する。一方、MPU 5 1 は、駆動データ 3 シナリオタイマの値が最大値でない場合 (ステップ S 4 9 8 4 : No)、即ち駆動データ 3 によって規定される全ての処理が終了されていないことに基づく終了判定条件の不成立により、駆動データ 3 に基づく可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させるタイミングでないと終了判定される場合、当該可動回転役物制御処理を終了する。

【1 9 2 5】

<ステップ S 4 9 8 5 及び S 4 9 8 6>

駆動データ 3 シナリオタイマの値が最大値である場合 (ステップ S 4 9 8 4 : Yes)、即ち終了判定条件の成立により駆動データ 3 に基づく可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、MPU 5 1 は、駆動データ 3 (図 1 3 4 (B) 参照) に規定される処理手順に従って可動回転役物部材 3 7 を駆動パターン E で可動させるために駆動データ 3 シナリオタイマをクリアする (ステップ S 4 9 8 5)。そして、MPU 5 1 は、可動回転役物部材 3 7 の動作を制御するために駆動データ 3 がセットされていることを示す駆動データ 3 セットフラグをオフに設定し (ステップ S 4 9 8 6)、当該可動回転役物制御処理を終了する。即ち、駆動データ 3 シナリオタイマの値が最大値である場合 (ステップ S 4 9 8 4 : Yes)、可動回転役物部材 3 7 の連続的動作を終了させる。

【1 9 2 6】

<ステップ S 4 9 8 7>

駆動データ 3 セットフラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 4 9 8 0 : No)、図 1 4 8 に示すように、MPU 5 1 は、駆動データ 4 未セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する (ステップ S 4 9 8 7)。駆動データ 4 未セットフラグは、駆動データ 4 をセットさせるフラグである。

【1 9 2 7】

10

20

30

40

50

MPU51は、駆動データ4未セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS4987：Yes）、処理をステップS4988に移行し、駆動データ4未セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS4987：No）、処理をステップS4993に移行する。

【1928】

<ステップS4988～S4992>

駆動データ4未セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS4987：Yes）、MPU51は、駆動データ4未セットフラグをオフに設定すると共に（ステップS4988）、駆動データ4（役物動作シナリオデータ4）（図136参照）をセットする（ステップS4989）。駆動データ4は、16R確変大当たりであること（16R確変昇格）を告知する可動回転役物部材37の可動態様C（図129（C）参照）において、共通の連続的動作（駆動パターンA～C）の後に、個別の動作として駆動パターンF（図135参照）で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

10

【1929】

そして、MPU51は、駆動データ4（図136参照）に規定される処理手順に従って可動回転役物部材37を駆動パターンFで可動させるために駆動データ4シナリオタイマをセットすると共に（ステップS4990）、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ4がセットされていることを示す駆動データ4セットフラグをオンに設定する（ステップS4991）。さらに、MPU51は、駆動データ4の処理No.1を開始させ（ステップS4992）、当該可動回転役物制御処理を終了する。

20

【1930】

<ステップS4993>

駆動データ4未セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS4987：No）、MPU51は、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ4がセットされていることを示す駆動データ4セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS4993）。

【1931】

MPU51は、駆動データ4セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS4993：Yes）、処理をステップS4994に移行し、駆動データ4セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS4993：No）、処理を図149のステップS5000に移行する。

30

【1932】

<ステップS4994～S4996>

駆動データ4セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS4993：Yes）、MPU51は、駆動データ4シナリオタイマを更新し（ステップS4994）、更新後の駆動データ4シナリオタイマの値に基づいて、駆動データ4に規定される次の処理に移行するタイミングであるか否かを判断する（ステップS4995）。

【1933】

MPU51は、駆動データ4に規定される次の処理に移行するタイミングである場合（ステップS4995：Yes）、駆動データ4に規定される次の処理を開始し（ステップS4996）、当該可動回転役物制御処理を終了する。例えば、図136に示すように、駆動データ4における処理No.2を実行している場合には、即ち昇降用のステッピングモーターを正方向に回転させている場合、処理を処理No.3に移行することで昇降用のステッピングモーターを回転停止状態とする。

40

【1934】

このように、ステップS4994において更新される駆動データ4シナリオタイマを参照し、駆動データ4における次の処理を順次実行することで、駆動データ4における処理No.01～処理No.07の全ての処理が実行される。これにより、可動体である可動回転役物部材37に対して個別の動作として駆動パターンF（図135参照）で可動回転役物部材37の動作が実行される。

50

【1935】

一方、MPU51は、駆動データ4に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合（ステップS4995：No）、処理をステップS4997に移行する。

【1936】

<ステップS4997>

駆動データ4に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合（ステップS4995：No）、MPU51は、駆動データ4シナリオタイマの値が最大値であるか否かを判断する（ステップS4997）。即ち、MPU51は、駆動データ4によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ4に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであるかの終了判定を行う。

10

【1937】

MPU51は、駆動データ4シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS4997：Yes）、即ち駆動データ4（図136参照）によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ4に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、処理をステップS4998に移行する。一方、MPU51は、駆動データ4シナリオタイマの値が最大値でない場合（ステップS4997：No）、即ち駆動データ4によって規定される全ての処理が終了されていないことに基づく終了判定条件の不成立により、駆動データ4に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングでないと終了判定される場合、当該可動回転役物制御処理を終了する。

20

【1938】

<ステップS4998及びS4999>

駆動データ4シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS4997：Yes）、即ち終了判定条件の成立により駆動データ4に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、MPU51は、駆動データ4（図136参照）に規定される処理手順に従って可動回転役物部材37を駆動パターンFで可動させるために駆動データ4シナリオタイマをクリアする（ステップS4998）。そして、MPU51は、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ4がセットされていることを示す駆動データ4セットフラグをオフに設定し（ステップS4999）、当該可動回転役物制御処理を終了する。即ち、駆動データ4シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS4997：Yes）、可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる。

30

【1939】

<ステップS5000>

駆動データ4セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS4993：No）、図149に示すように、MPU51は、駆動データ5未セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS5000）。駆動データ5未セットフラグは、駆動データ5をセットさせるフラグである。

【1940】

MPU51は、駆動データ5未セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS5000：Yes）、処理をステップS5001に移行し、駆動データ5未セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS5000：No）、処理をステップS5006に移行する。

40

【1941】

<ステップS5001～S5005>

駆動データ5未セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS5000：Yes）、MPU51は、駆動データ5未セットフラグをオフに設定すると共に（ステップS5001）、駆動データ5（役物動作シナリオデータ5）（図137（B）参照）をセットする（ステップS5002）。駆動データ5は、スーパーリーチに発展しないこと（S

50

P非発展)、スペシャルリーチに発展しないこと(S P S P非発展)、又は16R確変大当たりでないこと(16R確変非昇格)を告知する可動回転役物部材37の可動態様D(図129(D)参照)において、共通の連続的動作(駆動パターンA~C)の後に、個別の動作として駆動パターンG(図137(A)参照)で可動回転役物部材37を可動させる情報である。

【1942】

そして、MPU51は、駆動データ5(図137(B)参照)に規定される処理手順に従って可動回転役物部材37を駆動パターンFで可動させるために駆動データ5シナリオタイマをセットすると共に(ステップS5003)、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ5がセットされていることを示す駆動データ5セットフラグをオンに設定する(ステップS5004)。さらに、MPU51は、駆動データ5の処理No.1を開始させ(ステップS5005)、当該可動回転役物制御処理を終了する。

10

【1943】

<ステップS5006>

駆動データ5未セットフラグがオフに設定されている場合(ステップS5000:No)、MPU51は、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ5がセットされていることを示す駆動データ5セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS5006)。

【1944】

MPU51は、駆動データ4セットフラグがオンに設定されている場合(ステップS5006:Yes)、処理をステップS5007に移行し、駆動データ5セットフラグがオフに設定されている場合(ステップS5006:No)、当該可動回転役物制御処理を終了する。

20

【1945】

<ステップS5007~S5009>

駆動データ5セットフラグがオンに設定されている場合(ステップS5006:Yes)、MPU51は、駆動データ5シナリオタイマを更新し(ステップS5007)、更新後の駆動データ5シナリオタイマの値に基づいて、駆動データ5に規定される次の処理に移行するタイミングであるか否かを判断する(ステップS5008)。

【1946】

MPU51は、駆動データ5に規定される次の処理に移行するタイミングである場合(ステップS5008:Yes)、駆動データ5に規定される次の処理を開始し(ステップS5009)、当該可動回転役物制御処理を終了する。例えば、図137(B)に示すように、駆動データ5における処理No.03を実行している場合には、即ち昇降用のステッピングモーターが停止状態の場合、処理を処理No.04に移行することで昇降用のステッピングモーターを逆方向に12ステップ回転させる。

30

【1947】

このように、ステップS5007において更新される駆動データ5シナリオタイマを参照し、駆動データ5における次の処理を順次実行することで、駆動データ5における処理No.01~処理No.05の全ての処理が実行される。これにより、可動体である可動回転役物部材37に対して個別の動作として駆動パターンG(図137(B)参照)で可動回転役物部材37の動作が実行される。

40

【1948】

一方、MPU51は、駆動データ5に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合(ステップS5008:No)、処理をステップS5010に移行する。

【1949】

<ステップS5010>

駆動データ5に規定される次の処理に移行するタイミングでない場合(ステップS5008:No)、MPU51は、駆動データ5シナリオタイマの値が最大値であるか否かを判断する(ステップS5010)。即ち、MPU51は、駆動データ5によって規定され

50

る全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ5に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであるかの終了判定を行う。

【1950】

MPU51は、駆動データ5シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS5010：Yes）、即ち駆動データ5（図137（B）参照）によって規定される全ての処理が終了されることに基づく終了判定条件の成立により、駆動データ5に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、処理をステップS5011に移行する。一方、MPU51は、駆動データ5シナリオタイマの値が最大値でない場合（ステップS5010：No）、即ち駆動データ5によって規定される全ての処理が終了されていないことに基づく終了判定条件の不成立により、駆動データ5に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングでないと終了判定される場合、当該可動回転役物制御処理を終了する。

10

【1951】

<ステップS5011及びS5012>

駆動データ5シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS5010：Yes）、即ち終了判定条件の成立により駆動データ5に基づく可動回転役物部材37の連続的動作を終了させるタイミングであると終了判定される場合、MPU51は、駆動データ5（図137（B）参照）に規定される処理手順に従って可動回転役物部材37を駆動パターンGで可動させるために駆動データ5シナリオタイマをクリアする（ステップS5011）。そして、MPU51は、可動回転役物部材37の動作を制御するために駆動データ5がセットされていることを示す駆動データ5セットフラグをオフに設定し（ステップS5012）、当該可動回転役物制御処理を終了する。即ち、駆動データ5シナリオタイマの値が最大値である場合（ステップS5010：Yes）、可動回転役物部材37の連続的動作を終了させる。

20

【1952】

[ボタン演出制御処理]

次に、ボタン演出制御処理

ここで、図150及び図151は、本実施形態のボタン演出制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図150及び図151を参照しつつボタン演出制御処理を説明する。

30

【1953】

<ステップS5101>

図150に示すように、本実施形態のボタン演出制御処理では、MPU51は、まずT1ボタン演出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS5101）。T1ボタン演出フラグは、当該特図遊技の開始から時間T1が経過した役物作動タイミングA（図128参照）においてボタン演出を実行させるフラグであり、役物作動タイミングAにおいて16R確変昇格演出又は16R確変非昇格演出が実行される場合に、図139のボタン演出設定処理でのステップS4708において、オンに設定される。

40

【1954】

MPU51は、T1ボタン演出フラグがオンに設定されている場合（ステップS5101：Yes）、即ち役物作動タイミングA（図128参照）においてボタン演出を実行させる場合、処理をステップS5102に移行する。一方、MPU51は、T1ボタン演出フラグがオフに設定されている場合（ステップS5101：No）、即ち役物作動タイミングA（図128参照）においてボタン演出を実行させない場合、処理をステップS5104に移行する。

【1955】

<ステップS5102及びS5103>

T1ボタン演出フラグがオンに設定されている場合（ステップS5101：Yes）、即ち役物作動タイミングA（図128参照）においてボタン演出を実行させる場合、MP

50

U 5 1 は、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング A が開始されるまでの残り時間を示す T 1 カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 5 1 0 2）。即ち、M P U 5 1 は、ボタン演出を開始させるタイミングであるか否かを判断する。

【1 9 5 6】

M P U 5 1 は、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング A が開始されるまでの残り時間を示す T 1 カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 5 1 0 2：Y e s）、即ちボタン演出を開始させるタイミングである場合、T 1 ボタン演出フラグをオフに設定し（ステップ S 5 1 0 3）、処理を図 1 5 1 のステップ S 5 1 1 0 に移行する。

【1 9 5 7】

一方、M P U 5 1 は、ノーマルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング A が開始されるまでの残り時間を示す T 1 カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 5 1 0 2：N o）、即ちボタン演出を開始させるタイミングでない場合、当該ボタン演出制御処理を終了する。

【1 9 5 8】

<ステップ S 5 1 0 4>

T 1 ボタン演出フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 1 0 1：N o）、即ち役物作動タイミング A（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させない場合、M P U 5 1 は、T 2 ボタン演出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 5 1 0 4）。T 2 ボタン演出フラグは、当該特図遊技の開始から時間 T 2 が経過した役物作動タイミング B（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させるフラグであり、役物作動タイミング B において 1 6 R 確変昇格演出又は 1 6 R 確変非昇格演出が実行される場合に、図 1 3 9 のボタン演出設定処理でのステップ S 4 7 0 6 において、オンに設定される。

【1 9 5 9】

M P U 5 1 は、T 2 ボタン演出フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 1 0 4：Y e s）、即ち役物作動タイミング B（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させる場合、処理をステップ S 5 1 0 5 に移行する。一方、M P U 5 1 は、T 2 ボタン演出フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 1 0 4：N o）、即ち役物作動タイミング B（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させない場合、処理をステップ S 5 1 0 7 に移行する。

【1 9 6 0】

<ステップ S 5 1 0 5 及び S 5 1 0 6>

T 2 ボタン演出フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 1 0 4：Y e s）、即ち役物作動タイミング B（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させる場合、M P U 5 1 は、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング B が開始されるまでの残り時間を示す T 2 カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 5 1 0 5）。即ち、M P U 5 1 は、ボタン演出を開始させるタイミングであるか否かを判断する。

【1 9 6 1】

M P U 5 1 は、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング B が開始されるまでの残り時間を示す T 2 カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 5 1 0 5：Y e s）、即ちボタン演出を開始させるタイミングである場合、T 2 ボタン演出フラグをオフに設定し（ステップ S 5 1 0 6）、処理を図 1 5 1 のステップ S 5 1 1 0 に移行する。

【1 9 6 2】

一方、M P U 5 1 は、スーパーリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング B が開始されるまでの残り時間を示す T 2 カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 5 1 0 5：N o）、即ちボタン演出を開始させるタイミングでない場合、当該ボタン演出制御処理を終了する。

【1 9 6 3】

<ステップ S 5 1 0 7>

T 2 ボタン演出フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 1 0 4：N o）、即

10

20

30

40

50

ち役物作動タイミング B（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させない場合、MPU51 は、T3 ボタン演出フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 5 1 0 7）。T3 ボタン演出フラグは、当該特図遊技の開始から時間 T3 が経過した役物作動タイミング C（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させるフラグであり、役物作動タイミング C において 1 6 R 確変昇格演出又は 1 6 R 確変非昇格演出が実行される場合に、図 1 3 9 のボタン演出設定処理でのステップ S 4 7 0 2 において、オンに設定される。

【1 9 6 4】

MPU51 は、T3 ボタン演出フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 1 0 7：Yes）、即ち役物作動タイミング C（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させる場合、処理をステップ S 5 1 0 8 に移行する。一方、MPU51 は、T3 ボタン演出フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 1 0 7：No）、即ち役物作動タイミング C（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させない場合、処理を図 1 5 1 のステップ S 5 1 1 4 に移行する。

10

【1 9 6 5】

<ステップ S 5 1 0 8 及び S 5 1 0 9>

T3 ボタン演出フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 1 0 7：Yes）、即ち役物作動タイミング C（図 1 2 8 参照）においてボタン演出を実行させる場合、MPU51 は、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング C が開始されるまでの残り時間を示す T3 カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 5 1 0 8）。即ち、MPU51 は、ボタン演出を開始させるタイミングであるか否かを判断する。

20

【1 9 6 6】

MPU51 は、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング C が開始されるまでの残り時間を示す T3 カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 5 1 0 8：Yes）、即ちボタン演出を開始させるタイミングである場合、T3 ボタン演出フラグをオフに設定し（ステップ S 5 1 0 9）、処理を図 1 5 1 のステップ S 5 1 1 0 に移行する。

【1 9 6 7】

一方、MPU51 は、スペシャルリーチ演出の終盤に設定される役物作動タイミング C が開始されるまでの残り時間を示す T3 カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 5 1 0 8：No）、即ちボタン演出を開始させるタイミングでない場合、当該ボタン演出制御処理を終了する。

30

【1 9 6 8】

<ステップ S 5 1 1 0 及び S 5 1 1 1>

ボタン演出を開始させるタイミングである場合、図 1 5 1 に示すように、MPU51 は、ボタン演出が開始させるボタン演出開始コマンドを設定し（ステップ S 5 1 1 0）、このボタン演出開始コマンドを表示制御装置 6 に送信する（ステップ S 5 1 1 1）。これにより、図柄表示部 3 4 1 では、表示制御装置 6 の制御によって表示演出としてのボタン演出が開始される。

【1 9 6 9】

40

<ステップ S 5 1 1 2 及び S 5 1 1 3>

ステップ S 5 1 1 2 では、MPU51 は、遊技者による操作ボタン 2 0 に対する操作が有効とされる期間（ボタン操作有効期間）に対応したボタン操作有効期間タイマを設定する。そして、MPU51 は、ボタン操作有効期間タイマが設定されていることを示す操作有効期間タイマフラグをオンに設定し（ステップ S 5 1 1 3）、当該ボタン演出制御処理を終了する。

【1 9 7 0】

<ステップ S 5 1 1 4>

ステップ S 5 1 1 4 では、MPU51 は、ボタン操作有効期間タイマが設定されていることを示す操作有効期間タイマフラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU

50

5 1 は、操作有効期間タイマフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 1 1 4 : Y e s）、処理をステップ S 5 1 1 5 に移行する。一方、M P U 5 1 は、操作有効期間タイマフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 1 1 4 : N o）、当該ボタン演出制御処理を終了する。

【1 9 7 1】

<ステップ S 5 1 1 5 及び S 5 1 1 6 >

操作有効期間タイマフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 1 1 4 : Y e s）、M P U 5 1 は、ボタン操作有効期間タイマから 1 減算し（ステップ S 5 1 1 5）、減算後のボタン操作有効期間タイマの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 5 1 1 6）。即ち、ボタン操作有効期間が経過によりボタン演出を終了するか否かを判断する。

10

【1 9 7 2】

M P U 5 1 は、減算後のボタン操作有効期間タイマの値が 0 である場合（ステップ S 5 1 1 6 : Y e s）、即ちボタン操作有効期間が経過した場合、処理をステップ S 5 1 1 9 に移行する。一方、M P U 5 1 は、減算後のボタン操作有効期間タイマの値が 0 でない場合（ステップ S 5 1 1 6 : N o）、即ちボタン操作有効期間が経過していない場合、処理をステップ S 5 1 1 7 に移行する。

【1 9 7 3】

<ステップ S 5 1 1 7 及び S 5 1 1 8 >

減算後のボタン操作有効期間タイマの値が 0 でない場合（ステップ S 5 1 1 6 : N o）、即ちボタン操作有効期間が経過していない場合、M P U 5 1 は、遊技者により操作ボタン 2 0 が操作されたか否かを判断する（ステップ S 5 1 1 7）。遊技者により操作ボタン 2 0 が操作されたか否かは、図 1 1 9 の操作検出パターン判定処理において、操作ボタン 2 0 の 3 回分の操作状態として「O F F」、「O N」、「O N」の操作パターンが発生しているか否かによって判断する。

20

【1 9 7 4】

M P U 5 1 は、ボタン操作有効期間の経過前に遊技者により操作ボタン 2 0 が操作された場合（ステップ S 5 1 1 7 : Y e s）、ボタン操作有効期間タイマをクリアし（ステップ S 5 1 1 8）、処理をステップ S 5 1 1 9 に移行する。一方、M P U 5 1 は、ボタン操作有効期間の経過前に遊技者により操作ボタン 2 0 が操作されていない場合（ステップ S 5 1 1 7 : N o）、当該ボタン演出制御処理を終了する。

30

【1 9 7 5】

<ステップ S 5 1 1 9 ~ S 5 1 2 1 >

減算後のボタン操作有効期間タイマの値が 0 である場合（ステップ S 5 1 1 6 : Y e s）、即ちボタン操作有効期間が経過によりボタン演出を終了する場合、又はボタン操作有効期間の経過前に遊技者により操作ボタン 2 0 が操作された場合（ステップ S 5 1 1 7 : Y e s）、M P U 5 1 は、ボタン操作有効期間タイマが設定されていることを示す操作有効期間タイマフラグをオフに設定する（ステップ S 5 1 1 9）。

【1 9 7 6】

そして、M P U 5 1 は、ボタン演出を終了されるボタン演出終了コマンドを設定すると共に（ステップ S 5 1 2 0）、このボタン演出終了コマンドを表示制御装置 6 に送信し（ステップ S 5 1 2 1）、当該ボタン演出制御処理を終了する。これにより、図柄表示部 3 4 1 では、表示制御装置 6 の制御によって表示演出としてのボタン演出が終了される。

40

【1 9 7 7】

[大当たり遊技演出制御処理]

次に、図 1 1 6 の副タイマ割込処理のステップ S 2 7 0 5 で実行される大当たり遊技演出制御処理の手順の一例を説明する。大当たり遊技演出制御処理では、図 1 2 1 のコマンド判定処理でのステップ S 4 3 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定される大当たり遊技演出に基づいて、大当たり遊技の進行に応じて大当たり遊技演出を制御する処理が実行される。ここで、図 1 5 2 は、大当たり遊技演出制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 1 5 2 を参照しつつ大当たり遊技演出制御処理を説明する。

50

【1978】

<ステップS5201>

図152に示すように、大当たり遊技演出制御処理では、まずMPU51は、大当たり遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS5201）。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技の実行中であることを示すフラグであり、図121のコマンド判定処理でのステップS4318において、大当たり遊技開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MPU51は、大当たり遊技の実行中であることを判断する。

【1979】

MPU51は、大当たり遊技中フラグがオンに設定されている場合（ステップS5201：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップS5202に移行する。一方、MPU51は、大当たり遊技中フラグがオフに設定されている場合（ステップS5201：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

10

【1980】

<ステップS5202>

大当たり遊技中フラグがオンに設定されている場合（ステップS5201：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、MPU51は、オープニング演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS5202）をオープニング演出開始フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を開始させるフラグであり、図121のコマンド判定処理でのステップS4320において、オープニング開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MPU51は、オープニング演出を開始するタイミングであるか否かを判断する。

20

【1981】

MPU51は、オープニング演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS5202：Yes）、即ちオープニング演出を開始するタイミングである場合、処理をステップS5203に移行する。一方、MPU51は、オープニング演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS5202：No）、即ちオープニング演出を開始するタイミングでない場合、処理をステップS5205に移行する。

【1982】

<ステップS5203及びS5204>

オープニング演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS5202：Yes）、即ちオープニング演出を開始するタイミングである場合、MPU51は、オープニング演出を開始させる処理を実行する（ステップS5203）。具体的には、MPU51は、図121のコマンド判定処理でのステップS4317の大当たり遊技演出設定処理において設定されたオープニング演出のうちの、図柄表示部341での表示演出を開始させる表示制御処理を実行し、スピーカ26での音声演出を開始させる音声制御処理を実行し、装飾部27でのランプ演出を開始させるランプ制御処理を実行する。

30

【1983】

そして、MPU51は、オープニング演出開始フラグをオフに設定し（ステップS5204）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

40

【1984】

<ステップS5205>

オープニング演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS5202：No）、即ちオープニング演出を開始するタイミングでない場合、MPU51は、オープニング演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS5205）をオープニング演出終了フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を終了させるフラグであり、図121のコマンド判定処理でのステップS4322において、オープニング終了コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MPU51は、オープニング演出を終了するタイミングであるか否かを判断する。

50

【1985】

MPU51は、オープニング演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップS5205：Yes）、即ちオープニング演出を終了するタイミングである場合、処理をステップS5206に移行する。一方、MPU51は、オープニング演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップS5205：No）、即ちオープニング演出を終了するタイミングでない場合、処理をステップS5208に移行する。

【1986】

<ステップS5206及びS5207>

オープニング演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップS5205：Yes）、即ちオープニング演出を終了するタイミングである場合、MPU51は、オープニング演出を終了させる処理を実行する（ステップS5206）。具体的には、MPU51は、図121のコマンド判定処理でのステップS4317の大当たり遊技演出設定処理において設定されたオープニング演出のうちの、図柄表示部341での表示演出を終了させる表示制御処理を実行し、スピーカ26での音声演出を終了させる音声制御処理を実行し、装飾部27でのランプ演出を終了させるランプ制御処理を実行する。

【1987】

そして、MPU51は、オープニング演出終了フラグをオフに設定し（ステップS5207）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【1988】

<ステップS5208>

オープニング演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップS5205：No）、即ちオープニング演出を終了するタイミングでない場合、MPU51は、ラウンド遊技演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS5208）。ラウンド遊技演出開始フラグは、大当たり遊技のラウンド遊技演出を開始させるフラグであり、図122のコマンド判定処理でのステップS4324において、ラウンド遊技開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MPU51は、ラウンド遊技演出を開始するタイミングであるか否かを判断する。

【1989】

MPU51は、ラウンド遊技演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS5208：Yes）、即ちラウンド遊技演出を開始するタイミングである場合、処理をステップS5209に移行する。一方、MPU51は、ラウンド遊技演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS5208：No）、即ちラウンド遊技演出を開始するタイミングでない場合、処理をステップS5211に移行する。

【1990】

<ステップS5209及びS5210>

ラウンド遊技演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS5208：Yes）、即ちラウンド遊技演出を開始するタイミングである場合、MPU51は、大当たり遊技演出のラウンド遊技演出を開始させる処理を実行する（ステップS5209）。具体的には、MPU51は、図121のコマンド判定処理でのステップS4317の大当たり遊技演出設定処理において設定されたラウンド遊技演出のうちの、図柄表示部341での表示演出を開始させる表示制御処理を実行し、スピーカ26での音声演出を開始させる音声制御処理を実行し、装飾部27でのランプ演出を開始させるランプ制御処理を実行する。

【1991】

そして、MPU51は、ラウンド遊技演出開始フラグをオフに設定し（ステップS5210）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【1992】

<ステップS5211>

ラウンド遊技演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS5208：No）、即ちラウンド遊技演出を開始するタイミングでない場合、MPU51は、ラウンド遊

10

20

30

40

50

技演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 5 2 1 1）。ラウンド遊技演出終了フラグは、大当たり遊技のラウンド遊技演出を終了させるフラグであり、図 1 2 2 のコマンド判定処理でのステップ S 4 3 2 7 において、ラウンド遊技終了コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【1 9 9 3】

M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 2 1 1：Y e s）、即ちラウンド遊技演出を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 5 2 1 2 に移行する。一方、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 2 1 1：N o）、即ちラウンド遊技演出を終了するタイミングでない場合、処理をステップ S 5 2 1 4 に移行する。

10

【1 9 9 4】

<ステップ S 5 2 1 2 及び S 5 2 1 3>

ラウンド遊技演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 2 1 1：Y e s）、即ちラウンド遊技演出を終了するタイミングである場合、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出を終了させる処理を実行する（ステップ S 5 2 1 2）。具体的には、M P U 5 1 は、図 1 2 1 のコマンド判定処理でのステップ S 4 3 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定されたラウンド遊技演出のうちの、図柄表示部 3 4 1 での表示演出を終了させる表示制御処理を実行し、スピーカ 2 6 での音声演出を終了させる音声制御処理を実行し、装飾部 2 7 でのランプ演出を終了させるランプ制御処理を実行する。

20

【1 9 9 5】

そして、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグをオフに設定し（ステップ S 5 2 1 3）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【1 9 9 6】

<ステップ S 5 2 1 4>

ラウンド遊技演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 2 1 1：N o）、即ちラウンド遊技演出を終了するタイミングでない場合、M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 5 2 1 4）。インターバル演出開始フラグは、大当たり遊技のインターバル演出を開始させるフラグであり、図 1 2 2 のコマンド判定処理でのステップ S 4 3 2 9 において、インターバル開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出を開始するタイミングであるか否かを判断する。

30

【1 9 9 7】

M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 2 1 4：Y e s）、即ちインターバル演出を開始するタイミングである場合、処理をステップ S 5 2 1 5 に移行する。一方、M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 2 1 4：N o）、即ちインターバル演出を開始するタイミングでない場合、処理をステップ S 5 2 1 7 に移行する。

【1 9 9 8】

<ステップ S 5 2 1 5 及び S 5 2 1 6>

インターバル演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 2 1 4：Y e s）、即ちインターバル演出を開始するタイミングである場合、M P U 5 1 は、大当たり遊技演出のインターバル演出を開始させる処理を実行する（ステップ S 5 2 1 5）。具体的には、M P U 5 1 は、図 1 2 1 のコマンド判定処理でのステップ S 4 3 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定されたインターバル演出のうちの、図柄表示部 3 4 1 での表示演出を開始させる表示制御処理を実行し、スピーカ 2 6 での音声演出を開始させる音声制御処理を実行し、装飾部 2 7 でのランプ演出を開始させるランプ制御処理を実行する。

40

【1 9 9 9】

そして、M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグをオフに設定し（ステップ S 5 2

50

16)、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【2000】

<ステップS5217>

インターバル演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS5214：No）、即ちインターバル演出を開始するタイミングでない場合、MPU51は、インターバル演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS5217）。インターバル演出終了フラグは、大当たり遊技のインターバル演出を終了させるフラグであり、図122のコマンド判定処理でのステップS4331において、インターバル終了コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MPU51は、インターバル演出を終了するタイミングであるか否かを判断する。

10

【2001】

MPU51は、インターバル演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップS5217：Yes）、即ちインターバル演出を終了するタイミングである場合、処理をステップS5218に移行する。一方、MPU51は、インターバル演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップS5217：No）、即ちインターバル演出を終了するタイミングでない場合、処理をステップS5220に移行する。

【2002】

<ステップS5218及びS5219>

インターバル演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップS5217：Yes）、即ちインターバル演出を終了するタイミングである場合、MPU51は、インターバル演出を終了させる処理を実行する（ステップS5218）。具体的には、MPU51は、図121のコマンド判定処理でのステップS4317の大当たり遊技演出設定処理において設定されたインターバル演出のうちの、図柄表示部341での表示演出を終了させる表示制御処理を実行し、スピーカ26での音声演出を終了させる音声制御処理を実行し、装飾部27でのランプ演出を終了させるランプ制御処理を実行する。

20

【2003】

そして、MPU51は、インターバル演出終了フラグをオフに設定し（ステップS5219）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【2004】

<ステップS5220>

インターバル演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップS5217：No）、即ちインターバル演出を終了するタイミングでない場合、MPU51は、エンディング演出開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS5220）。エンディング演出開始フラグは、エンディング演出を開始させるフラグであり、図122のコマンド判定処理でのステップS4333において、エンディング開始コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MPU51は、エンディング演出を開始するタイミングであるか否かを判断する。

30

【2005】

MPU51は、エンディング演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS5220：Yes）、即ちエンディング演出を開始するタイミングである場合、処理をステップS5221に移行する。一方、MPU51は、エンディング演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS5220：No）、即ちエンディング演出を開始するタイミングでない場合、処理をステップS5223に移行する。

40

【2006】

<ステップS5221及びS5222>

エンディング演出開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS5220：Yes）、即ちエンディング演出を開始するタイミングである場合、MPU51は、大当たり遊技演出のエンディング演出を開始させる処理を実行する（ステップS5221）。具体的には、MPU51は、図121のコマンド判定処理でのステップS4317の大当たり遊技演出設定処理において設定されたエンディング演出のうちの、図柄表示部341での

50

表示演出を開始させる表示制御処理を実行し、スピーカ 26 での音声演出を開始させる音声制御処理を実行し、装飾部 27 でのランプ演出を開始させるランプ制御処理を実行する。

【2007】

ここで、エンディング演出は、大当たり遊技において、可動体である開閉扉 319 が大当たり種別に対応するラウンド遊技回数に応じて、戻り側位置である待機位置と駆動側位置である作動位置との間で往復動作される一連の特定動作が実行される開閉実行モードの終了後に、開閉扉 319 とは異なる制御対象である図柄表示部 341 において実行される表示演出である。このエンディング演出では、例えば当該大当たり遊技が実行される契機となった大当たり種別を特定可能な情報、当該大当たり遊技での出玉数、大当たりの連荘回数、大当たり連荘中の総出玉数を表示することができる。また、エンディング演出では、当該大当たり遊技が実行される契機となった大当たり種別を特定可能な情報を表示してもよい。例えば、当該大当たり遊技が実行される契機となった大当たり種別が、確変大当たりであること（当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態に移行されること）、又は通常大当たりであること（当該大当たり遊技の終了後に時短遊技状態に移行されること）を特定可能な情報を表示してもよい。前者の情報は、例えば可動体である開閉扉 319 が戻り側位置である待機位置に位置された状態で開閉扉 319 が可動停止されることで開閉実行モードが終了された後に第 1 の制御を行うことで「〇〇 RUSH 突入」などの文字画像によって表示される。一方、後者の情報は、例えば可動体である開閉扉 319 が戻り側位置である待機位置に位置された状態で開閉扉 319 が可動停止されることで開閉実行モードが終了された後に第 2 の制御を行うことで「〇〇 チャンスモード突入」などの文字画像によって表示される。このように、エンディング演出において当該大当たり遊技が実行される契機となった大当たり種別を特定可能な情報が表示されることで、当該大当たり種別を遊技者が失念した場合であっても、当該大当たり種別をエンディング演出によって再認識することが可能になる。

【2008】

そして、MPU 51 は、エンディング演出開始フラグをオフに設定し（ステップ S 5 2 2 2）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【2009】

<ステップ S 5 2 2 3>

エンディング演出開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 2 2 0：No）、即ちエンディング演出を開始するタイミングでない場合、MPU 51 は、エンディング演出終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 5 2 2 3）。エンディング演出終了フラグは、大当たり遊技のエンディング演出を終了させるフラグであり、図 122 のコマンド判定処理でのステップ S 4 3 3 5 において、エンディング終了コマンドを受信した場合にオンに設定される。即ち、MPU 51 は、エンディング演出を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【2010】

MPU 51 は、エンディング演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 2 2 3：Yes）、即ちエンディング演出を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 5 2 2 4 に移行する。一方、MPU 51 は、エンディング演出終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 5 2 2 3：No）、即ちエンディング演出を終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【2011】

<ステップ S 5 2 2 4 及び S 5 2 2 5>

エンディング演出終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 5 2 2 3：Yes）、即ちエンディング演出を終了するタイミングである場合、MPU 51 は、エンディング演出を終了させる処理を実行する（ステップ S 5 2 2 4）。具体的には、MPU 51 は、図 121 のコマンド判定処理でのステップ S 4 3 1 7 の大当たり遊技演出設定処理において設定されたエンディング演出のうちの、図柄表示部 341 での表示演出を終了させ

る表示制御処理を実行し、スピーカ 26 での音声演出を終了させる音声制御処理を実行し、装飾部 27 でのランプ演出を終了させるランプ制御処理を実行する。

【2012】

そして、MPU 51 は、エンディング演出終了フラグをオフに設定し（ステップ S 5 2 2 5）、当該大当たり遊技演出制御処理を終了する。

【2013】

以上のように、本発明では、始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選手段での抽選結果に応じて、表示手段での 1 の特定演出の表示中に可動制御手段によって可動手段に対する 1 の可動態様が決定される。また、本発明では、表示制御手段による 1 の特定演出の表示中に、可動制御手段によって、1 の可動態様に対応して設定した特定情報に基づいて可動手段に対する一連の特定動作が実行される。

10

【2014】

さらに、本発明では、表示制御手段による 1 の特定演出の表示中に、可動制御手段によって、1 の可動態様に対応して設定した特定情報に基づいて可動手段に対する一連の特定動作が実行される場合、初期位置側である第 1 位置又はその近傍に可動手段が位置される場合に判定手段によって一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かが判定される。このように、表示制御手段による 1 の特定演出の表示中に、可動制御手段によって、1 の可動態様に対応して設定した特定情報に基づいて可動手段に対する一連の特定動作が実行される場合、初期位置側である第 1 位置又はその近傍に可動手段が位置される場合に判定手段によって一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かが判定されることで、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において、可動制御手段によって可動手段が初期位置側である第 1 位置又はその近傍に位置される毎に、判定手段によって終了条件が成立しているか否かが判定される。また、本発明では、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において判定手段によって終了条件が成立していると判定される場合、終了手段によって、第 1 位置又はその近傍に位置する可動手段の可動が停止されて一連の特定動作が終了される。即ち、本発明では、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において、特定情報に基づく可動手段に対する全ての可動制御を終了する前であっても、第 1 位置又はその近傍に可動手段が位置される毎に、終了条件が成立することを条件に、終了手段によって可動手段の可動を停止させて一連の特定動作を終了させることができる。これにより、可動手段の一連の特定動作の実行中に終了条件が成立する場合、終了条件成立後に可動手段が第 1 位置又はその近傍に位置された段階で、特定情報に基づく可動手段の可動を停止して一連の特定動作を終了させることができる。その結果、一連の特定動作の終了条件が成立していると判断される場合に、即座に可動手段の一連の特定動作を終了させることができるため、可動手段の終了制御を円滑に行うことができる。そのため、本発明では、可動手段の一連の特定動作から次動作に円滑に移行することができるため、一連の特定動作の終了条件の成立が判断されてから、遊技者に違和感を覚えさせることなく、可動手段の一連の特定動作を終了させることができる。従って、可動手段の一連の特定動作の終了後に引き続き他の個別の動作が実行される場合、一連の特定動作から他の個別の動作に円滑に移行できるため、一連の特定動作から他の個別の動作への移行時に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、表示制御手段による 1 の特定演出の表示中に、可動手段が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動手段を動作させることが可能になる。

20

30

40

【2015】

より具体的には、本実施形態では、入球始動部としての第 1 入賞口 3 1 4 又は第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を契機として抽選処理によって実行される大当たり抽選の結果を報知する第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技において、表示制御処理としての特図遊技演出設定処理によって表示演出が設定され、表示制御処理としての表示制御装置 6 での表示変動パターンコマンドを受信した場合の処理によって図柄表示部 3 4 1 において表示演出が実行される。また、本実施形態では、可動体制御処理としての役物動作演出設定処理によ

50

って表示演出の実行中の可動体としての可動回転役物部材 3 7 の可動態様が複数の可動態様 A ～ D から決定され、可動体制御処理としての可動回転役物制御処理によって表示演出の実行中に可動体としての可動回転役物部材 3 7 が複数の可動態様 A ～ D から決定される 1 の可動態様に基づいて可動される。

【 2 0 1 6 】

また、本実施形態では、複数の可動態様 A ～ D における連続的動作としての共通の動作であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る駆動パターン A ～ C での動作に関しては 1 つの駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づいて可動体としての可動回転役物部材 3 7 が可動され、駆動パターン A ～ C での動作の終了後には、各可動態様 A ～ D に応じた個別の駆動データ 2 ～ 5 の情報に基づいて連続的動作としての駆動パターン D ～ G のいずれかで可動体としての可動回転役物部材 3 7 が可動される。このように、複数の可動態様 A ～ D における共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作に関しては 1 つの駆動データ 1 の情報に基づいて可動回転役物部材 3 7 が可動されることで、1 の可動態様 A ～ D に対して使用される駆動データ量を少なくできるためにメモリ負担を軽減できるだけでなく、可動回転役物部材 3 7 を動作させる際の駆動データの読み出しや一時記憶などの制御負担が軽減される。

10

【 2 0 1 7 】

そして、本実施形態では、複数の可動態様 A ～ D における可動回転役物部材 3 7 の共通の動作であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る駆動パターン A ～ C での動作が 1 つの駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づいて実行される場合、駆動側位置である中間作動位置 1 又は中間作動位置 2 から戻り側位置である待機位置又は中間作動位置 1 に、可動回転役物部材 3 7 が復帰されるタイミングで、共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作の終了判定条件が成立しているか否かが、即ち遊技者により操作ボタン 2 0 の操作が行われたか否かが判断される。そして、複数の可動態様 A ～ D における可動回転役物部材 3 7 の共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作の終了判定条件が成立していない場合には、引き続き、複数の可動態様 A ～ D における可動回転役物部材 3 7 の共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作が継続される。一方、複数の可動態様 A ～ D における可動回転役物部材 3 7 の共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作の終了判定条件が成立している場合（遊技者による操作ボタン 2 0 に対する操作がある場合）には、駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づく可動回転役物部材 3 7 の共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作の途中であっても、可動回転役物部材 3 7 の共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作を終了する。そして、告知内容に従って決定される各可動態様 A ～ D に応じた個別の駆動データ 2 ～ 5 の情報に基づいて、連続的動作としての個別の動作である駆動パターン D ～ G での動作で可動体としての可動回転役物部材 3 7 が可動される。

20

30

【 2 0 1 8 】

このように、本実施形態では、駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づいて、複数の可動態様 A ～ D における可動回転役物部材 3 7 の共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作が 1 つの駆動データ 1（役物動作シナリオデータ）の情報に基づいて実行される場合、駆動側位置から戻り側位置に、可動回転役物部材 3 7 が復帰されるタイミングで、共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作の終了判定条件が成立しているか否か（遊技者により操作ボタン 2 0 の操作が行われたか否か）が判断される。つまり、共通の動作である駆動パターン A ～ C での可動回転役物部材 3 7 の動作において、可動回転役物部材 3 7 が戻り側位置に位置される毎に、終了判定条件の成立の有無である遊技者による操作ボタン 2 0 に対する操作の有無が判断される。また、本実施形態では、共通の動作である駆動パターン A ～ C での可動回転役物部材 3 7 の動作において、終了判定条件が成立していると判断される場合（遊技者による操作ボタン 2 0 に対する操作があったと判断される場合）、戻り側位置に位置する可動回転役物部材 3 7 の可動が停止されて共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作が終了される。これにより、共通の動作である駆動パターン A ～ C での可動回転役物部材 3 7 の動作の実行中に共通の動作である駆動パ

40

50

ターン A ～ C での動作の終了判定条件が成立する場合、終了判定条件成立後に可動回転役物部材 37 が戻り側位置に位置された段階で、可動回転役物部材 37 の可動を停止して共通の動作である駆動パターン A ～ C での動作を終了させることができる。その結果、駆動パターン A ～ C での共通の動作の終了判定条件が成立していると判断される場合に、即座に可動回転役物部材 37 の駆動パターン A ～ C での共通の動作を終了させることができる。そのため、複数の可動態様 A ～ D に共通であり、終了判定条件の成立タイミングが不定となり得る連続的動作の終了判定条件の成立から即座に次の動作に移行することができる。その結果、複数の可動態様 A ～ D の終了判定条件の成立が判断されてから、遊技者に違和感を覚えさせることなく、可動回転役物部材 37 の動作を終了させ、可動体を次動作に円滑に移行させることができる。従って、可動回転役物部材 37 の共通の動作の終了後に引き続き他の個別の動作が実行される場合、共通の動作から他の個別の動作に円滑に移行できるため、共通の動作から他の個別の動作への移行時に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技における表示演出の実行中に、可動回転役物部材 37 が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動回転役物部材 37 を動作させることが可能になる。

10

【2019】

また、本実施形態では、適用可能な範囲において、前述の第 1 ～ 第 2 の実施形態における設計変更事項と同様な設計変更が可能である。

【2020】

また、各実施形態において、適用可能な範囲において、他の実施形態に記載の事項を適用することも可能である。

20

【2021】

〔第 4 の実施形態〕

遊技機では、利益状態の異なる各種の遊技状態が設定されることで、遊技に対する興趣の向上が図られている。遊技機においては、各遊技状態の移行制御を好適に行うと共に、遊技者に不要な不利益を与えることが無いよう制御されることが望まれている。

【2022】

本発明に係る遊技機は、上記課題を解決するために、

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段を備え、

第 1 方向に遊技球を発射して行う第 1 の遊技と、前記第 1 方向とは異なる第 2 方向に遊技球を発射して行う第 2 の遊技と、を実行可能であり、

30

図柄の変動遊技を実行可能な表示手段と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段と、

前記変動遊技の結果が所定結果である場合に利益遊技として特別遊技を実行する特別遊技実行手段と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第 2 方向に発射した遊技球が特定の流路を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第 1 入球手段と、

40

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段と、特定入球領域とを備える第 2 入球手段と、

前記第 1 入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第 2 入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技を実行する特定期間遊技実行手段と、

を備え、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第 1 制御状態である

50

所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第 1 制御状態から前記特定遊技状態に対応した第 2 制御状態に前記制御状態を変更することを行っている。

【2023】

利益遊技は、遊技者に何らかの利益を付与し得る遊技であればよい。利益遊技としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば大入賞口（可変入賞口）が開放される遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口が開放され得る遊技、大当たり遊技、確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）を発生させる確変大当たり遊技、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）を発生させる時短大当たり遊技、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）を発生させる通常大当たり遊技、潜伏確変遊技状態（高確率モードかつ低頻度サポートモード）を発生させる潜伏確変大当たり遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口への遊技球の入球により確変遊技状態を発生させる大当たり遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口への遊技球の入球により時短遊技状態を発生させる大当たり遊技、大当たり遊技における大入賞口が開放されるラウンド遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口が開放されるラウンド遊技、大入賞口が短時間開放される小当たり遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口への遊技球の入球により大当たりを発生させる小当たり遊技、大入賞口（可変入賞口）外に設けられる特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて実行される遊技、特電始動口に遊技球が入球することに基づいて実行される特電入賞口が開放される特電始動遊技、電動役物の作動によって開放される入賞口に遊技球が入球することに基づいて実行される遊技、電動役物の作動によって開放される入賞口に遊技球が入球することに基づいて実行される特別図柄の変動遊技、電動役物の作動によって開放される入賞口に遊技球が入球することに基づいて実行される飾り図柄の変動遊技、スルーゲートに遊技球が入球することに基づいて実行される普通図柄の変動遊技、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【2024】

特別遊技は、変動遊技の結果が所定結果である場合に付与され得る遊技であればよい。特別遊技としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば大入賞口（可変入賞口）が開放される遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口が開放され得る遊技、大当たり遊技、確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）を発生させる確変大当たり遊技、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）を発生させる時短大当たり遊技、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）を発生させる通常大当たり遊技、潜伏確変遊技状態（高確率モードかつ低頻度サポートモード）を発生させる潜伏確変大当たり遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口への遊技球の入球により確変遊技状態を発生させる大当たり遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口への遊技球の入球により時短遊技状態を発生させる大当たり遊技、大当たり遊技における大入賞口が開放されるラウンド遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口が開放されるラウンド遊技、大入賞口が短時間開放される小当たり遊技、大入賞口に設けられる V 入賞口への遊技球の入球により大当たりを発生させる小当たり遊技、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【2025】

特定期間遊技は、特別遊技とは異なる遊技であって、開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段の開放中に特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて実行される遊技であればよい。特定期間遊技としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば大入賞口（可変入賞口）外に設けられる特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて実行される遊技、特電始動口に遊技球が入球することに基づいて実行される特電大入賞口が開放される特電始動遊技、電動役物の作動によって開放される入賞口に遊技球が入球することに基づいて実行される遊技、電動役物の作動によって開放される入賞口に遊技球が入球することに基づいて実行される特別図柄の変動遊技、電動役物の作動によって開放される入賞口に遊技球が入球することに基づいて実行される飾り図柄の変動遊技、スルーゲートに遊技球が入球することに基づいて実行される普通図柄の変動遊技、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【2026】

特定遊技状態は、特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される遊技状態であればよい。特定遊技状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）、大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態、通常遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態（b時短遊技状態）、上限回数が規定された確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態、上限回数が規定された確変遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態、上限回数が規定された時短遊技状態において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態、上限回数が規定された時短遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【2027】

所定遊技状態は、特定遊技状態とは異なる遊技状態であればよい。所定遊技状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）、潜伏確変遊技状態（高確率モードかつ低頻度サポートモード）、通常遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）、大当たり遊技の終了後に移行される確変遊技状態、変動遊技の回数に上限がある確変遊技状態、変動遊技の回数に上限がない確変遊技状態、変動遊技の回数に上限がある時短遊技状態、変動遊技の回数に上限がない時短遊技状態、大当たり遊技の終了後に移行される時短遊技状態（a時短遊技状態）、通常遊技状態から移行される時短遊技状態、通常遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態（b時短遊技状態）、特別図柄又は飾り図柄の変動遊技において特定の図柄が停止した場合に移行される時短遊技状態（c時短遊技状態）、大当たり遊技の終了後に移行される通常遊技状態、時短遊技状態から移行される通常遊技状態、a時短遊技状態から移行される通常遊技状態、b時短遊技状態から移行される通常遊技状態、c時短遊技状態から移行される通常遊技状態、確変遊技状態から移行される大当たり遊技状態、時短遊技状態から移行される大当たり遊技状態、潜伏確変遊技状態から移行される大当たり遊技状態、時短遊技状態から移行される大当たり遊技状態、確変遊技状態から移行される小当たり遊技状態、時短遊技状態から移行される小当たり遊技状態、潜伏確変遊技状態から移行される小当たり遊技状態、時短遊技状態から移行される小当たり遊技状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

20

30

【2028】

第1制御状態は、始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態が特定遊技状態に対応していない制御状態であればよい。第1制御状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）に対応した始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、確変遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、確変遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、確変遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）に対応した制御状態であって始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、時短遊技状態に対応した制御

40

50

50

50

する制御状態、c時短遊技状態から移行される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、c時短遊技状態から移行される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、c時短遊技状態から移行される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、確変遊技状態から移行される大当たり遊技状態に対応した制御状態であって始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、確変遊技状態から移行される大当たり遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、確変遊技状態から移行される大当たり遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、確変遊技状態から移行される大当たり遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【2029】

第2制御状態は、始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態が特定遊技状態に対応した制御状態であればよい。第2制御状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態（低確率モードかつ高頻度サポートモード）に対応した制御状態であって始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、通常遊技状態（低確率モードかつ低頻度サポートモード）において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、通常遊技状態において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、通常遊技状態において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、通常遊技状態において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、通常遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に発生される時短遊技状態（b時短遊技状態）に対応した制御状態であって始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、b時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条

20

30

40

50

件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、b時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、b時短遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、上限回数が規定された確変遊技状態（高確率モードかつ高頻度サポートモード）において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、上限回数が規定された確変遊技状態において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、上限回数が規定された確変遊技状態において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、上限回数が規定された確変遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって始動手段での始動条件の成立を補助する補助手段に対する制御状態、上限回数が規定された確変遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、上限回数が規定された確変遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、上限回数が規定された時短遊技状態において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での変動遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、上限回数が規定された時短遊技状態において特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、上限回数が規定された時短遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、上限回数が規定された時短遊技状態において大当たり遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が上限回数になった場合に発生される通常遊技状態に対応した制御状態であって入球口での特図遊技の始動条件の成立を補助する電動役物に対する制御状態、それらの任意の組合せなど

10

20

30

40

50

が挙げられる。

【2030】

ところで、遊技機においては、大利益遊技としての特図大当たり遊技が実行されることなく通常遊技状態での特図変動の回数が規定回数に到達した場合に、時短遊技状態（第1利益遊技状態制御としての、いわゆるb時短遊技状態）に移行するものがある。b時短遊技状態は、特図大当たり遊技が実行されるか、特図大当たり遊技が実行されること上限回数の特図遊技が実行された場合に終了する。また、特図大当たり遊技が実行されることなく上限回数の特図遊技が実行されることでb時短遊技状態が終了する場合には通常遊技状態に移行する。

【2031】

しかしながら、遊技機では、b時短遊技状態から移行される通常遊技状態では、当該通常遊技状態に移行されてから特図大当たり遊技が実行されることなく特図変動の回数が規定回数に到達した場合であっても、再びb時短遊技状態に移行されることはない。即ち、b時短遊技状態から移行される通常遊技状態ではb時短遊技状態が発生せず（第1補助状態制御）、特図大当たり遊技の終了後や確変遊技状態の終了後に移行される通常遊技状態ではb時短遊技状態が発生し得る（第2補助状態制御）。そのため、先に特図大当たり遊技が実行されてから、次に特図大当たり遊技が実行されるまでの間では、b時短遊技状態が1回しか発生し得ない。

【2032】

これに対して、本発明では、図柄の変動遊技の始動条件の成立を補助する補助手段の制御状態が特定遊技状態に対応していない第1制御状態である所定遊技状態において、所定期間の開閉手段の開放中に特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて利益遊技としての特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技が終了した場合に、第1制御状態から特定遊技状態に対応した第2制御状態に制御状態が変更される。即ち、本発明では、補助手段の制御状態が特定遊技状態に対応していない第1制御状態である所定遊技状態にであっても、開閉手段の開放中に特定入球領域に遊技球を入球させて所定の特定期間遊技実行させることで、補助手段に対する制御状態が第2制御状態である特定遊技状態を発生させることが可能である。これにより、特定遊技状態が終了した場合であっても再び特定遊技状態を発生させることが可能になるため、特定遊技状態が終了して特定遊技状態が発生しないことを理由に遊技機が放置されることが防止され、当該遊技機の稼働率の低下が抑制される。

【2033】

より具体的には、本実施形態では、遊技者に対して遊技利益として大利益遊技である特図大当たり遊技及び小利益遊技であるV入賞大当たり遊技が付与され得る。大利益遊技としての特図大当たり遊技は、始動手段としての第1入賞口314又は第2入賞口315への遊技球の入球を契機として実行される特図大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行され、可変入賞口316が複数回開閉されることで多量の遊技球の獲得が可能な遊技者にとっての利益が大きい遊技である。一方、小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技は、第1入球手段としての特電始動口37への遊技球の入球に基づいて実行される特電始動遊技において、第2入球手段が備える開閉手段としての特電開閉扉382の作動によって開放される第2入球手段が備える特定入球領域としての特電V入賞口383に遊技球が入球した場合に実行され、特電大入賞口381への遊技球の入球が可能であるが、特電大入賞口381への遊技球の入球によって獲得可能な遊技球が少なく遊技者にとっての利益が小さい遊技である。また、本実施形態では、特電始動口37、特電大入賞口381及び特電V入賞口383は、遊技盤31の右側領域に設定される特定の流路としての第2流路392を流下する遊技球が入球可能な位置に設けられている。つまり、小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技は、第2流路392に遊技球を打ち出すことで実行され得る。

【2034】

さらに、本実施形態では、小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技が終了した場合、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させることが可能な変動遊技としての特

10

20

30

40

50

図遊技の回数として最大値がセットされる。ここで、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態は、第2入賞口315を開閉する補助手段としての電動役物315bの開閉頻度（電動役物315bによる第2入賞口315への入球サポート頻度）が低い第2補助状態制御である低頻度サポートモードにおいて、大利益遊技としての特図大当たり遊技が実行されることなく所定回数（例えば1000回）の特図遊技が実行される場合に移行される上限回数（例えば1000回）が規定された時短遊技状態である。つまり、本実施形態では、遊技者が第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することによって、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態に移行させることが可能な特図遊技の回数として最大値がセットされる。

【2035】

そして、本実施形態では、遊技者が第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することによって第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させることが可能な特図遊技の回数として最大値がセットされることで、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態において大利益遊技としての特図大当たり遊技が実行されることなく上限回数の特図遊技が実行された場合にb時短遊技状態から通常遊技状態に移行され、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態が発生しない第1補助状態制御となった場合であっても、遊技者が第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することによって、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態を遊技者の意図によって発生させることができる。このように、本実施形態では、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させることが可能な第2補助状態制御である状態を遊技者が発生させることができるため、大利益遊技としての特図大当たり遊技が実行されることなく第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態が終了した遊技機に対する稼働率を向上させることが可能になる。

【2036】

また、本実施形態では、遊技者が第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することによって第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させることが可能な特図遊技の回数として最大値がセットされるため、遊技者が第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態で遊技を終了する場合には、遊技者が遊技を終了する前に第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することで小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技を実行させることによって、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態で当該遊技者によって実行された特図遊技の回数をクリアすることができる。これにより、遊技者は、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態で遊技者が遊技を実行したことによって受けた不利益が他者の利益となることを防止することができる。つまり、遊技者は、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態で実行された特図遊技の回数だけ、時間、金銭、労力などを投資しており、そのような投資が、当該遊技機で後に遊技を行う他者の利益となること、即ちいわゆるハイエナ行為の対象となることを、第2流路392に向けた遊技球の打ち出しの継続により、遊技者の意図によって防止することができる。

【2037】

以下、本実施形態について、図154～図190を参照して前述の第1の実施形態との相違点を中心に説明する。但し、本実施形態において重要な事項については、前述の第1の実施形態において既に説明している場合であっても改めて説明することがある。

【2038】

本遊技機は、本発明の具体的な構成として、利益遊技としての「遊技利益」を備え、また特別遊技としての「大利益遊技」を備え、また特定期間遊技としての「小利益遊技」を備え、また特定遊技状態としての「第1利益遊技状態制御」を備え、また所定遊技状態としての「第2利益遊技状態制御」を備え、また第1制御状態としての「第1補助状態制御」を備え、また第2制御状態としての「第2補助状態制御」を備える。

【2039】

〔遊技機 10 の構成〕

まず、図 154～図 156 を参照しつつ遊技機 10 の構成について説明する。ここで、図 154 は本実施形態に係る遊技機 10 の遊技盤 31 の一例を示す正面図、図 155 及び図 156 は図 154 に示す遊技機 10 の特電大入賞装置 38 を説明するための図である。

〔2040〕

〔前面枠 11 の構成〕

図 1～図 3 に示すように、前面枠 11 は、操作ボタン 20、選択決定部 21、発射ハンドル 22、上皿 23、下皿 24、パネル 25、スピーカ 26、及び電飾部 27などを備える。

〔2041〕

発射ハンドル 22 は、遊技者が遊技球を発射させるために操作する回転式ハンドルである。遊技機 10 では、遊技者による発射ハンドル 22 に対するとして回転操作がなされた場合に、その回転操作量に応じた強さで発射手段としての遊技球発射機構 32 から遊技球が発射されることにより基本的な遊技が行われる。例えば、遊技者による発射ハンドル 22 に対する所定の遊技操作に応じて、第 1 方向である遊技盤 31 の左側領域に遊技球を打ち出す第 1 の遊技としての左打ち遊技、及び第 2 方向である遊技盤 31 の右側領域に遊技球を打ち出す第 2 の遊技としての右打ち遊技を実行することができる。また、本実施形態では、右打ち遊技として、後述の分離部 393 よりも右側に遊技球を打ち出す強右打ち遊技と、分離部 393 よりも左側に遊技球を打ち出す弱右打ち遊技とを実行可能である。

〔2042〕

そして、本実施形態では、通常遊技状態では、始動手段としての第 1 入賞口 314 に遊技球を入球させて変動遊技としての第 1 特図遊技を実行するために左打ち遊技が奨励される。また、確変遊技状態及び各種時短遊技状態（a 時短遊技状態、b 時短遊技状態）では、スルーゲート 317 及び始動手段としての第 2 入賞口 315 に遊技球を入球させて変動遊技としての第 2 特図遊技を実行するために強右打ち遊技が奨励され、遊技者としての遊技利益である大利益遊技としての特図大当たり遊技では、後述の第 1 流路 391 に遊技球を流下させて可変入賞口 316 に遊技球を入球させるために強右打ち遊技が奨励される。また、後述の特電始動口 37 に遊技球を入球させて特電始動遊技を実行させ、後述の特電大入賞装置 38 の特電 V 入賞口 383 に遊技球を入球させて V 入賞大当たり遊技を実行させるために弱右打ち遊技が奨励される。そのため、遊技者は、遊技状態に応じて奨励される所定の遊技操作を発射ハンドル 22 に対して実行することで不利益の発生を防止することができる。

〔2043〕

〔内枠 12 の構成〕

図 154 に示すように、遊技盤 31 には、内レール 311 と、外レール 312 と、左右の一般入賞口 313 と、始動手段としての第 1 入賞口 314 及び第 2 入賞口 315 と、スルーゲート 317 と、アウト口 318 と、表示手段としての図柄表示部 341 と、表示手段としての第 1 特別図柄表示部 362 及び第 2 特別図柄表示部 363 を有するメイン表示部 36 と、特電始動口 37 と、特電大入賞装置 38 と、可変入賞口 316 と、第 1 流路 391 と、特定の経路としての第 2 流路 392 と、が設けられている。

〔2044〕

内レール 311 及び外レール 312 は、発射された遊技球を遊技盤 31 の盤面上の遊技領域に向けて送り出すための搬送路である。そして、内レール 311 及び外レール 312 から発射された後、遊技盤 31 の左側領域を流下する遊技球は、左側の一般入賞口 313 及び第 1 入賞口 314 に入球可能であり、遊技盤 31 の右側領域を流下する遊技球は、右側の一般入賞口 313、第 2 入賞口 315、可変入賞口 316、スルーゲート 317、特電始動口 37、特電大入賞装置 38 に入球可能である。一方、左右の一般入賞口 313、第 1 入賞口 314、特定入球領域である第 2 入賞口 315、可変入賞口 316、特電始動口 37 又は特電大入賞装置 38 に入球しなかった遊技球はアウト口 318 から排出される。そして、左右の一般入賞口 313、第 1 入賞口 314、第 2 入賞口 315、可変入賞口

10

20

30

40

50

316、特電始動口37又は特電大入賞装置38に遊技球が入球すると、予め設定された数の賞球が払い出される。例えば、図157(B)に示すように、左右の一般入賞口313に入球した場合の賞球数は10個、第1入賞口314又は第2入賞口315に入球した場合の賞球数は3個、可変入賞口316に入球した場合の賞球数は10個、特電始動口37に入球した場合の賞球数は1個、特電大入賞装置38(後述の特定入賞領域としての特電V入賞口383又は特電通常入賞口384)に入球した場合の賞球数は1個である。なお、スルーゲート317に遊技球が入球された場合の賞球数は0個である。

【2045】

また、第1入賞口314又は第2入賞口315に遊技球が入球することに基づいて、メイン制御ユニット331(主制御装置4のMPU41)により、特図大当たり抽選に関する処理が実行される。そして、メイン制御ユニット331によって特図大当たり抽選を行った場合、遊技者に対する遊技利益として、大利益遊技とは異なる特定期間の小利益遊技としての特図遊技を実行し、特図大当たり抽選の結果を報知する。具体的には、第1入賞口314に遊技球が入球することを契機とする特図大当たり抽選の結果は、第1特別図柄表示部362において第1特図が変動表示される小利益遊技としての特定期間の第1特図遊技において報知される。一方、スルーゲート317に遊技球が入球することを契機として開閉実行手段により開閉手段である電動役物315bが所定期間開放されることで開状態とされた第2入賞口315に遊技球が入球することに基づいて実行される特図大当たり抽選の結果は、特定期間遊技実行手段によって、第2特別図柄表示部363において第2特図が変動表示される小利益遊技としての特定期間の第2特図遊技において報知される。

【2046】

また、特図大当たり抽選の結果が大当たりである場合には、小利益遊技としての当該特図遊技の終了後に、遊技者に対する遊技利益として大利益遊技としての特図大当たり遊技が実行される。この特図大当たり遊技では、開閉実行モードにおいて所定回数(例えば5回又は16回)のラウンド遊技が繰り返し実行される。各ラウンド遊技では、開閉手段である開閉扉319が、可変入賞口316を閉状態とする待機位置と、可変入賞口316を開状態とする作動位置との間で切り替えられる。つまり、開閉実行モードでは、複数のラウンド遊技数(例えば5回又は16回)から大当たり抽選の結果に応じてラウンド遊技数が決定され、決定された数のラウンド遊技が実行されることで、開閉扉319が繰り返し作動される。このように、特図大当たり遊技では、開閉扉319によって可変入賞口316が繰り返し開放されるため、特図大当たり遊技は、遊技利益として多量の賞球の払い出しが期待できる大利益遊技である。

【2047】

ここで、第2の遊技としての右打ち遊技を実行可能とする遊技盤31の右側領域は、樹脂製などの分離部393によって2つの遊技領域に分離されている。なお、分離部393は、複数の釘を打設することによって設けることもできる。遊技盤31の右側領域における2つの遊技領域は、右打ち遊技において遊技球が流下する特定の経路を規定するものであり、各遊技領域には、第1入球手段及び第2入球手段が設けられている。

【2048】

遊技盤31の右側領域における分離部393の右側に設定される遊技領域としての第1領域には、特定の経路として第1流路391が規定される。また、第1領域には、第1入球手段としてスルーゲート317が設けられ、第2入球手段が備える特定入球領域としての第2入賞口315が設けられている。そのため、右打ち遊技において第1流路391を流下する遊技球は、スルーゲート317及び第2入賞口315に入球可能である。また、第2入賞口315には、第2入球手段が備える開閉手段として電動役物315bが設けられている。この電動役物315bは、第2入賞口315を閉状態と開状態とに切り替えるものである。

【2049】

スルーゲート317に遊技球が入球した場合、賞球の払い出しはないが、スルーゲート317に遊技球が入球することを契機として普図当たり抽選に関する処理が実行され、普

通図柄が変動表示されることで、普図当たり抽選の結果を報知する利益遊技としての普図遊技が実行される。そして、普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合には、開閉実行手段により第2入賞口315が所定期間開放される利益遊技としての普図当たり遊技に対する処理が実行される。この普図当たり遊技では、電動役物315bが作動されることで、第2入賞口315が開放される。つまり、電動役物315bに対する開閉制御処理が実行されることで、複数の可動態様（例えば0.1秒の短開放、6秒の長開放（図12（A）及び図12（B）参照））から1の可動態様が決定され、普図当たり遊技において、1の可動態様に応じて、電動役物315bが、第2入賞口315が閉鎖される待機位置と、第2入賞口315が開放される作動位置との間で作動されることで、第2入賞口315の閉状態と開状態とが切り替えられる。このように、普図当たり遊技において第2入賞口315が開放されることで第2入賞口315への遊技球の入球が可能になる。

10

【2050】

また、スルーゲート317の上方には複数の釘が打設され、スルーゲート317に遊技球が入球可能な流路と、スルーゲート317に遊技球が入球不能な流路とが設定されており、遊技盤31の右側領域に打ち出されて第1流路391を流下する遊技球の一部が、スルーゲート317に入球する。また、第2入賞口315の上方には複数の釘が打設され、第2入賞口315に遊技球が入球可能な流路と、第2入賞口315に遊技球が入球不能な流路とが設定されており、遊技盤31の右側領域に打ち出されて第1流路391を流下する遊技球の一部が、スルーゲート317への遊技球の入球に基づいて第2入賞口315が開放された場合に第2入賞口315に入球する。前述のように、スルーゲート317に遊技球が入球した場合の賞球数は0個である。また、前述のように、第2入賞口315に遊技球が入球した場合の賞球数は3個であり（図157（B）参照）、第2入賞口315が開状態となる時間は、短開放で0.1秒、長開放で6秒である（図157（C）及び図157（D）参照）。そして、本実施形態では、高頻度サポートモード（確変遊技状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態）及び低頻度サポートモード（通常遊技状態）のいずれにおいても、第1の遊技として、遊技球を遊技盤31の右側領域に打ち出して遊技球を特定の経路である第1流路391において流下させる遊技を実行する場合、連続的な遊技球の打ち出しによって特定数の遊技球を第1流路391において流下させると、遊技者が獲得可能な利益遊技球数が前記特定数よりも少なくなるように構成されている。これにより、高頻度サポートモード（確変遊技状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態）及び低頻度サ

20

30

【2051】

遊技盤31の右側領域における分離部393の左側に設定される遊技領域としての第2領域には、特定の経路として第2流路392が規定される。また、第2領域には、第1入球手段として特電始動口37が設けられ、特電始動口37の下方には第2入球手段として特電大入賞装置38が設けられている。そのため、右打ち遊技において第2流路392を流下する遊技球は、特電始動口37及び特電大入賞装置38に入球可能である。

40

【2052】

特電始動口37は、遊技球の入球によって特電大入賞装置38を作動させるものであり、後述の特電大入賞装置38の特電V入賞口383に遊技球が入球可能な特電始動遊技を実行する契機を与えるものである。特電始動口37には、特電始動口37に遊技球が入球したことを検知する入球センサ37a（図157参照）が設けられている。

【2053】

なお、特電始動遊技において特電V入賞口383に遊技球が入球された場合、即ち入球

50

センサ 37a (図 157 参照) によって遊技球が検知された場合、遊技利益として小利益遊技である後述の V 入賞大当たり遊技が実行される。

【2054】

ここで、図 95 (A) は、特電大入賞装置 38 の正面図であり、図 95 (B) は、特電大入賞装置 38 の縦断面図であり、図 95 (C) は、図 95 (A) の X1-X1 線に沿う特電大入賞装置 38 の断面図であり、図 95 (D) は、図 95 (A) の X2-X2 線に沿う特電大入賞装置 38 の断面図であり、図 96 (A) は、特電大入賞装置 38 の特電開閉扉 382 が開放され特電 V 入賞口 383 に遊技球が入球可能な状態での図 95 (C) に対応する断面図であり、図 96 (B) は、特電大入賞装置 38 の特電開閉扉 382 が開放され特電 V 入賞口 383 に遊技球が入球不能な状態での図 95 (C) に対応する断面図であり、図 96 (C) は、特電大入賞装置 38 の特電開閉扉 382 が開放され特電 V 入賞口 383 に遊技球が入球不能な状態での図 95 (D) に対応する断面図である。

10

【2055】

図 95 (A) 及び図 95 (B) に示すように、特電大入賞装置 38 は、特電大入賞口 381、特電開閉扉 382、特定入球領域である特電 V 入賞口 383、特電通常入賞口 384、及び開閉手段である V 入賞口開閉扉 385 を備える。

【2056】

特電大入賞口 381 は、遊技盤 31 の前面側に開放している。特電開閉扉 382 は、図 95 (C) 及び図 95 (D) に示す特電大入賞口 381 に遊技球が入球不能な閉状態と、図 95 (A) 及び図 95 (C) に示す特電大入賞口 381 に遊技球が入球可能な開状態とを切り替える。

20

【2057】

図 95 (A) に示すように、特電 V 入賞口 383 には、開閉手段である V 入賞口開閉扉 385 によって特電 V 入賞口 383 が開状態とされる場合に、特電大入賞口 381 から入球された遊技球の入球が可能である。また、特電 V 入賞口 383 には、特電 V 入賞口 383 に遊技球が入球したことを検知する入球センサ 383a (図 157 参照) が設けられている。

【2058】

また、図 95 (B) に示すように、特電 V 入賞口 383 には、V 入賞口開閉扉 385 によって特電 V 入賞口 383 が閉状態とされる場合に、特電大入賞口 381 から入球された遊技球の入球が不能である一方、図 95 (C) に示すように、特電通常入賞口 384 には、特電大入賞口 381 から入球された遊技球の入球が可能である。また、特電通常入賞口 384 には、特電 V 入賞口 383 に遊技球が入球したことを検知する入球センサ 384a (図 157 参照) が設けられている。

30

【2059】

特電大入賞装置 38 は、第 1 入球手段である特電始動口 37 に遊技球が入球されることに基づいて、小利益遊技である特電始動遊技を実行するために作動される。この特電始動遊技では、特電大入賞口 381 が特電開閉扉 382 によって閉状態と開状態との間で切り替えられることによって、特電大入賞口 381 に遊技球が入球可能である。

【2060】

また、特電大入賞装置 38 は、特電始動遊技において特電大入賞装置 38 の特電 V 入賞口 383 に遊技球が入球されることに基づいて、小利益遊技である V 入賞大当たり遊技を実行するために作動される。この V 入賞大当たり遊技では、特電大入賞口 381 が特電開閉扉 382 によって閉状態と開状態との間で切り替えられることによって、特電大入賞口 381 に遊技球が入球可能である。

40

【2061】

ここで、特電始動口 37 の上方には複数の釘が打設され、特電始動口 37 に遊技球が入球可能な流路と、特電始動口 37 に遊技球が入球不能な流路とが設定されている。そのため、遊技盤 31 の右側領域に打ち出されて第 2 流路 392 を流下する遊技球の一部が、特電始動口 37 に入球する。前述のように、特電始動口 37 に遊技球が入球した場合の賞球

50

数は1個である(図157(B)参照)。そのため、特電始動遊技を発生させるために特電始動口37に向けて遊技球を打ち出す場合、特電始動遊技を発生させるために必要な遊技球の打ち出し数に比べて、遊技者が獲得可能な遊技球数が少なくなる。

【2062】

また、前述のように、特電大入賞口381から入球された遊技球が特電V入賞口383に入球した場合の賞球数は1個であり、特電大入賞口381から入球された遊技球が特電通常入賞口384に入球した場合の賞球数は1個である(図157(B)参照)。そのため、特電始動遊技及びV入賞大当たり遊技では、遊技者の遊技球の増加が見込めない。

【2063】

このように、特電始動遊技を発生させるために特電始動口37に向けて遊技球を打ち出す場合、特電始動遊技を発生させるために必要な遊技球の打ち出し数(特定球数)に比べて、遊技者が獲得可能な利益遊技球数が少なくなり、特電始動遊技及びV入賞大当たり遊技では、遊技者の遊技球の増加が見込めない。そのため、本実施形態では、高頻度サポートモード(確変遊技状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態)及び低頻度サポートモード(通常遊技状態)のいずれにおいても、第1の遊技として、遊技球を遊技盤31の右側領域に打ち出して遊技球を特定の経路である第2流路392において流下させる遊技を実行する場合、連続的な遊技球の打ち出しによって特定球数の遊技球を第2流路392において流下させると、遊技者が獲得可能な利益遊技球数が前記特定球数よりも少なくなるように構成されている。これにより、高頻度サポートモード(確変遊技状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態)及び低頻度サポートモード(通常遊技状態)において、遊技球を第2流路392に流下させることで遊技球が増加することが防止される。つまり、遊技球の流下領域は、遊技者による発射ハンドル22に対する回転操作量によって自由に調整可能であるため、遊技者はいつでも自由に特定の経路である第2流路392において遊技球が流下されるように遊技球の打ち出しを行うことが可能であるが、遊技球を第2流路392に流下させても遊技者の持ち球が増加しないように構成されていることで、遊技球を第2流路392に流下させる打ち出し方法が攻略打法となることが防止される。

【2064】

図1に示すように、特定入球領域としての可変入賞口316は、遊技盤31の右側領域における2つの遊技領域に設けられる第1入球手段及び第2入球手段の下方に設けられている。また、可変入賞口316は、開閉手段である開閉扉319が設けられている。この開閉扉319は、前述のように特図大当たり遊技において可変入賞口316の閉状態と開状態とを繰り返し切り替える。つまり、可変入賞口316及び開閉扉は、第1入球手段及び第2入球手段とは異なる第3入球手段である。この可変入賞口316には、第2の遊技として遊技盤31の右側領域に遊技球を打ち出す右打ち遊技を実行することで遊技球が入球可能である。具体的には、可変入賞口316には、遊技盤31の右側領域における分離部393の右側の遊技領域、及び分離部393の左側の遊技領域のいずれに遊技球を打ち出しても遊技球が入球可能である。

【2065】

このように、可変入賞口316及び開閉扉を備える第3入球手段が第1入球手段及び第2入球手段とは異なることで、大利益遊技である特図大当たり遊技を、小利益遊技である普図当たり遊技やV入賞大当たり遊技とは異なる遊技利益として遊技者に付与することが可能になる。また、第3入球手段が第1入球手段及び第2入球手段とは異なることで、特図大当たり遊技、V入賞大当たり遊技、及び普図大当たり遊技をそれぞれ独立して実行することが可能であるため、特図大当たり遊技、V入賞大当たり遊技、及び普図大当たり遊技を同時に実行し、これとは逆に、特図大当たり遊技、V入賞大当たり遊技、及び普図大当たり遊技の2以上の遊技を同時に実行しない遊技性を実現することが可能になる。例えば、大利益遊技の実行中に小利益遊技が実行されないようにし、小利益遊技の実行中に大利益遊技を実行可能とするようにし、小利益遊技の実行中に他の小利益遊技が実行されないようにし、小利益遊技の実行中に他の小利益遊技を実行可能とすることが考えられる。具体的には、特図大当たり遊技の実行中において開閉手段としての特電開閉扉382が作

10

20

30

40

50

動されないようにすることで、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中に小利益遊技であるV入賞大当たり遊技が開始されないようにし、特図大当たり遊技の実行中において開閉手段としての電動役物315bが作動されないことで、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中に小利益遊技である普図当たり遊技の開始されないようにし、小利益遊技である特図遊技の実行中に小利益遊技である開閉手段としての特電開閉扉382が作動されないようにすることで、V入賞大当たり遊技が実行されないようにし、小利益遊技である特図遊技の実行中に開閉手段としての特電開閉扉382を作動可能とすることで、小利益遊技であるV入賞大当たり遊技が開始されるようにし、小利益遊技である特図遊技の実行中に開閉手段としての電動役物315bが作動されないようにすることで、小利益遊技である普図当たり遊技が実行されないようにし、小利益遊技である特図遊技の実行中に開閉手段としての電動役物315bを作動可能とすることで小利益遊技である普図当たり遊技が開始されるようにすることもできる。

10

【2066】

このように、大利益遊技の実行中に小利益遊技が実行されないようにし、また小利益遊技の実行中に大利益遊技を実行可能とするようにすることで、遊技利益として大利益遊技の利益を確実に得られる遊技性を実現できる。さらに、小利益遊技の実行中に他の小利益遊技が実行されないようにすることで、遊技利益として1種類の小利益遊技の利益を得られる遊技性を実現できる。また、小利益遊技の実行中に他の小利益遊技を実行可能とすることで、遊技利益として複数の小利益遊技の利益を得られる遊技性を実現できる。

20

【2067】

〔遊技システム〕

まず、図157(A)及び図157(C)を参照しつつ、本実施形態に係る遊技機10を含む遊技システムを説明する。ここで、図157(A)は図154に示す遊技機のシステム構成の一部の一例を示すブロック図であり、図157(C)は遊技機の外部に出力される信号種別を示す図である。

【2068】

図157(A)に示すように、本実施形態に係る遊技システムは、遊技機10、ホールコンピュータ102及びデータ表示器103を含む。

【2069】

遊技機10は、当該遊技機10の遊技情報をホールコンピュータ102などの外部に信号出力する信号出力手段としての外部出力端子板101を備える。この外部出力端子板101は、例えば複数の出力端子部(図示略)を有し、各出力端子部(図示略)は、主制御装置4のMPU41との間でデータ通信を行う入出力I/F42に対して、配線(図示略)によりデータ通信(受信)可能に接続されている。これにより、遊技機10の遊技情報が、対応する外部出力端子板101の出力端子部(図示略)を介して各種信号として遊技機10の外部に出力される。また、各出力端子部(図示略)は、外部に対して予め定められた1種類の信号を出力可能である。即ち、出力端子部(図示略)の種別と、外部に出力可能な信号種別とが1対1で対応している。例えば、図157(C)に示すように、複数の出力端子部(図示略)のうち、1番端子は特別信号として大当たり信号1を出力可能であり、2番端子は大当たり信号2を出力可能であり、3番端子は識別信号としてV入賞大当たり遊技信号を出力可能であり、4番端子は識別信号として特図変動停止信号を出力可能である。

30

40

【2070】

図158(A)に示すように、大当たり信号1は、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中に継続して出力される信号である。この大当たり信号1により、特図大当たり遊技の実行中であることを識別できる。

【2071】

図158(B)に示すように、大当たり信号2は、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中、及び大当たり遊技の終了に移行される高頻度サポートモード(確変遊技状態、a時短遊技状態)の実行中に継続して出力される信号である。この大当たり信号2により

50

、特図大当たり遊技の実行中、又は特図大当たり遊技の終了に移行される高頻度サポートモードであることを識別できる。また、大当たり信号1と大当たり信号2とを比較することで、例えば大当たり信号1と大当たり信号2との両方が出力されている場合に、特図大当たり遊技の実行中であることが識別でき、大当たり信号1が出力されず大当たり信号2が出力されている場合に、特図大当たり遊技の終了後に移行される高頻度サポートモードであることが識別できる。

【2072】

図159(A)に示すように、V入賞大当たり遊技信号は、小利益遊技であるV入賞大当たり遊技の実行中に継続して出力される信号である。このV入賞大当たり遊技信号により、V入賞大当たり遊技の実行中であることが識別できる。なお、V入賞大当たり遊技信号は、V入賞大当たり遊技の開始時のみ出力されるパルス信号であってもよく、この場合にはV入賞大当たり遊技信号により、V入賞大当たり遊技が開始されたことが識別できる。また、V入賞大当たり遊技信号は、V入賞大当たり遊技の終了時のみ出力されるパルス信号であってもよい。この場合にはV入賞大当たり遊技信号により、V入賞大当たり遊技が終了されたことが識別できる。

【2073】

ここで、本実施形態では、大当たり遊技として、特図大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大利益遊技としての特図大当たり遊技と、特電始動口37への遊技球の入球に基づいて実行される特電始動遊技において特電V入賞口383に遊技球が入球した場合に実行される小利益遊技としてV入賞大当たり遊技とを含む。そして、本実施形態では、特図大当たり遊技が実行される場合には、大当たり信号1及び大当たり信号2が出力され、大当たり信号1及び大当たり信号2とは異なるV入賞大当たり遊技信号が出力されない一方、V入賞大当たり遊技が実行される場合には、大当たり信号1及び大当たり信号2が出力されず、V入賞大当たり遊技信号が出力される。

【2074】

このように、V入賞大当たり遊技が実行される場合には、大当たり信号1及び大当たり信号2が出力されないことで、遊技ホールは、ホールコンピュータ102において遊技者が自由に発生させることが可能なV入賞大当たり遊技が特図大当たり遊技として認識されることが防止される。これにより、遊技ホールは、ホールコンピュータ102において特図大当たり遊技の実行回数を正確に管理し、また特図大当たり遊技の実行回数をデータ表示器103に正確に表示させることができる。

【2075】

また、V入賞大当たり遊技が実行される場合には、大当たり信号1及び大当たり信号2とは異なるV入賞大当たり遊技信号が出力されることで、遊技ホールは、ホールコンピュータ102において、V入賞大当たり遊技が実行されたこと、即ちb時短遊技状態が発生させるまでの特図遊技の実行回数をリセットされたことを把握することができる。これにより、遊技ホールは、ホールコンピュータ102において、V入賞大当たり遊技が実行された場合であっても、先の通常大当たり遊技の終了からb時短遊技状態が発生させるまでに必要な残りの特図遊技の実行回数を把握することが可能になる。そのため、遊技ホールは、ホールコンピュータ102から把握されるb時短遊技状態が発生させるまでに必要な残りの特図遊技の実行回数に基づいて、遊技ホールの営業前にRAMクリアによりb時短遊技状態が発生させるまでの特図遊技の実行回数を最大値にリセットするか否かを判断するための参考とすることができる。

【2076】

図159(B)に示すように、特図変動停止信号は、特図が停止表示された場合に出力されるパルス信号である。この特図変動停止信号により、特図遊技が終了したことが識別できる。そのため、特図変動停止信号に基づいて、特図遊技の実行回数を識別できる。なお、特図変動停止信号に代えて、特図の変動表示が開始された場合に特図変動開始信号としてパルス信号を出力してもよい。この特図変動開始信号により、特図遊技が開始されたことが識別できるため、特図変動開始信号に基づいて、特図遊技の実行回数を識別できる

。また、特図変動停止信号に代えて、特図の変動表示中に継続して特図変動信号を出力してもよい。この特図変動信号により、特図遊技の実行中であることが識別できるため、特図変動信号に基づいて、特図遊技の実行回数を識別できる。

【2077】

図157(A)に示すように、複数の出力端子部(図示略)は、遊技ホール側のホールコンピュータ102に配線などによりデータ通信(送信)可能に接続されている。これにより、ホールコンピュータ102は、遊技機10の各出力端子部(図示略)から出力された各種信号に基づいて当該遊技機10の遊技状況や遊技状態などに応じた遊技情報を入手可能である。その結果、遊技ホール側は、ホールコンピュータ102が受信した各種信号に基づいて、各遊技機10の遊技状況や遊技状態などを把握することが可能である。また、遊技ホール側は、複数の出力端子部(図示略)から必要な出力端子部を選択して配線などを介してホールコンピュータ102に接続することが可能である。これにより、遊技ホール側は、ホールコンピュータ102に接続する出力端子部(図示略)を選択することで、遊技ホール側で管理する遊技情報を選択的に得ることができたため、必要な遊技情報を効率良く管理することができ、また必要な遊技情報をデータ表示器103に表示させることができる。

10

【2078】

ここで、遊技機10からホールコンピュータ102に信号出力される遊技情報としては、例えば、遊技中であること、大当たり遊技が開始されたこと(大当たり遊技中であること)、高頻度サポートモード(確変遊技状態、時短遊技状態)であること、低頻度サポートモード(通常遊技状態)であること、特図遊技が開始されたこと(特図遊技中であること)、遊技球の発射数(アウト玉数)、出玉数、差玉数などが挙げられる。そのため、遊技ホール側は、遊技機10からホールコンピュータ102に信号出力される遊技情報に基づいて、ホールコンピュータによって、例えば当日及び過去数日分の大当たり回数、当日及び過去数日分の大当たり連荘回数、過去の最高大当たり回数、過去の最高大当たり連荘回数、現在の大当たり連荘回数、当日及び過去数日分の総変動遊技回数、当日及び過去数日分の大当たり間の特図遊技回数、当日の先の大当たりから現在の変動遊技までの特図遊技回数、当日及び過去数日分の出玉や差玉などを管理することができ、また、各遊技機10の遊技状況や遊技状態、例えば遊技中であること、大当たり遊技中であること、高頻度サポートモード(確変遊技状態、時短遊技状態)中であること、低頻度サポートモード(通常遊技状態)であることなどを管理することができる。

20

30

【2079】

データ表示器103は、例えば遊技機10の遊技状況や遊技状態などを表示するものであり、遊技ホールの島設備において、例えば各遊技機10の上方に設けられる。このデータ表示器103は、ホールコンピュータ102に配線などによりデータ通信(受信)可能に接続されており、ホールコンピュータ102によって管理される遊技情報を受信することで、この遊技情報に基づいて遊技状況や遊技状態を直接的又は間接的に表示可能である。具体的には、データ表示器103では、例えば当日及び過去数日分の大当たり回数、当日及び過去数日分の大当たり連荘回数、過去の最高大当たり回数、過去の最高大当たり連荘回数、現在の大当たり連荘回数、当日及び過去数日分の総変動遊技回数、当日及び過去数日分の大当たり間の特図遊技回数、当日の先の大当たりから現在の変動遊技までの特図遊技回数、当日及び過去数日分の出玉や差玉、遊技中であること、大当たり遊技中であること、高頻度サポートモード(確変遊技状態、時短遊技状態)中であること、低頻度サポートモード(通常遊技状態)であることなど直接的又は間接的に表示することができる。

40

【2080】

[主制御装置4の処理]

次に、図160～図184を参照しつつ、主制御装置4のMPU41によって実行される処理について説明する。

【2081】

[主タイマ割込み処理]

50

本実施形態の主タイマ割込み処理は、本実施形態のスルーゲート 3 1 7 が遊技盤 3 1 の右側領域にのみ設けられていることから、前述の第 1 の実施形態とはスルーゲート処理の一部の手順が異なる。

【2082】

[スルーゲート処理]

ここで、図 1 6 0 は、図 1 7 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1 0 0 6 で M P U 4 1 により実行されるスルーゲート処理の手順を示すフローチャートである。スルーゲート処理では、スルーゲート 3 1 7 を遊技球が通過した場合に、M P U 4 1 によって、R A M 4 1 2 の普図保留格納エリア 4 1 2 c (図 1 1 参照) に格納される情報が更新される。以下、図 1 6 0 を参照しつつ、スルーゲート処理を説明する。

10

【2083】

<ステップ S 1 3 0 1>

図 1 6 0 に示すように、本実施形態のスルーゲート処理では、M P U 4 1 は、まず第 1 入球手段であるスルーゲート 3 1 7 を遊技球が通過したか否かを判断する (ステップ S 1 3 0 1)。スルーゲート 3 1 7 を遊技球が通過したか否かは、図 1 7 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1 0 0 1 のセンサ検出処理において R A M 4 1 2 に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。M P U 4 1 は、スルーゲート 3 1 7 L を遊技球が通過したと判断した場合 (ステップ S 1 3 0 1 : Y e s)、処理をステップ S 1 3 0 2 に移行し、スルーゲート 3 1 7 L を遊技球が通過していないと判断した場合 (ステップ S 1 3 0 1 : N o)、当該スルーゲート処理を終了する。

20

【2084】

<ステップ S 1 3 0 2>

M P U 4 1 は、スルーゲート 3 1 7 L を遊技球が通過したと判断した場合 (ステップ S 1 3 0 1 : Y e s)、R A M 4 1 2 の普図保留格納エリア 4 1 2 c に設定される普図変動保留数記憶エリア S N A に記憶されている普図変動保留数 X が最大保留数 (本実施形態では 4) であるか否かを判断する (ステップ S 1 3 0 2)。M P U 4 1 は、普図変動保留数 X が最大保留数である場合 (ステップ S 1 3 0 2 : Y e s)、当該スルーゲート処理を終了し、普図変動保留数 X が最大保留数でない場合 (ステップ S 1 3 0 2 : N o)、処理をステップ S 1 3 0 3 に移行する。

【2085】

30

<ステップ S 1 3 0 3 及び S 1 3 0 4>

M P U 4 1 は、普図変動保留数 X が最大保留数でない場合 (ステップ S 1 3 0 2 : N o)、普図変動保留数 X に 1 を加算し (ステップ S 1 3 0 3)、図 1 7 の主タイマ割込処理のステップ S 1 0 0 3 において更新される普通当たり乱数カウンタ C 4 及び普通当たり種別乱数カウンタ C 5 のカウンタ値、及び後述の図 1 6 3 のメイン処理のステップ S 1 4 0 2 及び S 1 4 1 4 において更新される普図変動種別カウンタ C S 2 の値を取得し、そのカウンタ値を R A M 4 1 2 における普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 のうち最初の空き保留エリアに格納し (ステップ S 1 3 0 4)、当該スルーゲート処理を終了する。

【2086】

40

[主制御装置 4 のメイン処理]

次に、図 1 6 3 を参照しつつ、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行されるメイン処理について説明する。本実施形態のメイン処理は、特図遊技回数管理処理 (ステップ S 1 4 0 6 - 1)、特電始動遊技制御処理 (ステップ S 1 4 0 7 - 2)、V 入賞大当たり遊技制御処理 (ステップ S 1 4 0 7 - 3)、及び信号出力処理 (ステップ S 1 4 0 8 - 1) が実行される点で前述の第 1 の実施形態とは異なる。以下、これらの処理について説明するが、本実施形態の理解に必要な処理についても適宜説明する。

【2087】

主制御装置 4 のメイン処理を説明する前に、本実施形態での遊技状態の移行について図 1 6 1 を参照して説明する。ここで、図 1 6 1 は、遊技状態の移行例を示す図である。

50

【2088】

図161(A)に示すように、本実施形態では、基本的な遊技状態として、通常遊技状態、確変遊技状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態及び特図大当たり遊技状態を含み、所定の条件が成立する場合に遊技状態が移行される。

【2089】

通常遊技状態は、特図大当たり抽選の結果の大当たりとなる確率が低い低確率モード当否テーブル(図9(A)参照)に基づいて特図大当たり抽選が実行される低確率モードであり、特図大当たり遊技状態に移行され難いモードである。また、通常遊技状態は、電動役物315bの作動頻度が低く第2入賞口315に遊技球が入球し難い低頻度サポートモードである。そのため、通常遊技状態では、第1入賞口314に遊技球を入球させて第1特図遊技を実行すべく、第1方向である遊技盤31の左側領域に遊技球を打ち出す第1の遊技としての左打ち遊技が奨励される。この通常遊技状態には、a時短遊技状態又はb時短遊技状態において特図大当たり遊技状態に移行することなく規定回数の特図遊技が実行された場合に移行する。具体的には、通常遊技状態には、a時短遊技状態において特図大当たり遊技状態に移行することなく、例えば100回の特図遊技が実行されることで移行し、又はb時短遊技状態において特図大当たり遊技状態に移行することなく、例えば1000回の特図遊技が実行されることで移行する。そして、a時短遊技状態から移行する通常遊技状態は、通常大当たり遊技の終了後から特図大当たり遊技状態に移行することなく規定回数(例えば1000回)の特図遊技が実行されることによってb時短遊技状態に移行し得る第2補助状態制御である。一方、b時短遊技状態から移行する通常遊技状態は、当該通常遊技への移行後から特図大当たり遊技状態に移行することなく規定回数(例えば1000回)の特図遊技が実行されてもb時短遊技状態に移行しない第1補助状態制御である。

【2090】

確変遊技状態は、特図大当たり抽選の結果の大当たりとなる確率が高い高確率モード当否テーブル(図9(B)参照)に基づいて特図大当たり抽選が実行される高確率モードであり、特図大当たり遊技状態に移行され易いモードである。また、確変遊技状態は、電動役物315bの作動頻度が高く第2入賞口315に遊技球が入球し易い高頻度サポートモードである。そのため、確変遊技状態では、第2入賞口315に遊技球を入球させて第2特図遊技を実行すべく、第2方向である遊技盤31の右側領域における分離部393よりも右側に遊技球を打ち出す第2の遊技である強右打ち遊技が奨励される。この確変遊技状態には、大利益遊技である確変大当たり遊技の終了後に確変大当たり遊技状態から移行する。

【2091】

a時短遊技状態は、特図大当たり抽選の結果の大当たりとなる確率が低い低確率モード当否テーブル(図9(A)参照)に基づいて特図大当たり抽選が実行される低確率モードであり、特図大当たり遊技状態に移行され難いモードである。また、a時短遊技状態は、電動役物315bの作動頻度が高く第2入賞口315に遊技球が入球し易い高頻度サポートモードである。そのため、a時短遊技状態では、第2入賞口315に遊技球を入球させて第2特図遊技を実行すべく、スルーゲート317及び第2入賞口315が設けられた遊技領域、即ち遊技盤31の右側領域における分離部393よりも右側の遊技領域に遊技球を強右打ち遊技が奨励される。このa時短遊技状態には、大利益遊技である通常大当たり遊技の終了後に通常大当たり遊技状態から移行する。

【2092】

b時短遊技状態は、特図大当たり抽選の結果の大当たりとなる確率が低い低確率モード当否テーブル(図9(A)参照)に基づいて特図大当たり抽選が実行される低確率モードであり、特図大当たり遊技状態に移行され難いモードである。また、b時短遊技状態は、電動役物315bの作動頻度が高く第2入賞口315に遊技球が入球し易い高頻度サポートモードである。そのため、b時短遊技状態では、第2入賞口315に遊技球を入球させて第2特図遊技を実行すべく、スルーゲート317及び第2入賞口315が設けられた遊

技領域、即ち遊技盤 3 1 の右側領域における分離部 3 9 3 よりも右側の遊技領域に遊技球を強右打ち遊技が奨励される。この b 時短遊技状態には、大利益遊技である通常大当たり遊技の終了後から、特図大当たり遊技状態に移行されることなく規定回数（例えば 1 0 0 0 回）の特図遊技が実行されることによって移行する。

【2 0 9 3】

特図大当たり遊技状態は、第 3 入球手段としての可変入賞口 3 1 6 が、所定時間が経過するまで、又は上限数（例えば 9 個）以上の遊技球が入賞するまで開放されるラウンド遊技が所定回数行われる大利益遊技である特図大当たり遊技が実行される遊技状態である。特図大当たり遊技状態は、5 R 通常大当たり遊技状態、5 R 確変大当たり遊技状態、及び 1 6 R 確変大当たり遊技状態を含む。5 R 通常大当たり遊技状態は、ラウンド遊技が 5 回
10
行われる 5 R 通常大当たり遊技が実行され、この 5 R 通常大当たり遊技の終了後に a 時短遊技状態に移行される遊技状態である。5 R 確変大当たり遊技状態は、ラウンド遊技が 5 回行われる 5 R 確変大当たり遊技が実行され、この 5 R 確変大当たり遊技の終了後に確変遊技状態に移行される遊技状態である。1 6 R 確変大当たり遊技状態は、ラウンド遊技が 1 6 回行われる 1 6 R 確変大当たり遊技が実行され、この 1 6 R 確変大当たり遊技の終了後に確変遊技状態に移行される遊技状態である。

【2 0 9 4】

図 1 6 1 (B) に示すように、本実施形態では、遊技状態として、V 入賞大当たり遊技状態をさらに含む。この V 入賞大当たり遊技状態は、小利益遊技である V 入賞大当たり遊技が実行される遊技状態である。V 入賞大当たり遊技は、通常遊技状態、確変遊技状態、
20
a 時短遊技状態及び b 時短遊技状態において、第 1 入球手段としての特電始動口 3 7 への遊技球の入球に基づいて実行される特電始動遊技において、第 2 入球手段が備える開閉手段としての特電開閉扉 3 8 2 の作動によって開放される第 2 入球手段が備える特定入球領域としての特電 V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球した場合に実行される。つまり、小利益遊技である特図遊技の実行中（特図の変動中）において特電始動口 3 7 に遊技球が入球した場合には特電始動遊技が実行され、特電開閉扉 3 8 2 の作動によって特電 V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球可能とされることで、V 入賞大当たり遊技が発生可能とされる。そのため、特図遊技の実行中（特図の変動中）には、当該特図遊技と同時に V 入賞大当たり遊技が
30
実行され得る。その結果、V 入賞大当たり遊技状態は、通常遊技状態、確変遊技状態、a 時短遊技状態及び b 時短遊技状態とは別に、これらの遊技状態とは独立して発生される。

【2 0 9 5】

そして、本実施形態では、V 入賞大当たり遊技の開始前と終了後において、同一の遊技状態とされる。具体的には、通常遊技状態において V 入賞大当たり遊技状態が発生した場合には、V 入賞大当たり遊技の開始前から終了後までの間も通常遊技状態が維持され、確
40
変遊技状態において V 入賞大当たり遊技状態が発生した場合には、V 入賞大当たり遊技の開始前から終了後も確変遊技状態が維持され、a 時短遊技状態において V 入賞大当たり遊技状態が発生した場合には、V 入賞大当たり遊技の開始前から終了後までの間も a 時短遊技状態が維持され、b 時短遊技状態において V 入賞大当たり遊技状態が発生した場合には、V 入賞大当たり遊技の開始前から終了後までの間も b 時短遊技状態が維持される。つまり、小利益遊技である V 入賞大当たり遊技の実行前後では、遊技状態が変更すること
40
はなく、遊技者の遊技利益が変更されることはない。

【2 0 9 6】

このように、V 入賞大当たり遊技の実行前後で遊技状態が変更されないことで、V 入賞大当たり遊技によって遊技者が不利益を受けることが防止され、V 入賞大当たり遊技を実行する前の遊技者の既得の利益が、V 入賞大当たり遊技の実行後において引き続き保護される。具体的には、V 入賞大当たり遊技の実行前の遊技状態が確変遊技状態である場合には、V 入賞大当たり遊技の実行後においても、特図大当たり抽選の特図大当たり確率が高
50
い高確率モードが維持され、普図当たり抽選の普図当たり確率が高い高頻度サポートモードが維持される。また、V 入賞大当たり遊技の実行前の遊技状態が a 時短遊技状態又は b 時短遊技状態である場合には、V 入賞大当たり遊技の実行後においても、普図当たり抽選

の普図当たり確率が高い高頻度サポートモードが維持され、残りの時短遊技回数に影響を与えることはない。そのため、遊技者が意図的にV入賞大当たり遊技を発生させた場合に遊技者が不利益を受けることが防止され、既得の利益が保護される。

【2097】

ここで、本実施形態では、高頻度サポートモード（確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態）において、第1流路391に遊技球を流下させることで、スルーゲート317及び第2入賞口315に遊技球を入球させて第2特図遊技を実行させることが可能である。そのため、高頻度サポートモードでは、遊技盤31の右側領域における分離部393よりも右側に遊技球を打ち出す強右打ち遊技が奨励される。ところが、遊技者が強右打ち遊技の実行を意図して遊技球を打ち出した場合であっても、遊技球の発射不良や遊技球の相互干渉等により、遊技者の意に反して第2流路392を遊技球が流下することが想定される。この場合に第2流路392を遊技球が流下する遊技球は、遊技者の意に反して特電始動口37に入球することで特電V入賞口383に遊技球が入球可能な特電始動遊技が実行され、さらに特電始動遊技において特電V入賞口383に遊技球が入球されることでV入賞大当たり遊技が実行されることが想定される。そして、遊技者の意に反して第2流路392を遊技球が流下することに基づいて特電V入賞口383が実行されることでb時短遊技状態が発生させるまでの特図遊技の実行回数をリセットされた場合に、当該V入賞大当たり遊技の実行の前後で遊技状態が変更されるとすると、遊技者に大きな不利益を与えることとなる。例えば、遊技者に最も有利な確変遊技状態においてV入賞大当たり遊技が実行されることで他の遊技状態、つまり確変遊技状態よりも遊技者に不利な遊技状態（特図大当たり抽選が低確率モード）に移行されるとすると、遊技者は特図大当たり抽選が高確率モードであることの利益を失うことになるため遊技者に大きな不利益を与えることになる。これに対して、本実施形態では、V入賞大当たり遊技の実行の前後で遊技状態が変更されないようにすることで、高頻度サポートモードや高確率モードであることの遊技者の利益を、V入賞大当たり遊技の実行後も引き続き維持することができ、遊技者に大きな不利益を与えることが防止される。

【2098】

なお、本実施形態では、V入賞大当たり遊技状態が、通常遊技状態、確変遊技状態、a時短遊技状態及びb時短遊技状態とは別に（同時に）発生するが、V入賞大当たり遊技状態が、通常遊技状態、確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態と同時に発生しないようにし、V入賞大当たり遊技の実行によっても遊技状態が移行されないようにしてもよい。この場合においても、小利益遊技であるV入賞大当たり遊技の実行前後において遊技者の遊技利益が変更されることはなく、V入賞大当たり遊技の実行前の遊技利益がV入賞大当たり遊技の実行後においても維持される。

【2099】

また、小利益遊技であるV入賞大当たり遊技の実行前の遊技状態が通常遊技状態である場合には、V入賞大当たり遊技の実行後においても通常遊技状態が維持されるが、V入賞大当たり遊技の実行後において、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技の実行回数としての最大値がセットされる。

【2100】

そして、V入賞大当たり遊技の実行前の遊技状態が、b時短遊技状態から移行された第1補助状態制御の通常遊技状態、即ちb時短遊技状態が発生不能な第2利益遊技状態制御の通常遊技状態である場合には、b時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技の実行回数として最大値がセットされることで、b時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御に変更される。つまり、本実施形態では、b時短遊技状態から移行されたb時短遊技状態が発生不能な通常遊技状態である場合にV入賞大当たり遊技が実行されることで、当該V入賞大当たり遊技の実行後にb時短遊技状態を発生可能な通常遊技状態に変更される。また、V入賞大当たり遊技は、第1入球手段である特電始動口37に遊技球を入球させて第2入球手段である特電大入賞装置38の特定入球領域である特電V入賞口383に遊技球を入球させることで実行される。そして、特電始動口37及び特電大入賞装置38は、

遊技盤 3 1 の右側領域における分離部 3 9 3 の左側に設定される遊技領域としての第 2 領域に設けられている。そのため、遊技者は、第 2 領域に向けて遊技球を打ち出し弱右打ち遊技によって第 2 流路 3 9 2 に遊技球を流下させることで、V 入賞大当たり遊技を意図的に実行させることが可能になる。これにより、遊技者は、b 時短遊技状態が発生不能な通常遊技状態において第 2 領域に向けて遊技球を打ち出すことによって、b 時短遊技状態が発生不能な通常遊技状態に変更することができる。その結果、特図大当たり遊技が実行されることなく b 時短遊技状態が終了することによって b 時短遊技状態が発生不能な遊技機において遊技を開始させる動機付けを遊技者に与えることができ、遊技機に対する稼働率を向上させることが可能になる。

【2101】

一方、V 入賞大当たり遊技の実行前の遊技状態が、a 時短遊技状態から移行された第 2 補助状態制御の通常遊技状態、即ち b 時短遊技状態が発生可能な通常遊技状態である場合には、V 入賞大当たり遊技の実行後において、通常遊技状態において第 2 補助状態制御が維持されるが、b 時短遊技状態が発生不能な通常遊技状態と同様に、V 入賞大当たり遊技の実行後に、b 時短遊技状態が発生させるために必要な特図遊技の実行回数として最大値がセットされる。そのため、遊技者が b 時短遊技状態が発生可能な状態において遊技を終了する場合には、遊技者が第 2 領域に向けて遊技球を打ち出し弱右打ち遊技によって第 2 流路 3 9 2 に遊技球を流下させることで、V 入賞大当たり遊技を実行させることによって、b 時短遊技状態が発生可能な状態で当該遊技者によって実行された特図遊技の回数をクリアすることができる。これにより、遊技者は、b 時短遊技状態が発生可能な状態で遊技者が遊技を実行したことによって受けた不利益が他者の利益となることを防止することができる。つまり、遊技者は、b 時短遊技状態が発生可能な状態で実行された特図遊技の回数だけ、時間、金銭、労力などを投資しており、そのような投資が、当該遊技機で後に遊技を行う他者の利益となること、即ちいわゆるハイエナ行為の対象となることを、第 2 領域に向けて遊技球を打ち出し弱右打ち遊技によって第 2 流路 3 9 2 に遊技球を流下させることで、遊技者の意図によって防止することができる。

【2102】

また、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中において特電始動口 3 7 に遊技球が入球した場合には、特電始動遊技が実行されず特電大入賞装置 3 8 の特電開閉扉 3 8 2 も作動されない。このように、特図大当たり遊技の実行中において特電 V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球することがなく、V 入賞大当たり遊技が発生しないことで、特図大当たり遊技状態から V 入賞大当たり遊技状態には移行されない。このように、特図大当たり遊技の実行中に V 入賞大当たり遊技が発生しないことで、小利益遊技である V 入賞大当たり遊技によって大利益遊技である特図大当たり遊技によって遊技者が得られる利益が消失されることが防止される。

【2103】

なお、V 入賞大当たり遊技の実行中は、特図大当たり遊技が実行可能である。このように、V 入賞大当たり遊技の実行中は、特図大当たり遊技が実行可能であることで、小利益遊技である V 入賞大当たり遊技が実行されていることを理由に、大利益遊技である特図大当たり遊技の利益が得られなくなることが防止され、特図大当たり遊技の利益を適切に得ることができる。

【2104】

ここで、図 1 6 2 は、主制御装置 4 で使用されるテーブルの一例を示す図である。具体的には、図 1 6 2 (A) は特電始動当否テーブルの一例を示す図であり、図 1 6 2 (B) は低頻度サポートモード特電始動種別振分テーブルの一例を示す図であり、図 1 6 2 (C) は高頻度サポートモード特電始動種別振分テーブルの一例を示す図であり、図 1 6 2 (D) は V 入賞大当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。

【2105】

図 1 6 2 (A) に示すように、特電始動当否テーブルは、第 1 入球手段である特電始動口 3 7 への遊技球の入球に基づいて第 2 入球手段である特電大入賞装置 3 8 が作動される

10

20

30

40

50

特電始動遊技を実行するか否かを判断するために、主制御装置4のMPU41によって参照されるテーブルであり、主制御装置4におけるMPU41のROM411に記憶されている。この特電始動当否テーブルでは、0～15の16個の特電始動乱数カウンタが設定されており、全ての特電始動乱数カウンタの値が当たりである。即ち、特電始動口37への遊技球の入球に基づいて当否判定が実行された場合には、特電大入賞装置38が作動される小利益遊技としての特電始動遊技を実行される。

【2106】

但し、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中に特電始動口37への遊技球の入球があった場合には、当否判定が実行されない。そのため、特図大当たり遊技の実行中は特電始動遊技が実行されず、その結果、特図大当たり遊技の実行中はV入賞大当たり遊技も実行されない。また、本実施形態では、特電始動口37への遊技球の入球に基づく特電始動遊技を実行するか否かの当否判定の結果は、1／1で当たりとなるが、1／1以外の所定確率で当たりとなるように設定することも考えられ、遊技状態などに応じて、当該当否判定の結果が当たりとなる確率が異なるように設定することも考えられる。

【2107】

ここで、特電始動遊技は、第2入球手段である特電大入賞装置38の特電大入賞口381が開閉手段である特電開閉扉382によって閉状態と開状態との間で切り替えられることによって、特電大入賞口381に遊技球が入球可能である。また、特電始動遊技において特電大入賞口381が開放される場合、特定入球領域である特電V入賞口383への遊技球の入球が可能とされる。そのため、特電始動遊技が実行されることで、特定期間遊技として特電V入賞口383への遊技球の入球に基づくV入賞大当たり遊技が実行可能とされる。そして、本実施形態では、特電始動遊技として、特電大入賞口381及び特電V入賞口383の最大開放時間が異なる2種類が設定されている（図162（B）及び図162（C）参照）。具体的には、本実施形態では、特電始動遊技として、特電大入賞口381及び特電V入賞口383の最大開放時間が0.1秒であり、特電大入賞口381及び特電V入賞口383への遊技球の入球が困難な短開放特電始動遊技、及び特電大入賞口381及び特電V入賞口383の最大開放時間が1.2秒であり、特電大入賞口381及び特電V入賞口383への遊技球の入球が容易な長開放特電始動遊技とを含む。短開放特電始動遊技は、特電V入賞口383への遊技球の入球が困難であるため、当該短開放特電始動遊技の実行を契機としてはV入賞大当たり遊技が発生し難い。一方、長開放特電始動遊技は、特電V入賞口383への遊技球の入球が容易であるため、当該長開放特電始動遊技の実行を契機としてV入賞大当たり遊技が発生し易い。

【2108】

図162（B）に示す低頻度サポートモード特電始動種別振分テーブル、及び図162（C）に示す高頻度サポートモード特電始動種別振分テーブルは、特電始動口37への遊技球の入球に基づく当否判定の結果が当たりである場合に、特電始動遊技の種別を振り分けるために、主制御装置4のMPU41によって参照されるテーブルであり、主制御装置4におけるMPU41のROM411に記憶されている。

【2109】

低頻度サポートモード特電始動種別振分テーブルは、低頻度サポートモードである通常遊技状態における特電始動口37への遊技球の入球に基づく当否判定の結果が当たりである場合に特電始動遊技の種別を振り分けるため使用される。この低頻度サポートモード特電始動種別振分テーブルでは、0～49の特電始動種別乱数カウンタの値の全てが長開放特電始動遊技である。即ち、通常遊技状態における特電始動口37への遊技球の入球に基づく特電始動遊技は、特電V入賞口383への遊技球の入球が容易で、V入賞大当たり遊技を発生させ易い。そのため、第1方向である遊技盤31の左側領域に遊技球を打ち出す第1の遊技としての左打ち遊技が奨励される通常遊技状態では、左打ち遊技から、第2方向である遊技盤31の右側領域の分離部393よりも左側に遊技球を打ち出す弱右打ち遊技に変更することで、容易にV入賞大当たり遊技を発生させてb時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技の実行回数を最大値に変更することが可能になる。

【2110】

一方、高頻度サポートモード特電始動種別振分テーブルは、高頻度サポートモードである確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態における特電始動口37への遊技球の入球に基づく当否判定の結果が当たりである場合に特電始動遊技の種別を振り分けるため使用される。この高頻度サポートモード特電始動種別振分テーブルでは、0～49の特電始動種別乱数カウンタの値の全てが短開放特電始動遊技である。即ち、高頻度サポートモードである確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態における特電始動口37への遊技球の入球に基づく特電始動遊技は、特電V入賞口383への遊技球の入球が困難で、V入賞大当たり遊技を発生させ難い。

【2111】

ところで、高頻度サポートモードである確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態では、第2方向である遊技盤31の右側領域の分離部393よりも右側に遊技球を打ち出す強右打ち遊技が奨励される。一方、V入賞大当たり遊技は、第2方向である遊技盤31の右側領域の分離部393よりも左側に遊技球を打ち出す弱右打ち遊技により発生し得る。しかしながら、高頻度サポートモードである確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態において奨励される強右打ち遊技を実行しようとする場合であっても、流れ玉などが分離部393の左側を流下することが十分にあり得る。この場合、特電始動口37に遊技球が入球することで特電始動遊技が実行され、この特電始動遊技において特電V入賞口383に遊技球が入球することで遊技者の意に反してV入賞大当たり遊技が実行されることもあり得る。そのため、高頻度サポートモードである確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態においてV入賞大当たり遊技を発生させ難くすることで、遊技者の意に反してb時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技の実行回数を最大値に変更されることが防止される。

【2112】

なお、本実施形態では、低頻度サポートモードと高頻度サポートモードとに応じて、即ち奨励される遊技球の打ち出しが左打ちか右打ちかに応じて、異なる2種類の特電始動種別振分テーブルが設定されているが、低頻度サポートモードと高頻度サポートモードとで、即ち奨励される遊技球の打ち出しが左打ちと右打ちとで同じテーブルを使用するようにしてもよく、また遊技状態に応じて3種類以上のテーブルを設定してもよい。

【2113】

図162(D)に示すように、V入賞大当たり種別振分テーブルは、特電始動遊技での特電V入賞口383への遊技球の入球に基づいて実行されるV入賞大当たり遊技の種別を振り分けるために、主制御装置4のMPU41によって参照されるテーブルであり、主制御装置4におけるMPU41のROM411に記憶されている。このV入賞大当たり種別振分テーブルでは、0～19の大当たり種別乱数カウンタの値の全てが大当たりに設定されており、外れが設定されていない。そのため、特電始動遊技における特電大入賞装置38のV入賞大当たり遊技への遊技球の入球時には100%の確率でV入賞大当たり遊技が実行される。このV入賞大当たり遊技では、第2入球手段である特電大入賞装置38の特電大入賞口381が開閉手段である特電開閉扉382によって閉状態と開状態との間で切り替えられることによって、特電大入賞口381に遊技球が入球可能であるが、第2入球手段である特電大入賞装置38の特定入球領域である特電V入賞口383は開放されない。そのため、V入賞大当たり遊技では、特電V入賞口383への遊技球の入球が不能とされており、特電V入賞口383への遊技球の入球に基づく新たなV入賞大当たり遊技の発生が制限されている。もちろん、V入賞大当たり遊技において特電V入賞口383への遊技球の入球が可能とされるようにしてもよく、その場合には、特電V入賞口383への遊技球の入球によっても新たなV入賞大当たり遊技が発生されないように構成される。

【2114】

ところで、第2入球手段である特電大入賞装置38には、特電V入賞口383及び特電通常入賞口384に遊技球が入球された場合の賞球数は1個である。そのため、V入賞大当たり遊技における遊技球の回収率の最大値は、打ち出した遊技球の全てが特電V入賞口

383及び特電通常入賞口384に入球された場合の100%（差玉が0個）であるため、V入賞大当たり遊技では遊技球の増加が見込めない。また、第2入球手段である特電始動口37に遊技球が入球した場合の賞球数も1個である。そして、特電始動口37には遊技盤31の右側領域における分離部393よりも左側の遊技領域に遊技球を打ち出す第2遊技としての弱右打ち遊技を実行することで第2流路392を流下する遊技球の一部が入球する。その結果、弱右打ち遊技を実行することで第2流路392に遊技球を流下させる場合には、遊技者の遊技球の増加が見込めず、遊技者の持ち球が減少する。そのため、遊技球を第2流路392に流下させることが攻略打法となることが防止される。

【2115】

なお、本実施形態のV入賞大当たり種別振分テーブルでは、大当たりの振り分けが100%に設定されていたが、大当たりの振り分けが100%に設定されているが、大当たりの振り分けは100%以外であってもよい。

【2116】

〔普図遊技制御処理〕

ここで、図164は、図163のメイン処理でのステップS1404において実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図遊技制御処理は、小利益遊技である普図遊技に関する処理である。この普図遊技制御処理では、メイン表示部36の表示手段としての普通図柄表示部361での普図の変動表示及び停止表示を制御する処理などが実行される。以下、図164を参照しつつ、普図遊技制御処理を説明する。

【2117】

<ステップS1501>

図164に示すように、普図遊技制御処理では、まずMPU41は、普通図柄が変動表示中（利益遊技としての普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1501）。普図変動表示中フラグは、後述の図166の普図変動開始処理において、普通図柄の変動表示（普図遊技）が開始される場合にステップS1711でオンに設定され、普通図柄が停止表示（普図遊技が終了）される場合に当該普図遊技制御処理におけるステップS1510でオフに設定される。

【2118】

MPU41は、普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1501：Yes）、即ち普図遊技の実行中である場合、処理をステップS1507に移行する。一方、MPU41は、普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1501：No）、即ち普図遊技の実行中でない場合、処理をステップS1502に移行する。

【2119】

<ステップS1502>

普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1501：No）、即ち普図遊技の実行中でない場合、MPU41は、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bが開放中（利益遊技としての普図当たり遊技の実行中）であることを示す電動役物開放中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1502）。電動役物開放中フラグは、後述の図167の普図当たり遊技制御処理において、電動役物315bを開放する場合にステップS1811でオンに設定され、電動役物315bを閉鎖する場合にステップS1818でオフに設定される。

【2120】

MPU41は、電動役物開放中フラグがオンである場合（ステップS1502：Yes）、即ち普図当たり抽選の結果が普図当たりであることに基づいて遊技利益として付与される普図当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップS1502：No）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1503に移行する。

【2121】

<ステップS1503>

電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップS1502：No）、即ち普図当た

10

20

30

40

50

り遊技の実行中でない場合、MPU41は、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中であることを示す特図大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1503）。特図大当たり遊技中フラグは、後述の図173の特図大当たり遊技制御処理において、特図大当たり遊技が開始される場合にステップS3406でオンに設定され、特図大当たり遊技が終了する場合にステップS3452でオフに設定される。

【2122】

MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1503：Yes）、即ち特図大当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実施形態では、特図大当たり遊技の実行中には利益遊技としての普図遊技が開始されない。そのため、本実施形態では、特図大当たり遊技の実行中には利益遊技としての普図当たり遊技も開始されない。そのため、第1入球手段であるスルーゲート317に遊技球が入球された場合であっても、特図大当たり遊技の実行中は、第2入球手段における開閉手段である電動役物315bが閉状態から開状態に切り替えられることはなく、第2入球手段における第2入賞口315の閉状態が維持される。

【2123】

もちろん、大当たり遊技の実行中に小利益遊技である普図遊技及び小利益遊技である普図当たり遊技が開始されるようにしてもよい。この場合の普図遊技では、大利益遊技である特図大当たり遊技が開始される前のサポートモード種別（高頻度サポートモード及び低頻度サポートモードの別）に従って、即ち特図大当たり遊技状態に移行される前の遊技状態に従って、普図保留格納エリア412cの普図第1保留エリアSE1から普図実行エリアSAEに移動された当否情報（普図当たり乱数カウンタC4、普図当たり種別乱数カウンタC5及び普図変動種別カウンタCS2の値）に基づいて、普図当たり抽選に対する当否判定が実行される。つまり、特図大当たり遊技が実行される前の遊技状態が第1補助状態制御である高頻度サポートモードである確変遊技状態又は時短遊技状態（a時短遊技状態、b時短遊技状態）である場合、高頻度サポートモード用の普図当たり当否テーブル（図12（B）参照）、普図当たり種別テーブル（図12（D）参照）及び普図変動テーブル（不図示）に基づいて、普図当たり抽選（普図当たり又は外れ）、普図当たり種別（長開放普図当たり又は短開放普図当たり）、及び普図変動表示時間が設定される。一方、特図大当たり遊技が実行される前の遊技状態が第2補助状態制御である低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合、低頻度サポートモード用の普図当たり当否テーブル（図12（A）参照）、普図当たり種別テーブル（図12（C）参照）及び普図変動テーブル（不図示）に基づいて、普図当たり抽選（普図当たり又は外れ）、普図当たり種別（長開放普図当たり又は短開放普図当たり）、及び普図変動表示時間が設定される。

【2124】

一方、MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1503：No）、即ち大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1504に移行する。

【2125】

<ステップS1504>

特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1503：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、RAM412の普図保留格納エリア412cに設定される普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xが0であるか否かを判断する（ステップS1504）。MPU41は、普図変動保留数Xが0である場合（ステップS1504：Yes）、当該普図遊技制御処理を終了し、普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1504：No）、処理をステップS1505に移行する。

【2126】

<ステップS1505>

普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1504：No）、MPU41は、普図保留格納エリア412cに記憶されている普図当否情報について普図データ設定処理を

実行し（ステップ S 1 5 0 5）、処理をステップ S 1 5 0 6 に移行する。なお、普図データ設定処理の詳細は図 1 6 5 を参照して後述する。

【 2 1 2 7 】

<ステップ S 1 5 0 6>

ステップ S 1 5 0 6 では、MPU 4 1 は、普図保留格納エリア 4 1 2 c に記憶されている情報に基づく普通図柄の変動表示をメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 に実行させるための普図変動開始処理を実行し、当該普図遊技制御処理を終了する。なお、普図変動開始処理の詳細は、図 1 6 5 を参照して後述する。

【 2 1 2 8 】

<ステップ S 1 5 0 7>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1 : Y e s）、即ち小利益遊技である普図遊技の実行中である場合、MPU 4 1 は、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中であることを示す特図大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 7）。特図大当たり遊技中フラグは、後述の図 1 7 3 の特図大当たり遊技制御処理において、特図大当たり遊技が開始される場合にステップ S 3 4 0 6 でオンに設定され、特図大当たり遊技が終了する場合にステップ S 3 4 5 2 でオフに設定される。

10

【 2 1 2 9 】

MPU 4 1 は、特図大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 7 : Y e s）、即ち特図大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップ S 1 5 0 9 に移行する。一方、MPU 4 1 は、特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 7 : N o）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 8 に移行する。

20

【 2 1 3 0 】

<ステップ S 1 5 0 8>

特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 7 : N o）、即ち大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中でない場合、MPU 4 1 は、普図変動表示の開始から普図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 8）。即ち、MPU 4 1 は、メイン表示部 3 6 の表示手段としての普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングであるか否かを判断する。

30

【 2 1 3 1 】

MPU 4 1 は、普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 0 8 : Y e s）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、処理をステップ S 1 5 0 9 に移行する。一方、MPU 4 1 は、普図変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 1 5 0 8 : N o）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングでない場合、当該普図遊技制御処理を終了する。

【 2 1 3 2 】

<ステップ S 1 5 0 9 ~ S 1 5 1 1>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1 : Y e s）に特図大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 7 : Y e s）、即ち普図遊技の実行中に特図大当たり遊技が開始される場合、又は普通図柄の普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 0 8 : Y e s）、即ち変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、MPU 4 1 は、当該普図遊技に対応する普図当たり抽選の結果に応じた図柄に普通図柄を停止表示させ（ステップ S 1 5 0 9）、普通図柄の変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグをオフに設定する（ステップ S 1 5 1 0）。さらに、MPU 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと、即ち普図遊技が終了したことを示す普図変動停止表示フラグをオンに設定し（ステップ S

40

50

1511)、当該普図遊技制御処理を終了する。

【2133】

なお、普図変動停止表示フラグは、後述の図167の普図当たり遊技制御処理のステップS1801において、利益遊技としての普図当たり遊技を開始（電動役物315bを開放）するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

【2134】

また、本実施形態では、普通図柄の普図変動表示時間が経過することにより変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合に限らず、普図遊技の実行中に特図大当たり遊技が開始される場合には、変動表示される普通図柄が停止表示される（普図遊技が終了される）。即ち、遊技利益としての普図遊技は、特図大当たり遊技が開始される場合には、普通図柄の普図変動表示時間が経過する前に強制終了される。もちろん、普図遊技は、特図大当たり遊技が開始される場合にも普通図柄の普図変動表示時間が経過するまで継続して実行するようにしてもよい。

【2135】

〔普図データ設定処理〕

ここで、図165は、図164のステップS1505においてMPU41によって実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図データ設定処理では、図11の主制御装置4の記憶領域における普図保留格納エリア412cの記憶内容が更新される。以下、図165を参照しつつ、普図データ設定処理を説明する。

【2136】

<ステップS1601～S1603>

図165に示すように、普図データ設定処理では、まずMPU41は、普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xを1減算し（ステップS1601）、普図第1保留エリアSE1から普図実行エリアSAEに普図当否情報を移動させる（ステップS1602）。続いて、MPU41は、普図第2保留エリアSE2～普図第4保留エリアSE4に格納されている普図当否情報を1つつシフトさせる（ステップS1603）。具体的に、ステップS1603では、普図第2保留エリアSE2の普図当否情報を普図第1保留エリアSE1に移動させ、普図第3保留エリアSE3の普図当否情報を普図第2保留エリアSE2に移動させ、普図第4保留エリアSE4の普図当否情報を普図第3保留エリアSE3に移動させる。

【2137】

〔普図変動開始処理〕

ここで、図166は、図164のステップS1506においてMPU41によって実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図変動開始処理では、普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示が開始されると共に、普図当たり抽選での抽選結果に基づいて各種のコマンドやフラグが設定される。以下、図166を参照しつつ、普図変動開始処理を説明する。

【2138】

<ステップS1701>

図166に示すように、普図変動開始処理では、MPU41は、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bが第1補助状態制御である第1利益遊技状態制御としての高頻度サポートモード（確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態）であるか否かを判断する（ステップS1701）。高頻度サポートであるか否かは、確変遊技状態フラグ、a時短遊技状態フラグ及びb時短遊技状態フラグのいずれかがオンに設定されているか否かによって判断される。

【2139】

なお、確変遊技状態フラグは、後述の図179～図183を参照して説明する遊技状態移行処理において、他の遊技状態から確変遊技状態に移行される場合にオンに設定され、確変遊技状態から他の遊技状態に移行される場合にオフに設定される。また、a時短遊技状態は、後述の図179～図183を参照して説明する遊技状態移行処理において、他の

10

20

30

40

50

遊技状態から a 時短遊技状態に移行される場合にオンに設定され、a 時短遊技状態から他の遊技状態に移行される場合にオフに設定される。また、b 時短遊技状態フラグは、後述の図 1 7 9 ～図 1 8 3 を参照して説明する遊技状態移行処理において、他の遊技状態から b 時短遊技状態に移行される場合にオンに設定され、b 時短遊技状態から他の遊技状態に移行される場合にオフに設定される。

【2 1 4 0】

MPU 4 1 は、高頻度サポートモードである場合（ステップ S 1 7 0 1：Y e s）、即ち確変遊技状態、a 時短遊技状態又は b 時短遊技状態である場合、処理をステップ S 1 7 0 2 に移行し、高頻度サポートモードでない場合（ステップ S 1 7 0 1：N o）、即ち第 2 入球手段の開閉手段である電動役物 3 1 5 b が第 2 補助状態制御である第 2 利益遊技状態制御としての低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合、処理をステップ S 1 7 0 3 に移行する。

10

【2 1 4 1】

<ステップ S 1 7 0 2 及び S 1 7 0 3>

高頻度サポートモードである確変遊技状態又は時短遊技状態である場合（ステップ S 1 7 0 1：Y e s）、MPU 4 1 は、高頻度サポートモードに基づく普図当たり当否判定を行う（ステップ S 1 7 0 2）。具体的には、MPU 4 1 は、高頻度サポートモード普図当たり当否テーブル（図 1 2（B）参照）及び高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル（図 1 2（D）参照）に基づいて、普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図実行エリア S A E に格納された普図当否情報に数値情報として含まれる普通当たり乱数カウンタ C 4 及び普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が普図当たりに対応する値であるか否かの当否判定を行う。

20

【2 1 4 2】

一方、低頻度サポートモードである通常遊技状態である場合（ステップ S 1 7 0 1：N o）、低頻度サポートモードに基づく普図当たり当否判定を行う（ステップ S 1 7 0 3）。具体的には、MPU 4 1 は、低頻度サポートモード普図当たり当否テーブル（図 1 2（A）参照）及び低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル（図 1 2（C）参照）に基づいて、普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図実行エリア S A E に格納された普図当否情報に数値情報として含まれる普通当たり乱数カウンタ C 4 及び普通当たり種別乱数カウンタ C 5 が普図当たり当選に対応する値であるか否かの当否判定を行う。

30

【2 1 4 3】

<ステップ S 1 7 0 4 及び S 1 7 0 5>

MPU 4 1 は、普図当たりの当否判定を行った場合（ステップ S 1 7 0 2 又は S 1 7 0 3）、当否判定の結果が、第 2 入球手段における特定入球領域である第 2 入賞口 3 1 5 が長開放される長開放普図当たりであるか否かを判断する（ステップ S 1 7 0 4）。MPU 4 1 は、当否判定の結果が長開放普図当たりである場合（ステップ S 1 7 0 4：Y e s）、当否判定の結果が長開放普図当たりであることを示す長開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 1 7 0 5）、処理をステップ S 1 7 0 8 に移行する。一方、MPU 4 1 は、当否判定の結果が長開放普図当たりでない場合（ステップ S 1 7 0 4：N o）、処理をステップ S 1 7 0 6 に移行する。

40

【2 1 4 4】

<ステップ S 1 7 0 6 及び S 1 7 0 7>

当否判定の結果が長開放普図当たりでない場合（ステップ S 1 7 0 4：N o）、MPU 4 1 は、当否判定の結果が、第 2 入球手段における特定入球領域である第 2 入賞口 3 1 5 が短開放される短開放普図当たりであるか否かを判断する（ステップ S 1 7 0 6）。MPU 4 1 は、当否判定の結果が短開放普図当たりである場合（ステップ S 1 7 0 6：Y e s）、当否判定の結果が短開放普図当たりであることを示す短開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 1 7 0 7）、処理をステップ S 1 7 0 8 に移行する。一方、MPU 4 1 は、当否判定の結果が短開放普図当たりでない場合（ステップ S 1 7 0 6：N o）、即ち当否判定の結果が外れである場合、処理をステップ S 1 7 0 8 に移行する。

50

【2145】

<ステップS1708及びS1709>

長開放普図当たりフラグがオンに設定された場合（ステップS1705）、短開放普図当たりフラグがオンに設定された場合（ステップS1707）、又は当否判定の結果が外れである場合（ステップS1706：No）、MPU41は、メイン表示部36における表示手段である普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示時間である普図変動パターンを、普図変動表示テーブル（不図示）を参照して設定する普図変動パターン設定処理を実行する。普図変動表示テーブル（不図示）は、前述のように、高頻度サポートモードである場合に参照される高頻度サポートモード普図変動テーブルと、低頻度サポートモードである場合に参照される低頻度サポートモード普図変動表示テーブルとを含む。そのため、当該普図変動パターン設定処理では、サポートモード種別に応じた普図変動表示テーブルに基づいて普図変動パターンが設定される。なお、高頻度サポートモード普図変動表示テーブルのほうが、低頻度サポートモード普図変動表示テーブルよりも、普通図柄の変動表示時間の平均時間が短くなるように設定されているため、高頻度サポートモードでは、低頻度サポートモードに比べて、スルーゲート317への遊技球の入球に基づいて遊技利益として付与される普図遊技が実行される時間が短くなる。

10

【2146】

そして、MPU41は、ステップS1708で設定される普図変動パターンに加え、ステップS1702又はS1703での当否判定の結果（普図当たり抽選の結果）と、サポートモードの種別（高頻度サポートモード及び低頻度サポートモードの別）とを音声ランプ制御装置5に通知するための普図変動パターンコマンドを設定し（ステップS1709）、処理をステップS1710に移行する。

20

【2147】

なお、普図変動パターンコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これに対して、音声ランプ制御装置5では、普図変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部341などに対して普図遊技に対応した演出、例えば普図遊技が実行されていることを示す演出や普図当たり抽選の結果を示す演出を実行させる。

【2148】

また、普図変動パターンコマンドは、少なくとも普図変動パターンを音声ランプ制御装置5に通知するコマンドであればよく、普図当たり抽選の結果やサポートモードの種別は、必ずしも普図変動パターンコマンドとして音声ランプ制御装置5に通知する必要はない。例えば、普図当たり抽選の結果は、ステップS1702又はS1703において当否判定を行った場合に普図当たり抽選結果コマンドを設定することで、サポートモードの種別は、高頻度サポートモード又は低頻度サポートモードに移行された場合に、移行後のサポートモードの種別を識別可能なサポートモード種別コマンドを設定することで、音声ランプ制御装置5に通知するようにしてもよい。

30

【2149】

<ステップS1710及びS1711>

ステップS1710では、MPU41は、メイン表示部36の普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示を開始することで小利益遊技である普図遊技を開始する（ステップS1710）。そして、MPU41は、普通図柄が変動表示されていること、即ちスルーゲート317への遊技球の入球に基づいて遊技利益として付与された普図遊技が実行されていることを示す普図変動表示中フラグをオンに設定し（ステップS1711）、当該普図変動開始処理を終了する。

40

【2150】

なお、普図変動表示中フラグは、図163の普図遊技制御処理でのステップS1501において、普図遊技の実行中（普通図柄の変動表示中）であるかを判断するために参照される。

【2151】

50

〔普図当たり遊技制御処理〕

ここで、図167は、図163のメイン処理でのステップS1405において実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図当たり遊技制御処理は、利益遊技である普図当たり遊技に関する処理である。この普図当たり遊技制御処理では、普図当たり抽選の結果が当たりである場合に、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bの開閉制御を行うことによって、第2入球手段の特定入球領域である第2入賞口315への遊技球の入球を制限する閉状態と、第2入賞口315への遊技球の入球を許容する開状態とを切り替える処理が実行される。以下、図167を参照しつつ、普図当たり遊技制御処理を説明する。

〔2152〕

10

＜ステップS1801＞

図167に示すように、普図当たり遊技制御処理では、まずMPU41は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1801）。即ち、MPU41は、小利益遊技である普図当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。なお、普図変動停止表示フラグは、図167の普図遊技制御処理において普通図柄が停止表示される場合にステップS1511でオンに設定される。

〔2153〕

20

MPU41は、普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップS1801：Yes）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップS1802に移行する。一方、MPU41は、普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップS1801：No）、即ち普図当たり抽選の結果が普図当たりであることに基いて遊技利益として付与される普図当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理をステップS1813に移行する。

〔2154〕

＜ステップS1802＞

普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップS1801：Yes）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、MPU41は、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中であることを示す特図大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1802）。特図大当たり遊技中フラグは、後述の図173の特図大当たり遊技制御処理において、特図大当たり遊技が開始される場合にステップS3406でオンに設定され、特図大当たり遊技が終了する場合にステップS3452でオフに設定される。

30

〔2155〕

MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1802：Yes）、即ち特図大当たり遊技の実行中である場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中である場合には、第1入球手段であるスルーゲート317に遊技球が入球することに基づく普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合であっても、小利益遊技である普図当たり遊技が開始されない。即ち、本実施形態では、特図大当たり遊技の実行中は、普図当たり遊技が開始されることはなく、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bによって、第2入球手段の特定入球領域である第2入賞口315が閉状態と開状態との間で切り替えられることはない。もちろん、大当たり遊技の実行中に新たな普図遊技や普図当たり遊技を開始させてもよい。これに対して、特図遊技の実行中には普図当たり遊技が開始され得り、第2入賞口315に遊技球が入球可能である。これにより、特図遊技の実行中での第2入賞口315への遊技球の入球によって第2特図遊技を実行する権利が保留され得るため、高頻度サポートモード（確変遊技状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態）において遊技者に過度なストレスを与えることなく繰り返し第2特図遊技を実行することが可能になる。

40

〔2156〕

一方、MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS180

50

2 : N o) 、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 8 0 3 に移行する。

【 2 1 5 7 】

<ステップ S 1 8 0 3>

特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 2 : N o) 、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 3) 。長開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合に、図 1 6 7 の普図変動開始処理のステップ S 1 7 0 5 においてオンに設定される。即ち、M P U 4 1 は、終了した小利益遊技である普図遊技 10 に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : Y e s) 、処理をステップ S 1 8 0 4 に移行し、長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : N o) 、処理をステップ S 1 8 0 6 に移行する。

【 2 1 5 8 】

<ステップ S 1 8 0 4 及び S 1 8 0 5>

長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : Y e s) 、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合、M P U 4 1 は、遊技利益として付与される長開放普図当たり遊技における第 2 入球手段の開閉手段である電動役物 3 1 5 b の開放時間（第 2 入球手段の特定入球領域である第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球可能時間）である 6 秒に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする（ステップ S 1 8 0 4) 。開放時間カウンタは、電動役物 3 1 5 b の復帰タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理のステップ S 1 8 1 5 において参照される。そして、M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップ S 1 8 0 5) 、処理をステップ S 1 8 0 9 に移行する。 20

【 2 1 5 9 】

<ステップ S 1 8 0 6>

長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : N o) 、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりでない場合、M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 6) 。短開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合に、図 1 6 7 の普図変動開始処理のステップ S 1 7 0 7 においてオンに設定される。即ち、M P U 4 1 は、終了した小利益遊技である普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 6 : Y e s) 、処理をステップ S 1 8 0 7 に移行し、短開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 6 : N o) 、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が外れである場合、処理をステップ S 1 8 1 2 に移行する。 30

【 2 1 6 0 】

<ステップ S 1 8 0 7 及び S 1 8 0 8>

短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 6 : Y e s) 、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合、M P U 4 1 は、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることに基づいて遊技利益として付与される短開放普図当たり遊技における第 2 入球手段の開閉手段である電動役物 3 1 5 b の開放時間（第 2 入球手段の特定入球領域である第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球可能時間）である 0 . 1 秒に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする（ステップ S 1 8 0 7) 。そして、M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップ S 1 8 0 8) 、処理をステップ S 1 8 0 9 に移行する。 40

【 2 1 6 1 】

<ステップS1809～S1811>

普図当たり抽選の結果が当たりである場合に普図当たり種別を示すフラグ（長開放普図当たりフラグ又は短開放普図当たりフラグ）をオフに設定した場合（ステップS1805又はS1808）、MPU41は、開閉手段である電動役物315bを作動させる（ステップS1809）。これにより、特定入球領域である第2入賞口315は閉状態から開状態に切り替えられ、第2入賞口315への遊技球の入球が許容される。そして、MPU41は、電動役物315bが開放されていることを音声ランプ制御装置5に通知する電動役物開放コマンドを設定すると共に（ステップS1810）、電動役物315bが開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオンに設定し（ステップS1811）、処理をステップS1812に移行する。

10

【2162】

なお、電動役物開放コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これより、音声ランプ制御装置5は、電動役物開放コマンドに基づいて、例えば表示手段としての図柄表示部341などに対して電動役物315bが開放されていることを示す演出を開始させることができる。

【2163】

<ステップS1812>

普図当たり抽選の結果が当たりである場合に電動役物315bを開放させる処理などを実行した場合（ステップS1803～S1811）、又は長開放普図当たりフラグ及び短開放普図当たりフラグが共にオフに設定されている場合（普図当たり抽選の結果が外れである場合）（ステップS1803及びステップS1806が共にNo）、MPU41は、普通図柄が停止表示されたこと（スルーゲート317への遊技球の入球に基づいて遊技利益として付与される普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグをオフに設定し（ステップS1812）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

20

【2164】

<ステップS1813>

普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップS1801：No）、MPU41は、当該普図当たり遊技制御処理のステップS1811において電動役物315bを開放させた場合にオンに設定される電動役物開放中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS1813）。即ち、MPU41は、小利益遊技である普図当たり遊技が実行中であるか否かを判断する。MPU41は、電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップS1813：Yes）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、処理をステップS1814に移行する。一方、MPU41は、電動役物開放中フラグがオフに設定されている場合（ステップS1813：No）、即ち普図当たり遊技が実行中でない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

30

【2165】

<ステップS1814及びS1815>

電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップS1813：Yes）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、MPU41は、当該普図当たり遊技制御処理のステップS1804又はS1807においてセットされる開放時間カウンタの値から1減算し（ステップS1814）、減算後の開放時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS1815）。即ち、MPU41は、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bを復帰させて第2入球手段の特定入球領域である第2入賞口315を開状態から閉状態に切り替えるタイミングであるか否かを判断する。MPU41は、減算後の開放時間カウンタの値が0である場合（ステップS1815：Yes）、即ち電動役物315bを復帰させるタイミングである場合、処理をステップS1816に移行する。一方、MPU41は、減算後の開放時間カウンタの値が0でない場合（ステップS1815：No）、即ち電動役物315bを復帰させるタイミングでない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

40

50

【2166】

<ステップS1816～S1818>

減算後の開放時間カウンタの値が0である場合（ステップS1815：Yes）、即ち電動役物315bを復帰させるタイミングである場合、MPU41は、電動役物315bを復帰させる（ステップS1816）。これにより、特定入球領域である第2入賞口315を開状態から閉状態に切り替えられ、第2入賞口315への遊技球の入球が制限される。そして、MPU41は、電動役物315bの閉鎖されたことを音声ランプ制御装置5に通知する電動役物閉鎖コマンドを設定すると共に（ステップS1817）、電動役物315bが開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオフに設定し（ステップS1818）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

10

【2167】

なお、電動役物閉鎖コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、電動役物閉鎖コマンドに基づいて、例えば図柄表示部341などにおいて実行される電動役物が開放されていることを示す演出を終了させることができる。

【2168】

[特図遊技制御処理]

ここで、図168は、図163のメイン処理でのステップS1406において実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技制御処理は、小利益遊技である特図遊技に関する処理である。この特図遊技制御処理では、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの記憶内容が更新されると共に、第1特図遊技又は第2特図遊技の進行の制御、例えば表示手段である第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は表示手段である第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示及び停止表示が制御される。以下、図168を参照しつつ、特図遊技制御処理を説明する。

20

【2169】

<ステップS1901>

図168に示すように、ステップS1901では、MPU41は、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中であることを示す特図大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。特図大当たり遊技中フラグは、特図大当たり遊技中フラグは、後述の図173の特図大当たり遊技制御処理において、特図大当たり遊技が開始される場合にステップS3406でオンに設定され、特図大当たり遊技が終了する場合にステップS3452でオフに設定される。

30

【2170】

MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1901：Yes）、即ち特図大当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中である場合には、小利益遊技である特図遊技が開始されない。もちろん、特図大当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。

40

【2171】

一方、MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1902に移行する。

【2172】

<ステップS1902>

特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（第1特図遊技又は第2特図遊技の実行中）であることを示す特図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1902）。特図変動表示中フラグは、後

50

述の図 170 の特図変動開始処理において第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示が開始される場合にステップ S 2107 でオンに設定され、当該特図遊技制御処理において第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が停止表示される場合にステップ S 1910 でオフに設定される。

【2173】

MPU41 は、特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1902：Yes）、即ち特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、処理をステップ S 1906 に移行する。一方、MPU41 は、特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1902：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、処理をステップ S 1903 に移行する。

10

【2174】

<ステップ S 1903>

特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1902：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、MPU41 は、特図保留格納エリア 412b の第 1 特図保留数記憶エリア NAA に記憶されている第 1 特図保留数 N、及び第 2 特図保留数記憶エリア NAB に記憶されている第 2 特図保留数 M の両方が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 1903）。

【2175】

MPU41 は、第 1 特図保留数 N 及び第 2 特図保留数 M の両方が 0 である場合（ステップ S 1903：Yes）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のいずれもない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41 は、第 1 特図保留数 N 及び第 2 特図保留数 M のいずれか一方が 0 でない場合は（ステップ S 1903：No）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、処理をステップ S 1904 に移行する。

20

【2176】

<ステップ S 1904>

第 1 特図保留数 N 及び第 2 特図保留数 M のいずれか一方が 0 でない場合は（ステップ S 1903：No）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、MPU41 は、特図保留格納エリア 412b に記憶されている特図当否情報のデータ（特図データ）に関する特図データ設定処理を実行し（ステップ S 1904）、処理をステップ S 1905 に移行する。なお、特図データ設定処理の詳細は、図 169 を参照して後述する。

30

【2177】

<ステップ S 1905>

ステップ S 1905 では、MPU41 は、第 1 特別図柄表示部 362 での第 1 特別図柄、又は第 2 特別図柄表示部 363 での第 2 特別図柄の変動表示を開始（第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技を実行）させるための特図変動開始処理を実行し、当該特図遊技制御処理を終了する。なお、特図変動開始処理の詳細は、図 170 を参照して後述する。

【2178】

<ステップ S 1906>

特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1902：Yes）、即ち第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、MPU41 は、第 1 特別図柄又は第 2 特図遊技の変動表示の開始から、後述の図 170 の特図変動開始処理でのステップ S 2104 の特図変動パターン設定処理で設定される第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄に対する特図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 1906）。即ち、MPU41 は、変動表示中の特別図柄を停止表示させて小利益遊技である特図遊技を終了させるタイミングであるか否かを判断する。

40

【2179】

第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から特図変動表示時間が経過した場合

50

(ステップS1906: Yes)、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、処理をステップS1907に移行する。一方、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過していない場合(ステップS1906: No)、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

【2180】

<ステップS1907～S1910>

第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過した場合(ステップS1906: Yes)、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、MPU41は、メイン表示部36の表示手段である第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において、当該特図遊技に対応する特図大当たり抽選の結果に応じた態様で特別図柄を停止表示させる(ステップS1907)。そして、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグをオンに設定すると共に(ステップS1908)、特図遊技回数カウントフラグをオンに設定する(ステップS1909)。この特図遊技回数カウントフラグは、後述の図171の特図遊技回数管理処理のステップS3301において、a時短遊技状態やb時短遊技状態での残りの特図遊技回数や、b時短遊技状態を発生させるまでの残りの特図遊技回数を減算するか否かを判断するために参照される。さらに、MPU41は、特図変動停止信号出力フラグをオンに設定する(ステップS1909)。この特図変動停止信号出力フラグは、後述の信号出力処理のステップS3819において、外部出力端子板101(図157(A)参照)の複数の出力端子部(図示略)における4番端子を介して遊技機10の外部に識別信号として特図変動停止信号を出力するか否かを判断するために参照される。そして、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中(特図遊技が実行中)であることを示す特図変動表示中フラグをオフに設定し(ステップS1910)、当該特図遊技制御処理を終了する。

【2181】

[特図データ設定処理]

ここで、図169は、図168の特図遊技制御処理のステップS1904においてMPU41によって実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図データ設定処理では、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの記憶内容が更新される。以下、図169を参照しつつ、特図データ設定処理を説明する。

【2182】

<ステップS2001>

図169に示すように、ステップS2001では、MPU41は、小利益遊技である第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが0であるか否かを判断する。MPU41は、第2特図保留数Mが0である場合(ステップS2001: Yes)、即ち第2特図遊技に対する第2特図保留がなく小利益遊技である第1特図遊技に対する第1特図保留がある場合(図168の特図遊技制御処理でのステップS1903参照)、処理をステップS2002に移行する。一方、MPU41は、第2特図保留数Mが0でない場合(ステップS2001: No)、即ち第2特図遊技に対する第2特図保留がある場合、処理をステップS2005に移行する。つまり、MPU41は、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが0であるか否かを判断することで、第1特図遊技よりも第2特図遊技を優先して開始させる。

【2183】

なお、本実施形態では、第2特図遊技が第1特図遊技よりも優先して開始されるが、第1特図遊技が第2特図遊技よりも優先して開始されるようにしてもよく、また、第1入賞口314又は第2入賞口315に対する遊技球の入球順(保留順)に特図遊技を開始させ、第1特図遊技及び第2特図遊技のいずれか一方が実行されるようにしてもよい。また、第1特図遊技と第2特図遊技との開始に優先順位を設けることなく、第1特図遊技と第2特図遊技とが互いに独立して実行され、第1特図遊技と第2特図遊技とが同時に実行され

得るようにしてもよい（いわゆる特図の同時変動）。

【2184】

<ステップS2002～S2004>

第2特図保留数Mが0である場合（ステップS2001：Yes）、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数Nを1減算し（ステップS2002）、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1から特図実行エリアAEに特図当否情報を移動させる（ステップS2003）。続いて、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2～第4保留エリアREA4の特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS2004）。具体的に、ステップS2004では、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2の特図当否情報を第1保留エリアREA1に移動させ、第3保留エリアREA3の特図当否情報を第2保留エリアREA2に移動させ、第4保留エリアREA4の特図当否情報を第3保留エリアREA3に移動させる。MPU41は、ステップS2004の処理が終了した場合、処理をステップS2008に移行する。

10

【2185】

<ステップS2005～S2007>

第2特図保留数Mが0でない場合（ステップS2001：No）、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mを1減算し（ステップS2005）、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1から特図実行エリアAEに特図当否情報を移動させる（ステップS2006）。続いて、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2保留エリアREB2～第4保留エリアREB4の特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS2007）。具体的に、ステップS2007では、第2保留エリアREB2の特図当否情報を第1保留エリアREB1に移動させ、第3保留エリアREB3の特図当否情報を第2保留エリアREB2に移動させ、第4保留エリアREB4の特図当否情報を第3保留エリアREB3に移動させる。MPU41は、ステップS2007の処理が終了した場合、処理をステップS2008に移行する。

20

【2186】

<ステップS2008>

ステップS2008では、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4の特図当否情報がシフトした旨を示す特図シフトコマンドをRAM412に設定し、当該特図データ設定処理を終了する。この特図シフトコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図シフトコマンドに基づいて、図柄表示部341に表示される第1特図保留や第2特図保留に対応させた保留表示の表示数などを変更することができる。

30

【2187】

[特図変動開始処理]

ここで、図170は、図168の特図遊技制御処理のステップS1905においてMPU41によって実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図変動開始処理では、表示手段である第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示の開始により小利益遊技である第1特別遊技又は第2特図遊技（特図遊技）が開始され、特図遊技の開始に伴う各種処理が実行される。以下、図170を参照しつつ、特図変動開始処理を説明する。

40

【2188】

<ステップS2101>

図170に示すように、ステップS2101では、MPU41は、遊技状態が高確率モードであるか否かを判断する。高確率モードは、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bの制御状態が第1補助状態制御の高頻度サポートモードである確変遊技状態であ

50

る。高確率モードであるか否かは、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態であることを示す確変遊技状態フラグがオンに設定されているか否かによって判断される。確変遊技状態フラグは、後述の遊技状態移行処理において、図179のステップS3722で遊技状態が確変大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行される場合にオンに設定され、図179のステップS3713で遊技状態が確変遊技状態から確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行される場合にオフに設定される。

【2189】

MPU41は、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態である場合（ステップS2101：Yes）、処理をステップS2102に移行し、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態でない場合（ステップS2101：No）、即ち遊技状態が低確率モードであるa時短遊技状態、b時短遊技状態又は通常遊技状態である場合、処理をステップS2103に移行する。

10

【2190】

なお、a時短遊技状態及びb時短遊技状態は、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bの制御状態が第1補助状態制御の高頻度サポートモードである。一方、通常遊技状態は、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bの制御状態が第2補助状態制御の低頻度サポートモードである。

【2191】

<ステップS2102及びS2103>

遊技状態が高確率モードである確変遊技状態である場合（ステップS2101：Yes）、MPU41は、図35の遊技設定値変更処理でのステップS2410において遊技設定値に応じて保存される高確率モード当否テーブル（図9（B）参照）を読み出し、その高確率モード当否テーブルに基づいて当否判定を実行する（ステップS2102）。

20

【2192】

一方、遊技状態が高確率モードである確変遊技状態でない場合（ステップS2101：No）、即ち遊技状態が低確率モードであるa時短遊技状態、b時短遊技状態又は通常遊技状態である場合、MPU41は、図35の遊技設定値変更処理でのステップS2410において、遊技設定値に応じて保存される低確率モード当否テーブル（図9（A）参照）を読み出し、その低確率モード当否テーブルに基づいて当否判定を実行する（ステップS2103）。

30

【2193】

このように、本実施形態では、特図大当たり抽選（当否判定）は、特図遊技が開始される際の特図大当たり抽選に関するモードが高確率モードであるか、低確率モードであるかに基づいて実行される。つまり、本実施形態では、特図大当たり抽選の結果大当たりとなる確率（特図大当たり確率）として高確率と低確率が設定されているが、特図大当たり確率は、特定期間遊技の実行、例えば特電始動遊技、V入賞大当たり遊技、普図当たり遊技の実行による影響を受けることはない。そのため、本実施形態では、特図大当たり確率に関して、特定期間遊技の実行によって遊技者の不利益が発生することが防止される。

【2194】

なお、ステップS2102及びS2103では、図35の遊技設定値変更処理でのステップS2410において遊技設定値に応じて保存される高確率モード当否テーブル又は低確率モード当否テーブルに基づいて当否判定が実行されるが、ステップS2102及びS2103において、図35の遊技設定値変更処理におけるステップS2408で保存される遊技設定値を読み出した上で、その遊技設定値に応じた高確率モード当否テーブル又は低確率モード当否テーブルを逐一選択して当否判定を行ってもよい。

40

【2195】

<ステップS2104>

ステップS2102又はS2103において当否判定を行った場合、MPU41は、当該特図遊技におけるメイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363での第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとして設

50

定する（ステップ S 2 1 0 4）。

【2 1 9 6】

なお、小利益遊技である第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示時間（特図変動パターン）は、ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 での当否判定の結果が通常大当たりである場合には、特図変動種別カウンタ C S 1 と通常大当たり変動テーブル（図 1 0（A）参照）とに基づいて設定され、ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 での当否判定の結果が確変大当たりである場合には、特図変動種別カウンタ C S 1 と確変大当たり変動テーブル（図 1 0（B）参照）とに基づいて設定され、ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 での当否判定の結果が外れである場合には、特図変動種別カウンタ C S 1 と外れ変動テーブル（図 1 0（C）参照）とに基づいて設定される。

10

【2 1 9 7】

<ステップ S 2 1 0 5>

ステップ S 2 1 0 5 では、M P U 4 1 は、ステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 0 3 での当否判定の結果である当該特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップ S 2 1 0 4 で設定された特図変動パターンを含む特図変動パターンコマンドを R A M 4 1 2 に設定し、処理をステップ S 2 1 0 6 に移行する。特図変動パターンコマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）のステップ S 1 4 0 1 において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、特図変動パターンコマンドに基づいて、表示手段である図柄表示部 3 4 1 などでの特図遊技演出を実行することができる。

20

【2 1 9 8】

なお、前述したように、M P U 4 1 は、特図大当たり抽選の結果が「通常大当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 3」に 5 R 通常大当たりである旨を示す「A」を付した「A 0 1」～「A 0 3」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして R A M 4 1 2 に設定する。また、M P U 4 1 は、特図大当たり抽選の結果が「5 R 確変大当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 3」に 5 R 確変大当たりである旨を示す「B」を付した「B 0 1」～「B 0 3」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして R A M 4 1 2 に設定する。さらに、M P U 4 1 は、特図大当たり抽選の結果が「1 6 R 確変大当たり」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 3」に 1 6 R 確変大当たりである旨を示す「C」を付した「C 0 1」～「C 0 3」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして R A M 4 1 2 に設定する。また、M P U 4 1 は、特図大当たり抽選の結果が「外れ」である場合、特図変動パターン「0 1」～「0 8」に外れである旨を示す「D」を付した「D 0 1」～「D 0 8」のいずれかを特図変動パターンコマンドとして R A M 4 1 2 に設定する。また、M P U 4 1 は、特図大当たり抽選の結果が「外れ」である場合、外れ種別（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れ）を示す情報を特図変動パターンコマンドに含ませる。

30

【2 1 9 9】

<ステップ S 2 1 0 6>

ステップ S 2 1 0 6 では、M P U 4 1 は、メイン表示部 3 6 における表示手段である第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での特別図柄の変動表示を開始させることで小利益遊技である特図遊技を開始させ、処理をステップ S 2 1 0 7 に移行する。

40

【2 2 0 0】

<ステップ S 2 1 0 7>

ステップ S 2 1 0 7 では、M P U 4 1 は、特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定し、当該特図変動開始処理を終了する。特図変動表示中フラグは、図 1 6 8 の特図遊技制御処理におけるステップ S 1 9 0 2 において、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）であるか否かを判断するために参照される。

50

【2201】

〔特図遊技回数管理処理〕

ここで、図171は、図163のメイン処理でのステップS1406-1において実行される特図遊技回数管理処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技回数管理処理では、小利益遊技である特図遊技の実行に基づいて、時短遊技状態（a時短遊技状態及びb時短遊技状態）における残りの時短遊技回数や、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させるまでの第2補助状態制御である残りの特図遊技回数を管理する処理が実行される。以下、図171を参照しつつ、特図遊技回数管理処理を説明する。

【2202】

<ステップS3301及びS3302>

図171に示すように、本実施形態の特図遊技回数管理処理では、まずMPU41は、特図変動カウントフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3301）。特図変動カウントフラグは、図168の特図遊技制御処理におけるステップS1909においてメイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363が停止表示される場合にオンに設定される。

【2203】

MPU41は、特図変動カウントフラグがオンに設定されている場合（ステップS3301:Yes）、特図変動カウントフラグをオフに設定し（ステップS3302）、処理をステップS3303に移行する。一方、MPU41は、特図変動カウントフラグがオフに設定されている場合（ステップS3301:No）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2204】

<ステップS3303>

ステップS3303では、MPU41は、変動が停止された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が通常大当たりであるか否かを判断する。MPU41は、変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合（ステップS3303:Yes）、処理をステップS3304に移行し、変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が通常大当たりでない場合（ステップS3303:No）、処理をステップS3311に移行する。

【2205】

<ステップS3304及びS3305>

変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合（S3303:Yes）、MPU41は、b時短遊技状態を発生させるまでの残りの特図遊技回数を示す天井発動残回数カウンタの値として最大値である1000をセットする（ステップS3304）。即ち、本実施形態では、通常大当たり遊技の終了後に第2補助状態制御とされ、通常大当たり遊技の終了後から、特図大当たり遊技が実行されることなく（特図大当たり遊技状態に移行されることなく）、1000回の特図遊技が小利益遊技として実行された場合にb時短遊技状態が発生される。また、MPU41は、天井発動残回数カウンタがセットされていること（第2補助状態制御であること）を示す天井発動残回数カウンタセットフラグをオンに設定し（ステップS3305）、処理をステップS3306に移行する。

【2206】

<ステップS3306及びS3307>

ステップS3306では、MPU41は、第2利益遊技状態制御としてのa時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技回数を示すa時短残回数カウンタの値として最大値である100をセットする。即ち、本実施形態では、通常大当たり遊技の終了後に遊技利益として付与されるa時短遊技状態に移行され、大利益遊技である特図大当たり遊技が実行されることなく（特図大当たり遊技状態に移行されることなく）、100回の特図遊技が実行された場合にa時短遊技状態を終了して第1利益遊技状態制御としての通常遊技状態に移行する。また、MPU41は、a時短残回数カウンタがセットされていることを示

10

20

30

40

50

す a 時短残回数カウンタセットフラグをオンに設定し（ステップ S 3 3 0 7）、処理をステップ S 3 3 0 8 に移行する。

【 2 2 0 7 】

<ステップ S 3 3 0 8>

ステップ S 3 3 0 8 では、M P U 4 1 は、b 時短残回数カウンタがセットされていることを示す b 時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されているか否か判断する。M P U 4 1 は、b 時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 3 0 8 : Y e s ）、処理をステップ S 3 3 0 9 に移行し、b 時短残回数カウンタセットフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 3 0 8 : N o ）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

10

【 2 2 0 8 】

<ステップ S 3 3 0 9 及び S 3 3 1 0>

b 時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 3 0 8 : Y e s ）、M P U 4 1 は、第 1 利益遊技状態制御としての b 時短遊技状態において実行可能な残りの b 時短残回数カウンタの値をクリアすると共に（ステップ S 3 3 0 9 ）、b 時短残回数カウンタがセットされていることを示す b 時短残回数カウンタフラグをオフに設定し（ステップ S 3 3 1 0 ）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【 2 2 0 9 】

<ステップ S 3 3 1 1>

変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が通常大当たりでない場合（S 3 3 0 3 : N o ）、M P U 4 1 は、変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が確変大当たり（5 R 確変大当たり又は 1 6 R 確変大当たり）であるか否かを判断する（ステップ S 3 3 1 1 ）。M P U 4 1 は、変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が確変大当たりである場合（S 3 3 1 1 : Y e s ）、処理をステップ S 3 3 1 2 に移行し、変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が確変大当たりでない場合（S 3 3 1 1 : N o ）、処理を図 1 7 2 のステップ S 3 3 1 8 に移行する。

20

【 2 2 1 0 】

<ステップ S 3 3 1 2>

変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が確変大当たりである場合（S 3 3 1 1 : Y e s ）、M P U 4 1 は、天井発動残回数カウンタがセットされた第 2 補助状態制御であることを示す天井発動残回数カウンタセットフラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 3 1 2 ）。この天井発動残回数カウンタセットフラグは、変動が停止された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が通常大当たりであることで（ステップ S 3 3 0 3 : Y e s ）、天井発動残回数カウンタがセットされた第 2 補助状態制御とされた場合（ステップ S 3 3 0 4 ）、当該特図遊技回数管理処理のステップ S 3 3 0 5 においてオンに設定される。

30

【 2 2 1 1 】

M P U 4 1 は、天井発動残回数カウンタセットフラグがオンである場合（ステップ S 3 3 1 2 : Y e s ）、処理をステップ S 3 3 1 3 に移行し、天井発動残回数カウンタセットフラグがオフである場合（ステップ S 3 3 1 2 : N o ）、処理をステップ S 3 3 1 5 に移行する。

40

【 2 2 1 2 】

<ステップ S 3 3 1 3 及び S 3 3 1 4>

天井発動残回数カウンタセットフラグがオンである場合（ステップ S 3 3 1 2 : Y e s ）、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態が発生するまでに実行が必要な残りの特図遊技回数を示す天井発動残回数カウンタをクリアすると共に（ステップ S 3 3 1 3 ）、天井発動残回数カウンタがセットされた第 2 補助状態制御であることを示す天井発動残回数カウンタセットフラグをオフに設定し（ステップ S 3 3 1 4 ）、処理をステップ S 3 3 1 5 に移行する。

50

【2213】

<ステップS3315>

天井発動残回数カウンタセットフラグをオフに設定した場合（ステップS3314）、又は天井発動残回数カウンタセットフラグがオフである場合（ステップS3311:No）、MPU41は、a時短残回数カウンタがセットされていることを示すa時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されているか否か判断する（ステップS3315:Yes）。

【2214】

MPU41は、a時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3315:Yes）、処理をステップS3316に移行する。一方、a時短残回数カウンタセットフラグがオフに設定されている場合（ステップS3315:No）、前述のステップS3308～S3310の処理を実行し、b時短残回数カウンタがセットされている場合には、b時短残回数カウンタをクリアすると共に、b時短残回数カウンタセットフラグをオフに設定し、当該特図変動回数管理処理を終了する。

【2215】

<ステップS3316及びS3317>

a時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3315:Yes）、MPU41は、a時短遊技状態において実行可能な残りのa時短残回数カウンタの値をクリアすると共に（ステップS3316）、a時短残回数カウンタがセットされていることを示すa時短残回数カウンタフラグをオフに設定し（ステップS3317）、前述のステップS3308～S3310の処理を実行することで、b時短残回数カウンタがセットされている場合には、b時短残回数カウンタをクリアすると共に、b時短残回数カウンタセットフラグをオフに設定し、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2216】

<ステップS3318>

変動が停止された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が確変大当たりでない場合（ステップS3311:No）、図172に示すように、天井発動残回数カウンタがセットされていることを示す天井発動残回数カウンタセットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3318）。

【2217】

MPU41は、天井発動残回数カウンタセットフラグがオンである場合（ステップS3318:Yes）、処理をステップS3319に移行し、天井発動残回数カウンタセットフラグがオフである場合（ステップS3318:No）、処理をステップS3325に移行する。

【2218】

<ステップS3319及びS3320>

天井発動残回数カウンタセットフラグがオンである場合（ステップS3312:Yes）、MPU41は、天井発動残回数カウンタの値から1減算し（ステップS3319）、減算後の天井発動残回数カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3320）。即ち、MPU41は、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させるか否かを判断する。

【2219】

MPU41は、減算後の天井発動残回数カウンタの値が0である場合（ステップS3320:Yes）、即ちb時短遊技状態を発生させる場合、処理をステップS3321に移行する。一方、MPU41は、減算後の天井発動残回数カウンタの値が0でない場合（ステップS3320:No）、即ちb時短遊技状態を発生させない場合、処理をステップS3325に移行する。

【2220】

<ステップS3321～S3324>

減算後の天井発動残回数カウンタの値が0である場合（ステップS3320:Yes）

、即ち b 時短遊技状態を発生させる場合、MPU 4 1 は、b 時短遊技状態において実行可能な残りの特図遊技回数を示す b 時短残回数カウンタの値として最大値である 1 0 0 0 をセットする（ステップ S 3 3 2 1）。即ち、本実施形態では、b 時短遊技状態において実行可能な最大の特図遊技回数として 1 0 0 0 回が設定される。そして、MPU 4 1 は、b 時短残回数カウンタがセットされていることを示す b 時短残回数カウンタセットフラグをオンに設定する（ステップ S 3 3 2 2）。

【2 2 2 1】

さらに、MPU 4 1 は、遊技状態を b 時短遊技状態に移行させるための b 時短遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップ S 3 3 2 3）。この b 時短遊技状態移行フラグは、後述の図 1 8 0 の遊技状態移行処理のステップ S 3 7 2 6 において、b 時短遊技状態に移行させるか否かを判断するために参照される。そして、MPU 4 1 は、天井発動残回数カウンタセットフラグをオフに設定し（ステップ S 3 3 2 4）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

10

【2 2 2 2】

<ステップ S 3 3 2 5>

天井発動残回数カウンタセットフラグがオフである場合（ステップ S 3 3 1 8 : N o）、又は減算後の天井発動残回数カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 3 2 0 : Y e s）、即ち b 時短遊技状態を発生させない場合、MPU 4 1 は、a 時短残回数カウンタがセットされていることを示す a 時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 3 2 5）。

20

【2 2 2 3】

MPU 4 1 は、a 時短残回数カウンタセットフラグがオンである場合（ステップ S 3 3 2 5 : Y e s）、処理をステップ S 3 3 2 6 に移行し、a 時短残回数カウンタセットフラグがオフである場合（ステップ S 3 3 2 5 : N o）、処理をステップ S 3 3 3 0 に移行する。

【2 2 2 4】

<ステップ S 3 3 2 6 及び S 3 3 2 7>

a 時短残回数カウンタセットフラグがオンである場合（ステップ S 3 3 2 5 : Y e s）、MPU 4 1 は、a 時短残回数カウンタの値から 1 減算し（ステップ S 3 3 2 6）、減算後の a 時短残回数カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 3 2 7）。即ち、MPU 4 1 は、a 時短遊技状態を終了させて通常遊技状態に移行させるタイミングであるか否かを判断する。

30

【2 2 2 5】

MPU 4 1 は、減算後の a 時短残回数カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 3 2 7 : Y e s）、即ち a 時短遊技状態を終了させて通常遊技状態に移行させるタイミングである場合、処理をステップ S 3 3 2 8 に移行する。一方、MPU 4 1 は、減算後の a 時短残回数カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 3 2 7 : N o）、即ち a 時短遊技状態を終了させるタイミングでない場合、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2 2 2 6】

<ステップ S 3 3 2 8 及び S 3 3 2 9>

減算後の a 時短残回数カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 3 2 7 : Y e s）、即ち a 時短遊技状態を終了させて通常遊技状態に移行させるタイミングである場合、MPU 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップ S 3 3 2 8）。この通常遊技状態移行フラグは、後述の図 1 8 1 の遊技状態移行処理のステップ S 3 7 3 1 において、通常遊技状態に移行させるか否かを判断するために参照される。そして、MPU 4 1 は、a 時短残回数カウンタセットフラグをオフに設定し（ステップ S 3 3 2 9）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

40

【2 2 2 7】

<ステップ S 3 3 3 0>

a 時短残回数カウンタセットフラグがオフである場合（ステップ S 3 3 2 5 : N o）、

50

MPU41は、b時短残回数カウンタがセットされていることを示すb時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3330）。

【2228】

MPU41は、b時短残回数カウンタセットフラグがオンである場合（ステップS3330:Yes）、処理をステップS3331に移行し、b時短残回数カウンタセットフラグがオフである場合（ステップS3325:No）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2229】

<ステップS3331及びS3332>

b時短残回数カウンタセットフラグがオンである場合（ステップS3330:Yes）、MPU41は、b時短残回数カウンタの値から1減算し（ステップS3331）、減算後のb時短残回数カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3332）。即ち、MPU41は、b時短遊技状態を終了させて通常遊技状態に移行させるか否かを判断する。

【2230】

MPU41は、減算後のb時短残回数カウンタの値が0である場合（ステップS3332:Yes）、即ちb時短遊技状態を終了させて通常遊技状態に移行させる場合、処理をステップS3333に移行する。一方、MPU41は、減算後のb時短残回数カウンタの値が0でない場合（ステップS3332:No）、即ちb時短遊技状態を終了させない場合、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2231】

<ステップS3333及びS3334>

減算後のb時短残回数カウンタの値が0である場合（ステップS3332:Yes）、即ちb時短遊技状態を終了させて通常遊技状態に移行させる場合、MPU41は、遊技状態を通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップS3333）。この通常遊技状態移行フラグは、後述の遊技状態移行処理の図181のステップS3731、又は図182のステップS3737において、通常遊技状態に移行させるか否かを判断するために参照される。そして、MPU41は、b時短残回数カウンタセットフラグをオフに設定し（ステップS3334）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2232】

なお、本実施形態では、天井発動残回数カウンタが、大当たり抽選の結果が通常大当たりである特図変動（特図遊技）が終了する場合にセットされるが、天井発動残回数カウンタは、大当たり抽選の結果が確変大当たりである特図変動（特図遊技）が終了する場合にもセットしてもよい。また、天井発動残回数カウンタは、特図変動（特図遊技）の終了時ではなく、通常大当たり遊技の終了時（大当たり遊技状態からa時短遊技状態への移行時）にセットしてもよい。

【2233】

〔特図大当たり遊技制御処理〕

ここで、図173～図176は、図163のメイン処理でのステップS1407-1において実行される特図大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図大当たり遊技制御処理では、可変入賞口316に設けられる開閉扉319の開閉制御などの特図大当たり遊技の進行を制御する処理が実行される。以下、図173～図176を参照しつつ、特図大当たり遊技制御処理を説明する。

【2234】

<ステップS3400>

図173に示すように、本実施形態の特図大当たり遊技制御処理では、まずMPU41は、大利益遊技としての特図大当たり遊技の実行中であることを示す特図大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3400）。特図大当たり遊技中フラグは、特図大当たり遊技を開始する場合に当該特図大当たり遊技制御処理のステップS3

10

20

30

40

50

406においてオンに設定され、特図大当たり遊技を終了する場合に当該特図大当たり遊技制御処理のステップS3452においてオフに設定される。

【2235】

MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS3400：Yes）、即ち特図大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップS3411に移行する。一方、MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3400：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS3401に移行する。

【2236】

<ステップS3401>

特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3400：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3401）。特図変動停止フラグは、特別図柄が停止表示された場合に、図168の特図遊技制御処理でのステップS1908においてオンに設定され、特別図柄の変動表示が開始された場合に、図170の特図変動開始処理でのステップS2108においてオフに設定される。即ち、MPU41は、特図大当たり遊技の実行中でない場合に開始された小利益遊技としての特図遊技が終了したか否かを判断することで、大利益遊技としての特図大当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。

【2237】

MPU41は、特図変動停止フラグがオンである場合（ステップS3401：Yes）、即ち特別図柄が停止表示されたために特図大当たり遊技を開始可能である場合、処理をステップS3402に移行する。一方、MPU41は、特図変動停止フラグがオフである場合（ステップS3401：No）、即ち特別図柄が変動表示中であるために特図大当たり遊技を開始できない場合、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

【2238】

なお、本実施形態では、特別図柄が変動表示中（小利益遊技としての特図遊技の実行中）である場合には大利益遊技としての特図大当たり遊技が開始（実行）されないが、特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）に特図大当たり遊技が開始（実行）可能としてもよい。例えば、第1特図の変動表示中に特図大当たり遊技が開始（実行）され、これとは逆に、第2特図の変動表示中に特図大当たり遊技が開始（実行）されるようにしてもよい。具体的には、前述のように第1特図と第2特図との同時変動に変更可能とすることで、第1特図遊技に対する特図大当たり遊技の実行中に第2特図遊技が実行され、第2特図遊技に対する特図大当たり遊技の実行中に第1特図遊技が実行されるようにしてもよい。さらに、第1特図遊技に対する特図大当たり遊技と、第2特図遊技に対する特図大当たり遊技とが同時実行されるようにしてもよいし、第1特図遊技に対する特図大当たり遊技及び第2特図遊技に対する特図大当たり遊技のうちの一方の特図大当たり遊技の実行中に他方の特図大当たり遊技の開始条件が成立する場合に、一方の特図大当たり遊技の終了後に他方の特図大当たり遊技が開始されるようにしてもよい。

【2239】

<ステップS3402>

特図変動停止フラグがオンである場合（ステップS3401：Yes）、即ち特別図柄が停止表示された場合、MPU41は、特図変動停止フラグをオフに設定し（ステップS3402）、処理をステップS3403に移行する。

【2240】

<ステップS3403>

ステップS3403では、MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が特図大当たりであるか否かを判断する。特別図柄が停止表示された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が特図大当たりであるか否かは、例えばRAM41に設定される特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAEに格納されてい

10

20

30

40

50

る特図大当たり抽選に対する特図当否情報に基づいて判断される。

【2241】

MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が特図大当たりである場合（ステップS3403：Yes）、処理をステップS3404に移行する。一方、MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する特図大当たり抽選の結果が特図大当たりでない場合（ステップS3403：No）、即ち特図大当たり抽選の結果が外れである場合、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

【2242】

<ステップS3404>

特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が特図大当たりである場合（ステップS3403：Yes）、MPU41は、特図大当たり遊技を開始すること、及び特図大当たり遊技の種別（確変大当たり遊技又は通常大当たり遊技）を音声ランプ制御装置5に通知する特図大当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップS3404）、処理をステップS3405に移行する。特図大当たり遊技開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図大当たり遊技開始コマンドに基づいて、特図大当たり遊技種別に応じた特図大当たり遊技演出を実行することができる。

10

【2243】

<ステップS3405>

ステップS3405では、MPU41は、大利益遊技としての特図大当たり遊技を開始することを示す特図大当たり遊技開始フラグをオンに設定し、処理をステップS3406に移行する。特図大当たり遊技開始フラグは、後述の図179の遊技状態移行処理でのステップS3701において、遊技状態を確変大当たり遊技状態又は通常大当たり遊技状態に移行するか否かを判断する場合に参照される。

20

【2244】

<ステップS3406>

ステップS3406では、MPU41は、特図大当たり遊技の実行中であることを示す特図大当たり遊技中フラグをオンに設定し、処理をステップS3407に移行する。特図大当たり遊技中フラグは、特図大当たり遊技の実行中であるか否かを判断するために、当該特図大当たり遊技制御処理のステップS3400の他、図164の普図遊技制御処理のステップS1503及びS1507、図167の普図大当たり遊技制御処理のステップS1802、図168の特図遊技制御処理のステップS1901において参照される。

30

【2245】

<ステップS3407>

ステップS3407では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタをセットし、処理をステップS3408に移行する。具体的には、MPU41は、特図大当たり抽選の結果が5R確変大当たり及び5R通常大当たりである場合にラウンド数カウンタに「5」をセットし、特図大当たり抽選の結果が16R確変大当たりである場合にラウンド数カウンタに「16」をセットする。

40

【2246】

<ステップS3408>

ステップS3408では、MPU41は、特図大当たり遊技のオープニングを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するオープニング開始コマンドを設定し、処理をステップS3409に移行する。オープニング開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、オープニング開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて特図大当たり遊技のオープニング演出を開始させることができる。

50

【2247】

<ステップ S 3 4 0 9>

ステップ S 3 4 0 9 では、M P U 4 1 は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタをセットし、処理をステップ S 3 4 1 0 に移行する。オープニング時間カウンタは、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断するために、当該特図大当たり遊技制御処理の図 1 7 4 のステップ S 3 4 1 3 において参照される。

【 2 2 4 8 】

<ステップ S 3 4 1 0>

ステップ S 3 4 1 0 では、M P U 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオンに設定し、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。オープニング中フラグは、オープニング中であるか否かを判断するために、当該特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 1 1 において参照される。

10

【 2 2 4 9 】

<ステップ S 3 4 1 1>

特図大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 3 4 0 0 : Y e s）、即ち大利益遊技としての特図大当たり遊技の実行中である場合、M P U 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 4 1 1）。

【 2 2 5 0 】

M P U 4 1 は、オープニング中フラグがオンである場合（ステップ S 3 4 1 1 : Y e s）、即ちオープニングの実行中である場合、処理を図 1 7 5 のステップ S 3 4 1 2 に移行する。一方、オープニング中フラグがオフである場合（ステップ S 3 4 1 1 : N o）、即ちオープニングの実行中でない場合、処理をステップ S 3 4 2 2 に移行する。

20

【 2 2 5 1 】

<ステップ S 3 4 1 2 及び S 3 4 1 3>

オープニング中フラグがオンである場合（ステップ S 3 4 1 1 : Y e s）、即ちオープニングの実行中である場合、図 1 7 5 に示すように、M P U 4 1 は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタの値から 1 減算し（ステップ S 3 4 1 2）、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 4 1 3）。即ち、M P U 4 1 は、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断する。

【 2 2 5 2 】

M P U 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 4 1 3 : Y e s）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 1 4 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 4 1 3 : N o）、即ちオープニングを終了するタイミングでない場合、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

30

【 2 2 5 3 】

<ステップ S 3 4 1 4 及び S 3 4 1 5>

減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 4 1 3 : Y e s）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、M P U 4 1 は、特図大当たり遊技のオープニングが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するオープニング終了コマンドを設定する（ステップ S 3 4 1 4）。オープニング終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、オープニング終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される特図大当たり遊技のオープニング演出を終了させることができる。

40

【 2 2 5 4 】

そして、M P U 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 4 1 5）、処理をステップ S 3 4 1 6 に移行する。

【 2 2 5 5 】

<ステップ S 3 4 1 6>

50

ステップ S 3 4 1 6 では、M P U 4 1 は、複数回（5 回又は 1 6 回）のラウンド遊技が実行される遊技利益としての開閉実行モードが開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する開閉実行モード開始コマンドを設定し、処理をステップ S 3 4 1 7 に移行する。開閉実行モード開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、開閉実行モード開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される特図大当たり遊技の開閉実行モード演出を開始させることができる。

【 2 2 5 6 】

<ステップ S 3 4 1 7>

ステップ S 3 4 1 7 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知するラウンド遊技開始コマンドを設定し、処理をステップ S 3 4 1 8 に移行する。ラウンド遊技開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、ラウンド遊技開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいてラウンド数表示などを含む特図大当たり遊技の各ラウンド遊技に対応するラウンド遊技演出を開始させることができる。

【 2 2 5 7 】

なお、本実施形態では、各ラウンド遊技において個別にラウンド遊技演出が実行されるが、ラウンド遊技演出は、開閉実行モードにおいて一連の 1 つの演出を実行し、各ラウンド遊技において当該ラウンド遊技のラウンド数を表示するものであってもよい。この場合、ラウンド遊技間ではインターバル演出を実行しなくてもよいし、またインターバル演出として次回に実行されるラウンド遊技のラウンド数を表示する演出を実行してもよい。

【 2 2 5 8 】

<ステップ S 3 4 1 8 及び S 3 4 1 9>

ステップ S 3 4 1 8 では、M P U 4 1 は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタから 1 減算し、さらに、開閉扉 3 1 9 を作動することによって可変入賞口 3 1 6 を開放させ（ステップ S 3 4 1 9）、処理をステップ S 3 4 2 0 に移行する。

【 2 2 5 9 】

<ステップ S 3 4 2 0 及び S 3 4 2 1>

ステップ S 3 4 2 0 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオンに設定し、さらに、ラウンド遊技の残り時間を示すラウンド遊技時間カウンタをセットし（ステップ S 3 4 2 1）、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。ラウンド遊技時間カウンタは、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 を復帰させて可変入賞口 3 1 6 を閉鎖）するタイミングであるか判断するために、当該特図大当たり遊技制御処理の図 1 7 5 のステップ S 3 4 2 4 において参照される。

【 2 2 6 0 】

<ステップ S 3 4 2 2>

図 1 7 3 に戻り、オープニング中フラグがオフである場合（ステップ S 3 4 1 1 : N o）、即ちオープニングの実行中でない場合、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 2）。即ち、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の実行中であるか否かを判断する。

【 2 2 6 1 】

M P U 4 1 は、ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 3 4 2 2 : Y e s）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、処理を図 1 7 5 のステップ S 3 4 2 3 に移行する。一方、M P U 4 1 は、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 3 4 2 2 : N o）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 3 4 3 6 に移行する。

【 2 2 6 2 】

10

20

30

40

50

<ステップ S 3 4 2 3 及び S 3 4 2 4>

ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 3 4 2 2 : Y e s）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、図 1 7 5 に示すように、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の残り時間を示すラウンド遊技時間カウンタの値から 1 減算する。そして、M P U 4 1 は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 4）。即ち、M P U 4 1 は、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングであるか否かを判断する。

【 2 2 6 3 】

M P U 4 1 は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 4 2 4 : Y e s）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 2 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 4 2 4 : N o）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 4 2 5 に移行する。

10

【 2 2 6 4 】

<ステップ S 3 4 2 5>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 4 2 4 : N o）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングでない場合、M P U 4 1 は、可変入賞口 3 1 6 に対する遊技球の入球があったか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 5）。可変入賞口 3 1 6 に対する遊技球の入球があったか否かは、図 1 7 の主タイマ割込処理でのステップ S 1 0 0 1 のセンサ検出処理において、入球センサ 3 1 6 a への遊技球の入球が検出された場合に R A M 4 1 2 に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。

20

【 2 2 6 5 】

M P U 4 1 は、可変入賞口 3 1 6 に対する遊技球の入球があった場合（ステップ S 3 4 2 5 : Y e s）、処理をステップ S 3 4 2 6 に移行し、可変入賞口 3 1 6 に対する遊技球の入球がなかった場合（ステップ S 3 4 2 5 : N o）、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

30

【 2 2 6 6 】

<ステップ S 3 4 2 6 及び S 3 4 2 7>

可変入賞口 3 1 6 に対する遊技球の入球があった場合（ステップ S 3 4 2 5 : Y e s）、M P U 4 1 は、当該ラウンド遊技での可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球数を示す入球数カウンタの値に 1 加算する（ステップ S 3 4 2 6）。そして、M P U 4 1 は、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 に達したか否か（ステップ S 3 4 2 7）、即ち可変入賞口 3 1 6 への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングであるか否かを判断する。

【 2 2 6 7 】

M P U 4 1 は、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 に達している場合（ステップ S 3 4 2 7 : Y e s）、即ち可変入賞口 3 1 6 への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 2 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 に達していない場合（ステップ S 3 4 2 7 : N o）、即ち可変入賞口 3 1 6 への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉 3 1 9 の復帰により可変入賞口を閉鎖）するタイミングでない場合、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

40

【 2 2 6 8 】

<ステップ S 3 4 2 8>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 4 2 4 : Y e s）、又は入球数カウンタの値が 1 0 に達した場合（ステップ S 3 4 2 7 : Y e s）、即ちラウンド遊技の終了タイミングである場合、M P U 4 1 は、開閉扉 3 1 9 を復帰させるこ

50

とによって可変入賞口を閉鎖し（ステップ S 3 4 2 8）、処理をステップ S 3 4 2 9に移行する。即ち、M P U 4 1 は、規定時間の経過により、又は可変入賞口 3 1 6 への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了するタイミングである場合、可変入賞口 3 1 6 を閉鎖してラウンド遊技を終了する。

【 2 2 6 9 】

<ステップ S 3 4 2 9 ~ S 3 4 3 1 >

ステップ S 3 4 2 9 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技が終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するラウンド遊技終了コマンドを設定する。ラウンド遊技終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 では、ラウンド遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される特図大当たり遊技のラウンド遊技演出を終了させることができる。

10

【 2 2 7 0 】

そして、M P U 4 1 は、当該ラウンド遊技での可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球数を示す入球数カウンタをクリアする共に（ステップ S 3 4 3 0）、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 4 3 1）、処理をステップ S 3 4 3 2 に移行する。

【 2 2 7 1 】

<ステップ S 3 4 3 2 >

ステップ S 3 4 3 2 では、M P U 4 1 は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタが 0 であるか否か（ステップ S 3 4 3 2）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである（未実行のラウンド遊技がある）か否かを判断する。

20

【 2 2 7 2 】

M P U 4 1 は、ラウンド数カウンタが 0 である場合（ステップ S 3 4 3 2 : Y e s）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 4 1 に移行する。一方、M P U 4 1 は、ラウンド数カウンタが 0 でない場合（ステップ S 3 4 3 2 : N o）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、処理をステップ S 3 4 3 3 に移行する。

【 2 2 7 3 】

<ステップ S 3 4 3 3 >

ラウンド数カウンタが 0 でない場合（ステップ S 3 4 3 2 : N o）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、M P U 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するインターバル開始コマンドを設定し（ステップ S 3 4 3 3）、処理をステップ S 3 4 3 4 に移行する。インターバル開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、インターバル開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて特図大当たり遊技のインターバル演出を開始させることができる。

30

【 2 2 7 4 】

なお、本実施形態では、ラウンド遊技間のインターバルにおいてインターバル演出が実行されるが、インターバル演出を省略し、インターバルにおいて、先に実行されたラウンド遊技に対するラウンド遊技演出を継続して実行してもよく、また次に実行されるラウンド遊技に対するラウンド遊技演出を実行してもよい。

40

【 2 2 7 5 】

<ステップ S 3 4 3 4 及び S 3 4 3 5 >

ステップ S 3 4 3 4 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオンに設定する。そして、M P U 4 1 は、インターバルの残り時間を示すインターバル時間カウンタをセットし（ステップ S 3 4 3 5）、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。インターバル時間カウンタは、インターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるかを判断するために、当該特図大当たり遊技制御処理での図 1 7 6 のステップ S 3 4 3 8 において参照される。

50

【2276】

<ステップS3436>

図173に戻り、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップS3422：No）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグがオンであるか否を判断する（ステップS3436）。インターバル中フラグは、インターバルを開始する場合に当該特図大当たり遊技制御処理での図175のステップS3434においてオンに設定され、インターバルを終了する場合に当該特図大当たり遊技制御処理での図176のステップS3440においてオフに設定される。

【2277】

MPU41は、インターバル中フラグがオンである場合（ステップS3436：Yes）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、処理を図176のステップS3437に移行する。一方、MPU41は、インターバル中フラグがオフである場合（ステップS3436：No）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、処理をステップS3445に移行する。

【2278】

<ステップS3437及びS3438>

インターバル中フラグがオンである場合（ステップS3436：Yes）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、図176に示すように、MPU41は、インターバルの残り時間を示すインターバル時間カウンタの値から1減算する（ステップS3437）。そして、MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0であるか否か（ステップS3438）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるか否かを判断する。

【2279】

MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0である場合（ステップS3438：Yes）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS3439に移行する。一方、MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3438：No）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングでない場合、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

【2280】

<ステップS3439及びS3440>

減算後のインターバル時間カウンタの値が0である場合（ステップS3438：Yes）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、MPU41は、インターバルが終了することを音声ランプ制御装置5に通知するインターバル終了コマンドを設定する。インターバル終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、インターバル終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行される大当たり遊技のインターバル演出を終了させることができる。

【2281】

そして、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオフに設定し（ステップS3440）、処理を前述のステップS3417に移行する。処理を前述の図174のステップS3417に移行することにより、ラウンド遊技の開始に関するステップS3417～S3421の処理を実行し、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

【2282】

<ステップS3441>

図175に戻り、ラウンド数カウンタが0である場合（ステップS3432：Yes）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、MPU41は、特図大当たり遊

10

20

30

40

50

技の開閉実行モードを終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知する開閉実行モード終了コマンドを設定し（ステップ S 3 4 4 1）、処理をステップ S 3 4 4 2 に移行する。開閉実行モード終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、開閉実行モード終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されると特図大当たり遊技のラウンド遊技演出（開閉実行モード演出）を終了させることができる。

【 2 2 8 3 】

<ステップ S 3 4 4 2>

ステップ S 3 4 4 2 では、M P U 4 1 は、特図大当たり遊技のエンディングを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するエンディング開始コマンドを設定し、処理をステップ S 3 4 4 3 に移行する。エンディング開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 では、エンディング開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて特図大当たり遊技のエンディング演出を開始させることができる。

10

【 2 2 8 4 】

<ステップ S 3 4 4 3 及び S 3 4 4 4>

ステップ S 3 4 4 3 では、M P U 4 1 は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオンに設定する。そして、M P U 4 1 は、エンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタをセットし（ステップ S 3 4 4 4）、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。エンディング時間カウンタは、エンディング（特図大当たり遊技）を終了するタイミングであるかを判断するために、当該特図大当たり遊技制御処理の図 1 7 6 でのステップ S 3 4 4 7 において参照される。

20

【 2 2 8 5 】

<ステップ S 3 4 4 5>

図 1 7 3 に戻り、インターバル中フラグがオフである場合（ステップ S 3 4 3 6 : N o）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 4 4 5）。

【 2 2 8 6 】

M P U 4 1 は、エンディング中フラグがオンである場合（ステップ S 3 4 4 5 : Y e s）、即ちエンディングの実行中である場合、処理を図 1 7 6 のステップ S 3 4 4 6 に移行する。一方、M P U 4 1 は、エンディング中フラグがオフである場合（ステップ S 3 4 4 5 : N o）、即ちエンディングの実行中でない場合、処理をステップ S 3 4 5 0 に移行する。

30

【 2 2 8 7 】

<ステップ S 3 4 4 6 及び S 3 4 4 7>

エンディング中フラグがオンである場合（ステップ S 3 4 4 5 : Y e s）、即ちエンディングの実行中である場合、図 1 7 6 に示すように、M P U 4 1 は、エンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタの値から 1 減算する（ステップ S 3 4 4 6）。そして、M P U 4 1 は、減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 4 4 7）。即ち、M P U 4 1 は、エンディング（特図大当たり遊技）を終了するタイミングであるか否かを判断する。

40

【 2 2 8 8 】

M P U 4 1 は、減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 4 4 7 : Y e s）、即ちエンディング（特図大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 4 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 4 4 7 : N o）、即ちエンディング（特図大当たり遊技）を終了するタイミングでない場合、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

50

【2289】

＜ステップS3448及びS3449＞

減算後のエンディング時間カウンタの値が0である場合（ステップS3447：Yes）、即ちエンディング（特図大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、MPU41は、特図大当たり遊技のエンディングを終了することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング終了コマンドを設定する。エンディング終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、エンディング終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行される特図大当たり遊技のエンディング演出を終了させることができる。

10

【2290】

そして、MPU41は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオフに設定し（ステップS3449）、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

【2291】

＜ステップS3450＞

図173に戻り、エンディング中フラグがオフである場合（ステップS3445：No）、即ちオープニング中、ラウンド遊技中、インターバル中及びエンディング中のいずれでもない場合、MPU41は、特図大当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置5に通知する特図大当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップS3450）、処理をステップS3451に移行する。特図大当たり遊技終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図大当たり遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行される特図大当たり遊技演出を終了させることができる。

20

【2292】

＜ステップS3451及びS3452＞

ステップS3451では、特図大当たり遊技が終了することを示す特図大当たり遊技終了フラグをオンに設定する。特図大当たり遊技終了フラグは、特図大当たり遊技状態から高頻度サポートモード（確変遊技状態又は時短遊技状態）に移行するか否かを判断するために、後述の図179の遊技状態移行処理のステップS3717において参照される。

30

【2293】

そして、MPU41は、特図大当たり遊技の実行中であることを示す特図大当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップS3452）、当該特図大当たり遊技制御処理を終了する。

【2294】

〔特電始動遊技制御処理〕

ここで、図177は、図163のメイン処理でのステップS1407-2において実行される特電始動遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の特電始動遊技制御処理では、第1入球手段としての特電始動口37への遊技球の入球に基づいて、第2入球手段である特電大入賞装置38が作動される小利益遊技としての特電始動遊技の進行を制御する処理が実行される。以下、図177を参照しつつ、本実施形態の特電始動遊技制御処理を説明する。

40

【2295】

＜ステップS3501＞

図177に示すように、本実施形態の特電始動遊技制御処理では、まずMPU41は、特電始動口37に遊技球が入球したか否かを判断する（ステップS3501）。特電始動口37に遊技球が入球したか否かは、図17の主タイマ割込処理でのステップS1001のセンサ検出処理において、入球センサ37aへの遊技球の入球が検出された場合にRAM412に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。

【2296】

50

MPU41は、特電始動口37に遊技球が入球した場合（ステップS3501：Yes）、処理をステップS3502に移行し、特電始動口37に遊技球が入球していない場合（ステップS3501：No）、処理をステップS3512に移行する。

【2297】

<ステップS3502>

特電始動口37に遊技球が入球した場合（ステップS3501：Yes）、MPU41は、大利益遊技である特図大当たり遊技の実行中であることを示す特図大当たり遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3502）。特図大当たり遊技中フラグは、図173の特図大当たり遊技制御処理において、特図大当たり遊技が開始される場合にステップS3406でオンに設定され、特図大当たり遊技が終了する場合にはステップS3452でオフに設定される。

10

【2298】

MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS3502：Yes）、即ち特図大当たり遊技の実行中である場合、当該特電始動遊技を終了する。つまり、本実施形態では、特図大当たり遊技の実行中には特電始動遊技が開始されない。このように、大利益遊技としての特図大当たり遊技の実行中に小利益遊技としての特電始動遊技が開始されないようにすることで、小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技が開始されることが防止され、小利益遊技の実行によって大利益遊技によって得られる利益が阻害されることが防止される。

【2299】

ここで、本実施形態では、特図大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合に、b時短遊技状態を発生させるまでに必要な残りの特図遊技回数（天井発動残回数カウンタの値）が最大値である1000にセットされ、通常大当たり遊技の終了後にa時短遊技状態が発生される。即ち、特図大当たり遊技の終了後は、天井発動残回数カウンタの値が最大値である1000にセットされたa時短遊技状態が発生される。

20

【2300】

一方、本実施形態では、天井発動残回数カウンタの値は、通常大当たり時だけでなく、特電始動口37への遊技球の入球を契機とし、特電始動遊技において特電V入賞口383に遊技球が入球することに基づいて実行されるV入賞大当たり遊技の終了後に最大値である1000にセットされる。つまり、特電始動遊技やV入賞大当たり遊技は、天井発動残回数カウンタの値を最大値である1000にセットするために実行される。

30

【2301】

そうすると、天井発動残回数カウンタの値が最大値である1000にセットされたa時短遊技状態が発生されることが予定されている状況、即ち特図大当たり遊技の実行中である場合においては、天井発動残回数カウンタの値を最大値である1000にセットするための特電始動遊技やV入賞大当たり遊技を実行することの意味がない。それどころか、特図大当たり遊技の実行中である場合に、特電始動遊技や特図大当たり遊技を開始することは、特電始動遊技を実行する処理、V入賞大当たり遊技を実行する処理、天井発動残回数カウンタの値を最大値である1000にセットする処理を無駄に実行する必要があるために、遊技の進行に必要な処理が複雑化するというデメリットがある。

40

【2302】

これに対して、本実施形態では、天井発動残回数カウンタの値が最大値である1000にセットされたa時短遊技状態が発生されることが予定されている特図大当たり遊技の実行中には、特電始動遊技が開始されない。そのため、特電始動遊技を実行する処理、V入賞大当たり遊技を実行する処理、天井発動残回数カウンタの値を最大値である1000にセットする処理が無駄に実行されることが防止され、遊技の進行に必要な処理が複雑化することが防止される。

【2303】

一方、MPU41は、特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3502：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS3503に移

50

行する。

【2304】

<ステップS3503>

特図大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3502：No）、即ち特図大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、小利益遊技であるV入賞大当たり遊技の実行中であることを示すV入賞大当たり遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3503）。V入賞大当たり遊技中フラグは、後述の図178のV入賞大当たり遊技制御処理において、V入賞大当たり遊技が開始される場合にステップS3606でオンに設定され、V入賞大当たり遊技が終了する場合にステップS3620でオフに設定される。

10

【2305】

MPU41は、V入賞大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS3503：Yes）、即ちV入賞大当たり遊技の実行中である場合、当該特電始動遊技を終了する。即ち、本実施形態では、V入賞大当たり遊技の実行中には特電始動遊技が開始されない。一方、MPU41は、V入賞大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3503：No）、即ちV入賞大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS3504に移行する。

【2306】

<ステップS3504>

V入賞大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS3503：No）、即ちV入賞大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、小利益遊技である特電始動遊技の実行中であることを示す特電始動遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3504）。特電始動遊技中フラグは、後述の当該特電始動遊技制御処理において、特電始動遊技が開始される場合にステップS3507でオンに設定され、特電始動遊技が終了する場合にステップS3516でオフに設定される。

20

【2307】

MPU41は、特電始動遊技中フラグがオンである場合（ステップS3504：Yes）、即ち特電始動遊技の実行中である場合、当該特電始動遊技を終了する。即ち、本実施形態では、特電始動遊技の実行中には特電始動遊技が開始されない。一方、MPU41は、特電始動遊技中フラグがオフである場合（ステップS3504：No）、即ち特電始動遊技の実行中でない場合、処理をステップS3505に移行する。

30

【2308】

<ステップS3505>

特電始動遊技中フラグがオフである場合（ステップS3504：No）、即ち特電始動遊技の実行中でない場合、MPU41は、第2入球手段である特電大入賞装置38の開閉手段である特電開閉扉382を作動させることによって特電大入賞口381が閉状態から開状態に切り替えられる（ステップS3505）。これにより、特電大入賞口381に遊技球が入球可能な状態とされる。また、MPU41は、第2入球手段である特電大入賞装置38の開閉手段であるV入賞口開閉扉385を作動させることによって特定入球領域である特電V入賞口383が閉状態から開状態に切り替えられる（ステップS3506）。これにより、特電V入賞口383に遊技球が入球可能な状態とされ、小利益遊技であるV入賞大当たり遊技を開始させることが可能になる。

40

【2309】

さらに、MPU41は、特電始動遊技の実行中であることを示す特電始動遊技中フラグをオンに設定し（ステップS3507）、処理をステップS3508に移行する。特電始動遊技中フラグは、特電始動遊技の実行中であるか否かを判断するために、当該特電始動遊技制御処理のステップS3504又はS3515、後述の図178のV入賞大当たり遊技制御処理のステップS3802で参照される。

【2310】

このように、特電始動遊技は、特図大当たり遊技、V入賞大当たり遊技、又は特電始動

50

遊技の実行中には開始されず、V入賞大当たり遊技も特図大当たり遊技、V入賞大当たり遊技、又は特電始動遊技の実行中には開始されない。一方、特電始動遊技及びV入賞大当たり遊技は、特図遊技の実行中には開始され得る。これにより、特図遊技の終了を待たずして特電始動遊技及びV入賞大当たり遊技を開始させることができるため、b時短遊技状態が発生させるまでの特図遊技の実行回数をリセットしたい場合に、即座にリセットすることができる。例えば、特図遊技を実行する権利の保留がある場合や、リーチ演出が実行される場合には、全ての特図遊技が終了するまでに多くの時間を費やすことがあるが、そのような場合でも即座にb時短遊技状態が発生させるまでの特図遊技の実行回数をリセットすることができる。また、b時短遊技状態が発生させるまでの特図遊技の実行回数を即座にリセットすることで、特図遊技の実行中にリセットされた場合には当該特図遊技もリセット後に実行された特図遊技の回数としてカウントすることができ、さらには特図遊技を実行する権利の保留がある場合には、当該リセット後に実行される保留に係る特図遊技の回数も、リセット後に実行された特図遊技の回数としてカウントすることができる。そのため、例えばb時短遊技状態が発生したことでb時短遊技状態が発生しない状態において、遊技者によってb時短遊技状態が発生させるまでの特図遊技の実行回数がリセットされて新たにb時短遊技状態が発生可能な状態となった場合に、遊技者が発生させた特図遊技を実行する権利を無駄なく有効に、b時短遊技状態が発生させるために必要な特図遊技回数としてカウントすることができる。

10

【2311】

<ステップS3508>

20

ステップS3508では、MPU41は、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bが第1補助状態制御である第2利益遊技状態制御としての高頻度サポートモード（確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態）であるか否かを判断する（ステップS3508）。高頻度サポートであるか否かは、確変遊技状態フラグ、a時短遊技状態フラグ及びb時短遊技状態フラグのいずれかがオンに設定されているか否かによって判断される。

【2312】

MPU41は、高頻度サポートモードである場合（ステップS3508：Yes）、即ち確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態である場合、処理をステップS3509に移行し、高頻度サポートモードでない場合（ステップS3508：No）、処理をステップS3509に移行する。

30

【2313】

<ステップS3509>

高頻度サポートモードである場合（ステップS3508：Yes）、即ち確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態である場合、MPU41は、特電開閉扉382を復帰させて特電大入賞口381を開状態から閉状態に切り替えるまでの残り時間を示す特電作動時間カウンタをセットし（ステップS3509）、当該特電始動遊技制御処理を終了する。具体的には、MPU41は、特電作動時間カウンタの値として、高頻度サポートモード特電始動種別振分テーブル（図162（C）参照）に基づいて設定される時間に対応した値、即ち0.1秒に対応した値を設定する。

40

【2314】

なお、特電作動時間カウンタは、特電大入賞口381を閉鎖するタイミングであるか否かを判断するために、当該特電始動遊技制御処理のステップS3514において参照される。

【2315】

<ステップS3510>

高頻度サポートモードでない場合（ステップS3508：No）、MPU41は、低頻度サポートモード（通常遊技状態）であるか否かを判断する（ステップS3510）。即ち、MPU41は、第2入球手段の開閉手段である電動役物315bが第2補助状態制御である第1利益遊技状態制御としての低頻度サポートモードである通常遊技状態である場

50

合、処理をステップ S 1 7 0 3 に移行する。

【 2 3 1 6 】

M P U 4 1 は、低頻度サポートモードである場合（ステップ S 3 5 1 0 : Y e s ）、即ち通常遊技状態である場合、処理をステップ S 3 5 1 1 に移行し、低頻度サポートモードでない場合（ステップ S 3 5 1 0 : N o ）、当該特電始動遊技制御処理を終了する。

【 2 3 1 7 】

<ステップ S 3 5 1 1 >

低頻度サポートモードである場合（ステップ S 3 5 1 0 : Y e s ）、即ち通常遊技状態である場合、M P U 4 1 は、特電開閉扉 3 8 2 を復帰させて特電大入賞口 3 8 1 を開状態から閉状態に切り替えるまでの残り時間を示す特電作動時間カウンタをセットし（ステップ S 3 5 1 1 ）、当該特電始動遊技制御処理を終了する。具体的には、M P U 4 1 は、特電作動時間カウンタの値として、低頻度サポートモード特電始動種別振分テーブル（図 1 6 2 （ B ）参照）に基づいて設定される時間に対応した値、即ち 1 . 2 秒に対応した値を設定する。

【 2 3 1 8 】

なお、特電作動時間カウンタは、特電大入賞口 3 8 1 を閉鎖するタイミングであるか否かを判断するために、当該特電始動遊技制御処理のステップ S 3 5 1 4 において参照される。

【 2 3 1 9 】

<ステップ S 3 5 1 2 >

特電始動口 3 7 に遊技球が入球していない場合（ステップ S 3 5 0 1 : N o ）、M P U 4 1 は、特電始動遊技の実行中であることを示す特電始動遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 5 1 2 ）。即ち、M P U 4 1 は、特電始動遊技の実行中であるか否かを判断する。なお、特電始動遊技中フラグは、当該特電始動遊技制御処理において、特電始動遊技が開始される場合にステップ S 3 5 0 7 においてオンに設定され、特電始動遊技が終了される場合にステップ S 3 5 1 6 においてオフに設定される。

【 2 3 2 0 】

M P U 4 1 は、特電始動遊技中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 5 1 2 : Y e s ）、即ち特電始動遊技の実行中である場合、処理をステップ S 3 5 1 3 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特電始動遊技中フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 5 1 2 : N o ）、即ち特電始動遊技の実行中でない場合、当該特電始動遊技制御処理を終了する。

【 2 3 2 1 】

<ステップ S 3 5 1 3 及び S 3 5 1 4 >

特電始動遊技中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 5 1 2 : Y e s ）、即ち特電始動遊技の実行中である場合、M P U 4 1 は、特電開閉扉 3 8 2 を復帰させて特電大入賞口 3 8 1 を開状態から閉状態に切り替えるまでの残り時間を示す特電作動時間カウンタの値から 1 減算し（ステップ S 3 5 1 3 ）、減算後の特電作動時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 5 1 4 ）。即ち、M P U 4 1 は、特電開閉扉 3 8 2 を復帰させて特電大入賞口 3 8 1 を開状態から閉状態に切り替えるタイミングであるか否かを判断する。

【 2 3 2 2 】

M P U 4 1 は、減算後の特電作動時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 5 1 4 : Y e s ）、即ち特電開閉扉 3 8 2 を復帰させて特電大入賞口 3 8 1 を開状態から閉状態に切り替えるタイミングである場合、処理をステップ S 3 5 1 9 に移行する。一方、減算後の特電作動時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 5 1 4 : N o ）、即ち特電開閉扉 3 8 2 を復帰させて特電大入賞口 3 8 1 を開状態から閉状態に切り替えるタイミングでない場合、処理をステップ S 3 5 1 5 に移行する。

【 2 3 2 3 】

<ステップ S 3 5 1 5 >

減算後の特電作動時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3514:No）、即ち特電開閉扉382を復帰させて特電大入賞口381を開状態から閉状態に切り替えるタイミングでない場合、特電V入賞口383に遊技球が入球したことを示すV入賞口フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3515）。V入賞口フラグは、特電V入賞口383に遊技球が入球した場合に、当該特電始動遊技制御処理のステップS3517においてオンに設定される。

【2324】

MPU41は、特電V入賞口383に遊技球が入球したことを示すV入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップS3515:Yes）、当該特電始動遊技制御処理を終了し、V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS3515:No）、処理をステップS3516に移行する。

10

【2325】

<ステップS3516>

V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS3515:No）、MPU41は、特電V入賞口383に遊技球が入球したか否かを判断する（ステップS3516）。特電V入賞口383に遊技球が入球したか否かは、図17の主タイマ割込処理でのステップS1001のセンサ検出処理において、入球センサ383a（図157参照）への遊技球の入球が検出された場合にRAM412に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。

【2326】

MPU41は、特電V入賞口383に遊技球が入球した場合（ステップS3516:Yes）、処理をステップS3517に移行し、特電V入賞口383に遊技球が入球していない場合（ステップS3516:No）、当該特電始動遊技制御処理を終了する。

20

【2327】

<ステップS3517及びS3518>

特電V入賞口383に遊技球が入球した場合（ステップS3516:Yes）、MPU41は、特電V入賞口383に遊技球が入球したことを示すV入賞フラグをオンに設定すると共に（ステップS3517）、特電V入賞口383に遊技球が入球したことを音声ランプ制御装置5に通知するためのV入賞コマンドを設定し（ステップS3518）、当該特電始動遊技制御処理を終了する。

30

【2328】

なお、V入賞コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これに対して、音声ランプ制御装置5では、V入賞コマンドに基づいて、図柄表示部341などに対して、特図始動遊技において特電V入賞口383に遊技球が入球したことを遊技者に明示する演出を実行させる。

【2329】

<ステップS3519～S3521>

減算後の特電作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS3514:Yes）、即ち特電開閉扉382を復帰させて特電大入賞口381を開状態から閉状態に切り替えるタイミングである場合、MPU41は、特電開閉扉382を復帰させて特電大入賞口381を開状態から閉状態に切り替ると共に（ステップS3519）、V入賞口開閉扉385を復帰させてV入賞口383を開状態から閉状態に切り替る（ステップS3520）。さらに、MPU41は、特電始動遊技の実行中であることを示す特電始動遊技中フラグをオフに設定し（ステップS3521）、当該特電始動遊技制御処理を終了する。

40

【2330】

[V入賞大当たり遊技制御処理]

ここで、図178は、図163のメイン処理でのステップS1407-3において実行されるV入賞大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態のV入賞大当たり遊技制御処理では、第2入球手段である特電大入賞装置38が作動さ

50

れる小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技の進行を制御する処理が実行される。以下、図178を参照しつつ、本実施形態のV入賞大当たり遊技制御処理を説明する。

【2331】

<ステップS3601>

図178に示すように、本実施形態のV入賞大当たり遊技制御処理では、まずMPU41は、V入賞大当たり遊技が実行されていることを示すV入賞大当たり遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS3601)。V入賞大当たり遊技中フラグは、V入賞大当たり遊技が開始される場合に当該V入賞大当たり遊技制御処理のステップS3606においてオンに設定され、V入賞大当たり遊技が終了される場合に当該V入賞大当たり遊技制御処理のステップS3620においてオフに設定される。

10

【2332】

MPU41は、V入賞大当たり遊技中フラグがオンに設定されている場合(ステップS3601: Yes)、処理をステップS3611に移行し、V入賞大当たり遊技中フラグがオフに設定されている場合(ステップS3601: No)、処理をステップS3602に移行する。

【2333】

<ステップS3602>

V入賞大当たり遊技中フラグがオフに設定されている場合(ステップS3601: Yes)、MPU41は、小利益遊技としての特電始動遊技が実行されていることを示す特電始動遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS3602)。特電始動遊技中フラグは、特電始動遊技が開始される場合に、図177の特電始動遊技制御処理のステップS3507においてオンに設定され、特電始動遊技が終了される場合に、図177の特電始動遊技制御処理のステップS3521においてオフに設定される。

20

【2334】

MPU41は、特電始動遊技中フラグがオンに設定されている場合(ステップS3602: Yes)、即ち特電始動遊技の実行中である場合には、V入賞大当たり遊技を開始することなく、当該V入賞大当たり遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、特電始動遊技中フラグがオフに設定されている場合(ステップS3602: No)、即ち特電始動遊技の実行中でない場合には、処理をステップS3603に移行する。

【2335】

<ステップS3603>

特電始動遊技中フラグがオフに設定されている場合(ステップS3602: Yes)、MPU41は、小利益遊技としての特電始動遊技において第2入球手段である特電大入賞装置38の特電V入賞口383に遊技球が入球したことを示すV入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS3603)。V入賞フラグは、特電始動遊技において特電V入賞口383に遊技球が入球した場合に、図177の特電始動遊技制御処理のステップS3517においてオンに設定される。

30

【2336】

MPU41は、V入賞フラグがオンに設定されている場合(ステップS3603: Yes)、処理をステップS3604に移行し、V入賞フラグがオフに設定されている場合(ステップS3603: No)、当該V入賞大当たり遊技制御処理を終了する。

40

【2337】

<ステップS3604~S3607>

V入賞フラグがオンに設定されている場合(ステップS3603: Yes)、MPU41は、V入賞大当たり遊技が開始されることを示すV入賞大当たり遊技開始フラグをオンに設定する(ステップS3604)。

【2338】

なお、V入賞大当たり遊技開始フラグは、図183の遊技状態移行処理のステップS741においてV入賞大当たり遊技状態を発生させる否かを判断するために参照される。

【2339】

50

そして、MPU41は、V入賞大当たり遊技において実行される残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタの値として2をセットする（ステップS3605）。即ち、本実施形態のV入賞大当たり遊技では、前述のように2回のラウンド遊技が実行される（図162（D）参照）。

【2340】

また、MPU41は、V入賞大当たり遊技が実行されていることを示すV入賞大当たり遊技中フラグをオンに設定すると共に（ステップS3606）、特電始動遊技において特電V入賞口383に遊技球が入球したことを示すV入賞フラグをオフに設定し（ステップS3607）、処理をステップS3608に移行する。

【2341】

<ステップS3608～S3610>

ステップS3608では、MPU41は、第2入球手段である特電大入賞装置38の特電開閉扉382を作動させて特電大入賞口381を閉状態から開状態に切り替えて特電大入賞口381を開放し（ステップS3608）、さらにV入賞大当たり遊技において実行される残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタの値から1減算する（ステップS3609）。そして、MPU41は、特電大入賞口381の残りの開放時間を示す特電大入賞口開放時間カウンタをセットし（ステップS3610）、当該V入賞大当たり遊技制御処理を終了する。なお、本実施形態では、特電大入賞口開放時間カウンタの値として、30秒に対応する値がセットされる（図162（D）参照）。

【2342】

<ステップS3611及びS3612>

V入賞大当たり遊技中フラグがオンに設定されている場合（ステップS3601: Yes）、即ちV入賞大当たり遊技の実行中である場合、MPU41は、特電大入賞口381の残りの開放時間を示す特電大入賞口開放時間カウンタの値から1減算し（ステップS3611）、減算後の特電大入賞口開放時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3612）。即ち、MPU41は、特電大入賞口381の最大開放時間が経過しているか否かを判断する。

【2343】

MPU41は、減算後の特電大入賞口開放時間カウンタの値が0である場合（ステップS3612: Yes）、即ち特電大入賞口381の最大開放時間が経過している場合、処理をステップS3618に移行する。一方、MPU41は、減算後の特電大入賞口開放時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3612: No）、即ち特電大入賞口381の最大開放時間が経過していない場合、処理をステップS3613に移行する。

【2344】

<ステップS3613>

減算後の特電大入賞口開放時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3612: No）、即ち特電大入賞口381の最大開放時間が経過していない場合、MPU41は、第2入球手段である特電大入賞装置38の特電通常入賞口384に遊技球が入球したか否かを判断する（ステップS3613）。特電通常入賞口384に遊技球が入球したか否かは、図17の主タイマ割込処理でのステップS1001のセンサ検出処理において、特電通常入賞口384に設けられる入球センサ384a（図157（A）参照）への遊技球の入球が検出された場合にRAM412に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。

【2345】

なお、V入賞大当たり遊技では、特電始動遊技とは異なり、特電大入賞装置38の特電V入賞口383が開放されず、特電V入賞口383には遊技球が入球されない。そのため、当該V入賞大当たり遊技制御処理では、特電V入賞口383への遊技球の入球を確認する処理は実行されない。

【2346】

MPU41は、特電通常入賞口384に遊技球が入球した場合（ステップS3613: Yes）、処理をステップS3614に移行し、特電通常入賞口384に遊技球が入球し

10

20

30

40

50

ていない場合（ステップ S 3 6 1 3: N o）、当該 V 入賞大当たり遊技制御処理を終了する。

【 2 3 4 7 】

<ステップ S 3 6 1 4 及び S 3 6 1 5>

特電通常入賞口 3 8 4 に遊技球が入球した場合（ステップ S 3 6 1 3: Y e s）、M P U 4 1 は、特電通常入賞口 3 8 4 への遊技球の入球数を示す入球数カウンタの値に 1 加算する（ステップ S 3 6 1 4）。そして、M P U 4 1 は、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 6 1 5）。即ち、V 入賞大当たり遊技のラウンド遊技に対して設定される特電通常入賞口 3 8 4 への最大入球数の遊技球が特電通常入賞口 3 8 4 に入球したか否かを判断する。

10

【 2 3 4 8 】

M P U 4 1 は、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 である場合（ステップ S 3 6 1 4: Y e s）、V 入賞大当たり遊技のラウンド遊技に対して設定される特電通常入賞口 3 8 4 への最大入球数の遊技球が特電通常入賞口 3 8 4 に入球した場合、処理をステップ S 3 6 1 6 に移行する。一方、加算後の入球数カウンタの値が 1 0 でない場合（ステップ S 3 6 1 5: N o）、当該 V 入賞大当たり遊技制御処理を終了する。

【 2 3 4 9 】

<ステップ S 3 6 1 6 及び S 3 6 1 7>

加算後の入球数カウンタの値が 1 0 である場合（ステップ S 3 6 1 4: Y e s）、V 入賞大当たり遊技のラウンド遊技に対して設定される特電通常入賞口 3 8 4 への最大入球数の遊技球が特電通常入賞口 3 8 4 に入球した場合、M P U 4 1 は、入球数カウンタの値をクリアすると共に（ステップ S 3 6 1 6）、特電大入賞口 3 8 1 の残りの開放時間を示す特電大入賞口開放時間カウンタをクリアし（ステップ S 3 6 1 7）、処理をステップ S 3 6 1 8 に移行する。

20

【 2 3 5 0 】

<ステップ S 3 6 1 8>

ステップ S 3 6 1 8 では、M P U 4 1 は、第 2 入球手段である特電大入賞装置 3 8 の特電開閉扉 3 8 2 を復帰させて特電大入賞口 3 8 1 を開状態から閉状態に切り替えて特電大入賞口 3 8 1 を閉鎖し（ステップ S 3 6 1 8）、処理をステップ S 3 6 1 9 に移行する。即ち、M P U 4 1 は、減算後の特電大入賞口開放時間カウンタの値が 0 である場合（特電大入賞口 3 8 1 の最大開放時間が経過している場合）（ステップ S 3 6 1 2: Y e s）、又は特電通常入賞口 3 8 4 への遊技球の入球により入球数カウンタの値が 1 0 である場合（V 入賞大当たり遊技のラウンド遊技に対して設定される特電通常入賞口 3 8 4 への最大入球数の遊技球が特電通常入賞口 3 8 4 に入球した場合）（ステップ S 3 6 1 4: Y e s）、特電大入賞口 3 8 1 を閉鎖することで、V 入賞大当たり遊技のラウンド遊技を終了する。

30

【 2 3 5 1 】

<ステップ S 3 6 1 9>

ステップ S 3 6 1 9 では、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技において実行される残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタの値が 0 であるか否か、即ち V 入賞大当たり遊技を終了するタイミングであるか否かを判断する。

40

【 2 3 5 2 】

M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技において実行される残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 6 1 9: Y e s）、即ち V 入賞大当たり遊技を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 6 2 0 に移行する。

【 2 3 5 3 】

一方、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技において実行される残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 6 1 9: N o）、即ち V 入賞大当たり遊技を終了するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 6 0 8 に移行し、次のラウンド遊技を実行する。

50

【2354】

<ステップS3620及びS3621>

V入賞大当たり遊技において実行される残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタの値が0である場合（ステップS3619:Yes）、即ちV入賞大当たり遊技を終了するタイミングである場合、MPU41は、V入賞大当たり遊技が実行されていることを示すV入賞大当たり遊技中フラグをオフに設定すると共に（ステップS3620）、V入賞大当たり遊技が終了することを示すV入賞大当たり遊技終了フラグをオンに設定し（ステップS3621）、当該V入賞大当たり遊技制御処理を終了する。

【2355】

[遊技状態移行処理]

ここで、図179～図183は、図163のメイン処理のステップS1408で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の遊技状態移行処理では、各種遊技状態（通常遊技状態、時短遊技状態、確変遊技状態、確変大当たり遊技状態及び通常大当たり遊技状態）の移行を制御する処理が実行される。以下、図179～図183を参照しつつ、本実施形態の遊技状態移行処理を説明する。

【2356】

<ステップS3701>

図179に示すように、本実施形態の遊技状態移行処理では、まずMPU41は、特図大当たり遊技を開始することを示す特図大当たり遊技開始フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3701）。特図大当たり遊技開始フラグは、図173の特図大当たり遊技制御処理において、特図大当たり遊技が開始される場合にステップS3405においてオンに設定され、特図大当たり遊技が終了される場合にステップS3451においてオフに設定される。

【2357】

MPU41は、特図大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3701:Yes）、即ち特図大当たり遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS3702に移行する。一方、MPU41は、特図大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3701:No）、即ち特図大当たり遊技を開始するタイミングでない場合、処理をステップS3716に移行する。

【2358】

<ステップS3702及びS3703>

特図大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3701:Yes）、即ち特図大当たり遊技を開始する場合、MPU41は、特図遊技状態であることを示す特図大当たり遊技状態フラグをオンに設定し（ステップS3702）。特図大当たり遊技状態フラグは、当該遊技状態移行処理の図179のステップS3716において、特図大当たり遊技状態であるか否かを判断するために参照される。

【2359】

また、MPU41は、外部出力端子板101の1番端子から特別信号としての大当たり信号1（図158（A）参照）の出力を開始させる大当たり信号1出力開始フラグをオンに設定する（ステップS3703）。大当たり信号1出力開始フラグは、図184の信号出力処理のステップS3801において、大当たり信号1の出力を開始させるか否かを判断するために参照される。

【2360】

そして、MPU41は、特図大当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS3704）、処理をステップS3705に移行する。

【2361】

<ステップS3705>

ステップS3705では、MPU41は、開始する特図大当たり遊技が確変大当たり遊技であるか否かを判断する。開始する特図大当たり遊技が確変大当たり遊技であるか否かは、RAM412に設定される特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAE（図8

10

20

30

40

50

参照)に格納された特図当否情報に基づいて判断される。

【2362】

MPU41は、確変大当たり遊技を開始する場合(ステップS3705:Yes)、処理をステップS3706に移行する。一方、確変大当たり遊技を開始しない場合(ステップS3705:No)、即ち通常大当たり遊技を開始する場合、処理をステップS3707に移行する。

【2363】

<ステップS3706>

確変大当たり遊技を開始する場合(ステップS3705:Yes)、MPU41は、当該確変大当たり遊技の終了後に確変大当たり遊技状態に移行させる確変遊技状態移行フラグをオンに設定し(ステップS3706)、処理をステップS3707に移行する。確変遊技状態移行フラグは、特図大当たり遊技を終了する場合に、遊技状態を確変遊技状態及び通常遊技状態のいずれに移行するか否かを判断するために、当該遊技状態移行処理の図179のステップS3721において参照される。

【2364】

<ステップS3707及びS3708>

ステップS3707では、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。通常遊技状態フラグは、他の遊技状態から通常遊技状態に移行する場合にオンに設定され(当該遊技状態移行処理の図181のステップS3732又は図182のステップS3738)、通常遊技状態から他の遊技状態に移行される場合にオフに設定される(当該遊技状態移行処理の図179のステップS3708又は図180のステップS3728)。

【2365】

MPU41は、通常遊技状態フラグがオンである場合(ステップS3707:Yes)、即ち通常遊技状態である場合、通常遊技状態フラグをオフに設定し(ステップS3708)、処理をステップS3711に移行する。一方、MPU41は、通常遊技状態フラグがオフである場合(ステップS3707:No)、即ち通常遊技状態でない高頻度サポートモード(確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態)である場合、処理をステップS3709に移行する。

【2366】

<ステップS3709及びS3710>

通常遊技状態フラグがオフである場合(ステップS3707:No)、即ち第2補助状態制御である高頻度サポートモードの通常遊技状態でなく、第1利益遊技状態制御である高頻度サポートモード(確変遊技状態、a時短遊技状態又はb時短遊技状態)である場合、MPU41は、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する(ステップS3709)。b時短遊技状態フラグは、通常遊技状態からb時短遊技状態に移行する場合にオンに設定され(当該遊技状態移行処理の図180のステップS3727)、b時短遊技状態から通常遊技状態又は特図大当たり遊技状態に移行する場合にオフに設定される(当該遊技状態移行処理の図179のステップS3710又は図182のステップS3739)。

【2367】

MPU41は、b時短遊技状態フラグがオンである場合(ステップS3709:Yes)、即ちb時短遊技状態である場合、b時短遊技状態フラグをオフに設定し(ステップS3710)、処理をステップS3711に移行する。一方、MPU41は、b時短遊技状態フラグがオフである場合(ステップS3709:No)、即ちb時短遊技状態でない場合、処理をステップS3712に移行する。

【2368】

<ステップS3711>

ステップS3711では、MPU41は、外部出力端子板101の2番端子から大当たり信号2(図158(A)参照)の出力を開始させる大当たり信号2出力開始フラグをオ

10

20

30

40

50

ンに設定する。大当たり信号2出力開始フラグは、図184の信号出力処理のステップS3804において、大当たり信号2の出力を開始させるか否かを判断するために参照される。

【2369】

ここで、ステップS3711には、通常遊技状態又はb時短遊技状態において開始された特図遊技が、特図大当たり抽選の結果が大当たりであることを報知するものである場合に移行される。つまり、本実施形態では、通常遊技状態又はb時短遊技状態において開始された特図遊技が、特図大当たり抽選の結果が大当たりであることを報知するものである場合、当該特図遊技の終了時（特図大当たり遊技の開始時）に大当たり信号2の出力を開始させる。

10

【2370】

なお、確変遊技状態及びa時短遊技状態では、大当たり信号2の出力中であるため（図158（B）参照）、確変遊技状態又はa時短遊技状態において開始された特図遊技が、特図大当たり抽選の結果が大当たりであることを報知するものである場合であっても、当該特図遊技の終了時（特図大当たり遊技の開始時）に大当たり信号2の出力を開始させることはない。

【2371】

<ステップS3712及びS3713>

b時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3709：No）、即ちb時短遊技状態でない場合、MPU41は、確変遊技状態フラグがオンであるか否か、即ち確変遊技状態であるか否かを判断する。確変遊技状態フラグは、大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行される場合にオンに設定され（当該遊技状態移行処理の図179のステップS3722参照）、確変遊技状態から大当たり遊技状態に移行される場合にオフに設定される（当該遊技状態移行処理の図179のステップS3713参照）。

20

【2372】

MPU41は、確変遊技状態フラグがオンである場合（ステップS3712：Yes）、即ち確変遊技状態である場合、確変遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3713）、処理を図183のステップS3741に移行する。一方、MPU41は、確変遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3712：No）、即ち確変遊技状態でない場合、処理をステップS3714に移行する。

30

【2373】

<ステップS3714及びS3715>

確変遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3712：No）、即ち確変遊技状態でない場合、MPU41は、a時短遊技状態フラグがオンであるか否か（ステップS3714）、即ちa時短遊技状態であるか否かを判断する。a時短遊技状態フラグは、大当たり遊技状態からa時短遊技状態に移行される場合にオンに設定され（当該遊技状態移行処理の図179のステップS3724参照）、a時短遊技状態から大当たり遊技状態又は通常遊技状態に移行される場合にオフに設定される（当該遊技状態移行処理の図179のステップS3715又は図181のステップS3734参照）。

40

【2374】

MPU41は、a時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS3714：Yes）、即ちa時短遊技状態である場合、a時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3715）、処理を図183のステップS3741に移行する。一方、MPU41は、a時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3714：No）、即ちa時短遊技状態でない場合、処理を図183のステップS3741に移行する。

【2375】

<ステップS3716>

特図大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3701：No）、即ち特図大当たり遊技を開始するタイミングでない場合、MPU41は、特図大当たり遊技状態であることを示す特図大当たり遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ

50

S 3 7 1 6)。特図大当たり遊技状態フラグは、特図大当たり遊技状態に移行される場合に、当該遊技状態移行処理の図 1 7 9 のステップ S 3 7 0 2 においてオンに設定される。

【2 3 7 6】

M P U 4 1 は、特図大当たり遊技状態フラグがオンである場合（ステップ S 3 7 1 6 : Y e s）、即ち特図大当たり遊技状態である場合（特図大当たり遊技の実行中である場合）、処理をステップ S 3 7 1 7 に移行する。一方、特図大当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップ S 3 7 1 6 : N o）、即ち特図大当たり遊技状態でない場合（特図大当たり遊技の実行中でない場合）、処理を図 1 8 0 のステップ S 3 7 2 5 に移行する。

【2 3 7 7】

<ステップ S 3 7 1 7>

特図大当たり遊技状態フラグがオンである場合（ステップ S 3 7 1 6 : Y e s）、即ち特図大当たり遊技状態である場合（特図大当たり遊技の実行中である場合）、M P U 4 1 は、特図大当たり遊技を終了することを示す特図大当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 7 1 7）。特図大当たり遊技終了フラグは、特図大当たり遊技が終了する場合に、図 1 7 3 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 5 1 においてオンに設定される。

【2 3 7 8】

M P U 4 1 は、特図大当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップ S 3 7 1 7 : Y e s）、即ち特図大当たり遊技を終了する場合、処理をステップ S 3 7 1 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特図大当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップ S 3 7 1 7 : N o）、即ち特図大当たり遊技を終了するタイミングでない場合、処理を図 1 8 3 のステップ S 3 7 4 1 に移行する。

【2 3 7 9】

<ステップ S 3 7 1 8 ~ S 3 7 2 0>

特図大当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップ S 3 7 1 7 : Y e s）、即ち特図大当たり遊技を終了する場合、M P U 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 1 番端子から出力中の大当たり信号 1（図 1 5 8（A）参照）の出力を停止させる大当たり信号 1 出力停止フラグをオンに設定する（ステップ S 3 7 1 8）。大当たり信号 1 出力停止フラグは、図 1 8 4 の信号出力処理のステップ S 3 8 0 7 において、大当たり信号 1 の出力を停止させるか否かを判断するために参照される。

【2 3 8 0】

そして、M P U 4 1 は、特図大当たり遊技状態であることを示す特図大当たり遊技状態フラグをオフに設定すると共に（ステップ S 3 7 1 9）、特図大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップ S 3 7 2 0）、処理をステップ S 3 7 2 1 に移行する。

【2 3 8 1】

<ステップ S 3 7 2 1 ~ S 3 7 2 4 - 1>

ステップ S 3 7 2 1 では、M P U 4 1 は、特図大当たり遊技の終了後に特図大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行させる確変遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する。確変遊技状態移行フラグは、確変大当たり遊技が開始される場合に、当該遊技状態移行処理の図 1 7 9 のステップ S 3 7 0 6 においてオンに設定される。

【2 3 8 2】

M P U 4 1 は、確変遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 2 1 : Y e s）、即ち特図大当たり遊技状態から確変遊技状態に移行させる場合、確変遊技状態であることを示す確変遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 3 7 2 2）、確変遊技状態であることを音声ランプ制御装置 5 に通知する確変遊技状態コマンドを設定する（ステップ S 3 7 2 2 - 1）。

【2 3 8 3】

確変遊技状態コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される

10

20

30

40

50

。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、確変遊技状態コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて確変遊技状態に対応する特図演出を実行することができる（図 1 8 9（B 1）参照）。

【2 3 8 4】

さらに、MPU 4 1 は、確変遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップ S 3 7 2 3）、処理を図 1 8 3 のステップ S 3 7 4 1 に移行する。

【2 3 8 5】

一方、MPU 4 1 は、確変遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 2 1：No）、即ち特図大当たり遊技状態から、確変遊技状態ではなく a 時短遊技状態に移行させる場合、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 3 7 2 4）、a 時短遊技状態であることを音声ランプ制御装置 5 に通知する a 時短遊技状態コマンドを設定し（ステップ S 3 7 2 4-1）、処理を図 1 8 3 のステップ S 3 7 4 1 に移行する。

【2 3 8 6】

a 時短遊技状態コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 1 6 3 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、a 時短遊技状態コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて a 時短遊技状態コマンドに対応する特図演出を実行することができる（図 1 8 9（B 2）参照）。

【2 3 8 7】

<ステップ S 3 7 2 5>

特図大当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップ S 3 7 1 6：No）、即ち特図大当たり遊技状態でない場合（特図大当たり遊技の実行中でない場合）、図 1 8 0 に示すように、MPU 4 1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 7 2 5）。

【2 3 8 8】

MPU 4 1 は、通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 2 5：Yes）、即ち通常遊技状態である場合、処理をステップ S 3 7 2 6 に移行する。一方、MPU 4 1 は、通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 2 5：No）、即ち通常遊技状態でない場合、処理を図 1 8 1 のステップ S 3 7 3 0 に移行する。

【2 3 8 9】

<ステップ S 3 7 2 6>

通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 2 5：Yes）、即ち通常遊技状態である場合、MPU 4 1 は、遊技状態を b 時短遊技状態に移行させるための b 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 7 2 6）。b 時短遊技状態移行フラグは、通常大当たり遊技が終了する場合に、当該遊技状態移行処理の図 1 7 9 のステップ S 3 3 2 3 においてオンに設定される。

【2 3 9 0】

MPU 4 1 は、b 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 2 6：Yes）、処理をステップ S 3 7 2 7 に移行し、b 時短遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 2 6：No）、処理を図 1 8 3 のステップ S 3 7 4 1 に移行する。

【2 3 9 1】

<ステップ S 3 7 2 7～S 3 7 2 9>

b 時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 2 6：Yes）、MPU 4 1 は、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 3 7 2 7）、b 時短遊技状態であることを音声ランプ制御装置 5 に通知する b 時短遊技状態コマンドを設定する（ステップ S 3 7 2 7-1）。

【2 3 9 2】

b時短遊技状態コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、b時短遊技状態コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてb時短遊技状態コマンドに対応する特図演出を実行することができる（図190（B1）参照）。

【2393】

そして、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオフに設定すると共に（ステップS3728）、b時短遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップS3729）、処理を図183のステップS3741に移行する。

【2394】

<ステップS3730>

通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3725:No）、即ち通常遊技状態でない場合、図181に示すように、MPU41は、a時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3730）。

【2395】

MPU41は、a時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3730:Yes）、即ちa時短遊技状態である場合、処理をステップS3731に移行する。一方、MPU41は、a時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3731:No）、即ちa時短遊技状態でない場合、処理を図182のステップS3736に移行する。

【2396】

<ステップS3731>

a時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3730:Yes）、即ちa時短遊技状態である場合、MPU41は、遊技状態を通常遊技状態に移行させるための通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3731）。通常遊技状態移行フラグは、a時短遊技状態を終了して通常遊技状態に移行させる場合に、図172の特図遊技回数管理処理のステップS3328においてオンに設定される。

【2397】

MPU41は、通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3731:Yes）、処理をステップS3732に移行し、通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップS3731:No）、処理を図183のステップS3741に移行する。

【2398】

<ステップS3732～S3733>

通常遊技状態b時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3731:Yes）、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップS3732）、通常遊技状態であることを音声ランプ制御装置5に通知する通常遊技状態コマンドを設定する（ステップS3732-1）。

【2399】

通常遊技状態コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、通常遊技状態コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて通常遊技状態コマンドに対応する特図演出を実行することができる。

【2400】

そして、MPU41は、外部出力端子板101の2番端子から出力中の大当たり信号2（図158（B）参照）の出力を停止させる大当たり信号2出力停止フラグをオンに設定し（ステップS3733）、処理をステップS3734に移行する。大当たり信号2出力停止フラグは、図184の信号出力処理のステップS3810において、大当たり信号2

10

20

30

40

50

の出力を停止させるか否かを判断するために参照される。

【2401】

<ステップS3734～S3735>

ステップS3734では、MPU41は、a時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグをオフに設定し、さらに、通常遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップS3735）、処理を図183のステップS3741に移行する。

【2402】

<ステップS3736>

a時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3730:No）、即ちa時短遊技状態でない場合、図182に示すように、MPU41は、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3736）。

【2403】

MPU41は、b時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3736:Yes）、即ちb時短遊技状態である場合、処理をステップS3737に移行する。一方、MPU41は、b時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3736:No）、即ちb時短遊技状態でない場合、処理を図183のステップS3741に移行する。

【2404】

<ステップS3737>

b時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3736:Yes）、即ちb時短遊技状態である場合、MPU41は、遊技状態を通常遊技状態に移行させるための通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3737）。通常遊技状態移行フラグは、b時短遊技状態を終了して通常遊技状態に移行させる場合に、図172の特図遊技回数管理処理のステップS3333においてオンに設定される。

【2405】

MPU41は、通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3737:Yes）、処理をステップS3738に移行し、通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップS3737:No）、処理を図183のステップS3741に移行する。

【2406】

<ステップS3738及びS3738-1>

通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3737:Yes）、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップS3738）、通常遊技状態であることを音声ランプ制御装置5に通知する通常遊技状態コマンドを設定し（ステップS3738-1）、処理をステップS3739に移行する。

【2407】

通常遊技状態コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、通常遊技状態コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて通常遊技状態コマンドに対応する特図演出を実行することができる。

【2408】

<ステップS3739及びS3740>

ステップS3739では、MPU41は、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグをオフに設定し、さらに、通常遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップS3740）、処理を図183のステップS3741に移行する。

【2409】

<ステップS3741>

10

20

30

40

50

ステップ S 3 7 4 1 では、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技が開始されることを示す V 入賞大当たり遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する。V 入賞大当たり遊技開始フラグは、V 入賞大当たり遊技が開始される場合に、図 1 7 8 の V 入賞大当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 0 4 においてオンに設定される。

【 2 4 1 0 】

M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 1 : Y e s ）、処理をステップ S 3 7 4 2 に移行し、V 入賞大当たり遊技開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 1 : N o ）、処理をステップ S 3 7 4 4 に移行する。

【 2 4 1 1 】

<ステップ S 3 7 4 2 及び S 3 7 4 3 >

V 入賞大当たり遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 1 : Y e s ）、M P U 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 3 番端子から識別信号として V 入賞大当たり遊技信号の出力を開始させる V 入賞大当たり遊技信号出力開始フラグをオンに設定する（ステップ S 3 7 4 2 ）。そして、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップ S 3 7 4 3 ）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【 2 4 1 2 】

<ステップ S 3 7 4 4 >

V 入賞大当たり遊技開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 1 : N o ）、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技の実行中であることを示す V 入賞大当たり遊技実行中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 7 4 4 ）。V 入賞大当たり遊技実行中フラグは、図 1 7 8 の V 入賞大当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 0 6 において、V 入賞大当たり遊技が開始される場合にオンに設定される。

【 2 4 1 3 】

M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技実行中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 4 : Y e s ）、処理をステップ S 3 7 4 5 に移行し、V 入賞大当たり遊技実行中フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 4 : N o ）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【 2 4 1 4 】

<ステップ S 3 7 4 5 >

V 入賞大当たり遊技実行中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 4 : Y e s ）、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技が終了されることを示す V 入賞大当たり遊技終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 7 4 5 ）。V 入賞大当たり遊技終了フラグは、図 1 7 8 の V 入賞大当たり遊技制御処理のステップ S 3 6 2 1 において、V 入賞大当たり遊技が終了される場合にオンに設定される。

【 2 4 1 5 】

M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 5 : Y e s ）、処理をステップ S 3 7 4 6 に移行し、V 入賞大当たり遊技終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 5 : N o ）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【 2 4 1 6 】

<ステップ S 3 7 4 6 >

V 入賞大当たり遊技終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 7 4 5 : Y e s ）、M P U 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 3 番端子から識別信号として出力されている V 入賞大当たり遊技信号の出力を停止させる V 入賞大当たり遊技信号出力停止フラグをオンに設定し（ステップ S 3 7 4 6 ）、処理をステップ S 3 7 4 7 に移行する。

【 2 4 1 7 】

<ステップ S 3 7 4 7 及び S 3 7 4 8 >

ステップ S 3 7 4 7 では、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態を発生させるまでの残りの特図遊技回数を示す天井発動残回数カウンタの値として最大値である 1 0 0 0 をセットする

10

20

30

40

50

。即ち、本実施形態では、V入賞大当たり遊技が終了した場合には、天井発動残回数カウンタを最大値である1000にリセットする。また、MPU41は、天井発動残回数カウンタがセットされていることを示す天井発動残回数カウンタセットフラグをオンに設定し（ステップS3748）、処理をステップS3749に移行する。

【2418】

このように、本実施形態では、V入賞大当たり遊技が終了した場合、天井発動残回数カウンタの値が最大値である1000にリセットされ、天井発動残回数カウンタセットフラグがオンに設定されることで、b時短遊技状態が発生不能な第1補助状態制御である通常遊技状態では、b時短遊技状態が発生可能な第2補助状態制御である通常遊技状態とすることができる。これにより、遊技者は、V入賞大当たり遊技を実行させることで、第2補助状態制御の通常遊技状態が発生させることができ、新たにb時短遊技状態が発生させることが可能になるため、遊技者に、b時短遊技状態が発生不能な第1補助状態制御である通常遊技状態において遊技を開始させる動機付けを与えることができる。一方、b時短遊技状態が発生可能な第2補助状態制御である通常遊技状態では、b時短遊技状態が発生させるまでに必要な特図遊技の実行回数を最大値に変更することができる。これにより、b時短遊技状態が発生可能な第2補助状態制御である通常遊技状態などにおいて遊技機を終了する場合にV入賞大当たり遊技を実行させることで、遊技終了時までに実行した特図遊技の回数が、b時短遊技状態が発生させるまでに必要な特図遊技の実行回数に反映されることはなく遊技を終了することができ、いわゆる他者のハイエナ行為の対象とされることが防止される。

【2419】

<ステップS3749及びS3750>

ステップS3749では、MPU41は、天井発動残回数がリセットされたことを音声ランプ制御装置5に通知する天井発動残回数カウンタリセットコマンドを設定する（ステップS3749）。天井発動残回数カウンタリセットコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図163参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、天井発動残回数カウンタリセットコマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて天井発動残回数がリセットされたことに対応する特図演出を実行することができる（図190（B2）参照）。

【2420】

さらに、MPU41は、V入賞大当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップS3750）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【2421】

〔信号出力処理〕

ここで、図184は、図163のメイン処理のステップS1408-1で実行される信号出力処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の信号出力処理では、遊技機10の外部に各種信号を出力させるための処理が実行される。以下、図184を参照しつつ、本実施形態の信号出力処理を説明する。

【2422】

<ステップS3801>

図184に示すように、本実施形態の信号出力処理では、まずMPU41は、外部出力端子板101の1番端子から特別信号としての大当たり信号1（図158（A）参照）の出力を開始させる大当たり信号1出力開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3801）。大当たり信号1出力開始フラグは、図179の遊技状態移行処理のステップS3703において、特図大当たり遊技が開始される場合にオンに設定される。

【2423】

MPU41は、大当たり信号1出力開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS3801：Yes）、処理をステップS3802に移行し、大当たり信号1出力開始フ

ラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 1 : N o）、処理をステップ S 3 8 0 4 に移行する。

【 2 4 2 4 】

<ステップ S 3 8 0 2 及び S 3 8 0 3 >

大当たり信号 1 出力開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 1 : Y e s）、MPU 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 1 番端子から特別信号としての大当たり信号 1（図 1 5 8（A）参照）の出力を開始させる（ステップ S 3 8 0 2）。そして、MPU 4 1 は、大当たり信号 1 出力開始フラグをオフに設定し（ステップ S 3 8 0 3）、当該信号出力処理を終了する。

【 2 4 2 5 】

<ステップ S 3 8 0 4 >

大当たり信号 1 出力開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 1 : N o）、MPU 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 1 番端子から出力されている特別信号としての大当たり信号 1（図 1 5 8（A）参照）の出力を停止させる大当たり信号 1 出力停止フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 8 0 4）。大当たり信号 1 出力停止フラグは、図 1 7 9 の遊技状態移行処理のステップ S 3 7 1 8 において、特図大当たり遊技が終了される場合にオンに設定される。

【 2 4 2 6 】

MPU 4 1 は、大当たり信号 1 出力停止フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 4 : Y e s）、処理をステップ S 3 8 0 5 に移行し、大当たり信号 1 出力停止フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 4 : N o）、処理をステップ S 3 8 0 7 に移行する。

【 2 4 2 7 】

<ステップ S 3 8 0 5 及び S 3 8 0 6 >

大当たり信号 1 出力停止フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 4 : Y e s）、MPU 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 1 番端子から出力されている特別信号としての大当たり信号 1（図 1 5 8（A）参照）の出力を停止させる（ステップ S 3 8 0 5）。そして、MPU 4 1 は、大当たり信号 1 出力停止フラグをオフに設定し（ステップ S 3 8 0 6）、当該信号出力処理を終了する。

【 2 4 2 8 】

<ステップ S 3 8 0 7 >

大当たり信号 1 出力停止フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 4 : N o）、MPU 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 2 番端子から大当たり信号 2（図 1 5 8（B）参照）の出力を開始させる大当たり信号 2 出力開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 8 0 7）。大当たり信号 2 出力開始フラグは、図 1 7 9 の遊技状態移行処理のステップ S 3 7 1 1 において、通常遊技状態又は b 時短遊技状態において開始された特図遊技によって報知される特図大当たりである場合、当該特図遊技が終了される場合にオンに設定される。

【 2 4 2 9 】

MPU 4 1 は、大当たり信号 2 出力開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 7 : Y e s）、処理をステップ S 3 8 0 8 に移行し、大当たり信号 2 出力開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 7 : N o）、処理をステップ S 3 8 1 0 に移行する。

【 2 4 3 0 】

<ステップ S 3 8 0 8 及び S 3 8 0 9 >

大当たり信号 2 出力開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 8 0 7 : Y e s）、MPU 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 2 番端子から大当たり信号 2（図 1 5 8（B）参照）の出力を開始させる（ステップ S 3 8 0 8）。そして、MPU 4 1 は、大当たり信号 2 出力開始フラグをオフに設定し（ステップ S 3 8 0 9）、当該信号出力処理を終了する。

10

20

30

40

50

【2431】

<ステップS3810>

大当たり信号2出力開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS3807：No）、MPU41は、外部出力端子板101の2番端子から出力されている大当たり信号2（図158（B）参照）の出力を停止させる大当たり信号2出力停止フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3810）。大当たり信号2出力停止フラグは、図181の遊技状態移行処理のステップS3733において、a時短遊技状態から通常遊技状態に移行される場合にオンに設定される。

【2432】

MPU41は、大当たり信号2出力停止フラグがオンに設定されている場合（ステップS3810：Yes）、処理をステップS3811に移行し、大当たり信号2出力停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS3810：No）、処理をステップS3813に移行する。

【2433】

<ステップS3811及びS3812>

大当たり信号2出力停止フラグがオンに設定されている場合（ステップS3810：Yes）、MPU41は、外部出力端子板101の2番端子から出力されている大当たり信号2（図158（B）参照）の出力を停止させる（ステップS3811）。そして、MPU41は、大当たり信号2出力停止フラグをオフに設定し（ステップS3812）、当該信号出力処理を終了する。

【2434】

<ステップS3813>

大当たり信号2出力停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS3810：No）、MPU41は、外部出力端子板101の3番端子から識別信号としてV入賞大当たり遊技信号（図159（A）参照）の出力を開始させるV入賞大当たり遊技信号出力開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3813）。V入賞大当たり遊技信号出力開始フラグは、図179の遊技状態移行処理のステップS3742において、V入賞大当たり遊技が開始される場合（V入賞大当たり遊技状態が発生される場合）にオンに設定される。

【2435】

MPU41は、V入賞大当たり遊技信号出力開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS3813：Yes）、処理をステップS3814に移行し、V入賞大当たり遊技信号出力開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS3813：No）、処理をステップS3816に移行する。

【2436】

<ステップS3814及びS3815>

V入賞大当たり遊技信号出力開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS3813：Yes）、MPU41は、外部出力端子板101の3番端子から識別信号としてV入賞大当たり遊技信号（図159（A）参照）の出力を開始させる（ステップS3814）。そして、MPU41は、V入賞大当たり遊技信号出力開始フラグをオフに設定し（ステップS3815）、当該信号出力処理を終了する。

【2437】

<ステップS3816>

V入賞大当たり遊技信号出力開始フラグがオフに設定されている場合（ステップS3813：No）、MPU41は、外部出力端子板101の3番端子から出力されている識別信号としてV入賞大当たり遊技信号（図159（A）参照）の出力を停止させるV入賞大当たり遊技信号出力停止フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3816）。V入賞大当たり遊技信号出力停止フラグは、図179の遊技状態移行処理のステップS3746において、V入賞大当たり遊技が終了される場合（V入賞大当たり遊技状態が終了される場合）にオンに設定される。

【2438】

MPU41は、V入賞大当たり遊技信号出力停止フラグがオンに設定されている場合（ステップS3816：Yes）、処理をステップS3817に移行し、V入賞大当たり遊技信号出力停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS3816：No）、処理をステップS3819に移行する。

【2439】

<ステップS3817及びS3818>

V入賞大当たり遊技信号出力停止フラグがオンに設定されている場合（ステップS3816：Yes）、MPU41は、外部出力端子板101の3番端子から出力されている識別信号としてV入賞大当たり遊技信号（図159（A）参照）の出力を停止させる（ステップS3817）。そして、MPU41は、V入賞大当たり遊技信号出力停止フラグをオフに設定し（ステップS3818）、当該信号出力処理を終了する。

【2440】

<ステップS3819>

V入賞大当たり遊技信号出力停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS3816：No）、MPU41は、外部出力端子板101の4番端子から識別信号として特図変動停止信号を出力させる特図変動停止信号出力フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3819）。特図変動停止信号出力フラグは、図168の特図遊技制御処理のステップS1909において、特図遊技が終了させる場合にオンに設定される。

【2441】

MPU41は、特図変動停止信号出力フラグがオンに設定されている場合（ステップS3819：Yes）、処理をステップS3820に移行し、特図変動停止信号出力フラグがオフに設定されている場合（ステップS3819：No）、処理をステップS3823に移行する。

【2442】

<ステップS3820>

特図変動停止信号出力フラグがオンに設定されている場合（ステップS3819：Yes）、MPU41は、特図変動停止信号が出力されていることを示す特図変動停止信号出力中フラグをオンに設定し（ステップS3820）、処理をステップS3821に移行する。特図変動停止信号出力中フラグは、当該信号出力処理のステップS3823において、特図変動停止信号の出力を停止させるか否かを判断するために参照される。

【2443】

<ステップS3821及びS3822>

ステップS3821では、MPU41は、外部出力端子板101の4番端子から識別信号として特図変動停止信号の出力を開始させる（ステップS3821）。そして、MPU41は、特図変動停止信号出力フラグをオフに設定し（ステップS3822）、当該信号出力処理を終了する。

【2444】

<ステップS3823>

特図変動停止信号出力フラグがオフに設定されている場合（ステップS3819：No）、MPU41は、特図変動停止信号が出力されていることを示す特図変動停止信号出力中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3823）。

【2445】

MPU41は、特図変動停止信号出力中フラグがオンに設定されている場合（ステップS3823：Yes）、処理をステップS3824に移行し、特図変動停止信号出力中フラグがオフに設定されている場合（ステップS3823：No）、当該信号出力処理を終了する。

【2446】

<ステップS3824及びS3825>

特図変動停止信号出力中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 8 2 3 : Y e s）、M P U 4 1 は、外部出力端子板 1 0 1 の 4 番端子から出力されている識別信号として特図変動停止信号の出力を停止させる（ステップ S 3 8 2 4）。そして、M P U 4 1 は、特図変動停止信号出力中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 8 2 5）、当該信号出力処理を終了する。即ち、本実施形態では、特図変動停止信号は、先に実行された信号出力処理のステップ S 3 8 2 0 の処理が実行されてから、次に実行される信号出力処理のステップ S 3 8 2 4 が実行されるまで出力される。つまり、特図変動停止信号の出力期間は、図 1 6 3 のメイン処理の実行周期に対応又は略対応しており、特図変動停止信号は、例えば 2 m s e c 又は略 2 m s e c のパルス幅を有するパルス信号として出力される。

【 2 4 4 7 】

もちろん、特図変動停止信号は、パルス信号として出力する場合のパルス幅は 2 m s e c 又は略 2 m s e c とする必要はなく、他のパルス幅、例えば図 1 6 3 のメイン処理の実行周期の 2 以上の整数倍又は略整数倍であってもよい。また、特図変動停止信号は、パルス信号以外の信号として出力してもよい。

【 2 4 4 8 】

〔音声ランプ制御装置 5 の処理〕

本実施形態では、音声ランプ制御装置 5 によって実行されるコマンド判定処理の一部の手順が前述の第 1 の実施形態とは異なる。

【 2 4 4 9 】

〔コマンド判定処理〕

本実施形態のコマンド判定処理では、特図遊技において表示手段としての図柄表示部 3 4 1 に飾り図柄の背後に表示される遊技状態情報として各種遊技状態（例えば大当たり遊技状態、確変遊技状態、a 時短遊技状態、b 時短遊技状態、通常遊技状態）に対応した背景演出（ステージ演出）を実行するための処理が実行され、また V 入賞大当たり遊技が終了した場合に、表示手段としての図柄表示部 3 4 1 に遊技状態情報として天井発動残回数がリセットされたことを示す天井残回数リセット演出を実行するための処理が実行される。ここで、図 1 8 5 ～図 1 8 7 は、本実施形態のコマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャートである。図柄表示部 3 4 1 が出力情報として画像を表示する際の出力方式は主に動画像の表示である。

【 2 4 5 0 】

<ステップ S 3 9 0 1>

図 1 8 5 に示すように、本実施形態のコマンド判定処理では、M P U 5 1 は、まずコマンドを受信したか否かを判断する（ステップ S 3 9 0 1）。M P U 5 1 は、コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 0 1 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 0 2 に移行し、コマンドを受信していない場合（ステップ S 3 9 0 1 : N o）、当該コマンド判定処理を終了する。

【 2 4 5 1 】

<ステップ S 3 9 0 2>

コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 0 1 : Y e s）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図大当たり遊技開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 0 2）。特図大当たり遊技開始コマンドは、大利益遊技としての特図大当たり遊技を開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 7 3 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 0 4 において大当たり遊技を開始する場合に設定される。

【 2 4 5 2 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図大当たり遊技開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 0 2 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 0 3 に移行し、受信したコマンドが特図大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 0 2 : N o）、処理をステップ S 3 9 0 5 に移行する。

【 2 4 5 3 】

<ステップ S 3 9 0 3 及び S 3 9 0 4>

特図大当たり遊技開始コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 0 2：Y e s）、M P U 5 1 は、特図大当たり遊技演出設定処理を実行すると共に（ステップ S 3 9 0 3）、特図大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 0 4）、当該コマンド判定処理を終了する。

【2 4 5 4】

なお、大当たり遊技中フラグは、図 4 2 の副タイマ割込処理のステップ S 2 7 0 5 において実行される大当たり遊技演出制御処理において大当たり遊技演出を制御するために参照される（図 5 4 のステップ S 3 2 0 1 参照）。なお、本実施形態の大当たり遊技演出制御処理は、前述の第 1 の実施形態の大当たり遊技演出制御処理（図 5 4 参照）と同様であるため、詳細な説明は省略する。

10

【2 4 5 5】

ここで、図 1 8 8 は、表示手段としての図柄表示部 3 4 1 において表示される特図大当たり遊技演出の一例を示す図である。

【2 4 5 6】

図 1 8 8（A）は、図柄表示部 3 4 1 において表示される特図大当たり遊技演出のオープニング演出の一例を示す図である。図 1 8 8（A）に示すように、オープニング演出では、図柄表示部 3 4 1 において、特図が特定期間変動表示される特定期間遊技としての小利益遊技である特図遊技が終了した場合、当該特図遊技によって報知される特図大当たり抽選の結果が大当たりであることに基づいて、新たに設定される遊技状態が特図大当たり遊技状態であることに対応した報知表示が実行される。具体的には、本実施形態のオープニング演出では、図柄表示部 3 4 1 において、遊技状態情報である「大当たり」の文字画像が表示され、また大当たり連荘回数（「X 回目」の文字画像）が表示される。

20

【2 4 5 7】

図 1 8 8（B）は、図柄表示部 3 4 1 において表示される特図大当たり遊技演出のラウンド遊技演出の一例を示す図である。図 1 8 8（B）に示すように、ラウンド遊技演出では、図柄表示部 3 4 1 において、ラウンド遊技が実行されていること、及び当該ラウンド遊技が開閉実行モードにおける何ラウンド目のラウンド遊技であるかを示す報知表示が実行される。具体的には、本実施形態のラウンド遊技演出では、図柄表示部 3 4 1 において、当該大当たり遊技において実行されているラウンド数を示す「ラウンド X」の文字画像が表示され、また当該大当たり遊技において払い出された遊技球数（出玉数）に関する画像（当該大当たり遊技において獲得可能な出玉に対する現在の出玉数を示す「8 0 0 / 1 2 0 0」、及び当該大当たり遊技を含む大当たり連荘における総出玉数を示す「計 3 8 0 0 発」の文字画像）が表示される。

30

【2 4 5 8】

図 1 8 8（C）は、図柄表示部 3 4 1 において表示される特図大当たり遊技演出のエンディング演出の一例を示す図である。図 1 8 8（C）に示すように、エンディング演出では、図柄表示部 3 4 1 において、大当たり遊技が終了することと共に、当該大当たり遊技終了後の遊技状態の移行先が明示される。具体的には、本実施形態のエンディング演出では、図柄表示部 3 4 1 において、確変遊技状態に移行される場合には遊技状態情報として「〇〇 R U S H 突入」の文字画像の報知表示がなされ、a 時短遊技状態に移行される場合には遊技状態情報として「××モード突入」の文字画像の報知表示がなされる。なお、エンディング演出では、図示した例に代えて、又は加えて、当該大当たり遊技が終了することを示す「大当たり終了」の文字画像、当該大当たり遊技を含む大当たり遊技回数を示す「R U S H X 回」の文字画像、及び当該大当たり遊技を含む大当たり連荘における総出玉数を示す「出玉△△△△発」の文字画像などを表示してもよい。

40

【2 4 5 9】

<ステップ S 3 9 0 5>

受信したコマンドが特図大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 0 2：N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドがオープニング開始コマンドであるか否かを判

50

断する（ステップ S 3 9 0 5）。オープニング開始コマンドは、特図大当たり遊技のオープニングを開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 7 3 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 0 8 においてオープニングを開始する場合に設定される。

【 2 4 6 0 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドがオープニング開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 0 5 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 0 6 に移行し、受信したコマンドがオープニング開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 0 5 : N o）、処理をステップ S 3 9 0 7 に移行する。

【 2 4 6 1 】

<ステップ S 3 9 0 6 >

オープニング開始コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 0 5 : Y e s）、M P U 5 2 は、オープニング演出開始フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 0 6）、当該コマンド判定処理を終了する。オープニング演出開始フラグは、大利益遊技としての特図大当たり遊技のオープニング演出を開始させるフラグであり、図 5 4 の大当たり遊技演出制御処理のステップ S 3 2 0 2 において、オープニング演出を開始させるか否かを判断するために参照される。

【 2 4 6 2 】

<ステップ S 3 9 0 7 >

受信したコマンドがオープニング開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 0 5 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドがオープニング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 0 7）。オープニング終了コマンドは、大当たり遊技のオープニングを終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 7 4 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 1 4 においてオープニングを終了する場合に設定される。

【 2 4 6 3 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドがオープニング終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 0 7 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 0 8 に移行し、受信したコマンドがオープニング終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 0 7 : N o）、処理をステップ S 3 9 0 9 に移行する。

【 2 4 6 4 】

<ステップ S 3 9 0 8 >

オープニング終了コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 0 7 : Y e s）、M P U 5 1 は、オープニング演出終了フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 0 8）、当該コマンド判定処理を終了する。オープニング演出終了フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を終了させるフラグであり、図 5 4 の大当たり遊技演出制御処理でのステップ S 3 2 0 5 において、オープニング演出を終了させるか否かを判断するために参照される。

【 2 4 6 5 】

<ステップ S 3 9 0 9 >

受信したコマンドがオープニング終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 0 7 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 0 9）。ラウンド遊技開始コマンドは、開閉実行モードのラウンド遊技を開始することを示すと共に、今回実行されるラウンド遊技のラウンド数を示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 7 4 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 1 7 において開閉実行モードのラウンド遊技を開始する場合に設定される。

【 2 4 6 6 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 0 9 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 1 0 に移行し、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 0 9 : N o）、処理をステップ S 3 9 1 2

10

20

30

40

50

に移行する。

【2467】

<ステップS3910及びS3911>

ラウンド遊技開始コマンドを受信した場合（ステップS3909：Yes）、MPU51は、ラウンド遊技演出開始フラグをオンに設定し（ステップS3910）、当該ラウンド遊技が何ラウンド目であるかを示すラウンド数情報をRAM512にセットし（ステップS3911）、当該コマンド判定処理を終了する。ラウンド遊技演出開始フラグは、図54の大当たり遊技演出制御処理のステップS3208において開閉実行モード演出の各ラウンド遊技演出を開始させるか否かを判断するために参照される。

【2468】

<ステップS3912>

受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドでない場合（ステップS3909：No）、MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3912）。ラウンド遊技終了コマンドは、開閉実行モードのラウンド遊技を終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図175の特図大当たり遊技制御処理でのステップS3429においてラウンド遊技を終了する場合に設定される。

【2469】

MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドである場合（ステップS3912：Yes）、処理をステップS3913に移行し、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドでない場合（ステップS3912：No）、処理をステップS3914に移行する。

【2470】

<ステップS3913>

ラウンド遊技終了コマンドを受信した場合（ステップS3912：Yes）、MPU51は、ラウンド遊技演出終了フラグをオンに設定し（ステップS3913）、当該コマンド判定処理を終了する。ラウンド遊技終了フラグは、図54の大当たり遊技演出制御処理でのステップS3211においてラウンド遊技演出終了するか否かを判断する場合に参照される。

【2471】

<ステップS3914>

受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドでない場合（ステップS3912：No）、MPU51は、受信したコマンドがインターバル開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3914）。インターバル開始コマンドは、開閉実行モードにおけるラウンド遊技間のインターバルを開始することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図175の特図大当たり遊技制御処理でのステップS3433においてインターバルを開始させる場合に設定される。

【2472】

ここで、MPU51は、受信したコマンドがインターバル開始コマンドである場合（ステップS3914：Yes）、処理をステップS3915に移行し、受信したコマンドがインターバル開始コマンドでない場合（ステップS3914：No）、処理をステップS3916に移行する。

【2473】

<ステップS3915>

受信したコマンドがインターバル開始コマンドである場合（ステップS3914：Yes）、MPU51は、インターバル演出開始フラグをオンに設定し（ステップS3915）、当該コマンド判定処理を終了する。インターバル演出開始フラグは、図54の大当たり遊技演出制御処理でのステップS3214においてインターバル演出を開始するか否かを判断する場合に参照される。

【2474】

10

20

30

40

50

<ステップ S 3 9 1 6>

受信したコマンドがインターバル開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 1 4 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドがインターバル終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 1 6）。インターバル終了コマンドは、開閉実行モードにおけるラウンド遊技間のインターバルを終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 7 6 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 3 9 においてインターバルを終了させる場合に設定される。

【2 4 7 5】

ここで、M P U 5 1 は、受信したコマンドがインターバル終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 1 6 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 1 7 に移行し、受信したコマンドが

10

【2 4 7 6】

<ステップ S 3 9 1 7>

受信したコマンドがインターバル終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 1 6 : Y e s）、M P U 5 1 は、インターバル演出終了フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 1 7）、当該コマンド判定処理を終了する。インターバル演出終了フラグは、図 5 4 の大当たり遊技演出制御処理でのステップ S 3 2 1 7 においてインターバル演出を終了するか否かを判断する場合に参照される。

【2 4 7 7】

20

<ステップ S 3 9 1 8>

受信したコマンドがインターバル終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 1 6 : N o）、図 1 8 6 に示すように、M P U 5 1 は、受信したコマンドがエンディング開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 1 8）。エンディング開始コマンドは、大当たり遊技におけるエンディングを開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 3 1 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 4 2 においてエンディングを開始させる場合に設定される。

【2 4 7 8】

ここで、M P U 5 1 は、受信したコマンドがエンディング開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 1 8 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 1 9 に移行し、受信したコマンドが

30

【2 4 7 9】

<ステップ S 3 9 1 9>

受信したコマンドがエンディング開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 1 8 : Y e s）、M P U 5 1 は、エンディング演出開始フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 1 9）、当該コマンド判定処理を終了する。エンディング演出開始フラグは、図 5 4 の大当たり遊技演出制御処理のステップ S 3 2 2 0 においてエンディング演出を開始するか否かを判断する場合に参照される。

【2 4 8 0】

40

<ステップ S 3 9 2 0>

受信したコマンドがエンディング開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 1 8 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドがエンディング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 2 0）。エンディング終了コマンドは、大当たり遊技のエンディングが終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 7 6 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 4 8 においてエンディングを終了させる場合に設定される。

【2 4 8 1】

ここで、M P U 5 1 は、受信したコマンドがエンディング終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 2 0 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 2 1 に移行し、受信したコマンドが

50

エンディング終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 2 0 : N o）、処理をステップ S 3 9 2 2 に移行する。

【 2 4 8 2 】

<ステップ S 3 9 2 1>

受信したコマンドがエンディング終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 2 0 : Y e s）、M P U 5 1 は、エンディング演出終了フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 2 1）、当該コマンド判定処理を終了する。エンディング演出終了フラグは、図 5 4 の大当たり遊技演出制御処理のステップ S 3 2 2 3 においてエンディング演出を終了するか否かを判断する場合に参照される。

【 2 4 8 3 】

<ステップ S 3 9 2 2>

受信したコマンドがエンディング終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 2 0 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図大当たり遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 2 2）。特図大当たり遊技終了コマンドは、特図大当たり遊技を終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 1 7 3 の特図大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 5 0 において特図大当たり遊技を終了する場合に設定される。

【 2 4 8 4 】

ここで、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図大当たり遊技終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 2 2 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 2 3 に移行し、受信したコマンドが特図大当たり遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 2 2 : N o）、処理をステップ S 3 9 2 4 に移行する。

【 2 4 8 5 】

<ステップ S 3 9 2 3>

受信したコマンドが特図大当たり遊技終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 2 2 : Y e s）、M P U 5 1 は、大利益遊技としての特図大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 9 2 3）、当該コマンド判定処理を終了する。

【 2 4 8 6 】

<ステップ S 3 9 2 4 及び S 3 9 2 5>

受信したコマンドが特図大当たり遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 2 2 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが確変遊技状態に移行したことを示す確変遊技状態コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 2 4）。確変遊技状態コマンドは、確変遊技状態に移行した場合に、図 1 7 9 の遊技状態移行処理でのステップ S 3 7 2 2 - 1 において設定される。

【 2 4 8 7 】

M P U 5 1 は、確変遊技状態コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 2 4 : Y e s）、確変遊技状態であることを示す確変遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 2 5）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、M P U 5 1 は、確変遊技状態コマンドを受信していない場合（ステップ S 3 9 2 4 : N o）、処理をステップ S 3 9 2 6 に移行する。

【 2 4 8 8 】

<ステップ S 3 9 2 6 及び S 3 9 2 7>

確変遊技状態コマンドを受信していない場合（ステップ S 3 9 2 4 : N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 2 利益遊技状態制御としての a 時短遊技状態に移行したことを示す a 時短遊技状態コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 2 6）。a 時短遊技状態コマンドは、a 時短遊技状態に移行した場合に、図 1 7 9 の遊技状態移行処理でのステップ S 3 7 2 4 - 1 において設定される。

【 2 4 8 9 】

M P U 5 1 は、a 時短遊技状態コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 2 6 : Y e s

10

20

30

40

50

）、a時短遊技状態であることを示す時短遊技状態フラグをオンに設定し（ステップS3927）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU51は、a時短遊技状態コマンドを受信していない場合（ステップS3926：No）、処理をステップS3928に移行する。

【2490】

<ステップS3928～S3930>

a時短遊技状態コマンドを受信していない場合（ステップS3926：No）、MPU51は、受信したコマンドが第2利益遊技状態制御であるb時短遊技状態に移行したことを示すb時短遊技状態コマンドであるか否かを判断する（ステップS3928）。b時短遊技状態コマンドは、b時短遊技状態に移行した場合に、図180の遊技状態移行処理でのステップS3727-1において設定される。

10

【2491】

MPU51は、b時短遊技状態コマンドを受信した場合（ステップS3928：Yes）、b時短遊技状態であることを示す時短遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップS3929）、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3930）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU51は、b時短遊技状態コマンドを受信していない場合（ステップS3928：No）、処理をステップS3931に移行する。

【2492】

<ステップS3931～S3933>

b時短遊技状態コマンドを受信していない場合（ステップS3928：No）、MPU51は、受信したコマンドが第1利益遊技状態制御である通常遊技状態に移行したことを示す通常遊技状態コマンドであるか否かを判断する（ステップS3931）。通常遊技状態コマンドは、通常遊技状態に移行した場合に、遊技状態移行処理での図181のステップS3732-1又は図182のステップS3738-1において設定される。

20

【2493】

MPU51は、通常遊技状態コマンドを受信した場合（ステップS3931：Yes）、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップS3932）、当該通常遊技状態に移行する前の遊技状態に対応する他の遊技状態フラグ（a時短遊技状態フラグ又はb時短遊技状態）をオフに設定し（ステップS3933）、当該コマンド判定処理を終了する。

30

【2494】

一方、MPU51は、通常遊技状態コマンドを受信していない場合（ステップS3931：No）、処理を図187のステップS3934に移行する。

【2495】

<ステップS3934及びS3919>

通常遊技状態コマンドを受信していない場合（ステップS3931：No）、図187に示すように、MPU51は、受信したコマンドが特図変動パターンコマンドであるか否かを判断する（ステップS3934）。特図変動パターンコマンドは、開始される特図遊技における特別図柄の変動表示時間、大当たり抽選での抽選結果などを含むコマンドであり、特図変動が開始（特図遊技が開始）される場合に、図170の特図変動開始処理でのステップS2105において設定される。

40

【2496】

MPU51は、特図変動パターンコマンドを受信した場合（ステップS3934：Yes）、処理をステップS3935に移行する。一方、MPU51は、特図変動パターンコマンドを受信していない場合（ステップS3934：No）、処理をステップS3943に移行する。

【2497】

<ステップS3935>

特図変動パターンコマンドを受信した場合（ステップS3934：Yes）、MPU5

50

1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 9 3 5）。通常遊技状態フラグは、通常遊技状態に移行された場合に、当該コマンド判定処理での図 1 8 7 のステップ S 3 9 3 2 でオンに設定される。

【2 4 9 8】

M P U 5 1 は、通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 5：Y e s）、処理をステップ S 3 9 3 6 に移行し、通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 5：N o）、処理をステップ S 3 9 3 7 に移行する。

【2 4 9 9】

<ステップ S 3 9 3 6>

通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 5：Y e s）、M P U 5 1 は、通常遊技状態に対応した通常遊技状態演出設定処理を実行し（ステップ S 3 9 3 6）、当該コマンド判定処理を終了する。

【2 5 0 0】

ここで、通常遊技状態演出設定処理では、特図変動パターンコマンドに含まれる特別図柄の変動表示時間、大当たり抽選での抽選結果などに基づいて、前述の第 1 の実施形態における図 4 7 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 0 3～S 3 1 0 6 と同様な処理が実行されることで、特図遊技において実行される演出が設定される。また、通常遊技状態演出設定処理では、通常遊技状態であることを示す固有の背景画像（背景演出、ステージ演出）が設定される。そのため、遊技者は、通常遊技状態に固有の背景画像（背景演出、ステージ演出）などの遊技状態情報が報知表示されることに基づいて通常遊技状態であることが識別可能である。

【2 5 0 1】

<ステップ S 3 9 3 7 及び S 3 9 3 8>

通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 5：N o）、M P U 5 1 は、確変遊技状態であることを示す確変遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 9 3 7）。確変遊技状態フラグは、確変遊技状態に移行された場合に、当該コマンド判定処理での図 1 8 6 のステップ S 3 9 2 5 でオンに設定される。

【2 5 0 2】

M P U 5 1 は、確変遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 7：Y e s）、確変遊技状態演出設定処理を実行し（ステップ S 3 9 3 8）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、M P U 5 1 は、確変遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 7：N o）、処理をステップ S 3 9 3 9 に移行する。

【2 5 0 3】

ここで、確変遊技状態演出設定処理では、特図変動パターンコマンドに含まれる特別図柄の変動表示時間、大当たり抽選での抽選結果などに基づいて、前述の第 1 の実施形態における図 4 7 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 0 3～S 3 1 0 6 と同様な処理が実行されることで、特図遊技において実行される演出が設定される。また、確変遊技状態演出設定処理では、確変遊技状態であることを示す固有の背景画像（背景演出、ステージ演出）が設定され、確変遊技状態中であることを示す文字画像（例えば「〇〇 R U S H」の文字画像）が設定される（図 1 8 9（B 1）参照）。そのため、遊技者は、確変遊技状態に固有の背景画像（背景演出、ステージ演出）や確変遊技状態中であることを示す文字画像などの遊技状態情報が報知表示されることに基づいて確変遊技状態であることが識別可能である。なお、確変遊技状態においては、図柄表示部 3 4 1 で大当たり連荘回数や出玉数の表示を行ってもよい。

【2 5 0 4】

また、前述のように、確変大当たり遊技には、第 1 入賞口 3 1 4 への遊技球の入賞により、又は電動役物のスルーゲート 3 1 7 への遊技球の入球に基づいて電動役物 3 1 5 b が作動することでの第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球により実行された特図大当たり抽選の結果が確変大当たりである場合に、特図が特定期間変動表示される小利益遊技である

10

20

30

40

50

特定期間遊技としての特図遊技の実行後に移行する。また、確変遊技状態には、当該確変大当たり遊技の終了後に移行する。そのため、図柄表示部 3 4 1 では、確変大当たり遊技のエンディング画像（図 1 8 9（A 1）参照）として遊技状態情報が報知表示されてから、確変遊技状態に移行した場合に確変遊技状態中であることを示す遊技状態情報が報知表示される（図 1 8 9（B 1）参照）。

【2505】

＜ステップ S 3 9 3 9 及び S 3 9 4 0＞

確変遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 7：No）、MPU 5 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 9 3 9）。a 時短遊技状態フラグは、a 時短遊技状態に移行された場合に、遊技状態移行処理での図 1 7 9 のステップ S 3 7 2 4 でオンに設定される。

【2506】

MPU 5 1 は、a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 9：Yes）、a 時短遊技状態演出設定処理を実行し（ステップ S 3 9 4 0）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU 5 1 は、a 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 9 3 9：No）、処理をステップ S 3 9 4 1 に移行する。

【2507】

ここで、a 時短遊技状態演出設定処理では、特図変動パターンコマンドに含まれる特別図柄の変動表示時間、大当たり抽選での抽選結果などに基づいて、前述の第 1 の実施形態における図 4 7 のコマンド判定処理でのステップ S 3 1 0 3～S 3 1 0 6 と同様な処理が実行されることで、特図遊技において実行される演出が設定される。また、a 時短遊技状態演出設定処理では、a 時短遊技状態であることを示す固有の背景画像（背景演出、ステージ演出）が設定され、a 時短遊技状態中であることを示す文字画像（例えば「××モード」の文字画像）の他、a 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数（例えば「残り時短 1 0 0 回」の文字画像）などが設定される（図 1 8 9（B 2）参照）。そのため、遊技者は、a 時短遊技状態に固有の背景画像（背景演出、ステージ演出）や a 時短遊技状態中であることを示す文字画像などの遊技状態情報が報知表示されることに基づいて a 時短遊技状態であることが識別可能である。なお、確変遊技状態においては、図柄表示部 3 4 1 で大当たり連荘回数や出玉数の表示を行ってもよい。

【2508】

また、前述のように、通常大当たり遊技には、第 1 入賞口 3 1 4 への遊技球の入賞により、又は電動役物のスルーゲート 3 1 7 への遊技球の入球に基づいて電動役物 3 1 5 b が作動されることでの第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球により実行された特図大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合に、特図が特定期間変動表示される小利益遊技である特定期間遊技としての特図遊技の実行後に移行する。また、確変遊技状態には、当該確変大当たり遊技の終了後に移行する。そのため、図柄表示部 3 4 1 では、通常大当たり遊技のエンディング画像（図 1 8 9（A 2）参照）として遊技状態情報が報知表示されてから、a 時短遊技状態に移行した場合に a 時短遊技状態中であることを示す遊技状態情報が報知表示される（図 1 8 9（B 2）参照）。

【2509】

また、a 時短遊技状態演出設定処理では、a 時短遊技状態での最後の特図遊技であるかが判断され、a 時短遊技状態での最後の特図遊技である場合には、当該特図遊技によって報知される特図大当たり抽選の結果が外れである場合には、特定期間遊技としての当該特図遊技の終了時に、図柄表示部 3 4 1 において a 時短遊技状態が終了することを示す遊技状態情報として a 時短終了表示が報知表示される（図 1 9 0（A）参照）。本実施形態では、例えば a 時短遊技状態が終了することを示す「RUSH 終了」の文字画像が表示される。さらに、本実施形態では、a 時短終了表示は、大当たり連荘でのリザルト画面としても利用され、大当たり連荘回数を示す「RUSH Y 回」の文字画像や当該大当たり連荘での出玉数を示す「7 5 0 0 玉」の文字画像などの大当たり連荘での結果が表示さ

10

20

30

40

50

れる。

【2510】

<ステップS3941及びS3942>

a時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3939：No）、MPU51は、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3941）。b時短遊技状態フラグは、b時短遊技状態に移行された場合に、遊技状態移行処理での図180のステップS3727でオンに設定される。

【2511】

MPU51は、b時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3941：Yes）、b時短遊技状態演出設定処理を実行し（ステップS3942）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU51は、b時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3941：No）、当該コマンド判定処理を終了する。

【2512】

ここで、b時短遊技状態演出設定処理では、特図変動パターンコマンドに含まれる特別図柄の変動表示時間、大当たり抽選での抽選結果などに基づいて、前述の第1の実施形態における図47のコマンド判定処理でのステップS3103～S3106と同様な処理が実行されることで、特図遊技において実行される演出が設定される。また、b時短遊技状態演出設定処理では、b時短遊技状態であることを示す固有の背景画像（背景演出、ステージ演出）が設定され、b時短遊技状態中であることを示す文字画像（例えば「天井RUSH」の文字画像）の他、b時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数（例えば「残り1000回」の文字画像）などが設定される（図190（B1）参照）。そのため、遊技者は、b時短遊技状態に固有の背景画像（背景演出、ステージ演出）やb時短遊技状態中であることを示す文字画像などの遊技状態情報が報知表示されることに基づいてb時短遊技状態であることが識別可能である。なお、確変遊技状態においては、図柄表示部341で大当たり連荘回数や出玉数の表示を行ってもよい。

【2513】

また、前述のように、通常大当たり遊技には、第1入賞口314への遊技球の入賞により、又は電動役物のスルーゲート317への遊技球の入球に基づいて電動役物315bが作動することでの第2入賞口315への遊技球の入球により実行された特図大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合に、特図が特定期間変動表示される小利益遊技である特定期間遊技としての特図遊技の実行後に移行する。また、確変遊技状態には、当該確変大当たり遊技の終了後に移行する。そのため、図柄表示部341では、通常大当たり遊技のエンディング画像（図189（A2）参照）として遊技状態情報が報知表示されてから、a時短遊技状態に移行した場合にa時短遊技状態中であることを示す遊技状態情報が報知表示される（図189（B2）参照）。

【2514】

<ステップS3943及びS3944>

受信したコマンドが特図変動パターンコマンドでない場合（ステップS3934：No）、MPU51は、受信したコマンドが、天井発動残回数カウンタがセットされたことを示す天井発動残回数カウンタリセットコマンドであるか否かを判断する（ステップS3943）。天井発動残回数カウンタリセットコマンドは、小利益遊技であるV入賞大当たり遊技の実行に基づいて、b時短遊技状態を発生させるまでの残りの特図遊技回数を示す天井発動残回数カウンタがリセットされた場合に、遊技状態移行処理での図183のステップS3748で設定される。

【2515】

MPU51は、受信したコマンドが、b時短遊技状態を発生させるまでの残りの特図遊技回数を示す天井発動残回数カウンタがリセットされたことを示す天井発動残回数カウンタリセットコマンドである場合（ステップS3943：Yes）、処理をステップS3944に移行する。一方、MPU51は、受信したコマンドが天井発動残回数カウンタリセ

ットコマンドでない場合（ステップ S 3 9 4 1 : N o）、処理をステップ S 3 9 4 5 に移行する。

【 2 5 1 6 】

<ステップ S 3 9 4 4>

受信したコマンドが天井発動残回数カウンタリセットコマンドである場合（ステップ S 3 9 4 3 : Y e s）、MP U 5 1 は、図柄表示部 3 4 1 において天井発動残回数がリセットされたことを示す天井発動残回数リセット表示を実行する（ステップ S 3 9 4 4）。例えば、本実施形態では、図柄表示部 3 4 1 において「天井残回数リセット」の文字画像が表示される（図 1 9 0（B 2）参照）。そのため、遊技者は、遊技状態情報として天井発動残回数がリセットされたことを示す天井発動残回数リセット表示が報知表示されることに基づいて、天井発動残回数がリセットされたことを識別可能である。

10

【 2 5 1 7 】

ここで、天井発動残回数カウンタは、小利益遊技である特定期間遊技としての V 入賞大当たり遊技の終了後にリセットされる。また、V 入賞大当たり遊技は、第 1 入球手段としての特電始動口 3 7 への遊技球の入球に基づく特電始動遊技において、第 2 入球手段としての特定入球領域としての特電 V 入賞口 3 8 3 に基づいて実行される。つまり、遊技者は、第 2 方向である遊技盤 3 1 の右側領域の分離部 3 9 3 よりも左側に遊技球を打ち出す弱右打ち遊技を実行することで、V 入賞大当たり遊技を発生させて天井発動残回数を意図的にリセットでき、天井発動残回数がリセットされたことを図柄表示部 3 4 1 において遊技状態情報としての天井発動残回数リセット表示に基づいて確認することができる。

20

【 2 5 1 8 】

なお、天井発動残回数リセット表示は、少なくとも V 入賞大当たり遊技が終了後の一定期間表示されるようにすることが考えられる。また、天井発動残回数リセット表示は、特図遊技及び特図大当たり遊技などの遊技がいずれも実行されていない場合に移行される待機画面（デモ画面）において表示することも考えられ、また遊技者による操作ボタン 2 0 や選択ボタン 2 1 A に対する所定の操作により表示されるようにすることも考えられる。このようにすることで、遊技者は、当該遊技機 1 0 において遊技を開始する前に、天井発動残回数がリセットされたことを把握することが可能になる。

【 2 5 1 9 】

ここで、遊技機 1 0 の機能や遊技方法に対する遊技者の知識や理解度には差が生じ得り、例えば、当該遊技機 1 0 が、所定回数の特図遊技の実行によって高頻度サポートモードである b 時短遊技状態が発生される天井機能を有すること、b 時短遊技状態が発生されるまでに必要な特図遊技回数を、特電大入賞装置 3 8 の特電 V 入賞口 3 8 3 への遊技球の入球により最大値にセットする天井発動残回数リセット機能を有すること、この天井発動残回数リセット機能が弱右打ち遊技によって第 2 流路 3 9 2 に遊技球を流下させることによって発動可能であることの全てを理解している遊技者が存在し得るのに対し、当該遊技機 1 0 の一部の機能や遊技方法を理解していない遊技者が存在することが想定される。天井機能については、広く普及されているために理解しているものが多いものと考えられ、遊技ホールにおいても「游タイム」などの表記によって天井機能を有する遊技機であることが明示することが広く行われている。一方、当該遊技機 1 0 は、弱右打ち遊技による天井発動残回数リセット機能を有するが、そのような特徴的な機能については、遊技者に広く普及するまでは遊技者は直ぐには理解し難く、天井発動残回数リセット機能や天井発動残回数リセット方法を知らずに遊技を行うものも存在し得る。

30

40

【 2 5 2 0 】

本実施形態では、遊技機 1 0 では、天井発動残回数のリセットは、分離部 3 9 3 よりも左側に遊技球を打ち出す弱右打ち遊技によって第 2 流路 3 9 2 に遊技球を流下させることで、遊技者の意思により自由に実行することが可能である一方で、遊技者の意に反して、遊技球の発射不良や遊技球相互の干渉等によって第 2 流路 3 9 2 を遊技球が流下し、天井発動残回数がリセットされることが起こり得る。そのため、遊技機 1 0 の天井発動残回数リセット機能や天井発動残回数リセット方法を理解していない遊技者は、天井発動残回数

50

リセット表示（図１９０（Ｂ２）参照）のみでは、何が起こったのかを理解できない。その結果、ｂ時短遊技状態を発生させるために必要な残りの特図遊技の実行回数を天井発動残回数リセット前の回数であると勘違いしたまま遊技を継続する可能性がある。その場合、遊技者が想定した特図遊技を実行したにも関わらず天井が発動（ｂ時短遊技状態が発生）しないことになるため、遊技者は遊技機１０や、データ表示器１０３の表示（先に通常大当たり遊技を終了してからの特図遊技の実行回数の表示）に対して不信感を抱き、遊技機１０に対する興味が低下し、また、遊技ホールに対する不信感を抱く結果となりかねないために好ましくない。そこで、このような問題を解決すべく、天井発動残回数リセット表示（図１９０（Ｂ２）参照）に代えて、又は加えて、遊技者自身の行為によって天井発動残回数がリセットされたことを、例えば図柄表示部３４１において行うのが好ましい。

具体的には、図柄表示部３４１において、特電大入賞装置３８の特電Ｖ入賞口３８３に遊技球が入球したことに基づいて天井発動残回数がリセットされたことを、文字画像による説明文や、特電大入賞装置３８を模した画像を含む動画像や静止画像によって明示することが考えられる。また、天井発動残回数がリセットされた場合に限らず、特図遊技の実行中や遊技非実行中のデモ画面において、特電大入賞装置３８の特電Ｖ入賞口３８３に遊技球が入球したことに基づいて天井発動残回数がリセットされることの遊技説明を予め行うことも考えられる。

10

【２５２１】

<ステップＳ３９４５>

受信したコマンドが天井発動残回数カウンタリセットコマンドでない場合（ステップＳ３９４１：Ｎｏ）、ＭＰＵ５１は、他のコマンドに基づく処理を実行し（ステップＳ３９４５）、当該コマンド判定処理を終了する。

20

【２５２２】

以上のように、本発明では、図柄の変動遊技の始動条件の成立を補助する補助手段の制御状態が特定遊技状態に対応していない第１制御状態である所定遊技状態において、所定期間の開閉手段の開放中に特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて利益遊技としての特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技が終了した場合に、第１制御状態から特定遊技状態に対応した第２制御状態に制御状態が変更される。即ち、本発明では、補助手段の制御状態が特定遊技状態に対応していない第１制御状態である所定遊技状態にであっても、開閉手段の開放中に特定入球領域に遊技球を入球させて所定の特定期間遊技実行させることで、補助手段に対する制御状態が第２制御状態である特定遊技状態を発生させることが可能である。これにより、特定遊技状態が終了した場合であっても再び特定遊技状態を発生させることが可能になるため、特定遊技状態が終了して特定遊技状態が発生しないことを理由に遊技機が放置されることが防止され、当該遊技機の稼働率の低下が抑制される。

30

【２５２３】

より具体的には、本実施形態では、遊技者に対して遊技利益として大利益遊技である特図大当たり遊技及び小利益遊技であるＶ入賞大当たり遊技が付与され得る。大利益遊技としての特図大当たり遊技は、始動手段としての第１入賞口３１４又は第２入賞口３１５への遊技球の入球を契機として実行される特図大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行され、第３入球手段としての可変入賞口３１６が複数回開閉されることで多量の遊技球の獲得が可能な遊技者にとっての利益が大きい遊技である。一方、小利益遊技としてのＶ入賞大当たり遊技は、第１入球手段としての特電始動口３７への遊技球の入球に基づいて実行される特電始動遊技において、第２入球手段が備える開閉手段としての特電開閉扉３８２の作動によって開放される第２入球手段が備える特定入球領域としての特電Ｖ入賞口３８３に遊技球が入球した場合に実行され、特電大入賞口３８１への遊技球の入球が可能であるが、特電大入賞口３８１への遊技球の入球によって獲得可能な遊技球が少なく遊技者にとっての利益が小さい遊技である。また、本実施形態では、特電始動口３７、特電大入賞口３８１及び特電Ｖ入賞口３８３は、遊技盤３１の右側領域に設定される特定の流路としての第２流路３９２を流下する遊技球が入球可能な位置に設けられている。つまり

40

50

、小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技は、第2流路392に遊技球を打ち出すことで実行され得る。

【2524】

さらに、本実施形態では、小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技が終了した場合、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させることが可能な変動遊技としての特図遊技の回数として最大値がセットされる。ここで、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態は、第2入賞口315を開閉する補助手段としての電動役物315bの開閉頻度（電動役物315bによる第2入賞口315への入球サポート頻度）が低い第2補助状態制御である低頻度サポートモードにおいて、大利益遊技としての特図大当たり遊技が実行されることなく所定回数（例えば1000回）の特図遊技が実行される場合に移行される上限回数（例えば1000回）が規定された時短遊技状態である。つまり、本実施形態では、遊技者が第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することによって、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態に移行させることが可能な特図遊技の回数として最大値がセットされる。

10

【2525】

そして、本実施形態では、遊技者が第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することによって第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させることが可能な特図遊技の回数として最大値がセットされることで、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態において大利益遊技としての特図大当たり遊技が実行されることなく上限回数の特図遊技が実行された場合にb時短遊技状態から通常遊技状態に移行され、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態が発生しない第1補助状態制御となった場合であっても、遊技者が第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することによって、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態を遊技者の意図によって発生させることができる。このように、本実施形態では、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させることが可能な第2補助状態制御である状態を遊技者が発生させることができるため、大利益遊技としての特図大当たり遊技が実行されることなく第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態が終了した遊技機に対する稼働率を向上させることが可能になる。

20

【2526】

また、本実施形態では、遊技者が第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することによって第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生させることが可能な特図遊技の回数として最大値がセットされるため、遊技者が第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態で遊技を終了する場合には、遊技者が遊技を終了する前に第2流路392に向けた遊技球の打ち出しを継続することで小利益遊技としてのV入賞大当たり遊技を実行させることによって、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態で当該遊技者によって実行された特図遊技の回数をクリアすることができる。これにより、遊技者は、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態で遊技者が遊技を実行したことによって受けた不利益が他者の利益となることを防止することができる。つまり、遊技者は、第1利益遊技状態制御であるb時短遊技状態を発生可能な第2補助状態制御である状態で実行された特図遊技の回数だけ、時間、金銭、労力などを投資しており、そのような投資が、当該遊技機で後に遊技を行う他者の利益となること、即ちいわゆるハイエナ行為の対象となることを、第2流路392に向けた遊技球の打ち出しの継続により、遊技者の意図によって防止することができる。

30

40

【2527】

また、本実施形態では、適用可能な範囲において、前述の第1～第3の実施形態における設計変更事項と同様な設計変更が可能である。

【2528】

また、各実施形態において、適用可能な範囲において、他の実施形態に記載の事項を適用することも可能である。

50

【 2 5 2 9 】

〔第 5 の実施形態〕

所定遊技状態における所定の計数情報の更新が規定回数に到達した場合に価値付与状態に移行可能な遊技機において、遊技者に対する報知方法の改善が望まれている。

【 2 5 3 0 】

本発明に係る遊技機は、上記課題を解決するために、

遊技球を発射可能な発射手段と、

遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域と、

前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄を変動表示する表示手段と、

前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と、

を備えた遊技機であって、

前記変動表示における予め定められた更新条件の成立に基づいて特定情報を更新する更新手段と、

特定の遊技状態において、前記特定情報が所定の更新状態となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態を発生させる利益状態発生手段と、

第 1 報知態様又は前記第 1 報知態様とは異なる第 2 報知態様で所定の報知を行う報知制御手段と、

前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定を実行する判定手段と

、
前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件が成立した場合に特定の利益を発生させる利益発生手段と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングまでは前記第 1 報知態様により前記特定判定結果となったことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第 2 報知態様に切り替える切替手段を備えている。

【 2 5 3 1 】

特定情報は、所定の図柄の変動表示における予め定められた更新条件の成立に基づいて更新される情報であればよい。特定情報としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば R A M に設定される各種カウンタ、各種コマンド、各種フラグ、特図遊技を実行する権利の保留に関する当否情報や保留数情報、普図変動を実行する権利に関する情報、R A M の所定アドレスに記憶される各種情報、各種バッファに格納される情報、予め定められた一連のデータ群、データ群における更新位置を把握するためのポインタ、時短遊技状態の残りの最大時短回数に対応する時短回数カウンタ（a 時短回数カウンタ、b 時短回数カウンタ、c 時短回数カウンタ）、b 時短遊技状態を発生させるまでの残りの特図遊技回数に対応するカウンタ（天井発動残回数カウンタ）、大当たり乱数カウンタ、大当たり種別カウンタ、リーチ乱数カウンタ、特図変動種別カウンタ、大当たり乱数初期値カウンタ、普図当たり乱数カウンタ、普図当たり種別乱数カウンタ、普図変動種別乱数カウンタ、普図当たり乱数値初期値カウンタ、電動役物の残りの開放時間を示す開放時間カウンタ、大当たり遊技の残りのラウンド数に対応するラウンド数カウンタ、大当たり遊技のオープニングの残り時間に対応するオープニング時間カウンタ、ラウンド遊技の最大残り時間に対応するラウンド遊技時間カウンタ、大当たり遊技のエンディングの残り時間に対応するエンディング時間カウンタ、特図変動パターンコマンド、停止種別コマンド、保留球数コマンド、確定表示コマンド、特図シフトコマンド、第 1 特図保留コマンド、第 2 特図保留コマンド、小当たり遊技開始コマンド、得表示 O P コマンド、損表示 O P コマンド、小当たりオープニング開始コマンド、小当たりオープニング終了コマンド、可動羽部作動開始コマンド、小当たり遊技終了コマンド、大当たり遊技開始コマンド、オープニング開始コマンド、オープニング終了コマンド、ラウンド遊技開始コマンド、ラウンド遊技終了コマン

10

20

30

40

50

ド、インターバル開始コマンド、インターバル終了コマンド、エンディング開始コマンド、エンディング終了コマンド、大当たり遊技終了コマンド、特図変動表示中フラグ、特図変動停止フラグ、普図変動表示中フラグ、普図変動停止表示フラグ、電動役物開放中フラグ、大当たり遊技開始フラグ、大当たり遊技中フラグ、オープニング中フラグ、ラウンド遊技中フラグ、インターバル中フラグ、エンディング中フラグ、大当たり遊技終了フラグ、小当たり遊技開始フラグ、小当たりオープニングフラグ、V入賞口開閉部作動フラグ、可動羽部作動フラグ、V入賞フラグ、小当たり遊技フラグ、確変遊技状態フラグ、通常遊技状態フラグ、大当たり遊技状態フラグ、小当たり遊技状態フラグ、通常遊技状態フラグ、時短遊技状態フラグ（a時短遊技状態フラグ、b時短遊技状態フラグ、c時短遊技状態フラグ）、第1特図遊技を実行する権利の保留に対する第1特図保留エリアに格納される特図当否情報、第1特図遊技の保留数に関する情報、第2特図遊技を実行する権利の保留に対する第2特図保留エリアに格納される特図当否情報、第2特図遊技の保留数に関する情報、当該特図変動に特図実行エリアに格納される特図当否情報、普図変動を実行する権利の保留に対する普図保留格納エリアに格納される普図当否情報や普図変動保留数に関する情報、特図遊技を実行する場合に1回の特図遊技の全体に対して設定される一連の描画リスト、大当たり遊技を実行する場合に1回の大当たり遊技の全体に対して設定される一連の描画リスト、小当たり遊技を実行する場合に1回の小当たり遊技の全体に対して設定される一連の描画リスト、特図遊技に対して設定される描画リストにおける更新位置を把握するためのポインタ、大当たり遊技に対して設定される描画リストにおける更新位置を把握するためのポインタ、小当たり遊技に対して設定される描画リストにおける更新位置を把握するためのポインタ、表示データテーブルバッファに格納される情報（表示データテーブル）、追加データテーブルバッファに格納される情報（追加データテーブル）、転送データテーブルバッファに格納される情報（転送データテーブル）、フレームバッファに格納された描画情報、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【2532】

更新手段は、特定情報を更新する処理であればよい。更新手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えばソフトウェアによる処理、上書き制御処理、書き込み制御処理、ロード処理、ハード回路による処理、RAMに設定される各種カウンタを更新（加算、減算、初期化、クリア）する処理、各種コマンドを更新（設定）する処理、各種フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、特図遊技を実行する権利の保留に関する当否情報や保留数情報を更新する処理、普図変動を実行する権利に関する情報を更新する処理、RAMの所定アドレスに記憶される各種情報を更新する処理、各種バッファに格納される情報を更新する処理、予め定められた一連のデータ群をバッファなどの所定の記憶エリアに格納する処理、データ群における更新位置を把握するためのポインタを更新（移動）する処理、時短遊技状態の残りの最大時短回数に対応する時短回数カウンタ（a時短回数カウンタ、b時短回数カウンタ、c時短回数カウンタ）を更新（減算、加算、初期化、クリア）する処理、b時短遊技状態を発生させるまでの残りの特図遊技回数に対応するカウンタ（天井発動残回数カウンタ）を更新（減算又は加算）する処理、大当たり乱数カウンタを更新する処理、大当たり種別カウンタを更新する処理、リーチ乱数カウンタを更新する処理、特図変動種別カウンタを更新する処理、大当たり乱数初期値カウンタを更新する処理、普図当たり乱数カウンタを更新する処理、普図当たり種別乱数カウンタを更新する処理、普図変動種別乱数カウンタを更新する処理、普図当たり乱数値初期値カウンタを更新する処理、電動役物の残りの開放時間に対応する開放時間カウンタを更新（減算、加算又はクリア）する処理、大当たり遊技の残りのラウンド数に対応するラウンド数カウンタを更新（減算又は加算）する処理、大当たり遊技のオープニングの残り時間に対応するオープニング時間カウンタを更新（減算又は加算）する処理、ラウンド遊技の最大残り時間に対応するラウンド遊技時間カウンタを更新（減算、加算、又はクリア）する処理、大当たり遊技のエンディングの残り時間に対応するエンディング時間カウンタを更新（減算又は加算）する処理、特図変動パターンコマンドを更新（設定）する処理、停止種別コマンドを更新（設定）する処理、保留球数コマンドを更新（設定）する処理、確定表示コマン

ドを更新（設定）する処理、特図シフトコマンドを更新（設定）する処理、第1特図保留コマンドを更新（設定）する処理、第2特図保留コマンドを更新（設定）する処理、小当たり遊技開始コマンドを更新（設定）する処理、得表示OPコマンドを更新（設定）する処理、損表示OPコマンドを更新（設定）する処理、小当たりオープニング開始コマンドを更新（設定）する処理、小当たりオープニング終了コマンドを更新（設定）する処理、可動羽部作動開始コマンドを更新（設定）する処理、小当たり遊技終了コマンドを更新（設定）する処理、大当たり遊技開始コマンドを更新（設定）する処理、オープニング開始コマンドを更新（設定）する処理、オープニング終了コマンドを更新（設定）する処理、ラウンド遊技開始コマンドを更新（設定）する処理、ラウンド遊技終了コマンドを更新（設定）する処理、インターバル開始コマンドを更新（設定）する処理、インターバル終了コマンドを更新（設定）する処理、エンディング開始コマンドを更新（設定）する処理、エンディング終了コマンドを更新（設定）する処理、大当たり遊技終了コマンドを更新（設定）する処理、特図変動表示中フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、特図変動停止フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、普図変動表示中フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、普図変動停止表示フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、電動役物開放中フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、大当たり遊技開始フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、大当たり遊技中フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、オープニング中フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、ラウンド遊技中フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、インターバル中フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、エンディング中フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、大当たり遊技終了フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、小当たり遊技開始フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、小当たりオープニングフラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、V入賞口開閉部作動フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、可動羽部作動フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、小当たり遊技フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、V入賞フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、確変遊技状態フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、通常遊技状態フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、大当たり遊技状態フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、小当たり遊技状態フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、通常遊技状態フラグを更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、時短遊技状態フラグ（a時短遊技状態フラグ、b時短遊技状態フラグ、c時短遊技状態フラグ）を更新する処理（オン・オフの切り替え処理）、第1特図遊技を実行する権利の保留に対する第1特図保留エリアに格納される特図当否情報（追加又はシフト）を更新する処理、第1特図遊技の保留数に関する情報を更新（加算又は減算）する処理、第2特図遊技を実行する権利の保留に対する第2特図保留エリアに格納される特図当否情報を更新（追加又はシフト）する処理、第2特図遊技の保留数に関する情報を更新（加算又は減算）する処理、特図実行エリアに格納される特図当否情報を更新（上書き）する処理、普図変動を実行する権利の保留に対する普図保留格納エリアに格納される普図当否情報や普図変動保留数に関する情報を更新する処理、特図遊技を実行する場合に1回の特図遊技の全体に対して設定される一連の描画リストを更新（ワークRAMに設定される描画リストエリア（バッファ）に格納）する処理、大当たり遊技を実行する場合に1回の大当たり遊技の全体に対して設定される一連の描画リストを更新（ワークRAMに設定される描画リストエリア（バッファ）に格納）する処理、小当たり遊技を実行する場合に1回の小当たり遊技の全体に対して設定される一連の描画リストを更新（ワークRAMに設定される描画リストエリア（バッファ）に格納）する処理、特図遊技に対して設定される描画リストにおける更新位置を把握するためのポイントを更新（移動）する処理、大当たり遊技に対して設定される描画リストにおける更新位置を把握するためのポイントを更新（移動）する処理、小当たり遊技に対して設定される描画リストにおける更新位置を把握するためのポイントを更新（移動）する処理、表示データテーブルバッファに格納される情報（表示データテーブル）を更新する処理、追

10

20

30

40

50

加データテーブルバッファに格納される情報（追加データテーブル）を更新する処理、転送データテーブルバッファに格納される情報（転送データテーブル）を更新する処理、フレームバッファに格納された描画情報を更新する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【2533】

特定の遊技状態は、遊技に関する状態であればよい。特定の遊技状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば通常遊技状態、時短遊技状態（a時短遊技状態、b時短遊技状態、c時短遊技状態）、大当たり遊技の開始又は終了によりa時短遊技状態での特図遊技の実行回数が初期化された状態、大当たり遊技の開始又は終了によりb時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技の実行回数が初期化された状態、遊技機のRAMクリアによりb時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技の実行回数が初期化された状態、a時短遊技状態での特図遊技の実行回数の初期化から大当たり遊技が開始されるまでの遊技状態、b時短遊技状態での特図遊技の実行回数の初期化から大当たり遊技が開始されるまでの遊技状態、c時短遊技状態での特図遊技の実行回数の初期化から大当たり遊技が開始されるまでの遊技状態、大当たり遊技終了から次に大当たり遊技が開始されるまでの状態、確変遊技状態、小当たり遊技状態、小当たり遊技においてオープニングが実行されている状態、小当たり遊技においてV入賞口が開放されている状態、大当たり遊技状態、大当たり遊技においてオープニングが実行されている状態、大当たり遊技において開閉実行モードが実行されている状態、大当たり遊技において各ラウンド遊技が実行されている状態、大当たり遊技においてエンディングが実行されている状態、普図当たり遊技が開始されてから普図当たり遊技が終了するまでの状態、普通電動役物が作動（第2入賞口が開放）している状態、所定の図柄の変動状態（所定の図柄の変動が開始されてから変動が終了するまでの状態）、特別図柄（第1特図、第2特図）の変動状態（特別図柄の変動が開始されてから変動が終了するまでの状態）、大当たり抽選の結果が大当たりである場合の特別図柄の変動状態、大当たり抽選の結果が小当たりである場合の特別図柄の変動状態、大当たり抽選の結果が外れである場合の特別図柄の変動状態、普通図柄の変動状態（普通図柄の変動が開始されてから変動が終了するまでの状態）、普図当たり抽選の結果が当たりである場合の普通図柄の変動状態、普図当たり抽選の結果が外れである場合の普通図柄の変動状態、遊技盤に設けられる可動体が作動している状態、各種演出の実行状態、大当たり遊技において演出が実行されている状態、特図遊技において演出が実行されている状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【2534】

所定の更新状態は、所定図柄の変動表示における予め定められた更新条件の成立に基づいて特定情報が更新された結果、遊技者に何らかの利益を付与可能な状態であればよい。所定の更新状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば大当たり遊技を開始可能な状態、大当たり遊技を終了可能な状態、小当たり遊技を開始可能な状態、小当たり遊技を終了可能な状態、普図当たり遊技を開始可能な状態、普図当たり遊技を終了可能な状態、確変遊技状態を開始可能な状態、確変遊技状態を終了可能な状態、a時短遊技状態を開始可能な状態、a時短遊技状態を終了可能な状態、b時短遊技状態を開始可能な状態、b時短遊技状態を終了可能な状態、c時短遊技状態を開始可能な状態、c時短遊技状態を終了可能な状態、所定の図柄の変動表示を開始可能な状態、所定の図柄の変動表示を終了可能な状態、特別図柄（第1特図、第2特図）の変動表示を開始可能な状態、特別図柄（第1特図、第2特図）の変動表示を終了可能な状態、大当たり抽選の結果が大当たりである場合の特別図柄の変動表示を開始可能な状態、大当たり抽選の結果が大当たりである場合の特別図柄の変動表示が開始された状態、大当たり抽選の結果が小当たりである場合の特別図柄の変動表示中の状態、大当たり抽選の結果が小当たりである場合の特別図柄の変動表示が停止された状態、飾り図柄の変動表示を開始可能な状態、飾り図柄の変動表示を終了可能な状態、大当たり抽選の結果が大当たりである場合の飾り図柄の変動表示を開始可能な状態、大当たり抽選の結果が大当たりである場合の飾り図柄の変動表示が開始された状態、大当たり抽選の結果が小当たりである場合の飾り図柄の変動表示中の状態、大

当たり抽選の結果が小当たりである場合の飾り図柄の変動表示が停止された状態、普通図柄の変動表示を開始可能な状態、普図当たり抽選の結果が当たりである場合の普通図柄の変動表示が開始された状態、普図当たり抽選の結果が当たりである場合の普通図柄の変動表示中の状態、普図当たり抽選の結果が当たりである場合の普通図柄の変動表示が停止された状態、各種カウンタが0になった状態、各種カウンタが所定値以上になった状態、b時短遊技状態を発生させるまでに必要な特図遊技の実行回数に対応する減算式のカウンタ（天井発動残回数カウンタ）が0になることに基づくb時短遊技状態を発生可能な状態、b時短遊技状態を発生させるまでに必要な特図遊技の実行回数に対応する加算式のカウンタ（天井発動残回数カウンタ）が所定値以上になることに基づくb時短遊技状態を発生可能な状態、大当たり乱数カウンタの値が大当たりに対応する値になった状態、大当たり乱数カウンタの値が小当たりに対応する値になった状態、普図当たり乱数カウンタの値が当たりに対応する値になった状態、確変大当たり遊技のエンディングを残り時間に対応する減算式エンディング時間カウンタが0となることに基づく確変遊技状態を発生可能な状態、確変大当たり遊技のエンディングを残り時間に対応する加算式エンディング時間カウンタが所定値以上となることに基づく確変遊技状態を発生可能な状態、時短大当たり遊技のエンディングを残り時間に対応する減算式エンディング時間カウンタが0となることに基づくa時短遊技状態を発生可能な状態、時短大当たり遊技のエンディングを残り時間に対応する加算式エンディング時間カウンタが所定値以上となることに基づくa時短遊技状態を発生可能な状態、通常大当たり遊技のエンディングを残り時間に対応する減算式エンディング時間カウンタが0となることに基づくa時短遊技状態を発生可能な状態、通常大当たり遊技のエンディングを残り時間に対応する加算式エンディング時間カウンタが所定値以上となることに基づくa時短遊技状態を発生可能な状態、小当たり遊技の実行中にV入賞口への遊技球が入球した場合の小当たり遊技の残り時間に対応する減算式時間カウンタの値が0になった状態、小当たり遊技の実行中にV入賞口への遊技球が入球した場合の小当たり遊技の残り時間に対応する加算式時間カウンタの値が所定値以上になった状態、特図遊技を実行する場合に1回の特図遊技の全体に対して設定される一連の描画リストが更新（ワークRAMに設定される描画リストエリア（バッファ）に格納）された状態、特図遊技を実行する場合に1回の特図遊技の全体に対して設定された一連の描画リストを最後まで実行した状態（特図遊技における表示手段での描画処理を終了した状態）、大当たり遊技を実行する場合に1回の大当たり遊技の全体に対して設定される一連の描画リストを最後まで実行した状態（大当たり遊技における表示手段での描画処理を終了した状態）、小当たり遊技を実行する場合に1回の小当たり遊技の全体に対して設定される一連の描画リストを最後まで実行した状態（小当たり遊技における表示手段での描画処理を終了した状態）、特図遊技に対する描画リストにおける更新位置を把握するためのポインタが描画リストにおける最後更新位置を示している状態、大当たり遊技に対する描画リストにおける更新位置を把握するためのポインタが描画リストにおける最後更新位置を示している状態、小当たり遊技に対する描画リストにおける更新位置を把握するためのポインタが描画リストにおける最後更新位置を示している状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【2535】

所定の利益状態は、遊技者に何らかの利益を付与する状態であればよい。所定の利益状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば賞球が付与され易い状態、大当たり遊技状態、小当たり遊技状態、大当たり抽選の結果が大当たりになり易い状態、大当たり抽選の結果が小当たりになり易い状態、確率遊技状態、電動役物が作動し易い状態、普図当たり抽選の結果が当たりとなり易い状態、a時短遊技状態、b時短遊技状態、c時短遊技状態、小当たり遊技においてV入賞させるほうがV入賞させずにb時短遊技状態が発生させるよりも出玉期待値が高い状態、小当たり遊技においてV入賞させるよりもV入賞させずにb時短遊技状態が発生させるほうが出玉期待値が高い状態、特図遊技において特定の演出が実行される状態、特図遊技において大当たり確定の演出が実行される状態、特図遊技において確変大当たり確定の演出が実行される状態、特図遊技において小当たり確

定の演出が実行される状態、特図遊技において出玉期待値が有利な遊技方法に関する演出が実行される状態、特図遊技において小当たり時にV入賞させるほうが出玉期待値的に有利であることを示す演出が実行される状態、特図遊技において小当たり時にV入賞させないほうが出玉期待値的に有利であることを示す演出が実行される状態、大当たり遊技において特定の演出が実行される状態、大当たり遊技において確変昇格演出が実行される状態、大当たり遊技において保留連荘演出が実行される状態、小当たり遊技においてV入賞させるほうがV入賞させずにb時短遊技状態が発生させるよりも出玉期待値的に有利であることを示す演出が実行される状態、小当たり遊技においてV入賞させるよりもV入賞させずにb時短遊技状態が発生させるほうが出玉期待値的に有利であることを示す演出が実行される状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【2536】

報知態様は、所定の報知に対応した態様であればよい。報知態様としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば画像による報知態様、光による報知態様、音声による報知態様、遊技者の利益を報知する態様、遊技者の不利益を報知する態様、将来的に発生する事象を報知する態様、賞球が付与され易い状態であることを報知する態様、大当たり遊技状態であることを報知する態様、小当たり遊技状態であることを報知する態様、大当たり抽選の結果が大当たりになり易い状態であることを報知する態様、大当たり抽選の結果が小当たりになり易い状態であることを報知する態様、確率遊技状態であることを報知する態様、電動役物が作動し易い状態であることを報知する態様、普図当たり抽選の結果が当たりとなり易い状態であることを報知する態様、a時短遊技状態であることを報知する態様、b時短遊技状態であることを報知する態様、c時短遊技状態であることを報知する態様、小当たり遊技においてV入賞させるほうがV入賞させずにb時短遊技状態が発生させるよりも出玉期待値が高い状態であることを報知する態様、小当たり遊技においてV入賞させるよりもV入賞させずにb時短遊技状態が発生させるほうが出玉期待値が高い状態であることを報知する態様、特図遊技において小当たり時にV入賞させるほうが出玉期待値的に有利であることを示す演出が実行される状態であることを報知する態様、特図遊技において小当たり時にV入賞させないほうが出玉期待値的に有利であることを示す演出が実行される状態であることを報知する態様、特図遊技におけるリーチ演出の表示態様（リーチ演出種別）、特図遊技における将来的発生するリーチ演出種別を報知する態様（例えば演出ストック）、特図遊技に何かの演出が発生することを報知する態様（例えばタイマー演出）、大当たり抽選の結果が大当たりであることを報知する態様、大当たり抽選の結果が小当たりであることを報知する態様、大当たり抽選の結果が外れであることを報知する態様、大当たり抽選の結果が外れであることを報知してからの大当たりであることを報知する態様（例えば復活演出）、大当たり抽選の結果が大当たりであることを報知してからの大当たりの種別が遊技者により有利（確変大当たり、RUSH突入確定大当たり、よりラウンド数が多い大当たり）であることを報知する態様（例えば昇格演出）、特図遊技における所定の図柄の停止態様（停止種別）、特図遊技における特別図柄の停止態様（停止種別）、特図遊技において大当たりであることを報知する特別図柄の停止態様、特図遊技において確変大当たりであることを報知する特別図柄の停止態様、特図遊技において通常当たりであることを報知する特別図柄の停止態様、特図遊技において時短大当たりであることを報知する特別図柄の停止態様、特図遊技において小当たりであることを報知する停止態様、特図遊技において外れであることを報知する停止態様、特図遊技における飾り図柄の停止態様（停止種別）、特図遊技において大当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えばゾロ目停止）、特図遊技において確変大当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えば7図柄のゾロ目停止）、特図遊技において通常大当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えば偶数図柄のゾロ目）、特図遊技において時短大当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様、特図遊技において小当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様、特図遊技において外れであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えば非ゾロ目停止）、特図遊技において前後外れリーチであることを報知する飾り図柄の停止態様、特図遊技において前後外れ以外リーチであることを報知する飾り

20

30

40

50

図柄の停止態様、特図遊技において完全外れであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えばバラケ目停止）、特図遊技において外れであることを報知する飾り図柄の停止状態（例えば非ゾロ目停止状態）から特図遊技において外れであることを報知する飾り図柄の停止状態（例えばゾロ目停止状態）に変化する態様、特図遊技において大当たりことを報知する飾り図柄の停止状態（例えば偶数ゾロ目停止状態）から遊技者により有利な大当たり（確変大当たり、RUSH突入確定大当たり、よりラウンド数が多い大当たり）であることを報知する飾り図柄の停止状態（例えば7ゾロ目停止状態）に変化する態様、普図遊技における普通図柄の停止態様（停止種別）、普図遊技において当たりであることを報知する普通図柄の停止態様、普図遊技において外れであることを報知する普通図柄の停止態様、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【2537】

報知制御手段は、報知態様を制御する処理であればよい。報知制御手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば画像による報知態様を制御する処理、光による報知態様を制御する処理、音声による報知態様を制御する処理、遊技者の利益を報知する態様に制御する処理、遊技者の不利益を報知する態様に制御する処理、将来的に発生する事象を報知する態様に制御する処理、賞球が付与され易い状態であることを報知する態様に制御する処理、大当たり遊技状態であることを報知する態様に制御する処理、小当たり遊技状態であることを報知する態様に制御する処理、大当たり抽選の結果が大当たりになり易い状態であることを報知する態様に制御する処理、大当たり抽選の結果が小当たりになり易い状態であることを報知する態様に制御する処理、確率遊技状態であることを報知する態様に制御する処理、電動役物が作動し易い状態であることを報知する態様に制御する処理、a時短遊技状態であることを報知する態様に制御する処理、b時短遊技状態であることを報知する態様に制御する処理、c時短遊技状態であることを報知する態様に制御する処理、小当たり遊技においてV入賞させるほうがV入賞させずにb時短遊技状態が発生させるよりも出玉期待値が高い状態であることを報知する態様に制御する処理、小当たり遊技においてV入賞させるよりもV入賞させずにb時短遊技状態が発生させるほうが出玉期待値が高い状態であることを報知する態様に制御する処理、特図遊技において小当たり時にV入賞させるほうが出玉期待値的に有利であることを示す演出が実行される状態であることを報知する態様に制御する処理、特図遊技において小当たり時にV入賞させないほうが出玉期待値的に有利であることを示す演出が実行される状態であることを報知する態様に制御する処理、特図遊技におけるリーチ演出の表示態様（リーチ演出種別）を制御する処理、特図遊技における将来的発生するリーチ演出種別を報知する態様（例えば演出ストック）に制御する処理、特図遊技に何かの演出が発生することを報知する態様（例えばタイマー演出）に制御する処理、大当たり抽選の結果が大当たりであることを報知する態様に制御する処理、大当たり抽選の結果が小当たりであることを報知する態様に制御する処理、大当たり抽選の結果が外れであることを報知する態様に制御する処理、大当たり抽選の結果が外れであることを報知してからの大当たりであることを報知する態様（例えば復活演出）に制御する処理、大当たり抽選の結果が大当たりであることを報知してからの大当たりの種別が遊技者により有利（確変大当たり、RUSH突入確定大当たり、よりラウンド数が多い大当たり）であることを報知する態様（例えば昇格演出）に制御する処理、特図遊技における所定の図柄の停止態様（停止種別）に制御する処理、特図遊技における特別図柄の停止態様（停止種別）に制御する処理、特図遊技において大当たりであることを報知する特別図柄の停止態様に制御する処理、特図遊技において確変大当たりであることを報知する特別図柄の停止態様に制御する処理、特図遊技において通常当たりであることを報知する特別図柄の停止態様に制御する処理、特図遊技において時短大当たりであることを報知する特別図柄の停止態様に制御する処理、特図遊技において小当たりであることを報知する停止態様に制御する処理、特図遊技において外れであることを報知する停止態様に制御する処理、特図遊技における飾り図柄の停止態様（停止種別）に制御する処理、特図遊技において大当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えばゾロ目停止）に制御する処理、特図遊技において確変大当たりであることを報知する飾り図柄の停止

20

30

40

50

態様（例えば7図柄のゾロ目停止）に制御する処理、特図遊技において通常大当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えば偶数図柄のゾロ目）に制御する処理、特図遊技において時短大当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様に制御する処理、特図遊技において小当たりであることを報知する飾り図柄の停止態様に制御する処理、特図遊技において外れであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えば非ゾロ目停止）態様に制御する処理、特図遊技において前後外れリーチであることを報知する飾り図柄の停止態様に制御する処理、特図遊技において前後外れ以外リーチであることを報知する飾り図柄の停止態様に制御する処理、特図遊技において完全外れであることを報知する飾り図柄の停止態様（例えばバラケ目停止）態様に制御する処理、特図遊技において外れであることを報知する飾り図柄の停止状態（例えば非ゾロ目停止状態）から特図遊技において外れであることを報知する飾り図柄の停止状態（例えばゾロ目停止状態）に変化する態様に制御する処理、特図遊技において大当たりことを報知する飾り図柄の停止状態（例えば偶数ゾロ目停止状態）から遊技者により有利な大当たり（確変大当たり、RUSH突入確定大当たり、よりラウンド数が多い大当たり）であることを報知する飾り図柄の停止状態（例えば7ゾロ目停止状態）に変化する態様に制御する処理、普図遊技における普通図柄の停止態様（停止種別）に制御する処理、普図遊技において当たりであることを報知する普通図柄の停止態様に制御する処理、普図遊技において外れであることを報知する普通図柄の停止態様に制御する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【2538】

所定の遊技条件は、判定手段により実行された所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に遊技者による所定の遊技操作に基づいて成立する条件であればよい。所定の遊技条件としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば大当たり抽選の結果が大当たりである場合に成立する条件、大当たり抽選の結果が確変当たりである場合に成立する条件、大当たり抽選の結果が時短当たりである場合に成立する条件、大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合に成立する条件、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に成立する条件、大当たり抽選の結果が外れである場合に成立する条件、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大当たり遊技において成立する条件、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大当たり遊技において遊技者が発射ハンドルを操作することに基づいて遊技球を発射することにより成立する条件、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大当たり遊技において所定の入賞口に遊技球が入球することにより成立する条件、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大当たり遊技において遊技者が発射ハンドルを操作することに基づいて遊技球を発射することによって所定の入賞口に遊技球が入球することにより成立する条件、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行される大当たり遊技においてV入賞口に遊技球が入球することにより成立する条件、大当たり抽選の結果が確変大当たりである場合に実行される確変大当たり遊技において成立する条件、大当たり抽選の結果が確変大当たりである場合に実行される確変大当たり遊技においてV入賞口に遊技球が入球することにより成立する条件、大当たり抽選の結果が時短大当たりである場合に実行される時短大当たり遊技において成立する条件、大当たり抽選の結果が通常大当たりである場合に実行される通常大当たり遊技において成立する条件、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行される小当たり遊技において成立する条件、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行される小当たり遊技において遊技者が発射ハンドルを操作することに基づいて遊技球を発射することにより成立する条件、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行される小当たり遊技において遊技者が発射ハンドルを操作することに基づいて遊技球を発射することによって所定の入賞口に遊技球が入球することにより成立する条件、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行される小当たり遊技においてV入賞口に遊技球が入球することにより成立する条件、操作ボタンに対する操作に基づいて成立する条件、遊技盤の正面側へのタッチ操作に基づいて成立する条件、遊技者が発射ハンドルを操作することに基づいて遊技球を発射することにより成立する条件、遊技者が発射ハンドルを操作することに基づいて遊技球を発射することによって所定の入賞口に遊技球が入球することにより成立する条

20

30

40

50

件、発射ハンドルに対する操作に基づいて遊技球を遊技盤の左側領域に発射することにより成立する条件、発射ハンドルに対する所定の操作に基づいて遊技球を遊技盤の右側領域に発射することにより成立する条件、発射ハンドルに対する所定の操作に基づいて遊技球を遊技盤の右側領域に発射することにより成立する条件、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【2539】

特定の利益は、所定の遊技条件が成立した場合に付与される利益であればよい。特定の利益としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば所定の抽選の結果が特定結果である場合に付与される利益、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に付与される利益、大当たり遊技の実行、確変大当たり遊技の実行、確変大当たり遊技におけるV入賞口への遊技球の入球に基づく確変遊技状態の発生、時短大当たり遊技の実行、確変大当たり遊技におけるV入賞口への遊技球の入球に基づくa時短遊技状態の発生、通常大当たり遊技の実行、通常大当たり遊技の実行に基づくa時短遊技状態の発生、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に付与される利益、小当たり遊技の実行、小当たり遊技におけるV入賞口への遊技球の入球に基づく大当たり遊技の実行、大当たり抽選の結果が外れである場合に付与される利益、大当たり抽選の結果が外れである場合におけるb時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技の実行回数の減算、普図当たり抽選の結果が当たりである場合に付与される利益、普図当たり遊技の実行、所定の入賞口への遊技球の入球により付与される利益、所定の入賞口への遊技球の入球に基づく賞球の付与、一般入賞口（普通入賞口）への遊技球の入球に基づく賞球の付与、第1特図遊技を開始させる契機を与える第1入賞口への遊技球の入球に基づく賞球の付与、第2特図遊技を開始させる契機を与える第2入賞口への遊技球の入球に基づく賞球の付与、大当たり遊技における可変入賞口（大入賞口）への遊技球の入球に基づく賞球の付与、小当たり遊技における可変入賞口（大入賞口）への遊技球の入球に基づく賞球の付与、第1入賞口への遊技球の入球に基づく大当たり抽選の実行、第1入賞口への遊技球の入球に基づく第1特図遊技の実行、第2入賞口への遊技球の入球に基づく大当たり抽選の実行、第2入賞口への遊技球の入球に基づく第2特図遊技の実行、スルーゲートへの遊技球の入球（通過）に基づく普図当たり抽選の実行、スルーゲートへの遊技球の入球（通過）に基づく普図当たり遊技の実行、特定演出の実行、特図遊技での特定演出の実行、特図遊技での大当たり確定演出の実行、特図遊技での昇格演出の実行、特図遊技での復活演出の実行、大当たり遊技での特定演出の実行、大当たり遊技での昇格演出の実行、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【2540】

利益発生手段は、特定の利益を発生させる処理であればよい。利益発生手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば所定の抽選の結果が特定結果である場合に付与される利益を発生させる処理、大当たり抽選の結果が大当たりである場合に付与される利益を発生させる処理、大当たり遊技を実行する処理、確変大当たり遊技を実行する処理、確変大当たり遊技におけるV入賞口への遊技球の入球に基づく確変遊技状態を発生させる処理、時短大当たり遊技を実行する処理、確変大当たり遊技におけるV入賞口への遊技球の入球に基づきa時短遊技状態を発生させる処理、通常大当たり遊技を実行する処理、通常大当たり遊技の実行に基づきa時短遊技状態を発生させる処理、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に付与される利益を発生させる処理、小当たり遊技を実行する処理、小当たり遊技におけるV入賞口への遊技球の入球に基づき大当たり遊技を実行する処理、大当たり抽選の結果が外れである場合に付与される利益を発生させる処理、大当たり抽選の結果が外れである場合におけるb時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技の実行回数を減算する処理、普図当たり抽選の結果が当たりである場合に付与される利益を発生させる処理、普図当たり遊技を実行する処理、所定の入賞口への遊技球の入球により付与される利益を発生させる処理、所定の入賞口への遊技球の入球に基づき賞球を付与する処理、一般入賞口（普通入賞口）への遊技球の入球に基づき賞球を付与する処理、第1特図遊技を開始させる契機を与える第1入賞口への遊技球の入球に基づき賞球を付与する処理、第2特図遊技を開始させる契機を与える第2入賞口への遊技球の入球に基づき賞球を

付与する処理、大当たり遊技における可変入賞口（大入賞口）への遊技球の入球に基づき賞球を付与する処理、小当たり遊技における可変入賞口（大入賞口）への遊技球の入球に基づき賞球を付与する処理、第1入賞口への遊技球の入球に基づき大当たり抽選を実行する処理、第1入賞口への遊技球の入球に基づき第1特図遊技を実行する処理、第2入賞口への遊技球の入球に基づき大当たり抽選を実行する処理、第2入賞口への遊技球の入球に基づき第2特図遊技を実行する処理、スルーゲートへの遊技球の入球（通過）に基づき普図当たり抽選を実行する処理、スルーゲートへの遊技球の入球（通過）に基づき普図当たり遊技を実行する処理、特定演出を実行する処理、特図遊技において特定演出を実行する処理、特図遊技において大当たり確定演出を実行する処理、特図遊技において昇格演出を実行する処理、特図遊技において復活演出を実行する処理、大当たり遊技において特定演出を実行する処理、大当たり遊技において昇格演出を実行する処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【2541】

ところで、昨今の遊技機では、例えば低確率モード（大当たり抽選の結果が大当たりとなる確率が低確率である遊技中状態）のような所定の遊技状態において、例えば更新情報としての特図変動の回数（例えばb時短遊技状態を発生させるために必要な特図遊技に実行回数に対応するカウンタ）が規定回数に到達した場合に所定の利益状態として時短遊技状態（いわゆる利益遊技状態であるb時短遊技状態、天井時短遊技状態）に移行するものがある。それに対する報知は、例えば前記規定回数に到達するまでに必要な特図遊技の残回数を報知するのみであったり、前記規定回数まで同じ内容を表示するなど、単調なものであり、更なる工夫が求められる。例えば、具体的には、利益遊技状態であるb時短遊技状態では、高頻度で電動役物が作動することによって大当たり抽選を実行する契機を与える第2入賞口が高頻度で開放される。そのため、b時短遊技状態では、第2入賞口への遊技球の入球に基づく特典付与として、賞球付与と大当たり抽選を受け易い。その結果、b時短遊技状態では、遊技者は、遊技球の減少を抑制しつつ大当たり抽選を受けることができるため、第2入賞口への遊技球の入球が不要又は困難な通常遊技状態に比べて、特典付与として大当たり遊技を発生させるために必要な遊技球数を低減することができる。

20

【2542】

また、昨今の遊技機では、第1入賞口への遊技球の入球を契機として特典付与として大当たり遊技が発生される場合に比べて、第2入賞口への遊技球の入球を契機として特典付与として大当たり遊技が発生される場合のほうが、遊技者に付与される利益が大きく設定される傾向がある。例えば、第2入賞口への遊技球の入球を契機とするほうが、第1入賞口への遊技球の入球を契機とする場合に比べて、大当たり遊技が発生し易い状態（いわゆるRUSH状態）への突入率が優遇されることがある。一例において、第1入賞口への遊技球の入球を契機とする場合のRUSH突入率が50%に設定されるのに対して、第2入賞口への遊技球の入球を契機とする場合のRUSH突入率が100%に設定される。そのため、利益遊技状態であるb時短遊技状態は、通常遊技状態に比べてRUSH突入率が高く、その結果、低確率モード（大当たり抽選の結果が大当たりとなる確率が低確率である遊技中状態）である通常遊技状態において最初の大当たり遊技が発生する場合に比べて、遊技中状態が低確率モードのb時短遊技状態において最初の大当たり遊技が発生する場合のほうが、最初の大当たり遊技の発生以降の出玉期待値（遊技者に得られる賞球の合計の平均値）が高くなる。このように、出玉期待値は、最初の大当たり遊技の発生が通常遊技状態に比べてb時短遊技状態のほうが高くなる。

30

40

【2543】

ここで、通常遊技状態からb時短遊技状態に移行されるには、b時短遊技状態よりも遊技球が減少する通常遊技状態において規定回数の特図遊技を実行する必要がある。その結果、通常遊技状態におけるマイナス差玉（総賞球数から遊技球の発射球数を差分したもの）が所定数に到達するまでは、通常遊技状態において最初の大当たり遊技を発生させた場合の差玉期待値（総賞球数から遊技球の発射球数を差分したものの平均値）が、b時短遊技状態において最初の大当たり遊技を発生させる場合に比べて高くなる。一方、通常遊技

50

状態におけるマイナス差玉が所定数に到達してからは、b時短遊技状態において最初の大当たり遊技を発生させた場合の差玉期待値が、通常遊技状態において最初の大当たり遊技を発生させる場合に比べて高くなる。このように、差玉期待値の観点からは、通常遊技状態において大当たり遊技を発生させるほうが遊技者に有利な状態と、通常遊技状態において大当たり遊技を発生させずにb時短遊技状態に移行させてから大当たり遊技を発生させるほうが遊技者に有利な状態とが存在する。

【2544】

しかしながら、遊技機では、大当たり遊技を発生させるタイミングをコントロールすることができない。そのため、通常遊技状態における差玉期待値がマイナスであるタイミング、例えばb時短遊技状態に移行する直前において大当たり遊技が発生することがある。そして、通常遊技状態では、第1入賞口への遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される結果、RUSHに突入しないことがある。この場合、遊技者は、RUSH突入の恩恵を受けることができず、遊技に対する興味や興味が低下しかねない。

【2545】

これに対して、本発明では、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、変動表示における予め定められた更新条件の成立に基づいて更新手段によって更新される特定情報が、所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングまでは第1報知態様により特定判定結果となったことが報知され、所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様が第2報知態様に切り替えられる。このように、所定の判定の結果が特定判定結果となったことが、所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングまでは第1報知態様により報知され、所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様が第2報知態様に切り替えられることで、所定の判定の結果が特定判定結果となったタイミングが、所定タイミングに到達する前であるか、特定タイミングに到達して以降であるかを判断することができる。これにより、遊技者は、特定判定結果となったタイミングが判断可能な報知態様の種別に基づいて、特定判定結果となったことに基づく特定の利益を受けることが有利であるか否か、即ち所定の遊技条件を成立させるか否かを判断することができる。その結果、遊技者は、特定判定結果となったタイミングが判断可能な報知態様の種別に基づいて、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるか、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるかを選択することができるため、自身によって有利であると判断されるタイミングで特定の利益を受ける可能になる。従って、遊技者は、特定の利益を受けることが不利であると判断される場合に特定の利益を受けることを回避できるため、自身にとって不利であると判断されるタイミングで特定の利益を受けてしまうことに起因する遊技に対する興味や興味の低下が防止される。

【2546】

より具体的には、本実施形態では、所定の判定の結果である特図大当たり抽選の結果が特定判定結果である小当たりである場合、特定情報である天井発動残回数カウンタの値が所定の更新状態である0となるよりも所定期間前である所定タイミングである損益分岐点に到達までは、特定判定結果である小当たりであることが第1報知態様である得表示オープニング演出により報知され、特定タイミングである損益分岐点に到達してからは特定判定結果である小当たりであることが第2報知態様である損表示オープニング演出により報知されるよう切り替えられる。つまり、本実施形態では、小当たり遊技が発生した段階での遊技者が獲得可能な利益の期待値に応じた報知態様で、当該小当たり遊技のオープニングにおいて利益の期待値の損得が報知される。そのため、遊技者は、小当たり遊技が発生した場合に、当該小当たり遊技のオープニング演出に着目することで、段階での遊技者が獲得可能な利益の損得を把握することが可能であるため、遊技者は当該小当たり遊技のオープニング演出での報知態様に基づいて大当たり遊技を発生させるか否かを判断することができる。その結果、当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させないほうが獲

得可能な利益の期待値が高い場合に大当たり遊技を発生させないことを選択し、当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させるほうが獲得可能な利益の期待値が高い場合に大当たり遊技を発生させることを選択することが可能になる。これにより、遊技者は、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態への移行が近づいた段階での大当たり遊技の発生によってb時短遊技状態に移行しないという不利益の発生を回避できるため遊技の興趣が向上される。

【2547】

特に、本実施形態では、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行させることが遊技者に有利な特定タイミングである損益分岐点に到達してから小当たり遊技のオープニング演出の報知態様が切り替えられるため、損益分岐点の近傍の損益判断が困難な期間において小当たり遊技が発生した場合であっても、小当たり遊技のオープニング演出の報知態様に基づいて自身に有利な判断をより確実に行うことが可能になる。

【2548】

以下、本実施形態について、図191～図254を参照して前述の第1の実施形態との相違点を中心に説明する。但し、本実施形態において重要な事項については、前述の第1の実施形態において既に説明している場合であっても改めて説明することがある。

【2549】

本遊技機は、本発明の具体的な構成として、特定情報としての「更新情報」を備え、また更新手段としての「更新処理」を備え、また特定の遊技状態としての「遊技中状態」を備え、また所定の更新状態としての「更新終了状態」を備え、また所定の利益状態としての「利益遊技状態」を備え、また報知態様としての「報知表示」を備え、また報知制御手段としての「報知表示制御」を備え、また所定の遊技条件としての「特典付与条件」を備え、また特定の利益としての「特典付与」を備え、また利益発生手段としての「特典付与制御」を備える。

【2550】

〔遊技機10の構成〕

まず、前述の図1～図3に加え、図191～図193を参照しつつ、遊技機10の構成について説明する。ここで、図191は本実施形態に係る遊技機10の遊技盤31の一例を示す正面図、図192及び図193は図191に示す遊技機の羽役物装置の要部を示す断面図である。

【2551】

〔前面枠11の構成〕

図1～図3に示すように、前面枠11は、操作ボタン20、選択決定部21、発射ハンドル22、上皿23、下皿24、パネル25、スピーカ26、及び電飾部27などを備える。

【2552】

操作ボタン20は、上皿23の前方に設けられている。操作ボタン20は、押下操作の有無に応じて、音声ランプ制御装置5に対する入力信号を切り換える操作スイッチ20a（図7参照）を備える。これにより、音声ランプ制御装置5では、前述のように、操作ボタン20の操作状態（操作あり及び操作なし）を判断することが可能である（図45及び図46参照）。この操作ボタン20は、大当たり抽選での抽選結果を遊技者に明示する特図遊技で実行される特図遊技演出における予め定められた操作受付期間での遊技者による操作ボタン20に対する操作を契機として実行される操作ボタン演出を実行させ、また特図遊技演出での背景演出（背景ステージ）の切り替えの他、所定演出の発生頻度やキャラクタ選択などの遊技カスタマイズのために操作される。

【2553】

発射ハンドル22は、遊技者が遊技球を発射させるために操作する回転式ハンドルである。遊技機10では、遊技者による発射ハンドル22に対する所定の遊技操作として回転操作がなされた場合に、その回転操作量に応じた強さで後述の遊技球発射機構32から遊技球が発射されることにより基本的な遊技が行われる。例えば、遊技者による発射ハンド

ル 2 2 に対する所定の遊技操作に応じて、遊技盤 3 1 の左側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる左打ち、及び遊技盤 3 1 の右側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる右打ちを実行することができる。そして、本実施形態においては、通常遊技状態では、始動入球領域としての第 1 入賞口 3 1 4 に遊技球を入球させて第 1 特図遊技を実行するために左打ちが奨励され、所定の利益状態では、右打ちが奨励される。具体的には、例えば利益遊技状態である時短遊技状態（a 時短遊技状態及び b 時短遊技状態）では、始動入球領域としての第 2 入賞口 3 1 5 やスルーゲート 3 1 7 への遊技球の入球により特典付与条件を成立させて特典付与として第 2 特図遊技を実行させるために右打ちが奨励され、利益遊技状態である小当たり遊技状態では、特典付与条件としての羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 への遊技球の入球を成立させて特典付与として大当たり遊技を発生させるために右打ちが奨励され、利益遊技状態である大当たり遊技状態では、特典付与条件としての可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球を成立させて特典付与として多量の賞球の付与を受けるために右打ちが奨励される。そのため、遊技者は、遊技状態に応じて奨励される所定の遊技操作を発射ハンドル 2 2 に対して実行することで適切な特典付与を受けることができる。

10

【 2 5 5 4 】

〔内枠 1 2 の構成〕

図 2 及び図 3 に示すように、内枠 1 2 は、発射手段としての遊技球発射機構 3 2、遊技球が流下可能な遊技領域が設定される遊技盤 3 1 などを備える。

【 2 5 5 5 】

図 2 に示すように、遊技球発射機構 3 2 は、発射レール 3 2 1、球送り装置 3 2 2、及びソレノイド 3 2 3 を備える。発射レール 3 2 1 は、遊技球発射機構 3 2 から遊技盤 3 1 の内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 に向けて形成されており、遊技球発射機構 3 2 から発射される遊技球を内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 に導くものである。球送り装置 3 2 2 は、ソレノイドなどの駆動手段を有しており、上皿 2 3 に貯留されている遊技球を 1 球ずつ発射レール 3 2 1 上に供給する。ソレノイド 3 2 3 は、発射レール 3 2 1 上に供給された遊技球を内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 に向けて発射させる駆動手段である。そして、遊技機 1 0 では、遊技者により発射ハンドル 2 2 に対する所定の遊技操作がなされている状況では、遊技者による発射ハンドル 2 2 の操作に応じてソレノイド 3 2 3 が駆動制御され、0.6 sec に 1 個の遊技球が遊技領域に向けて発射される。なお、遊技球発射機構 3 2 は、ソレノイド 3 2 3 に代えてモーターなどの他の駆動手段を用いて遊技球を発射させる機構であってもよい。

20

30

【 2 5 5 6 】

図 1 9 1 に示すように、遊技盤 3 1 には、内レール 3 1 1 と、外レール 3 1 2 と、一般入賞口 3 1 3 と、始動入球領域としての第 1 入賞口 3 1 4 及び第 2 入賞口 3 1 5 と、小当たり遊技において作動される後述の羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 及び通常入賞口 8 3 4、大当たり遊技において作動される可変入球手段としての可変入賞口 3 1 6、始動入球領域としてのスルーゲート 3 1 7、アウト口 3 1 8、表示手段としての可変表示ユニット 3 4、表示手段としてのメイン表示部 3 6、及び羽役物装置 8 3 が設けられている。

【 2 5 5 7 】

内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 は、遊技者による発射ハンドル 2 2 に対する所定の遊技操作によって発射された遊技球を遊技盤 3 1 の盤面上の遊技領域に向けて送り出すための搬送路である。そして、遊技者による発射ハンドル 2 2 に対する所定の遊技操作によって内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 から発射された遊技球は、一般入賞口 3 1 3、第 1 入賞口 3 1 4、第 2 入賞口 3 1 5、V 入賞口 8 3 3、通常入賞口 8 3 4 又は可変入賞口 3 1 6 に入球しなかった遊技球はアウト口 3 1 8 から排出される。一方、遊技者による発射ハンドル 2 2 に対する所定の遊技操作によって発射された遊技球が一般入賞口 3 1 3、第 1 入賞口 3 1 4、第 2 入賞口 3 1 5、V 入賞口 8 3 3、通常入賞口 8 3 4 又は可変入賞口 3 1 6 に入球すると、特典付与制御として賞球付与処理が実行されることで、予め設定された数の賞球が払い出される。例えば、特典付与制御として賞球付与処理では、一般入賞口 3 1 3 への遊技球の入球に対して 10 個の賞球付与が実行され、第 1 入賞口 3 1 4 又

40

50

は第2入賞口315への遊技球の入球に対して3個の賞球付与が実行され、V入賞口833、通常入賞口834又は可変入賞口316への遊技球の入球に対して10個の賞球付与が実行される。

【2558】

また、スルーゲート317に遊技球が入球した場合、賞球の払い出しはないが、特典付与条件としてスルーゲート317への遊技球の入球が成立することを契機として、特典付与として当否抽選処理である普図当たり抽選に関する特典付与制御が実行される。そして、特典付与条件として普図当たり抽選の結果について普図当たりが成立する場合には、特典付与として普図当たり遊技が実行される。この普図当たり遊技では、特典付与制御として電動役物315bが作動されることで、始動入球領域である第2入賞口315が開放される特典付与が実行される。このように、普図当たり遊技において第2入賞口315が開放されることで第2入賞口315への遊技球の入球が可能になる。

10

【2559】

また、始動入球領域としての第1入賞口314又は第2入賞口315に遊技球が入球することを契機として特典付与条件が成立する場合、特典付与として特図大当たり抽選が実行される。この特図大当たり抽選は、メイン制御ユニット331（主制御装置4のMPU41）による特典付与制御の実行により実現される。そして、メイン制御ユニット331で行われた特図大当たり抽選の結果は、表示手段であるメイン表示部36の第2特別図柄表示部363において所定の図柄である特図（第1特図又は第2特図）が変動表示される特図遊技（第1特図遊技又は第2特図遊技）が実行されることによって報知される。同時に、特図大当たり抽選の結果は、所定の図柄である飾り図柄の変動表示が表示手段である可変表示ユニット34の図柄表示部341において実行されることによっても報知される。

20

【2560】

さらに、特図大当たり抽選の結果が小当たりであることで特典付与条件が成立する場合、当該特図遊技の終了後に特典付与として小当たり遊技が実行される。この小当たり遊技では、特典付与制御として羽役物装置83の可動羽部832及びV入賞口開閉部835が作動され、V入賞口833及び通常入賞口834への遊技球の入球が可能になる。また、遊技者による発射ハンドル22に対する所定の遊技操作によって発射された遊技球がV入賞口833又は通常入賞口834に入球することで特典付与条件が成立する場合、特典付与として賞球が付与される。また、小当たり遊技において遊技者による発射ハンドル22に対する所定の遊技操作によって発射された遊技球がV入賞口833に入球することで特典付与条件が成立する場合、特典付与として当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技が発生される。このように、小当たり遊技では、遊技者による発射ハンドル22に対する所定の遊技操作によって特典付与条件としてのV入賞口833又は通常入賞口834への遊技球の入球が成立することに基づいて、特典付与としての賞球付与を受けることができ、遊技者による発射ハンドル22に対する所定の遊技操作によって特典付与条件としてのV入賞口833又は通常入賞口834への遊技球の入球が成立することに基づいて、特典付与としての大当たり遊技が発生させることが可能になる。これとは逆に、遊技者による発射ハンドル22に対する所定の遊技操作がなされなかった場合には、特典付与条件としてのV入賞口833及び通常入賞口834への入球が成立せずに特典付与が受けられず、当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技が発生しないため、当該小当たり遊技の終了後に第1入賞口314又は第2入賞口315への遊技球の入球に基づく特図遊技の実行が可能な状態とされる。

30

40

【2561】

また、前述のように、小当たり遊技において遊技者による発射ハンドル22に対する所定の遊技操作によって発射された遊技球がV入賞口833に入球することで特典付与条件が成立する場合、当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技が発生される。この大当たり遊技では、特典付与制御として開閉実行モードにおいて所定回数（例えば5回又は16回）のラウンド遊技が繰り返し実行される、各ラウンド遊技では、開閉扉319が、可変入

50

球手段としての可変入賞口 3 1 6 を閉鎖する位置と、可変入賞口 3 1 6 を開放する位置との間で作動される。つまり、開閉実行モードでは、開閉扉 3 1 9 に対する特典付与制御が実行されることで、複数のラウンド遊技数（例えば 5 回又は 1 6 回）から大当たり抽選の結果に応じて決定される数のラウンド遊技が実行される。このように、大当たり遊技では、開閉実行モードにおいて可変入球手段としての可変入賞口 3 1 6 が繰り返し開放されるため、遊技者による発射ハンドル 2 2 に対する所定の遊技操作によって特典付与条件としての可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球が成立することに基づいて、特典付与としての多量の賞球付与を受けることが期待できる。これとは逆に、遊技者による発射ハンドル 2 2 に対する所定の遊技操作がなされなかった場合には、特典付与条件としての可変入賞口 3 1 6 への遊技球の入球が成立せずに特典付与が受けられず、当該大当たり遊技の終了後に第 1 入賞口 3 1 4 又は第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づく特図遊技の実行が可能な状態とされる。

10

【 2 5 6 2 】

〔羽役物装置 8 3〕

本実施形態に係る遊技機 1 0 は、前述の第 1 の実施形態とは異なり、ループ確変機ではなく 1 種 2 種混合機として構成されており、前述のように羽役物装置 8 3 を備える。羽役物装置 8 3 は、大当たり抽選の結果が小当たりとなることで特典付与条件が成立した場合に特典付与される小当たり遊技において作動されるものである。この小当たり遊技にいて羽役物装置 8 3 が作動される場合、特典付与条件としての後述の V 入賞口 8 3 3 への遊技球の入球が成立することに基づいて、特典付与として 2 種大当たり遊技が実行される。

20

【 2 5 6 3 】

羽役物装置 8 3 は、可変入球手段としての可変入賞口 3 1 6 の上方かつ表示手段としての図柄表示部 3 4 1 の右側に設けられている。図 1 9 2 に示すように、羽役物装置 8 3 は、遊技球 9 9 を羽役物装置 8 3 の内部に導入する導入口 8 3 1、及びこの導入口 8 3 1 を閉鎖する閉鎖位置（図 1 9 2 の実線の位置）と導入口 8 3 1 を開放する開放位置（図 1 9 2 の一点鎖線の位置）との間で、ソレノイド（不図示）等の駆動手段によって回動される可動羽部 8 3 2 を有する。可動羽部 8 3 2 が待機位置にあることで可動羽部 8 3 2 によって導入口 8 3 1 が閉鎖された状態では、遊技球 9 9 が羽役物装置 8 3 の内部に導入されることはない。一方、図 1 9 3（A）及び図 1 9 3（B）に示すように、可動羽部 8 3 2 が開放位置にあることで導入口 8 3 1 が開放された状態では、可動羽部 8 3 2 によって遊技球 9 9 の受け取りが可能である。可動羽部 8 3 2 によって受け取られた遊技球 9 9 は、導入口 8 3 1 を介して羽役物装置 8 3 の内部に導入され得る。可動羽部 8 3 2 は、始動入球領域である第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を契機とする大当たり抽選の結果が小当たり（図 2 0 4（A）参照）である場合に開放位置に作動され、導入口 8 3 1 を所定時間、例えば羽役物装置 8 3 に 1 ～ 3 個の遊技球 9 9 が入球する時間（1.8 秒以下）だけ開放する。もちろん、小当たり時の導入口 8 3 1 の開放時間は、適宜設定すればよく、先に示した時間には限定されない。

30

【 2 5 6 4 】

羽役物装置 8 3 の内部には、V 入賞口 8 3 3、通常入賞口 8 3 4 及び V 入賞口開閉部 8 3 5 が設けられている。V 入賞口 8 3 3 及び通常入賞口 8 3 4 には、それぞれ入球センサ 8 3 3 a、8 3 4 a（図 1 9 4 参照）が設けられており、これらの入球センサ 8 3 3 a、8 3 4 a によって V 入賞口 8 3 3 又は通常入賞口 8 3 4 に遊技球が入球したことが検知される。そして、V 入賞口 8 3 3 又は通常入賞口 8 3 4 の入球センサ 8 3 3 a、8 3 4 a によって遊技球が入球したことが検知されることで特典付与条件が成立した場合、特典付与制御が実行されることで特典付与として賞球付与が実行される。

40

【 2 5 6 5 】

V 入賞口開閉部 8 3 5 は、V 入賞口 8 3 3 を閉鎖状態とする閉鎖位置（図 1 9 3（A）参照）と V 入賞口 8 3 3 を開放する開放位置（図 1 9 3（B）参照）との間で、ソレノイド（不図示）等の駆動手段によって回動される。V 入賞口開閉部 8 3 5 は、通常は V 入賞口 8 3 3 を閉鎖する閉鎖位置で待機しており、大当たり抽選での抽選結果が小当たりであ

50

る場合に、所定のタイミングで作動されることで、V入賞口833が開放される。

【2566】

なお、本実施形態では、羽役物装置83の内部にV入賞口833及び通常入賞口834が設けられているが、通常入賞口834が省略してもよい。また、本実施形態では、羽役物装置83が可変入球手段としての入口316とは別に設けられているが、可変入賞口316を省略し、羽役物装置83を大当たり遊技において作動する可変入球手段として利用してもよい。

【2567】

〔遊技機10のシステム構成〕

次に、図194～図207を参照しつつ、本実施形態の遊技機10のシステム構成や遊技機10の主制御装置4において使用される各種テーブル等について説明する。

【2568】

ここで、図194は、遊技機10のシステム構成の一例を示すブロック図である。図194に示すように、遊技機10のシステム構成は、基本的に前述の第1の実施形態と同様であるが、羽役物装置83が設けられることで、V入賞口833への遊技球の入球を検知する入球センサ833a、及び通常入賞口834への遊技球の入球を検知する入球センサ834aが設けられている点で、前述の第1の実施形態とは異なる。

【2569】

〔表示制御装置6の電氣的構成〕

次に、図195を参照して、表示制御装置6の電氣的構成について説明する。図195は、図191に示す遊技機の表示制御装置のシステム構成の一例を示すブロック図である。図195に示すように、表示制御装置6は、MPU631と、ワークRAM633と、キャラクタROM634と、常駐用ビデオRAM635と、通常用ビデオRAM636と、画像コントローラ637と、入力ポート638と、出力ポート639と、バスライン640、641とを有している。

【2570】

入力ポート638の入力側には音声ランプ制御装置5の出力側が接続され、入力ポート638の出力側には、MPU631、ワークRAM633、キャラクタROM634、画像コントローラ637がバスライン640を介して接続されている。画像コントローラ637には、常駐用ビデオRAM635及び通常用ビデオRAM636が接続されると共に、バスライン641を介して出力ポート639が接続されている。また、出力ポート639の出力側には、図柄表示部341が接続されている。

【2571】

以下では、先にMPU631、キャラクタROM634、画像コントローラ637、常駐用ビデオRAM635、通常用ビデオRAM636について説明し、次いで、ワークRAM633について説明する。

【2572】

まず、MPU631は、主制御装置4の変動パターンコマンドに基づく音声ランプ制御装置5から出力された表示用変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部341の表示内容を制御するものである。MPU631は、更新処理によってアドレス指定先が更新（移動）される命令ポインタ631aを内蔵しており、命令ポインタ631aで示されるアドレスに格納された命令コードを読み出してフェッチし、その命令コードに従って各種処理を実行する。MPU631には、電源投入（停電からの復電を含む。以下、同じ。）直後に、電源制御装置9からシステムリセットがかけられるようになっており、そのシステムリセットが解除されると、命令ポインタ631aは、MPU631のハードウェアによって自動的に実行される更新処理によって更新情報としての命令ポインタ631aの値が「0000H」に設定される。そして、命令コードがフェッチされる度に、更新情報としての命令ポインタ631aの値が更新処理により1ずつ加算される。また、MPU631が命令ポインタ631aの設定命令を実行した場合は、その設定命令により指示された更新情報としてのポインタの値が命令ポインタ631aにセットされる。

10

20

30

40

50

【2573】

なお、本実施形態では、MPU631によって実行される制御プログラムや、その制御プログラムで使用される各種の固定値データは、図柄表示部341に表示させる画像のデータを記憶させるために設けられたキャラクタROM634に記憶させている。もちろん、MPU631によって実行される制御プログラムや、その制御プログラムで使用される各種の固定値データは、専用のプログラムROMを設けて記憶させてもよい。

【2574】

キャラクタROM634は、小面積で大容量化を図ることが可能なNAND型フラッシュメモリ634aによって構成されている。これにより、画像データだけでなく制御プログラム等を十分に記憶させておくことができる。そして、キャラクタROM634に制御プログラム等を記憶させておけば、制御プログラム等を記憶する専用のプログラムROMを設ける必要がない。よって、表示制御装置6における部品点数を削減することができ、製造コストを削減できるほか、部品数増加による故障発生率の増加を抑制することができる。

【2575】

一方で、NAND型フラッシュメモリは、特にランダムアクセスを行う場合において読み出し速度が遅くなるという問題点がある。例えば、複数のページに連続して並んだデータの読み出しを行う場合において、2ページ目以降のデータは高速読み出しが可能であるが、最初の1ページ目のデータの読み出しには、アドレスが指定されてからデータが出力されるまでに大きな時間を要する。また、連続していないデータを読み出す場合は、そのデータを読み出す度に大きな時間を要する。このように、NAND型フラッシュメモリは、その読み出しに係る速度が遅いため、MPU631が直接キャラクタROM634から制御プログラムを読み出して各種処理を実行するように構成すると、制御プログラムを構成する命令の読み出しに時間がかかる場合が発生し、MPU631として高性能のプロセッサを用いても、表示制御装置6の処理性能を悪化させてしまうおそれがある。

【2576】

そこで、本実施形態では、MPU631のシステムリセットが解除されると、まず、キャラクタROM634のNAND型フラッシュメモリ634aに記憶されている制御プログラムを、各種データの一時記憶用に設けたワークRAM633に転送して格納する。そして、MPU631はワークRAM633に格納された制御プログラムに従って、各種処理を実行する。ワークRAM633は、後述するようにDRAM(Dynamic RAM)によって構成され、高速でデータの読み書きが行われるので、MPU631は遅滞なく制御プログラムを構成する命令の読み出しを行うことができる。よって、表示制御装置6において高い処理性能を保つことができ、図柄表示部341を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。

【2577】

キャラクタROM634は、MPU631において実行される制御プログラムや、図柄表示部341に表示される画像のデータを記憶したメモリであり、MPU631とバスライン640を介して接続されている。MPU631は、バスライン640を介してシステムリセット解除後にキャラクタROM634に直接アクセスし、そのキャラクタROM634の後述する第2プログラム記憶エリア634a1に記憶された制御プログラムを、ワークRAM633のプログラム格納エリア633aへ転送する。また、バスライン640には画像コントローラ637も接続されており、画像コントローラ637はキャラクタROM634の後述するキャラクタ記憶エリア634a2に格納された画像データを、画像コントローラ637に接続されている常駐用ビデオRAM635や通常用ビデオRAM636へ転送する。

【2578】

このキャラクタROM634は、NAND型フラッシュメモリ634a、ROMコントローラ634b、バッファRAM634c、NOR型ROM634dをモジュール化して構成されている。

10

20

30

40

50

【2579】

NAND型フラッシュメモリ634aは、キャラクタROM634におけるメインの記憶部として設けられる不揮発性のメモリであり、MPU631によって実行される制御プログラムの大部分や図柄表示部341を駆動させるための固定値データを記憶する第2プログラム記憶エリア634a1と、図柄表示部341に表示させる画像（キャラクタ等）のデータを格納するキャラクタ記憶エリア634a2とを少なくとも有している。

【2580】

ここで、NAND型フラッシュメモリは、小さな面積で大きな記憶容量が得られる特徴を有しており、キャラクタROM634を容易に大容量化することができる。これにより、本遊技機10において、例えば2ギガバイトの容量を持つNAND型フラッシュメモリ634aを用いることにより、図柄表示部341に表示させる画像として、多くの画像をキャラクタ記憶エリア634a2に記憶させることができる。よって、遊技者の興趣をより高めるために、図柄表示部341に表示される画像を多様化、複雑化することができる。

10

【2581】

また、NAND型フラッシュメモリ634aは、多くの画像データをキャラクタ記憶エリア634a2に記憶させた状態で、更に、制御プログラムや固定値データも第2プログラム記憶エリア634a1に記憶させることができる。このように、制御プログラムや固定値データを、専用のプログラムROMを設けて記憶させることなく、図柄表示部341に表示させる画像のデータを記憶させるために設けられたキャラクタROM634に記憶させることができるので、表示制御装置6における部品点数を削減することができ、製造コストを削減できるほか、部品数増加による故障発生率の増加を抑制することができる。

20

【2582】

ROMコントローラ634bは、キャラクタROM634の動作を制御するためのコントローラであり、例えば、バスライン640を介してMPU631や画像コントローラ637から伝達されたアドレスに基づいて、NAND型フラッシュメモリ634a等から該当するデータを読み出し、バスライン640を介してMPU631又は画像コントローラ637へ出力する。

【2583】

ここで、NAND型フラッシュメモリ634aは、その性質上、データの書き込み時にエラービット（誤ったデータが書き込まれたビット）が比較的多く発生したり、データを書き込むことができない不良データブロックが発生したりする。そこで、ROMコントローラ634bは、NAND型フラッシュメモリ634aから読み出したデータに対して公知の誤り訂正を施し、また、不良データブロックを避けてNAND型フラッシュメモリ634aへのデータの読み書きが行われるように公知のデータアドレスの変換を実行する。

30

【2584】

このROMコントローラ634bにより、エラービットを含むNAND型フラッシュメモリ634aから読み出されたデータに対して誤り訂正が行われるので、キャラクタROM634としてNAND型フラッシュメモリ634aを用いたとしても、誤ったデータに基づいてMPU631が処理を行ったり、画像コントローラ637が各種画像を生成したりすることを抑制することができる。

40

【2585】

また、ROMコントローラ634bによってNAND型フラッシュメモリ634aの不良データブロックが解析され、その不良データブロックへのアクセスが回避されるので、MPU631や画像コントローラ637は、個々のNAND型フラッシュメモリ634aで異なる不良データブロックのアドレス位置を考慮することなく、キャラクタROM634へのアクセスを容易に行うことができる。よって、キャラクタROM634にNAND型フラッシュメモリ634aを用いても、キャラクタROM634へのアクセス制御が複雑化することを抑制することができる。

【2586】

50

バッファRAM 634cは、NAND型フラッシュメモリ634aから読み出したデータを一時的に記憶するバッファとして用いられるメモリである。MPU 631や画像コントローラ637からバスライン640を介してキャラクタROM 634に割り振られたアドレスが指定されると、ROMコントローラ634bは、その指定されたアドレスに対応するデータを含む1ページ分（例えば2キロバイト）のデータがバッファRAM 634cにセットされているか否かを判断する。そして、セットされていない場合は、その指定されたアドレスに対応するデータを含む1ページ分（例えば、2キロバイト）のデータをNAND型フラッシュメモリ634a（又はNOR型ROM 634d）より読み出してバッファRAM 634cに一旦セットする。そして、ROMコントローラ634bは、公知の誤り訂正処理を施した上で、指定されたアドレスに対応するデータを、バスライン640を介してMPU 631や画像コントローラ637に出力する。

10

【2587】

このバッファRAM 634cは、2バンクで構成されており、1バンク当たりNAND型フラッシュメモリ634aの1ページ分のデータがセットできるようになっている。これにより、ROMコントローラ634bは、例えば、一方のバンクにデータをセットした状態のまま他方のバンクを使用して、NAND型フラッシュメモリ634aのデータを外部に出力したり、MPU 631や画像コントローラ637より指定されたアドレスに対応するデータを含む1ページ分のデータをNAND型フラッシュメモリ634aから一方のバンクに転送してセットする処理と、MPU 631や画像コントローラ637によって指定されたアドレスに対応するデータを他方のバンクから読み出してMPU 631や画像コ

20

【2588】

NOR型ROM 634dは、キャラクタROM 634におけるサブの記憶部として設けられる不揮発性のメモリであり、NAND型フラッシュメモリ634aを補完することを目的にそのNAND型フラッシュメモリ634aよりも極めて小容量（例えば、2キロバイト）に構成されている。このNOR型ROM 634dには、キャラクタROM 634に記憶される制御プログラムのうち、NAND型フラッシュメモリ634aの第2プログラム記憶エリア634a1に記憶されていないプログラム、具体的には、MPU 631においてシステムリセット解除後に最初に実行されるブートプログラムの一部を格納する第1

30

【2589】

ブートプログラムは、図柄表示部341に対する各種制御が実行可能となるように表示制御装置6を起動するための制御プログラムであり、システムリセット解除後にMPU 631が先ずこのブートプログラムを実行する。これにより、表示制御装置6において各種制御が実行可能に状態とすることができる。第1プログラム記憶エリア634d1は、このブートプログラムのうち、バッファRAM 634cの1バンク分（即ち、NAND型フラッシュメモリ634aの1ページ分）の容量の範囲で、システムリセット解除後にMPU 631によって最初に処理すべき命令から所定数の命令（例えば、1ページの容量が2

40

【2590】

MPU 631は、システムリセットが解除されると、ハードウェアによって更新情報としての命令ポインタ631aの値を「0000H」に設定すると共に、バスライン640に対して命令ポインタ631aにて示されるアドレス「0000H」を指定するように構成されている。一方、キャラクタROM 634のROMコントローラ634bは、バスライン640にアドレス「0000H」が指定されたことを検知すると、NOR型ROM 634dの第1プログラム記憶エリア634d1に記憶されたブートプログラムをバッファ

50

R A M 6 3 4 c の一方のバンクにセットして、対応するデータ（命令コード）を M P U 6 3 1 へ出力する。

【 2 5 9 1 】

M P U 6 3 1 は、キャラクタ R O M 6 3 4 から受け取った命令コードをフェッチすると、そのフェッチした命令コードに従って各種処理を実行するとともに、更新情報としての命令ポインタ 6 3 1 a を 1 だけ加算する更新処理を実行し、命令ポインタ 6 3 1 a にて示されるアドレスをバスライン 6 4 0 に対して指定する。そして、キャラクタ R O M 6 3 4 の R O M コントローラ 6 3 4 b は、バスライン 6 4 0 によって指定されたアドレスが N O R 型 R O M 6 3 4 d に記憶されたプログラムを指し示すアドレスである間、先に N O R 型 R O M 6 3 4 d からバッファ R A M 6 3 4 c にセットされたプログラムの中から、対応するアドレスの命令コードをバッファ R A M 6 3 4 c より読み出して、M P U 6 3 1 に対して出力する。

10

【 2 5 9 2 】

ここで、本実施形態において、制御プログラムを全て N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a に格納するのではなく、ブートプログラムのうち、システムリセット解除後に M P U 6 3 1 によって最初に処理すべき命令から所定数の命令を N O R 型 R O M 6 3 4 d に格納するのは、次の理由による。即ち、N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a は、上述したように、最初の 1 ページ目のデータの読み出しにおいて、アドレスを指定してからデータが出力されるまでに大きな時間を要する、という N A N D 型フラッシュメモリ特有の問題がある。

20

【 2 5 9 3 】

このような N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a に対して制御プログラムを全て格納すると、システムリセット解除後に M P U 6 3 1 が最初に実行すべき命令コードをフェッチするために M P U 6 3 1 からバスライン 6 4 0 を介してアドレス「0 0 0 0 H」が指定された場合、キャラクタ R O M 6 3 4 はアドレス「0 0 0 0 H」に対応するデータ（命令コード）を含む 1 ページ分のデータを N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a から読み出してバッファ R A M 6 3 4 c にセットしなければならない。そして、N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a の性質上、その読み出しからバッファ R A M 6 3 4 c へのセットに多大な時間を要することになるので、M P U 6 3 1 は、アドレス「0 0 0 0 H」を指定してからアドレス「0 0 0 0 H」に対応する命令コードを受け取るまでに多くの待ち時間を消費する。よって、M P U 6 3 1 の起動にかかる時間が長くなるので、結果として、表示制御装置 6 における図柄表示部 3 4 1 の制御が即座に開始されないおそれがあるという問題点が生じる。

30

【 2 5 9 4 】

これに対し、N O R 型 R O M は高速にデータを読み出すことが可能なメモリであるので、ブートプログラムのうち、システムリセット解除後に M P U 6 3 1 によって最初に処理すべき命令から所定数の命令を N O R 型 R O M 6 3 4 d に格納することによって、システムリセット解除後に M P U 6 3 1 からバスライン 6 4 0 を介してアドレス「0 0 0 0 H」が指定されると、キャラクタ R O M 6 3 4 は即座に N O R 型 R O M 6 3 4 d の第 1 プログラム記憶エリア 6 3 4 d 1 に記憶されたブートプログラムをバッファ R A M 6 3 4 c にセットして、対応するデータ（命令コード）を M P U 6 3 1 へ出力することができる。よって、M P U 6 3 1 は、アドレス「0 0 0 0 H」を指定してから短い時間でアドレス「0 0 0 0 H」に対応する命令コードを受け取ることができ、M P U 6 3 1 の起動を短時間で行うことができる。従って、読み出し速度の遅い N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a で構成されたキャラクタ R O M 6 3 4 に制御プログラムを格納しても、表示制御装置 6 における図柄表示部 3 4 1 の制御を即座に開始することができる。

40

【 2 5 9 5 】

さて、ブートプログラムは、N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a の第 2 プログラム記憶エリア 6 3 4 a 1 に記憶されている制御プログラム、即ち、N O R 型 R O M 6 3 4 d の第 1 プログラム記憶エリア 6 3 4 d 1 に記憶されているブートプログラムを除く制御プロ

50

グラムや、その制御プログラムで用いられる固定値データ（例えば、後述する表示データテーブル、追加データテーブル、転送データテーブルなど）を、所定量（例えば、NAND型フラッシュメモリ634aの1ページ分の容量）ずつワークRAM633のプログラム格納エリア633aやデータテーブル格納エリア633bへ転送するようにプログラミングされている。そして、MPU631は、まず、システムリセット解除後に第1プログラム記憶エリア634d1から読み出したブートプログラムに従って、第2プログラム記憶エリア634a1に記憶されている制御プログラムを、第1プログラム記憶エリア634d1のブートプログラムがセットされているバッファRAM634cのバンクとは異なるバンクを使用しながら、所定量だけプログラム格納エリア633aに転送し、格納する。

10

【2596】

ここで、第1プログラム記憶エリア634d1に記憶されているブートプログラムは、上述したように、バッファRAM634cの1バンク分に相当する容量で構成されているので、内部バスのアドレスが「0000H」に指定されたことを受けて第1プログラム記憶エリア634d1のブートプログラムがバッファRAM634cにセットされる場合、そのブートプログラムはバッファRAM634cの一方のバンクにのみセットされる。よって、第1プログラム記憶エリア634d1のブートプログラムに従って、第2プログラム記憶エリア634a1に記憶されている制御プログラムをプログラム格納エリア633aに転送する場合は、バッファRAM634cの一方のバンクにセットされた第1プログラム記憶エリア634d1のブートプログラムを残したまま、他方のバンクを使用してその転送処理を実行することができる。従って、その転送処理後に、第1プログラム記憶エリア634d1のブートプログラムを再度バッファRAM634cにセットし直すといった処理が不要であるので、ブート処理に係る時間を短くすることができる。

20

【2597】

第1プログラム記憶エリア634d1に記憶されているブートプログラムは、第2プログラム記憶エリア634a1に記憶されている制御プログラムを所定量だけプログラム格納エリア633aに転送すると、命令ポインタ631aをプログラム格納エリア633a内の第1の所定番地に設定するようにプログラミングされている。これにより、システムリセット解除後、MPU631によって第2プログラム記憶エリア634a1に記憶されている制御プログラムが所定量だけプログラム格納エリア633aに転送されると、命令ポインタ631aがプログラム格納エリア633aの第1の所定番地に設定される。

30

【2598】

よって、第2プログラム記憶エリア634a1に記憶されている制御プログラムのうち所定量のプログラムがプログラム格納エリア633aに格納されると、MPU631は、そのプログラム格納エリア633aに格納された制御プログラムを読み出して、各種処理を実行することができる。即ち、MPU631は、第2プログラム記憶エリア634a1を有するNAND型フラッシュメモリ634aから制御プログラムを読み出して命令フェッチするのではなく、プログラム格納エリア633aを有するワークRAM633に転送された制御プログラムを読み出して命令フェッチし、各種処理を実行することになる。後述するように、ワークRAM633はDRAMによって構成されるため、高速に読み出し動作が行われる。よって、制御プログラムを読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aによって構成されるキャラクタROM634に記憶させた場合であっても、MPU631は高速に命令をフェッチし、その命令に対する処理を実行することができる。

40

【2599】

ここで、第2プログラム記憶エリア634a1に記憶されている制御プログラムには、第1プログラム記憶エリア634d1に記憶されていない残りのブートプログラムが含まれている。一方、第1プログラム記憶エリア634d1に記憶されているブートプログラムは、ワークRAM633のプログラム格納エリア633aに所定量だけ第2プログラム記憶エリア634a1から転送される制御プログラムの中に、その残りのブートプログラ

50

ムが含まれるようにプログラミングされていると共に、プログラム格納エリア 6 3 3 a に格納されたその残りのブートプログラムの先頭アドレスを第 1 の所定番地として命令ポインタ 6 3 1 a を設定するようにプログラミングされている。

【2 6 0 0】

これにより、MPU 6 3 1 は、第 1 プログラム記憶エリア 6 3 4 d 1 に記憶されているブートプログラムによって、第 2 プログラム記憶エリア 6 3 4 a 1 に記憶されている制御プログラムを所定量だけプログラム格納エリア 6 3 3 a に転送した後、その転送した制御プログラムに含まれる残りのブートプログラムを実行する。

【2 6 0 1】

この残りのブートプログラムでは、プログラム格納エリア 6 3 3 a に転送されていない残りの制御プログラムやその制御プログラムで用いられる固定値データ（例えば、後述する表示データテーブル、追加データテーブル、転送データテーブルなど）を全て第 2 プログラム記憶エリア 6 3 4 a 1 から所定量ずつプログラム格納エリア 6 3 3 a 又はデータテーブル格納エリア 6 3 3 b に転送する処理を実行する。また、ブートプログラムの最後で、命令ポインタ 6 3 1 a をプログラム格納エリア 6 3 3 a 内の第 2 の所定番地に設定する。具体的には、この第 2 の所定番地として、プログラム格納エリア 6 3 3 a に格納された、ブートプログラムによるブート処理（図 2 4 0 のステップ S 4 1 0 1 参照）の終了後に実行される初期化処理（図 2 4 0 のステップ S 4 1 0 2 参照）に対応するプログラムの先頭アドレスを設定する。

【2 6 0 2】

MPU 6 3 1 は、この残りのブートプログラムを実行することによって、第 2 プログラム記憶エリア 6 3 4 a 1 に記憶されている制御プログラムや固定値データが全てプログラム格納エリア 6 3 3 a 又はデータテーブル格納エリア 6 3 3 b に転送される。そして、ブートプログラムが MPU 6 3 1 により最後まで実行されると、命令ポインタ 6 3 1 a が第 2 の所定番地に設定され、以後、MPU 6 3 1 は、NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a を参照することなく、プログラム格納エリア 6 3 3 a に転送された制御プログラムを用いて各種処理を実行する。

【2 6 0 3】

よって、制御プログラムを読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a によって構成されるキャラクタ ROM 6 3 4 に記憶させた場合であっても、システムリセット解除後にその制御プログラムをワーク RAM 6 3 3 のプログラム格納エリア 6 3 3 a に転送することで、MPU 6 3 1 は、読み出し速度が高速な DRAM によって構成されるワーク RAM から制御プログラムを読み出して各種制御を行うことができる。従って、表示制御装置 6 において高い処理性能を保つことができ、図柄表示部 3 4 1 を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。

【2 6 0 4】

また、上述したように、NOR 型 ROM 6 3 4 d にブートプログラムを全て格納せずに、システムリセット解除後に MPU 6 3 1 によって最初に処理すべき命令から所定数の命令を格納しておき、残りのブートプログラムについては、NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a の第 2 プログラム記憶エリア 6 3 4 a 1 に記憶させても、第 2 プログラム記憶エリア 6 3 4 a 1 に記憶されている制御プログラムを確実にプログラム格納エリア 6 3 3 a に転送することができる。よって、キャラクタ ROM 6 3 4 は、極めて小容量の NOR 型 ROM 6 3 4 d を追加するだけで、MPU 6 3 1 の起動を短時間で行うことができるようになるので、その短時間化に伴うキャラクタ ROM 6 3 4 のコスト増加を抑制することができる。

【2 6 0 5】

画像コントローラ 6 3 7 は、更新情報としての画像を描画する更新処理を実行し、その描画した画像を所定のタイミングで図柄表示部 3 4 1 に表示させるデジタル信号プロセッサ（DSP）である。画像コントローラ 6 3 7 は、MPU 6 3 1 から送信される後述の描画リスト（図 2 0 2 参照）に基づき更新情報としての 1 フレーム分の画像を描画する更新

10

20

30

40

50

処理を実行して、後述する第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636cのいずれか一方のフレームバッファに描画した画像を展開すると共に、他方のフレームバッファにおいて先に展開された1フレーム分の画像情報を図柄表示部341へ出力することによって、図柄表示部341に画像を表示させる。画像コントローラ637は、この更新情報としての1フレーム分の画像の更新処理としての描画処理と1フレーム分の画像の表示処理とを、図柄表示部341における1フレーム分の画像表示時間（本実施形態では、20ミリ秒）の中で並列処理する。

【2606】

画像コントローラ637は、更新情報としての1フレーム分の画像の更新処理としての描画処理が完了する20ミリ秒毎に、MPU631に対して垂直同期割込信号（以下、「V割込信号」と称する）を送信する。MPU631は、このV割込信号を検出する度に、V割込処理（図241（B）参照）を実行し、画像コントローラ637に対して、更新情報としての次の1フレーム分の画像の描画（更新）を指示する。この指示により、画像コントローラ637は、更新情報としての次の1フレーム分の画像の描画処理（更新処理）を実行すると共に、先に描画によって展開された画像を図柄表示部341に表示させる処理を実行する。

【2607】

このように、MPU631は、画像コントローラ637からのV割込信号に伴ってV割込処理を実行し、画像コントローラ637に対して描画指示を行うので、画像コントローラ637は、画像の描画処理及び表示処理間隔（20ミリ秒）毎に、画像の描画指示をMPU631より受け取ることができる。よって、画像コントローラ637では、画像の描画処理や表示処理が終了していない段階で、次の画像の描画指示を受け取ることがないので、画像の描画途中で新たな画像の描画を開始したり、表示中の画像情報が格納されているフレームバッファに、新たな描画指示に伴って画像が展開されたりすることを防止することができる。

【2608】

画像コントローラ637は、また、MPU631からの転送指示や、描画リストに含まれる転送データ情報に基づいて、画像データをキャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635や通常用ビデオRAM636に転送する処理も実行する。

【2609】

なお、画像の描画は、常駐用ビデオRAM635及び通常用ビデオRAM636に格納された画像データを用いて行われる。即ち、描画の際に必要な画像データは、その描画が行われる前に、MPU631からの指示に基づき、キャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635又は通常用ビデオRAM636へ転送される。

【2610】

ここで、NAND型フラッシュメモリは、ROMの大容量化を容易にする一方、読み出し速度がその他のROM（マスクROMやEEPROMなど）と比して遅い。これに対し、表示制御装置6では、MPU631が、キャラクタROM634に格納されている画像データのうち一部の画像データを電源投入後に常駐用ビデオRAM635に転送するように、画像コントローラ637に対して指示するよう構成されている。そして、後述するように、常駐用ビデオRAM635に格納された画像データは、上書きされることなく常駐されるように制御される。

【2611】

これにより、電源が投入されてから常駐用ビデオRAM635に常駐すべき画像データの転送が終了した後は、常駐用ビデオRAM635に常駐された画像データを使用しながら、画像コントローラ637にて画像の描画処理を行うことができる。よって、描画処理に使用する画像データが常駐用ビデオRAM635に常駐されていれば、画像描画時に読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aで構成されたキャラクタROM634から対応する画像データを読み出す必要がないため、その読み出しにかかる時間を省略でき、画像の描画を即座に行って図柄表示部341に描画した画像を表示することがで

10

20

30

40

50

きる。

【2612】

特に、常駐用ビデオRAM 635には、頻繁に表示される画像の画像データや、主制御装置4又は表示制御装置6によって表示が決定された後、即座に表示すべき画像の画像データを常駐させるので、キャラクタROM 634をNAND型フラッシュメモリ 634aで構成しても、図柄表示部341に何らかの画像を表示させるまでの応答性を高く保つことができる。

【2613】

また、表示制御装置6は、常駐用ビデオRAM 635に非常駐の画像データを用いて画像の描画を行う場合は、その描画が行われる前に、キャラクタROM 634から通常用ビデオRAM 636に対して描画に必要な画像データを転送するように、MPU 631が画像コントローラ637に対して指示するよう構成されている。後述するように、通常用ビデオRAM 636に転送された画像データは、画像の描画に用いられた後、上書きによって削除される可能性はあるものの、画像描画時には、読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ 634aで構成されたキャラクタROM 634から対応する画像データを読み出す必要がなく、その読み出しにかかる時間を省略できるので、画像の描画を即座に行って図柄表示部341に描画した画像を表示することができる。

10

【2614】

また、通常用ビデオRAM 636にも画像データを格納することによって、全ての画像データを常駐用ビデオRAM 635に常駐させておく必要がないため、大容量の常駐用ビデオRAM 635を用意する必要がない。よって、常駐用ビデオRAM 635を設けたことによるコスト増大を抑えることができる。

20

【2615】

画像コントローラ637は、NAND型フラッシュメモリ 634aの1ブロック分の容量である132キロバイトのSRAMによって構成されたバッファRAM 637aを有している。

【2616】

MPU 631が、転送指示や描画リストの転送データ情報によって画像コントローラ637に対して行う画像データの転送指示には、転送すべき画像データが格納されているキャラクタROM 634の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、転送先の情報（常駐用ビデオRAM 635及び通常用ビデオRAM 636のいずれに転送するかを示す情報）、及び転送先（常駐用ビデオRAM 635又は通常用ビデオRAM 636）の先頭アドレスが含まれる。なお、格納元最終アドレスに代えて、転送すべき画像データのデータサイズを含めてもよい。

30

【2617】

画像コントローラ637は、この転送指示の各種情報に従って、キャラクタROM 634の所定アドレスから更新情報としての1ブロック分のデータを読み出して一旦バッファRAM 637aに格納する更新処理を実行し、常駐用ビデオRAM 635又は通常用ビデオRAM 636の未使用時に、バッファRAM 637aに格納された画像データを常駐用ビデオRAM 635又は通常用ビデオRAM 636に転送する。そして、転送指示により示された格納元先頭アドレスから格納元最終アドレスに格納された画像データが全て転送されるまで、その処理を繰り返し実行する。

40

【2618】

これにより、キャラクタROM 634から時間をかけて読み出された画像データを一旦そのバッファRAM 637aに格納し、その後、その画像データをバッファRAM 637aから常駐用ビデオRAM 635又は通常用ビデオRAM 636へ短時間で転送することができる。よって、キャラクタROM 634から画像データが常駐用ビデオRAM 635又は通常用ビデオRAM 636へ転送される間に、常駐用ビデオRAM 635又は通常用ビデオRAM 636が、その画像データの転送で長時間占有されるのを防止することができる。従って、画像データの転送により常駐用ビデオRAM 635や通常用ビデオRAM

50

636が占有されることで、画像の描画処理にそれらのビデオRAM635，636が使用できず、結果として必要な時間までに画像の描画や、図柄表示部341への表示が間に合わないことを防止することができる。

【2619】

また、バッファRAM637aから常駐用ビデオRAM635又は通常用ビデオRAM636への画像データへの転送は、画像コントローラ637によって行われるので、常駐用ビデオRAM635及び通常用ビデオRAM636が画像の描画処理や図柄表示部341への表示処理に未使用である期間を容易に判定することができ、処理の単純化を図ることができる。

【2620】

常駐用ビデオRAM635は、キャラクタROM634より転送された画像データが、電源投入中、上書きされることがなく保持され続けるように用いられ、電源投入時主画像エリア635a、背面画像エリア635c、キャラクタ図柄エリア635e、エラーメッセージ画像エリア635fが設けられているほか、電源投入時変動画像エリア635b、飾り図柄エリア635dが少なくとも設けられている。

【2621】

電源投入時主画像エリア635aは、電源が投入されてから常駐用ビデオRAM635に常駐すべき全ての画像データが格納されるまでの間に図柄表示部341に表示する電源投入時主画像に対応するデータを格納する領域である。また、電源投入時変動画像エリア635bは、図柄表示部341に電源投入時主画像が表示されている間に遊技者によって遊技が開始され、第1入賞口314への入球が検出された場合に、主制御装置4において行われた抽選結果を特図遊技演出によって表示する電源投入時変動画像に対応する画像データを格納する領域である。

【2622】

MPU631は、電源制御装置9から電源供給が開始されたときに、キャラクタROM634から電源投入時主画像及び電源投入時変動画像に対応する画像データを電源投入時主画像エリア635aへ転送するように、画像コントローラ637へ転送指示を送信する（図240のステップS4103及びS4104参照）。

【2623】

ここで、図196を参照して、電源投入時変動画像について説明する。図196は、表示制御装置6が電源投入直後において、常駐用ビデオRAM635に対して格納すべき画像データをキャラクタROM634から転送している間に、図柄表示部341にて表示される電源投入時画像を説明する説明図である。

【2624】

表示制御装置6は、電源投入直後に、キャラクタROM634から電源投入時主画像及び電源投入時変動画像に対応する画像データを電源投入時主画像エリア635a及び電源投入時変動画像エリア635bへ転送すると、続いて、常駐用ビデオRAM635に格納すべき残りの画像データをキャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635に対して転送する。この残りの画像データの転送が行われている間、表示制御装置6は、先に電源投入時主画像エリア635aに格納された画像データを用いて、図196（A）に示す電源投入時主画像を図柄表示部341に表示させる。

【2625】

このとき、変動開始の指示コマンドである主制御装置4からの変動パターンコマンドに基づき音声ランプ制御装置5から送信される表示用変動パターンコマンドを受信すると、表示制御装置6は、図196（B）に示すように、電源投入時主画像の表示画面上に、画面に向かって右下の位置に「○」図柄の電源投入時変動画像と、図196（C）に示すように、「○」図柄と同位置に「×」図柄の電源投入時変動画像とを、変動期間中、交互に繰り返して表示する。そして、主制御装置4からの変動パターンコマンドや停止種別コマンドに基づき音声ランプ制御装置5から送信される表示用変動パターンコマンド及び表示用停止種別コマンドから、主制御装置4にて行われた大当たり抽選の結果を判断し、「小

10

20

30

40

50

当たり」である場合は図 196 (B) に示す画像を特図遊技演出の停止後に一定期間表示させ、「外れ」である場合は図 196 (C) に示す画像を特図遊技演出の停止後に一定期間表示させる。

【2626】

MPU631は、常駐用ビデオRAM635に常駐すべき全ての画像データが常駐用ビデオRAM635に対して転送されるまで、画像コントローラ637に対し、電源投入時主画像エリア635aに格納された画像データを用いた電源投入時主画像の描画を指示する。これにより、残りの常駐すべき画像データが常駐用ビデオRAM635に転送されている間、遊技者やホール関係者は、図柄表示部341に表示された電源投入時主画像を確認することができる。よって、表示制御装置6は、電源投入時主画像を図柄表示部341

10

【2627】

また、製造時の工場等における動作チェックにおいても、電源投入時主画像がすぐに図柄表示部341に表示されることによって、図柄表示部341が電源投入によって問題なく動作が開始されていることをすぐに確認することができ、キャラクターROM634に読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aを用いることにより動作チェックの効率が悪化することを抑制できる。

20

【2628】

また、電源投入時主画像が図柄表示部341に表示されている間に遊技者が遊技を開始し、第1入賞口314に入球が検出された場合は、電源投入時変動画像エリア635bに常駐された電源投入時変動画像に対応する画像データを用いて電源投入時変動画像が描画され、図196 (B) 及び図196 (C) に示す画像が交互に図柄表示部341に表示されるように、MPU631から画像コントローラ637に対して指示される。これにより、電源投入時変動画像を用いて簡単な特図遊技演出を行うことができる。よって、遊技者は、電源投入時主画像が図柄表示部341に表示されている間であっても、その簡単な特図遊技演出によって確実に抽選が行われたことを確認することができる。

30

【2629】

また、電源投入時主画像が図柄表示部341に表示される段階で、すでに電源投入時変動演出画像に対応する画像データが電源投入時変動画像エリア635bに常駐されているので、電源投入時主画像が図柄表示部341に表示されている間に第1入賞口314に入球が検出された場合は、対応する特図遊技演出を図柄表示部341に即座に表示させることができる。

【2630】

図195に戻り、背面画像エリア635cは、図柄表示部341に表示される背面画像に対応する画像データを格納する領域である。ここで、図197及び図198を参照して、背面画像と、その背面画像のうち、背面画像エリア635cに格納される背面画像の範囲について説明する。図197及び図198は、3種類の背面画像と、各背面画像に対して常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに格納される背面画像の範囲を説明する説明図であり、図197 (A) は、「街中ステージ」に対応する背面Aに対して、図197 (B) は、「空ステージ」に対応する背面Bに対して、図198は、「島ステージ」に対応する背面Cに対してそれぞれ示したものである。

40

【2631】

背面A～背面Cのうち、背面A及び背面Bに対応する背面画像は、図197に示すように、いずれも図柄表示部341において表示される表示領域よりも水平方向に長い画像が

50

、キャラクタROM 634に用意されている。画像コントローラ637は、その画像を水平方向に左から右へスクロールさせながら背面画像が図柄表示部341に表示されるように、画像の描画を行う。

【2632】

各背面A及び背面Bに用意された画像（以下、「スクロール用画像」と称する。）は、いずれも位置a及び位置cのところで背面画像が連続するように画像が構成されている。そして、位置cから位置dの間の画像及び位置aから位置a'の間の画像は、表示領域の水平方向の幅分の画像によって構成されており、位置cから位置dの間にある画像が表示領域として図柄表示部341に表示された後に、位置aから位置a'の間にある画像を表示領域として図柄表示部341に表示させると、図柄表示部341にスムーズにつながり

10

【2633】

遊技者によって操作ボタン20が操作されてステージが「街中ステージ」又は「空ステージ」に変更されると、MPU631は、対応する背面画像のまず位置aから位置a'の間を表示領域の初期位置として設定し、その初期位置の画像が図柄表示部341に表示されるように、画像コントローラ637を制御する。そして、時間の経過とともに、表示領域をスクロール用画像に対して左から右に移動させ、順次その表示領域が図柄表示部341に表示されるように画像コントローラ637を制御し、更に、表示領域が位置cから位置dの間の画像に到達した場合、再び表示領域を位置aから位置a'の画像として図柄表示部341に表示されるように画像コントローラ637を制御する。よって、図柄表示部341には、位置a～位置cの間の画像を、左方向に向かって流れるように、スムーズにつながりで繰り返しスクロールされて表示させることができる。

20

【2634】

一方、背面Cにおける背面画像は、図198に示すように、時間の経過とともに、図198の(A)→(B)→(C)→(A)→・・・の順で、図柄表示部341に表示される。具体的には、背面Cは、島にそびえる山の画像と、山のふもとに広がる砂浜の画像と、島を囲む海の画像とが、その表示される位置が固定された状態で図柄表示部341に表示される。一方、山の上に広がる空の画像は、その色調が時間経過とともに変化する。

【2635】

遊技者による操作ボタン20の操作によりステージが「島ステージ」に変更されると、背面Cの初期背面画像として、図198(A)に示す背面画像が表示される。この図198(A)に示す背面画像では、朝やけを示すオレンジ色の空が表示される。そして、時間の経過とともに空の色調がオレンジ色から徐々に鮮やかな青色に変化して、所定時間経過後、図198(B)に示す背面画像が表示される。図198(B)に示す背面画像では、昼を示す鮮やかな青色の空が表示される。次に、時間の経過とともに空の色調が鮮やかな青色から徐々に黒色に変化して、所定時間経過後、図198(C)に示す背面画像が表示される。図198(C)に示す背面画像では、夜を示す黒色の空が表示される。その後、時間の経過とともに空の色調が黒色から徐々に白みはじめ更にオレンジ色に変化する。そして、所定時間経過後、図198(A)に示す背面画像に戻って、再び図198(A)～図198(C)の背面画像が図柄表示部341に表示される。

30

40

【2636】

次いで、各背面画像において、背面画像エリア635cに格納される背面画像の範囲について説明する。初期ステージである街中ステージに対応する背面Aは、図197(A)に示すように、その背面Aの全範囲、即ち、位置aから位置dに対応する画像データが全て常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに格納される。通常、初期ステージである街中ステージを表示させたまま、ステージを変更せずに遊技が行われる場合が多いので、多頻度で表示される街中ステージに対応する背面Aの画像データを全て背面画像エリア635cに常駐させておくことで、キャラクタROM634へのデータアクセス回数を減らすことができ、表示制御装置6にかかる負荷を軽減することができる。

【2637】

50

一方、空ステージに対応する背面Bは、図197(B)に示すように、その背面の一部領域、即ち、位置aから位置bの間の画像に対応する画像データだけを常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに格納する。また、島ステージに対応する背面Cは、図198(A)を含み、図198(B)を除く図198(A)～図198(B)の間の背面画像に対応する画像データが、電源投入後の立ち上げ処理の中で常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに格納され、常駐される。

【2638】

ここで、ステージを変更するために遊技者による行われる操作ボタン20の操作は、遊技者の意思に基づき任意のタイミングで行われるものである。任意のタイミングで操作ボタン20が操作されても即座に背面画像を変更するためには、全ての背面画像について全範囲の画像データを常駐用ビデオRAM635に常駐させておくことが理想的であるが、そのようにすると常駐用ビデオRAM635として非常に大きな容量のRAMを用いなければならない、コストの増大につながる恐れがある。

【2639】

これに対し、本遊技機10では、ステージが変更された場合に最初に表示される背面画像の初期位置を、位置aから位置a'の範囲又は図198(A)～図198(B)の範囲に固定し、その初期位置を含む位置aから位置bの間の画像又は図198(A)～図198(B)の間の画像に対応する画像データを常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに格納しておくので、キャラクタROM634を読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aで構成しても、遊技者による操作ボタン20の操作によって任意のタイミングでステージが変更された場合に、常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに常駐されている画像データを用いることによって、即座にその背面Bや背面Cの初期位置を図柄表示部341に表示させ、また、時間経過とともにスクロール表示又は色調を変化させながら表示させることができる。また、背面B及び背面Cについては、一部範囲の画像に対応する画像データだけを格納するので、常駐用ビデオRAM635の記憶容量の増大を抑制でき、コストの増大を抑えることができる。

【2640】

また、背面Bは、初期位置の画像が表示された後、常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに常駐された画像データを用いて位置aから位置bの範囲を左から右に向けてスクロールさせている間に、位置b'から位置dの画像に対応する画像データをキャラクタROM634から通常用ビデオRAM636へ転送完了できるように、その位置aから位置bの範囲が設定されている。これにより、位置aから位置bの範囲をスクロールさせる間に位置b'から位置dの画像データを通常用ビデオRAM636へ転送できるので、常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに格納された画像データを用いて位置aから位置bの範囲をスクロールさせた後、遅滞なく通常用ビデオRAM636に格納された背面画像に対応する画像データを用いて、位置b'から位置dの範囲をスクロールさせて図柄表示部341に表示させることができる。

【2641】

同様に、背面Cは、初期位置の画像が表示された後、常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに常駐された画像データを用いて図198(A)～図198(B)の画像を表示させている間に、図198(B)～図198(C)及び図198(C)～図198(A)に対応する画像の画像データがキャラクタROM634から通常用ビデオRAM636へ転送が完了できるように、図198(A)～図198(B)の範囲が設定されている。これにより、図198(A)～図198(B)の画像を表示させる間に図198(B)～図198(C)及び図198(C)～図198(A)の画像に対応する画像データを通常用ビデオRAM636へ転送できるので、常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに常駐された画像データを用いて図198(A)～図198(B)の画像を表示させた後、遅滞なく通常用ビデオRAM636に格納された背面画像に対応する画像データを用いて、図198(B)～図198(C)及び図198(C)～図198(A)の画像を時間経過とともに、順次、図柄表示部341に表示させることができる。

【2642】

なお、背面B及び背面Cにおいて、通常用ビデオRAM636に格納される画像データは、通常用ビデオRAM636の画像格納エリア636a（図195参照）に設けられた背面画像専用のサブエリアに格納される。これにより、背面画像専用のサブエリアに格納された背面画像データが、他の画像データによって上書きされることがないので、背面画像を確実に表示させることができる。

【2643】

また、背面Bにおいて、常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに格納される画像データと、通常用ビデオRAM636に格納される画像データとでは、位置b'から位置bの間の画像に対応する画像データが重複して格納される。そして、MPU631による画像コントローラ637の制御により、常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに格納された画像データを用いて位置bまでの画像を図柄表示部341に表示させ、次いで、通常用ビデオRAM636に格納された画像データを用いて位置b'からの画像を図柄表示部341に表示させることで、図柄表示部341にスムーズなつながりで背面画像がスクロール表示されるようになっている。

10

【2644】

更に、MPU631は、通常用ビデオRAM636の画像データを用いて、位置cから位置dの間の画像を表示領域として図柄表示部341に表示されるように画像コントローラ637を制御すると、次いで、MPU631は、常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cの画像データを用いて、位置aから位置a'の間の画像を表示領域として図柄表示部341に表示されるように画像コントローラ637を制御する。これにより、図柄表示部341には、位置a～位置cの間の画像が、左方向に向かって流れるように、スムーズなつながりで繰り返しスクロールされて表示させることができる。

20

【2645】

図195に戻って、説明を続ける。飾り図柄エリア635dは、表示手段としての図柄表示部341に表示される所定の図柄としての飾り図柄を常駐するためのエリアである。即ち、飾り図柄エリア635dには、飾り図柄である「1」から「9」の数字を付した9種類の飾り図柄（図207参照）に対応する画像データが常駐される。これにより、図柄表示部341にて特図遊技演出を行う場合、逐一キャラクタROM634から画像データを読み出す必要がないので、キャラクタROM634にNAND型フラッシュメモリ634aを用いても、図柄表示部341において素早く特図遊技演出を開始することができる。よって、始動入球領域としての第1入賞口314への入球が発生してから、表示手段としての第1特別図柄表示部362では第1特図の変動表示が開始されているにも関わらず、表示手段としての図柄表示部341において特図遊技演出が即座に開始されないような状態が発生するのを抑制することができる。

30

【2646】

また、飾り図柄エリア635dには、例えば「1」から「9」の数字が付されていない所定の図柄としての飾り図柄として、木箱といった後方図柄からなる飾り図柄や、後方図柄とかんな、風呂敷、ヘルメット等のキャラクタを模した付属図柄とからなる飾り図柄に対応する画像データも常駐される。これらの画像データは、例えば一の変動が停止してから所定時間経過しても、始動入賞に伴う次の変動が開始されない場合に、図柄表示部341に表示されるデモ演出に用いられる。これにより、デモ演出が図柄表示部341に表示されると、そのデモ演出において、飾り図柄として数字の付されていない飾り図柄が表示される。よって、遊技者は、数字の付されていない飾り図柄を図柄表示部341の表示画像から視認することによって、当該遊技機10がデモ状態にあることを容易に認識することができる。

40

【2647】

キャラクタ図柄エリア635eは、表示手段としての図柄表示部341に表示される各種演出で使用されるキャラクタ図柄に対応する画像データを格納する領域である。本遊技機10では、例えば「少年」をはじめとする様々なキャラクタが各種演出にあわせて表示

50

されるようになっており、これらに対応するデータがキャラクタ図柄エリア635eに常駐されることにより、表示制御装置6は、音声ランプ制御装置5より受信したコマンドの内容に基づいてキャラクタ図柄を変更する場合、キャラクタROM634から対応の画像データを新たに読み出すのではなく、常駐用ビデオRAM635のキャラクタ図柄エリア635eに予め常駐されている画像データを読み出すことによって、画像コントローラ637にて所定の画像を描画できるようになっている。これにより、キャラクタROM634から対応の画像データを読み出す必要がないので、キャラクタROM634に読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aを用いても、キャラクタ図柄を即座に変更することができる。

【2648】

エラーメッセージ画像エリア635fは、遊技機10内にエラーが発生した場合に表示されるエラーメッセージに対応する画像データを格納する領域である。本遊技機10では、遊技盤31の裏面に取り付けられた振動センサの出力から、音声ランプ制御装置5によって振動を検出すると、音声ランプ制御装置5は振動エラーの発生をエラーコマンドによって表示制御装置6に通知する。また、音声ランプ制御装置5により、その他のエラーの発生、例えば磁石センサや電波センサによって磁力や電波が検出された場合にも、音声ランプ制御装置5は、エラーコマンドによって、そのエラーの発生をそのエラー種別と共に表示制御装置6へ通知する。表示制御装置6では、エラーコマンドを受信すると、その受信したエラーに対応するエラーメッセージを図柄表示部341に表示させるように構成されている。

【2649】

ここで、エラーメッセージは、遊技者の不正防止やエラーに対する遊技者の保護の観点から、エラーの発生とほぼ同時に表示されることが求められる。本遊技機10では、エラーメッセージ画像エリア635fに、各種エラーメッセージに対応する画像データが予め常駐されているので、表示制御装置6は、受信したエラーコマンドに基づいて、常駐用ビデオRAM635のエラーメッセージ画像エリア635fに予め常駐されている画像データを読み出すことによって、画像コントローラ637にて各エラーメッセージ画像を即座に描画できるようになっている。これにより、キャラクタROM634から逐次エラーメッセージに対応する画像データを読み出す必要がないので、キャラクタROM634に読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aを用いても、エラーコマンドを受信してから対応するエラーメッセージを即座に表示させることができる。

【2650】

通常用ビデオRAM636は、データが随時上書きされ更新されるように用いられるもので、画像格納エリア636a、第1フレームバッファ636b、第2フレームバッファ636cが少なくとも設けられている。

【2651】

画像格納エリア636aは、図柄表示部341に表示させる画像の描画に必要な画像データのうち、常駐用ビデオRAM635に常駐されていない画像データを格納するためのエリアである。画像格納エリア636aは、複数のサブエリアに分割されており、サブエリア毎に、そのサブエリアに格納される画像データの種別が予め定められている。

【2652】

MPU631は、常駐用ビデオRAM635に常駐されていない画像データのうち、その後の画像の描画で必要となる画像データを、キャラクタROM634から通常用ビデオRAM636の画像格納エリア636aに設けられたサブエリアのうち、その画像データの種別を格納すべき所定のサブエリアに転送するように、画像コントローラ637に対して指示をする。これにより、画像コントローラ637は、MPU631により指示された画像データをキャラクタROM634から読み出し、バッファRAM637aを介して、画像格納エリア636aの指定された所定のサブエリアにその読み出した画像データを転送する。

【2653】

なお、画像データの転送指示は、MPU631が画像コントローラ637に対して画像の描画を指示する後述の描画リストの中に、転送データ情報を含めることによって行われる。これにより、MPU631は、画像の描画指示と、画像データの転送指示とを、描画リストを画像コントローラ637に送信するだけで行うことができるので、処理負荷を低減することができる。

【2654】

第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636cは、表示手段としての図柄表示部341に表示すべき画像を展開するためのバッファである。画像コントローラ637は、MPU631からの指示に従って描画した更新情報としての1フレーム分の画像を、第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636cのいずれか一方のフレームバッファに更新処理によって書き込むことによって、そのフレームバッファに1フレーム分の画像を展開すると共に、その一方のフレームバッファに画像を展開している間、他方のフレームバッファから先に展開された1フレーム分の画像情報を読み出し、この画像情報を駆動信号と共に図柄表示部341に対して送信することによって、図柄表示部341に1フレーム分の画像を表示させる処理を実行する。

【2655】

このように、フレームバッファとして、第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636cの2つを設けることによって、画像コントローラ637は、一方のフレームバッファに描画した更新情報としての1フレーム分の画像を展開しながら、同時に、他方のフレームバッファから先に展開された1フレーム分の画像を読み出して、表示手段としての図柄表示部341にその読み出した1フレーム分の画像を表示させることができる。

【2656】

そして、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファと、表示手段としての図柄表示部341に画像を表示させるために更新情報としての1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとは、1フレーム分の画像の描画処理が完了する20ミリ秒毎に、MPU631によって、それぞれ第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636cのいずれかが交互に入れ替えて指定される。

【2657】

即ち、あるタイミングで、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定され、更新情報としての1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定されて、画像の描画処理及び表示処理が実行されると、1フレーム分の画像の描画処理が完了する20ミリ秒後に、更新情報としての1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定され、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定される。これにより、先に第1フレームバッファ636bに展開された画像の画像情報が読み出されて図柄表示部341に表示させることができると同時に、第2フレームバッファ636cに新たな画像が展開される。

【2658】

そして、更に次の20ミリ秒後には、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定され、更新情報としての1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定される。これにより、先に第2フレームバッファ636cに展開された画像の画像情報が読み出されて図柄表示部341に表示させることができると同時に、第1フレームバッファ636bに新たな画像が展開される。以後、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファと、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとを、20ミリ秒毎に、それぞれ第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636cのいずれかを交互に入れ替えて指定することによって、更新情報としての1フレーム分の画像の描画処理（更新処理）を行いながら、1フレーム分の画像の表示処理を20ミリ秒単位で連続的に

行わせることができる。

【2659】

ワークRAM 633は、キャラクタROM 634に記憶された制御プログラムや固定値データを格納し、またMPU 631による各種制御プログラムの実行時に使用されるワークデータやフラグを一時的に記憶するためのメモリであり、DRAMによって構成される。このワークRAM 633は、プログラム格納エリア633aでテーブル格納エリア633b、簡易画像表示フラグ633c、表示データテーブルバッファ633d、追加データテーブルバッファ633e、転送データテーブルバッファ633f、ポインタ633g、描画リストエリア633h、計時カウンタ633i、格納画像判別フラグ633j、描画対象バッファフラグ633kを少なくとも有している。

10

【2660】

プログラム格納エリア633aは、MPU 631によって実行される制御プログラムを格納するためのエリアである。MPU 631は、システムリセットが解除されると、キャラクタROM 634から制御プログラムを読み出してワークRAM 633へ転送し、このプログラム格納エリア633aに格納する。そして、全ての制御プログラムをプログラム格納エリア633aに格納すると、以後、MPU 631はプログラム格納エリア633aに格納された制御プログラムを用いて各種制御を実行する。上述したように、ワークRAM 633はDRAMによって構成されるため、高速に読み出し動作が行われる。よって、制御プログラムを読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aによって構成されるキャラクタROM 634に記憶させた場合であっても、表示制御装置6において高い処理性能を保つことができ、図柄表示部341を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。

20

【2661】

データテーブル格納エリア633bは、主制御装置4からのコマンドに基づき表示させる一の演出に対し、時間経過に伴い図柄表示部341に表示すべき表示内容を記載した表示データテーブルと、主制御装置4からのコマンドに基づく一の演出に追加して図柄表示部341に表示させる演出に対し、時間経過に伴い表示すべき表示内容を記載した追加データテーブルと、表示データテーブルにより表示される一の演出において使用される画像データのうち常駐用ビデオRAM 635に常駐されていない画像データの転送データ情報及び転送タイミングを規定した転送データテーブルと、が格納される領域である。

30

【2662】

これらのデータテーブルは、通常、キャラクタROM 634のNAND型フラッシュメモリ634aに設けられた第2プログラム記憶エリア634a1に固定値データの種類として記憶されており、システムリセット解除後にMPU 631によって実行されるブートプログラムに従って、これらのデータテーブルがキャラクタROM 634からワークRAM 633へ転送され、このデータテーブル格納エリア633bに格納される。そして、全てのデータテーブルがデータテーブル格納エリア633bに格納されると、以後、MPU 631は、データテーブル格納エリア633bに格納されたデータテーブルを用いて図柄表示部341の表示を制御する。上述したように、ワークRAM 633はDRAMによって構成されるため、高速に読み出し動作が行われる。よって、各種データテーブルを読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aによって構成されるキャラクタROM 634に記憶させた場合であっても、表示制御装置6において高い処理性能を保つことができ、図柄表示部341を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。

40

【2663】

ここで、各種データテーブルの詳細について説明する。まず、表示データテーブルは、主制御装置4からのコマンドに基づいて図柄表示部341に表示される各演出の演出態様毎に1つずつ用意されるもので、例えば、特図遊技演出、デモ演出、確定表示演出、再始動演出、特別演出である再抽選演出（再抽選表示）（図206及び図207参照）に対応する表示データテーブルが用意されている。

50

【2664】

なお、デモ演出は、上述したように、一の特図遊技演出が停止してから所定時間経過しても、始動入賞に伴う次の特図遊技演出が開始されない場合に、表示手段としての図柄表示部341に表示される演出であり、「1」から「9」の数字が付されていない所定の図柄としての飾り図柄が停止表示されると共に、背面画像のみが変化する。図柄表示部341にデモ演出が表示されていれば、遊技者やホール関係者が、当該遊技機10において遊技が行われていないことを認識することができる。

【2665】

また、確定表示演出は、音声ランプ制御装置5を介して主制御装置4より確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信することによって停止図柄を確定表示する場合に図柄表示部341に表示される演出である。例えば、大当たり抽選の結果が外れである場合には、報知表示としての停止図柄が外れ図柄であることを強調する報知表示制御が行われ、大当たり抽選の結果が小当たりである場合には、報知表示としての停止図柄が小当たり図柄であることを強調する報知表示制御が行われる。遊技者は、この確定表示演出を視認することで、停止図柄の内容によって付与される遊技価値を容易に判断することができる。

10

【2666】

なお、本実施形態の遊技機10は、1種2種混合機として構成されているが、当該遊技機10をループ確変機、ST機、V-ST機として構成する場合、報知表示としての停止図柄が大当たりである場合には、大当たりが強調される報知表示制御が行われる。

【2667】

20

また、再始動演出は、所定の図柄としての飾り図柄が停止表示されてから所定時間経過しても主制御装置4から送信される確定コマンドが受信されない場合に、所定位置を中心に飾り図柄を振動（揺動）させた画像を図柄表示部341に表示させる演出である。遊技者は、図柄表示部341において、飾り図柄の変動が停止表示された後にその飾り図柄が振動して表示されることを視認すると、その時点では停止図柄が確定していないことを認識することができる。

【2668】

また、特別演出である再抽選演出（再抽選表示）は、遊技中状態である特図遊技において、報知表示として所定の図柄である飾り図柄が停止表示されてから、飾り図柄が変更されて報知表示として確定表示される演出（表示）である。本実施形態では、再抽選演出（再抽選表示）としては、少なくとも復活演出（復活表示）（図206（B）参照）、及び昇格演出（昇格表示）（図206（C）参照）を含む。

30

【2669】

本実施形態では、復活演出（復活表示）は、遊技中状態である特図遊技において、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に所定の図柄としての飾り図柄が外れに対応する組み合わせで報知表示により停止表示されてから、飾り図柄が小当たりに対応する組み合わせで報知表示により停止表示される演出（表示）である。具体的には、復活演出（復活表示）は、飾り図柄が報知表示としてゾロ目以外で停止表示されてから報知表示としてゾロ目が確定表示される演出（表示）である（図206（B）参照）。

【2670】

40

本実施形態では、昇格演出（昇格表示）は、遊技中状態である特図遊技において、小当たり遊技でのV入賞口833への遊技球の入球により4R時短大当たり遊技を発生させる小当たりであることを報知する報知表示により飾り図柄が停止表示されてから、小当たり遊技でのV入賞口833への遊技球の入球により16R時短大当たり遊技を発生させる小当たりであることを報知する飾り図柄が報知表示により確定表示される演出である。具体的には、昇格演出（昇格表示）は、飾り図柄が報知表示として「777」以外のゾロ目で停止表示されてから、報知表示として「777」のゾロ目が確定表示される演出（表示）である（図206（C）参照）。

【2671】

なお、本実施形態の遊技機10は、1種2種混合機として構成されているが、当該遊技

50

機 10 を ルー プ 確 変 機、S T 機、V - S T 機 と し て 構 成 す る 場 合 に お い て も、遊 技 中 状 態 である 特 図 遊 技 に お け る 特 別 演 出 である 再 抽 選 演 出（再 抽 選 表 示）と し て、昇 格 演 出（昇 格 表 示）や 復 活 演 出（復 活 表 示）を 実 行 す る こ と が 考 え ら れ る。こ の 場 合 の 昇 格 演 出（昇 格 表 示）と し て は、例 え ば 遊 技 中 状 態 である 特 図 遊 技 に お い て、通 常 大 当 たり か ら 確 変 大 当 たり へ の 昇 格 を 報 知 す る も の が 考 え ら れ、復 活 演 出（復 活 表 示）と し て は、例 え ば 外 れ か ら の 大 当 たり を 報 知 す る も の が 考 え ら れ る。

【 2 6 7 2 】

また、遊 技 中 状 態 である 特 図 遊 技 に お け る 再 抽 選 演 出（再 抽 選 表 示）は、遊 技 者 に 不 利 と な る 演 出（表 示）を 含 ま な い。例 え ば、大 当 たり 遊 技 と し て 実 行 さ れ る ラウ ン ド 遊 技 回 数 の 減 少 の 報 知（降 格）、確 変 大 当 たり の 報 知 か ら 通 常 大 当 たり の 報 知（降 格）、大 当 たり や 小 当 たり の 報 知 か ら 外 れ 報 知（当 たり 取 り 消 し）は、再 抽 選 演 出（再 抽 選 表 示）に 含 ま れ な い。具 体 的 に は、例 え ば 特 図 遊 技 に お け る 特 別 演 出 である 昇 格 演 出（昇 格 表 示）の 実 行 に よ り、小 当 たり 遊 技 で の V 入 賞 口 8 3 3 へ の 遊 技 球 の 入 球 に よ り 1 6 R 時 短 大 当 たり 遊 技 を 発 生 さ せ る 小 当 たり である こ と が 報 知 さ れ た 後 に は、少 な く と も 小 当 たり 遊 技 が 開 始 又 は 終 了 さ れ る ま で は、4 R 時 短 大 当 たり 遊 技 を 発 生 さ せ る 小 当 たり である こ と、又 は 外 れ である こ と が 報 知 さ れ る こ と は な い。また、特 図 遊 技 に お け る 通 常 大 当 たり の 報 知 表 示 か ら の 確 変 大 当 たり へ の 報 知 表 示 へ の 昇 格 を 報 知 す る 特 別 演 出 と し て の 昇 格 演 出（昇 格 表 示）の 実 行 に よ り、確 変 大 当 たり である こ と が 報 知 さ れ た 後 に は、少 な く と も 確 変 大 当 たり 遊 技 が 開 始 又 は 終 了 さ れ る ま で は、通 常 大 当 たり である こ と、又 は 外 れ である こ と が 報 知 さ れ る こ と は な い。こ の よ う に、再 抽 選 演 出（再 抽 選 表 示）が 遊 技 者 に 不 利 と な る 演 出（表 示）を 含 ま な い こ と で、特 別 演 出 である 昇 格 演 出（昇 格 表 示）や 復 活 演 出（復 活 表 示）の 実 行 に よ り 遊 技 者 が 得 ら れ る こ と が 報 知 さ れ た 利 益 が、減 少 又 は 取 り 消 さ れ る こ と が 防 止 さ れ る た め、理 不 尽 な 演 出（表 示）の 実 行 に 起 因 す る 遊 技 に 対 す る 興 味 や 興 趣 の 低 下 が 防 止 さ れ る。

【 2 6 7 3 】

デ ー タ テー ブ ル 格 納 エ リ ア 6 3 3 b に は、デ モ 演 出、確 定 表 示 演 出、再 始 動 演 出 及 び 再 抽 選 演 出（再 抽 選 表 示）に 対 応 す る 表 示 デー タ テー ブ ル を そ れ ぞ れ 1 つ づ つ 格 納 す る。また、特 図 遊 技 演 出 用 の 表 示 デー タ テー ブ ル である 変 動 用 表 示 デー タ テー ブ ル は、例 え ば 設 定 さ れ る 演 出 パー タ ン が 3 2 パー タ ン あ れ ば、1 演 出 パー タ ン に 1 テー ブ ル、合 計 で 3 2 テー ブ ル が 用 意 さ れ る。

【 2 6 7 4 】

更 に、変 動 用 表 示 デー タ テー ブ ル に は、音 声 ラ ン プ 制 御 装 置 5 を 介 し て 主 制 御 装 置 4 より 指 示 さ れ る 演 出 パー タ ン と そ の 特 図 遊 技 演 出 の 停 止 表 示 時 に 表 示 す べ き 停 止 図 柄 と が 一 致 し な い 場 合、例 え ば、演 出 パー タ ン が 当 たり 用 の 演 出 パー タ ン で あ っ た 場 合 に 外 れ の 停 止 図 柄 が 主 制 御 装 置 4 より 指 示 さ れ た 場 合 に 用 い ら れ る、特 殊 変 動 用 の 表 示 パー タ ン テー ブ ル も 用 意 さ れ て い る。こ の 特 殊 変 動 は、音 声 ラ ン プ 制 御 装 置 5 を 介 し て 主 制 御 装 置 4 か ら 送 信 さ れ た 確 定 コマ ン ド（表 示 用 確 定 コマ ン ド）を 受 信 す る ま で の 間、飾 り 図 柄 を 高 速 に 変 動 表 示 さ せ、確 定 コマ ン ド の 受 信 に 合 わ せ て、停 止 図 柄 と し て 外 れ を 示 す 特 殊 停 止 図 柄（例 え ば、左 列 か ら 順 に「3」「4」「1」と 表 示 さ れ る 図 柄）を 確 定 さ せ る も の で あ る。

【 2 6 7 5 】

音 声 ラ ン プ 制 御 装 置 5 を 介 し て 主 制 御 装 置 4 より 指 示 さ れ る 演 出 パー タ ン と そ の 特 図 遊 技 演 出 の 停 止 表 示 時 に 表 示 す べ き 停 止 図 柄 と が 一 致 し な い 場 合、表 示 制 御 装 置 6 で は、主 制 御 装 置 4 に お い て 行 わ れ た 抽 選 の 結 果 を 正 し く 反 映 さ せ て 特 図 遊 技 演 出 に お い て 確 定 表 示 を 行 う こ と が で き な い 恐 れ が あ る。こ れ に 対 し、本 遊 技 機 10 で は、こ の よ う な 場 合 は 特 殊 変 動 演 出 が 行 わ れ、変 動 表 示 後 に 特 殊 な 外 れ を 示 す 特 殊 停 止 図 柄 が 図 柄 表 示 部 3 4 1 に 確 定 表 示 さ れ る の で、主 制 御 装 置 4 に お け る 抽 選 の 結 果 が 外 れ で あ っ て も 図 柄 表 示 部 3 4 1 に 誤 っ て 大 当 たり の 確 定 表 示 が 行 わ れ て し ま う こ と を 防 止 す る こ と が で き る。また、図 柄 表 示 部 3 4 1 に 特 殊 停 止 図 柄 が 確 定 表 示 さ れ て も、主 制 御 装 置 4 に お け る 抽 選 結 果 が 小 当 たり で あ れ ば、実 際 の 遊 技 機 10 に お け る 遊 技 状 態 は 小 当 たり 遊 技 状 態 へ 移 行 す る の

で、遊技者は安心して遊技を継続することができる。更に、確定表示を特殊停止図柄とすることで、確定表示が外れであっても、遊技機 10 が小当たり状態となっている可能性があることを遊技者に対して示唆することができるので、確定表示が外れであるにも関わらず、遊技機 10 が小当たり状態となることで、遊技者に不安感を与えないようにすることができる。

【2676】

〔表示データテーブル〕

ここで、図 199 を参照して、表示データテーブルの詳細について説明する。図 199 は、表示データテーブルのうち、変動用表示データテーブルの一例を模式的に示した模式図である。表示データテーブルは、表示手段である図柄表示部 341 において 1 フレーム分の画像が表示される時間（本実施形態では、20 ミリ秒）を 1 単位として表したアドレスに対応させて、その時間に表示すべき更新情報である 1 フレーム分の画像の内容（描画内容）を詳細に規定したものである。

10

【2677】

描画内容には、1 フレーム分の画像を構成する表示物であるスプライト毎に、そのスプライトの種別を規定すると共に、そのスプライトの種別に応じて、表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、 α ブレンディング情報、色情報、フィルタ指定情報といった、スプライトを図柄表示部 341 に描画させるための描画情報が規定されている。

【2678】

スプライトの種別は、表示すべきスプライトを特定するための情報である。表示位置座標は、そのスプライトを表示すべき図柄表示部 341 上の座標を特定するための情報である。拡大率は、そのスプライトに対して予め設定された標準的な表示サイズに対する拡大率を指定するための情報で、その拡大率に従って表示されるスプライトの大きさが特定される。なお、拡大率が 100 % より大きい場合は、そのスプライトが標準的な大きさよりも拡大されて表示され、拡大率が 100 % 未満の場合は、そのスプライトが標準的な大きさよりも縮小されて表示される。

20

【2679】

回転角度は、スプライトを回転させて表示させる場合の回転角度を特定するための情報である。半透明値は、スプライト全体の透明度を特定するためのものであり、半透明値が高いほど、スプライトの背面側に表示される画像が透けて見えるように画像が表示される。 α ブレンディング情報は、他のスプライトとの重ね合わせ処理を行う場合に用いられる既知の α ブレンディング係数を特定するための情報である。色情報は、表示すべきスプライトの色調を指定するための情報である。そして、フィルタ指定情報は、指定されたスプライトを描画する場合に、そのスプライトに対して施すべき画像フィルタを指定するための情報である。

30

【2680】

変動用表示データテーブルでは、各アドレスに対応して規定される更新情報である 1 フレーム分の描画内容として、1 つの背面画像、9 個の飾り図柄（図柄 1、図柄 2、・・・）、その画像において光の差し込みなどを表現するエフェクト、少年画像や文字などの各種演出に用いられるキャラクタといった各スプライトに対する描画情報が、アドレス毎に規定されている。なお、エフェクトやキャラクタに関する情報は、そのフレームに表示すべき内容に合わせて、1 つ又は複数規定される。

40

【2681】

ここで、背面画像は、表示位置は図柄表示部 341 の画面全体に固定され、拡大率、回転角度、半透明値、 α ブレンディング情報、色情報及びフィルタ指定情報は、時間経過に対して一定とされるので、変動用表示データテーブルでは、背面画像の種別を特定するための情報である背面種別のみが規定されている。この背面種別は、遊技者によって選択されているステージ（「街中ステージ」、「空ステージ」、「島ステージ」のいずれか）に対応する背面 A～背面 C のいずれかを表示させるか、背面 A～背面 C とは異なる背面画像を表示させるかを特定する情報が記載されている。また、背面種別は、背面 A～背面 C と

50

は異なる背面画像を表示させることを特定する場合、どの背面画像を表示させるかを特定する情報も合わせて記載されている。

【2682】

M P U 6 3 1 は、この背面種別によって、背面 A ～背面 C のいずれかを表示させることが特定される場合は、背面 A ～背面 C うち遊技者によって指定されたステージに対応する背面画像を描画対象として特定し、また、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を時間経過に合わせて特定する。一方、背面 A ～背面 C とは異なる背面画像を表示させることが特定される場合は、背面種別から表示させるべき背面画像を特定する。

【2683】

なお、本実施形態では、表示データテーブルにおいて、背面画像の描画内容として背面種別のみを規定する場合について説明するが、これに代えて、背面種別と、その背面種別に対応する背面画像のどの範囲を表示すべきかを示す位置情報とを規定するようにしてもよい。この位置情報は、例えば、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報であってもよい。この場合、M P U 6 3 1 は、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を、位置情報により示される初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間に基づいて特定する。

【2684】

また、位置情報は、この表示データテーブルに基づく画像の描画（もしくは、図柄表示部 3 4 1 の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報であってもよい。この場合、M P U 6 3 1 は、そのフレームに対して表示すべき背面画像の範囲を、表示用データベースに基づき画像の描画（もしくは、図柄表示部 3 4 1 の表示）が開始された段階で表示されていた背面画像の位置と、位置情報により示される該画像の描画（もしくは、図柄表示部 3 4 1 の表示）が開始されてからの経過時間とに基づいて特定する。

【2685】

更に、位置情報は、背面種別に応じて、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報及び表示データテーブルに基づく画像の描画（もしくは、図柄表示部 3 4 1 の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報のいずれかを示すものであってもよいし、背面種別及び位置情報とともに、その位置情報の種別情報（例えば、初期位置に対応する範囲の背面画像が表示されてからの経過時間を示す情報であるか、表示用データベースに基づく画像の描画（もしくは、図柄表示部 3 4 1 の表示）が開始されてからの経過時間を示す情報であるかを示す情報）を、背面画像の描画内容として規定してもよい。その他、位置情報は、経過時間を示す情報ではなく、表示すべき背面画像の範囲が格納されたアドレスを示す情報であってもよい。

【2686】

飾り図柄（図柄 1、図柄 2、・・・）は、表示すべき飾り図柄を特定するための図柄種別情報として、図柄種別オフセット情報が記載されている。このオフセット情報は、各飾り図柄に付された数字の差分を表す情報である。飾り図柄の種別を直接特定するのではなく、オフセット情報を特定するのは、特図遊技演出における飾り図柄の表示は、1 つ前に行われた特図遊技演出での停止図柄及び今回行われる特図遊技演出での停止図柄に応じて変わるためであり、変動が開始されてから所定時間経過するまでの図柄オフセット情報では、1 つ前に行われた特図遊技演出の停止図柄からのオフセット情報を記載する。これにより、1 つ前の特図遊技演出における停止図柄から特図遊技演出が開始される。

【2687】

一方、変動が開始されてから所定時間経過後は、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 より受信した停止種別コマンド（表示用停止種別コマンド）に応じて設定される停止図柄からのオフセット情報を記載する。これにより、特図遊技演出において、主制御装置 4 より指定された停止種別に応じた停止図柄で停止させることができる。

【2688】

なお、各飾り図柄には固有の数字が付されているので、1 つ前の特図遊技演出における変動図柄や、主制御装置 4 より指定された停止種別に応じた停止図柄を、その飾り図柄に

10

20

30

40

50

付された数字で管理し、また、オフセット情報を、各飾り図柄に付された数字の差分で表すことにより、そのオフセット情報から容易に表示すべき飾り図柄を特定することができる。

【2689】

また、図柄オフセット情報において、1つ前に行われた特図遊技演出における停止図柄のオフセット情報から今回行われている特図遊技演出における停止図柄のオフセット情報に切り替えられる所定時間は、所定の図柄としての飾り図柄が高速で変動表示されている時間となるように設定されている。飾り図柄が高速で変動表示されている間は、その飾り図柄が遊技者に視認不能な状態であるので、その間に、図柄オフセット情報を1つ前に行われた特図遊技演出における停止図柄のオフセット情報から今回行われている特図遊技演出における停止図柄のオフセット情報に切り替えることによって、飾り図柄の数字の連続性が途切れても、その数字の連続性の途切れを遊技者に認識させないようにすることができる。

10

【2690】

表示データテーブルの先頭アドレスである「0000H」には、データテーブルの開始を示す「Start」情報が記載され、表示データテーブルの最終アドレス（図199の例では、「02F0H」）には、データテーブルの終了を示す「End」情報が記載されている。そして、「Start」情報が記載されたアドレス「0000H」と「End」情報が記載されたアドレスとの間の各アドレスに対して、その表示データテーブルで規定すべき演出態様に対応させた描画内容が記載されている。

20

【2691】

MPU631は、主制御装置4からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置5から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等から特定される変動表示時間や大当たり抽選の結果に応じて、予め複数準備された表示データテーブルから使用する表示データテーブルを選定し、その選定した表示データテーブルをデータテーブル格納エリア633bから読み出して、表示データテーブルバッファ633dに格納すると共に、ポインタ633gを初期化する。そして、1フレーム分の描画処理が完了する度に更新処理としてポインタ633gを1加算し、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルにおいて、ポインタ633gが示すアドレスに規定された描画内容に基づき、次に描画すべき画像内容を特定して後述する描画リスト（図202参照）を作成する。この描画リストを画像コントローラ637に送信することで、その画像の描画指示を行う。これにより、更新処理によるポインタ633gの更新に従って、表示データテーブルで規定された順に更新情報としての描画内容が特定されるので、その表示データテーブルで規定された通りの画像が図柄表示部341に表示される。

30

【2692】

このように、本遊技機10では、表示制御装置6において、主制御装置4からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置5から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、MPU631により実行すべきプログラムを変更するのではなく、更新情報である表示データテーブルを表示データテーブルバッファ633dに適宜置き換える更新処理を実行するという単純な操作だけで、図柄表示部341に表示すべき演出画像を変更（更新）することができる。

40

【2693】

ここで、従来のパチンコ機のように、図柄表示部341に表示させる演出画像を変更する度にMPU631で実行されるプログラムを起動するように構成した場合、演出画像の多種多様化に伴って複雑かつ膨大化するプログラムの起動や実行の処理に多大な負荷がかかるため、表示制御装置6における処理能力が制限となって、制御可能な演出画像の多様化に限界が生じてしまうおそれがあった。これに対し、本遊技機10では、更新情報である表示データテーブルを表示データテーブルバッファ633dに適宜置き換えるという単純な操作だけで、図柄表示部341に表示すべき演出画像を変更（更新）することができるので、表示制御装置6の処理能力に関係なく、多種態様な演出画像を表示手段である図

50

柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。

【2 6 9 4】

また、このように各演出態様に対応して表示データテーブルを用意し、表示すべき演出態様に応じた表示データテーブルバッファを設定して、その設定されたデータテーブルに従い、更新情報としての 1 フレームずつ描画リストを作成することができるのは、遊技機 1 0 では、始動入賞に基づいて行われる大当たり抽選による抽選結果及び変動時間に応じて、複数の演出パターンから予め図柄表示部 3 4 1 に表示させる演出が決定されるためである。これに対し、パチンコ機といった遊技機を除くゲーム機などでは、ユーザの操作に基づいてその場その場で表示内容が変わるため、表示内容を予測することができず、よって、上述したような各演出態様に対応する表示データテーブルを持たせることはできない。このように、各演出態様に対応して表示データテーブルを用意し、表示すべき演出態様に応じた表示データテーブルバッファを設定して、その設定されたデータテーブルに従い、更新処理により 1 フレームずつ更新情報としての描画リストを作成する構成は、遊技機 1 0 が、始動入賞に基づいて行われる大当たり抽選に基づき予め図柄表示部 3 4 1 に表示させる演出態様を決定する構成であることに基づいて初めて実現できるものである。

10

【2 6 9 5】

[追加データテーブル]

次いで、図 2 0 0 を参照して、追加データテーブルの詳細について説明する。図 2 0 0 は、追加データテーブルの一例を模式的に示した模式図である。追加データテーブルは、上述したように、主制御装置 4 からのコマンドに基づく一の演出に追加して図柄表示部 3 4 1 に表示させる演出に対し、時間経過に伴い表示すべき表示内容を記載したものである。ここで、「一の演出に追加」とは、主制御装置 4 からのコマンドに基づく一の演出の表示内容を変更することを意味し、例えば、一の演出において通常は表示されない画像を表示させて、その一の演出に別の演出を重ねて表示させたり、その一の演出における一部又は全部の色調を変化させたり、一の演出において表示される画像を変更したりする概念を含むものである。

20

【2 6 9 6】

即ち、追加データテーブルは、主制御装置 4 からのコマンドに基づき選定された表示データテーブルによって表示される一の演出に対して、通常は表示されない画像を追加して表示させるために必要な描画内容や、その一の演出における一部又は全部の色調を変化させるために必要な描画内容、また、一の演出において表示される画像を変更して表示させるために必要な描画内容が既定されるものである。

30

【2 6 9 7】

なお、本実施形態では、主制御装置 4 からの変動パターンコマンド（表示用変動パターンコマンド）に基づき選定された変動用表示データテーブルによって表示される特図遊技演出に対して追加して表示される連続予告演出を表示するための表示内容が、追加データテーブルによって規定される場合について説明する。

【2 6 9 8】

即ち、追加データテーブルは、例えば、特図遊技演出に対して追加設定される連続予告演出に対応して用意されており、具体的には、連続予告演出の表示態様である「泡」、「タマゴ」、「ヒヨコ」、「ニワトリ」、「ニワトリ群」のそれぞれに対応した追加データテーブルがデータテーブル格納エリア 6 3 3 b に格納されている。

40

【2 6 9 9】

この追加データテーブルでは、表示データテーブルにおいて規定されるアドレスに対応させて、そのアドレスで示される時間に追加表示すべき 1 フレーム分の画像の内容（描画内容）が詳細に規定されている。描画内容には、1 フレーム分の画像に追加表示すべき表示物であるスプライト毎に、そのスプライトの種別を規定すると共に、そのスプライトの種別に応じて、表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、 α ブレンディング情報、色情報、フィルタ指定情報といった、スプライトを図柄表示部 3 4 1 に描画させるための描画情報が規定されている。

50

【2700】

例えば、図200の例では、表示データテーブルにおいて規定されるアドレス「0097H」に対応付けて、2つのエフェクト（エフェクト1，エフェクト2）及び2つのキャラクタ（キャラクタ1，キャラクタ2）に対して、それぞれのスプライト種別（エフェクト種別，キャラクタ種別）、表示位置、拡大率、回転角度、半透明値、 α ブレンディング情報、色情報、フィルタ指定情報が規定されている。一方、表示データテーブルにおいて規定されるアドレスによって示される時間に、追加表示すべき表示物が存在しない場合は、追加データテーブルでは、そのアドレスに対応する追加すべき表示物が存在しないことを意味するNullデータが規定される（図200のアドレス「0001H」が該当）。

【2701】

なお、追加データテーブルの先頭アドレスである「0000H」には、表示データテーブルと同様に、データテーブルの開始を示す「Start」情報が記載され、追加データテーブルの最終アドレス（図200の例では、「00FDH」）には、データテーブルの終了を示す「End」情報が記載されている。そして、「Start」情報が記載されたアドレス「0000H」と「End」情報が記載されたアドレスとの間の各アドレスに対して、その追加データテーブルで規定すべき演出態様に対応させた描画内容が記載されている。

【2702】

MPU631は、音声ランプ制御装置5から連続予告コマンドを受信すると、その連続予告コマンドにより示される連続予告態様に応じた追加データテーブルをデータテーブル格納エリア633bから読み出して、後述するワークRAM633の追加データテーブルバッファ633eに格納する。そして、ポインタ633gの更新毎に、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルと、追加データテーブルバッファ633eに格納された追加データテーブルとから、ポインタ633gが示すアドレスに規定された描画内容を特定し、次に描画すべき画像内容を特定して後述する更新情報としての描画リスト（図202参照）を作成する。

【2703】

例えば、図200の例では、ポインタ633gが「0097H」となった場合に、MPU631は、表示データテーブルのアドレス「0097H」に規定された各種スプライトに、追加データテーブルのアドレス「0097H」に規定されたエフェクト1、エフェクト2、キャラクタ1、キャラクタ2の各スプライトを追加して更新情報である描画リストを作成し、画像コントローラ637にその画像の描画を指示する。一方、ポインタ633gが「0001H」である場合、追加データテーブルのアドレス「0001H」には、Nullデータが規定されているので、追加すべき表示物が存在しないと判断し、表示データテーブルのアドレス「0001H」に規定された各種スプライトを基に更新情報である描画リストを生成する。また、追加データテーブルにおいてポインタ633gが示すアドレスで規定される情報が「End」情報であった場合、また、ポインタ633gが追加データテーブルに規定されていないアドレスを指示するものであった場合（例えば、図200の例では、ポインタ633gが「00FEH」以降のアドレスを示すような場合）にも、追加すべき表示物が存在しないと判断し、表示データテーブルに規定された各種スプライトを基に更新情報である描画リストを生成する。

【2704】

そして、画像コントローラ637に生成した描画リストを送信することで、その画像の描画指示を行う。これにより、更新情報であるポインタ633gの更新処理に従って、表示データテーブルで規定された順に描画内容が特定されると共に、追加データテーブルで規定された描画内容が追加されるので、その表示データテーブルと追加データテーブルとで規定された通りの画像が図柄表示部341に表示される。

【2705】

このように、本遊技機10では、表示制御装置6において、主制御装置4からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置5から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パター

10

20

30

40

50

ンコマンド）等に応じて図柄表示部 3 4 1 に表示すべき演出画像（例えば、特図演出画像）に追加して、他の演出画像（例えば、連続予告演出画像）を表示させる場合に、その追加して表示させる他の演出画像に対応する追加データテーブルを追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に設定することで、容易にその演出画像をベースの演出画像に追加して表示させることができる。これにより、例えば、元の演出画像が 3 2 種類あり、追加して表示させる他の演出画像が 5 種類ある場合において、仮に、元の演出画像毎に他の演出画像を重ねた画像を規定した表示データテーブルを別途用意すれば、 $32 \times (1 + 5) = 192$ 種類の表示データテーブルを用意しなければならないところ、本遊技機 1 0 のように、他の演出画像に対応するデータテーブルを追加データテーブルとして別に規定することで、 $32 + 5 = 37$ 種類の表示及び追加データテーブルを用意すればよく、データテーブル格納エリア 6 3 3 b の容量増大を抑制することができる。よって、データテーブル格納エリア 6 3 3 b に用意された容量の中で多種態様な演出態様に対応したデータテーブルを格納することもでき、演出画像の更なる多種多様化を容易に図ることができる。

10

【2706】

また、本遊技機 1 0 のように、追加して表示させる他の演出画像を追加データテーブルとして規定することによって、元の演出画像に対応する表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定した後に、追加して表示させる他の演出画像の表示を決定した場合であっても、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された表示データテーブルを変更することなく、他の演出画像に対応する追加データテーブルを追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に設定するだけで、その追加して表示させる他の演出画像が元の演出画像に追加して容易に表示させることができる。

20

【2707】

また、追加データテーブルは、表示データテーブルと同様のデータ構造を有して構成されているので、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された表示データテーブルと、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に設定された追加データテーブルとから、時間毎にポインタ 6 3 3 g を更新しながらそのポインタに示されるアドレスに規定された描画内容をそれぞれ容易に特定することができると共に、これらから 1 つのフレームに対応する更新処理により 1 つの描画リストを更新情報として容易に生成することができる。よって、主制御装置 4 からのコマンドに基づいて行われる演出に追加して、音声ランプ制御装置 5 などによってその他の演出の表示を決定した場合であっても、その追加して表示すべき演出の表示内容を追加データテーブルで規定することによって、少ないデータテーブルから多種多様な演出表示を容易に行うことができる。

30

【2708】

【転送データテーブル】

次いで、図 2 0 1 を参照して、転送データテーブルの詳細について説明する。図 2 0 1 は、転送データテーブルの一例を模式的に示した模式図である。転送データテーブルは、演出毎に用意された表示データテーブルに対応して用意されるもので、上述したように、表示データテーブルで規定されている演出において使用されるスプライトの画像データのうち、常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に常駐されていない画像データをキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 の画像格納エリア 6 3 6 a に転送するための転送データ情報ならびにその転送タイミングが規定されている。

40

【2709】

なお、表示データテーブルに規定された演出において使用されるスプライトの画像データが、全て常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に格納されていれば、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルは用意されていない。これにより、データテーブル格納エリア 6 3 3 b の容量増大を抑制することができる。

【2710】

転送データテーブルは、表示データテーブルにおいて規定されるアドレスに対応させて、そのアドレスで示される時間に転送を開始すべきスプライトの画像データ（以下、「転送対象画像データ」と称する）の転送データ情報が記載されている（図 2 0 1 のアドレス

50

「0001H」及び「0097H」が該当）。ここで、表示データテーブルに従って所定のスプライトの描画が開始されるまでに、その所定のスプライトに対応する画像データが画像格納エリア636aに格納されるように、その転送対象画像データの転送開始タイミングが設定されており、転送データテーブルでは、その転送開始タイミングに対応するアドレスに対応させて、転送対象画像データの転送データ情報が規定される。

【2711】

一方、表示データテーブルにおいて規定されるアドレスで示される時間に、転送を開始すべき転送対象画像データが存在しない場合は、そのアドレスに対応して転送を開始すべき転送対象画像データが存在しないことを意味するNullデータが規定される（図201のアドレス「0002H」が該当）。

【2712】

転送データ情報としては、その転送対象画像データが格納されているキャラクタROM634の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオRAM636）の先頭アドレスが含まれる。

【2713】

なお、転送データテーブルの先頭アドレスである「0000H」には、表示データテーブルと同様に、データテーブルの開始を示す「Start」情報が記載され、転送データテーブルの最終アドレス（図201の例では、「02F0H」）には、データテーブルの終了を示す「End」情報が記載されている。そして、「Start」情報が記載されたアドレス「0000H」と「End」情報が記載されたアドレスとの間の各アドレスに対して、その転送データテーブルで規定すべき転送対象画像データの転送データ情報が記載されている。

【2714】

MPU631は、主制御装置4からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置5から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、使用する表示データテーブルを選定すると、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルが存在する場合は、その転送データテーブルをデータテーブル格納エリア633bから読み出して、後述するワークRAM633の転送データテーブルバッファ633fに格納する。そして、ポインタ633gの更新毎に、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルと、追加データテーブルバッファ633eに格納された追加データテーブルとから、ポインタ633gが示すアドレスに規定された描画内容を特定して、後述する更新情報である描画リスト（図202参照）を作成すると共に、転送データテーブルバッファ633fに格納された転送データテーブルから、その時点において転送を開始すべき所定のスプライトの画像データの転送データ情報を取得して、その転送データ情報を作成した描画リストに追加する。

【2715】

例えば、図201の例では、ポインタ633gが「0001H」や「0097H」となった場合に、MPU631は、転送データテーブルの当該アドレスに規定された転送データ情報を、表示データテーブル及び追加データテーブルに基づいて作成した描画リストに追加して、その追加後の描画リストを画像コントローラ637へ送信する。一方、ポインタ633gが「0002H」である場合、転送データテーブルのアドレス「0002H」には、Nullデータが規定されているので、転送を開始すべき転送対象画像データが存在しないと判断し、生成した描画リストに転送データ情報を追加せずに、描画リストを画像コントローラ637へ送信する。

【2716】

そして、画像コントローラ637は、MPU631より受信した描画リストに転送データ情報が記載されていた場合、その転送データ情報に従って、転送対象画像データを、キャラクタROM634から画像格納エリア636aの所定のサブエリアに転送する処理を実行する。

【2717】

10

20

30

40

50

ここで、上述したように、表示データテーブルに従って所定のスプライトの描画が開始されるまでに、その所定のスプライトに対応する画像データが画像格納エリア 6 3 6 a に格納されるように、転送データテーブルでは、転送対象画像データの転送データ情報が所定のアドレスに対して規定されているので、この転送データテーブルに規定された転送データ情報に従って、画像データをキャラクタ ROM 6 3 4 から画像格納エリア 6 3 6 a に転送することにより、表示データテーブルに従って所定のスプライトを描画する場合に、そのスプライトの描画に必要な常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に常駐されていない画像データを、必ず画像格納エリア 6 3 6 a に格納させておくことができる。そして、その画像格納エリア 6 3 6 a に格納された画像データを用いて、表示データテーブルに基づき、所定のスプライトの描画を行うことができる。

10

【2718】

これにより、読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a によってキャラクタ ROM 6 3 4 を構成しても、遅滞なく表示に必要な画像を予めキャラクタ ROM 6 3 4 から読み出し、通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送しておくことができるので、表示データテーブルで指定された各スプライトの画像を描画しながら、対応する演出を図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。また、転送データテーブルの記載によって、常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に非常駐の画像データだけを容易に且つ確実にキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送することができる。

【2719】

また、本遊技機 1 0 では、表示制御装置 6 において、主制御装置 4 からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置 5 から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定するのに合わせて、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルが転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に設定されるので、その表示データテーブルで用いられるスプライトの画像データを、所望のタイミングで確実にキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送することができる。

20

【2720】

また、転送データテーブルでは、スプライトに対応する画像データ毎にキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ画像データが転送されるように、その転送データ情報を規定する。これにより、その画像データの転送をスプライト毎に管理し、また、制御することができるので、その転送に係る処理を容易に行うことができる。そして、スプライト単位でキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 への画像データの転送を制御することにより、その処理を容易にしつつ、詳細に画像データの転送を制御できる。よって、転送にかかる負荷の増大を効率よく抑制することができる。

30

【2721】

また、転送データテーブルは、表示データテーブルと同様のデータ構造を有し、表示データテーブルにおいて規定されるアドレスに対応させて、そのアドレスで示される時間に転送を開始すべき転送対象画像データの転送データ情報が規定されているので、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された表示データテーブルに基づいて所定のスプライトの画像データが用いられる前に、確実にその画像データが通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ格納されるように、転送開始のタイミングを指示することができるので、読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a によってキャラクタ ROM 6 3 4 を構成しても、多種多様な演出画像を容易に図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。

40

【2722】

図 1 9 5 の説明に戻り、簡易画像表示フラグ 6 3 3 c は、図柄表示部 3 4 1 に、図 1 9 6 (A) ~ 図 1 9 6 (C) に示す電源投入時画像（電源投入時主画像及び電源投入時変動画像）を表示するか否かを示すフラグである。この簡易画像表示フラグ 6 3 3 c は、電源投入時主画像及び電源投入時変動画像に対応する画像データが常駐用ビデオ RAM の電源投入時主画像エリア 6 3 5 a 又は電源投入時変動画像エリア 6 3 5 b に転送された後に、MPU 6 3 1 により実行されるメイン処理（図 2 4 0 参照）の中でオンに設定される（図

50

240のステップS4105参照)。そして、画像転送処理の常駐画像転送処理によって、全ての常駐対象画像データが常駐用ビデオRAM635に格納された段階で、図柄表示部341に電源投入時画像以外の画像を表示させるために、オフに設定される(図252(B)のステップS6105参照)。

【2723】

この簡易画像表示フラグ633cは、画像コントローラ637から送信されるV割込信号を検出する毎にMPU631によって実行されるV割込処理の中で参照され(図241のステップS4301参照)、簡易画像表示フラグ633cがオンである場合は、電源投入時画像が図柄表示部341に表示されるように、簡易コマンド判定処理(図241(B)のステップS4308参照)及び簡易表示設定処理(図241(B)のステップS4309参照)が実行される。一方、簡易画像表示フラグ633cがオフである場合は、主制御装置4からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置5から送信されるコマンドに応じて、種々の画像が表示されるように、コマンド判定処理(図242~図246参照)及び表示設定処理(図247~図250参照)が実行される。

【2724】

また、簡易画像表示フラグ633cは、V割込処理の中でMPU631により実行される転送設定処理の中で参照され(図252(A)のステップS6001参照)、簡易画像表示フラグ633cがオンである場合は、常駐用ビデオRAM635に格納されていない常駐対象画像データが存在するため、常駐対象画像データをキャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635へ転送する常駐画像転送設定処理(図252(B)参照)を実行し、簡易画像表示フラグ633cがオフである場合は、描画処理に必要な画像データをキャラクタROM634から通常用ビデオRAM636へ転送する通常画像転送設定処理(図253参照)を実行する。

【2725】

表示データテーブルバッファ633dは、主制御装置4からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置5から送信されるコマンド等に応じて図柄表示部341に表示させる演出態様に対応する表示データテーブルを格納するためのバッファである。MPU631は、その音声ランプ制御装置5から送信されるコマンド等に基づいて、図柄表示部341に表示させる演出態様を判断し、その演出態様に対応する表示データテーブルをデータテーブル格納エリア633bから選定して、その選定された表示データテーブルを表示データテーブルバッファ633dに格納する。そして、MPU631は、ポインタ633gを1ずつ加算しながら、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルにおいてそのポインタ633gで示されるアドレスに規定された描画内容に基づき、1フレーム毎に画像コントローラ637に対する画像描画の指示内容を記載した後述の更新情報としての描画リスト(図202参照)を生成する。これにより、図柄表示部341には、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルに対応する演出が表示される。

【2726】

追加データテーブルバッファ633eは、音声ランプ制御装置5からのコマンド等に応じて、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルによって図柄表示部341に表示される演出に追加して表示させる演出(連続予告演出など)に対応する追加データテーブルを格納するためのバッファである。MPU631は、表示データテーブルバッファ633dに表示データテーブルを格納するのに合わせて、一旦、追加データテーブルバッファ633eに追加して表示すべき表示物がないことを意味するNullデータを書き込むことで、その内容をクリアする。

【2727】

その後、MPU631は、音声ランプ制御装置5からのコマンド等に基づいて、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルによって図柄表示部341に表示される演出に追加して表示させる演出の有無を判断し、追加して表示させる演出がある場合は、その演出態様に対応する追加データテーブルをデータテーブル格納エリア

6 3 3 b から選定して、その選定された追加データテーブルを追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に格納する。

【 2 7 2 8 】

そして、MPU 6 3 1 は、更新処理によりポインタ 6 3 3 g を 1 ずつ加算しながら、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納された表示データテーブルにおいてそのポインタ 6 3 3 g で示されるアドレスに規定された描画内容と、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に格納された追加データテーブルにおいてそのポインタ 6 3 3 g で示されるアドレスに規定された描画内容とに基づき、1 フレーム毎に画像コントローラ 6 3 7 に対する画像描画の指示内容を記載した後述の更新情報としての描画リスト（図 2 0 2 参照）を生成する。これにより、図柄表示部 3 4 1 には、表示データテーブルに対応する演出に、追加データテーブルに対応する演出が追加して表示される。また、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に追加データテーブルが格納されなかった場合、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e には N u l l データが格納されているので、図柄表示部 3 4 1 には、表示データテーブルに対応する演出がそのまま表示される。

10

【 2 7 2 9 】

転送データテーブルバッファ 6 3 3 f は、主制御装置 4 からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置 5 から送信されるコマンド等に応じて、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納された表示データテーブルに対応する転送データテーブルを格納するためのバッファである。MPU 6 3 1 は、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に表示データテーブルを格納するのに合わせて、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルをデータテーブル格納エリア 6 3 3 b から選定して、その選定された転送データテーブルを転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に格納する。なお、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納される表示データテーブルにおいて用いられるスプライトの画像データが全て常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に格納されている場合は、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルが用意されていないので、MPU 6 3 1 は、転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に転送対象画像データが存在しないことを意味する N u l l データを書き込むことで、その内容をクリアする。

20

【 2 7 3 0 】

そして、MPU 6 3 1 は、更新処理によりポインタ 6 3 3 g を 1 ずつ加算しながら、転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に格納された転送データテーブルにおいてそのポインタ 6 3 3 g で示されるアドレスに規定された転送対象画像データの転送データ情報が規定されていれば（即ち、N u l l データが記載されていなければ）、1 フレーム毎に生成される画像コントローラ 6 3 7 に対する画像描画の指示内容を記載した後述の更新情報としての描画リスト（図 2 0 2 参照）に、その転送データ情報を追加する。

30

【 2 7 3 1 】

これにより、画像コントローラ 6 3 7 は、MPU 6 3 1 より受信した描画リストに転送データ情報が記載されていた場合、その転送データ情報に従って、転送対象画像データを、キャラクタ ROM 6 3 4 から画像格納エリア 6 3 6 a の所定のサブエリアに転送する処理を実行する。ここで、上述したように、表示データテーブルに従って所定のスプライトの描画が開始されるまでに、その所定のスプライトに対応する画像データが画像格納エリア 6 3 6 a に格納されるように、転送データテーブルでは、転送対象画像データの転送データ情報が所定のアドレスに対して規定されている。よって、この転送データテーブルに規定された転送データ情報に従って、画像データをキャラクタ ROM 6 3 4 から画像格納エリア 6 3 6 a に転送することにより、表示データテーブルに従って所定のスプライトを描画する場合に、そのスプライトの描画に必要な常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に常駐されていない画像データを、必ず画像格納エリア 6 3 6 a に格納させておくことができる。

40

【 2 7 3 2 】

これにより、読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a によってキャラクタ ROM 6 3 4 を構成しても、遅滞なく表示に必要な画像を予めキャラクタ ROM 6 3 4 から読み出し、通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送しておくことができるので、表示デー

50

タテーブルで指定された各スプライトの画像を描画しながら、対応する演出を図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。また、転送データテーブルの記載によって、常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に非常駐の画像データだけを容易に且つ確実にキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送することができる。

【2 7 3 3】

ポインタ 6 3 3 g は、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e 及び転送データテーブルバッファ 6 3 3 f の各バッファにそれぞれ格納された表示データテーブル、追加データテーブル及び転送データテーブルから、対応する描画内容もしくは転送対象画像データの転送データ情報を取得すべきアドレスを指定するためのものである。MPU 6 3 1 は、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に表示データテーブルが格納されるのに合わせて、ポインタ 6 3 3 g を一旦 0 に初期化する。そして、画像コントローラ 6 3 7 から 1 フレーム分の画像の描画処理が完了する 20 ミリ秒ごとに送信される V 割込信号に基づいて MPU 6 3 1 により実行される V 割込処理の表示設定処理（図 2 4 7 のステップ S 4 3 0 3 参照）の中で、更新処理としてポインタ更新処理（図 2 4 7 のステップ S 5 4 1 1 参照）が実行され、更新情報であるポインタ 6 3 3 g の値が 1 ずつ加算される。

【2 7 3 4】

MPU 6 3 1 は、このようなポインタ 6 3 3 g の更新処理が行われる毎に、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納された表示データテーブルと、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に格納された追加データテーブルとから、ポインタ 6 3 3 g が示すアドレスに規定された描画内容を特定して、後述する更新情報である描画リスト（図 2 4 7 参照）を作成すると共に、転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に格納された転送データテーブルから、その時点において転送を開始すべき所定のスプライトの画像データの転送データ情報を取得して、その転送データ情報を作成した描画リストに追加する。

【2 7 3 5】

これにより、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納された表示データテーブルに対応する演出が図柄表示部 3 4 1 に表示されると共に、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に追加データテーブルが格納されている場合は、その追加データテーブルに対応する演出が、表示データテーブルに対応する演出に追加して図柄表示部 3 4 1 に表示されることができる。よって、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納する表示データテーブルや、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に格納する追加データテーブルを変更するだけで、容易に図柄表示部 3 4 1 に表示させる演出を変更することができる。よって、表示制御装置 6 の処理能力に関わらず、多種多様な演出を表示させることができる。

【2 7 3 6】

また、転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に格納された転送データテーブルが格納されている場合は、その転送データテーブルに基づいて、対応する表示データテーブルによって所定のスプライトの描画が開始されるまでに、そのスプライトの描画で用いられる常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に常駐されていない画像データを、必ず画像格納エリア 6 3 6 a に格納させておくことができる。これにより、読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a によってキャラクタ ROM 6 3 4 を構成しても、遅滞なく表示に必要な画像を予めキャラクタ ROM 6 3 4 から読み出し、通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送しておくことができるので、表示データテーブルで指定された各スプライトの画像を描画しながら、対応する演出を図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。また、転送データテーブルの記載によって、常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に非常駐の画像データだけを容易に且つ確実にキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送することができる。

【2 7 3 7】

描画リストエリア 6 3 3 h は、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納された表示データテーブル、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に格納された追加データテーブル、及び、転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に格納された転送データテーブルに基づいて生成される、1 フレーム分の画像の描画を画像コントローラ 6 3 7 に指示する更新情報

としての描画リストを格納するためのエリアである。

【2738】

〔描画リスト〕

ここで、図202を参照して、描画リストの詳細について説明する。図202は、描画リストの内容を模式的に示した模式図である。更新情報である描画リストは、画像コントローラ637に対して、1フレーム分の画像の描画を指示する指示表であり、図202に示すように、1フレームの画像で使用する背面画像、所定の図柄である飾り図柄（図柄1、図柄2、・・・）、エフェクト（エフェクト1、エフェクト2、・・・）、キャラクター（キャラクター1、キャラクター2、・・・、保留球数図柄1、保留球数図柄2、・・・、エラー図柄）といったスプライト毎に、そのスプライトの詳細な描画情報（詳細情報）を記述したものである。また、描画リストには、画像コントローラ637に対して所定の画像データをキャラクターROM634から通常用ビデオRAM636へ転送させるための転送データ情報もあわせて記述される。

【2739】

各スプライトの詳細な描画情報（詳細情報）には、対応するスプライト（表示物）の画像データが格納されているRAM種別（常駐用ビデオRAM635か、通常用ビデオRAM636か）を示す情報と、そのアドレスとが記述されており、画像コントローラ637は、そのRAM種別及びアドレスによって指定されるメモリ領域から、当該スプライトの画像データを取得する。また、その詳細な描画情報（詳細情報）には、表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、 α ブレンディング情報、色情報及びフィルタ指定情報が含まれており、画像コントローラ637は、各種ビデオRAMより読み出した当該スプライトの画像データにより生成される標準的な画像に対し、拡大率に応じて拡大縮小処理を施し、回転角度に応じて回転処理を施し、半透明値に応じて半透明化処理を施し、 α ブレンディング情報に応じて他のスプライトとの合成処理を施し、色情報に応じて色調補正処理を施し、フィルタ指定情報に応じてその情報により指定された方法でフィルタリング処理を施した上で、表示位置座標に示される表示位置に各種処理を施して得られた画像を描画する。そして、描画した画像は、画像コントローラ637により更新処理によって、描画対象バッファフラグ633kで指定される第1フレームバッファ636b又は第2フレームバッファ636cのいずれかに展開される。

【2740】

MPU631は、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブル及び追加データテーブルバッファ633eに格納された追加データテーブルにおいて、更新情報であるポインタ633gによって示されるアドレスに規定された描画内容と、その他の描画すべき画像の内容（例えば、保留球数図柄を表示する保留画像や、エラーの発生を通知する警告画像など）とに基づき、1フレーム分の画像の描画に用いられる全スプライトに対する詳細な描画情報（詳細情報）を生成すると共に、その詳細情報をスプライト毎に並び替えることによって描画リストを作成する。

【2741】

ここで、各スプライトの詳細情報のうち、スプライト（表示物）のデータの格納RAM種別とアドレスとは、表示データテーブル及び追加データテーブルに規定されるスプライト種別や、その他の画像の内容から特定されるスプライト種別に応じて生成される。即ち、スプライト毎に、そのスプライトの画像データが格納される常駐用ビデオRAM635のエリア、又は、通常用ビデオRAM636の画像格納エリア636aのサブエリアが固定されているので、MPU631は、スプライト種別に応じて、そのスプライトの画像データが格納されている格納RAM種別とアドレスとを即座に特定し、それらの情報を描画リストの詳細情報に容易に含めることができる。

【2742】

また、MPU631は、各スプライトの詳細情報のうち、その他の情報（表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、 α ブレンディング情報、色情報及びフィルタ指定情報）について、表示データテーブル及び追加データテーブルに規定されるそれらの情報をその

ままコピーする。

【2743】

また、MPU631は、描画リストを生成するにあたり、1フレーム分の画像の中で、最も背面側に配置すべきスプライトから前面側に配置すべきスプライト順に並び替えて、それぞれのスプライトに対する詳細な描画情報（詳細情報）を記述する。即ち、描画リストでは、最初に背面画像に対応する詳細情報が記述され、次いで、所定の図柄である飾り図柄（図柄1、図柄2、・・・）、エフェクト（エフェクト1、エフェクト2、・・・）、キャラクタ（キャラクタ1、キャラクタ2、・・・、保留球数図柄1、保留球数図柄2、・・・、エラー図柄）の順に、それぞれのスプライトに対応する詳細情報が記述される。

10

【2744】

画像コントローラ637では、更新情報としての描画リストに記述された順番に従って、更新処理として各スプライトの描画処理を実行し、フレームバッファにその描画されたスプライトを上書きによって展開していく。従って、描画リストによって生成した1フレーム分の画像において、最初に描画したスプライトが最も背面側に配置させ、最後に描画したスプライトが最も前面側に配置させることができるのである。

【2745】

また、MPU631は、転送データテーブルバッファ633fに格納された転送データテーブルにおいて、ポインタ633gによって示されるアドレスに転送データ情報が記載されている場合、その転送データ情報（転送対象画像データが格納されたキャラクタROM634における格納元先頭アドレス及び格納元最終アドレスと、その転送対象画像データを格納すべき画像格納エリア636aに設けられたサブエリアの格納先頭アドレス）を、描画リストの最後に追加する。画像コントローラ637は、描画リストにこの転送データ情報が含まれていれば、その転送データ情報に基づいて、キャラクタROM634の所定の領域（格納元先頭アドレス及び格納元最終アドレスによって示される領域）から画像データを読み出して、通常用ビデオRAM636の画像格納エリア636aに設けられた所定のサブエリア（格納先アドレス）に、転送対象となる画像データを転送する。

20

【2746】

図195の説明に戻り、計時カウンタ633iは、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルにより図柄表示部341にて表示される演出の演出時間をカウントするカウンタである。MPU631は、表示データテーブルバッファ633dに一の表示データテーブルを格納するのに合わせて、その表示データテーブルに基づいて表示される演出の演出時間を示す時間データを設定する。この時間データは、演出時間を図柄表示部341における1フレーム分の画像表示時間（本実施形態では、20ミリ秒）で割った値である。

30

【2747】

そして、1フレーム分の画像の描画処理及び表示処理が完了する20ミリ秒毎に画像コントローラ637から送信されるV割込信号に基づいて、MPU631により実行されるV割込処理（図241（B）参照）の表示設定処理が実行される度に、更新情報である計時カウンタ633iが1ずつ減算される（図247のステップS5413参照）。その結果、計時カウンタ633iの値が0以下となった場合、MPU631は、表示データテーブルバッファ633dに格納された表示データテーブルにより表示される演出が終了したことを判断し、演出終了に合わせて行うべき種々の処理を実行する。

40

【2748】

格納画像判別フラグ633jは、対応する画像データが常駐用ビデオRAM635に常駐されない全てのスプライトに対して、それぞれ、そのスプライトに対応する画像データが通常用ビデオRAM636の画像格納エリア636aに格納されているか否かを表す格納状態を示すフラグである。

【2749】

更新情報である格納画像判別フラグ633jは、電源投入時にメイン処理の中でMPU

50

631により実行される初期設定処理（図240のステップS4102参照）によって生成される。ここで生成される格納画像判別フラグ633jは、全てのスプライトに対する格納状態が、画像格納エリア636aに格納されていないことを示す「オフ」に設定される。

【2750】

そして、格納画像判別フラグ633jの更新処理は、MPU631により実行される通常画像転送設定処理（図253参照）の中で、一のスプライトに対応する転送対象画像データの転送指示を設定した場合に行われる。この更新処理では、転送指示が設定された一のスプライトに対応する格納状態を、対応する画像データが画像格納エリア636aに格納されていることを示す「オン」に設定する。また、その一のスプライトと同じ画像格納

10

【2751】

また、MPU631は、常駐用ビデオRAM635に画像データが常駐されていないスプライトの画像データをキャラクタROM634から通常用ビデオRAM636へ転送する際に、格納画像判別フラグ633jを参照し、転送対象のスプライトの画像データが、既に通常用ビデオRAM636の画像格納エリア636aに格納されているか否かを判断する（図253のステップS6215参照）。そして、転送対象のスプライトに対応する格納状態が「オフ」であり、対応する画像データが画像格納エリア636aに格納されていなければ、その画像データの転送指示を設定し（図253のステップS3216参照）、画像コントローラ637に対して、その画像データをキャラクタROM634から画像格納エリア636aの所定サブエリアに転送させる。一方、転送対象のスプライトに対応する格納状態が「オン」であれば、既に対応する画像データが画像格納エリア636aに格納されているので、その画像データの転送処理を中止する。これにより、無駄にキャラクタROM634から通常用ビデオRAM636に対して転送されるのを抑制することができ、表示制御装置6の各部における処理負担の軽減や、バスライン640におけるトラフィックの軽減を図ることができる。

20

【2752】

描画対象バッファフラグ633kは、2つのフレームバッファ（第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636c）の中から、画像コントローラ637によって描画された画像を展開するフレームバッファ（以下、「描画対象バッファ」と称する）を指定するためのフラグで、描画対象バッファフラグ633kが0である場合は描画対象バッファとして第1フレームバッファ636bを指定し、1である場合は第2フレームバッファ636cを指定する。そして、この指定された描画対象バッファの情報は、更新情報である描画リストと共に画像コントローラ637に送信される（図254のステップS6302参照）。

30

【2753】

これにより、画像コントローラ637は、描画リストに基づいて描画した画像を、指定された描画対象バッファ上に展開する描画処理を実行する。また、画像コントローラ637は、描画処理と同時並行的に、描画対象バッファとは異なるフレームバッファから先に展開済みの描画画像情報を読み出し、駆動信号と共に図柄表示部341に対して、その画像情報を転送することで、図柄表示部341に画像を表示させる表示処理を実行する。

40

【2754】

描画対象バッファフラグ633kは、描画対象バッファ情報が描画リストと共に画像コントローラ637に対して送信されるのに合わせて、更新される。この更新は、描画対象バッファフラグ633kの値を反転させることにより、即ち、その値が「0」であった場合は「1」に、「1」であった場合は「0」に設定することによって行われる。これにより、描画対象バッファは、描画リストが送信される度に、第1フレームバッファ636bと第2フレームバッファ636cとの間で交互に設定される。また、描画リストの送信は

50

、1フレーム分の画像の描画処理及び表示処理が完了する20ミリ秒毎に画像コントローラ637から送信されるV割込信号に基づいて、MPU631により実行されるV割込処理（図241参照）の描画処理が実行される度に行われる（図254のステップS6302参照）。

【2755】

即ち、あるタイミングで、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定され、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定されて、画像の描画処理及び表示処理が実行されると、1フレーム分の画像の描画処理が完了する20ミリ秒後に、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定され、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定される。これにより、先に第1フレームバッファ636bに展開された画像の画像情報が読み出されて図柄表示部341に表示させることができると同時に、第2フレームバッファ636cに新たな画像が展開される。

10

【2756】

そして、更に次の20ミリ秒後には、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定され、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定される。これにより、先に第2フレームバッファ636cに展開された画像の画像情報が読み出されて図柄表示部341に表示させることができると同時に、第1フレームバッファ636bに新たな画像が展開される。以後、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファと、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとを、20ミリ秒毎に、それぞれ第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636cのいずれかを交互に入れ替えて指定することによって、1フレーム分の画像の描画処理を行いながら、1フレーム分の画像の表示処理を20ミリ秒単位で連続的に行わせることができる。

20

【2757】

〔普図当たり当否テーブル〕

ここで、図203（A）及び図203（B）は、普図当たり当否テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり当否テーブルとして、図203（A）に示す通常遊技状態普図当たり当否テーブルと、図203（B）に示す時短遊技状態普図当たり当否テーブルとの2種類が設定されている。即ち、本実施形態では、後述のように、遊技中状態が通常遊技状態である場合と、遊技中状態が時短遊技状態である場合とで、普図当たり確率が異なり、時短遊技状態のほうが通常遊技状態よりも普図当たり確率が高く設定されている。

30

【2758】

図203（A）に示す通常遊技状態普図当たり当否テーブルは、遊技中状態としての通常遊技状態（低頻度サポートモード、低確率モード）において、スルーゲート317に遊技球が通過することで特典付与条件が成立した場合に、特典付与として実行される普図当たり抽選で使用するテーブルである。図203（A）に示すように、通常遊技状態普図当たり当否テーブルでは、更新情報である普図当たり乱数カウンタC4の値が0の場合に普図当たり、普図当たり乱数カウンタC4の値が1～299の場合に外れに設定されている。つまり、通常遊技状態（低頻度サポートモード）では、普図当たり確率が1／300に設定されており、電動役物315bの作動頻度・作動確率が低くされている。

40

【2759】

図203（B）に示す時短遊技状態普図当たり当否テーブルは、遊技中状態としての時短遊技状態（a時短遊技状態、b時短遊技状態）において、スルーゲート317に遊技球が通過することで特典付与条件が成立した場合に、特典付与として実行される普図当たり抽選で使用するテーブルである。図203（B）に示すように、時短遊技状態普図当たり当否テーブルでは、通常遊技状態普図当たり当否テーブルとは逆に、更新情報である普図当たり乱数カウンタC4の値が0の場合に外れ、普図当たり乱数カウンタC4の値が1

50

～299の場合に普図当りに設定されている。つまり、時短遊技状態では、普図当たり確率が299／300に設定され、通常遊技状態よりも普図当たり確率が高く設定されていると共に、電動役物315bの作動頻度・作動確率が高くされている。

【2760】

更新情報である普通当たり乱数カウンタC4は、図17の主タイマ割込処理のステップS1003の更新処理が実行されることで、例えば0～299の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。そして、普図保留格納エリア412cの普図第1保留エリアSE1～普図第4保留エリアSE4には、スルージェット317に遊技球が入賞したタイミングでの普通当たり乱数カウンタC4の値が格納される。

10

【2761】

なお、通常遊技状態での普図当たり確率、及び時短遊技状態での普図当たり確率は、図203(A)及び図203(B)に示される例には限定されず適宜変更可能である。

【2762】

〔普図当たり種別振分テーブル〕

ここで、図203(C)及び図203(D)は、普図当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり種別振分テーブルとして、図203(C)に示す通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルと、図203(D)に示す時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルとの2種類が設定されている。即ち、本実施形態では、後述のように、遊技中状態が通常遊技状態である場合と、遊技中状態が時短遊技状態である場合とで、普図当たり種別（短開放普図当たり及び長開放普図当たり）の振り分け確率が異なる。

20

【2763】

ここで、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることで特典付与条件が成立した場合に、特典付与として実行される普図当たり遊技が短開放普図当たりの場合、電動役物315bが短時間（例えば0.1秒）作動されることで始動入球領域である第2入賞口315の最大開放時間が短時間（例えば0.1秒）に設定される。この短開放普図当たり遊技は、電動役物315bの作動時間が短く第2入賞口315の開放時間が短いために、第2入賞口315に遊技球が入球し難く、多くの場合、第2入賞口315に遊技球が入球しない。

30

【2764】

一方、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることで特典付与条件が成立した場合に、特典付与として実行される普図当たり遊技が長開放普図当たりの場合、電動役物315bが長時間（例えば6秒）作動されることで始動入球領域である第2入賞口315の最大開放時間が長時間（例えば6秒）に設定される。この長開放普図当たり遊技は、電動役物315bの作動時間が長く第2入賞口315の開放時間が長いために、第2入賞口315に遊技球が入球し易く、第2特図遊技を実行する権利を上限数（例えば4個）まで保留することが可能である。

【2765】

図203(C)に示す通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、遊技中状態としての通常遊技状態において、普図当たり種別を振り分けるために使用されるテーブルである。図203(C)に示すように、通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルでは、更新情報である普図当たり種別乱数カウンタC5の値が0～199の場合に短開放普図当たりとなり、長開放普図当たりの振分がない。つまり、通常遊技状態では、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることで特典付与条件が成立した場合に、特典付与として実行される短開放普図当たり遊技が実行される。そのため、通常遊技状態は、第2入賞口315に遊技球が入球し難い遊技中状態として設定される。

40

【2766】

図203(D)に示す時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、遊技中状態としての時短遊技状態（a時短遊技状態、b時短遊技状態）において、普図当たり種別を振り分

50

けるために使用されるテーブルである。図 203 (D) に示すように、時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルでは、更新情報である普図当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が 0 ~ 199 の場合に長開放普図当たりとなり、短開放普図当たりの振分がない。つまり、時短遊技状態では、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることで特典付与条件が成立した場合に、特典付与として実行される長開放普図当たり遊技が実行される。そのため、時短遊技状態は、第 2 入賞口 315 に遊技球が入球し易い遊技中状態として設定される。

【2767】

更新情報である普通当たり種別乱数カウンタ C 5 は、図 17 の主タイマ割込処理のステップ S1003 の更新処理が実行されることで、例えば 0 ~ 199 の範囲内で順に 1 ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に 0 に戻される。そして、普図保留格納エリア 412 c の普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 には、スルーゲート 317 に遊技球が入賞したタイミングでの普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が格納される。また、普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 に格納された普通当たり乱数カウンタ C 4 の値が普図当たりである場合に、普図第 1 保留エリア S E 1 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 に格納された普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値によって、普図当たりの種別（短開放普図当たり及び長開放普図当たり）、即ち電動役物 315 b の作動時間（第 2 入賞口 315 の最大開放時間）が設定される。

【2768】

もちろん、通常遊技状態及び時短遊技状態（a 時短遊技状態、b 時短遊技状態）での短開放普図当たりと長開放普図当たりとの振分率は、必ずしも前述の例には限定されず、適宜変更可能であり、例えば通常遊技状態において一定割合で長開放普図当たり遊技を発生可能にしてもよく、時短遊技状態において一定割合で短開放普図当たり遊技を発生可能にしてもよい。

【2769】

また、電動役物 315 b の開放は、1 回の普図当たり遊技につき 1 回には限定されず、複数回であってもよい。この場合、1 回の普図当たり遊技での電動役物 315 b の各開放の開放時間や開放間隔（開放間インターバル）は、1 種類であっても複数種であってもよい。

【2770】

〔大当たり当否テーブル〕

次に、図 204 (A) ~ 図 204 (C) を参照し、特図大当たり抽選で使用される大当たり当否テーブルについて説明する。ここで、図 204 (A) は特 1 大当たり当否テーブルの一例を示す図であり、図 204 (B) は b 時短特 2 大当たり当否テーブルの一例を示す図であり、図 204 (C) は a 時短特 2 大当たり当否テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、大当たり当否テーブルとして、図 204 (A) に示す第 1 入賞口 314 への遊技球の入球を契機として実行される特図大当たり抽選で使用される特 1 大当たり当否テーブルと、図 204 (B) に示す b 時短遊技状態での第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として実行される特図大当たり抽選で使用される特 2 大当たり当否テーブルと、図 204 (C) に示す a 時短遊技状態での第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として実行される特図大当たり抽選で使用される特 2 大当たり当否テーブルとが設定されている。

【2771】

図 204 (A) に示すように、特 1 大当たり当否テーブルでは、更新状態である 0 ~ 65535 の 65536 個の大当たり乱数カウンタ C 1 の値（乱数値）のうち、0 ~ 205 の 206 個の乱数値が小当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、小当たり確率が約 $1 / 318.1$ ($206 / 65536$) に設定されている。即ち、第 1 入賞口 314 への遊技球の入球を契機としては、小当たり遊技が発生し難い。

【2772】

ここで、遊技中状態としての通常遊技状態では、右打ちでの第 2 入賞口 315 への遊技球の入球が困難であるため、第 1 入賞口 314 に遊技球を入球させるために左打ちが奨励

される。そのため、特1大当たり当否テーブルは、主として、右打ちでの第2入賞口315への遊技球の入球が困難で、第1入賞口314に遊技球を入球させるために左打ちが奨励される遊技中状態としての通常遊技状態において使用される。その結果、通常遊技状態では、遊技者により発射ハンドル22に対する所定の遊技操作によって奨励される左打ちが実行される場合、主として特1大当たり当否テーブルを使用した特図大当たり抽選が行われることで小当たり遊技が発生し難い結果、小当たり遊技での羽役物装置83のV入賞口833への遊技球99の入球に基づく大当たり遊技も発生し難い。

【2773】

図204(B)に示すように、b時短特2大当たり当否テーブルでは、更新状態である0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)のうち、0～205の206個の乱数値が小当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、小当たり確率が約 $1/318.1$ ($206/65536$)に設定されている。即ち、b時短特2大当たり当否テーブルでの小当たり確率は、特1大当たり当否テーブルと同一に設定されており、b時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球を契機としては、小当たり遊技が発生し難い。つまり、遊技中状態としてのb時短遊技状態では、当該b時短遊技状態での第1入賞口314への遊技球の入球を契機する特図大当たり抽選と、当該b時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球を契機する特図大当たり抽選とで、小当たり確率が同一に設定されている。そのため、b時短遊技状態では、第1入賞口314及び第2入賞口315のいずれの入賞口への遊技球の入球を契機する特図大当たり抽選であっても、小当たり遊技が発生し難い結果、大当たり遊技が発生し難い。

【2774】

ここで、b時短遊技状態は、大当たり遊技の終了後から次に大当たり遊技が実行されるまでの遊技中状態において規定回数の特図遊技が実行された結果、特図遊技開始又は終了毎に実行される更新処理によって後述の更新情報としての天井発動残回数カウンタの値が更新終了状態(例えば0)となることで通常遊技状態から移行されるものであり、このb時短遊技状態では、第2入賞口315に遊技球を入球させるために右打ちが奨励される。そのため、b時短特2大当たり当否テーブルは、主として、遊技者により発射ハンドル22に対する所定の遊技操作によって奨励される右打ちが実行される場合に使用される。

【2775】

図204(C)に示すように、a時短特2大当たり当否テーブルでは、更新状態である0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値(乱数値)のうち、0～8483の8484個の乱数値が小当たりに対応し、その他の乱数値が外れに対応しており、小当たり確率が約 $1/7.725$ ($8484/65536$)に設定されている。即ち、a時短特2大当たり当否テーブルでの小当たり確率は、特1大当たり当否テーブル(図204(A)参照)及びb時短特2大当たり当否テーブル(図204(C)参照)よりも著しく高く設定されている。

【2776】

ここで、a時短遊技状態は、小当たり遊技において遊技者による発射ハンドル22に対する所定の遊技操作によって発射された遊技球がV入賞口833に入球することで特典付与条件が成立する場合、当該小当たり遊技の終了後に特典付与される大当たり遊技が終了した場合に移行される。そのため、大当たり遊技が終了した場合には、大当たり遊技が発生する契機となる小当たり遊技が発生し易い状態となる。

【2777】

なお、更新情報である大当たり乱数カウンタC1は、図17の主タイマ割込処理のステップS1003の更新処理が実行されることで、例えば0～65535の65536の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。そして、特図保留格納エリア412bの第1特図保留エリアRE1の第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREABには、第1入賞口314又は第2入賞口315に遊技球が入賞したタイミングでの大当たり乱数カウンタC1の値が格納される。

【2778】

〔大当たり種別振分テーブル〕

次に、図204(D)及び図204(E)を参照し、特図大当たり抽選で使用する大当たり種別テーブルについて説明する。ここで、図204(D)は特1大当たり種別振分テーブルの一例を示す図であり、図204(E)は特2大当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。

【2779】

図204(D)に示すように、特1大当たり種別振分テーブルでは、更新状態である0～19の20個の大当たり種別カウンタC2の値(乱数値)のうち、0～18の19個の乱数値が4R時短大当たりであり、19の1個の乱数値が16R時短大当たりである。即ち、本実施形態では、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行される小当たり遊技において羽役物装置83のV入賞口833への遊技球99の入球に基づいて特典付与条件が成立した場合に、特典付与として実行される大当たり遊技の種別が、特図大当たり抽選時に設定される。そして、本実施形態では、第1入賞口314への遊技球の入球による特図大当たり抽選では、5R時短大当たりの振り分けが95%であり、16R時短大当たりの振り分けが5%である。

10

【2780】

図204(E)に示すように、特2大当たり種別振分テーブルでは、更新状態である0～19の20個の大当たり種別カウンタC2の値(乱数値)のうち、0～4の5個の乱数値が4R時短大当たりであり、5～19の15個の乱数値が16R時短大当たりである。即ち、本実施形態では、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行される小当たり遊技において羽役物装置83のV入賞口833への遊技球99の入球に基づいて特典付与条件が成立した場合に、特典付与として実行される大当たり遊技の種別が、特図大当たり抽選時に設定される。そして、本実施形態では、第1入賞口314への遊技球の入球による特図大当たり抽選では、5R時短大当たりの振り分けが25%であり、16R時短大当たりの振り分けが75%である。つまり、第2入賞口315への遊技球の入球を契機とする場合、第1入賞口314への遊技球の入球を契機とする場合に比べて、16R大当たり遊技が発生し易く、第2入賞口315への遊技球の入球を契機とする場合のほうが出玉期待値が高くなる。

20

【2781】

なお、更新情報である大当たり種別カウンタC2は、図17の主タイマ割込処理のステップS1003の更新処理が実行されることで、例えば0～19の20の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。そして、特図保留格納エリア412bの第1特図保留エリアRE1の第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREABには、第1入賞口314又は第2入賞口315に遊技球が入賞したタイミングでの大当たり種別カウンタC2の値が格納される。また、大当たり乱数カウンタC1の値が小当たりである場合に、特図保留格納エリア412bの第1特図保留エリアRE1の第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREABに格納された大当たり種別カウンタC2の値によって、大当たりの種別(4R大当たり及び16R大当たり)、即ち大当たり遊技が実行される場合のラウンド遊技数が設定される。

30

40

【2782】

ここで、遊技中状態としての通常遊技状態には、a時短遊技状態において第2入賞口315に所定個数(5個又は9個)の遊技球が入球した場合にa時短遊技状態から移行する。つまり、通常遊技状態における特図大当たり抽選の結果が小当たりとなることに基づいて小当たり遊技が実行され、当該小当たり遊技において羽役物装置83のV入賞口833に遊技球99が入球したことに基づいて大当たり遊技が開始される場合、当該大当たり遊技は、いわゆる初当たりとなる。そして、本実施形態では、初当たりの大当たり遊技が終了した場合のa時短遊技状態での時短遊技回数は1回に設定され、また第2入賞口315

50

への遊技球の入球に基づく第2特図遊技を実行する権利の保留数は最大で4個である。そのため、a時短遊技状態に開始された第2入賞口315の開放を契機として実行可能な特図大当たり抽選（第2特図遊技）の回数は、最大で5回と（時短1回＋残保留4回）なる。その結果、通常遊技状態からの初当たりにおいて、a時短遊技状態での時短遊技回数は1回に設定されているため、大当たり遊技が連続して発生し易いRUSHに突入する確率は50%である。一方、a時短遊技状態又はb時短遊技状態において第2入賞口315に遊技球が入球したことに基づいて発生した大当たり遊技が終了した場合のa時短遊技状態での時短遊技回数は5回に設定されている。そのため、a時短遊技状態又はb時短遊技状態に開始された第2入賞口315の開放を契機として実行可能な特図大当たり抽選（第2特図遊技）の回数は、最大で9回（時短5回＋残保留4回）となる。その結果、b時短遊技状態からの初当たりに対するRUSH突入率は100%であり、天井発動によるb時短遊技状態は利益遊技状態である。また、大当たり遊技の終了後に移行するa時短遊技状態におけるRUSH継続率は71.3%である。

10

【2783】

[変動テーブル]

次に、図205（A）及び図205（B）を参照し、特図遊技（第1特図遊技、第2特図遊技）での所定の図柄である特図（第1特図、第2特図）及び飾り図柄の変動パターン（変動表示時間）を設定するための変動テーブルについて説明する。ここで、図205（A）は外れ変動テーブルの一例を示す図であり、図205（B）は当たり変動テーブルの一例を示す図である。

20

【2784】

図205（A）に示すように、外れ変動テーブルは、特図大当たり抽選の結果が外れである場合に、特図（第1特図、第2特図）及び飾り図柄の変動表示時間を設定するために使用される。この外れ変動テーブルとしては、外れ種別に応じて2種類のテーブルが規定されている。具体的には、外れ種別が飾り図柄のリーチを伴うものである場合（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ）と、外れ種別が飾り図柄のリーチを伴わない場合（完全外れ）との2種類が設定されている。

【2785】

外れ種別が飾り図柄のリーチを伴うものである場合（前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ）、更新状態である0～199の200個の特図変動種別カウンタCS1の値（乱数値）のうち、0～99の100個の乱数値の変動表示時間が30秒（特図変動パターン「01」）であり、100～149の50個の乱数値の変動表示時間が60秒（特図変動パターン「02」）であり、150～199の100個の乱数値の変動表示時間が90秒（特図変動パターン「03」）である。

30

【2786】

一方、外れ種別が飾り図柄のリーチを伴わない場合（完全外れ）、更新状態である0～199の200個の特図変動種別カウンタCS1の値（乱数値）のうち、0～149の150個の乱数値の変動表示時間が7秒（特図変動パターン「04」）であり、150～199の50個の乱数値の変動表示時間が10秒（特図変動パターン「05」）である。

【2787】

40

なお、更新情報である特図変動種別カウンタCS1は、図17の主タイマ割込処理のステップS1003及び図209のステップS1414での更新処理が実行されることで、例えば0～199の200の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。そして、特図保留格納エリア412bの第1特図保留エリアRE1の第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREABには、第1入賞口314又は第2入賞口315に遊技球が入賞したタイミングでの特図変動種別カウンタCS1の値が格納される。

【2788】

ここで、本実施形態では、外れ変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS1の値に

50

応じて特図変動パターン「01」～「05」のいずれかが選択される。そして、特図変動パターン「01」が選択された場合（前後外れリーチ又は前後外れ以外リーチが選択された場合）、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が30sであるノーマルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてノーマルリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。ノーマルリーチ演出パターンは、高速変動演出（高速変動表示）の後にノーマルリーチ演出が実行される演出パターンであり、特図遊技演出における最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出となる演出パターンである（図205（C）参照）。また、特図変動パターン「02」が選択された場合（前後外れリーチ又は前後外れ以外リーチが選択された場合）、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が60sであるスーパーリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてスーパーリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。スーパーリーチ演出パターンは、高速変動演出（高速変動表示）の後にノーマルリーチ演出、次いでスーパーリーチ演出パターンが実行される演出パターンであり、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスーパーリーチ演出となる演出パターンである（図205（D）参照）。さらに、特図変動パターン「03」が選択された場合（前後外れリーチ又は前後外れ以外リーチが選択された場合）、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン）として変動表示時間が最も長い90sであるスペシャルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてスペシャルリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。スペシャルリーチ演出パターンは、高速変動演出（高速変動表示）の後にノーマルリーチ演出、次いでスーパーリーチ演出パターン、さらにスペシャルリーチ演出が実行される演出パターンであり、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスペシャルリーチ演出となる演出パターンである（図205（E）参照）。また、特図変動パターン「04」が選択された場合（完全外れが選択された場合）、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン）として変動表示時間が最も短い7sである非リーチ演出パターンが決定され、特図変動パターン「05」が選択された場合（完全外れが選択された場合）、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン）として変動表示時間が10sである非リーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいて非リーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。非リーチ演出パターンは、リーチ演出が実行されることなく高速変動演出（高速変動表示）が実行される演出パターンである（図205（F）参照）。

10

20

30

【2789】

図205（B）に示すように、当たり変動テーブルでは、特図大当たり抽選の結果が小当たりである場合に、特図（第1特図、第2特図）及び飾り図柄の変動表示時間を設定するために使用される。この当たり変動テーブルでは、更新状態である0～199の200個の特図変動種別カウンタCS1の値（乱数値）のうち、0～19の20個の乱数値の変動表示時間が30秒（特図変動パターン「01」）であり、20～119の100個の乱数値の変動表示時間が60秒（特図変動パターン「02」）であり、120～199の70個の乱数値の変動表示時間が90秒（特図変動パターン「03」）である。

【2790】

なお、更新情報である特図変動種別カウンタCS1は、図17の主タイマ割込処理のステップS1003及び図209のステップS1414での更新処理が実行されることで、例えば0～199の200の範囲内で順に1ずつ加算されることで定期的に更新され、最大値に達した後に0に戻される。そして、特図保留格納エリア412bの第1特図保留エリアRE1の第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREABには、第1入賞口314又は第2入賞口315に遊技球が入賞したタイミングでの特図変動種別カウンタCS1の値が格納される。

40

【2791】

ここで、本実施形態では、当たり変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS1の値に応じて特図変動パターン「01」～「03」のいずれかが選択される。そして、特図変

50

動パターン「01」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が30sであるノーマルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてノーマルリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。ノーマルリーチ演出パターンは、高速変動演出（高速変動表示）の後にノーマルリーチ演出が実行される演出パターンであり、特図遊技演出における最終の個別演出種別がノーマルリーチ演出となる演出パターンである。また、特図変動パターン「02」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン種別）として変動表示時間が60sであるスーパーリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてスーパーリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。スーパーリーチ演出パターンは、高速変動演出（高速変動表示）の後にノーマルリーチ演出、次いでスーパーリーチ演出パターンが実行される演出パターンであり、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスーパーリーチ演出となる演出パターンである。さらに、特図変動パターン「03」が選択された場合、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン）として変動表示時間が最も長い90sであるスペシャルリーチ演出パターンが決定され、図柄表示部341などにおいてスペシャルリーチ演出パターンに従って特別遊技演出が実行される。スペシャルリーチ演出パターンは、高速変動演出（高速変動表示）の後にノーマルリーチ演出、次いでスーパーリーチ演出パターン、さらにスペシャルリーチ演出が実行される演出パターンであり、特図遊技演出における最終の個別演出種別がスペシャルリーチ演出となる演出パターンである。

10

20

【2792】

このように、特図大当たり抽選の結果が小当たりである場合には、特図変動パターンとして「01」～「03」のいずれかが選択されることで、図柄表示部341では、音声ランプ制御装置5では変動種別（演出パターン）としてリーチ演出パターン（ノーマルリーチ演出パターン、スーパーリーチ演出パターン、又はスペシャルリーチ演出パターン）が決定される。

【2793】

また、本実施形態の当たり変動テーブルでは、外れ変動テーブルとは異なり、リーチ演出パターン（ノーマルリーチ演出パターン、スーパーリーチ演出パターン、又はスペシャルリーチ演出パターン）として、前述の特別演出である再抽選演出（再抽選表示）が実行されるリーチ演出パターンを含む。

30

【2794】

ここで、図206（A）は再抽選演出（再抽選表示）が実行される演出パターンの一例を説明するための図である。図206（A）に示す演出パターンは、スペシャルリーチ演出パターンにおいて、スペシャルリーチ演出の実行後に、再抽選演出（再抽選表示）として復活演出（復活表示）及び昇格演出（昇格表示）が実行される場合の例である。

【2795】

なお、図面は省略するが、スペシャルリーチ演出パターンとして、スペシャルリーチ演出の実行後に再抽選演出（再抽選表示）として復活演出（復活表示）のみが実行される演出パターンや、スペシャルリーチ演出の実行後に再抽選演出（再抽選表示）として昇格演出（昇格表示）のみが実行される演出パターンを含んでいてもよい。

40

【2796】

また、再抽選演出（再抽選表示）が実行されるノーマル演出パターンでは、ノーマル演出の実行後に、再抽選演出（再抽選表示）として復活演出（復活表示）及び昇格演出（昇格表示）の少なくとも一方が実行される。また、再抽選演出（再抽選表示）が実行されるスペシャル演出パターンでは、スペシャル演出の実行後に、再抽選演出（再抽選表示）として復活演出（復活表示）及び昇格演出（昇格表示）の少なくとも一方が実行される。

【2797】

なお、本実施形態の当たり変動テーブルは、外れ変動テーブルとは異なり、非リーチ演出パターンを含まないが、当たり変動テーブルに非リーチ演出パターンを含ませる場合、非リーチ演出パターンとして、再抽選演出（再抽選表示）が実行される演出パターンを設

50

定してもよい。

【2798】

次に、図206(B)、図206(C)及び図207を参照し、再抽選演出（再抽選表示）について説明する。ここで、図206(B)、図206(C)及び図207は再抽選演出（再抽選表示）を説明するための図である。

【2799】

図206(B)に示すように、遊技中状態である特図遊技における特別演出である復活演出（復活表示）は、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に、所定の図柄としての飾り図柄が外れに対応する組み合わせで報知表示により停止表示されてから、飾り図柄が小当たりに対応する組み合わせで報知表示により停止表示される演出（表示）である。具体的には、復活演出（復活表示）は、飾り図柄が報知表示としてゾロ目以外で停止表示されてから、例えば一定期間はゾロ目以外で飾り図柄が完全に停止することなく揺動（振動）した後、飾り図柄が報知表示としてゾロ目以外からゾロ目に変更して確定表示される演出（表示）である。

【2800】

図206(C)に示すように、遊技中状態である特図遊技における特別演出である昇格演出（昇格表示）は、例えば小当たり遊技でのV入賞口833への遊技球の入球により4R時短大当たり遊技を発生させる小当たりであることを報知する報知表示により飾り図柄が停止表示されてから、小当たり遊技でのV入賞口833への遊技球の入球により16R時短大当たり遊技を発生させる小当たりであることを報知する飾り図柄が報知表示により確定表示される演出である。具体的には、昇格演出（昇格表示）は、報知表示として飾り図柄が「777」以外のゾロ目で停止表示されてから、報知表示として「777」以外のゾロ目（図207(A)参照）と、報知表示として「777」のゾロ目（図207(B)参照）とが交互に切り替え表示された後、報知表示として「777」のゾロ目が確定表示される演出（表示）である（図207(C)参照）。なお、昇格演出（昇格表示）が実行されない場合には、報知表示として「777」以外のゾロ目（図207(A)参照）と、報知表示として「777」のゾロ目（図207(B)参照）とが交互に切り替え表示された後、報知表示として「777」以外のゾロ目が確定表示される（図207(D)参照）。

【2801】

このような遊技中状態である特図遊技における復活演出（復活表示）や昇格演出（昇格表示）は、前述のように1回の特図遊技に対して設定される特定の変動種別（演出パターン）に組み込まれた演出である。つまり、遊技中状態である特図遊技における復活演出（復活表示）や昇格演出（昇格表示）は、飾り図柄の変動表示時間や特図大当たり抽選の結果に応じて複数設定される変動種別（演出パターン）から、特図大当たり抽選の結果が小当たりである場合に復活演出（復活表示）や昇格演出（昇格表示）が実行される特定の変動種別（演出パターン）が設定された場合に、当該特図遊技演出の一部（飾り図柄の変動表示の一部）として実行される。そのため、復活演出（復活表示）や昇格演出（昇格表示）は、当該特図遊技に対して設定された特定の変動種別（演出パターン）に基づいて、更新情報である描画リストの更新処理を当該変動種別（演出パターン）に応じて規定される回数だけ繰り返すことで実行される。換言すれば、遊技中状態である特図遊技において、更新情報として最後の描画リストの更新処理が実行された更新終了状態の所定期間前までの更新処理において復活前又は昇格前の報知表示として飾り図柄が停止表示され、その後の期間を利用した更新処理により更新情報である描画リストを最後まで更新することで、報知表示として飾り図柄を確定表示させることができる。これにより、大当たりを報知する1回の特図遊技の遊技中状態において、図柄表示部341での飾り図柄の復活演出（復活表示）や昇格演出（昇格表示）を特別演出として円滑かつ確実に実行することが可能になる。

【2802】

【始動入賞処理】

次に、図 208 を参照して、図 17 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1004 で MPU 41 により実行される始動入賞処理を説明する。ここで、図 208 は、始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【2803】

<ステップ S 1101>

図 208 に示すように、本実施形態の始動入賞処理では、まず MPU 41 は、第 1 入賞口 314 に対する入賞があったか否かを判断する（ステップ S 1101）。ここで、MPU 41 は、第 1 入賞口 314 に対する入賞があったと判断すると（ステップ S 1101：Yes）、処理をステップ S 1102 に移行し、第 1 入賞口 314 に対する入賞がなかったと判断すると（ステップ S 1101：No）、処理をステップ S 1110 に移行する。

10

【2804】

<ステップ S 1102 及び S 1103>

ステップ S 1102 では、MPU 41 は、RAM 412 の第 1 特図保留数記憶エリア NAA に記憶されている第 1 特図保留球数 N が最大保留球数（本実施形態では 4）であるか否かを判断する。ここで、MPU 41 は、第 1 特図保留球数 N が最大保留球数であれば（ステップ S 1102：Yes）、処理をステップ S 1110 に移行する。一方、MPU 41 は、第 1 特図保留球数 N が最大保留球数でなければ（ステップ S 1103：No）、第 1 特図保留球数 N に 1 を加算する処理を実行する（ステップ S 1103）。

【2805】

<ステップ S 1104>

ステップ S 1104 では、MPU 41 は、後述の図 216 の特図変動開始処理でのステップ S 2102 において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて更新情報としての保留球数コマンドを RAM 412 に設定する。この保留球数コマンドは、図 209 のメイン処理でのステップ S 1401 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、保留球数コマンドを受信した場合、図柄表示部 341 に表示される特図データに関する画像（特図データ画像）の更新処理を実行する（図 53 参照）。

20

【2806】

<ステップ S 1105>

ステップ S 1105 では、MPU 41 は、図 17 の主タイマ割込処理でのステップ S 1003 での更新処理により更新される更新情報としての大当たり乱数カウンタ C1、大当たり種別カウンタ C2 及びリーチ乱数カウンタ C3 と、図 209 のメイン処理でのステップ S 1402 及び S 1414 での更新処理により更新される更新情報としての特図変動種別カウンタ CS1 とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値を RAM 412 における特図保留格納エリア 412b の第 1 特図保留格納エリア REA の第 1 保留エリア REA1～第 4 保留エリア REA4 のうち最初の空き保留エリアに格納する。このとき、第 1 特図保留格納エリア REA の第 1 保留エリア REA1～第 4 保留エリア REA4 のうち最初の空き保留エリアには、第 1 入賞口 314 に対する入賞時の遊技状態（通常遊技状態、a 時短遊技状態、b 時短遊技状態）が格納される。

30

【2807】

<ステップ S 1106 及び S 1107>

ステップ S 1106 では、MPU 41 は、第 1 特図保留格納エリア REA の第 1 保留エリア REA1～第 4 保留エリア REA4 のうちの最初の空き保留エリアに格納された各種カウンタ値に基づき、特 1 大当たり当否テーブル（図 204（A）参照）を使用して当否判定を行い、当否判定の結果が小当たりであるか否かを判断する（ステップ S 1107）。MPU 41 は、当否判定の結果が小当たりである場合（ステップ S 1106：Yes）、処理をステップ S 1108 に移行し、当否判定の結果が小当たりでなく外れである場合（ステップ S 1106：No）、処理をステップ S 1109 に移行する。

40

【2808】

<ステップ S 1108>

50

否判定の結果が小当たりである場合（ステップ S 1 1 0 6 : Y e s）、M P U 4 1 は、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 のうちの最初の空き保留エリアに格納された大当たり種別及び変動パターンを特定可能な第 1 特図保留コマンドを R A M 4 1 2 に設定する。この第 1 特図保留コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、第 1 特図保留コマンドを受信した場合、R A M 5 1 2 の特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納される更新情報である特図データの更新処理を実行する。

【 2 8 0 9 】

<ステップ S 1 1 0 9>

当否判定の結果が小当たりでなく外れである場合（ステップ S 1 1 0 6 : N o）、M P U 4 1 は、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 のうちの最初の空き保留エリアに格納された外れ種別及び変動パターンを特定可能な第 1 特図保留コマンドを R A M 4 1 2 に設定する。この第 1 特図保留コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、第 1 特図保留コマンドを受信した場合、R A M 5 1 2 の特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納される更新情報である特図データの更新処理を実行する。

【 2 8 1 0 】

<ステップ S 1 1 1 0>

ステップ S 1 1 1 0 では、M P U 4 1 は、第 2 入賞口 3 1 5 に対する入賞があったか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、第 2 入賞口 3 1 5 に対する入賞があったと判断すると（ステップ S 1 1 1 0 : Y e s）、処理をステップ S 1 1 1 1 に移行し、第 2 入賞口 3 1 5 に対する入賞がなかったと判断すると（ステップ S 1 1 1 0 : N o）、当該始動入賞処理を終了する。

【 2 8 1 1 】

<ステップ S 1 1 1 1 及び S 1 1 1 2>

ステップ S 1 1 1 1 では、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の第 2 特図保留数記憶エリア N A B に記憶されている第 2 特図保留球数 M が最大保留球数（本実施形態では 4）であるか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、第 2 特図保留球数 M が最大保留球数であれば（ステップ S 1 1 1 1 : Y e s）、当該始動入賞処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、第 2 特図保留球数 M が最大保留球数でなければ（ステップ S 1 1 1 1 : N o）、更新処理として、第 2 特図保留球数 M に 1 を加算する処理を実行する（ステップ S 1 1 1 2）。

【 2 8 1 2 】

<ステップ S 1 1 1 3>

ステップ S 1 1 1 3 では、M P U 4 1 は、後述の図 2 1 6 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 0 2 において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて更新情報としての保留球数コマンドを R A M 4 1 2 に設定する。この保留球数コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、保留球数コマンドを受信した場合、図柄表示部 3 4 1 に表示される特図データに関する画像（特図データ画像）の更新処理を実行する（図 5 3 参照）。

【 2 8 1 3 】

<ステップ S 1 1 1 4>

ステップ S 1 1 0 4 では、M P U 4 1 は、図 1 7 の主タイマ割込処理でのステップ S 1 0 0 3 での更新処理により更新される更新情報としての大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 と、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 2 及び S 1 4 1 4 での更新処理により更新される更新情報としての特図変動種別カウンタ C S 1 とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値を R A M 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第

10

20

30

40

50

4 保留エリア R E B 4 のうち最初の空き保留エリアに格納する。このとき、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のうち最初の空き保留エリアには、第 2 入賞口 3 1 5 に対する入賞時の遊技状態（通常遊技状態、a 時短遊技状態、b 時短遊技状態）が格納される。

【2 8 1 4】

<ステップ S 1 1 1 5 ~ S 1 1 1 7>

ステップ S 1 1 1 5 では、M P U 4 1 は、利益遊技状態である a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。a 時短遊技状態フラグは、利益遊技状態である大当たり遊技状態から移行される場合に図 2 3 0 の遊技状態移行処理のステップ S 3 6 3 8 においてオンに設定され、通常遊技状態に移行される場合などに図 2 3 1 の遊技状態移行処理のステップ S 3 6 5 1 においてオフに設定される。

10

【2 8 1 5】

M P U 4 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップ S 1 1 1 5 : Y e s）、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のうちの最初の空き保留エリアに格納された各種カウンタ値に基づき、a 時短特 2 大当たり当否テーブル（図 2 0 4（B）参照）を使用して当否判定を行い（ステップ S 1 1 1 6）、処理をステップ S 1 1 1 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップ S 1 1 1 5 : Y e s）、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のうちの最初の空き保留エリアに格納された各種カウンタ値に基づき、b 時短特 2 大当たり当否テーブル（図 2 0 4（C）参照）を使用して当否判定を行い（ステップ S 1 1 1 7）、処理をステップ S 1 1 1 8 に移行する。

20

【2 8 1 6】

<ステップ S 1 1 1 8>

ステップ S 1 1 1 8 では、M P U 4 1 は、当否判定の結果が小当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、当否判定の結果が小当たりである場合（ステップ S 1 1 1 8 : Y e s）、処理をステップ S 1 1 1 9 に移行し、当否判定の結果が小当たりでなく外れである場合（ステップ S 1 1 1 8 : N o）、処理をステップ S 1 1 2 0 に移行する。

【2 8 1 7】

<ステップ S 1 1 1 9>

否判定の結果が小当たりである場合（ステップ S 1 1 1 8 : Y e s）、M P U 4 1 は、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のうちの最初の空き保留エリアに格納された大当たり種別及び変動パターンを特定可能な第 2 特図保留コマンドを R A M 4 1 2 に設定する。この第 2 特図保留コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、第 2 特図保留コマンドを受信した場合、R A M 5 1 2 の特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納される更新情報である特図データの更新処理を実行する。

30

【2 8 1 8】

<ステップ S 1 1 2 0>

当否判定の結果が小当たりでなく外れである場合（ステップ S 1 1 1 8 : N o）、M P U 4 1 は、第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のうちの最初の空き保留エリアに格納された外れ種別及び変動パターンを特定可能な第 2 特図保留コマンドを R A M 4 1 2 に設定する。この第 2 特図保留コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、第 2 特図保留コマンドを受信した場合、R A M 5 1 2 の特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納される更新情報である特図データの更新処理を実行する。

40

【2 8 1 9】

[メイン処理]

50

次に、図 209～図 231 を参照し、本実施形態の主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行されるメイン処理を説明する。本実施形態のメイン処理は、特図遊技回数管理処理（図 209 のステップ S 1 4 0 6 - 1 ）及び小当たり遊技制御処理（図 209 のステップ S 1 4 0 6 - 2 ）が実行される点で、前述の第 1 の実施形態のメイン処理とは異なり、他の処理の一部も前述の第 1 の実施形態のメイン処理とは異なる。以下、本実施形態のメイン処理について、第 1 の実施形態のメイン処理との相違点を中心に説明する。

【 2 8 2 0 】

〔普図遊技制御処理〕

ここで、図 210 は、図 209 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 4 において実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図遊技制御処理では、

10

【 2 8 2 1 】

<ステップ S 1 5 0 1 >

図 210 に示すように、普図遊技制御処理では、まず M P U 4 1 は、普通図柄が変動表示中（普図遊技の実行中）の遊技中状態であることを示す普図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 1 ）。普図変動表示中フラグは、後述の図 212 の普図変動開始処理において、普通図柄の変動表示（普図遊技）が開始される場合にステップ S 1 7 1 1 でオンに設定され、普通図柄が停止表示（普図遊技が終了）される場合に当該普図遊技制御処理におけるステップ S 1 5 1 1 でオフに設定される。

20

【 2 8 2 2 】

M P U 4 1 は、普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1 : Y e s ）、即ち普図遊技の実行中である場合、処理をステップ S 1 5 0 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 1 : N o ）、即ち普図遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 2 に移行する。

【 2 8 2 3 】

<ステップ S 1 5 0 2 >

普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 1 : N o ）、即ち普図遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b が開放中（普図当たり遊技の実行中）の遊技中状態であることを示す電動役物開放中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 2 ）。電動役物開放中フラグは、後述の図 212 の普図当たり遊技制御処理において、電動役物 3 1 5 b を開放する場合にステップ S 1 8 1 1 でオンに設定され、電動役物 3 1 5 b を閉鎖する場合にステップ S 1 8 1 8 でオフに設定される。

30

【 2 8 2 4 】

M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 2 : Y e s ）、即ち普図当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 2 : N o ）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 3 に移行する。

【 2 8 2 5 】

<ステップ S 1 5 0 3 >

電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 2 : N o ）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、小当たり遊技実行中の遊技中状態であることを示す小当たり遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 3 ）。小当たり遊技状態フラグは、後述の図 229 の遊技状態移行処理において、小当たり遊技が開始される場合にステップ S 3 6 0 2 でオンに設定され、小当たり遊技が終了する場合にステップ S 3 6 1 4 でオフに設定される。

40

【 2 8 2 6 】

M P U 4 1 は、小当たり遊技状態フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 3 : Y e s ）、小当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実

50

施形態では、小当たり遊技の実行中には普図遊技が開始されない。もちろん、小当たり遊技の実行中に普図遊技が開始されるようにしてもよい。一方、MPU41は、小当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップS1503：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1504に移行する。

【2827】

<ステップS1504>

小当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップS1503：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、大当たり遊技実行中の遊技中状態であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1504）。大当たり遊技中フラグは、後述の図229の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS3507でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップS3554でオフに設定される。

10

【2828】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1504：Yes）、大当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中には普図遊技が開始されない。もちろん、大当たり遊技の実行中に普図遊技が開始されるようにしてもよい。一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1504：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1505に移行する。

20

【2829】

<ステップS1505>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1504：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、RAM412の普図保留格納エリア412cに設定される普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xが0であるか否かを判断する（ステップS1505）。MPU41は、普図変動保留数Xが0である場合（ステップS1505：Yes）、当該普図遊技制御処理を終了し、普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1505：No）、処理をステップS1506に移行する。

【2830】

<ステップS1506>

普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1505：No）、MPU41は、普図保留格納エリア412cに記憶されている普図当否情報について普図データ設定処理を実行し（ステップS1506）、処理をステップS1507に移行する。なお、普図データ設定処理の詳細は図211を参照して後述する。

30

【2831】

<ステップS1507>

ステップS1507では、MPU41は、普図保留格納エリア412cに記憶されている情報に基づく普通図柄の変動表示をメイン表示部36の普通図柄表示部361に実行させるための普図変動開始処理を実行し、当該普図遊技制御処理を終了する。なお、普図変動開始処理の詳細は、図212を参照して後述する。

40

【2832】

<ステップS1508>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1501：Yes）、即ち普図遊技の実行中である場合、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1508）。大当たり遊技中フラグは、後述の図229の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS3507でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップS3554でオフに設定される。

【2833】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1508：Yes

50

）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップ S 1 5 0 9 に移行する。一方、M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 8 : N o ）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 9 に移行する。

【 2 8 3 4 】

＜ステップ S 1 5 0 9＞

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 8 : N o ）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、普図変動表示の開始から普図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 9 ）。即ち、M P U 4 1 は、メイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングであるか否かを判断する。

10

【 2 8 3 5 】

M P U 4 1 は、普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 0 9 : Y e s ）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、処理をステップ S 1 5 1 0 に移行する。一方、M P U 4 1 は、普図変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 1 5 0 9 : N o ）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングでない場合、当該普図遊技制御処理を終了する。

【 2 8 3 6 】

＜ステップ S 1 5 1 0 ～ S 1 5 1 2＞

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1 : Y e s ）に大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 8 : Y e s ）、即ち普図遊技の実行中に大当たり遊技が開始される場合、又は普通図柄の普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 0 8 : Y e s ）、即ち変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、M P U 4 1 は、当該普図遊技に対応する普図当たり抽選の結果に応じた図柄に普通図柄を停止表示させ（ステップ S 1 5 1 0 ）、普通図柄の変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグをオフに設定する（ステップ S 1 5 1 1 ）。さらに、M P U 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと、即ち普図遊技が終了したことを示す普図変動停止表示フラグをオンに設定し（ステップ S 1 5 1 2 ）、当該普図遊技制御処理を終了する。

20

30

【 2 8 3 7 】

なお、普図変動停止表示フラグは、後述の図 2 1 3 の普図当たり遊技制御処理のステップ S 1 8 0 1 において、普図当たり遊技を開始（電動役物 3 1 5 b を開放）するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

【 2 8 3 8 】

また、本実施形態では、普通図柄の普図変動表示時間が経過することにより変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合に限らず、普図遊技の実行中に大当たり遊技が開始される場合には、変動表示される普通図柄が停止表示される（普図遊技が終了される）。即ち、普図遊技は、大当たり遊技が開始される場合には、普通図柄の普図変動表示時間が経過する前に強制終了される。もちろん、普図遊技は、大当たり遊技が開始される場合にも普通図柄の普図変動表示時間が経過するまで継続して実行するようにしてもよい。

40

【 2 8 3 9 】

〔普図データ設定処理〕

ここで、図 2 1 1 は、図 2 1 0 のステップ S 1 5 0 6 において M P U 4 1 によって実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図データ設定処理では、図 1 1 の主制御装置 4 の記憶領域における普図保留格納エリア 4 1 2 c の記憶内容の更新処理が実行される。以下、図 2 1 1 を参照しつつ、普図データ設定処理を説明する。

【 2 8 4 0 】

50

<ステップ S 1 6 0 1 ~ S 1 6 0 3>

図 2 1 1 に示すように、普図データ設定処理では、まず M P U 4 1 は、普図変動保留数記憶エリア S N A に記憶されている更新情報である普図変動保留数 X を 1 減算する更新処理を実行し（ステップ S 1 6 0 1）、普図第 1 保留エリア S E 1 から普図実行エリア S A E に普図当否情報を移動させる更新処理を実行する（ステップ S 1 6 0 2）。続いて、M P U 4 1 は、普図第 2 保留エリア S E 2 ~ 普図第 4 保留エリア S E 4 に格納されている普図当否情報を 1 つずつシフトさせる更新処理を実行する（ステップ S 1 6 0 3）。具体的に、ステップ S 1 6 0 3 では、普図第 2 保留エリア S E 2 の普図当否情報を普図第 1 保留エリア S E 1 に移動させ、普図第 3 保留エリア S E 3 の普図当否情報を普図第 2 保留エリア S E 2 に移動させ、普図第 4 保留エリア S E 4 の普図当否情報を普図第 3 保留エリア S E 3 に移動させる更新処理が実行される。

10

【 2 8 4 1 】

〔普図変動開始処理〕

ここで、図 2 1 2 は、図 2 1 0 のステップ S 1 5 0 7 において M P U 4 1 によって実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図変動開始処理では、普通図柄表示部 3 6 1 での普通図柄の変動表示が開始されると共に、普図当たり抽選での抽選結果に基づいて更新情報である各種のコマンドやフラグが設定する更新処理が実行される。以下、図 2 1 2 を参照しつつ、普図変動開始処理を説明する。

【 2 8 4 2 】

<ステップ S 1 7 0 1>

図 2 1 2 に示すように、普図変動開始処理では、M P U 4 1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態がオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 7 0 1）。通常遊技状態は、後述の遊技状態移行処理において、他の遊技状態から通常遊技状態に移行する場合に、図 2 3 0 のステップ S 3 6 2 8、図 2 3 1 のステップ S 3 6 4 9 及びステップ S 3 6 5 5 でオンに設定され、遊技状態が通常遊技状態から他の遊技状態に移行する場合に、図 2 2 9 のステップ S 3 6 0 4、図 2 3 0 のステップ S 3 6 4 5 でオフに設定される。

20

【 2 8 4 3 】

M P U 4 1 は、通常遊技状態がオンである場合（ステップ S 1 7 0 1 : Y e s ）、処理をステップ S 1 7 0 2 に移行し、通常遊技状態がオフである場合（ステップ S 1 7 0 1 : N o ）、処理をステップ S 1 7 0 5 に移行する。

30

【 2 8 4 4 】

<ステップ S 1 7 0 2 ~ S 1 7 0 4>

通常遊技状態がオンである場合（ステップ S 1 7 0 1 : Y e s ）、M P U 4 1 は、通常遊技状態普図当たり当否テーブル（図 2 0 3 （A）参照）及び通常遊技状態普図当たり種別振分テーブル（図 2 0 3 （C）参照）に基づいて、普図保留格納エリア 4 1 2 c の普図実行エリア S A E に格納された普図当否情報に数値情報として含まれる更新情報である普通当たり乱数カウンタ C 4 及び普通当たり種別乱数カウンタ C 5 の値が普図当たりに対応する値であるか否かの普図当たり当否判定を行う（ステップ S 1 7 0 2）。そして、M P U 4 1 は、普図当たり当否判定の結果が普図当たりであるか否かを判断する（ステップ S 1 7 0 3）。

40

【 2 8 4 5 】

M P U 4 1 は、普図当たり当否判定の結果が普図当たりである場合（ステップ S 1 7 0 3 : Y e s ）、第 2 入賞口 3 1 5 が長開放される長開放普図当たりであることを示す長開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 1 7 0 4）、処理をステップ S 1 7 0 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、普図当たり当否判定の結果が普図当たりでない場合（ステップ S 1 7 0 3 : N o ）、即ち外れである場合、処理をステップ S 1 7 0 8 に移行する。

【 2 8 4 6 】

<ステップ S 1 7 0 5 ~ S 1 7 0 7>

通常遊技状態がオフである場合（ステップ S 1 7 0 1 : N o ）、即ち時短遊技状態（a

50

時短遊技状態、b時短遊技状態)である場合、MPU41は、時短遊技状態普図当たり当否テーブル(図203(B)参照)及び時短遊技状態普図当たり種別振分テーブル(図203(D)参照)に基づいて、普図保留格納エリア412cの普図実行エリアSAEに格納された普図当否情報に数値情報として含まれる更新情報である普通当たり乱数カウンタC4及び普通当たり種別乱数カウンタC5の値が普図当たりに対応する値であるか否かの普図当たり当否判定を行う(ステップS1706)。そして、MPU41は、普図当たり当否判定の結果が普図当たりであるか否かを判断する(ステップS1707)。

【2847】

MPU41は、普図当たり当否判定の結果が普図当たりである場合(ステップS1706:Yes)、第2入賞口315が短開放される短開放普図当たりであることを示す短開放普図当たりフラグをオンに設定し(ステップS1707)、処理をステップS1708に移行する。一方、MPU41は、普図当たり当否判定の結果が普図当たりでない場合(ステップS1706:No)、即ち外れである場合、処理をステップS1708に移行する。

10

【2848】

<ステップS1708及びS1709>

ステップS1708では、MPU41は、普図遊技におけるメイン表示部36の普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示時間である普図変動パターンを、普図変動表示テーブル(不図示)を参照して設定する普図変動パターン設定処理を実行する。

【2849】

そして、MPU41は、ステップS1708で設定される普図変動パターンに加え、ステップS1702又はS1705での当否判定の結果(普図当たり抽選の結果)を音声ランプ制御装置5に通知するための普図変動パターンコマンドを設定し(ステップS1709)、処理をステップS1710に移行する。

20

【2850】

なお、普図変動パターンコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理(図209参照)のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これに対して、音声ランプ制御装置5では、普図変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部341などに対して普図遊技に対応した演出、例えば普図遊技が実行されていることを示す演出や普図当たり抽選の結果を示す演出を実行させる。

30

【2851】

<ステップS1710及びS1711>

ステップS1710では、MPU41は、メイン表示部36の普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示を開始する(ステップS1710)。そして、MPU41は、普通図柄が変動表示されていること、即ち普図遊技が実行されていることを示す普図変動表示中フラグをオンに設定し(ステップS1711)、当該普図変動開始処理を終了する。

【2852】

なお、普図変動表示中フラグは、図210の普図遊技制御処理でのステップS1501において、普図遊技の実行中(普通図柄の変動表示中)であるかを判断するために参照される。

40

【2853】

[普図当たり遊技制御処理]

ここで、図213は、図209のメイン処理でのステップS1405において実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図当たり遊技制御処理では、普図当たり抽選の結果が当たりである場合に、電動役物315bの開閉制御を行うことによって第2入賞口315への遊技球の入球を許容する許容状態と制限する制限状態とを切り替える処理が実行される。以下、図213を参照しつつ、普図当たり遊技制御処理を説明する。

【2854】

<ステップS1801>

50

図 2 1 3 に示すように、普図当たり遊技制御処理では、まず M P U 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 1）。即ち、M P U 4 1 は、普図当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。なお、普図変動停止表示フラグは、図 2 1 0 の普図遊技制御処理において普通図柄が停止表示される場合にステップ S 1 5 1 2 でオンに設定される。

【 2 8 5 5 】

M P U 4 1 は、普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 1 : Y e s）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップ S 1 8 0 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 1 : N o）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理をステップ S 1 8 1 3 に移行する。

10

【 2 8 5 6 】

<ステップ S 1 8 0 2>

普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 1 : Y e s）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 2）。大当たり遊技中フラグは、後述の図 2 2 5 の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップ S 3 5 0 7 でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップ S 3 5 5 4 でオフに設定される。

20

【 2 8 5 7 】

M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 2 : Y e s）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技が開始されることで強制終了される場合には、当該普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合であっても普図当たり遊技が開始されない。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中は普図当たり遊技が開始されることはない。もちろん、大当たり遊技の実行中に新たな普図遊技を開始させてもよい。

【 2 8 5 8 】

一方、M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 2 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 8 0 3 に移行する。

30

【 2 8 5 9 】

<ステップ S 1 8 0 3>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 2 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 3）。長開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合に、図 2 1 2 の普図変動開始処理のステップ S 1 7 0 4 においてオンに設定される。即ち、M P U 4 1 は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : Y e s）、処理をステップ S 1 8 0 4 に移行し、長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : N o）、処理をステップ S 1 8 0 6 に移行する。

40

【 2 8 6 0 】

<ステップ S 1 8 0 4 及び S 1 8 0 5>

長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : Y e s）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合、M P U 4 1 は、長開放普図当たり遊技における電動役物 3 1 5 b の開放時間（第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球可能時間）である 6 秒に対応する値を更新情報として開放時間カウンタの値としてセットする（ステップ S 1 8 0 4）。開放時間カウンタは、電動役物 3

50

15bの復帰タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理のステップS1815において参照される。そして、MPU41は、長開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS1805）、処理をステップS1809に移行する。

【2861】

<ステップS1806>

長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS1803：No）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりでない場合、MPU41は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS1806）。短開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合に、図24の普図変動開始処理のステップS1707においてオンに設定される。即ち、MPU41は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであるか否かを判断する。MPU41は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1806：Yes）、処理をステップS1807に移行し、短開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS1806：No）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が外れである場合、処理をステップS1812に移行する。

10

【2862】

<ステップS1807及びS1808>

短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1806：Yes）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合、MPU41は、短開放普図当たり遊技における電動役物315bの開放時間（第2入賞口315への遊技球の入球可能時間）である0.1秒に対応する値を更新情報として開放時間カウンタの値としてセットする（ステップS1807）。そして、MPU41は、短開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS1808）、処理をステップS1809に移行する。

20

【2863】

<ステップS1809～S1811>

普図当たり抽選の結果が当たりである場合に普図当たり種別を示すフラグ（長開放普図当たりフラグ又は短開放普図当たりフラグ）をオフに設定した場合（ステップS1805又はS1808）、MPU41は、電動役物315bを作動させる（ステップS1809）。これにより、始動入球領域である第2入賞口315を開放し、第2入賞口315への遊技球の入球を許容する許容状態とする。そして、MPU41は、電動役物315bが開放されていることを音声ランプ制御装置5に通知する電動役物開放コマンドを設定すると共に（ステップS1810）、電動役物315bが開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオンに設定し（ステップS1811）、処理をステップS1812に移行する。

30

【2864】

なお、電動役物開放コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これより、音声ランプ制御装置5は、電動役物開放コマンドに基づいて、例えば図柄表示部341などに対して電動役物315bが開放されていることを示す演出を開始させることができる。

40

【2865】

<ステップS1812>

普図当たり抽選の結果が当たりである場合に電動役物315bを開放させる処理などを実行した場合（ステップS1803～S1811）、又は長開放普図当たりフラグ及び短開放普図当たりフラグが共にオフに設定されている場合（普図当たり抽選の結果が外れである場合）（ステップS1803及びステップS1806が共にNo）、MPU41は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラ

50

グをオフに設定し（ステップ S 1 8 1 2）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【2866】

<ステップ S 1 8 1 3>

普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 1 : N o）、M P U 4 1 は、当該普図当たり遊技制御処理のステップ S 1 8 1 1 において電動役物 3 1 5 b を開放させた場合にオンに設定される電動役物開放中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 1 8 1 3）。即ち、M P U 4 1 は、普図当たり遊技が実行中であるか否かを判断する。M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 1 3 : Y e s）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、処理をステップ S 1 8 1 4 に移行する。一方、M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 1 3 : N o）、即ち普図当たり遊技が実行中でない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

10

【2867】

<ステップ S 1 8 1 4 及び S 1 8 1 5>

電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 1 3 : Y e s）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、M P U 4 1 は、当該普図当たり遊技制御処理のステップ S 1 8 0 4 又は S 1 8 0 7 において更新情報としてセットされる開放時間カウンタの値から 1 減算する更新処理を実行し（ステップ S 1 8 1 4）、減算後の開放時間カウンタの値が更新終了状態である 0 であるか否かを判断する（ステップ S 1 8 1 5）。即ち、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、減算後の開放時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 1 8 1 5 : Y e s）、即ち電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングである場合、処理をステップ S 1 8 1 6 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後の開放時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 1 8 1 5 : N o）、即ち電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングでない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

20

【2868】

<ステップ S 1 8 1 6 ~ S 1 8 1 8>

減算後の開放時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 1 8 1 5 : Y e s）、即ち電動役物 3 1 5 b を復帰させるタイミングである場合、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b を復帰させる（ステップ S 1 8 1 6）。これにより、始動入球領域である第 2 入賞口 3 1 5 が閉鎖され、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球が制限される。そして、M P U 4 1 は、電動役物 3 1 5 b の閉鎖されたことを音声ランプ制御装置 5 に通知する電動役物閉鎖コマンドを設定すると共に（ステップ S 1 8 1 7）、電動役物 3 1 5 b が開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオフに設定し（ステップ S 1 8 1 8）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

30

【2869】

なお、電動役物閉鎖コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 0 9 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、電動役物閉鎖コマンドに基づいて、例えば図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される電動役物が開放されていることを示す演出を終了させることができる。

40

【2870】

[特図遊技制御処理]

ここで、図 2 1 4 は、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 6 において実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技制御処理では、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の記憶内容の更新処理が実行されると共に、第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技の進行の制御、例えば第 1 特別図柄表示部 3 6 2 での第 1 特別図柄、又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での第 2 特別図柄の変動表示及び停止表示が制御される。以下、図 2 1 4 を参照しつつ、特図遊技制御処理を説明する。

50

【2871】

<ステップS1901>

図214に示すように、ステップS1901では、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、後述の図229の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS3507でオンに設定され、大当たり遊技が終了する場合にステップS3554でオフに設定される。

【2872】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1901：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もちろん、大当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。

10

【2873】

一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1902に移行する。

【2874】

<ステップS1902>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、小当たり遊技実行中の遊技中状態であることを示す小当たり遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1902）。小当たり遊技状態フラグは、後述の図229の遊技状態移行処理において、小当たり遊技が開始される場合にステップS3602でオンに設定され、小当たり遊技が終了する場合にステップS3614でオフに設定される。

20

【2875】

MPU41は、小当たり遊技状態フラグがオンである場合（ステップS1902：Yes）、即ち小当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、小当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もちろん、小当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。

【2876】

一方、MPU41は、小当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップS1902：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1903に移行する。

30

【2877】

<ステップS1903>

小当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップS1902：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（第1特図遊技又は第2特図遊技の実行中）であることを示す特図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1903）。特図変動表示中フラグは、後述の図216の特図変動開始処理において第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示が開始される場合にステップS2107又はS2117でオンに設定され、当該特図遊技制御処理において第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示される場合にステップS1912でオフに設定される。

40

【2878】

MPU41は、特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1903：Yes）、即ち特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、処理をステップS1907に移行する。一方、MPU41は、特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1903：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、処理をステップS1904に移行する。

【2879】

<ステップS1904>

50

特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1 9 0 3 : N o）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合に特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、M P U 4 1 は、特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 1 特図保留数記憶エリア N A A に記憶されている更新情報である第 1 特図保留球数 N、及び第 2 特図保留数記憶エリア N A B に記憶されている更新情報である第 2 特図保留球数 M の両方が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 1 9 0 4）。

【 2 8 8 0 】

M P U 4 1 は、更新情報である第 1 特図保留球数 N 及び第 2 特図保留球数 M の両方が 0 である場合（ステップ S 1 9 0 4 : Y e s）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のいずれもない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、第 1 特図保留球数 N 及び第 2 特図保留球数 M のいずれか一方が 0 でない場合は（ステップ S 1 9 0 4 : N o）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、処理をステップ S 1 9 0 5 に移行する。

10

【 2 8 8 1 】

<ステップ S 1 9 0 5>

更新情報である第 1 特図保留球数 N 及び第 2 特図保留球数 M のいずれか一方が 0 でない場合は（ステップ S 1 9 0 4 : N o）、即ち第 1 特図遊技を実行する権利の保留、及び第 2 特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、M P U 4 1 は、特図保留格納エリア 4 1 2 b に記憶されている更新情報である特図当否情報のデータ（特図データ）の更新処理である特図データ設定処理を実行し（ステップ S 1 9 0 4）、処理をステップ S 1 9 0 6 に移行する。なお、特図データ設定処理の詳細は、図 2 1 5 を参照して後述する。

20

【 2 8 8 2 】

<ステップ S 1 9 0 6>

ステップ S 1 9 0 6 では、M P U 4 1 は、表示手段である第 1 特別図柄表示部 3 6 2 での所定の図柄である第 1 特別図柄、又は表示手段である第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での所定の図柄である第 2 特別図柄の変動表示を開始（第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技を実行）させるための特図変動開始処理を実行し、当該特図遊技制御処理を終了する。なお、特図変動開始処理の詳細は、図 2 1 6 を参照して後述する。

30

【 2 8 8 3 】

<ステップ S 1 9 0 7>

特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 9 0 3 : Y e s）、即ち所定の図柄である第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、M P U 4 1 は、所定の図柄である第 1 特別図柄又は第 2 特図遊技の変動表示の開始から、後述の図 2 1 6 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 0 3 又は S 2 1 1 1 の特図変動パターン設定処理で設定される第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄に対する特図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップ S 1 9 0 6）。即ち、M P U 4 1 は、変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングであるか否かを判断する。

40

【 2 8 8 4 】

第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から特図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 9 0 7 : Y e s）、即ち変動表示中の特別図柄の停止表示による報知表示により特図遊技を終了させるタイミングである場合、処理をステップ S 1 9 0 7 に移行する。

【 2 8 8 5 】

一方、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 1 9 0 7 : N o）、即ち変動表示中の特別図柄の停止表示による報知表示により特図遊技を終了させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

【 2 8 8 6 】

50

<ステップ S 1 9 0 8>

第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 9 0 7 : Y e s）、即ち変動表示中の特別図柄の停止表示による報知表示により特図遊技を終了させるタイミングである場合、M P U 4 1 は、表示手段である第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 に対して報知表示制御を実行することで、第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において、当該特図遊技に対応する大当たり抽選の結果に応じた態様で特別図柄を停止表示させる（ステップ S 1 9 0 8）。具体的には、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 に対して報知表示制御を実行することで、大当たり抽選の結果が小当たりである場合には、小当たりに対応する特別図柄を停止表示させて小当たりであることの報知表示を実行する一方、大当たり抽選の結果が外れである場合には、外れに対応する特別図柄を停止表示させて小当たりであることの報知表示を実行する。

10

【 2 8 8 7 】

なお、本実施形態では、大当たり抽選の結果として、小当たりと外れが設定され、大当たりが設定されていないが、大当たり抽選の結果に大当たりを含ませる場合において大当たり抽選の結果が大当たりである場合には、第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 に対して報知表示制御を実行することで、大当たりに対応する特別図柄を停止表示させて大当たりであることの報知表示を実行する。

【 2 8 8 8 】

<ステップ S 1 9 0 9 及び S 1 9 1 0>

ステップ S 1 9 0 9 では、M P U 4 1 は、報知表示制御の実行により所定の図柄である第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグをオンに設定し、さらに、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオフに設定し（ステップ S 1 9 1 0）、処理をステップ S 1 9 1 1 に移行する。

20

【 2 8 8 9 】

<ステップ S 1 9 1 1>

ステップ S 1 9 1 1 では、M P U 4 1 は、特図遊技回数カウントフラグをオンに設定する。この特図遊技回数カウントフラグは、図 2 1 7 の特図遊技回数管理処理のステップ S 3 3 1 0 において、時短遊技状態（a 時短遊技状態、b 時短遊技状態）の残りの時短遊技回数を管理し、また b 時短遊技状態に移行させるまでに必要な残りの特図遊技回数を管理するための特図遊技回数の管理において参照される。

30

【 2 8 9 0 】

<ステップ S 1 9 1 2>

ステップ S 1 9 1 2 では、M P U 4 1 は、確定表示コマンドを設定し、当該特図遊技制御処理を終了する。確定表示コマンドは、特別図柄が停止表示されたことを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドである。この確定表示コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、確定表示コマンドを受信した場合、図柄表示部 3 4 1 において所定の図柄である飾り図柄の確定表示演出を実行し、特図遊技演出を終了させる。

40

【 2 8 9 1 】

[特図データ設定処理]

ここで、図 2 1 5 は、図 2 1 4 の特図遊技制御処理でのステップ S 1 9 0 5 において M P U 4 1 によって実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図データ設定処理では、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 に設定される更新情報が格納される特図保留格納エリア 4 1 2 b の記憶内容の更新処理が実行される。以下、図 2 1 5 を参照しつつ、特図データ設定処理を説明する。

【 2 8 9 2 】

<ステップ S 2 0 0 1>

図 2 1 5 に示すように、ステップ S 2 0 0 1 では、M P U 4 1 は、第 2 特図遊技に対す

50

る更新情報である第2特図保留球数Mが0であるか否かを判断する。MPU41は、第2特図保留球数Mが0である場合（ステップS2001：Yes）、即ち第2特図遊技に対する第2特図保留がなく第1特図遊技に対する第1特図保留がある場合、処理をステップS2002に移行する。一方、MPU41は、第2特図保留球数Mが0でない場合（ステップS2001：No）、即ち第2特図遊技に対する第2特図保留がある場合、処理をステップS2006に移行する。つまり、MPU41は、第2特図遊技に対する第2特図保留球数Mが0であるか否かを判断することで、第1特図遊技よりも第2特図遊技を優先して開始させる。

【2893】

なお、本実施形態では、第2特図遊技が第1特図遊技よりも優先して開始されるが、第1特図遊技が第2特図遊技よりも優先して開始されるようにしてもよく、また、第1入賞口314又は第2入賞口315に対する遊技球の入球順（保留順）に特図遊技を開始させ、第1特図遊技及び第2特図遊技のいずれか一方が実行されるようにしてもよい。また、第1特図遊技と第2特図遊技との開始に優先順位を設けることなく、第1特図遊技と第2特図遊技とが互いに独立して実行され、第1特図遊技と第2特図遊技とが同時に実行され得るようにしてもよい（いわゆる特図の同時変動）。

【2894】

<ステップS2002～S2005>

第2特図保留球数Mが0である場合（ステップS2001：Yes）、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている更新情報である第1特図保留数Nを1減算する更新処理を実行し（ステップS2002）、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1から特図実行エリアAEに特図当否情報を移動させる更新処理を実行する（ステップS2003）。続いて、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2～第4保留エリアREA4の特図当否情報を1つずつシフトさせる更新処理を実行する（ステップS2004）。具体的に、ステップS2004の更新処理では、第1特図保留格納エリアREAの第2保留エリアREA2の特図当否情報を第1保留エリアREA1に移動させ、第3保留エリアREA3の特図当否情報を第2保留エリアREA2に移動させ、第4保留エリアREA4の特図当否情報を第3保留エリアREA3に移動させる。

【2895】

MPU41は、ステップS2004の処理が終了した場合、第1特図遊技が開始されることを示す第1特図遊技開始フラグをオンに設定し（ステップS2005）、処理をステップS2010に移行する。この第1特図遊技開始フラグは、後述の図216の特図遊技開始処理でのステップS2101において、第1特図遊技を開始させるか否かを判断するために参照される。

【2896】

<ステップS2006～S2009>

第2特図保留数Mが0でない場合（ステップS2001：No）、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている更新情報である第2特図保留球数Mを1減算する更新処理を実行し（ステップS2006）、第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1から特図実行エリアAEに特図当否情報を移動させる更新処理を実行する（ステップS2007）。続いて、MPU41は、第2特図保留格納エリアREBの第2保留エリアREB2～第4保留エリアREB4の特図当否情報を1つずつシフトさせる更新処理を実行する（ステップS2008）。具体的に、ステップS2008では、第2保留エリアREB2の特図当否情報を第1保留エリアREB1に移動させ、第3保留エリアREB3の特図当否情報を第2保留エリアREB2に移動させ、第4保留エリアREB4の特図当否情報を第3保留エリアREB3に移動させる。MPU41は、ステップS2008の処理が終了した場合、処理をステップS2009に移行する。

【2897】

MPU41は、ステップS2008の処理が終了した場合、第2特図遊技が開始されることを示す第2特図遊技開始フラグをオンに設定し（ステップS2009）、処理をステップS2010に移行する。この第2特図遊技開始フラグは、後述の図216の特図遊技開始処理でのステップS2109において、第2特図遊技を開始させるか否かを判断するために参照される。

【2898】

<ステップS2010及びS2011>

ステップS2010では、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4の特図当否情報がシフトした旨を示す特図シフトコマンドをRAM412に設定する。この特図シフトコマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図シフトコマンドに基づいて、図柄表示部341に表示される第1特図保留や第2特図保留に対応させた保留表示の表示数などを変更することができる。

10

【2899】

また、MPU41は、当該特図遊技が開始された後の保留球数を音声ランプ制御装置5に通知する保留球数コマンドをRAM412に設定し（ステップS2011）、当該特図データ設定処理を終了する。この保留球数コマンドは、図209のメイン処理でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。音声ランプ制御装置5では、保留球数コマンドを受信した場合、図柄表示部341に表示される特図データに関する画像（特図データ画像）の更新処理を実行する（図53参照）。

20

当該特図データ設定処理を終了する。

【2900】

〔特図変動開始処理〕

ここで、図216は、図214の特図遊技制御処理のステップS1906においてMPU41によって実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図変動開始処理では、表示手段である第1特別図柄表示部362での所定の図柄である第1特別図柄、又は表示手段である第2特別図柄表示部363での所定の図柄である第2特別図柄の変動表示の開始により第1特別遊技又は第2特図遊技（特図遊技）が開始され、特図遊技の開始に伴う遊技中状態での各種処理が実行される。以下、図216を参照しつつ、特図変動開始処理を説明する。

30

【2901】

<ステップS2101>

図216に示すように、ステップS2101では、MPU41は、第1特図遊技が開始されることを示す第1特図遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する。第1特図遊技開始フラグは、図215の特図データ設定処理のステップS2005において第1特図遊技を開始させるために特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAEに対する当否情報の更新処理が終了した場合にオンに設定される。

【2902】

MPU41は、第1特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS2101：Yes）、処理をステップS2102に移行し、第1特図遊技開始フラグがオンに設定されていない場合（ステップS2101：No）、処理をステップS2109に移行する。

40

【2903】

<ステップS2102及びS2103>

第1特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS2101：Yes）、MPU41は、特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAEに格納された当否情報を読み出し（ステップS2102）、表示手段であるメイン表示部36の第1特別図柄表示部362での所定の図柄である第1特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとし

50

て設定すると共に、報知表示としての第1特別図柄の停止種別を設定し（ステップS2103）、処理をステップS2104に移行する。

【2904】

なお、第1特別図柄の変動表示時間（特図変動パターン）は、ステップS2102での当否判定の結果が小当たりである場合には、更新情報である特図変動種別カウンタCS1と当たり変動テーブル（図205（B）参照）とに基づいて設定され、ステップS2102での当否判定の結果が外れである場合には、更新情報である特図変動種別カウンタCS1と外れ変動テーブル（図205（A）参照）とに基づいて設定される。

【2905】

また、第1特別図柄の停止種別は、ステップS2102での当否判定の結果が小当たりである場合には小当たりに対応する図柄が設定され、当否判定の結果が外れである場合には外れに対応する図柄が設定される。このように第1特別図柄の停止種別が決定されることで、当否判定の結果が小当たり又は外れであることが報知表示される。

10

【2906】

なお、本実施形態では、大当たり抽選の結果として、小当たりと外れが設定され、大当たりが設定されていないが、大当たり抽選の結果に大当たりを含ませる場合において大当たり抽選の結果が大当たりである場合には、第1特別図柄の停止種別として、大当たりに対応する図柄が設定される。このように第1特別図柄の停止種別が決定されることで、当否判定の結果が大当たりであることが報知表示される。

20

【2907】

<ステップS2104及びS2105>

ステップS2104では、MPU41は、ステップS2102での当否判定の結果である当該第1特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップS2103で設定された特図変動パターンを含む特図変動パターンコマンドをRAM412に設定し、さらに、ステップS2103で設定された第1特別図柄表示部362での第1特別図柄の停止種別を特定する停止種別コマンドを設定し（ステップS2105）、処理をステップS2107に移行する。

【2908】

特図変動パターンコマンド及び停止種別コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）のステップS1401において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図変動パターンコマンド及び停止種別コマンドに基づいて、図柄表示部341などでの演出パターン（特図遊技演出）を設定し、その演出パターンに基づいて更新情報である描画リストを最後まで作成して表示などを実行することで、遊技中状態である第1特図遊技において、特別演出としての再抽選演出（再抽選表示）である昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）を実行することができる。なお、停止種別コマンドは、必ずしも特図変動パターンコマンドと別に設定する必要はなく、特図変動パターンコマンドを第1特別図柄の停止種別を特定可能なコマンドとして設定してもよい。

30

【2909】

<ステップS2106>

ステップS2106では、MPU41は、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362での第1特別図柄の変動表示を開始させることで第1特図遊技の遊技中状態とし、処理をステップS2107に移行する。

40

【2910】

<ステップS2107及びS2108>

ステップS2107では、MPU41は、特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中の遊技中状態）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定し、さらに、第1特図遊技を開始させる第1特図遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS2108）、当該変動開始処理を終了する。

【2911】

50

なお、特図変動表示中フラグは、図 2 1 4 の特図遊技制御処理におけるステップ S 1 9 0 3 において、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中の遊技中状態）であるか否かを判断するために参照される。

【 2 9 1 2 】

<ステップ S 2 1 0 9>

第 1 特図遊技開始フラグがオンに設定されていない場合（ステップ S 2 1 0 1 : N o）、M P U 4 1 は、第 2 特図遊技が開始されることを示す第 2 特図遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 2 1 0 9）。第 2 特図遊技開始フラグは、図 2 1 5 の特図データ設定処理のステップ S 2 0 0 9 において第 2 特図遊技が開始させるために特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E に対する当否情報の更新処理が終了した場合にオンに設定される。

10

【 2 9 1 3 】

M P U 4 1 は、第 2 特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 1 0 9 : Y e s）、処理をステップ S 2 1 1 0 に移行し、第 1 特図遊技開始フラグがオンに設定されていない場合（ステップ S 2 1 0 9 : N o）、当該変動開始処理を終了する。

【 2 9 1 4 】

<ステップ S 2 1 1 0 及び S 2 1 1 1>

第 2 特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 1 0 9 : Y e s）、M P U 4 1 は、特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E に格納された当否情報を読み出し（ステップ S 2 1 1 0）、表示手段であるメイン表示部 3 6 の第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での所定の図柄である第 2 特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとして設定すると共に、報知表示としての第 2 特別図柄の停止種別を設定し（ステップ S 2 1 1 1）、処理をステップ S 2 1 1 2 に移行する。

20

【 2 9 1 5 】

なお、第 2 特別図柄の変動表示時間（特図変動パターン）は、ステップ S 2 1 1 0 での当否判定の結果が小当たりである場合には、更新情報である特図変動種別カウンタ C S 1 と当たり変動テーブル（図 2 0 5（B）参照）とに基づいて設定され、ステップ S 2 1 1 0 での当否判定の結果が外れである場合には、更新情報である特図変動種別カウンタ C S 1 と外れ変動テーブル（図 2 0 5（A）参照）とに基づいて設定される。

30

【 2 9 1 6 】

また、第 2 特別図柄の停止種別は、ステップ S 2 1 1 0 での当否判定の結果が小当たりである場合には小当たりに対応する図柄が設定され、当否判定の結果が外れである場合には外れに対応する図柄が設定される。このように第 2 特別図柄の停止種別が決定されることで、当否判定の結果が小当たり又は外れであることが報知表示される。

【 2 9 1 7 】

なお、本実施形態では、大当たり抽選の結果として、小当たりと外れが設定され、大当たりが設定されていないが、大当たり抽選の結果に大当たりを含ませる場合において大当たり抽選の結果が大当たりである場合には、第 2 特別図柄の停止種別として、大当たりに対応する図柄が設定される。このように第 2 特別図柄の停止種別が決定されることで、当否判定の結果が大当たりであることが報知表示される。

40

【 2 9 1 8 】

<ステップ S 2 1 1 2 及び S 2 1 1 3>

ステップ S 2 1 1 2 では、M P U 4 1 は、ステップ S 2 1 1 0 での当否判定の結果である当該第 2 特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップ S 2 1 1 1 で設定された特図変動パターンを含む特図変動パターンコマンドを R A M 4 1 2 に設定し、さらに、ステップ S 2 1 1 1 で設定された第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での第 2 特別図柄の停止種別を特定する停止種別コマンドを設定し（ステップ S 2 1 1 3）、処理をステップ S 2 1 1 4 に移行する。

【 2 9 1 9 】

50

特図変動パターンコマンド及び停止種別コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）のステップS1401において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図変動パターンコマンド及び停止種別コマンドに基づいて、図柄表示部341などでの演出パターン（特図遊技演出）を設定し、その演出パターンに基づいて更新情報である描画リストを最後まで作成して表示などを実行することで、遊技中状態である第2特図遊技において、特別演出としての再抽選演出（再抽選表示）である昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）を実行することができる。なお、停止種別コマンドは、必ずしも特図変動パターンコマンドと別に設定する必要はなく、特図変動パターンコマンドを第2特別図柄の停止種別を特定可能なコマンドとして設定してもよい。

10

【2920】

<ステップS2114>

ステップS2114では、MPU41は、メイン表示部36の第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示を開始させることで第2特図遊技の遊技中状態とし、処理をステップS2115に移行する。

【2921】

<ステップS2115及びS2116>

ステップS2115では、MPU41は、特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中の遊技中状態）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定し、さらに、第2特図遊技を開始させる第2特図遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS2116）、当該変動開始処理を終了する。

20

【2922】

なお、特図変動表示中フラグは、図214の特図遊技制御処理におけるステップS1903において、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中の遊技中状態）であるか否かを判断するために参照される。

【2923】

〔特図遊技回数管理処理〕

ここで、図217及び図218、図209のメイン処理でのステップS1406-1において実行される特図遊技回数管理処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技回数管理処理では、特図遊技の実行に基づいて、利益遊技状態である時短遊技状態（a時短遊技状態、b時短遊技状態）における更新情報である残りの時短遊技回数や、利益遊技状態であるb時短遊技状態を発生させるまでの更新情報である残りの特図遊技回数を管理する処理が実行される。以下、図217及び図218を参照しつつ、特図遊技回数管理処理を説明する。

30

【2924】

<ステップS3301>

図217に示すように、本実施形態の特図遊技回数管理処理では、まずMPU41は、b時短遊技状態に移行するまでに必要な特図遊技回数を示す更新情報である天井発動残回数カウンタをセットするための天井発動残回数カウンタセットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3301）。この天井発動残回数カウンタセットフラグは、利益遊技状態である大当たり遊技状態が終了する場合に、後述の図225の大当たり遊技制御処理のステップS3553においてオンに設定される。

40

【2925】

MPU41は、天井発動残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3301：Yes）、即ち更新情報である天井発動残回数カウンタをセットする場合、処理をステップS3302に移行する。一方、MPU41は、天井発動残回数カウンタセットフラグがオフに設定されている場合（ステップS3301：No）、即ち更新情報である天井発動残回数カウンタをセットしない場合、処理をステップS3311に移行する。

50

【2926】

<ステップS3302>

天井発動残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3301：Yes）、即ち更新情報である天井発動残回数カウンタをセットする場合、MPU41は、天井発動残回数カウンタの初期値として1000をセットする。つまり、本実施形態では、利益遊技状態である大当たり遊技状態が終了してから、大当たり遊技状態に移行されることなく1000回の特図遊技が実行された場合に特典付与条件が成立することで、特典付与として利益遊技状態であるb時短遊技状態が発生される。

【2927】

なお、本実施形態では、更新情報である天井発動残回数カウンタは、減算式のカウンタとして設定されるが、天井発動残回数カウンタを加算式のカウンタとして設定してもよい。また、更新情報である天井発動残回数カウンタにセットされる初期値は、1000に限らず、小当たり確率などに応じて適宜設定すればよい。

【2928】

ところで、本実施形態では、第1入賞口314への遊技球の入球を契機として発生した小当たり遊技に基づいて大当たり遊技が発生する場合に比べて、第2入賞口315への遊技球の入球を契機として発生した小当たり遊技に基づいて大当たり遊技が発生する場合のほうが、大当たり連荘が発生し易いRUSH状態への突入率が優遇されている（図204（D）及び図204（E）参照）。具体的には、第1入賞口314への遊技球の入球を契機として発生した小当たり遊技に基づく大当たり遊技の終了後のRUSH状態への突入率が50%であるのに対して、第2入賞口315への遊技球の入球を契機として発生した小当たり遊技に基づく大当たり遊技の終了後のRUSH状態への突入率が100%である。

【2929】

一方、左打ちが奨励される通常遊技状態では左打ちを行うことで第1入賞口314に遊技球が入球し易く、右打ちが奨励されるb時短遊技状態を含む時短遊技状態では右打ちを行うことで第2入賞口315に遊技球が入球し易い。そのため、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行される前に比べて、b時短遊技状態に移行された後のほうがRUSH状態への突入率が高く、出玉期待値も高くなる。その結果、b時短遊技状態への移行が近づいた段階では、大当たり遊技を発生させないほうが有利となる後述の損益分岐点が存在する。

【2930】

同様に、従来の遊技機においても、b時短遊技状態への移行が近づいた段階では、大当たり遊技を発生させないほうが有利となる損益分岐点が存在するものがある。このような損益分岐点が存在する従来の遊技機では、遊技者がb時短遊技状態への移行を希望するにも関わらず、遊技者の意に反して大当たり遊技が発生し、b時短遊技状態へ移行させることができないことがある。つまり、従来の遊技機では、大当たり遊技を発生させるタイミングをコントロールすることができないため、大当たり遊技を発生させることがb時短遊技状態に移行させるよりも差玉期待値が少ないタイミング、例えばb時短遊技状態に移行する直前において大当たり遊技が発生することがある。この場合、遊技者は、b時短遊技状態へ移行することの利益（出玉期待値の高さ）を享受することができず、期待できる差玉も少なくなる。

【2931】

これに対して、本実施形態の当否テーブルでは、大当たりの振り分けがなく、小当たり及び外れのみが設定されているため（図204（A）～図204（E）参照）、大当たり抽選の結果が大当たりとなることはない。また、小当たり遊技において右打ちを行うために発射ハンドル22に対して所定の遊技操作を行うことで所定の遊技条件である羽役物装置83のV入賞口833への遊技球の入球を成立させると、特定の利益である大当たり遊技状態が発生される。そのため、大当たり遊技状態は、小当たり遊技を経由することなく発生されることはなく、大当たり遊技状態を発生させるためには、小当たり遊技において右打ちを行うために発射ハンドル22に対して所定の遊技操作を行う必要がある。

【 2 9 3 2 】

また、本実施形態の天井発動残回数カウンタは、小当たり遊技の発生によっては初期値の1000に設定されることはなく、大当たり遊技が実行された場合に当該大当たり遊技の終了により、大当たり遊技の終了時の天井発動残回数カウンタの値に関係なく、天井発動残回数カウンタの値が初期値の1000に設定される。一方、小当たり遊技において右打ちを行うために発射ハンドル22に対して所定の遊技操作を行わない場合、所定の遊技条件である羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球しないために大当たり遊技が発生されない（いわゆるパンク状態）。つまり、小当たり遊技が実行された場合であっても、所定の遊技条件である羽役物装置83のV入賞口833への遊技球の入球を成立させず特定の利益である大当たり遊技状態を発生させなかった場合には、小当たり遊技の終了時の天井発動残回数カウンタの値が引き継がれ、その後の特図遊技が実行された場合、特図遊技の実行回数が引き継がれた天井発動残回数カウンタの値から減算される。その結果、遊技者は、小当たり遊技が発生しても、遊技球の発射を中止し、又は左打ちを行うことで、即ち発射ハンドル22に対して右打ちのための所定の遊技操作を行わないことで、意図的に所定の遊技条件である羽役物装置83のV入賞口833への遊技球の入球を成立させないようにすることができる。

10

【 2 9 3 3 】

このように、本実施形態では、当否テーブルに大当たりの振り分けが設定されていないことから、大当たり抽選の結果が大当たりとなることがない。これにより、遊技者が大当たり遊技の発生よりも天井発動によるb時短遊技状態の発生を希望する場合に、遊技者の意に反して、天井発動前に大当たり遊技が発生して天井発動残回数カウンタの値が初期値の1000に設定されることが回避される。

20

【 2 9 3 4 】

また、本実施形態では、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に小当たり遊技が実行されるが、この小当たり遊技において、右打ちを行うために発射ハンドル22に対して所定の遊技操作を行うことで所定の遊技条件である羽役物装置83のV入賞口833への遊技球の入球を成立させると、特定の利益である大当たり遊技状態が発生される一方、小当たり遊技において右打ちを行うために発射ハンドル22に対して所定の遊技操作を行わない場合、所定の遊技条件である羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球しないために大当たり遊技が発生されない（いわゆるパンク状態）。つまり、本実施形態では、小当たり遊技において、右打ちを行うために発射ハンドル22に対して所定の遊技操作を行うか否か、即ち所定の遊技条件である羽役物装置83のV入賞口833への遊技球の入球を成立させるか否かを選択することで、大当たり遊技を発生させるか（天井発動残回数カウンタの値を初期化するか）、大当たり遊技を発生させることなく（天井発動残回数カウンタの値を初期化することなく）、小当たり遊技の発生前の天井発動残回数カウンタの値を引き継ぐか否かを選択することができる。つまり、小当たり遊技が発生した場合であっても、大当たり遊技の利益を享受することなく、小当たり遊技が発生する前と同様の利益を享受（同様の状態を維持）しつつ新たな特図遊技を実行させることが可能になる。これにより、遊技者は、天井発動残回数カウンタの値が0に近づき、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態への移行が間近である場合、即ち大当たり遊技を発生させないほうが遊技者に有利である場合には、小当たり遊技が実行された場合に羽役物装置83のV入賞口833に遊技球を入球させないようにして大当たり遊技の発生（天井発動残回数カウンタの値の初期化）を回避しつつ、規定回数の特図遊技の実行により、遊技者の希望通りに天井時短遊技状態であるb時短遊技状態を発生させることが可能である。即ち、本実施形態では、小当たり遊技が発生しても大当たり遊技を発生させないことで、小当たり遊技の終了時の天井発動残回数カウンタの値を引き継ぎ、その後の特図遊技の実行によって、引き継がれた天井発動残回数カウンタの値を減算させて天井時短遊技状態であるb時短遊技状態を発生させることができるため、遊技者が損益分岐点の前後において小当たり遊技が発生した場合に、自身の判断に基づいて大当たり遊技を発生させるか、天井を発動させるか否かを選択できる遊技性が付与される。具体的には、遊技者は、天井発動によるb時短遊

30

40

50

技状態の発生を選択できることで、b時短遊技状態の利益（RUSH突入率の優遇及び出玉期待値の高さ）を自己の判断により享受できる。一方、遊技者は、大当たり遊技の発生を選択できることで、遊技時間に余裕がない場合（例えば遊技ホールの閉店時間までの残り時間が少ない場合、自己都合により残りの遊技時間に制約がある場合など）、天井発動によりも大当たり遊技の発生を優先することが可能になる。

【2935】

なお、本実施形態では、損益分岐点に到達する前と到達した後において、小当たり遊技のオープニング演出の報知態様が異なることで（図222（A）及び図222（B）参照）、損益分岐点に到達しているか否かが遊技者に報知される。そのため、遊技者は、小当たり遊技のオープニング演出の報知態様に基づいて、小当たり遊技が発生した場合に、自身の判断に基づいて大当たり遊技を発生させるかを選択できる。なお、オープニング演出の報知態様の詳細については後述する。

10

【2936】

また、本実施形態では、更新情報である大当たり発動残回数カウンタの値の初期値と1000がセットされるが、大当たり発動残回数カウンタの値としてセットされる初期値は、1000に限らず、他の値であってもよい。

【2937】

また、大当たり発動残回数カウンタの値としてセットされる初期値を複数設定しておき、大当たり発動残回数カウンタの値として初期値を設定する条件が成立した場合、複数設定された初期値から抽選などにより初期値を設定するようにしてもよい。一例において、初期値として、200、400、600、800及び1000を設定し、これらの1つが均等又は不均等な確率で抽選により設定されるようにすることが考えられる。

20

【2938】

このように、複数設定された初期値から抽選などにより初期値を設定することで、天井時短遊技状態であるb時短遊技が発生されるまでに必要な残りの特図遊技回数である天井発動残回数（天井発動残回数の値）を遊技者が把握し難くなる。そのため、天井発動残回数（天井発動残回数の値）がセットされたか否か、例えば遊技ホール側が遊技機のRAMクリアや小当たり確率（大当たり確率）を規定する設定値の変更を行ったか否かを遊技者が把握し難くなるため、RAMクリアや設定値の変更の有無が遊技者に把握されることに起因する遊技機の稼働率の低下が防止される。また、天井発動残回数（天井発動残回数の値）を遊技者が把握し難くなることで天井時短遊技状態であるb時短遊技が発生されるまでに必要な残りの特図遊技回数が少ない遊技機10を狙った、いわゆるハイエナ行為の対象となることが抑制される。加えて、天井発動残回数（天井発動残回数の値）を遊技者が把握し難くなることで、小当たり遊技が発生した場合のオープニング演出の報知態様が、後述の第1報知態様である得表示（図222（A）参照）から第2報知態様である損表示（図222（B）参照）に切り替えるタイミングも把握し難くなる。そのため、小当たり遊技が発生した場合に、第1報知態様である得表示（図222（A）参照）から第2報知態様である損表示（図222（B）参照）に切り替えることに期待しつつ遊技の進行を楽しむことができるため、遊技への興味や興味が向上される。

30

【2939】

<ステップS3303及びS3304>

図217の説明に戻り、ステップS3303では、MPU41は、天井発動残回数カウンタがセットされていること、即ち天井時短遊技状態である利益遊技状態のb時短遊技状態が発生していないことを示す天井未発動フラグをオンに設定し（ステップS3303）、処理をステップS3304に移行する。天井未発動フラグは、更新情報である天井発動残回数カウンタの値を減算する否かを判断するために、当該特図遊技回数管理処理のステップS3312において参照される。

40

【2940】

また、MPU41は、天井発動残回数カウンタセットフラグをオフに設定し（ステップS3304）、処理をステップS3305に移行する。

50

【2941】

<ステップS3305>

ステップS3305では、MPU41は、a時短5回セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する。a時短5回セットフラグは、利益遊技状態である大当たり遊技状態が終了する場合に移行される利益遊技状態であるa時短遊技状態の回数として5回をセット（a時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示すa時短残回数カウンタの初期値として5をセット）するフラグであり、時短遊技状態（a時短遊技状態、b時短遊技状態）での第2入賞口315への遊技球の入球を契機として発生した小当たり遊技の遊技中状態における羽役物装置83のV入賞口833への遊技球の入球に基づいて利益遊技状態である大当たり遊技状態が発生される場合に、後述の遊技状態移行処理のステップS3622又はステップS3625においてオンに設定される。

10

【2942】

MPU41は、a時短5回セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3305：Yes）、即ちa時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示すa時短残回数カウンタの初期値として5をセットする場合、処理をステップS3306に移行する。一方、MPU41は、a時短5回セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS3305：No）、即ちa時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示すa時短残回数カウンタの初期値として5をセットしない場合、処理をステップS3308に移行する。

【2943】

<ステップS3306及びS3307>

a時短5回セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3305：Yes）、MPU41は、a時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示す更新情報であるa時短残回数カウンタの初期値として5をセットすると共に（ステップS3306）、a時短5回セットフラグをオフに設定し（ステップS3307）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

20

【2944】

<ステップS3308>

a時短5回セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS3305：No）、即ちa時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示すa時短残回数カウンタの初期値として5をセットしない場合、MPU41は、a時短1回セットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3308）。a時短1回セットフラグは、利益遊技状態である大当たり遊技状態が終了する場合に移行される利益遊技状態であるa時短遊技状態の回数として1回をセット（a時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示すa時短残回数カウンタの初期値として1をセット）するフラグであり、通常遊技状態での第1入賞口314への遊技球の入球を契機として発生した小当たり遊技の遊技中状態における羽役物装置83のV入賞口833への遊技球の入球に基づいて利益遊技状態である大当たり遊技状態が発生される場合に、後述の遊技状態移行処理のステップS3618においてオンに設定される。

30

【2945】

MPU41は、a時短1回セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3308：Yes）、即ちa時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示すa時短残回数カウンタの初期値として1をセットする場合、処理をステップS3309に移行する。一方、MPU41は、a時短1回セットフラグがオフに設定されている場合（ステップS3308：No）、即ちa時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示すa時短残回数カウンタの初期値として1をセットしない場合、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

40

【2946】

<ステップS3309及びS3310>

a時短1回セットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3308：Yes）、MPU41は、a時短遊技状態での残りの時短遊技回数を示す更新情報であるa時短残回数カウンタの初期値として1をセットすると共に（ステップS3309）、a時短1回

50

セットフラグをオフに設定し（ステップ S 3 3 1 0）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2947】

<ステップ S 3 3 1 1 及び S 3 3 1 2>

天井発動残回数カウンタセットフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 3 0 1：No）、即ち更新情報として天井発動残回数カウンタをセットしない場合、MPU 4 1 は、特図遊技回数カウンタフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 3 1 1）。特図遊技回数カウンタフラグは、当該特図遊技回数管理処理において管理される各種カウンタの値の更新処理を実行させるフラグであり、図 2 1 4 の特図遊技制御処理におけるステップ S 1 9 1 1 において表示手段であるメイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において所定の図柄である第 1 特図又は第 2 特図が停止表示される場合にオンに設定される。

10

【2948】

MPU 4 1 は、特図遊技回数カウンタフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 3 1 1：Yes）、特図遊技回数カウンタフラグをオフに設定し（ステップ S 3 3 1 2）、処理をステップ S 3 3 1 3 に移行する。一方、MPU 4 1 は、特図遊技回数カウンタフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 3 1 1：No）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2949】

<ステップ S 3 3 1 3>

ステップ S 3 3 1 3 では、MPU 4 1 は、更新情報である天井発動残回数カウンタがセットされていること、即ち天井時短遊技状態である利益遊技状態の b 時短遊技状態が発生していない遊技中状態であることを示す天井未発動フラグがオンに設定されているか否かを判断する。

20

【2950】

MPU 4 1 は、天井時短遊技状態である利益遊技状態の b 時短遊技状態が発生していない遊技中状態であることを示す天井未発動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 3 1 3：Yes）、即ち更新情報である天井発動残回数カウンタがセットされている場合、処理をステップ S 3 3 1 4 に移行する。一方、天井時短遊技状態である利益遊技状態の b 時短遊技状態が発生していないことを示す天井未発動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 3 1 3：No）、即ち b 時短遊技状態が発生していない遊技中状態が終了して既に b 時短遊技状態が発生している場合、当該特図遊技回数管理処理を終了する。つまり、本実施形態では、b 時短遊技状態が発生した場合に、当該 b 時短遊技状態において大当たり遊技が発生しなかった場合には通常遊技状態に移行され、再び b 時短遊技状態が発生されることはない。

30

【2951】

<ステップ S 3 3 1 4 及び S 3 3 1 5>

MPU 4 1 は、天井時短遊技状態である利益遊技状態の b 時短遊技状態が発生していない特定の遊技状態であることを示す天井未発動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 3 1 3：Yes）、即ち特定情報である天井発動残回数カウンタがセットされている場合、天井発動残回数カウンタの値から 1 減算する更新処理を実行し（ステップ S 3 3 1 4）、減算後の天井発動残回数カウンタの値が更新終了状態である 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 3 1 5）。

40

【2952】

MPU 4 1 は、減算後の天井発動残回数カウンタの値が所定の更新状態である 0 である場合（ステップ S 3 3 1 5：Yes）、処理をステップ S 3 3 1 6 に移行し、減算後の天井発動残回数カウンタの値が所定の更新状態である 0 でない場合（ステップ S 3 3 1 5：No）、処理を図 2 1 8 のステップ S 3 3 2 0 に移行する。

【2953】

<ステップ S 3 3 1 6 ～ S 3 3 1 9>

50

減算後の天井発動残回数カウンタの値が所定の更新状態である0である場合（ステップS3315：Yes）、MPU41は、b時短遊技状態で実行可能な残りの時短遊技回数
を示す更新情報としてのb時短残回数カウンタの初期値として1000をセットする（ス
テップS3316）。即ち、天井発動残回数カウンタの値が所定の更新状態である0とな
って所定の遊技条件が成立する場合、所定の利益状態として最大で1000回の時短遊技
が可能な利益遊技状態としてb時短遊技状態が発生される。

【2954】

そして、MPU41は、更新情報であるb時短残回数カウンタがセットされていること
を示すb時短残回数カウンタセットフラグをオンに設定する（ステップS3317）。b
時短残回数カウンタセットフラグは、更新情報であるb時短残回数カウンタがセットされ
ている場合に、b時短残回数カウンタの更新処理を実行するか否かを判断するために、当
該特図遊技回数管理処理の図218のステップS3325において参照される。

10

【2955】

さらに、MPU41は、遊技状態を利益遊技状態であるb時短遊技状態に移行させるb
時短遊技状態移行フラグをオンに設定すると共に（ステップS3318）、天井時短遊技
状態である利益遊技状態のb時短遊技状態が発生していない遊技中状態であることを示す
天井未発動フラグをオフに設定し（ステップS3319）、当該特図遊技回数管理処理を
終了する。

【2956】

なお、b時短遊技状態移行フラグは、利益遊技状態であるb時短遊技状態に移行させる
か否かを判断するために、図230の遊技状態移行処理でのステップS3642において
参照される。

20

【2957】

<ステップS3320>

減算後の天井発動残回数カウンタの値が所定の更新状態である0でない場合（ステップ
S3315：No）、MPU41は、図218に示すように、更新情報であるa時短残回
数カウンタがセットされていることを示すa時短残回数カウンタセットフラグがオンに設
定されているか否かを判断する（ステップS3320）。

【2958】

MPU41は、更新情報であるa時短残回数カウンタがセットされていることを示すa
時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3320：Y
es）、処理をステップS3321に移行し、更新情報であるa時短残回数カウンタがセ
ットされていることを示すa時短残回数カウンタセットフラグがオフに設定されている場
合（ステップS3320：No）、処理をステップS3325に移行する。

30

【2959】

<ステップS3321及びS3322>

MPU41は、更新情報であるa時短残回数カウンタがセットされていることを示すa
時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップS3320：Y
es）、a時短残回数カウンタから1減算する更新処理を実行し（ステップS3321）
、減算後のa時短残回数カウンタの値が更新終了状態である0であるか否かを判断する（
ステップS3322）。

40

【2960】

MPU41は、減算後のa時短残回数カウンタの値が更新終了状態である0である場合
（ステップS3322：Yes）、処理をステップS3323に移行し、減算後のa時短
残回数カウンタの値が更新終了状態である0でない場合（ステップS3322：No）、
当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2961】

<ステップS3323及びS3324>

減算後のa時短残回数カウンタの値が更新終了状態である0である場合（ステップS3
322：Yes）、MPU41は、遊技状態を通常遊技状態に移行させるための通常遊技

50

状態移行フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 3 3 2 3）、更新情報である a 時短残回数カウンタがセットされていることを示す a 時短残回数カウンタセットフラグがオフに設定し（ステップ S 3 3 2 4）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2 9 6 2】

なお、通常遊技状態移行フラグは、遊技状態を通常遊技状態に移行させるか否か判断するために、図 2 3 1 の遊技状態移行処理でのステップ S 3 6 4 8 又は S 3 6 5 4 において参照される。

【2 9 6 3】

<ステップ S 3 3 2 5>

更新情報である a 時短残回数カウンタがセットされていることを示す a 時短残回数カウンタセットフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 3 2 0：No）、MPU 4 1 は、更新情報である b 時短残回数カウンタがセットされていることを示す b 時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 3 2 5）

10

【2 9 6 4】

MPU 4 1 は、更新情報である b 時短残回数カウンタがセットされていることを示す b 時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 3 2 5：Yes）、処理をステップ S 3 3 2 6 に移行し、更新情報である b 時短残回数カウンタがセットされていることを示す b 時短残回数カウンタセットフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 3 2 5：No）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

20

【2 9 6 5】

<ステップ S 3 3 2 6 及び S 3 3 2 7>

MPU 4 1 は、更新情報である b 時短残回数カウンタがセットされていることを示す b 時短残回数カウンタセットフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 3 2 5：Yes）、b 時短残回数カウンタから 1 減算する更新処理を実行し（ステップ S 3 3 2 6）、減算後の b 時短残回数カウンタの値が更新終了状態である 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 3 2 7）。

【2 9 6 6】

MPU 4 1 は、減算後の b 時短残回数カウンタの値が更新終了状態である 0 である場合（ステップ S 3 3 2 7：Yes）、処理をステップ S 3 3 2 8 に移行し、減算後の b 時短残回数カウンタの値が更新終了状態である 0 でない場合（ステップ S 3 3 2 7：No）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

30

【2 9 6 7】

<ステップ S 3 3 2 8 及び S 3 3 2 9>

減算後の b 時短残回数カウンタの値が更新終了状態である 0 である場合（ステップ S 3 3 2 7：Yes）、MPU 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態に移行させるための通常遊技状態移行フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 3 3 2 8）、更新情報である b 時短残回数カウンタがセットされていることを示す b 時短残回数カウンタセットフラグがオフに設定し（ステップ S 3 3 2 9）、当該特図遊技回数管理処理を終了する。

【2 9 6 8】

なお、通常遊技状態移行フラグは、遊技状態を通常遊技状態に移行させるか否か判断するために、図 2 3 1 の遊技状態移行処理でのステップ S 3 6 4 8 又は S 3 6 5 4 において参照される。

40

【2 9 6 9】

〔小当たり遊技制御処理〕

ここで、図 2 1 9 及び図 2 2 0 は、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 7 - 2 において MPU 4 1 によって実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の小当たり遊技制御処理では、始動入球領域である第 1 入賞口 3 1 4 又は第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球を契機として実行される大当たり抽選での抽選結果が小当たりであることに基づいて実行される小当たり遊技において、羽役物装

50

置 8 3 の作動を制御する処理が実行される。

【 2 9 7 0 】

<ステップ S 3 4 0 1>

図 7 7 に示すように、本実施形態の小当たり遊技制御処理では、M P U 4 1 は、まず所定の図柄である第 1 特図又は第 2 特図が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 0 1）。即ち、M P U 4 1 は、第 1 特図又は第 2 特図の停止表示によって特図遊技（第 1 特図遊技、第 2 特図遊技）の遊技中状態が終了されることで、小当たり遊技を開始可能なタイミングとなったか否かを判断する。なお、特図変動停止フラグは、図 2 1 4 の特図遊技制御処理でのステップ S 1 9 0 9 において第 1 特図又は第 2 特図を停止表示させる場合にオンに設定される。

10

【 2 9 7 1 】

M P U 4 1 は、特図変動停止フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 1 : Y e s ）、即ち特図遊技の遊技中状態が終了した小当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 0 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特図変動停止フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 1 : N o ）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理をステップ S 3 4 1 2 に移行する。

【 2 9 7 2 】

<ステップ S 3 4 0 2>

特図変動停止フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 1 : Y e s ）、即ち特図遊技の遊技中状態が終了した小当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、M P U 4 1 は、当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりであるか否かを判断する（ステップ S 3 4 0 2）。大当たり抽選の結果が小当たりであるか否かは、図 2 1 6 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 0 2 又は S 2 1 1 0 において特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E から読み出される当否情報に基づいて判断される。

20

【 2 9 7 3 】

M P U 4 1 は、当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合（ステップ S 3 4 0 2 : Y e s ）、処理をステップ S 3 4 0 3 に移行する。一方、M P U 4 1 は、大当たり抽選の結果が小当たりでない場合（ステップ S 3 4 0 2 : N o ）、即ち大当たり抽選の結果が外れである場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【 2 9 7 4 】

30

<ステップ S 3 4 0 3 及び S 3 4 0 4>

当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合（ステップ S 3 4 0 2 : Y e s ）、M P U 4 1 は、小当たり遊技が開始されることを示す小当たり遊技開始フラグをオンに設定する（ステップ S 3 4 0 3）。そして、M P U 4 1 は、小当たり遊技が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する小当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップ S 3 4 0 4）、処理をステップ S 3 4 0 5 に移行する。

【 2 9 7 5 】

小当たり遊技開始コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、小当たり遊技開始コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される小当たり遊技演出を設定することができる。

40

【 2 9 7 6 】

<ステップ S 3 4 0 5 及び S 3 4 0 6>

ステップ S 3 4 0 5 では、M P U 4 1 は、小当たり遊技のオープニングが実行されていることを示すオープニングフラグをオンに設定する。さらに、M P U 4 1 は、オープニングの残り時間を示す更新情報であるオープニング時間カウンタをセットし（ステップ S 3 4 0 6）、処理をステップ S 3 4 0 7 に移行する。

【 2 9 7 7 】

<ステップ S 3 4 0 7>

ステップ S 3 4 0 7 では、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態に移行するまでに必要な特図

50

遊技回数を示す更新情報である天井発動残回数カウンタの値が所定値以上であるか否かを判断する。ここで、ステップS3407での所定値は、当該小当たり遊技において所定の遊技条件である羽役物装置83のV入賞口833への遊技球の入球を成立させて特定の利益である大当たり遊技状態を発生させるほうが遊技者にとって有利であるか不利であるかの損益分岐点に設定される。

【2978】

この損益分岐点は、例えば当該遊技機10の工場出荷時において当該遊技機10に対する設計値に基づいて設定される。具体的には、図209(A)に示すように、工場出荷時における当該遊技機10に対する〈出荷時設計値〉が、(1)通常遊技状態で奨励される左打ちを行った場合において1回の特図遊技を実行するのに必要な打ち出し球数が12.5玉(−250玉の差玉当たり20回)、(2)天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に到達する前に最初の大当たり遊技(初当たり)が発生した場合の差玉期待値が+3000玉、(3)天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に到達した場合に最初の大当たり遊技(初当たり)が発生した場合の差玉期待値が+4500玉である場合、〈計算値〉は、(1)b時短遊技状態での初当たりと、b時短遊技状態に到達する前の初当たりとの差玉期待値の差が1500玉となり、(2)この差玉期待値の差である1500玉で実行可能な特図遊技の実行回数の理論値が120回となる。そのため、〈結果〉としては、(1)天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に到達するまでの残回数が120回以下の場合には、b時短遊技状態に到達させた場合の期待差玉数がプラスとなり、(2)天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に到達するまでの残回数が121回以上の場合には、b時短遊技状態に到達させた場合の期待差玉数がマイナスとなる。そのため、当該遊技機10の工場出荷時において当該遊技機10に対する設計値が図209(A)に示す例である場合、損益分岐点が121に設定される。

【2979】

図219の説明に戻り、MPU41は、天井発動残回数カウンタの値が所定値以上である場合(ステップS3407:Yes)、例えば天井発動残回数カウンタの値が121以上である場合、処理をステップS3409に移行する。一方、MPU41は、天井発動残回数カウンタの値が所定値未満である場合(ステップS3407:No)、例えば天井発動残回数カウンタの値が121未満(120以下)である場合、処理をステップS3408に移行する。

【2980】

〈ステップS3408〉

天井発動残回数カウンタの値が所定値未満である場合(ステップS3407:No)、例えば天井発動残回数カウンタの値が121未満(120以下)である場合、MPU41は、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する(ステップS3408)。

【2981】

ここで、天井発動残回数カウンタの値が所定値未満である場合(ステップS3407:No)、例えば天井発動残回数カウンタの値が121未満(120以下)である場合には、天井発動残回数カウンタの値が0である場合が含まれる。一方、天井発動残回数カウンタの値が0となるのは、b時短遊技状態(天井時短遊技状態の発動中)である場合、又はb時短遊技状態終了後の通常遊技状態(天井時短遊技状態の発動済)である場合である。そのため、b時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断することで、b時短遊技状態(天井時短遊技状態の発動中)であるために天井発動残回数カウンタの値が0あるか、b時短遊技状態終了後の通常遊技状態(天井時短遊技状態の発動済)であるために天井発動残回数カウンタの値が0あるかを判断する。

【2982】

MPU41は、b時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合(ステップS3408:Yes)、即ちb時短遊技状態(天井時短遊技状態の発動中)である場合、処理をステップS3409に移行する。一方、MPU41は、b時短遊技状態フラグがオフに設定

されている場合（ステップ S 3 4 0 8 : N o）、即ち b 時短遊技状態終了後の通常遊技状態（天井時短遊技状態の発動済）である場合、処理をステップ S 3 4 1 0 に移行する。

【 2 9 8 3 】

<ステップ S 3 4 0 9>

ステップ S 3 4 0 9 では、M P U 4 1 は、音声ランプ制御装置 5 に対して、小当たり遊技のオープニング演出として、後述の図柄表示部 3 4 1 において得表示オープニング演出（図 2 2 2（A）参照）を設定させる得表示 O P コマンドを設定する。この得表示 O P コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、得表示 O P コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 において実行される小当たり遊技のオープニング演出として得表示オープニング演出を設定することができる。

10

【 2 9 8 4 】

図 2 2 2（A）に示すように、得表示オープニング演出は、損益分岐点に到達していないこと、即ち当該小当たり遊技において大当たり遊技を発生させるほうが有利であることを第 1 報知態様で小当たり遊技のオープニングにおいて報知する演出である。図 2 2 2（A）に示す例では、図柄表示部 3 4 1 において「右打ちで V を狙うんだ！なぜならそのほうがお得だからだ！」との文字画像による第 1 報知態様で当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させるほうが有利であることが報知される。

【 2 9 8 5 】

<ステップ S 3 4 1 0>

天井発動残回数カウンタの値が所定値未満であり（ステップ S 3 4 0 7 : N o）、例えば天井発動残回数カウンタの値が 1 2 1 未満（1 2 0 以下）であり、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 8 ; N o）、M P U 4 1 は、音声ランプ制御装置 5 に対して、小当たり遊技のオープニング演出として、後述の図柄表示部 3 4 1 において損表示オープニング演出（図 2 2 2（B）参照）を設定させる損表示 O P コマンドを設定する（ステップ S 3 4 1 0）。この損表示 O P コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、損表示 O P コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 において実行される小当たり遊技のオープニング演出として損表示オープニング演出を設定することができる。

20

30

【 2 9 8 6 】

図 2 2 2（B）に示すように、損表示オープニング演出は、損益分岐点に到達していること、即ち当該小当たり遊技において大当たり遊技を発生させないほうが有利であることを第 2 報知態様で小当たり遊技のオープニングにおいて報知する演出である。図 2 2 2（B）に示す例では、図柄表示部 3 4 1 において「いやー、もうちょっと待てば必ず R U S H に入る天井時短になるんだから今 V に入れて 1 / 2 にかける必要は無いと思うけど、どうしてもそうしたいなら右打ちすれば？」との文字画像による第 2 報知態様で当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させないほうが有利であることが報知される。

【 2 9 8 7 】

ここで、得表示 O P コマンドが設定されるステップ S 3 4 0 9 には、天井発動残回数カウンタの値が所定値以上である場合（ステップ S 3 4 0 7 : Y e s）、例えば天井発動残回数カウンタの値が 1 2 1 以上である場合に移行される。即ち、天井発動残回数カウンタの値が所定値未満となるまでは、例えば天井発動残回数カウンタの値が 1 2 0 未満となるまでは、b 時短遊技状態に移行されるよりも差玉期待値が高い状態であるので、小当たり遊技のオープニングにおいて、図柄表示部 3 4 1 に第 1 報知態様により当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させるほうが有利であることが報知される。

40

【 2 9 8 8 】

また、得表示 O P コマンドが設定されるステップ S 3 4 0 9 には、b 時短遊技状態において小当たり遊技が発生する場合にも移行される（ステップ S 3 4 0 8 : Y e s）。即ち、b 時短遊技状態において発生した小当たり遊技では、大当たり遊技が終了した場合の R

50

USH状態への突入率が100%と優遇されているため、小当たり遊技のオープニングにおいて、図柄表示部341に第1報知態様により当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させるほうが有利であることが報知される。

【2989】

これに対して、損表示OPコマンドが設定されるステップS3410には、天井発動残回数カウンタの値が所定値未満であり（ステップS3407：No）、例えば天井発動残回数カウンタの値が121未満（120以下）であり、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3408；No）に移行される。即ち、天井発動残回数カウンタの値が所定値未満となってからb時短遊技状態に移行されるまでは、例えば天井発動残回数カウンタの値が120未満から0の間では、b時短遊技状態に移行させるほうが差玉期待値の高い状態であるので、小当たり遊技のオープニングにおいて、図柄表示部341に第2報知態様により当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させるないが有利であることが報知される。

10

【2990】

つまり、本実施形態では、図221（B）に示すように、大当たり抽選の結果が同じ小当たりであったとしても、小当たり遊技のオープニング演出として、天井発動残回数カウンタの値が所定値以上であって損益分岐点に到達するまでは（例えば天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行するまでの残回数が121回までは）、第1報知態様による得表示オープニング演出が実行され、天井発動残回数カウンタの値が所定値未満であって損益分岐点に到達してからは（例えば天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行するまでの残回数が120回からは）、第2報知態様による損表示オープニング演出が実行され、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行してからは、第1報知態様による得表示オープニング演出が実行される。

20

【2991】

<ステップS3411>

図219の説明に戻り、得表示OPコマンドを設定した場合（ステップS3409）又は損表示OPコマンドを設定した場合（ステップS3410）、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが開始されることを音声ランプ制御装置5に通知する小当たりオープニング開始コマンドを設定し（ステップS3411）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

30

【2992】

小当たりオープニング開始コマンドは、図209のメイン処理でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。音声ランプ制御装置5では、小当たりオープニング開始コマンドを受信することで、図柄表示部341などにおいて実行される小当たり遊技でのオープニング演出として、図222（A）に示す第1報知態様である得表示オープニング演出、又は図222（B）に示す第2報知態様である損表示オープニング演出を開始することができる。

【2993】

ところで、従来の遊技機としては、本実施形態の遊技機10と同様に、規定回数の特図遊技の実行により、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態を発生させるものがある。このような天井機能を搭載した従来の遊技機としては、前述のように、例えば前記規定回数に到達するまでに必要な特図遊技の残回数を報知するものがあるが、このような報知では、前述の損益分岐点を超えているか否かを判断すること、即ち大当たりを発生させることが遊技者に有利であるか否かの判断が困難である。また、天井機能を搭載した従来の遊技機では、小当たり遊技が発生した場合、当該小当たり遊技のオープニング演出において、右打ちを促す表示がなされる。そのため、遊技者は、小当たり遊技が発生した場合、右打ちを促す表示に従って、無条件で右打ちを行ってしまう。

40

【2994】

一方、本実施形態のように、小当たり遊技が発生しても大当たり遊技を発生させないことで天井発動残回数カウンタの値が初期化されない遊技機10では、従来の遊技機と同様

50

に小当たり遊技のオープニング演出において右打ちを促す表示を行うと、損益分岐点を超えていて大当たり遊技を発生させずに天井時短遊技状態であるb時短遊技状態の恩恵を受けるほうが有利である場合に遊技者が無条件に右打ちを行ってしまい、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態の恩恵を受けることができないことが懸念される。

【2995】

これに対して、本実施形態では、所定の判定の結果である特図大当たり抽選の結果が特定判定結果である小当たりである場合、特定情報である天井発動残回数カウンタの値が所定の更新状態である0となるよりも所定期間前である所定タイミングである損益分岐点に到達までは、特定判定結果である小当たりであることが第1報知態様である得表示オープニング演出により報知され、特定タイミングである損益分岐点に到達してからは特定判定結果である小当たりであることが第2報知態様である損表示オープニング演出により報知されるよう切り替えられる。つまり、本実施形態では、小当たり遊技が発生した段階での遊技者が獲得可能な利益の期待値に応じた報知態様で、当該小当たり遊技のオープニングにおいて利益の期待値の損得が報知される。そのため、遊技者は、小当たり遊技が発生した場合に、当該小当たり遊技のオープニング演出に着目することで、遊技者が獲得可能な利益の損得を把握することが可能であるため、遊技者は当該小当たり遊技のオープニング演出での報知態様に基づいて大当たり遊技を発生させるか否かを判断することができる。その結果、当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させないほうが獲得可能な利益の期待値が高い場合に大当たり遊技を発生させないことを選択し、当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させるほうが獲得可能な利益の期待値が高い場合に大当たり遊技を発生させることを選択することが可能になる。これにより、遊技者は、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態への移行が近づいた段階での大当たり遊技の発生によってb時短遊技状態に移行しないという不利益の発生を回避できるため、遊技の興趣が向上される。

【2996】

特に、本実施形態では、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行させることが遊技者に有利な特定タイミングである損益分岐点に到達してから小当たり遊技のオープニング演出の報知態様が切り替えられるため、損益分岐点の近傍の損益判断が困難な期間において小当たり遊技が発生した場合であっても、小当たり遊技のオープニング演出の報知態様に基づいて自身に有利な判断をより確実に行うことが可能になる。

【2997】

また、本実施形態では、小当たり遊技のオープニング演出として、損益分岐点に到達するまでは第1報知態様による得表示オープニング演出が実行され、損益分岐点に到達してからは、第2報知態様による損表示オープニング演出が実行される。つまり、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行するまでに発生した小当たり遊技のオープニング演出として第2報知態様による損表示オープニング演出が実行されると、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行されるまでに第1報知態様による得表示オープニング演出が実行されることはない。

【2998】

このように、天井時短遊技状態であるb時短遊技状態に移行するまでに発生した小当たり遊技のオープニング演出として第2報知態様による損表示オープニング演出が実行されると、第1報知態様による得表示オープニング演出が実行されることがないことで、小当たり遊技が発生した場合に大当たり遊技を発生させないことが有利であることを継続して理解できる。そのため、小当たり遊技のオープニング演出として最初に第2報知態様による損表示オープニング演出が実行されて以降に、第2報知態様による損表示オープニング演出が実行された場合、短時間で大当たりを発生させないことが有利であることを判断できる。その結果、小当たり遊技が発生した場合に大当たり遊技を発生しないほうが有利である場合に、誤って大当たり遊技を発生させてしまう可能性が低減されるため、遊技者が不測の不利益を受けることが防止される。

【2999】

ところで、遊技機 10 の特性として設定される損益分岐点は、遊技時間に余裕がある遊技者にとっては有効であるが、遊技者が遊技可能な時間は、遊技ホールの閉店時間までの残り時間や、遊技者の自己都合などにより異なる。即ち、遊技者の遊技時間に余裕のない状況では損益分岐点は有効でないことがある。

【3000】

また、前述のように、損益分岐点は、例えば工場出荷時の設計値に基づいてピンポイントで設定される。一方、実際の損益分岐点は、遊技盤 31 に打設された遊技釘の出荷時の状態や経年劣化の程度などにより遊技機 10 ごとに異なり、また遊技者による遊技球の発射強度によっても異なる。つまり、各種入賞口 313～316 への遊技球の入賞率が経年劣化や遊技者による遊技球の発射強度などによって変化し得るものであるため、損益分岐点も一定ではない。また、損益分岐点は、特図遊技を実行する権利の保留が一定数ある場合の止め打ちの有無、変動表示時間が長いリーチ演出が発生したときの止め打ちの有無、小当たり遊技や大当たり遊技のオープニングでの止め打ちの有無などの遊技技法によっても異なる。つまり、実際の損益分岐点は、遊技機 10 毎に固有の要因や、遊技者の遊技技法に基づく要因などによって変動する。そのため、実際の損益分岐点は、固定的にピンポイントで設定できるものではなく、工場出荷時の設計値に基づいて設定される値の近似値となる。

【3001】

そこで、本実施形態の遊技機 10 では、特図大当たり抽選の結果が小当たりである場合、損益分岐点に到達する一定期間前のタイミングを所定タイミングとして設定し、損益分岐点に到達してから一定期間後のタイミングを特定タイミングとして設定してもよい。即ち、所定タイミングと特定タイミングとの間に損益分岐点を含む中間期間を設定してもよい。この場合においても、小当たり遊技のオープニング演出として、所定タイミングまでは第 1 報知態様である得表示オープニング演出が実行され、特定タイミングからは第 2 報知態様である損表示オープニング演出が実行される。そして、所定タイミングと特定タイミングとの間に設定される損益分岐点を含む中間期間では、小当たり遊技のオープニング演出を、第 1 報知態様及び第 2 報知態様とは異なる第 3 報知態様で実行することが考えられる。

【3002】

例えば、図 222 (A) に示すように、例えば損益分岐点が天井時短遊技状態である b 時短遊技状態が発生するまでの残りの特図遊技回数（天井発動残回数）が 120 回である場合、損益分岐点よりも 20 回前の天井発動残回数が 140 回である点を所定タイミングとし、損益分岐点よりも 20 回後の天井発動残回数が 100 回である点を特定タイミングとし、天井発動残回数が 100 回～140 回を中間期間として設定することが考えられる。そして、小当たり遊技のオープニング演出として、所定タイミングである天井発動残回数が 140 回までは第 1 報知態様である得表示オープニング演出を実行し、特定タイミングである天井発動残回数が 100 回からは第 2 報知態様である損表示オープニング演出を実行し、中間期間である天井発動残回数が 100 回～140 回では第 3 報知態様のオープニング演出を実行することが考えられる。

【3003】

また、小当たり遊技のオープニングでの第 3 報知態様のオープニング演出としては、例えば得表示でも損表示でもないこれらの間のボーダー報知が考えられる。ボーダー報知としては、例えば図 223 (B) に示す例のように、図柄表示部 341 において「いやー、俺にはどっちとも言えんな～右打ちして V に入れるかはもうお前が決めるしかないよ」との文字画像による第 3 報知態様が考えられ、当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技が発生させることの有利不利さが曖昧に報知される。

【3004】

なお、損益分岐点を含む中間期間での第 3 報知態様のボーダー報知としては、他の態様のものも考えられる。例えば、図 223 (C) に示すように、第 3 報知態様のボーダー報知としては、第 1 報知態様の得表示と第 2 報知態様の損表示とを交互に切り替えて表示す

る態様も考えられる。

【3005】

このように、本実施形態において、所定タイミングと特定タイミングとの間の損益分岐点を含む中間期間が設定され、この中間期間において第3報知態様のボーダー報知がなされるようにすることで、実際の損益分岐点の変動的で工場出荷時の設計値に基づいてピンポイントで設定される損益分岐点とは異なるとしても、損益分岐点を含む中間期間での第3報知態様のボーダー報知によって、小当たり遊技が発生した場合に大当たり遊技を発生させることの損得が判断し難い状況であることが報知される。その結果、遊技者は、小当たり遊技が発生した場合のオープニング演出として第3報知態様のボーダー報知がなされた場合に、流動的な要因を考慮するなどして自己の判断で大当たり遊技を発生させるかを決定することができる。

10

【3006】

<ステップS3412>

図219の説明に戻り、特図変動停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS3401：No）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが実行されていることを示すオープニングフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3412）。

【3007】

MPU41は、オープニングフラグがオンに設定されている場合（ステップS3412：Yes）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されている場合、処理をステップS3413に移行する。一方、MPU41は、オープニングフラグがオフに設定されている場合（ステップS3412：No）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されていない場合、処理を図120のステップS3423に移行する。

20

【3008】

<ステップS3413～S3416>

オープニングフラグがオンに設定されている場合（ステップS3412：Yes）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されている場合、MPU41は、オープニングの残り時間を示す更新情報であるオープニング時間カウンタの値から1減算する更新処理を実行し（ステップS3413）、減算後のオープニング時間カウンタが更新終了状態である0であるか否かを判断する（ステップS3414）。即ち、MPU41は、小当たり遊技において、オープニングを終了して羽役物装置83の可動羽部832の作動を開始するタイミングであるか否かを判断する。

30

【3009】

MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタが0である場合（ステップS3414：Yes）、即ち小当たり遊技において、オープニングを終了して羽役物装置83の可動羽部832の作動を開始するタイミングである場合、オープニングが実行されていることを示すオープニングフラグをオフに設定し（ステップS3415）、さらに小当たりのオープニングが終了することを音声ランプ制御装置5に通知する小当たりオープニング終了コマンドを設定し（ステップS3416）、処理をステップS3417に移行する。

【3010】

小当たりオープニング終了コマンドは、図209のメイン処理でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。音声ランプ制御装置5では、小当たりオープニング終了コマンドを受信することで、図柄表示部341などにおいて実行される小当たり遊技でのオープニング演出を終了することができる。

40

【3011】

一方、MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタが0でない場合（ステップS3414：No）、即ち小当たり遊技において、オープニングを終了して羽役物装置83の可動羽部832の作動を開始するタイミングでない場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3012】

50

<ステップ S 3 4 1 7 及び S 3 4 1 8>

ステップ S 3 4 1 7 では、羽役物装置 8 3 の可動羽部 8 3 2 の作動を開始させ（ステップ S 3 4 1 7）、処理をステップ S 3 4 1 8 に移行する。このように、小当たり遊技において羽役物装置 8 3 の可動羽部 8 3 2 の作動が開始されることで、羽役物装置 8 3 の導入口 8 3 1 が開放され、羽役物装置 8 3 の内部への遊技球の入球が可能となる。

【3 0 1 3】

そして、MPU 4 1 は、羽役物装置 8 3 の可動羽部 8 3 2 の作動が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する可動羽部作動開始コマンドを設定し（ステップ S 3 4 1 8）、処理をステップ S 3 4 1 9 に移行する。

【3 0 1 4】

可動羽部作動開始コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、可動羽部作動開始コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される小当たり遊技での可動羽部作動演出を実行することができる。

【3 0 1 5】

<ステップ S 3 4 1 9 及び S 3 4 2 0>

ステップ S 3 4 1 9 では、MPU 4 1 は、可動羽部 8 3 2 が作動されていることを示す可動羽部作動フラグをオンに設定する。そして、MPU 4 1 は、可動羽部 8 3 2 の残りの作動時間を示す更新情報である可動羽部作動時間カウンタをセットする処理を実行し（ステップ S 3 4 2 0）、処理をステップ S 3 4 2 1 に移行する。

【3 0 1 6】

<ステップ S 3 4 2 1 及び S 3 4 2 2>

ステップ S 3 4 2 1 では、MPU 4 1 は、V 入賞口開閉部 8 3 5 の作動を開始し、さらに V 入賞口開閉部 8 3 5 の残り時間を示す更新情報である V 入賞口開閉部作動時間カウンタをセットし（ステップ S 3 4 2 2）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3 0 1 7】

<ステップ S 3 4 2 3>

オープニングフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 1 2：No）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されていない場合、図 2 2 0 に示すように、MPU 4 1 は、V 入賞口開閉部 8 3 5 が作動中であることを示す V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 3）。MPU 4 1 は、V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 3：Yes）、処理をステップ S 3 4 2 4 に移行し、V 入賞口開閉部作動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 3：No）、処理をステップ S 3 4 3 2 に移行する。

【3 0 1 8】

<ステップ S 3 4 2 4>

V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 3：Yes）、MPU 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 4）。V 入賞フラグは、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球した場合にステップ S 3 4 2 6 においてオンに設定される。

【3 0 1 9】

MPU 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 4：Yes）、処理をステップ S 3 4 2 8 に移行し、V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 4：No）、処理をステップ S 3 4 2 5 に移行する。

【3 0 2 0】

<ステップ S 3 4 2 5 ～ S 3 4 2 7>

V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 4：No）、MPU 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したか否かを判断する（ステップ S

10

20

30

40

50

3 4 2 5)。羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したか否かは、例えば図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 3 の賞球コマンド設定処理において、V 入賞口 8 3 3 に遊技球 9 9 が入球されたことが入球センサ（不図示）によって検知されたか否かによって判断される。

【3 0 2 1】

M P U 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球した場合（ステップ S 3 4 2 5：Y e s）、V 入賞フラグをオンに設定し（ステップ S 3 4 2 6）、さらに、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球したことを音声ランプ制御装置 5 に通知する V 入賞コマンドを設定し（ステップ S 3 4 2 7）、処理をステップ S 3 4 2 8 に移行する。

10

【3 0 2 2】

V 入賞コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、V 入賞コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される小当たり遊技での V 入賞演出を終了することができる。

【3 0 2 3】

一方、M P U 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 に遊技球が入球していない場合（ステップ S 3 4 2 5：N o）、処理をステップ S 3 4 2 8 に移行する。

【3 0 2 4】

<ステップ S 3 4 2 8 及び S 3 4 2 9>

ステップ S 3 4 2 8 では、M P U 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 の残りの作動時間を示す更新情報である V 入賞口開閉部作動時間カウンタから 1 減算する更新処理を実行し、さらに、M P U 4 1 は、減算後の V 入賞口開閉部作動時間カウンタの値が更新終了状態となる 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 9）。即ち、M P U 4 1 は、羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 を復帰（V 入賞口 8 3 3 を閉鎖）させるタイミングであるか否かを判断する。

20

【3 0 2 5】

M P U 4 1 は、減算後の V 入賞口開閉部作動時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 4 2 9：Y e s）、即ち羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 を復帰（V 入賞口 8 3 3 を閉鎖）させるタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 3 0 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後の V 入賞口開閉部作動時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 4 2 9：N o）、即ち羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 を復帰（V 入賞口 8 3 3 を閉鎖）させるタイミングでない場合、処理をステップ S 3 4 3 2 に移行する。

30

【3 0 2 6】

<ステップ S 3 4 3 0 及び S 3 4 3 1>

減算後の V 入賞口開閉部作動時間カウンタの値が更新終了状態の 0 である場合（ステップ S 3 4 3 0：Y e s）、即ち羽役物装置 8 3 の V 入賞口開閉部 8 3 5 を復帰（V 入賞口 8 3 3 を閉鎖）させるタイミングである場合、M P U 4 1 は、V 入賞口開閉部 8 3 5 を復帰させると共に（ステップ S 3 4 3 0）、V 入賞口開閉部 8 3 5 が作動されていることを示す V 入賞口開閉部作動フラグをオフに設定し（ステップ S 3 4 3 1）、処理をステップ S 3 4 3 3 に移行する。

40

【3 0 2 7】

<ステップ S 3 4 3 2>

ステップ S 3 4 3 2 では、M P U 4 1 は、可動羽部 8 3 2 が作動されていることを示す可動羽部作動フラグがオンに設定されているか否かを判断する。M P U 4 1 は、可動羽部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 3 2：Y e s）、処理をステップ S 3 4 3 3 に移行し、可動羽部作動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 3 2：N o）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3 0 2 8】

<ステップ S 3 4 3 3 及び S 3 4 3 4>

50

可動羽部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 3 2 : Y e s）、M P U 4 1 は、可動羽部 8 3 2 の残りの作動時間を示す更新情報である可動羽部作動時間カウンタの値から 1 減算する更新処理を実行する（ステップ S 3 4 3 3）。そして、M P U 4 1 は、減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が更新終了状態の 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 4 3 4）。即ち、M P U 4 1 は、可動羽部 8 3 2 を復帰させて導入口 8 3 1 を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【3 0 2 9】

M P U 4 1 は、減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が更新終了状態の 0 である場合（ステップ S 3 4 3 4 : Y e s）、即ち可動羽部 8 3 2 を復帰させて導入口 8 3 1 を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 3 5 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が更新終了状態の 0 でない場合（ステップ S 3 4 3 4 : N o）、即ち可動羽部 8 3 2 を復帰させて導入口 8 3 1 を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングでない場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3 0 3 0】

<ステップ S 3 4 3 5 ~ S 3 4 3 8 >

減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が更新終了状態の 0 である場合（ステップ S 3 4 3 4 : Y e s）、M P U 4 1 は、可動羽部 8 3 2 を復帰させることで小当たり遊技を終了する（ステップ S 3 4 3 5）。そして、M P U 4 1 は、可動羽部 8 3 2 が作動されていることを示す可動羽部作動フラグをオフに設定すると共に（ステップ S 3 4 3 6）、小当たり遊技が終了したことを示す小当たり遊技終了フラグをオンに設定し（ステップ S 3 4 3 7）、さらに、小当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知する小当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップ S 3 4 3 8）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3 0 3 1】

なお、小当たり遊技終了コマンドは、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、小当たり遊技終了コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される小当たり遊技演出を終了することができる。

【3 0 3 2】

[大当たり遊技制御処理]

ここで、図 2 2 5 ~ 図 2 2 8 は、図 2 0 9 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 7 において実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。大当たり遊技制御処理では、小当たり遊技において羽役物装置 8 3 の V 入賞口 8 3 3 への遊技球の入球により所定の遊技条件が成立した場合、利益発生手段によって特定の利益として、可変入球手段である可変入賞口 3 1 6 に設けられる開閉扉 3 1 9 の開閉制御などの大当たり遊技を発生させる処理が実行される。以下、図 2 2 5 ~ 図 2 2 8 を参照しつつ、大当たり遊技制御処理を説明する。

【3 0 3 3】

<ステップ S 3 5 0 1 >

図 2 2 5 に示すように、本実施形態の大当たり遊技制御処理では、まず M P U 4 1 は、小当たり遊技が終了することを示す小当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 5 0 1）。小当たり遊技終了フラグは、小当たり遊技を終了する場合に、図 2 2 0 の小当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 4 7 においてオンに設定される。

【3 0 3 4】

M P U 4 1 は、小当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップ S 3 5 0 1 : Y e s）、即ち小当たり遊技が終了するタイミングである場合、処理をステップ S 3 5 0 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、小当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップ S 3 5 0 1 : N o）、即ち小当たり遊技が終了するタイミングでない場合、処理をステップ S 3 5 1 2 に移行する。

【3035】

<ステップS3502>

小当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS3501：Yes）、即ち小当たり遊技が終了するタイミングである場合、小当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップS3502）、処理をステップS3503に移行する。

【3036】

<ステップS3503及びS3504>

ステップS3503では、MPU41は、小当たり遊技において羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球したことを示すがV入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する。即ち、MPU41は、大当たり遊技の実行という特定の利益が利益発生手段によって発生される所定の遊技条件である小当たり遊技において羽役物装置83のV入賞口833に遊技球の入球が成立したか否かを判断する。

【3037】

なお、V入賞フラグは、小当たり遊技において羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球した場合に、図220の小当たり遊技制御処理でのステップS3426においてオンに設定される。

【3038】

MPU41は、V入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップS3503：Yes）、V入賞フラグをオフに設定し（ステップS3504）、処理をステップS3505に移行する。一方、MPU41は、V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS3503：No）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3039】

<ステップS3505>

ステップS3505では、MPU41は、大当たり遊技を開始すること、及び大当たり遊技の種別（4R時短大当たり遊技又は16R時短大当たり遊技）を音声ランプ制御装置5に通知する大当たり遊技開始コマンドを設定し、処理をステップS3506に移行する。大当たり遊技開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、大当たり遊技開始コマンドに基づいて、大当たり遊技種別に応じた大当たり遊技演出を実行することができる。

【3040】

<ステップS3506>

ステップS3506では、MPU41は、大当たり遊技を開始することを示す大当たり遊技開始フラグをオンに設定し、処理をステップS3507に移行する。大当たり遊技開始フラグは、後述の図220の遊技状態移行処理でのステップS3516において、当該大当たり遊技の終了後に移行されるa時短遊技状態での残りのa時短遊技回数を示す更新情報であるa時短残回数カウンタの初期値を設定するか否かを判断する場合に参照される。

【3041】

<ステップS3507>

ステップS3507では、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオンに設定し、処理をステップS3508に移行する。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技の実行中であるか否かを判断するために、図210の普図遊技制御処理のステップS1504及び図214の特図遊技制御処理のステップS1901において参照される。

【3042】

<ステップS3508>

ステップS3508では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示す更新情報であるラウンド数カウンタをセットし、処理をステップS3507に移行する。具体的には、MPU41は、大当たり種別が4R時短大当たりである場合にラウン

10

20

30

40

50

ド数カウンタに「4」をセットし、大当たり種別が16R確変大当たりである場合にラウンド数カウンタに「16」をセットする。

【3043】

<ステップS3509>

ステップS3509では、MPU41は、大当たり遊技のオープニングを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するオープニング開始コマンドを設定し、処理をステップS3510に移行する。オープニング開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、オープニング開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてオープニング演出を開始させることができる。

10

【3044】

<ステップS3510>

ステップS3510では、MPU41は、オープニングの残り時間を示す更新情報であるオープニング時間カウンタをセットし、処理をステップS3511に移行する。オープニング時間カウンタは、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図226のステップS3514において参照される。

【3045】

<ステップS3511>

ステップS3511では、MPU41は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオンに設定し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。オープニング中フラグは、オープニング中であるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理でのステップS3512において参照される。

20

【3046】

<ステップS3512>

小当たり開始フラグがオフである場合（ステップS3501：No）、即ち小当たり遊技を開始させるタイミングでない場合、MPU41は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3512）。

【3047】

MPU41は、オープニング中フラグがオンである場合（ステップS3512：Yes）、即ちオープニングの実行中である場合、処理を図226のステップS3513に移行する。一方、オープニング中フラグがオフである場合（ステップS3512：No）、即ちオープニングの実行中でない場合、処理をステップS3523に移行する。

30

【3048】

<ステップS3513及びS3514>

オープニング中フラグがオンである場合（ステップS3512：Yes）、即ちオープニングの実行中である場合、図226に示すように、MPU41は、オープニングの残り時間を示す更新情報であるオープニング時間カウンタの値から1減算する更新処理を実行し（ステップS3513）、減算後のオープニング時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3514）。即ち、MPU41は、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断する。

40

【3049】

MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタの値が0である場合（ステップS3514：Yes）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、処理をステップS3515に移行する。一方、MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3514：No）、即ちオープニングを終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3050】

<ステップS3515及びS3516>

減算後のオープニング時間カウンタの値が0である場合（ステップS3514：Yes

50

）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、MPU41は、大当たり遊技のオープニングが終了することを音声ランプ制御装置5に通知するオープニング終了コマンドを設定する（ステップS3515）。このオープニング終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、オープニング終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行されるオープニング演出を終了させることができる。

【3051】

そして、MPU41は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオフに設定し（ステップS3516）、処理をステップS3517に移行する。

10

【3052】

<ステップS3517>

ステップS3517では、MPU41は、複数回（4回又は16回）のラウンド遊技が実行される開閉実行モードが開始されることを音声ランプ制御装置5に通知する開閉実行モード開始コマンドを設定し、処理をステップS3518に移行する。開閉実行モード開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、開閉実行モード開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行される開閉実行モード演出を開始させることができる。

20

【3053】

<ステップS3518>

ステップS3518では、MPU41は、ラウンド遊技が開始されることを音声ランプ制御装置5に通知するラウンド遊技開始コマンドを設定し、処理をステップS3519に移行する。ラウンド遊技開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、ラウンド遊技開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてラウンド数表示などを含む各ラウンド遊技に対応するラウンド遊技演出を開始させることができる。

【3054】

<ステップS3519及びS3520>

ステップS3519では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示す更新情報であるラウンド数カウンタから1減算する更新処理を実行し、さらに、開閉扉319を作動することによって可変入球手段である可変入賞口316を開放させ（ステップS3520）、処理をステップS3521に移行する。

30

【3055】

<ステップS3521及びS3522>

ステップS3521では、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオンに設定し、さらに、ラウンド遊技の残り時間を示す更新情報であるラウンド遊技時間カウンタをセットし（ステップS3522）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。ラウンド遊技時間カウンタは、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉319を復帰させて可変入賞口316を閉鎖）するタイミングであるか判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図227のステップS3525において参照される。

40

【3056】

<ステップS3523>

図225に戻り、オープニング中フラグがオフである場合（ステップS3512：No）、即ちオープニングの実行中でない場合、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3523）。即ち、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であるか否かを判断する。

【3057】

50

MPU41は、ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップS3523：Yes）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、処理を図227のステップS3524に移行する。一方、MPU41は、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップS3523：No）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、処理をステップS3537に移行する。

【3058】

＜ステップS3524及びS3525＞

ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップS3523：Yes）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、図227に示すように、MPU41は、ラウンド遊技の残り時間を示す更新情報であるラウンド遊技時間カウンタの値から1減算する更新処理を実行する（ステップS3524）。そして、MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3525）。即ち、MPU41は、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰により可変入球手段である可変入賞口316を閉鎖）するタイミングであるか否かを判断する。

10

【3059】

MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS3525：Yes）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰により可変入球手段である可変入賞口316を閉鎖）するタイミングである場合、処理をステップS3529に移行する。一方、MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3525：No）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰により可変入球手段である可変入賞口316を閉鎖）するタイミングでない場合、処理をステップS3526に移行する。

20

【3060】

＜ステップS3526＞

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3525：No）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰により可変入球手段である可変入賞口316を閉鎖）するタイミングでない場合、MPU41は、可変入賞口316に対する遊技球の入球があったか否かを判断する（ステップS3526）。可変入賞口316に対する遊技球の入球があったか否かは、図17の主タイマ割込処理でのステップS1001のセンサ検出処理において、入球センサ316aへの遊技球の入球が検出された場合にRAM412に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。

30

【3061】

MPU41は、可変入賞口316に対する遊技球の入球があった場合（ステップS3526：Yes）、処理をステップS3527に移行し、可変入賞口316に対する遊技球の入球がなかった場合（ステップS3526：No）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3062】

＜ステップS3527及びS3528＞

可変入賞口316に対する遊技球の入球があった場合（ステップS3526：Yes）、MPU41は、当該ラウンド遊技での可変入賞口316への遊技球の入球数を示す更新情報である入球数カウンタの値に1加算する更新処理を実行する（ステップS3527）。そして、MPU41は、加算後の入球数カウンタの値が10に達したか否か（ステップS3528）、即ち可変入賞口316への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰により可変入球手段である可変入賞口316を閉鎖）するタイミングであるか否かを判断する。

40

【3063】

MPU41は、加算後の入球数カウンタの値が10に達している場合（ステップS3528：Yes）、即ち可変入賞口316への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰により可変入球手段である可変入賞口316を閉鎖）するタイミングである場合、処理をステップS3529に移行する。一方、MPU41は、加算後

50

の入球数カウンタの値が10に達していない場合（ステップS3528：No）、即ち可変入賞口316への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了（開閉扉319の復帰により可変入球手段である可変入賞口316を閉鎖）するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3064】

<ステップS3529>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS3525：Yes）、又は入球数カウンタの値が10に達した場合（ステップS3528：Yes）、MPU41は、開閉扉319を復帰することによって可変入賞口316を閉鎖し（ステップS3529）、処理をステップS3530に移行する。即ち、MPU41は、規定時間の経過により、又は可変入賞口316への上限数の遊技球の入球によりラウンド遊技を終了するタイミングである場合、可変入賞口316を閉鎖してラウンド遊技を終了する。

10

【3065】

<ステップS3530～S3532>

ステップS3530では、MPU41は、ラウンド遊技が終了することを音声ランプ制御装置5に通知するラウンド遊技終了コマンドを設定する。ラウンド遊技終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5では、ラウンド遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行されるラウンド遊技演出を終了させることができる。

20

【3066】

そして、MPU41は、当該ラウンド遊技での可変入賞口316への遊技球の入球数を示す更新情報である入球数カウンタをクリアする更新処理を実行する共に（ステップS3531）、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオフに設定し（ステップS3532）、処理をステップS3533に移行する。

【3067】

<ステップS3533>

ステップS3533では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示す更新情報であるラウンド数カウンタが0であるか否か（ステップS3533）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである（未実行のラウンド遊技がある）か否かを判断する。

30

【3068】

MPU41は、ラウンド数カウンタが0である場合（ステップS3533：Yes）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、処理をステップS3542に移行する。一方、MPU41は、ラウンド数カウンタが0でない場合（ステップS3533：No）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、処理をステップS3534に移行する。

【3069】

<ステップS3534>

ラウンド数カウンタが0でない場合（ステップS3533：No）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するインターバル開始コマンドを設定し（ステップS3534）、処理をステップS3535に移行する。インターバル開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、インターバル開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてインターバル演出を開始させることができる。

40

【3070】

<ステップS3535及びS3536>

ステップS3535では、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、インター

50

バルの残り時間を更新情報である示すインターバル時間カウンタをセットし（ステップ S 3 5 3 6）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。インターバル時間カウンタは、インターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるかを判断するために、当該大当たり遊技制御処理での図 2 2 8 のステップ S 3 5 3 9 において参照される。

【3 0 7 1】

<ステップ S 3 5 3 7>

図 2 2 8 に戻り、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 3 5 2 3：No）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、MPU 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 5 3 7）。インターバル中フラグは、インターバルを開始する場合に当該大当たり遊技制御処理での図 2 2 7 のステップ S 3 5 3 4 においてオンに設定され、インターバルを終了する場合に当該大当たり遊技制御処理での図 2 2 8 のステップ S 3 5 4 1 においてオフに設定される。

10

【3 0 7 2】

MPU 4 1 は、インターバル中フラグがオンである場合（ステップ S 3 5 3 7：Yes）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、処理を図 2 2 8 のステップ S 3 5 3 8 に移行する。一方、MPU 4 1 は、インターバル中フラグがオフである場合（ステップ S 3 5 3 7：No）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、処理をステップ S 3 5 4 7 に移行する。

20

【3 0 7 3】

<ステップ S 3 5 3 8 及び S 3 5 3 9>

インターバル中フラグがオンである場合（ステップ S 3 5 3 7：Yes）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、図 2 2 8 に示すように、MPU 4 1 は、インターバルの残り時間を示す更新情報であるインターバル時間カウンタの値から 1 減算する更新処理を実行する（ステップ S 3 5 3 8）。そして、MPU 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 であるか否か（ステップ S 3 5 3 9）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるか否かを判断する。

【3 0 7 4】

MPU 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 5 3 9：Yes）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップ S 3 5 4 0 に移行する。一方、MPU 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 5 3 9：No）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

30

【3 0 7 5】

<ステップ S 3 5 4 0 及び S 3 5 4 1>

減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 5 3 9：Yes）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、MPU 4 1 は、インターバルが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するインターバル終了コマンドを設定する（ステップ S 3 5 4 0）。インターバル終了コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 0 9 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、インターバル終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるインターバル演出を終了させることができる。

40

【3 0 7 6】

そして、MPU 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 5 4 1）、処理を前述の図 2 2 6 のステップ S 3 5 1 8 に移行する。処理を前述の図 2 2 6 のステップ S 3 5 1 7 に移行することにより、ラウンド遊技の開始に関するステップ S 3 5 1 8 ～ S 3 5 2 2 の処理を実行し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

50

【3077】

<ステップS3542>

図227に戻り、ラウンド数カウンタが0である場合（ステップS3533：Yes）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、MPU41は、大当たり遊技の開閉実行モードを終了することを音声ランプ制御装置5に通知する開閉実行モード終了コマンドを設定し（ステップS3542）、処理をステップS3543に移行する。開閉実行モード終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、開閉実行モード終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行されるラウンド遊技演出（開閉実行モード演出）を終了させることができる。

10

【3078】

<ステップS3543>

ステップS3543では、MPU41は、大当たり遊技のエンディングを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング開始コマンドを設定し、処理をステップS3544に移行する。エンディング開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5では、エンディング開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてエンディング演出を開始させることができる。

20

【3079】

<ステップS3544及びS3545>

ステップS3544では、MPU41は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、更新情報であるエンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタをセットし（ステップS3545）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。エンディング時間カウンタは、エンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングであるかを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図228でのステップS3548において参照される。

【3080】

<ステップS3546>

図225に戻り、インターバル中フラグがオフである場合（ステップS3537：No）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3546）。

30

【3081】

MPU41は、エンディング中フラグがオンである場合（ステップS3546：Yes）、即ちエンディングの実行中である場合、処理を図228のステップS3547に移行する。一方、MPU41は、エンディング中フラグがオフである場合（ステップS3546：No）、即ちエンディングの実行中でない場合、処理をステップS3551に移行する。

【3082】

<ステップS3547及びS3548>

エンディング中フラグがオンである場合（ステップS3546：Yes）、即ちエンディングの実行中である場合、図228に示すように、MPU41は、エンディングの残り時間を示す更新情報であるエンディング時間カウンタの値から1減算する更新処理を実行する（ステップS3547）。そして、MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3548）。即ち、MPU41は、エンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングであるか否かを判断する。

40

【3083】

MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0である場合（ステップS3548：Yes）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合

50

、処理をステップ S 3 5 4 9 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 5 4 8 : N o）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3084】

＜ステップ S 3 5 4 9 及び S 3 5 5 0＞

減算後のエンディング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 5 4 8 : Y e s）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技のエンディングを終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するエンディング終了コマンドを設定する（ステップ S 3 5 4 9）。エンディング終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 0 9 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、エンディング終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるエンディング演出を終了させることができる。

10

【3085】

そして、M P U 4 1 は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 5 5 0）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3086】

＜ステップ S 3 5 5 1＞

図 2 2 5 に戻り、エンディング中フラグがオフである場合（ステップ S 3 5 4 6 : N o）、即ちオープニング中、ラウンド遊技中、インターバル中及びエンディング中のいずれでもない場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知する大当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップ S 3 5 5 1）、処理をステップ S 3 5 5 2 に移行する。大当たり遊技終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 0 9 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、大当たり遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される大当たり遊技演出を終了させることができる。

20

【3087】

＜ステップ S 3 5 5 2 ～ S 3 5 5 4＞

ステップ S 3 5 5 2 では、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオンに設定する。大当たり遊技終了フラグは、大当たり遊技状態から a 時短遊技状態に移行するか否かを判断するために、後述の図 2 3 0 の遊技状態移行処理のステップ S 3 6 2 1 において参照される。

30

【3088】

そして、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態に移行するまでに必要な特図遊技回数を示す更新情報である天井発動残回数カウンタをセットするための天井発動残回数カウンタセットフラグをオンに設定し（ステップ S 3 5 5 3）、処理をステップ S 3 5 5 4 に移行する。天井発動残回数カウンタセットフラグは、図 2 1 7 の特図遊技回数管理処理でのステップ S 3 3 0 1 において、更新情報である天井発動残回数カウンタをセットするか否かを判断するために参照される。

40

【3089】

そして、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップ S 3 5 5 4）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3090】

〔遊技状態移行処理〕

ここで、図 2 2 9 ～ 図 2 3 1 は、図 2 0 9 のメイン処理のステップ S 1 4 0 8 で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャートである。遊技状態移行処理では、各種遊技状態（通常遊技状態、a 時短遊技状態、b 時短遊技状態、小当たり遊技状態、大当たり遊技状態）の移行を制御する処理が実行される。以下、図 2 2 9 ～ 図 2 3 1 を参照しつつ、遊技状態移行処理を説明する。

50

【3091】

<ステップS3601>

図229に示すように、ステップS3601では、MPU41は、小当たり遊技を開始することを示す小当たり遊技開始フラグがオンであるか否かを判断する。小当たり遊技開始フラグは、図219の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技が開始される場合にステップS3403においてオンに設定される。

【3092】

MPU41は、小当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3601：Yes）、即ち小当たり遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS3602に移行する。一方、MPU41は、小当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3601：No）、即ち小当たり遊技を開始するタイミングでない場合、処理をステップS3613に移行する。

10

【3093】

<ステップS3602及びS3603>

小当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3601：Yes）、即ち小当たり遊技を開始する場合、MPU41は、小当たり遊技実行中の遊技中状態であることを示す小当たり遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS3602）。小当たり遊技状態フラグは、図210の普図遊技制御処理のステップS1503において普図遊技を開始するかを判断する場合に参照され、図214の特図遊技制御処理のステップS1902において特図遊技を開始するかを判断する場合に参照される。

20

【3094】

そして、MPU41は、小当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS3603）、処理をステップS3604に移行する。

【3095】

<ステップS3604～S3606>

ステップS3604では、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。

【3096】

MPU41は、通常遊技状態フラグがオンである場合（ステップS3604：Yes）、即ち通常遊技状態である場合、通常遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることに基づいて開始される小当たりであることを示す通常小当たりフラグをオンに設定する（ステップS3605）。そして、MPU41は、通常遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3606）、当該遊技状態移行処理を終了する。

30

【3097】

一方、MPU41は、通常遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3604：No）、即ち通常遊技状態でない場合、処理をステップS3607に移行する。

【3098】

<ステップS3607～S3609>

通常遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3604：No）、MPU41は、利益遊技状態であるa時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3607）。

40

【3099】

MPU41は、a時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS3607：Yes）、即ちa時短遊技状態である場合、a時短遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることに基づいて開始される小当たりであることを示すa時短小当たりフラグをオンに設定する（ステップS3608）。そして、MPU41は、a時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3609）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3100】

50

一方、MPU41は、a時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3607：No）、即ちa時短遊技状態でない場合、処理をステップS3610に移行する。

【3101】

<ステップS3610～S3612>

a時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3607：No）、MPU41は、利益遊技状態であるb時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3610）。

【3102】

MPU41は、b時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップS3610：Yes）、即ちb時短遊技状態である場合、b時短遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることに基づいて開始される小当たりであることを示すb時短小当たりフラグをオンに設定する（ステップS3611）。そして、MPU41は、b時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3612）、当該遊技状態移行処理を終了する。

10

【3103】

一方、MPU41は、b時短遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3610：No）、即ちb時短遊技状態でない場合、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3104】

<ステップS3613>

小当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3601：No）、即ち小当たり遊技を開始するタイミングでない場合、MPU41は、小当たり遊技を終了することを示す小当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3613）。小当たり遊技終了フラグは、図219の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技が終了される場合にステップS3437においてオンに設定される。

20

【3105】

MPU41は、小当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS3613：Yes）、即ち小当たり遊技を終了するタイミングである場合、処理をステップS3614に移行する。一方、MPU41は、小当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップS3613：No）、即ち小当たり遊技を終了するタイミングでない場合、処理を図230のステップS3636に移行する。

30

【3106】

<ステップS3614及びS3615>

小当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS3613：Yes）、即ち小当たり遊技を終了する場合、MPU41は、小当たり遊技実行中の遊技中状態であることを示す小当たり遊技状態フラグをオフに設定する（ステップS3614）。そして、MPU41は、小当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップS3615）、処理をステップS3616に移行する。

【3107】

<ステップS3616及びS3617>

ステップS3616では、MPU41は、大当たり遊技を開始することを示す大当たり遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する。大当たり遊技開始フラグは、図225の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS3506においてオンに設定される。

40

【3108】

MPU41は、大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3616：Yes）、即ち大当たり遊技を開始する場合、大当たり遊技の遊技中状態であることを示す大当たり遊技状態フラグをオンに設定し（ステップS3617）、処理をステップS3618に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3616：No）、即ち大当たり遊技を開始しない場合、処理を図230のステップS3627に移行する。

50

【3109】

<ステップS3618～S3620>

ステップS3618では、MPU41は、通常遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることに基づいて開始される小当たりであることを示す通常小当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する。即ち、MPU41は、開始される大当たり遊技が、通常遊技状態において発生した小当たり遊技に基づくものであるか否かを判断する。

【3110】

MPU41は、通常小当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3618：Yes）、遊技中状態の大当たり遊技が終了した場合に移行されるa時短遊技状態での時短遊技数を1回にセットするためのa時短1回セットフラグをオンに設定する（ステップS3619）。そして、MPU41は、通常小当たりフラグをオフに設定し（ステップS3620）、当該遊技状態移行処理を終了する。

10

【3111】

一方、MPU41は、通常小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3618：No）、処理をステップS3621に移行する。

【3112】

<ステップS3621～S3623>

通常小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3618：No）、MPU41は、a時短遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることに基づいて開始される小当たりであることを示すa時短小当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3621）。即ち、MPU41は、開始される大当たり遊技が、a時短遊技状態において発生した小当たり遊技に基づくものであるか否かを判断する。

20

【3113】

MPU41は、a時短小当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3621：Yes）、遊技中状態の大当たり遊技が終了した場合に移行されるa時短遊技状態での時短遊技数を5回にセットするためのa時短5回セットフラグをオンに設定する（ステップS3622）。そして、MPU41は、a時短小当たりフラグをオフに設定し（ステップS3623）、当該遊技状態移行処理を終了する。

30

【3114】

一方、MPU41は、a時短小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3621：No）、処理をステップS3624に移行する。

【3115】

<ステップS3624～S3626>

a時短小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3621：No）、MPU41は、b時短遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることに基づいて開始される小当たりであることを示すb時短小当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する。即ち、MPU41は、開始される大当たり遊技が、b時短遊技状態において発生した小当たり遊技に基づくものであるか否かを判断する。

40

【3116】

MPU41は、b時短小当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3624：Yes）、遊技中状態の大当たり遊技が終了した場合に移行されるa時短遊技状態での時短遊技数を5回にセットするためのa時短5回セットフラグをオンに設定する（ステップS3625）。そして、MPU41は、b時短小当たりフラグをオフに設定し（ステップS3626）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3117】

一方、MPU41は、b時短小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3624：No）、当該遊技状態移行処理を終了する。

50

【3118】

<ステップS3627～S3629>

大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3616：No）、即ち大当たり遊技を開始しない場合、図230に示すように、MPU41は、通常遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることを基づいて開始される小当たりであることを示す通常小当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3627）。即ち、MPU41は、大当たり遊技を発生させることなく小当たり遊技が終了する場合に、当該小当たり遊技が通常遊技状態において発生したものであるか否かを判断する。

【3119】

MPU41は、通常小当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3627：Yes）、即ち大当たり遊技を発生させることなく終了する小当たり遊技が、通常遊技状態において発生したものである場合、遊技状態を小当たり遊技が発生する前の通常遊技状態に復帰させるために、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS3628）。そして、MPU41は、通常小当たりフラグをオフに設定し（ステップS3629）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3120】

一方、MPU41は、通常小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3627：No）、即ち大当たり遊技を発生させることなく終了する小当たり遊技が、通常遊技状態において発生したものでない場合、処理をステップS3630に移行する。

【3121】

<ステップS3630～S3632>

通常小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3627：No）、即ち大当たり遊技を発生させることなく終了する小当たり遊技が、通常遊技状態において発生したものでない場合、MPU41は、a時短遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることを基づいて開始される小当たりであることを示すa時短小当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3630）。即ち、MPU41は、大当たり遊技を発生させることなく小当たり遊技が終了する場合に、当該小当たり遊技がa時短遊技状態において発生したものであるか否かを判断する。

【3122】

MPU41は、a時短小当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS3630：Yes）、即ち大当たり遊技を発生させることなく終了する小当たり遊技が、a時短遊技状態において発生したものである場合、遊技状態を小当たり遊技が発生する前のa時短遊技状態に復帰させるために、a時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS3631）。そして、MPU41は、a時短小当たりフラグをオフに設定し（ステップS3632）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3123】

一方、MPU41は、a時短小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3630：No）、即ち大当たり遊技を発生させることなく終了する小当たり遊技が、a時短遊技状態において発生したものでない場合、処理をステップS3633に移行する。

【3124】

<ステップS3633～S3635>

a時短小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS3630：No）、即ち大当たり遊技を発生させることなく終了する小当たり遊技が、a時短遊技状態において発生したものでない場合、MPU41は、b時短遊技状態での第1入賞口314又は第2入賞口315を契機とする大当たり抽選の結果が小当たりであることを基づいて開始される小当たりであることを示すb時短小当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3633）。即ち、MPU41は、大当たり遊技を発生させることなく小当たり遊技が終了する場合に、当該小当たり遊技がb時短遊技状態において発生したものでない場合、処理をステップS3635に移行する。

であるか否かを判断する。

【3125】

M P U 4 1 は、b 時短小当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 3 : Y e s）、即ち大当たり遊技を発生させることなく終了する小当たり遊技が、b 時短遊技状態において発生したものである場合、遊技状態を小当たり遊技が発生する前の b 時短遊技状態に復帰させるために、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグをオンに設定する（ステップ S 3 6 3 4）。そして、M P U 4 1 は、b 時短小当たりフラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 3 5）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3126】

一方、M P U 4 1 は、b 時短小当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 3 : N o）、即ち大当たり遊技を発生させることなく終了する小当たり遊技が、b 時短遊技状態において発生したものでない場合、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3127】

<ステップ S 3 6 3 6>

小当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 1 3 : N o）、即ち小当たり遊技を終了するタイミングでない場合、図 2 3 0 に示すように、大当たり遊技の遊技中状態であることを示す大当たり遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 6 3 6）。

【3128】

M P U 4 1 は、大当たり遊技の遊技中状態であることを示す大当たり遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 6 : Y e s）、処理をステップ S 3 6 3 7 に移行し、大当たり遊技の遊技中状態であることを示す大当たり遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 6 : N o）、処理をステップ S 3 6 4 1 に移行する。

【3129】

<ステップ S 3 6 3 7>

大当たり遊技の遊技中状態であることを示す大当たり遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 6 : Y e s）、M P U 4 1 は、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 6 3 7）。

【3130】

M P U 4 1 は、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 7 : Y e s）、処理をステップ S 3 6 3 8 に移行し、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 7 : N o）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3131】

<ステップ S 3 6 3 8 ~ S 3 6 4 0>

大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 7 : Y e s）、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 3 6 3 8）、a 時短遊技状態であることを音声ランプ制御装置 5 に通知する a 時短遊技状態コマンドを設定する（ステップ S 3 6 3 9）。

【3132】

a 時短遊技状態コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 0 9 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、a 時短遊技状態コマンドに基づいて、a 時短遊技状態に対応した特図遊技演出を実行することができる。

【3133】

そして、M P U 4 1 は、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 4 0）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3134】

＜ステップS3641＞

大当たり遊技の遊技中状態であることを示す大当たり遊技状態フラグがオフである場合（ステップS3636：No）、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3641）。

【3135】

MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3641：Yes）、処理をステップS3642に移行し、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3641：No）、処理を図231のステップS3647に移行する。

10

【3136】

＜ステップS3642＞

通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3641：Yes）、MPU41は、b時短遊技状態に移行させるb時短遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3642）。即ち、MPU41は、通常遊技状態からb時短遊技状態に移行させるか否かを判断する。

【3137】

MPU41は、b時短遊技状態に移行させるb時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3642：Yes）、処理をステップS3643に移行し、b時短遊技状態に移行させるb時短遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップS3642：No）、当該遊技状態移行処理を終了する。

20

【3138】

＜ステップS3643～S3646＞

b時短遊技状態に移行させるb時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3642：Yes）、MPU41は、b時短遊技状態であることを示すb時短遊技状態フラグをオンに設定し（ステップS3643）、b時短遊技状態であることを音声ランプ制御装置5に通知するb時短遊技状態コマンドを設定する（ステップS3644）。

【3139】

b時短遊技状態コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図209参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、b時短遊技状態コマンドに基づいて、b時短遊技状態に対応した特図遊技演出を実行することができる。

30

【3140】

そして、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3645）、さらに、b時短遊技状態に移行させるb時短遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップS3646）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3141】

＜ステップS3647＞

通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3641：No）、図231に示すように、MPU41は、a時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3647）。

40

【3142】

MPU41は、a時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS3647：Yes）、処理をステップS3648に移行し、a時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS3647：No）、処理をステップS3653に移行する。

【3143】

＜ステップS3648＞

50

a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 4 7 : Y e s）、M P U 4 1 は、通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 6 4 8）。即ち、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるか否かを判断する。

【3 1 4 4】

M P U 4 1 は、通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 4 8 : Y e s）、処理をステップ S 3 6 4 9 に移行し、通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 4 8 : N o）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3 1 4 5】

<ステップ S 3 6 4 9 ~ S 3 6 5 2 >

通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 4 8 : Y e s）、M P U 4 1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 3 6 4 9）、通常遊技状態であることを音声ランプ制御装置 5 に通知する通常遊技状態コマンドを設定する（ステップ S 3 6 5 0）。

【3 1 4 6】

通常遊技状態コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 0 9 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、通常遊技状態コマンドに基づいて、通常遊技状態に対応した特図遊技演出を実行することができる。

【3 1 4 7】

そして、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 5 1）、さらに、通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 5 2）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3 1 4 8】

<ステップ S 3 6 5 3 >

a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 4 7 : N o）、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 6 5 3）。

【3 1 4 9】

M P U 4 1 は、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 5 3 : Y e s）、処理をステップ S 3 6 5 4 に移行し、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 5 3 : N o）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3 1 5 0】

<ステップ S 3 6 5 4 >

b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 5 3 : Y e s）、M P U 4 1 は、通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 6 5 4）。即ち、M P U 4 1 は、b 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させるか否かを判断する。

【3 1 5 1】

M P U 4 1 は、通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 5 4 : Y e s）、処理をステップ S 3 6 5 5 に移行し、通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 5 4 : N o）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3 1 5 2】

<ステップ S 3 6 5 5 ~ S 3 6 5 8 >

通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 5 4 : Y e s）、M P U 4 1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 3 6 5 5）、通常遊技状態であることを音声ランプ制

10

20

30

40

50

御装置 5 に通知する通常遊技状態コマンドを設定する（ステップ S 3 6 5 6）。

【3 1 5 3】

通常遊技状態コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 0 9 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、通常遊技状態コマンドに基づいて、通常遊技状態に対応した特図遊技演出を実行することができる。

【3 1 5 4】

そして、MPU 4 1 は、b 時短遊技状態であることを示す b 時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 5 7）、さらに、通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 5 8）、当該遊技状態移行処理を終了する。

10

【3 1 5 5】

〔音声ランプ制御装置 5 の処理〕

次に、図 2 3 2 ～図 2 3 9 を参照して音声ランプ制御装置 5 の立ち上げ処理後に音声ランプ制御装置 5 内の MPU 5 1 により実行されるメイン処理について説明する。図 2 3 2 は、このメイン処理を示したフローチャートである。

【3 1 5 6】

〔音声ランプ制御装置 5 のメイン処理〕

<ステップ S 3 7 0 1>

図 2 3 2 に示すように、メイン処理では、まず、メイン処理が開始されてから、又は前回ステップ S 3 7 0 1 の処理が実行されてから 1 m 秒以上が経過したか否かが判別され（ステップ S 3 7 0 1）、1 m 秒以上経過していなければ（ステップ S 3 7 0 1：No）、ステップ S 3 7 0 2 ～ S 3 7 1 1 の処理を行わずにステップ S 3 7 1 2 の処理へ移行する。ステップ S 3 7 0 1 の処理で、1 m 秒経過したか否かを判別するのは、ステップ S 3 7 0 2 ～ S 3 7 1 1 が表示（演出）に関する処理であり、短い周期（1 m 秒以内）で編集する必要がないのに対して、ステップ S 3 7 1 3 のコマンド判定処理を短い周期で実行する方が好ましいからである。ステップ S 3 7 1 3 の処理が短い周期で実行されることにより、主制御装置 4 から送信されるコマンドの受信洩れを防止でき、ステップ S 3 7 1 2 の処理が短い周期で実行されることにより、コマンド判定処理によって受信されたコマンドに基づき、特図遊技演出に関する設定を遅滞なく行うことができる。

20

【3 1 5 7】

<ステップ S 3 7 0 2 ～ S 3 7 0 4>

ステップ S 3 7 0 1 の処理で 1 m 秒以上経過していれば（ステップ S 3 7 0 1：Yes）、まず、ステップ S 3 7 0 3 ～ S 3 7 1 3 の処理によって設定された、表示制御装置 6 に対する各種コマンドを、表示制御装置 6 に対して送信する（ステップ S 3 7 0 2）。次いで、電飾部 2 7 の点灯態様の設定や後述するステップ S 3 7 0 9 の処理で編集されるランプの点灯態様となるよう各ランプの出力を設定し（ステップ S 3 7 0 3）、その後電源投入報知処理を実行する（ステップ S 3 7 0 4）。電源投入報知処理は、電源が投入された場合に所定の時間（例えば 3 0 秒）電源が投入されたことを知らせる報知を行うものであり、その報知はスピーカ 2 6 や電飾部 2 7 により行われる。また、図柄表示部 3 4 1 の画面において電源が供給されたことを報知するようコマンドを表示制御装置 6 に送信するものとしても良い。なお、電源投入時でなければ、電源投入報知処理による報知は行わずにステップ S 3 7 0 5 の処理へ移行する。

40

【3 1 5 8】

<ステップ S 3 7 0 5 ～ S 3 7 0 7>

ステップ S 3 7 0 5 の処理では客待ち演出が実行され、その後、保留個数表示更新処理が実行される（ステップ S 3 7 0 6）。客待ち演出では、遊技機 1 0 が遊技者により遊技されない時間が所定時間経過した場合に、図柄表示部 3 4 1 の表示をタイトル画面に切り替える設定などが行われ、その設定がコマンドとして表示制御装置 6 に送信される。保留個数表示更新処理では、図柄表示部 3 4 1 に設定される特図データ画像表示部 7 5，7 6，7 7 の特図データ画像（図 5 1 及び図 5 2 参照）を表示させる処理が行われる。

50

【3159】

その後、操作ボタン入力監視・演出処理が実行される（ステップS3707）。この操作ボタン入力監視・演出処理では、演出効果を高めるために遊技者に操作される操作ボタン20が押下されたか否かの入力を監視し、操作ボタン20の入力が確認された場合に対応した演出を行うよう設定する処理である。この処理では、操作ボタン20の遊技者による操作が検出されると、表示制御装置6に対して操作ボタン20が操作されたことを通知する操作ボタン操作コマンドを設定する。

【3160】

また、特図遊技演出が未実行の期間や、飾り図柄の高速変動期間中に操作ボタン20が押下された場合は、例えばステージを変更する処理を行い、表示制御装置6に対する背面画像変更コマンドを設定する。この背面画像変更コマンドに、変更後のステージに対応する背面画像の種別に関する情報を含めることにより、表示制御装置6において、図柄表示部341に表示される背面画像を、ステージに応じた画像に変更する処理が行われる。また、変動表示開始時に予告キャラが出現した場合に操作ボタン20を押下することで今回の変動による大当たりの期待値を表示したり、リーチ演出中に操作ボタン20を押下することで大当たりへの期待感を持てる演出に変更したり、操作ボタン20を複数のリーチ演出のうち1のリーチ演出を選択するための決定ボタンとしても良い。なお、操作ボタン20が配設されていない場合には、ステップS3707の処理は省略される。

【3161】

<ステップS3708>

操作ボタン入力監視・演出処理が終わると、振動センサ入力監視処理が行われる（ステップS3708）。この振動センサ入力監視処理は、振動センサ（図示略）からの入力信号を監視し、遊技機10に振動が与えられたか否かを検出する処理である。

【3162】

[音声ランプ制御装置5の振動センサ入力監視処理]

ここで、図233を参照して、振動センサ入力監視処理（ステップS3708）の詳細について説明する。図233は、音声ランプ制御装置5内のMPU51により実行される振動センサ入力監視処理を示したフローチャートである。

【3163】

<ステップS3801及びS3802>

振動センサ入力監視処理では、まず、振動センサ（図示略）からの出力値（振動レベル）を読み込み（ステップS3801）、その読み込んだ出力値から振動レベルが所定レベル以上か否かを判別する（ステップS3802）。その結果、振動レベルが所定レベル未満であれば（ステップS3802：No）、振動センサ入力監視処理を終了し、メイン処理（図232）に戻る。

【3164】

<ステップS3803及びS3804>

一方、振動レベルが所定レベル以上であれば（ステップS3802：Yes）、遊技機10に振動が与えられたと判断し、電飾部27から警報音が出力されるように設定する（ステップS3803）と共に、表示制御装置6に対して振動エラーの発生を通知するエラーコマンドを設定して（ステップS3804）、メイン処理（図232）に戻る。これにより、表示制御装置6では、振動エラーを報知するエラーメッセージ画像を図柄表示部341に表示させる処理が行われる。

【3165】

<ステップS3709～S3711>

図232に戻って、メイン処理の説明を続ける。振動センサ入力監視処理（ステップS3708）を終了すると、次いで、ランプ編集処理を実行し（ステップS3709）、その後、音編集・出力処理を実行する（ステップS3710）。ランプ編集処理では、図柄表示部341で行われる表示に対応するよう電飾部27の点灯パターンなどが設定される。音編集・出力処理では、図柄表示部341で行われる表示に対応するようスピーカ26

10

20

30

40

50

の出力パターンなどが設定され、その設定に応じてスピーカ 26 から音出力される。また、振動センサ入力監視処理（図 233 参照）により、警報音の出力が設定された場合は（ステップ S 3710 参照）、この音編集・出力処理によって、警報音の出力パターンが設定され、警報音がスピーカ 26 から出力される。

【3166】

ステップ S 3710 の処理後、液晶演出実行管理処理が実行され（ステップ S 3711）、ステップ S 3712 の処理へ移行する。液晶演出実行管理処理では、主制御装置 4 から送信される特図変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部 341 で行われる変動表示に要する時間と同期した時間が設定される。この液晶演出実行管理処理で設定された時間に基づいてステップ S 3709 のランプ編集処理が実行される。なお、ステップ S 3710 の音編集・出力処理も図柄表示部 341 で行われる変動表示に要する時間と同期した時間で実行される。

10

【3167】

<ステップ S 3712>

ステップ S 3712 の処理では、図柄表示部 341 において特図遊技演出を表示させるために、主制御装置 4 より受信した特図変動パターンコマンドに基づいて表示用変動パターンコマンドを生成し、そのコマンドを表示制御装置 6 に送信するために設定する処理である。このコマンド判定処理の詳細については、図 234 を参照して後述する。そして、この処理の後、主制御装置 4 より受信したコマンドに応じた処理を行う（図 234 及び図 235）。

20

【3168】

<ステップ S 3713～S 3717>

ステップ S 3712 の処理が終わると、RAM 512 に電源断の発生情報が記憶されているか否かを判別する（ステップ S 3713）。電源断の発生情報は、主制御装置 4 から電源断コマンドを受信した場合に記憶される。ステップ S 3713 の処理で電源断の発生情報が記憶されていれば（ステップ S 3713：Yes）、電源断フラグ及び電源断処理中フラグを共にオンして（ステップ S 3715）、電源断処理を実行する（ステップ S 3716）。電源断処理の実行後は、電源断処理中フラグをオフし（ステップ S 3717）、その後、処理を、無限ループする。電源断処理では、割込処理の発生を禁止すると共に、各出力ポートをオフして、スピーカ 26 及び電飾部 27 からの出力をオフする。また、電源断の発生情報の記憶も消去する。

30

【3169】

一方、ステップ S 3713 の処理で電源断の発生情報が記憶されていなければ（ステップ S 3713：No）、RAM 512 に記憶されるキーワードに基づき、RAM 512 が破壊されているか否かが判別され（ステップ S 3714）、RAM 512 が破壊されていなければ（ステップ S 3714：No）、ステップ S 3701 の処理へ戻り、繰り返しメイン処理が実行される。一方、RAM 512 が破壊されていれば（ステップ S 3714：Yes）、以降の処理の実行を停止させるために、処理を無限ループする。ここで、RAM 破壊と判別されて無限ループするとメイン処理が実行されないため、その後、図柄表示部 341 による表示が変化しない。よって、遊技者は、異常が発生したことを知ることができるので、ホールの店員などと呼ばひ遊技機 10 の修復などを頼むことができる。また、RAM 512 が破壊されていると確認された場合に、スピーカ 26 や電飾部 27 により RAM 破壊の報知を行うものとしても良い。

40

【3170】

〔音声ランプ制御装置 5 のコマンド判定処理〕

次に、図 234～図 238 を参照して、音声ランプ制御装置 5 のメイン処理のステップ S 3712 で実行されるコマンド判定処理について説明する。図 234～図 238 は、このコマンド判定処理を示したフローチャートである。このコマンド判定処理は、上述したように、主制御装置 4 から受信したコマンドを判定する。また、この処理は、主制御装置 4 から保留球数コマンドを受信した場合に、図柄表示部 341 による連続予告演出の開始

50

の決定も行う。

【3171】

<ステップS3901>

図234に示すように、音声ランプ制御装置5のコマンド判定処理では、まず、RAM512に設けられたコマンド記憶領域に未処理のコマンドがあるか否かを判断する(ステップS3901)。未処理のコマンドがある場合(ステップS3901:Yes)、処理をステップS3902に移行し、未処理のコマンドがない場合(ステップS3901:No)、当該コマンド判定処理を終了する。

【3172】

<ステップS3902>

未処理のコマンドがある場合(ステップS3901:Yes)、RAM512に設けられたコマンド記憶領域から、未処理のコマンドのうち主制御装置4より受信した最初のコマンドを読み出し、解析して、主制御装置4より特図変動パターンコマンドを受信したか否かを判別する(ステップS3902)。そして、特図変動パターンコマンドを受信したと判別された場合(ステップS3902:Yes)、処理をステップS3903に移行し、特図変動パターンコマンドを受信していないと判別された場合(ステップS3901:No)、処理をステップS3908に移行する。

【3173】

<ステップS3903>

特図変動パターンコマンドを受信したと判別された場合(ステップS3902:Yes)、主制御装置4から受信した特図変動パターンコマンドに基づいて、変動種別(演出パターン)設定処理(ステップS3903)を実行し、その後、ステップS3904の処理を実行する。この変動種別(演出パターン)設定処理では、特図遊技において各種演出手段(図柄表示部341、スピーカ26、電飾部27)に実行させる特図遊技演出が設定される。具体的には、前述のように、特図変動パターンコマンドに基づいて、変動種別テーブル(図49参照)を参照して、変動種別(演出パターン)及び変動表示時間が設定され、さらに変動種別(演出パターン)に応じた演出パターン種別選択テーブル(図50参照)に基づいて演出パターン種別を設定する。

【3174】

<ステップS3904>

ステップS3904では、受信した特図変動パターンコマンドに対応する変動表示時間を変動表示カウンタに設定し、その後、ステップS3905の処理を実行する。変動表示時間は、特図変動パターンコマンドに含まれる変動パターン情報に応じて判断される。そして、変動表示カウンタは、図42の副タイマ割込処理でのステップS2701のカウンタ更新処理で1ずつ減算され、MPU51は、変動表示カウンタに基づいて、図柄変動表示中であるか否か、変動表示時間の残り時間などを判断することが可能である。例えば、MPU51は、変動表示カウンタが0になった場合に図柄変動表示の終了と判断することが可能である。

【3175】

<ステップS3905>

ステップS3905では、MPU51は、当該コマンド判定処理のステップS3103で設定された演出パターン種別を特定するための表示用変動パターンコマンドを表示制御装置6に出力し、処理をステップS3906に移行する。表示用変動パターンコマンドは、演出パターン種別を識別するための情報である。一方、表示制御装置6のROM611には、表示変動パターンコマンド各々に対応する演出画像などが記憶されている。これにより、表示制御装置6では、MPU61が、表示変動パターンコマンドに対応する演出種別に応じて図柄表示部341における演出表示を実行する。

【3176】

<ステップS3908及びS3909>

特図変動パターンコマンドを受信していないと判別された場合(ステップS3902:

10

20

30

40

50

N o)、主制御装置 4 より停止種別コマンドを受信したか否かを判別する(ステップ S 3 9 0 8)。そして、停止種別コマンドを受信したと判別された場合(ステップ S 3 9 0 8 : Y e s)、停止種別コマンドをそのまま表示制御装置 6 へ送信するために、表示用停止種別コマンドを設定する(ステップ S 3 9 0 9)。一方、停止種別コマンドを受信していないと判別された場合(ステップ S 3 9 0 8 : N o)、処理をステップ S 3 9 1 0 に移行する。

【3 1 7 7】

<ステップ S 3 9 1 0 ~ S 3 9 1 3 >

停止種別コマンドを受信していないと判別された場合(ステップ S 3 9 0 8 : N o)、主制御装置 4 より保留球数コマンドを受信したか否かを判別する(ステップ S 3 9 1 0)。そして、保留球数コマンドを受信したと判別された場合(ステップ S 3 9 1 0 : Y e s)、保留球数コマンドに含まれる主制御装置 4 の更新情報である第 1 特図保留数記憶エリア N A A 又は第 2 特図保留数記憶エリア N A B の値(即ち、主制御装置 4 に保留された特図遊技回数)を抽出し、これを音声ランプ制御装置 5 の保留球数カウンタに格納する(ステップ S 3 9 1 1)。

10

【3 1 7 8】

ここで、保留球数コマンドは、第 1 入賞口 3 1 4 若しくは第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入賞(始動入賞)した場合、又は特図遊技が開始される場合に主制御装置 4 から送信されるものである。始動入賞又は特図遊技が開始される毎に、ステップ S 3 9 1 1 の処理によって、音声ランプ制御装置 5 の保留球数カウンタの値を主制御装置 4 の保留球数カウンタの値に合わせることができる。よって、ノイズなどの影響により、音声ランプ制御装置 5 の保留球数カウンタの値が主制御装置 4 の保留球数カウンタの値とずれても、始動入賞検出時に、音声ランプ制御装置 5 の保留球数カウンタの値を修正し、主制御装置 4 の保留球数カウンタの値に合わせることができる。

20

【3 1 7 9】

また、ステップ S 3 9 1 1 の処理の後、ステップ S 3 9 1 1 の処理によって更新された保留球数カウンタの値を表示制御装置 6 へ通知するための表示用保留球数コマンドを設定する(ステップ S 3 9 1 2)。これにより、表示制御装置 6 では、保留球数に応じた保留球数図柄を図柄表示部 3 4 1 に表示させるように処理を実行する。

【3 1 8 0】

30

その後、連続予告判定処理を実行して(ステップ S 3 9 1 3)、メイン処理に戻る。この連続予告判定処理では、保留球数コマンドにより主制御装置 4 より受信した保留球数の値と、更新情報である大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 の値とから、その時点で保留されている特図遊技演出にわたって連続して予告演出画像を表示させる連続予告演出を行うか否かを決定する。また、その連続予告演出を行う場合は、その連続予告演出態様として、同一の画像(例えば、「泡」画像)を複数の特図遊技演出にまたがって表示させる同一演出型の連続予告演出態様とするか、関連する画像を特図遊技演出が行われる度に順番に表示する(例えば、「タマゴ」→「ヒヨコ」→「ニワトリ」→「ニワトリ群」の順に各画像を表示する)ステップアップ型の連続予告演出態様とするかを決定する。

40

【3 1 8 1】

連続予告演出を行うか否かの決定は、具体的には、更新情報である大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 の値に基づき、保留球数コマンドが送信された時点で保留に対応して行われる抽選の結果や、特図遊技演出後の停止種別を推定し、その推定結果と、その時点で保留されている保留球数とに基づいて、行われる。例えば、特図遊技演出後の停止種別が 1 6 R 確変大当たり又は前後外れリーチであると推定される場合に、それぞれ所定の確率で連続予告演出が行われるように決定してもよい。また、この場合、保留球数が多いほど、高い確率で連続予告演出が行われるように決定してもよい。

【3 1 8 2】

50

これ以外にも、推定される抽選の結果が、大当たりである場合には、停止種別に関わらず、所定の確率で連続予告演出が行われるようにしてもよいし、抽選の結果が外れであっても、停止種別がリーチとなる場合、即ち、前後外れリーチ及び前後外れ以外リーチであると推定される場合は、所定の確率で連続予告演出が行われるようにしてもよい。このように、連続予告演出を行う決定をする条件は、遊技機 10 に持たせる遊技性に応じて適宜設定されるものであってよい。

【3183】

また、連続予告演出態様として、同一演出型とするか、ステップアップ型とするかの条件も適宜設定されるものであってよい。例えば、音声ランプ制御装置 5 内部に乱数カウンタを設け、その乱数カウンタの値に応じて連続予告演出態様を決定してもよい。

10

【3184】

本遊技機 10 では、主制御装置 4 において、始動入賞時に取得された更新情報である大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 の各値を保留球数コマンドによって音声ランプ制御装置 5 に通知し、音声ランプ制御装置 5 が、保留球数コマンドにより通知された各種カウンタの値と保留球数の値とに基づいて、連続予告演出開始の決定や連続予告演出の態様の設定を行う。これにより、主制御装置 4 における処理を、遊技機 10 の最も重要な処理である、第 1 入賞口 314 又は第 2 入賞口 315 への入球に基づき遷移すべき遊技状態を抽選する抽選処理に集中させることができる一方、音声ランプ制御装置 5 に処理能力の高い M P U 5 1 を使用すれば、連続予告演出の実行条件を多種態様に設定することができる。

20

【3185】

また、保留球数コマンド 1 つで、保留球数と各種カウンタの値とを、主制御装置 4 から音声ランプ制御装置 5 に対して送信することができる。これにより、音声ランプ制御装置 5 において、始動入賞に伴って取得された各種カウンタの値と、その始動入賞が検出された時点での保留球数との対応を正確に把握することができるので、連続予告演出の実行が決定された場合に、その連続予告演出が加えられる保留球数を正確に把握することができる。よって、保留球数と各種カウンタの値とが、別のコマンドによって主制御装置 4 から音声ランプ制御装置 5 に対して送信される場合と比較して、音声ランプ制御装置 5 における制御を容易にすることができる。

【3186】

30

<ステップ S 3 9 1 4 及び S 3 9 1 5>

ステップ S 3 9 1 0 の処理の結果、保留球数コマンドを受信していないと判別された場合（ステップ S 3 9 1 0：N o）、確定表示コマンドを受信したか否かを判別する（ステップ S 3 9 1 4）。確定表示コマンドを受信したと判別した場合（ステップ S 3 9 1 4：Y e s）、表示用デモコマンドを設定し（ステップ S 3 9 1 5）、メイン処理に戻る。一方、確定表示コマンドを受信していないと判別した場合（ステップ S 3 9 1 4：N o）、処理をステップ S 3 9 1 6 に移行する。

【3187】

<ステップ S 3 9 1 6>

確定表示コマンドを受信していないと判別した場合（ステップ S 3 9 1 4：N o）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図シフトコマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 1 6）。特図シフトコマンドは、特図遊技（特図の変動表示）の開始によって第 1 特図保留数 N 又は第 2 特図保留数 M が減少する場合に、第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ～第 4 保留エリア R E A 4、又は第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ～第 4 保留エリア R E B 4（図 8 参照）での大当たり抽選での抽選結果を示す特図当否情報がシフトしたこと示すコマンドである。

40

【3188】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが特図シフトコマンドである場合（ステップ S 3 9 1 6：Y e s）、処理をステップ S 3 9 1 7 に移行し、受信したコマンドが特図シフトコマンドでない場合（ステップ S 3 9 1 6：N o）、処理をステップ S 3 9 1 8 に移行する。

50

【3189】

<ステップS3917>

受信したコマンドが特図シフトコマンドである場合（ステップS3116：Yes）、MPU51は、特図データ設定処理を実行し（ステップS3917）、メイン処理に戻る。

【3190】

ここで、ステップS3917で実行される特図データ設定処理は、音声ランプ制御装置5のRAM512に設定される特図保留格納エリア対応領域（図示略）に格納された特図当否情報のデータ（特図データ）をシフト（更新）する処理である。特図保留格納エリア対応領域（図示略）は、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412b（図8参照）に対応する領域であり、当該特図保留格納エリア412bと同等な特図データが格納されている。特図保留格納エリア対応領域（図示略）は、特図保留格納エリア412bの第1特図保留格納エリアREA、第2特図保留格納エリアREB、及び特図実行エリアAE（図8参照）のそれぞれに対応する第1特図保留格納エリア対応領域、第2特図保留格納エリア対応領域、及び特図実行エリア対応領域を含む。また、第1特図保留格納エリア対応領域は、特図保留格納エリア412bにおける第1特図保留格納エリアREAの第1～第4保留エリアREA1～REA4（図8参照）に対応する第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）、第1特図保留数記憶エリア（図8参照）に対応する第1特図保留数記憶エリア対応領域を含む。さらに、第2特図保留格納エリア対応領域は、特図保留格納エリア412bにおける第2特図保留格納エリアREBの第1～第4保留エリアREB1～REB4（図8参照）に対応する第2特図第1～第4保留エリア対応領域、第2特図保留数記憶エリア（図8参照）に対応する第2特図保留数記憶エリア対応領域を含む。

10

20

【3191】

<ステップS3918>

受信したコマンドが特図シフトコマンドでない場合（ステップS3116：No）、MPU51は、受信したコマンドが第1特図保留コマンドであるか否かを判断する（ステップS3918）。第1特図保留コマンドは、第1特図遊技に対する第2特図保留数Mが増加することを示す情報と、増加後の第2特図保留数Mに関する情報と、増加する第2保留に対する特図変動パターン（特図変動表示時間）及び大当たり抽選の結果に関する情報と、を含む。

30

【3192】

MPU51は、受信したコマンドが第1特図保留コマンドである場合（ステップS3918：Yes）、処理をステップS3919に移行し、受信したコマンドが第1特図保留コマンドでない場合（ステップS3918：No）、処理をステップS3920に移行する。

【3193】

<ステップS3919>

受信したコマンドが第2特図保留コマンドである場合（ステップS3918：Yes）、MPU51は、第1特図保留情報更新処理（ステップS3919）を実行し、メイン処理に戻る。

40

【3194】

ここで、ステップS3919で実行される第1特図保留情報更新処理は、前述の特図保留格納エリア対応領域の第1特図保留格納エリア対応領域（図示略）に特図当否情報のデータ（特図データ）を追加（更新）する処理である。具体的には、第1特図保留情報更新処理では、主制御装置4のRAM412における特図保留格納エリア412bの第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4（図8参照）のうち最初の空き保留エリアに格納された特図当否情報に対応する特図データが、当該特図当否情報が格納された第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4に対応して設定される第1特図第1～第4保留エリア対応領域（図示略）に格納される。例えば、特図

50

保留格納エリア 4 1 2 b における第 2 特図保留格納エリア R E A の第 3 保留エリア R E A 3 (図 8 参照) に特図当否情報が格納された場合には、第 3 保留エリア R E A 3 に対応して設定される第 1 特図第 3 保留エリア対応領域 (図示略) に特図データが格納される。また、第 1 特図保留情報更新処理では、特図保留格納エリア対応領域の第 1 特図保留数記憶エリア対応領域 (図示略) に記憶される第 1 特図保留数 N に 1 加算される。

【 3 1 9 5 】

<ステップ S 3 9 2 0>

受信したコマンドが第 1 特図保留コマンドでない場合 (ステップ S 3 1 1 8 : N o) 、 M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドであるか否かを判断する (ステップ S 3 9 2 0) 。第 2 特図保留コマンドは、第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留数 M が増加することを示す情報と、増加後の第 2 特図保留数 M に関する情報と、増加する第 2 保留に対する特図変動パターン (特図変動表示時間) 及び大当たり抽選の結果に関する情報と、を含む。

10

【 3 1 9 6 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドである場合 (ステップ S 3 9 2 0 : Y e s) 、処理をステップ S 3 9 2 1 に移行し、受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドでない場合 (ステップ S 3 9 2 0 : N o) 、処理を図 2 3 5 のステップ S 3 9 2 2 に移行する。

【 3 1 9 7 】

<ステップ S 3 9 2 1>

受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドである場合 (ステップ S 3 9 2 0 : Y e s) 、 M P U 5 1 は、第 2 特図保留情報更新処理 (ステップ S 3 9 2 1) を実行し、メイン処理に戻る。

20

【 3 1 9 8 】

ここで、ステップ S 3 9 2 1 で実行される第 2 特図保留情報更新処理は、前述の特図保留格納エリア対応領域の第 2 特図保留格納エリア対応領域 (図示略) に特図当否情報のデータ (特図データ) を追加 (更新) する処理である。具体的には、第 2 特図保留情報更新処理では、主制御装置 4 の R A M 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 (図 8 参照) のうち最初の空き保留エリアに格納された特図当否情報に対応する特図データが、当該特図当否情報が格納された第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 に対応して設定される第 2 特図第 1 ~ 第 4 保留エリア対応領域 (図示略) に格納される。例えば、特図保留格納エリア 4 1 2 b における第 2 特図保留格納エリア R E B の第 3 保留エリア R E B 3 (図 8 参照) に特図当否情報が格納された場合には、第 3 保留エリア R E B 3 に対応して設定される第 2 特図第 3 保留エリア対応領域 (図示略) に特図データが格納される。また、第 2 特図保留情報更新処理では、特図保留格納エリア対応領域の第 2 特図保留数記憶エリア対応領域 (図示略) に記憶される第 2 特図保留数 M に 1 加算される。

30

【 3 1 9 9 】

<ステップ S 3 9 2 2>

受信したコマンドが第 2 特図保留コマンドでない場合 (ステップ S 3 9 2 0 : N o) 、 M P U 5 1 は、図 2 3 5 に示すように、受信したコマンドが小当たり遊技開始コマンドであるか否かを判断する (ステップ S 3 9 2 2) 。小当たり遊技開始コマンドは、小当たり遊技を開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 2 1 9 の小当たり遊技制御処理でのステップ S 3 4 0 4 において小当たり遊技を開始する場合に設定される。

40

【 3 2 0 0 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドが小当たり遊技開始コマンドである場合 (ステップ S 3 9 2 2 : Y e s) 、処理をステップ S 3 9 2 3 に移行し、受信したコマンドが小当たり遊技開始コマンドでない場合 (ステップ S 3 9 2 2 : N o) 、処理をステップ S 3 9 3 0 に移行する。

50

【3201】

<ステップS3923及びS3924>

受信したコマンドが小当たり遊技開始コマンドである場合（ステップS3922：Yes）、MPU41は、得表示OPコマンドを受信しているか否かを判断する（ステップS3923）。得表示OPコマンドは、小当たり遊技のオープニングにおいて図柄表示部341で実行させる演出として、第1報知態様の得表示オープニング演出（図222（A）参照）を設定させるものであり、図219の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技の発生時における更新情報である天井発動残回数カウンタの値が所定値（例えば121）以上であると判断される場合にステップS3409において設定される。

【3202】

MPU41は、得表示OPコマンドを受信している場合（ステップS3923：Yes）、当該小当たり遊技のオープニングにおいて図柄表示部341で実行させる演出として、第1報知態様の得表示オープニング演出（図222（A）参照）を設定し（ステップS3924）、処理をステップS3927に移行する。

【3203】

<ステップS3925及びS3926>

得表示OPコマンドを受信していない場合（ステップS3923：No）、MPU41は、損表示OPコマンドを受信しているか否かを判断する（ステップS3925）。損表示OPコマンドは、小当たり遊技のオープニングにおいて図柄表示部341で実行させる演出として、第2報知態様の損表示オープニング演出（図222（B）参照）を設定させるものであり、図219の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技の発生時における更新情報である天井発動残回数カウンタの値が所定値（例えば121）未満であると判断される場合にステップS3410において設定される。

【3204】

MPU41は、損表示OPコマンドを受信している場合（ステップS3925：Yes）、当該小当たり遊技のオープニングにおいて図柄表示部341で実行させる演出として、第2報知態様の損表示オープニング演出（図222（B）参照）を設定し（ステップS3926）、処理をステップS3927に移行する。

【3205】

<ステップS3927～S3929>

ステップS3927では、MPU41は、小当たり遊技において羽役物装置83の可動羽部832が作動している間の演出である可動羽部作動演出を設定し、さらに、小当たり遊技において羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球した場合のV入賞演出を設定する（ステップS3928）。そして、MPU41は、小当たり遊技が実行中の遊技中状態であることを示す小当たり遊技中フラグをオンに設定し（ステップS3929）、当該コマンド判定処理を終了する。

【3206】

<ステップS3930及びS3931>

受信したコマンドが小当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップS3922：No）、MPU41は、受信したコマンドが小当たりオープニング開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3930）。小当たりオープニング開始コマンドは、小当たり遊技のオープニングが開始されることを示すコマンドであり、図219の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技のオープニングが開始される場合にステップS3411において設定される。

【3207】

MPU41は、受信したコマンドが小当たりオープニング開始コマンドである場合（ステップS3930：Yes）、小当たり遊技においてオープニング演出を開始させる小当たりオープニング開始フラグをオンに設定し（ステップS3931）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU41は、受信したコマンドが小当たりオープニング開始コマンドでない場合（ステップS3930：No）、処理をステップS3932に移行する。

10

20

30

40

50

【3208】

<ステップS3932及びS3933>

受信したコマンドが小当たりオープニング開始コマンドでない場合（ステップS3930：No）、MPU41は、受信したコマンドが小当たりオープニング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3932）。小当たりオープニング終了コマンドは、小当たり遊技のオープニングが終了されることを示すコマンドであり、図219の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技のオープニングが終了される場合にステップS3416において設定される。

【3209】

MPU41は、受信したコマンドが小当たりオープニング終了コマンドである場合（ステップS3932：Yes）、小当たり遊技においてオープニング演出を終了させる小当たりオープニング終了フラグをオンに設定し（ステップS3933）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU41は、受信したコマンドが小当たりオープニング終了コマンドでない場合（ステップS3932：No）、処理を図236のステップS3934に移行する。

10

【3210】

<ステップS3934及びS3935>

受信したコマンドが小当たりオープニング終了コマンドでない場合（ステップS3932：No）、図236に示すように、MPU41は、受信したコマンドが可動羽部作動開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3934）。可動羽部作動開始コマンドは、小当たり遊技において、羽役物装置83の可動羽部832の作動が開始されることを示すものであり、図219の小当たり遊技制御処理において、羽役物装置83の可動羽部832の作動が開始される場合にステップS3419において設定される。

20

【3211】

MPU41は、受信したコマンドが可動羽部作動開始コマンドである場合（ステップS3934：Yes）、小当たり遊技において可動羽部作動演出を開始させる可動羽部作動演出開始フラグをオンに設定し（ステップS3935）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU41は、受信したコマンドが可動羽部作動開始コマンドでない場合（ステップS3932：No）、処理を図236のステップS3936に移行する。

【3212】

<ステップS3936～S3938>

受信したコマンドが可動羽部作動開始コマンドでない場合（ステップS3934：No）、MPU41は、受信したコマンドがV入賞コマンドであるか否かを判断する（ステップS3936）。V入賞コマンドは、小当たり遊技において、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球したことを示すものであり、図219の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技において、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球したことが確認された場合にステップS3427において設定される。

30

【3213】

MPU41は、受信したコマンドがV入賞コマンドである場合（ステップS3936：Yes）、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球したことを報知するV入賞演出を設定し（ステップS3937）、さらに、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球したことを示すV入賞フラグをオンに設定し（ステップS3938）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU41は、受信したコマンドがV入賞コマンドでない場合（ステップS3936：No）、処理をステップS3939に移行する。

40

【3214】

<ステップS3939及びS3940>

受信したコマンドがV入賞コマンドでない場合（ステップS3936：No）、MPU41は、受信したコマンドが小当たり遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3939）。小当たり遊技終了コマンドは、小当たり遊技が終了することを示すものであり、図219の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技が終了される場合にステ

50

ップ S 3 4 3 8 において設定される。

【 3 2 1 5 】

MPU 4 1 は、受信したコマンドが小当たり遊技終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 3 9 : Y e s）、小当たり遊技演出（可動羽部作動演出）を終了させる小当たり遊技演出終了ラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 4 0）、当該コマンド判定処理を終了する。一方、MPU 4 1 は、受信したコマンドが小当たり遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 3 9 : N o）、処理を図 2 3 7 のステップ S 3 9 4 1 に移行する。

【 3 2 1 6 】

<ステップ S 3 9 4 1>

受信したコマンドが小当たり遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 3 9 : N o）、MPU 5 1 は、図 2 3 7 に示すように、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 4 1）。大当たり遊技開始コマンドは、大当たり遊技を開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の MPU 4 1 によって実行される図 2 2 5 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 5 0 5 において大当たり遊技を開始する場合に設定される。

10

【 3 2 1 7 】

MPU 5 1 は、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 4 1 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 4 2 に移行し、受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 4 1 : N o）、処理をステップ S 3 9 4 4 に移行する。

20

【 3 2 1 8 】

<ステップ S 3 9 4 2 及び S 3 9 4 3>

大当たり遊技開始コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 4 1 : Y e s）、MPU 5 1 は、大当たり遊技演出設定処理を実行すると共に（ステップ S 3 9 4 2）、大当たり遊技中フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 4 3）、メイン処理に戻る。

【 3 2 1 9 】

大当たり遊技演出設定処理では、大当たり遊技において実行されるオープニング演出、開閉実行モード演出（ラウンド遊技演出及びインターバル演出）及びエンディング演出を含む大当たり演出を設定する処理が実行される。

【 3 2 2 0 】

また、大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技の実行中であることを示すフラグであり、後述の大当たり遊技演出制御処理において、大当たり遊技の実行中であるか否か、即ち大当たり遊技演出の進行を制御するか否かを判断するために参照される。

30

【 3 2 2 1 】

<ステップ S 3 9 4 4>

受信したコマンドが大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 4 1 : N o）、MPU 5 1 は、受信したコマンドがオープニング開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 4 4）。オープニング開始コマンドは、大当たり遊技のオープニングを開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の MPU 4 1 によって実行される図 2 2 5 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 5 0 9 においてオープニングを開始する場合に設定される。

40

【 3 2 2 2 】

MPU 5 1 は、受信したコマンドがオープニング開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 4 4 : Y e s）、処理をステップ S 3 9 4 5 に移行し、受信したコマンドがオープニング開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 4 4 : N o）、処理をステップ S 3 9 4 6 に移行する。

【 3 2 2 3 】

<ステップ S 3 9 4 5>

オープニング開始コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 4 4 : Y e s）、MPU 5 2 は、オープニング演出開始フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 4 5）、メイン処理

50

に戻る。オープニング演出開始フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を開始させるフラグであり、後述の大当たり遊技演出制御処理において、オープニング演出を開始させるか否かを判断するために参照される。

【3224】

<ステップS3946>

受信したコマンドがオープニング開始コマンドでない場合（ステップS3944：No）、MPU51は、受信したコマンドがオープニング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3946）オープニング終了コマンドは、大当たり遊技のオープニングを終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図226の大当たり遊技制御処理でのステップS3515においてオープニングを終了する場合に設定される。

10

【3225】

MPU51は、受信したコマンドがオープニング終了コマンドである場合（ステップS3946：Yes）、処理をステップS3947に移行し、受信したコマンドがオープニング終了コマンドでない場合（ステップS3946：No）、処理をステップS3948に移行する。

【3226】

<ステップS3947>

オープニング終了コマンドを受信した場合（ステップS3946：Yes）、MPU41は、オープニング演出終了フラグをオンに設定し（ステップS3947）、メイン処理に戻る。オープニング演出終了フラグは、大当たり遊技のオープニング演出を終了させるフラグであり、後述の大当たり遊技演出制御処理において、オープニング演出を終了させるか否かを判断するために参照される。

20

【3227】

<ステップS3948>

受信したコマンドがオープニング終了コマンドでない場合（ステップS3946：No）、MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3948）。ラウンド遊技開始コマンドは、開閉実行モードのラウンド遊技を開始することを示すと共に、今回実行されるラウンド遊技のラウンド数を示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図226の大当たり遊技制御処理でのステップS3518において、開閉実行モードのラウンド遊技を開始する場合に設定される。

30

【3228】

MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドである場合（ステップS3948：Yes）、処理をステップS3949に移行し、受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドでない場合（ステップS3948：No）、処理を図238のステップS3951に移行する。

【3229】

<ステップS3949及びS3950>

ラウンド遊技開始コマンドを受信した場合（ステップS3948：Yes）、MPU51は、ラウンド遊技演出開始フラグをオンに設定し（ステップS3949）、当該ラウンド遊技が何ラウンド目であるかを示すラウンド数情報をRAM512にセットし（ステップS3950）、メイン処理に戻る。ラウンド遊技演出開始フラグは、後述の大当たり遊技演出制御処理において開閉実行モード演出の各ラウンド遊技演出を開始させるか否かを判断するために参照される。

40

【3230】

<ステップS3951>

受信したコマンドがラウンド遊技開始コマンドでない場合（ステップS3948：No）、MPU51は、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3951）。ラウンド遊技終了コマンドは、開閉実行モードのラウンド遊

50

技を終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 2 2 7 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 5 3 0 において、ラウンド遊技を終了する場合に設定される。

【 3 2 3 1 】

M P U 5 1 は、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 5 1 : Y e s ）、処理をステップ S 3 9 5 2 に移行し、受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 5 1 : N o ）、処理をステップ S 3 9 5 3 に移行する。

【 3 2 3 2 】

<ステップ S 3 9 5 2 >

ラウンド遊技終了コマンドを受信した場合（ステップ S 3 9 5 1 : Y e s ）、M P U 5 1 は、ラウンド遊技演出終了フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 5 2 ）、メイン処理に戻る。ラウンド遊技終了フラグは、後述の大当たり遊技演出制御処理においてラウンド遊技演出終了するか否かを判断する場合に参照される。

【 3 2 3 3 】

<ステップ S 3 9 5 3 >

受信したコマンドがラウンド遊技終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 5 1 : N o ）、M P U 5 1 は、受信したコマンドがインターバル開始コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 5 3 ）。インターバル開始コマンドは、開閉実行モードにおけるラウンド遊技間のインターバルを開始することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 2 2 7 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 5 3 4 において、インターバルを開始させる場合に設定される。

【 3 2 3 4 】

ここで、M P U 5 1 は、受信したコマンドがインターバル開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 5 3 : Y e s ）、処理をステップ S 3 9 5 4 に移行し、受信したコマンドがインターバル開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 5 3 : N o ）、処理をステップ S 3 9 5 5 に移行する。

【 3 2 3 5 】

<ステップ S 3 9 5 4 >

受信したコマンドがインターバル開始コマンドである場合（ステップ S 3 9 5 3 : Y e s ）、M P U 5 1 は、インターバル演出開始フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 5 4 ）、メイン処理に戻る。インターバル演出開始フラグは、後述の大当たり遊技演出制御処理においてインターバル演出を開始するか否かを判断する場合に参照される。

【 3 2 3 6 】

<ステップ S 3 9 5 5 >

受信したコマンドがインターバル開始コマンドでない場合（ステップ S 3 9 5 3 : N o ）、M P U 5 1 は、受信したコマンドがインターバル終了コマンドであるか否かを判断する（ステップ S 3 9 5 5 ）。インターバル終了コマンドは、開閉実行モードにおけるラウンド遊技間のインターバルを終了することを示すコマンドであり、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される図 2 2 8 の大当たり遊技制御処理でのステップ S 3 5 4 0 においてインターバルを終了させる場合に設定される。

【 3 2 3 7 】

ここで、M P U 5 1 は、受信したコマンドがインターバル終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 5 5 : Y e s ）、処理をステップ S 3 9 5 6 に移行し、受信したコマンドがインターバル終了コマンドでない場合（ステップ S 3 9 5 5 : N o ）、処理をステップ S 3 9 5 7 に移行する。

【 3 2 3 8 】

<ステップ S 3 9 5 6 >

受信したコマンドがインターバル終了コマンドである場合（ステップ S 3 9 5 5 : Y e s ）、M P U 5 1 は、インターバル演出終了フラグをオンに設定し（ステップ S 3 9 5 6

10

20

30

40

50

）、メイン処理に戻る。インターバル演出終了フラグは、後述の大当たり遊技演出制御処理においてインターバル演出を終了するか否かを判断する場合に参照される。

【3239】

＜ステップS3957＞

受信したコマンドがインターバル終了コマンドでない場合（ステップS3956：No）、MPU51は、受信したコマンドがエンディング開始コマンドであるか否かを判断する（ステップS3957）。エンディング開始コマンドは、大当たり遊技におけるエンディングを開始することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図227の大当たり遊技制御処理でのステップS3543において、エンディングを開始させる場合に設定される。

10

【3240】

ここで、MPU51は、受信したコマンドがエンディング開始コマンドである場合（ステップS3957：Yes）、処理をステップS3958に移行し、受信したコマンドがエンディング開始コマンドでない場合（ステップS3957：No）、処理をステップS3959に移行する。

【3241】

＜ステップS3958＞

受信したコマンドがエンディング開始コマンドである場合（ステップS3957：Yes）、MPU51は、エンディング演出開始フラグをオンに設定し（ステップS3958）、メイン処理に戻る。エンディング演出開始フラグは、後述の大当たり遊技演出制御処理においてエンディング演出を開始するか否かを判断する場合に参照される。

20

【3242】

＜ステップS3959＞

受信したコマンドがエンディング開始コマンドでない場合（ステップS3957：No）、MPU51は、受信したコマンドがエンディング終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3959）。エンディング終了コマンドは、大当たり遊技のエンディングが終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図228の大当たり遊技制御処理でのステップS3549において、エンディングを終了させる場合に設定される。

【3243】

ここで、MPU51は、受信したコマンドがエンディング終了コマンドである場合（ステップS3959：Yes）、処理をステップS3960に移行し、受信したコマンドがエンディング終了コマンドでない場合（ステップS3959：No）、処理をステップS3961に移行する。

30

【3244】

＜ステップS3960＞

受信したコマンドがエンディング終了コマンドである場合（ステップS3959：Yes）、MPU51は、エンディング演出終了フラグをオンに設定し（ステップS3960）、メイン処理に戻る。エンディング演出終了フラグは、後述の大当たり遊技演出制御処理においてエンディング演出を終了するか否かを判断する場合に参照される。

40

【3245】

＜ステップS3961＞

受信したコマンドがエンディング終了コマンドでない場合（ステップS3959：No）、MPU51は、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドであるか否かを判断する（ステップS3961）。大当たり遊技終了コマンドは、大当たり遊技を終了することを示すコマンドであり、主制御装置4のMPU41によって実行される図225の大当たり遊技制御処理でのステップS3551において、大当たり遊技を終了する場合に設定される。

【3246】

ここで、MPU51は、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドである場合（ス

50

テップ S 3 9 6 1 : Y e s) 、処理をステップ S 3 9 6 2 に移行し、受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドでない場合 (ステップ S 3 9 6 1 : N o) 、処理をステップ S 3 9 6 3 に移行する。

【 3 2 4 7 】

<ステップ S 3 9 6 2>

受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドである場合 (ステップ S 3 9 6 1 : Y e s) 、M P U 5 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオフに設定し (ステップ S 3 9 6 2) 、メイン処理に戻る。

【 3 2 4 8 】

<ステップ S 3 9 6 3>

受信したコマンドが大当たり遊技終了コマンドでない場合 (ステップ S 3 9 6 1 : N o) 、M P U 5 1 は、主制御装置 4 から受信したその他のコマンドに基づく処理を実行し (ステップ S 3 9 6 3) 、当該コマンド判定処理を終了する。

【 3 2 4 9 】

[音声ランプ制御装置 5 の副タイマ割込処理]

次に、図 2 3 9 を参照して、音声ランプ制御装置 5 の M P U 5 1 により実行される副タイマ割込処理について説明する。ここで、図 2 3 9 は、音声ランプ制御装置 5 の M P U 5 1 によって実行される副タイマ割込処理の手順の一例を示すフローチャートである。M P U 5 1 は、例えば副タイマ割込処理を 1 m s e c 周期の定期処理として実行する。

【 3 2 5 0 】

図 2 3 9 に示すように、M P U 5 1 は、副タイマ割込処理において、カウンタ更新処理 (ステップ S 4 0 0 1) 、特図遊技演出制御処理 (ステップ S 4 0 0 2) 、小当たり遊技演出制御処理 (ステップ S 4 0 0 3) 、及び大当たり遊技演出制御処理 (ステップ S 4 0 0 4) を実行する。

【 3 2 5 1 】

[カウンタ更新処理]

カウンタ更新処理 (ステップ S 4 0 0 1) では、M P U 5 1 は、更新情報である演出パターン種別カウンタ、第 1 停止図柄種別カウンタ、変動表示カウンタなどの更新処理を実行する。具体的には、M P U 5 1 は、演出種別カウンタ及び第 1 停止図柄種別カウンタでのカウンタ値に 1 を加算し、そのカウンタ値が最大値に達した場合は当該カウンタ値を 0 にクリアする。演出パターン種別カウンタは、主制御装置 4 から受信する特図変動パターンコマンドに基づいて変動種別 (演出パターン) を決定するために使用される。例えば、演出種別カウンタは 0 ~ 1 0 9 の間でループするループカウンタである。また、第 1 停止図柄種別カウンタは、主制御装置 4 から受信する特図変動パターンコマンドに基づいて最初に停止される飾り図柄の種別を決定するために使用される。例えば、第 1 停止図柄種別カウンタは 0 ~ 9 9 の間でループするループカウンタである。一方、M P U 5 1 は、変動表示カウンタを 1 減算する。この変動表示カウンタは、図柄表示部 3 4 1 の変動表示時間を計時するためのものであり、変動表示カウンタでのカウンタ値は残り変動表示時間が 0 になる場合に 0 になるように設定される。従って、変動表示カウンタのカウンタ値に基づいて、残りの変動表示時間、変動中であること、図柄表示部 3 4 1 の変動表示が終了したことなどを把握できる。

【 3 2 5 2 】

[特図遊技演出制御処理]

特図遊技演出制御処理 (ステップ S 4 0 0 2) では、M P U 5 1 は、特図変動パターンコマンドを受信した場合に図 2 3 4 のコマンド判定処理のステップ S 3 9 0 3 において設定される変動種別 (演出パターン) に従って特図遊技演出の進行を制御する処理が実行される。

【 3 2 5 3 】

[小当たり遊技演出制御処理]

小当たり遊技演出制御処理 (ステップ S 4 0 0 3) では、M P U 5 1 は、小当たり遊技

10

20

30

40

50

開始コマンドを受信した場合に図 2 3 5 のコマンド判定処理のステップ S 3 9 2 3 又は S 3 9 2 6 において設定されるオープニング演出、ステップ S 3 9 2 7 において設定される可動羽部作動中演出、及びステップ S 3 9 2 8 において設定される V 入賞演出に従って小当たり遊技演出の進行を制御する処理が実行される。

【3 2 5 4】

〔大当たり遊技演出制御処理〕

大当たり遊技演出制御処理（ステップ S 4 0 0 4）では、M P U 5 1 は、大当たり遊技開始コマンドを受信した場合に図 2 3 7 のコマンド判定処理のステップ S 3 9 4 2 において設定される大当たり遊技演出に従って大当たり遊技演出の進行を制御する処理が実行される。

10

【3 2 5 5】

〔表示制御装置 6 の処理〕

次に、図 2 4 0 ～図 2 5 4 を参照して、表示制御装置 6 の M P U 6 3 1 により実行される各制御について説明する。かかる M P U 6 3 1 の処理としては大別して、電源投入後から繰り返し実行されるメイン処理と、音声ランプ制御装置 5 よりコマンドを受信した場合に実行されるコマンド割込処理と、画像コントローラ 6 3 7 より 1 フレーム分の画像の描画処理が完了する 2 0 ミリ秒毎に送信される V 割込信号を M P U 6 3 1 が検出した場合に実行される更新処理である V 割込処理とがある。M P U 6 3 1 は、通常、メイン処理を実行し、コマンドの受信や V 割込信号の検出に合わせて、コマンド割込処理や V 割込処理を実行する。なお、コマンドの受信と V 割込信号の検出とが同時に行われた場合は、コマンド受信処理を優先的に実行する。これにより、音声ランプ制御装置 5 より受信したコマンドの内容を素早く反映して、V 割込処理を実行させることができる。

20

【3 2 5 6】

〔表示制御装置 6 のメイン処理〕

まず図 2 4 0 を参照して、表示制御装置 6 内の M P U 6 3 1 により実行されるメイン処理について説明する。図 2 4 0 は、このメイン処理を示したフローチャートである。メイン処理は、電源投入時の初期化処理を実行するものである。

【3 2 5 7】

このメイン処理の起動は、具体的には、以下の流れに従って行われる。電源制御装置 9 から表示制御装置 6 に対して電源が投入され、システムリセットが解除されると、M P U 6 3 1 は、そのハードウェア構成によって、M P U 6 3 1 内に設けられた更新情報である命令ポインタ 6 3 1 a を「0 0 0 0 H」に設定すると共に、命令ポインタ 6 3 1 a にて示されるアドレス「0 0 0 0 H」をバスライン 6 4 0 に対して指定する。キャラクタ R O M 6 3 4 の R O M コントローラ 6 3 4 b は、バスライン 6 4 0 に指定されたアドレスが「0 0 0 0 H」であることを検知すると、N O R 型 R O M 6 3 4 d の第 1 プログラム記憶エリア 6 3 4 d 1 に記憶されたブートプログラムをバッファ R A M 6 3 4 c にセットして、対応するデータ（命令コード）を M P U 6 3 1 へ出力する。そして、M P U 6 3 1 は、キャラクタ R O M 6 3 4 から受け取った命令コードをフェッチし、そのフェッチした命令に応じた処理の実行を開始することで、メイン処理を起動する。

30

【3 2 5 8】

ここで、仮にシステムリセット解除後に M P U 6 3 1 によって最初に処理されるブートプログラムを全て N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a に記憶させた場合、キャラクタ R O M 6 3 4 は、バスライン 6 4 0 に指定されたアドレスが「0 0 0 0 H」であることを検知すると、アドレス「0 0 0 0 H」に対応するデータ（命令コード）を含む更新情報である 1 ページ分のデータを N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a から読み出してバッファ R A M 6 3 4 c にセットする更新処理を実行しなければならない。そして、N A N D 型フラッシュメモリ 6 3 4 a の性質上、その読み出しからバッファ R A M 6 3 4 c へのセットに多大な時間を要するので、M P U 6 3 1 は、アドレス「0 0 0 0 H」を指定してからアドレス「0 0 0 0 H」に対応する命令コードを受け取るまでに多くの待ち時間を消費することとなる。よって、M P U 6 3 1 の起動にかかる時間が長くなるので、結果として、表示

40

50

制御装置 6 における図柄表示部 3 4 1 の制御が即座に開始されないおそれがあるという問題点が生じる。

【3 2 5 9】

これに対し、本実施形態のように、ブートプログラムのうち、システムリセット解除後に MPU 6 3 1 によって最初に処理すべき命令から所定数の命令が NOR 型 ROM 6 3 4 d に格納されることにより、NOR 型 ROM は高速にデータを読み出すことが可能なメモリであるため、システムリセット解除後に MPU 6 3 1 からバスライン 6 4 0 を介してアドレス「0 0 0 0 H」が指定されると、キャラクタ ROM 6 3 4 は即座に NOR 型 ROM 6 3 4 d の第 1 プログラム記憶エリア 6 3 4 d 1 に記憶されたブートプログラムをバッファ RAM 6 3 4 c にセットして、対応するデータ（命令コード）を MPU 6 3 1 へ出力することができる。よって、MPU 6 3 1 は、アドレス「0 0 0 0 H」を指定してから短い時間でアドレス「0 0 0 0 H」に対応する命令コードを受け取ることができるので、MPU 6 3 1 においてメイン処理の起動を短時間で行うことができる。従って、読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a で構成されたキャラクタ ROM 6 3 4 に制御プログラムを格納しても、表示制御装置 6 における図柄表示部 3 4 1 の制御を即座に開始することができる。

10

【3 2 6 0】

<ステップ S 4 1 0 1>

以上のようにしてメイン処理が実行されると、まず、ブートプログラムによって実行されるブート処理を実行し（ステップ S 4 1 0 1）、図柄表示部 3 4 1 に対する各種制御が実行可能となるように表示制御装置 6 を起動する。ブート処理では、制御プログラム及び一部の固定データを、ワーク RAM 6 3 3 のプログラム格納エリア 6 3 3 a に格納し、また、固定値データのうち上述の各種データテーブル（表示データテーブル、追加データテーブル、転送データテーブル）をデータテーブル格納エリア 6 3 3 b に格納する。

20

【3 2 6 1】

ここで、上述したように、本実施形態では、MPU 6 3 1 によって実行される制御プログラムや固定値データは、従来の遊技機のように専用のプログラム ROM を設けて記憶させるのではなく、図柄表示部 3 4 1 に表示させる画像のデータを記憶させるために設けられたキャラクタ ROM 6 3 4 に記憶させている。そしてキャラクタ ROM 6 3 4 は、小面積で大容量化を図ることが可能な NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a によって構成されているため、画像データだけでなく制御プログラム等を十分に記憶させておくことができる一方、制御プログラム等を記憶する専用のプログラム ROM を設ける必要がない。よって、表示制御装置 6 における部品点数を削減することができ、製造コストを削減できるほか、部品数増加による故障発生率の増加を抑制することができる。

30

【3 2 6 2】

一方、NAND 型フラッシュメモリは、特にランダムアクセスを行う場合において読み出し速度が遅いため、MPU 6 3 1 が NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a に格納された制御プログラムや固定値データを直接読み出して処理しては、MPU 6 3 1 として高性能のプロセッサを用いても、表示制御装置 6 の処理性能を悪化させてしまうおそれがある。そこで、本ブート処理では、NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a の第 2 プログラム記憶エリア 6 3 4 a 1 に記憶されている制御プログラム及び固定値データを、DRAM によって構成されるワーク RAM 6 3 3 に設けられたプログラム格納エリア 6 3 3 a やデータテーブル格納エリア 6 3 3 b へ転送し格納する処理を実行する。そして、ブート処理の終了時に、命令ポインタ 6 3 1 a が上述の第 2 の所定番地に設定され、以後、MPU 6 3 1 は、NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a を参照することなく、プログラム格納エリア 6 3 3 a に転送された制御プログラムや、データテーブル格納エリア 6 3 3 b を用いて各種処理を実行する。

40

【3 2 6 3】

よって、制御プログラムを読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a によって構成されるキャラクタ ROM 6 3 4 に記憶させた場合であっても、システムリセッ

50

ト解除後にその制御プログラム等をワークRAM 633のプログラム格納エリア 633 a 等に転送することで、MPU 631は、読み出し速度が高速なDRAMによって構成されるワークRAMから制御プログラム等を読み出して各種制御を行うことができるので、表示制御装置6において高い処理性能を保つことができ、図柄表示部 341を用いて、多様化、複雑化させた演出を容易に実行することができる。

【3264】

一方、NOR型ROM 634 dにブートプログラムを全て格納せずに、システムリセット解除後にMPU 631によって最初に処理すべき命令から所定数の命令を格納しておき、残りのブートプログラムについては、NAND型フラッシュメモリ 634 aの第2プログラム記憶エリア 634 a1に記憶させても、第2プログラム記憶エリア 634 a1に記憶されている制御プログラムを確実にプログラム格納エリア 633 aに転送することができる。よって、キャラクタROM 634は、極めて小容量のNOR型ROM 634 dを追加するだけで、MPU 631の起動を短時間で行うことができるようになるので、その短時間化に伴うキャラクタROM 634のコスト増加を抑制することができる。

【3265】

<ステップS 4102>

ブート処理を終了すると、次いで、ワークRAM 633のプログラム格納エリア 633 aに転送され格納された制御プログラムに従って、初期設定処理を実行する(ステップS 4102)。具体的には、MPU 631を初期設定し、ワークRAM 633、常駐用ビデオRAM 635、通常用ビデオRAM 636の記憶をクリアする処理などが行われる。また、ワークRAM 633に更新情報として各種フラグを設け、それぞれのフラグに初期値を設定する。なお、各フラグの初期値として、特に明示した場合を除き、「オフ」又は「0」が設定される。

【3266】

更に、初期設定処理では、画像コントローラ 637の初期設定を行った後、図柄表示部 341に特定の色の画像が画面全体に表示されるように、画像コントローラ 637に対して、画像の描画及び表示処理の実行を指示する。これにより、電源投入直後において、図柄表示部 341には、まず、特定の色の画像が画面全体に表示される。ここで、電源投入直後に図柄表示部 341の画面全体に表示される画像の色が、遊技機の機種に応じて異なる色となるように設定されている。これにより、製造時の工場等における動作チェックにおいて、電源投入直後に、その機種に応じた色の画像が図柄表示部 341に表示されるか否かを検査することで、遊技機 10が正常に起動開始できるか否かを簡易かつ即座に判断することができる。

【3267】

<ステップS 4103>

次いで、電源投入時主画像に対応する画像データを常駐用ビデオRAM 635の電源投入時主画像エリア 635 aへ転送するように、画像コントローラ 637に対して転送指示を送信する(ステップS 4103)。この転送指示には、電源投入時主画像に対応する画像データが格納されているキャラクタROM 634の先頭アドレス及び最終アドレスと、転送先の情報(ここでは、常駐用ビデオRAM 635)と、転送先である電源投入時主画像エリア 635 aの先頭アドレスとが含まれており、画像コントローラ 637は、この転送指示に従って、電源投入時主画像に対応する画像データがキャラクタROM 634から常駐用ビデオRAM 635の電源投入時主画像エリア 635 aに転送される。

【3268】

そして、転送指示により示された画像データの転送が全て完了すると、画像コントローラ 637は、MPU 631に対して転送終了を示す転送終了信号を送信する。MPU 631はこの転送終了信号を受信することにより、転送指示で指定した画像データの転送が終了したことを把握することができる。なお、画像コントローラ 637は、転送指示により示された画像データの転送を全て完了した場合、画像コントローラ 637の内部に設けられたレジスタ又は内蔵メモリの一部領域に、転送終了を示す転送終了情報を書き込むよう

10

20

30

40

50

にしてもよい。そして、MPU631は随時このレジスタ又は内蔵メモリの一部領域の情報を読み出し、画像コントローラ637による転送終了情報の書き込みを検出することによって、転送指示で指定した画像データの転送が終了したことを把握するようにしてもよい。

【3269】

電源投入時主画像エリア635aに転送された画像データは、電源が遮断されるまで上書きされないように保持される。

【3270】

<ステップS4104>

ステップS4103の処理により画像コントローラ637に対して送信された転送指示に基づき、電源投入時主画像に対応する画像データの電源投入時主画像エリア635aへの転送が終了すると、次いで、電源投入時変動画像に対応する画像データを常駐用ビデオRAM635の電源投入時変動画像エリア635bへ転送するように、画像コントローラに対して転送指示を送信する(ステップS4104)。この転送指示には、電源投入時変動画像に対応する画像データが格納されているキャラクタROM634の先頭アドレスと、その画像データのデータサイズと、転送先の情報(ここでは、常駐用ビデオRAM635)と、転送先である電源投入時変動画像エリア635bの先頭アドレスとが含まれており、画像コントローラは、この転送指示に従って、電源投入時変動画像に対応する画像データがキャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635の電源投入時変動画像エリア635bに転送される。そして、電源投入時変動画像エリア635bに転送された画像データは、電源が遮断されるまで上書きされないように保持される。

【3271】

<ステップS4105>

ステップS4104の処理により画像コントローラ637に対して送信された転送指示に基づき、電源投入時変動画像に対応する画像データの電源投入時変動画像エリア635bへの転送が終了すると、次いで、簡易画像表示フラグ633cをオンする(ステップS4105)。これにより、簡易画像表示フラグ633cがオンの間は、後述する転送設定処理(図252(A)参照)において、常駐用ビデオRAM635に常駐すべき全ての画像データをキャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635へ転送するように画像コントローラ637へ転送を指示する常駐画像転送設定処理が実行される(図252(B)のステップS3002参照)。

【3272】

また、簡易画像表示フラグ633cは、この常駐画像転送設定処理による画像コントローラ637への転送指示に基づき、常駐用ビデオRAM635に常駐すべき全ての画像データのキャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635への転送が終了するまでの間、オンに維持される。これにより、その間は、V割込処理(図241(B)参照)において、図196に示す電源投入時画像(電源投入時主画像や電源投入時変動画像)が描画されるように、簡易コマンド判定処理(図241(B)のステップS4308参照)及び簡易表示設定処理(図241(B)のステップS4309参照)が実行される。

【3273】

上述したように、本遊技機10では、キャラクタROM634にNAND型フラッシュメモリ634aを用いているため、その読み出し速度が遅いことに起因して、常駐用ビデオRAM635に格納すべき全ての画像データが、キャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635に転送されるまでに多くの時間を要する。そこで、本メイン処理のように、電源が投入された後、まず先に電源投入時主画像及び電源投入時変動画像をキャラクタROM634から常駐用ビデオRAM635へ転送し、電源投入時主画像を図柄表示部341に表示することで、残りの常駐すべき画像データが常駐用ビデオRAM635に転送されている間、遊技者やホール関係者は、図柄表示部341に表示された電源投入時主画像を確認することができる。よって、表示制御装置6は、電源投入時主画像を図柄表示部341に表示させている間に、時間をかけて残りの常駐すべき画像データをキャラクタ

ROM 634 から常駐用ビデオ RAM 635 に転送することができる。一方、遊技者等は、電源投入時主画像が図柄表示部 341 に表示されている間、何らかの初期化処理が行われていることを認識できるので、残りの常駐用ビデオ RAM 635 に常駐すべき画像データがキャラクタ ROM 634 から常駐用ビデオ RAM 635 に転送されるまでの間、動作が停止していないか、といった不安を持つことなく、初期化が完了するまで待機することができる。

【3274】

また、製造時の工場等における動作チェックにおいても、電源投入時主画像がすぐに図柄表示部 341 に表示されることによって、図柄表示部 341 が電源投入によって問題なく動作が開始されていることをすぐに確認することができ、キャラクタ ROM 634 に読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 634a を用いることにより動作チェックの効率が悪化することを抑制できる。

【3275】

また、遊技機 10 の表示制御装置 6 では、電源投入後に電源投入時主画像とあわせて電源投入時変動画像もキャラクタ ROM 634 から常駐用ビデオ RAM 635 へ転送するので、電源投入時主画像が図柄表示部 341 に表示されている間に遊技者が遊技を開始したことにより、第 1 入賞口 314 へ入球（始動入賞）があり、特図遊技演出の開始指示が主制御装置 4 より音声ランプ制御装置 5 を介してあった場合、即ち、表示用変動パターンコマンドを受信した場合は、図 196（B）及び図 196（C）に示す電源投入時変動画像をその特図遊技演出期間中に即座に表示させ、簡単な変動演出を行うことができる。よって、遊技者は、電源投入時主画像が図柄表示部 341 に表示されている間であっても、その簡単な特図遊技演出によって確実に抽選が行われたことを確認することができる。

【3276】

また、上述したように、残りの常駐すべき画像データがキャラクタ ROM 634 から常駐用ビデオ RAM 635 に転送されている間は、図柄表示部 341 に電源投入時主画像が表示され続けるが、キャラクタ ROM 634 は読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 634a によって構成されているので、その転送に時間がかかるので、電源投入後、電源投入時主画像が表示され続ける時間も長くなる。しかしながら、本遊技機 10 では、電源投入後に常駐用ビデオ RAM 635 に転送された電源投入時変動画像を用いて簡易的な特図遊技演出を行うことができるので、電源が投入された直後、例えば、停電復帰直後などにおいて、電源投入時主画像が表示されている間であっても、遊技者に安心して遊技を行わせることができる。

【3277】

<ステップ S4106>

ステップ S4105 の処理の後、割込許可を設定し（ステップ S4106）、以後、メイン処理は電源が切断されるまで、無限ループ処理を実行する。これにより、ステップ S4106 の処理によって割込許可が設定されて以降、コマンドの受信及び V 割込信号の検出に従って、コマンド割込処理及び V 割込処理を実行する。

【3278】

〔表示制御装置 6 のコマンド割込処理〕

次いで、図 241（A）を参照して、表示制御装置 6 の MPU 631 で実行されるコマンド割込処理について説明する。図 241（A）は、そのコマンド割込処理を示すフローチャートである。上述したように、音声ランプ制御装置 5 からコマンドを受信すると、MPU 631 によってコマンド割込処理が実行される。

【3279】

図 241（A）に示すように、コマンド割込処理では、受信したコマンドデータを抽出し、ワーク RAM 633 に設けられたコマンドバッファ領域に、その抽出したコマンドデータを順次格納して（ステップ S4201）、当該コマンド割込処理を終了する。このコマンド割込処理によってコマンドバッファ領域に格納された各種コマンドは、後述する V 割込処理のコマンド判定処理又は簡易コマンド判定処理によって読み出され、そのコマン

10

20

30

40

50

ドに応じた処理が行われる。

【3280】

〔表示制御装置6のV割込処理〕

次いで、図241(B)を参照して、表示制御装置6のMPU631で実行されるV割込処理について説明する。図241(B)は、そのV割込処理を示すフローチャートである。更新処理であるV割込処理では、コマンド割込処理によってコマンドバッファ領域に格納されたコマンドに対応する各種処理を実行すると共に、図柄表示部341に表示させる画像を特定した上で、その画像の更新情報である描画リスト(図202参照)を作成し、その描画リストを画像コントローラ637に送信することで、画像コントローラ637に対し、その画像の描画処理及び表示処理の実行を指示するものである。

10

【3281】

上述したように、このV割込処理は、画像コントローラ637からの更新情報であるV割込信号が検出されることによって実行が開始される。このV割込信号は、画像コントローラ637において、1フレーム分の画像の描画処理が完了する20ミリ秒毎に生成され、MPU631に対して送信される信号である。よって、このV割込信号に同期させてV割込処理を実行することにより、画像コントローラ637に対して描画指示が、1フレーム分の画像の描画処理が完了する20ミリ秒毎に行われることになる。よって、画像コントローラ637では、画像の描画処理や表示処理が終了していない段階で、次の画像の描画指示を受け取ることがないので、画像の描画途中で新たな画像の描画を開始したり、表示中の画像情報が格納されているフレームバッファに、新たな描画指示に伴って画像が展開されたりすることを防止することができる。

20

【3282】

<ステップS4301～S4303>

ここでは、まず、V割込処理のフローの概略について説明し、次いで、各処理の詳細について他の図面を参照して説明する。このV割込処理では、図241(B)に示すように、まず、簡易画像表示フラグ633cがオンであるか否かを判別し(ステップS4301)、簡易画像表示フラグ633cがオンではない、即ち、オフであれば(ステップS4301:No)、常駐用ビデオRAM635に常駐すべき全ての画像データの転送が完了していることを意味するので、図196に示した電源投入時画像ではなく、通常の演出画像を図柄表示部341に表示させるべく、コマンド判定処理(ステップS4302)を実行し、次いで、表示設定処理(ステップS4303)を実行する。

30

【3283】

コマンド判定処理(ステップS4302)では、コマンド割込処理によってコマンドバッファ領域に格納された音声ランプ制御装置5からのコマンドの内容を解析し、そのコマンドに応じた処理を実行すると共に、表示用デモコマンドや表示用変動パターンコマンドが格納されていた場合は、デモ用表示データテーブル又は変動パターン種別に応じた変動用表示データテーブルを表示データテーブルバッファ633dに設定すると共に、設定された表示データテーブルに対応する転送データテーブルを転送データテーブルバッファ633fに設定する。また、連続予告コマンドが格納されていた場合は、連続予告画像種別に応じた連続予告用追加データテーブルを追加データテーブルバッファ633eに設定する。

40

【3284】

このコマンド判定処理では、その時点でコマンドバッファ領域に格納されている全てのコマンドを解析して、処理を実行する。これは、コマンド判定処理が、V割込処理の実行される20ミリ秒間隔で行われるため、その20ミリ秒の間に複数のコマンドがコマンドバッファ領域に格納されている可能性が高いためである。特に、主制御装置4において、変動演出の開始が決定された場合、表示用変動パターンコマンドや停止種別コマンド、連続予告コマンドなどが同時にコマンドバッファ領域に格納されている可能性が高い。従って、これらのコマンドを一度に解析して実行することによって、主制御装置4や音声ランプ制御装置5によって選定された特図遊技演出や連続予告演出の態様を素早く把握し、そ

50

の態様に応じた演出画像を図柄表示部 3 4 1 に表示させるように、画像の描画を制御することができる。なお、このコマンド割込処理の詳細については、図 2 4 2 ～図 2 4 6 を参照して後述する。

【 3 2 8 5 】

表示設定処理（ステップ S 4 3 0 3）では、コマンド判定処理（ステップ S 4 3 0 2）などによって表示データテーブルバッファ 6 3 3 d 及び追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に設定された表示データテーブル及び追加データテーブルの内容に基づき、図柄表示部 3 4 1 において次に表示すべき 1 フレーム分の画像の内容を具体的に特定する。また、処理の状況などに応じて、図柄表示部 3 4 1 に表示すべき演出態様を決定し、その決定した演出態様に対応する表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定する。なお、この表示設定処理の詳細については、図 2 4 7 ～図 2 5 0 を参照して後述する。

10

【 3 2 8 6 】

<ステップ S 4 3 0 4>

表示設定処理が実行された後、次いで、タスク処理を実行する（ステップ S 4 3 0 4）。このタスク処理では、表示設定処理（ステップ S 4 3 0 3）若しくは簡易表示設定処理（ステップ S 4 3 0 9）によって特定された、図柄表示部 3 4 1 に表示すべき次の 1 フレーム分の画像の内容に基づき、その画像を構成するスプライト（表示物）の種別を特定すると共に、スプライト毎に、表示座標位置や拡大率、回転角度といった描画に必要な各種パラメータを決定する。

20

【 3 2 8 7 】

<ステップ S 4 3 0 5>

次に、転送設定処理を実行する（ステップ S 4 3 0 5）。この転送設定処理では、簡易画像表示フラグ 6 3 3 c がオンである間は、画像コントローラ 6 3 7 に対して、常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に常駐すべき画像データをキャラクタ ROM 6 3 4 から常駐用ビデオ RAM 6 3 5 の所定エリアへ転送させる転送指示を設定する。また、簡易画像表示フラグ 6 3 3 c がオフである間は、転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に設定される転送データテーブルの転送データ情報に基づき、画像コントローラ 6 3 7 に対して、所定の画像データをキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 の画像格納エリア 6 3 6 a の所定サブエリアへ転送させる転送指示を設定すると共に、音声ランプ制御装置 5 から連続予告コマンドや背面画像変更コマンドを受信した場合にも、画像コントローラ 6 3 7 に対して、連続予告演出で使用する連続予告画像の画像データや変更後の背面画像の画像データをキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 の画像格納エリア 6 3 6 a の所定サブエリアへ転送させる転送指示を設定する。

30

【 3 2 8 8 】

<ステップ S 4 3 0 6>

次いで、描画処理を実行する（ステップ S 4 3 0 6）。この描画処理では、タスク処理（ステップ S 4 3 0 4）で決定された、1 フレームを構成する各種スプライトの種別やそれぞれのスプライトの描画に必要なパラメータと、転送設定処理（ステップ S 4 3 0 5）により設定された転送指示とから、図 2 0 2 に示す更新情報としての描画リストを生成し、描画対象バッファ情報と共に、その描画リストを画像コントローラ 6 3 7 に対して送信する更新処理が実行される。これにより、画像コントローラ 6 3 7 では、描画リストに従って、画像の描画処理を実行する。なお、描画処理の詳細については、図 2 5 4 を参照して後述する。

40

【 3 2 8 9 】

<ステップ S 4 3 0 7>

次いで、表示制御装置 6 に設けられた更新情報である各種カウンタの更新処理を実行する（ステップ S 4 3 0 7）。そして、V 割込処理を終了する。ステップ S 4 3 0 7 の処理によって更新されるカウンタとしては、例えば、停止図柄を決定するための停止図柄カウンタ（図示せず）がある。この停止図柄カウンタの値は、ワーク RAM 6 3 3 に格納され

50

、V割込処理が実行される度に、更新処理が行われる。そして、コマンド判定処理において、表示用停止種別コマンドの受信が検出されると、表示用停止種別コマンドにより示される停止種別（小当たり、前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れ）に対応する停止種別テーブルと停止種別カウンタとが比較され、図柄表示部341に表示される飾り図柄の特図遊技演出後の停止図柄が最終的に設定される。

【3290】

＜ステップS4308及びS4309＞

ステップS4301の処理において、簡易画像表示フラグがオンであると判別されると（ステップS4301：Yes）、常駐用ビデオRAM635に常駐すべき全ての画像データの転送が完了していないことを意味するので、図196に示した電源投入時画像を図柄表示部341に表示させるべく、簡易コマンド判定処理（ステップS4308）を実行し、次いで、簡易表示設定処理（ステップS4309）を実行して、ステップS4304の処理へ移行する。

10

【3291】

〔表示制御装置6のコマンド判定処理〕

次いで、図242～図254を参照して、図241（B）のV割込処理のステップS4302で実行される割込処理のコマンド判定処理の詳細について説明する。まず、図242は、コマンド判定処理を示すフローチャートである。

【3292】

＜ステップS4401～S4403＞

図242に示すように、コマンド判定処理では、まず、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがあるか否かを判別し（ステップS4401）、未処理の新規コマンドがなければ（ステップS4401：No）、コマンド判定処理を終了してV割込処理に戻る。一方、未処理の新規コマンドがあれば（ステップS4401：Yes）をオン状態で新規コマンドを処理したことを表示設定処理（図241のステップS4303）に通知する新規コマンドフラグをオンに設定し（ステップS4402）、次いで、コマンドバッファ領域に格納されている未処理のコマンドすべてについて、そのコマンドの種別を解析する（ステップS4403）。

20

【3293】

＜ステップS4404及びS4505＞

そして、未処理のコマンドの中に、まず、表示用保留球数コマンドがあるか否かを判定し（ステップS4404）、表示用保留球数コマンドがあれば（ステップS4404：Yes）、保留球数コマンド処理を実行して（ステップS4405）、ステップS4401の処理に戻る。

30

【3294】

〔保留球数コマンド処理〕

ここで、図243（A）を参照して、図242の表示制御装置6のコマンド判定処理のステップS4405で実行される保留球数コマンド処理について説明する。図243（A）は、保留球数コマンド処理を示すフローチャートである。この保留球数コマンド処理は、音声ランプ制御装置5より受信した表示用保留球数コマンドに対応する処理を実行するものである。

40

【3295】

図243（A）に示すように、保留球数コマンド処理では、まず、オン状態で表示用保留球数コマンドを処理したことを表示設定処理（図241のステップS4303）に通知する新規保留球数コマンドフラグをオンし（ステップS4501）、次いで、表示用保留球数コマンドに含まれる保留球数情報を取得する（ステップS4502）。なお、ステップS4502の処理において、2以上の表示用保留球数コマンドがコマンドバッファ領域に格納されていれば、最後に格納された表示用保留球数コマンドから保留球数情報を取得する。これにより、最新の保留球数情報を取得することができる。

【3296】

50

そして、保留球数毎に設けられた個数判別フラグのうち、ステップ S 4 5 0 2 の処理で取得した保留球数に対応する個数判別フラグをオンすると共に、その他の保留球数に対応する個数判別フラグをオフにして（ステップ S 4 5 0 3）、図 2 4 2 のコマンド判定処理に戻る。

【3 2 9 7】

これにより、表示設定処理では、新規保留球数コマンドフラグがオンである場合に、個数判別フラグを参照することで、オンが設定された個数判別フラグに対応する保留球数分の保留球数図柄が図柄表示部 3 4 1 に表示されるように、保留画像データを展開する。

【3 2 9 8】

<ステップ S 4 4 0 6 及び S 4 5 0 7>

図 2 4 2 のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップ S 4 4 0 4 の処理において、表示用保留球数コマンドがないと判別されると（ステップ S 4 4 0 4：No）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用確定コマンドがあるか否かを判別し（ステップ S 4 4 0 6）、表示用確定コマンドがあれば（ステップ S 4 4 0 6：Yes）、確定コマンド処理を実行して（ステップ S 4 4 0 7）、ステップ S 4 4 0 1 の処理へ戻る。

【3 2 9 9】

〔確定コマンド処理〕

ここで、図 2 4 3（B）を参照して、図 2 4 2 の表示制御装置 6 のコマンド判定処理のステップ S 4 4 0 7 で実行される表示制御装置 6 のコマンド判定処理のステップ S 4 4 0 7 で実行される確定コマンド処理について説明する。図 2 4 3（B）は、確定コマンド処理を示すフローチャートである。この確定コマンド処理は、音声ランプ制御装置 5 より受信した表示用確定コマンドに対応する処理を実行するものである。

【3 3 0 0】

図 2 4 3（B）に示すように、確定コマンド処理では、オン状態で表示用確定コマンドを受信したことを表示設定処理（図 2 4 1 のステップ S 4 3 0 3）に通知する確定コマンドフラグをオンに設定して（ステップ S 4 6 0 1）、本処理を終了し、図 2 4 2 のコマンド判定処理に戻る。これにより、表示設定処理では、確定コマンドフラグの状態を監視し、そのフラグがオンとなった場合に、図柄表示部 3 4 1 に確定表示演出の表示が開始されるように、表示の設定処理を実行する。また、特図遊技演出の表示の設定を処理した場合に、その特図遊技演出に設定された演出時間を経過しても確定コマンドフラグがオンとならない場合は、再始動演出を図柄表示部 3 4 1 に表示させるように、表示の設定処理を実行する。

【3 3 0 1】

<ステップ S 4 4 0 8 及び S 4 5 0 9>

図 2 4 2 のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップ S 4 4 0 6 の処理において、表示用確定コマンドがないと判別されると（ステップ S 4 4 0 6：No）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用デモコマンドがあるか否かを判別し（ステップ S 4 4 0 8）、表示用デモコマンドがあれば（ステップ S 4 4 0 8：Yes）、デモコマンド処理を実行して（ステップ S 4 4 0 9）、ステップ S 4 4 0 1 の処理へ戻る。

【3 3 0 2】

〔デモコマンド処理〕

ここで、図 2 4 3（C）を参照して、図 2 4 2 の表示制御装置 6 のコマンド判定処理のステップ S 4 4 0 9 で実行されるデモコマンド処理について説明する。図 2 4 3（C）は、デモコマンド処理を示すフローチャートである。このデモコマンド処理は、音声ランプ制御装置 5 より受信した表示用デモコマンドに対応する処理を実行するものである。

【3 3 0 3】

<ステップ S 4 7 0 1 及び S 4 7 0 2>

図 2 4 3（C）に示すように、デモコマンド処理では、まず、デモ演出に対応するデモ用表示データテーブルをデータテーブル格納エリア 6 3 3 b から選定して、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定する（ステップ S 4 7 0 1）。次いで、追加データテーブ

10

20

30

40

50

ルバッファ 633e に Null データを書き込むことでその内容をクリアし、また、デモ用表示データテーブルでは、描画に必要な画像データを新たにキャラクター ROM 634 から通常用ビデオ RAM 636 に転送する必要がないように画像の描画が規定されているため、対応する転送データテーブルがデータテーブル格納エリア 633b に用意されていないので、転送データテーブルバッファ 633f にも Null データを書き込んでその内容をクリアする（ステップ S4702）。

【3304】

＜ステップ S4703～S4705＞

次いで、デモ演出に対応する時間データを計時カウンタ 633i に設定し（ステップ S4703）、ポインタ 633g を 0 に初期化する（ステップ S4704）。そして、図柄表示部 341 にオン状態でデモ演出が表示されることを示すデモ表示フラグをオンに設定する共に、オン状態で図柄表示部 341 に確定表示演出が表示されることを示す確定表示フラグをオフに設定し、更にオン状態で確定表示演出中であることを示す確定表示フラグをオフに設定して（ステップ S4705）でモコマンド処理を終了し、コマンド判定処理に戻る。

10

【3305】

このデモコマンド処理が実行されることにより、表示設定処理では、ステップ S4701 の処理によって初期化された更新情報であるポインタ 633g の更新処理を実行しながら、ステップ S4701 の処理によって表示データテーブルバッファ 633d に設定されたデモ用表示データテーブルから、ポインタ 633g に示されるアドレスに規定された描画内容を抽出し、図柄表示部 341 において次に表示すべき 1 フレーム分の画像の内容を特定する。また、表示設定処理では、ステップ S4703 の処理によってデモ演出に対応する時間データの設定された更新情報である計時カウンタ 633i を用いて、デモ用表示データテーブルで規定されたデモ演出の時間を計時すると共に、ステップ S4705 の処理によって設定された更新情報であるデモ表示フラグ及び確定表示フラグの状態に基づいて、更新情報である表示設定制御計時カウンタ 633i の計時によってデモ用表示データテーブルにおけるデモ演出が終了したと判断された場合に、次に表示すべき演出として、再度デモ演出が表示されるように制御する。

20

【3306】

＜ステップ S4410 及び S4511＞

図 242 のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップ S4408 の処理において、表示用デモコマンドがないと判別されると（ステップ S4408：No）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用変動パターンコマンドがあるか否かを判別し（ステップ S4410）、表示用変動パターンコマンドがあれば（ステップ S4410：Yes）、変動パターンコマンド処理を実行して（ステップ S4411）、ステップ S4401 の処理へ戻る。

30

【3307】

〔変動パターンコマンド処理〕

ここで、図 244（A）を参照して、図 242 の表示制御装置 6 のコマンド判定処理のステップ S4411 で実行される変動パターンコマンド処理について説明する。図 244（A）は、変動パターンコマンド処理を示すフローチャートである。この変動パターンコマンド処理は、音声ランプ制御装置 5 より受信した表示用変動パターンコマンドに対応する処理を実行するものである。

40

【3308】

＜ステップ S4801＞

図 244（A）に示すように、変動パターンコマンド処理では、まず、表示用変動パターンコマンドによって示される変動演出パターンに対応した変動用表示データテーブルを決定し、その決定した変動用表示データテーブルをデータテーブル格納エリア 633b から読み出して、表示データテーブルバッファ 633d に設定する（ステップ S4801）。

50

【3309】

ここで、主制御装置4において変動の開始の判断は、必ず数秒以上離れて行われるので、20ミリ秒以内に2以上の表示用変動パターンコマンドを受信することはなく、したがって、コマンド判定処理を実行する場合に、コマンドバッファ領域に2以上の表示用変動パターンコマンドが格納されている場合はあり得ないが、ノイズ等の影響によってコマンドの一部が変化し、別のコマンドが誤って表示用変動パターンコマンドとして解釈される恐れもあり得る。ステップS4801の処理では、このような場合に備え、2以上の表示用変動パターンコマンドがコマンドバッファ領域に格納されていると判断される場合は、変動時間が最も短い変動パターンに対応する変動用表示データテーブルを表示データテーブルバッファ633dに設定する。

10

【3310】

仮に、変動時間の長い変動パターンに対応する変動用表示データテーブルを表示データテーブルバッファ633dに設定してしまうと、実際には、設定した表示データテーブルよりも短い変動時間を有する特図遊技演出が主制御装置4によって指示されていた場合は、設定された変動用表示データテーブルに従った特図遊技演出を図柄表示部341に表示させている最中に主制御装置4から確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信することとなり、変動中の飾り図柄が急に停止表示されてしまうので、遊技者に対して違和感を持たせる恐れがあった。

【3311】

これに対し、本実施形態のように、変動時間が最も短い変動パターンに対応する変動用表示データテーブルを表示データテーブルバッファ633dに設定することで、実際には、設定した表示データテーブルよりも長い変動時間を有する特図遊技演出が主制御装置4によって指示されていた場合であっても、後述するように、表示データテーブルバッファ633dに従った特図遊技演出が終了したのち、主制御装置4からの確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信するまでの間、再始動演出が表示されるように、表示設定処理によって、図柄表示部341の表示が制御されるので、遊技者は再始動演出を特図遊技演出の一環として視認し、飾り図柄の停止表示が確定するまで違和感なく図柄表示部341における飾り図柄の変動を見続けることができる。

20

【3312】

<ステップS4802及びS4803>

次いで、ステップS4801で設定された表示データテーブルに対応する転送データテーブルを決定してデータテーブル格納エリア633bから読み出し、それを転送データテーブルバッファ633fに設定する（ステップS4802）。そして、追加データテーブルバッファ633eにNullデータを書き込むことでその内容をクリアする（ステップS4803）。

30

【3313】

<ステップS4804>

その後、各変動パターンに対応する変動用表示データテーブル毎に設けられたデータテーブル判別フラグのうち、ステップS4801の処理によって設定された変動用表示データテーブルに対応するデータテーブル判別フラグをオンすると共に、その他の変動用表示データテーブルに対応するデータテーブル判別フラグをオフに設定する（ステップS4804）。表示設定処理では、ステップS4804の処理によって設定されるデータテーブル判別フラグを参照することによって、表示データテーブルバッファ633dに設定された変動用表示データテーブルが、どの変動パターンに対応するものであるかを容易に判断することができる。そして、表示設定処理では、設定された変動用表示データテーブルの変動パターンと、後に受信する表示用停止種別コマンドによって設定される停止図柄とに矛盾がないか否かを判断し、矛盾がある場合は、後述するように、特殊変動に対応する表示データテーブルを表示データテーブルバッファ633dに設定するようになっている。

40

【3314】

<ステップS4805～S4808>

50

次いで、ステップ S 4 8 0 1 の処理によって表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された変動用表示データテーブルに対応する変動パターンの変動時間を基に、その変動時間を表す時間データを計時カウンタ 6 3 3 i に設定し（ステップ S 4 8 0 5）、ポインタ 6 3 3 g を 0 に初期化する（ステップ S 4 8 0 6）。そして、確定コマンドフラグ、デモ表示フラグ及び確定表示フラグをいずれもオフに設定して（ステップ S 4 8 0 7）、更に、表示設定処理で用いられる再始動タイマカウンタを 0 に初期化して（ステップ S 4 8 0 8）、変動パターンコマンドを終了し、コマンド判定処理に戻る。

【 3 3 1 5 】

この変動パターンコマンド処理が実行されることにより、表示設定処理では、ステップ S 4 8 0 6 の処理によって初期化された更新情報であるポインタ 6 3 3 g の更新処理を実行しながら、ステップ S 4 8 0 1 の処理によって表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された変動用表示データテーブルから、ポインタ 6 3 3 g に示されるアドレスに規定された描画内容を抽出し、図柄表示部 3 4 1 において次に表示すべき 1 フレーム分の画像の内容を特定すると同時に、ステップ S 4 8 0 2 の処理によって転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に設定された転送データテーブルから、ポインタ 6 3 3 g に示されるアドレスに規定された転送データ情報を抽出し、設定された変動用表示データテーブルにおいて必要なスプライトの画像データが、予めキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 の画像格納エリア 6 3 6 a に転送されるように、画像コントローラ 6 3 7 を制御する。

【 3 3 1 6 】

また、表示設定処理では、ステップ S 4 8 0 5 の処理によって変動時間データの設定された更新情報である計時カウンタ 6 3 3 i を用いて、変動用表示データテーブルで規定された特図遊技演出の時間を計時し、変動用表示データテーブルにおける特図遊技演出が終了したと判断された場合、主制御装置 4 からの確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信すれば確定表示演出を図柄表示部 3 4 1 に表示し、特図遊技演出終了後所定時間内に確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信できなければ、再始動演出を図柄表示部 3 4 1 に表示するように、その表示の設定を制御する。

【 3 3 1 7 】

ここで、表示用確定コマンドと表示用変動パターンコマンドとのいずれもが未処理のコマンドとしてコマンドバッファ領域に格納されていた場合、表示用確定コマンドに対応する処理を優先してしまうと、表示用変動パターンコマンドに伴う特図遊技演出が行われなくなってしまうため、表示用変動パターンコマンドに対応する処理を優先させる必要がある。これに対し、本コマンド判定処理では、表示用確定コマンドの有無の判別を先に行っているため、必ず表示用確定コマンドに対応する処理である確定コマンド処理が必ず先に実行される一方、表示用変動パターンコマンドに対応する処理が後に実行され、ステップ S 4 8 0 7 の処理のように、表示用確定コマンドによって設定された確定コマンドフラグを上書きによってオフに設定することができる。よって、表示用変動パターンコマンドの処理を表示用確定コマンドより優先させることができ、表示用変動パターンコマンドに伴う特図遊技演出を優先して図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。

【 3 3 1 8 】

同様に、表示用デモコマンドと表示用変動パターンコマンドとのいずれもが未処理のコマンドとしてコマンドバッファ領域に格納されていた場合、表示用デモコマンドに対応する処理を優先してしまうと、表示用変動パターンコマンドに伴う特図遊技演出が行われなくなってしまうため、表示用変動パターンコマンドに対応する処理を優先させる必要がある。これに対し、本コマンド判定処理では、表示用デモコマンドの有無の判別を先に行っているため、必ず表示用デモコマンドに対応する処理であるデモコマンド処理が必ず先に実行される一方、表示用変動パターンコマンドに対応する処理が後に実行され、ステップ S 4 8 0 1 の処理のように、表示用デモコマンドによって表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定されたデモ用表示データテーブルを上書きによって変動用表示データテーブルに書き換えることができる。よって、表示用変動パターンコマンドの処理を表示用デモ

10

20

30

40

50

コマンドより優先させることができ、表示用変動パターンコマンドに伴う特図遊技演出を優先して図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。

【 3 3 1 9 】

<ステップ S 4 4 1 2 及び S 4 4 1 3 >

図 2 4 2 のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップ S 4 4 1 0 の処理において、表示用変動パターンコマンドがないと判別されると（ステップ S 4 4 1 0 : N o）、次いで、未処理のコマンドの中に、表示用停止種別コマンドがあるか否かを判別し（ステップ S 4 4 1 2）、表示用変動種別コマンドがあれば（ステップ S 4 4 1 1 : Y e s）、停止種別コマンド処理を実行して（ステップ S 4 4 1 3）、ステップ S 4 4 0 1 の処理へ戻る。

【 3 3 2 0 】

[停止種別コマンド処理]

ここで、図 2 4 4 (B) を参照して、停止種別コマンド処理について説明する。図 2 4 4 (B) は、図 2 4 2 の表示制御装置 6 のコマンド判定処理のステップ S 4 4 1 3 で実行される停止種別コマンド処理を示すフローチャートである。この停止種別コマンド処理は、音声ランプ制御装置 5 より受信した表示用変動種別コマンドに対応する処理を実行するものである。

【 3 3 2 1 】

<ステップ S 4 9 0 1 ~ S 4 9 0 3 >

図 2 4 4 (B) に示すように、停止種別コマンド処理では、まず、表示用停止種別コマンドによって示される停止種別情報（小当たり、前後外れリーチ、前後外れ以外リーチ、完全外れのいずれか）に対応する停止種別テーブルを決定し（ステップ S 4 9 0 1）、その停止種別テーブルと、V 割込処理（図 2 4 1 (B) 参照）が実行されるたびに更新される更新情報である停止種別カウンタの値とを比較して、図柄表示部 3 4 1 に表示される特図遊技演出後の停止図柄を最終的に設定する（ステップ S 4 9 0 2）。

【 3 3 2 2 】

そして、停止図柄毎に設けられた停止図柄判別フラグのうち、ステップ S 4 5 4 2 の処理によって設定された停止図柄に対応する停止図柄判別フラグをオンすると共に、その他の停止図柄に対応する停止図柄判別フラグをオフに設定する（ステップ S 4 9 0 3）。

【 3 3 2 3 】

ここで、上述したように、変動用表示データテーブルでは、そのデータテーブルに基づく変動が開始されてから所定時間経過後において、図柄表示部 3 4 1 に表示すべき飾り図柄を特定する種別情報として、ステップ S 4 9 0 2 の処理によって設定された停止図柄からのオフセット情報（図柄オフセット情報）が記載されている。上述の V 割込処理でのタスク処理（図 2 4 1 (B) のステップ S 4 3 0 4）では、変動が開始されてから所定時間が経過した後、ステップ S 4 5 4 3 によって設定された停止図柄判別フラグからステップ S 4 9 0 2 の処理によって設定された停止図柄を特定すると共に、その特定した停止図柄に対して表示設定処理により取得された図柄オフセット情報を加算することによって、実際に表示すべき飾り図柄を特定する。そして、この特定された飾り図柄に対応する画像データが格納されたアドレスを特定する。なお、飾り図柄に対応する画像データは、上述したように、常駐用ビデオ R A M 6 3 5 の飾り図柄エリア 6 3 5 d に格納されている。

【 3 3 2 4 】

<ステップ S 4 9 0 4 >

ステップ S 4 9 0 3 の処理の後、比較フラグをオンして（ステップ S 4 9 0 4）、この停止種別コマンド処理を終了し、図 2 4 2 のコマンド判定処理に戻る。この比較フラグをオンすることによって、表示設定処理では、上述の変動パターンコマンド設定処理により設定された変動用表示データテーブルの変動パターンと、ステップ S 4 9 0 2 の処理によって設定される停止図柄とに矛盾がないか否かを判断し、矛盾がある場合は、後述するように、特殊変動に対応する表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定する。

【 3 3 2 5 】

10

20

30

40

50

なお、主制御装置 4 において変動の開始の判断は、必ず数秒以上離れて行われるので、20 ミリ秒以内に 2 以上の表示用停止種別コマンドを受信することはなく、したがって、コマンド判定処理を実行する場合に、コマンドバッファ領域に 2 以上の表示用停止種別コマンドが格納されている場合はあり得ないが、ノイズ等の影響によってコマンドの一部が変化し、別のコマンドが誤って表示用停止種別コマンドとして解釈される恐れもあり得る。ステップ S 4 9 0 1 の処理では、このような場合に備え、2 以上の表示用停止種別コマンドがコマンドバッファ領域に格納されていると判断される場合は、停止種別が完全外れであると仮定して、停止種別テーブルを決定する。これにより、完全外れに対応する停止図柄がステップ S 4 9 0 2 の処理によって設定される。

【3326】

10

仮に、大当たりに対応する停止図柄が設定されてしまうと、実際には、外れであった場合であっても、図柄表示部 3 4 1 には大当たりの停止図柄が表示されることとなり、遊技者に遊技機 1 0 の遊技状態が大当たりとなったと勘違いさせてしまい、遊技機 1 0 の信頼性を低下させる恐れがあった。これに対し、本実施形態のように、完全外れに対応する停止図柄が設定されることで、実際には、大当たりであれば、図柄表示部 3 4 1 に完全外れの停止図柄が表示されても、遊技機 1 0 の遊技状態が大当たり状態に移行するので、遊技者を喜ばせることができる。

【3327】

<ステップ S 4 4 1 4 及び S 4 4 1 5>

図 2 4 2 のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップ S 4 4 1 2 の処理において、表示用停止種別コマンドがないと判別されると（ステップ S 4 4 1 2：No）、次いで、未処理のコマンドの中に、連続予告コマンドがあるか否かを判別し（ステップ S 4 4 1 4）、連続予告コマンドがあれば（ステップ S 4 4 1 4：Yes）、連続予告コマンド処理を実行して（ステップ S 4 4 1 5）、ステップ S 4 4 0 1 の処理へ戻る。

20

【3328】

〔連続予告コマンド処理〕

ここで、図 2 4 5（A）を参照して、連続予告コマンド処理の詳細について説明する。図 2 4 5（A）は、図 2 4 2 の表示制御装置 6 のコマンド判定処理のステップ S 4 4 1 5 で実行される連続予告コマンド処理を示すフローチャートである。この連続予告コマンド処理は、音声ランプ制御装置 5 より受信した連続予告コマンドに対応する処理を実行するものである。

30

【3329】

<ステップ S 5 0 0 1 及び S 5 0 0 2>

図 2 4 5（A）に示すように、連続予告コマンド処理では、まず、オン状態で連続予告コマンドを処理したことを V 割込処理の転送設定処理（図 2 4 1（A）のステップ S 4 3 0 5）に通知する新規連続予告コマンドフラグをオンに設定する（ステップ S 5 0 0 1）。次いで、連続予告コマンドによって示される連続予告画像種別（「泡」、「タマゴ」、「ヒヨコ」、「ニワトリ」及び「ニワトリ群」のいずれか）に対応した連続予告用追加データテーブルを決定して、その決定した連続予告用追加データテーブルをデータテーブル格納エリア 6 3 3 b から読み出し、それを追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に設定する（ステップ S 5 0 0 2）。

40

【3330】

これにより、表示設定処理では、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納された表示データテーブルに対応する演出に対し、ステップ S 4 5 5 2 の処理によって追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に格納された連続予告用追加データテーブルに対応する連続予告演出が追加して表示されるように、図柄表示部 3 4 1 における次の 1 フレーム分の画像の表示内容を特定する。

【3331】

<ステップ S 5 0 0 3>

その後、連続予告画像種別毎に設けられた連続予告判別フラグのうち、連続予告コマン

50

ドに含まれる連続予告画像種別に対応する連続予告判定フラグをオンすると共に、その他の連続予告画像種別に対応する連続予告判別フラグをオフに設定して（ステップ S 4 5 5 3）、この連続予告コマンド処理を終了し、図 2 4 2 のコマンド判定処理に戻る。

【 3 3 3 2 】

V 割込処理の転送設定処理（図 2 4 1（A）のステップ S 4 3 0 5）では、ステップ S 5 0 0 1 の処理により設定される新規連続予告コマンドフラグがオンされていることを検出すると、連続予告コマンド処理によって追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に所定の連続予告用追加データテーブルが設定されたと判断し、ステップ S 4 5 5 3 の処理によって設定される連続予告判別フラグから、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に設定された連続予告用追加データテーブルに対応する連続予告種別を特定する。そして、その特定された連続予告種別を表示させるのに必要な画像データの転送指示を画像コントローラ 6 3 7 に対して行う。

10

【 3 3 3 3 】

<ステップ S 4 4 1 6 及び S 4 4 1 7>

図 2 4 2 のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップ S 4 4 1 4 の処理において、連続予告コマンドがないと判別されると（ステップ S 4 4 1 4：No）、次いで、未処理のコマンドの中に、背面画像変更コマンドがあるか否かを判別し（ステップ S 4 4 1 6）、背面画像変更コマンドがあれば（ステップ S 4 4 1 6：Yes）、背面画像変更コマンド処理を実行して（ステップ S 4 4 1 7）、ステップ S 4 4 0 1 の処理へ戻る。

20

【 3 3 3 4 】

〔背面画像変更コマンド処理〕

ここで、図 2 4 5（B）を参照して、背面画像変更コマンド処理について説明する。図 2 4 5（B）は、図 2 4 2 の表示制御装置 6 のコマンド判定処理のステップ S 4 4 1 7 で実行される背面画像変更コマンド処理を示すフローチャートである。この背面画像変更コマンド処理は、音声ランプ制御装置 5 より受信した背面画像変更コマンドに対応する処理を実行するものである。

【 3 3 3 5 】

<ステップ S 5 1 0 1 及び S 5 1 0 2>

図 2 4 5（B）に示すように、背面画像変更コマンド処理では、まず、オン状態で背面画像変更コマンドを受信したことに伴う背面画像の変更を転送設定処理（ステップ S 2 4 0 5）に通知する背面画像変更フラグをオンに設定する（ステップ S 5 1 0 1）。そして、背面画像種別（背面 A～背面 C）毎に設けられた背面画像判別フラグのうち、背面画像変更コマンドによって示された背面画像種別に対応する背面画像判別フラグをオンすると共に、その他の背面画像種別に対応する背面画像判別フラグをオフに設定して（ステップ S 5 1 0 2）、この背面画像変更コマンド処理を終了し、図 2 4 2 のコマンド判定処理に戻る。

30

【 3 3 3 6 】

V 割込処理の転送設定処理（図 2 4 1（A）のステップ S 4 3 0 5）では、ステップ S 5 1 0 1 の処理により設定される背面画像変更フラグがオンされていることを検出すると、ステップ S 5 1 0 2 の処理によって設定される背面画像判別フラグから、変更後の背面画像種別を特定する。そして、その特定された背面画像種別が背面 B 又は背面 C である場合は、上述したように、それらの背面画像に対応する画像データの一部が常駐用ビデオ RAM 6 3 5 の背面画像エリア 6 3 5 c に常駐されていないので、所定の範囲の背面画像に対応する画像データをキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 の画像格納エリア 6 3 6 a の所定のサブエリアに転送するよう、画像コントローラ 6 3 7 に対する転送指示の設定を行う。

40

【 3 3 3 7 】

また、V 割込処理のタスク処理（図 2 4 1（A）のステップ S 4 3 0 4）では、表示データテーブルに規定された背面画像の背面種別によって、背面 A～背面 C のいずれかを表示させることが規定されていた場合、ステップ S 5 1 0 2 によって設定された背面画像判

50

別フラグから、その時点において表示すべき背面画像種別を特定し、更に、表示すべき背面画像の範囲を時間経過に合わせて特定して、その背面画像の範囲に対応する画像データが格納されているRAM種別（常駐用ビデオRAM 635か、通常用ビデオRAM 636か）と、そのRAMのアドレスを特定する。

【3338】

なお、遊技者が操作ボタン20を20ミリ秒以下で連続して操作することはないので、20ミリ秒以内に2以上の背面画像変更コマンドを受信することはないが、したがって、コマンド判定処理を実行する場合に、コマンドバッファ領域に2以上の背面画像変更コマンドが格納されている場合はないはずであるが、ノイズ等の影響によってコマンドの一部が変化し、別のコマンドが誤って背面画像変更コマンドとして解釈される恐れもあり得る。ステップS5102の処理では、2以上の背面画像コマンドがコマンドバッファ領域に格納されていると判断される場合、先に受信した背面画像コマンドによって示される背面画像種別に対応する背面画像判別フラグをオンしてもよいし、後に受信した背面画像コマンドによって示される背面画像種別に対応する背面画像判別フラグをオンしてもよい。また、任意の1の背面画像変更コマンドを抽出し、そのコマンドによって示される背面画像種別に対応する背面画像判別フラグをオンしてもよい。この背面画像の変更は、遊技機10における遊技価値の直接影響を与えるものではないので、遊技機10の特性や操作性に応じて、適宜設定するのが好ましい。

10

【3339】

＜ステップS4418及びS4419＞

20

図242のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップS4416の処理において、背面画像変更コマンドがないと判別されると（ステップS4416：No）、次いで、未処理のコマンドの中に、操作ボタン操作コマンドがあるか否かを判別し（ステップS4418）、操作ボタン操作コマンドがあれば（ステップS4418：Yes）、操作ボタン操作コマンド処理を実行して（ステップS4419）、ステップS4401の処理へ戻る。

【3340】

〔操作ボタン操作コマンド処理〕

ここで、図246（A）を参照して操作ボタン操作コマンド処理について説明する。図246（A）は、図242の表示制御装置6のコマンド判定処理のステップS4419で実行される操作ボタン操作コマンド処理を示すフローチャートである。この操作ボタン操作コマンド処理は、音声ランプ制御装置5より受信した操作ボタン操作コマンドに対応する処理を実行するものである。

30

【3341】

図246（A）に示すように、操作ボタン操作コマンドでは、オン状態で操作ボタンが操作されたことを示す操作ボタン操作フラグをオンに設定して（ステップS5201）、この処理を終了し、コマンド判定処理に戻る。

【3342】

V割込処理の表示設定処理（図241（A）のステップS4303）では、ステップS5201の処理によって設定された操作ボタン操作フラグに基づき、変動用表示データテーブルに従ってスーパーリーチ選択画面を図柄表示部341に表示させている間に操作ボタンが操作されたことを検出すると、後に表示させるスーパーリーチの種別を更新する処理を実行する。これにより、遊技者に、好みのスーパーリーチ演出を選択させることができるようになっている。

40

【3343】

＜ステップS4420及びS4421＞

図242のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップS4418の処理において、操作ボタン操作コマンドがないと判別されると（ステップS4418：No）、次いで、未処理のコマンドの中に、エラーコマンドがあるか否かを判別し（ステップS4420）、エラーコマンドがあれば（ステップS4420：Yes）、エラーコマンド処理を実行して（ステップS4421）、ステップS4401の処理へ戻る。

50

【3344】

〔エラーコマンド処理〕

ここで、図246（B）を参照して、エラーコマンド処理について説明する。図246（B）は、図242の表示制御装置6のコマンド判定処理のステップS4421で実行されるエラーコマンド処理を示すフローチャートである。このエラーコマンド処理は、音声ランプ制御装置5より受信したエラーコマンドに対応する処理を実行するものである。

【3345】

図246（B）に示すように、エラーコマンド処理では、まず、オン状態でエラーが発生していることを示すエラー発生フラグをオンに設定する（ステップS5301）。そして、エラー種別毎に設けられたエラー判別フラグのうち、エラーコマンドによって示されるエラー種別に対応するエラー判別フラグをオンすると共に、その他のエラー判別フラグをオフに設定して（ステップS5302）、エラーコマンド処理を終了し、図242のコマンド判定処理に戻る。

【3346】

V割込処理の表示設定処理（図241（A）のステップS4303）では、ステップS5301の処理によって設定されたエラー発生フラグに基づいて、エラーの発生を検出すると、ステップS5302の処理によって設定されたエラー判別フラグから発生したエラー種別を判断し、そのエラー種別に対応する警告画像を図柄表示部341に表示させるように処理を実行する。

【3347】

なお、2以上のエラーコマンドがコマンドバッファ領域に格納されていると判断される場合、ステップS5302に処理では、それぞれのエラーコマンドによって示される全てのエラー種別に対応するエラー判別フラグをオンに設定する。これにより、全てのエラー種別に対応する警告画像が図柄表示部341に表示されるので、遊技者やホール関係者が、エラーの発生状況を正しく把握することができる。

【3348】

<ステップS4822>

図242のコマンド判定処理に説明に戻り、ステップS4420の処理において、エラーコマンドがないと判別されると（ステップS4420：No）、次いで、その他の未処理のコマンドに対応する処理を実行し（ステップS4422）、ステップS4401の処理へ戻る。

【3349】

各コマンドの処理が実行された後に再び実行されるステップS4401の処理では、再度、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがあるか否かを判別し、未処理の新規コマンドがあれば（ステップS4401：Yes）、再びステップS4402～ステップS4422の処理を実行する。そして、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがなくなるまで、ステップS4401～ステップS4422の処理が繰り返し実行され、ステップS4401の処理で、コマンドバッファ領域に未処理の新規コマンドがないと判別されると、このコマンド判定処理を終了する。

【3350】

なお、V割込処理（図241（B）参照）において簡易画像表示フラグ633cがオンの場合に実行される簡易コマンド判定処理（ステップS4308）も、コマンド判定処理と同様の処理が行われる。ただし、簡易コマンド判定処理では、コマンドバッファ領域に格納されている未処理のコマンドから、図196に示す電源投入時画像を表示するのに必要なコマンド、即ち、表示表確定コマンド、表示用変動パターンコマンド及び表示用停止種別コマンドだけを抽出して、それぞれのコマンドに対応する処理である、確定コマンド処理（図243（B）参照）、変動パターンコマンド処理（図244（A）参照）及び停止種別コマンド処理（図244（B）参照）を実行すると共に、その他のコマンドについては、そのコマンドに対応する処理を実行せずに破棄する処理を行う。

【3351】

ここで、この場合に実行される、変動パターンコマンド処理（図 2 4 4（A）参照）では、ステップ S 4 8 0 1 の処理で、電源投入時変動画像の表示に対応した表示データテーブルバッファが表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定され、また、その場合に必要となる電源投入時主画像及び電源投入時変動画像の画像データは常駐用ビデオ R A M 6 3 5 の電源投入時主画像エリア 6 3 5 a 及び電源投入時変動画像エリア 6 3 5 b に格納されているので、ステップ S 4 8 0 2 の処理では、転送データテーブルバッファ 6 3 3 f には N u l l データを書き込み、その内容をクリアする処理が行われる。

【 3 3 5 2 】

〔表示設定処理〕

次いで、図 2 4 7 ～図 2 5 0 を参照して、図 2 4 1（B）の表示制御装置 6 の M P U 6 3 1 で実行される V 割込処理の表示設定処理（ステップ S 4 3 0 3）について説明する。ここで、図 2 4 7 及び図 2 4 8 は、この表示設定処理を示すフローチャートである。

【 3 3 5 3 】

<ステップ S 5 4 0 1 及び S 5 4 0 2>

図 2 4 7 に示すように、表示設定処理では、新規コマンドフラグがオンであるか否かを判別し（ステップ S 5 4 0 1）、新規コマンドフラグがオンではない、即ち、オフであれば（ステップ S 5 4 0 1：N o）、先に実行されるコマンド判定処理において新規コマンドが処理されていないと判断して、ステップ S 5 4 0 2 ～ステップ S 5 4 1 0 の処理をスキップし、ステップ S 5 4 1 1 の処理へ移行する。一方、新規フラグがオンであれば（ステップ S 5 4 0 1：Y e s）、先に実行されるコマンド判定処理において新規コマンドが処理されたと判断し、新規コマンドフラグをオフに設定した後（ステップ S 5 4 0 2）、ステップ S 5 4 0 3 ～ステップ S 5 4 1 0 の処理によって、新規コマンドに対応する処理を実行する。

【 3 3 5 4 】

<ステップ S 5 4 0 3 及び S 5 4 0 4>

ステップ S 5 4 0 3 の処理では、新規保留球数コマンドフラグはオンであるか否かを判別し（ステップ S 5 4 0 3）、新規保留球数コマンドフラグがオンであれば（ステップ S 5 4 0 3：Y e s）、先のコマンド判定処理において表示用保留球数コマンドが処理されたと判断し、保留画像設定処理を実行する（ステップ S 5 4 0 4）。

【 3 3 5 5 】

〔保留画像設定処理〕

ここで、図 2 4 9（A）を参照して、保留画像設定処理の詳細について説明する。図 2 4 9（A）は、保留画像設定処理を示すフローチャートである。この保留画像設定処理は、表示用保留球数コマンドが処理されたことに合わせて、音声ランプ制御装置 5 より通知された保留球数分の保留球数図柄を図柄表示部 3 4 1 に表示させる画像データを展開するための処理である。

【 3 3 5 6 】

<ステップ S 5 5 0 1 及び S 5 5 0 2>

図 2 4 9（A）に示すように、保留画像設定処理では、まず、個数判別フラグを参照し、オンが設定された個数判別フラグに対応した保留球数分の保留球数図柄を図柄表示部 3 4 1 の小領域に表示させる保留画像データを展開する（ステップ S 5 5 0 1）。V 割込処理のタスク処理（図 2 4 9（A）のステップ S 4 3 0 4）では、この展開された保留画像データを元に、その保留画像を構成するスプライト（表示物）の種別を特定すると共に、スプライト毎に、表示座標位置や拡大率、回転角度といった描画に必要な各種パラメータを決定する。

【 3 3 5 7 】

保留画像設定処理では、ステップ S 5 5 0 1 の処理の後、新規保留球数コマンドをオフに設定して（ステップ S 5 5 0 2）、図 2 4 7 の表示設定処理に戻る。

【 3 3 5 8 】

<ステップ S 5 4 0 5 及び S 5 4 0 6>

図 2 4 7 の表示設定処理の説明に戻り、保留画像設定処理（ステップ S 5 4 0 4）の後、又はステップ S 5 4 0 3 の処理において、新規保留球数コマンドフラグがオンではない、即ちオフであると判別されると（ステップ S 5 4 0 3：No）、次いで、エラー発生フラグはオンであるか否かを判別する（ステップ S 5 4 0 5）。そして、エラー発生フラグがオンであれば（ステップ S 5 4 0 5：Yes）、警告画像設定処理を実行する（ステップ S 5 4 0 6）。

【3 3 5 9】

〔警告画像設定処理〕

ここで、図 2 4 9（B）を参照して、警告画像設定処理について説明する。図 2 4 9（B）は、警告画像設定処理を示すフローチャートである。

10

【3 3 6 0】

＜ステップ S 5 6 0 1 及び S 5 6 0 2＞

図 2 4 9（B）に示すように、警告画像設定処理は、発生したエラーに対応する警告画像を図柄表示部 3 4 1 に表示させる画像データを展開するための処理で、まず、エラー判別フラグを参照し、オンが設定された全てのエラー判別フラグに対応したエラーの警告画像を図柄表示部 3 4 1 に表示させる警告画像データを展開する（ステップ S 5 6 0 1）。

【3 3 6 1】

V 割込処理のタスク処理（図 2 4 1 のステップ S 4 3 0 4）では、この展開された警告画像データを元に、その警告画像を構成するスプライト（表示物）の種別を特定すると共に、スプライト毎に、表示座標位置や拡大率、回転角度といった描画に必要な各種パラメータを決定する。

20

【3 3 6 2】

そして、警告画像設定処理では、ステップ S 5 6 0 1 の処理の後、エラー発生フラグをオフに設定して（ステップ S 5 6 0 2）、図 2 4 7 の表示設定処理に戻る。

【3 3 6 3】

＜ステップ S 5 4 0 7 及び S 5 4 0 8＞

図 2 4 7 の表示設定処理の説明に戻り、警告画像設定処理（ステップ S 5 4 0 6）の後、又はステップ S 5 4 0 5 の処理において、エラー発生フラグがオンではない、即ちオフであると判別されると（ステップ S 5 4 0 5：No）、次いで、操作ボタン操作フラグはオンであるか否かを判別する（ステップ S 5 4 0 7）。そして、操作ボタン操作フラグがオンであれば（ステップ S 5 4 0 7：Yes）、操作ボタン操作処理を実行する（ステップ S 5 4 0 8）。

30

【3 3 6 4】

〔操作ボタン操作処理〕

ここで、図 2 4 9（C）を参照して、操作ボタン操作処理について説明する。図 2 4 9（C）は、操作ボタン操作処理を示すフローチャートである。操作ボタン操作処理は、図柄表示部 3 4 1 に、スーパーリーチの表示態様を選択させる選択画面を表示中に、遊技者によって操作ボタン 2 0 が操作された場合に、その操作に従って、表示すべきスーパーリーチの態様を選定するための処理である。

【3 3 6 5】

40

＜ステップ S 5 7 0 1 及び S 5 7 0 2＞

図 2 4 9（C）に示すように、操作ボタン操作処理では、まず、操作ボタン操作フラグをオフに設定した後（ステップ S 5 7 0 1）、スーパーリーチ選択画面が図柄表示部 3 4 1 に表示されているか否かを判別する（ステップ S 5 7 0 2）。このスーパーリーチ選択画面は、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された変動用表示データテーブルに従って図柄表示部 3 4 1 に表示させるもので、前回実行された V 割込処理の中で、設定された変動用表示データテーブルに基づき、スーパーリーチ選択画面用のスプライトの描画を画像コントローラ 6 3 7 に対して指示した場合に、スーパーリーチ選択画面が図柄表示部 3 4 1 に表示されていると判断する。

【3 3 6 6】

50

<ステップ S 5 7 0 3>

ステップ S 5 7 0 2 の処理において、スーパーリーチ選択画面が図柄表示部 3 4 1 に表示されていないと判断されれば（ステップ S 5 7 0 2 : N o）、そのまま操作ボタン操作処理を終了して、図 2 4 7 の表示設定処理に戻る。一方、ステップ S 5 7 0 2 の処理の結果、スーパーリーチ選択画面が図柄表示部 3 4 1 に表示されていると判断されれば（ステップ S 5 7 0 2 : Y e s）、スーパーリーチの表示態様毎に設けられたスーパーリーチ種別フラグのうち、所定の順番に従って、1 の表示態様に対応するスーパーリーチ種別フラグのみをオンすると共に、その他のスーパーリーチ種別フラグをオフに設定するように、スーパーリーチ種別フラグを更新して（ステップ S 5 7 0 3）、図 2 4 7 の表示設定処理に戻る。

10

【3 3 6 7】

本実施形態では、変動用表示データテーブルの中で遊技者より選択された態様のスーパーリーチの表示を規定する場合、アドレス毎にそれぞれのスーパーリーチの表示態様に対応する描画内容を規定しており、表示設定処理では、後述するステップ S 5 4 1 2 の処理において表示データテーブルの内容を展開する場合に、スーパーリーチ種別フラグがオンされたスーパーリーチの表示態様に対応する描画内容だけを抽出する。これにより、タスク処理では、選択されたスーパーリーチの表示態様に対応するスプライト（表示物）の種別を特定されると共に、スプライト毎に、表示座標位置や拡大率、回転角度といった描画に必要な各種パラメータが設定されるので、図柄表示部 3 4 1 には、その選択された表示態様でスーパーリーチ演出が表示される。

20

【3 3 6 8】

<ステップ S 5 4 0 9 及び S 5 4 1 0>

図 2 4 7 の表示設定処理の説明に戻り、操作ボタン操作処理（ステップ S 5 4 0 8）の後、又はステップ S 5 4 0 7 の処理において、操作ボタン操作フラグがオンではない、即ちオフであると判別されると（ステップ S 5 4 0 7 : N o）、比較フラグはオンであるかを判別する（ステップ S 5 4 0 9）。そして、比較フラグがオンであれば（ステップ S 5 4 0 9 : Y e s）、比較処理を実行する（ステップ S 5 4 1 0）。

【3 3 6 9】

【比較処理】

ここで、図 2 5 0 を参照して、比較処理の詳細について説明する。図 2 5 0 は、比較処理を示すフローチャートである。この処理は、表示用変動パターンコマンドに基づき、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された変動用表示データテーブルと、表示用停止種別コマンドに基づき設定された停止図柄とが矛盾している場合に、特図遊技演出を、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 から送信された確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信するまでの間、飾り図柄を高速に変動表示させる特殊変動演出に変更するための処理である。

30

【3 3 7 0】

<ステップ S 5 8 0 1 及び S 5 8 0 2>

図 2 5 0 に示すように、比較処理では、まず、データテーブル判別フラグのうち、オン状態に設定されているデータテーブル判別フラグを特定し、その特定されたデータテーブル判別フラグから、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納されている変動用表示データテーブルの種別を特定する（ステップ S 5 8 0 1）。次に、停止図柄判別フラグのうち、オン状態に設定されている停止図柄判別フラグを特定し、その特定された停止図柄判別フラグから、設定された停止図柄を特定する（ステップ S 5 8 0 2）。

40

【3 3 7 1】

<ステップ S 5 8 0 3 及び S 5 8 0 4>

そして、ステップ S 5 8 0 2 の処理によって特定された変動用表示データテーブルの種別と、ステップ S 5 8 0 2 の処理によって特定された停止図柄とがマッチするかどうかを判別する（ステップ S 5 8 0 3）。上述したように、変動用表示データテーブルは、変動パターン毎に用意されているもので、各変動パターンには、外れ用、小当たり用などがある

50

。そこで、ステップ S 5 8 0 3 の処理は、例えば、変動用表示データテーブルが外れ用の変動パターンに対応するものであるにもかかわらず、停止図柄が大当たり図柄に設定された場合は、これらはマッチしないと判断する。

【 3 3 7 2 】

ステップ S 5 8 0 3 の処理において、マッチすると判断される場合は（ステップ S 5 8 0 3 : Y e s ）、ステップ S 5 8 0 8 の処理へ移行し、比較フラグをオフに設定後（ステップ S 5 8 0 8 ）、図 2 4 7 の表示設定処理に戻る。一方、マッチしないと判断される場合は（ステップ S 5 8 0 3 : N o ）、まず、特殊変動が規定された特殊変動用表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定すると共に、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e 及び転送データテーブルバッファ 6 3 3 f にそれぞれ N u l l データを書き込むことで、それらの内容をクリアする（ステップ S 5 8 0 4 ）。

10

【 3 3 7 3 】

<ステップ S 5 8 0 5 ~ S 5 8 0 8 >

次いで、特殊停止図柄（例えば、左列から「3」「4」「1」と表示される図柄）に対応する停止図柄判別フラグをオンにすると共に、その他の停止図柄に対応する停止図柄判別フラグをオフに設定し（ステップ S 5 8 0 5 ）、さらに、特殊変動演出の演出時間に対応する時間データを計時カウンタ 6 3 3 i に設定する（ステップ S 5 8 0 6 ）。なお、特殊変動演出は、上述したように、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 から送信された確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信するまでの間、飾り図柄を高速に変動表示させるものであるので、その演出時間は長時間（例えば 9 0 秒）に設定されている。従って、更新情報としての計時カウンタ 6 3 3 i には、特殊変動演出の演出時間に対応する時間データとして、9 0 秒（9 0 0 0 0 ミリ秒）÷ 2 0 ミリ秒 = 4 5 0 0 が設定される。

20

【 3 3 7 4 】

そして、更新情報としてのポインタ 6 3 3 g を 0 に初期化し（ステップ S 5 8 0 7 ）、比較フラグをオフに設定して（ステップ S 5 8 0 8 ）、表示設定処理に戻る。

【 3 3 7 5 】

このように、表示用変動パターンコマンドに基づき、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された変動用表示データテーブルと、表示用停止種別コマンドに基づき設定された停止図柄とが矛盾している場合は、特殊変動用表示データテーブルが表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定されるので、図柄表示部 3 4 1 には、飾り図柄が高速に変動し続ける特殊変動演出が表示される。そして、停止時柄として、特殊停止図柄が設定されるので、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 から送信された確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信した場合に、その特殊停止図柄を図柄表示部 3 4 1 上に確定表示させることができる。

30

【 3 3 7 6 】

ここで、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 より指示される変動演出パターンとその変動演出の停止表示時に表示すべき停止図柄とが一致しない場合、表示制御装置 6 では、主制御装置 4 において行われた抽選の結果を正しく反映させて変動演出や確定表示演出を行うことができない恐れがある。これに対し、本遊技機 1 0 では、このような場合は特殊変動演出が行われ、変動表示後に特殊な外れを示す特殊停止図柄が図柄表示部 3 4 1 に確定表示されるので、主制御装置 4 における抽選の結果が外れであっても図柄表示部 3 4 1 に誤って大当たりの確定表示演出が行われてしまうことを防止することができる。また、図柄表示部 3 4 1 に特殊停止図柄が確定表示されても、主制御装置 4 における抽選結果が大当たりであれば、実際の遊技機 1 0 における遊技状態は特別遊技状態へ移行するので、遊技者は安心して遊技を継続することができる。更に、確定表示を特殊停止図柄とすることで、確定表示が外れであっても、遊技機 1 0 が大当たり状態となっている可能性があることを遊技者に対して示唆することができるので、確定表示が外れであるにも関わらず、遊技機 1 0 が大当たり状態となることで、遊技者に不安感を与えないようにすることができる。

40

【 3 3 7 7 】

50

<ステップ S 5 4 1 1>

図 2 4 7 の表示設定処理の説明に戻り、比較処理（ステップ S 5 4 1 0）の後、又はステップ S 5 4 0 9 の処理において、比較フラグがオンではない、即ちオフであると判別されると（ステップ S 5 4 0 9 : N o）、ポインタ更新処理を実行する（ステップ S 5 4 1 1）。

【3 3 7 8】

[ポインタ更新処理]

ここで、図 2 5 1 を参照して、ポインタ更新処理について説明する。図 2 5 1 は、ポインタ更新処理を示すフローチャートである。このポインタ更新処理は、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e 及び転送データテーブルバッファ 6 3 3 f の各バッファにそれぞれ格納された表示データテーブル、追加データテーブル及び転送データテーブルから、対応する描画内容もしくは転送対象画像データの転送データ情報を取得すべきアドレスを指定するポインタ 6 3 3 g の更新を行う処理である。

【3 3 7 9】

<ステップ S 5 9 0 1>

図 2 5 1 に示すように、ポインタ更新処理では、まず、更新情報であるポインタ 6 3 3 g に 1 を加算する（ステップ S 5 9 0 1）。即ち、ポインタ 6 3 3 g は、原則、V 割込処理が実行される度に 1 だけ加算されるように更新処理が行われる。また、上述したように、各種データテーブルは、アドレス「0 0 0 0 H」には、S t a r t 情報が記載されており、それぞれのデータの実体はアドレス「0 0 0 1 H」以降に規定されているところ、表示データテーブルが表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納されるのに合わせてポインタ 6 3 3 g の値が 0 に初期化された場合は、このポインタの更新処理によってその値が 1 に更新されるので、アドレス「0 0 0 1 H」から順に、それぞれのデータテーブルから実体的なデータを読み出すことができる。

【3 3 8 0】

<ステップ S 5 9 0 2 ~ S 5 9 0 5>

ステップ S 5 9 0 1 の更新処理によって、更新情報であるポインタ 6 3 3 g の値を更新した後、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された表示データテーブルにおいて、その更新後のポインタ 6 3 3 g で示されるアドレスのデータが E n d 情報であるか否かを判別する（ステップ S 5 9 0 2）。その結果、E n d 情報であれば（ステップ S 5 9 0 2 : Y e s）、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された表示データテーブルにおいて、その実体データが記載されたアドレスを過ぎてポインタ 6 3 3 g が更新されたことを意味する。

【3 3 8 1】

そこで、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納されている表示データテーブルがデモ用表示データテーブル又は再始動表示データテーブルであるか否かを判別して（ステップ S 5 9 0 3）でモ用表示データテーブル又は再始動表示データテーブルであれば（ステップ S 5 9 0 3 : Y e s）、ポインタ 6 3 3 g を 1 に設定し（ステップ S 5 9 0 4）、更に、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定されているデモ用表示データテーブル又は再始動表示データテーブルの演出時間に対応する時間データを計時カウンタ 6 3 3 i に設定して（ステップ S 5 9 0 5）、ステップ S 5 9 0 7 の処理へ移行する。これにより、表示設定処理では、デモ用表示データテーブル又は再始動表示データテーブルの先頭から順に描画内容を展開することができるので、図柄表示部 3 4 1 には、デモ演出又は再始動演出を繰り返し表示させることができる。

【3 3 8 2】

<ステップ S 5 9 0 6>

ステップ S 5 9 0 3 の処理において、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に格納されている表示データテーブルがデモ用表示データテーブルでも、再始動表示データテーブルでもないと判別された場合は（ステップ S 5 9 0 3 : N o）、更新情報であるポインタ 6 3 3 g の値を 1 だけ減算して（ステップ S 5 9 0 6）、ステップ S 5 9 0 7 の処理へ移行

する。これにより、表示設定処理では、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d にデモ用表示データテーブル及び再始動表示データテーブル以外の表示データテーブル、例えば、変動用表示データテーブルや確定表示データテーブルが設定されている場合は、E n d 情報が記載された 1 つ前のアドレスの描画内容が常に展開されるので、図柄表示部 3 4 1 には、その表示データテーブルで規定される最後の画像を停止させた状態で表示させることができる。

【 3 3 8 3 】

ステップ S 5 9 0 2 の処理の結果、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された表示データテーブルにおいて、ステップ S 5 9 0 1 の処理による更新後のポインタ 6 3 3 g で示されるアドレスのデータが E n d 情報ではないと判別される場合は、ステップ S 5 9 0 3 ~ S 5 9 0 5 の処理をスキップして、ステップ S 5 9 0 7 の処理へ移行する。

10

【 3 3 8 4 】

<ステップ S 5 9 0 7 ~ S 5 9 0 9 >

ステップ S 5 9 0 7 の処理では、確定コマンドフラグがオンであるか否かを判別し、確定コマンドフラグがオンではなく、オフであれば（ステップ S 5 9 0 7 : N o）、そのままポインタ更新処理を終了し、図 2 4 7 の表示設定処理に戻る。一方、確定コマンドフラグがオンであれば（ステップ S 5 9 0 7 : Y e s）、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 より確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信したことを意味するので、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定されている表示データバッファにおいて E n d 情報が格納されているエンド位置アドレスから 1 だけ減算した値に、ポインタ 6 3 3 g の値を設定し（ステップ S 5 9 0 8）、更に更新情報である計時カウンタの値を 1 に設定して（ステップ S 5 9 0 9）、表示設定処理に戻る。これにより、確定コマンドを受信した場合は、表示設定処理では、設定された表示データテーブルの最後に規定された描画内容を展開すると共に、確定表示演出の開始を制御することができる。

20

【 3 3 8 5 】

<ステップ S 5 4 1 2 >

図 2 4 7 の表示設定処理の説明に戻り、ポインタの更新処理の後、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d 及び追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に設定されている表示データテーブル及び追加データテーブルから、ポインタ更新処理によって更新されたポインタ 6 3 3 g で示されるアドレスの描画内容を展開する（ステップ S 5 4 1 2）。V 割込処理のタスク処理（図 2 4 1（B）のステップ S 4 3 0 4）では、先に展開された保留画像や警告画像などと共に、ステップ S 5 4 1 2 の処理で展開された描画内容を元に、画像を構成するスプライト（表示物）の種別を特定すると共に、スプライト毎に、表示座標位置や拡大率、回転角度といった描画に必要な各種パラメータを決定する。なお、追加データテーブルにおいて、N u l l データが記載されている場合は、追加すべきスプライトが存在しないものとして以後の処理を実行する。また、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e が N u l l データでクリアされているときは、常に N u l l データが追加データテーブルバッファ 6 3 3 e から展開されることになる。

30

【 3 3 8 6 】

<ステップ S 5 4 1 3 ~ S 5 4 2 1 >

次いで、更新情報である計時カウンタ 6 3 3 i の値を 1 だけ減算する更新処理を実行し（ステップ S 5 4 1 3）、減算後の計時カウンタ 6 3 3 i の値が 0 以下であるか否かを判別する（ステップ S 5 4 1 4）。そして、計時カウンタ 6 3 3 i の値が 1 以上である場合は（ステップ S 5 4 1 4 : N o）、そのまま表示設定処理を終了して V 割込処理に戻る。一方、計時カウンタ 6 3 3 i の値が 0 以下である場合は（ステップ S 5 4 1 4 : Y e s）、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定されている表示データテーブルに対応する演出の演出時間が経過したことを意味する。このとき、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に変動用表示データテーブルが設定されている場合は、その演出の終了に合わせて、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 から確定コマンド（表示用確定コマンド）が送信されるはずであるので、続くステップ S 5 4 1 5 の処理では、確定コマンドフラグが

40

50

オンであるか否かを確認する（ステップ S 5 4 1 5）。

【3 3 8 7】

その結果、確定コマンドフラグがオンであれば（ステップ S 5 4 1 5：Y e s）、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 から確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信したことを意味するので、まず、確定表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定すると共に、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e 及び転送データテーブルバッファ 6 3 3 f にそれぞれ N u l l データを書き込むことで、それらの内容をクリアする（ステップ S 5 4 1 6）。次いで、確定表示の演出時間に対応する時間データを更新情報である計時カウンタ 6 3 3 i に設定し（ステップ S 5 4 1 7）、更に、更新情報であるポインタ 6 3 3 g の値を 0 に初期化する（ステップ S 5 4 1 8）。そして、確定コマンドフラグをオフに設定し（ステップ S 5 4 1 9）、次いで、オン状態で確定表示演出中であることを示す確定表示フラグをオンに設定後（ステップ S 5 4 2 0）、停止図柄判別フラグの内容をそのままワーク R A M 6 3 3 に設けられた前回停止図柄判別フラグにコピーして（ステップ S 5 4 2 1）、図 2 4 1（B）の V 割込処理に戻る。

【3 3 8 8】

これにより、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に変動用表示データテーブルが設定されている場合などにおいて、その演出の終了に合わせて、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 より確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信した場合は、特図遊技演出における停止図柄の確定表示演出が図柄表示部 3 4 1 に表示されるように、その描画内容を設定することができる。また、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定される表示データテーブルを確定表示データテーブルに変更するだけで、容易に、図柄表示部 3 4 1 に表示させる演出を確定表示演出に変更することができる。そして、従来のように、別のプログラムを起動させることによって表示内容を変更する場合と比較して、プログラムが複雑かつ肥大化することなく、よって、M P U 6 3 1 に多大な負荷がかかることがないので、表示制御装置 6 の処理能力に関係なく、多種態様な演出画像を図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。

【3 3 8 9】

なお、ステップ S 5 4 2 1 の処理によって設定された前回停止図柄判別フラグは、次に行われる特図遊技演出において図柄表示部 3 4 1 に表示すべき飾り図柄を特定するために用いられる。即ち、上述したように、特図遊技演出における飾り図柄の表示は、1 つ前に行われた特図遊技演出の停止図柄に応じて変わるためであり、変動用表示データテーブルでは、そのデータテーブルに基づく変動が開始されてから所定時間経過するまでは、1 つ前に行われた特図遊技演出の停止図柄からの図柄オフセット情報が記載されている。V 割込処理のタスク処理（図 2 4 1（B）のステップ S 4 3 0 4）では、変動が開始されてから所定時間が経過するまで、ステップ S 5 4 2 1 によって設定された前回停止図柄判別フラグから、1 つ前に行われた特図遊技演出の停止図柄を特定すると共に、その特定した停止図柄に対して表示設定処理により取得された図柄オフセット情報を加算することによって、実際に表示すべき飾り図柄を特定する。これにより、1 つ前の特図遊技演出における停止図柄から特図遊技演出が開始される。

【3 3 9 0】

<ステップ S 5 4 2 2 ～ S 5 4 2 7>

ステップ S 5 4 1 5 の処理において、確定コマンドフラグがオンではなくオフであれば（ステップ S 5 4 1 5：N o）、図 2 4 8 に示すステップ S 5 4 2 2 の処理へ移行し、確定表示フラグがオンであるか否かを判別する（ステップ S 5 4 2 2）。そして、確定表示フラグがオンであれば（ステップ S 5 4 2 2：Y e s）、ステップ S 5 4 1 4 の処理における判定の結果（ステップ S 5 4 1 4：Y e s）は、確定表示演出が終了したことを意味するので、確定表示フラグをオフに設定した後（ステップ S 5 4 2 3）でも用表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定し（ステップ S 5 4 2 4）、次いで、データ表示の演出時間に対応する時間データを更新情報である計時カウンタ 6 3 3 i に設定する（ステップ S 5 4 2 5）。そして、ポインタ 6 3 3 g を 0 に初期化し（ステッ

ブ S 5 4 2 6) をン状態でデモ演出中であることを示すデモ表示フラグをオンに設定して (ステップ S 5 4 2 7)、図 2 4 1 (B) の V 割込処理を終了する。

【 3 3 9 1 】

これにより、確定表示演出が終了するまでに、次の特図遊技演出開始を示す表示用変動パターンコマンドや、デモ演出の開始を示す表示用デモ演出コマンドを受信しなかった場合には、自動的に、図柄表示部 3 4 1 にデモ演出が表示されるように、その描画内容を設定することができる。

【 3 3 9 2 】

なお、ステップ S 5 4 2 2 : Y e s の分岐条件を満たすのは、確定表示演出が行われている場合であり、この場合、ステップ S 5 4 1 6 の処理によって、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e 及び転送データテーブルバッファ 6 3 3 f はいずれもその内容がクリアされている。よって、ステップ S 5 4 2 4 の処理では、それらのデータテーブルバッファのクリア処理を省略している。これにより、MPU 6 3 1 における処理負荷の軽減を図ることができる。

【 3 3 9 3 】

<ステップ S 5 4 2 8 >

ステップ S 5 4 2 2 の処理において、確定表示フラグがオンではなく、オフであれば (ステップ S 5 4 2 2 : N o)、次いで、デモ表示フラグがオンであるか否かを判別する (ステップ S 5 4 2 8)。そして、デモ表示フラグがオンであれば (ステップ S 5 4 2 8 : Y e s)、ステップ S 5 4 1 4 の処理における判定の結果 (ステップ S 5 4 1 4 : Y e s) は、デモ演出が終了したことを意味するので、そのまま表示設定処理を終了し、V 割込処理に戻る。そして、この場合、次の V 割込処理の中で実行されるポインタ更新処理によって、上述したように、再びデモ演出が開始されるように、各種設定が行われるので、音声ランプ制御装置 5 より新たな表示用変動パターンコマンドを受信するまでは、デモ演出を繰り返し図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。

【 3 3 9 4 】

<ステップ S 5 4 2 9 及び S 5 4 3 0 >

ステップ S 5 4 2 8 の処理において、デモ表示フラグがオンではなく、オフである場合は (ステップ S 5 4 2 8 : N o)、ステップ S 5 4 1 4 の処理における判定の結果 (ステップ S 5 4 1 4 : Y e s) は、特図遊技演出が終了したことを意味する。そこで、特図遊技演出が終了してから所定時間経過しても確定コマンドを受信されない場合は、再始動演出を開始するために、特図遊技演出に対応する変動用表示データテーブルが表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定されるのに合わせて 0 に初期化された更新情報である再始動タイマカウンタに 1 を加算する更新処理を実行し (ステップ S 5 4 2 9)、加算後の再始動タイマカウンタの値が所定値になったか否かを判別する (ステップ S 5 4 3 0)。

【 3 3 9 5 】

<ステップ S 5 4 3 1 ~ S 5 4 3 3 >

再始動タイマカウンタが所定値ではない場合 (ステップ S 5 4 3 0 : N o)、そのまま表示設定処理を終了し、図 2 4 1 (B) の V 割込処理に戻る。また更新情報である再始動タイマカウンタが所定値である場合は (ステップ S 5 4 3 0 : Y e s)、再始動表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定すると共に、追加データテーブルバッファ 6 3 3 e 及び転送データテーブルバッファ 6 3 3 f にそれぞれ N u l l データを書き込むことで、それらの内容をクリアする (ステップ S 5 4 3 1)。そして、再始動演出の演出時間に対応する更新情報である時間データを計時カウンタ 6 3 3 i に設定し (ステップ S 5 4 3 2)、更に、更新情報であるポインタ 6 3 3 g の値を 0 に初期化して (ステップ S 5 4 3 3)、図 2 4 1 (B) の V 割込処理に戻る。

【 3 3 9 6 】

これにより、表示制御装置 6 では、特図遊技演出の終了に伴って飾り図柄が停止表示されてから所定時間経過しても、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 から送信される確定コマンド (表示用確定コマンド) が受信されない場合には、再始動演出が図柄表示

10

20

30

40

50

部 3 4 1 に表示されるように、その描画内容を設定することができる。そして、上述したように、再始動演出は、飾り図柄を振動させた画像を図柄表示部 3 4 1 に表示させる演出であるので、遊技者は、図柄表示部 3 4 1 において、飾り図柄の変動が停止表示された後にその飾り図柄が振動して表示されることを視認すると、その時点では停止図柄が確定していないことを認識することができる。

【 3 3 9 7 】

なお、再始動表示データテーブルによって規定された最後の描画内容が展開された後は、上述のポインタ更新処理によって、再び再始動表示データテーブルの先頭から描画内容が展開される。従って、音声ランプ制御装置 5 より表示用確定コマンドを受信したり、新たな表示用変動パターンコマンドを受信するまでは、再始動演出を繰り返し図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。ここで、再始動演出は、所定位置を中心に飾り図柄を振動（揺動）させる態様で図柄表示部 3 4 1 に表示させるものであり、その再始動表示データテーブルでは、飾り図柄を少なくとも 1 回揺動させて表示させるのに必要な描画内容だけを規定する。そして、この再始動表示データテーブルの先頭から繰り返し描画内容を展開することで、図柄表示部 3 4 1 に飾り図柄を繰り返し振動させた再始動演出が表示される。このように、再始動演出を、図柄表示部 3 4 1 に飾り図柄を振動させて表示させる演出とすることで、その再始動表示データテーブルを、少なくとも 1 回飾り図柄を揺動させて表示させるのに必要な描画内容だけを記憶させておけばよいので、再始動表示データテーブルを記憶するために必要な容量を小さく抑えることができる。

【 3 3 9 8 】

また、再始動表示データテーブルによって再始動演出が行われている途中で、音声ランプ制御装置 5 より表示用確定コマンドを受信した場合は、図 2 4 7 に示すステップ S 5 4 1 6 の処理が行われ、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d には確定表示データテーブルが設定される。これにより、再始動演出中であっても表示用確定コマンドの受信に合わせて、停止図柄判別フラグで示される停止図柄で飾り図柄の停止表示がなされ、確定表示が図柄表示部 3 4 1 に表示される。

【 3 3 9 9 】

また、始動表示データテーブルによって再始動演出が行われている途中で、音声ランプ制御装置 5 より表示用変動パターンコマンドを受信した場合は、図 2 4 4 (A) のステップ S 4 8 0 1 の処理が行われ、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d には、変動用表示データテーブルが設定されて、図柄表示部 3 4 1 に特図遊技演出が表示される。また、始動表示データテーブルによって再始動演出が行われている途中で、音声ランプ制御装置 5 より表示用デモコマンドを受信した場合は、図 2 4 3 (C) のステップ S 4 7 0 1 の処理が行われ、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d には、デモ用表示データテーブルが設定されて、図柄表示部 3 4 1 にデモ演出が表示される。再始動演出は、特図遊技演出の終了に伴って飾り図柄が停止表示されてから所定時間経過しても、本来受信されるべき主制御装置 4 からの確定コマンド（表示用確定コマンド）が受信されない場合に表示される演出であるため、ノイズや誤動作等の影響により、再始動演出が表示されている間も確定コマンドが受信されない可能性がある。これに対し、本実施形態では、再始動演出中に表示用変動パターンコマンドや表示用デモコマンドを受信すれば、そのコマンドに対応する演出を図柄表示部 3 4 1 に表示させることができるので、図柄表示部 3 4 1 における各種演出を遊技機 1 0 の遊技状態に合わせて行わせることができる。

【 3 4 0 0 】

なお、V 割込処理（図 2 4 1 (B) 参照）において簡易画像表示フラグ 6 3 3 c がオンの場合に実行される簡易表示設定処理（ステップ S 4 3 0 9）も、表示設定処理と同様の処理が行われる。ただし、簡易表示設定処理では、電源投入時変動画像による特図遊技演出の演出時間が終了後、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 より確定コマンド（表示用確定コマンド）を受信した場合は、所定時間、表示用停止種別コマンドに基づいて設定された停止図柄に応じた電源投入時変動画像の一方の画像（図 1 9 6 (B) 及び図 1 9 6 (C) のいずれか）を停止表示させることを規定した表示データテーブルを、表示デ

ータテーブルバッファ 633d に設定する処理が行われる。また、電源投入時変動画像による特図遊技演出の演出時間が終了後、本来、音声ランプ制御装置 5 を介して主制御装置 4 より受信すべき確定コマンド（表示用確定コマンド）の受信が認められない場合は、そのまま電源投入時変動画像の特図遊技演出を再始動させることを規定した表示データテーブルを表示データテーブルバッファ 633d に設定する処理が行われる。

【3401】

また、比較処理では、表示用変動パターンコマンドによって指示された変動パターンと、表示用停止種別によって指示された停止種別とを比較し、これらが一致しない場合は、停止図柄として外れ図柄を設定する。

【3402】

〔転送設定処理〕

次いで、図 252 及び図 253 を参照して、表示制御装置 6 の MPU 631 で実行される V 割込処理の転送設定処理（ステップ S4305）について説明する。ここで、図 252（A）は、転送設定処理を示すフローチャートである。

【3403】

<ステップ S6001～S6003>

図 252（A）に示すように、転送設定処理では、まず、簡易画像表示フラグ 633c がオンか否かを判別する（ステップ S6001）。そして、簡易画像表示フラグ 633c がオンであれば（ステップ S6001：Yes）、常駐用ビデオ RAM 635 に常駐すべき全ての画像データがキャラクタ ROM 634 から常駐用ビデオ RAM 635 に転送されていないので、常駐画像転送設定処理を実行して（ステップ S6002）、転送設定処理を終了し、V 割込処理へ戻る。これにより、画像コントローラ 637 に対して、常駐用ビデオ RAM 635 に常駐すべき画像データをキャラクタ ROM 634 から常駐用ビデオ RAM 635 へ転送させるための転送指示が設定される。なお、常駐画像転送設定処理の詳細については、図 252（B）を参照して後述する。

【3404】

一方、ステップ S6001 の処理の結果、簡易画像表示フラグ 633c がオンではない、即ち、オフであれば（ステップ S6001：No）、常駐用ビデオ RAM 635 に常駐すべき全ての画像データがキャラクタ ROM 634 から常駐用ビデオ RAM 635 に転送されている。この場合は、通常画像転送設定処理を実行し（ステップ S6003）、転送設定処理を終了して、V 割込処理へ戻る。これにより、以後のキャラクタ ROM 634 からの画像データの転送は、通常用ビデオ RAM 636 に対して行われるように転送指示が設定される。なお、通常画像転送設定処理の詳細については、図 253 を参照して後述する。

【3405】

〔常駐画像転送設定処理〕

次いで、図 252（B）を参照して、表示制御装置 6 の MPU 631 で実行される転送設定処理（ステップ S4305）の一処理である常駐画像転送設定処理（ステップ S6002）について説明する。図 252（B）は、この常駐画像転送設定処理（ステップ S6002）を示すフローチャートである。

【3406】

<ステップ S6101 及び S6102>

図 252（B）に示すように、常駐画像転送設定処理では、まず、画像コントローラ 637 に対して、未転送の画像データの転送指示をしているか否かを判別し（ステップ S6101）、転送指示を送信していれば（ステップ S6101：Yes）、更に、その転送指示に基づき画像コントローラ 637 により行われる画像データの転送処理が終了したか否かを判別する（ステップ S6102）。このステップ S6102 の処理では、画像コントローラ 637 に対して画像データの転送指示を行った後、画像コントローラ 637 から、転送処理の終了を示す転送終了信号を受信した場合に、転送処理が終了したと判断する。そして、ステップ S6102 の処理により、転送処理が終了していないと判別される場

10

20

30

40

50

合（ステップ S 6 1 0 2：N o）、画像コントローラ 6 3 7において画像の転送処理が継続して行われているので、この常駐画像転送設定処理を終了する。一方、転送処理が終了したと判別される場合（ステップ S 6 1 0 2：Y e s）、ステップ S 6 1 0 3の処理へ移行する。また、ステップ S 6 1 0 1の処理の結果、画像コントローラ 6 3 7に対して、未転送の画像データの転送指示を送信していない場合も（ステップ S 6 1 0 1：N o）、ステップ S 6 1 0 3の処理へ移行する。

【3 4 0 7】

<ステップ S 6 1 0 3 及び S 6 1 0 4>

ステップ S 6 1 0 3の処理では、常駐用ビデオ R A M 6 3 5に常駐すべき全ての常駐対象画像データを転送したか否かを判別し（ステップ S 6 1 0 3）、未転送の常駐対象画像データがあれば（ステップ S 6 1 0 3：N o）、その未転送の常駐対象画像データをキャラクタ R O M 6 3 4から常駐用ビデオ R A M 6 3 5へ転送するように、画像コントローラ 6 3 7に対する転送指示を設定し（ステップ S 6 1 0 4）、常駐画像転送設定処理を終了する。

10

【3 4 0 8】

これにより、描画処理において画像コントローラ 6 3 7に対して送信される更新情報としての描画リストに、未転送の常駐対象画像データに関する転送データ情報が含まれることになり、画像コントローラ 6 3 7は、その描画リストに記載された転送データ情報を基に、常駐対象画像データをキャラクタ R O M 6 3 4から常駐用ビデオ R A M 6 3 5へ転送することができる。なお、転送データ情報には、常駐対象画像データが格納されているキャラクタ R O M 6 3 4の先頭アドレスと最終アドレス、転送先の情報（この場合は、常駐用ビデオ R A M 6 3 5）、及び転送先（ここで転送される常駐対象画像データを格納すべき常駐用ビデオ R A M 6 3 5に設けられたエリア）の先頭アドレスが含まれる。画像コントローラ 6 3 7は、この転送データ情報に基づいて画像転送処理を実行し、転送処理で指定された画像データをキャラクタ R O M 6 3 4から読み出して一旦バッファ R A M 6 3 7 aに格納した後、常駐用ビデオ R A M 6 3 5の未使用期間中に、常駐用ビデオ R A M 6 3 5の指定されたアドレスに転送する。そして、転送が完了すると、M P U 6 3 1に対して、転送終了信号を送信する。

20

【3 4 0 9】

<ステップ S 6 1 0 5>

ステップ S 6 1 0 3の処理の結果、全ての常駐対象画像データが転送されていれば（ステップ S 6 1 0 3：Y e s）、簡易画像表示フラグ 6 3 3 cをオフに設定して（ステップ S 6 1 0 5）、常駐画像転送設定処理を終了する。これにより、V 割込処理（図 2 4 1（B）参照）において、簡易コマンド判定処理（図 2 4 1（B）のステップ S 4 3 0 8参照）及び簡易表示設定処理（図 2 4 1（B）のステップ S 4 3 0 9参照）ではなく、コマンド判定処理（図 2 4 2～図 2 4 6参照）及び表示設定処理（図 2 4 7～図 2 5 0参照）が実行されるので、通常時の画像の描画が設定されることになり、図柄表示部 3 4 1には通常時の画像が表示される。また、以後のキャラクタ R O M 6 3 4からの画像データの転送は、通常画像転送設定処理（図 2 5 3参照）により、通常用ビデオ R A M 6 3 6に対して行われる（図 2 5 2（A）のステップ S 6 0 0 1：N o参照）。

30

40

【3 4 1 0】

M P U 6 3 1は、この常駐画像転送設定処理を実行することにより、既にメイン処理の中で転送されている電源投入時主画像及び電源投入時変動画像を除く、常駐用ビデオ R A M 6 3 5に常駐すべき全ての常駐対象画像データをキャラクタ R O M 6 3 4から常駐用ビデオ R A M 6 3 5に対して転送することができる。そして、M P U 6 3 1は、常駐用ビデオ R A M 6 3 5に転送された画像データを、電源投入中、上書きすることなく保持され続けるよう制御する。これにより、常駐画像転送設定処理によって常駐用ビデオ R A M 6 3 5に転送された画像データは、電源投入中、常駐用ビデオ R A M 6 3 5に常駐されることになる。

【3 4 1 1】

50

よって、常駐用ビデオRAM 635に常駐すべき全ての画像データが常駐用ビデオRAM 635に転送された後、表示制御装置6は、この常駐用ビデオRAM 635に常駐された画像データを使用しながら、画像コントローラ637にて画像の描画処理を行うことができる。これにより、描画処理に使用する画像データが常駐用ビデオRAM 635に常駐されていれば、画像描画時に読み出し速度の遅いNAND型フラッシュメモリ634aで構成されたキャラクタROM 634から対応する画像データを読み出す必要がないため、その読み出しにかかる時間を省略でき、画像の描画を即座に行って図柄表示部341に描画した画像を表示することができる。

【3412】

特に、常駐用ビデオRAM 635には、背面画像や、飾り図柄、キャラクタ図柄、エラーメッセージといった、頻繁に表示される画像の画像データや、主制御装置4、音声ランプ制御装置5や表示制御装置6などによって表示が決定された後、即座に表示すべき画像の画像データを常駐させるので、キャラクタROM 634をNAND型フラッシュメモリ634aで構成しても、遊技者によって任意のタイミングで行われる種々の操作から、図柄表示部341に何らかの画像を表示させるまでの応答性を高く保つことができる。

【3413】

〔通常画像転送設定処理〕

次いで、図253を参照して、表示制御装置6のMPU 631で実行される転送設定処理（ステップS4305）の一処理である通常画像転送設定処理（ステップS6003）について説明する。図253は、この通常画像転送設定処理を示すフローチャートである。

【3414】

＜ステップS6201～S6204＞

図253に示すように、通常画像転送設定処理では、まず、転送データテーブルバッファ633fに設定されている転送データテーブルから、先に実行された表示設定処理（ステップS4303）のポインタ更新処理（ステップS5411）によって更新されたポインタ633gで示されるアドレスに記載された情報を取得する（ステップS6201）。そして、取得した情報が転送データ情報であるか否かを判別し（ステップS6202）、転送データ情報であれば（ステップS6202：Yes）、その転送データ情報から、転送対象画像データが格納されているキャラクタROM 634の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオRAM 636）の先頭アドレスを抽出して、ワークRAM 633に設けられた転送データバッファに格納し（ステップS6203）、更に、ワークRAM 633に設けられ、オン状態で転送開始すべき画像データが存在することを示す転送開始フラグをオンに設定して（ステップS6204）、ステップS6205の処理へ移行する。

【3415】

＜ステップS6205及びS6206＞

また、ステップS6202の処理において、取得した情報が転送データ情報ではなく、Nullデータであれば（ステップS6202：No）、ステップS6203及びステップS6204の処理をスキップして、ステップS6205の処理へ移行する。ステップS6205の処理では、画像コントローラ637に対して、前回行われた画像データの転送が終了した後に、新たに画像データの転送指示を設定したか否かを判別し（ステップS6205）、転送指示を設定していれば（ステップS6205：Yes）、更に、その転送指示に基づき画像コントローラ637により行われる画像データの転送が終了したか否かを判別する（ステップS6206）。

【3416】

このステップS6206の処理では、画像コントローラ637に対して画像データの転送指示を設定した後、画像コントローラ637から、転送処理の終了を示す転送終了信号を受信した場合に、転送処理が終了したと判断する。そして、ステップS6206の処理により、転送処理が終了していないと判別される場合（ステップS6206：No）、画

像コントローラ637において画像の転送処理が継続して行われているので、この通常画像転送設定処理を終了する。一方、転送処理が終了したと判別される場合（ステップS6206：Yes）、ステップS6207の処理へ移行する。また、ステップS6205の処理の結果、前回の転送処理の終了後に、画像コントローラ637に対して画像データの転送指示を設定していない場合も（ステップS6205：No）、ステップS6207の処理へ移行する。

【3417】

<ステップS6207～S6211>

ステップS6207の処理では、転送開始フラグがオンか否かを判別し、転送開始フラグがオンであれば（ステップS6207：Yes）、転送開始すべき画像データが存在している（ステップS6208）、ステップS6203の処理によって転送データバッファに格納した各種情報によって示されるスプライトの画像データを転送対象画像とした上で、ステップS6215の処理へ移行する。一方、転送開始フラグがオンではなく、オフであれば（ステップS6207：No）、次いで、新規連続予告コマンドフラグはオンか否かを判別する（ステップS6209）。

10

【3418】

そして、新規連続予告コマンドフラグがオンであれば（ステップS6209：Yes）、連続予告コマンドが処理され、連続予告演出用の連続予告用追加データテーブルが追加データテーブルバッファ633eに設定されたことを意味するので、新規連続予告コマンドフラグをオフに設定した後（ステップS6210）、連続予告画像種別毎に設けられた連続予告判別フラグのうち、オン状態にある連続予告判別フラグに対応する連続予告画像の画像データが格納されているキャラクタROM634の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオRAM636）の先頭アドレスを特定し（ステップS6211）、この特定した各種情報によって示されるスプライトの画像データを転送対象画像とした上で、ステップS6215の処理へ移行する。

20

【3419】

<ステップS6212～S6214>

ステップS6209の処理において、新規連続予告コマンドフラグがオンではなく、オフであれば（ステップS6209：No）、次いで、背面画像変更フラグはオンか否かを判別する（ステップS6212）。そして、背面画像変更フラグがオンではなく、オフであれば（ステップS6212：No）、転送開始すべき画像データが存在していないので、そのまま通常画像転送設定処理を終了する。

30

【3420】

一方、背面画像変更フラグがオンであれば（ステップS6212：Yes）、背面画像の変更を意味するので、背面画像変更フラグをオフに設定した後（ステップS6213）、背面画像種別毎に設けられた背面画像判別フラグのうち、オン状態にある背面画像判別フラグに対応する背面画像の画像データが格納されているキャラクタROM634の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオRAM636）の先頭アドレスを特定し（ステップS6214）、この特定した各種情報によって示されるスプライトの画像データを転送対象画像とした上で、ステップS6215の処理へ移行する。

40

【3421】

なお、オン状態にある背面画像判別フラグが背面Aのものである場合、対応する画像データは全て常駐用ビデオRAM635の背面画像エリア635cに常駐されているので、通常用ビデオRAM636に転送すべき画像データが存在しない。よって、ステップS6214の処理では、オン状態にある背面画像判別フラグが背面Aのものであれば、そのまま通常画像転送処理を終了する。

【3422】

<ステップS6215～S6217>

50

ステップ S 6 2 1 5 の処理では、転送対象画像が通常用ビデオ R A M 6 3 6 に既に格納されているか否かを判別する。このステップ S 6 2 1 5 の処理における判別では、格納画像判別フラグ 6 3 3 j を参照することによって行われる。即ち、転送対象画像とされたスプライトに対応する格納状態を格納画像判別フラグ 6 3 3 j より読み出して、その格納状態が「オン」であれば、転送対象となったスプライトの画像データが通常用ビデオ R A M 6 3 6 に格納されていると判断し、格納状態が「オフ」であれば、転送対象となったスプライトの画像データが通常用ビデオ R A M 6 3 6 に格納されていないと判断する。

【 3 4 2 3 】

そして、ステップ S 6 2 1 5 の処理の結果、転送対象画像が通常用ビデオ R A M 6 3 6 に格納されていれば（ステップ S 6 2 1 5 : Y e s ）、キャラクタ R O M 6 3 4 から通常用ビデオ R A M 6 3 6 に対して、その画像データを転送する必要がないので、そのまま通常画像転送設定処理を終了する。これにより、無駄に画像データがキャラクタ R O M 6 3 4 から通常用ビデオ R A M 6 3 6 に対して転送されるのを抑制することができ、表示制御装置 6 の各部における処理負担の軽減や、バスライン 6 4 0 におけるトラフィックの軽減を図ることができる。

【 3 4 2 4 】

一方、ステップ S 6 2 1 5 の処理の結果、転送対象画像が通常用ビデオ R A M 6 3 6 に格納されていなければ（ステップ S 6 2 1 5 : Y e s ）、その転送対象画像の転送指示を設定する（ステップ S 6 2 1 6 ）。これにより、描画処理において画像コントローラ 6 3 7 に対して送信される描画リストに、転送対象画像の転送データ情報が含まれることになり、画像コントローラ 6 3 7 は、その描画リストに記載された転送データ情報を基に、転送対象画像の画像データをキャラクタ R O M 6 3 4 から通常用ビデオ R A M 6 3 6 へ転送することができる。なお、転送データ情報には、転送対象画像の画像データが格納されているキャラクタ R O M 6 3 4 の先頭アドレスと最終アドレス、転送先の情報（この場合は、通常用ビデオ R A M 6 3 6 ）、及び転送先（ここで転送される転送対象画像の画像データを格納すべき通常用ビデオ R A M 6 3 6 の画像格納エリア 6 3 6 a に設けられたサブエリア）の先頭アドレスが含まれる。画像コントローラ 6 3 7 は、この転送データ情報に基づいて画像転送処理を実行し、転送処理で指定された画像データをキャラクタ R O M 6 3 4 から読み出して、指定されたビデオ R A M （ここでは、通常用ビデオ R A M 6 3 6 ）の指定されたアドレスに転送する。そして、転送が完了すると、M P U 6 3 1 に対して、転送終了信号を送信する。

【 3 4 2 5 】

ステップ S 6 2 1 6 の処理の後、格納画像判別フラグ 6 3 3 j を更新し（ステップ S 6 2 1 7 ）、この通常用転送設定処理を終了する。格納画像判別フラグ 6 3 3 j の更新は、上述したように、転送対象画像となったスプライトに対応する格納状態を「オン」に設定し、また、その一のスプライトと同じ画像格納エリア 6 3 6 a のサブエリアに格納されることになっているその他のスプライトに対応する格納状態を「オフ」に設定することによって行われる。

【 3 4 2 6 】

このように、この通常用画像転送処理を実行することによって、先に実行されたコマンド判定処理の中で連続予告コマンドに対する処理が実行され、その連続予告コマンドで示された連続予告画像に対応する追加データテーブルが追加データテーブルバッファ 6 3 3 e に設定された場合は、その追加データテーブルで用いられる連続予告画像の画像データを遅滞なくキャラクタ R O M 6 3 4 から通常用ビデオ R A M 6 3 6 に転送させることができる。また、先に実行されたコマンド判定処理の中で背面画像変更コマンドの受信に基づいて背面画像の変更が行われた場合は、その背面画像で用いられる画像データのうち、常駐用ビデオ R A M 6 3 5 の背面画像エリア 6 3 5 c に格納されていない画像データを、遅滞なく、キャラクタ R O M 6 3 4 から通常用ビデオ R A M 6 3 6 に転送させることができる。

【 3 4 2 7 】

また、本実施形態では、主制御装置 4 からのコマンド等に基づき音声ランプ制御装置 5 から送信されるコマンド（例えば、表示用変動パターンコマンド）等に応じて、表示データテーブルが表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定されるのに合わせて、その表示データテーブルに対応する転送データテーブルが転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に設定される。そして、MPU 6 3 1 は、通常画像転送設定処理を実行することにより、転送データテーブルバッファ 6 3 3 f に設定された転送データテーブルのポインタ 6 3 3 g で示されるエリアに記載されている転送データ情報に従って、画像コントローラ 6 3 7 に対する転送対象画像の転送指示を設定するので、表示データテーブルバッファ 6 3 3 d に設定された表示データテーブルで用いられるスプライトの画像データを、所望のタイミングで確実にキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送することができる。

10

【3 4 2 8】

ここで、表示データテーブルに従って所定のスプライトの描画が開始されるまでに、その所定のスプライトに対応する画像データが画像格納エリア 6 3 6 a に格納されるように、転送データテーブルでは、転送対象画像データの転送データ情報が所定のアドレスに対して規定されているので、この転送データテーブルに規定された転送データ情報に従って、画像データをキャラクタ ROM 6 3 4 から画像格納エリア 6 3 6 a に転送することにより、表示データテーブルに従って所定のスプライトを描画する場合に、そのスプライトの描画に必要な常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に常駐されていない画像データを、必ず画像格納エリア 6 3 6 a に格納させておくことができる。

20

【3 4 2 9】

これにより、読み出し速度の遅い NAND 型フラッシュメモリ 6 3 4 a によってキャラクタ ROM 6 3 4 を構成しても、遅滞なく表示に必要な画像を予めキャラクタ ROM 6 3 4 から読み出し、通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送しておくことができるので、表示データテーブルで指定された各スプライトの画像を描画しながら、対応する演出を図柄表示部 3 4 1 に表示させることができる。また、転送データテーブルの記載によって、常駐用ビデオ RAM 6 3 5 に非常駐の画像データだけを容易に且つ確実にキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ転送することができる。

【3 4 3 0】

また、転送データテーブルでは、スプライトに対応する画像データ毎にキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 へ画像データが転送されるように、その転送データ情報を規定する。これにより、その画像データの転送をスプライト毎に管理し、また、制御することができるので、その転送に係る処理を容易に行うことができる。そして、スプライト単位でキャラクタ ROM 6 3 4 から通常用ビデオ RAM 6 3 6 への画像データの転送を制御することにより、その処理を容易にしつつ、詳細に画像データの転送を制御できる。よって、転送にかかる負荷の増大を効率よく抑制することができる。

30

【3 4 3 1】

〔描画処理〕

次いで、図 2 5 4 を参照して、表示制御装置 6 の MPU 6 3 1 で実行される V 割込処理の描画処理（ステップ S 4 3 0 6）について説明する。図 2 5 4 は、描画処理を示すフローチャートである。

40

【3 4 3 2】

<ステップ S 6 3 0 1>

図 2 5 3 に示すように、描画処理では、V 割込処理のタスク処理（図 2 4 1 のステップ S 4 3 0 4）で決定された 1 フレームを構成する各種スプライトの種別ならびにそれぞれのスプライトの描画に必要なパラメータ（表示位置座標、拡大率、回転角度、半透明値、αブレンディング情報、色情報、フィルタ指定情報）、及び、V 割込処理の転送設定処理（図 2 4 1 のステップ S 4 3 0 5）により設定された転送指示から、図 2 0 2 に示す更新情報としての描画リストを生成する（ステップ S 3 3 0 1）。即ち、ステップ S 6 3 0 1 の処理では、V 割込処理のタスク処理（図 2 4 1 のステップ S 4 3 0 4）で決定された 1

50

フレームを構成する各種スプライトの種別から、スプライト毎に、そのスプライトの画像データが格納されている格納RAM種別とアドレスとを特定し、その特定された格納RAM種別とアドレスとに対して、V割込処理のタスク処理（図241のステップS4304）で決定されたそのスプライトに必要なパラメータを対応付ける。そして、各スプライトを、1フレーム分の画像の中で最も背面側に配置すべきスプライトから前面側に配置すべきスプライト順に並び替えた上で、その並び替え後のスプライト順に、それぞれのスプライトに対する詳細な描画情報（詳細情報）として、スプライトの画像データが格納されている格納RAM種別ならびにアドレス及びそのスプライトの描画に必要なパラメータを記述することで、描画リストを生成する。また、V割込処理の転送設定処理（図241のステップS4305）により転送指示が設定された場合は、その描画リストの末尾に、転送データ情報として、転送対象画像データが格納されているキャラクタROM634の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオRAM636）の先頭アドレスを追記する。

10

【3433】

なお、上述したように、スプライト毎に、そのスプライトの画像データが格納される常駐用ビデオRAM635のエリア、又は、通常用ビデオRAM636の画像格納エリア636aのサブエリアが固定されているので、MPU631は、スプライト種別に応じて、そのスプライトの画像データが格納されている格納RAM種別とアドレスとを即座に特定し、それらの情報を描画リストの詳細情報に容易に含めることができる。

20

【3434】

<ステップS6302>

描画リストを生成すると、その生成した描画リストと、描画対象バッファフラグ633kによって特定される描画対象バッファ情報とを画像コントローラへ送信する（ステップS6302）。ここでは、描画対象バッファフラグ633kが0である場合は、描画対象バッファ情報として第1フレームバッファ636bに描画された画像を展開するよう指示する情報を含め、描画対象バッファフラグ633kが1である場合は、描画対象バッファ情報として第2フレームバッファ636cに描画された画像を展開するよう指示する情報を含める。

【3435】

画像コントローラ637は、MPU631より受信した描画リストに基づいて、その描画リストの先頭に記述されたスプライトから順に画像を描画し、それを描画対象バッファ情報によって指示されたフレームバッファに上書きによって展開する。これにより、描画リストによって生成された1フレーム分の画像において、最初に描画したスプライトが最も背面側に配置させ、最後に描画したスプライトが最も前面側に配置させることができる。

30

【3436】

また、描画リストに転送データ情報が含まれている場合は、その転送データ情報から、転送対象画像データが格納されているキャラクタROM634の先頭アドレス（格納元先頭アドレス）と最終アドレス（格納元最終アドレス）、及び、転送先（通常用ビデオRAM636）の先頭アドレスを抽出し、その格納元先頭アドレスから格納元最終アドレスまでに格納された画像データを順にキャラクタROM634から読み出してバッファRAM637aに一時的に格納した後、通常用ビデオRAM636が未使用状態にあるときを見計らって、バッファRAM637aに格納した画像データを通常用ビデオRAM636の転送先先頭アドレスによって示されるエリアに順次転送する。そして、この通常用ビデオRAM636に格納された画像データは、その後、MPU631より送信される描画リストに基づいて使用され、描画リストに従った画像の描画が行われる。

40

【3437】

なお、画像コントローラ637は、描画対象バッファ情報によって指示されたフレームバッファとは異なるフレームバッファから、先に展開された画像の画像情報を読み出して、駆動信号と共にその画像情報を図柄表示部341に送信する。これにより、図柄表示部

50

341に対して、フレームバッファに展開した画像を表示させることができる。また、一方のフレームバッファに描画した画像を展開しながら、一方のフレームバッファから展開した画像を図柄表示部341に表示させることができ、描画処理と表示処理とを同時並列的に処理することができる。

【3438】

<ステップS6303>

描画処理は、ステップS6302の処理の後、描画対象バッファフラグ633kの更新処理を実行する（ステップS6303）。そして、描画処理を終了して、図241のV割込処理に戻る。描画対象バッファフラグ633kの更新は、その値を反転させることにより、即ち、値が「0」であった場合は「1」に、「1」であった場合は「0」に設定することによって行われる。これにより、描画対象バッファは、描画リストが送信される度に、第1フレームバッファ636bと第2フレームバッファ636cとの間で交互に設定される。

10

【3439】

ここで、描画リストの送信は、1フレーム分の画像の描画処理及び表示処理が完了する20ミリ秒毎に画像コントローラ637から送信されるV割込信号に基づいて、MPU631により実行されるV割込処理（図241（B）参照）の描画処理が実行される度に行われることになる。これにより、あるタイミングで、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定され、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定されて、画像の描画処理及び表示処理が実行されると、1フレーム分の画像の描画処理が完了する20ミリ秒後に、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定され、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定される。よって、先に第1フレームバッファ636bに展開された画像の画像情報が読み出されて図柄表示部341に表示させることができると同時に、第2フレームバッファ636cに新たな画像が展開される。

20

【3440】

そして、更に次の20ミリ秒後には、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファとして第1フレームバッファ636bが指定され、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとして第2フレームバッファ636cが指定される。よって、先に第2フレームバッファ636cに展開された画像の画像情報が読み出されて図柄表示部341に表示させることができると同時に、第1フレームバッファ636bに新たな画像が展開される。以後、1フレーム分の画像を展開するフレームバッファと、1フレーム分の画像情報が読み出されるフレームバッファとを、20ミリ秒毎に、それぞれ第1フレームバッファ636b及び第2フレームバッファ636cのいずれかを交互に指定することによって、1フレーム分の画像の描画処理を行いながら、1フレーム分の画像の表示処理を20ミリ秒単位で連続的に行わせることができる。

30

【3441】

このように、本実施形態では、1回の特図遊技に対して図柄表示部341において実行される特図遊技演出が、特図大当たり抽選の結果に基づいて1回の特図遊技に対して設定された変動種別（演出パターン）に応じて、更新情報である描画リストの更新処理を所定回数繰り返すことで実行される。つまり、図柄表示部341での特図遊技演出は、特図遊技が開始されてから飾り図柄の変動表示時間に対応した回数で、更新情報である描画リストの更新処理が実行されることで終了する。そして、当該特図遊技の変動表示時間に対応した更新情報である描画リストの更新処理が終了した場合、当該特図遊技が特図大当たり抽選の結果が外れであることを報知するものであり、当該特図遊技の終了後に実行すべき特図遊技の保留があると、当該保留に対する特図遊技が開始されると共に当該特図遊技に対して、改めて更新情報である描画リストの更新処理を所定回数繰り返すことで特図遊技演出が実行される。つまり、特図大当たり抽選の結果が小当たりであること報知する特図遊技が実行されるまでは特図遊技が繰り返し実行され、各特図遊技において、図柄表示部

40

50

3 4 1 で実行される特図遊技演出が、更新情報である描画リストの更新処理を所定回数繰り返すことで実行される。これにより、1 回の特図遊技に対する図柄表示部 3 4 1 での特図遊技演出を円滑かつ確実に実行することが可能になる。

【3 4 4 2】

一方、当該特図遊技が特図大当たり抽選の結果が小当たりであることを報知する場合、当該特図遊技の変動表示時間に対応した更新情報である描画リストの更新処理が終了すると、当該特図遊技演出の終了後に小当たり遊技が実行されることで利益遊技状態である小当たり遊技状態が発生される。小当たり遊技が発生させる特図遊技の遊技中状態では、特図大当たり抽選の結果が小当たりであることを報知するための報知表示として飾り図柄がゾロ目で確定表示される。そして、小当たり遊技が発生させる特図遊技の遊技中状態では、前述のように、特別演出である再抽選演出（再抽選表示）として復活演出（復活表示）（図 2 0 6（B）参照）や昇格演出（昇格表示）（図 2 0 6（C）参照）が実行されることがある。

10

【3 4 4 3】

遊技中状態である特図遊技における特別演出である復活演出（復活表示）は、大当たり抽選の結果が小当たりである場合に、所定の図柄としての飾り図柄が外れに対応する組み合わせで報知表示により停止表示されてから、飾り図柄が小当たりに対応する組み合わせで報知表示により停止表示される演出（表示）である。具体的には、遊技中状態である特図遊技における復活演出（昇格表示）は、飾り図柄が報知表示としてゾロ目以外で停止表示されてから報知表示としてゾロ目が確定表示される演出（表示）である（図 2 0 6（B）参照）。

20

【3 4 4 4】

一方、遊技中状態である特図遊技における特別演出である昇格演出（昇格表示）では、例えば小当たり遊技での V 入賞口 8 3 3 への遊技球の入球により 4 R 時短大当たり遊技が発生させる小当たりであることを報知する報知表示により飾り図柄が停止表示されてから、小当たり遊技での V 入賞口 8 3 3 への遊技球の入球により 1 6 R 時短大当たり遊技が発生させる小当たりであることを報知する飾り図柄が報知表示により確定表示される演出である。具体的には、遊技中状態である特図遊技における昇格演出（昇格表示）は、報知表示として飾り図柄が「7 7 7」以外のゾロ目で停止表示されてから、報知表示として「7 7 7」のゾロ目が確定表示される演出（表示）である（図 2 0 6（C）参照）。

30

【3 4 4 5】

このような遊技中状態である特図遊技における昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）は、前述のように、大当たりを報知する遊技中状態である 1 回の特図遊技に対して設定される特定の変動種別（演出パターン）に組み込まれた演出である（図 2 0 6（A）参照）。つまり、昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）は、飾り図柄の変動表示時間や特図大当たり抽選の結果に応じて複数設定される変動種別（演出パターン）から、特図大当たり抽選の結果が小当たりである場合に昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）が実行される特定の変動種別（演出パターン）が設定された場合に、当該特図遊技演出の一部（飾り図柄の変動表示の一部）として実行される。そのため、昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）は、当該特図遊技に対して設定された特定の変動種別（演出パターン）に基づいて、更新情報である描画リストの更新処理を当該変動種別（演出パターン）に応じて規定される回数だけ繰り返すことで実行される。換言すれば、大当たりを報知する遊技中状態である 1 回の特図遊技において昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）を実行する場合、更新情報として最後の描画リストの更新処理が実行された更新終了状態更新処理の所定期間前までの更新処理において昇格前又は復活前の報知表示として飾り図柄が停止表示され、その後の期間を利用した更新処理により更新情報である描画リストを最後まで更新することで、報知表示として飾り図柄を確定表示させることができる。これにより、大当たりを報知する遊技中状態である 1 回の特図遊技に対する図柄表示部 3 4 1 での飾り図柄の昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）を円滑かつ確実に実行することが可能になる。

40

50

【3446】

なお、前述のように、本実施形態の遊技機10は、1種2種混合機として構成されているが、当該遊技機10をループ確変機、ST機、V-ST機として構成する場合においても、大当たりを報知する遊技中状態である特図遊技において、昇格演出（昇格表示）や復活演出（復活表示）などの特別演出である再抽選演出（再抽選表示）を実行すること、大当たりを報知する遊技中状態である特図遊技において、例えば通常大当たりから確変大当たりへの昇格を報知、大当たり遊技でのラウンド遊技数が増加する昇格、外れからの大当たりへの復活を実行することが考えられるが、この場合の昇格演出や復活演出において、更新情報として最後の描画リストの更新処理が実行された更新終了状態の所定期間前までの更新処理において昇格前又は復活前の報知表示として飾り図柄が停止表示され、その後の期間を利用した更新処理により更新情報である描画リストを最後まで更新して更新終了状態とすることで、報知表示として飾り図柄を確定表示させることができる。

10

【3447】

また、本実施形態では、損益分岐点が、例えば工場出荷時の設計値に基づいて設定されるが、これに代えて、損益分岐点を他の基準に基づいて設定してもよい。例えば、工場出荷前の遊技機10に対して試打試験を行い、この試打試験の結果に基づいて損益分岐点を設定することが考えられる。

【3448】

また、損益分岐点は、固定的なものではなく、当該遊技機10に組み込んだプログラムに基づいて変更可能とすることも考えられる。例えば、遊技情報格納エリア412dに格納される前述の遊技情報（性能情報）、「ベース情報」、「連続役物比率情報」、「役物比率情報」、「単位大当たり抽選回数」などのうちの1つ又は複数の遊技情報（性能情報）に基づいて損益分岐点を変更することも考えられる。これにより、遊技機10ごとの遊技盤31に打設された遊技釘の出荷時のバラツキや、遊技釘の経年劣化に対応して損益分岐点を変更できるため、現状の遊技機10の状態に対応して損益分岐点を設定することが可能になる。

20

【3449】

なお、損益分岐点の変更タイミングは、遊技機10の主電源のオン時、RAMクリア時、一定回数の特図遊技の実行ごと（例えば1万回ごと）、一定回数の大当たり遊技の実行ごと（例えば1000回ごと）などが考えられる。

30

【3450】

また、本実施形態では、小当たり遊技が発生した場合に図柄表示部341において実行されるオープニング演出が、損益分岐点の前後で、第1報知態様である得表示オープニング演出から第2報知態様である損表示オープニング演出に切り替えられるが、得表示オープニング演出及び損表示オープニング演出では、図柄表示部341に加えて、又は代えて、当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させることの損得の報知を、他の演出手段、例えばスピーカ26、電飾部27、可動役物部材39（図4参照）などにおいて実行するようにしてもよい。具体的には、小当たり遊技のオープニング演出において、スピーカ26から、例えば得報知（第1報知態様）として「右打ちしたほうがいいよ」などの音声出力を実行する一方で、損報知（第2報知態様）として「右打ちしないほうがいいよ」などの音声出力を実行することが考えられる。また、小当たり遊技のオープニング演出において、例えば電飾部27を青色などに発光させることで得報知（第1報知態様）を実行する一方で、電飾部27を赤色などに発光させることで損報知（第2報知態様）を実行することが考えられる。さらに、小当たり遊技のオープニング演出において、可動役物部材39の可動態様を2種類設定し、これらの可動態様をうちの一方を得報知（第1報知態様）とする一方で、他方を損報知（第2報知態様）とすることが考えられる。可動役物部材39による大当たり遊技を発生させることの損得の報知の2つの可動態様としては、例えば可動役物部材39を図柄表示部341の表示面と重複させて移動させる場合の、上下動などの往復動の移動距離（ストローク、振幅）や移動速度を2種類設定することが考えられる。

40

50

【 3 4 5 1 】

また、本実施形態では、所定タイミング（例えば損益分岐点よりも20回前の天井発動残回数が140回である点）と特定タイミング（例えば損益分岐点よりも20回後の天井発動残回数が100回である点）との間の損益分岐点を含む中間期間（例えば天井発動残回数が100回～140回）において小当たり遊技が発生した場合に、当該小当たり遊技のオープニング演出として図柄表示部341において第3報知態様のボーダー報知がなされるが、このようなボーダー報知は、前記中間期間において実行される特図遊技において実行してもよい。例えば、図224に示すように、前記中間期間において実行される特図遊技において、図柄表示部341での飾り図柄の変動表示を含む特図遊技演出の視認を阻害しない領域に文字画像のテロップ表示などを実行することが考えられる。

10

【 3 4 5 2 】

ここで、所定タイミングと特定タイミングとの間の損益分岐点を含む中間期間において小当たり遊技が発生した場合に、当該小当たり遊技のオープニングにおいて第3報知態様のボーダー報知がなされると、ボーダー報知がなされる期間は、小当たり遊技が発生した場合のオープニングに限定される。そのため、遊技者からすれば、大当たり遊技を発生させるか否か、即ち右打ちを行って羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球させるか否かを判断する時短が短い。そのため、遊技者が右打ちを行うか否かを検討している間に、羽役物装置83のV入賞口833に遊技球が入球させることが可能な期間が過ぎてしまい、大当たり遊技を発生させることができないことが起こり得る。特に、当該遊技機10に対する遊技知識が乏しい遊技者にとっては、小当たり遊技のオープニングにおいて第3報知態様のボーダー報知がなされても、その意味を理解できないか、意味を理解するまでに時間を要することがあるため、オープニングにおいて第3報知態様のボーダー報知がなされた小当たり遊技に基づいて、大当たり遊技を発生させることができない事態が起こり易くなる。これとは逆に、小当たり遊技が開始されることで、無条件に右打ちを行ってしまっ、遊技者の意に反して大当たり遊技を発生させてしまうことが起こり得る。

20

【 3 4 5 3 】

これに対して、小当たり遊技が発生する確率は低く（本実施形態では約1／318.1（図204（A）参照））、前記中間期間実行可能な特図遊技の実行回数も比較的多い（本実施形態では40回（図223（A）参照））。そのため、所定タイミングと特定タイミングとの間の損益分岐点を含む中間期間で実行される特図遊技においてボーダー報知を行うことで、長時間にわたってボーダー報知を行うことができる。これにより、特図遊技においてボーダー報知がなされている場合、小当たり遊技が発生した場合に大当たり遊技を発生させるかを事前に判断しておくことが可能になる。その結果、遊技者の意に反して大当たり遊技を発生させられなかったり、これとは逆に、遊技者の意に反して大当たり遊技を発生させてしまったりすることが防止され、遊技者が希望する利益を遊技者が享受することが可能になる。

30

【 3 4 5 4 】

なお、特図遊技でのボーダー報知の実行タイミングについては特に制限はないが、例えば飾り図柄が高速で変動表示される高速変動演出が実行されているタイミングに設定するのが好ましい。このように、特図遊技でのボーダー報知の実行タイミングを高速変動演出が実行されているタイミングに設定することで、後にリーチ演出が実行される場合であっても、ボーダー報知によって、そのリーチ演出の視認や音声出力の聞き取りが阻害されることが防止される。

40

【 3 4 5 5 】

また、所定タイミングと特定タイミングとの間の損益分岐点を含む中間期間において実行される特図遊技でのボーダー報知（第3報知態様）は、図柄表示部341に加えて、又は代えて、他の演出手段、例えばスピーカ26、電飾部27、可動役物部材39（図4参照）などにおいて実行するようにしてもよい。具体的には、前記中間期間で実行される特図遊技において、スピーカ26から、例えばボーダー報知（第3報知態様）として「損・得・損・得・損・得・・・」などの損得が曖昧な音声出力を実行することが考えられる。

50

また、前記中間期間で実行される特図遊技において、電飾部 27 を特定の態様で点滅させること、例えば高速点滅や低速点滅の他、不規則な間隔での点滅などのような遊技者が違和感を覚える演出を実行することが考えられる。さらに、前記中間期間で実行される特図遊技において、可動役物部材 39 を図柄表示部 341 の表示面と重複させて特定の態様で可動させること、例えば可動役物部材 39 を、高速微振動、低速微振動、不規則な間隔での微振動などのような遊技者が違和感を覚える演出を実行することが考えられる。

【3456】

以上のように、本実施形態では、所定の判定の結果である特図大当たり抽選の結果が特定判定結果である小当たりである場合、特定情報である天井発動残回数カウンタの値が所定の更新状態である 0 となるよりも所定期間前である所定タイミングである損益分岐点に到達までは、特定判定結果である小当たりであることが第 1 報知態様である得表示オープニング演出により報知され、特定タイミングである損益分岐点に到達してからは特定判定結果である小当たりであることが第 2 報知態様である損表示オープニング演出により報知されるよう切り替えられる。つまり、本実施形態では、小当たり遊技が発生した段階での遊技者が獲得可能な利益の期待値に応じた報知態様で、当該小当たり遊技のオープニングにおいて利益の期待値の損得が報知される。そのため、遊技者は、小当たり遊技が発生した場合に、当該小当たり遊技のオープニング演出に着目することで、段階での遊技者が獲得可能な利益の損得を把握することが可能であるため、遊技者は当該小当たり遊技のオープニング演出での報知態様に基づいて大当たり遊技を発生させるか否かを判断することができる。その結果、当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させないほうが獲得可能な利益の期待値が高い場合に大当たり遊技を発生させないことを選択し、当該小当たり遊技に基づいて大当たり遊技を発生させるほうが獲得可能な利益の期待値が高い場合に大当たり遊技を発生させることを選択することが可能になる。これにより、遊技者は、天井時短遊技状態である b 時短遊技状態への移行が近づいた段階での大当たり遊技の発生によって b 時短遊技状態に移行しないという不利益の発生を回避できるため遊技の興趣が向上される。

【3457】

特に、本実施形態では、天井時短遊技状態である b 時短遊技状態に移行させることが遊技者に有利な特定タイミングである損益分岐点に到達してから小当たり遊技のオープニング演出の報知態様が切り替えられるため、損益分岐点の近傍の損益判断が困難な期間において小当たり遊技が発生した場合であっても、小当たり遊技のオープニング演出の報知態様に基づいて自身に有利な判断をより確実に行うことが可能になる。

【3458】

なお、本実施形態では、適用可能な範囲において、前述の第 1 ～ 第 4 の実施形態における設計変更事項と同様な設計変更が可能である。

【3459】

また、各実施形態において、適用可能な範囲において、他の実施形態に記載の事項を適用することも可能である。

【3460】

〔第 6 の実施形態〕

パチンコ遊技機では、大当たり抽選の結果が当たりであることを契機として大当たり遊技が実行される場合、当該大当たり遊技での出玉のインパクトの改善が望まれている。

【3461】

本発明に係る遊技機は、上記課題を解決するために、

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段と、

遊技者による所定の発射操作に基づいて遊技球が流下する所定流路と、

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可状態と遊技球を受け入れない受入非許可状態とに状態が可変可能な第 1 の入球手段と、前記第 1 の入球手段とは異なる第 2 の入球手段と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第

2の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態中に前記第1の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件が成立した場合に少なくとも特定の特典結果を導出可能な導出手段と、

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態において特定の切替条件が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第2の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第2の入球手段を開放作動させる作動手段と、

前記第2の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段と、

前記第2の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態を発生させるための制御を行う発生制御手段と、

前記特別条件が成立することに基づく前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、当該複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態として演出表示する特定演出表示を実行する特定演出表示手段と、

を備えている。

【3462】

発射手段は、遊技者の発射操作によって遊技球を遊技領域の所定方向に発射することができる発射機構であればよい。発射手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技球に発射力を付与する発射機構、ソレノイドなど利用した電動式の発射機構、バネ式の発射機構、回転操作可能な発射ハンドルを備える発射機構、レバー操作可能な発射レバーを備える発射機構、ボタン操作可能な発射ボタンを備える発射機構、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3463】

所定流路は、遊技者による所定の発射操作に基づいて遊技球が流下する遊技球流路であればよい。所定流路としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技球の入球に基づいて賞球が払い出される入球部に遊技球が入球可能な流路、遊技球の入球によっても賞球が払い出されない入球部（例えばスルーゲート、排出口）に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球に基づいて所定の抽選（例えば大当たり抽選、普図当たり抽選）が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口、スルーゲート）に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球によっても所定の抽選が実行されない入球部（例えば一般（普通）入賞口、排出口）に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球に基づいて普通当たり抽選が実行される入球部（例えばスルーゲート）に遊技球が入球可能な遊技球流路、特定遊技において入球可能状態とされる入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、大当たり遊技において入球可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））に遊技球が入球可能な遊技球流路、大当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態又は時短遊技状態を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）に遊技球が入球可能な遊技球流路、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））に遊技球が入球可能な遊技球流路、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）に遊技球が入球可能な遊技球流路、普図当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（第2（特2）入賞口）に遊技球が入球可能な遊技球流路、電動役物によって遊技球の受入可能状態と

10

20

30

40

50

受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、特別電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、普通電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球によって非電動役物を作動させる入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球に基づいて第1特図大当たり抽選が実行される入球部（第1（特1）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球に基づいて第2特図大当たり抽選が実行される入球部（第2（特2）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部に遊技球が入球可能な遊技球流路、演出表示が実行される表示手段の下部領域又は下方領域の正面が正面側に設けられるステージに遊技球が誘導される遊技球流路（いわゆるワープルート）、遊技領域の左側領域（例えば演出表示が実行される表示手段の左側領域）に設定される遊技球流路（いわゆる左打ちルート）、遊技領域の右側領域（例えば演出表示が実行される表示手段の右側領域）に設定される遊技球流路（いわゆる右打ちルート）、各種入球部に遊技球を入球させることなく遊技盤の背面側に遊技球を排出する排出口に遊技球が入球可能な遊技球流路、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

【3464】

受入許可状態は、遊技球が入球可能な入球部への遊技球の入球を受け入れる状態であればよく、少なくとも物理的に入球部への遊技球の入球を受け入れる受入可能状態、及び入球部への遊技球の入球に基づいて特定の処理を実行する受入可能状態が含まれる。一方、受入非許可状態は、遊技球が入球可能な入球部への遊技球の入球を受け入れない状態であればよく、少なくとも物理的に入球部への遊技球の入球を受け入れない受入不能状態、及び入球部への遊技球の入球に基づいて特定の処理を実行しない受入不能状態が含まれる。受入許可状態及び受入非許可状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技球の入球に基づいて賞球が払い出される入球部の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球によっても賞球が払い出されない入球部（例えばスルーゲート、排出口）の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球に基づいて所定の抽選（例えば大当たり抽選、普通当たり抽選）が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口、スルーゲート）の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球によっても所定の抽選が実行されない入球部（例えば一般（普通）入賞口、排出口）の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球に基づいて普通当たり抽選が実行される入球部（例えばスルーゲート）の開放状態及び閉鎖状態、特定遊技において入球可能状態とされる入球部の開放状態及び閉鎖状態、大当たり遊技において入球可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））の開放状態及び閉鎖状態、大当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態又は時短遊技状態を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）の開放状態及び閉鎖状態、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））の開放状態及び閉鎖状態、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該小当たり遊

30

40

50

技の終了後に大当たり遊技を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）の開放状態及び閉鎖状態、普図当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（第2（特2）入賞口）の開放状態及び閉鎖状態、電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部の開放状態及び閉鎖状態、特別電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部の開放状態及び閉鎖状態、普通電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部の開放状態及び閉鎖状態、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部の開放状態及び閉鎖状態、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球によって非電動役物を作動させる入球部の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球に基づいて第1特図大当たり抽選が実行される入球部（第1（特1）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球に基づいて第2特図大当たり抽選が実行される入球部（第2（特2）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部の開放状態及び閉鎖状態、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部の開放状態及び閉鎖状態、入球部への遊技球の入球に基づく所定の抽選（例えば大当たり抽選、普図当たり抽選）の実行許可状態及び実行非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく大当たり抽選の実行許可状態及び実行非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく小当たり抽選の実行許可状態及び実行非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく普図当たり抽選の実行許可状態及び実行非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく所定の数値情報の取得許可状態及び取得非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく所定のカウンタ値の取得許可状態及び取得非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく所定の乱数カウンタ値の取得許可状態及び取得非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく大当たり乱数カウンタ値の取得許可状態及び取得非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく普図当たり乱数カウンタ値の取得可能状態及び取得非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく所定の数値情報の更新許可状態及び更新非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく所定遊技又は所定の抽選を実行する権利の保留数に対応する情報の更新許可状態及び更新非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく特図遊技又は大当たり抽選を実行する権利の保留数に対応する情報の更新許可状態及び更新非許可状態、入球部への遊技球の入球に基づく普図遊技又は普図当たり抽選を実行する権利の保留数に対応する情報の更新許可状態及び更新非許可状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【3465】

第1の入球手段は、遊技球流路を流下する遊技球が入球可能な領域であり、遊技球を受け入れる受入可能状態と遊技球を受け入れない受入不能状態とに状態が可変可能な入球部であればよい。第2の入球手段は、遊技球流路を流下する遊技球が入球可能な領域であり、第1の入球手段とは異なる入球部であればよい。第1の入球手段及び第2の入球手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技球の入球に基づいて賞球が払い出される入球部、遊技球の入球によっても賞球が払い出されない入球部（例えばスルーゲート、排出口）、遊技球の入球に基づいて所定の抽選（例えば大当たり抽選、普図当たり抽選）が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口、スルーゲート）、遊技球の入球によっても所定の抽選が実行されない入球部（例えば一般（普通）入賞口、排出口）、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）、遊技球の入球に基づいて普通当たり抽選が実行される入球部（例えばスルーゲート）、特定遊技において入球可能状態とされる入球部、大当たり遊技において入球可能状態とされる入球部（例えば大入

賞口（可変入賞口））、大当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態又は時短遊技状態を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）、普図当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（第2（特2）入賞口）、電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部、特別電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部、普通電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部、遊技球の入球によって非電動役物を作動させる入球部、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部、遊技球の入球に基づいて第1特図大当たり抽選が実行される入球部（第1（特1）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部、遊技球の入球に基づいて第2特図大当たり抽選が実行される入球部（第2（特2）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

【3466】

入球振分手段は、所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域であって、遊技球が入球した場合に遊技球を所定の入球部に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な振分機能部であればよい。入球振分手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技球が入球した場合に電動式の可動部材により遊技球を所定の入球部に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉を行う振分機能部、遊技球が入球した場合に機械式の可動部材により遊技球を所定の入球部に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉を行う振分機能部、遊技球が入球した場合に所定方向に全体又は一部が往復移動可能な可動部材により遊技球を所定の入球部に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉を行う振分機能部、遊技球が入球した場合に全体又は一部が回転可能な可動部材により遊技球を所定の入球部に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉を行う振分機能部、遊技球が入球した場合にスライド移動可能な可動部材により遊技球を所定の入球部に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉を行う振分機能部、賞球が払い出される入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球によっても賞球が払い出されない入球部（例えばスルーゲート、排出口）に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球に基づいて所定の抽選（例えば大当たり抽選、普図当たり抽選）が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口、スルーゲート）に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球によっても所定の抽選が実行されない入球部（例えば一般（普通）入賞口、排出口）に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球に基づいて普通当たり抽選が実行される入球部（例えばスルーゲート）に遊技球を入球させる状態を発生させ

30

40

50

るか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、特定遊技において入球可能状態とされる入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、大当たり遊技において入球可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、大当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態又は時短遊技状態を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、普通電動役物において遊技球の受入可能状態とされる入球部（第2（特2）入賞口）に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部（例えば電チュー式始動口）、電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、特別電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、普通電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球によって非電動役物を作動させる入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球に基づいて第1特図大当たり抽選が実行される入球部（第1（特1）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球に基づいて第2特図大当たり抽選が実行される入球部（第2（特2）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部に遊技球を入球させる状態を発生させるか否かの振分けを、遊技球の入球に基づいて行う開閉可能な振分機能部、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3467】

所定遊技状態は、遊技の進行中に実現可能な遊技状態であればよい。所定遊技状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば通常遊技状態、時短遊技状態（a時短遊技状態、b時短遊技状態、c時短遊技状態）、確変遊技状態、所定の入球部が電動役物により開閉される遊技状態、所定の入球部が普通電動役物により開閉可能な遊技状態、振分機能部への遊技球の受入可能状態、振分機能部への遊技球の受入不能状態、所定の入球部

10

20

30

40

50

が特別電動役物により開閉可能な遊技状態、所定の入球部が非電動役物により開閉可能な遊技状態、大当たり遊技状態、大当たり遊技状態における開閉実行モードの実行状態、大当たり遊技状態における各ラウンド遊技の実行状態、大当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入可能状態、大当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入不能状態、小当たり遊技状態、小当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入可能状態、小当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入不能状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3468】

所定条件は、所定の入球部への遊技球の入球に基づいて成立する遊技条件であればよい。所定条件としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技状態が移行する遊技条件、通常遊技状態に移行する遊技条件、通常遊技状態から他の遊技状態に移行する遊技条件、確変遊技状態に移行する遊技条件、確変遊技状態から他の遊技状態に移行する遊技条件、時短遊技状態（a時短遊技状態、b時短遊技状態、c時短遊技状態）に移行する遊技条件、時短遊技状態から他の遊技状態に移行する遊技条件、大当たり遊技状態に移行する遊技条件、大当たり遊技状態から他の遊技状態に移行する遊技条件、小当たり遊技状態に移行する遊技条件、小当たり遊技状態から他の遊技状態に移行する遊技条件、特定遊技を実行する遊技条件、特図遊技を実行する遊技条件、大当たり遊技を実行する遊技条件、小当たり遊技を実行する遊技条件、普図遊技を実行する遊技条件、普図当たり遊技を実行する遊技条件、所定の抽選を実行（抽選種別に対応する乱数値を取得）する遊技条件、大当たり抽選を実行（大当たり乱数カウンタ値を取得）する遊技条件（特図遊技を実行する遊技条件）、大当たり抽選の結果が所定結果（取得した大当たり乱数カウンタ値が所定結果に対応するもの）であること（特定遊技を実行する遊技条件又は特定遊技を実行しない遊技条件）、大当たり抽選の結果が大当たり（取得した大当たり乱数カウンタ値が大当たりに対応するもの）であること（大当たり遊技を実行する遊技条件）、大当たり抽選の結果が小当たり（取得した大当たり乱数カウンタ値が小当たりに対応するもの）であること（小当たり遊技を実行する遊技条件）、大当たり抽選の結果が外れ当たり（取得した大当たり乱数カウンタ値が外れに対応するもの）であること（大当たり遊技及び小当たりを実行しない遊技条件）、大当たり抽選の結果が時短図柄停止（取得した大当たり乱数カウンタ値が時短図柄停止に対応するもの）であること（c時短遊技状態に移行する遊技条件）、大当たり抽選を実行する権利又は特図遊技を実行する権利の保留数の更新する遊技条件、大当たり遊技又は小当たり遊技において開放される大入賞口（可変入賞口）への遊技球の入球、大当たり遊技又は小当たり遊技において開放される大入賞口（可変入賞口）のV入賞口への遊技球の入球、普図当たり抽選の実行（普図当たり乱数カウンタ値を取得）する遊技条件（普図遊技を実行する遊技条件）、普図当たり抽選の結果が所定結果（取得した普図当たり乱数カウンタ値が所定結果に対応するもの）であること（普図当たり遊技を実行する遊技条件又は普図当たり遊技を実行しない遊技条件）、普図当たり抽選の結果が当たり（取得した普図当たり乱数カウンタ値が当たりに対応するもの）であること（大当たり遊技を実行する遊技条件）、普図当たり抽選の結果が外れ当たり（取得した普図当たり乱数カウンタ値が外れに対応するもの）であること（普図当たりを実行しない遊技条件）、普図当たり抽選を実行する権利又は特図遊技を実行する権利の保留数の更新、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3469】

特定の特典結果は、受入可能状態とされた所定の入球部に遊技球が入球することに基づいて所定の遊技条件が成立した場合に導出可能な遊技結果であればよい。特定の特典結果としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば所定の遊技条件が成立したことに對する明示又は示唆、所定の遊技条件が成立したことに基づく表示手段での特定表示、所定の遊技条件が成立したことに基づく図柄変動表示手段での特定図柄の停止表示、所定の遊技条件が成立したことに基づく特別図柄変動表示手段での特定図柄の停止表示、大当たり抽選の結果が大当たりであることに基づく図柄変動表示手段での大当たり図柄の停止表示、大当たり抽選の結果が小当たりであることに基づく図柄変動表示手段での小当たり図柄

10

20

30

40

50

の停止表示、大当たり抽選の結果が外れであることに基づく図柄変動表示手段での外れ図柄の停止表示、大当たり抽選の結果が時短図柄停止（c 時短遊技状態への移行）であることに基づく図柄変動表示手段での時短図柄の停止表示、所定の遊技条件が成立したことに基づく飾り図柄変動表示手段での特定図柄の停止表示、所定の遊技条件が成立したことに基づく普通図柄変動表示手段での特定図柄の停止表示、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることに基づく普通図柄変動表示手段での普図当たり図柄の停止表示、普図当たり抽選の結果が外れであることに基づく普通図柄変動表示手段での外れ図柄の停止表示、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3470】

特定遊技状態は、所定の遊技結果が導出されることに基づいて実行される遊技状態であればよい。特定遊技状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば通常遊技状態、時短遊技状態（a 時短遊技状態、b 時短遊技状態、c 時短遊技状態）、確変遊技状態、所定の入球部が電動役物により開閉される遊技状態、所定の入球部が普通電動役物により開閉可能な遊技状態、普通電動役物による所定の入球部の開放状態、普通電動役物による所定の入球部の長開放状態（例えば所定の入球部に遊技球が入球可能な開放状態）、普通電動役物による所定の入球部の短開放状態（例えば所定の入球部に遊技球が入球不能又は困難な開放状態）、普通電動役物による所定の入球部の閉鎖状態、振分機能部への遊技球の受入可能状態、振分機能部への遊技球の受入不能状態、所定の入球部が特別電動役物により開閉可能な遊技状態、所定の入球部が非電動役物により開閉可能な遊技状態、大当たり遊技状態、大当たり遊技状態における開閉実行モードの実行状態、大当たり遊技状態における各ラウンド遊技の実行状態、大当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入可能状態、大当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入不能状態、小当たり遊技状態、小当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入可能状態、小当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入不能状態、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3471】

切替条件は、特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される所定の遊技状態において成立することに基づいて所定の遊技状態を終了させる終了条件であればよい。切替条件としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば通常遊技状態の終了条件、時短遊技状態（a 時短遊技状態、b 時短遊技状態、c 時短遊技状態）の終了条件、確変遊技状態の終了条件、所定の入球部が電動役物により開閉される遊技状態の終了条件、所定の入球部が普通電動役物により開閉可能な遊技状態の終了条件、普通電動役物による所定の入球部の開放状態の終了条件、普通電動役物による所定の入球部の長開放状態（例えば所定の入球部に遊技球が入球可能な開放状態）の終了条件、普通電動役物による所定の入球部の短開放状態（例えば所定の入球部に遊技球が入球不能又は困難な開放状態）の終了条件、普通電動役物による所定の入球部の閉鎖状態の終了条件、振分機能部への遊技球の受入可能状態の終了条件、振分機能部への遊技球の受入不能状態の終了条件、所定の入球部が特別電動役物により開閉可能な遊技状態の終了条件、所定の入球部が非電動役物により開閉可能な遊技状態の終了条件、大当たり遊技状態の終了条件、大当たり遊技状態における開閉実行モードの実行状態の終了条件、大当たり遊技状態における各ラウンド遊技の実行状態の終了条件、大当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入可能状態の終了条件、大当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入不能状態の終了条件、小当たり遊技状態の終了条件、小当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入可能状態の終了条件、小当たり遊技状態におけるV入賞口への遊技球の受入不能状態の終了条件、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3472】

作動手段は、所定の遊技状態において遊技球が振分機能部に入球した場合に、振分けに基づいて所定の入球部に遊技球を入球させる状態となるように所定の入球部を開放作動させる作動機能部であればよい。作動終了手段は、所定の入球部の開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する終了機能部であればよい。作動手段及び作動

終了手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技球の入球に基づいて賞球が払い出される入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球によっても賞球が払い出されない入球部（例えばスルーゲート、排出口）を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球に基づいて所定の抽選（例えば大当たり抽選、普図当たり抽選）が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口、スルーゲート）を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球によっても所定の抽選が実行されない入球部（例えば一般（普通）入賞口、排出口）を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部（例えば第1（特1）入賞口、第2（特2）入賞口）を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球に基づいて普通当たり抽選が実行される入球部（例えばスルーゲート）を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、特定遊技において入球可能状態とされる入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、大当たり遊技において入球可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））を開放作動させる作動機能部（開放制御）及び開放作動を終了させる終了機能部（閉鎖処理）、大当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態又は時短遊技状態を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、小当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされ、遊技球の入球に基づいて当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、普図当たり遊技において遊技球の受入可能状態とされる入球部（第2（特2）入賞口）を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、特別電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部を開放作動させる作動機能部（開放機構）作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部（閉鎖処理）、普通電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部を開放作動させる作動機能部（開放機構）及び開放作動を終了させる終了機能部（閉鎖機構）、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部を開放作動させる作動機能部（開放機構）及び開放作動を終了させる終了機能部（閉鎖機構）、非電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能であり、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球によって非電動役物を作動させる入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球に基づいて第1特図大当たり抽選が実行される入球部（第1（特1）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球に基づいて第2特図大当たり抽選が実行される入球部（第2（特2）入賞口）を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部を開閉する非電動役物を、遊技球の入球によって作動させる入球部を開放作動させる作動機能部及び開放作動を終了させる終了機能部、それらの任

10

20

30

40

50

意の組合せなどが挙げられる。

【3473】

特別条件は、所定の入球部の開放作動中に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件であればよい。特別条件としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば特定遊技において開放作動される入球部に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、大当たり遊技において開放作動される入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、大当たり遊技において開放作動され、遊技球の入球に基づいて当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態又は時短遊技状態を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、小当たり遊技において開放作動される入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、小当たり遊技において開放作動され、遊技球の入球に基づいて当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、普図当たり遊技において開放作動される入球部（第2（特2）入賞口）に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、特別電動役物によって開放作動される入球部に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、普通電動役物によって開放作動される入球部に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、非電動役物によって開放作動される入球部に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、非電動役物によって開放作動され、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、非電動役物によって開閉作動され、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部に遊技球が入球した場合に成立する特別遊技条件、遊技球の入球によって非電動役物を開放作動させる入球部に遊技球が入球すること、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部を開放作動させる非電動役物を、遊技球の入球によって開放作動させる入球部に遊技球が入球すること、遊技球の入球に基づいて第1特図大当たり抽選が実行される入球部（第1（特1）入賞口）を開放作動させる非電動役物を、遊技球の入球によって開放作動させる入球部に遊技球が入球すること、遊技球の入球に基づいて第2特図大当たり抽選が実行される入球部（第2（特2）入賞口）を開放作動させる非電動役物を、遊技球の入球によって開放作動させる入球部に遊技球が入球すること、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3474】

特別遊技状態は、開放作動中の所定の入球部に遊技球が入球した場合に発生される遊技者に有利な特別遊技であればよい。特別遊技状態としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば各種遊技状態において開放作動される入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、大当たり遊技において開放作動される入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、大当たり遊技において開放作動され、遊技球の入球に基づいて当該大当たり遊技の終了後に確変遊技状態又は時短遊技状態を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技（時短遊技又は確変遊技）、小当たり遊技において開放作動される入球部（例えば大入賞口（可変入賞口））に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、小当たり遊技において開放作動され、遊技球の入球に基づいて当該小当たり遊技の終了後に大当たり遊技を発生させる入球部（例えば、いわゆるV入賞口）に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技（例えば、いわゆるV入賞大当たり遊技、当該入賞大当たり遊技の開閉実行モード）、普図当たり遊技において開放作動される入球部（第2（特2）入賞口）に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、電動役物によって遊技球の受入可能状態と受入不能状態とに可変可能な入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、特別電動役物によって開放作動される入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、普通電動役物によって開放作動される入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、非電動役物によって開放作動される入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、非電動役物によって開放作動され、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行され

る入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、非電動役物によって開閉作動され、遊技球の入球に基づいて小当たり抽選が実行される入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、遊技球の入球によって非電動役物を開放作動させる入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、遊技球の入球に基づいて大当たり抽選が実行される入球部を開放作動させる非電動役物を、遊技球の入球によって開放作動させる入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、遊技球の入球に基づいて第1特図大当たり抽選が実行される入球部（第1（特1）入賞口）を開放作動させる非電動役物を、遊技球の入球によって開放作動させる入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、遊技球の入球に基づいて第2特図大当たり抽選が実行される入球部（第2（特2）入賞口）を開放作動させる非電動役物を、遊技球の入球によって開放作動させる入球部に遊技球が入球した場合に発生される特別遊技、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【3475】

有利遊技状態は、特別条件が成立することに基づく特別遊技状態を複数回実行する場合に、当該複数回の特別遊技状態を一連とする有利遊技であればよい。特定演出表示は、複数回の特別遊技状態を実行する場合に当該複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態として演出表示する有利演出であればよい。有利遊技状態及び特定演出表示としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば複数回の特別遊技状態のみからなる一連の有利遊技、及び当該一連の有利遊技として演出表示する有利演出、複数回の大当たり遊技状態のみからなる一連の有利遊技、及び当該一連の有利遊技として演出表示する有利演出、複数回の特別遊技状態の他に遊技状態を含む一連の有利遊技、及び当該一連の有利遊技として演出表示する有利演出、複数回の大当たり遊技状態の他に小当たり遊技状態を含む一連の有利遊技、及び当該一連の有利遊技として演出表示する有利演出、複数回の大当たり遊技状態の他に時短遊技状態での特図遊技が実行される遊技状態を含む一連の有利遊技、及び当該一連の有利遊技として演出表示する有利演出、複数回の大当たり遊技状態の他に時短遊技状態での特図遊技及び時短遊技状態での特図遊技が実行される権利の保留（いわゆる残保留）に対する特図遊技が実行される遊技状態を含む一連の有利遊技（疑似大当たり遊技状態）、及び当該一連の有利遊技として演出表示する有利演出（疑似大当たり遊技演出（表示））、複数回の大当たり遊技状態の他に確変遊技状態を含む一連の有利遊技、及び当該一連の有利遊技として演出表示する有利演出、複数回の大当たり遊技状態の他に確変遊技状態での特図遊技が実行される遊技状態及び確変遊技状態での特図遊技が実行される権利の保留（いわゆる残保留）に対する特図遊技が実行される遊技状態を含む一連の有利遊技、及び当該一連の有利遊技として演出表示する有利演出、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

20

30

【3476】

ところで、パチンコ遊技機では、所定の入賞口への遊技球の入賞を契機として、多くの遊技球の獲得が可能で遊技者に有利な大当たり遊技が実行され得る。例えば、大当たり遊技は、所定の入賞口（特1入賞口、特2入賞口）への遊技球の入球に基づいて実行される大当たり抽選の結果が大当たりである場合に実行され、また、所定の入賞口への遊技球の入球に基づいて実行される大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行され小当たり遊技において、所定の入賞口（いわゆるV入賞口）に遊技球が入球される場合に実行される。

40

【3477】

ここで、1回の大当たり遊技で得られる最大球数（上限球数）は、法律や規則、抽選確率などによって決定される。現行では、例えば、当たり確率が低い1／300程度のいわゆるミドルスペックの遊技機では、1回の大当たり遊技での最大球数が1500球であり、多くのミドルスペックの遊技機の最大球数は、1000球～1500球の範囲に設定されている。

50

【3478】

しかしながら、従前の遊技機では、1回の大当たり遊技での最大球数が2400球であった。現行の遊技機では、1回の大当たり遊技での最大球数が、当たり確率が低いミドルスペックの遊技機ですら、1回の大当たり遊技での最大球数は多くても1500球と従前の遊技機に比べて少ない。そのため、現行の遊技機は、大当たり遊技での出玉感のインパクトに欠ける結果、大当たり遊技が実行された場合に遊技者を十分に満足させることができないことが懸念される。

【3479】

これに対して、本発明では、例えば所定遊技状態中に第1の入球手段に遊技球が入球することに基づいて所定条件が成立した場合に少なくとも特定の特典結果が導出されることに基づいて特定遊技状態が実行され、この特定遊技状態において第2の入球手段に遊技球が入球した場合、特別条件が成立することに基づいて、複数回の特別遊技状態が実行される一連の有利遊技状態を発生可能である。これにより、所定遊技状態での所定条件の成立による特定遊技状態の発生、特定遊技状態での特別条件の成立による複数回の特別遊技状態が実行される一連の有利遊技状態を発生という、新規な遊技性を実現できるため、遊技の興趣が向上される。

【3480】

また、本発明では、例えば特別遊技状態を複数回実行する場合の一連の有利遊技状態として演出表示する特定演出表示としての特定の演出画像が、第1の特別遊技状態と、第1の特別遊技状態と第2の特別遊技状態との間と、第2の特別遊技状態と、の間で継続して表示される。そのため、一連の有利遊技状態において複数回の特別遊技状態が発生しているにも関わらず、特定演出表示によって一連の有利遊技状態であるかのような演出表示が実行される。そして、遊技者に付与される利益（例えば出玉）は、1回の特別遊技状態の発生に比べて、複数回の特別遊技状態が発生した場合のほうが大きい。その結果、複数回の特別遊技状態発生する一連の有利遊技状態において特定演出表示が実行されることによって、一連の有利遊技状態で多くの利益が得られた印象を遊技者に与えることで、遊技者に満足感を与えることが可能になる。これにより、1回の特別遊技状態の発生によって得られる利益が制限される場合であっても、遊技者に、利益についての満足感を与えることができるため、遊技への興味や興趣の低下が防止される。

【3481】

より具体的には、本実施形態では、例えば所定遊技状態としてのa時短遊技状態中に第1の入球手段としての第1入賞口391に遊技球が入球することに基づいて所定条件の成立としてc時短移行図柄が停止した場合に少なくとも特定の特典結果としてc時短遊技状態への移行が導出されることに基づいて特定遊技状態としての第2の入球手段としての第2入賞口315の開放状態（又はc時短遊技状態）が実行され、この第2入賞口315の開放状態（又はc時短遊技状態）において第2入賞口315に遊技球が入球した場合、特別条件の成立としてのV入賞口383への遊技球の入球に基づいて、特別遊技状態としてのV入賞口大当たり遊技が複数回実行される一連の有利遊技状態としての疑似大当たり遊技状態を発生可能である。これにより、a時短遊技状態でのc時短移行図柄が停止の成立による第2入賞口315の開放状態（又はc時短遊技状態）の発生、第2入賞口315の開放状態（又はc時短遊技状態）を契機とするV入賞口383への遊技球の入球に基づいて複数回のV入賞口大当たり遊技が実行される疑似大当たり遊技状態の発生という、新規な遊技性を実現できるため、遊技の興趣が向上される。

【3482】

また、本実施形態では、例えば疑似大当たり遊技状態において特定演出表示として疑似大当たり遊技演出（表示）が実行される。そのため、疑似大当たり遊技状態において複数回のV入賞口大当たり遊技が発生しているにも関わらず、疑似大当たり遊技演出（表示）によって1回のV入賞口大当たり遊技が実行されているかのような演出表示が実行される。そして、遊技者に付与される賞球（出玉）は、1回のV入賞口大当たり遊技に比べて、複数回のV入賞口大当たり遊技が発生した場合のほうが大きい。その結果、複数回のV入

賞口大当たり遊技が発生する疑似大当たり遊技状態において疑似大当たり遊技演出（表示）が実行することによって、1回のV入賞口大当たり遊技で多くの利益が得られた印象を遊技者に与えることで、遊技者に満足感を与えることが可能になる。これにより、1回のV入賞口大当たり遊技によって得られる最大獲得出玉が制限される場合であっても、遊技者に、V入賞口大当たり遊技が発生した場合の最大獲得出玉についての満足感を与えることができるため、遊技への興味や興味の低下が防止される。

【3483】

以下、本実施形態について、図255～図293を参照して前述の第1の実施形態との相違点を中心に説明する。但し、本実施形態において重要な事項については、前述の第1の実施形態において既に説明している場合であっても改めて説明することがある。

10

【3484】

本遊技機は、本発明の具体的な構成として、発射手段としての「発射機構」を備え、また所定流路としての「遊技球流路」を備え、また受入許可状態としての「受入可能状態」を備え、また受入非許可状態としての「受入不能状態」を備え、また第1の入球手段としての「入球部」を備え、また第2の入球手段としての「入球部」を備え、また入球振分手段としての「振分機能部」を備え、また所定遊技状態としての「遊技状態」を備え、また所定条件としての「遊技条件」を備え、また特定の特典結果としての「遊技結果」を備え、また特定遊技状態としての「遊技状態」を備え、また切替条件としての「終了条件」を備え、また作動手段としての「作動機能部」を備え、また作動終了手段としての「終了機能部」を備え、また特別条件としての「特別遊技条件」を備え、また特別遊技状態としての「特別遊技」を備え、また有利遊技状態としての「有利遊技」を備え、また特定演出表示としての「有利演出」を備える。

20

【3485】

〔遊技機10の構成〕

まず、図255～図259を参照しつつ遊技機10の構成について説明する。ここで、図255は本実施形態に係る遊技機10の遊技盤31の一例を示す正面図である。

【3486】

〔内枠12の構成〕

図2及び図3に示すように、内枠12は、発射手段としての遊技球発射機構32、遊技球が流下可能な遊技領域が設定される遊技盤31などを備える。

30

【3487】

図2に示すように、遊技球発射機構32は、発射レール321、球送り装置322、及びソレノイド323を備える。発射レール321は、遊技球発射機構32から遊技盤31の内レール311及び外レール312に向けて形成されており、遊技球発射機構32から発射される遊技球を内レール311及び外レール312に導くものである。球送り装置322は、ソレノイドなどの駆動手段を有しており、上皿23に貯留されている遊技球を1球ずつ発射レール321上に供給する。ソレノイド323は、発射レール321上に供給された遊技球を内レール311及び外レール312に向けて発射させる駆動手段である。そして、遊技機10では、遊技者により発射ハンドル22に対する発射操作がなされている状況では、遊技者による発射ハンドル22の操作に応じてソレノイド323が駆動制御され、0.6secに1個の遊技球が遊技領域に向けて発射される。なお、遊技球発射機構32は、ソレノイド323に代えてモーターなどの他の駆動手段を用いて遊技球を発射させる機構であってもよい。

40

【3488】

図255に示すように、遊技盤31には、内レール311と、外レール312と、入球部としての一般入賞口313と、入球部としての入球センサ314aが設けられた左打ち用の第1入賞口314と、入球部としての入球センサ391aが設けられた右打ち用の第1入賞口391及び入球センサ315aが設けられた第2入賞口315と、振分機能部としての入球振分装置37と、特別遊技としての小当たり遊技及び大当たり遊技において作動されるV入賞口付きの可変入賞装置38と、入球部としての入球センサ317aが設け

50

られたスルーゲート 3 1 7 と、入球部としてのアウト口 3 1 8 と、可変表示ユニット 3 4 (図柄表示部 3 4 1) と、メイン表示部 3 6 とが設けられている。

【3 4 8 9】

内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 は、遊技者による発射ハンドル 2 2 に対する発射操作がなされた場合に発射された遊技球を、遊技盤 3 1 の盤面上の遊技領域に向けて送り出すための搬送路である。つまり、遊技者は、発射ハンドル 2 2 に対する発射操作に応じて、遊技盤 3 1 の左側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる左打ちと、遊技盤 3 1 の右側領域に遊技球を打ち出す、いわゆる右打ち、とを使い分けることができる。

【3 4 9 0】

ここで、遊技盤 3 1 の右側領域には、4 つの流路規制部 3 5 A ~ 3 5 D が設けられ、これらの流路規制部 3 5 A ~ 3 5 D によって遊技球流路として、第 1 ルート 3 5 1、第 2 ルート 3 5 2 及び第 3 ルート 3 5 3 が規定されている。つまり、右打ちにより遊技盤 3 1 の右側領域に発射された右打ちルートの遊技球は、遊技盤 3 1 の右側領域において振り分けられ、第 1 ルート 3 5 1、第 2 ルート 3 5 2 及び第 3 ルート 3 5 3 のいずれかの遊技球流路を流下する。

【3 4 9 1】

第 1 ルート 3 5 1 は、入球振分装置 3 7 に遊技球が入球可能な遊技球流路である。第 2 ルート 3 5 2 は、入球振分装置 3 7 及び可変入賞装置 3 8 に遊技球が入球可能な遊技球流路である。第 3 ルート 3 5 3 は、第 1 入賞口 3 9 1、第 2 入賞口 3 1 5、スルーゲート 3 1 7、入球振分装置 3 7 及び可変入賞装置 3 8 に遊技球が入球可能な遊技球流路である。

【3 4 9 2】

そして、遊技者による発射ハンドル 2 2 に対する発射操作によって左打ちが実行された場合、内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 から発射された遊技球は、遊技領域の左側領域に設けられる左打ちルートの遊技球流路を流下し、一般入賞口 3 1 3 又は第 1 入賞口 3 1 4 に入球可能である。一方、遊技者による発射ハンドル 2 2 に対する発射操作によって右打ちが実行された場合、内レール 3 1 1 及び外レール 3 1 2 から右ルートに発射された遊技球は遊技球流路を流下し、入球部としての第 1 入賞口 3 9 1、入球部としての第 2 入賞口 3 1 5、入球部としてのスルーゲート 3 1 7、普図当たり遊技において作動される振分機能部としての入球振分装置 3 7、小当たり遊技及び大当たり遊技において作動される入球部としての V 入賞口付き可変入賞装置 3 8、又は入球部としての可変入賞口 3 8 1 を備える可変入賞装置 3 8 に入球可能である。

【3 4 9 3】

スルーゲート 3 1 7 は、入球センサ 3 1 7 a が設けられた入球部であり、遊技球流路としての第 3 ルート 3 5 3 を流下した遊技球を受け入れ可能な位置に設けられている。スルーゲート 3 1 7 に遊技球が入球された場合、即ち入球センサ 3 1 7 a によって遊技球の入球が検知されたことを契機として取得される普図当たり乱数カウンタ C 4 の値に基づいて、特別遊技としての普図当たり遊技を発生させるか否かの振り分けを行う普図当たり抽選が振分機能部によって実行され、遊技条件としての普図当たり抽選の結果の当たりが成立して遊技結果としての普図当たり図柄が停止表示される場合には、後述のように入球振分装置 3 7 が作動される普図当たり遊技が実行される遊技状態が発生される。

【3 4 9 4】

右打ち用の第 1 入賞口 3 9 1 は、遊技球の入球を契機として特別遊技としての特図大当たり遊技（開閉実行モード）を実行するか否かの大当たり抽選を振分機能部によって実行するものであり、第 3 ルート 3 5 3 を流下した遊技球を受け入れ可能な位置に設けられている。この第 1 入賞口 3 9 1 には、第 1 開閉部材 3 9 A が設けられており、作動機能部によって第 1 開閉部材 3 9 A が動作されることによって第 1 入賞口 3 9 1 が開閉される。ここで、図 2 5 6 (A) 及び図 2 5 6 (B) は、第 1 入賞口 3 9 1 及び第 1 開閉部材 3 9 A を説明するための図である。

【3 4 9 5】

図 2 5 6 (A) 及び図 2 5 6 (B) に示すように、第 1 開閉部材 3 9 A は、非電動役物

10

20

30

40

50

に採用されている公知のリンク機構等の機械的機構によって、先端部が時計回り方向及び反時計回り方向に回動可能な非電動役物である。第1開閉部材39Aは、後述の入球振分装置37の第1非電作動口371に遊技球が入球した場合に、作動機能部によって待機位置から作動位置まで反時計回り方向に回動されるように構成されている。第1開閉部材39Aが作動位置にある場合、入球部としての第1入賞口391が開放される。また、第1開閉部材39Aの作動位置は、第3ルート353を塞ぐ位置である。そのため、第1開閉部材39Aは、作動位置にある場合に第1入賞口391に遊技球を誘導可能である。つまり、第1入賞口391は、第1非電作動口371への遊技球の入球に基づき第1開閉部材39Aが作動機能部によって作動されることにより開放されることで、第3ルート353を流下した遊技球を受け入れ可能な受入可能状態とされる。

10

【3496】

一方、第1開閉部材39Aは、受入可能状態とされた第1入賞口391に1個の遊技球が入球することで終了条件が成立する場合に、作動終了部によって作動位置から待機位置まで時計回り方向に回動されるように構成されている。第1開閉部材39Aが待機位置にある場合、入球部としての第1入賞口391が閉鎖される。また、第1開閉部材39Aの待機位置は、第3ルート353での遊技球の流下を阻害しない位置である。そのため、第1開閉部材39Aは、待機位置にある場合には、第3ルート353を流下する遊技球を第1入賞口391に遊技球を誘導不能である。つまり、第1入賞口391は、第1非電作動口371への1個の遊技球の入球によって終了条件が成立して第1開閉部材39Aが復帰されることにより閉鎖されることで、第3ルート353を流下した遊技球を受け入れ不能な受入不能状態とされる。

20

【3497】

また、第1入賞口391には、入球センサ391aが設けられており、この入球センサ391aによって第1入賞口391に遊技球が入球したことが検知可能である。そして、MPU41は、入球センサ391aによって遊技球の入球が検知されたことを契機として取得される大当たり乱数カウンタC1の値に基づいて、特別遊技としての特図大当たり遊技（開閉実行モード）を発生させるか否かの振り分けを行う大当たり抽選を振分機能部によって実行する。

【3498】

図255に示すように、第2入賞口315は、遊技球の入球を契機として特別遊技としての特図大当たり遊技を実行するか否かの大当たり抽選を振分機能部によって実行するものであり、第1入賞口391よりも上方において、第3ルート353を流下した遊技球を受け入れ可能な位置に設けられている。この第2入賞口315には、第2開閉部材39Bが設けられており、作動機能部によって第2開閉部材39Bが動作されることによって第2入賞口315が開閉される。ここで、図256（C）～図256（E）は、第2入賞口315及び第2開閉部材39Bを説明するための図である。

30

【3499】

図256（C）～図256（E）に示すように、第2開閉部材39Bは、非電動役物に採用されている公知のリンク機構等の機械的機構によって、前後方向に移動可能な非電動役物である。第2開閉部材39Bは、全体が板状であり、前後方向の先端部から中央部に設けられた遊技球を移動させるスリット状の貫通部39B1と、前後方向の後端側に設けられた遊技球を落下させる円形状の貫通部39B2と、を備える。第2開閉部材39Bは、スリット状の貫通部39B1によって遊技球を後方側に誘導し、円形状の貫通部39B2によって遊技球を下方に誘導可能である。

40

【3500】

第2開閉部材39Bは、後述の振分機能部としての入球振分装置37の入球部としての第2非電作動口372に遊技球が入球した場合に、作動機能部によって待機位置から作動位置まで前方向に移動されるように構成されている。第2開閉部材39Bが作動位置にある場合、入球部としての第2入賞口315が開放される。また、第2開閉部材39Bの作動位置は、第3ルート353を塞ぐ位置である。そのため、第2開閉部材39Bは、作動

50

位置にある場合に第2入賞口315に遊技球を誘導可能である。つまり、第2入賞口315は、第2非電作動口372への遊技球の入球によって第2開閉部材39Bが作動機能部によって作動されることにより開放されることで、第3ルート353を流下した遊技球を受け入れ可能な受入可能状態とされる。

【3501】

一方、第2開閉部材39Bは、受入可能状態とされた第2入賞口315に4個の遊技球が入球することで終了条件が成立する場合に、した場合に、作動終了部によって作動位置から待機位置まで後方向に移動されるように構成されている。第2開閉部材39Bが待機位置にある場合、入球部としての第2入賞口315が閉鎖される。また、第2開閉部材39Bの待機位置は、第3ルート353での遊技球の流下を阻害しない位置である。そのため、第2開閉部材39Bは、待機位置にある場合には、第3ルート353を流下する遊技球を第2入賞口315に遊技球を誘導不能である。つまり、第2入賞口315は、第2非電作動口372への4個の遊技球の入球によって終了条件が成立して第2開閉部材39Bが復帰されることにより閉鎖されることで、第3ルート353を流下した遊技球を受け入れ不能な受入不能状態とされる。

【3502】

また、第2入賞口315には、入球センサ315aが設けられており、この入球センサ315aによって第2入賞口315に遊技球が入球したことが検知可能である。そして、MPU41は、入球センサ315aによって遊技球の入球が検知されたことを契機として取得される大当たり乱数カウンタC1の値に基づいて、特別遊技としての特図大当たり遊技（開閉実行モード）を発生させるか否かの振り分けを行う大当たり抽選を振分機能部によって実行する。

【3503】

ここで、本実施形態では、第1開閉部材39Aが1個の遊技球の入球により終了条件が成立することで復帰され、第2開閉部材39Bが4個の遊技球の入球により終了条件が成立することで復帰される。即ち、本実施形態では、入球部としての第1入賞口391が受入不能状態となる第1入賞口391への遊技球の上限入球個数より、入球部としての第2入賞口315が受入不能状態となる第2入賞口315への遊技球の上限入球個数が多く設定されている。これにより、第1入賞口391の一度の受入可能状態での第1入賞口391への入球数よりも、第2入賞口315の一度の開閉動作による第2入賞口315への入球のほうが多くなる。その結果、遊技状態が通常遊技状態である場合の遊技結果としてのc時短遊技状態への移行期待度が低くなるために、第2入賞口315への遊技球の入球によって高確率で、小当たり遊技状態を契機とする遊技者に有利な特別遊技としてのV入賞大当たり遊技状態が実行される遊技状態としてのc時短遊技状態が発生し難い一方で、c時短遊技状態が発生した場合に第2入賞口315への遊技球の入球によって複数回のV入賞大当たり遊技状態が発生され得る。つまり、通常遊技状態からc時短遊技状態に移行され難い反面、c時短遊技状態に移行された場合にV入賞大当たり遊技状態の発生によって遊技者が多くの利益を獲得可能な遊技性が付与されるため、遊技の興趣が向上される。

【3504】

なお、本実施形態では、第1開閉部材39Aが前後移動可能であるのに対して、第2開閉部材39Bが時計回り方向及び反時計回り方向に回動可能であるが、第1開閉部材39Aと第2開閉部材39Bとを同様な態様に動作するものとして構成してもよい。

【3505】

また、本実施形態では、第1入賞口391が1個の遊技球の入球により閉鎖され、第2入賞口315が4個の遊技球の入球により閉鎖されるが、第1入賞口391及び第2入賞口391が閉鎖される上限入球数は適宜変更可能であり、第1入賞口391が閉鎖される上限入球数と、第2入賞口391が閉鎖される上限入球数が同数であってもよい。もちろん、第1開閉部材39A及び第2開閉部材39Bは、非電動役物ではなく電動役物として構成してもよい。

【3506】

〔入球振分装置 37〕

本実施形態に係る遊技機 10 は、非電動役物である第 1 開閉部材 39 A により開閉される第 1 入賞口 39 1 と、非電動役物である第 2 開閉部材 39 B により開閉される第 2 入賞口 31 5 とを備えているため、前述の第 1 の実施形態とは異なり、第 1 開閉部材 39 A を作動させる入球部としての第 1 非電作動口 37 1 と、第 2 開閉部材 39 B を作動させる入球部としての第 2 非電作動口 37 2 を有する振分機能部としての入球振分装置 37 を備える。ここで、図 257 は、本実施形態に係る遊技機 10 の入球振分装置 37 を示す図である。

〔3507〕

入球振分装置 37 は、第 1 入賞口 39 1 を開閉する第 1 開閉部材 39 A、及び第 2 入賞口 31 5 を開閉する第 2 開閉部材 39 B のいずれを待機位置から作動位置に作動させるかを振り分けものであり、普図当たり抽選の結果が当たりで遊技条件が成立する場合に作動される。この入球振分装置 37 は、右打ちされた右打ちルートを流下する遊技球のうち、遊技球流路としての第 2 ルート 35 2 又は第 3 ルート 35 3 を流下する遊技球が入球可能である（図 255 参照）。入球振分装置 37 は、前述の第 1 非電作動口 37 1 及び第 2 非電作動口 37 2 の他、電動役物 37 3、可動振分部材 37 4、可動振分部材 37 4 及び固定振分部材 37 5 を備える。

〔3508〕

電動役物 37 3 は、ソレノイド（不図示）等の作動機能部及び終了機能部としての駆動手段によって動作可能であり、入球振分装置 37 への遊技球の入球の制限する受入不能状態としての閉鎖状態（図 257（A）参照）と、入球振分装置 37 への遊技球の入球の許容する受入可能状態としての開放状態（図 257（B）及び図 257（C）参照）とに可変可能な振分機能部である。この電動役物 37 3 は、スルーゲート 317 に遊技球が入球された場合に実行される普図当たり抽選の結果が当たりであることに基づいて遊技条件が成立する場合に実行される普図当たり遊技において作動機能部によって開放状態とされ、入球振分装置 37 への遊技球の入球を許容する受入可能状態とされる。また、電動役物 37 3 の間には、入球センサ 37 a が設けられており、この入球センサ 37 a によって入球振分装置 37 への遊技球の入球が検知可能である。電動役物 37 3 は、入球センサ 37 a によって入球振分装置 37 への遊技球の入球が検知された場合に終了条件の成立により作動終了部によって閉鎖状態とされ、入球振分装置 37 への遊技球の入球を制限する受入不能状態とされる。つまり、入球振分装置 37 は、入球部としてのスルーゲート 317 への遊技球の入球を契機として普図当たり遊技が実行されるごとに、電動役物 37 3 の開閉によって、1 球の遊技球の入球が可能である。

〔3509〕

第 1 非電作動口 37 1 及び第 2 非電作動口 37 2 には、電動役物 37 3 の開放状態において入球振分装置 37 に入球した遊技球が入球可能である（図 257（B）及び図 257（C）参照）。第 1 非電作動口 37 1 及び第 2 非電作動口 37 2 は、電動役物 37 3 よりも下方において左右方向に隙間を介して配置されている。

〔3510〕

第 1 非電作動口 37 1 は、遊技球の入球に基づいて、第 1 入賞口 39 1 を開閉する非電動役物である第 1 開閉部材 39 A を、作動機能部としての公知のリンク機構等の機械的機構によって待機位置から作動位置に作動させ、第 1 入賞口 39 1 を受入可能状態とする。一方、第 2 非電作動口 37 2 は、遊技球の入球に基づいて、第 2 入賞口 31 5 を開閉する非電動役物である第 2 開閉部材 39 B を、作動機能部としての公知のリンク機構等の機械的機構によって待機位置から作動位置に作動させ、第 2 入賞口 31 5 を受入可能状態とする。

〔3511〕

可動振分部材 37 4 は、ソレノイド（不図示）等の作動機能部及び終了機能部としての駆動手段によって動作可能な振分機能部であり、入球振分装置 37 の上下方向において、電動役物 37 3 と、第 1 非電作動口 37 1 及び第 2 非電作動口 37 2 と、の間に配置され

10

20

30

40

50

ている。この可動振分部材 374 は、入球振分装置 37 に入球した遊技球を第 1 非電作動口 371 に向けて誘導可能で第 2 非電作動口 372 に向けて誘導不能な振分状態（図 257（B）参照）と、入球振分装置 37 に入球した遊技球を第 2 非電作動口 372 に向けて誘導可能で第 1 非電作動口 371 に向けて誘導不能な振分状態（図 257（C）参照）とに可変可能である。

【3512】

固定振分部材 375 は、入球振分装置 37 に入球して第 1 非電作動口 371 に向けて流下する遊技球を、第 1 非電作動口 371 に入球させる方向と、第 1 非電作動口 371 に入球させない方向とに振り分ける振分機能部であり、第 1 非電作動口 371 と第 2 非電作動口 372 との隙間よりもやや上方かつ第 1 非電作動口 371 より位置に配置されている。つまり、入球振分装置 37 に入球して第 1 非電作動口 371 に向けて流下する遊技球は、一部が第 1 非電作動口 371 に入球する一方で、残りの一部が第 1 非電作動口 371 の右側を流下して入球振分装置 37 の下方に排出される。その結果、入球振分装置 37 に入球して第 1 非電作動口 371 に向けて流下する遊技球は、100%の確率で第 1 非電作動口 371 に入球するのではなく、一定の割合で第 1 非電作動口 371 に入球される。

【3513】

これに対して、入球振分装置 37 に入球して第 2 非電作動口 372 に向けて流下する遊技球は、100%の確率で第 2 非電作動口 372 に入球する。

【3514】

ここで、可動振分部材 374 は、普図当たり遊技が開始されたときの遊技状態が、大当たり抽選の結果が遊技条件としての「c 時短移行」であることを契機として移行される後述の c 時短遊技状態である場合にのみ、作動機能部によって、入球振分装置 37 に入球した遊技球を第 2 非電作動口 372 に向けて誘導可能で第 1 非電作動口 371 に向けて誘導不能な振分状態（図 257（C）参照）とされる。つまり、第 2 非電作動口 372 は、遊技状態が c 時短遊技状態に移行した場合のみ開放されるため、第 2 非電作動口 372 に遊技球が入球することに基づく恩恵（利益）を遊技状態が c 時短遊技状態に移行することを条件に受けることができる。

【3515】

具体的には、本実施形態では、入球部としての第 2 非電作動口 372 に遊技球が入球した場合、第 2 入賞口 315 が 4 個の遊技球が入球されるまで受入可能状態とされる。また、第 2 入賞口 315 に 4 個の遊技球が入球された場合、後述のように、特 2 大当たり当否テーブル（図 263（C）参照）に基づいて振分機能部によって大当たり抽選が実行される。この特 2 大当たり当否テーブルでは、遊技条件としての大当たり抽選の結果が小当たりとなる乱数値が約 $2/3$ であり、大当たり抽選の結果が小当たりとなって遊技結果として小当たり図柄が停止表示された後に小当たり遊技が実行される。小当たり遊技では、可変入賞装置 38 の入球部としての V 入賞口 383 が開放されるために特別遊技としての V 入賞大当たり遊技（開閉実行モード）を発生させる特別遊技条件としての V 入賞口 383 への遊技球の入球が成立し易い。しかも、第 2 入賞口 315 は、4 個の遊技球が入球されるまで受入可能状態とされるため、特別遊技としての V 入賞大当たり遊技が短時間で複数回（最大で 4 回）実行され得る一連の有利遊技となり得る。そのため、遊技者は、遊技状態が c 時短遊技状態に移行した場合に、特別遊技としての大当たり遊技が短時間で複数回（最大で 4 回）実行され得る一連の有利遊技が発生する恩恵（利益）を受けることができる。

【3516】

〔可変入賞装置 38〕

本実施形態に係る遊技機 10 は、前述の第 1 の実施形態とは異なり、ループ確変機ではなく 1 種 2 種混合機として構成されており、大当たり遊技及び小当たり遊技において作動される 1 つの可変入賞装置 38 を備える点で、前述の第 1 の実施形態とは異なる。ここで、図 258 及び図 259 は、本実施形態に係る遊技機 10 の可変入賞装置 38 を示す図である。

10

20

30

40

50

【3517】

図258及び図259に示すように、可変入賞装置38は、可変入賞口381、開閉扉382、V入賞口383、通常入賞口384、及びV入賞口開閉扉385を備える。

【3518】

可変入賞口381は、遊技盤31の前面側に開放しており、遊技球が入球可能な入球部である。開閉扉382は、図258(C)及び図258(D)に示す可変入賞口381に遊技球が入球不能な受入不能状態と、図259(A)～図258(C)に示す可変入賞口381に遊技球が入球可能な受入可能状態とを切り替える振分機能部である。

【3519】

図259(A)に示すように、振分機能部としてのV入賞口開閉扉385が作動機能部によって作動されることで入球部としてのV入賞口383が遊技球の入球が可能な受入可能状態とされる場合に、V入賞口383には、可変入賞口381から入球された遊技球の入球が可能である。また、V入賞口383には、V入賞口383に遊技球が入球したことを検知可能な入球センサ383aが設けられている。

10

【3520】

図259(B)に示すように、V入賞口開閉扉385が作動機能部によって復帰されることでV入賞口383が遊技球の入球が不能な受入不能状態とされる場合に、V入賞口383には、可変入賞口381から入球された遊技球の入球が不能である一方、図259(C)に示すように、入球部としての通常入賞口384には、可変入賞口381から入球された遊技球の入球が可能である。また、通常入賞口384には、通常入賞口384に遊技球が入球したことを検知可能な入球センサ384aが設けられている。

20

【3521】

可変入賞装置38は、前述のように、大当たり遊技又は小当たり遊技において作動される。具体的には、大当たり遊技では及び小当たり遊技では、作動機能部によって開閉扉382が作動されることで入球部としての可変入賞口381に遊技球が入球可能である。また、大当たり遊技では、V入賞口開閉扉385が閉鎖されており、可変入賞口381から入球した遊技球が、入球部としての通常入賞口384にのみ入球可能である。また、大当たり遊技では、開閉扉382は、開閉扉382が作動されてから規定時間が経過するか、可変入賞口381(通常入賞口384)に上限数の遊技球が入球することで終了条件が成立する場合に終了機能部によって閉鎖される。一方、小当たり遊技では、作動機能部によってV入賞口開閉扉385が開放されるため、可変入賞口381から入球した遊技球が、通常入賞口384だけでなくV入賞口383に入球可能である。また、小当たり遊技においては、開閉扉382は、作動機能部によって開閉扉382が作動されてから規定時間が経過することで終了条件が成立する場合に終了機能部によって閉鎖される。そして、本実施形態では、作動機能部による大当たり抽選の結果が、遊技条件が成立する大当たりである場合に限らず、大当たり抽選の結果が、遊技条件が成立する小当たりである場合に実行される小当たり遊技において特別入球領域としてのV入賞口383に遊技球が入球されて特別遊技条件が成立する場合も大当たり遊技(V入賞大当たり遊技)が発生される。このように、本実施形態に係る遊技機10は、小当たり遊技において可変入賞装置38のV入賞口383に遊技球が入球した場合にV入賞大当たり遊技が発生する1種2種混合機として構成されている。

30

40

【3522】

なお、本実施形態では、大当たり遊技と小当たり遊技とで1つの可変入賞装置38が共用されるが、大当たり遊技用の可変入賞装置と小当たり遊技用の可変入賞装置とを別々に設けてもよい。

【3523】

また、本実施形態に係る遊技機10は、1種2種混合機に限らず、可変入賞装置38における特別入球領域としてのV入賞口383への遊技球の入球による特別遊技条件の成立により有利遊技が発生する、例えば大当たり確率が高くなる確変遊技状態が発生するV-ST機(V確変機)として構成することもできる。さらに、本実施形態に係る遊技機10

50

は、有利遊技の発生条件が可変入賞装置 38 の V 入賞口 383 への遊技球の入球ではない、いわゆるループ確変機や ST 機として構成することもできる。この場合、可変入賞装置 38 の V 入賞口 383 は省略することができる。

【3524】

〔遊技機 10 のシステム構成〕

次に、図 260～図 264 を参照しつつ、本実施形態の遊技機 10 のシステム構成や遊技機 10 の主制御装置 4 において使用される各種テーブル等について説明する。

【3525】

〔入球センサ〕

ここで、図 260 (A) は、遊技機 10 のシステム構成の要部の一例を示すブロック図である。図 260 (A) に示すように、遊技機 10 のシステム構成は、基本的に前述の第 1 の実施形態と同様であるが、入球センサの一部が前述の第 1 の実施形態とは異なる。具体的には、本実施形態の遊技機 10 は、第 2 入賞口 391 への遊技球の入球を検知する入球センサ 391a、入球振分装置 37 への遊技球の入球を検知する入球センサ 37a、可変入賞装置 38 の V 入賞口 383 への遊技球の入球を検知する入球センサ 383a、及び可変入賞装置 38 の通常入賞口 384 への遊技球の入球を検知する入球センサ 384a を備えている。これらの入球センサ 391a, 37a, 383a, 384a は、他の入球センサ 313a～318a と同様に主制御装置 4 の MPU 41 に接続されており、第 2 入賞口 391、入球振分装置 37、V 入賞口 383 又は通常入賞口 384 に遊技球が入球したことが、MPU 41 によって検知可能とされている。

【3526】

〔賞球数〕

ここで、図 260 (B) は、各種入球部に遊技球が入球した場合の賞球数を示す図である。図 260 (B) に示すように、一般入賞口 313、第 1 入賞口 314, 391 及び第 2 入賞口 315 への遊技球の入球に対する賞球数は 3 個であり、可変入賞装置 38 の V 入賞口 383 及び通常入賞口 384 への遊技球の入球に対する賞球数は 15 個である。

【3527】

なお、図 260 (B) に示されていない入球部（スルーゲート 317、入球振分装置 37、入球振分装置 37 の第 1 非電作動口 371 及び第 2 非電作動口 372）に遊技球が入球した場合の賞球数は 0（賞球なし）である。

【3528】

本実施形態では、特別遊技としての大当たり遊技として、後述のように 4 R 大当たり遊技及び 10 R 大当たり遊技が設定されている（図 263 (D) 参照）。また、大当たり遊技の各ラウンド遊技では、可変入賞装置 38 における入球部としての可変入賞口 381 が作動機能部により開放され、可変入賞口 381 への上限数の遊技球の入球により終了機能部によって可変入賞口 381 が閉鎖される。なお、本実施形態では、開放された可変入賞口 381 が閉鎖される可変入賞口 381 への遊技球の入球個数は、1 回の大当たり遊技において多くの出玉が獲得可能なように、他の入球部が受入不能状態から受入不能状態となる上限数（例えば普図変動保留数 X 及び第 1 特図保留数 N の 4 個、第 2 特図保留数 M の 3 個）よりも多い 10 個に設定される。そのため、本実施形態では、1 回の大当たり遊技での最大出玉数は、1500 玉に設定されている（図 263 (D) 参照）。

【3529】

〔ゲームフロー（遊技状態の移行）〕

ここで、図 261 は、本実施形態に係る遊技機 10 のゲームフロー（遊技状態の移行）を示す図である。図 261 に示すように、本実施形態では、遊技状態として、通常遊技状態、a 時短遊技状態、c 時短遊技状態、特図大当たり遊技状態、小当たり遊技状態、及び V 入賞大当たり遊技状態が設定されている。

【3530】

通常遊技状態は、遊技の進行において最も滞在し易い基本の遊技状態であり、入球部としての第 1 入賞口 391 及び第 2 入賞口 315 に遊技球が入球不能又は困難な遊技状態で

10

20

30

40

50

ある。一方、第1入賞口314へは、遊技盤31の左側領域に遊技球を打ち出す左打ちを行うことで遊技球の入球が可能である。そのため、通常遊技状態では、第1入賞口314への遊技球の入球により振分機能部による大当たり抽選を受けるのが好ましいため、左ルートの遊技球流路に遊技球を流下させるために遊技盤31の左側領域へ遊技球を打ち出す左打ちが奨励される。

【3531】

通常遊技状態へは、時短遊技状態（a時短遊技状態又はc時短遊技状態）において時短遊技状態の後述の終了条件が成立した場合に、時短遊技状態から移行される。また、通常遊技状態へは、小当たり遊技において特別入球領域としてのV入賞口383に遊技球が入球されずに小当たり遊技状態の終了条件が成立した場合にも、小当たり遊技状態から移行される。

10

【3532】

a時短遊技状態は、入球部としてのスルーゲート317への遊技球の入球に基づいて入球振分装置37の振分機能部としての電動役物373が、作動機能部により作動され、終了機能部により開閉され易く、入球振分装置37が受入可能状態となり易い有利遊技が実行される遊技状態である。また、a時短遊技状態は、可動振分部材374が待機位置にあることで、入球部としての第1入賞口391が、入球振分装置37に入球した遊技球が入球可能な受入可能状態となり易い遊技状態である。そのため、a時短遊技状態では、スルーゲート317及び入球振分装置37に遊技球を入球させて振分機能部による大当たり抽選を受けるのが好ましいため、右ルートの遊技球流路に遊技球を流下させるために遊技盤31の右側領域へ遊技球を打ち出す右打ちが奨励される。

20

【3533】

また、a時短遊技状態へは、通常遊技状態又はa時短遊技状態における振分機能部による大当たり抽選の結果が大当たりであることで遊技条件が成立した場合に発生される特図大当たり遊技状態の終了条件が成立した場合に特図大当たり遊技状態から移行される。

【3534】

なお、本実施形態では、特図大当たり遊技状態の終了条件が成立した場合に100%の確率でa時短遊技状態に移行されるが（図263（D）参照）、特図大当たり遊技状態の終了条件が成立した場合にa時短遊技状態に移行される確率は、100%以外、例えば50%などであってもよい。この場合、特図大当たり遊技状態の終了条件が成立してもa時短遊技状態に移行されないときは、通常遊技状態に移行される。

30

【3535】

c時短遊技状態は、a時短遊技状態と同様に、入球部としてのスルーゲート317への遊技球の入球に基づいて入球振分装置37の振分機能部としての電動役物373が作動機能部及び終了機能部により開閉され易く、入球振分装置37が受入可能状態となり易い有利遊技が実行される遊技状態である。また、c時短遊技状態は、振分機能部としての可動振分部材374が作動位置にあることで、入球部としての第2入賞口315が、入球振分装置37に入球した遊技球が入球可能な受入可能状態となり易い遊技状態である。そのため、c時短遊技状態では、スルーゲート317及び入球振分装置37に遊技球を入球させて振分機能部による大当たり抽選を受けるのが好ましいため、右ルートの遊技球流路に遊技球を流下させるために遊技盤31の右側領域へ遊技球を打ち出す右打ちが奨励される。

40

【3536】

また、c時短遊技状態へは、振分機能部による大当たり抽選の結果がc時短移行であることで遊技条件が成立した場合に遊技結果として特別図柄又は飾り図柄がc時短移行図柄で停止表示されることに基いてa時短遊技状態の終了条件が成立した場合にa時短遊技状態から移行される。ここで、大当たり抽選の結果がc時短移行となるのは、大当たり抽選のときにa時短特1大当たり当否テーブル（図263（B）参照）が参照されるa時短遊技状態の場合である（図263（A）～図263（C）参照）。即ち、c時短遊技状態へは、a時短遊技状態において特別図柄又は飾り図柄がc時短移行図柄で停止表示されることでa時短遊技状態の終了条件が成立する場合にa時短遊技状態から移行される。

50

【 3 5 3 7 】

特図大当たり遊技状態は、可変入賞装置 3 8 の振分機能部としての開閉扉 3 8 2 が、大当たり種別に応じた回数（本実施形態では 4 回又は 1 0 回）だけ作動機能部による開放、及び終了機能部による閉鎖が繰り返されることで、可変入賞装置 3 8 の入球部としての可変入賞口 3 8 1 が複数回受入可能状態とされる有利遊技が実行される遊技状態である。特図大当たり遊技状態では、可変入賞口 3 8 1 から入球した遊技球が、可変入賞装置 3 8 の入球部としての通常入賞口 3 8 4 に入球される。そのため、特図大当たり遊技状態では、複数回の開閉扉 3 8 2 の開閉によって通常入賞口 3 8 4 に遊技球が入球されることで賞球の獲得が可能な特別遊技としての特図大当たり遊技が実行される。また、特図大当たり遊技状態では、可変入賞口 3 8 1 に遊技球を入球させるのが好ましいため、右ルート of 遊技球流路に遊技球を流下させるために遊技盤 3 1 の右側領域へ遊技球を打ち出す右打ちが奨励される。

10

【 3 5 3 8 】

また、特図大当たり遊技状態へは、大当たり抽選の結果が大当たりとなって遊技条件が成立する場合に、当該大当たり抽選の結果を報知する特図遊技において、遊技結果として特別図柄又は飾り図柄が大当たり図柄で停止表示されることで終了条件が成立する場合に移行される。ここで、大当たり抽選の結果が大当たりとなるのは、大当たり抽選のときに通常特 1 大当たり当否テーブル（図 2 6 3（A）参照）が参照される通常遊技状態、又は a 時短特 1 大当たり当否テーブル（図 2 6 3（B）参照）が参照される a 時短遊技状態の場合である（図 2 6 3（A）～図 2 6 3（C）参照）。即ち、特図大当たり遊技状態へは、通常遊技状態又は a 時短遊技状態において特別図柄又は飾り図柄が大当たり図柄で停止表示されることで終了条件が成立する場合に通常遊技状態又は a 時短遊技状態から移行される。

20

【 3 5 3 9 】

小当たり遊技状態は、可変入賞装置 3 8 の振分機能部としての開閉扉 3 8 2 が、作動機能部及び終了機能部により開閉されることで、可変入賞装置 3 8 の入球部としての可変入賞口 3 8 1 が受入可能状態とされる有利遊技が実行される遊技状態である。小当たり遊技状態では、可変入賞口 3 8 1 から入球した遊技球が、可変入賞装置 3 8 の入球部としての V 入賞口 3 8 3 又は通常入賞口 3 8 4 に入球される。また、小当たり遊技状態では、V 入賞口 3 8 3 に遊技球を入球させて V 入賞大当たり遊技状態を発生させるのが好ましいため、右ルートの遊技球流路に遊技球を流下させるために遊技盤 3 1 の右側領域へ遊技球を打ち出す右打ちが奨励される。

30

【 3 5 4 0 】

小当たり遊技状態へは、大当たり抽選の結果が小当たりとなって遊技条件が成立する場合に、当該大当たり抽選の結果を報知する第 2 特図遊技において、遊技結果として特別図柄又は飾り図柄が小当たり図柄で停止表示されることで終了条件が成立する場合に、第 2 特図遊技の終了時の遊技状態（例えば c 時短遊技状態、通常遊技状態）から移行される。

【 3 5 4 1 】

V 入賞大当たり遊技状態は、特図大当たり遊技状態と同様に、可変入賞装置 3 8 の振分機能部としての開閉扉 3 8 2 に対し、大当たり種別に応じた回数（本実施形態では 1 0 回）だけ作動機能部による開放処理及び終了機能部による閉鎖処理が繰り返されることで、可変入賞装置 3 8 の入球部としての可変入賞口 3 8 1 が複数回受入可能状態とされる有利遊技が実行される遊技状態である。V 入賞大当たり遊技状態では、特図大当たり遊技状態と同様に、複数回の開閉扉 3 8 2 の開閉によって通常入賞口 3 8 4 に遊技球が入球されることで賞球の獲得が可能な特別遊技としての V 入賞大当たり遊技が実行される。また、V 入賞大当たり遊技状態では、可変入賞口 3 8 1 に遊技球を入球させるのが好ましいため、右ルートの遊技球流路に遊技球を流下させるために遊技盤 3 1 の右側領域へ遊技球を打ち出す右打ちが奨励される。

40

【 3 5 4 2 】

また、V 入賞大当たり遊技状態へは、小当たり遊技において可変入賞装置 3 8 の入球部

50

である特別入球領域としてのV入賞口383に遊技球が入球する特別条件が成立する小当たり遊技状態の終了条件が成立する場合に小当たり遊技状態から移行される。

【3543】

〔普図当たり当否テーブル〕

ここで、図262(A)及び図262(B)は、振分機能部による普図当たり抽選において使用される普図当たり当否テーブルの一例を示す図である。普図当たり抽選は、入球部としてのスルーゲート317に遊技球が入球することを契機とし、遊技状態に応じた普図当たり当否テーブルを参照して実行される。本実施形態では、普図当たり当否テーブルとして、図262(A)に示す通常遊技状態普図当たり当否テーブルと、図262(B)に示す時短遊技状態普図当たり当否テーブルとの2種類が設定されている。また、本実施形態では、遊技状態が通常遊技状態である場合と、遊技状態が時短遊技状態(a時短遊技状態又はc時短遊技状態)である場合とで、普図当たり確率が異なり、時短遊技状態のほうが通常遊技状態よりも普図当たり確率が高く設定されている。

10

【3544】

また、本実施形態では、普図当たり当否テーブルでの普図当たり抽選の結果として、当該普図当たり抽選での結果を報知する普図遊技において遊技結果として普通図柄が普図当たりで停止表示されて当該普図遊技の終了後に普図当たり遊技が実行される普図当たりと、当該普図当たり抽選での結果を報知する普図遊技において遊技結果として普通図柄が外れて停止表示される外れと、が設定されている。そして、本実施形態の普図当たり当否テーブルでは、普図当たり乱数カウンタC4の値として0~299の300個が設定されており、スルーゲート317への遊技球の入球時(又は普図遊技の開始時)に獲得した普図当たり乱数カウンタC4の値が、普図当たり当否テーブルに設定された普図当たり及び外れのいずれに該当するかを判定することで、普図当たり抽選の結果が普図当たり及び外れのいずれかに振り分けられる。

20

【3545】

図262(A)に示す通常遊技状態普図当たり当否テーブルは、遊技状態が通常遊技状態である場合に振分機能部による普図当たり抽選で使用されるテーブルである。図262(A)に示すように、通常遊技状態普図当たり当否テーブルでは、普図当たり乱数カウンタC4の値が0の場合に普図当たりに振り分けられ、普図当たり乱数カウンタC4の値が1~299の場合に外れに振り分けられる。また、普図当たり抽選の結果が普図当たりとして遊技条件が成立する場合には、遊技結果として普通図柄が当たり図柄で停止表示され、入球振分装置37の振分機能部としての電動役物373が作動機能部により作動され、電動役物373の終了条件としての閉鎖条件が成立する場合に終了機能部により閉鎖される。つまり、通常遊技状態では、普図当たり確率が1/300に設定されており、入球振分装置37の電動役物373の作動頻度が低く、入球振分装置37(第1非電作動口371)に遊技球が入球され難い。その結果、通常遊技状態においてスルーゲート317に遊技球が入球した場合、右打ち用の第1入賞口391に遊技球が入球され難い。

30

【3546】

図262(B)に示す時短遊技状態普図当たり当否テーブルは、遊技状態が時短遊技状態(a時短遊技状態又はc時短遊技状態)における振分機能部による普図当たり抽選で使用されるテーブルである。図262(B)に示すように、時短遊技状態普図当たり当否テーブルでは、普図当たり乱数カウンタC4の値が0の場合に外れ、普図当たり乱数カウンタC4の値が1~299の場合に普図当たりに振り分けられる。また、普図当たり抽選の結果が普図当たりとして遊技条件が成立する場合には、遊技結果として普通図柄が当たり図柄で停止表示され、入球振分装置37の電動役物373が作動される。つまり、時短遊技状態では、普図当たり確率が299/300に設定されており、入球振分装置37の振分機能部としての電動役物373の作動頻度が高い。そのため、時短遊技状態では、入球振分装置37(第1非電作動口371又は第2非電作動口372)に遊技球が入球され易い。その結果、時短遊技状態においてスルーゲート317に遊技球が入球した場合、右打ち用の第1入賞口371又は第2入賞口315に遊技球が入球され易い。

40

50

【 3 5 4 7 】

〔 普図当たり種別振分テーブル 〕

ここで、図 2 6 2 (C) 及び図 2 6 2 (D) は、普図当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり種別振分テーブルとして、図 2 6 2 (C) に示す通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルと、図 2 6 2 (D) に示す時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルとの 2 種類が設定されている。即ち、本実施形態では、後述のように、遊技状態が通常遊技状態である場合と時短遊技状態 (a 時短遊技状態又は c 時短遊技状態) である場合とで、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることで遊技条件が成立した場合に導出される普図当たり種別 (短開放普図当たり及び長開放普図当たり) の振り分け確率が異なる。本実施形態では、普図変動保留数 X が上限値でなくスルーゲート 3 1 7 への遊技球の入球によって普図変動保留数 X が増加可能な受入許可状態である場合にスルーゲート 3 1 7 への遊技球の入球を契機として実行される普図当たり抽選の結果が遊技条件としての普図当たりである場合、遊技状態が通常遊技状態であれば短開放普図当たりが導出され、遊技状態が時短遊技状態 (a 時短遊技状態又は c 時短遊技状態) であれば長開放普図当たりが導出される。

10

【 3 5 4 8 】

ここで、遊技条件としての短開放普図当たりの場合には、普図遊技において普通図柄が普図当たり (又は短開放普図当たり) に対応する普通図柄で停止表示される遊技結果が導出された後、振分機能部としての電動役物 3 7 3 が作動機能部によって作動されることで入球振分装置 3 7 が開放され、所定の短時間 (例えば 0 . 1 秒) の経過により終了条件が成立することに基づいて電動役物 3 7 3 が作動機能部によって復帰されることで入球振分装置 3 7 が閉鎖される短開放普図当たり遊技が実行される。つまり、短開放普図当たり遊技では、入球振分装置 3 7 に遊技球が入球可能な時間が短時間 (例えば 0 . 1 秒) に設定されている。この短開放普図当たり遊技では、電動役物 3 7 3 の開放時間が短いために入球振分装置 3 7 (第 1 非電作動口 3 7 1 又は第 2 非電作動口 3 7 2) に遊技球が入球し難い。その結果、短開放普図当たり遊技が実行される遊技状態では、第 1 入賞口 3 7 1 又は第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球され難い。もちろん、短開放普図当たり遊技においても第 1 入賞口 3 7 1 又は第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球可能であり、この場合に第 1 入賞口 3 7 1 又は第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球された場合には大当たり抽選が実行されることで、可変入賞装置 3 8 が作動される大当たり遊技や小当たり遊技が発生し得る。但し、短開放普図当たり遊技では入球振分装置 3 7 に遊技球が入球し難いため、短開放普図当たり遊技の発生の契機としては大当たり遊技や小当たり遊技が発生し難い。

20

30

【 3 5 4 9 】

一方、遊技条件としての長開放普図当たりの場合には、普図遊技において普通図柄が普図当たり (又は長開放普図当たり) に対応する普通図柄で停止表示される遊技結果が導出された後、振分機能部としての電動役物 3 7 3 が作動機能部によって作動されることで入球振分装置 3 7 が開放され、所定の長時間 (例えば 6 秒) の経過により終了条件が成立することに基づいて電動役物 3 7 3 が作動機能部によって復帰されることで入球振分装置 3 7 が閉鎖される長開放普図当たり遊技が実行される。つまり、長開放普図当たり遊技では、入球振分装置 3 7 に遊技球が入球可能な時間が長時間 (例えば 6 秒) に設定されている。この長開放普図当たり遊技では、電動役物 3 7 3 の開放時間が長いために入球振分装置 3 7 (第 1 非電作動口 3 7 1 又は第 2 非電作動口 3 7 2) に遊技球が入球し易い。その結果、長開放普図当たり遊技が実行される遊技状態では、右打ち用の第 1 入賞口 3 7 1 又は第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球され易い。そのため、長開放普図当たり遊技が発生した場合、短開放普図当たり遊技の発生を契機とする場合に比べて、大当たり遊技や小当たり遊技が発生し難い。

40

【 3 5 5 0 】

なお、本実施形態では、遊技状態が通常遊技状態である場合の遊技条件として短開放普図当たりのみが設定され、遊技状態が時短遊技状態 (a 時短遊技状態又は c 時短遊技状態) である場合の遊技条件として長開放普図当たりのみが設定されるが、遊技状態が通常遊

50

技状態及び時短遊技状態のうち的一方又は双方の遊技状態における遊技条件として、短開放普図当たり及び長開放普図当たりの双方を設定してもよい。

【3551】

図262(C)に示す通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、遊技状態が通常遊技状態である場合にスルーゲートを遊技球が入球したことを契機として実行される普図当たり抽選で使用されるテーブルである。図262(C)に示すように通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルでは、普図当たり種別乱数カウンタC5の値の0～199が短開放普図当たりに振り分けられ、長開放普図当たりの振り分けはない。もちろん、通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、短開放普図当たりの振り分けを100%（長開放普図当たりの振り分けが0%）以外に設定してもよい。

10

【3552】

図262(D)に示す時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、遊技状態が時短遊技状態（a時短遊技状態又はc時短遊技状態）である場合にスルーゲートを遊技球が入球したことを契機として実行される普図当たり抽選で使用されるテーブルである。図262(D)に示すように、時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルでは、普図当たり種別乱数カウンタC5の値の0～199が長開放普図当たりに振り分けられ、短開放普図当たりの振り分けはない。もちろん、時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、長開放普図当たりの振分を100%（短開放普図当たりの振り分けが0%）以外に設定してもよい。

【3553】

〔大当たり当否テーブル〕

20

ここで、図263(A)～図263(C)は、振分機能部による大当たり抽選において使用される大当たり当否テーブルの一例を示す図である。大当たり抽選は、入球部としての第1入賞口314、第1入賞口391又は第2入賞口315に遊技球が入球することを契機とし、遊技球が入球した入球部の種別及び遊技状態に応じた大当たり当否テーブルを参照して実行される。本実施形態では、大当たり当否テーブルとして、図263(A)に示す通常特1大当たり当否テーブルと、図262(B)に示すa時短特1大当たり当否テーブルと、図262(C)に示す特2大当たり当否テーブルと、の3種類が設定されている。

【3554】

また、本実施形態では、大当たり当否テーブルでの大当たり抽選の結果として、大当たり、小当たり、c時短移行及び外れが設定されている。大当たり抽選の結果としての大当りは、当該大当たり抽選の結果を報知する特図遊技において、遊技結果として特別図柄及び飾り図柄が大当たり図柄で停止表示され、当該特図遊技の終了後に大当たり遊技が実行される大当り遊技状態に移行される遊技条件である。大当たり抽選の結果として的小当りは、当該大当たり抽選の結果を報知する特図遊技において、遊技結果として特別図柄及び飾り図柄が小当たり図柄で停止表示され、当該特図遊技の終了後に小当たり遊技が実行される小当り遊技状態に移行される遊技条件である。大当たり抽選の結果としてのc時短移行は、当該大当たり抽選の結果を報知する特図遊技において、遊技結果として特別図柄及び飾り図柄がc時短移行図柄で停止表示され、当該特図遊技の終了後にc時短遊技状態に移行される遊技条件である。大当たり抽選の結果としての外れは、当該大当たり抽選の結果を報知する特図遊技において、特別図柄及び飾り図柄が外れ図柄で停止表示される抽選結果である。そして、本実施形態の大当たり当否テーブルでは、大当たり乱数カウンタC1の値として0～65535の65536個が設定されており、第1入賞口314、391への遊技球の入球時（又は特図遊技の開始時）に獲得した大当たり乱数カウンタC1の値が、大当たり当否テーブルに設定された大当たり、小当たり、c時短移行及び外れのいずれに該当するかを判定することで、大当たり抽選の結果が、大当たり、小当たり、c時短移行及び外れのいずれかに振り分けられる。

30

40

【3555】

図263(A)に示すように、通常特1大当たり当否テーブルは、入球部としての第1入賞口314、391への遊技球の入球に対する通常遊技状態での大当たり抽選に使用さ

50

れる。通常特1大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値（乱数値）のうち、0～205の206個の乱数値が大当たりに振り分けられ、その他の乱数値が外れに振り分けられている。つまり、第1入賞口314，391への遊技球の入球に対する通常遊技状態での振分機能部による大当たり抽選では、大当たり確率が約 $1/318.1$ （ $206/65536$ ）に振り分けられ、残りが外れに振り分けられ、小当たり又はc時短移行に振り分けられることはない。

【3556】

図263（B）に示すように、a時短特1大当たり当否テーブルは、入球部としての第1入賞口314，391への遊技球の入球に対するa時短遊技状態での大当たり抽選に使用される。a時短特1大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値（乱数値）のうち、0～205の206個の乱数値が大当たりに振り分けられ、206～617の412個の乱数値がc時短移行に振り分けられ、その他の乱数値が外れに振り分けられる。つまり、第1入賞口314，391への遊技球の入球に対するa時短遊技状態での振分機能部による大当たり抽選では、大当たり確率が約 $1/318.1$ （ $206/65536$ ）に振り分けられ、c時短移行確率が約 $2/318.1$ （ $512/65536$ ）に振り分けられ、残りが外れに振り分けられ、小当たりに振り分けられることはない。

【3557】

図263（C）に示すように、特2大当たり当否テーブルは、入球部としての第2入賞口315への遊技球の入球に対する大当たり抽選に使用される。特2大当たり当否テーブルでは、0～65535の65536個の大当たり乱数カウンタC1の値（乱数値）のうち、0～43690の43691個の乱数値が小当たりに振り分けられ、その他の乱数値が外れに振り分けられている。つまり、第2入賞口315への遊技球の入球に対する振分機能部による大当たり抽選では、小当たり確率が約 $2/3$ （ $43691/65536$ ）に振り分けられ、残りが外れに振り分けられ、大当たり又はc時短移行に振り分けられることはない。

【3558】

〔大当たり種別振分テーブル〕

ここで、図263（D）-及び図263（E）は、大当たり種別振分テーブルと、V入賞大当たり種別振分テーブルとの2種類が設定されている。

【3559】

図263（D）に示す大当たり種別振分テーブルは、大当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、大当たり抽選での抽選結果が遊技条件としての大当たりである場合に大当たりの種別を振り分けるため使用される。図263（D）に示すように、特図大当たり種別振分テーブルでは、0～19の20個の大当たり種別カウンタC2の値（乱数値）のうち、0～18の19個の乱数値が4R大当たりに振り分けられ、19の1個の乱数値が10R大当たりに振り分けられる。即ち、本実施形態では、特図大当たりとして、4R大当たり及び10R大当たりのいずれかに2種類が設定されており、4R大当たりの振り分け率が95%に設定され、10R大当たりの振り分け率が5%に設定されている。

【3560】

ここで、大当たり抽選での抽選結果が大当たりである場合には特別遊技としての特図大当たり遊技の遊技条件の成立となり、可変入賞装置38の開閉扉382が開放されるラウンド遊技が、大当たり種別に応じて複数回繰り返される開閉実行モードが実行される特図大当たり遊技が実行される。そして、特図大当たり遊技の終了後には、入球振分装置37の電動役物373が作動され易く、第1入賞口391を開放させる入球振分装置37の第1非電作動口371に遊技球が入球し易いa時短遊技状態に移行される。なお、本実施形態では、a時短遊技状態の終了条件として、100回の特図遊技の実行、及び100回の特図遊技を実行する前に、振分機能部による大当たり抽選の結果が遊技条件としての大当たり又はc時短移行であることを遊技結果として特別図柄及び飾り図柄の停止表示により

10

20

30

40

50

報知した場合に終了する。また、本実施形態では、a時短遊技状態での特図遊技の最大実行回数が100回に設定されているが、当該最大実行回数は100回に限定されず、他の回数であってもよい。さらに、本実施形態では、特図大当たり遊技の終了後に100%の確率でa時短遊技状態が発生するが、特図大当たり遊技の終了後にa時短遊技状態が発生する確率は100%に限定されず、他の確率であってもよい。

【3561】

図263(E)に示すV入賞大当たり種別振分テーブルは、大当たり抽選での抽選結果が小当たりである場合に大当たりの種別を振り分けるため、即ち小当たり遊技において可変入賞装置38のV入賞口383に遊技球が入球することで終了条件が成立した場合に実行される大当たり遊技のラウンド遊技数を決定するために使用される。図263(E)に示すように、V入賞大当たり種別振分テーブルでは、0~19の20個の大当たり種別カウンタC2の値(乱数値)のうち、0~19の全ての乱数値が10R大当たりに振り分けられる。即ち、本実施形態では、V入賞大当たりでは、10R大当たりの振り分け率が100%に設定されている。そのため、V入賞大当たり遊技が実行される場合、特図大当たり遊技が実行される場合に比べて出玉的に有利である。

【3562】

なお、本実施形態では、V入賞大当たりの種別として10R大当たりのみが設定されているが、V入賞大当たりの種別は、ラウンド遊技数や出玉期待値の異なる複数種を設定し、これらの複数種から、V入賞大当たりの種別がランダムに決定(乱数抽選により決定)されるようにしてもよい。即ち、いわゆるラッシュ状態での大当たり遊技において実行されるラウンド遊技数が複数種からランダムに決定されるようにしてもよい。このように、複数種のV入賞大当たりからV入賞大当たりの種別がランダムに決定される場合、V入賞大当たり遊技が実行される場合に、遊技者は、多量の出玉が獲得できることを期待しつつ遊技を実行することができるため、遊技の興趣が向上される。特に、複数回のV入賞大当たり遊技が実行され得る疑似大当たり遊技状態(ラッシュ状態)では、疑似大当たり遊技演出(表示)によって1回のV入賞大当たり遊技であるかのように見せ掛ける場合、複数回のV入賞大当たり遊技での総出玉が、より多量であることを期待しつつ遊技を実行することができるため、遊技の興趣が向上される。

【3563】

[変動テーブル]

ここで、図264(A)~図264(D)は、変動テーブルの一例を示す図である。変動テーブルは、大当たり抽選の結果を報知する特図遊技における特別図柄の変動表示時間を設定するために使用される。本実施形態では、変動テーブルとして、図264(A)に示す特1外れ変動テーブル、図264(B)に示す特1当たり変動テーブル、図264(C)に示す特2変動テーブルA、及び図264(D)に示す特2変動テーブルBの4種類が設定されている。

【3564】

図264(A)に示すように、特1外れ変動テーブルは、入球部としての第1入賞口314又は第1入賞口391への遊技球の入球に基づいて実行される大当たり抽選の結果が外れ又はc時短移行である場合に使用される。特1外れ変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS1の値に応じて特図変動パターンが振り分けられる。この特1外れ変動テーブルでは、大当たり抽選の結果が前後外れリーチ又は前後外れ以外リーチである場合には、特図変動パターンが、変動表示時間が30秒である「01」、変動表示時間が60秒である「02」、変動表示時間が90秒である「03」のいずれかに振り分けられる。また、特1外れ変動テーブルでは、大当たり抽選の結果が完全外れリーチ又はc時短移行である場合には、特図変動パターンが、変動表示時間が7秒である「04」、変動表示時間が10秒である「05」、変動表示時間が15秒である「06」のいずれかに振り分けられる。

【3565】

図264(B)に示すように、特1当たり変動テーブルは、入球部としての第1入賞口314又は第1入賞口391への遊技球の入球に基づいて実行される振分機能部による大

10

20

30

40

50

当たり抽選の結果が遊技条件の成立としての大当たりである場合に使用される。特1当たり変動テーブルでは、特図変動パターンが、変動表示時間が30秒である「01」、変動表示時間が60秒である「02」、変動表示時間が90秒である「03」のいずれかに振り分けられる。

【3566】

図264(C)及び図264(D)に示す特2変動テーブルA及び特2変動テーブルBは、入球部としての第2入賞口315への遊技球に入球に基づいて実行される大当たり抽選の結果を報知する特図遊技での変動表示時間を設定するために使用される。ここで、第2入賞口315は、非電動役物である第2開閉部材39Bによって受入可能状態と受入不能状態とが可変可能であり、作動機能部によって受入可能状態とされてから、終了条件として4個の遊技球の入球があった場合に終了機能部によって受入不能状態とされる。つまり、第2入賞口315が1回受入可能状態とされると、この受入可能状態の間に第2入賞口315には4個の遊技球が入球可能である。

10

【3567】

図264(C)に示す特2変動テーブルAは、第2入賞口315に入球される4個の遊技球のうち、第2入賞口315に最初に遊技球が入球されることに基づいて実行される第2特図遊技に対する変動表示時間を設定する場合、即ち第2入賞口315への遊技球の入球数をカウントする後述の特2入賞カウンタの値が1であるときに変動表示時間を設定する場合に使用される。特2変動テーブルAでは、変動表示時間が15秒である「06」のみに振り分けられる。即ち、第2入賞口315に最初に遊技球が入球されることに基づいて実行される第2特図遊技に対する変動表示時間は、必ず15秒に設定される。

20

【3568】

図264(D)に示す特2変動テーブルBは、第2入賞口315に入球される4個の遊技球のうち、第2入賞口315に2個目～4個目の遊技球が入球されることに基づいて実行される第2特図遊技に対する変動表示時間を設定する場合、即ち特2入賞カウンタの値が2～4であるときに変動表示時間を設定する場合に使用される。特2変動テーブルBでは、変動表示時間が1秒である「07」のみに振り分けられる。即ち、第2入賞口315に2個目～4個目の遊技球が入球されることに基づいて実行される第2特図遊技に対する変動表示時間は、必ず1秒に設定される。

30

【3569】

なお、特2変動テーブルA及び特2変動テーブルBに設定される変動表示時間は、複数種類設定してもよく、また、第2入賞口315に入球される4個の遊技球の全てに対する特2変動テーブルとして共通の特2変動テーブルを使用してもよい。

【3570】

ところで、連続して遊技球を打ち出す場合の遊技球の発射間隔は、前述のように、例えば0.6秒である。一方、第2入賞口315に最初に遊技球が入球されることに基づいて実行される第2特図遊技に対する変動表示時間は、必ず15秒に設定される。そのため、第2入賞口315に最初に遊技球が入球されることに基づいて第2特図遊技が開始される場合、当該第2特図遊技が終了するまでの間に25球(=15秒/0.6秒)の遊技球を発射することができる。このように、第2入賞口315に最初に遊技球が入球されることに基づいて実行される第2特図遊技に対する変動表示時間を15秒に設定することで、当該第2特図遊技が終了するまでの間に、第2入賞口315に残りの3個の遊技球を入球することが可能になる。その結果、入球部としての第2入賞口315が開放されて第2特図保留数Mが増加可能な受入可能状態とされてから、第2特図保留数Mを増加不能な受入不能状態として最大保留数である3個にすることができる。

40

【3571】

また、第2入賞口315への遊技球の入球に基づいて実行される大当たり抽選では、その結果が小当たりとなる確率が約2/3(図263(C)参照)と高く設定されている。一方、前述のように、第2入賞口315に最初に遊技球が入球されることに基づいて特図遊技が実行されている間に第2特図保留数Mを3個にすることができる。そのため、第2

50

入賞口 3 1 5 が開放されることで第 2 入賞口 3 1 5 に 4 個の遊技球が入球される場合、これらに対する大当たり抽選の結果に複数個の小当たりが含まれる可能性が高くなり、その結果、複数回の小当たり遊技の実行に基づいて、複数回の V 入賞大当たり遊技が短期間で連続的に実行される一連のラッシュ状態となり易い。

【 3 5 7 2 】

そして、本実施形態では、後述のように、第 2 入賞口 3 1 5 が開放されることで第 2 入賞口 3 1 5 に複数個の遊技球が入球されることで、複数回の V 入賞大当たり遊技が連続的に実行される一連のラッシュ状態となった場合に、少なくとも最初に V 入賞大当たり遊技から開始されてから最後の V 入賞大当たり遊技が終了するまでの有利遊技の期間に実行される特図遊技及び小当たり遊技において、V 入賞大当たり遊技が実行される場合の演出と同様な特定の演出画像としての疑似表示が実行される（図 2 7 9 参照）。これにより、1 回の第 2 入賞口 3 1 5 の開放を契機として複数回の V 入賞大当たり遊技が実行される場合に、少なくとも最初に V 入賞大当たり遊技から開始されてから最後の V 入賞大当たり遊技が終了するまでの有利遊技の期間において、特図遊技や小当たり遊技が実行されていても、有利演出として 1 回の大当たり遊技が継続して実行されているような疑似大当たり遊技演出（表示）を実行することが可能になる。その結果、複数回の V 入賞大当たり遊技での出玉を 1 回の V 入賞大当たり遊技での出玉であるように遊技者に印象付けることができるため、1 回の V 入賞大当たり遊技での最大獲得球数が少ない場合であっても、複数回の V 入賞大当たり遊技が実行される場合に 1 回の V 入賞大当たり遊技によって多量の出玉を獲得できたかのような出玉のインパクトを与えることができる。

【 3 5 7 3 】

〔主制御装置 4 の処理〕

次に、図 2 6 5 ～図 2 9 0 を参照しつつ、主制御装置 4 の M P U 4 1 によって実行される処理について説明する。

【 3 5 7 4 】

〔主タイマ割込み処理〕

本実施形態の主タイマ割込み処理は、始動入賞処理及びスルーゲート処理の手順の一部が、前述の第 1 の実施形態とは異なる。以下、主タイマ割込み処理において実行される処理として、始動入賞処理及びスルーゲート処理について説明する。

【 3 5 7 5 】

〔始動入賞処理〕

ここで、図 2 6 5 は、図 1 7 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1 0 0 4 で M P U 4 1 により実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 2 6 5 を参照しつつ、始動入賞処理を説明する。

【 3 5 7 6 】

<ステップ S 1 1 0 1>

図 2 6 5 に示すように、ステップ S 1 1 0 1 では、M P U 4 1 は、入球部としての第 1 入賞口 3 1 4 又は第 1 入賞口 3 9 1 に対する入賞があったか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、第 1 入賞口 3 1 4 , 3 9 1 に対する入賞があったと判断すると（ステップ S 1 1 0 1 : Y e s ）、処理をステップ S 1 1 0 2 に移行し、第 1 入賞口 3 1 4 , 3 9 1 に対する入賞がなかったと判断すると（ステップ S 1 1 0 1 : N o ）、処理をステップ S 1 1 0 9 に移行する。

【 3 5 7 7 】

<ステップ S 1 1 0 2 及び S 1 1 0 3>

ステップ S 1 1 0 2 では、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の第 1 特図保留数記憶エリア N A A に記憶されている第 1 特図保留数 N が、増加することができない受入不能状態としての最大保留数（本実施形態では 4）であるか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、第 1 特図保留数 N が受入不能状態としての最大保留数であれば（ステップ S 1 1 0 2 : Y e s ）、処理をステップ S 1 1 0 9 に移行する。一方、M P U 4 1 は、第 1 特図保留数 N が最大保留数でない受入可能状態であれば（ステップ S 1 1 0 2 : N o ）、第 1 特図保留数

Nに1を加算する処理を実行する（ステップS1103）。

【3578】

<ステップS1104>

ステップS1104では、MPU41は、図17の主タイマ割込処理でのステップS1003で更新される大当たり乱数カウンタC1、大当たり種別カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3と、後述の図267のメイン処理でのステップS1402及びS1414で更新される特図変動種別カウンタCS1とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値をRAM412における特図保留格納エリア412bの第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4のうち最初の空き保留エリアに格納する。

【3579】

<ステップS1105～S1108>

ステップS1105では、MPU41は、遊技状態が通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する。MPU41は、通常遊技状態フラグがオンである場合（ステップS1105：Yes）、即ち遊技状態が通常遊技状態である場合、通常特1大当たり当否テーブル（図263（A）参照）に基づいて当否判定を行い（ステップS1106）、処理をステップS1108に移行する。一方、MPU41は、通常遊技状態フラグがオフである場合（ステップS1105：No）、即ち遊技状態が通常遊技状態ではなくa時短遊技状態である場合、a時短特1大当たり当否テーブル（図263（B）参照）に基づいて当否判定を行い（ステップS1107）、処理をステップS1108に移行する。ステップS1108では、MPU41は、ステップS1104と、ステップS1106又はステップS1107で取得された第1特図保留に対する特図当否情報が後述の図281の特図変動開始処理でのステップS2103において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて第1特図保留コマンドをRAM412に設定する。

【3580】

<ステップS1109>

ステップS1109では、MPU41は、第2入賞口315に対する入賞があったか否かを判断する。ここで、MPU41は、第2入賞口315に対する入賞があったと判断すると（ステップS1109：Yes）、処理をステップS1110に移行し、第2入賞口315に対する入賞がなかったと判断すると（ステップS1109：No）、当該始動入賞処理を終了する。

【3581】

<ステップS1110～S1112>

ステップS1110では、MPU41は、RAM412の第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mが、増加することができない受入不能状態としての最大保留数（本実施形態では前述の第1の実施形態とは異なり3）であるか否かを判断する。ここで、MPU41は、第2特図保留数Mが受入不能状態としての最大保留数であれば（ステップS1110：Yes）、当該始動入賞処理を終了する。一方、MPU41は、第2特図保留数Mが最大保留数でない受入可能状態であれば（ステップS1110：No）、第2特図保留数Mに1を加算する処理を実行する（ステップS1111）。さらに、MPU41は、第2入賞口315への遊技球の入球数をカウントするための特2入賞数カウンタの値に1を加算し（ステップS1112）、処理をステップS1113に移行する。

【3582】

<ステップS1113>

ステップS1113では、MPU41は、図17の主タイマ割込処理でのステップS1003で更新される大当たり乱数カウンタC1、大当たり種別カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3と、後述の図267のメイン処理でのステップS1402及びS1414で更新される特図変動種別カウンタCS1とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値をRAM412における特図保留格納エリア412bの第2特図保留格納エリアREBの第1

10

20

30

40

50

保留エリア R E B 1 ～ 第 4 保留エリア R E B 4 のうち最初の空き保留エリアに格納する。

【 3 5 8 3 】

< ステップ S 1 1 1 4 及び S 1 1 1 5 >

ステップ S 1 1 1 4 では、M P U 4 1 は、特 2 大当たり当否テーブル（図 2 6 3（C）参照）に基づいて当否判定を行う。ステップ S 1 1 1 5 では、M P U 4 1 は、ステップ S 1 1 1 3 及び S 1 1 1 4 で取得された第 2 特図保留に対する特図当否情報が後述の図 2 8 1 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 1 9 において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて第 2 特図保留コマンドを R A M 4 1 2 に設定し、処理をステップ S 1 1 1 6 に移行する。

【 3 5 8 4 】

< ステップ S 1 1 1 6 >

ステップ S 1 1 1 6 では、M P U 4 1 は、ステップ S 1 1 1 2 で加算された特 2 入賞数カウンタの値が 4 であるか否かを判断する。即ち、M P U 4 1 は、第 2 入賞口 3 1 5 に最大入球数である 4 個の遊技球が入球されたか否かを判断する。M P U 4 1 は、特 2 入賞数カウンタの値が 4 である場合（ステップ S 1 1 1 6：Y e s）、処理をステップ S 1 1 1 7 に移行し、特 2 入賞数カウンタの値が 4 でない場合（ステップ S 1 1 1 6：N o）、当該始動入賞処理を終了する。

【 3 5 8 5 】

< ステップ S 1 1 1 7 及び S 1 1 1 8 >

M P U 4 1 は、特 2 入賞数カウンタの値が 4 である場合（ステップ S 1 1 1 6：Y e s）、疑似大当たり遊技状態フラグをオンに設定すると共に（ステップ S 1 1 1 7）、特 2 入賞数カウンタをクリアし（ステップ S 1 1 1 8）、当該始動入賞処理を終了する。

【 3 5 8 6 】

ここで、疑似大当たり遊技状態フラグは、複数回の V 入賞大当たり遊技が連続的に実行され得る有利遊技としての一連のラッシュ中であること、即ち疑似大当たり遊技状態（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行するタイミングであることを示すフラグであり、図 2 7 3 のステップ S 1 9 1 2 において、疑似大当たり遊技パターンコマンドを設定するか否かを判断するために参照される。

【 3 5 8 7 】

[スルーゲート処理]

ここで、図 2 6 6 は、図 1 7 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1 0 0 6 で M P U 4 1 により実行されるスルーゲート処理の手順を示すフローチャートである。スルーゲート処理では、入球部としてのスルーゲート 3 1 7 に遊技球が入球した場合に、M P U 4 1 によって、R A M 4 1 2 の普図保留格納エリア 4 1 2 c に格納される情報が更新される。以下、図 2 6 6 を参照しつつ、スルーゲート処理を説明する。

【 3 5 8 8 】

< ステップ S 1 3 0 1 >

図 2 6 6 に示すように、スルーゲート処理では、M P U 4 1 は、まずスルーゲート 3 1 7 に遊技球が通過したか否かを判断する（ステップ S 1 3 0 1）。スルーゲート 3 1 7 を遊技球が通過したか否かは、図 1 7 の主タイマ割込処理におけるステップ S 1 0 0 1 のセンサ検出処理において R A M 4 1 2 に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。M P U 4 1 は、スルーゲート 3 1 7 を遊技球が通過したと判断した場合（ステップ S 1 3 0 1：Y e s）、処理をステップ S 1 3 0 2 に移行し、スルーゲート 3 1 7 を遊技球が通過していないと判断した場合（ステップ S 1 3 0 1：N o）、当該スルーゲート処理を終了する。

【 3 5 8 9 】

< ステップ S 1 3 0 2 >

M P U 4 1 は、スルーゲート 3 1 7 を遊技球が通過したと判断した場合（ステップ S 1 3 0 1：Y e s）、R A M 4 1 2 の普図保留格納エリア 4 1 2 c に設定される普図変動保留数記憶エリア S N A に記憶されている普図変動保留数 X が、増加することができない受

10

20

30

40

50

入不能状態としての最大保留数（本実施形態では4）であるか否かを判断する（ステップS1302）。MPU41は、普図変動保留数Xが最大保留数である場合（ステップS1302：Yes）、当該スルーゲート処理を終了し、普図変動保留数Xが受入可能状態である最大保留数でない場合（ステップS1302：No）、処理をステップS1303に移行する。

【3590】

<ステップS1303及びS1304>

MPU41は、普図変動保留数Xが最大保留数でない場合（ステップS1302：No）、普図変動保留数Xに1を加算し（ステップS1303）、図17の主タイマ割込処理のステップS1003において更新される普通当たり乱数カウンタC4及び普通当たり種別乱数カウンタC5のカウント値、及び後述の図267のメイン処理のステップS1402及びS1414において更新される普図変動種別カウンタCS2の値を取得し、そのカウント値をRAM412における普図保留格納エリア412cの普図第1保留エリアSE1～普図第4保留エリアSE4のうち最初の空き保留エリアに格納し（ステップS1304）、当該スルーゲート処理を終了する。

10

【3591】

〔主制御装置4のメイン処理〕

ここで、図267は、主制御装置4のMPU41によって実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態のメイン処理は、小当たり遊技制御処理（ステップS14007-1）、が実行される点で前述の第1の実施形態とは異なる。以下、小当たり遊技制御処理について説明するが、本実施形態の理解に必要な処理についても適宜説明する。

20

【3592】

〔普図遊技制御処理〕

ここで、図268は、図267のメイン処理でのステップS1404において実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図遊技制御処理では、メイン表示部36の普通図柄表示部361での普図の変動表示及び停止表示を制御する処理などが実行される。以下、図268を参照しつつ、普図遊技制御処理を説明する。

【3593】

<ステップS1501>

30

図268に示すように、普図遊技制御処理では、まずMPU41は、普通図柄が変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1501）。普図変動表示中フラグは、後述の図270の普図変動開始処理において、普通図柄の変動表示（普図遊技）が開始される場合にステップS1711でオンに設定され、普通図柄が停止表示（普図遊技が終了）される場合に当該普図遊技制御処理におけるステップS1510でオフに設定される。

【3594】

MPU41は、普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1501：Yes）、即ち普図遊技の実行中である場合、処理をステップS1507に移行する。一方、MPU41は、普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1501：No）、即ち普図遊技の実行中でない場合、処理をステップS1502に移行する。

40

【3595】

<ステップS1502>

普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1501：No）、即ち普図遊技の実行中でない場合、MPU41は、振分入球装置37の振分機能部としての電動役物373が作動機能部によって開放中（有利遊技としての普図当たり遊技の実行中）であることを示す電動役物開放中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1502）。電動役物開放中フラグは、後述の普図当たり遊技制御処理において、電動役物373を開放する場合にステップS1815でオンに設定され（図271参照）、電動役物373を閉鎖する場合にステップS1824でオフに設定される（図272参照）。

50

【3596】

MPU41は、電動役物開放中フラグがオンである場合（ステップS1502：Yes）、即ち普図当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップS1502：No）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1503に移行する。

【3597】

<ステップS1503>

電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップS1502：No）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1503）。大当たり遊技中フラグは、後述の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップS2213でオンに設定され（図282参照）、大当たり遊技が終了する場合にステップS2252でオフに設定される（図283参照）。 10

【3598】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1503：Yes）、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中には普図遊技が開始されない。もちろん、大当たり遊技の実行中に普図遊技が開始されるようにしてもよい。

【3599】

一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1503：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1504に移行する。 20

【3600】

<ステップS1504>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1503：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、小当たり遊技の実行中であることを示す小当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1504）。小当たり遊技中フラグは、後述の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技が開始される場合にオンに設定され、小当たり遊技が終了する場合にオフに設定される。

【3601】

MPU41は、小当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1504：Yes）、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実施形態では、小当たり遊技の実行中には普図遊技が開始されない。もちろん、小当たり遊技の実行中に普図遊技が開始されるようにしてもよい。 30

【3602】

一方、MPU41は、小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1504：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1505に移行する。

【3603】

<ステップS1505>

小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1504：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、RAM412の普図保留格納エリア412cに設定される普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xが0であるか否かを判断する（ステップS1505）。MPU41は、普図変動保留数Xが0である場合（ステップS1505：Yes）、当該普図遊技制御処理を終了し、普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1505：No）、処理をステップS1506に移行する。 40

【3604】

<ステップS1506>

普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1505：No）、MPU41は、普図保留格納エリア412cに記憶されている普図当否情報について普図データ設定処理を実行し（ステップS1506）、処理をステップS1507に移行する。なお、普図デー 50

タ設定処理の詳細は図 2 6 9 を参照して後述する。

【 3 6 0 5 】

<ステップ S 1 5 0 7>

ステップ S 1 5 0 7 では、MPU 4 1 は、普図保留格納エリア 4 1 2 c に記憶されている情報に基づく普通図柄の変動表示をメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 に実行させるための普図変動開始処理を実行し、当該普図遊技制御処理を終了する。なお、普図変動開始処理の詳細は、図 2 7 0 を参照して後述する。

【 3 6 0 6 】

<ステップ S 1 5 0 8>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1 : Y e s ）、即ち普図遊技の実行中である場合、MPU 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 8 ）。

10

【 3 6 0 7 】

MPU 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 8 : Y e s ）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップ S 1 5 1 1 に移行する。一方、MPU 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 8 : N o ）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 9 に移行する。

【 3 6 0 8 】

<ステップ S 1 5 0 9>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 8 : N o ）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU 4 1 は、小当たり遊技の実行中であることを示す小当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 9 ）。

20

【 3 6 0 9 】

MPU 4 1 は、小当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 9 : Y e s ）、即ち小当たり遊技の実行中である場合、処理をステップ S 1 5 1 1 に移行する。一方、MPU 4 1 は、小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 9 : N o ）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 1 0 に移行する。

【 3 6 1 0 】

<ステップ S 1 5 1 0>

小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 9 : N o ）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合、MPU 4 1 は、普図変動表示の開始から普図変動表示時間が経過して有利遊技としての普図遊技の終了条件が成立したか否かを判断する（ステップ S 1 5 1 0 ）。即ち、MPU 4 1 は、メイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を、遊技結果として停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングであるか否かを判断する。

30

【 3 6 1 1 】

MPU 4 1 は、普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 1 0 : Y e s ）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を、遊技結果として停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、処理をステップ S 1 5 1 1 に移行する。一方、MPU 4 1 は、普図変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 1 5 1 0 : N o ）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を、遊技結果として停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングでない場合、当該普図遊技制御処理を終了する。

40

【 3 6 1 2 】

<ステップ S 1 5 1 1 ~ S 1 5 1 3>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1 : Y e s ）に有利遊技としての大当たり遊技中フラグ又は小当たり遊技フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 8 又は S 1 5 0 9 で Y e s ）、即ち普図遊技の実行中に大当たり遊技又は小当たり遊技が開始される場合、又は普通図柄の普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 1 0 : Y e s ）、即ち変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミ

50

ングである場合、MPU41は、当該普図遊技に対応する普図当たり抽選の結果に応じた図柄に普通図柄を停止表示させる（ステップS1511）。例えば、振分機能部による普図当たり抽選の結果が遊技条件としての普図当たりである場合には、遊技結果として普図当たりに対応した図柄で普通図柄を停止表示させる一方、普図当たり抽選の結果が外れであり遊技条件が成立しない場合には、外れに対応した図柄で普通図柄を停止表示させる。

【3613】

また、MPU41は、普通図柄の変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグをオフに設定する（ステップS1512）。さらに、MPU41は、普通図柄が停止表示されたこと、即ち普図遊技が終了したことを示す普図変動停止表示フラグをオンに設定し（ステップS1513）、当該普図遊技制御処理を終了する。

10

【3614】

なお、普図変動停止表示フラグは、後述の図270の普図当たり遊技制御処理のステップS1801において、普図当たり遊技を開始（電動役物315bを開放）するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

【3615】

また、本実施形態では、普通図柄の普図変動表示時間が経過することにより変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合に限らず、普図遊技の実行中に大当たり遊技又は小当たり遊技が開始される場合には、変動表示される普通図柄が停止表示される（普図遊技が終了される）。即ち、普図遊技は、大当たり遊技又は小当たり遊技が開始される場合には、普通図柄の普図変動表示時間が経過する前に強制終了される。もちろん、普図遊技は、大当たり遊技又は小当たり遊技が開始される場合にも普通図柄の普図変動表示時間が経過するまで継続して実行するようにしてもよい。

20

【3616】

〔普図データ設定処理〕

ここで、図269は、図268のステップS1506においてMPU41によって実行される普図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図データ設定処理では、図11の主制御装置4の記憶領域における普図保留格納エリア412cの記憶内容が更新される。以下、図269を参照しつつ、普図データ設定処理を説明する。

【3617】

<ステップS1601～S1603>

30

図269に示すように、普図データ設定処理では、まずMPU41は、普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xを1減算する（ステップS1601）。例えば、減算前の普図変動保留数Xが4である場合には減算後の普図変動保留数Xが3とされる。これにより、当該普図変動保留数Xの増加が不能な受入不能状態である4である場合には、普図変動保留数Xが当該普図変動保留数Xの増加が可能な受入可能状態である3とされる。

【3618】

そして、MPU41は、普図第1保留エリアSE1から普図実行エリアSAEに普図当否情報を移動させる（ステップS1602）。続いて、MPU41は、普図第2保留エリアSE2～普図第4保留エリアSE4に格納されている普図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS1603）。具体的に、ステップS1603では、普図第2保留エリアSE2の普図当否情報を普図第1保留エリアSE1に移動させ、普図第3保留エリアSE3の普図当否情報を普図第2保留エリアSE2に移動させ、普図第4保留エリアSE4の普図当否情報を普図第3保留エリアSE3に移動させる。

40

【3619】

〔普図変動開始処理〕

ここで、図270は、図268のステップS1507においてMPU41によって実行される普図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図変動開始処理では、普通図柄表示部361での普通図柄の変動表示が開始されると共に、普図当たり抽選での抽選結果に基づいて各種のコマンドやフラグが設定される。以下、図270を参照し

50

つつ、普図変動開始処理を説明する。

【3620】

<ステップS1701>

図270に示すように、普図変動開始処理では、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1701）。

【3621】

MPU41は、通常遊技状態フラグがオンである場合（ステップS1701：Yes）、即ち遊技状態が通常遊技状態である場合、処理をステップS1702に移行し、通常遊技状態フラグがオフである場合（ステップS1701：No）、即ち時短遊技状態である場合、処理をステップS1705に移行する。

10

【3622】

<ステップS1702>

通常遊技状態フラグがオンである場合（ステップS1701：Yes）、即ち遊技状態が通常遊技状態である場合、振分機能部としてのMPU41は、通常遊技状態普図当たり当否テーブル（図262（A）参照）及び通常遊技状態普図当たり種別振分テーブル（図262（C）参照）に基づいて、普図保留格納エリア412cの普図実行エリアSAEに格納された普図当否情報に数値情報として含まれる普通当たり乱数カウンタC4及び普通当たり種別乱数カウンタC5の値が普図当たりに対応する値であるか否か、即ち遊技条件としての普図当たりであるか否かの普図当たり当否判定を行い、処理をステップS1703に移行する。

20

【3623】

<ステップS1703及びS1704>

ステップS1703では、MPU41は、ステップS1702での普図当たり当否判定の結果が普図当たりであるか否かを判断する。MPU41は、普図当たり当否判定の結果が、遊技条件が成立する普図当たりである場合（ステップS1703：Yes）、普図当たり遊技において入球振分装置37の振分機能部としての電動役物373を短開放させる短開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップS1704）、処理をステップS1708に移行する。一方、MPU41は、普図当たり当否判定の結果が、遊技条件が成立しない外れである場合（ステップS1703：No）、処理をステップS1708に移行する。

30

【3624】

<ステップS1705>

通常遊技状態フラグがオフである場合（ステップS1701：No）、MPU41は、時短遊技状態普図当たり当否テーブル（図262（B）参照）及び時短遊技状態普図当たり種別振分テーブル（図262（D）参照）に基づいて、普図保留格納エリア412cの普図実行エリアSAEに格納された普図当否情報に数値情報として含まれる普通当たり乱数カウンタC4及び普通当たり種別乱数カウンタC5の値が普図当たりに対応する値であるか否かの普図当たり当否判定を行い、処理をステップS1706に移行する。

【3625】

<ステップS1706及びS1707>

ステップS1706では、振分機能部としてのMPU41は、ステップS1705での普図当たり当否判定の結果が、遊技条件が成立する普図当たりであるか否かを判断する。MPU41は、普図当たり当否判定の結果が、遊技条件が成立する普図当たりである場合（ステップS1705：Yes）、普図当たり遊技において振分入球装置37の電動役物373を長開放させる長開放普図当たりフラグをオンに設定し（ステップS1707）、処理をステップS1708に移行する。一方、MPU41は、普図当たり当否判定の結果が、遊技条件が成立しない外れである場合（ステップS1706：No）、処理をステップS1708に移行する。

40

【3626】

<ステップS1708及びS1709>

50

ステップ S 1 7 0 8 では、M P U 4 1 は、普図遊技におけるメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 での普通図柄の変動表示時間である普図変動パターンを、普図変動表示テーブル（不図示）を参照して設定する普図変動パターン設定処理を実行する。普図変動表示テーブル（不図示）は、例えば遊技状態が通常遊技状態である場合に参照される通常遊技状態普図変動テーブルと、遊技状態が時短遊技状態である場合に参照される時短遊技状態普図変動テーブルとを含む。そのため、当該普図変動パターン設定処理では、遊技状態の種別に応じた普図変動表示テーブルに基づいて普図変動パターンが設定される。なお、時短遊技状態普図変動表示テーブルのほうが、通常遊技状態普図変動表示テーブルよりも、普通図柄の変動表示時間の平均時間が短くなるように設定されているため、時短遊技状態では、通常遊技状態に比べて普図遊技が実行される時間が短くなる。

10

【3 6 2 7】

そして、M P U 4 1 は、ステップ S 1 7 0 8 で設定される普図変動パターンに加え、ステップ S 1 7 0 2 又は S 1 7 0 5 での普図当たり当否判定の結果（普図当たり抽選の結果）と、遊技状態の種別（通常遊技状態、時短遊技状態）とを音声ランプ制御装置 5 に通知するための普図変動パターンコマンドを設定し（ステップ S 1 7 0 9）、処理をステップ S 1 7 1 0 に移行する。

【3 6 2 8】

なお、普図変動パターンコマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 6 7 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これに対して、音声ランプ制御装置 5 では、普図変動パターンコマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などに対して普図遊技に対応した演出、例えば普図遊技が実行されていることを示す演出や普図当たり抽選の結果を示す演出を実行させる。

20

【3 6 2 9】

<ステップ S 1 7 1 0 及び S 1 7 1 1>

ステップ S 1 7 1 0 では、M P U 4 1 は、メイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 での普通図柄の変動表示を開始する（ステップ S 1 7 1 0）。そして、M P U 4 1 は、普通図柄が変動表示されていること、即ち遊技条件が成立している場合に普通図柄の停止表示により遊技結果を導出可能な有利遊技として普図遊技が実行されていることを示す普図変動表示中フラグをオンに設定し（ステップ S 1 7 1 1）、当該普図変動開始処理を終了する。

30

【3 6 3 0】

なお、普図変動表示中フラグは、図 2 2 の普図遊技制御処理でのステップ S 1 5 0 1 において、普図遊技の実行中（普通図柄の変動表示中）であるかを判断するために参照される。

【3 6 3 1】

〔普図当たり遊技制御処理〕

ここで、図 2 7 1 及び図 2 7 2 は、図 2 6 7 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 5 において実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図当たり遊技制御処理では、普図当たり抽選の結果が遊技条件の成立としての普図当たりであることで、普通遊技において遊技結果として普通図柄が普図当たりに対応する図柄で停止表示された場合に、振分機能部としての振分入球装置 3 7 の電動役物 3 7 3 の開閉制御を行うことによって振分入球装置 3 7 への遊技球の入球を許容する受入可能状態と、遊技球の入球を制限する受入不能状態とを切り替える処理が実行される。また、普図当たり遊技制御処理では、切替機能部によって振分入球装置 3 7 の可動振分部材 3 7 4 の動作制御が実行される。以下、図 2 7 1 及び図 2 7 2 を参照しつつ、普図当たり遊技制御処理を説明する。

40

【3 6 3 2】

<ステップ S 1 8 0 1>

図 2 7 1 に示すように、普図当たり遊技制御処理では、まず M P U 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグがオンで

50

あるか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 1）。即ち、M P U 4 1 は、有利遊技としての普図当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。なお、普図変動停止表示フラグは、図 2 6 8 の普図遊技制御処理において普通図柄が停止表示される場合にステップ S 1 5 1 3 でオンに設定される。

【3 6 3 3】

M P U 4 1 は、普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 1：Y e s）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップ S 1 8 0 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 1：N o）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理を図 2 7 2 のステップ S 1 8 1 7 に移行する。

10

【3 6 3 4】

<ステップ S 1 8 0 2>

普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 1：Y e s）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグ又は小当たり遊技の実行中であることを示す小当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 2）。

【3 6 3 5】

M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグ又は小当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 2：Y e s）、即ち有利遊技としての大当たり遊技又は小当たり遊技の実行中である場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、普図遊技が大当たり遊技又は小当たり遊技が開始されることで強制終了される場合には、当該普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が遊技条件としての普図当たりである場合であっても普図当たり遊技が開始されない。即ち、本実施形態では、大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中は普図当たり遊技が開始されることはない。もちろん、大当たり遊技又は小当たり遊技の実行中に新たな普図遊技を開始させてもよい。

20

【3 6 3 6】

一方、M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグ及び小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 2：N o）、即ち大当たり遊技又は小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 8 0 3 に移行する。

【3 6 3 7】

<ステップ S 1 8 0 3>

大当たり遊技中フラグ及び小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 2：N o）、即ち有利遊技としての大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 3）。長開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合に、図 2 7 0 の普図変動開始処理のステップ S 1 7 0 7 においてオンに設定される。即ち、M P U 4 1 は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が遊技条件としての長開放普図当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3：Y e s）、処理をステップ S 1 8 0 7 に移行し、長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3：N o）、処理をステップ S 1 8 0 4 に移行する。

30

40

【3 6 3 8】

<ステップ S 1 8 0 4>

長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3：N o）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりでない場合、M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 4）。短開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合に、図 2 7 0 の普図変動開始処理のステップ S 1 7 0 4 においてオンに設定される。即ち、

50

MPU41は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が遊技条件としての短開放普図当たりであるか否かを判断する。MPU41は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1804：Yes）、処理をステップS1805に移行し、短開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップS1804：No）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が外れである場合、処理をステップS1816に移行する。

【3639】

＜ステップS1805及びS1806＞

短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1805：Yes）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合、MPU41は、短開放普図当たり遊技における入球振分装置37の電動役物373の開放時間（入球振分装置37への遊技球の入球可能時間）である0.1秒に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする（ステップS1805）。開放時間カウンタは、電動役物373の復帰タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理の図272のステップS1819において参照される。そして、MPU41は、短開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS1806）、処理をステップS1813に移行する。

10

【3640】

＜ステップS1807及びS1808＞

長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップS1803：Yes）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合、MPU41は、長開放普図当たり遊技における入球振分装置37の電動役物373（入球振分装置37への遊技球の入球可能時間）である6秒に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする（ステップS1807）。開放時間カウンタは、電動役物373の復帰タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理の図272のステップS1819において参照される。そして、MPU41は、長開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS1808）、処理をステップS1809に移行する。

20

【3641】

＜ステップS1809＞

ステップS1809では、MPU41は、遊技状態がc時短遊技状態であることを示すc時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU41は、c時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS1809：Yes）、処理をステップS1810に移行し、c時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップS1809：No）、処理をステップS1813に移行する。

30

【3642】

＜ステップS1810～ステップS1812＞

c時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップS1809：Yes）、MPU41は、入球振分装置37における振分機能部としての可動振分部材374を作動させる（ステップS1810）。具体的には、MPU41は、可動振分部材374を、入球振分装置37に入球した遊技球を第1非電作動口371に向けて誘導可能で第2非電作動口372に向けて誘導不能な振分状態（図257（B）参照）から、入球振分装置37に入球した遊技球を第2非電作動口372に向けて誘導可能で第1非電作動口371に向けて誘導不能な振分状態（図257（C）参照）に変更可変させる。これにより、入球振分装置37では、振分機能部としての電動役物373の作動によって入球振分装置37への遊技球の入球が可能となった場合に、入球部としての第2非電作動口372が遊技球の入球が可能受入可能状態とされる。そして、入球部としての第2非電作動口372に遊技球が入球した場合には、作動機能部によって振分機能部としての第2開閉部材39Bが作動され、入球部としての第2入賞口315が、4個の遊技球の入球によって終了条件が成立するまで受入可能状態とされる。

40

【3643】

また、MPU41は、ステップS1810において可動振分部材374を作動させた場

50

合、可動振分部材 3 7 4 が作動されていることを示す可動振分部材作動フラグをオンに設定する（ステップ S 1 8 1 1）。さらに、M P U 4 1 は、遊技状態を c 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップ S 1 8 1 2）、処理をステップ S 1 8 1 3 に移行する。即ち、c 時短遊技状態の終了条件は、作動機能部によって振分機能部としての可動振分部材 3 7 4 が作動されることである。

【3 6 4 4】

なお、c 時短遊技状態の終了条件は、c 時短遊技状態において作動機能部によって振分機能部としての電動役物 3 7 3 が作動されること、c 時短遊技状態において作動された電動役物 3 7 3 が終了機能部によって復帰されること、c 時短遊技状態において有利遊技としての普図当たり遊技が開始されること、c 時短遊技状態において開始された普図当たり遊技が終了すること、入球部としての第 2 入賞口 3 1 5 が受入可能状態とされること、受入可能状態の第 2 入賞口 3 1 5 に上限数（本実施形態では 4 個）遊技球が入球されて第 2 入賞口 3 1 5 が受入不能状態とされることなどであってもよい。

【3 6 4 5】

<ステップ S 1 8 1 3 ~ S 1 8 1 5>

c 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 9 : N o）、M P U 4 1 は、作動機能部によって電動役物 3 7 3 を作動させる（ステップ S 1 8 1 3）。これにより、入球振分装置 3 7 は、遊技球の入球が不能な受入不能状態から遊技球の入球が可能な受入可能状態とされる。

【3 6 4 6】

ここで、入球振分装置 3 7 では、可動振分部材 3 7 4 によって、入球振分装置 3 7 に入球した遊技球を入球部としての第 1 非電作動口 3 7 1 に向けて誘導可能で入球部としての第 2 非電作動口 3 7 2 に向けて誘導不能な振分状態（図 2 5 7（B）参照）と、入球振分装置 3 7 に入球した遊技球を第 2 非電作動口 3 7 2 に向けて誘導可能で第 1 非電作動口 3 7 1 に向けて誘導不能な振分状態（図 2 5 7（C）参照）とに可変される。そのため、入球振分装置 3 7 では、振分機能部としての可動振分部材 3 7 4 の姿勢に応じて、第 1 非電作動口 3 7 1 が受入不能状態とされる一方で第 2 非電作動口 3 7 2 が受入可能状態とされる振分状態と、第 1 非電作動口 3 7 1 が受入可能状態とされる一方で第 2 非電作動口 3 7 2 が受入不能状態とされる振分状態と、に可変可能である。

【3 6 4 7】

そして、M P U 4 1 は、振分機能部としての電動役物 3 7 3 が開放されていることを音声ランプ制御装置 5 に通知する電動役物開放コマンドを設定すると共に（ステップ S 1 8 1 4）、電動役物 3 7 3 が開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオンに設定し（ステップ S 1 8 1 5）、処理をステップ S 1 8 1 6 に移行する。

【3 6 4 8】

なお、電動役物開放コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 6 7 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これより、音声ランプ制御装置 5 は、電動役物開放コマンドに基づいて、例えば図柄表示部 3 4 1 などに対して電動役物 3 7 3 が開放されていることを示す演出を開始させることができる。

【3 6 4 9】

<ステップ S 1 8 1 6>

ステップ S 1 8 1 6 では、M P U 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグをオフに設定し、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【3 6 5 0】

<ステップ S 1 8 1 7>

普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 1 : N o）、図 2 7 2 に示すように、M P U 4 1 は、当該普図当たり遊技制御処理の図 2 7 1 のステップ S 1 8 1 5 において電動役物 3 7 3 を開放させた場合にオンに設定される電動役物開放中フラグが

10

20

30

40

50

オンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 1 8 1 7）。即ち、M P U 4 1 は、有利遊技としての普図当たり遊技が実行中であるか否かを判断する。M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 1 7：Y e s）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、処理をステップ S 1 8 1 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 1 7：N o）、即ち普図当たり遊技が実行中でない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【3 6 5 1】

<ステップ S 1 8 1 8 及び S 1 8 1 9>

電動役物開放中フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 1 7：Y e s）、即ち普図当たり遊技が実行中である場合、M P U 4 1 は、当該普図当たり遊技制御処理の図 2 7 1 のステップ S 1 8 0 5 又は S 1 8 0 7 においてセットされる開放時間カウンタの値から 1 減算し（ステップ S 1 8 1 8）、減算後の開放時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 1 8 1 9）。即ち、M P U 4 1 は、開放時間の経過による終了条件の成立に基づいて振分機能部としての電動役物 3 7 3 の復帰タイミングであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、減算後の開放時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 1 8 1 9：Y e s）、即ち開放時間の経過による電動役物 3 7 3 の復帰タイミングである場合、処理をステップ S 1 8 2 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後の開放時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 1 8 1 9：N o）、即ち開放時間の経過による電動役物 3 7 3 の復帰タイミングでない場合、処理をステップ S 1 8 2 0 に移行する。

【3 6 5 2】

<ステップ S 1 8 2 0 及び S 1 8 2 1>

減算後の開放時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 1 8 1 9：N o）、即ち開放時間の経過による電動役物 3 7 3 の復帰タイミングでない場合、M P U 4 1 は、入球部としての入球振分装置 3 7 に遊技球が入球したか否かを判断する（ステップ S 1 8 2 0）。即ち、M P U 4 1 は、終了条件の成立に基づいて振分機能部としての入球振分装置 3 7 への遊技球の入球による電動役物 3 7 3 の復帰タイミングであるか否かを判断する。入球振分装置 3 7 に遊技球が入球したか否かは、入球振分装置 3 7 に設けられる入球センサ 3 7 a に遊技球が入球したか否かに基づいて判断される。

【3 6 5 3】

M P U 4 1 は、入球振分装置 3 7 に遊技球が入球した場合（ステップ S 1 8 2 0：Y e s）、即ち入球振分装置 3 7 への遊技球の入球による電動役物 3 7 3 の復帰タイミングである場合、時間開放カウンタをクリアし（ステップ S 1 8 2 1）、処理をステップ S 1 8 2 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、入球振分装置 3 7 に遊技球が入球していない場合（ステップ S 1 8 2 0：N o）、即ち入球振分装置 3 7 への遊技球の入球による電動役物 3 7 3 の復帰タイミングでない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【3 6 5 4】

<ステップ S 1 8 2 2 ～ S 1 8 2 4>

減算後の開放時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 1 8 1 9：Y e s）、又は入球振分装置 3 7 に遊技球が入球して開放時間カウンタをクリアした場合（ステップ S 1 8 2 1）、即ち開放時間の経過又は入球振分装置 3 7 への遊技球の入球による終了条件の成立に基づいて振分機能部としての電動役物 3 7 3 の復帰タイミングである場合、作動終了部としての M P U 4 1 は、電動役物 3 7 3 を復帰させる（ステップ S 1 8 2 2）。これにより、入球振分装置 3 7 が閉鎖されることで受入可能状態から受入不能状態とされ、入球振分装置 3 7 への遊技球の入球が制限される。そして、M P U 4 1 は、電動役物 3 7 3 の閉鎖されたことを音声ランプ制御装置 5 に通知する電動役物閉鎖コマンドを設定すると共に（ステップ S 1 8 2 3）、電動役物 3 7 3 が開放されていることを示す電動役物開放中フラグをオフに設定し（ステップ S 1 8 2 4）、処理をステップ S 1 8 2 5 に移行する。

【3 6 5 5】

なお、電動役物閉鎖コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2

67参照)のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、電動役物閉鎖コマンドに基づいて、例えば図柄表示部341などにおいて実行される電動役物が開放されていることを示す演出を終了させることができる。

【3656】

<ステップS1825>

ステップS1825では、MPU41は、入球振分装置37の可動振分部材374が作動されていることを示す可動振分部材フラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU41は、可動振分部材フラグがオンに設定されている場合(ステップS1825: Yes)、処理をステップS1826に移行し、可動振分部材フラグがオフに設定されている場合(ステップS1825: No)、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【3657】

<ステップS1826及びS1827>

可動振分部材フラグがオンに設定されている場合(ステップS1825: Yes)、MPU41は、振分機能部としての可動振分部材374を終了機能部によって復帰させ(ステップS1826)、さらに、可動振分部材フラグをオフに設定し(ステップS1827)、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【3658】

このように、本実施形態の普図当たり遊技制御処理では、入球振分装置37の電動役物373が作動される場合、c時短遊技状態であれば可動振分部材374が作動され、それ以外の遊技状態であれば可動振分部材374が作動されない。これにより、入球振分装置37では、スルーゲート317に遊技球が入球することを契機とし、c時短遊技状態の場合に第2非電作動口372に遊技球が入球可能とされ、それ以外の遊技状態であれば第1非電作動口371に遊技球が入球可能とされる。その結果、本実施形態では、c時短遊技状態に移行した場合に第2非電作動口372に遊技球が入球可能とされることで、第2非電作動口372に遊技球が入球された場合に第2開閉部材39Bが作動されて第2入賞口315に遊技球が入球可能とされる。一方、c時短遊技状態に移行していない場合、例えばa時短遊技状態では第1非電作動口371に遊技球が入球可能とされることで、第1非電作動口371に遊技球が入球された場合に第1開閉部材39Aが作動されて第1入賞口391に遊技球が入球可能とされる。

【3659】

[特図遊技制御処理]

ここで、図273は、図267のメイン処理でのステップS1406において実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技制御処理では、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの記憶内容が更新されると共に、第1特図遊技又は第2特図遊技の進行の制御、例えば第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示及び停止表示が制御される。以下、図273を参照しつつ、特図遊技制御処理を説明する。

【3660】

<ステップS1901>

図273に示すように、ステップS1901では、MPU41は、有利遊技としての大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、後述の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合に図282のステップS2212でオンに設定されると共に、大当たり遊技が終了する場合に図283のステップS2259でオフに設定される。

【3661】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合(ステップS1901: Yes)、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もちろん、大当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。

【3662】

一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1902に移行する。

【3663】

<ステップS1902>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、有利遊技としての小当たり遊技の実行中であることを示す小当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1902）。MPU41は、小当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1902：Yes）、即ち小当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、小当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もちろん、小当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。一方、MPU41は、小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1902：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1903に移行する。

10

【3664】

<ステップS1903>

大当たり遊技中フラグ及び小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1901及びS1902でNo）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（第1特図遊技又は第2特図遊技の実行中）であることを示す特図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1903）。特図変動表示中フラグは、後述の図281の特図変動開始処理において第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示が開始される場合にステップS2107又はS2125でオンに設定され、当該特図遊技制御処理において第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示される場合にステップS1911でオフに設定される。

20

【3665】

MPU41は、特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1903：Yes）、即ち第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、処理をステップS1907に移行する。一方、MPU41は、特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1902：No）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合に第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、処理をステップS1904に移行する。

30

【3666】

<ステップS1904>

特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップS1903：No）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合に第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、MPU41は、特図保留格納エリア412bの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数N、及び第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mの両方が0であるか否かを判断する（ステップS1904）。

【3667】

MPU41は、第1特図保留数N及び第2特図保留数Mの両方が0である場合（ステップS1904：Yes）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のいずれもない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、第1特図保留数N及び第2特図保留数Mのいずれか一方が0でない場合は（ステップS1904：No）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、処理をステップS1905に移行する。

40

【3668】

<ステップS1905>

第1特図保留数N及び第2特図保留数Mのいずれか一方が0でない場合は（ステップS

50

1904: No)、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、MPU41は、特図保留格納エリア412bに記憶されている特図当否情報のデータ(特図データ)に関する特図データ設定処理を実行し(ステップS1905)、処理をステップS1906に移行する。なお、特図データ設定処理の詳細は、図280を参照して後述する。

【3669】

<ステップS1906>

ステップS1906では、MPU41は、第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示を開始(第1特図遊技又は第2特図遊技を実行)させるための特図変動開始処理を実行し、当該特図遊技制御処理を終了する。なお、特図変動開始処理の詳細は、図281を参照して後述する。

10

【3670】

<ステップS1907>

特図変動表示中フラグがオンである場合(ステップS1903: Yes)、即ち第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中(特図遊技の実行中)である場合、MPU41は、第1特別図柄又は第2特図遊技の変動表示の開始から、後述の図281の特図変動開始処理でのステップS2103又はS2120の特図変動パターン設定処理で設定される第1特別図柄又は第2特別図柄に対する特図変動表示時間が経過により特図変動の終了条件が成立したか否かを判断する(ステップS1907)。即ち、MPU41は、変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングであるか否かを判断する。

20

【3671】

第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から特図変動表示時間が経過した場合(ステップS1907: Yes)、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、処理をステップS1908に移行する。一方、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過していない場合(ステップS1907: No)、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

【3672】

<ステップS1908~S1911>

第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過した場合(ステップS1907: Yes)、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、MPU41は、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において、当該特図遊技に対応する大当たり抽選の結果に応じた態様で遊技結果として特別図柄を停止表示させる(ステップS1908)。そして、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグをオンに設定すると共に(ステップS1909)、第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示されたことを音声ランプ制御装置5に通知する特図変動停止コマンドを設定する(ステップS1910)。さらに、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中(特図遊技が実行中)であることを示す特図変動表示中フラグをオフに設定し(ステップS1911)、処理をステップS1912に移行する。

30

40

【3673】

<ステップS1912>

ステップS1912では、MPU41は、疑似大当たり遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する。疑似大当たり遊技状態フラグは、複数回のV入賞大当たり遊技が連続的に実行され得る有利遊技である一連のラッシュ中であること、即ち疑似大当たり遊技状態(疑似大当たり遊技演出(表示))を実行するタイミングであることを示すフラグであり、図265の始動入賞処理のステップS1117においてオンに設定される。

【3674】

MPU41は、疑似大当たり遊技状態フラグがオンに設定されている場合(ステップS1912: Yes)、即ち疑似大当たり遊技状態(疑似大当たり遊技演出(表示))を実

50

行するタイミングである場合、処理をステップ S 1 9 1 3 に移行する。一方、M P U 4 1 は、疑似大当たり状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 9 1 2 : N o）、即ち疑似大当たり遊技状態（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行するタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

【3 6 7 5】

<ステップ S 1 9 1 3 及び S 1 9 1 4>

疑似大当たり状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 9 1 2 : Y e s）、即ち疑似大当たり遊技状態（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行するタイミングである場合、M P U 4 1 は、疑似大当たり遊技パターンコマンドを設定する（ステップ S 1 9 1 4）。さらに、M P U 4 1 は、疑似大当たり遊技状態フラグがオフに設定し（ステップ S 1 9 1 4）、当該特図遊技制御処理を終了する。

10

【3 6 7 6】

〔疑似大当たり遊技パターンコマンド〕

疑似大当たり遊技パターンコマンドは、入球部としての第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球によって複数回の V 入賞大当たり遊技が連続的に実行され得る一連の有利遊技である場合に、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づく大当たり抽選の結果の組み合わせを音声ランプ制御装置 5 に通知するコマンドである。音声ランプ制御装置 5 は、疑似大当たり遊技パターンコマンドを受信することで、疑似大当たり遊技パターンコマンドに対応した疑似大当たり演出パターンを設定し、有利遊技としての複数回の V 入賞大当たり遊技を 1 回の V 入賞大当たり遊技であるように見せ掛ける有利演出としての疑似大当たり遊技演出（表示）（図 2 7 9 参照）を実行することが可能になる。

20

【3 6 7 7】

ここで、図 2 7 4 は、疑似大当たり遊技パターンコマンドの一例を示す図である。図 2 7 4 に示すように、疑似大当たり遊技パターンコマンドは、第 2 特図の変動回数（第 2 特図遊技の実行回数）に応じて、各第 2 特図遊技での大当たり抽選の組み合わせとして設定される。

【3 6 7 8】

第 2 特図の変動回数（第 2 特図遊技の実行回数）は、第 2 入賞口 3 1 5 に 4 個目の遊技球が入球して疑似大当たり遊技状態フラグがオンに設定されたとき（特 2 入賞数カウンタの値が 4 になったとき）（図 2 6 5 の始動入賞処理のステップ S 1 1 1 7）を基準とし、そのときの当該第 2 特図遊技、及び第 2 入賞口 3 1 5 に 4 個目の遊技球が入球したの第 2 特図保留数 M の合計である。そのため、第 2 特図の変動回数（第 2 特図遊技の実行回数）は、1 回～4 回となる。

30

【3 6 7 9】

例えば、第 2 入賞口 3 1 5 に最初に遊技球が入球したことに基づいて第 2 特図遊技が実行されている間（本実施形態では 1 5 秒間）に第 2 入賞口 3 1 5 に 4 個目の遊技球が入球した場合、当該第 2 特図遊技の実行中の第 2 特図保留数 M が 3 であるため、第 2 特図の変動回数（第 2 特図遊技の実行回数）は、当該第 2 特図遊技と第 2 特図保留数 M の 3 個とで計 4 回となる。

【3 6 8 0】

なお、第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の入球に基づく大当たり抽選の組み合わせは、例えば特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E と、第 2 特図保留格納エリア R E B とに格納された当否情報に基づいて設定することができる。

40

【3 6 8 1】

また、前記大当たり抽選の組み合わせは、第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球した場合の大当たり抽選が特 2 大当たり当否テーブルに基づいて実行されるため（図 2 6 3 （C）参照）、小当たり及び外れの一方又は双方を含むものとなり、大当たり抽選結果が小当たりとなるのは 0 回～4 回である。そして、大当たり抽選が小当たりである場合、大当たり抽選が小当たりであることを報知する第 2 特図遊技の終了後に小当たり遊技が実行され、この小当たり遊技において可変入賞装置 3 8 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球することで V

50

入賞大当たり遊技が実行される。そのため、入球部としての第2入賞口315への遊技球の入球によって複数回のV入賞大当たり遊技が連続的に実行され得る一連の有利遊技では、V入賞大当たり遊技が1回も実行されないか、1回～4回のV入賞大当たり遊技が実行される。つまり、疑似大当たり遊技パターンコマンドに基づいて実行される疑似大当たり遊技演出（表示）が実行される場合のV入賞大当たり遊技の回数は一定ではなく不定である。そのため、遊技者は、一連の有利遊技においてV入賞大当たり遊技が何回実行されるかを予測し難く、その結果、一連の有利遊技において最大限の出玉が獲得できること、より多くの出玉を獲得できることを期待しつつ、一連の有利遊技での遊技の進行を楽しむことができるため、遊技の興趣が向上される。

【3682】

〔疑似大当たり遊技演出パターン〕

ここで、図275は、疑似大当たり遊技演出パターンの一例を示す図である。図275に示すように、疑似大当たり遊技演出パターンは、複数個の個別演出パターン（特2遊技演出パターン、小当たり遊技演出パターン、又は大当たり遊技演出パターン）の組み合わせとして設定されている。各疑似大当たり遊技演出パターンは、疑似大当たり遊技パターンコマンドと1対1で対応しており、音声ランプ制御装置5は、受信した疑似大当たり遊技パターンコマンドの種別に対応した1つの疑似大当たり遊技演出パターンを設定する。例えば、音声ランプ制御装置5は、疑似大当たり遊技パターンコマンドA1を受信した場合、疑似大当たり遊技演出パターンA1を設定し、疑似大当たり遊技パターンコマンドA10を受信した場合、疑似大当たり遊技演出パターンA10を設定する。

【3683】

ここで、図276（A）～図276（E）は、特2遊技演出パターンを説明するための図である。

【3684】

図276（A）に示すように、特2遊技演出パターンは、特2遊技演出パターンA（特2A）、特2遊技演出パターンB（特2B）、特2遊技演出パターンC（特2C）、及び特2遊技演出パターンD（特2D）の4つのパターンを含む。

【3685】

図276（A）及び図276（B）に示すように、特2遊技演出パターンA（特2A）は、特図変動表示時間が15秒に対応する演出であり、図柄表示部341において、要求表示としての右打ち表示があり、特定の演出画像としての出玉表示がなく、飾り図柄の変動表示が大きく表示され、ステージ演出（背景演出）として特図遊技用のステージ演出が実行される演出である。この特2遊技演出パターンA（特2A）は、第2入賞口315が開放されてから最初に行われる第2特図遊技の演出として実行される。また、特2遊技演出パターンA（特2A）では、要求表示としての右打ち表示なされることで、右打ちにより第2入賞口315に遊技球を入球させるべきことが遊技者に明示される。

【3686】

図276（A）及び図276（C）に示すように、特2遊技演出パターンB（特2B）は、特図変動表示時間が1秒に対応する演出であり、図柄表示部341において、要求表示としての右打ち表示がなく、特定の演出画像としての出玉表示がなく、飾り図柄の変動表示が小さく表示され、ステージ演出（背景演出）として特図遊技用のステージ演出が実行される演出である。この特2遊技演出パターンB（特2B）は、最初の第2特図遊技と1回目の小当たり遊技（V入賞大当たり遊技）との間に第2特図遊技が実行される場合（最初の第2特図遊技の第2特図遊技に対する大当たり抽選の結果が外れである場合）に当該第2特図遊技の演出として実行される。これにより、小当たり遊技やV入賞大当たり遊技が実行されることなく第2特図遊技が連続して実行される場合に、後続の第2特図遊技を先の第2特図遊技の一部に見せ掛けることができる。なお、特2遊技演出パターンA（特2A）では、要求表示としての右打ち表示が表示されないが、要求表示としての右打ち表示を行ってもよい。

【3687】

10

20

30

40

50

図 276 (A) 及び図 276 (D) に示すように、特 2 遊技演出パターン C (特 2 C) は、特図変動表示時間が 1 秒に対応する演出であり、図柄表示部 341 において、要求表示としての右打ち表示があり、特定の演出画像としての出玉表示があり、飾り図柄の変動表示が小さく表示され、ステージ演出 (背景演出) として疑似表示である特定演出表示としての大当たり遊技用のステージ演出が実行される演出である。この特 2 遊技演出パターン C (特 2 C) は、複数回の V 入賞大当たり遊技が実行される場合に、これらの V 入賞大当たり遊技の間で実行される第 2 特図遊技の演出として実行される。これにより、複数回の V 入賞大当たり遊技の間に実行される第 2 特図遊技を、V 入賞大当たり遊技演出の一部に見せ掛けることができる。

【3688】

図 276 (A) 及び図 276 (E) に示すように、特 2 遊技演出パターン D (特 2 D) は、特図変動表示時間が 1 秒に対応する演出であり、図柄表示部 341 において、要求表示としての右打ち表示があり、飾り図柄の変動表示が小さく表示され、疑似大当たり遊技状態での最後に実行される V 入賞大当たり遊技での後述のエンディング演出 (図 278 (D) 参照) と同様に、大当たり終了表示及び報知表示としての総出玉表示 (出玉結果表示) がある演出である。総出玉表示 (出玉結果表示) は、疑似大当たり遊技状態での複数回の V 入賞大当たり遊技のみの出玉に対するものであってもよいし、疑似大当たり遊技状態での複数回の V 入賞大当たり遊技の出玉に、疑似大当たり遊技状態での他の入賞口 (例えば一般入賞口 313) への入賞に対する出玉を加えたものであってもよい。この特 2 遊技演出パターン D (特 2 D) は、最後の V 入賞大当たり遊技が実行された後に実行される第 2 特図遊技の演出として実行される。これにより、複数回の大当たり遊技が実行され得る一連の有利遊技である、いわゆるラッシュ状態での最後に実行される V 入賞大当たり遊技の終了後において、報知表示としての総出玉表示 (出玉結果表示) がなされる。そのため、最後の V 入賞大当たり遊技の後に実行される第 2 特図遊技を、V 入賞大当たり遊技演出の一部である V 入賞大当たり遊技のエンディング演出に見せ掛けることができる。なお、特 2 遊技演出パターン D (特 2 D) では、要求表示としての右打ち表示がなされるが、要求表示としての右打ち表示を行わなくてもよい。

【3689】

ここで、図 277 (A) ~ 図 277 (C) は、小当たり遊技演出パターンを説明するための図である。

【3690】

図 277 (A) に示すように、小当たり遊技演出パターンは、小当たり遊技演出パターン A (小当 A)、及び小当たり遊技演出パターン B (小当 B) の 2 つのパターンを含む。

【3691】

図 277 (A) 及び図 277 (B) に示すように、小当たり遊技演出パターン A (小当 A) は、図柄表示部 341 において、要求表示としての右打ち表示があり、特定の演出画像としての出玉表示がなく、ステージ演出 (背景演出) として小当たり遊技用のステージ演出が実行される演出である。また、小当たり遊技演出パターン A (小当 A) では、図柄表示部 341 において、要求表示として可変入賞装置 38 の V 入賞口 383 に遊技球を入賞させることを遊技者に要求する表示 (例えば「V を狙え」の表示) がなされる。この小当たり遊技演出パターン A (小当 A) は、最初に行われる小当たり遊技の演出として実行される。

【3692】

図 277 (A) 及び図 276 (C) に示すように、小当たり遊技演出パターン B (小当 B) は、図柄表示部 341 において、要求表示としての右打ち表示があり、特定の演出画像としての出玉表示があり、ステージ演出 (背景演出) として疑似表示である特定演出表示としての大当たり遊技用のステージ演出が実行される演出である。また、小当たり遊技演出パターン B (小当 B) では、図柄表示部 341 において、要求表示として可変入賞装置 38 の V 入賞口 383 に遊技球を入賞させることを遊技者に要求する表示 (例えば「V を狙え」の表示) がなされる。この小当たり遊技演出パターン B (小当 B) は、小当たり

遊技が複数回実行される場合の2回目以降に実行される小当たり遊技の演出として実行される。これにより、小当たり遊技が複数回実行される場合の2回目以降に実行される小当たり遊技を、V入賞大当たり遊技演出の一部として見せ掛けることができ、V入賞口383に遊技球を入賞させることを遊技者に要求する表示によってV入賞口383に遊技球が入賞せずに大当たり遊技が発生しないことを防止することができる。

【3693】

ここで、図278(A)～図277(D)は、大当たり遊技演出パターンを説明するための図である。

【3694】

図278(A)に示すように、大当たり遊技演出パターンは、大当たり遊技演出パターンA(大当A)、大当たり遊技演出パターンB(大当B)、大当たり遊技演出パターンC(大当C)、及び大当たり遊技演出パターンD(大当D)の4つのパターンを含む。

【3695】

図278(A)及び図278(B)に示すように、大当たり遊技演出パターンA(大当A)は、図柄表示部341において、要求表示としての右打ち表示があり、特定の演出画像としての出玉表示があり、オープニングで大当たり開始表示があり、ステージ演出(背景演出)として大当たり遊技用のステージ演出が実行される演出である。この大当たり遊技演出パターンA(大当A)は、V入賞大当たり遊技が複数回実行される場合の最初に実行されるV入賞大当たり遊技の演出として実行される。これにより、V入賞大当たり遊技が複数回実行される場合の最初に実行されるV入賞大当たり遊技を1回のV入賞大当たり遊技の一部として見せかけることができる。

【3696】

図278(A)及び図278(C)に示すように、大当たり遊技演出パターンB(大当B)は、図柄表示部341において、要求表示としての右打ち表示があり、特定の演出画像としての出玉表示があり、大当たり開始表示及び大当たり終了表示がなく、ステージ演出(背景演出)として大当たり遊技用のステージ演出が実行される演出である。この大当たり遊技演出パターンB(大当B)は、V入賞大当たり遊技が3回以上実行される場合の最初に実行されるV入賞大当たり遊技と最後に実行されるV入賞大当たり遊技との間に実行されるV入賞大当たり遊技の演出として実行される。これにより、V入賞大当たり遊技が3回以上実行される場合の最初及び最後に実行されるV入賞大当たり遊技の間に実行されるV入賞大当たり遊技を1回のV入賞大当たり遊技の一部として見せかけることができる。

【3697】

図278(A)に示すように、大当たり遊技演出パターンC(大当C)は、図柄表示部341において、要求表示としての右打ち表示があり、特定の演出画像としての出玉表示があり、ステージ演出(背景演出)として大当たり遊技用のステージ演出が実行され、図278(D)に示すように、エンディング(V入賞大当たり遊技の終了時)において大当たり終了表示及び報知表示としての総出玉表示(出玉結果表示)がある演出である。総出玉表示(出玉結果表示)は、疑似大当たり遊技状態での複数回のV入賞大当たり遊技のみの出玉に対するものであってもよいし、疑似大当たり遊技状態での複数回のV入賞大当たり遊技の出玉に、疑似大当たり遊技状態での他の入賞口(例えば一般入賞口313)への入賞に対する出玉を加えたものであってもよい。この大当たり遊技演出パターンC(大当C)は、V入賞大当たり遊技が複数回実行される場合の最後に実行されるV入賞大当たり遊技の演出として実行される。これにより、複数回のV入賞大当たり遊技が実行され得る一連の有利遊技である、いわゆるラッシュ状態での最後に実行されるV入賞大当たり遊技の終了時のエンディングにおいて、報知表示としての総出玉表示(出玉結果表示)がなされる。そのため、V入賞大当たり遊技が複数回実行される場合の最後に実行されるV入賞大当たり遊技を1回のV入賞大当たり遊技の一部として見せかけることができる。その結果、複数回のV入賞大当たり遊技での出玉を、1回のV入賞大当たり遊技での出玉であるように遊技者に認識させることが可能である。これにより、1回のV入賞大当たり遊技の発生によって

得られる最大出玉が制限される場合であっても、1回の大当たり遊技において多く出玉が得られた印象を遊技者に与えることが可能になる結果、遊技者に出玉に対する満足感を与えることが可能になる。

【3698】

図278(A)に示すように、大当たり遊技演出パターンD(大当D)は、図柄表示部341において、要求表示としての右打ち表示があり、特定の演出画像としての出玉表示があり、ステージ演出(背景演出)として大当たり遊技用のステージ演出が実行され、大当たり遊技演出パターンA(図278(B)参照)と同様にオープニングで大当たり開始表示があり、大当たり遊技演出パターンC(図278(B)参照)と同様にエンディングで大当たり終了表示がある。この大当たり遊技演出パターンDは、V入賞大当たり遊技が1回実行される場合のV入賞大当たり遊技の演出として実行される。つまり、大当たり遊技演出パターンD(大当D)は、通常の大当たり遊技演出である。

10

【3699】

このように、本実施形態では、大当たり遊技演出パターンは、大当たり遊技演出パターンA(大当A)、大当たり遊技演出パターンB(大当B)、大当たり遊技演出パターンC(大当C)、及び大当たり遊技演出パターンD(大当D)の4つのパターンを含むことで、複数回の大当たり遊技が実行され得る一連の有利遊技である、いわゆるラッシュ状態において、複数回(2回~4回)のV入賞大当たり遊技が実行される場合に、これらのV入賞大当たり遊技を大当たり遊技として見せかけることができる。その一方で、ラッシュ状態において、1回のV入賞大当たり遊技が実行される場合には、当然にそのV入賞大当たり遊技を1回のV入賞大当たり遊技としての大当たり遊技演出を実行することができる。その結果、ラッシュ状態において実行されるV入賞大当たり遊技が、1回である場合であっても、複数回である場合であっても、同様な大当たり遊技演出を実行することが可能になる。これにより、ラッシュ状態において実行されるV入賞大当たり遊技の回数が、1回であっても複数回であっても、少なくとも1回のV入賞大当たり遊技が実行される限りは、V大当たり遊技回数の実行を問わず、不自然にならないように一連の大当たり遊技演出を実行することができる。また、V大当たり遊技回数の実行を問わず、不自然にならないように大当たり遊技演出を実行することができることで、ラッシュ状態に突入した場合、どの程度の出玉が得られるか(V入賞大当たり遊技が何回実行されるか)という興趣を実現しつつも、V入賞大当たり遊技が1回しか実行されない場合であっても、この1回のV入賞大当たり遊技に対する大当たり遊技演出を不自然さなく実行することができる。

20

30

【3700】

ここで、図279は、大当たり遊技演出パターンの一例(大当たり遊技演出パターンA1)における疑似大当たり遊技演出(表示)を説明するための図である。

【3701】

図279に示す大当たり遊技演出パターンの一例である大当たり遊技演出パターンA1は、疑似大当たり遊技パターンコマンドA1を受信した場合に設定される演出パターンである。疑似大当たりコマンドA1は、第1変動(当該第2特図遊技)、第2変動(第2特図保留1)、第3変動(第2特図保留2)及び第4変動(第2特図保留3)に対する大当たり抽選の結果が、それぞれ、小当たり、小当たり、小当たり及び小当たりとなることを示すコマンド(図275参照)。一方、疑似大当たり遊技パターンコマンドA1に対応する大当たり遊技演出パターンA1は、(特2A→小当A→大当A)→(特2C→小当B→大当B)→(特2C→小当B→大当B)→(特2C→小当B→大当C)となる。

40

【3702】

具体的には、大当たり遊技演出パターンA1では、4回実行されるV入賞大当たり遊技のそれぞれにおいて大当たり遊技用のステージ演出(背景演出)が実行される。また、V入賞大当たり遊技間に行われる第2特図遊技及び小当たり遊技では、ステージ演出(背景演出)として疑似表示である特定演出表示としての大当たり遊技用のステージ演出が実行される。そのため、大当たり遊技演出パターンA1では、最初のV入賞大当たり遊技の開始から最後のV入賞大当たり遊技の終了までの一連の有利遊技において、第2特図遊技

50

及び小当たり遊技も含めて、大当たり遊技用のステージ演出が途切れることなく継続して実行される。その結果、大当たり遊技演出パターン A 1 では、最初の V 入賞大当たり遊技の開始から最後の V 入賞大当たり遊技の終了までの一連の有利遊技を、1 回の大当たり遊技が継続しているように見せ掛けることができる。

【3703】

また、大当たり遊技演出パターン A 1 では、V 入賞大当たり遊技間に行われる第 2 特図遊技及び小当たり遊技において、疑似表示として、要求表示としての右打ち表示及び特定の演出画像としての出玉表示が実行される。そのため、大当たり遊技演出パターン A 1 では、最初の V 入賞大当たり遊技の開始から最後の V 入賞大当たり遊技の終了までの一連の有利遊技において、第 2 特図遊技及び小当たり遊技を含めて右打ち表示及び出玉表示が途切れることなく継続して実行される。このことによっても、最初の V 入賞大当たり遊技の開始から最後の V 入賞大当たり遊技の終了までの一連の有利遊技を、1 回の大当たり遊技が継続しているように見せ掛けることができる。

【3704】

また、大当たり遊技演出パターン A 1 では、4 回実行される V 入賞大当たり遊技のうち、最初の V 入賞大当たり遊技のオープニングにおいて大当たり開始表示がなされ、最後の V 入賞大当たり遊技のエンディングにおいて大当たり終了表示がなされ、2 回目及び 3 回目の V 入賞大当たり遊技では、大当たり開始表示及び大当たり終了表示のいずれもなされない。そのため、大当たり遊技演出パターン A 1 では、最初の V 入賞大当たり遊技の開始から最後の V 入賞大当たり遊技の終了までの一連の有利遊技の開始時点と終了時点とを明示することができると共に、1 回目～3 回目の V 入賞大当たり遊技が終了したこと、2 回目～4 回目の V 入賞大当たり遊技が開始したことを分かり難くすることができる。このことによっても、最初の V 入賞大当たり遊技の開始から最後の V 入賞大当たり遊技の終了までの一連の有利遊技を、1 回の大当たり遊技が継続しているように見せ掛けることができる。

【3705】

さらに、大当たり遊技演出パターン A 1 では、最後の V 入賞大当たり遊技のエンディングにおいて、報知表示としての総出玉表示（出玉結果表示）が実行される。そのため、大当たり遊技演出パターン A 1 では、最初の V 入賞大当たり遊技の開始から最後の V 入賞大当たり遊技の終了までの一連の有利遊技である、いわゆるラッシュ状態において、4 回の V 入賞大当たり遊技での出玉を、一連の有利遊技での出玉であるように遊技者に認識させることが可能である。これにより、1 回の大当たり遊技の発生によって得られる最大出玉が制限される場合であっても、1 回の大当たり遊技において多く出玉が得られた印象を遊技者に与えることが可能になる結果、遊技者に大当たりに対する満足感を与えることが可能になる。

【3706】

このように、大当たり遊技演出パターン A 1 では、V 入賞大当たり遊技のオープニングにおいて、大当たり開始表示が実行され、V 入賞大当たり遊技間に行われる第 2 特図遊技及び小当たり遊技において、疑似表示として、要求表示としての右打ち表示、特定の演出画像としての出玉表示、及びステージ演出（背景演出）が実行され、最後の V 入賞大当たり遊技のエンディングにおいて、大当たり終了表示、及び報知表示としての総出玉表示（出玉結果表示）が実行されることで、疑似大当たり遊技演出（表示）によって、c 時短遊技状態に移行されることを契機として実行される一連の有利遊技を、1 回の大当たり遊技が継続しているように見せ掛けることができる。同様に、他の大当たり遊技演出パターンにおいても、c 時短遊技状態に移行されることを契機として一連の有利遊技が実行される場合、この一連の有利遊技を 1 回の大当たり遊技が継続しているように見せ掛けることができる。

【3707】

また、疑似大当たり遊技演出（表示）においては、例えば複数回の V 入賞大当たり遊技が実行される場合の最初の V 入賞大当たり遊技の開始から最後の V 入賞大当たり遊技の終

了までの一連の有利遊技において、有利演出として図柄表示部 3 4 1 で「R U S H」などの文字画像を表示することで有利遊技であることを報知するようにしてもよい。

【3 7 0 8】

ここで、本実施形態では、疑似大当たり遊技演出（表示）において実行される特定の演出画像としての出玉表示及び報知表示としての総出玉表示（出玉結果表示）は、c 時短遊技状態に移行されることを契機として実行される一連の有利遊技における出玉（V 入賞大当たり遊技のみの出玉）を対象として実行される。これにより、遊技者は、1 回の大当たり遊技に見せ掛けられた、いわゆるラッシュ状態としての一連の有利遊技での出玉を、一連の有利遊技中に把握しつつ遊技の進行を楽しむことができ、また一連の有利遊技の終了時に一連の有利遊技での結果として総出玉を把握することができる。

10

【3 7 0 9】

なお、疑似大当たり遊技演出（表示）における特定の演出画像としての出玉表示及び報知表示としての総出玉表示（出玉結果表示）は、a 時短遊技状態に移行する契機となった通常遊技状態での大当たり抽選に基づく特図大当たり遊技（いわゆる初当たり）での出玉を含めたものを対象として実行してもよい。また、初当たりの特図遊技において a 時短遊技状態に移行した場合に、当該 a 時短遊技状態での大当たり抽選に基づく特図大当たり遊技（いわゆる連荘大当たり）が実行される場合、連荘大当たりでの出玉を含めて、疑似大当たり遊技演出（表示）において出玉表示及び総出玉表示（出玉結果表示）を実行してもよい。このように、疑似大当たり遊技演出（表示）における出玉表示及び総出玉表示（出玉結果表示）を、一連の有利遊技における出玉（V 入賞大当たり遊技のみの出玉）に加えて、一連の有利遊技に移行される直近に実行された特図大当たり遊技での出玉を含めて実行することで、疑似大当たり遊技演出（表示）での出玉表示及び総出玉表示（出玉結果表示）によって、遊技者に対し、ラッシュ状態において、より多くの出玉が得られた印象を与え、満足感を与えることができる。

20

【3 7 1 0】

また、本実施形態では、疑似大当たり遊技演出（表示）において報知表示として総出玉表示（出玉結果表示）が実行されるが、報知表示として、一連の有利遊技（ラッシュ状態）での V 入賞大当たり遊技の発生回数を明示又は示唆する回数画像表示を実行してもよい。この回数画像表示としては、例えば「R U S H 4 回」、「大当たり 4 回」などの文字画像表が考えられる。

30

【3 7 1 1】

ところで、疑似大当たり遊技演出（表示）において報知表示として総出玉表示（出玉結果表示）が実行される場合、一連の有利遊技において多くの出玉が得られたような印象を与えることができる反面、総出玉表示（出玉結果表示）のみでは、一連の有利遊技における V 入賞大当たり遊技の発生回数を把握し難い。特に、V 入賞大当たり遊技として、最大出玉の異なる複数種（例えば 5 0 0 玉と 1 5 0 0 玉など）が設定されている場合、V 入賞大当たり遊技の発生回数が把握し難い。これに対し、疑似大当たり遊技演出（表示）における報知表示として、総出玉表示（出玉結果表示）に加えて回数画像表示が実行されることで、遊技者は、一連の有利遊技での結果として、総出玉だけでなく、V 入賞大当たり遊技の発生回数を知り得ることができる。これにより、遊技者は、一連の有利遊技が終了した場合に、V 入賞大当たり遊技が複数回実行される場合の各 V 入賞大当たり遊技のラウンド数を推測して楽しむことができる。

40

【3 7 1 2】

なお、報知表示としての回数画像表示は、報知表示としての総出玉表示（出玉結果表示）を実行する場合と同様に、一連の有利遊技に移行される直近に実行された特図大当たり遊技の回数を含めたものとして実行してもよい。これにより、遊技者に対し、ラッシュ状態において、より多くの大当たり遊技が発生した印象を与え、満足感を与えることができる。

【3 7 1 3】

〔特図データ設定処理〕

50

ここで、図 280 は、図 273 の特図遊技制御処理のステップ S 1905 において MPU 41 によって実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図データ設定処理では、主制御装置 4 の RAM 412 に設定される特図保留格納エリア 412b の記憶内容が更新される。以下、図 280 を参照しつつ、特図データ設定処理を説明する。

【3714】

<ステップ S 2001>

図 280 に示すように、ステップ S 2001 では、MPU 41 は、第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留数 M が 0 であるか否かを判断する。MPU 41 は、第 2 特図保留数 M が 0 である場合（ステップ S 2001：Yes）、即ち第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留がなく第 1 特図遊技に対する第 1 特図保留がある場合（図 26 の特図遊技制御処理でのステップ S 1903 参照）、処理をステップ S 2002 に移行する。一方、MPU 41 は、第 2 特図保留数 M が 0 でない場合（ステップ S 2001：No）、即ち第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留がある場合、処理をステップ S 2006 に移行する。つまり、MPU 41 は、第 2 特図遊技に対する第 2 特図保留数 M が 0 であるか否かを判断することで、第 1 特図遊技よりも第 2 特図遊技を優先して開始させる。

【3715】

なお、本実施形態では、第 2 特図遊技が第 1 特図遊技よりも優先して開始されるが、第 1 特図遊技が第 2 特図遊技よりも優先して開始されるようにしてもよく、また、第 1 入賞口 314 又は第 2 入賞口 315 に対する遊技球の入球順（保留順）に特図遊技を開始させ、第 1 特図遊技及び第 2 特図遊技のいずれか一方が実行されるようにしてもよい。また、第 1 特図遊技と第 2 特図遊技との開始に優先順位を設けることなく、第 1 特図遊技と第 2 特図遊技とが互いに独立して実行され、第 1 特図遊技と第 2 特図遊技とが同時に実行されるようにしてもよい（いわゆる特図の同時変動）。

【3716】

<ステップ S 2002～S 2005>

第 2 特図保留数 M が 0 である場合（ステップ S 2001：Yes）、MPU 41 は、第 1 特図保留格納エリア REA の第 1 特図保留数記憶エリア NAA に記憶されている第 1 特図保留数 N を 1 減算する（ステップ S 2002）。例えば、減算前の第 1 特図保留数 N が 4 である場合には減算後の第 1 特図保留数 N が 3 とされる。これにより、当該第 1 特図保留数 N の増加が不能な受入不能状態である 4 である場合には、第 1 特図保留数 N が当該第 1 特図保留数 N の増加が可能な受入可能状態である 3 とされる。

【3717】

そして、第 1 特図保留格納エリア REA の第 1 保留エリア REA1 から特図実行エリア AE に特図当否情報を移動させる（ステップ S 2003）。続いて、MPU 41 は、第 1 特図保留格納エリア REA の第 2 保留エリア REA2～第 4 保留エリア REA4 の特図当否情報を 1 つずつシフトさせる（ステップ S 2004）。具体的に、ステップ S 2004 では、第 1 特図保留格納エリア REA の第 2 保留エリア REA2 の特図当否情報を第 1 保留エリア REA1 に移動させ、第 3 保留エリア REA3 の特図当否情報を第 2 保留エリア REA2 に移動させ、第 4 保留エリア REA4 の特図当否情報を第 3 保留エリア REA3 に移動させる。さらに、MPU 41 は、有利遊技として第 1 特図遊技を開始させる第 1 特図遊技開始フラグをオンに設定し（ステップ S 2005）、処理をステップ S 2010 に移行する。

【3718】

<ステップ S 2006～S 2009>

第 2 特図保留数 M が 0 でない場合（ステップ S 2001：No）、MPU 41 は、第 2 特図保留格納エリア REB の第 2 特図保留数記憶エリア NAB に記憶されている第 2 特図保留数 M を 1 減算し（ステップ S 2006）、第 2 特図保留格納エリア REB の第 1 保留エリア REB1 から特図実行エリア AE に特図当否情報を移動させる（ステップ S 2007）。続いて、MPU 41 は、第 2 特図保留格納エリア REB の第 2 保留エリア REB2

～第3保留エリアREB4の特図当否情報を1つずつシフトさせる（ステップS2008）。具体的に、ステップS2007では、第2保留エリアREB2の特図当否情報を第1保留エリアREB1に移動させ、第3保留エリアREB3の特図当否情報を第2保留エリアREB2に移動させる。

【3719】

なお、本実施形態では、第2入賞口315が開放された場合、この第2入賞口315が4個の遊技球が入球した場合に閉鎖されるため、第2特図保留数Mの最大値は3個である。そのため、本実施形態では、第2特図保留格納エリアREBには、第1保留エリアREB1～第3保留エリアREB3の3個が設定される。

【3720】

さらに、MPU41は、有利遊技として第2特図遊技を開始させる第2特図遊技開始フラグをオンに設定し（ステップS2009）、処理をステップS2010に移行する。

【3721】

<ステップS2010及びS2011>

ステップS2010では、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1保留エリアREA1～第4保留エリアREA4、又は第2特図保留格納エリアREBの第1保留エリアREB1～第4保留エリアREB4の特図当否情報がシフトした旨を示す特図シフトコマンドをRAM412に設定し、さらに、特図当否情報がシフトした後の第1特図保留数N及び第2特図保留数Mを示す保留数コマンドを設定し（ステップS2011）、当該特図データ設定処理を終了する。特図シフトコマンド及び保留数コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図267参照）のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図シフトコマンドや保留数コマンドに基づいて、図柄表示部341に表示される第1特図保留や第2特図保留に対応させた保留表示の表示数などを変更することができる。

【3722】

〔特図変動開始処理〕

ここで、図281は、図273の特図遊技制御処理のステップS1906においてMPU41によって実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図変動開始処理では、第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示の開始により第1特別遊技又は第2特図遊技（特図遊技）が開始され、特図遊技の開始に伴う各種処理が実行される。以下、図281を参照しつつ、特図変動開始処理を説明する。

【3723】

<ステップS2101>

図281に示すように、ステップS2101では、MPU41は、第1特図遊技が開始されることを示す第1特図遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する。第1特図遊技開始フラグは、図280の特図データ設定処理のステップS2005において第1特図遊技が開始させるために特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAEに対する当否情報のシフトが終了した場合にオンに設定される。

【3724】

MPU41は、第1特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS2101：Yes）、処理をステップS2102に移行し、第1特図遊技開始フラグがオンに設定されていない場合（ステップS2101：No）、処理をステップS2116に移行する。

【3725】

<ステップS2102及びS2103>

第1特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップS2101：Yes）、MPU41は、特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAEに格納された当否情報を読み出し（ステップS2102）、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362での第1特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとして設定すると共に、第1特別図柄

10

20

30

40

50

の停止種別を設定し（ステップ S 2 1 0 3）、処理をステップ S 2 1 0 4に移行する。

【3 7 2 6】

<ステップ S 2 1 0 4 ~ S 2 1 0 6>

ステップ S 2 1 0 4では、MPU 4 1は、ステップ S 2 1 0 2での当否判定の結果である当該第 1 特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップ S 2 1 0 3で設定された特図変動パターンを含む特図変動パターンコマンドを RAM 4 1 2に設定し、さらに、ステップ S 2 1 0 3で設定された第 1 特別図柄表示部 3 6 2での第 1 特別図柄の停止種別を特定する停止種別コマンドを設定し（ステップ S 2 1 0 5）、さらに、MPU 4 1は、メイン表示部 3 6の第 1 特別図柄表示部 3 6 2での第 1 特別図柄の変動表示を開始させ（ステップ S 2 1 0 6）、処理をステップ S 2 1 0 7に移行する。

10

【3 7 2 7】

なお、停止種別コマンドは、必ずしも特図変動パターンコマンドと別に設定する必要はなく、特図変動パターンコマンドを第 1 特別図柄の停止種別を特定可能なコマンドとして設定してもよい。

【3 7 2 8】

<ステップ S 2 1 0 7 及び S 2 1 0 8>

ステップ S 2 1 0 7では、MPU 4 1は、特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定し、さらに、第 1 特図遊技を開始させる第 1 特図遊技開始フラグをオフに設定し（ステップ S 2 1 0 8）、処理をステップ S 2 1 0 9に移行する。

20

【3 7 2 9】

なお、特図変動表示中フラグは、図 2 7 3の特図遊技制御処理におけるステップ S 1 9 0 3において、メイン表示部 3 6の第 1 特別図柄表示部 3 6 2又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3において特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中）であるか否かを判断するために参照される。

【3 7 3 0】

<ステップ S 2 1 0 9>

ステップ S 2 1 0 9では、遊技状態が a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンに設定されているか否かを判断する。即ち、MPU 4 1は、特図変動開始時（特図遊技開始時）の遊技状態が a 時短遊技状態であるか否かを判断する。MPU 4 1は、a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 1 0 9：Yes）、処理をステップ S 2 1 1 0に移行し、a 時短遊技状態フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 1 0 9：No）、当該特図変動開始処理を終了する。

30

【3 7 3 1】

<ステップ S 2 1 1 0>

a 時短遊技状態フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 1 0 9：Yes）、即ち特図変動開始時（特図遊技開始時）の遊技状態が a 時短遊技状態である場合、MPU 4 1は、変動表示が開始される当該特図遊技に対する振分機能部による大当たり抽選の結果が c 時短移行であるか否かを判断する。即ち、MPU 4 1は、変動表示が開始される当該特図遊技の終了後に遊技状態を c 時短遊技状態に移行させるか否かを判断する。MPU 4 1は、変動表示が開始される当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が c 時短移行である場合（ステップ S 2 1 1 0：Yes）、処理をステップ S 2 1 1 1に移行し、変動表示が開始される当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が c 時短移行でない場合（ステップ S 2 1 1 0：No）、処理をステップ S 2 1 1 3に移行する。

40

【3 7 3 2】

<ステップ S 2 1 1 1 及び S 2 1 1 2>

MPU 4 1は、変動表示が開始される当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が c 時短移行である場合（ステップ S 2 1 1 0：Yes）、遊技状態を a 時短遊技状態から c 時短遊技状態に移行させるための c 時短遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップ S 2 1 1 1）。つまり、本実施形態では、大当たり抽選の結果が c 時短移行である第 1 特図

50

遊技が開始される場合に a 時短遊技状態の終了条件が成立する。なお、a 時短遊技状態の終了条件は、振分機能部による大当たり抽選の結果が遊技条件の成立である c 時短移行であることを報知する第 1 特図遊技が、第 1 特図が c 時短移行に対応する図柄で停止表示される遊技結果が導出されることで終了する場合に成立するようにしてもよい。

【3733】

さらに、MPU41 は、a 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数を示す a 時短遊技回数カウンタをクリアし（ステップ S2112）、当該特図変動開始処理を終了する。

【3734】

<ステップ S2113 ~ S2115>

変動表示が開始される当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が c 時短移行でない場合（ステップ S2110：No）、MPU41 は、a 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数を示す a 時短遊技回数カウンタから 1 減算し（ステップ S2113）、減算後の a 時短遊技回数カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S2114）。即ち、MPU41 は、a 時短遊技状態で実行可能な最大回数の特図遊技が実行されることで a 時短遊技状態の終了条件が成立したか否かを判断する。MPU41 は、減算後の a 時短遊技回数カウンタの値が 0 である場合（ステップ S2114：Yes）、即ち a 時短遊技状態で実行可能な最大回数の特図遊技の実行により遊技状態を a 時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる場合、遊技状態を通常遊技状態に移行させるための通常遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップ S2115）、当該特図変動開始処理を終了する。つまり、本実施形態では、a 時短遊技状態での上限数（100 回目）の第 1 特図遊技が開始される場合に a 時短遊技状態の終了条件が成立する。なお、a 時短遊技状態の終了条件は、a 時短遊技状態での上限数（100 回目）の第 1 特図遊技が終了される場合に成立するようにしてもよい。

【3735】

一方、MPU41 は、減算後の a 時短遊技回数カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S2115：No）、即ち a 時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数が残っている場合、当該特図変動開始処理を終了する。

【3736】

<ステップ S2116>

第 1 特図遊技開始フラグがオンに設定されていない場合（ステップ S2101：No）、MPU41 は、第 2 特図遊技が開始されることを示す第 2 特図遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S2116）。第 2 特図遊技開始フラグは、図 280 の特図データ設定処理のステップ S2009 において第 2 特図遊技が開始させるために特図保留格納エリア 412b の特図実行エリア AE に対する当否情報のシフトが終了した場合にオンに設定される。

【3737】

MPU41 は、第 2 特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S2116：Yes）、処理をステップ S2117 に移行し、第 1 特図遊技開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S2116：No）、当該変動開始処理を終了する。

【3738】

<ステップ S2117 及び S2118>

第 2 特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S2116：Yes）、MPU41 は、特図保留格納エリア 412b の特図実行エリア AE に格納された当否情報を読み出し（ステップ S2117）、メイン表示部 36 の第 2 特別図柄表示部 363 での第 2 特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとして設定すると共に、第 2 特別図柄の停止種別を設定し（ステップ S2118）、処理をステップ S2119 に移行する。

【3739】

<ステップ S2119 ~ S2121>

ステップ S2119 では、MPU41 は、ステップ S2110 での当否判定の結果であ

10

20

30

40

50

る当該第2特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップS2118で設定された特図変動パターンを含む特図変動パターンコマンドをRAM412に設定し、さらに、ステップS2118で設定された第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の停止種別を特定する停止種別コマンドを設定し、さらに、MPU41は、メイン表示部36の第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示を開始させ（ステップS2121）、処理をステップS2122に移行する。

【3740】

なお、停止種別コマンドは、必ずしも特図変動パターンコマンドと別に設定する必要はなく、特図変動パターンコマンドを第2特別図柄の停止種別を特定可能なコマンドとして設定してもよい。

【3741】

＜ステップS2122及びS2123＞

ステップS2122では、MPU41は、特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定し、さらに、MPU41は、第2特図遊技を開始させる第2特図遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS2123）、当該変動開始処理を終了する。

【3742】

なお、特図変動表示中フラグは、図273の特図遊技制御処理におけるステップS1903において、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中）であるか否かを判断するために参照される。

【3743】

〔大当たり遊技制御処理〕

ここで、図282～図286は、図267のメイン処理でのステップS1407において実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。大当たり遊技制御処理では、可変入賞装置38の開閉扉382の開閉制御などの大当たり遊技の進行を制御する処理が実行される。以下、図282～図286を参照しつつ、大当たり遊技制御処理を説明する。

【3744】

＜ステップS2201＞

図282に示すように、ステップS2201では、MPU41は、有利遊技としての大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技（特図大当たり遊技又はV入賞大当たり遊技）を開始する場合に当該大当たり遊技制御処理のステップS2213においてオンに設定され、大当たり遊技を終了する場合に当該大当たり遊技制御処理のステップS2259においてオフに設定される。

【3745】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS2201：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理を図283のステップS2218に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS2201：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS2202に移行する。

【3746】

＜ステップS2202＞

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS2201：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンであるか否かを判断する。即ち、MPU41は、大当たり遊技の実行中でない場合に開始された特図遊技が終了したか否かを判断することで、大当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。

【3747】

10

20

30

40

50

MPU41は、特図変動停止フラグがオンである場合（ステップS2202：Yes）、即ち特別図柄が停止表示されたために大当たり遊技を開始可能である場合、処理をステップS2203に移行する。一方、MPU41は、特図変動停止フラグがオフである場合（ステップS2202：No）、即ち特別図柄が変動表示中でない場合、処理をステップS2206に移行する。

【3748】

<ステップS2203>

特図変動停止フラグがオンである場合（ステップS2202：Yes）、即ち特別図柄が停止表示された場合、MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する振分機能部としての大当たり抽選の結果が遊技条件の成立としての大当たりであるか否かを判断する。特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりであるか否かは、例えばRAM41に設定される特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAEに格納されている大当たり抽選に対する特図当否情報に基づいて判断される。

10

【3749】

MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップS2203：Yes）、処理をステップS2204に移行する。一方、MPU41は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりでない場合（ステップS2203：No）、即ち大当たり抽選の結果が外れである場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

20

【3750】

<ステップS2204及びS2205>

特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップS2203：Yes）、MPU41は、特図大当たりが実行されることを示す特図大当たりをオンに設定する（ステップS2204）。さらに、MPU41は、特図大当たり遊技を開始すること、及び大当たり遊技の種別（4R大当たり遊技又は10R大当たり遊技）を音声ランプ制御装置5に通知する特図大当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップS2205）、処理をステップS2206に移行する。特図大当たり遊技開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図267参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図大当たり遊技開始コマンドに基づいて、大当たり遊技種別に応じた大当たり遊技演出を実行することができる。

30

【3751】

<ステップS2206及びS2207>

特図変動停止フラグがオフである場合（ステップS2202：No）、即ち特別図柄が変動表示中でない場合、MPU41は、小当たり遊技が終了することを示す小当たり遊技終了フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS2206）。

【3752】

MPU41は、小当たり遊技終了フラグがオンに設定されている場合（ステップS2206：Yes）、小当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップS2206）、処理をステップS2208に移行する。一方、MPU41は、小当たり遊技終了フラグがオフに設定されている場合（ステップS2206：No）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

40

【3753】

<ステップS2208及びS2209>

ステップS2208では、MPU41は、小当たり遊技において可変入賞装置38のV入賞口383に遊技球が入球したことを示すV入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU41は、V入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップS2208：Yes）、V入賞フラグをオフに設定し（ステップS2209）、処理をステップS2210に移行する。一方、MPU41は、V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS2208：No）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

50

【 3 7 5 4 】

<ステップ S 2 2 1 0 及び S 2 2 1 1>

ステップ S 2 2 1 0 では、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技を実行させる V 入賞大当たりフラグをオンに設定する（ステップ S 2 2 1 0）。さらに、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技を開始すること、及び大当たり遊技の種別（1 0 R 大当たり遊技）を音声ランプ制御装置 5 に通知する特図大当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップ S 2 2 1 1）、処理をステップ S 2 2 1 2 に移行する。V 入賞大当たり遊技開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 6 7 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、V 入賞大当たり遊技開始コマンドに基づいて大当たり遊技演出を実行することができる。

10

【 3 7 5 5 】

<ステップ S 2 2 1 2 及び S 2 2 1 3>

ステップ S 2 2 1 2 では、M P U 4 1 は、大当たり遊技を開始することを示す大当たり遊技開始フラグをオンに設定し、さらに、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオンに設定し（ステップ S 2 2 1 3）、処理をステップ S 2 2 1 4 に移行する。

【 3 7 5 6 】

<ステップ S 2 2 1 4 及び S 2 2 1 5>

ステップ S 2 2 1 4 では、M P U 4 1 は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタをセットし、さらに、M P U 4 1 は、大当たり遊技のオープニングを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するオープニング開始コマンドを設定し（ステップ S 2 2 1 5）、処理をステップ S 2 2 1 6 に移行する。オープニング開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 6 7 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、オープニング開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいてオープニング演出を開始させることができる。

20

【 3 7 5 7 】

<ステップ S 2 2 1 6>

ステップ S 2 2 1 6 では、M P U 4 1 は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタをセットし、処理をステップ S 2 2 1 0 に移行する。オープニング時間カウンタは、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図 2 8 4 のステップ S 2 2 2 0 において参照される。

30

【 3 7 5 8 】

<ステップ S 2 2 1 7>

ステップ S 2 2 1 7 では、M P U 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオンに設定し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。オープニング中フラグは、オープニング中であるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理での図 2 8 3 のステップ S 2 2 1 8 において参照される。

【 3 7 5 9 】

<ステップ S 2 2 1 8>

大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 0 1 : Y e s）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、図 2 8 3 に示すように、M P U 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 2 2 1 8）。

40

【 3 7 6 0 】

M P U 4 1 は、オープニング中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 1 8 : Y e s）、即ちオープニングの実行中である場合、処理を図 2 8 4 のステップ S 2 2 1 9 に移行する。一方、オープニング中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 1 8 : N o）、即ちオープニングの実行中でない場合、処理をステップ S 2 2 2 9 に移行する。

50

【 3 7 6 1 】

<ステップ S 2 2 1 9 及び S 2 2 2 0 >

オープニング中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 1 8 : Y e s ）、即ちオープニングの実行中である場合、図 2 8 4 に示すように、M P U 4 1 は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタの値から 1 減算し（ステップ S 2 2 1 9 ）、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 2 2 2 0 ）。即ち、M P U 4 1 は、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断する。

【 3 7 6 2 】

M P U 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 2 0 : Y e s ）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、処理をステップ S 2 2 2 1 に移行する。一方、M P U 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 2 2 0 : N o ）、即ちオープニングを終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

10

【 3 7 6 3 】

<ステップ S 2 2 2 1 及び S 2 2 2 2 >

減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 2 0 : Y e s ）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技のオープニングが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するオープニング終了コマンドを設定する（ステップ S 2 2 2 1 ）。オープニング終了コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 6 7 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、オープニング終了コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるオープニング演出を終了させることができる。

20

【 3 7 6 4 】

そして、M P U 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 2 2 ）、処理をステップ S 2 2 2 3 に移行する。

【 3 7 6 5 】

<ステップ S 2 2 2 3 >

ステップ S 2 2 2 3 では、M P U 4 1 は、複数回（4 回又は 1 0 回）のラウンド遊技が実行される開閉実行モードが開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する開閉実行モード開始コマンドを設定し、処理をステップ S 2 2 2 4 に移行する。開閉実行モード開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 6 7 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、開閉実行モード開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される開閉実行モード演出を開始させることができる。

30

【 3 7 6 6 】

<ステップ S 2 2 2 4 >

ステップ S 2 2 2 4 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知するラウンド遊技開始コマンドを設定し、処理をステップ S 2 2 2 5 に移行する。ラウンド遊技開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 6 7 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、ラウンド遊技開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいてラウンド数表示などを含む各ラウンド遊技に対応するラウンド遊技演出を開始させることができる。

40

【 3 7 6 7 】

なお、本実施形態では、特図大当たり遊技の各ラウンド遊技において個別にラウンド遊技演出が実行されるが、ラウンド遊技演出は、開閉実行モードにおいて一連の 1 つの演出を実行し、各ラウンド遊技において当該ラウンド遊技のラウンド数を表示するものであってもよい。この場合、ラウンド遊技間ではインターバル演出を実行しなくてもよいし、またインターバル演出として次回に実行されるラウンド遊技のラウンド数を表示する演出を

50

実行してもよい。

【3768】

<ステップS2225及びS2226>

ステップS2225では、MPU41は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタから1減算し、さらに、MPU41は、可変入賞装置38の振分機能部としての開閉扉382を作動機能部によって作動することで可変入賞口381を開放させ（ステップS2226）、処理をステップS2227に移行する。

【3769】

<ステップS2227及びS2228>

ステップS2227では、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオンに設定し、さらに、ラウンド遊技の残り時間を示すラウンド遊技時間カウンタをセットし（ステップS2228）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。ラウンド遊技時間カウンタは、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可変入賞装置38の開閉扉382を復帰させて可変入賞口381を閉鎖）するタイミングであるか判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図285のステップS2231において参照される。

10

【3770】

<ステップS2229>

図283に戻り、オープニング中フラグがオフである場合（ステップS2218：No）、即ちオープニングの実行中でない場合、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS2229）。即ち、MPU41は、ラウンド遊技の実行中であるか否かを判断する。

20

【3771】

MPU41は、ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップS2229：Yes）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、処理を図285のステップS2230に移行する。一方、MPU41は、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップS2229：No）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、処理をステップS2243に移行する。

【3772】

<ステップS2230及びS2231>

ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップS2229：Yes）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、図285に示すように、MPU41は、ラウンド遊技の残り時間を示すラウンド遊技時間カウンタの値から1減算する（ステップS2230）。そして、MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS2231）。即ち、MPU41は、規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可変入賞装置38の開閉扉382を復帰させて可変入賞口381を閉鎖）するタイミングであるか否かを判断する。

30

【3773】

MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS2231：Yes）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可変入賞装置38の開閉扉382を復帰させて可変入賞口381を閉鎖）するタイミングである場合、処理をステップS2235に移行する。一方、MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2231：No）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可変入賞装置38の開閉扉382を復帰させて可変入賞口381を閉鎖）するタイミングでない場合、処理をステップS2232に移行する。

40

【3774】

<ステップS2232>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2224：No）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了（可変入賞装置38の開閉扉382を復帰させて可変入賞口381を閉鎖）するタイミングでない場合、MPU41は、可変入賞

50

口 3 8 1 (V 入 賞 口 3 8 3 又 は 通 常 入 賞 口 3 8 4) に 対 す る 遊 技 球 の 入 球 が あ っ た か 否 か を 判 断 す る (ス テ ッ プ S 2 2 3 2) 。 可 変 入 賞 口 3 1 6 に 対 す る 遊 技 球 の 入 球 が あ っ た か 否 か は 、 図 1 7 の 主 タイ マ 割 込 処 理 で の ス テ ッ プ S 1 0 0 1 の セ ン サ 検 出 処 理 に お い て 、 入 球 セ ン サ 3 8 2 a , 3 8 3 a へ の 遊 技 球 の 入 球 が 検 出 さ れ た 場 合 に R A M 4 1 2 に 保 存 さ れ る 入 賞 検 知 情 報 に 基 づ い て 判 断 さ れ る 。

【 3 7 7 5 】

M P U 4 1 は 、 可 変 入 賞 口 3 8 1 に 対 す る 遊 技 球 の 入 球 が あ っ た 場 合 (ス テ ッ プ S 2 2 3 2 : Y e s) 、 処 理 を ス テ ッ プ S 2 2 3 3 に 移 行 し 、 可 変 入 賞 口 3 8 1 に 対 す る 遊 技 球 の 入 球 が な か っ た 場 合 (ス テ ッ プ S 2 2 3 2 : N o) 、 当 該 大 当 たり 遊 技 制 御 処 理 を 終 了 す る 。

10

【 3 7 7 6 】

< ス テ ッ プ S 2 2 3 3 及 び S 2 2 3 4 >

可 変 入 賞 口 3 8 1 に 対 す る 遊 技 球 の 入 球 が あ っ た 場 合 (ス テ ッ プ S 2 2 3 2 : Y e s) 、 M P U 4 1 は 、 当 該 ラ ウ ン ド 遊 技 で の 可 変 入 賞 口 3 8 1 へ の 遊 技 球 の 入 球 数 を 示 す 入 球 数 カ ウ ン タ の 値 に 1 加 算 す る (ス テ ッ プ S 2 2 3 3) 。 そ し て 、 M P U 4 1 は 、 加 算 後 の 入 球 数 カ ウ ン タ の 値 が 1 0 に 達 し た か 否 か (ス テ ッ プ S 2 2 3 4) 、 即 ち 可 変 入 賞 口 3 8 1 へ の 上 限 数 の 遊 技 球 の 入 球 に よ り ラ ウ ン ド 遊 技 を 終 了 (可 変 入 賞 装 置 3 8 の 開 閉 扉 3 8 2 の 復 帰 に よ り 可 変 入 賞 口 3 8 1 を 閉 鎖) す る タイ ミ ン グ で あ る か 否 か を 判 断 す る 。

【 3 7 7 7 】

M P U 4 1 は 、 加 算 後 の 入 球 数 カ ウ ン タ の 値 が 1 0 に 達 し て い る 場 合 (ス テ ッ プ S 2 2 3 4 : Y e s) 、 即 ち 可 変 入 賞 口 3 8 1 へ の 上 限 数 の 遊 技 球 の 入 球 に よ り ラ ウ ン ド 遊 技 を 終 了 (開 閉 扉 3 8 2 の 復 帰 に よ り 可 変 入 賞 口 3 8 1 を 閉 鎖) す る タイ ミ ン グ で あ る 場 合 、 処 理 を ス テ ッ プ S 2 2 3 5 に 移 行 す る 。 一 方 、 M P U 4 1 は 、 加 算 後 の 入 球 数 カ ウ ン タ の 値 が 1 0 に 達 し て い な い 場 合 (ス テ ッ プ S 2 2 3 4 : N o) 、 即 ち 可 変 入 賞 口 3 8 1 へ の 上 限 数 の 遊 技 球 の 入 球 に よ り ラ ウ ン ド 遊 技 を 終 了 (開 閉 扉 3 8 2 の 復 帰 に よ り 可 変 入 賞 口 3 8 1 を 閉 鎖) す る タイ ミ ン グ で な い 場 合 、 当 該 大 当 たり 遊 技 制 御 処 理 を 終 了 す る 。

20

【 3 7 7 8 】

< ス テ ッ プ S 2 2 3 5 >

減 算 後 の ラ ウ ン ド 遊 技 時 間 カ ウ ン タ の 値 が 0 で あ る 場 合 (ス テ ッ プ S 2 2 3 1 : Y e s) 、 又 は 入 球 数 カ ウ ン タ の 値 が 1 0 に 達 し た 場 合 (ス テ ッ プ S 2 2 3 1 : Y e s) 、 M P U 4 1 は 、 振 分 機 能 部 と し て の 開 閉 扉 3 8 2 を 終 了 機 能 部 に よ っ て 復 帰 す る こ と で 可 変 入 賞 口 3 8 1 を 閉 鎖 し (ス テ ッ プ S 2 2 3 5) 、 処 理 を ス テ ッ プ S 2 2 3 6 に 移 行 す る 。 即 ち 、 M P U 4 1 は 、 規 定 時 間 の 経 過 に よ り 、 又 は 可 変 入 賞 口 3 8 1 へ の 上 限 数 の 遊 技 球 の 入 球 に よ り ラ ウ ン ド 遊 技 を 終 了 す る タイ ミ ン グ で あ る 場 合 、 可 変 入 賞 口 3 8 1 を 閉 鎖 し て ラ ウ ン ド 遊 技 を 終 了 す る 。

30

【 3 7 7 9 】

< ス テ ッ プ S 2 2 3 6 ~ S 2 2 3 8 >

ス テ ッ プ S 2 2 3 6 で は 、 M P U 4 1 は 、 ラ ウ ン ド 遊 技 が 終 了 す る こ と を 音 声 ラ ン プ 制 御 装 置 5 に 通 知 す る ラ ウ ン ド 遊 技 終 了 コ マ ン ド を 設 定 す る 。 ラ ウ ン ド 遊 技 終 了 コ マ ン ド は 、 M P U 4 1 に よ り 実 行 さ れ る 次 回 の メ イ ン 処 理 (図 2 6 7 参 照) で の ス テ ッ プ S 1 4 0 1 の 外 部 出 力 処 理 に お い て 音 声 ラ ン プ 制 御 装 置 5 に 送 信 さ れ る 。 こ れ に よ り 、 音 声 ラ ン プ 制 御 装 置 5 で は 、 ラ ウ ン ド 遊 技 終 了 コ マ ン ド に 基 づ い て 、 図 柄 表 示 部 3 4 1 な ど に お い て 実 行 さ れ る ラ ウ ン ド 遊 技 演 出 を 終 了 さ せ る こ と が で き る 。

40

【 3 7 8 0 】

そ し て 、 M P U 4 1 は 、 当 該 ラ ウ ン ド 遊 技 で の 可 変 入 賞 口 3 8 1 へ の 遊 技 球 の 入 球 数 を 示 す 入 球 数 カ ウ ン タ を ク リ ア す る 共 に (ス テ ッ プ S 2 2 3 7) 、 ラ ウ ン ド 遊 技 の 実 行 中 で あ る こ と を 示 す ラ ウ ン ド 遊 技 中 フ ラ グ を オ フ に 設 定 し (ス テ ッ プ S 2 2 3 8) 、 処 理 を ス テ ッ プ S 2 2 3 9 に 移 行 す る 。

【 3 7 8 1 】

< ス テ ッ プ S 2 2 3 9 >

50

ステップ S 2 2 3 9 では、M P U 4 1 は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタが 0 であるか否か、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである（未実行のラウンド遊技がある）か否かを判断する。

【 3 7 8 2 】

M P U 4 1 は、ラウンド数カウンタが 0 である場合（ステップ S 2 2 3 9 : Y e s）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、処理をステップ S 2 2 4 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、ラウンド数カウンタが 0 でない場合（ステップ S 2 2 3 9 : N o）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、処理をステップ S 2 2 4 0 に移行する。

【 3 7 8 3 】

<ステップ S 2 2 4 0 >

ラウンド数カウンタが 0 でない場合（ステップ S 2 2 3 9 : N o）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、M P U 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するインターバル開始コマンドを設定し（ステップ S 2 2 4 0）、処理をステップ S 2 2 4 1 に移行する。インターバル開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 2 6 7 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、インターバル開始コマンドに基づいて、図柄表示部 3 4 1 などにおいてインターバル演出を開始させることができる。

【 3 7 8 4 】

なお、本実施形態では、特図大当たり遊技でのラウンド遊技間のインターバルにおいてインターバル演出が実行されるが、インターバル演出を省略し、インターバルにおいて、先に実行されたラウンド遊技に対するラウンド遊技演出を継続して実行してもよく、また次に実行されるラウンド遊技に対するラウンド遊技演出を実行してもよい。

【 3 7 8 5 】

<ステップ S 2 2 4 1 及び S 2 2 4 2 >

ステップ S 2 2 4 1 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオンに設定する。そして、M P U 4 1 は、インターバルの残り時間を示すインターバル時間カウンタをセットし（ステップ S 2 2 4 2）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。インターバル時間カウンタは、インターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるかを判断するために、当該大当たり遊技制御処理での図 3 2 のステップ S 2 2 4 5 において参照される。

【 3 7 8 6 】

<ステップ S 2 2 4 3 >

図 2 8 3 に戻り、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 2 9 : N o）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 2 2 4 3）。インターバル中フラグは、インターバルを開始する場合に当該大当たり遊技制御処理での図 2 8 5 のステップ S 2 2 4 1 においてオンに設定され、インターバルを終了する場合に当該大当たり遊技制御処理での図 2 8 6 のステップ S 2 2 4 7 においてオフに設定される。

【 3 7 8 7 】

M P U 4 1 は、インターバル中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 4 3 : Y e s）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、処理を図 2 8 6 のステップ S 2 2 4 4 に移行する。一方、M P U 4 1 は、インターバル中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 4 3 : N o）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、処理をステップ S 2 2 5 2 に移行する。

【 3 7 8 8 】

<ステップ S 2 2 4 4 及び S 2 2 4 5 >

インターバル中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 4 3 : Y e s）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、図 2 8 6 に示すように、M P U 4 1 は、インタ

10

20

30

40

50

ーバルの残り時間を示すインターバル時間カウンタの値から1減算する（ステップS2244）。そして、MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0であるか否か（ステップS2245）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるか否かを判断する。

【3789】

MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0である場合（ステップS2245：Yes）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS2246に移行する。一方、MPU41は、減算後のインターバル時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2245：No）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

10

【3790】

<ステップS2246及びS2247>

減算後のインターバル時間カウンタの値が0である場合（ステップS2245：Yes）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、MPU41は、インターバルが終了することを音声ランプ制御装置5に通知するインターバル終了コマンドを設定する（ステップS2246）。インターバル終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図267参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、インターバル終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行されるインターバル演出を終了させることができる。

20

【3791】

そして、MPU41は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオフに設定し（ステップS2247）、処理を前述の図284のステップS2224に移行する。処理を前述の図284のステップS2224に移行することにより、ラウンド遊技の開始に関するステップS2224～S2228の処理を実行し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3792】

<ステップS2248>

図285に戻り、ラウンド数カウンタが0である場合（ステップS2239：Yes）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、MPU41は、大当たり遊技の開閉実行モードを終了することを音声ランプ制御装置5に通知する開閉実行モード終了コマンドを設定し（ステップS2248）、処理をステップS2249に移行する。開閉実行モード終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図267参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、開閉実行モード終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行されるラウンド遊技演出（開閉実行モード演出）を終了させることができる。

30

【3793】

<ステップS2249>

ステップS2249では、MPU41は、大当たり遊技のエンディングを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング開始コマンドを設定し、処理をステップS2250に移行する。エンディング開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図267参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5では、エンディング開始コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいてエンディング演出を開始させることができる。

40

【3794】

<ステップS2250及びS2251>

ステップS2250では、MPU41は、エンディングの実行中であることを示すエン

50

ディング中フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、エンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタをセットし（ステップS2251）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。エンディング時間カウンタは、エンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングであるかを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図286でのステップS2254において参照される。

【3795】

<ステップS2252>

図283に戻り、インターバル中フラグがオフである場合（ステップS2243：No）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS2252）。 10

【3796】

MPU41は、エンディング中フラグがオンである場合（ステップS2252：Yes）、即ちエンディングの実行中である場合、処理を図286のステップS2253に移行する。一方、MPU41は、エンディング中フラグがオフである場合（ステップS2252：No）、即ちエンディングの実行中でない場合、処理をステップS2253に移行する。

【3797】

<ステップS2253及びS2254>

エンディング中フラグがオンである場合（ステップS2252：Yes）、即ちエンディングの実行中である場合、図286に示すように、MPU41は、エンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタの値から1減算する（ステップS2253）。そして、MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS2254）。即ち、MPU41は、エンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングであるか否かを判断する。 20

【3798】

MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0である場合（ステップS2254：Yes）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、処理をステップS2255に移行する。一方、MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2254：No）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。 30

【3799】

<ステップS2255及びS2256>

減算後のエンディング時間カウンタの値が0である場合（ステップS2254：Yes）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、MPU41は、大当たり遊技のエンディングを終了することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング終了コマンドを設定する（ステップS2255）。エンディング終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図267参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、エンディング終了コマンドに基づいて、図柄表示部341などにおいて実行されるエンディング演出を終了させることができる。 40

【3800】

そして、MPU41は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオフに設定し（ステップS2256）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3801】

<ステップS2257>

図283に戻り、エンディング中フラグがオフである場合（ステップS2252：No）、即ちオープニング中、ラウンド遊技中、インターバル中及びエンディング中のいずれでもない場合、MPU41は、特別遊技としての大当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置5に通知する大当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップS2257）、処理をステップS2258に移行する。大当たり遊技終了コマンドは、MPU41により実 50

行される次のメイン処理（図 267 参照）でのステップ S 1401 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、大当たり遊技終了コマンドに基づいて、図柄表示部 341 などにおいて実行される大当たり遊技演出を終了させることができる。

【3802】

<ステップ S 2258 及び S 2259>

ステップ S 2258 では、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオンに設定する。大当たり遊技終了フラグは、遊技状態を大当たり遊技状態から移行するか否かを判断するために、後述の図 289 の遊技状態移行処理のステップ S 2313 において参照される。

10

【3803】

そして、MPU 41 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップ S 2259）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【3804】

[小当たり遊技制御処理]

ここで、図 287 及び図 288 は、図 267 のメイン処理でのステップ S 1407-1 において MPU 41 によって実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の小当たり遊技制御処理では、第 2 入賞口 315 への遊技球の入球を契機として実行される大当たり抽選での抽選結果が小当たりであることに基づいて実行される小当たり遊技において、可変入賞装置 38 の作動を制御する処理が実行される。

20

【3805】

<ステップ S 3401>

図 287 に示すように、本実施形態の小当たり遊技制御処理では、MPU 41 は、まず第 1 特図又は第 2 特図が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3401）。即ち、MPU 41 は、第 1 特図又は第 2 特図の停止表示によって特図遊技（第 1 特図遊技、第 2 特図遊技）が終了されることで、有利遊技としての小当たり遊技を開始可能なタイミングとなったか否かを判断する。なお、特図変動停止フラグは、図 273 の特図遊技制御処理でのステップ S 1909 において第 1 特図又は第 2 特図を停止表示させる場合にオンに設定される。

30

【3806】

MPU 41 は、特図変動停止フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3401：Yes）、即ち特図遊技が終了した小当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップ S 3402 に移行する。一方、MPU 41 は、特図変動停止フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3401：No）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理をステップ S 3408 に移行する。

【3807】

<ステップ S 3402>

特図変動停止フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3401：Yes）、即ち特図遊技が終了して小当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、MPU 41 は、当該特図遊技に対する振分機能部による大当たり抽選の結果が遊技条件の成立としての小当たりであるか否かを判断する（ステップ S 3402）。大当たり抽選の結果が小当たりであるか否かは、図 281 の特図変動開始処理でのステップ S 2102 又は S 2116 において特図保留格納エリア 412b の特図実行エリア AE から読み出される当否情報に基づいて判断される。

40

【3808】

MPU 41 は、当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合（ステップ S 3402：Yes）、処理をステップ S 3403 に移行する。一方、MPU 41 は、大当たり抽選の結果が小当たりでない場合（ステップ S 3402：No）、即ち大当たり抽選の結果が外れである場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

50

【3809】

<ステップS3403及びS3404>

当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合（ステップS3402：Yes）、MPU41は、小当たり遊技が開始されることを示す小当たり遊技開始フラグをオンに設定する（ステップS3403）。そして、MPU41は、小当たり遊技が開始されることを音声ランプ制御装置5に通知する小当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップS3404）、処理をステップS3405に移行する。

【3810】

小当たり遊技開始コマンドは、図267のメイン処理でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。音声ランプ制御装置5では、小当たり遊技開始コマンドを受信することで、図柄表示部341などにおいて実行される小当たり遊技演出を設定することができる。

【3811】

<ステップS3405～S3407>

ステップS3405では、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが実行されていることを示すオープニングフラグをオンに設定する。また、MPU41は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタをセットする（ステップS3406）。さらに、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが開始されることを音声ランプ制御装置5に通知する小当たりオープニング開始コマンドを設定し（ステップS3406）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3812】

小当たりオープニング開始コマンドは、図267のメイン処理でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。音声ランプ制御装置5では、小当たりオープニング開始コマンドを受信することで、図柄表示部341などにおいて実行される小当たり遊技でのオープニング演出を開始することができる。

【3813】

<ステップS3408>

特図変動停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS3401：No）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが実行されていることを示すオープニングフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3408）。

【3814】

MPU41は、オープニングフラグがオンに設定されている場合（ステップS3408：Yes）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されている場合、処理をステップS3409に移行する。一方、MPU41は、オープニングフラグがオフに設定されている場合（ステップS3408：No）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されていない場合、処理を図288のステップS3419に移行する。

【3815】

<ステップS3409～S3412>

オープニングフラグがオンに設定されている場合（ステップS3408：Yes）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されている場合、MPU41は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタの値から1減算し（ステップS3409）、減算後のオープニング時間カウンタが0であるか否かを判断する（ステップS3410）。即ち、MPU41は、小当たり遊技において、オープニングを終了して可変入賞装置38の開閉扉832の作動を開始するタイミングであるか否かを判断する。

【3816】

MPU41は、減算後のオープニング時間カウンタが0である場合（ステップS3410：Yes）、即ち小当たり遊技において、オープニングを終了して可変入賞装置38の開閉扉832の作動を開始するタイミングである場合、オープニングが実行されていることを示すオープニングフラグをオフに設定し（ステップS3414）、さらに小当たりの

10

20

30

40

50

オープニングが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知する小当たりオープニング終了コマンドを設定し（ステップ S 3 4 1 2）、処理をステップ S 3 4 1 3 に移行する。

【3 8 1 7】

小当たりオープニング終了コマンドは、図 2 6 7 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、小当たりオープニング終了コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される小当たり遊技でのオープニング演出を終了することができる。

【3 8 1 8】

一方、MPU 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタが 0 でない場合（ステップ S 3 4 1 0：No）、即ち小当たり遊技において、オープニングを終了して可変入賞装置 3 8 の開閉扉 8 3 2 の作動を開始するタイミングでない場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3 8 1 9】

<ステップ S 3 4 1 3 ~ 3 4 1 5>

ステップ S 3 4 1 3 では、可変入賞装置 3 8 の振分機能部としての開閉扉 8 3 2 を作動機能部によって作動させ、処理をステップ S 3 4 1 4 に移行する。このように、小当たり遊技において可変入賞装置 3 8 の開閉扉 8 3 2 の作動が開始されることで、可変入賞装置 3 9 の可変入賞口 3 8 1 が開放され、可変入賞装置 3 8 の内部への遊技球の入球が可能となる。

【3 8 2 0】

そして、MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 8 の開閉扉 8 3 2 が作動されていること示す開閉扉作動フラグをオンに設定し（ステップ S 3 4 1 4）、さらに、可変入賞装置 3 8 の開閉扉 8 3 2 の作動が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する開閉扉作動開始コマンドを設定し（ステップ S 3 4 1 5）、処理をステップ S 3 4 1 6 に移行する。

【3 8 2 1】

開閉扉作動開始コマンドは、図 2 6 7 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、開閉扉作動開始コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される小当たり遊技での可動羽部作動演出を実行することができる。

【3 8 2 2】

<ステップ S 3 4 1 6 及び S 3 4 1 7>

ステップ S 3 4 1 6 では、MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 8 の開閉扉 8 3 2 の残りの作動時間を示す開閉扉作動時間カウンタをセットし（ステップ S 3 4 1 6）、処理をステップ S 3 4 1 7 に移行する。

【3 8 2 3】

<ステップ S 3 4 1 7 及び S 3 4 1 8>

ステップ S 3 4 1 7 では、MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 8 の振分機能部としての V 入賞口開閉扉 3 8 5 を作動機能部によって作動させ、さらに、MPU 4 1 は、V 入賞口開閉扉 3 8 5 の作動残り時間を示す V 入賞口開閉扉作動時間カウンタをセットし（ステップ S 3 4 1 8）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3 8 2 4】

<ステップ S 3 4 1 9>

オープニングフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 8：No）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されていない場合、図 2 8 8 に示すように、MPU 4 1 は、V 入賞口開閉扉 3 8 5 が作動中であることを示す V 入賞口開閉扉作動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 1 9）。MPU 4 1 は、V 入賞口開閉扉作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 1 9：Yes）、処理をステップ S 3 4 2 0 に移行し、V 入賞口開閉扉作動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 1 9：No）、処理をステップ S 3 4 2 8 に移行する。

【3 8 2 5】

<ステップ S 3 4 2 0>

V入賞口開閉扉作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 1 9 : Y e s）、MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 9 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 0）。V 入賞フラグは、可変入賞装置 3 9 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球した場合にステップ S 3 4 2 2 においてオンに設定される。

【3 8 2 6】

MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 9 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 0 : Y e s）、処理をステップ S 3 4 2 4 に移行し、V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 0 : N o）、処理をステップ S 3 4 2 1 に移行する。

10

【3 8 2 7】

<ステップ S 3 4 2 1 ~ S 3 4 2 3>

V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 0 : N o）、MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 9 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球したか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 1）。可変入賞装置 3 9 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球したか否かは、例えば図 2 6 7 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 3 の賞球コマンド設定処理において、V 入賞口 3 8 3 に遊技球 9 9 が入球されたことが入球センサ（不図示）によって検知されたか否かによって判断される。

20

【3 8 2 8】

MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 9 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球した場合（ステップ S 3 4 2 1 : Y e s）、V 入賞フラグをオンに設定し（ステップ S 3 4 2 2）、さらに、可変入賞装置 3 9 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球したことを音声ランプ制御装置 5 に通知する V 入賞コマンドを設定し（ステップ S 3 4 2 3）、処理をステップ S 3 4 2 4 に移行する。

【3 8 2 9】

V 入賞コマンドは、図 2 6 7 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、V 入賞コマンドを受信することで、図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される小当たり遊技での V 入賞演出を終了することができる。

30

【3 8 3 0】

一方、MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 9 の V 入賞口 3 8 3 に遊技球が入球していない場合（ステップ S 3 4 2 1 : N o）、処理をステップ S 3 4 2 4 に移行する。

【3 8 3 1】

<ステップ S 3 4 2 4 及び S 3 4 2 5>

ステップ S 3 4 2 4 では、MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 8 の V 入賞口開閉扉 3 8 5 の残りの作動時間を示す V 入賞口開閉扉作動時間カウンタから 1 減算し、さらに、MPU 4 1 は、減算後の V 入賞口開閉部作動時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 5）。即ち、MPU 4 1 は、可変入賞装置 3 8 の V 入賞口開閉扉 3 8 5 を復帰（V 入賞口 3 8 3 を閉鎖）させるタイミングであるか否かを判断する。

40

【3 8 3 2】

MPU 4 1 は、減算後の V 入賞口開閉扉作動時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 3 4 2 5 : Y e s）、即ち可変入賞装置 3 8 の V 入賞口開閉扉 3 8 5 を復帰（V 入賞口 3 8 3 を閉鎖）させるタイミングである場合、処理をステップ S 3 4 2 6 に移行する。一方、MPU 4 1 は、減算後の V 入賞口開閉扉作動時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 3 4 2 5 : N o）、即ち可変入賞装置 3 8 の V 入賞口開閉扉 3 8 5 を復帰（V 入賞口 3 8 3 を閉鎖）させるタイミングでない場合、処理をステップ S 3 4 2 8 に移行する。

【3 8 3 3】

<ステップ S 3 4 2 6 及び S 3 4 2 7>

50

減算後のV入賞口開閉扉作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS3425：Yes）、即ち可変入賞装置38のV入賞口開閉扉385を復帰（V入賞口383を閉鎖）させるタイミングである場合、MPU41は、振分機能部としてのV入賞口開閉扉385を終了機能部によって復帰させると共に（ステップS3426）、V入賞口開閉扉385が作動されていることを示すV入賞口開閉扉作動フラグをオフに設定し（ステップS3427）、処理をステップS3428に移行する。

【3834】

<ステップS3428>

ステップS3428では、MPU41は、可変入賞装置38の開閉扉832が作動中であることを示す開閉扉作動フラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU41は、開閉扉作動フラグがオンに設定されている場合（ステップS3428：Yes）、処理をステップS3429に移行し、開閉扉作動フラグがオフに設定されている場合（ステップS3428：No）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

10

【3835】

<ステップS3429及びS3430>

開閉扉作動フラグがオンに設定されている場合（ステップS3428：Yes）、MPU41は、可変入賞装置38の開閉扉832の残りの作動時間を示す開閉扉作動時間カウンタの値から1減算する（ステップS3429）。そして、MPU41は、減算後の開閉扉作動時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3430）。即ち、MPU41は、可変入賞装置38の開閉扉832を復帰させて可変入賞口381を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングであるか否かを判断する。

20

【3836】

MPU41は、減算後の開閉扉作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS3430：Yes）、即ち可変入賞装置38の開閉扉832を復帰させて可変入賞口381を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングである場合、処理をステップS3331に移行する。一方、MPU41は、減算後の可動羽部作動時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3430：No）、即ち可変入賞装置38の開閉扉832を復帰させて可変入賞口381を閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングでない場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

30

【3837】

<ステップS3431～S3434>

減算後の開閉扉作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS3430：Yes）、MPU41は、可変入賞装置38の振分機能部としての開閉扉832を終了機能部によって復帰させることで特別遊技としての小当たり遊技を終了する（ステップS3431）。そして、MPU41は、開閉扉832が作動されていることを示す開閉扉作動フラグをオフに設定する（ステップS3432）。

【3838】

さらに、MPU41は、可変入賞装置39のV入賞口383に遊技球が入球したことを示すV入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3433）。MPU41は、V入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップS3433：Yes）、V非入賞コマンドを設定し（ステップS3434）、処理をステップS3435に移行する。一方、MPU41は、V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS3433：No）、処理をステップS3435に移行する。

40

【3839】

<ステップS3435及びS3436>

ステップS3435では、MPU41は、小当たり遊技が終了したことを示す小当たり遊技終了フラグをオンに設定し、さらに、MPU41は、小当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置5に通知する小当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップS3436）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【3840】

50

〔遊技状態移行処理〕

ここで、図289及び図290は、図267のメイン処理のステップS1408で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャートである。遊技状態移行処理では、各種遊技状態（通常遊技状態、時短遊技状態、確変遊技状態、確変大当たり遊技状態及び通常大当たり遊技状態）の移行を制御する処理が実行される。以下、図289及び図290を参照しつつ、遊技状態移行処理を説明する。

〔3841〕

＜ステップS3601＞

図289に示すように、ステップS3601では、MPU41は、有利遊技として大当たり遊技（特図大当たり遊技又はV入賞大当たり遊技）を開始することを示す大当たり遊技開始フラグがオンであるか否かを判断する。

10

〔3842〕

MPU41は、大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3601：Yes）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS3602に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3601：No）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングでない場合、処理をステップS3605に移行する。

〔3843〕

＜ステップS3602～S2304＞

大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3601：Yes）、即ち大当たり遊技を開始する場合、MPU41は、特別遊技としての大当たり遊技状態であることを示す大当たり遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS3602）。そして、MPU41は、大当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS3603）、大当たり遊技状態に移行する前の終了条件が成立した遊技状態に対する他の遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3604）、当該遊技状態移行処理を終了する。

20

〔3844〕

＜ステップS3605～S2307＞

大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3601：No）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングでない場合、MPU41は、終了条件の成立により大当たり遊技を終了することを示す大当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3605）。MPU41は、大当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS3605：Yes）、大当たり遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3606）、大当たり遊技状態終了フラグをオフに設定し（ステップS3607）、処理をステップS3608に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップS3605：No）、処理をステップS3615に移行する。

30

〔3845〕

＜ステップS3608＞

ステップS3608では、MPU41は、終了する大当たり遊技が特図大当たり遊技であることを示す特図大当たりフラグがオンであるか否かを判断する。即ち、MPU41は、終了条件の成立によって特別図柄の停止表示される場合、振分機能部による大当たり抽選の結果が遊技条件としての大当たりであることに基づいて、特別図柄によって遊技結果が導出されたか否かを判断する。

40

〔3846〕

MPU41は、特図大当たりフラグがオンである場合（ステップS3608：Yes）、処理をステップS3609に移行し、特図大当たりフラグがオフである場合（ステップS3608：No）、処理をステップS3612に移行する。

〔3847〕

＜ステップS3609～S2311＞

特図大当たりフラグがオンである場合（ステップS3608：Yes）、MPU41は、a時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグをオンに設定し（ステップS3

50

609)、a時短遊技状態で実行可能な残りの特図遊技回数を示すa時短遊技回数カウンタをセットする(ステップS3610)。さらに、MPU41は、特図大当たりフラグをオフに設定し(ステップS3611)、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3848】

<ステップS3612>

特図大当たりフラグがオフである場合(ステップS3608:No)、MPU41は、終了する大当たり遊技が特別遊技としてのV入賞大当たり遊技であることを示すV入賞大当たりフラグがオンであるか否かを判断する(ステップS3612)。MPU41は、V入賞大当たりフラグがオンである場合(ステップS3612:Yes)、処理をステップS3613に移行し、V入賞大当たりフラグがオフである場合(ステップS3608:No)、当該遊技状態移行処理を終了する。

10

【3849】

<ステップS3613及びS2314>

V入賞大当たりフラグがオンである場合(ステップS3612:Yes)、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し(ステップS3613)、V入賞大当たりフラグをオフに設定し(ステップS3614)、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3850】

<ステップS3615>

大当たり遊技終了フラグがオフである場合(ステップS3605:No)、MPU41は、小当たり遊技開始フラグがオンであるか否かを判断する(ステップS3615)。即ち、MPU41は、終了条件の成立によって特別図柄の停止表示される場合、振分機能部による大当たり抽選の結果が遊技条件としての小当たりであることに基づいて、特別図柄によって遊技結果が導出されたか否かを判断する。

20

【3851】

MPU41は、小当たり遊技開始フラグがオンである場合(ステップS3615:Yes)、即ち特別遊技としての小当たり遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS3616に移行する。一方、MPU41は、小当たり遊技開始フラグがオフである場合(ステップS3615:No)、即ち小当たり遊技を開始するタイミングでない場合、処理をステップS3619に移行する。

30

【3852】

<ステップS3616～S2318>

小当たり遊技開始フラグがオンである場合(ステップS3615:Yes)、即ち小当たり遊技を開始する場合、MPU41は、小当たり遊技状態であることを示す小当たり遊技状態フラグをオンに設定する(ステップS3616)。そして、MPU41は、小当たり遊技開始フラグをオフに設定し(ステップS3617)、小当たり遊技状態に移行する前の終了条件が成立した遊技状態に対する他の遊技状態フラグをオフに設定し(ステップS3618)、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3853】

<ステップS3619>

小当たり遊技開始フラグがオフである場合(ステップS3615:No)、特別遊技としての小当たり遊技が終了条件の成立により終了することを示す小当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する(ステップS3619)。MPU41は、小当たり遊技終了フラグがオンである場合(ステップS3619:Yes)、処理をステップS3620に移行し、小当たり遊技終了フラグがオフである場合(ステップS3619:No)、処理を図290のステップS3623に移行する。

40

【3854】

<ステップS3620～S2322>

小当たり遊技終了フラグがオンである場合(ステップS3619:Yes)、MPU41は、小当たり遊技状態フラグをオフに設定し(ステップS3620)、小当たり遊技状

50

態終了フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 1）、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 3 6 2 2）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3855】

<ステップ S 3 6 2 3>

小当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 1 9：Yes）、図 2 9 0 に示すように、遊技状態を通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 6 2 3）。MPU 4 1 は、通常遊技状態移行フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 2 3：Yes）、処理をステップ S 3 6 2 4 に移行し、通常遊技状態移行フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 2 3：No）、処理をステップ S 3 6 2 7 に移行する。

10

【3856】

<ステップ S 3 6 2 4～S 2 3 2 6>

通常遊技状態移行フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 2 3：Yes）、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定する（ステップ S 3 6 2 4）。そして、MPU 4 1 は、通常遊技状態に移行する前の終了条件が成立した遊技状態に対する他の遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 5）、通常遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 6）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3857】

<ステップ S 3 6 2 7>

通常遊技状態移行フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 2 3：No）、MPU 4 1 は、遊技状態を c 時短遊技状態に移行させる c 時短遊技状態移行フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 6 2 7）。即ち、MPU 4 1 は、変動表示が開始される当該特図遊技に対する振分機能部による大当たり抽選の結果が遊技条件の成立である c 時短移行であることに基づいて a 時短遊技状態の終了条件が成立することで遊技状態を a 時短遊技状態から c 時短遊技状態に移行させるための c 時短遊技状態移行フラグがオンであるか否かを判断する。

20

【3858】

MPU 4 1 は、c 時短遊技状態移行フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 2 7：Yes）、処理をステップ S 3 6 2 8 に移行し、c 時短遊技状態移行フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 2 3：No）、当該遊技状態移行処理を終了する。

30

【3859】

<ステップ S 3 6 2 8～S 2 3 3 0>

c 時短遊技状態移行フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 2 7：Yes）、c 時短遊技状態であることを示す c 時短遊技状態フラグをオンに設定する（ステップ S 3 6 2 8）。そして、MPU 4 1 は、c 時短遊技状態に移行する前の遊技状態である a 時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 9）、c 時短遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 3 0）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【3860】

[音声ランプ制御装置 5 の処理]

40

本実施形態では、音声ランプ制御装置 5 によって実行されるコマンド判定処理の一部の手順が前述の第 1 の実施形態とは異なる。

【3861】

[コマンド処理]

ここで、図 2 9 1～図 2 9 3 は、コマンド判定処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図 2 9 1～図 2 9 3 を参照しつつ、コマンド判定処理を説明する。

【3862】

<ステップ S 3 7 0 1>

図 2 9 1 に示すように、本実施形態のコマンド判定処理では、まず MPU 5 1 は、主制御装置 4 からコマンドを受信したか否かを判断する（ステップ S 3 7 0 1）。ここで、M

50

P U 5 1 は、コマンドを受信した場合（ステップ S 3 7 0 1 : Y e s）、処理をステップ S 3 7 0 2 に移行する。一方、M P U 5 1 は、コマンドを受信していない場合（ステップ S 3 7 0 1 : N o）、当該コマンド判定処理を終了する。

【3863】

なお、主制御装置 4 から受信したコマンドは、R A M 5 1 2 の未処理コマンド記憶エリアに格納され、M P U 5 1 は、未処理コマンド記憶エリアを参照することによりコマンドの受信の有無を判断する。また、未処理コマンド記憶エリアに記憶されているコマンドは、本ステップ S 3 7 0 1 でコマンドを受信したと判断され、処理の対象となった場合に未処理コマンド記憶エリアから消去され、例えば処理作業用記憶エリアに記憶される。

【3864】

10

<ステップ S 3 7 0 2>

コマンドを受信した場合（ステップ S 3 7 0 1 : Y e s）、M P U 5 1 は、受信したコマンドが疑似大当たり遊技パターンコマンドであるか否かを判断する。M P U 5 1 は、受信したコマンドが疑似大当たり遊技パターンコマンドである場合（ステップ S 3 7 0 2 : Y e s）、処理をステップ S 3 7 0 3 に移行し、受信したコマンドが疑似大当たり遊技パターンコマンドでない場合（ステップ S 3 7 0 2 : N o）、処理をステップ S 3 7 0 6 に移行する。

【3865】

<ステップ S 3 7 0 3 ~ S 3 7 0 5>

受信したコマンドが疑似大当たり遊技パターンコマンドである場合（ステップ S 3 7 0 2 : Y e s）、M P U 5 1 は、疑似大当たり遊技パターンコマンドの種別（図 2 7 4 参照）に基づいて、前述の疑似大当たり遊技演出パターン（図 2 7 5 参照）をセットすると共に（ステップ S 3 7 0 3）、疑似大当たり遊技演出パターンにおいて実行される特図遊技の回数を示す疑似大当たり特図変動数カウンタをセットする（ステップ S 3 7 0 4）。そして、M P U 5 1 は、疑似大当たり遊技演出パターンを設定したことを示す疑似大当たり遊技演出パターンセットフラグをオンに設定し（ステップ S 3 7 0 5）、当該コマンド判定処理を終了する。

20

【3866】

なお、本実施形態では、疑似大当たり遊技パターンコマンドを受信した場合に疑似大当たり遊技演出パターンがセットされる。つまり、本実施形態では、c 時短遊技状態に移行されて第 2 入賞口 3 1 5 に遊技球が入球されることを契機として疑似大当たり遊技演出（表示）が実行され、c 時短遊技状態に移行する前の a 時短遊技状態は通常遊技状態よりも遊技者に有利な遊技状態であるが、a 時短遊技状態では疑似大当たり遊技演出（表示）が実行されない。これに対し、複数回の当たり遊技が実行され得る一連の有利遊技が開始される前において、通常遊技状態よりも有利な遊技状態が開始される場合に、有利演出としてラッシュ演出（例えば「R U S H」の文字画像を含む画像演出）を開始することもある。もちろん、a 時短遊技状態では、a 時短遊技状態に固有の演出として、疑似大当たり遊技演出（表示）とは異なる演出を実行してもよい。

30

【3867】

<ステップ S 3 7 0 6>

ステップ S 3 7 0 6 では、M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 1 特図変動パターンコマンドであるか否かを判断する。第 1 特図変動パターンコマンドは、第 1 特図遊技における第 1 特別図柄の変動表示時間（特図変動パターン）及び大当たり抽選での抽選結果を示すコマンドである。

40

【3868】

ここで、M P U 5 1 は、受信したコマンドが第 1 特図変動パターンコマンドである場合（ステップ S 3 7 0 6 : Y e s）、処理をステップ S 3 7 0 7 に移行し、受信したコマンドが第 1 特図変動パターンコマンドでない場合（ステップ S 3 7 0 6 : N o）、処理をステップ S 3 7 1 1 に移行する。

【3869】

50

<ステップS 3 7 0 7～S 3 7 1 0>

受信したコマンドが第1特図変動パターンコマンドである場合（ステップS 3 7 0 6：Y e s）、MP U 5 1は、変動種別（演出パターン）設定処理（ステップS 3 7 0 7）及び図柄表示部3 4 1における飾り図柄の停止図柄組み合わせを設定する処理（ステップS 3 7 0 8）を実行する。さらに、MP U 5 1は、飾り図柄の変動表示時間を設定し（ステップS 3 7 0 9）、変動種別（演出パターン）及び図柄表示部3 4 1における飾り図柄の停止図柄組み合わせの内容を特定するための表示変動パターンコマンドを表示制御装置6に送信し（ステップS 3 7 1 0）、当該コマンド判定処理を終了する。なお、本実施形態のコマンド判定処理におけるステップS 3 7 0 7～S 3 7 1 0の処理は、前述の第1の実施形態のコマンド判定処理におけるステップS 3 1 0 3～S 3 1 0 6の処理と同様であるため詳細な説明は省略する。

10

【3 8 7 0】

<ステップS 3 7 1 1>

ステップS 3 7 1 1では、MP U 5 1は、受信したコマンドが第2特図変動パターンコマンドであるか否かを判断する。第2特図変動パターンコマンドは、第2特図遊技における第2特別図柄の変動表示時間（特図変動パターン）及び大当たり抽選での抽選結果を示すコマンドである。

【3 8 7 1】

ここで、MP U 5 1は、受信したコマンドが第2特図変動パターンコマンドである場合（ステップS 3 7 1 1：Y e s）、処理をステップS 3 7 1 2に移行し、受信したコマンドが第2特図変動パターンコマンドでない場合（ステップS 3 7 1 1：N o）、処理を図2 9 2のステップS 3 7 2 5に移行する。

20

【3 8 7 2】

<ステップS 3 7 1 2>

ステップS 3 7 1 2では、MP U 5 1は、疑似大当たり遊技演出パターンを設定したことを示す疑似大当たり遊技演出パターンセットフラグがオンであるか否かを判断する。MP U 5 1は、疑似大当たり遊技演出パターンセットフラグがオンである場合（ステップS 3 7 1 2：Y e s）、処理をステップS 3 7 1 3に移行し、疑似大当たり遊技演出パターンセットフラグがオフである場合（ステップS 3 7 1 2：N o）、処理をステップS 3 7 1 6に移行する。

30

【3 8 7 3】

<ステップS 3 7 1 3～S 3 7 1 5>

ステップS 3 7 1 3では、MP U 5 1は、第2特図遊技演出パターンとして、第2特図遊技演出パターンA（図2 7 6参照）を設定する。さらに、MP U 5 1は、図柄表示部3 4 1における飾り図柄の停止図柄組み合わせを設定する処理を実行し（ステップS 3 7 1 4）、飾り図柄の変動表示時間を1 5秒に設定し（ステップS 3 7 1 5）、処理をステップS 3 7 2 4に移行する。

【3 8 7 4】

<ステップS 3 7 1 6～S 3 7 2 0>

ステップS 3 7 1 6では、MP U 5 1は、疑似大当たり遊技演出パターンを読み出し、さらに、MP U 5 1は、疑似大当たり特図変動数カウンタの値を読み出す（ステップS 3 7 1 7）。そして、MP U 5 1は、読み出した疑似大当たり遊技演出パターン及び特図変動数カウンタの値に基づいて第2特図遊技に対する演出として特2遊技演出パターンB～D（図2 7 6参照）のいずれかを設定する（ステップS 3 7 1 8）。さらに、MP U 5 1は、図柄表示部3 4 1における飾り図柄の停止図柄組み合わせを設定する処理を実行し（ステップS 3 7 1 9）、飾り図柄の変動表示時間を1秒に設定し（ステップS 3 7 2 0）、処理をステップS 3 7 2 1に移行する。

40

【3 8 7 5】

<ステップS 3 7 2 1～S 3 7 2 3>

ステップS 3 7 2 1では、MP U 5 1は、疑似大当たり特図変動数カウンタの値から1

50

減算し、さらに、MPU51は、減算後の疑似大当たり特図変動数カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3722）。即ち、MPU51は、当該第2特図遊技が、疑似大当たり遊技演出パターンにおける最後の第2特図遊技であるか否かを判断する。

【3876】

MPU51は、減算後の疑似大当たり特図変動数カウンタの値が0である場合（ステップS3722：Yes）、疑似大当たり遊技演出パターンセットフラグをオフに設定し（ステップS3723）、処理をステップS3724に移行する。一方、MPU51は、減算後の疑似大当たり特図変動数カウンタの値が0でない場合（ステップS3722：No）、処理をステップS3724に移行する。

【3877】

＜ステップS3724＞

ステップS3724では、MPU51は、変動種別（演出パターン）及び図柄表示部341における飾り図柄の停止図柄組み合わせの内容を特定するための表示変動パターンコマンドを表示制御装置6に送信し（ステップS3724）、当該コマンド判定処理を終了する。これにより、表示制御装置6は、図柄表示部341において、第2特図遊技に対する演出表示を実行することができる。また、複数回の大当たり遊技が実行され得る一連の有利遊技に対応する疑似大当たり遊技演出パターンがセットされている場合には、表示制御装置6は、図柄表示部341において、有利演出としての疑似大当たり遊技演出の一部として当該第2特図遊技に対する演出表示を実行することが可能になる。具体的には、図柄表示部341において、当該第2特図遊技に対する演出表示として、大当たり遊技用のステージ演出（背景演出）が表示されると共に、特定の演出画像としての出玉表示又は報知表示としての総出玉表示（出玉結果表示）が実行される。

【3878】

＜ステップS3725＞

図292に示すように、ステップS3725では、MPU51は、受信したコマンドが小当たり遊技開始コマンドであるか否か、即ち小当たり遊技の開始タイミングであるか否かを判断する。MPU51は、受信したコマンドが小当たり遊技開始コマンドである場合（ステップS3725：Yes）、処理をステップS3726に移行し、受信したコマンドが小当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップS3725：No）、処理をステップS3730に移行する。

【3879】

＜ステップS3726～S3729＞

ステップS3726では、MPU51は、疑似大当たり遊技演出パターンを読み出し、さらに、MPU51は、当該小当たり遊技に対する演出として小当たり遊技演出パターンA～B（図277参照）のいずれかを設定する（ステップS3727）。さらに、MPU51は、図柄表示部341における飾り図柄の停止図柄組み合わせを設定する処理（ステップS3728）を実行する。さらに、MPU51は、変動種別（演出パターン）及び図柄表示部341における飾り図柄の停止図柄組み合わせの内容を特定するための表示変動パターンコマンドを表示制御装置6に送信し（ステップS3729）、当該コマンド判定処理を終了する。これにより、表示制御装置6は、図柄表示部341において、小当たり遊技に対する演出表示を実行することができる。また、複数回の大当たり遊技が実行され得る一連の有利遊技に対応する疑似大当たり遊技演出パターンがセットされている場合には、表示制御装置6は、図柄表示部341において、有利演出としての疑似大当たり遊技演出の一部として当該小当たり遊技に対する演出表示を実行することが可能になる。具体的には、図柄表示部341において、当該小当たり遊技に対する演出表示として、大当たり遊技用のステージ演出（背景演出）が表示されると共に、特定の演出画像としての出玉表示が実行される。また、小当たり遊技演出では、小当たり遊技に固有の演出として、可変入賞装置38のV入賞口383への遊技球の入球を要求する「Vを狙え」などの表示が実行され、V入賞口383に遊技球が入球した場合には「V」などのV入賞表示が実行される。

10

20

30

40

50

【3880】

＜ステップS3730＞

ステップS3730では、受信したコマンドが特図大当たり遊技開始コマンドであるかを判断する。MPU51は、受信したコマンドが特図大当たり遊技開始コマンドである場合（ステップS3730：Yes）、処理をステップS3731に移行し、受信したコマンドが特図大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップS3730：No）、処理をステップS3733に移行する。

【3881】

＜ステップS3731～S3751＞

ステップS3731～S3751では、MPU51は、受信した大当たり遊技に関するコマンドの種別に応じて、特図大当たり遊技において実行される大当たり遊技演出を実行するための各種処理が実行される。本実施形態のコマンド判定処理でのステップS3729～S3750の処理は、前述の第1の実施形態のコマンド判定処理のステップS3117～S3137の処理と同様であるため詳細な説明は省略する。

【3882】

＜ステップS3752＞

ステップS3752では、MPU51は、受信したコマンドが、V入賞大当たり遊技を開始することを示すV入賞大当たり遊技開始コマンドであるかを判断する。MPU51は、受信したコマンドがV入賞大当たり遊技開始コマンドである場合（ステップS3752：Yes）、処理をステップS3753に移行し、受信したコマンドがV入賞大当たり遊技開始コマンドでない場合（ステップS3752：No）、処理をステップS3756に移行する。

【3883】

＜ステップS3753～S3755＞

ステップS3753では、MPU51は、疑似大当たり遊技演出パターンを読み出し、V入賞大当たり遊技で実行する大当たり演出を、読み出した疑似大当たり遊技演出パターンに応じて大当たり演出パターンA～D（図278参照）から選択して設定する（ステップS3754）。さらに、MPU51は、変動種別（演出パターン）及び図柄表示部341における飾り図柄の停止図柄組み合わせの内容を特定するための表示変動パターンコマンドを表示制御装置6に送信し（ステップS3755）、当該コマンド判定処理を終了する。これにより、表示制御装置6は、図柄表示部341において、V入賞大当たり遊技に対する演出表示を実行することができる。また、複数回の大当たり遊技が実行され得る一連の有利遊技に対応する疑似大当たり遊技演出パターンがセットされている場合には、表示制御装置6は、図柄表示部341において、有利演出としての疑似大当たり遊技演出の一部として当該V入賞大当たり遊技に対する演出表示を実行することが可能になる。具体的には、図柄表示部341において、当該第V入賞大当たり遊技に対する演出表示として、大当たり遊技用のステージ演出（背景演出）が表示されると共に、出玉表示又は総出玉表示（出玉結果表示）が実行される。

【3884】

＜ステップS3756＞

ステップS3756では、MPU51は、主制御装置4から受信したその他のコマンドに基づく処理を実行し、当該コマンド判定処理を終了する。

【3885】

以上のように、本発明では、例えば所定遊技状態中に第1の入球手段に遊技球が入球することに基づいて所定条件が成立した場合に少なくとも特定の特典結果が導出されることに基づいて特定遊技状態が実行され、この特定遊技状態において第2の入球手段に遊技球が入球した場合、特別条件が成立することに基づいて、複数回の特別遊技状態が実行される一連の有利遊技状態を発生可能である。これにより、所定遊技状態での所定条件の成立による特定遊技状態の発生、特定遊技状態での特別条件の成立による複数回の特別遊技状態が実行される一連の有利遊技状態を発生という、新規な遊技性を実現できるため、遊技

10

20

30

40

50

の興趣が向上される。

【3886】

また、本発明では、例えば特別遊技状態を複数回実行する場合の一連の有利遊技状態として演出表示する特定演出表示としての特定の演出画像が、第1の特別遊技状態と、第1の特別遊技状態と第2の特別遊技状態との間と、第2の特別遊技状態と、の間で継続して表示される。そのため、一連の有利遊技状態において複数回の特別遊技状態が発生しているにも関わらず、特定演出表示によって一連の有利遊技状態であるかのような演出表示が実行される。そして、遊技者に付与される利益（例えば出玉）は、1回の特別遊技状態の発生に比べて、複数回の特別遊技状態が発生した場合のほうが大きい。その結果、複数回の特別遊技状態発生する一連の有利遊技状態において特定演出表示が実行することによって、一連の有利遊技状態で多くの利益が得られた印象を遊技者に与えることで、遊技者に満足感を与えることが可能になる。これにより、1回の特別遊技状態の発生によって得られる利益が制限される場合であっても、遊技者に、利益についての満足感を与えることができるため、遊技への興味や興趣の低下が防止される。

10

【3887】

より具体的には、本実施形態では、例えば所定遊技状態としてのa時短遊技状態中に第1の入球手段としての第1入賞口391に遊技球が入球することに基づいて所定条件の成立としてc時短移行図柄が停止した場合に少なくとも特定の特典結果としてc時短遊技状態への移行が導出されることに基づいて特定遊技状態としての第2の入球手段としての第2入賞口315の開放状態（又はc時短遊技状態）が実行され、この第2入賞口315の開放状態（又はc時短遊技状態）において第2入賞口315に遊技球が入球した場合、特別条件の成立としてのV入賞口383への遊技球の入球に基づいて、特別遊技状態としてのV入賞口大当たり遊技が複数回実行される一連の有利遊技状態としての疑似大当たり遊技状態を発生可能である。これにより、a時短遊技状態でのc時短移行図柄が停止の成立による第2入賞口315の開放状態（又はc時短遊技状態）の発生、第2入賞口315の開放状態（又はc時短遊技状態）を契機とするV入賞口383への遊技球の入球に基づいて複数回のV入賞口大当たり遊技が実行される疑似大当たり遊技状態の発生という、新規な遊技性を実現できるため、遊技の興趣が向上される。

20

【3888】

また、本実施形態では、例えば疑似大当たり遊技状態において特定演出表示として疑似大当たり遊技演出（表示）が実行される。そのため、疑似大当たり遊技状態において複数回のV入賞口大当たり遊技が発生しているにも関わらず、疑似大当たり遊技演出（表示）によって1回のV入賞口大当たり遊技が実行されているかのような演出表示が実行される。そして、遊技者に付与される賞球（出玉）は、1回のV入賞口大当たり遊技に比べて、複数回のV入賞口大当たり遊技が発生した場合のほうが大きい。その結果、複数回のV入賞口大当たり遊技が発生する疑似大当たり遊技状態において疑似大当たり遊技演出（表示）が実行することによって、1回のV入賞口大当たり遊技で多くの利益が得られた印象を遊技者に与えることで、遊技者に満足感を与えることが可能になる。これにより、1回のV入賞口大当たり遊技によって得られる最大獲得出玉が制限される場合であっても、遊技者に、V入賞口大当たり遊技が発生した場合の最大獲得出玉についての満足感を与えることができるため、遊技への興味や興趣の低下が防止される。

30

40

【3889】

なお、本実施形態では、適用可能な範囲において、前述の第1～第5の実施形態における設計変更事項と同様な設計変更が可能である。

【3890】

また、各実施形態において、適用可能な範囲において、他の実施形態に記載の事項を採用することも可能である。

【3891】

〔第7の実施形態〕

パチンコ遊技機では、大当たり抽選の結果が当たりであることを契機として大当たり遊

50

技が実行される場合、遊技性を複雑化することなく、当該大当たり遊技での出球のインパクトの改善が望まれている。

【3892】

本発明に係る遊技機は、上記課題を解決するために、

遊技球を1球ずつ流入させる流入部（371）と、

所定条件（a時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり）が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第1動作手段（372）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段とは異なる第2動作手段（39A）に所定の動作（第2入賞口315Aの開放作動）を実行させ得る契機となる第1入球部（376A）と、

前記第1入球部への遊技球の入球を検出するための第1検出部（376Aa）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段及び前記第2動作手段とは異なる第3動作手段（39B）に少なくとも特定の動作（第2入賞口315Bの開放作動）を実行させ得る契機となる第2入球部（376B）と、

前記第2入球部への遊技球の入球を検出するための第2検出部（376Ba）と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段（374）と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第1入球部に誘導する第1状態となっている前記誘導手段を、前記第1入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第1入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第2入球部への入球が可能な第2状態に切り替える切替手段（可動誘導部374の駆動制御（処理））を備える。

また、本発明に係る遊技機は、例えば、前記第3動作手段の配設位置が、当該遊技機を正面視した状態において、前記第2動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側、又は前記第2動作手段の配設位置よりも遊技球の流下方向における上流側である。

【3893】

流入部は、遊技球を1球ずつ流入させる流入領域であればよい。流入部としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技盤に設けられる遊技領域への流入領域、遊技盤に設けられる遊技領域の左側領域への流入領域、遊技盤に設けられる遊技領域の右側領域への流入領域、各種入球部の流入領域、遊技球の入球により賞球が付与される入球部の流入領域、遊技球の入球によっても賞球が付与されない入球部の流入領域、遊技球の入球により特図遊技を実行する契機を与える入球部の流入領域、遊技球の入球により第1特図遊技を実行する契機を与える第1入賞口（第1始動口）の流入領域、遊技球の入球により第2特図遊技を実行する契機を与える第2入賞口（第2始動口）の流入領域、遊技球の入球により普図遊技を実行する契機を与えるスルーゲートなどの入球部の流入領域、電動役物により開閉される入球部の流入領域、普通電動役物により開閉される入球部の流入領域、普図当たり遊技において普通電動役物の作動より開放され、遊技球の入球により特図遊技（第1特図遊技、第2特図遊技）を実行する契機を与える始動口の流入領域、特別電動役物により開閉される入球部の流入領域、当たり遊技（大当たり遊技又は小当たり遊技）において特別電動役物の作動により開放される大入賞口（可変入賞口）の流入領域、大当たり遊技において開放され、遊技球の入球により時短遊技状態を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）の流入領域、小当たり遊技において開放され、遊技球の入球により大当たり遊技を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）の流入領域、非電動役物により開閉される入球部の流入領域、非電動役物により開閉され、遊技球の入球により特図遊技（第1特図遊技、第2特図遊技）を実行する契機を与える入賞口（始動口）の流入領域、非電動役物を作動させる契機を与える入球部の流入領域、ステージに遊技球を誘導する流路（いわゆるワープルート）の流入領域、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3894】

所定条件は、流入領域へ遊技球が流入するように動作可能な遊技動作部を動作させる遊

10

20

30

40

50

技条件であればよい。所定条件としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば所定の抽選での所定の抽選結果の成立、電動役物の動作条件、普通電動役物の動作条件、普通電動役物が動作される普図当たり遊技の実行条件、遊技球の入球により特図遊技（第1特図遊技、第2特図遊技）を実行する契機を与える入球部に設けられる普通電動役物の動作条件、普図当たり抽選での結果が普図当たり、特別電動役物の動作条件、特別電動役物が動作される当たり遊技（大当たり遊技、小当たり遊技）の実行条件、大当たり抽選の結果が当たり（大当たり、小当たり）、非電動役物の動作条件、非電動役物を動作させる入球部への遊技球の入球、特定の入球部に遊技球が入球可能な流路を遊技球が流下可能な遊技盤の遊技領域への遊技球の発射操作、遊技領域の左側領域への遊技球の発射操作、遊技領域の右側領域への遊技球の発射操作、遊技球の入球により普図当たり抽選の契機を与える入球部に遊技球が入球可能な流路を遊技球が流下可能な遊技盤の遊技領域への遊技球の発射操作、スルーゲートに遊技球が入球可能な流路を遊技球が流下可能な遊技領域への遊技球の発射操作、遊技球の入球により大当たり抽選の契機を与える入球部に遊技球が入球可能な流路を遊技球が流下可能な遊技盤の遊技領域への遊技球の発射操作、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

【3895】

第1動作手段は、流入領域へ遊技球が流入するように動作可能な遊技動作部であればよい。第2動作手段は、流入領域から流入した遊技球が入球することに基づいて動作される第1動作手段とは異なる遊技動作部であればよい。第3動作手段は、流入領域から流入した遊技球が入球することに基づいて動作される第1動作手段及び第2動作手段とは異なる遊技動作部であればよい。これら第1～第3動作手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば各種入球部に遊技球が入球することを契機として動作される遊技動作部、所定の抽選が実行されることに基づいて動作される遊技動作部、所定の抽選での所定の抽選結果である場合に動作される電動役物、普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合に動作される普通電動役物、大当たり抽選の結果が当たり（大当たり、小当たり）である場合に動作される特別電動役物、所定の入球部への遊技球の入球により動作される非電動役物、所定の入球部への遊技球の入球により動作され、遊技球の入球を契機として大当たり抽選を実行する契機を与える入球部を開閉する非電動役物、所定の作動口への遊技球の入球により動作され、遊技球の入球を契機として大当たり抽選を実行する第1入賞口（第1始動口）を開放する第1非電動役物、所定の作動口への遊技球の入球により動作され、遊技球の入球を契機として大当たり抽選を実行する第2入賞口（第2始動口）を開放する第2非電動役物、所定の入球部に遊技球の入球を契機として所定の抽選を実行したことに基づいて動作される遊技動作部、所定の入球部に遊技球の入球を契機として所定の抽選を実行したことに基づいて所定の図柄が変動表示される変動表示器、所定の入球部に遊技球の入球を契機として所定の抽選を実行したことに基づいて所定の図柄が変動表示される主制御装置（メイン制御装置）により制御される変動表示器、所定の入球部に遊技球の入球を契機として所定の抽選を実行したことに基づいて所定の図柄が変動表示される副制御装置（サブ制御装置）により制御される変動表示器、スルーゲートなどの入球部に遊技球が入球することを契機として普図当たり抽選を実行したことに基づいて図柄が変動表示される変動表示器、普図当たり抽選を実行したことに基づいて主制御装置（メイン制御装置）により普通図柄の変動表示が制御される普図変動表示器、普図当たり抽選を実行したことに基づいて副制御装置（サブ制御装置）により図柄の変動表示が制御される液晶表示器などの表示器、第1入賞口（第1始動口）又は第2入賞口（第2始動口）に遊技球が入球することを契機として大当たり抽選を実行したことに基づいて図柄が変動表示される変動表示器、大当たり抽選を実行したことに基づいて主制御装置（メイン制御装置）により特別図柄の変動表示が制御される特図変動表示器、大当たり抽選を実行したことに基づいて副制御装置（サブ制御装置）により飾り図柄（装飾図柄）の変動表示が制御される液晶表示器などの演出用表示器、発射領域の遊技球を所定領域に発射するために動作される遊技動作部、遊技球を発射するための発射機構、遊技球に発射力を付与する発射槌、発射槌を動作する発射駆動源、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

20

30

40

50

【3896】

所定の動作は、流入領域から入球部に遊技球が入球することに基づいて第2動作手段により実行される遊技動作であればよい。特定の動作は、流入領域から入球部に遊技球が入球することに基づいて第3動作手段により実行される遊技動作であればよい。所定の動作及び特定の動作としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば各種入球部に遊技球が入球することを契機とする遊技動作部の動作、所定の抽選が実行されることに基づく遊技動作部の動作、所定の抽選での所定の抽選結果である場合の電動役物の動作、普図当たり抽選の結果が普図当たりである場合の普通電動役物の動作、大当たり抽選の結果が当たり（大当たり、小当たり）である場合の特別電動役物の動作、所定の入球部への遊技球の入球による非電動役物の動作、所定の入球部への遊技球の入球により動作され非電動役物の、遊技球の入球を契機として大当たり抽選を実行する契機を与える入球部の開閉動作、所定の作動口への遊技球の入球により動作される第1非電動役物の、遊技球の入球を契機として大当たり抽選を実行する第1入賞口（第1始動口）の開放動作、所定の作動口への遊技球の入球により動作される第2非電動役物の、遊技球の入球を契機として大当たり抽選を実行する第2入賞口（第2始動口）の開放動作、所定の入球部に遊技球の入球を契機として所定の抽選を実行したことに基づく遊技動作部の動作、所定の入球部に遊技球の入球を契機として所定の抽選を実行したことに基づく変動表示器での所定の図柄が変動表示、大当たり抽選を実行したことに基づく主制御装置（メイン制御装置）の制御による特図表示器での特別図柄の変動表示、第1入賞口（第1始動口）に遊技球が入球することを契機として大当たり抽選を実行したことに基づく主制御装置（メイン制御装置）の制御による第1特別図柄表示器での第1特別図柄の変動表示、第2入賞口（第2始動口）に遊技球が入球することを契機として大当たり抽選を実行したことに基づく主制御装置（メイン制御装置）の制御による第2特別図柄表示器での第2特別図柄の変動表示、大当たり抽選を実行したことに基づく副制御装置（サブ制御装置）による液晶表示器などの演出用表示器での飾り図柄（装飾図柄）の変動表示、大当たり抽選を実行したことに基づく特図遊技（第1特図遊技、第2特図遊技）の実行時の副制御装置（サブ制御装置）による液晶表示器などの演出用表示器での各種演出の実行、当たり遊技（大当たり遊技、小当たり遊技）の実行時の副制御装置（サブ制御装置）による液晶表示器などの演出用表示器での各種演出（大当たり開始表示演出、大当たり終了表示演出、ラウンド数表示演出、出球表示演出（出玉表示演出）、V入賞表示演出）の実行、普図当たり抽選を実行したことに基づく変動表示器での図柄の変動表示、普図当たり抽選を実行したことに基づく主制御装置（メイン制御装置）の制御による変動表示器での普図図柄の変動表示、普図当たり抽選を実行したことに基づく副制御装置（サブ制御装置）の制御による液晶表示器などの演出用表示器での図柄の変動表示、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3897】

第1入球部は、流入領域から流入した遊技球が入球することに基づいて、第2動作手段に所定の動作を実行させ得る契機となる入球部であればよい。第2入球部は、流入領域から流入した遊技球が入球することに基づいて、第3動作手段に特定の動作を実行させ得る契機となる入球部であればよい。第1入球部及び第2入球部としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば遊技球の入球により賞球が付与される入球部、遊技球の入球によっても賞球が付与されない入球部、遊技球の入球により特別図柄表示器に特別図柄を変動表示させる入球部、遊技球の入球により第1特別図柄表示器に第1特図を変動表示させる第1入賞口（第1始動口）、遊技球の入球により第2特別図柄表示器に第2特図を変動表示させる第2入賞口（第2始動口）、遊技球の入球により普通図柄表示器に普通図柄を変動表示させるスルーゲートなどの入球部、遊技条件の成立に基づいて動作される電動役物により開閉される入球部、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることに基づいて実行される普図当たり遊技において動作される普通電動役物により開閉される入球部、普図当たり遊技において普通電動役物の作動より開放され、遊技球の入球により特図遊技（第1特図遊技、第2特図遊技）を実行する契機を与える入球部、遊技条件の成立に基づいて動作される特別電動役物により開閉される入球部、大当たり抽選の結果が当たりであること

に基づいて実行される当たり遊技（大当たり遊技又は小当たり遊技）において特別電動役物の作動により開放される大入賞口（可変入賞口）、大当たり遊技において開放され、遊技球の入球により時短遊技状態を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）、小当たり遊技において開放され、遊技球の入球により大当たり遊技を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）、遊技条件の成立に基づいて動作される非電動役物により開閉される入球部、非電動役物により開閉され、遊技球の入球により大当たり抽選を実行する契機を与える入賞口（始動口）、非電動役物により開閉され、遊技球の入球を契機として実行された大当たり抽選の結果を第1特図の変動表示により報知する第1入賞口（第1始動口）、非電動役物により開閉され、遊技球の入球を契機として実行された大当たり抽選の結果を第2特図の変動表示により報知する第2入賞口（第2始動口）、非電動役物を作動させる契機を与える入球部、遊技球の入球に基づいて第1入賞口（第1始動口）を開閉する（第1）非電動役物を作動させる第1非電動役物作動口、遊技球の入球に基づいて第2入賞口（第2始動口）を開閉する（第2）非電動役物を作動させる第2非電動役物作動口、ステージに遊技球を誘導する流路（いわゆるワープルート）の入球部、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【3898】

第1検出部は、第1入球部への遊技球の入球を検出するための検出部であればよい。第2検出部は、第2入球部への遊技球の入球を検出するための検出部であればよい。第1検出部及び第2検出部としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば電磁誘導型の近接センサ、光学式センサ、接点式センサ、各種入球部に設けられる当該入球部への遊技球を検出する検出部、遊技球の入球により賞球が付与される入球部に設けられる検出部、遊技球の入球によっても賞球が付与されない入球部に設けられる検出部、遊技球の入球により特別図柄表示器に特別図柄を変動表示させる入球部に設けられる検出部、遊技球の入球により第1特別図柄表示器に第1特図を変動表示させる第1入賞口（第1始動口）に設けられる検出部、遊技球の入球により第2特別図柄表示器に第2特図を変動表示させる第2入賞口（第2始動口）に設けられる検出部、遊技球の入球により普通図柄表示器に普通図柄を変動表示させるスルーゲートなどの入球部、遊技条件の成立に基づいて動作される電動役物により開閉される入球部に設けられる検出部、普図当たり抽選の結果が普図当たりであることに基づいて実行される普図当たり遊技において動作される普通電動役物により開閉される入球部に設けられる検出部、普図当たり遊技において普通電動役物の作動より開放され、遊技球の入球により特図遊技（第1特図遊技、第2特図遊技）を実行する契機を与える入球部に設けられる検出部、遊技条件の成立に基づいて動作される特別電動役物により開閉される入球部に設けられる検出部、大当たり抽選の結果が当たりであることに基づいて実行される当たり遊技（大当たり遊技又は小当たり遊技）において特別電動役物の作動により開放される大入賞口（可変入賞口）に設けられる検出部、大当たり遊技において開放され、遊技球の入球により時短遊技状態を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）に設けられる検出部、小当たり遊技において開放され、遊技球の入球により大当たり遊技を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）に設けられる検出部、遊技条件の成立に基づいて動作される非電動役物により開閉される入球部に設けられる検出部、非電動役物により開閉され、遊技球の入球により大当たり抽選を実行する契機を与える入賞口（始動口）に設けられる検出部、非電動役物により開閉され、遊技球の入球を契機として実行された大当たり抽選の結果を第1特図の変動表示により報知する第1入賞口（第1始動口）に設けられる検出部、非電動役物により開閉され、遊技球の入球を契機として実行された大当たり抽選の結果を第2特図の変動表示により報知する第2入賞口（第2始動口）に設けられる検出部、非電動役物を作動させる契機を与える入球部、遊技球の入球に基づいて第1入賞口（第1始動口）を開閉する（第1）非電動役物を作動させる第1非電動役物作動口に設けられる検出部、遊技球の入球に基づいて第2入賞口（第2始動口）を開閉する（第2）非電動役物を作動させる第2非電動役物作動口に設けられる検出部、ステージに遊技球を誘導する流路（いわゆるワープルート）の入球部に設けられる検出部、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【 3 8 9 9 】

誘導手段は、流入領域から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導部であればよい。誘導手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば釘、風車、樹脂部材などの可動不能な誘導部、少なくとも一部が可動可能な誘導部、所定の入球部に遊技球が入球可能な流路に遊技球を誘導可能な誘導部、所定の入球部に遊技球が入球不能な流路に遊技球を誘導可能な誘導部、所定の入球部への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材、遊技球の入球により特別図柄表示器に特別図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材、遊技球の入球により特別図柄表示器に特別図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える電動役物、遊技球の入球により第1特別図柄表示器に第1特別図柄を変動表示させる第1入賞口（第1始動口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える普通電動役物、遊技球の入球により第2特別図柄表示器に第2特別図柄を変動表示させる第2入賞口（第2始動口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える普通電動役物、遊技球の入球により特別図柄表示器に特別図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える非電動役物、遊技球の入球により第1特別図柄表示器に第1特別図柄を変動表示させる第1入賞口（第1始動口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える非電動役物、遊技球の入球により第2特別図柄表示器に第2特別図柄を変動表示させる第2入賞口（第2始動口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える非電動役物、遊技球の入球により普通図柄表示器に普通図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える電動役物、遊技球の入球により普通図柄表示器に普通図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える非電動役物、当たり遊技において大入賞口（可変入賞口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える特別電動役物、大当たり遊技において大入賞口（可変入賞口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える特別電動役物、小当たり遊技において大入賞口（可変入賞口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える特別電動役物、大入賞口（可変入賞口）内に設けられる入賞口への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材、大入賞口（可変入賞口）内に設けられ、大当たり遊技での遊技球の入球により時短遊技状態を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材、大入賞口（可変入賞口）内に設けられ、小当たり遊技での遊技球の入球により大当たり遊技を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材、非電動役物を作動させる契機を与える非電動役物作動口への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材、遊技球の入球に基づいて第1入賞口（第1始動口）を開閉する（第1）非電動役物を作動させる第1非電動役物作動口への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材、遊技球の入球に基づいて第2入賞口（第2始動口）を開閉する（第2）非電動役物を作動させる第2非電動役物作動口への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材、複数の流路のうちの1の流路及び他の流路のいずれかに遊技球を振り分ける振分部材、1の流路及び他の流路のいずれかに遊技球を振り分ける非電動振分部材、遊技球の干渉によって可動可能であり、1の流路及び他の流路のいずれかに遊技球を振り分ける非電動振分部材、複数の流路のうちの1の流路及び他の流路のいずれかに遊技球を振り分ける電動振分部材、複数の入球部のうちの1の入球部及び他の入球部のいずれかに遊技球を振り分ける振分部材、複数の入球部のうちの1の入球部及び他の入球部のいずれかに遊技球を振り分ける非電動振分部材、遊技球の干渉によって可動可能であり、複数の入球部のうちの1の入球部及び他の入球部のいずれかに遊技球を振り分ける非電動振分部材、複数の入球部のうちの1の入球部及び他の入球部のいずれかに遊技球を振り分ける電動振分部材、遊技球の入球に基づいて第1入賞口（第1始動口）を開閉する（第1）非電動役物を作動させる第1非電動役物作動口に遊技球を誘導する可動部材、遊技球の入球に基づいて第2入賞口（第2始動口）を開閉する（第2）非電動役物を作動させる第2非電動役物作動口に遊技球を誘導する可動部材、遊技球の入球に基づいて第1入賞口（第1始動口）を開閉する（第1）非電動役物を作動させる第1非電動役物作動口と、遊技球の入球に基づいて第2入賞口（第2始動口）を開閉する（第2）非電動役物を作動させる第

10

20

30

40

50

2 非電動役物作動口とのいずれかに遊技球を振り分ける可動部材、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

【3900】

切替手段は、1の遊技動作部に遊技動作を実行させ得る契機となる1の入球部に流入領域から遊技球を誘導する状態の誘導部を、1の入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として1の入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ遊技球の入球に基づいて他の遊技動作部に遊技動作を実行させ得る契機となる他の入球部への入球が可能な状態に切り替える切替処理であればよい。切替手段としては、本発明の趣旨を実現可能であれば、例えば少なくとも一部が可動可能な誘導部に対する遊技球の誘導状態の切替処理、所定の入球部への遊技球の入球が可能な流路に遊技球を誘導可能な状態の誘導部に対する所定の入球部への遊技球の入球が不能な流路に遊技球を誘導可能な状態への切替処理、所定の入球部への遊技球の入球が不能な流路に遊技球を誘導可能な状態の誘導部に対する所定の入球部への遊技球の入球が可能な流路に遊技球を誘導可能な状態への切替処理、所定の入球部への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替え可能な可動部材に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により特別図柄表示器に特別図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球許容状態と入球制限とを切り替える可動部材に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により特別図柄表示器に特別図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により第1特別図柄表示器に第1特別図柄を変動表示させる第1入賞口（第1始動口）への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える普通電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により第2特別図柄表示器に第2特別図柄を変動表示させる第2入賞口（第2始動口）への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える普通電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により特別図柄表示器に特別図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える非電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により第1特別図柄表示器に第1特別図柄を変動表示させる第1入賞口（第1始動口）への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える非電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により第2特別図柄表示器に第2特別図柄を変動表示させる第2入賞口（第2始動口）への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える非電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により普通図柄表示器に普通図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球により普通図柄表示器に普通図柄を変動表示させる入球部への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える非電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、当たり遊技において大入賞口（可変入賞口）への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える特別電動役物、大当たり遊技において大入賞口（可変入賞口）への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える特別電動役物に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、小当たり遊技において大入賞口（可変入賞口）への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える特別電動役物、大入賞口（可変入賞口）内に設けられる入賞口への遊技球の入球の許容及び制限を切り替える可動部材に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、大入賞口（可変入賞口）内に設けられ、大当たり遊技での遊技球の入球により時短遊技状態を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える可動部材に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、大入賞口（可変入賞口）内に設けられ、小当たり遊技での遊技球の入球により大当たり遊技を発生させる入賞口（いわゆるV入賞口）への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える可動部材に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、非電動役物を作動させる契機を与える非電動役物作動口への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える可動部材に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球に基づいて第1入賞口（第1始動口）を開閉する（第1）非電動役

10

20

30

40

50

物を作動させる第1非電動役物作動口への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える可動部材に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、遊技球の入球に基づいて第2入賞口（第2始動口）を開閉する（第2）非電動役物を作動させる第2非電動役物作動口への遊技球の入球許容状態と入球制限状態とを切り替える可動部材に対する入球許容状態と入球制限状態との切替処理、複数の流路のうちの1の流路及び他の流路のいずれかに遊技球を振り分ける振分部材に対する振り分け状態の切替処理、1の流路及び他の流路のいずれかに遊技球を振り分ける非電動振分部材に対する振り分け状態の切替処理、遊技球の干渉によって可動可能であり、1の流路及び他の流路のいずれかに遊技球を振り分ける非電動振分部材、複数の流路のうちの1の流路及び他の流路のいずれかに遊技球を振り分ける電動振分部材に対する振り分け状態の切替処理、複数の入球部のうちの1の入球部及び他の入球部のいずれかに遊技球を振り分ける振分部材に対する振り分け状態の切替処理、複数の入球部のうちの1の入球部及び他の入球部のいずれかに遊技球を振り分ける非電動振分部材に対する振り分け状態の切替処理、遊技球の干渉によって可動可能であり、複数の入球部のうちの1の入球部及び他の入球部のいずれかに遊技球を振り分ける非電動振分部材に対する振り分け状態の切替処理、複数の入球部のうちの1の入球部及び他の入球部のいずれかに遊技球を振り分ける電動振分部材に対する振り分け状態の切替処理、遊技球の入球に基づいて第1入賞口（第1始動口）を開閉する（第1）非電動役物を作動させる第1非電動役物作動口に遊技球を誘導する可動部材の遊技球の誘導状態の切替処理、遊技球の入球に基づいて第2入賞口（第2始動口）を開閉する（第2）非電動役物を作動させる第2非電動役物作動口に遊技球を誘導する可動部材の遊技球の誘導状態の切替処理、遊技球の入球に基づいて第1入賞口（第1始動口）を開閉する（第1）非電動役物を作動させる第1非電動役物作動口と、遊技球の入球に基づいて第2入賞口（第2始動口）を開閉する（第2）非電動役物を作動させる第2非電動役物作動口とのいずれかに遊技球を振り分ける可動部材に対する振り分け状態の切替処理、それらの任意の組合せなどが挙げられる。

10

20

30

40

50

【3901】

ところで、遊技機においては、遊技の興趣の向上させる遊技性を発生させるために、遊技盤の遊技領域に複数種の遊技部材（例えば各種表示器や各種入賞装置、振分装置）が配置されている。従来、盤面の遊技領域にスペースの余裕がある場合は、複数の遊技部材の大きさや配置に制限が少なく自由に配置することができた。

【3902】

しかしながら、興趣向上のための遊技部材が大型化し、数も多数になってくると、好適に遊技盤に配置しなければ遊技に対する効率性、遊技者の識別性や視認性が低下してしまう。そのため、遊技機では、遊技盤に配置する部材の種類や位置を工夫することで、より遊技における効率性や視認性を向上させることが望まれている。

【3903】

本発明では、
遊技球を1球ずつ流入させる流入部と、
所定条件が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第1動作手段と、
前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段とは異なる第2動作手段に所定の動作を実行させ得る契機となる第1入球部と、
前記第1入球部への遊技球の入球を検出するための第1検出部と、
前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段及び前記第2動作手段とは異なる第3動作手段に少なくとも特定の動作を実行させ得る契機となる第2入球部と、
前記第2入球部への遊技球の入球を検出するための第2検出部と、
前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段と、
を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第1入球部に誘導する第1状態となっている前記誘導手段を、前記第1入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第1入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第2入球部への入球が可能な第2状態に切り替える切替手段を備え、

前記第3動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第2動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であり、又は前記第3動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第2動作手段の配設位置よりも遊技球の流下方向における上流側である。

【3904】

本発明では、このような遊技部材の配置により、遊技者の識別性又は視認性を高め、効率良く遊技を行うことが可能となる。

【3905】

より具体的には、本発明では、例えば所定条件の成立により第1動作手段が動作される場合、第1動作手段が動作することで流入部から流入した遊技球を第1入球部に誘導する第1状態となっている誘導手段が、第1入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として、切替手段によって第1入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ第2入球部への入球が可能な第2状態に切り替えられる。そのため、第1動作手段の動作により流入部から遊技球が流入した場合、先に第1入球部に所定数の遊技球が入球し、その後に、第2入球部に遊技球が入球される。その結果、所定条件の成立により第1動作手段が動作されることで流入部から遊技球が流入した場合、先に第2動作手段の所定の動作が実行され得り、その後に、第3動作手段の特定の動作が実行され得る。

【3906】

また、本発明では、例えば第3動作手段の配設位置が、当該遊技機を正面視した状態において第2動作手段の配設位置よりも、垂直方向の上方側、又は遊技球の流下方向における上流側である。そのため、所定条件の成立により第1動作手段が動作されることで流入部から遊技球が流入した場合、先に垂直方向の下方側又は遊技球の流下方向の下流側の第2動作手段の所定の動作が実行され得り、その後に、垂直方向の上方側又は遊技球の流下方向の上流側の第3動作手段の特定の動作が実行され得る。

【3907】

このような本発明では、所定条件の成立により第1動作手段が動作された場合、第1動作手段に向けて遊技球を連続的に打ち出すことで、第1入球部及び第2入球部に順次遊技球が入球され、連続的に打ち出された遊技球のうちの先に打ち出された遊技球が所定の動作が実行された垂直方向の下方側又は遊技球の流下方向の下流側の第2動作手段に到達し、後続の遊技球が特定の動作が実行された垂直方向の上方側又は遊技球の流下方向の上流側の第3動作手段に到達する。つまり、第2動作手段及び第3動作手段の動作順序と、第2動作手段及び第3動作手段への遊技球の到達順序とを一致させることができる。そのため、所定条件の成立により第1動作手段が動作されてから極力短時間（例えば最短時間）で、第2動作手段及び第3動作手段の動作を実行させ、かつ第2動作手段及び第3動作手段に遊技球が到達することに基づく処理（例えば所定の入賞口への遊技球の入球に基づく大当たり抽選処理や普図当たり抽選処理）を実行させることが可能になる。その結果、遊技者は、所定条件が成立した場合、遊技性を理解していなくとも、第1動作手段に向けて遊技球を連続的に打ち出すだけで、第2動作手段及び第3動作手段に遊技球が到達することに基づく処理を識別性又は視認性を高めつつ実行させることが可能になる。これにより、遊技者は、所定条件が成立した場合、第1動作手段に向けて遊技球を連続的に打ち出すという簡易な発射操作を行うことで、所定条件が成立した場合の恩恵、即ち第2動作手段及び第3動作手段に遊技球が到達することに基づく恩恵を極力短時間（例えば最短時間）で受けることができるため、遊技性が複雑化されることなく効率的に遊技の興趣を向上させることが可能になる。

【3908】

より具体的には、本実施形態では、例えば遊技条件として、特図大当たり遊技の終了後に移行されるa時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たりの発生により遊技動作部としての普通電動役物372が、切替処理としての駆動制御（処理）が実行されることによって非電作動装置37の流入領域としての導入口371が開放される場合、普通電動役物372が動作されることで導入口371から流入した遊技球99を入球部としての第1非電作動口376Aに誘導する第1誘導状態（検出部としての入球センサ376Aaによって遊技球99が検出可能な状態）となっている非電作動装置37の誘導部としての可動誘導部374が、切替処理としての駆動制御（処理）が実行されることによって、第1非電作動口376Aに遊技球99が入球することが検出部としての入球センサ376Aaによって検出されることを契機として、第1非電作動口376Aへの遊技球99の入球が不能であり、かつ入球部としての第2非電作動口376Bへの入球が可能な第2誘導状態（検出部としての入球センサ376Baによって遊技球99が検出可能な状態）に切り替えられる。そのため、普通電動役物372が動作されることにより非電作動装置37の導入口371から遊技球99が流入した場合、先に第1非電作動口376Aに遊技球99が入球し、その後に、第2非電作動口376Bに遊技球99が入球される。その結果、a時短遊技状態での普図当たりの発生により普通電動役物372が動作されることで非電作動装置37の導入口371から遊技球99が流入した場合、先に遊技動作部としての第1非電動役物39Aが入球部としての第2入賞口315Aに遊技球99が入球可能（入球センサ376Aaによって遊技球99が検出可能）に遊技動作として開放作動され得り、その後に、遊技動作部としての第2非電動役物39Bが入球部としての第2入賞口315Bに遊技球99が入球可能（入球センサ376Baによって遊技球99が検出）に遊技動作として開放作動され得る。

10

20

30

40

50

【3909】

また、本実施形態では、遊技動作部としての第2非電動役物39Bの配設位置が、遊技機10（遊技盤31）を正面視した状態において遊技動作部としての第1非電動役物39Aの配設位置よりも垂直方向の上方側又は遊技球99の流下方向の上流側である。そのため、遊技条件として、a時短遊技状態において普図当たり抽選での普図当たりの成立により遊技動作部としての普通電動役物372が動作されることで流入領域としての導入口371から遊技球99が流入した場合、先に垂直方向の下方側又は遊技球99の流下方向の下流側の遊技動作部としての第1非電動役物39Aが遊技動作として開放作動され得り、その後に、垂直方向の上方側又は遊技球99の流下方向の上流側の遊技動作部としての第2非電動役物39Bが遊技動作として開放作動され得る。

【3910】

このように、本実施形態の遊技機10では、a時短遊技状態におけるメイン制御ユニット331による普図当たり抽選での普図当たりの発生により普通電動役物372が動作された場合、普通電動役物372に向けて遊技盤31の右側領域に遊技球99を連続的に打ち出すことで、第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bに順次遊技球99が入球され、右打ち流路35Cを複数の遊技球99が連続的に流下することで、第1非電動役物39Aの動作時に第1非電動役物39Aの上方かつ近傍を遊技球99が流下する状態となっている。そのため、第1非電動役物39Aの動作時に、右打ち流路35Cを流下する遊技球99が第1非電動役物39Aによって即座に第2入賞口315Aに誘導されることで、即座に第2入賞口315Aに遊技球99が入球される。そして、連続的に右打ちされた遊技球99のうちの先に打ち出されて右打ち流路35Cに下流側を流下する遊技球99が先に動作が実行された垂直方向の下方側又は遊技球99の流下方向の下流側の第1非電動役物39A（第2入賞口315A）に到達し、後続の遊技球99が後に動作が実行された垂直方向の上方側又は遊技球99の流下方向の上流側の第2非電動役物39B（第2入賞口315B）に到達する。つまり、第1非電動役物39A及び第2非電動役物39Bの動作順序（第2入賞口315A及び第2入賞口315Bの開放順序）と、第1非電動役物39A及び第2非電動役物39Bへの遊技球99の到達順序（第2入賞口315A及び第2入賞口315Bへの遊技球99の入球順序）とを一致させることができる。そのため

、a時短遊技状態での普図当たりの発生により普通電動役物372が動作されてから極力短時間（例えば最短時間）で、第1非電動役物39A及び第2非電動役物39Bの動作を実行させ、かつ第2入賞口315A、315Bに遊技球99を入球させてメイン制御ユニット331による特図大当たり抽選処理を実行させることが可能になる。その結果、遊技者は、普図当たりが成立した場合、遊技者が遊技性を理解していなくとも、普通電動役物372に向けて遊技球99を連続的に遊技盤31の右側領域に打ち出すだけで、第1非電動役物39A及び第2非電動役物39Bに遊技球99が到達することに基づく処理を識別性又は視認性を高めつつ実行させることが可能になる。これにより、遊技者は、a時短遊技状態において遊技条件として普図当たりが発生した場合、普通電動役物372に向けて遊技球99を連続的に打ち出すという簡易な発射操作を行うことで、a時短遊技状態での普図当たりが発生した場合の恩恵、即ち第2入賞口315A、315Bに遊技球99を入球させてメイン制御ユニット331による特図大当たり抽選処理の実行を極力短時間（例えば最短時間）で受けることができるため、遊技性が複雑化されることなく効率的に遊技の興趣を向上させることが可能になる。即ち、第2入賞口315A、315Bに遊技球99を入球させるのに時間を要する場合、第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mが最大保留数になるまでの時間が長くなるばかりか、遊技者が遊技を進行する上で遊技操作について戸惑うことが懸念されるが、第2入賞口315A、315Bに最大数の遊技球99を極力短時間（例えば最短時間）で入球させることが可能であると、遊技操作について戸惑うまでもなく、単に右打ちを継続するだけで最大の利益を受けることができる。

10

20

【3911】

以下、本実施形態について、図294～図327を参照して前述の第1の実施形態との相違点を中心に説明する。但し、本実施形態において重要な事項については、前述の第1の実施形態において既に説明している場合であっても改めて説明することがある。

【3912】

本遊技機は、本発明の具体的な構成として、流入部としての「流入領域」を備え、また所定条件としての「遊技条件」を備え、また第1動作手段としての「遊技動作部」を備え、また第2動作手段としての「遊技動作部」を備え、また第3動作手段としての「遊技動作部」を備え、また所定の動作としての「遊技動作」を備え、また特定の動作としての「遊技動作」を備え、また第1入球部としての「入球部」を備え、また第1検出部としての「検出部」を備え、また第2入球部としての「入球部」を備え、また第2検出部としての「検出部」を備え、また誘導手段としての「誘導部」を備え、また切替手段としての「切替処理」を備える。

30

【3913】

〔遊技機10の構成〕

まず、図294～図301を参照しつつ遊技機10の構成について説明する。ここで、図294は本実施形態に係る遊技機10の遊技盤31の一例を示す正面図、図295及び図296は図柄表示部341での表示例を示す図、図297は第2入賞口及び非電動役物の周辺を示す図である。

【3914】

〔内枠12の構成〕

図2及び図3に示すように、内枠12は、遊技球発射機構32、遊技球99が流下可能な遊技領域が設定される遊技盤31などを備える。

40

【3915】

図2に示すように、遊技球発射機構32は、誘導部としての発射レール321、球送り装置322、及びソレノイド323を備える。発射レール321は、遊技球発射機構32から遊技盤31の内レール311及び外レール312に向けて形成されており、遊技球発射機構32から発射される遊技球99を内レール311及び外レール312に導くものである。また、内レール311には、板バネとして形成された戻りバネ310（戻り弁）が設けられている。この戻りバネ310は、付与された発射力が少ない遊技球99や発射不

50

良の遊技球 99 を発射レール 321 側に戻すためのものであり、遊技盤 31 の左上部から遊技領域に遊技球 99 を 1 球ずつ流入させるか否かを規定する。即ち、戻りバネ 310 は、遊技盤 31 の遊技領域への流入領域を規定するものであり、遊技盤 31 の左上部から流入領域を介して遊技領域に流入された遊技球 99 は、後述のように遊技盤 31 の左側領域又は右側領域を上方から下方に流下する。球送り装置 322 は、遊技動作部としてのソレノイドなどの駆動手段を有しており、上皿 23 に貯留されている遊技球 99 を 1 球ずつ発射レール 321 上に供給する。ソレノイド 323 は、発射レール 321 上に供給された遊技球 99 を内レール 311 及び外レール 312 に向けて発射させる駆動手段である。そして、遊技機 10 では、遊技者により発射ハンドル 22 に対する発射操作がなされることで遊技条件が成立する状況では、遊技者による発射ハンドル 22 の操作に応じてソレノイド 323 が駆動制御され、0.6sec に 1 個の遊技球 99 が遊技領域に向けて発射される。例えば、発射ハンドル 22 の操作量が規定量を超える場合には遊技盤 31 の左上部から遊技領域に遊技球 99 が流入され、発射ハンドル 22 の操作量が規定量を超え所定量以下である遊技条件が成立する場合には、遊技盤 31 の左側領域に遊技球 99 が発射され（いわゆる左打ち）、発射ハンドル 22 の操作量が所定量を超える遊技条件が成立する場合には、遊技盤 31 の右側領域に遊技球 99 が発射される（いわゆる右打ち）。なお、遊技球発射機構 32 は、ソレノイド 323 に代えて、遊技動作部としてモーターなどの他の駆動手段を用いて遊技球 99 を発射させる機構であってもよい。

10

【3916】

図 294 に示すように、遊技盤 31 には、入球部として、左側領域に一般入賞口 313 が、遊技盤 31 の中央領域に設けられた図柄表示部 341 の下方に第 1 入賞口 314 が、最下部領域にアウト口 318 が、それぞれ設けられている。一般入賞口 313 及び第 1 入賞口 314 には、遊技者の発射操作によって遊技盤 31 における遊技領域の左側領域に発射された、いわゆる左打ちされた遊技球 99 が入球可能である。また、一般入賞口 313 及び第 1 入賞口 314 のそれぞれには、遊技球 99 の入球を検出する検出部として、メイン制御ユニット 331 の主制御装置 4 に接続された入球センサ 313a, 314a が個別に設けられており（図 302 参照）、入球センサ 313a, 314a からの出力に基づいて、メイン制御ユニット 331 の主制御装置 4 によって一般入賞口 313 及び第 1 入賞口 314 への遊技球 99 の入球が検出されることで遊技者に所定数の賞球が付与される。

20

【3917】

なお、左打ちされて一般入賞口 313 及び第 1 入賞口 314 に入球されなかった遊技球 99 は、排出口としてのアウト口 318 を介して遊技盤 31 の背面側に排出される。また、アウト口 318 には、遊技球 99 の入球を検出する検出部として、メイン制御ユニット 331 の主制御装置 4 に接続されたアウト球センサ 318a が設けられており（図 302 参照）、アウト球センサ 318a からの出力に基づいてメイン制御ユニット 331 の主制御装置 4 によってアウト球を検出することでアウト球数をカウントすることができる。また、アウト口 318 は、後述のように遊技盤 31 の右側領域に右打ちされた遊技球 99 が入球可能な各種入球部に入球されなかった遊技球 99 の遊技盤 31 の背面側に排出可能である。つまり、遊技機 10 では、発射された遊技球 99 が遊技盤 31 の左側に設けられた内レール 311 及び外レール 312 の間を上方に移動してから、遊技盤 31 の左上部の戻りバネ 310 によって規定される流入領域を介して左上部から遊技領域に流入し、発射強度に応じて遊技盤 31 の左側領域又は右側領域を上方から下方に流下するが、流下中の遊技球 99 は、その流下過程において各種入球部に入球可能であり、各種入球部に入球されなかった場合に排出口であるアウト口 318 を介して遊技盤 31 の背面側に排出される。そのため、遊技盤 31 の遊技領域に打ち出された遊技球 99 は、各種入球部に入球されなかった場合であっても、遊技盤 31 の遊技領域に滞留することはない。また、遊技者は、遊技球 99 の発射操作を実行する場合、遊技球 99 が適切に遊技盤 31 の遊技領域に流入するか否かを確認し、また遊技領域に遊技球 99 が流入した場合には遊技の進行中に遊技球 99 の流下経路（発射強度の強弱）を確認するために遊技盤 31 の上部側を視認（視線を移動）することが行われる。

30

40

50

【3918】

また、遊技盤31には、遊技球99の遊技領域とは異なる右下部に、遊技動作部としての遊技部材であるメイン表示部36が設けられている。このメイン表示部36は、遊技盤31における遊技球99が流下する遊技領域ではなく遊技領域外である遊技盤31の右下部に設けられている。つまり、メイン表示部36は、遊技盤31の遊技領域への遊技球99の流入領域である遊技盤31の左上部に設けられる戻りバネ310の略対角位置であり、戻りバネ310から離れた位置に設けられている。メイン表示部36は、少なくともメイン制御ユニット331（主制御装置4）による普図当たり抽選の結果や特図大当たり抽選の結果を報知するものであり、その遊技動作の制御が、後述の各種制御処理においてメイン制御ユニット331（主制御装置4）によって実行される。具体的には、メイン表示部36は、普図当たり抽選の結果を報知する普通図柄表示部361、特図大当たり抽選の結果を報知する第1特別図柄表示部362及び第2特別図柄表示部363を備える。普通図柄表示部361や第1特別図柄表示部362及び第2特別図柄表示部363は、LEDランプや7セグメント表示装置などの簡易な表示器により構成されている。そのため、メイン制御ユニット331（主制御装置4）による普図当たり抽選の結果や特図大当たり抽選の結果は、メイン制御ユニット331（主制御装置4）によるメイン表示部36での所定図柄（普通図柄又は特別図柄）の変動表示及び停止表示という簡易な制御によって実現される所定遊技（普通遊技や特別遊技）によって報知される。

10

【3919】

また、遊技盤31には、遊技球99の遊技領域の中央領域に、遊技動作部としての遊技部材である図柄表示部341及び可動役物部材35が設けられている。即ち、図柄表示部341や可動役物部材35などの遊技部材は、識別性や視認性を高めるために（遊技者が識別又は視認し易いように）、遊技盤31の四隅部などの識別性や視認性が低い部分を避けて遊技盤31の中央部又はその周囲に設けられる。このような遊技部材である図柄表示部341及び可動役物部材35は、メイン制御ユニット331（主制御装置4）による特図大当たり抽選の結果を報知する特図遊技の他、小当たり遊技及び大当たり遊技（特図大当たり遊技、V入賞大当たり遊技）において、遊技動作としての遊技演出を実行するものである。

20

【3920】

例えば、特図遊技では、遊技動作部としての遊技部材である図柄表示部341及び可動役物部材35は、遊技盤31の右下部に設けられたメイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363においてメイン制御ユニット331（主制御装置4）による特図大当たり抽選の結果を報知する特図遊技が実行されている間、サブ制御ユニット332（表示制御装置6）の制御によって遊技動作としての遊技演出を実行するものである。即ち、遊技機10では、メイン制御ユニット331（主制御装置4）での特図大当たり抽選の結果がメイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において報知されるが、図柄表示部341及び可動役物部材35では、特図大当たり抽選の結果や特別図柄の変動表示時間に応じて、特図大当たり抽選の結果が大当たりや小当たりであることを期待度を示す遊技演出や、特図大当たり抽選の結果が大当たりや小当たりであることを報知する遊技演出が実行される。また、図295に示すように、特図遊技においては、図柄表示部341では、数字などの図柄として表示される飾り図柄の変動表示及び停止表示が遊技動作として実行される。例えば、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において特図大当たり抽選が外れであることを報知する特図遊技では、図295（A）～図295（C）に示すように、変動表示された数字などの飾り図柄がバラケ目などの非ゾロ目（非同一図柄）で停止表示される。一方、メイン表示部36の第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において特図大当たり抽選が当たり（大当たり、小当たり）であることを報知する特図遊技では、図295（A）、図295（B）及び図295（D）に示すように、変動表示された数字などの飾り図柄がゾロ目などの同一図柄で停止表示される。

30

40

【3921】

50

また、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 及び可動役物部材 3 5 では、特図遊技における遊技演出に加えて、小当たり遊技や大当たり遊技（特図大当たり遊技及び V 入賞大当たり遊技）において遊技動作としての遊技演出が実行される。例えば図 2 9 6（A）に示すように、小当たり遊技では、図柄表示部 3 4 1 において、右打ちを実行することで後述の可変入賞装置 3 8 における小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 を入球させること促す遊技演出（図 2 9 6（A）の右打ちを促す「右打ち」の文字表示や右向き矢印の表示の他、「V を狙え」の文字表示）が実行され、例えば図 2 9 6（B）に示すように右打ちを促す「右打ち」の文字表示や右向き矢印の表示の他、V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球された場合に V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球されたことを示す遊技演出（図 2 9 6（B）の「V」の文字表示）が実行される。また、例えば図 2 9 6（C）に示すように、大当たり遊技、即ち第 1 入賞口 3 1 4 への遊技球 9 9 の入球を契機として実行される（第 1）特図大当たり抽選の結果が大当たりの場合に実行される（第 1）特図大当たり遊技、小当たり遊技において V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球されることを契機として実行される V 入賞大当たり遊技では、当該大当たり遊技の開閉実行モードでのラウンド遊技において、図柄表示部 3 4 1 に、右打ちを促す遊技演出（図 2 9 6（C）の右打ちを促す「右打ち」の文字表示や右向き矢印の表示）、大当たり遊技におけるラウンド遊技数を示す遊技演出（図 2 9 6（C）の「ラウンド X」の文字表示）、当該大当たり遊技での、少なくとも可変入賞装置 3 8 の大当たり遊技用可変入賞装置 3 8 A の入球部としての可変入賞口 3 8 3 A への遊技球 9 9 の入球に基づく現状の出球数表示（図 2 9 6（C）の「9 0 0 球」の文字表示）が遊技動作として実行される。また、例えば図 2 9 6（D）に示すように、当該大当たり遊技のエンディングでは、図柄表示部 3 4 1 において、初当たり遊技（特図大当たり）に加えて V 入賞大当たり遊技の回数を含めた連荘大当たり遊技回数を示す遊技演出（図 2 9 6（D）の「RUSH × 2」の文字表示）の他、当該大当たり遊技が終了するまでの入球部としての可変入賞口 3 8 3 A への遊技球 9 9 の入球に基づく合計出球を示す遊技演出（図 2 9 6（D）の「3 0 0 0 球」の文字表示）が遊技動作として実行される。

10

20

【3 9 2 2】

ここで、図柄表示部 3 4 1 及び可動役物部材 3 5 が遊技盤 3 1 の中央領域に設けられるが、前述のように遊技球 9 9 の発射操作を実行する場合の遊技者の視認箇所が遊技盤 3 1 の上部側であることから、図柄表示部 3 4 1 及び可動役物部材 3 5 は、発射された遊技球 9 9 を確認する遊技者が視認可能であり、遊技者は図柄表示部 3 4 1 及び可動役物部材 3 5 を効率良く視認可能である。

30

【3 9 2 3】

ところで、メイン制御ユニット 3 3 1（主制御装置 4）による特図大当たり抽選の結果は、メイン制御ユニット 3 3 1（主制御装置 4）により制御されるメイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 における第 1 特別図柄（第 1 特図）又は第 2 特別図柄（第 2 特図）が変動表示及び停止表示される特図遊技によって報知され、この特図遊技では、サブ制御ユニット 3 3 2（表示制御装置 6）により制御される図柄表示部 3 4 1 における飾り図柄の変動表示及び停止表示によって特図大当たり抽選の結果が報知されると共に、図柄表示部 3 4 1 や可動役物部材 3 5 などによって遊技演出が実行される。ここで、サブ制御ユニット 3 3 2（表示制御装置 6）において遊技演出を実行するのは、メイン制御ユニット 3 3 1（主制御装置 4）は多くの制御を実行するため、サブ制御ユニット 3 3 2 にコマンドを送信して遊技演出を実行させてメイン制御ユニット 3 3 1 の制御負担を軽減するためである。そして、遊技者が効率良く視認可能な図柄表示部 3 4 1 及び可動役物部材 3 5 において遊技演出を実行することで遊技演出の視認性が向上する。また、図柄表示部 3 4 1 において飾り図柄の変動表示及び停止表示によって特図大当たり抽選の結果を報知することで識別性が向上される。さらに、特図大当たり抽選の結果を、図柄表示部 3 4 1 において報知するだけでなく、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において実行することで、図柄表示部 3 4 1 での報知結果と特図大当たり抽選の結果との間に不整合が発生する場合であっ

40

50

ても、たとえ簡易な表示であっても第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において特図大当たり抽選の結果を報知することで、第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において特図大当たり抽選の結果を確認することができる。

【3924】

前述のように、メイン表示部36は、遊技盤31の遊技領域への遊技球99の流入領域である遊技盤31の左上部に設けられる戻りバネ310の略対角位置であり、戻りバネ310から離れた遊技盤31の遊技盤31の右下部に設けられている。一方、図柄表示部341及び可動役物部材35は、遊技盤31の中央領域に設けられている。即ち、図柄表示部341及び可動役物部材35は、メイン表示部36に比べて、遊技盤31の遊技領域への遊技球99の流入領域である遊技盤31の左上部に設けられる戻りバネ310に近い位置に設けられることで視認容易な位置に設けられている。このように、図柄表示部341及び可動役物部材35がメイン表示部36（第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363）に比べて視認容易であることで、図柄表示部341及び可動役物部材35で実行される遊技演出の視認性が向上し、また図柄表示部341での飾り図柄の変動表示及び停止表示の識別性が向上される。

【3925】

以上のように、遊技制御上では、図柄表示部341に比べてメイン表示部36（第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363）のほうが重要であり必要性が高い。また、メイン制御ユニット331からのコマンドに基づいて制御を行うサブ制御ユニット332によって制御される図柄表示部341は、ノイズや、メイン制御ユニット331とサブ制御ユニット332とを接続するハーネスの不良、その他の原因によって誤作動の可能性が高く、メイン制御ユニット331によって制御されるメイン表示部36（第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363）に比べて動作の信頼性が低い。状況によっては、図柄表示部341において特図大当たり抽選の結果が大当たりとして報知される場合であっても、大当たり用可変入賞装置38A（図298参照）が作動しないことも起こり得る。しかしながら、図柄表示部341は、正常に動作している限りは、遊技演出の実行によって遊技者に興趣を提供する重要な遊技部材である。そのため、簡易な表示器により構成されるメイン表示部36は、遊技性を提供するための各種遊技部材の設置の妨げとならないように遊技盤31の右下部に設けられている。そして、遊技者への興趣の提供において重要な役割を担う図柄表示部341は、視認し易いように遊技盤31の中央部に設けられている。

【3926】

なお、メイン表示部36は、遊技性を提供するための各種遊技部材の設置の妨げとならなければ、遊技盤31の右下部に限らず、例えば遊技盤31の左下部などの他の位置に設けてもよい。

【3927】

また、遊技盤31の右側領域、即ち遊技盤31の略中央部に設けられた図柄表示部341、及び図柄表示部341の右側に設けられた可動役物部材35の右方側には、2つの右ルート規制部35A、35Bが設けられており、これらの右ルート規制部35A、35Bによって誘導部としての右打ち流路35Cが規定されている。そのため、いわゆる右打ちされた遊技球99は、右打ち流路35Cにおける流入領域としての右打ち流路35Cにおける導入部35Dから右打ち流路35Cに1球ずつ流入され、右打ち流路35Cを流下する。

【3928】

なお、右打ち流路35Cには、釘や樹脂などによる障害物を複数設けてもよい。これらの障害物により遊技球99を振り分け、減速して遊技球99の流下にランダム性を持たせてもよい。

【3929】

また、遊技盤31の右側領域には、流入領域としての導入部35Dから右打ち流路35Cに導入されて右打ち流路35Cを流下する遊技球99が入球可能な入球部として、スル

ーゲート 3 1 7、2つの第 2 入賞口 3 1 5 A、3 1 5 B、及び非電作動装置 3 7 が設けられ、さらに、遊技盤 3 1 には、右打ち流路 3 5 C から放出された遊技球 9 9 が入球可能な可変入賞装置 3 8 が設けられている。

【3 9 3 0】

スルーゲート 3 1 7 は、遊技球 9 9 の入球を検出する検出部として、メイン制御ユニット 3 3 1 の主制御装置 4 に接続された入球センサ 3 1 7 a (図 3 0 2 参照) が設けられた入球部であり、右打ち流路 3 5 C における第 2 入賞口 3 1 5 A と第 2 入賞口 3 1 5 B との間に設けられている。即ち、スルーゲート 3 1 7 には、いわゆる右打ちされ、右打ち流路 3 5 C における流入領域としての導入部 3 5 D から導入された遊技球 9 9 のうち、第 2 入賞口 3 1 5 B に入球されなかった遊技球 9 9 が入球される。

10

【3 9 3 1】

また、メイン制御ユニット 3 3 1 (主制御装置 4) は、入球部としてのスルーゲート 3 1 7 に遊技球 9 9 が入球したことが検出部としての入球センサ 3 1 7 a (図 3 0 2 参照) によって検出されたことを契機とし、普図当たり遊技を発生させる遊技条件が成立したか否かの普図当たり抽選を実行する。普図当たり抽選が実行された場合、遊技盤 3 1 の右下部に配置されたメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において遊技動作として普通図柄の変動表示が実行され、普図当たり抽選の結果に応じた図柄で普通図柄が停止表示される普図遊技が実行されることで、普図当たり抽選での結果が普図当たりであるか否かが報知される。そして、普通図柄表示部 3 6 1 において普図当たりである図柄で普通図柄が停止表示された場合、即ち普図当たり抽選の結果が普図当たりであることが報知された場合、普図当たり遊技を発生させる遊技条件が成立し、後述のように遊技動作部としての普通電動役物 3 7 2 の駆動制御 (処理) が実行され、非電作動装置 3 7 における流入領域としての導入口 3 7 1 が開放されることで、非電作動装置 3 7 への遊技球 9 9 の入球が可能となる (図 3 0 0 (B) 参照)。

20

【3 9 3 2】

第 2 入賞口 3 1 5 A は、遊技球 9 9 の入球を検出する検出部としてメイン制御ユニット 3 3 1 の主制御装置 4 に接続された入球センサ 3 1 5 A a (図 2 9 7、図 3 0 2 参照) が設けられた入球部である。同様に、第 2 入賞口 3 1 5 B は、遊技球 9 9 の入球を検出する検出部としてメイン制御ユニット 3 3 1 の主制御装置 4 に接続された入球センサ 3 1 5 B a (図 2 9 7、図 3 0 2 参照) が設けられた入球部である。つまり、第 2 入賞口 3 1 5 A 及び第 2 入賞口 3 1 5 B への遊技球 9 9 の入球の有無は、入球センサ 3 1 5 A a 及び入球センサ 3 1 5 B a からの出力 (信号) に基づいて主制御装置 4 により判断される。

30

【3 9 3 3】

第 2 入賞口 3 1 5 B は、正面視において、第 2 入賞口 3 1 5 A よりも垂直方向の上方側に設けられている。また、第 2 入賞口 3 1 5 B は、正面視において、第 2 入賞口 3 1 5 A よりも右打ち流路 3 5 C における上流側 (第 2 入賞口 3 1 5 A よりも遊技球 9 9 の流下方向における上流側) に設けられている。そのため、第 2 入賞口 3 1 5 A と第 2 入賞口 3 1 5 B とが共に遊技球 9 9 が入球可能な状態である場合、第 2 入賞口 3 1 5 A よりも第 2 入賞口 3 1 5 A より優先的に遊技球 9 9 が入球可能である。

【3 9 3 4】

40

また、メイン制御ユニット 3 3 1 は、入球部としての第 2 入賞口 3 1 5 A 又は第 2 入賞口 3 1 5 B に遊技球 9 9 が入球したことが検出部としての入球センサ 3 1 5 A a 又は入球センサ 3 1 5 B a (図 2 9 7、図 3 0 2 参照) によって検出されたことを契機とし、小当たり遊技を発生させる遊技条件が成立したか否かの (第 2) 特図大当たり抽選を実行する (図 3 0 4 (B) 参照)。メイン制御ユニット 3 3 1 によって (第 2) 特図大当たり抽選が実行された場合、遊技盤 3 1 の右下部に配置されたメイン表示部 3 6 の第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において遊技動作として第 2 特別図柄 (第 2 特図) の変動表示が実行され、特図大当たり抽選の結果に応じた図柄で第 2 特別図柄 (第 2 特図) が停止表示される第 2 特図遊技が実行されることで、特図大当たり抽選での結果が小当たりであるか否かが報知される。そして、第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において小当たりである図柄で第 2 特別図柄 (

50

第2特図)が停止表示された場合、即ち特図大当たり抽選の結果が小当たりであることが報知された場合、小当たり遊技を発生させる遊技条件が成立し、後述のように小当たり遊技用可変入賞装置38Bにおける遊技動作部としての開閉扉382Bの駆動制御(処理)が実行され、小当たり遊技用可変入賞装置38Bにおける流入領域としての可変入賞口381Bが開放されることで、小当たり遊技用可変入賞装置38Bへの遊技球99の入球が可能となる(図298及び図299参照)。

【3935】

図297(A)及び図297(B)に示すように、入球部としての第2入賞口315Aには、遊技動作部としての第1非電動役物39Aが設けられている。この第1非電動役物39Aは、第2入賞口315Aへの遊技球99の入球が可能な入球可能状態(図297(B)参照)と、第2入賞口315Aへの遊技球99の入球が不可能な入球不能状態(図297(A)参照)とを切り替えるものである。具体的には、図297(A)に示すように、第1非電動役物39Aは、第2入賞口315Aを閉鎖状態としつつ、右打ち流路35Cにおける第2入賞口315Aの側方を遊技球99が流下可能な位置にあることで、第2入賞口315Aへの遊技球99の入球が不可能な入球不能状態を実現する。一方、図297(B)に示すように、第1非電動役物39Aは、第2入賞口315Aを開放状態としつつ、右打ち流路35Cにおける第2入賞口315Aの側方を遊技球99が流下可能な位置にあることで誘導部として機能し、第2入賞口315Aへの遊技球99の入球が可能な入球可能状態を実現する。即ち、第1非電動役物39Aは、遊技盤31の正面視において、遊技動作として時計回り方向及び反時計回り方向に回動(回転)可能であり、遊技動作部としての第1非電動役物39Aが遊技動作として回動(回転)されることによって、第2入賞口315Aへの遊技球99の入球が不可能な入球不能状態と、第2入賞口315Aへの遊技球99の入球が可能な入球可能状態とが実現される。

【3936】

ここで、第1非電動役物39Aは、非電動役物に採用されている公知のリンク機構等の機械的機構の作用によって、後述の非電作動装置37における流入領域としての導入口371から非電作動装置37に入球した遊技球99が、非電作動装置37における入球部としての第1非電作動口376Aに入球した場合に、先端部が時計回り方向に遊技動作として回動(回転)可能である。このように、第1非電動役物39Aの先端部が時計回り方向に遊技動作として回動(回転)されることで、入球部としての第2入賞口315Aが、遊技球99の入球が不可能な入球不能状態(図297(A)参照)から、遊技球99の入球が可能な入球可能状態(図297(B)参照)に切り替えられる。

【3937】

また、第1非電動役物39Aは、非電動役物に採用されている公知のリンク機構等の機械的機構によって、入球部としての第2入賞口315Aに所定数の遊技球99(本実施形態では、例えば2球)が入球することで先端部が反時計回り方向に遊技動作として回動(回転)可能である。このように、第1非電動役物39Aの先端部が反時計回り方向に遊技動作として回動(回転)されることで、入球部としての第2入賞口315Aが、遊技球99の入球が可能な入球可能状態(図297(B)参照)から、遊技球99の入球が不可能な入球不能状態(図297(A)参照)に切り替えられる。

【3938】

なお、図297(B)に示すように、入球可能状態の第2入賞口315Aから遊技球99が入球された場合、この遊技球99は検出部としての入球センサ315Aaによって検出された後、排出口315Abを介して遊技盤31の背面側に誘導される。また、入球センサ315Aaによって第2入賞口315Aへの遊技球99の入球が検出された場合、前述のようにメイン制御ユニット331によって(第2)特図大当たり抽選が実行され、(第2)特図大当たり抽選の結果が、第2特図の変動表示及び停止表示が実行される第2特図遊技によって報知される。

【3939】

図297(C)及び図297(D)に示すように、入球部としての第2入賞口315B

には、遊技盤 31 の正面視において遊技動作として前後方向にスライド移動可能な遊技動作部としての第 2 非電動役物 39 B が設けられている。即ち、第 2 非電動役物 39 B は、遊技盤 31（遊技機 10）の正面視において、第 1 非電動役物 39 A とは前後方向に位置ずれして配置されている。このように、第 1 非電動役物 39 A と第 2 非電動役物 39 B とが遊技盤 31（遊技機 10）の正面視において前後方向に位置ずれして配置されていることで、第 1 非電動役物 39 A 及び第 2 非電動役物 39 B の形状や動作態様の多様性が高くなる。これにより、第 1 非電動役物 39 A と第 2 非電動役物 39 B とを配置するために必要なスペースを小さくすることが可能になるため、遊技演出を実行可能な演出手段を配置するためのスペースを大きく確保することが可能になる。例えば、図柄表示部 341 において、特図遊技の他、小当たり遊技や大当たり遊技において遊技演出が実行される場合には（図 295 及び図 296 参照）、図柄表示部 341 での表示面積（正面視面積）を大きく確保でき、可動役物部材 35（図 294 参照）の正面視面積を大きく確保したり可動役物部材 35 の可動範囲を大きく確保したりすることが可能になる。その結果、特図遊技の他、小当たり遊技や大当たり遊技での遊技演出を多様化することが可能となり、遊技の興趣を向上させることが可能となる。

10

【3940】

また、第 2 非電動役物 39 B は、第 2 入賞口 315 B への遊技球 99 の入球が可能な入球可能状態（図 297（D）参照）と、第 2 入賞口 315 B への遊技球 99 の入球が不可能な入球不能状態（図 297（C）参照）とを切り替えるものである。具体的には、第 2 非電動役物 39 B は、先端部が遊技盤 31 から正面側（前方側）に突出しない退避位置にあることで、右打ち流路 35 C を流下する遊技球 99 が第 2 非電動役物 39 B の正面側を通過する入球不能状態（図 297（C）参照）を実現する。一方、第 2 非電動役物 39 B は、先端部が遊技盤 31 から正面側（前方側）に突出する突出位置にあることで誘導部として機能し、右打ち流路 35 C を流下する遊技球 99 を受け止めて第 2 入賞口 315 B に遊技球 99 を誘導する入球可能状態（図 297（D）参照）を実現する。

20

【3941】

ここで、第 2 非電動役物 39 B は、非電動役物に採用されている公知のリンク機構等の機械的機構によって、後述の非電作動装置 37 における流入領域としての導入口 371 から非電作動装置 37 に入球した遊技球 99 が、非電作動装置 37 における入球部としての第 2 非電作動口 376 B に入球した場合に正面側（前方側）にスライド移動する遊技動作を実行可能である。このように、第 2 非電動役物 39 B が正面側（前方側）にスライド移動する遊技動作が実行されることで、入球部としての第 2 入賞口 315 B が、遊技球 99 の入球が不可能な入球不能状態（図 297（C）参照）から、遊技球 99 の入球が可能な入球可能状態（図 297（D）参照）に切り替えられる。

30

【3942】

また、第 2 非電動役物 39 B は、非電動役物に採用されている公知のリンク機構等の機械的機構によって、入球部としての第 2 入賞口 315 B に所定数の遊技球 99（本実施形態では、例えば 2 球）が入球することで背面側（後方側）にスライド移動する遊技動作を実行可能である。このように、第 2 非電動役物 39 B が背面側（後方側）にスライド移動する遊技動作が実行されることで、入球部としての第 2 入賞口 315 B が、遊技球 99 の入球が可能な入球可能状態（図 297（D）参照）から、遊技球 99 の入球が不可能な入球不能状態（図 297（C）参照）に切り替えられる。

40

【3943】

なお、図 297（B）に示すように、入球可能状態の第 2 入賞口 315 B から遊技球 99 が入球された場合、この遊技球 99 は第 2 非電動役物 39 B の貫通孔 391 B を介して下方に誘導されることで検出部としての入球センサ 315 Ba によって検出される。また、入球センサ 315 Ba によって第 2 入賞口 315 B への遊技球 99 の入球が検出された場合、前述のようにメイン制御ユニット 331 によって（第 2）特図大当たり抽選が実行され、（第 2）特図大当たり抽選の結果が、第 2 特図の変動表示及び停止表示が実行される第 2 特図遊技によって報知される。

50

【3944】

ところで、本実施形態では、遊技動作部としての第1非電動役物39Aの遊技動作が遊技盤31（遊技機10）の正面視における時計回り方向及び反時計回り方向に回動（回転）であるのに対して、遊技動作部としての第2非電動役物39Bの遊技動作が遊技盤31（遊技機10）の正面視における前後方向へのスライド移動であり、第1非電動役物39Aと第2非電動役物39Bとは、遊技盤31（遊技機10）の正面視における遊技動作の態様が異なる。このように、遊技盤31（遊技機10）の正面視における第1非電動役物39Aと第2非電動役物39Bとの遊技動作の態様が異なることで、第1非電動役物39A及び第2非電動役物39Bの形状や動作態様の多様性が高くなる。これにより、第1非電動役物39Aと第2非電動役物39Bとを配置するために必要なスペースを小さくすることが可能になるため、遊技演出を実行可能の演出手段を配置するためのスペースを大きく確保することが可能になる。例えば、図柄表示部341において、特図遊技の他、小当たり遊技や大当たり遊技において遊技演出が実行される場合には（図295及び図296参照）、図柄表示部341での表示面積（正面視面積）を大きく確保でき、可動役物部材35（図294参照）の正面視面積を大きく確保したり可動役物部材35の可動範囲を大きく確保したりすることが可能になる。その結果、特図遊技の他、小当たり遊技や大当たり遊技での遊技演出を多様化することが可能となり、遊技の興趣を向上させることが可能となる。また、第1非電動役物39Aと第2非電動役物39Bとの、遊技盤31（遊技機10）の正面視における遊技動作の態様が異なることで、遊技盤31の盤面スペースに合わせて、第2入賞口315Aと第2入賞口315Bの他、非電作動装置37や可変入賞装置38などの各種入賞装置を設置することが可能になる。

10

20

【3945】

なお、本実施形態では、遊技動作部としての第1非電動役物39Aが時計回り方向及び反時計回り方向に回動（回転）可能であるのに対して、遊技動作部としての第2非電動役物39Bが前後移動可能であるが、第1非電動役物39Aと第2非電動役物39Bとを同様な態様に動作するものとして構成してもよい。

【3946】

また、本実施形態では、入球部としての第2入賞口315A及び第2入賞口315Bが2球の遊技球99の入球により入球不能状態とされるが、第2入賞口315A及び第2入賞口315Bが入球不能状態とされる遊技球99の上限入球数は適宜変更可能であり、第2入賞口315Aが入球不能状態とされる上限入球数と、第2入賞口315Bが入球不能状態とされる上限入球数が異なってもよい。もちろん、遊技動作部としての第1非電動役物39Aと第2非電動役物39Bに代えて、電動役物を採用してもよい。

30

【3947】

〔可変入賞装置38〕

本実施形態に係る遊技機10は、前述の第1の実施形態とは異なり、ループ確変機ではなく1種2種混合機として構成されており、前述の第1の実施形態とは可変入賞装置38の構成が異なっている。ここで、図298及び図299は、本実施形態に係る遊技機10の可変入賞装置38を示す図である。

【3948】

図298及び図299に示すように、可変入賞装置38は、大当たり遊技（特図大当たり遊技、V入賞大当たり遊技）において作動される大当たり遊技用可変入賞装置38Aと、小当たり遊技において作動される小当たり遊技用可変入賞装置38Bと、を備える。大当たり遊技用可変入賞装置38A及び小当たり遊技用可変入賞装置38Bには、流入領域としての導入部35Dから右打ち流路35Cに導入されて誘導部としての右打ち流路35Cを流下して、第2入賞口315A、第2入賞口315B、及び非電作動装置37に入球しなかった遊技球99が入球可能である。

40

【3949】

図298に示すように、大当たり遊技用可変入賞装置38Aは、メイン制御ユニット331による特図大当たり抽選の結果が大当たりであることで遊技条件が成立した場合に実

50

行される特図大当たり遊技、又は特図大当たり抽選の結果が小当たりであることで遊技条件が成立した場合に実行される小当たり遊技において後述の小当たり遊技用可変入賞装置 38B の V 入賞口 383B に遊技球 99 が入球されることで遊技条件が成立した場合に実行される V 入賞大当たり遊技において作動される。この大当たり遊技用可変入賞装置 38A は、開口部 381A、遊技動作部としての開閉扉 382A、及び入球部としての可変入賞口 383A を備える。

【3950】

開口部 381A は、遊技盤 31 の上方側に開放しており、遊技球 99 が入球可能な入球部である。開閉扉 382A は、切替処理により遊技動作として遊技盤 31 の前後方向にスライド移動が可能である。また、開閉扉 382A は、切替処理により遊技動作として前方側にスライド移動されて前方側に位置することで、開口部 381A を閉鎖して大当たり遊技用可変入賞装置 38A（可変入賞口 383A）への遊技球 99 の入球を不能とする（図 298（A）参照）。一方、開閉扉 382A は、切替処理により遊技動作として後方側にスライド移動されて後方側に位置することで、開口部 381A を開放して大当たり遊技用可変入賞装置 38A（可変入賞口 383A）への遊技球 99 の入球を可能とする（図 298（B）参照）。

【3951】

可変入賞口 383A は、開口部 381A の下方に設けられており、遊技球 99 の入球を検出する検出部として入球センサ 383Aa が設けられた入球部である。入球センサ 383Aa は、メイン制御ユニット 331 の主制御装置 4 に接続されており（図 302 参照）、可変入賞口 383A への遊技球 99 の入球の有無は、入球センサ 383Aa からの出力に基づいて主制御装置 4 によって判断される。また、可変入賞口 383A には、遊技動作部としての開閉扉 382A が後方側に遊技動作されることで開口部 381A が開放された場合に、開口部 381A を介して大当たり遊技用可変入賞装置 38A の内部に入球された遊技球 99 が入球可能である。つまり、大当たり遊技では、開閉扉 382A が後方側に遊技動作されることで可変入賞口 383A に遊技球 99 の入球が可能であり、可変入賞口 383A への遊技球 99 の入球が入球センサ 383Aa によって検出された場合に賞球が付与される。

【3952】

図 298 及び図 299 に示すように、小当たり遊技用可変入賞装置 38B は、メイン制御ユニット 331 による特図大当たり抽選の結果が小当たりである場合に実行される小当たり遊技において作動される。この小当たり遊技用可変入賞装置 38B は、開口部 381B、遊技動作部としての開閉扉 382B、入球部としての V 入賞口 383B、入球部としての非 V 入賞口 384B、及び誘導部としての V 入賞口開閉部 385B を備える。

【3953】

開口部 381B は、遊技盤 31 の上方側に開放しており、遊技球 99 が入球可能な入球部である。開閉扉 382B は、切替処理により遊技動作として遊技盤 31 の前後方向にスライド移動が可能である。また、開閉扉 382B は、切替処理により遊技動作として前方側にスライド移動されて前方側に位置することで、開口部 381B を閉鎖して小当たり遊技用可変入賞装置 38B（V 入賞口 383B、非 V 入賞口 384B）への遊技球 99 の入球を不能とする（図 298 参照）。一方、開閉扉 382B は、切替処理により遊技動作として後方側にスライド移動されて後方側に位置することで、開口部 381B を開放して小当たり遊技用可変入賞装置 38B（V 入賞口 383B、非 V 入賞口 384B）への遊技球 99 の入球を可能とする（図 299 参照）。

【3954】

V 入賞口 383B は、開口部 381A の下方に設けられており、遊技球 99 の入球を検出する検出部として入球センサ 383Ba が設けられた入球部である。入球センサ 383Ba は、メイン制御ユニット 331 の主制御装置 4 に接続されており（図 302 参照）、V 入賞口 383B への遊技球 99 の入球の有無は、入球センサ 383Ba からの出力に基づいて主制御装置 4 によって判断される。そして、主制御装置 4 によって V 入賞口 383

Bに遊技球99が入球されたと判断された場合、賞球が付与されると共に、遊技条件の成立により小当たり遊技の終了後にV入賞大当たり遊技が発生される。

【3955】

非V入賞口384Bは、開口部381Aの下方に設けられており、遊技球99の入球を検出する検出部として入球センサ384Baが設けられた入球部である。入球センサ384Baは、メイン制御ユニット331の主制御装置4に接続されており（図302参照）、非V入賞口384Bへの遊技球99の入球の有無は、入球センサ384Baからの出力に基づいて主制御装置4によって判断される。そして、主制御装置4によって非V入賞口384Bに遊技球99が入球されたと判断された場合、賞球が付与される。

【3956】

V入賞口開閉部385Bは、V入賞口383Bの上方と非V入賞口384Bの上方との間において切替処理により遊技動作として左右方向にスライド移動が可能であり、V入賞口383B及び非V入賞口384Bのいずれかに遊技球99を誘導可能な誘導部である。このV入賞口開閉部385Bは、切替処理により遊技動作として右方向に移動されることで非V入賞口384Bの上方に位置する（図299（A）参照）。V入賞口開閉部385Bが非V入賞口384Bの上方に位置する場合、V入賞口383Bが開放されることでV入賞口383Bに遊技球99が入球可能である一方で、非V入賞口384Bが閉鎖されることで非V入賞口384Bに遊技球99が入球不能である（図299（A）参照）。これに対して、V入賞口開閉部385Bは、切替処理により遊技動作として左方向に移動されることでV入賞口383Bの上方に位置する（図299（B）参照）。V入賞口開閉部385BがV入賞口383Bの上方に位置する場合、V入賞口383Bが閉鎖されることでV入賞口383Bに遊技球99が入球不能である一方で、非V入賞口384Bが閉鎖されることで非V入賞口384Bに遊技球99が入球不能である（図299（B）参照）。

【3957】

ここで、V入賞口開閉部385Bは、小当たり遊技において、開閉扉382Bに対する切替処理により遊技動作として後方側にスライド移動されて開口部381Bが開放された場合、非V入賞口384Bの上方側に位置してV入賞口383Bが開放状態とされる（図299（A）参照）。そして、V入賞口開閉部385Bは、小当たり遊技において、V入賞口383Bに所定数の遊技球99（本実施形態では、例えば1球）が入球された場合に、切替処理により遊技動作として左側にスライド移動されてV入賞口383Bの上方側に位置して非V入賞口384Bが開放状態とされる（図299（B）参照）。

【3958】

なお、本実施形態では、V入賞口開閉部385Bが、V入賞口383Bの上方と非V入賞口384Bの上方との間において左右方向にスライド移動可能であるが、V入賞口開閉部385Bは、遊技盤31の前後方向に移動可能であることでV入賞口383Bの閉鎖状態（入球不能状態）と開放状態（入球可能状態）とを切り替えるものであってもよい。

【3959】

また、本実施形態では、可変入賞装置38として、大当たり遊技用可変入賞装置38Aと小当たり遊技用可変入賞装置38Bとが別に設けられていたが、大当たり遊技と小当たり遊技とで1つの可変入賞装置を共用してもよい。例えば、本実施形態における大当たり遊技用可変入賞装置38Aを省略し、本実施形態における小当たり遊技用可変入賞装置38Bに相当する可変入賞装置を、大当たり遊技と小当たり遊技で共用してもよい。

【3960】

また、本実施形態に係る遊技機10は、1種2種混合機に限らず、小当たり遊技用可変入賞装置38BのV入賞口383Bへの遊技球99の入球による遊技条件の成立により、例えば大当たり確率が高くなる確変遊技状態が発生するV-ST機（V確変機）として構成することもできる。さらに、本実施形態に係る遊技機10は、遊技条件の成立が小当たり遊技用可変入賞装置38BのV入賞口383Bへの遊技球99の入球を条件としない、いわゆるループ確変機やST機として構成することもできる。この場合、可変入賞装置38において小当たり遊技用可変入賞装置38Bを省略することができる。

【3961】

〔非電作動装置37〕

本実施形態に係る遊技機10は、第1非電動役物39Aにより開閉される第2入賞口315Aと、第2非電動役物39Bにより開閉される第2入賞口315Bとを備えているため、前述の第1の実施形態とは異なり、第1非電動役物39A及び第2非電動役物39Bを作動させる非電作動装置37を備える。ここで、図300及び図301は、本実施形態に係る遊技機10の非電作動装置37を示す図である。

【3962】

図300に示すように、非電作動装置37は、遊技盤31の右側領域において、入球部としての第2入賞口315A及び第2入賞口315Bよりも、垂直方向の下方側で遊技球99の流下方向の下流側に配置されている。そのため、非電作動装置37には、流入領域としての導入部35Dから右打ち流路35Cに流入されて誘導部としての右打ち流路35Cを流下して、第2入賞口315A及び第2入賞口315Bに入球しなかった遊技球99が流入可能である。この非電作動装置37は、導入口371、普通電動役物372、流路形成部373、非電作動部375、及び排出口378を備える。

10

【3963】

導入口371は、非電作動装置37に遊技球99を1球ずつ流入させる流入領域である。この流入領域としての導入口371には、メイン制御ユニット331の主制御装置4に接続された検出部としての入球センサ371a（図302参照）が設けられている。つまり、導入口371から非電作動装置37に遊技球99が流入されたか否かは、入球センサ371aからの出力（信号）に基づいて主制御装置4により判断される。

20

【3964】

普通電動役物372は、導入口371を開閉して非電作動装置37への遊技球99の流入を制限又は許容する誘導部である。この普通電動役物372は、ソレノイド（不図示）等の駆動手段によって、導入口371を閉鎖して非電作動装置37への遊技球99の流入を制限する待機位置（図300（A）参照）と、導入口371を開放する非電作動装置37への遊技球99の流入を許容すると共に、右打ち流路35Cを流下する遊技球99を導入口371に誘導する誘導位置（図300（B）参照）と、の間で時計回り方向及び反時計回り方向に遊技動作として回動（回転）が可能である。この普通電動役物372は、普図当たり遊技において待機位置と誘導位置との間で遊技動作される。一方、普通電動役物372は、普図当たり遊技以外では待機位置にある。そのため、普通電動役物372によって導入口371が閉鎖されて非電作動装置37への遊技球99の入球が制限される。そのため、非電作動装置37へは、普図当たり遊技の実行中のみ遊技球99が流入可能である。

30

【3965】

ここで、普図当たり遊技は、入球部としてのスルーゲート317に遊技球99が入球された場合にメイン制御ユニット331により実行される普図当たり抽選の結果が当たりであることに基づいて遊技条件が成立する場合に実行される。そして、普図当たり遊技では、切替処理により待機位置にある普通電動役物372が反時計回り方向に回動（回転）されることで誘導位置に遊技動作される。これにより、非電作動装置37への遊技球99の流入が許容される。また、普図当たり遊技において右打ちを行って誘導部としての右打ち流路35Cに遊技球99を流下させる遊技条件を成立させることで、非電作動装置37に所定数の遊技球99（本実施形態では、例えば2球）が流入した場合、切替処理により誘導位置にある普通電動役物372が時計回り方向に回動（回転）されることで待機位置に遊技動作される。具体的には、検出部としての入球センサ371aによって非電作動装置37への所定数の遊技球99（本実施形態では、例えば2球）の入球が検出された場合に、普通電動役物372が誘導位置から待機位置に遊技動作される。このように、普通電動役物372が誘導位置から待機位置に遊技動作された場合ことで非電作動装置37への遊技球99の流入が制限され、非電作動装置37への所定数の遊技球99（本実施形態では、例えば2球）の入球により普図遊技が終了する。

40

50

【3966】

ところで、後述のように、通常遊技状態では、メイン制御ユニット331による普図当たり抽選の結果が当たりとなる振り分けがなく、100%の確率で外れとなる（図303（A）参照）。一方、特図大当たり遊技の終了後に移行され得るa時短遊技状態では、メイン制御ユニット331による普図当たり抽選の結果が外れとなる振り分けがなく、100%の確率で当たりとなる（図303（B）参照）。つまり、本実施形態では、普図当たり遊技がa時短遊技状態でのみ実行され得るため、普通電動役物372はa時短遊技状態でのみ遊技動作され得る。また、入球部としてのスルーゲート317は、誘導部としての右打ち流路35Cに設けられている。そのため、非電作動装置37には、a時短遊技状態において、右打ちを行って誘導部としての右打ち流路35Cに遊技球99を流下させる遊技条件を成立させることで遊技球99が流入可能である。

10

【3967】

なお、本実施形態では、a時短遊技状態は、普通電動役物372が誘導位置から待機位置に遊技動作された場合、即ち普図遊技が終了した場合に終了する。また、a時短遊技状態は、普通電動役物372が待機位置から誘導位置に遊技動作された場合、即ち普図遊技が開始した場合に終了するようにしてもよい。

【3968】

流路形成部373は、流入領域としての導入口371から非電作動装置37に流入された遊技球99を非電作動部375に向けて誘導する誘導部である。この流路形成部373は、導入口371の右側方に設けられた遊技球99の流入領域としての開口部373Aと、非電作動部375の上方に設けられた遊技球99の流出領域としての開口部373Bとを備える。また、流路形成部373は、開口部373Aと開口部373Bとの間に設けられた減速手段としての2つの減速部373C、373Dを備える。減速部373Cは突起状に形成され、減速部373Dは段状に形成されている。このような流路形成部373では、当該流路形成部373に流入された遊技球99が、開口部373Bから流出されるまでの間に減速部373C、373Dに干渉する（図303（B）参照）。つまり、流路形成部373では、減速部373C、373Dに遊技球99が干渉することによって、遊技球99の垂直方向に直線的に流下するのではなく蛇行しつつ流下することで、遊技球99の垂直方向に対する流下速度が減速される。このように、流路形成部373に減速部373C、373Dが設けられることで、流入領域としての導入口371から非電作動装置37に流入された遊技球99が非電作動部375に到達するまでの時間を長く確保することが可能になるため、後述の効果を奏する。

20

30

【3969】

非電作動部375は、上方に開放する遊技球99の流入領域としての第1開口部377A及び第2開口部377Bと、第1開口部377Aに連通し第1開口部377Aから流入した遊技球99が入球される入球部としての第1非電作動口376Aと、第2開口部377Bに連通し第2開口部377Bから流入した遊技球99が入球される入球部としての第2非電作動口376Bと、を備える。

【3970】

第1非電作動口376Aは、遊技球99の入球に基づいて、入球部としての第2入賞口315Aを閉鎖している第1非電動役物39Aを、遊技動作部としての公知のリンク機構等の機械的機構によって時計回り方向に回動（回転）させる遊技動作を実行し、第2入賞口315Aに遊技球99が入球可能な状態とするものである。一方、第2非電作動口376Bは、遊技球99の入球に基づいて、入球部としての第2入賞口315Bを入球不能状態としている第2非電動役物39Bを、遊技動作部としての公知のリンク機構等の機械的機構によって前方側スライド移動させる遊技動作を実行し、第2入賞口315Bに遊技球99が入球可能な状態とするものである。

40

【3971】

図301（A）及び図301（B）に示すように、非電作動部375の上方には、正面視形状が三角であり、傾斜状の左誘導面374A及び右誘導面374Bを有する誘導部と

50

しての可動誘導部 374 が設けられている。左誘導面 374 A は、上方側から流下した遊技球 99 を左方側に誘導可能であり、右誘導面 374 B は、上方側から流下した遊技球 99 を右方側に誘導可能である。可動誘導部 374 は、ソレノイド（不図示）等の駆動手段からの駆動力に基づいて、非電作動部 375 の流入領域としての第 1 開口部 377 A の直上位置と、非電作動部 375 の流入領域としての第 2 開口部 377 B の直上位置と、の間を、遊技動作として左右方向にスライド移動が可能である。

【3972】

図 301 (A) に示すように、可動誘導部 374 が第 2 開口部 377 B の直上位置にある場合、第 1 開口部 377 A から入球部としての第 1 非電作動口 376 A に遊技球 99 が入球可能で、第 2 開口部 377 B から入球部としての第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球不能とされる。また、可動誘導部 374 が第 2 開口部 377 B の直上位置にある場合、可動誘導部 374 は、誘導部としての流路形成部 373 から、開口部 373 B を介して非電作動部 375 に向けて流出した遊技球 99 を、左誘導面 374 A によって第 1 開口部 377 A（第 1 非電作動口 376 A）に向けて誘導する第 1 誘導状態となる。

【3973】

また、流入領域としての第 1 開口部 377 A の直上であって誘導部としての可動誘導部 374 の移動経路の下方には、メイン制御ユニット 331 の主制御装置 4 に接続された検出部としての入球センサ 376 A a が設けられている（図 302 参照）。つまり、入球センサ 376 A a は、第 1 開口部 377 A 及び第 1 非電作動口 376 A よりも垂直方向の上方側で遊技球 99 の流下方向の上流側に設けられている。そのため、流路形成部 373 の開口部 373 B から流入して可動誘導部 374 の左誘導面 374 A によって第 1 非電作動口 376 A に向けて誘導された遊技球 99 は、入球センサ 376 A a によって検出されてから第 1 非電作動口 376 A に入球する。即ち、本実施形態では、第 1 非電作動口 376 A に遊技球 99 が入球する前に、入球センサ 376 A a によって第 1 非電作動口 376 A への遊技球 99 の入球が検出される。なお、入球センサ 376 A a は、第 1 非電作動口 376 A よりも遊技球 99 の流下方向の下流側に設けてもよい。即ち、入球センサ 376 A a は、第 1 非電作動口 376 A への遊技球 99 の入球後に第 1 非電作動口 376 A への遊技球 99 の入球を検出するものであってもよい。

【3974】

一方、図 301 (B) に示すように、可動誘導部 374 が第 1 開口部 377 A の直上位置にある場合、第 1 開口部 377 A から入球部としての第 1 非電作動口 376 A に遊技球 99 が入球不能で、第 2 開口部 377 B から入球部としての第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球可能とされる。また、可動誘導部 374 が第 1 開口部 377 A の直上位置にある場合、可動誘導部 374 は、誘導部としての流路形成部 373 から、開口部 373 B を介して非電作動部 375 に向けて流出した遊技球 99 を、右誘導面 374 B によって第 2 開口部 377 B（第 2 非電作動口 376 B）に向けて誘導する第 2 誘導状態となる。

【3975】

また、流入領域としての第 2 開口部 377 B の直上であって誘導部としての可動誘導部 374 の移動経路の下方には、メイン制御ユニット 331 の主制御装置 4 に接続された検出部としての入球センサ 376 B a が設けられている（図 302 参照）。つまり、入球センサ 376 B a は、第 2 開口部 377 B 及び第 2 非電作動口 376 B よりも垂直方向の上方側で遊技球 99 の流下方向の上流側に設けられている。そのため、流路形成部 373 の開口部 373 B から流入して可動誘導部 374 の右誘導面 374 B によって第 2 非電作動口 376 B に向けて誘導された遊技球 99 は、入球センサ 376 B a によって検出されてから第 2 非電作動口 376 B に入球する。即ち、本実施形態では、第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球する前に、入球センサ 376 B a によって第 2 非電作動口 376 B への遊技球 99 の入球が検出される。なお、入球センサ 376 B a は、第 2 非電作動口 376 B よりも遊技球 99 の流下方向の下流側に設けてもよい。即ち、入球センサ 376 B a は、第 2 非電作動口 376 B への遊技球 99 の入球後に第 2 非電作動口 376 B への遊技球 99 の入球を検出するものであってもよい。

【3976】

前述のように、非電作動装置37へは、普図当たり遊技の実行中のみ所定数の遊技球99（本実施形態では、例えば2球）が流入可能である。また、誘導部としての可動誘導部374は、普図当たり遊技の開始時には、誘導部としての流路形成部373から、開口部373Bを介して非電作動部375に向けて流出した遊技球99を、左誘導面374Aによって流入領域としての第1開口部377A（第1非電作動口376A）に向けて誘導する第1誘導状態とされている（図300参照）。また、可動誘導部374が第1誘導状態にある場合、入球部としての第1非電作動口376Aに所定数の遊技球99（本実施形態では、1球）が入球されると、即ち検出部としての入球センサ376Baによって遊技球99が検出されると、切替処理によって可動誘導部374が左側にスライド移動され、可動誘導部374が、誘導部としての流路形成部373から、開口部373Bを介して非電作動部375に向けて流出した遊技球99を、右誘導面374Bによって第2開口部377B（第2非電作動口376B）に向けて誘導する第2誘導状態に切り替えられる（図301（B）参照）。さらに、可動誘導部374が第2誘導状態にある場合、入球部としての第2非電作動口376Bに所定数の遊技球99（本実施形態では、1球）が入球されると、即ち検出部としての入球センサ376Baによって遊技球99が検出されると、切替処理によって可動誘導部374が右側にスライド移動されて可動誘導部374が第1誘導状態に切り替えられる（図301（A）参照）。

10

【3977】

つまり、本実施形態では、特定の大当たり遊技（本実施形態では10R特図大当たり遊技）が終了することで当該特定の大当たり遊技の終了後にa時短遊技状態に移行されることを契機として普図当たり遊技が開始されると、非電作動装置37において、普通電動役物372が動作されて流入領域としての導入口371が開放されることで、非電作動装置37に2球の遊技球99が入球可能であり、普図当たり遊技が開始時に可動誘導部374が第1誘導状態であることで非電作動装置37に先に入球した1球の遊技球99が第1非電作動口376Aに入球し、第1非電作動口376Aへの1球の遊技球99の入球によって可動誘導部374が第2誘導状態とされることで非電作動装置37に後に入球した遊技球99が第2非電作動口376Bに入球し、第2非電作動口376Bへの1球の遊技球99の入球によって可動誘導部374が第1誘導状態とされる。そして、第1非電作動口376Aに遊技球99が入球されると、公知のリンク機構等の機械的機構の作用によって第1非電動役物39Aが作動されて第2入賞口315Aに遊技球99が入球可能な入球可能状態とされ（図298（B）参照）、第2非電作動口376Bに遊技球99が入球されると、公知のリンク機構等の機械的機構の作用によって第2非電動役物39Bが作動されて第2入賞口315Bに遊技球99が入球可能な入球可能状態とされる（図298（D）参照）。

20

30

【3978】

このように、本実施形態では、a時短遊技状態において普図当たり遊技が開始されることで非電作動装置37に2球の遊技球99が流入し、先に流入した1球の遊技球99が第1非電作動口376Aに入球した後、後に流入した1球の遊技球99が第2非電作動口376Bに入球する。そのため、第1非電作動口376Aへの遊技球99の入球により先に第1非電動役物39Aが作動されて第2入賞口315Aに遊技球99が入球可能となり、その後の第2非電作動口376Bへの遊技球99の入球により後に第2非電動役物39Bが作動されて第2入賞口315Bに遊技球99が入球可能となる。そして、本実施形態では、第2入賞口315Aは、2玉の遊技球99の入球による第1非電動役物39Aの作動によって、入球可能状態から入球不能状態とされる。また、本実施形態では、第2入賞口315Bは、2玉の遊技球99の入球による第2非電動役物39Bの作動によって、入球可能状態から入球不能状態とされる。その結果、特定の特図大当たり遊技の終了によりa時短遊技状態に移行することで、第2入賞口315A及び第2入賞口315Bに2玉ずつの遊技球99が入球されるため、最大で4回のメイン制御ユニット331による特図大当たり抽選を受けることができる。そのため、遊技者は、特定の大当たり遊技を含めて、5

40

50

回の大当たり遊技（1回の特定の特図大当たり遊技＋4回のV入賞大当たり遊技）を連続して発生させることができ、1回の特図大当たりを契機として多量の出玉が可能になる。具体的には、本実施形態では、可変入賞口383A、V入賞口383B及び非V入賞口384Bへの遊技球99の入球によって15球の賞球が得られ、大当たり遊技の1ラウンド当たり150球の出球を得ることができるように設定されている。そのため、1回の特図大当たりを契機とし、10R特図大当たり遊技（1500球）×1回＋10RV入賞大当たり遊技（1500玉）×4回＝7500球という大量出球を獲得することが可能になる（図304参照）。

【3979】

ここで、遊技機10では、連続的に遊技球99が発射されるように右打ちを行うと、複数の遊技球99が右打ち流路35Cを流下する（図324（A）参照）。そして、a時短遊技状態では、右打ち流路35Cを流下した遊技球99がスルーゲート317に入球することでメイン制御ユニット331による普図当たり抽選での普図当たりの成立により遊技動作部としての普通電動役物372が動作され、非電作動装置37への遊技球99の入球が可能とされる（図324（A）参照）。また、普通電動役物372の動作により非電作動装置37の流入領域としての導入口371から2個の遊技球99が流入したことが入球センサ371aによって検知されると、普通電動役物372が復帰され、非電作動装置37への遊技球99の入球が不能とされる（図324（B）参照）。

【3980】

非電作動装置37に流入した2個の遊技球99は、誘導部としての流路形成部373を減速部373C、373Dにおいて減速されつつ流下し、流路形成部373から誘導部としての可動誘導部374に向けて流出される。このとき、可動誘導部374は、非電作動部375の第2開口部377Bの直上に位置する。そのため、可動誘導部374は、非電作動部375の第2開口部377B（第2非電作動口376B）への遊技球99の入球を不能とする一方で、非電作動部375の第1開口部377A（第1非電作動口376A）に遊技球99を誘導する第1誘導状態とされている。その結果、非電作動装置37に流入した2個の遊技球99のうちの先に流入した遊技球99は、可動誘導部374の左誘導面374Aによって入球センサ376Aaによって検出されてから第1非電作動口376Aに入球する（図325（A）及び図325（B）参照）。

【3981】

また、第1非電作動口376Aに遊技球99が入球すると、第1非電動役物39Aが作動され、第2入賞口315Aが開放される（図326（A）参照）。第2入賞口315Aは、2球の遊技球99の入球により第1非電動役物39Aが復帰されることで閉鎖される（図326（B）参照）。ここで、前述のように連続的に遊技球99が発射されるように右打ちを行うと、複数の遊技球99が右打ち流路35Cを連続的に流下する。そのため、第1非電動役物39Aが作動され、第2入賞口315Aが開放されると、第1非電動役物39Aの動作時に第1非電動役物39Aの上方かつ近傍を遊技球99が流下する状態となっている。そのため、第1非電動役物39Aの動作時に、右打ち流路35Cを流下する遊技球99が第1非電動役物39Aによって即座に第2入賞口315Aに誘導されることで、即座に第2入賞口315Aに遊技球99が入球される。

【3982】

また、入球センサ376Aaによって遊技球99が検知されると、可動誘導部374が非電作動部375の第2開口部377Bの直上から非電作動部375の第1開口部377Aの直上に移動させる切替処理が実行される。この切替処理により、可動誘導部374は、非電作動部375の第1開口部377A（第1非電作動口376A）への遊技球99の入球を不能とする一方で、非電作動部375の第2開口部377B（第2非電作動口376B）に遊技球99を誘導する第2誘導状態に切り替えられる（図325（A）及び図325（B）参照）。このとき、非電作動装置37に流入した2個の遊技球99のうちの後に流入した遊技球99は、可動誘導部374の上方に位置する。その結果、非電作動装置37に流入した2個の遊技球99のうちの後に流入した遊技球99は、可動誘導部374

10

20

30

40

50

の右誘導面 374B によって入球センサ 376Ba によって検出されてから第 2 非電作動口 376B に入球する（図 327（A）及び図 327（B）参照）。

【3983】

また、第 2 非電作動口 376B に遊技球 99 が入球すると、第 2 非電動役物 39B が作動され、第 2 入賞口 315B が開放される（図 327（C）参照）。第 2 入賞口 315B は、2 球の遊技球 99 の入球により第 2 非電動役物 39B が復帰されることで閉鎖される（図 327（D）参照）。ここで、前述のように連続的に遊技球 99 が発射されるように右打ちを行うと、複数の遊技球 99 が右打ち流路 35C を流下する。そのため、第 2 非電動役物 39B が作動され、第 2 入賞口 315B が開放されると、右打ち流路 35C において第 2 非電動役物 39B の上方を流下する遊技球 99 が即座に第 2 入賞口 315B に入球される。

10

【3984】

また、入球センサ 376Ba によって遊技球 99 が検知されると、可動誘導部 374 が非電作動部 375 の第 1 開口部 377A の直上から非電作動部 375 の第 2 開口部 377B の直上に移動させる切替処理が実行される。この切替処理により、可動誘導部 374 は、非電作動部 375 の第 2 開口部 377B（第 2 非電作動口 376B）への遊技球 99 の入球を可能とする一方で、非電作動部 375 の第 1 開口部 377A（第 2 非電作動口 376B）に遊技球 99 を誘導する第 2 誘導状態に切り替えられる（図 327（A）及び図 327（B）参照）。

【3985】

20

ここで、遊技機 10 では、遊技動作部としての第 2 非電動役物 39B の配設位置が、遊技機 10（遊技盤 31）を正面視した状態において遊技動作部としての第 1 非電動役物 39A の配設位置よりも垂直方向の上方側又は遊技球 99 の流下方向の上流側である。そのため、先に垂直方向の下方側又は遊技球 99 の流下方向の下流側の遊技動作部としての第 1 非電動役物 39A が遊技動作として開放作動され得り、その後に、垂直方向の上方側又は遊技球 99 の流下方向の上流側の遊技動作部としての第 2 非電動役物 39B が遊技動作として開放作動され得る。

【3986】

ところで、第 2 非電動役物 39B が開放作動されている場合、第 2 非電動役物 39B が右打ち流路 35C において遊技盤 31 の前面側に突出するため、第 2 非電動役物 39B が右打ち流路 35C を塞ぐ。そのため、第 2 非電動役物 39B が開放作動されると、連続的に右打ちされた遊技球 99 は、右打ち流路 35C において、第 2 非電動役物 39B よりも垂直方向の下方側又は遊技球 99 の流下方向の下流側を流下することはない。即ち、第 2 非電動役物 39B が開放作動されている場合、第 1 非電動役物 39A における上方側で上流側の近傍には遊技球 99 が存在しない。そのため、本実施形態の遊技機 10 とは逆に、先に第 2 非電動役物 39B が開放作動され、その後に、第 1 非電動役物 39A が開放作動されると、第 1 非電動役物 39A の開放作動の開始時に第 1 非電動役物 39A の近傍には遊技球 99 が存在しない事態が発生し得る。この場合、第 1 非電動役物 39A の開放作動時に最初に入球される遊技球 99 は、第 2 非電動役物 39B が復帰したときに、第 2 非電動役物 39B よりも、垂直方向の上方側又は遊技球 99 の流下方向の上流側に存在する遊技球 99 となる。その結果、本実施形態の遊技機 10 とは逆に、先に第 2 非電動役物 39B が開放作動され、その後に、非電動役物 39A が開放作動される場合、第 1 非電動役物 39A の開放作動時に遊技球 99 が入球されるためには、第 2 非電動役物 39B の復帰時に第 2 非電動役物 39B よりも上方側又は上流側に存在する遊技球 99 が、右打ち流路 35C において、第 1 非電動役物 39A が配置された位置まで流下する必要がある。即ち、第 2 非電動役物 39B が復帰されてから、遊技球 99 が第 2 非電動役物 39B よりも上方側又は上流側から第 1 非電動役物 39A が配置された位置まで流下するまでの距離及び時間が必要となる。これにより、本実施形態の遊技機 10 とは逆に、先に第 2 非電動役物 39B が開放作動され、その後に、非電動役物 39A が開放作動される場合、第 2 入賞口 315A 及び第 2 入賞口 315B の双方に所定数の遊技球 99 を、最速で入球させることが

30

40

50

できない。

【 3 9 8 7 】

一方、第 1 非電動役物 3 9 A が開放作動されている場合、第 1 非電動役物 3 9 A が右打ち流路 3 5 C を塞ぐが、右打ちされた遊技球 9 9 は、連続的に右打ちされた遊技球 9 9 は、右打ち流路 3 5 C において、第 1 非電動役物 3 9 A における上方側で上流側の近傍だけでなく、第 2 非電動役物 3 9 B における上方側で上流側の近傍でも流下する。即ち、第 1 非電動役物 3 9 A が開放作動されている場合、第 2 非電動役物 3 9 B における上方側で上流側の近傍にも遊技球 9 9 が存在する。そのため、本実施形態の遊技機 1 0 のように、先に垂直方向の下方側又は遊技球 9 9 の流下方向の下流側の第 1 非電動役物 3 9 A が開放作動され、その後に、垂直方向の上方側又は遊技球 9 9 の流下方向の上流側の第 2 非電動役物 3 9 B が開放作動される場合、第 1 非電動役物 3 9 A が復帰された時に第 2 非電動役物 3 9 B における上方側で上流側の近傍にも遊技球 9 9 が存在する。その結果、第 2 非電動役物 3 9 B の開放作動の開始時には、第 2 非電動役物 3 9 B における上方側で上流側の近傍に遊技球 9 9 が存在することで、第 2 非電動役物 3 9 B の開放作動の開始時から最速で第 2 入賞口 3 1 5 B に遊技球 9 9 を入球させることが可能になる。これにより、第 2 入賞口 3 1 5 A への所定数の遊技球 9 9 の入球、及び第 2 入賞口 3 1 5 B への所定数の遊技球 9 9 の入球を連続的かつ最速で実行することが可能になる。

【 3 9 8 8 】

そして、本実施形態の遊技機 1 0 では、a 時短遊技状態におけるメイン制御ユニット 3 3 1 による普図当たり抽選での普図当たりの発生により普通電動役物 3 7 2 が動作された場合、普通電動役物 3 7 2 に向けて遊技盤 3 1 の右側領域に遊技球 9 9 を連続的に打ち出すと、第 1 非電動口 3 7 6 A 及び第 2 非電動口 3 7 6 B に順次遊技球 9 9 が入球され、右打ち流路 3 5 C を複数の遊技球 9 9 が連続的に流下することで、第 1 非電動役物 3 9 A の動作時に第 1 非電動役物 3 9 A における上方側で上流側の近傍を遊技球 9 9 が流下する状態となっている。そのため、第 1 非電動役物 3 9 A の動作時に、右打ち流路 3 5 C を流下する遊技球 9 9 が第 1 非電動役物 3 9 A によって即座に第 2 入賞口 3 1 5 A に誘導されることで、即座に第 2 入賞口 3 1 5 A に遊技球 9 9 が入球される。そして、連続的に右打ちされた遊技球 9 9 のうちの先に打ち出されて右打ち流路 3 5 C に下流側を流下する遊技球 9 9 が先に動作が実行された垂直方向の下方側又は遊技球 9 9 の流下方向の下流側の第 1 非電動役物 3 9 A (第 2 入賞口 3 1 5 A) に到達し、後続の遊技球 9 9 が後に動作が実行された垂直方向の上方側又は遊技球 9 9 の流下方向の上流側の第 2 非電動役物 3 9 B (第 2 入賞口 3 1 5 B) に到達する。つまり、第 1 非電動役物 3 9 A 及び第 2 非電動役物 3 9 B の動作順序 (第 2 入賞口 3 1 5 A 及び第 2 入賞口 3 1 5 B の開放順序) と、第 1 非電動役物 3 9 A 及び第 2 非電動役物 3 9 B への遊技球 9 9 の到達順序 (第 2 入賞口 3 1 5 A 及び第 2 入賞口 3 1 5 B への遊技球 9 9 の入球順序) とを一致させることができる。即ち、第 1 非電動役物 3 9 A の動作による第 2 入賞口 3 1 5 A の開放時に第 2 入賞口 3 1 5 A における上方側で上流側の近傍に遊技球 9 9 を存在させ、第 2 非電動役物 3 9 B の動作による第 2 入賞口 3 1 5 B の開放時に第 2 入賞口 3 1 5 B における上方側で上流側の近傍に遊技球 9 9 を存在させることができ、その結果、第 1 非電動役物 3 9 A の動作により第 2 入賞口 3 1 5 A が開放されてから第 2 入賞口 3 1 5 A に所定数の遊技球 9 9 が入球されるまでの時間、及び第 2 非電動役物 3 9 B の動作により第 2 入賞口 3 1 5 B が開放されてから第 2 入賞口 3 1 5 B に所定数の遊技球 9 9 が入球されるまでの時間の双方を最短とすることが可能になる。そのため、a 時短遊技状態での普図当たりの発生により普通電動役物 3 7 2 が動作されてから極力短時間 (例えば最短時間) で、第 1 非電動役物 3 9 A 及び第 2 非電動役物 3 9 B の動作を実行させ、かつ第 2 入賞口 3 1 5 A , 3 1 5 B に遊技球 9 9 を入球させてメイン制御ユニット 3 3 1 による特図大当たり抽選処理を実行させることが可能になる。その結果、遊技者は、普図当たりが成立した場合、遊技者が遊技性を理解していなくとも、普通電動役物 3 7 2 に向けて遊技球 9 9 を連続的に遊技盤 3 1 の右側領域に打ち出すだけで、第 1 非電動役物 3 9 A 及び第 2 非電動役物 3 9 B に遊技球 9 9 が到達することに基づく処理を識別性又は視認性を高めつつ実行させることが可能になる。こ

れにより、遊技者は、a時短遊技状態において遊技条件として普図当たりが発生した場合、普通電動役物372に向けて遊技球99を連続的に打ち出すという簡易な発射操作を行うことで、a時短遊技状態での普図当たりが発生した場合の恩恵、即ち第2入賞口315A、315Bに遊技球99を入球させてメイン制御ユニット331による特図大当たり抽選処理の実行を極力短時間（例えば最短時間）で受けることができるため、遊技性が複雑化されることなく効率的に遊技の興趣を向上させることが可能になる。即ち、第2入賞口315A、315Bに遊技球99を入球させるのに時間を要する場合、第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mが最大保留数になるまでの時間が長くなるばかりか、遊技者が遊技を進行する上で遊技操作について戸惑うことが懸念されるが、第2入賞口315A、315Bに最大数の遊技球99を極力短時間（例えば最短時間）で入球させることが可能であると、遊技操作について戸惑うまでもなく、単に右打ちを継続するだけで最大の利益を受けることができる。

10

【3989】

ところで、非電作動装置37では、イレギュラーな事態の発生により、非電作動装置37に流入した遊技球99が、第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bのいずれにも、入球しないことが想定され得る。例えば、可動誘導部374の第1誘導状態から第2誘導状態への移行過程での可動誘導部374への遊技球99の到達（図301（C）参照）、流路形成部373の開口部373Bからの遊技球99の想定外の方法への流出、可動誘導部374の移動不良などが発生した場合、第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bのいずれにも遊技球99が入球されないことが発生され得る。この場合、何らの対策を講じない場合、非電作動装置37の内部において、第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bのいずれにも入球しなかった遊技球99によって、いわゆる球詰まりが発生し、非電作動装置37が機能しない事態が発生することが懸念される。

20

【3990】

これに対して、図301（C）に示すように、本実施形態では、非電作動装置37が、非電作動部375の側方に設けられた誘導部としての排出路378A及び排出路378Bと、これらの排出路378A、378Bに連通し、遊技盤31の背面側に遊技球99を排出口378と、を備えている。そのため、非電作動装置37に流入して第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bのいずれにも入球しなかった遊技球99は、排出路378A、378Bを流下してから、排出口378を介して遊技盤31の背面側に排出される。これにより、非電作動装置37に流入した遊技球99が第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bのいずれにも入球しなかったとしても、非電作動装置37の内部において、いわゆる球詰まりが発生することが防止される。

30

【3991】

また、非電作動装置37に流入して第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bのいずれにも入球しない遊技球99が発生した場合の他、第1非電作動口376Aに2球の遊技球99が入球した場合、非電作動装置37に流入した遊技球99が1球のみである場合などには、可動誘導部374の第2誘導状態が維持され、普図当たり遊技の開始時に可動誘導部374が第2誘導状態となっていることが想定され得る。この場合、第1非電作動口376Aよりも先に第2非電作動口376Bに遊技球99が入球されるため、意図した順序（第2入賞口315A→第2入賞口315B）ではなく、第2入賞口315B→第2入賞口315Aの順序で第2入賞口315A、第2入賞口315Bが開放されることが懸念される。そのため、普図当たりの開始時や普図当たり遊技が終了してから所定時間後に、可動誘導部374の位置（誘導状態）をチェックし、必要に応じて可動誘導部374が第1誘導状態となるように切替処理を実行することも考えられる。このとき同時に、可動誘導部374の動作チェックをするとも考えられる。

40

【3992】

また、本実施形態では、第1非電作動口376Aへの遊技球99の入球が検出されると、可動誘導部374が第1誘導状態から第2誘導状態に切り替えられる。一方、第1非電作動口376Aの直上に入球センサ376Aaが設けられることで、第1非電作動口37

50

6 A への遊技球 99 の入球前に第 1 非電作動口 3 7 6 A への遊技球 99 の入球が検出される。このように、第 1 非電作動口 3 7 6 A に遊技球 99 が入球する前に第 1 非電作動口 3 7 6 A への遊技球 99 の入球を検出することで、第 1 非電作動口 3 7 6 A に遊技球 99 が入球してから検出する場合に比べて、流路形成部 3 7 3 の開口部 3 7 3 B から遊技球 99 が流出されてから、より短時間で可動誘導部 3 7 4 を左方向に移動させ、可動誘導部 3 7 4 を第 1 誘導状態から第 2 誘導状態に切り替えることができる。つまり、流路形成部 3 7 3 の開口部 3 7 3 B から遊技球 99 が流出されてから、可動誘導部 3 7 4 が第 1 誘導状態から第 2 誘導状態に切り替わるまでの時間を短くすることができる。これにより、非電作動装置 3 7 に流入した 2 球の遊技球 99 が第 1 非電作動口 3 7 6 A に連続して入球することが効果的に防止され、第 1 非電作動口 3 7 6 A 及び第 2 非電作動口 3 7 6 B に遊技球 99 を 1 球ずつ入球させることが可能になる。その結果、a 時短遊技状態において普図当たり遊技が開始される場合、第 2 非電作動口 3 7 6 B に遊技球 99 が入球されないことに起因する不利益の発生、即ち第 2 入賞口 3 1 5 B に遊技球 99 を入球させることができず、2 回の V 入賞大当たり遊技の発生させることができないことによる獲得出球の少量化を防止することができる。

10

【3993】

また、本実施形態では、前述のように、非電作動装置 3 7 の流路形成部 3 7 3 に減速部 3 7 3 C, 3 7 3 D を設けていることで、導入口 3 7 1 から非電作動装置 3 7 に流入された遊技球 99 が非電作動部 3 7 5 に到達するまでの時間を長く確保することが可能になると、第 1 非電作動口 3 7 6 A に遊技球 99 が入球されてから、後続の遊技球 99 が可動誘導部 3 7 4 に到達するまでの時間も長く確保できる。そのため、可動誘導部 3 7 4 を第 2 誘導状態に切り替えてから可動誘導部 3 7 4 や第 2 非電作動口 3 7 6 B に遊技球 99 を到達させることができるため、より確実に第 2 非電作動口 3 7 6 B に遊技球 99 を入球させることができる。その結果、第 2 非電作動口 3 7 6 B に遊技球 99 が入球せずに第 2 非電動役物 3 9 B の遊技動作が実行されないことに起因する不利益の発生が防止される。即ち、第 2 入賞口 3 1 5 A に遊技球 99 が入球されないことでメイン制御ユニット 3 3 1 による特図大当たり抽選を受けることができる回数が少なくなり、小当たり遊技（V 入賞大当たり遊技）の発生回数が少なくなつて獲得できる出球数が少なくなることが防止される。

20

【3994】

なお、減速部 3 7 3 C, 3 7 3 D としては、遊技球 99 を滞留させる電動式のストッパなどを採用することもできる。例えば、非電作動装置 3 7 に流入された 2 球の遊技球 99 のうちの後に流入した遊技球 99 を滞留させるストッパを設け、予め規定された一定時間後や第 1 非電作動口 3 7 6 A に遊技球 99 が入球されてから遊技球 99 の滞留を解除するようにしてもよく、1 つ又は 2 つの非電作動装置 3 7 に流入された 2 球の遊技球 99 の双方を滞留させ、時間をずらして個々の遊技球 99 の滞留を解除するようにしてもよい。さらに、減速部 3 7 3 C, 3 7 3 D に代えて、導入口 3 7 1 から非電作動装置 3 7 に遊技球 99 が流入されてから、流路形成部 3 7 3 の開口部 3 7 3 B から遊技球 99 が流出されるまでの時間や距離の異なる複数（例えば 2 つ）を設け、電動式や機械式などの振分部材によって、各流路に、導入口 3 7 1 から非電作動装置 3 7 に流入した遊技球 99 を振り分けることも考えられる。また、普図当たり遊技において遊技動作部としての普通電動役物 3 7 2 を複数回開閉すると共に、各開閉の開放時間や開閉間隔を調整することで、一定以上の時間差で非電作動装置 3 7 に 2 個の遊技球 99 を流入させることも考えられる。

30

40

【3995】

また、第 2 非電動役物 3 9 B は、第 1 非電動役物 3 9 A に比べて、遊技盤 3 1 に設定される遊技領域への流入領域を規定する所定位置に設けられた戻りバネ 3 1 0（戻り弁）に近い位置（遊技球 99 の移動方向の上流側）に配置されている。このように、第 2 非電動役物 3 9 B が、遊技盤 3 1 の遊技領域への流入領域を規定する所定位置に設けられた戻りバネ 3 1 0（戻り弁）に近い位置に配置されていることで、所定位置から第 2 非電動役物 3 9 B までの遊技球 99 の移動距離（移動時間）が、所定位置から第 1 非電動役物 3 9 A までの遊技球 99 の移動距離（移動時間）に比べて長く設定される。そのため、所定位置

50

を超えて流入領域から流入した遊技球 99 が入球部としての第 2 非電作動口 376B に到達するまでの時間を長く確保することが可能になる。そのため、流入領域から流入した遊技球 99 を第 1 非電作動口 376A に誘導する第 1 誘導状態となっている誘導部としての可動誘導部 374 を、第 1 非電作動口 376A への遊技球 99 の入球が不能で、かつ第 2 非電作動口 376B への遊技球 99 の入球が可能な第 2 誘導状態に切り替えるまでの時間を長く確保できる。これにより、可動誘導部 374 を第 2 誘導状態に切り替えてから第 2 非電作動口 376B に遊技球 99 を到達させることができるため、より確実に第 2 非電作動口 376B に遊技球 99 を入球させることができる。その結果、第 2 非電作動口 376B に遊技球 99 が入球せずに第 2 非電動役物 39B の遊技動作が実行されないことに起因する不利益の発生が防止される。

10

【3996】

〔遊技機 10 のシステム構成〕

次に、図 302～図 305 を参照しつつ、本実施形態の遊技機 10 のシステム構成や遊技機 10 の主制御装置 4 において使用される各種テーブル等について説明する。

【3997】

〔入球センサ〕

ここで、図 302 は、遊技機 10 のシステム構成の要部の一例を示すブロック図である。図 302 に示すように、遊技機 10 のシステム構成は、基本的に前述の第 1 の実施形態と同様であるが、検出部としての入球センサの一部が前述の第 1 の実施形態とは異なる。具体的には、本実施形態の遊技機 10 は、第 2 入賞口 315A への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 315Aa、第 2 入賞口 315B への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 315Ba、スルーゲート 317 への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 317a、非電作動装置 37 への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 371a、第 1 非電作動口 376A への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 376Aa、第 2 非電作動口 376B への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 376Ba、大当たり遊技用可変入賞装置 38A の可変入賞口 383A への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 383Aa、小当たり遊技用可変入賞装置 38A の V 入賞口 383B への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 383Ba、小当たり遊技用可変入賞装置 38A の非 V 入賞口 384B への遊技球 99 の入球を検知する入球センサ 384Ba を備えている。これらの入球センサ 315Aa、315Ba、317a、371a、376Aa、376Ba、383Aa、383Ba、384Ba は、他の入球センサ 313a、314a、318a と同様に主制御装置 4 の MPU 41 に接続されており、第 2 入賞口 315A、315A、スルーゲート 317、非電作動装置 37、可変入賞口 383A、V 入賞口 383B 又は非 V 入賞口 384B に遊技球 99 が入球したことが、MPU 41 によって検知可能とされている。

20

30

【3998】

〔普図当たり当否テーブル〕

ここで、図 303 (A) 及び図 303 (B) は、メイン制御ユニット 331 による普図当たり抽選において使用される普図当たり当否テーブルの一例を示す図である。普図当たり抽選は、入球部としてのスルーゲート 317 に遊技球 99 が入球することを契機とし、遊技状態に応じた普図当たり当否テーブルを参照して実行される。本実施形態では、普図当たり当否テーブルとして、図 303 (A) に示す通常遊技状態普図当たり当否テーブルと、図 303 (B) に示す a 時短遊技状態普図当たり当否テーブルとの 2 種類が設定されている。また、本実施形態では、遊技状態が通常遊技状態である場合と、遊技状態が a 時短遊技状態である場合とで、普図当たり確率が異なり、時短遊技状態のほうが通常遊技状態よりも普図当たり確率が高く設定されている。

40

【3999】

図 303 (A) に示す通常遊技状態普図当たり当否テーブルは、遊技状態が通常遊技状態である場合にメイン制御ユニット 331 による普図当たり抽選で使用するテーブルである。図 303 (A) に示すように、通常遊技状態普図当たり当否テーブルでは、普図当たり乱数カウンタ C4 の値が 0～299 の場合に外れに振り分けられ、当たりの振り分け

50

はない。即ち、通常遊技状態において普図当たり抽選が実行されても、抽選結果が当たりとなることはない。

【4000】

図303(B)に示すa時短遊技状態普図当たり当否テーブルは、遊技状態がa時短遊技状態である場合にメイン制御ユニット331による普図当たり抽選で使用するテーブルである。図303(B)に示すように、a時短遊技状態普図当たり当否テーブルでは、普図当たり乱数カウンタC4の値が0～299の場合に普図当たりに振り分けられ、外れの振り分けはない。即ち、a時短遊技状態において普図当たり抽選が実行される場合、100%大当たりとなる。そのため、a時短遊技状態に移行すると少なくとも1回の普図当たり遊技が実行され、a時短遊技状態への移行を契機として非電作動装置37に遊技球99を流入させることが可能になる。

10

【4001】

[普図当たり種別振分テーブル]

ここで、図303(C)及び図303(D)は、普図当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、普図当たり種別振分テーブルとして、図303(C)に示す通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルと、図303(D)に示すa時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルとの2種類が設定されている。即ち、本実施形態では、後述のように、遊技状態が通常遊技状態である場合とa時短遊技状態である場合とで、メイン制御ユニット331による普図当たり抽選の結果が普図当たりであることで遊技条件が成立した場合に導出される普図当たり種別(短開放普図当たり及び長開放普図当たり)の振り分け確率が異なる。具的には、本実施形態では、遊技状態が通常遊技状態であれば普通電動役物372の最大作動時間(非電作動装置37の流入領域としての導入口371の最大開放時間)が0.1秒である短開放普図当たりが導出され、遊技状態がa時短遊技状態であれば普通電動役物372の最大作動時間(非電作動装置37の流入領域としての導入口371の最大開放時間)が10秒である長開放普図当たりが導出される。

20

【4002】

図303(C)に示す通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、遊技状態が通常遊技状態である場合に入球部としてのスルーゲート317を遊技球99が入球したことを契機として実行されるメイン制御ユニット331による普図当たり抽選で使用するテーブルである。図303(C)に示すように通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルでは、普図当たり種別乱数カウンタC5の値の0～19が短開放普図当たりに振り分けられ、長開放普図当たりの振り分けはない。もちろん、通常遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、短開放普図当たりの振り分けを100%(長開放普図当たりの振り分けが0%)以外に設定してもよい。

30

【4003】

図303(D)に示す時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、遊技状態がa時短遊技状態である場合にスルーゲートを遊技球99が入球したことを契機として実行されるメイン制御ユニット331による普図当たり抽選で使用するテーブルである。図303(D)に示すように、時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルでは、普図当たり種別乱数カウンタC5の値の0～19が長開放普図当たりに振り分けられ、短開放普図当たりの振り分けはない。もちろん、時短遊技状態普図当たり種別振分テーブルは、長開放普図当たりの振分を100%(短開放普図当たりの振り分けが0%)以外に設定してもよい。

40

【4004】

[大当たり当否テーブル]

ここで、図304(A)及び図304(B)は、メイン制御ユニット331による特図大当たり抽選において使用される大当たり当否テーブルの一例を示す図である。大当たり抽選は、入球部としての第1入賞口314又は第2入賞口315A、315Bに遊技球99が入球することを契機とし、遊技球99が入球した入球部の種別に応じた大当たり当否テーブルを参照して実行される。本実施形態では、大当たり当否テーブルとして、図304(A)に示す特1大当たり当否テーブルと、図304(B)に示す特2大当たり当否

50

テーブルと、の 2 種類が設定されている。

【4005】

また、本実施形態では、大当たり当否テーブルでの大当たり抽選の結果として、大当たり、小当たり及び外れが設定されている。大当たり抽選の結果としての大当たりは、当該大当たり抽選の結果を報知する特図遊技において、遊技結果として特別図柄及び飾り図柄が大当たり図柄で停止表示され、当該特図遊技の終了後に大当たり遊技が実行される大当たり遊技状態に移行される遊技条件である。大当たり抽選の結果としての小当たりは、当該大当たり抽選の結果を報知する特図遊技において、遊技結果として特別図柄及び飾り図柄が小当たり図柄で停止表示され、当該特図遊技の終了後に小当たり遊技が実行される小当たり遊技状態に移行される遊技条件である。大当たり抽選の結果としての外れは、当該大当たり抽選の結果を報知する特図遊技において、特別図柄及び飾り図柄が外れ図柄で停止表示される抽選結果である。そして、本実施形態の大当たり当否テーブルでは、大当たり乱数カウンタ C1 の値として 0 ～ 65535 の 65536 個が設定されており、第 1 入賞口 314 又は第 2 入賞口 315A, 315B への遊技球 99 の入球時（又は特図遊技の開始時）に獲得した大当たり乱数カウンタ C1 の値が、大当たり当否テーブルに設定された大当たり、小当たり及び外れのいずれに該当するかを判定することで、大当たり抽選の結果が、大当たり、小当たり及び外れのいずれかに振り分けられる。

10

【4006】

図 304 (A) に示すように、特 1 大当たり当否テーブルは、入球部としての第 1 入賞口 314 への遊技球 99 の入球に対するメイン制御ユニット 331 による特図大当たり抽選に使用される。特 1 大当たり当否テーブルでは、0 ～ 65535 の 65536 個の大当たり乱数カウンタ C1 の値（乱数値）のうち、0 ～ 205 の 206 個の乱数値が大当たり

20

【4007】

図 304 (B) に示すように、特 2 大当たり当否テーブルは、入球部としての第 2 入賞口 315A, 315B への遊技球 99 の入球に対するメイン制御ユニット 331 による特図大当たり抽選に使用される。特 2 大当たり当否テーブルでは、0 ～ 65535 の 65536 個の大当たり乱数カウンタ C1 の値（乱数値）のうち、0 ～ 65535 の 65536 個の全ての乱数値が小当たり

30

【4008】

〔大当たり種別振分テーブル〕

ここで、図 304 (C) - 及び図 304 (D) は、大当たり種別振分テーブルの一例を示す図である。本実施形態では、大当たり種別振分テーブルとして、特図大当たり種別振分テーブルと、V 入賞大当たり種別振分テーブルとの 2 種類が設定されている。

【4009】

図 304 (D) に示す特図大当たり種別振分テーブルは、第 1 入賞口 314 への遊技球 99 の入球に対するメイン制御ユニット 331 による特図大当たり抽選の結果が遊技条件としての大当たりである場合に大当たりの種別を振り分けるため使用される。図 304 (D) に示すように、特図大当たり種別振分テーブルでは、0 ～ 19 の 20 個の大当たり種別カウンタ C2 の値（乱数値）のうち、0 ～ 9 の 10 個の乱数値が 4R 大当たりに振り分けられ、10 ～ 19 の 10 個の乱数値が 10R 大当たりに振り分けられる。即ち、本実施形態では、特図大当たりとして、出球数が 600 球で特図大当たり遊技の終了後に通常遊技状態に移行する 4R 大当たり、及び出球数が 1500 球で特図大当たり遊技の終了後に a 時短遊技状態に移行する 10R 大当たりの 2 種類が設定されており、4R 大当たりの振り分け率が 50% に設定され、10R 大当たりの振り分け率が 50% に設定されている。

40

50

つまり、本実施形態では、特図大当たり抽選の結果が大当たりである遊技条件が成立する場合、50%の確率で多量（7500球）の遊技球99の獲得が可能である。

【4010】

ここで、メイン制御ユニット331による大当たり抽選での抽選結果が大当たりである場合には特図大当たり遊技の遊技条件の成立となり、大当たり遊技用可変入賞装置38Aの開閉扉382Aが開放されるラウンド遊技が、大当たり種別に応じて複数回繰り返される開閉実行モードが実行される特図大当たり遊技が実行される（図298参照）。そして、10R特図大当たり遊技の終了後には、遊技動作部としての普通電動役物372が作動され、入球部としての第2入賞口315A、315Bを開放させる非電作動装置37の第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bに遊技球99が入球し易いa時短遊技状態に移行される。なお、本実施形態では、a時短遊技状態の終了条件が、1回の普通電動役物372の開閉動作の終了に設定されている。

10

【4011】

なお、本実施形態では、a時短遊技状態の終了条件が1回の普図大当たり遊技の終了に設定されているが、a時短遊技状態の終了条件は、1回の普図大当たり遊技の開始であってもよい。また、a時短遊技状態での普図大当たり遊技の実行回数は、1回に限らず他の回数であってもよい。

【4012】

図304（D）に示すV入賞大当たり種別振分テーブルは、メイン制御ユニット331による特図大当たり抽選での抽選結果が小当たりである場合に大当たりの種別を振り分けるため、即ち小当たり遊技の終了後に小当たり遊技において可変入賞装置38BのV入賞口383Bに遊技球99が入球することを契機として実行されるV入賞大当たり遊技のラウンド遊技数を決定するために使用される。図304（D）に示すように、V入賞大当たり種別振分テーブルでは、0～19の20個の大当たり種別カウンタC2の値（乱数値）のうち、0～19の全ての乱数値が10RV入賞大当たりに振り分けられる。即ち、本実施形態では、V入賞大当たりでは、10RV入賞大当たりの振り分け率が100%に設定されている。そのため、V入賞大当たり遊技が実行される場合、特図大当たり遊技が実行される場合に比べて出玉的に有利である。

20

【4013】

なお、本実施形態では、V入賞大当たりの種別として10R大当たりのみが設定されているが、V入賞大当たりの種別は、ラウンド遊技数や出玉期待値の異なる複数種を設定し、これらの複数種から、V入賞大当たりの種別がランダムに決定（乱数抽選により決定）されるようにしてもよい。即ち、いわゆるラッシュ状態での大当たり遊技において実行されるラウンド遊技数が複数種からランダムに決定されるようにしてもよい。このように、複数種のV入賞大当たりからV入賞大当たりの種別がランダムに決定される場合、V入賞大当たり遊技が実行される場合に、遊技者は、多量の出玉が獲得できることを期待しつつ遊技を実行することができるため、遊技の興趣が向上される。

30

【4014】

〔変動テーブル〕

ここで、図305（A）～図305（C）は、変動テーブルの一例を示す図である。変動テーブルは、メイン制御ユニット331による特図大当たり抽選の結果を報知する特図遊技における特別図柄の変動表示時間を設定するために使用される。本実施形態では、変動テーブルとして、図305（A）に示す特1外れ変動テーブル、図305（B）に示す特1当たり変動テーブル、図305（C）に示す特2変動テーブルの3種類が設定されている。

40

【4015】

図305（A）に示すように、特1外れ変動テーブルは、入球部としての第1入賞口314への遊技球99の入球に基づいて実行されるメイン制御ユニット331による特図大当たり抽選の結果が外れである場合に使用される。特1外れ変動テーブルでは、特図変動種別カウンタCS1の値に応じて特図変動パターンが振り分けられる。この特1外れ変動

50

テーブルでは、大当たり抽選の結果が前後外れリーチ又は前後外れ以外リーチである場合には、特図変動パターンが、変動表示時間が30秒である「01」、変動表示時間が60秒である「02」、変動表示時間が90秒である「03」のいずれかに振り分けられる。また、特1外れ変動テーブルでは、大当たり抽選の結果が完全外れリーチである場合には、特図変動パターンが、変動表示時間が7秒である「04」、変動表示時間が10秒である「05」、変動表示時間が15秒である「06」のいずれかに振り分けられる。

【4016】

図305(B)に示すように、特1当たり変動テーブルは、入球部としての第1入賞口314への遊技球99の入球に基づいて実行されるメイン制御ユニット331による特図大当たり抽選の結果が遊技条件の成立としての大当たりである場合に使用される。特1当

10

【4017】

図305(C)に示すように、特2変動テーブルは、入球部としての第2入賞口315A, 315Bへの遊技球99に入球に基づいて実行されるメイン制御ユニット331による特図大当たり抽選の結果を報知する特図遊技での変動表示時間を設定するために使用される。特2変動テーブルでは、変動表示時間が1秒である「07」のみに振り分けられる。即ち、第2入賞口315A, 315Bに遊技球99が入球されることに基づいて実行される第2特図遊技に対する変動表示時間は、必ず1秒に設定される。

20

【4018】

なお、特2変動テーブルに設定される変動表示時間は、複数種類設定してもよい。

【4019】

〔主制御装置4の処理〕

次に、図306～図323を参照しつつ、主制御装置4のMPU41によって実行される処理について説明する。

【4020】

〔主タイマ割込み処理〕

本実施形態の主タイマ割込み処理は、始動入賞処理及びスルーゲート処理の手順の一部が、前述の第1の実施形態とは異なる。以下、主タイマ割込み処理において実行される処理として、始動入賞処理及びスルーゲート処理について説明する。

30

【4021】

〔始動入賞処理〕

ここで、図306は、図17の主タイマ割込処理におけるステップS1004でMPU41により実行される始動入賞処理の手順の一例を示すフローチャートである。以下、図306を参照しつつ、始動入賞処理を説明する。

【4022】

<ステップS1101>

図306に示すように、ステップS1101では、MPU41は、入球部としての第1入賞口314に対する入賞があったか否かを判断する。ここで、MPU41は、第1入賞口314に対する入賞があったと判断すると(ステップS1101: Yes)、処理をステップS1102に移行し、第1入賞口314に対する入賞がなかったと判断すると(ステップS1101: No)、処理をステップS1107に移行する。

40

【4023】

<ステップS1102及びS1103>

ステップS1102では、MPU41は、RAM412の第1特図保留数記憶エリアNAに記憶されている第1特図保留数Nが最大保留数(本実施形態では4)であるか否かを判断する。ここで、MPU41は、第1特図保留数Nが最大保留数であれば(ステップS1102: Yes)、当該始動入賞処理を終了する。一方、MPU41は、第1特図保留数Nが最大保留数でなければ(ステップS1102: No)、第1特図保留数Nに1を

50

加算する処理を実行する（ステップ S 1 1 0 3）。

【 4 0 2 4 】

<ステップ S 1 1 0 4>

ステップ S 1 1 0 4 では、M P U 4 1 は、図 1 7 の主タイマ割込処理でのステップ S 1 0 0 3 で更新される大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 と、後述の図 3 0 8 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 2 及び S 1 4 1 4 で更新される特図変動種別カウンタ C S 1 とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値を R A M 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 1 特図保留格納エリア R E A の第 1 保留エリア R E A 1 ~ 第 4 保留エリア R E A 4 のうち最初の空き保留エリアに格納する。

【 4 0 2 5 】

<ステップ S 1 1 0 5 及び S 1 1 0 6>

ステップ S 1 1 0 5 では、M P U 4 1 は、特 1 大当たり当否テーブル（図 3 0 4（A）参照）に基づいて当否判定を行う（ステップ S 1 1 0 5）。次いで、M P U 4 1 は、ステップ S 1 1 0 5 で取得された第 1 特図保留に対する特図当否情報が後述の図 3 1 4 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 0 2 において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて第 1 特図保留コマンドを R A M 4 1 2 に設定し、始動入賞処理を終了する。

【 4 0 2 6 】

<ステップ S 1 1 0 7>

第 1 入賞口 3 1 4 に対する入賞がなかったと判断すると（ステップ S 1 1 0 1：N o）、M P U 4 1 は、第 2 入賞口 3 1 5 A，3 1 5 B に対する入賞があったか否かを判断する（ステップ S 1 1 0 7）。ここで、M P U 4 1 は、第 2 入賞口 3 1 5 A，3 1 5 B に対する入賞があったと判断すると（ステップ S 1 1 0 7：Y e s）、処理をステップ S 1 1 0 8 に移行し、第 2 入賞口 3 1 5 A，3 1 5 B に対する入賞がなかったと判断すると（ステップ S 1 1 0 7：N o）、当該始動入賞処理を終了する。

【 4 0 2 7 】

<ステップ S 1 1 0 8 及び S 1 1 0 9>

ステップ S 1 1 0 8 では、M P U 4 1 は、R A M 4 1 2 の第 2 特図保留数記憶エリア N A B に記憶されている第 2 特図保留数 M が、最大保留数（本実施形態では前述の第 1 の実施形態とは異なり 3）であるか否かを判断する。ここで、M P U 4 1 は、第 2 特図保留数 M が最大保留数であれば（ステップ S 1 1 0 8：Y e s）、当該始動入賞処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、第 2 特図保留数 M が最大保留数でなければ（ステップ S 1 1 0 8：N o）、第 2 特図保留数 M に 1 を加算する処理を実行する（ステップ S 1 1 0 9）。

【 4 0 2 8 】

<ステップ S 1 1 1 0>

ステップ S 1 1 1 0 では、M P U 4 1 は、図 1 7 の主タイマ割込処理でのステップ S 1 0 0 3 で更新される大当たり乱数カウンタ C 1、大当たり種別カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 と、後述の図 3 0 8 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 2 及び S 1 4 1 4 で更新される特図変動種別カウンタ C S 1 とのカウンタ値を取得し、そのカウンタ値を R A M 4 1 2 における特図保留格納エリア 4 1 2 b の第 2 特図保留格納エリア R E B の第 1 保留エリア R E B 1 ~ 第 4 保留エリア R E B 4 のうち最初の空き保留エリアに格納する。

【 4 0 2 9 】

<ステップ S 1 1 1 1 及び S 1 1 1 2>

ステップ S 1 1 1 1 では、M P U 4 1 は、特 2 大当たり当否テーブル（図 3 0 4（B）参照）に基づいて当否判定を行う。ステップ S 1 1 1 2 では、M P U 4 1 は、ステップ S 1 1 1 0 で取得された第 2 特図保留に対する特図当否情報が後述の図 3 1 4 の特図変動開始処理でのステップ S 2 1 1 0 において大当たりの当否の判定対象となる前に特図当否情報の内容を確認し、この確認結果に基づいて第 2 特図保留コマンドを R A M 4 1 2 に設定し、当該始動入賞処理を終了する。

【 4 0 3 0 】

10

20

30

40

50

[スルーゲート処理]

ここで、図307は、図17の主タイマ割込処理におけるステップS1006でMPU41により実行されるスルーゲート処理の手順を示すフローチャートである。スルーゲート処理では、入球部としてのスルーゲート317に遊技球99が入球した場合に、MPU41によって、RAM412の普図保留格納エリア412cに格納される情報が更新される。以下、図307を参照しつつ、スルーゲート処理を説明する。

【4031】

<ステップS1301>

図307に示すように、スルーゲート処理では、MPU41は、まずスルーゲート317に遊技球99が通過したか否かを判断する(ステップS1301)。スルーゲート317を遊技球99が通過したか否かは、図17の主タイマ割込処理におけるステップS1001のセンサ検出処理においてRAM412に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。MPU41は、スルーゲート317を遊技球99が通過したと判断した場合(ステップS1301:Yes)、処理をステップS1302に移行し、スルーゲート317を遊技球99が通過していないと判断した場合(ステップS1301:No)、当該スルーゲート処理を終了する。

【4032】

<ステップS1302>

MPU41は、スルーゲート317を遊技球99が通過したと判断した場合(ステップS1301:Yes)、RAM412の普図保留格納エリア412cに設定される普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xが最大保留数(本実施形態では4)であるか否かを判断する(ステップS1302)。MPU41は、普図変動保留数Xが最大保留数である場合(ステップS1302:Yes)、当該スルーゲート処理を終了し、普図変動保留数Xが最大保留数でない場合(ステップS1302:No)、処理をステップS1303に移行する。

【4033】

<ステップS1303及びS1304>

MPU41は、普図変動保留数Xが最大保留数でない場合(ステップS1302:No)、普図変動保留数Xに1を加算し(ステップS1303)、図17の主タイマ割込処理のステップS1003において更新される普通当たり乱数カウンタC4及び普通当たり種別乱数カウンタC5のカウンタ値、及び後述の図308のメイン処理のステップS1402及びS1414において更新される普図変動種別カウンタCS2の値を取得し、そのカウンタ値をRAM412における普図保留格納エリア412cの普図第1保留エリアSE1~普図第4保留エリアSE4のうち最初の空き保留エリアに格納し(ステップS1304)、当該スルーゲート処理を終了する。

【4034】

[主制御装置4のメイン処理]

ここで、図308は、主制御装置4のMPU41によって実行されるメイン処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態のメイン処理は、小当たり遊技制御処理(ステップS14007-1)、が実行される点で前述の第1の実施形態とは異なる。以下、小当たり遊技制御処理について説明するが、本実施形態の理解に必要な処理についても適宜説明する。

【4035】

[普図遊技制御処理]

ここで、図309は、図308のメイン処理でのステップS1404において実行される普図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図遊技制御処理では、メイン表示部36の遊技動作部としての普通図柄表示部361での普通図柄(普図)の変動表示及び停止表示を制御する処理などが実行される。以下、図309を参照しつつ、普図遊技制御処理を説明する。

【4036】

<ステップ S 1 5 0 1>

図 3 0 9 に示すように、普図遊技制御処理では、まず M P U 4 1 は、普通図柄が変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 1）。普図変動表示中フラグは、ステップ S 1 5 0 7 の普図変動開始処理において、普通図柄の変動表示（普図遊技）が開始される場合にオンに設定され、普通図柄が停止表示（普図遊技が終了）される場合にステップ S 1 5 1 2 でオフに設定される。

【 4 0 3 7 】

M P U 4 1 は、普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1：Y e s）、即ち普図遊技の実行中である場合、処理をステップ S 1 5 0 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 1：N o）、即ち普図遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 2 に移行する。

10

【 4 0 3 8 】

<ステップ S 1 5 0 2>

普図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 1：N o）、即ち普図遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、非電作動装置 3 7 の遊技動作部である普通電動役物 3 7 2 が開放中（普図当たり遊技の実行中）であることを示す電動役物開放中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 2）。電動役物開放中フラグは、後述の普図当たり遊技制御処理において、普通電動役物 3 7 2 を開放する場合にステップ S 1 8 1 1 でオンに設定され（図 3 1 0 参照）、普通電動役物 3 7 2 を閉鎖する場合にステップ S 1 8 2 6 でオフに設定される（図 3 1 1 参照）。

20

【 4 0 3 9 】

M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 2：Y e s）、即ち普図当たり遊技の実行中である場合、当該普図遊技制御処理を終了する。一方、M P U 4 1 は、電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 2：N o）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 3 に移行する。

【 4 0 4 0 】

<ステップ S 1 5 0 3>

電動役物開放中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 2：N o）、即ち普図当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 3）。大当たり遊技中フラグは、後述の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップ S 2 2 1 3 でオンに設定され（図 3 1 5 参照）、大当たり遊技が終了する場合にステップ S 2 2 5 8 でオフに設定される（図 3 1 6 参照）。

30

【 4 0 4 1 】

M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 3：Y e s）、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実施形態では、大当たり遊技の実行中には普図遊技が開始されない。もちろん、大当たり遊技の実行中に普図遊技が開始されるようにしてもよい。

【 4 0 4 2 】

一方、M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 3：N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 5 0 4 に移行する。

40

【 4 0 4 3 】

<ステップ S 1 5 0 4>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 5 0 3：N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、小当たり遊技の実行中であることを示す小当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 5 0 4）。小当たり遊技中フラグは、後述の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技が開始される場合にステップ S 3 4 0 8 でオンに設定され（図 3 2 0 参照）、小当たり遊技が終了する場合にステップ S 3 4 4 0 でオフに設定される（図 3 2 1 参照）。

50

【4044】

MPU41は、小当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1504：Yes）、当該普図遊技制御処理を終了する。即ち、本実施形態では、小当たり遊技の実行中には普図遊技が開始されない。もちろん、小当たり遊技の実行中に普図遊技が開始されるようにしてもよい。

【4045】

一方、MPU41は、小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1504：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1505に移行する。

【4046】

<ステップS1505>

小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1504：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、RAM412の普図保留格納エリア412cに設定される普図変動保留数記憶エリアSNAに記憶されている普図変動保留数Xが0であるか否かを判断する（ステップS1505）。MPU41は、普図変動保留数Xが0である場合（ステップS1505：Yes）、当該普図遊技制御処理を終了し、普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1505：No）、処理をステップS1506に移行する。

【4047】

<ステップS1506及びステップS1507>

普図変動保留数Xが0でない場合は（ステップS1505：No）、MPU41は、普図保留格納エリア412cに記憶されている普図当否情報について普図データ設定処理を実行し（ステップS1506）、処理をステップS1507に移行する。ステップS1507では、MPU41は、普図保留格納エリア412cに記憶されている情報に基づく普通図柄の変動表示をメイン表示部36の普通図柄表示部361に実行させるための普図変動開始処理を実行し、当該普図遊技制御処理を終了する。

【4048】

<ステップS1508>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1501：Yes）、即ち普図遊技の実行中である場合、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1508）。

【4049】

MPU41は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1508：Yes）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理をステップS1511に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1508：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1509に移行する。

【4050】

<ステップS1509>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1508：No）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、小当たり遊技の実行中であることを示す小当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS1509）。

【4051】

MPU41は、小当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップS1509：Yes）、即ち小当たり遊技の実行中である場合、処理をステップS1511に移行する。一方、MPU41は、小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1509：No）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップS1510に移行する。

【4052】

<ステップS1510>

小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップS1509：No）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合、MPU41は、普図変動表示の開始から普図変動表示時間が経過したか否かを判断する（ステップS1510）。即ち、MPU41は

10

20

30

40

50

、メイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングであるか否かを判断する。

【4053】

MPU 4 1 は、普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 1 0 : Y e s）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、処理をステップ S 1 5 1 1 に移行する。一方、MPU 4 1 は、普図変動表示時間が経過していない場合（ステップ S 1 5 1 0 : N o）、即ちメイン表示部 3 6 の普通図柄表示部 3 6 1 において変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングでない場合、当該普図遊技制御処理を終了する。

【4054】

<ステップ S 1 5 1 1 ~ S 1 5 1 3>

普図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 1 : Y e s）に大当たり遊技中フラグ又は小当たり遊技フラグがオンである場合（ステップ S 1 5 0 8 又は S 1 5 0 9 で Y e s）、即ち普図遊技の実行中に大当たり遊技又は小当たり遊技が開始される場合、又は普通図柄の普図変動表示時間が経過した場合（ステップ S 1 5 1 0 : Y e s）、即ち変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合、MPU 4 1 は、当該普図遊技に対応する普図当たり抽選の結果に応じた図柄に普通図柄を停止表示させる（ステップ S 1 5 1 1）。例えば、普図当たり抽選の結果が遊技条件としての普図当たりである場合には、普図当たりに対応した図柄で普通図柄を停止表示させる一方、普図当たり抽選の結果が外れであり遊技条件が成立しない場合には、外れに対応した図柄で普通図柄を停止表示させる。

【4055】

また、MPU 4 1 は、普通図柄の変動表示中（普図遊技の実行中）であることを示す普図変動表示中フラグをオフに設定する（ステップ S 1 5 1 2）。さらに、MPU 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと、即ち普図遊技が終了したことを示す普図変動停止表示フラグをオンに設定し（ステップ S 1 5 1 3）、当該普図遊技制御処理を終了する。

【4056】

なお、普図変動停止表示フラグは、後述の図 3 1 0 の普図当たり遊技制御処理のステップ S 1 8 0 1 において、普図当たり遊技を開始（普通電動役物 3 7 2 を開放）するタイミングであるか否かを判断するために参照される。

【4057】

また、本実施形態では、普通図柄の普図変動表示時間が経過することにより変動表示される普通図柄を停止表示（普図遊技を終了）させるタイミングである場合に限らず、普図遊技の実行中に大当たり遊技又は小当たり遊技が開始される場合には、変動表示される普通図柄が停止表示される（普図遊技が終了される）。即ち、普図遊技は、大当たり遊技又は小当たり遊技が開始される場合には、普通図柄の普図変動表示時間が経過する前に強制終了される。もちろん、普図遊技は、大当たり遊技又は小当たり遊技が開始される場合にも普通図柄の普図変動表示時間が経過するまで継続して実行するようにしてもよい。

【4058】

〔普図当たり遊技制御処理〕

ここで、図 3 1 0 及び図 3 1 1 は、図 3 0 8 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 5 において実行される普図当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。普図当たり遊技制御処理では、普図当たり抽選の結果が遊技条件の成立としての普図当たりであることで、非電作動装置 3 7 の電動役物 3 7 2 の開閉制御を行う。また、普図当たり遊技制御処理では、振分入球装置 3 7 における遊技動作部である可動誘導部 3 7 4 の動作制御が実行される。以下、図 3 1 0 及び図 3 1 1 を参照しつつ、普図当たり遊技制御処理を説明する。

【4059】

<ステップ S 1 8 0 1>

図 3 1 0 に示すように、普図当たり遊技制御処理では、まず M P U 4 1 は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 1）。即ち、M P U 4 1 は、普図当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。なお、普図変動停止表示フラグは、図 3 0 9 の普図遊技制御処理において普通図柄が停止表示される場合にステップ S 1 5 1 3 でオンに設定される。

【 4 0 6 0 】

M P U 4 1 は、普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 1 : Y e s）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップ S 1 8 0 2 に移行する。一方、M P U 4 1 は、普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 1 : N o）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理を図 3 1 1 のステップ S 1 8 1 6 に移行する。

10

【 4 0 6 1 】

<ステップ S 1 8 0 2>

普図変動停止表示フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 1 : Y e s）、即ち普図当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグ又は小当たり遊技の実行中であることを示す小当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 2）。

【 4 0 6 2 】

M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグ又は小当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 8 0 2 : Y e s）、即ち大当たり遊技又は小当たり遊技の実行中である場合、普図変動停止表示フラグをオフにしてから（ステップ S 1 8 0 2）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、普図遊技が大当たり遊技又は小当たり遊技が開始されることで強制終了される場合には、当該普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が遊技条件としての普図当たりである場合であっても普図当たり遊技が開始されない。即ち、本実施形態では、大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中は普図当たり遊技が開始されることはない。もちろん、大当たり遊技又は小当たり遊技の実行中に新たな普図遊技を開始させてもよい。

20

【 4 0 6 3 】

一方、M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグ及び小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 2 : N o）、即ち大当たり遊技又は小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 8 0 3 に移行する。

30

【 4 0 6 4 】

<ステップ S 1 8 0 3>

大当たり遊技中フラグ及び小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 8 0 2 : N o）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 1 8 0 3）。長開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合に、普図変動開始処理（図 3 0 9 の普図遊技制御処理でのステップ S 1 5 0 7）においてオンに設定される。即ち、M P U 4 1 は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が遊技条件としての長開放普図当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : Y e s）、処理をステップ S 1 8 0 7 に移行し、長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : N o）、処理をステップ S 1 8 0 4 に移行する。

40

【 4 0 6 5 】

<ステップ S 1 8 0 4>

長開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 1 8 0 3 : N o）、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりでない場合、M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステッ

50

ブ S 1 8 0 4)。短開放普図当たりフラグは、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりであることを示すフラグであり、普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合に、普図変動開始処理 (図 3 0 9 の普図遊技制御処理でのステップ S 1 5 0 7) においてオンに設定される。即ち、M P U 4 1 は、終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が遊技条件としての短開放普図当たりであるか否かを判断する。M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 1 8 0 4 : Y e s)、処理をステップ S 1 8 0 5 に移行し、短開放普図当たりフラグがオフに設定されている場合 (ステップ S 1 8 0 4 : N o)、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が外れである場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【 4 0 6 6 】

10

<ステップ S 1 8 0 5 ~ S 1 8 0 7>

短開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 1 8 0 5 : Y e s)、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が短開放普図当たりである場合、M P U 4 1 は、短開放普図当たり遊技における非電作動装置 3 7 の遊技作動部としての普通電動役物 3 7 2 の開放時間 (非電作動装置 3 7 への遊技球 9 9 の流入可能時間) である 0 . 1 秒に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットし (ステップ S 1 8 0 5)、処理をステップ S 1 8 0 6 に移行する。開放時間カウンタは、普通電動役物 3 7 2 の復帰タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理の図 3 1 1 のステップ S 1 8 2 2 において参照される。

【 4 0 6 7 】

20

ステップ S 1 8 0 6 では、M P U 4 1 は、短開放普図当たり遊技の遊技時間に対応する値を遊技時間カウンタの値としてセットする (ステップ S 1 8 0 6)。遊技時間カウンタは、普図当たり遊技の終了タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理の図 3 1 1 のステップ S 1 8 3 0 において参照される。

【 4 0 6 8 】

ここで、ステップ S 1 8 0 6 でセットされる遊技時間カウンタの値は、ステップ S 1 8 0 5 でセットされる開放時間カウンタと同じ値又は大きな値に設定される。つまり、短開放普図当たり遊技は、普通電動役物 3 7 2 の復帰により終了するようにしてもよいし、普通電動役物 3 7 2 が復帰してから所定時間経過後に終了するようにしてもよい。

【 4 0 6 9 】

30

そして、M P U 4 1 は、短開放普図当たりフラグをオフに設定し (ステップ S 1 8 0 7)、処理をステップ S 1 8 1 1 に移行する。

【 4 0 7 0 】

<ステップ S 1 8 0 8 ~ S 1 8 1 0>

長開放普図当たりフラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 1 8 0 3 : Y e s)、即ち終了した普図遊技に対する普図当たり抽選の結果が長開放普図当たりである場合、M P U 4 1 は、長開放普図当たり遊技における非電作動装置 3 7 の遊技作動部としての普通電動役物 3 7 2 の開放時間 (非電作動装置 3 7 への遊技球 9 9 の流入可能時間) である 1 0 秒に対応する値を開放時間カウンタの値としてセットする (ステップ S 1 8 0 8)。開放時間カウンタは、普通電動役物 3 7 2 の復帰タイミングを判断するために当該普図当たり遊技制御処理の図 3 1 1 のステップ S 1 8 2 2 において参照される。

40

【 4 0 7 1 】

ここで、ステップ S 1 8 0 9 でセットされる遊技時間カウンタの値は、ステップ S 1 8 0 8 でセットされる開放時間カウンタよりも大きな値に設定される。つまり、長開放普図当たり遊技は、普通電動役物 3 7 2 が復帰してから所定時間経過後に終了する。これは、非電作動装置 3 7 への 2 球の遊技球 9 9 の流入によって普通電動役物 3 7 2 が復帰した後に、入球部としての第 1 非電作動口 3 7 6 A 及び第 2 非電作動口 3 7 6 B に遊技球 9 9 が入球するため、長開放普図当たり遊技において、第 1 非電作動口 3 7 6 A 及び第 2 非電作動口 3 7 6 B への遊技球 9 9 の入球を検出し、誘導部としての可動誘導部 3 7 4 の誘導状態の切替処理を実行できるようにするためである。

50

【4072】

なお、第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bへの遊技球99の入球の検出や、可動誘導部374の誘導状態の切替処理は、必ずしも普図当たり遊技制御において実行する必要はなく、普図当たり遊技制御処理とは別の処理として実行してもよい。この場合、普図当たり遊技制御処理において第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bへの遊技球99の入球の検出や、可動誘導部374の誘導状態の切替処理を実行する必要がないため、ステップS1809でセットされる遊技時間カウンタの値と、ステップS1808でセットされる開放時間カウンタと同じ値に設定し、普通電動役物372の復帰によって普図当たり遊技を終了するようにしてもよく、普通電動役物372の復帰によって普図当たり遊技を終了する場合には、遊技時間カウンタ及び開放時間カウンタのうちの一方を省略してもよい。

10

【4073】

そして、MPU41は、長開放普図当たりフラグをオフに設定し（ステップS1810）、処理をステップS1811に移行する。

【4074】

＜ステップS1811及びS1812＞

ステップS1811では、MPU41は、普通電動役物372を作動させる切替処理を実行する。これにより、非電作動装置37は、流入領域としての導入口371からの遊技球99の流入が不能な状態から、流入領域としての導入口371からの遊技球99の流入が可能な状態に切り替えられる。また、MPU41は、普通電動役物372が作動されていることを示す普通電動役物作動中フラグをオンに設定し（ステップS1812）、処理をステップS1813に移行する。普通電動役物作動中フラグは、当該普図当たり遊技制御処理の図311のステップS1816において普通電動役物372を復帰させる処理を実行するか否かを判断するために参照される。

20

【4075】

＜ステップS1813～S1815＞

ステップS1813では、MPU41は、普通当たり遊技が実行されていることを音声ランプ制御装置5に通知する普図当たり遊技中コマンドを設定し、処理をステップS1814に移行する。なお、普通電動役物開放コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図308参照）のステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、普通電動役物開放コマンドに基づいて、例えば遊技動作部としての図柄表示部341などに対して普通電動役物372が開放されていることを示す演出を開始させることができる。

30

【4076】

ステップS1814では、MPU41は、普図当たり遊技が実行中であることを示す普図当たり遊技中フラグをオンに設定し、処理をステップS1815に移行する。普図当たり遊技中フラグは、当該普図当たり遊技制御処理の図311のステップS1827において普図当たり遊技の実行中であるか否かを判断するために参照される。

【4077】

ステップS1815では、MPU41は、普通図柄が停止表示されたこと（普図遊技が終了したこと）を示す普図変動停止表示フラグをオフに設定し、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

40

【4078】

＜ステップS1816＞

普図変動停止表示フラグがオフである場合（ステップS1801：No）、図311に示すように、MPU41は、当該普図当たり遊技制御処理の図310のステップS1812において普通電動役物372を作動させた場合にオンに設定される普通電動役物作動中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS1816）。MPU41は、普通電動役物作動中フラグがオンに設定されている場合（ステップS1816：Yes）、即ち普通電動役物372が作動している場合、処理をステップS1817に移行する

50

。一方、MPU41は、普通電動役物作動中フラグがオフに設定されている場合（ステップS1816：No）、普通電動役物372が作動していない場合、処理をステップS1827に移行する。

【4079】

<ステップS1817>

普通電動役物作動中フラグがオンに設定されている場合（ステップS1816：Yes）、即ち普通電動役物372が作動している場合、MPU41は、非電作動装置37に遊技球99が流入したか否かを判断する（ステップS1817）。非電作動装置37に遊技球99が流入したか否かは、検出部としての入球センサ371aから出力に基づいて判断される。

10

【4080】

MPU41は、非電作動装置37に遊技球99が流入した場合（ステップS1817：Yes）、処理をステップS1818に移行し、非電作動装置37に遊技球99が流入していない場合（ステップS1817：No）、処理をステップS1821に移行する。

【4081】

<ステップS1818～S1820>

非電作動装置37に遊技球99が流入した場合（ステップS1817：Yes）、MPU41は、非電作動装置37に流入した遊技球99の数を示す流入数カウンタの値に1加算し（ステップS1818）、加算後の流入数カウンタの値が2であるか否かを判断する（ステップS1819）。即ち、MPU41は、非電作動装置37への2球の遊技球99の流入により、規定時間の経過前に遊技動作部としての普通電動役物372を復帰させるか否かを判断する。

20

【4082】

MPU41は、加算後の流入数カウンタの値が2である場合（ステップS1819：Yes）、即ち規定時間の経過前に普通電動役物372を復帰する場合、普通電動役物372の残りの開放時間を示す開放時間カウンタの値をクリアし（ステップS1820）、処理をステップS1823に移行する。一方、MPU41は、非電作動装置37に遊技球99が流入していない場合（ステップS1817：No）、即ち処理をステップS1821に移行する。

【4083】

<ステップS1821及びS1822>

非電作動装置37に遊技球99が流入していない場合（ステップS1817：No）、MPU41は、普通電動役物372の残りの開放時間を示す開放時間カウンタの値を1減算し（ステップS1821）、減算後の開放時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS1822）。即ち、MPU41は、規定時間の経過により、遊技動作部としての普通電動役物372を復帰させるか否かを判断する。

30

【4084】

MPU41は、減算後の開放時間カウンタの値が0である場合（ステップS1822：Yes）、即ち規定時間の経過により普通電動役物372を復帰させる場合、処理をステップS1823に移行する。一方、MPU41は、減算後の開放時間カウンタの値が0でない場合（ステップS1822：No）、即ち普通電動役物372を復帰させない場合、処理をステップS1827に移行する。

40

【4085】

<ステップS1823～S1826>

ステップS1823では、MPU41は、非電作動装置37に流入した遊技球99の数を示す流入数カウンタの値をクリアする。さらに、MPU41は、遊技動作部としての普通電動役物372を復帰させ（ステップS1824）、普通電動役物372が作動中であることを示す普通電動役物作動中フラグをオフに設定する（ステップS1825）。また、MPU41は、遊技状態をa時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップS1826）、処理をステップS1827に移行す

50

る。なお、通常遊技状態移行フラグは、後述の図323の遊技状態移行処理のステップS3631において、遊技状態をa時短遊技状態から通常遊技状態に移行させる否かを判断するために参照される。

【4086】

<ステップS1827>

ステップS1827では、MPU41は、普図当たり遊技が実行されていることを示す普図当たり遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU41は、普図当たり遊技中フラグがオンに設定されている場合（ステップS1827：Yes）、即ち普図当たり遊技が実行されている場合、処理をステップS1828に移行する。一方、MPU41は、普図当たり遊技中フラグがオフに設定されている場合（ステップS1827：No）、即ち普図当たり遊技が実行されていない場合、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【4087】

<ステップS1828及びS1829>

普図当たり遊技中フラグがオンに設定されている場合（ステップS1827：Yes）、即ち普図当たり遊技が実行されている場合、MPU41は、普図当たり遊技の残り時間を示す遊技時間カウンタの値を1減算し（ステップS1828）、減算後の遊技時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS1829）。即ち、MPU41は、普図当たり遊技を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【4088】

MPU41は、減算後の遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS1829：Yes）、即ち普図当たり遊技を終了するタイミングである場合、処理をステップS1830に移行する。一方、MPU41は、減算後の遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS1829：No）、即ち普図当たり遊技を終了せずに継続する場合、処理をステップS1832に移行する。

【4089】

<ステップS1830及びS1831>

減算後の遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS1829：Yes）、即ち普図当たり遊技を終了するタイミングである場合、MPU41は、普図当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップS1830）、処理をステップS2831に移行する。普図当たり遊技終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図308参照）のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、普図当たり遊技終了コマンドに基づいて、例えば遊技動作部としての図柄表示部341などに対して普図当たり遊技が実行することに対応して実行される演出を終了させることができる。

【4090】

ステップS2831では、MPU41は、普図当たり遊技が実行されていることを示す普図当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップS1831）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【4091】

<ステップS1832及びS1833>

減算後の遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS1829：No）、即ち普図当たり遊技を終了せずに継続する場合、MPU41は、非電作動装置37の入球部としての第1非電作動口376Aに遊技球99が入球したか否かを判断する（ステップS1832）。第1非電作動口376Aに遊技球99が入球したか否かは、検出部としての入球センサ376Aaから出力に基づいて判断される。

【4092】

MPU41は、第1非電作動口376Aに遊技球99が入球した場合（ステップS1832：Yes）、誘導部としての可動誘導部374を、第2開口部377Bの直上から第1開口部377Aの直上へ左方向にスライド移動させることで、第1非電作動口376A

10

20

30

40

50

に遊技球 99 が入球可能で第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球不能な第 1 誘導状態（図 301（A）参照）から、第 1 非電作動口 376 A に遊技球 99 が入球不能で第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球可能な第 2 誘導状態（図 301（B）参照）への切替処理を実行し（ステップ S1833）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【4093】

一方、MPU41 は、第 1 非電作動口 376 A に遊技球 99 が入球していない場合（ステップ S1832：No）、処理をステップ S1834 に移行する。

【4094】

＜ステップ S1834 及び S1835＞

第 1 非電作動口 376 A に遊技球 99 が入球していない場合（ステップ S1832：No）、MPU41 は、非電作動装置 37 の入球部としての第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球したか否かを判断する（ステップ S1834）。第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球したか否かは、検出部としての入球センサ 376 Ba から出力に基づいて判断される。

【4095】

MPU41 は、第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球した場合（ステップ S1834：Yes）、誘導部としての可動誘導部 374 を、第 1 開口部 377 B の直上から第 2 開口部 377 B の直上へ右方向にスライド移動させることで、第 1 非電作動口 376 A に遊技球 99 が入球不能で第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球可能な第 2 誘導状態（図 301（B）参照）から、第 1 非電作動口 376 A に遊技球 99 が入球可能で第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球不能な第 1 誘導状態（図 301（A）参照）への切替処理を実行し（ステップ S1835）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【4096】

一方、MPU41 は、第 2 非電作動口 376 B に遊技球 99 が入球していない場合（ステップ S1842：No）、当該普図当たり遊技制御処理を終了する。

【4097】

このような普図当たり遊技制御処理により、a 時短遊技状態において開始される普図当たり遊技において、非電作動装置 37 に 2 球の遊技球 99 を流入させることが可能であり、非電作動装置 37 に流入された 2 球の遊技球 99 のうち、先に流入された遊技球 99 を第 1 非電作動口 376 A に入球させ、後に流入された遊技球 99 を第 2 非電作動口 376 B に入球させることができる。その結果、普図当たり遊技において、第 1 非電動役物 39 A を、この第 1 非電動役物 39 A よりも遊技盤 31 の正面視における垂直方向の上方で遊技球 99 の流下方向の上流側の第 2 非電動役物 39 B を先に作動させ、その後に第 2 非電動役物 39 B を作動させることが可能になる。これにより、普図当たり遊技を契機とし、先に第 2 入賞口 315 A を開放させ、その後に第 2 入賞口 315 B を開放させることが可能になる。そのため、前述のように、遊技者は、a 時短遊技状態において遊技条件として普図当たりが発生した場合、普通電動役物 372 に向けて遊技球 99 を連続的に打ち出すという簡易な発射操作を行うことで、a 時短遊技状態での普図当たりが発生した場合の恩恵、即ち第 2 入賞口 315 A、315 B に遊技球 99 を入球させて大当たり抽選処理の実行を極力短時間（例えば最短時間）で受け、さらには多量の遊技球 99 の獲得という恩恵を、遊技性が複雑化されことなく遊技の興趣を向上させることが可能になる。

【4098】

〔特図遊技制御処理〕

ここで、図 312 は、図 308 のメイン処理でのステップ S1406 において実行される特図遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図遊技制御処理では、主制御装置 4 の RAM412 に設定される特図保留格納エリア 412 b の記憶内容が更新されると共に、第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技の進行の制御、例えば第 1 特別図柄表示部 362 での第 1 特別図柄、又は第 2 特別図柄表示部 363 での第 2 特別図柄の変動表示及び停止表示が制御される。以下、図 312 を参照しつつ、特図遊技制御処理を説明する。

【4099】

<ステップ S 1 9 0 1>

図 3 1 2 に示すように、ステップ S 1 9 0 1 では、M P U 4 1 は、大当たり遊技（特図大当たり遊技、V 入賞大当たり遊技）の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、後述の大当たり遊技制御処理において、大当たり遊技が開始される場合にステップ S 2 2 1 3 でオンに設定され（図 3 1 5 参照）、大当たり遊技が終了する場合にステップ S 2 2 5 8 でオフに設定される（図 3 1 6 参照）。

【4 1 0 0】

M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 9 0 1 : Y e s）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、大当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もちろん、大当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。

10

【4 1 0 1】

一方、M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 9 0 1 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 9 0 2 に移行する。

【4 1 0 2】

<ステップ S 1 9 0 2>

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 9 0 1 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、小当たり遊技の実行中であることを示す小当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 9 0 2）。小当たり遊技中フラグは、後述の小当たり遊技制御処理において、小当たり遊技が開始される場合にステップ S 3 4 0 8 でオンに設定され（図 3 2 0 参照）、小当たり遊技が終了する場合にステップ S 3 4 4 0 でオフに設定される（図 3 2 1 参照）。

20

【4 1 0 3】

M P U 4 1 は、小当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 1 9 0 2 : Y e s）、即ち小当たり遊技の実行中である場合、当該特図遊技制御処理を終了する。つまり、本実施形態では、小当たり遊技の実行中である場合には、特図遊技が開始されない。もちろん、小当たり遊技の実行中に特図遊技が開始されるようにしてもよい。一方、M P U 4 1 は、小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 9 0 2 : N o）、即ち小当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 1 9 0 3 に移行する。

30

【4 1 0 4】

<ステップ S 1 9 0 3>

大当たり遊技中フラグ及び小当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 1 9 0 1 及び S 1 9 0 2 共に N o）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技のいずれも実行中でない場合、M P U 4 1 は、第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（第 1 特図遊技又は第 2 特図遊技の実行中）であることを示す特図変動表示中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 1 9 0 3）。特図変動表示中フラグは、後述の図 3 1 4 の特図変動開始処理において第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄の変動表示が開始される場合にステップ S 2 1 0 7 又は S 2 1 1 5 でオンに設定され、当該特図遊技制御処理において第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が停止表示される場合にステップ S 1 9 1 1 でオフに設定される。

40

【4 1 0 5】

M P U 4 1 は、特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップ S 1 9 0 3 : Y e s）、即ち第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、処理をステップ S 1 9 0 7 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1 9 0 3 : N o）、即ち大当たり遊技及び小当たり遊技のいずれも実行中でない場合に第 1 特別図柄又は第 2 特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、処理をステップ S 1 9 0 4 に移行する。

【4 1 0 6】

<ステップ S 1 9 0 4>

特図変動表示中フラグがオフである場合（ステップ S 1 9 0 3 : N o）、即ち大当たり

50

遊技及び小当たり遊技の実行中でない場合に第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）でない場合、MPU41は、特図保留格納エリア412bの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数N、及び第2特図保留数記憶エリアNABに記憶されている第2特図保留数Mの両方が0であるか否かを判断する（ステップS1904）。

【4107】

MPU41は、第1特図保留数N及び第2特図保留数Mの両方が0である場合（ステップS1904：Yes）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のいずれもない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。一方、MPU41は、第1特図保留数N及び第2特図保留数Mのいずれか一方が0でない場合は（ステップS1904：No）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、処理をステップS1905に移行する。

10

【4108】

<ステップS1905>

第1特図保留数N及び第2特図保留数Mのいずれか一方が0でない場合は（ステップS1904：No）、即ち第1特図遊技を実行する権利の保留、及び第2特図遊技を実行する権利の保留のうちの少なくとも一方がある場合、MPU41は、特図保留格納エリア412bに記憶されている特図当否情報のデータ（特図データ）に関する特図データ設定処理を実行し（ステップS1905）、処理をステップS1906に移行する。なお、特図データ設定処理の詳細は、図313を参照して後述する。

20

【4109】

<ステップS1906>

ステップS1906では、MPU41は、遊技動作部としての第1特別図柄表示部362での第1特別図柄、又は遊技動作部としての第2特別図柄表示部363での第2特別図柄の変動表示を開始（第1特図遊技又は第2特図遊技を実行）させるための特図変動開始処理を実行し、当該特図遊技制御処理を終了する。なお、特図変動開始処理の詳細は、図314を参照して後述する。

【4110】

<ステップS1907>

特図変動表示中フラグがオンである場合（ステップS1903：Yes）、即ち第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（特図遊技の実行中）である場合、MPU41は、遊技動作部としての第1特別図柄又は第2特図遊技の変動表示の開始から、後述の図314の特図変動開始処理でのステップS2103又はS2111で設定される遊技動作部での第1特別図柄又は第2特別図柄に対する特図変動表示時間が経過により特図変動を終了させるか否かを判断する（ステップS1907）。即ち、MPU41は、遊技動作部において変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングであるか否かを判断する。

30

【4111】

第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から特図変動表示時間が経過した場合（ステップS1907：Yes）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、処理をステップS1908に移行する。一方、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過していない場合（ステップS1907：No）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングでない場合、当該特図遊技制御処理を終了する。

40

【4112】

<ステップS1908～S1911>

第1特別図柄又は第2特別図柄の変動表示の開始から前記変動表示時間が経過した場合（ステップS1907：Yes）、即ち変動表示中の特別図柄を停止表示させて特図遊技を終了させるタイミングである場合、MPU41は、メイン表示部36の遊技動作部とし

50

ての第1特別図柄表示部362又は第2特別図柄表示部363において、当該特図遊技に対応する大当たり抽選の結果に応じた態様で特別図柄を停止表示させる（ステップS1908）。そして、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグをオンに設定すると共に（ステップS1909）、第1特別図柄又は第2特別図柄が停止表示されたことを音声ランプ制御装置5に通知する特図変動停止コマンドを設定する（ステップS1910）。

【4113】

特図変動停止コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図308参照）のステップS1401の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図変動停止コマンドに基づいて、例えば遊技動作部としての図柄表示部341において変動表示されている飾り図柄を、大当たり抽選の結果に応じた図柄組み合わせで停止表示させる演出を実行することができる（図295（C）及び図295（D）参照）。

【4114】

さらに、MPU41は、第1特別図柄又は第2特別図柄が変動表示中（特図遊技が実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオフに設定し（ステップS1911）、当該特図遊技制御処理を終了する。

【4115】

〔特図データ設定処理〕

ここで、図313は、図312の特図遊技制御処理のステップS1905においてMPU41によって実行される特図データ設定処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図データ設定処理では、主制御装置4のRAM412に設定される特図保留格納エリア412bの記憶内容が更新される。以下、図313を参照しつつ、特図データ設定処理を説明する。

【4116】

<ステップS2001>

図313に示すように、ステップS2001では、MPU41は、第2特図遊技に対する第2特図保留数Mが0であるか否かを判断する。MPU41は、第2特図保留数Mが0である場合（ステップS2001：Yes）、即ち第2特図遊技を実行する権利の保留がなく第1特図遊技を実行する権利の保留がある場合、処理をステップS2002に移行する。一方、MPU41は、第2特図保留数Mが0でない場合（ステップS2001：No）、即ち第2特図遊技を実行する権利の保留がある場合、処理をステップS2006に移行する。つまり、MPU41は、第2特図遊技を実行する権利の保留数である第2特図保留数Mが0であるか否かを判断することで、遊技動作部における第1特図遊技よりも第2特図遊技を優先して開始させる。

【4117】

なお、本実施形態では、第2特図遊技が第1特図遊技よりも優先して開始されるが、第1特図遊技が第2特図遊技よりも優先して開始されるようにしてもよく、また、第1入賞口314又は第2入賞口315A、315Bに対する遊技球99の入球順（保留順）に特図遊技を開始させ、第1特図遊技及び第2特図遊技のいずれか一方が実行されるようにしてもよい。また、第1特図遊技と第2特図遊技との開始に優先順位を設けることなく、第1特図遊技と第2特図遊技とが互いに独立して実行され、第1特図遊技と第2特図遊技とが同時に実行され得るようにしてもよい（いわゆる特図の同時変動）。

【4118】

<ステップS2002～S2005>

第2特図保留数Mが0である場合（ステップS2001：Yes）、MPU41は、第1特図保留格納エリアREAの第1特図保留数記憶エリアNAAに記憶されている第1特図保留数Nを1減算する（ステップS2002）。例えば、減算前の第1特図保留数Nが4である場合には減算後の第1特図保留数Nが3とされる。

【4119】

そして、第1特図保留格納エリアRE Aの第1保留エリアRE A 1から特図実行エリアA Eに特図当否情報を移動させる(ステップS 2 0 0 3)。続いて、MP U 4 1は、第1特図保留格納エリアRE Aの第2保留エリアRE A 2～第4保留エリアRE A 4の特図当否情報を1つずつシフトさせる(ステップS 2 0 0 4)。具体的に、ステップS 2 0 0 4では、第1特図保留格納エリアRE Aの第2保留エリアRE A 2の特図当否情報を第1保留エリアRE A 1に移動させ、第3保留エリアRE A 3の特図当否情報を第2保留エリアRE A 2に移動させ、第4保留エリアRE A 4の特図当否情報を第3保留エリアRE A 3に移動させる。さらに、MP U 4 1は、遊技動作部において第1特図遊技を開始させる第1特図遊技開始フラグをオンに設定し(ステップS 2 0 0 5)、処理をステップS 2 0 1 0に移行する。

10

【4 1 2 0】

<ステップS 2 0 0 6～S 2 0 0 9>

第2特図保留数Mが0でない場合(ステップS 2 0 0 1: No)、MP U 4 1は、第2特図保留格納エリアRE Bの第2特図保留数記憶エリアN A Bに記憶されている第2特図保留数Mを1減算し(ステップS 2 0 0 6)、第2特図保留格納エリアRE Bの第1保留エリアRE B 1から特図実行エリアA Eに特図当否情報を移動させる(ステップS 2 0 0 7)。続いて、MP U 4 1は、第2特図保留格納エリアRE Bの第2保留エリアRE B 2～第3保留エリアRE B 3の特図当否情報を1つずつシフトさせる(ステップS 2 0 0 8)。具体的に、ステップS 2 0 0 7では、第2保留エリアRE B 2の特図当否情報を第1保留エリアRE B 1に移動させ、第3保留エリアRE B 3の特図当否情報を第2保留エリアRE B 2に移動させる。

20

【4 1 2 1】

なお、本実施形態では、第2入賞口3 1 5 Aが開放された場合、この第2入賞口3 1 5 Aが2個の遊技球9 9が入球した場合に閉鎖され、第2入賞口3 1 5 Bが開放された場合、この第2入賞口3 1 5 Bが2個の遊技球9 9が入球した場合に閉鎖されるため、第2特図保留数Mの最大値は3個である。そのため、本実施形態では、第2特図保留格納エリアRE Bには、第1保留エリアRE B 1～第3保留エリアRE B 3の3個が設定される。

【4 1 2 2】

さらに、MP U 4 1は、遊技動作部において第2特図遊技を開始させる第2特図遊技開始フラグをオンに設定し(ステップS 2 0 0 9)、処理をステップS 2 0 1 0に移行する。

30

【4 1 2 3】

<ステップS 2 0 1 0及びS 2 0 1 1>

ステップS 2 0 1 0では、MP U 4 1は、第1特図保留格納エリアRE Aの第1保留エリアRE A 1～第4保留エリアRE A 4、又は第2特図保留格納エリアRE Bの第1保留エリアRE B 1～第3保留エリアRE B 3の特図当否情報がシフトした旨を示す特図シフトコマンドをRAM 4 1 2に設定し、さらに、特図当否情報がシフトした後の第1特図保留数N及び第2特図保留数Mを示す保留数コマンドを設定し(ステップS 2 0 1 1)、当該特図データ設定処理を終了する。特図シフトコマンド及び保留数コマンドは、MP U 4 1により実行される次のメイン処理(図3 0 8参照)のステップS 1 4 0 1の外部出力処理で音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、特図シフトコマンドや保留数コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部3 4 1に表示される第1特図保留や第2特図保留に対応させた保留表示の表示数などを変更することができる。

40

【4 1 2 4】

[特図変動開始処理]

ここで、図3 1 4は、図3 1 2の特図遊技制御処理のステップS 1 9 0 6においてMP U 4 1によって実行される特図変動開始処理の手順の一例を示すフローチャートである。特図変動開始処理では、第1特別図柄表示部3 6 2での第1特別図柄、又は第2特別図柄表示部3 6 3での第2特別図柄の変動表示の開始により第1特別遊技又は第2特図遊技(

50

特図遊技) が開始され、特図遊技の開始に伴う各種処理が実行される。以下、図 3 1 4 を参照しつつ、特図変動開始処理を説明する。

【 4 1 2 5 】

<ステップ S 2 1 0 1>

図 3 1 4 に示すように、ステップ S 2 1 0 1 では、M P U 4 1 は、第 1 特図遊技が開始されることを示す第 1 特図遊技開始フラグがオンに設定されているか否かを判断する。第 1 特図遊技開始フラグは、図 3 1 3 の特図データ設定処理のステップ S 2 0 0 5 において第 1 特図遊技が開始させるために特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E に対する当否情報のシフトが終了した場合にオンに設定される。

【 4 1 2 6 】

M P U 4 1 は、第 1 特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 2 1 0 1 : Y e s) 、処理をステップ S 2 1 0 2 に移行し、第 1 特図遊技開始フラグがオンに設定されていない場合 (ステップ S 2 1 0 1 : N o) 、処理をステップ S 2 1 0 9 に移行する。

【 4 1 2 7 】

<ステップ S 2 1 0 2 及び S 2 1 0 3>

第 1 特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合 (ステップ S 2 1 0 1 : Y e s) 、M P U 4 1 は、特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E に格納された当否情報を読み出し (ステップ S 2 1 0 2) 、メイン表示部 3 6 の遊技動作部としての第 1 特別図柄表示部 3 6 2 での第 1 特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとして設定すると共に、第 1 特別図柄の停止種別を設定し (ステップ S 2 1 0 3) 、処理をステップ S 2 1 0 4 に移行する。

【 4 1 2 8 】

<ステップ S 2 1 0 4 ~ S 2 1 0 6>

ステップ S 2 1 0 4 では、M P U 4 1 は、ステップ S 2 1 0 2 での当否判定の結果である当該第 1 特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップ S 2 1 0 3 で設定された特図変動パターンとを含む特図変動パターンコマンドを R A M 4 1 2 に設定する。また、M P U 4 1 は、ステップ S 2 1 0 3 で設定された第 1 特別図柄表示部 3 6 2 での第 1 特別図柄の停止種別を特定する停止種別コマンドを設定し (ステップ S 2 1 0 5) 、さらに、M P U 4 1 は、メイン表示部 3 6 の第 1 特別図柄表示部 3 6 2 での第 1 特別図柄の変動表示を開始させ (ステップ S 2 1 0 6) 、処理をステップ S 2 1 0 7 に移行する。

【 4 1 2 9 】

なお、停止種別コマンドは、必ずしも特図変動パターンコマンドと別に設定する必要はなく、特図変動パターンコマンドを第 1 特別図柄の停止種別を特定可能なコマンドとして設定してもよい。

【 4 1 3 0 】

<ステップ S 2 1 0 7 及び S 2 1 0 8>

ステップ S 2 1 0 7 では、M P U 4 1 は、特別図柄が変動表示中 (特図遊技実行中) であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定する。さらに、M P U 4 1 は、第 1 特図遊技を開始させる第 1 特図遊技開始フラグをオフに設定し (ステップ S 2 1 0 8) 、当該特図変動開始処理を終了する。

【 4 1 3 1 】

なお、特図変動表示中フラグは、図 3 1 2 の特図遊技制御処理におけるステップ S 1 9 0 3 において、メイン表示部 3 6 の遊技動作部としての第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄が変動表示中 (特図遊技実行中) であるか否かを判断するために参照される。

【 4 1 3 2 】

<ステップ S 2 1 0 9>

第 1 特図遊技開始フラグがオンに設定されていない場合 (ステップ S 2 1 0 1 : N o) 、M P U 4 1 は、第 2 特図遊技が開始されることを示す第 2 特図遊技開始フラグがオンに

10

20

30

40

50

設定されているか否かを判断する（ステップ S 2 1 0 9）。第 2 特図遊技開始フラグは、図 3 1 3 の特図データ設定処理のステップ S 2 0 0 9 において第 2 特図遊技が開始させるために特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E に対する当否情報のシフトが終了した場合にオンに設定される。

【 4 1 3 3 】

M P U 4 1 は、第 2 特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 1 0 9 : Y e s ）、処理をステップ S 2 1 1 0 に移行し、第 2 特図遊技開始フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 1 0 9 : N o ）、当該変動開始処理を終了する。

【 4 1 3 4 】

<ステップ S 2 1 1 0 及び S 2 1 1 1 >

第 2 特図遊技開始フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 1 0 9 : Y e s ）、M P U 4 1 は、特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E に格納された当否情報を読み出し（ステップ S 2 1 1 0 ）、メイン表示部 3 6 の遊技動作部としての第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での第 2 特別図柄の変動表示時間を特図変動パターンとして設定すると共に、第 2 特別図柄の停止種別を設定し（ステップ S 2 1 1 1 ）、処理をステップ S 2 1 1 2 に移行する。

【 4 1 3 5 】

<ステップ S 2 1 1 2 ~ S 2 1 1 4 >

ステップ S 2 1 1 2 では、M P U 4 1 は、ステップ S 2 1 1 0 での当否判定の結果である当該第 2 特図遊技に対する大当たり抽選での抽選結果と、ステップ S 2 1 1 1 で設定された特図変動パターンを含む特図変動パターンコマンドを R A M 4 1 2 に設定する。さらに、M P U 4 1 は、ステップ S 2 1 1 1 で設定された第 2 特別図柄表示部 3 6 3 での第 2 特別図柄の停止種別を特定する停止種別コマンドを設定する。さらに、M P U 4 1 は、メイン表示部 3 6 の遊技動作部としての第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において第 2 特別図柄の変動表示を開始させ（ステップ S 2 1 1 4 ）、処理をステップ S 2 1 1 5 に移行する。

【 4 1 3 6 】

なお、停止種別コマンドは、必ずしも特図変動パターンコマンドと別に設定する必要はなく、特図変動パターンコマンドを第 2 特別図柄の停止種別を特定可能なコマンドとして設定してもよい。

【 4 1 3 7 】

<ステップ S 2 1 1 5 及び S 2 1 1 6 >

ステップ S 2 1 1 5 では、M P U 4 1 は、特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中）であることを示す特図変動表示中フラグをオンに設定する。さらに、M P U 4 1 は、第 2 特図遊技を開始させる第 2 特図遊技開始フラグをオフに設定し（ステップ S 2 1 1 6 ）、当該変動開始処理を終了する。

【 4 1 3 8 】

なお、特図変動表示中フラグは、図 3 1 2 の特図遊技制御処理におけるステップ S 1 9 0 3 において、メイン表示部 3 6 の遊技動作部としての第 1 特別図柄表示部 3 6 2 又は第 2 特別図柄表示部 3 6 3 において特別図柄が変動表示中（特図遊技実行中）であるか否かを判断するために参照される。

【 4 1 3 9 】

[大当たり遊技制御処理]

ここで、図 3 1 5 ~ 図 3 1 9 は、図 3 0 8 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 7 において実行される大当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。大当たり遊技制御処理では、可変入賞装置 3 8 における大当たり遊技用可変入賞装置 3 8 A の遊技動作部としての開閉扉 3 8 2 A の遊技動作の制御（図 2 9 8 参照）などの大当たり遊技の進行を制御する処理が実行される。以下、図 3 1 5 ~ 図 3 1 9 を参照しつつ、大当たり遊技制御処理を説明する。

【 4 1 4 0 】

<ステップ S 2 2 0 1 >

10

20

30

40

50

図 3 1 5 に示すように、ステップ S 2 2 0 1 では、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグがオンであるか否かを判断する。大当たり遊技中フラグは、大当たり遊技（特図大当たり遊技又は V 入賞大当たり遊技）を開始する場合に当該大当たり遊技制御処理のステップ S 2 2 1 3 においてオンに設定され、大当たり遊技を終了する場合に当該大当たり遊技制御処理の図 3 1 6 のステップ S 2 2 5 9 においてオフに設定される。

【 4 1 4 1 】

M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 0 1 : Y e s）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、処理を図 3 1 6 のステップ S 2 2 1 8 に移行する。一方、M P U 4 1 は、大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 0 1 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 2 2 0 2 に移行する。

10

【 4 1 4 2 】

<ステップ S 2 2 0 2 >

大当たり遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 0 1 : N o）、即ち大当たり遊技の実行中でない場合、M P U 4 1 は、特別図柄が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンであるか否かを判断する。即ち、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中でない場合に開始された特図遊技が終了したか否かを判断することで、大当たり遊技を開始可能なタイミングであるか否かを判断する。

【 4 1 4 3 】

M P U 4 1 は、特図変動停止フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 0 2 : Y e s）、即ち特別図柄が停止表示されたために大当たり遊技を開始可能である場合、処理をステップ S 2 2 0 3 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特図変動停止フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 0 2 : N o）、即ち特別図柄が変動表示中でない場合、処理をステップ S 2 2 0 6 に移行する。

20

【 4 1 4 4 】

<ステップ S 2 2 0 3 >

特図変動停止フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 0 2 : Y e s）、即ち特別図柄が停止表示された場合、M P U 4 1 は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が遊技条件の成立として的大当たりであるか否かを判断する。特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりであるか否かは、例えば R A M 4 1 に設定される特図保留格納エリア 4 1 2 b の特図実行エリア A E に格納されている大当たり抽選に対する特図当否情報に基づいて判断される。

30

【 4 1 4 5 】

M P U 4 1 は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりであり遊技条件が成立する場合（ステップ S 2 2 0 3 : Y e s）、処理をステップ S 2 2 0 4 - 1 に移行する。一方、M P U 4 1 は、特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりでない場合（ステップ S 2 2 0 3 : N o）、即ち大当たり抽選の結果が外れであり遊技条件が成立しない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

40

【 4 1 4 6 】

<ステップ S 2 2 0 4 - 1 ~ S 2 2 0 4 - 3 >

特別図柄が停止表示された特図遊技に対する大当たり抽選の結果が大当たりである場合（ステップ S 2 2 0 3 : Y e s）、M P U 4 1 は、当該大当たり抽選での大当たり種別が 1 0 R 大当たりであるか否かを判断する（ステップ S 2 2 0 4 - 1）。

【 4 1 4 7 】

M P U 4 1 は、大当たり抽選での大当たり種別が 1 0 R 大当たりである場合（ステップ S 2 2 0 4 - 1 : Y e s）、1 0 R 特図大当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 2 2 0 4 - 2）、処理をステップ S 2 2 0 5 に移行する。1 0 R 特図大当たりフラグは、特図大当たり抽選の結果が 1 0 R 大当たりであることに基づき 1 0 R 特図大当たり遊技が実行

50

されることを示すものであり、当該大当たり遊技の終了後に a 時短遊技状態に移行させる a 時短遊技状態移行フラグをオンに設定するか判断するために当該大当たり遊技制御処理の図 3 1 9 のステップ S 2 2 5 6 - 2 において参照される。

【 4 1 4 8 】

一方、MPU 4 1 は、大当たり抽選での大当たり種別が 1 0 R 大当たりでない場合（ステップ S 2 2 0 1 : N o ）、4 R 特図大当たりフラグをオンに設定し（ステップ S 2 2 0 4 - 3 ）、処理をステップ S 2 2 0 5 に移行する。4 R 特図大当たりフラグは、特図大当たり抽選の結果が 4 R 大当たりであることに基づき 4 R 特図大当たり遊技が実行されることを示すものであり、当該大当たり遊技の終了後に通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定するか判断するために当該大当たり遊技制御処理の図 3 1 9 のステップ S 2 2 5 6 - 5 において参照される。

10

【 4 1 4 9 】

<ステップ S 2 2 0 5 >

ステップ S 2 2 0 5 では、MPU 4 1 は、特図大当たり遊技（1 0 R 特図大当たり遊技又は 4 R 特図大当たり遊技）を開始すること、及び大当たり遊技の種別（開閉実行モードでのラウンド数（4 R 又は 1 0 R））を音声ランプ制御装置 5 に通知する特図大当たり遊技開始コマンドを設定し、処理をステップ S 2 2 1 2 に移行する。特図大当たり遊技開始コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、特図大当たり遊技開始コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 において大当たり遊技種別に応じた大当たり遊技演出（例えば R U S H への突入するか否かの演出）を実行することができる。

20

【 4 1 5 0 】

<ステップ S 2 2 0 6 及び S 2 2 0 7 >

特図変動停止フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 0 2 : N o ）、即ち特別図柄が変動表示中でない場合、MPU 4 1 は、小当たり遊技が終了することを示す小当たり遊技終了フラグ 1 がオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 2 2 0 6 ）。小当たり遊技終了フラグ 1 は、小当たり遊技終了フラグ 1 が終了することを示すフラグであり、後述の小当たり遊技制御処理の図 3 2 1 のステップ S 3 4 3 9 において小当たり遊技が終了する場合にオンに設定される。即ち、MPU 4 1 は、小当たり遊技の終了により V 入賞大当たり遊技を開始させることが可能なタイミングであるか否かを判断する。

30

【 4 1 5 1 】

MPU 4 1 は、小当たり遊技終了フラグ 1 がオンに設定されている場合（ステップ S 2 2 0 6 : Y e s ）、即ち小当たり遊技の終了により V 入賞大当たり遊技を開始させることが可能なタイミングである場合、小当たり遊技終了フラグ 1 をオフに設定し（ステップ S 2 2 0 7 ）、処理をステップ S 2 2 0 8 に移行する。一方、MPU 4 1 は、小当たり遊技終了フラグ 1 がオフに設定されている場合（ステップ S 2 2 0 6 : N o ）、即ち V 入賞大当たり遊技を開始させることが可能なタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【 4 1 5 2 】

40

<ステップ S 2 2 0 8 及び S 2 2 0 9 >

ステップ S 2 2 0 8 では、MPU 4 1 は、小当たり遊技において小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の V 入賞口 3 8 3 B（図 2 9 9 参照）に遊技球 9 9 が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する。即ち、MPU 4 1 は、V 入賞大当たり遊技を開始させるか否かを判断する。MPU 4 1 は、V 入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 2 0 8 : Y e s ）、即ち小当たり遊技において V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球した場合、V 入賞フラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 0 9 ）、処理をステップ S 2 2 1 0 に移行する。一方、MPU 4 1 は、V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 2 0 8 : N o ）、即ち小当たり遊技において V 入賞口 3 8 3 B（図 2 9 9 参照）に遊技球 9 9 が入球しなかった場合、当該大当たり遊技制御処理を

50

終了する。

【 4 1 5 3 】

<ステップ S 2 2 1 0 及び S 2 2 1 1 >

ステップ S 2 2 1 0 では、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技が実行されていることを示す V 入賞大当たりフラグをオンに設定する（ステップ S 2 2 1 0）。V 入賞大当たりフラグは、小当たり遊技における V 入賞に基づき V 入賞大当たり遊技が実行されることを示すものであり、当該 V 入賞大当たり遊技の終了後に遊技状態を大当たり遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定するか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図 3 1 9 のステップ S 2 2 5 6 - 7 において参照される。

【 4 1 5 4 】

さらに、M P U 4 1 は、V 入賞大当たり遊技を開始すること、及び大当たり遊技の種別（1 0 R V 入賞大当たり遊技）を音声ランプ制御装置 5 に通知する特図大当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップ S 2 2 1 1）、処理をステップ S 2 2 1 2 に移行する。V 入賞大当たり遊技開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）のステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、V 入賞大当たり遊技開始コマンドに基づいて遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 において V 入賞大当たり遊技演出を実行することができる。

【 4 1 5 5 】

<ステップ S 2 2 1 2 及び S 2 2 1 3 >

ステップ S 2 2 1 2 では、M P U 4 1 は、大当たり遊技を開始することを示す大当たり遊技開始フラグをオンに設定する。さらに、M P U 4 1 は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオンに設定し（ステップ S 2 2 1 3）、処理をステップ S 2 2 1 4 に移行する。

【 4 1 5 6 】

<ステップ S 2 2 1 4 及び S 2 2 1 5 >

ステップ S 2 2 1 4 では、M P U 4 1 は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数を示すラウンド数カウンタをセットする。さらに、M P U 4 1 は、大当たり遊技のオープニングを開始することを音声ランプ制御装置 5 に通知するオープニング開始コマンドを設定し（ステップ S 2 2 1 5）、処理をステップ S 2 2 1 6 に移行する。オープニング開始コマンドは、M P U 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、オープニング開始コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいてオープニング演出を開始させることができる。

【 4 1 5 7 】

<ステップ S 2 2 1 6 >

ステップ S 2 2 1 6 では、M P U 4 1 は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタをセットし、処理をステップ S 2 2 1 0 に移行する。オープニング時間カウンタは、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図 3 1 7 のステップ S 2 2 2 0 において参照される。

【 4 1 5 8 】

<ステップ S 2 2 1 7 >

ステップ S 2 2 1 7 では、M P U 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオンに設定し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。オープニング中フラグは、オープニング中であるか否かを判断するために、当該大当たり遊技制御処理での図 3 1 6 のステップ S 2 2 1 8 において参照される。

【 4 1 5 9 】

<ステップ S 2 2 1 8 >

大当たり遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 0 1 : Y e s）、即ち大当たり遊技の実行中である場合、図 3 1 6 に示すように、M P U 4 1 は、オープニングの実行

10

20

30

40

50

中であることを示すオープニング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップ S 2 2 1 8）。

【4 1 6 0】

MPU 4 1 は、オープニング中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 1 8：Y e s）、即ちオープニングの実行中である場合、処理を図 3 1 7 のステップ S 2 2 1 9 に移行する。一方、オープニング中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 1 8：N o）、即ちオープニングの実行中でない場合、処理をステップ S 2 2 2 9 に移行する。

【4 1 6 1】

<ステップ S 2 2 1 9 及び S 2 2 2 0>

オープニング中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 1 8：Y e s）、即ちオープニングの実行中である場合、図 3 1 7 に示すように、MPU 4 1 は、オープニングの残り時間を示すオープニング時間カウンタの値から 1 減算し（ステップ S 2 2 1 9）、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する（ステップ S 2 2 2 0）。即ち、MPU 4 1 は、オープニングを終了するタイミングであるか否かを判断する。

【4 1 6 2】

MPU 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 2 0：Y e s）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、処理をステップ S 2 2 2 1 に移行する。一方、MPU 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 2 2 0：N o）、即ちオープニングを終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【4 1 6 3】

<ステップ S 2 2 2 1 及び S 2 2 2 2>

減算後のオープニング時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 2 0：Y e s）、即ちオープニングを終了するタイミングである場合、MPU 4 1 は、大当たり遊技のオープニングが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するオープニング終了コマンドを設定する（ステップ S 2 2 2 1）。オープニング終了コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、オープニング終了コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されているオープニング演出を終了させることができる。

【4 1 6 4】

そして、MPU 4 1 は、オープニングの実行中であることを示すオープニング中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 2 2）、処理をステップ S 2 2 2 3 に移行する。

【4 1 6 5】

<ステップ S 2 2 2 3>

ステップ S 2 2 2 3 では、MPU 4 1 は、複数回（4 回又は 1 0 回）のラウンド遊技が実行される開閉実行モードが開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する開閉実行モード開始コマンドを設定し、処理をステップ S 2 2 2 4 に移行する。開閉実行モード開始コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、開閉実行モード開始コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される開閉実行モード演出を開始させることができる。

【4 1 6 6】

<ステップ S 2 2 2 4>

ステップ S 2 2 2 4 では、MPU 4 1 は、ラウンド遊技が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知するラウンド遊技開始コマンドを設定し、処理をステップ S 2 2 2 5 に移行する。ラウンド遊技開始コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、ラウンド遊技開始コマンドに基づ

いて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいてラウンド数表示などを含む各ラウンド遊技に対応するラウンド遊技演出を開始させることができる。

【 4 1 6 7 】

なお、本実施形態では、特図大当たり遊技の各ラウンド遊技において個別にラウンド遊技演出が実行されるが、ラウンド遊技演出は、開閉実行モードにおいて一連の 1 つの演出を実行し、各ラウンド遊技において当該ラウンド遊技のラウンド数を表示するものであってもよい。この場合、ラウンド遊技間ではインターバル演出を実行しなくてもよいし、またインターバル演出として次回に実行されるラウンド遊技のラウンド数を表示する演出を実行してもよい。

【 4 1 6 8 】

<ステップ S 2 2 2 5 及び S 2 2 2 6 >

ステップ S 2 2 2 5 では、M P U 4 1 は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数
を示すラウンド数カウンタから 1 減算する。さらに、M P U 4 1 は、可変入賞装置 3 8 に
おける大当たり遊技用可変入賞装置 3 8 A の遊技動作部としての開閉扉 3 8 2 A を作動す
る切替処理を実行することで入球部としての開口部 3 8 1 A を開放し（ステップ S 2 2 2
6）（図 2 9 8（B）参照）、処理をステップ S 2 2 2 7 に移行する。このステップ S 2
2 2 6 により、入球部としての可変入賞口 3 8 3 A への遊技球 9 9 の入球が可能とされる
。

【 4 1 6 9 】

<ステップ S 2 2 2 7 及び S 2 2 2 8 >

ステップ S 2 2 2 7 では、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウ
ンド遊技中フラグをオンに設定する。さらに、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の残り時間を
示すラウンド遊技時間カウンタをセットし（ステップ S 2 2 2 8）、当該大当たり遊技制
御処理を終了する。ラウンド遊技時間カウンタは、規定時間の経過によりラウンド遊技を
終了する（大当たり遊技用可変入賞装置 3 8 A の遊技動作部としての開閉扉 3 8 2 A を作
動する切替処理を実行することで入球部としての可変入賞口 3 8 3 A への遊技球 9 9 の入
球を可能とする）タイミングであるか判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図 3
1 8 のステップ S 2 2 3 1 において参照される。

【 4 1 7 0 】

<ステップ S 2 2 2 9 >

図 3 1 6 に戻り、オープニング中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 1 8：N o
）、即ちオープニングの実行中でない場合、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の実行中である
ことを示すラウンド遊技中フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S
2 2 2 9）。即ち、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の実行中であるか否かを判断する。

【 4 1 7 1 】

M P U 4 1 は、ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 2 9：Y e s
）、即ちラウンド遊技の実行中である場合、処理を図 3 1 8 のステップ S 2 2 3 0 に移行
する。一方、M P U 4 1 は、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 2
9：N o）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、処理をステップ S 2 2 4 3 に移行す
る。

【 4 1 7 2 】

<ステップ S 2 2 3 0 及び S 2 2 3 1 >

ラウンド遊技中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 2 9：Y e s）、即ちラウ
ンド遊技の実行中である場合、図 3 1 8 に示すように、M P U 4 1 は、ラウンド遊技の残り
時間を示すラウンド遊技時間カウンタの値から 1 減算する（ステップ S 2 2 3 0）。そし
て、M P U 4 1 は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が 0 であるか否かを判断する
（ステップ S 2 2 3 1）。即ち、M P U 4 1 は、規定時間の経過によりラウンド遊技を終
了する（大当たり遊技用可変入賞装置 3 8 A の遊技動作部としての開閉扉 3 8 2 A を復帰
させる切替処理を実行することで入球部としての可変入賞口 3 8 3 A への遊技球 9 9 の入
球を不能とする）タイミングであるか否かを判断する。

10

20

30

40

50

【4173】

MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS2231：Yes）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了する（開閉扉382Aを復帰させる）タイミングである場合、処理をステップS2235に移行する。一方、MPU41は、減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2231：No）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了する（開閉扉382Aを復帰させる）タイミングでない場合、処理をステップS2232に移行する。

【4174】

<ステップS2232>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2224：No）、即ち規定時間の経過によりラウンド遊技を終了する（開閉扉382Aを復帰させる）タイミングでない場合、MPU41は、可変入賞口383Aに対する遊技球99の入球があったか否かを判断する（ステップS2232）。可変入賞口383Aに対する遊技球99の入球があったか否かは、図17の主タイマ割込処理でのステップS1001のセンサ検出処理において、検出部としての入球センサ383Aaへの遊技球99の入球が検出された場合にRAM412に保存される入賞検知情報に基づいて判断される。

10

【4175】

MPU41は、可変入賞口383Aに対する遊技球99の入球があった場合（ステップS2232：Yes）、処理をステップS2233に移行し、可変入賞口383Aに対する遊技球99の入球がなかった場合（ステップS2232：No）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

20

【4176】

<ステップS2233及びS2234>

可変入賞口383Aに対する遊技球99の入球があった場合（ステップS2232：Yes）、MPU41は、当該ラウンド遊技での可変入賞口383Aへの遊技球99の入球数を示す入球数カウンタの値に1加算する（ステップS2233）。そして、MPU41は、加算後の入球数カウンタの値が10に達したか否か（ステップS2234）、即ち可変入賞口383Aへの上限数の遊技球99の入球によりラウンド遊技を終了する（開閉扉382Aを復帰させる）タイミングであるか否かを判断する。

【4177】

MPU41は、加算後の入球数カウンタの値が10に達している場合（ステップS2234：Yes）、即ち可変入賞口383Aへの上限数の遊技球99の入球によりラウンド遊技を終了する（開閉扉382Aを復帰させる）タイミングである場合、処理をステップS2235に移行する。一方、MPU41は、加算後の入球数カウンタの値が10に達していない場合（ステップS2234：No）、即ち開閉扉382Aを復帰させるタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

30

【4178】

<ステップS2235>

減算後のラウンド遊技時間カウンタの値が0である場合（ステップS2231：Yes）、又は入球数カウンタの値が10に達した場合（ステップS2234：Yes）、MPU41は、遊技動作部としての開閉扉382Aを復帰するの切替処理を実行することにより開口部381Aを閉鎖して入球部としての可変入賞口383Aへの遊技球99の入球を不能とし（ステップS2235）、処理をステップS2236に移行する。即ち、MPU41は、規定時間の経過により、又は可変入賞口383Aへの上限数の遊技球99の入球によりラウンド遊技を終了するタイミングである場合、開閉扉382Aにより開口部381Aを閉鎖して可変入賞口383Aへの遊技球99の入球を不能としてラウンド遊技を終了する。

40

【4179】

<ステップS2236～S2238>

ステップS2236では、MPU41は、ラウンド遊技が終了することを音声ランプ制

50

御装置 5 に通知するラウンド遊技終了コマンドを設定する。ラウンド遊技終了コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 では、ラウンド遊技終了コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるラウンド遊技演出を終了させることができる。

【 4 1 8 0 】

そして、MPU 4 1 は、当該ラウンド遊技での可変入賞口 3 8 3 A への遊技球 9 9 の入球数を示す入球数カウンタをクリアする共に（ステップ S 2 2 3 7）、ラウンド遊技の実行中であることを示すラウンド遊技中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 3 8）、処理をステップ S 2 2 3 9 に移行する。

10

【 4 1 8 1 】

<ステップ S 2 2 3 9>

ステップ S 2 2 3 9 では、MPU 4 1 は、開閉実行モードでの残りのラウンド遊技回数
を示すラウンド数カウンタが 0 であるか否か、即ち開閉実行モードを終了するタイミング
である（未実行のラウンド遊技がある）か否かを判断する。

【 4 1 8 2 】

MPU 4 1 は、ラウンド数カウンタが 0 である場合（ステップ S 2 2 3 9 : Y e s）、
即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、処理をステップ S 2 2 4 8 に移行
する。一方、MPU 4 1 は、ラウンド数カウンタが 0 でない場合（ステップ S 2 2 3 9 :
N o）、即ち未実行のラウンド遊技がある場合、処理をステップ S 2 2 4 0 に移行する。

20

【 4 1 8 3 】

<ステップ S 2 2 4 0>

ラウンド数カウンタが 0 でない場合（ステップ S 2 2 3 9 : N o）、即ち未実行のラウ
ンド遊技がある場合、MPU 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルを開始することを音
声ランプ制御装置 5 に通知するインターバル開始コマンドを設定し（ステップ S 2 2 4 0
）、処理をステップ S 2 2 4 1 に移行する。インターバル開始コマンドは、MPU 4 1 に
より実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処
理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、
インターバル開始コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおい
てインターバル演出を開始させることができる。

30

【 4 1 8 4 】

なお、本実施形態では、大当たり遊技でのラウンド遊技間のインターバルにおいてイン
ターバル演出が実行されるが、インターバル演出を省略し、インターバルにおいて、先に
実行されたラウンド遊技に対するラウンド遊技演出を継続して実行してもよく、また次に
実行されるラウンド遊技に対するラウンド遊技演出を実行してもよい。

【 4 1 8 5 】

<ステップ S 2 2 4 1 及び S 2 2 4 2>

ステップ S 2 2 4 1 では、MPU 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であ
ることを示すインターバル中フラグをオンに設定する。そして、MPU 4 1 は、インター
バルの残り時間を示すインターバル時間カウンタをセットし（ステップ S 2 2 4 2）、当
該大当たり遊技制御処理を終了する。インターバル時間カウンタは、インターバルを終了
（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるかを判断するために、当該大当たり遊技制
御処理での図 3 1 9 のステップ S 2 2 4 5 において参照される。

40

【 4 1 8 6 】

<ステップ S 2 2 4 3>

図 3 1 6 に戻り、ラウンド遊技中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 2 9 : N o
）、即ちラウンド遊技の実行中でない場合、MPU 4 1 は、ラウンド遊技間のインター
バルの実行中であることを示すインターバル中フラグがオンであるか否かを判断する（ステッ
プ S 2 2 4 3）。インターバル中フラグは、インターバルを開始する場合に当該大当たり
遊技制御処理での図 3 1 8 のステップ S 2 2 4 1 においてオンに設定され、インターバル

50

を終了する場合に当該大当たり遊技制御処理での図 3 1 9 のステップ S 2 2 4 7 においてオフに設定される。

【 4 1 8 7 】

MPU 4 1 は、インターバル中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 4 3 : Y e s）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、処理を図 3 1 9 のステップ S 2 2 4 4 に移行する。一方、MPU 4 1 は、インターバル中フラグがオフである場合（ステップ S 2 2 4 3 : N o）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、処理をステップ S 2 2 5 2 に移行する。

【 4 1 8 8 】

<ステップ S 2 2 4 4 及び S 2 2 4 5 >

インターバル中フラグがオンである場合（ステップ S 2 2 4 3 : Y e s）、即ちラウンド間のインターバルの実行中である場合、図 3 1 9 に示すように、MPU 4 1 は、インターバルの残り時間を示すインターバル時間カウンタの値から 1 減算する（ステップ S 2 2 4 4）。そして、MPU 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 であるか否か（ステップ S 2 2 4 5）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングであるか否かを判断する。

【 4 1 8 9 】

MPU 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 4 5 : Y e s）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップ S 2 2 4 6 に移行する。一方、MPU 4 1 は、減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 でない場合（ステップ S 2 2 4 5 : N o）、即ちインターバルを終了（ラウンド遊技を開始）するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【 4 1 9 0 】

<ステップ S 2 2 4 6 及び S 2 2 4 7 >

減算後のインターバル時間カウンタの値が 0 である場合（ステップ S 2 2 4 5 : Y e s）、即ちインターバルを終了してラウンド遊技を開始するタイミングである場合、MPU 4 1 は、インターバルが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知するインターバル終了コマンドを設定する（ステップ S 2 2 4 6）。インターバル終了コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、インターバル終了コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるインターバル演出を終了させることができる。

【 4 1 9 1 】

そして、MPU 4 1 は、ラウンド遊技間のインターバルの実行中であることを示すインターバル中フラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 4 7）、処理を前述の図 3 1 7 のステップ S 2 2 2 4 に移行する。このように、処理を前述の図 3 1 7 のステップ S 2 2 2 4 に移行することにより、ラウンド遊技の開始に関するステップ S 2 2 2 4 ~ S 2 2 2 8 の処理を実行し、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【 4 1 9 2 】

<ステップ S 2 2 4 8 >

図 3 1 8 に戻り、ラウンド数カウンタが 0 である場合（ステップ S 2 2 3 9 : Y e s）、即ち開閉実行モードを終了するタイミングである場合、MPU 4 1 は、大当たり遊技の開閉実行モードを終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知する開閉実行モード終了コマンドを設定し（ステップ S 2 2 4 8）、処理をステップ S 2 2 4 9 に移行する。開閉実行モード終了コマンドは、MPU 4 1 により実行される次のメイン処理（図 3 0 8 参照）でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、開閉実行モード終了コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるラウンド遊技演出（開閉実行モード演出）を終了させることができる。

10

20

30

40

50

【4193】

<ステップS2249>

ステップS2249では、MPU41は、大当たり遊技のエンディングを開始することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング開始コマンドを設定し、処理をステップS2250に移行する。エンディング開始コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図308参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5では、エンディング開始コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部341などにおいてエンディング演出を開始させることができる。

【4194】

<ステップS2250及びS2251>

ステップS2250では、MPU41は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオンに設定する。そして、MPU41は、エンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタをセットし（ステップS2251）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。エンディング時間カウンタは、エンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングであるかを判断するために、当該大当たり遊技制御処理の図319でのステップS2254において参照される。

【4195】

<ステップS2252>

図316に戻り、インターバル中フラグがオフである場合（ステップS2243：No）、即ちラウンド間のインターバルの実行中でない場合、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS2252）。

【4196】

MPU41は、エンディング中フラグがオンである場合（ステップS2252：Yes）、即ちエンディングの実行中である場合、処理を図319のステップS2253に移行する。一方、MPU41は、エンディング中フラグがオフである場合（ステップS2252：No）、即ちエンディングの実行中でない場合、処理をステップS2257に移行する。

【4197】

<ステップS2253及びS2254>

エンディング中フラグがオンである場合（ステップS2252：Yes）、即ちエンディングの実行中である場合、図319に示すように、MPU41は、エンディングの残り時間を示すエンディング時間カウンタの値から1減算し（ステップS2253）、減算後のエンディング時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS2254）。即ち、MPU41は、エンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【4198】

MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0である場合（ステップS2254：Yes）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、処理をステップS2255に移行する。一方、MPU41は、減算後のエンディング時間カウンタの値が0でない場合（ステップS2254：No）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングでない場合、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【4199】

<ステップS2255>

減算後のエンディング時間カウンタの値が0である場合（ステップS2254：Yes）、即ちエンディング（大当たり遊技）を終了するタイミングである場合、MPU41は、大当たり遊技のエンディングを終了することを音声ランプ制御装置5に通知するエンディング終了コマンドを設定し（ステップS2255）、処理をステップS2256-1に移行する。エンディング終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図308参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5

10

20

30

40

50

に送信される。これにより、音声ランプ制御装置 5 は、エンディング終了コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行されるエンディング演出を終了させることができる。

【4200】

<ステップ S 2 2 5 6 - 1 >

ステップ S 2 2 5 6 - 1 では、MPU 4 1 は、エンディングの実行中であることを示すエンディング中フラグをオフに設定し、処理をステップ S 2 2 5 6 - 2 に移行する。

【4201】

<ステップ S 2 2 5 6 - 2 >

ステップ S 2 2 5 6 - 2 では、MPU 4 1 は、10R 特図大当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する。10R 特図大当たりフラグは、特図大当たり抽選の結果が 10R 大当たりであることに基づき 10R 特図大当たり遊技が実行されることを示すものであり、特図大当たり抽選の結果が 10R 大当たりであることに基づき 10R 特図大当たり遊技が実行される場合に、当該大当たり遊技制御処理の図 3 1 5 のステップ S 2 2 0 4 - 2 においてオンに設定される。

10

【4202】

MPU 4 1 は、10R 特図大当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 2 5 6 - 2 : Yes）、処理をステップ S 2 2 5 6 - 3 に移行し、10R 特図大当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 2 5 6 - 2 : No）、処理をステップ S 2 2 5 6 - 5 に移行する。

20

【4203】

<ステップ S 2 2 5 6 - 3 及び S 2 2 5 6 - 4 >

10R 特図大当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 2 5 6 - 2 : Yes）、MPU 4 1 は、遊技状態を大当たり遊技状態から a 時短遊技状態に移行させる a 時短遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップ S 2 2 5 6 - 3）。a 時短遊技状態移行フラグは、遊技状態移行処理の図 3 2 2 のステップ S 3 6 1 1 において、大当たり遊技の終了後に遊技状態を大当たり遊技状態から a 時短遊技状態に移行させる場合に参照される。そして、MPU 4 1 は、10R 特図大当たりフラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 5 6 - 4）、当該大当たり遊技制限処理を終了する。

【4204】

30

<ステップ S 2 2 5 6 - 5 及び S 2 2 5 6 - 6 >

10R 特図大当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 2 5 6 - 2 : No）、4R 特図大当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 2 2 5 6 - 5）。4R 特図大当たりフラグは、特図大当たり抽選の結果が 4R 大当たりであることに基づき 4R 特図大当たり遊技が実行されることを示すものであり、特図大当たり抽選の結果が 4R 大当たりであることに基づき 4R 特図大当たり遊技が実行される場合に、当該大当たり遊技制御処理の図 3 1 5 のステップ S 2 2 0 4 - 3 においてオンに設定される。

【4205】

MPU 4 1 は、4R 特図大当たりフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 2 2 5 6 - 5 : Yes）、4R 特図大当たりフラグをオフに設定し（ステップ S 2 2 5 6 - 6）、処理をステップ S 2 2 5 6 - 9 に移行する。一方、MPU 4 1 は、4R 特図大当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 2 5 6 - 5 : No）、処理をステップ S 2 2 5 6 - 7 に移行する。

40

【4206】

<ステップ S 2 2 5 6 - 7 及び S 2 2 5 6 - 8 >

10R 特図大当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 2 5 6 - 2 : No）及び 4R 特図大当たりフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 2 2 5 6 - 5 : No）、即ち当該大当たり遊技が特図大当たり遊技でない場合、V 入賞大当たりフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 2 2 5 6 - 7）。V 入賞大当たり

50

フラグは、小当たり遊技におけるV入賞に基づきV入賞大当たり遊技が実行されることを示すものであり、V入賞大当たり遊技が開始される場合に当該大当たり遊技制御処理の図315のステップS2210においてオンに設定される。

【4207】

<ステップS2256-9>

オンに設定されていた4R特図大当たりフラグがオフに設定された（ステップS2256-6）、及びオンに設定されていたV入賞大当たりフラグがオフに設定された（ステップS2256-8）、MPU41は、遊技状態を大当たり遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定し（ステップS2256-9）、当該大当たり遊技制限処理を終了する。通常遊技状態移行フラグは、遊技状態移行処理の図322のステップS3614において、大当たり遊技の終了後に遊技状態を大当たり遊技状態から通常遊技状態に移行させる場合に参照される。

【4208】

<ステップS2257>

図316に戻り、エンディング中フラグがオフである場合（ステップS2252：No）、即ちオープニング中、ラウンド遊技中、インターバル中及びエンディング中のいずれでもない場合、MPU41は、大当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置5に通知する大当たり遊技終了コマンドを設定し（ステップS2257）、処理をステップS2258に移行する。大当たり遊技終了コマンドは、MPU41により実行される次のメイン処理（図308参照）でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。これにより、音声ランプ制御装置5は、大当たり遊技終了コマンドに基づいて、遊技動作部としての図柄表示部341などにおいて実行される大当たり遊技演出を終了させることができる。

【4209】

<ステップS2258及びS2259>

ステップS2258では、大当たり遊技が終了することを示す大当たり遊技終了フラグをオンに設定する。大当たり遊技終了フラグは、遊技状態を大当たり遊技状態から他の遊技状態（a時短遊技状態又は通常遊技状態）に移行するか否かを判断するために、後述の図322の遊技状態移行処理のステップS3608において参照される。

【4210】

そして、MPU41は、大当たり遊技の実行中であることを示す大当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップS2259）、当該大当たり遊技制御処理を終了する。

【4211】

【小当たり遊技制御処理】

ここで、図320及び図321は、図308のメイン処理でのステップS1407-1においてMPU41によって実行される小当たり遊技制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。本実施形態の小当たり遊技制御処理では、第2入賞口315A又は第2入賞口315Bへの遊技球99の入球を契機として実行される大当たり抽選での抽選結果が小当たりであることに基づいて実行される小当たり遊技において、可変入賞装置38における小当たり遊技用可変入賞装置38Bの遊技動作部としての開閉扉382Bの遊技動作の制御（図298及び図299参照）などの小当たり遊技の進行を制御する処理が実行される。

【4212】

<ステップS3401>

図320に示すように、本実施形態の小当たり遊技制御処理では、MPU41は、まず第1特図又は第2特図が停止表示されたことを示す特図変動停止フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3401）。即ち、MPU41は、第1特図又は第2特図の停止表示によって特図遊技（第1特図遊技、第2特図遊技）が終了されることで、小当たり遊技を開始可能なタイミングとなったか否かを判断する。なお、特図変動停止フラグは、図312の特図遊技制御処理でのステップS1909において第1特図又は第

2 特図を停止表示させる場合にオンに設定される。

【4213】

MPU41は、特図変動停止フラグがオンに設定されている場合（ステップS3401：Yes）、即ち特図遊技の終了により小当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、処理をステップS3402に移行する。一方、MPU41は、特図変動停止フラグがオフに設定されている場合（ステップS3401：No）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、処理をステップS3409に移行する。

【4214】

<ステップS3402>

特図変動停止フラグがオンに設定されている場合（ステップS3401：Yes）、即ち特図遊技の終了により小当たり遊技を開始可能なタイミングである場合、MPU41は、当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が遊技条件の成立としての小当たりであるか否かを判断する（ステップS3402）。大当たり抽選の結果が小当たりであるか否かは、図314の特図変動開始処理でのステップS2102又はS2110において特図保留格納エリア412bの特図実行エリアAEから読み出される当否情報に基づいて判断される。

10

【4215】

MPU41は、当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合（ステップS3402：Yes）、処理をステップS3403に移行する。一方、MPU41は、大当たり抽選の結果が小当たりでない場合（ステップS3402：No）、即ち大当たり抽選の結果が外れである場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

20

【4216】

<ステップS3403及びS3404>

当該特図遊技に対する大当たり抽選の結果が小当たりである場合（ステップS3402：Yes）、MPU41は、小当たり遊技が開始されることを示す小当たり遊技開始フラグをオンに設定する（ステップS3403）。そして、MPU41は、小当たり遊技が開始されることを音声ランプ制御装置5に通知する小当たり遊技開始コマンドを設定し（ステップS3404）、処理をステップS3405に移行する。

【4217】

小当たり遊技開始コマンドは、図308のメイン処理でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。音声ランプ制御装置5では、小当たり遊技開始コマンドを受信することで、遊技動作部としての図柄表示部341などにおいて実行される小当たり遊技演出を実行することができる。

30

【4218】

<ステップS3405～S3408>

ステップS3405では、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが実行されていることを示す小当たりオープニングフラグをオンに設定する。また、MPU41は、小当たりのオープニングの残り時間を示す小当たりオープニング時間カウンタをセットする（ステップS3406）。さらに、MPU41は、小当たり遊技のオープニングが開始されることを音声ランプ制御装置5に通知する小当たりオープニング開始コマンドを設定する（ステップS3407）。

40

【4219】

小当たりオープニング開始コマンドは、図308のメイン処理でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。音声ランプ制御装置5では、小当たりオープニング開始コマンドを受信することで、遊技動作部としての図柄表示部341などにおいて実行される小当たり遊技でのオープニング演出、例えば図柄表示部341における遊技者に右打ちを促す表示演出（図296（A）参照）を開始することができる。

【4220】

そして、MPU41は、小当たり遊技が実行されていることを示す小当たり遊技中フラ

50

グをオンに設定し（ステップ S 3 4 0 8）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。小当たり遊技中フラグは、普図遊技、普図当たり遊技、特図遊技を開始することが可能なタイミングであるかを判断するために、これらの遊技の制御処理において参照される（図 3 0 9 のステップ S 1 5 0 4、図 3 1 0 のステップ S 1 8 0 2、図 3 1 2 のステップ S 1 9 0 2 参照）。

【 4 2 2 1 】

<ステップ S 3 4 0 9>

特図変動停止フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 1 : N o）、即ち小当たり遊技を開始可能なタイミングでない場合、M P U 4 1 は、小当たり遊技のオープニングが実行されていることを示す小当たりオープニングフラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 0 9）。

【 4 2 2 2 】

M P U 4 1 は、小当たりオープニングフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 9 : Y e s）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されている場合、処理をステップ S 3 4 1 0 に移行する。一方、M P U 4 1 は、小当たりオープニングフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 9 : N o）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されていない場合、処理を図 3 2 1 のステップ S 3 4 2 0 に移行する。

【 4 2 2 3 】

<ステップ S 3 4 1 0 ~ S 3 4 1 3>

小当たりオープニングフラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 9 : Y e s）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されている場合、M P U 4 1 は、小当たりのオープニングの残り時間を示す小当たりオープニング時間カウンタの値から 1 減算し（ステップ S 3 4 1 0）、減算後のオープニング時間カウンタが 0 であるか否かを判断する（ステップ S 3 4 1 1）。即ち、M P U 4 1 は、小当たり遊技において、オープニングを終了して小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の開閉扉 8 3 2 B の作動を開始するタイミングであるか否かを判断する。

【 4 2 2 4 】

M P U 4 1 は、減算後のオープニング時間カウンタが 0 である場合（ステップ S 3 4 1 1 : Y e s）、即ち小当たり遊技において、オープニングを終了して可変入賞装置 3 8 B の開閉扉 8 3 2 B の作動を開始するタイミングである場合、オープニングが実行されていることを示す小当たりオープニングフラグをオフに設定し（ステップ S 3 4 1 2）、さらに小当たりのオープニングが終了することを音声ランプ制御装置 5 に通知する小当たりオープニング終了コマンドを設定し（ステップ S 3 4 1 3）、処理をステップ S 3 4 1 4 に移行する。

【 4 2 2 5 】

小当たりオープニング終了コマンドは、図 3 0 8 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、小当たりオープニング終了コマンドを受信することで、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいて実行される小当たり遊技でのオープニング演出を終了することができる。

【 4 2 2 6 】

一方、M P U 4 1 は、減算後の小当たりオープニング時間カウンタが 0 でない場合（ステップ S 3 4 1 1 : N o）、即ち小当たり遊技においてオープニングを終了して小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の開閉扉 8 3 2 B の作動を開始するタイミングでない場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【 4 2 2 7 】

<ステップ S 3 4 1 4 ~ S 3 4 1 6>

ステップ S 3 4 1 4 では、小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の遊技動作部としての開閉扉 8 3 2 B を切替処理によって作動させ、処理をステップ S 3 4 1 5 に移行する。このように、小当たり遊技において小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の開閉扉 8 3 2 B の作

10

20

30

40

50

動が開始されることで、小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の開口部 3 8 1 B が開放され、V 入賞口 3 8 3 B 又は非 V 入賞口 3 8 4 B への遊技球 9 9 の入球が可能となる。

【 4 2 2 8 】

そして、M P U 4 1 は、小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の開閉扉 8 3 2 B が作動されていること示す開閉扉作動フラグをオンに設定し（ステップ S 3 4 1 5）、さらに、開閉扉 8 3 2 B の作動が開始されることを音声ランプ制御装置 5 に通知する開閉扉作動開始コマンドを設定し（ステップ S 3 4 1 6）、処理をステップ S 3 4 1 7 に移行する。

【 4 2 2 9 】

開閉扉作動開始コマンドは、図 3 0 8 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 1 の外部出力処理において音声ランプ制御装置 5 に送信される。音声ランプ制御装置 5 では、開閉扉作動開始コマンドを受信することで、遊技動作部としての図柄表示部 3 4 1 などにおいて右打ちを促す表示演出（図 2 9 6（A）参照）を継続して表示することができる。

【 4 2 3 0 】

<ステップ S 3 4 1 7>

ステップ S 3 4 1 7 では、M P U 4 1 は、小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の開閉扉 8 3 2 B の残りの作動時間を示す開閉扉作動時間カウンタをセットし、処理をステップ S 3 4 1 8 に移行する。

【 4 2 3 1 】

<ステップ S 3 4 1 8 及び S 3 4 1 9>

ステップ S 3 4 1 8 では、M P U 4 1 は、小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の遊技動作部としての V 入賞口開閉部 3 8 5 B を切替処理によって作動させる。さらに、M P U 4 1 は、V 入賞口開閉部 3 8 5 B の作動残り時間を示す V 入賞口開閉部作動時間カウンタをセットし（ステップ S 3 4 1 9）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【 4 2 3 2 】

<ステップ S 3 4 2 0>

小当たりオープニングフラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 0 9：N o）、即ち小当たり遊技のオープニングが実行されていない場合、図 3 2 1 に示すように、M P U 4 1 は、V 入賞口開閉部 3 8 5 B が作動中であることを示す V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 0）。M P U 4 1 は、V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 0：Y e s）、処理をステップ S 3 4 2 1 に移行し、V 入賞口開閉部作動フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 0：N o）、処理をステップ S 3 4 2 9 に移行する。

【 4 2 3 3 】

<ステップ S 3 4 2 1>

V 入賞口開閉部作動フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 0：Y e s）、M P U 4 1 は、小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球したことを示す V 入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 1）。V 入賞フラグは、小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球した場合に後述のステップ S 3 4 2 3 においてオンに設定される。

【 4 2 3 4 】

M P U 4 1 は、V 入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 1：Y e s）、処理をステップ S 3 4 2 5 に移行し、V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 1：N o）、処理をステップ S 3 4 2 2 に移行する。

【 4 2 3 5 】

<ステップ S 3 4 2 2 ～ S 3 4 2 4>

V 入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 4 2 1：N o）、M P U 4 1 は、小当たり遊技用可変入賞装置 3 8 B の V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球したか否かを判断する（ステップ S 3 4 2 2）。V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球したか否かは、例えば図 3 0 8 のメイン処理でのステップ S 1 4 0 3 の賞球コマンド設定処理において、V 入賞口 3 8 3 B に遊技球 9 9 が入球されたことが入球センサ 3 8 3 B によって検知

10

20

30

40

50

されたか否かによって判断される。

【4236】

MPU41は、V入賞口383Bに遊技球99が入球した場合（ステップS3422：Yes）、V入賞フラグをオンに設定し（ステップS3423）、さらに、V入賞口383Bに遊技球99が入球したことを音声ランプ制御装置5に通知するV入賞コマンドを設定し（ステップS3424）、処理をステップS3425に移行する。

【4237】

V入賞コマンドは、図308のメイン処理でのステップS1401の外部出力処理において音声ランプ制御装置5に送信される。音声ランプ制御装置5では、V入賞コマンドを受信することで、遊技動作部としての図柄表示部341などにおいて実行される小当たり遊技でのV入賞演出（図296（B）参照）を実行することができる。

10

【4238】

一方、MPU41は、可変入賞装置39のV入賞口383に遊技球99が入球していない場合（ステップS3421：No）、処理をステップS3424に移行する。

【4239】

<ステップS3425及びS3426>

ステップS3425では、MPU41は、小当たり用可変入賞装置38BのV入賞口開閉部385Bの残りの作動時間を示すV入賞口開閉部作動時間カウンタから1減算する。さらに、MPU41は、減算後のV入賞口開閉部作動時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3426）。即ち、MPU41は、V入賞口開閉部385Bを復帰（V入賞口383Bを閉鎖）させるタイミングであるか否かを判断する。

20

【4240】

MPU41は、減算後のV入賞口開閉部作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS3426：Yes）、即ちV入賞口開閉部385Bを復帰（V入賞口383Bを閉鎖）させるタイミングである場合、処理をステップS3427に移行する。一方、MPU41は、減算後のV入賞口開閉部作動時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3426：No）、即ちV入賞口開閉部385Bを復帰（V入賞口383Bを閉鎖）させるタイミングでない場合、処理をステップS3429に移行する。

【4241】

<ステップS3427及びS3428>

減算後のV入賞口開閉部作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS3426：Yes）、即ちV入賞口開閉部385Bを復帰（V入賞口383Bを閉鎖）させるタイミングである場合、MPU41は、誘導部としてのV入賞口開閉部385Bを切替処理によって復帰させると共に（ステップS3427）、V入賞口開閉部385Bが作動されていることを示すV入賞口開閉部作動フラグをオフに設定し（ステップS3428）、処理をステップS3429に移行する。

30

【4242】

<ステップS3429>

ステップS3429では、MPU41は、小当たり遊技用可変入賞装置38Bの開閉扉382Bが作動中であることを示す開閉扉作動フラグがオンに設定されているか否かを判断する。MPU41は、開閉扉作動フラグがオンに設定されている場合（ステップS3429：Yes）、処理をステップS3430に移行し、開閉扉作動フラグがオフに設定されている場合（ステップS3429：No）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

40

【4243】

<ステップS3430及びS3431>

開閉扉作動フラグがオンに設定されている場合（ステップS3428：Yes）、MPU41は、可変入賞装置38Bの開閉扉382Bの残りの作動時間を示す開閉扉作動時間カウンタの値から1減算する（ステップS3429）。そして、MPU41は、減算後の開閉扉作動時間カウンタの値が0であるか否かを判断する（ステップS3431）。即ち、MPU41は、可変入賞装置38Bの開閉扉382Bを復帰させて開口部381Bを閉

50

鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングであるか否かを判断する。

【4244】

MPU41は、減算後の開閉扉作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS3431：Yes）、即ち小当たり遊技用可変入賞装置38Bの開閉扉382Bを復帰させて開口部381Bを閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミングである場合、処理をステップS3432に移行する。一方、MPU41は、減算後の開閉扉作動時間カウンタの値が0でない場合（ステップS3431：No）、即ち小当たり遊技用可変入賞装置38Bの開閉扉382Bを復帰させるタイミング（開口部381Bを閉鎖することで小当たり遊技を終了するタイミング）でない場合、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【4245】

<ステップS3432～S3434>

減算後の開閉扉作動時間カウンタの値が0である場合（ステップS3431：Yes）、MPU41は、遊技動作部としての開閉扉382Bを切替処理によって復帰させ（ステップS3432）、開閉扉382Bが作動されていることを示す開閉扉作動フラグをオフに設定する（ステップS3433）。

【4246】

さらに、MPU41は、小当たり遊技用可変入賞装置38BのV入賞口383Bに遊技球99が入球したことを示すV入賞フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3434）。MPU41は、V入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップS3434：Yes）、処理をステップS3435に移行し、V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS3434：No）、処理をステップS3437に移行する。

【4247】

<ステップS3435及びS3436>

V入賞フラグがオンに設定されている場合（ステップS3434：Yes）、MPU41は、遊技状態を小当たり遊技状態から大当たり遊技状態に移行させる大当たり遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップS3435）。大当たり遊技状態移行フラグは、遊技状態移行処理の図323のステップS3627において、遊技状態を小当たり遊技状態から大当たり遊技状態に移行させるか否かを判断するために参照される。つまり、小当たり遊技においてV入賞があった場合には、当該大当たり遊技の終了後にV入賞大当たり遊技が実行される。さらに、MPU41は、V入賞フラグをオフに設定し（ステップS3436）、処理をステップS3439に移行する。

【4248】

<ステップS3437及びS3438>

V入賞フラグがオフに設定されている場合（ステップS3434：No）、MPU41は、遊技状態を小当たり遊技状態から通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグをオンに設定する（ステップS3437）。通常遊技状態移行フラグは、遊技状態移行処理の図323のステップS3630において、遊技状態を小当たり遊技状態から通常遊技状態に移行させるか否かを判断するために参照される。つまり、小当たり遊技においてV入賞がなかった場合には、当該大当たり遊技の終了後にV入賞大当たり遊技を実行することなく通常大当たり遊技に移行される。さらに、MPU41は、小当たり遊技においてV入賞がなかったことを音声ランプ制御装置5に送信するV非入賞コマンドを設定し（ステップS3438）、処理をステップS3439に移行する。

【4249】

<ステップS3439～S3441>

ステップS3439では、MPU41は、小当たり遊技が終了したことを示す小当たり遊技終了フラグ1及び小当たり遊技終了フラグ2をオンに設定する。小当たり遊技終了フラグ1は、大当たり遊技制御処理の図315のステップS2206においてV入賞大当たり遊技を発生させるか否かを判断するために参照される。一方、小当たり遊技終了フラグ2は、遊技状態移行処理の図323のステップS3624において遊技状態を移行させる

10

20

30

40

50

か否かを判断するために参照される。

【4250】

また、MPU41は、小当たり遊技が終了することを音声ランプ制御装置5に通知する小当たり遊技終了コマンドを設定する（ステップS3440）。さらに、MPU41は、小当たり遊技が実行されていることを示す小当たり遊技中フラグをオフに設定し（ステップS3441）、当該小当たり遊技制御処理を終了する。

【4251】

〔遊技状態移行処理〕

ここで、図322及び図323は、図308のメイン処理のステップS1408で実行される遊技状態移行処理の手順の一例を示すフローチャートである。遊技状態移行処理では、各種遊技状態（通常遊技状態、a時短遊技状態、小当たり遊技状態及び大当たり遊技状態）の移行を制御する処理が実行される。以下、図322及び図323を参照しつつ、遊技状態移行処理を説明する。

10

【4252】

＜ステップS3601＞

図322に示すように、ステップS3601では、MPU41は、大当たり遊技（特図大当たり遊技又はV入賞大当たり遊技）を開始することを示す大当たり遊技開始フラグがオンであるか否かを判断する。

【4253】

MPU41は、大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3601：Yes）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS3602に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3601：No）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングでない場合、処理をステップS3608に移行する。

20

【4254】

＜ステップS3602～S2307＞

大当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3601：Yes）、即ち大当たり遊技を開始する場合、MPU41は、大当たり遊技状態であることを示す大当たり遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS3602）。そして、MPU41は、大当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS3603）、大当たり遊技状態に移行する前の遊技状態に対する他の遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3604～S3607）、当該遊技状態移行処理を終了する。具体的には、MPU41は、a時短遊技状態フラグがオンである場合には（ステップS3604：Yes）、a時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3605）、通常遊技状態フラグがオンである場合には（ステップS3606：Yes）、通常遊技状態フラグをオフに設定する（ステップS3607）。

30

【4255】

＜ステップS3608～S2310＞

大当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3601：No）、即ち大当たり遊技を開始するタイミングでない場合、MPU41は、大当たり遊技を終了することを示す大当たり遊技終了フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3608）。MPU41は、大当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップS3608：Yes）、大当たり遊技状態フラグをオフに設定し（ステップS3609）、大当たり遊技終了フラグをオフに設定し（ステップS3610）、処理をステップS3611に移行する。一方、MPU41は、大当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップS3605：No）、処理を図323のステップS3617に移行する。

40

【4256】

＜ステップS3611＞

ステップS3611では、MPU41は、a時短遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する。即ち、MPU41は、当該大当たり遊技の終了後に、遊技状態

50

を大当たり遊技状態からa時短遊技状態に移行させるか否かを判断する。a時短遊技状態移行フラグは、遊技状態をa時短遊技状態に移行させるフラグであり、終了される大当たり遊技が10R特図大当たりである場合に大当たり遊技制御処理の図319のステップS2256-4においてオンに設定される。

【4257】

MPU41は、a時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3611：Yes）、処理をステップS3612に移行し、a時短遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップS3612：No）、処理をステップS3614に移行する。

【4258】

<ステップS3612及びS3613>

a時短遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3611：Yes）、MPU41は、a時短遊技状態であることを示すa時短遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS3612）。さらに、MPU41は、a時短遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップS3613）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【4259】

<ステップS3614>

a時短遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップS3611：No）、MPU41は、通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップS3614）。即ち、MPU41は、当該大当たり遊技の終了後に、遊技状態を大当たり遊技状態から通常遊技状態に移行させるか否かを判断する。通常遊技状態移行フラグは、遊技状態を通常遊技状態に移行させるフラグであり、終了される大当たり遊技が、4R特図大当たり遊技又はV入賞大当たり遊技である場合に、大当たり遊技制御処理の図319のステップS2256-9においてオンに設定される。

【4260】

MPU41は、通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3614：Yes）、処理をステップS3615に移行し、通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップS3614：No）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【4261】

<ステップS3615及びS3616>

通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップS3614：Yes）、MPU41は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS3615）。さらに、MPU41は、通常遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップS3616）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【4262】

<ステップS3617>

大当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップS3608：No）、図323に示すように、MPU41は、小当たり遊技開始フラグがオンであるか否かを判断する（ステップS3617）。MPU41は、小当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3617：Yes）、即ち小当たり遊技を開始するタイミングである場合、処理をステップS3618に移行する。一方、MPU41は、小当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップS3617：No）、即ち小当たり遊技を開始するタイミングでない場合、処理をステップS3624に移行する。

【4263】

<ステップS3618～S2323>

小当たり遊技開始フラグがオンである場合（ステップS3617：Yes）、即ち小当たり遊技を開始する場合、MPU41は、小当たり遊技状態であることを示す小当たり遊技状態フラグをオンに設定する（ステップS3618）。そして、MPU41は、小当たり遊技開始フラグをオフに設定し（ステップS3619）、小当たり遊技開始前の遊技状態に関するフラグをオフに設定し、当該遊技状態移行処理を終了する。具体的には、MP

10

20

30

40

50

U 4 1 は、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 2 0：Y e s）、a 時短遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 1）、当該遊技状態移行処理を終了する。また、M P U 4 1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 2 2：Y e s）、通常遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 3）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【4 2 6 4】

<ステップ S 3 6 2 4>

小当たり遊技開始フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 1 7：N o）、小当たり遊技が終了することを示す小当たり遊技終了フラグ 2 がオンであるか否かを判断する（ステップ S 3 6 2 4）。M P U 4 1 は、小当たり遊技終了フラグ 2 がオンである場合（ステップ S 3 6 2 4：Y e s）、処理をステップ S 3 6 2 5 に移行し、小当たり遊技終了フラグがオフである場合（ステップ S 3 6 2 5：N o）、処理をステップ S 3 6 3 3 に移行する。

10

【4 2 6 5】

<ステップ S 3 6 2 5 及び S 2 3 2 6>

小当たり遊技終了フラグがオンである場合（ステップ S 3 6 2 4：Y e s）、M P U 4 1 は、小当たり遊技状態フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 5）、小当たり遊技状態終了フラグ 2 をオフに設定し（ステップ S 3 6 2 6）、処理をステップ S 3 6 2 7 に移行する。

20

【4 2 6 6】

<ステップ S 3 6 2 7>

ステップ S 3 6 2 7 では、M P U 4 1 は、遊技状態を大当たり遊技状態に移行させる大当たり遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する。M P U 4 1 は、大当たり遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 2 7：Y e s）、処理をステップ S 3 6 2 8 に移行し、大当たり遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 2 7：N o）、処理をステップ S 3 6 3 0 に移行する。

【4 2 6 7】

<ステップ S 3 6 2 8 及び S 2 3 2 9>

大当たり遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 2 7：Y e s）、M P U 4 1 は、大当たり遊技状態であることを示す大当たり遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 3 6 2 8）、大当たり遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 2 9）、当該遊技状態移行処理を終了する。

30

【4 2 6 8】

<ステップ S 3 6 3 0>

大当たり遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 2 7：N o）、M P U 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンに設定されているか否かを判断する（ステップ S 3 6 3 0）。M P U 4 1 は、通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 0：Y e s）、処理をステップ S 3 6 3 1 に移行し、通常遊技状態移行フラグがオフに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 0：N o）、当該遊技状態移行処理を終了する。

40

【4 2 6 9】

<ステップ S 3 6 3 1 及び S 2 3 3 2>

通常遊技状態移行フラグがオンに設定されている場合（ステップ S 3 6 3 0：Y e s）、M P U 4 1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し（ステップ S 3 6 3 1）、通常遊技状態移行フラグをオフに設定し（ステップ S 3 6 3 2）、当該遊技状態移行処理を終了する。

【4 2 7 0】

<ステップ S 3 6 3 3>

小当たり遊技終了フラグ 2 がオフである場合（ステップ S 3 6 2 4：Y e s）、a 時短遊技状態であることを示す a 時短遊技状態フラグがオンであるか否かを判断する（ステッ

50

ブ S 3 6 3 3)。M P U 4 1 は、a 時短遊技状態フラグがオンである場合 (ステップ S 3 6 3 3 : Y e s)、処理をステップ S 3 6 3 4 に移行し、a 時短遊技状態フラグがオフである場合 (ステップ S 3 6 3 3 : N o)、当該遊技状態移行処理を終了する。

【 4 2 7 1 】

<ステップ S 3 6 3 4>

a 時短遊技状態フラグがオンである場合 (ステップ S 3 6 3 3 : Y e s)、M P U 4 1 は、遊技状態を通常遊技状態に移行させる通常遊技状態移行フラグがオンであるか否かを判断する (ステップ S 3 6 3 4)。M P U 4 1 は、通常遊技状態移行フラグがオンである場合 (ステップ S 3 6 3 4 : Y e s)、処理をステップ S 3 6 3 5 に移行し、通常遊技状態フラグがオフである場合 (ステップ S 3 6 3 4 : N o)、当該遊技状態移行処理を終了する。

10

【 4 2 7 2 】

<ステップ S 3 6 3 5 ~ S 2 3 3 7>

通常遊技状態移行フラグがオンである場合 (ステップ S 3 6 3 4 : Y e s)、M P U 4 1 は、a 時短遊技状態フラグがオフに設定し (ステップ S 3 6 3 5)、通常遊技状態移行フラグがオフに設定する (ステップ S 3 6 3 6)。そして、M P U 4 1 は、通常遊技状態であることを示す通常遊技状態フラグをオンに設定し (ステップ S 3 6 3 7)、当該遊技状態移行処理を終了する。

【 4 2 7 3 】

以上のように、本発明では、このような遊技部材の配置により、遊技者の識別性又は視認性を高め、効率良く遊技を行うことが可能となる。

20

【 4 2 7 4 】

より具体的には、本発明では、例えば所定条件の成立により第 1 動作手段が動作される場合、第 1 動作手段が動作することで流入部から流入した遊技球 9 9 を第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている誘導手段が、第 1 入球部に所定数の遊技球 9 9 が入球することを契機として、切替手段によって第 1 入球部への遊技球 9 9 の入球が不能であり、かつ第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替えられる。そのため、第 1 動作手段の動作により流入部から遊技球 9 9 が流入した場合、先に第 1 入球部に所定数の遊技球 9 9 が入球し、その後に、第 2 入球部に遊技球 9 9 が入球される。その結果、所定条件の成立により第 1 動作手段が動作されることで流入部から遊技球 9 9 が流入した場合、先に第 2 動作手段の所定の動作が実行され得り、その後に、第 3 動作手段の特定の動作が実行され得る。

30

【 4 2 7 5 】

また、本発明では、例えば第 3 動作手段の配設位置が、当該遊技機を正面視した状態において第 2 動作手段の配設位置よりも、垂直方向の上方側、又は遊技球 9 9 の流下方向における上流側である。そのため、所定条件の成立により第 1 動作手段が動作されることで流入部から遊技球 9 9 が流入した場合、先に垂直方向の下方側又は遊技球 9 9 の流下方向の下流側の第 2 動作手段の所定の動作が実行され得り、その後に、垂直方向の上方側又は遊技球 9 9 の流下方向の上流側の第 3 動作手段の特定の動作が実行され得る。

【 4 2 7 6 】

このような本発明では、所定条件の成立により第 1 動作手段が動作された場合、第 1 動作手段に向けて遊技球 9 9 を連続的に打ち出すことで、第 1 入球部及び第 2 入球部に順次遊技球 9 9 が入球され、連続的に打ち出された遊技球 9 9 のうちの先に打ち出された遊技球 9 9 が所定の動作が実行された垂直方向の下方側又は遊技球 9 9 の流下方向の下流側の第 2 動作手段に到達し、後続の遊技球 9 9 が特定の動作が実行された垂直方向の上方側又は遊技球 9 9 の流下方向の上流側の第 3 動作手段に到達する。つまり、第 2 動作手段及び第 3 動作手段の動作順序と、第 2 動作手段及び第 3 動作手段への遊技球 9 9 の到達順序とを一致させることができる。そのため、所定条件の成立により第 1 動作手段が動作されてから極力短時間 (例えば最短時間) で、第 2 動作手段及び第 3 動作手段の動作を実行させ、かつ第 2 動作手段及び第 3 動作手段に遊技球 9 9 が到達することに基づく処理 (例えば所定の入賞口への遊技球 9 9 の入球に基づく大当たり抽選処理や普図当たり抽選処理) を

40

50

実行させることが可能になる。その結果、遊技者は、所定条件が成立した場合、遊技性を理解していなくとも、第1動作手段に向けて遊技球99を連続的に打ち出すだけで、第2動作手段及び第3動作手段に遊技球99が到達することに基づく処理を識別性又は視認性を高めつつ実行させることが可能になる。これにより、遊技者は、所定条件が成立した場合、第1動作手段に向けて遊技球99を連続的に打ち出すという簡易な発射操作を行うことで、所定条件が成立した場合の恩恵、即ち第2動作手段及び第3動作手段に遊技球99が到達することに基づく恩恵を極力短時間（例えば最短時間）で受けることができるため、遊技性が複雑化されことなく効率的に遊技の興趣を向上させることが可能になる。

【4277】

より具体的には、本実施形態では、例えば遊技条件として、特図大当たり遊技の終了後に移行されるa時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たりの発生により遊技動作部としての普通電動役物372が、切替処理としての駆動制御（処理）が実行されることによって非電作動装置37の流入領域としての導入口371が開放される場合、普通電動役物372が動作されることで導入口371から流入した遊技球99を入球部としての第1非電作動口376Aに誘導する第1誘導状態（検出部としての入球センサ376Aaによって遊技球99が検出可能な状態）となっている非電作動装置37の誘導部としての可動誘導部374が、切替処理としての駆動制御（処理）が実行されることによって、第1非電作動口376Aに遊技球99が入球することが検出部としての入球センサ376Aaによって検出されることを契機として、第1非電作動口376Aへの遊技球99の入球が不能であり、かつ入球部としての第2非電作動口376Bへの入球が可能な第2誘導状態（検出部としての入球センサ376Baによって遊技球99が検出可能な状態）に切り替えられる。そのため、普通電動役物372が動作されることにより非電作動装置37の導入口371から遊技球99が流入した場合、先に第1非電作動口376Aに遊技球99が入球し、その後に、第2非電作動口376Bに遊技球99が入球される。その結果、a時短遊技状態での普図当たりの発生により普通電動役物372が動作されることで非電作動装置37の導入口371から遊技球99が流入した場合、先に遊技動作部としての第1非電動役物39Aが入球部としての第2入賞口315Aに遊技球99が入球可能（入球センサ376Aaによって遊技球99が検出可能）に遊技動作として開放作動され得り、その後に、遊技動作部としての第2非電動役物39Bが入球部としての第2入賞口315Bに遊技球99が入球可能（入球センサ376Baによって遊技球99が検出）に遊技動作として開放作動され得る。

【4278】

また、本実施形態では、遊技動作部としての第2非電動役物39Bの配設位置が、遊技機10（遊技盤31）を正面視した状態において遊技動作部としての第1非電動役物39Aの配設位置よりも垂直方向の上方側又は遊技球99の流下方向の上流側である。そのため、遊技条件として、a時短遊技状態において普図当たり抽選での普図当たりの成立により遊技動作部としての普通電動役物372が動作されることで流入領域としての導入口371から遊技球99が流入した場合、先に垂直方向の下方側又は遊技球99の流下方向の下流側の遊技動作部としての第1非電動役物39Aが遊技動作として開放作動され得り、その後に、垂直方向の上方側又は遊技球99の流下方向の上流側の遊技動作部としての第2非電動役物39Bが遊技動作として開放作動され得る。

【4279】

このように、本実施形態の遊技機では、a時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たりの発生により普通電動役物372が動作された場合、普通電動役物372に向けて遊技盤31の右側領域に遊技球99を連続的に打ち出すことで、第1非電作動口376A及び第2非電作動口376Bに順次遊技球99が入球され、前記右側領域に連続的に打ち出された遊技球99のうちの先に打ち出された遊技球99が先に動作が実行された垂直方向の下方側又は遊技球99の流下方向の下流側の第1非電動役物39A（第2入賞口315A）に到達し、後続の遊技球99が後に動作が実行された垂直方向の上方側又は遊技

球 99 の流下方向の上流側の第 2 非電動役物 39B (第 2 入賞口 315B) に到達する。つまり、第 1 非電動役物 39A 及び第 2 非電動役物 39B の動作順序 (第 2 入賞口 315A 及び第 2 入賞口 315B の開放順序) と、第 1 非電動役物 39A 及び第 2 非電動役物 39B への遊技球 99 の到達順序 (第 2 入賞口 315A 及び第 2 入賞口 315B への遊技球 99 の入球順序) とを一致させることができる。そのため、a 時短遊技状態での普図当たりの発生により普通電動役物 372 が動作されてから極力短時間 (例えば最短時間) で、第 1 非電動役物 39A 及び第 2 非電動役物 39B の動作を実行させ、かつ第 2 入賞口 315A, 315B に遊技球 99 を入球させて大当たり抽選処理を実行させることが可能になる。その結果、遊技者は、普図当たりが成立した場合、遊技者が遊技性を理解していなくとも、普通電動役物 372 に向けて遊技球 99 を連続的に遊技盤 31 の右側領域に打ち出すだけで、第 1 非電動役物 39A 及び第 2 非電動役物 39B に遊技球 99 が到達することに基づく処理を実行させることが可能になる。これにより、遊技者は、a 時短遊技状態での普図当たりが発生した場合、普通電動役物 372 に向けて遊技球 99 を連続的に打ち出すという簡易な発射操作を行うことで、a 時短遊技状態での普図当たりが発生した場合の恩恵、即ち第 2 入賞口 315A, 315B に遊技球 99 を入球させて大当たり抽選処理の実行を極力短時間 (例えば最短時間) で受けることができるため、遊技性が複雑化されることなく遊技の興趣を向上させることが可能になる。

10

【4280】

なお、本実施形態では、適用可能な範囲において、前述の第 1 ~ 第 6 の実施形態における設計変更事項と同様な設計変更が可能である。

20

【4281】

また、各実施形態において、適用可能な範囲において、他の実施形態に記載の事項を適用することも可能である。

【4282】

〔発明の概要〕

以下、上述の各実施形態から抽出される発明の概要について付記する。なお、各付記と各実施形態との対応関係の理解に供するために便宜上符号などを付して説明することがあるが、当該付記に係る発明はその符号を付した具体的構成に限定されるものではない。また、以下で説明する各構成及び各処理機能を取捨選択して任意に組み合わせることも可能である。

30

【4283】

〔付記 A1〕

所定の始動入球手段 (314, 315) への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態 (大当たり遊技状態) を発生させるか否かの判定 (大当たり抽選) を実行する判定手段 (41) と、

前記判定手段 (41) により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄 (第 1 特別図柄、第 2 特別図柄) が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段 (41) と、

前記遊技回動作実行手段 (41) により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段 (41) と、

40

を備え、

前記所定の始動入球手段 (314, 315) は、第 1 始動入球手段 (314) と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第 1 始動入球手段 (314) とは異なる第 2 始動入球手段 (315) と、を含み、

前記所定の図柄は、前記第 1 始動入球手段 (314) への遊技球の入球を契機として変動表示される第 1 図柄 (第 1 特別図柄) と、前記第 2 始動入球手段 (315) への遊技球の入球を契機として変動表示される第 2 図柄 (第 2 特別図柄) と、を含み、

前記遊技回動作は、前記第 1 図柄 (第 1 特別図柄) が変動表示される第 1 遊技回動作 (第 1 特図遊技) と、前記第 2 図柄 (第 2 特別図柄) が変動表示される第 2 遊技回動作 (第

50

2 特図遊技) と、を含み、

前記保留手段(41)による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第1遊技回動作を実行する権利の保留である第1保留(第1特図保留)と、前記第2遊技回動作を実行する権利の保留である第2保留(第2特図保留)と、を含む遊技機であって、

所定の遊技状態(RUSH演出などの継続演出を実行可能な状態、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の基づく第2特図遊技を実行可能な状態)における前記第2保留の数(第2特図保留数M)に対応した計数を可能な第1計数手段(第2特図保留数記憶エリアNAB、第2特図保留数記憶エリア対応領域)に第1数値情報を設定する第1数値情報設定手段(41, 51)と、

減算条件の成立(第2特図遊技の開始)により前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報を減算する減算手段(41, 51)と、

前記所定の遊技状態での前記第2図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出(RUSH演出、一発告知演出、バトル演出)を実行する演出表示手段(51)と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態(c時短遊技状態)を発生可能な特定条件(時短図柄停止外れ)が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第2計数手段(c時短回数カウンタ)に前記第1数値情報とは異なる第2数値情報(c時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数)を設定する第2数値情報設定手段(41, 51)と、

更新条件の成立(特図遊技の開始)により前記第2計数手段に設定された前記第2数値情報を更新する更新手段(41, 51)と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値(例えば0)になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段(41, 51)と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第2計数手段に特定数値情報(c時短遊技状態での残りの時短遊技回数)を設定するが設定された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示(c時短遊技状態での残りのc時短遊技回数表示(演出))を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第2計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第2計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段(51)と、

を備えることを特徴とする遊技機。

【4284】

付記A1に係る遊技機では、特定演出を実行中の第2遊技回動作の実行中において特定条件が成立した場合であっても、特定対応表示が開始されない。また、本発明では、特定演出を実行中の第2遊技回動作の実行中において更新条件が成立した場合であっても、更新後の特定対応表示が開始されない。このように、特定演出を実行中の第2遊技回動作の実行中において特定条件又は更新条件が成立した場合、特定対応表示が開始されないことで、特定演出を実行中の第2遊技回動作の実行中において特定条件又は更新条件が成立した場合であっても、特定対応表示によって特定演出が途中で終了されることが防止されるため、特定演出が途中で終了されることが起因する遊技の興趣の低下が防止される。

【4285】

一方、付記A1に係る遊技機では、特定演出の終了に基づいて、特定演出の終了の時点での第2計数手段の第2数値情報に対応した特定対応表示が開始される。このように、特定演出の終了の時点での第2計数手段の第2数値情報に対応した特定対応表示が開始されることで、特定演出を途中で終了させることなく特定対応表示を開始させることができるため、特定対応表示が開始されないことが起因する遊技の興趣の低下が防止される。

【4286】

【付記B1】

所定の始動入球手段（３１４，３１５）への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態）を発生させるか否かの判定（大当たり抽選）を実行する判定手段（４１）と、

前記判定手段（４１）により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄（第１特別図柄、第２特別図柄）が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段（４１）と、

前記遊技回動作実行手段（４１）により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段（４１）と、

を備え、

前記所定の始動入球手段（３１４，３１５）は、第１始動入球手段（３１４）と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第１始動入球手段（３１４）とは異なる第２始動入球手段（３１５）と、を含み、

前記所定の図柄は、前記第１始動入球手段（３１４）への遊技球の入球を契機として変動表示される第１図柄（第１特別図柄）と、前記第２始動入球手段（３１５）への遊技球の入球を契機として変動表示される第２図柄（第２特別図柄）と、を含み、

前記遊技回動作は、前記第１図柄（第１特別図柄）が変動表示される第１遊技回動作（第１特図遊技）と、前記第２図柄（第２特別図柄）が変動表示される第２遊技回動作（第２特図遊技）と、を含み、

前記保留手段（４１）による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第１遊技回動作を実行する権利の保留である第１保留（第１特図保留）と、前記第２遊技回動作を実行する権利の保留である第２保留（第２特図保留）と、を含む遊技機であって、

所定の遊技状態（ＲＵＳＨ演出などの継続演出を実行可能な状態、α時短遊技状態での第２入賞口３１５への遊技球の基づく第２特図遊技を実行可能な状態）における前記第２保留の数（第２特図保留数Ｍ）に対応した計数を可能な第１計数手段（第２特図保留数記憶エリアＮＡＢ、第２特図保留数記憶エリア対応領域）に第１数値情報を設定する第１数値情報設定手段（４１，５１）と、

減算条件の成立（第２特図遊技の開始）により前記第１計数手段に設定された前記第１数値情報を減算する減算手段（４１，５１）と、

前記所定の遊技状態での前記第２図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出（ＲＵＳＨ演出、一発告知演出、バトル演出）を実行する演出表示手段（５１）と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態（α時短遊技状態）を発生可能な特定条件（時短図柄停止外れ）が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第２計数手段（α時短回数カウンタ）に前記第１数値情報とは異なる第２数値情報（α時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数）を設定する第２数値情報設定手段（４１，５１）と、

更新条件の成立（特図遊技の開始）により前記第２計数手段に設定された前記第２数値情報を更新する更新手段（４１，５１）と、

前記特定演出を実行中の前記第２遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第２遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第１計数手段に設定された前記第１数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値（例えば０）になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段（４１，５１）と、

前記特定演出を実行中の前記第２遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第２計数手段に特定数値情報（α時短遊技状態での残りの時短遊技回数）を設定するが設定された前記第２計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示（α時短遊技状態での残りのα時短遊技回数表示（演出））を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第２遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第２計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第２計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第２計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段（５１）と、

10

20

30

40

50

前記特定演出を終了する場合に、前記特定演出の終了後の遊技状態を明示又は示唆する演出（分岐演出、左打表示など）を実行する手段（５１）と、
を備えることを特徴とする遊技機。

【４２８７】

付記Ｂ１に係る遊技機では、特定演出を終了する場合に、特定演出の終了後の遊技状態を明示又は示唆する演出が実行される。このように、特定演出を終了する場合に、特定演出の終了後の遊技状態を明示又は示唆する演出が実行されることで、当該演出に基づいて、遊技者は、特定演出の終了後の遊技状態を把握することが可能になる。これにより、遊技者は、特定演出の終了によって遊技者に有利な状態の終了が明示又は示唆されることで遊技者の遊技に対する興味が低下する状況においても、どのような演出が実行されるか否か、即ち特定演出の終了後の遊技状態が遊技者に有利なものであることを期待しつつ遊技の進行を楽しむことができる。

【４２８８】

〔付記Ｂ２〕

前記特定演出の終了後の遊技状態を明示又は示唆する演出は、遊技盤（３１）における遊技球の打ち出し領域を明示又は示唆する演出を含むことを特徴とする付記Ｂ１に記載の遊技機。

【４２８９】

付記Ｂ２に係る遊技機では、特定演出の終了後の遊技状態を明示又は示唆する演出が、遊技盤における遊技球の打ち出し領域を明示又は示唆する演出を含む。このように、特定演出の終了後の遊技状態を明示又は示唆する演出が、遊技盤における遊技球の打ち出し領域を明示又は示唆する演出を含むことで、遊技者は、当該演出に基づいて、特定演出の終了後での遊技盤における遊技球の打ち出し領域を把握することができる。これにより、遊技者は、特定演出の終了後に適切な遊技球の打ち出しを行うことができるため、不適切な遊技球の打ち出しによる不要な遊技球の損失（いわゆる無駄打ち）が防止され、遊技者の利益を適切に確保することが可能になる。

【４２９０】

〔付記Ｃ１〕

所定の始動入球手段（３１４，３１５）への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態）を発生させるか否かの判定（大当たり抽選）を実行する判定手段（４１）と、

前記判定手段（４１）により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄（第１特別図柄、第２特別図柄）が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段（４１）と、

前記遊技回動作実行手段（４１）により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段（４１）と、

を備え、

前記所定の始動入球手段（３１４，３１５）は、第１始動入球手段（３１４）と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第１始動入球手段（３１４）とは異なる第２始動入球手段（３１５）と、を含み、

前記所定の図柄は、前記第１始動入球手段（３１４）への遊技球の入球を契機として変動表示される第１図柄（第１特別図柄）と、前記第２始動入球手段（３１５）への遊技球の入球を契機として変動表示される第２図柄（第２特別図柄）と、を含み、

前記遊技回動作は、前記第１図柄（第１特別図柄）が変動表示される第１遊技回動作（第１特図遊技）と、前記第２図柄（第２特別図柄）が変動表示される第２遊技回動作（第２特図遊技）と、を含み、

前記保留手段（４１）による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第１遊技回動作を実行する権利の保留である第１保留（第１特図保留）と、前記第２遊技回動作を実行する権利の保留である第２保留（第２特図保留）と、を含む遊技機であって、

10

20

30

40

50

所定の遊技状態（RUSH演出などの継続演出を実行可能な状態、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の基づく第2特図遊技を実行可能な状態）における前記第2保留の数（第2特図保留数M）に対応した計数を可能な第1計数手段（第2特図保留数記憶エリアNAB、第2特図保留数記憶エリア対応領域）に第1数値情報を設定する第1数値情報設定手段（41, 51）と、

減算条件の成立（第2特図遊技の開始）により前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報を減算する減算手段（41, 51）と、

前記所定の遊技状態での前記第2図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出（RUSH演出、一発告知演出、バトル演出）を実行する演出表示手段（51）と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態（c時短遊技状態）を発生可能な特定条件（時短図柄停止外れ）が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第2計数手段（c時短回数カウンタ）に前記第1数値情報とは異なる第2数値情報（c時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数）を設定する第2数値情報設定手段（41, 51）と、

更新条件の成立（特図遊技の開始）により前記第2計数手段に設定された前記第2数値情報を更新する更新手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値（例えば0）になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第2計数手段に特定数値情報（c時短遊技状態での残りの時短遊技回数）を設定するが設定された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示（c時短遊技状態での残りのc時短遊技回数表示（演出））を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第2計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第2計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段（51）と、

を備え、

前記特定演出の実行中に前記特定条件が成立する場合、及び前記特定演出の実行中に前記特定条件が成立しない場合のいずれにおいても、前記特定演出の終了後の遊技方法（奨励される遊技球の打ち出し）が同じであることを特徴とする遊技機。

【4291】

付記C1に係る遊技機では、特定演出の実行中に特定条件が成立する場合、及び特定演出の実行中に特定条件が成立しない場合のいずれにおいても、特定演出の終了後の遊技方法が同じである。このように、特定演出の実行中に特定条件が成立する場合、及び特定演出の実行中に特定条件が成立しない場合のいずれにおいても、特定演出の終了後の遊技方法が同じであることで、遊技者は、特定演出の実行中に特定条件が成立するか否かにかかわらず、同一の遊技方法で遊技を進行することができる。これにより、特定演出の終了後の遊技方法が複雑化することが防止され、遊技者に不利益を与えることが防止される。

【4292】

【付記C2】

前記遊技方法は、遊技者にとって有利となる遊技盤に対する遊技球の打ち出し方法に関するものであることを特徴とする付記C1に記載の遊技機。

【4293】

付記C2に係る遊技機では、遊技者にとって有利となる遊技盤に対する遊技球の打ち出し方法に関するものである。このように、遊技者にとって有利となる遊技盤に対する遊技球の打ち出し方法に関するものであることで、特定演出の実行中に特定条件が成立するか否かにかかわらず、特定演出の終了後に遊技者に有利となる遊技球の打ち出し方法が画一化される。これにより、特定演出の終了後において、遊技者に有利となる遊技球の打ち出

し方法が複雑化することが防止され、遊技者に不利益を与えることが防止される。

【 4 2 9 4 】

[付記 C 3]

前記遊技方法は、前記第 1 始動入球手段 (3 1 4) に遊技球を入球させることが奨励される第 1 遊技方法と、前記第 2 始動入球手段 (3 1 5) に遊技球を入球させることが奨励される第 2 遊技方法と、を含み、

前記特定演出の終了後の遊技方法は、前記第 1 遊技方法であることを特徴とする付記 C 2 に記載の遊技機。

【 4 2 9 5 】

付記 C 3 に係る遊技機では、遊技方法が、第 1 始動入球手段に遊技球を入球させることが奨励される第 1 遊技方法と、第 2 始動入球手段に遊技球を入球させることが奨励される第 2 遊技方法と、を含み、特定演出の終了後の遊技方法が第 1 遊技方法である。このように、遊技方法が、第 1 始動入球手段に遊技球を入球させることが奨励される第 1 遊技方法と、第 2 始動入球手段に遊技球を入球させることが奨励される第 2 遊技方法と、を含み、特定演出の終了後の遊技方法が第 1 遊技方法であることで、特定演出の実行中に特定条件が成立するか否かにかかわらず、特定演出の終了後に、第 1 始動入球手段に遊技球を入球させることが奨励される第 1 遊技方法を実践すればよい。これにより、特定演出の終了後において、遊技者に有利となる遊技球の打ち出し方法が簡易化され、遊技者に不利益を与えることが防止される。

【 4 2 9 6 】

[付記 D 1]

所定の始動入球手段 (3 1 4 , 3 1 5) への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態 (大当たり遊技状態) を発生させるか否かの判定 (大当たり抽選) を実行する判定手段 (4 1) と、

前記判定手段 (4 1) により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄 (第 1 特別図柄、第 2 特別図柄) が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段 (4 1) と、

前記遊技回動作実行手段 (4 1) により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段 (4 1) と、

を備え、

前記所定の始動入球手段 (3 1 4 , 3 1 5) は、第 1 始動入球手段 (3 1 4) と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第 1 始動入球手段 (3 1 4) とは異なる第 2 始動入球手段 (3 1 5) と、を含み、

前記所定の図柄は、前記第 1 始動入球手段 (3 1 4) への遊技球の入球を契機として変動表示される第 1 図柄 (第 1 特別図柄) と、前記第 2 始動入球手段 (3 1 5) への遊技球の入球を契機として変動表示される第 2 図柄 (第 2 特別図柄) と、を含み、

前記遊技回動作は、前記第 1 図柄 (第 1 特別図柄) が変動表示される第 1 遊技回動作 (第 1 特図遊技) と、前記第 2 図柄 (第 2 特別図柄) が変動表示される第 2 遊技回動作 (第 2 特図遊技) と、を含み、

前記保留手段 (4 1) による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第 1 遊技回動作を実行する権利の保留である第 1 保留 (第 1 特図保留) と、前記第 2 遊技回動作を実行する権利の保留である第 2 保留 (第 2 特図保留) と、を含む遊技機であって、

所定の遊技状態 (R U S H 演出などの継続演出を実行可能な状態、a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の基づく第 2 特図遊技を実行可能な状態) における前記第 2 保留の数 (第 2 特図保留数 M) に対応した計数を可能な第 1 計数手段 (第 2 特図保留数記憶エリア N A B 、第 2 特図保留数記憶エリア対応領域) に第 1 数値情報を設定する第 1 数値情報設定手段 (4 1 , 5 1) と、

減算条件の成立 (第 2 特図遊技の開始) により前記第 1 計数手段に設定された前記第 1 数値情報を減算する減算手段 (4 1 , 5 1) と、

10

20

30

40

50

前記所定の遊技状態での前記第2図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出（RUSH演出、一発告知演出、バトル演出）を実行する演出表示手段（51）と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態（c時短遊技状態）を発生可能な特定条件（時短図柄停止外れ）が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第2計数手段（c時短回数カウンタ）に前記第1数値情報とは異なる第2数値情報（c時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数）を設定する第2数値情報設定手段（41, 51）と、

更新条件の成立（特図遊技の開始）により前記第2計数手段に設定された前記第2数値情報を更新する更新手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値（例えば0）になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段（41, 51）と、

10

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第2計数手段に特定数値情報（c時短遊技状態での残りの時短遊技回数）を設定するが設定された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示（c時短遊技状態での残りのc時短遊技回数表示（演出））を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第2計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第2計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段（51）と、

20

を備え、

前記特定対応表示は、前記特定演出の実行中に実行された前記第2遊技回動作のうちの前記特定条件が成立した前記第2遊技回動作を識別可能な表示であることを特徴とする遊技機。

【4297】

付記D1に係る遊技機では、特定対応表示が、特定演出の実行中に実行された第2遊技回動作のうちの特定条件が成立した第2遊技回動作を識別可能な表示である。このように、特定対応表示が、特定演出の実行中に実行された第2遊技回動作のうちの特定条件が成立した第2遊技回動作を識別可能な表示であることで、遊技者は、特定演出の実行中に実行された第2遊技回動作のうちの、どの第2遊技回動作において特定条件が成立したか否かを判断することができる。これにより、遊技者は、特定演出の終了後に特定対応表示が表示された場合に、特定演出の実行中のどの第2遊技回動作において特定条件が成立したか否かを推測して特定演出が終了した後の遊技を楽しむことができる。

30

【4298】

〔付記E1〕

所定の始動入球手段（314, 315）への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態）を発生させるか否かの判定（大当たり抽選）を実行する判定手段（41）と、

前記判定手段（41）により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄（第1特別図柄、第2特別図柄）が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段（41）と、

40

前記遊技回動作実行手段（41）により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段（41）と、

を備え、

前記所定の始動入球手段（314, 315）は、第1始動入球手段（314）と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第1始動入球手段（314）とは異なる第2始動入球手段（315）と、を含み、

前記所定の図柄は、前記第1始動入球手段（314）への遊技球の入球を契機として変

50

動表示される第1図柄（第1特別図柄）と、前記第2始動入球手段（315）への遊技球の入球を契機として変動表示される第2図柄（第2特別図柄）と、を含み、

前記遊技回動作は、前記第1図柄（第1特別図柄）が変動表示される第1遊技回動作（第1特図遊技）と、前記第2図柄（第2特別図柄）が変動表示される第2遊技回動作（第2特図遊技）と、を含み、

前記保留手段（41）による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第1遊技回動作を実行する権利の保留である第1保留（第1特図保留）と、前記第2遊技回動作を実行する権利の保留である第2保留（第2特図保留）と、を含む遊技機であって、

所定の遊技状態（RUSH演出などの継続演出を実行可能な状態、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の基づく第2特図遊技を実行可能な状態）における前記第2保留の数（第2特図保留数M）に対応した計数を可能な第1計数手段（第2特図保留数記憶エリアNAB、第2特図保留数記憶エリア対応領域）に第1数値情報を設定する第1数値情報設定手段（41, 51）と、

減算条件の成立（第2特図遊技の開始）により前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報を減算する減算手段（41, 51）と、

前記所定の遊技状態での前記第2図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出（RUSH演出、一発告知演出、バトル演出）を実行する演出表示手段（51）と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態（c時短遊技状態）を発生可能な特定条件（時短図柄停止外れ）が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第2計数手段（c時短回数カウンタ）に前記第1数値情報とは異なる第2数値情報（c時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数）を設定する第2数値情報設定手段（41, 51）と、

更新条件の成立（特図遊技の開始）により前記第2計数手段に設定された前記第2数値情報を更新する更新手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値（例えば0）になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第2計数手段に特定数値情報（c時短遊技状態での残りの時短遊技回数）を設定するが設定された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示（c時短遊技状態での残りのc時短遊技回数表示（演出））を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第2計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第2計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段（51）と、

前記特定演出が終了した場合に、前記特定演出の実行中に前記特定条件が成立していた場合と、前記特定演出の実行中に前記特定条件が成立していなかった場合とで異なる演出を実行し得る手段と、

を備えることを特徴とする遊技機。

【4299】

付記E1に係る遊技機では、特定演出が終了した場合に、特定演出の実行中に特定条件が成立していた場合と、特定演出の実行中に特定条件が成立していなかった場合とで異なる演出が実行される。このように、特定演出が終了した場合に、特定演出の実行中に特定条件が成立していた場合と、特定演出の実行中に特定条件が成立していなかった場合とで異なる演出が実行されることで、遊技者は、特定演出が終了した場合に実行される演出に基づいて、特定演出の実行中における特定条件の成立の有無を把握することができる。これにより、遊技者は、特定演出が終了した場合に、特定対応表示が表示される特定条件が成立したことを把握可能な演出が実行されることを期待しつつ、遊技の進行を楽しむことができる。

【 4 3 0 0 】

[付 記 E 2]

前記特定演出が終了した場合に実行され得る演出は、前記特定演出が終了した時点での利益状態を明示又は示唆する演出を含むことを特徴とする付記 E 1 に記載の遊技機。

【 4 3 0 1 】

付記 E 2 に係る遊技機では、特定演出が終了した場合に実行され得る演出が、特定演出が終了した時点での利益状態を明示又は示唆する演出を含む。このように、特定演出が終了した場合に実行され得る演出が、特定演出が終了した時点での利益状態を明示又は示唆する演出を含むことで、当該演出に基づいて、遊技者は、特定演出の終了後の利益状態を把握することが可能になる。その結果、特定演出の終了によって遊技者に有利な状態の終了が明示又は示唆されることで遊技者の遊技に対する興味が低下する状況においても、どのような演出が実行されるか否かを楽しみにしつつ、即ち特定演出の終了後の利益状態が遊技者に有利な状態であることを期待しつつ遊技の進行を楽しむことができる。

10

【 4 3 0 2 】

[付 記 F 1]

所定の始動入球手段（ 3 1 4 , 3 1 5 ）への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態）を発生させるか否かの判定（大当たり抽選）を実行する判定手段（ 4 1 ）と、

前記判定手段（ 4 1 ）により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄（第 1 特別図柄、第 2 特別図柄）が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段（ 4 1 ）と、

20

前記遊技回動作実行手段（ 4 1 ）により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段（ 4 1 ）と、

を備え、

前記所定の始動入球手段（ 3 1 4 , 3 1 5 ）は、第 1 始動入球手段（ 3 1 4 ）と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第 1 始動入球手段（ 3 1 4 ）とは異なる第 2 始動入球手段（ 3 1 5 ）と、を含み、

前記所定の図柄は、前記第 1 始動入球手段（ 3 1 4 ）への遊技球の入球を契機として変動表示される第 1 図柄（第 1 特別図柄）と、前記第 2 始動入球手段（ 3 1 5 ）への遊技球の入球を契機として変動表示される第 2 図柄（第 2 特別図柄）と、を含み、

30

前記遊技回動作は、前記第 1 図柄（第 1 特別図柄）が変動表示される第 1 遊技回動作（第 1 特図遊技）と、前記第 2 図柄（第 2 特別図柄）が変動表示される第 2 遊技回動作（第 2 特図遊技）と、を含み、

前記保留手段（ 4 1 ）による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第 1 遊技回動作を実行する権利の保留である第 1 保留（第 1 特図保留）と、前記第 2 遊技回動作を実行する権利の保留である第 2 保留（第 2 特図保留）と、を含む遊技機であって、

所定の遊技状態（ R U S H 演出などの継続演出を実行可能な状態、 a 時短遊技状態での第 2 入賞口 3 1 5 への遊技球の基づく第 2 特図遊技を実行可能な状態）における前記第 2 保留の数（第 2 特図保留数 M）に対応した計数を可能な第 1 計数手段（第 2 特図保留数記憶エリア N A B、第 2 特図保留数記憶エリア対応領域）に第 1 数値情報を設定する第 1 数値情報設定手段（ 4 1 , 5 1 ）と、

40

減算条件の成立（第 2 特図遊技の開始）により前記第 1 計数手段に設定された前記第 1 数値情報を減算する減算手段（ 4 1 , 5 1 ）と、

前記所定の遊技状態での前記第 2 図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出（ R U S H 演出、一発告知演出、バトル演出）を実行する演出表示手段（ 5 1 ）と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態（ c 時短遊技状態）を発生可能な特定条件（時短図柄停止外れ）が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第 2 計数手段（ c 時短回数カウンタ）に前記第 1 数値情報とは異なる第 2 数値情報（ c 時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数）を設定する第 2 数値情報設定手段（ 4 1 , 5 1 ）と、

50

更新条件の成立（特図遊技の開始）により前記第2計数手段に設定された前記第2数値情報を更新する更新手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値（例えば0）になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第2計数手段に特定数値情報（c時短遊技状態での残りの時短遊技回数）を設定するが設定された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示（c時短遊技状態での残りのc時短遊技回数表示（演出））を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第2計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第2計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段（51）と、

を備え、

前記所定の遊技状態は、前記特別遊技状態（大当たり遊技状態）を発生させ易い状態（c時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づいて第2特図遊技が実行される状態）であることを特徴とする遊技機。

【4303】

付記F1に係る遊技機では、所定の遊技状態が、特別遊技状態を発生させ易い状態である。ここで、所定の遊技状態では、特定条件が成立する場合であっても、第1数値情報が特定値になるまで特定演出が継続して実行される。そのため、所定の遊技状態が、特別遊技状態を発生させ易い状態であることで、特定演出が継続して実行される間は特別遊技状態を発生させ易い状態であることを遊技者に認識させることが可能になる。これにより、遊技者は、特別遊技状態を発生させ易い状態であるか否かを特定演出が継続するか否かに着目することで把握できるため、遊技の興趣が向上される。

【4304】

〔付記G1〕

所定の始動入球手段（314, 315）への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態）を発生させるか否かの判定（大当たり抽選）を実行する判定手段（41）と、

前記判定手段（41）により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄（第1特別図柄、第2特別図柄）が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段（41）と、

前記遊技回動作実行手段（41）により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段（41）と、

を備え、

前記所定の始動入球手段（314, 315）は、第1始動入球手段（314）と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第1始動入球手段（314）とは異なる第2始動入球手段（315）と、を含み、

前記所定の図柄は、前記第1始動入球手段（314）への遊技球の入球を契機として変動表示される第1図柄（第1特別図柄）と、前記第2始動入球手段（315）への遊技球の入球を契機として変動表示される第2図柄（第2特別図柄）と、を含み、

前記遊技回動作は、前記第1図柄（第1特別図柄）が変動表示される第1遊技回動作（第1特図遊技）と、前記第2図柄（第2特別図柄）が変動表示される第2遊技回動作（第2特図遊技）と、を含み、

前記保留手段（41）による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第1遊技回動作を実行する権利の保留である第1保留（第1特図保留）と、前記第2遊技回動作を実

10

20

30

40

50

行する権利の保留である第2保留（第2特図保留）と、を含む遊技機であって、

所定の遊技状態（RUSH演出などの継続演出を実行可能な状態、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の基づく第2特図遊技を実行可能な状態）における前記第2保留の数（第2特図保留数M）に対応した計数を可能な第1計数手段（第2特図保留数記憶エリアNAB、第2特図保留数記憶エリア対応領域）に第1数値情報を設定する第1数値情報設定手段（41, 51）と、

減算条件の成立（第2特図遊技の開始）により前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報を減算する減算手段（41, 51）と、

前記所定の遊技状態での前記第2図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出（RUSH演出、一発告知演出、バトル演出）を実行する演出表示手段（51）と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態（c時短遊技状態）を発生可能な特定条件（時短図柄停止外れ）が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第2計数手段（c時短回数カウンタ）に前記第1数値情報とは異なる第2数値情報（c時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数）を設定する第2数値情報設定手段（41, 51）と、

更新条件の成立（特図遊技の開始）により前記第2計数手段に設定された前記第2数値情報を更新する更新手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値（例えば0）になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段（41, 51）と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第2計数手段に特定数値情報（c時短遊技状態での残りの時短遊技回数）を設定するが設定された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示（c時短遊技状態での残りのc時短遊技回数表示（演出））を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第2計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第2計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段（51）と、

を備え、

前記特定演出は、前記特別遊技状態（大当たり遊技状態）を発生させ易い状態（c時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の入球に基づいて第2特図遊技が実行される状態）であることを明示又は示唆する演出であることを特徴とする遊技機。

【4305】

付記G1に係る遊技機では、特定演出が、特別遊技状態を発生させ易い状態であることを明示又は示唆する演出である。このように、特定演出が、特別遊技状態を発生させ易い状態であることを明示又は示唆する演出であることで、遊技者は、特定演出が実行されている間は特別遊技状態を発生させ易い状態であることを把握することが可能になる。これにより、遊技者は、特別遊技状態を発生させ易い状態であるか否かを特定演出が継続するか否かに着目することで把握できるため、遊技の興趣が向上される。

【4306】

〔付記H1〕

所定の始動入球手段（314, 315）への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態）を発生させるか否かの判定（大当たり抽選）を実行する判定手段（41）と、

前記判定手段（41）により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄（第1特別図柄、第2特別図柄）が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段（41）と、

前記遊技回動作実行手段（41）により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段（41）と、

を備え、

前記所定の始動入球手段（３１４，３１５）は、第１始動入球手段（３１４）と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第１始動入球手段（３１４）とは異なる第２始動入球手段（３１５）と、を含み、

前記所定の図柄は、前記第１始動入球手段（３１４）への遊技球の入球を契機として変動表示される第１図柄（第１特別図柄）と、前記第２始動入球手段（３１５）への遊技球の入球を契機として変動表示される第２図柄（第２特別図柄）と、を含み、

前記遊技回動作は、前記第１図柄（第１特別図柄）が変動表示される第１遊技回動作（第１特図遊技）と、前記第２図柄（第２特別図柄）が変動表示される第２遊技回動作（第２特図遊技）と、を含み、

10

前記保留手段（４１）による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第１遊技回動作を実行する権利の保留である第１保留（第１特図保留）と、前記第２遊技回動作を実行する権利の保留である第２保留（第２特図保留）と、を含む遊技機であって、

所定の遊技状態（ＲＵＳＨ演出などの継続演出を実行可能な状態、ａ時短遊技状態での第２入賞口３１５への遊技球の基づく第２特図遊技を実行可能な状態）における前記第２保留の数（第２特図保留数Ｍ）に対応した計数を可能な第１計数手段（第２特図保留数記憶エリアＮＡＢ、第２特図保留数記憶エリア対応領域）に第１数値情報を設定する第１数値情報設定手段（４１，５１）と、

減算条件の成立（第２特図遊技の開始）により前記第１計数手段に設定された前記第１数値情報を減算する減算手段（４１，５１）と、

20

前記所定の遊技状態での前記第２図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出（ＲＵＳＨ演出、一発告知演出、バトル演出）を実行する演出表示手段（５１）と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態（ｃ時短遊技状態）を発生可能な特定条件（時短図柄停止外れ）が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第２計数手段（ｃ時短回数カウンタ）に前記第１数値情報とは異なる第２数値情報（ｃ時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数）を設定する第２数値情報設定手段（４１，５１）と、

更新条件の成立（特図遊技の開始）により前記第２計数手段に設定された前記第２数値情報を更新する更新手段（４１，５１）と、

前記特定演出を実行中の前記第２遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第２遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第１計数手段に設定された前記第１数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値（例えば０）になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段（４１，５１）と、

30

前記特定演出を実行中の前記第２遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第２計数手段に特定数値情報（ｃ時短遊技状態での残りの時短遊技回数）を設定するが設定された前記第２計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示（ｃ時短遊技状態での残りのｃ時短遊技回数表示（演出））を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第２遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第２計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第２計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第２計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段（５１）と、

40

前記所定の遊技状態（ｃ時短遊技状態での第２入賞口３１５への遊技球の入球に基づいて第２特図遊技が実行される状態）において、前記第２保留（第２特図保留）の数を認識可能な画像（第２特図保留画像）を表示する手段と、

前記所定の遊技状態の終了後に移行され得る特定の遊技状態において、前記第１保留（第１特図保留）の数を認識可能な画像（第１特図保留画像）を表示する手段と、

を備えることを特徴とする遊技機。

【４３０７】

付記Ｈ１に係る遊技機では、所定の遊技状態において、第２保留の数を認識可能な画像

50

が表示され、所定の遊技状態の終了後に移行され得る特定の遊技状態において、第1保留の数を認識可能な画像が表示される。このように、所定の遊技状態において第2保留の数を認識可能な画像が表示されることで、第2始動入球手段に遊技球を入球させて第2遊技回を実行させることが好ましいことを遊技者に把握させることが可能になる一方、所定の遊技状態の終了後に移行され得る特定の遊技状態において第1保留の数を認識可能な画像が表示されることで、第1始動入球手段に遊技球を入球させて第1遊技回を実行させることが好ましいことを遊技者に把握させることが可能になる。そのため、所定の遊技状態から特定の遊技状態に移行される場合、第2始動入球手段に遊技球を入球させることが好ましい状態から、第1始動入球手段に遊技球を入球させることが好ましい状態に移行されたことを保留の数の表示種別に基づいて遊技者に把握させることが可能になる。これにより、遊技者は、保留の数の表示種別に基づいて、自身に有利な遊技球の打ち出し方法が、第1始動入球手段に遊技球を入球させ易い打ち出し方法か、第2始動入球手段に遊技球を入球させ易い打ち出し方法かを把握することが可能になる。その結果、遊技者は、保留の数の表示種別に着目することで、自身に不利とならないように遊技の進行を楽しむことができる。

10

【4308】

[付記I1]

所定の始動入球手段(314, 315)への遊技球の入球を契機として遊技者に有利な特別遊技状態(大当たり遊技状態)を発生させるか否かの判定(大当たり抽選)を実行する判定手段(41)と、

20

前記判定手段(41)により前記特別遊技状態を発生させるか否かの判定が実行されることを契機として所定の図柄(第1特別図柄、第2特別図柄)が変動表示される遊技回動作を実行する遊技回動作実行手段(41)と、

前記遊技回動作実行手段(41)により実行される前記遊技回動作を実行する権利を保留する保留手段(41)と、

を備え、

前記所定の始動入球手段(314, 315)は、第1始動入球手段(314)と、遊技球の入球が制限される不利状態と遊技球の入球が前記不利状態より容易となる有利状態とが切り替えられる前記第1始動入球手段(314)とは異なる第2始動入球手段(315)と、を含み、

30

前記所定の図柄は、前記第1始動入球手段(314)への遊技球の入球を契機として変動表示される第1図柄(第1特別図柄)と、前記第2始動入球手段(315)への遊技球の入球を契機として変動表示される第2図柄(第2特別図柄)と、を含み、

前記遊技回動作は、前記第1図柄(第1特別図柄)が変動表示される第1遊技回動作(第1特図遊技)と、前記第2図柄(第2特別図柄)が変動表示される第2遊技回動作(第2特図遊技)と、を含み、

前記保留手段(41)による前記遊技回動作を実行する権利の保留は、前記第1遊技回動作を実行する権利の保留である第1保留(第1特図保留)と、前記第2遊技回動作を実行する権利の保留である第2保留(第2特図保留)と、を含む遊技機であって、

所定の遊技状態(RUSH演出などの継続演出を実行可能な状態、a時短遊技状態での第2入賞口315への遊技球の基づく第2特図遊技を実行可能な状態)における前記第2保留の数(第2特図保留数M)に対応した計数を可能な第1計数手段(第2特図保留数記憶エリアNAB、第2特図保留数記憶エリア対応領域)に第1数値情報を設定する第1数値情報設定手段(41, 51)と、

40

減算条件の成立(第2特図遊技の開始)により前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報を減算する減算手段(41, 51)と、

前記所定の遊技状態での前記第2図柄の変動表示の実行中に、対応する特定演出(RUSH演出、一発告知演出、バトル演出)を実行する演出表示手段(51)と、

特定遊技を実行可能な特定遊技状態(c時短遊技状態)を発生可能な特定条件(時短図柄停止外れ)が成立した場合に、前記特定遊技に対応した計数を可能な第2計数手段(c

50

時短回数カウンタ)に前記第1数値情報とは異なる第2数値情報(c時短遊技状態での実行可能な特図遊技回数)を設定する第2数値情報設定手段(41, 51)と、

更新条件の成立(特図遊技の開始)により前記第2計数手段に設定された前記第2数値情報を更新する更新手段(41, 51)と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作において、前記特定演出の実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に、少なくとも前記第1計数手段に設定された前記第1数値情報が、前記減算条件の成立により前記減算手段によって減算されることによって特定値(例えば0)になるまで、前記所定の遊技状態中は前記特定演出を継続して実行する手段(41, 51)と、

前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記特定条件が成立した場合に前記第2計数手段に特定数値情報(c時短遊技状態での残りの時短遊技回数)を設定するが設定された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した特定対応表示(c時短遊技状態での残りのc時短遊技回数表示(演出))を実行せず、前記特定演出を実行中の前記第2遊技回動作の実行中において前記更新条件が成立した場合に前記第2計数手段の前記特定数値情報を更新するが更新された前記第2計数手段の前記特定数値情報に対応した前記特定対応表示を実行せず、前記特定演出の終了に基づいてその時点の前記第2計数手段の数値情報に対応した前記特定対応表示を実行する手段(51)と、

前記第2始動入球手段(315)が前記有利状態とされる確率が第1確率である第1状態(通常遊技状態)と、前記第2始動入球手段(315)が前記有利状態とされる確率が前記第1確率よりも高い第2確率である第2状態(a時短遊技状態を含む時短遊技状態)と、を切り替える手段と、

を備え、

前記所定の遊技状態での少なくとも一部の期間は、前記第2状態(a時短遊技状態)であることを特徴とする。

【4309】

付記I1に係る遊技機では、所定の遊技状態での少なくとも一部の期間が、第2始動入球手段が有利状態とされる確率が高い状態である。ここで、所定の遊技状態では、特定条件が成立する場合であっても、第1数値情報が特定値になるまで特定演出が継続して実行される。そのため、所定の遊技状態が、所定の遊技状態での少なくとも一部の期間が、第2始動入球手段が有利状態とされる確率が高い状態であることで、特定演出が継続して実行される間は第2始動入球手段が有利状態とされる確率が高い状態であることを遊技者に認識させることが可能になる。これにより、遊技者は、第2始動入球手段が有利状態とされる確率が高い状態であるか否かを特定演出が継続するか否かに着目することで把握できるため、遊技の興趣が向上される。

【4310】

[付記A1]

遊技領域に設けられる複数の始動入球手段(314, 315)と、

前記始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選(大当たり抽選)を行う当否抽選手段(41)と、

前記当否抽選手段(41)の抽選結果に応じて、前記遊技領域に設けられる表示手段(341)で実行する1の特定演出を複数の演出表示態様(演出パターン)の中から決定して実行する表示制御手段(51)と、

前記遊技領域に設けられ、前記表示手段(341)での前記1の特定演出の表示中に動作する可動手段(37)の1の可動態様(可動態様A~D)を複数の中から決定して実行する可動制御手段(51)と、

を備える遊技機であって、

前記可動制御手段(51)は、所定の作動条件の成立(SP発展、SP非発展、SPSP発展、SPSP非発展、16R確変昇格、16R確変非昇格)に基づいて、前記複数のの中から決定された前記1の可動態様(可動態様A~D)に対応して設定した特定情報(駆動データ1~5)に基づいて前記可動手段(37)に一連の特定動作(例えば上下動、往

10

20

30

40

50

復動作)を行わせるものであり、

前記可動手段(37)は、前記一連の特定動作において初期位置側である第1位置(待機位置、中間作動位置1)と、最も可動された位置である第2位置(作動位置)との間で可動制御され、

前記一連の特定動作は、前記可動手段を前記第1位置(作動位置)又は前記第1位置の近傍(中間作動位置1)に位置させる所定動作を複数回実行するように構成され、

前記可動制御手段(51)は、

前記特定情報に基づく前記一連の特定動作の可動制御中に前記所定動作を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立(駆動データ1に基づく全ての処理の終了、ボタン操作)しているか否かを判定する判定手段(51)と、

前記判定手段(51)に基づいて前記終了条件が成立していると判定される場合に、前記第1位置又は前記第1位置の近傍に位置する前記可動手段(37)を可動停止して前記一連の特定動作を終了する終了手段(51)と、

を備えることを特徴とする遊技機。

【4311】

付記A1に係る遊技機では、表示制御手段による1の特定演出の表示中に、可動制御手段によって、1の可動態様に対応して設定した特定情報に基づいて可動手段に対する一連の特定動作が実行される場合、初期位置側である第1位置又はその近傍に可動手段が位置される場合に判定手段によって一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かが判定される。このように、表示制御手段による1の特定演出の表示中に、可動制御手段によって、1の可動態様に対応して設定した特定情報に基づいて可動手段に対する一連の特定動作が実行される場合、初期位置側である第1位置又はその近傍に可動手段が位置される場合に判定手段によって一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かが判定されることで、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において、可動制御手段によって可動手段が初期位置側である第1位置又はその近傍に位置される毎に、判定手段によって終了条件が成立しているか否かが判定される。また、当該遊技機では、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において判定手段によって終了条件が成立していると判定される場合、終了手段によって、第1位置又はその近傍に位置する可動手段の可動が停止されて一連の特定動作が終了される。即ち、当該遊技機では、特定情報に基づく可動制御手段による可動手段の一連の特定動作において、特定情報に基づく可動手段に対する全ての可動制御を終了する前であっても、第1位置又はその近傍に可動手段が位置される毎に、終了条件が成立することを条件に、終了手段によって可動手段の可動を停止させて一連の特定動作を終了させることができる。これにより、可動手段の一連の特定動作の実行中に終了条件が成立する場合、終了条件成立後に可動手段が第1位置又はその近傍に位置された段階で、特定情報に基づく可動手段の可動を停止して一連の特定動作を終了させることができる。その結果、一連の特定動作の終了条件が成立していると判断される場合に、即座に可動手段の一連の特定動作を終了させることができるため、可動手段の終了制御を円滑に行うことができる。そのため、当該遊技機では、可動手段の一連の特定動作から次動作に円滑に移行することができるため、一連の特定動作の終了条件の成立が判断されてから、遊技者に違和感を覚えさせることなく、可動手段の一連の特定動作を終了させることができる。従って、可動手段の一連の特定動作の終了後に引き続き他の個別の動作が実行される場合、一連の特定動作から他の個別の動作に円滑に移行できるため、一連の特定動作から他の個別の動作への移行時に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、表示制御手段による1の特定演出の表示中に、可動手段が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動手段を動作させることが可能になる。

【4312】

【付記B1】

遊技領域に設けられる複数の始動入球手段(314, 315)と、

前記始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選(大当たり抽選)を行う当否抽選

10

20

30

40

50

手段（４１）と、

前記当否抽選手段（４１）の抽選結果に応じて、前記遊技領域に設けられる表示手段（３４１）で実行する１の特定演出を複数の演出表示態様（演出パターン）の中から決定して実行する表示制御手段（５１）と、

前記遊技領域に設けられ、前記表示手段（３４１）での前記１の特定演出の表示中に動作する可動手段（３７）の１の可動態様（可動態様Ａ～Ｄ）を複数のの中から決定して実行する可動制御手段（５１）と、

を備える遊技機であって、

前記可動制御手段（５１）は、所定の作動条件の成立（ＳＰ発展、ＳＰ非発展、ＳＰＳＰ発展、ＳＰＳＰ非発展、１６Ｒ確変昇格、１６Ｒ確変非昇格）に基づいて、前記複数のの中から決定された前記１の可動態様（可動態様Ａ～Ｄ）に対応して設定した特定情報（駆動データ１～５）に基づいて前記可動手段（３７）に一連の特定動作（例えば上下動、往復動作）を行わせるものであり、

前記可動手段（３７）は、前記一連の特定動作において初期位置側である第１位置（待機位置、中間作動位置１）と、最も可動された位置である第２位置（作動位置）との間で可動制御され、

前記一連の特定動作は、前記可動手段を前記第１位置（作動位置）又は前記第１位置の近傍（中間作動位置１）に位置させる所定動作を複数回実行するように構成され、

前記可動制御手段（５１）は、

前記特定情報に基づく前記一連の特定動作の可動制御中に前記所定動作を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立（駆動データ１に基づく全ての処理の終了、ボタン操作）しているか否かを判定する判定手段（５１）と、

前記判定手段（５１）に基づいて前記終了条件が成立していると判定される場合に、前記第１位置又は前記第１位置の近傍に位置する前記可動手段（３７）を可動停止して前記一連の特定動作を終了する終了手段（５１）と、

を備え、

前記一連の特定動作を実行する期間として、第１の期間（例えばボタン操作によって駆動データ１による動作が終了）と、前記第１の期間より長時間の第２の期間（例えば全ての処理の実行によって駆動データ１による動作が終了）とを含むことを特徴とする遊技機。

【４３１３】

付記Ｂ１に係る遊技機では、可動手段による一連の特定動作を実行する期間として、第１の期間と、第１の期間より長時間の第２の期間とを含む。即ち、付記Ｂ１に係る遊技機では、可動手段による一連の特定動作として動作時間が異なる少なくとも２種類の態様が設定される。このように、可動手段による一連の特定動作として動作時間が異なる少なくとも２種類の態様が設定されることで、可動手段による一連の特定動作の動作時間に応じて、遊技者に対して種々の情報（例えば表示演出）を提供することが可能になる。例えば、一連の特定動作を第１の期間より実行することで遊技者に有利な情報（例えばプレミアの表示演出）を提供し、一連の特定動作を第２の期間より実行することで遊技者に不利な情報（例えばデフォルトの表示演出）を提供することが可能になる。その結果、遊技者は、一連の特定動作が実行される期間に着目し、有利な情報が提供されることを期待しつつ遊技の進行を楽しむことができるため、遊技の興趣が向上される。

【４３１４】

〔付記Ｃ１〕

遊技領域に設けられる複数の始動入球手段（３１４，３１５）と、

前記始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選（大当たり抽選）を行う当否抽選手段（４１）と、

前記当否抽選手段（４１）の抽選結果に応じて、前記遊技領域に設けられる表示手段（３４１）で実行する１の特定演出を複数の演出表示態様（演出パターン）の中から決定して実行する表示制御手段（５１）と、

前記遊技領域に設けられ、前記表示手段（３４１）での前記１の特定演出の表示中に動作する可動手段（３７）の１の可動態様（可動態様Ａ～Ｄ）を複数の中から決定して実行する可動制御手段（５１）と、

を備える遊技機であって、

前記可動制御手段（５１）は、所定の作動条件の成立（ＳＰ発展、ＳＰ非発展、ＳＰＳＰ発展、ＳＰＳＰ非発展、１６Ｒ確変昇格、１６Ｒ確変非昇格）に基づいて、前記複数の中から決定された前記１の可動態様（可動態様Ａ～Ｄ）に対応して設定した特定情報（駆動データ１～５）に基づいて前記可動手段（３７）に一連の特定動作（例えば上下動、往復動作）を行わせるものであり、

前記可動手段（３７）は、前記一連の特定動作において初期位置側である第１位置（待機位置、中間作動位置１）と、最も可動された位置である第２位置（作動位置）との間で可動制御され、

前記一連の特定動作は、前記可動手段を前記第１位置（作動位置）又は前記第１位置の近傍（中間作動位置１）に位置させる所定動作を複数回実行するように構成され、

前記可動制御手段（５１）は、

前記特定情報に基づく前記一連の特定動作の可動制御中に前記所定動作を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立（駆動データ１に基づく全ての処理の終了、ボタン操作）しているか否かを判定する判定手段（５１）と、

前記判定手段（５１）に基づいて前記終了条件が成立していると判定される場合に、前記第１位置又は前記第１位置の近傍に位置する前記可動手段（３７）を可動停止して前記一連の特定動作を終了する終了手段（５１）と、

を備え、

前記可動手段（３７）が前記第２位置側に可動されている期間として、第１の期間（駆動データ１の処理Ｎｏ．０３、Ｎｏ．０６）と、前記第１の期間より長時間の第２の期間（駆動データ１の処理Ｎｏ．１１、Ｎｏ．１５）とを含むことを特徴とする遊技機。

【４３１５】

付記Ｃ１に係る遊技機では、可動手段が第２位置側に可動されている期間として、第１の期間と、第１の期間より長時間の第２の期間とを含む。即ち、付記Ｃ１に係る遊技機では、可動手段による一連の特定動作として可動手段が第２位置側に位置されている期間が異なる少なくとも２種類の態様が設定される。このように、可動手段による一連の特定動作として可動手段が第２位置側に位置されている期間が異なる少なくとも２種類の態様が設定されることで、可動手段が第２位置側に可動されている期間に応じて、異なる態様で可動手段を可動させることができる。これにより、一連の特定動作における可動手段の動作を多様化することが可能になる。そして、可動手段が演出目的で可動される場合には、その演出性を高めることが可能になるため、遊技の興趣が向上される。

【４３１６】

〔付記Ｄ１〕

遊技領域に設けられる複数の始動入球手段（３１４，３１５）と、

前記始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選（大当たり抽選）を行う当否抽選手段（４１）と、

前記当否抽選手段（４１）の抽選結果に応じて、前記遊技領域に設けられる表示手段（３４１）で実行する１の特定演出を複数の演出表示態様（演出パターン）の中から決定して実行する表示制御手段（５１）と、

前記遊技領域に設けられ、前記表示手段（３４１）での前記１の特定演出の表示中に動作する可動手段（３７）の１の可動態様（可動態様Ａ～Ｄ）を複数の中から決定して実行する可動制御手段（５１）と、

を備える遊技機であって、

前記可動制御手段（５１）は、所定の作動条件の成立（ＳＰ発展、ＳＰ非発展、ＳＰＳＰ発展、ＳＰＳＰ非発展、１６Ｒ確変昇格、１６Ｒ確変非昇格）に基づいて、前記複数の中から決定された前記１の可動態様（可動態様Ａ～Ｄ）に対応して設定した特定情報（駆

10

20

30

40

50

動データ 1～5) に基づいて前記可動手段 (37) に一連の特定動作 (例えば上下動、往復動作) を行わせるものであり、

前記可動手段 (37) は、前記一連の特定動作において初期位置側である第 1 位置 (待機位置、中間作動位置 1) と、最も可動された位置である第 2 位置 (作動位置) との間で可動制御され、

前記一連の特定動作は、前記可動手段を前記第 1 位置 (作動位置) 又は前記第 1 位置の近傍 (中間作動位置 1) に位置させる所定動作を複数回実行するように構成され、

前記可動制御手段 (51) は、

前記特定情報に基づく前記一連の特定動作の可動制御中に前記所定動作を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立 (駆動データ 1 に基づく全ての処理の終了、ボタン操作) しているか否かを判定する判定手段 (51) と、

前記判定手段 (51) に基づいて前記終了条件が成立していると判定される場合に、前記第 1 位置又は前記第 1 位置の近傍に位置する前記可動手段 (37) を可動停止して前記一連の特定動作を終了する終了手段 (51) と、

を備え、

前記一連の特定動作を終了した後に実行される制御として、第 1 の制御 (SP 発展、SPSP 発展、16R 確変昇格) と、前記第 1 の制御とは異なる第 2 の制御 (SP 非発展、SPSP 非発展、16R 確変非昇格) と、を実行可能であり、

前記一連の特定動作を終了した後に実行される制御が、前記第 1 の制御及び前記第 2 の制御のいずれの場合であっても、前記可動手段 (37) が前記第 1 位置側に位置された状態で開始されることを特徴とする遊技機。

【4317】

付記 D 1 に係る遊技機では、一連の特定動作を終了した後に実行される制御が、第 1 の制御、及び第 1 の制御とは異なる第 2 の制御のいずれの場合であっても、可動手段が第 1 位置側に位置された状態で開始される。一方、一連の特定動作の終了条件が成立している場合には、第 1 位置又は第 1 位置の近傍に位置する可動手段を可動停止して一連の特定動作が終了される。つまり、一連の特定動作を終了する場合の可動手段の位置と、一連の特定動作の終了後に実行される第 1 の制御及び第 2 の制御の開始位置が、いずれも第 1 位置側となる。そのため、一連の特定動作が終了した場合に、その後の可動手段に対する制御が第 1 の制御及び第 2 の制御のいずれの場合であっても、違和感なく円滑に、その後の可動手段に対する制御を開始させることができる。その結果、一連の特定動作の終了条件が成立していると終了判定される場合、その終了判定のタイミングが不定であったとしても、一連の特定動作から、第 1 の制御又は第 2 の制御によって実行される次動作に移行させることができる。

【4318】

〔付記 E 1〕

遊技領域に設けられる複数の始動入球手段 (314, 315) と、

前記始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選 (大当たり抽選) を行う当否抽選手段 (41) と、

前記当否抽選手段 (41) の抽選結果に応じて、前記遊技領域に設けられる表示手段 (341) で実行する 1 の特定演出を複数の演出表示態様 (演出パターン) の中から決定して実行する表示制御手段 (51) と、

前記遊技領域に設けられ、前記表示手段 (341) での前記 1 の特定演出の表示中に動作する可動手段 (37) の 1 の可動態様 (可動態様 A～D) を複数の中から決定して実行する可動制御手段 (51) と、

を備える遊技機であって、

前記可動制御手段 (51) は、所定の作動条件の成立 (SP 発展、SP 非発展、SPSP 発展、SPSP 非発展、16R 確変昇格、16R 確変非昇格) に基づいて、前記複数の中から決定された前記 1 の可動態様 (可動態様 A～D) に対応して設定した特定情報 (駆動データ 1～5) に基づいて前記可動手段 (37) に一連の特定動作 (例えば上下動、往

10

20

30

40

50

復動作)を行わせるものであり、

前記可動手段(37)は、前記一連の特定動作において初期位置側である第1位置(待機位置、中間作動位置1)と、最も可動された位置である第2位置(作動位置)との間で可動制御され、

前記一連の特定動作は、前記可動手段を前記第1位置(作動位置)又は前記第1位置の近傍(中間作動位置1)に位置させる所定動作を複数回実行するように構成され、

前記可動制御手段(51)は、

前記特定情報に基づく前記一連の特定動作の可動制御中に前記所定動作を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立(駆動データ1に基づく全ての処理の終了、ボタン操作)しているか否かを判定する判定手段(51)と、

前記判定手段(51)に基づいて前記終了条件が成立していると判定される場合に、前記第1位置又は前記第1位置の近傍に位置する前記可動手段(37)を可動停止して前記一連の特定動作を終了する終了手段(51)と、

を備え、

前記一連の特定動作の前記終了条件の少なくとも1つは、遊技者の所定の遊技操作(操作ボタンの操作)に基づいて成立するものであることを特徴とする遊技機。

【4319】

付記E1に係る遊技機では、可動手段の一連の特定動作の終了条件の少なくとも1つが、遊技者の所定の遊技操作に基づいて成立するものである。このように、可動手段の一連の特定動作の終了条件の少なくとも1つが、遊技者の所定の遊技操作に基づいて成立するものであることで、遊技者の所定の遊技操作によって可動手段の一連の特定動作に対する全ての制御処理が終了する前に一連の特定動作の終了条件が成立する場合であっても、初期位置側である第1位置又はその近傍に可動手段が位置される場合に判定手段によって一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かが判定される。そのため、遊技者の所定の遊技操作によって可動手段の一連の特定動作に対する全ての制御処理が終了する前に一連の特定動作の終了条件が成立する場合、終了条件の成立後に可動手段が第1位置又はその近傍に位置された段階で、一連の特定動作を終了させることができる。その結果、一連の特定動作の終了条件が成立した場合に、即座に可動手段の一連の特定動作を終了させることができるため、一連の特定動作の終了条件が成立してから、遊技者に違和感を覚えさせることなく、可動手段の一連の特定動作を終了させることができる。従って、可動手段の一連の特定動作の終了後に引き続き他の動作が実行される場合、一連の特定動作から他の動作に円滑に移行できるため、一連の特定動作から他の動作への移行時に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、表示制御手段による1の特定演出の表示中に、可動手段が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動手段を動作させることが可能になる。

【4320】

[付記F1]

遊技領域に設けられる複数の始動入球手段(314, 315)と、

前記始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選(大当たり抽選)を行う当否抽選手段(41)と、

前記当否抽選手段(41)の抽選結果に応じて、前記遊技領域に設けられる表示手段(341)で実行する1の特定演出を複数の演出表示態様(演出パターン)の中から決定して実行する表示制御手段(51)と、

前記遊技領域に設けられ、前記表示手段(341)での前記1の特定演出の表示中に動作する可動手段(37)の1の可動態様(可動態様A~D)を複数の中から決定して実行する可動制御手段(51)と、

を備える遊技機であって、

前記可動制御手段(51)は、所定の作動条件の成立(SP発展、SP非発展、SPSP発展、SPSP非発展、16R確変昇格、16R確変非昇格)に基づいて、前記複数のの中から決定された前記1の可動態様(可動態様A~D)に対応して設定した特定情報(駆

10

20

30

40

50

動データ 1～5) に基づいて前記可動手段 (37) に一連の特定動作 (例えば上下動、往復動作) を行わせるものであり、

前記可動手段 (37) は、前記一連の特定動作において初期位置側である第 1 位置 (待機位置、中間作動位置 1) と、最も可動された位置である第 2 位置 (作動位置) との間で可動制御され、

前記一連の特定動作は、前記可動手段を前記第 1 位置 (作動位置) 又は前記第 1 位置の近傍 (中間作動位置 1) に位置させる所定動作を複数回実行するように構成され、

前記可動制御手段 (51) は、

前記特定情報に基づく前記一連の特定動作の可動制御中に前記所定動作を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立 (駆動データ 1 に基づく全ての処理の終了、ボタン操作) しているか否かを判定する判定手段 (51) と、

前記判定手段 (51) に基づいて前記終了条件が成立していると判定される場合に、前記第 1 位置又は前記第 1 位置の近傍に位置する前記可動手段 (37) を可動停止して前記一連の特定動作を終了する終了手段 (51) と、

を備え、

前記一連の特定動作を終了した後に実行される制御は、前記可動手段 (37) とは異なる制御対象 (図柄表示部 341、表示演出) を含むことを特徴とする遊技機。

【4321】

付記 F 1 に係る遊技機では、可動手段の一連の特定動作を終了した後に実行される制御が、可動手段とは異なる制御対象を含む。このように、可動手段の一連の特定動作を終了した後に実行される制御が、可動手段とは異なる制御対象を含むことで、可動手段の一連の特定動作の終了後に、可動手段とは異なる制御対象において可動手段によって付与される情報を改めて付与することが可能になる。これにより、遊技者が可動手段の動作を見逃した場合や、可動手段の動作によって付与される内容を理解していない場合であっても、可動手段とは異なる制御対象において遊技者に情報を改めて付与することが可能になる。また、付記 F 1 に係る遊技機では、可動手段の一連の特定動作を終了した後に実行される制御が、可動手段とは異なる制御対象を含むことで、可動手段の動作に応じて、後に実行される演出を明示又は示唆することも可能になる。これにより、遊技者は、可動手段の動作に着目し、遊技者に有利な演出が実行されることが明示又は示唆されることを期待しつつ遊技の進行を楽しむことができるため、遊技の興趣が向上される。

【4322】

[付記 G 1]

遊技領域に設けられる複数の始動入球手段 (314, 315) と、

前記始動入球手段に遊技球が入球した場合に当否抽選 (大当たり抽選) を行う当否抽選手段 (41) と、

前記当否抽選手段 (41) の抽選結果に応じて、前記遊技領域に設けられる表示手段 (341) で実行する 1 の特定演出を複数の演出表示態様 (演出パターン) の中から決定して実行する表示制御手段 (51) と、

前記遊技領域に設けられ、前記表示手段 (341) での前記 1 の特定演出の表示中に動作する可動手段 (37) の 1 の可動態様 (可動態様 A～D) を複数の中から決定して実行する可動制御手段 (51) と、

を備える遊技機であって、

前記可動制御手段 (51) は、所定の作動条件の成立 (SP 発展、SP 非発展、SPSP 発展、SPSP 非発展、16R 確変昇格、16R 確変非昇格) に基づいて、前記複数の中から決定された前記 1 の可動態様 (可動態様 A～D) に対応して設定した特定情報 (駆動データ 1～5) に基づいて前記可動手段 (37) に一連の特定動作 (例えば上下動、往復動作) を行わせるものであり、

前記可動手段 (37) は、前記一連の特定動作において初期位置側である第 1 位置 (待機位置、中間作動位置 1) と、最も可動された位置である第 2 位置 (作動位置) との間で可動制御され、

10

20

30

40

50

前記一連の特定動作は、前記可動手段を前記第 1 位置（作動位置）又は前記第 1 位置の近傍（中間作動位置 1）に位置させる所定動作を複数回実行するように構成され、

前記可動制御手段（51）は、

前記特定情報に基づく前記一連の特定動作の可動制御中に前記所定動作を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立（駆動データ 1 に基づく全ての処理の終了、ボタン操作）しているか否かを判定する判定手段（51）と、

前記判定手段（51）に基づいて前記終了条件が成立していると判定される場合に、前記第 1 位置又は前記第 1 位置の近傍に位置する前記可動手段（37）を可動停止して前記一連の特定動作を終了する終了手段（51）と、

を備え、

前記可動制御手段（51）は、前記一連の特定動作において前記可動手段（37）の前記第 2 位置側に可動させる制御を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かを判定しないことを特徴とする遊技機。

【4323】

付記 G 1 に係る遊技機では、可動手段の一連の特定動作において可動手段の第 2 位置側に可動させる制御を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かを判定しない。このように、可動手段の一連の特定動作において可動手段の第 2 位置側に可動させる制御を実行した場合に、当該一連の特定動作の終了条件が成立しているか否かを判定しないことで、可動手段が第 2 位置側に可動させたときに終了条件が成立していると判断されることが防止される。そのため、可動手段が第 2 位置側に可動されているときに、可動手段の一連の特定動作が終了されることが防止されるため、一連の特定動作から他の動作への移行時に遊技者が違和感を覚えることが防止される。これにより、表示制御手段による 1 の特定演出の表示中に、可動手段が演出目的で動作される場合であっても、その演出効果を損なうことなく可動手段を動作させることが可能になる。

【4324】

【付記 A 1】

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段（32）を備え、

第 1 方向に遊技球を発射して行う第 1 の遊技（左打ちでの遊技）と、前記第 1 方向とは異なる第 2 方向に遊技球を発射して行う第 2 の遊技（右打ちでの遊技）と、を実行可能であり、

図柄（特図、飾り図柄）の変動遊技（特図遊技）を実行可能な表示手段（362、363、341）と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段（314、315）と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段（315b）と、

前記変動遊技の結果が所定結果（大当たり）である場合に利益遊技として特別遊技（特図大当たり遊技）を実行する特別遊技実行手段（41）と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数（例えば 1000 回）になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態（b 時短遊技状態）を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第 2 方向に発射した遊技球が特定の流路（392）を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第 1 入球手段（37）と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段（382）と、特定入球領域（383）とを備える第 2 入球手段（38）と、

前記第 1 入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第 2 入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段（41）と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技（V 入賞大当たり遊技）を実行する特定期間遊技実行手段（41）と、

10

20

30

40

50

を備え、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第1制御状態（例えばb時短遊技状態の終了後の通常遊技状態）である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第1制御状態から前記特定遊技状態に対応した第2制御状態（b時短遊技状態）に前記制御状態を変更することを特徴とする遊技機。

【4325】

付記A1に係る遊技機では、図柄の変動遊技の始動条件の成立を補助する補助手段の制御状態が特定遊技状態に対応していない第1制御状態である所定遊技状態において、所定期間の開閉手段の開放中に特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて利益遊技としての特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技が終了した場合に、第1制御状態から特定遊技状態に対応した第2制御状態に制御状態が変更される。即ち、本発明では、補助手段の制御状態が特定遊技状態に対応していない第1制御状態である所定遊技状態にであっても、開閉手段の開放中に特定入球領域に遊技球を入球させて所定の特定期間遊技実行させることで、補助手段に対する制御状態が第2制御状態である特定遊技状態を発生させることが可能である。これにより、特定遊技状態が終了した場合であっても再び特定遊技状態を発生させることが可能になるため、特定遊技状態が終了して特定遊技状態が発生しないことを理由に遊技機が放置されることが防止され、当該遊技機の稼働率の低下が抑制される。

【4326】

〔付記B1〕

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段（32）を備え、

第1方向に遊技球を発射して行う第1の遊技（左打ちでの遊技）と、前記第1方向とは異なる第2方向に遊技球を発射して行う第2の遊技（右打ちでの遊技）と、を実行可能であり、

図柄（特図、飾り図柄）の変動遊技（特図遊技）を実行可能な表示手段（362、363、341）と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段（314、315）と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段（315b）と、

前記変動遊技の結果が所定結果（大当たり）である場合に利益遊技として特別遊技（特図大当たり遊技）を実行する特別遊技実行手段（41）と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数（例えば1000回）になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態（b時短遊技状態）を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第2方向に発射した遊技球が特定の流路（392）を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第1入球手段（37）と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段（382）と、特定入球領域（383）とを備える第2入球手段（38）と、

前記第1入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第2入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段（41）と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技（V入賞大当たり遊技）を実行する特定期間遊技実行手段（41）と、

を備え、

当該遊技機は、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第1制御状態（例えばb時短遊技状態の終了後の通常遊技状態）である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第1制御状態から前記特定遊技状態に対応した第2制御状態（b時短遊技状態）に前記制御状態を変更し、

10

20

30

40

50

遊技機外部に遊技状態に応じた信号を出力可能な信号出力手段（１０１）を備え、

前記信号出力手段は、前記利益遊技として前記特別遊技を実行する場合は特別信号（大当たり信号１）を出力し、前記利益遊技として前記特定期間遊技を実行する場合は前記特別信号を出力しないことを特徴とする遊技機。

【４３２７】

付記Ｂ１に係る遊技機では、遊技機外部に遊技状態に応じた信号を出力可能な信号出力手段が、利益遊技として特別遊技を実行する場合は特別信号を出力し、利益遊技として特定期間遊技を実行する場合は特別信号を出力しない。このように、遊技機外部に遊技状態に応じた信号を出力可能な信号出力手段が、利益遊技として特別遊技を実行する場合は特別信号を出力し、利益遊技として特定期間遊技を実行する場合は特別信号を出力しないこと
10
で、遊技場のホールコンピュータは、特別信号に基づいて、特別遊技が実行されていること、及び特別遊技が実行された回数を把握することが可能になると共に、特定期間遊技を実行する場合は特別信号が出力されないことで、特別遊技が実行された回数に特定期間遊技の加算されることが防止される。これにより、遊技機の上部などに設置される、いわゆるデータ表示器において、特定期間遊技の実行回数を反映しない特別遊技の正確な実行回数を表示することが可能になる。

【４３２８】

〔付記Ｃ１〕

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段（３２）を備え、
20

第１方向に遊技球を発射して行う第１の遊技（左打ちでの遊技）と、前記第１方向とは異なる第２方向に遊技球を発射して行う第２の遊技（右打ちでの遊技）と、を実行可能であり、

図柄（特図、飾り図柄）の変動遊技（特図遊技）を実行可能な表示手段（３６２、３６３、３４１）と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段（３１４、３１５）と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段（３１５ｂ）と、

前記変動遊技の結果が所定結果（大当たり）である場合に利益遊技として特別遊技（特図大当たり遊技）を実行する特別遊技実行手段（４１）と、
30

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数（例えば１０００回）になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態（ｂ時短遊技状態）を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第２方向に発射した遊技球が特定の流路（３９２）を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第１入球手段（３７）と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段（３８２）と、特定入球領域（３８３）とを備える第２入球手段（３８）と、

前記第１入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第２入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段（４１）と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技（Ｖ入賞大当たり遊技）を実行する特定期間遊技実行手段（４１）と、
40

を備え、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第１制御状態（例えばｂ時短遊技状態の終了後の通常遊技状態）である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第１制御状態から前記特定遊技状態に対応した第２制御状態（ｂ時短遊技状態）に前記制御状態を変更し、

前記特定期間遊技の実行を終了した場合に、当該特定期間遊技の実行終了に対応した遊技状態に対する遊技状態情報を前記表示手段で表示する手段を備えることを特徴とする遊技機。
50

【 4 3 2 9 】

付記 C 1 に係る遊技機では、第 2 入球手段の開閉手段の開放中に特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて実行される特定期間遊技の実行を終了した場合に、当該特定期間遊技の実行終了に対応した遊技状態に対する遊技状態情報が、図柄の変動遊技を実行可能な表示手段で表示される。即ち、付記 C 1 に係る遊技機では、特定期間遊技の実行が終了した場合には、図柄の変動遊技の始動条件の成立を補助する補助手段の制御状態が特定遊技状態に対応した第 2 制御状態であること示す遊技状態情報が、図柄の変動遊技を実行可能な表示手段で表示される。これにより、遊技者が者は、特定遊技状態に対応した第 2 制御状態であること、即ち特別遊技を実行することなく所定の変動遊技の実行回数が所定回数になった場合に特定遊技状態が発生可能な状態であることを把握することができる。

10

【 4 3 3 0 】

[付記 D 1]

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段 (3 2) を備え、

第 1 方向に遊技球を発射して行う第 1 の遊技 (左打ちでの遊技) と、前記第 1 方向とは異なる第 2 方向に遊技球を発射して行う第 2 の遊技 (右打ちでの遊技) と、を実行可能であり、

図柄 (特図、飾り図柄) の変動遊技 (特図遊技) を実行可能な表示手段 (3 6 2、3 6 3、3 4 1) と、

前記変動遊技を実行するための始動条件が発生可能な複数の始動手段 (3 1 4、3 1 5) と、

20

前記始動条件の成立を補助する補助手段 (3 1 5 b) と、

前記変動遊技の結果が所定結果 (大当たり) である場合に利益遊技として特別遊技 (特図大当たり遊技) を実行する特別遊技実行手段 (4 1) と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数 (例えば 1 0 0 0 回) になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態 (b 時短遊技状態) を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第 2 方向に発射した遊技球が特定の流路 (3 9 2) を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第 1 入球手段 (3 7) と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段 (3 8 2) と、特定入球領域 (3 8 3) とを備える第 2 入球手段 (3 8) と、

30

前記第 1 入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第 2 入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段 (4 1) と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技 (V 入賞大当たり遊技) を実行する特定期間遊技実行手段 (4 1) と、

を備え、

当該遊技機は、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第 1 制御状態 (例えば b 時短遊技状態の終了後の通常遊技状態) である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第 1 制御状態から前記特定遊技状態に対応した第 2 制御状態 (b 時短遊技状態) に前記制御状態を変更し、

40

遊技機外部に遊技状態に応じた信号を出力可能な信号出力手段 (1 0 1) を備え、

前記信号出力手段は、前記利益遊技として前記特定期間遊技を実行する場合は、識別可能な識別信号を出力することを特徴とする遊技機。

【 4 3 3 1 】

付記 D 1 に係る遊技機では、遊技機の外部に遊技状態に応じた信号を出力可能な信号出力手段が、利益遊技として特定期間遊技を実行する場合は、識別可能な識別信号を出力する。このように、遊技機の外部に遊技状態に応じた信号を出力可能な信号出力手段が、特定期間遊技を実行する場合は、識別可能な識別信号 (V 入賞大当たり遊技信号) を出力す

50

ることで、遊技場のホールコンピュータは、識別信号に基づいて、特定期間遊技が実行されること、及び特定期間遊技の実行回数を把握することができる。

【４３３２】

〔付記Ｅ１〕

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段（３２）を備え、

第１方向に遊技球を発射して行う第１の遊技（左打ちでの遊技）と、前記第１方向とは異なる第２方向に遊技球を発射して行う第２の遊技（右打ちでの遊技）と、を実行可能であり、

図柄（特図、飾り図柄）の変動遊技（特図遊技）を実行可能な表示手段（３６２、３６３、３４１）と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段（３１４、３１５）と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段（３１５ｂ）と、

前記変動遊技の結果が所定結果（大当たり）である場合に利益遊技として特別遊技（特図大当たり遊技）を実行する特別遊技実行手段（４１）と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数（例えば１０００回）になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態（ｂ時短遊技状態）を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第２方向に発射した遊技球が特定の流路（３９２）を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第１入球手段（３７）と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段（３８２）と、特定入球領域（３８３）とを備える第２入球手段（３８）と、

前記第１入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第２入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段（４１）と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技（Ｖ入賞大当たり遊技）を実行する特定期間遊技実行手段（４１）と、

を備え、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第１制御状態（例えばｂ時短遊技状態の終了後の通常遊技状態）である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第１制御状態から前記特定遊技状態に対応した第２制御状態（ｂ時短遊技状態）に前記制御状態を変更し、

前記特別遊技において特定の開閉状態となる入球手段として、前記第２入球手段とは異なる第３入球手段（３１６）を備えることを特徴とする遊技機。

【４３３３】

付記Ｅ１に係る遊技機では、利益遊技としての特別遊技において特定の開閉状態となる入球手段として、第２入球手段とは異なる第３入球手段を備える。ここで、第２入球手段は、特定入球領域を備えるものであり、この特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて利益遊技としての特定期間遊技が実行される契機を与える。即ち、付記Ｅ１に係る遊技機では、特別遊技において開閉される第３入球手段が、特定期間遊技が実行される契機を与える第２入球手段とは異なるものとして設けられる。そのため、特別遊技によって特定期間遊技とは異なる遊技利益を遊技者に付与することが可能になる。また、第３入球手段が第２入球手段とは異なることで、特別遊技と特定期間遊技とを独立して実行することが可能であるため、特別遊技と特定期間遊技とを同時に実行し、これとは逆に特別遊技と特定期間遊技とを同時に実行しない遊技性を実現することが可能になる。例えば、特定期間遊技の実行中での特別遊技の実行を可能とする一方で、特別遊技の実行中での特定期間遊技の実行を不能とすることができる。

【４３３４】

〔付記Ｆ１〕

10

20

30

40

50

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段（３２）を備え、

第１方向に遊技球を発射して行う第１の遊技（左打ちでの遊技）と、前記第１方向とは異なる第２方向に遊技球を発射して行う第２の遊技（右打ちでの遊技）と、を実行可能であり、

図柄（特図、飾り図柄）の変動遊技（特図遊技）を実行可能な表示手段（３６２、３６３、３４１）と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段（３１４、３１５）と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段（３１５ｂ）と、

前記変動遊技の結果が所定結果（大当たり）である場合に利益遊技として特別遊技（特図大当たり遊技）を実行する特別遊技実行手段（４１）と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数（例えば１０００回）になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態（ｂ時短遊技状態）を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第２方向に発射した遊技球が特定の流路（３９２）を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第１入球手段（３７）と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段（３８２）と、特定入球領域（３８３）とを備える第２入球手段（３８）と、

前記第１入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第２入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段（４１）と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技（Ｖ入賞大当たり遊技）を実行する特定期間遊技実行手段（４１）と、

を備え、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第１制御状態（例えばｂ時短遊技状態の終了後の通常遊技状態）である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第１制御状態から前記特定遊技状態に対応した第２制御状態（ｂ時短遊技状態）に前記制御状態を変更し、

前記所定遊技状態において、前記特定の流路に向けて特定球数の遊技球を発射した場合に、遊技者が得ることの可能な利益遊技球数が前記特定球数よりも少なくなるように構成されていることを特徴とする遊技機。

【４３３５】

付記Ｆ１に係る遊技機では、所定遊技状態において、第１入球手段に遊技球が入球可能な特定の流路に向けて特定球数の遊技球を発射した場合に、遊技者が得ることの可能な利益遊技球数が特定球数よりも少なくなるように構成されている。ここで、補助手段の制御状態が特定遊技状態に対応していない第１制御状態から特定遊技状態に対応した第２制御状態に変更されるのは、利益遊技としての特定期間遊技が終了した場合であり、この特定期間遊技は、特定の流路を流下した遊技球が第１入球手段に遊技球が入球することに基づいて第２入球手段の開閉手段が開放されることで、開閉手段の開放中に第２入球手段の特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて実行される。そのため、補助手段の制御状態が第１制御状態から第２制御状態に変更させるために特定期間遊技を実行させるためには、特定の流路に向けて遊技球を発射して第１入球手段に遊技球を入球させる必要があるが、遊技者の都合によって補助手段の制御状態を第１制御状態から第２制御状態に変更する場合に発射した遊技球の数よりも獲得できる遊技球の数が増えると、特定の流路に向けて遊技球を発射することによって遊技者の持ち球が増加することになり、いわゆる攻略打ちを誘発してしまう。そのため、付記Ｆ１に係る遊技機のように、所定遊技状態において、第１入球手段に遊技球が入球可能な特定の流路に向けて特定球数の遊技球を発射した場合に、遊技者が得ることの可能な利益遊技球数が特定球数よりも少なくなるように構成されていることで、補助手段の制御状態を第１制御状態から第２制御状態に変更する場合

10

20

30

40

50

に発射した遊技球の数よりも獲得できる遊技球の数を少なくすることができるため、いわゆる攻略打ちの誘発が防止される。

【 4 3 3 6 】

[付記 G 1]

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段（ 3 2 ）を備え、

第 1 方向に遊技球を発射して行う第 1 の遊技（左打ちでの遊技）と、前記第 1 方向とは異なる第 2 方向に遊技球を発射して行う第 2 の遊技（右打ちでの遊技）と、を実行可能であり、

図柄（特図、飾り図柄）の変動遊技（特図遊技）を実行可能な表示手段（ 3 6 2、 3 6 3、 3 4 1 ）と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段（ 3 1 4、 3 1 5 ）と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段（ 3 1 5 b ）と、

前記変動遊技の結果が所定結果（大当たり）である場合に利益遊技として特別遊技（特図大当たり遊技）を実行する特別遊技実行手段（ 4 1 ）と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数（例えば 1 0 0 0 回）になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態（ b 時短遊技状態）を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第 2 方向に発射した遊技球が特定の流路（ 3 9 2 ）を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第 1 入球手段（ 3 7 ）と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段（ 3 8 2 ）と、特定入球領域（ 3 8 3 ）とを備える第 2 入球手段（ 3 8 ）と、

前記第 1 入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第 2 入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段（ 4 1 ）と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技（ V 入賞大当たり遊技）を実行する特定期間遊技実行手段（ 4 1 ）と、

を備え、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第 1 制御状態（例えば b 時短遊技状態の終了後の通常遊技状態）である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第 1 制御状態から前記特定遊技状態に対応した第 2 制御状態（ b 時短遊技状態）に前記制御状態を変更し、

前記利益遊技としての前記特別遊技の実行中に前記第 1 入球手段に所定の遊技球が入球した場合に、当該入球に対して前記第 2 入球手段の前記開閉手段を前記所定期間開放させることがないように設定する手段を備えることを特徴とする遊技機。

【 4 3 3 7 】

付記 G 1 に係る遊技機では、利益遊技としての特別遊技の実行中に第 1 入球手段に所定の遊技球が入球した場合に、当該入球に対して第 2 入球手段の開閉手段を所定期間開放させることがないように設定される。このように、利益遊技としての特別遊技の実行中に第 1 入球手段に所定の遊技球が入球した場合に、当該入球に対して第 2 入球手段の開閉手段を所定期間開放させることがないように設定されることで、特別遊技の実行中に第 2 入球手段の特定入球領域に遊技球が入球されることがないため、特別遊技の実行中に利益遊技としての特定期間遊技が実行されることはない。これにより、特別遊技の実行中に特定期間遊技が終了することがないため、特別遊技の実行中に補助手段の制御状態が第 1 制御状態から第 2 制御状態に変更されることが防止される。

【 4 3 3 8 】

[付記 H 1]

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段（ 3 2 ）を備え、

第 1 方向に遊技球を発射して行う第 1 の遊技（左打ちでの遊技）と、前記第 1 方向とは異なる第 2 方向に遊技球を発射して行う第 2 の遊技（右打ちでの遊技）と、を実行可能であり、

図柄（特図、飾り図柄）の変動遊技（特図遊技）を実行可能な表示手段（362、363、341）と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段（314、315）と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段（315b）と、

前記変動遊技の結果が所定結果（大当たり）である場合に利益遊技として特別遊技（特図大当たり遊技）を実行する特別遊技実行手段（41）と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数（例えば 1000 回）になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態（b 時短遊技状態）を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第 2 方向に発射した遊技球が特定の流路（392）を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第 1 入球手段（37）と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段（382）と、特定入球領域（383）とを備える第 2 入球手段（38）と、

前記第 1 入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第 2 入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段（41）と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技（V 入賞大当たり遊技）を実行する特定期間遊技実行手段（41）と、

を備え、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第 1 制御状態（例えば b 時短遊技状態の終了後の通常遊技状態）である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第 1 制御状態から前記特定遊技状態に対応した第 2 制御状態（b 時短遊技状態）に前記制御状態を変更し、

前記開放実行手段は、前記始動条件の成立に基づいて前記変動遊技を実行している間における前記第 1 入球手段への遊技球の入球に基づいて、前記第 2 入球手段の前記開閉手段を前記所定期間開放させることが可能であることを特徴とする遊技機。

【4339】

付記 H 1 に係る遊技機では、始動条件の成立に基づいて変動遊技を実行している間における第 1 入球手段への遊技球の入球に基づいて、第 2 入球手段の開閉手段を所定期間開放させることが可能である。このように、始動条件の成立に基づいて変動遊技を実行している間における第 1 入球手段への遊技球の入球に基づいて、第 2 入球手段の開閉手段を所定期間開放させることが可能であることで、変動遊技の実行中に第 2 入球手段の特定入球領域に遊技球が入球され得るため、変動遊技の実行中に利益遊技としての特定期間遊技が実行され得る。これにより、変動遊技の実行中に特定期間遊技が終了することがあるため、変動遊技の実行中に補助手段の制御状態が第 1 制御状態から第 2 制御状態に変更することが可能になる。

【4340】

[付記 I 1]

発射力を遊技者が調整することで遊技領域に遊技球を発射可能な発射手段（32）を備え、

第 1 方向に遊技球を発射して行う第 1 の遊技（左打ちでの遊技）と、前記第 1 方向とは異なる第 2 方向に遊技球を発射して行う第 2 の遊技（右打ちでの遊技）と、を実行可能であり、

図柄（特図、飾り図柄）の変動遊技（特図遊技）を実行可能な表示手段（362、363、341）と、

前記変動遊技を実行するための始動条件を発生可能な複数の始動手段（314、315

10

20

30

40

50

）と、

前記始動条件の成立を補助する補助手段（３１５ｂ）と、

前記変動遊技の結果が所定結果（大当たり）である場合に利益遊技として特別遊技（特図大当たり遊技）を実行する特別遊技実行手段（４１）と、

前記特別遊技を実行することなく所定の前記変動遊技の実行回数が所定回数（例えば１０００回）になった場合に前記補助手段に対する制御状態を切り替えて特定遊技状態（ｂ時短遊技状態）を発生可能な遊技機であって、

所定の前記発射力で前記第２方向に発射した遊技球が特定の流路（３９２）を流下した場合に到達可能な遊技領域に設けられる第１入球手段（３７）と、

開状態と閉状態とを切り替え可能な開閉手段（３８２）と、特定入球領域（３８３）とを備える第２入球手段（３８）と、

前記第１入球手段に遊技球が入球することに基づいて前記第２入球手段の前記開閉手段を所定期間開放させる開放実行手段（４１）と、

前記所定期間の前記開閉手段の開放中に前記特定入球領域に遊技球が入球することに基づいて前記利益遊技として前記特別遊技とは異なる特定期間の特定期間遊技（Ｖ入賞大当たり遊技）を実行する特定期間遊技実行手段（４１）と、

を備え、

当該遊技機は、

前記補助手段の前記制御状態が前記特定遊技状態に対応していない第１制御状態（例えばｂ時短遊技状態の終了後の通常遊技状態）である所定遊技状態において、所定の前記特定期間遊技が終了した場合に、前記第１制御状態から前記特定遊技状態に対応した第２制御状態（ｂ時短遊技状態）に前記制御状態を変更し、

前記変動遊技の結果が前記所定結果となって前記利益遊技としての前記特別遊技を実行する確率として、第１の確率と、前記第１の確率よりも高確率な第２の確率と、を備え、

前記確率が前記特定期間遊技の実行前において前記第１の確率及び前記第２の確率の一方の確率である場合に、前記確率は、当該特定期間遊技の実行に基づいて、前記一方の確率から、前記第１の確率及び前記第２の確率の前記一方の確率とは異なる他方の確率に変更されることがないように構成されていることを特徴とする遊技機。

【４３４１】

付記Ｉ１に係る遊技機では、特定期間遊技の実行前における変動遊技の結果が所定結果となって利益遊技としての特別遊技が実行される確率が、第１の確率及び第１の確率よりも高確率な第２の確率のうちの一方の確率である場合に、特定期間遊技の実行に基づいて、当該一方の確率から、第１の確率及び第２の確率の一方の確率とは異なる他方の確率に変更されることがないように構成されている。即ち、付記Ｉ１に係る遊技機では、特定期間遊技が実行される前と後とで変動遊技の結果が所定結果となる確率が同一である。このように、特定期間遊技が実行される前と後とで変動遊技の結果が所定結果となる確率が同一であることで、当該確率が、特定期間遊技の終了後に遊技者に有利な第２の確率から、遊技者に不利な低確率の第１の確率に変更されることが防止されるため、特定期間遊技の実行によって遊技者が不利益を被ることが防止される。

【４３４２】

〔付記Ａ１〕

遊技球を発射可能な発射手段（３２）と、

遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域（３１４，３１５）と、

前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄（普図、特図）を変動表示する表示手段（３６２、３６３、３４１）と、

前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と（３１６）、

を備えた遊技機であって、

前記変動表示における予め定められた更新条件（特図遊技の実行）の成立に基づいて特定情報（天井発動残回数カウンタ）を更新する更新手段（４１）と、

特定の遊技状態（低確率モード）において、前記特定情報が所定の更新状態（天井発動

10

20

30

40

50

残回数カウンタ＝０）となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態（ｂ時短遊技状態）を発生させる利益状態発生手段（４１）と、

第１報知態様（得表示）又は前記第１報知態様とは異なる第２報知態様（損表示）で所定の報知を行う報知制御手段（５１）と、

前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定（特図大当たり抽選）を実行する判定手段（４１）と、

前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件（小当たり遊技でのＶ入賞）が成立した場合に特定の利益（大当たり遊技）を発生させる利益発生手段（４１）と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミング（損益分岐点）までは前記第１報知態様により前記特定判定結果となったことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第２報知態様に切り替える切替手段（５１）を備えたことを特徴とする遊技機。

【４３４３】

付記Ａ１に係る遊技機では、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、変動表示における予め定められた更新条件の成立に基づいて更新手段によって更新される特定情報が、所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングまでは第１報知態様により特定判定結果となったことが報知され、所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様が第２報知態様に切り替えられる。このように、所定の判定の結果が特定判定結果となったことが、所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングまでは第１報知態様により報知され、所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様が第２報知態様に切り替えられることで、所定の判定の結果が特定判定結果となったタイミングが、所定タイミングに到達する前であるか、特定タイミングに到達して以降であるかを判断することができる。これにより、遊技者は、特定判定結果となったタイミングが判断可能な報知態様の種別に基づいて、特定判定結果となったことに基づく特定の利益を受けることが有利であるか否か、即ち所定の遊技条件を成立させるか否かを判断することができる。その結果、遊技者は、特定判定結果となったタイミングが判断可能な報知態様の種別に基づいて、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特
定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるかを選択することができるため、自身によって有利であると判断されるタイミングで特定の利益を受ける可能になる。従って、遊技者は、特定の利益を受けることが不利であると判断される場合に特定の利益を受けることを回避できるため、自身にとって不利であると判断されるタイミングで特定の利益を受けてしまうことに起因する遊技に対する興味や興趣の低下が防止される。

【４３４４】

〔付記Ｂ１〕

遊技球を発射可能な発射手段（３２）と、

遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域（３１４、３１５）と、

前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄（普図、特図）を変動表示する表示手段（３６２、３６３、３４１）と、

前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と（３１６）、
を備えた遊技機であって、

前記変動表示における予め定められた更新条件（特図遊技の実行）の成立に基づいて特定情報（天井発動残回数カウンタ）を更新する更新手段（４１）と、

特定の遊技状態（低確率モード）において、前記特定情報が所定の更新状態（天井発動残回数カウンタ＝０）となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態（ｂ時短

10

20

30

40

50

遊技状態)を発生させる利益状態発生手段(41)と、

第1報知態様(得表示)又は前記第1報知態様とは異なる第2報知態様(損表示)で所定の報知を行う報知制御手段(51)と、

前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定(特図大当たり抽選)を実行する判定手段(41)と、

前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件(小当たり遊技でのV入賞)が成立した場合に特定の利益(大当たり遊技)を発生させる利益発生手段(41)と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミング(損益分岐点)までは前記第1報知態様により前記特定判定結果となったことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第2報知態様に切り替える切替手段(51)を備え、

前記所定タイミングと前記特定タイミングとの間に第3報知態様で報知する手段を備えたことを特徴とする遊技機。

【4345】

付記B1に係る遊技機では、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、変動表示における予め定められた更新条件の成立に基づいて更新手段によって更新される特定情報が、所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングまでは第1報知態様により特定判定結果となったことが報知され、所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様が第2報知態様に切り替えられ、所定タイミングと特定タイミングとの間で第3報知態様により報知される。このように、所定タイミングまでは第1報知態様が表示され、所定タイミングと特定タイミングとの間で第3報知態様により報知され、特定タイミングにおいて第2報知態様に切り替えられることで、今回の特定判定結果となったことに対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるか否か3種類の期間で判断することが可能になる。具体的には、第1報知態様の報知タイミング(所定タイミングまでの期間)、第3報知態様の報知タイミング(所定タイミングと特定タイミングとの間の期間)、第2報知態様の報知タイミング(特定タイミング以降の期間)において、特定判定結果となったタイミングが判断可能な報知態様の種別に基づいて、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるか、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるかを判断することができる。

【4346】

ここで、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受ける場合と、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受ける場合とで、どちらか遊技者にとって有利であるかは、特定判定結果となるタイミングによって異なるが、どちらが有利であるかのボーダーラインは、画一的に決定されるものではなく、遊技状況によっても変化し得る。例えば、遊技領域における遊技球の発射強度の相違に基づく始動入球領域への入球率の相違、遊技機に由来する遊技球の発射強度の安定性、遊技領域に打設された遊技釘の経年劣化の程度、無駄な遊技球の発射を目的とする、いわゆる止め打ちの有無などの種々の要因によって変化し得る。そのため、所定の判定の結果が特定判定結果となったことが、第1報知態様から第2報知態様に切り替えられるまでの間において第3報知態様で報知されることによって、前記ボーダーラインにバラツキに対応した遊技者の選択が可能になる。その結果、遊技者は、想定されるボーダーラインの近辺のタイミングで所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、所定の判定の結果が特定判定結果となるまでにおける始動入球領域への入球率などの遊技状況を勘案し、所定の遊技条件を成立させて特定の利益

10

20

30

40

50

を受けることが有利であるか否かを判断することができる。

【４３４７】

また、ボーダーライン近辺の所定タイミングと特定タイミングとの間において第３報知態様で報知されることで、第１報知態様で報知される場合には、ボーダーライン近辺に到達していないために特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けることが有利であることが明確化される一方で、第２報知態様で報知される場合には、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるほうが明確化される。これにより、遊技者は、第１報知態様又は第２報知態様によって報知される場合に、所定の遊技条件を成立させることが自身にとって有利であるか不利であるかを容易に判断できるため、より確実に自身に有利な利益を受けることが可能になる。

【４３４８】

〔付記Ｃ１〕

遊技球を発射可能な発射手段（３２）と、

遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域（３１４，３１５）と、

前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄（普図、特図）を変動表示する表示手段（３６２、３６３、３４１）と、

前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と（３１６）、
を備えた遊技機であって、

前記変動表示における予め定められた更新条件（特図遊技の実行）の成立に基づいて特定情報（天井発動残回数カウンタ）を更新する更新手段（４１）と、

特定の遊技状態（低確率モード）において、前記特定情報が所定の更新状態（天井発動残回数カウンタ＝０）となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態（ｂ時短遊技状態）を発生させる利益状態発生手段（４１）と、

第１報知態様（得表示）又は前記第１報知態様とは異なる第２報知態様（損表示）で所定の報知を行う報知制御手段（５１）と、

前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定（特図大当たり抽選）を実行する判定手段（４１）と、

前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件（小当たり遊技でのＶ入賞）が成立した場合に特定の利益（大当たり遊技）を発生させる利益発生手段（４１）と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミング（損益分岐点）までは前記第１報知態様により前記特定判定結果となったことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第２報知態様に切り替える切替手段（５１）を備え、

前記所定タイミングと前記特定タイミングとの間に第３報知態様で報知する手段を備え、

前記第３報知態様は、前記第１報知態様と前記第２報知態様とを切り替えて表示する態様であることを特徴とする遊技機。

【４３４９】

付記Ｃ１に係る遊技機では、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、変動表示における予め定められた更新条件の成立に基づいて更新手段によって更新される特定情報が、所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングまでは第１報知態様により特定判定結果となったことが報知され、所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様が第２報知態様に切り替えられ、所定タイミングと特定タイミングとの間で第３報知態様により報知される。このように、所定タイミングまでは第１報知態様が表示され、所定タイミングと特定タイミングとの間で第３報知態様により報知され、特定タイミ

ングにおいて第2報知態様に切り替えられることで、今回の特定判定結果となったことに対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるか否か3種類の期間で判断することが可能になる。具体的には、第1報知態様の報知タイミング（所定タイミングまでの期間）、第3報知態様の報知タイミング（所定タイミングと特定タイミングとの間の期間）、第2報知態様の報知タイミング（特定タイミング以降の期間）において、特定判定結果となったタイミングが判断可能な報知態様の種別に基づいて、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるか、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるかを判断することができる。

10

【4350】

ここで、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受ける場合と、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受ける場合とで、どちらか遊技者にとって有利であるかは、特定判定結果となるタイミングによって異なるが、どちらが有利であるかのボーダーラインは、画一的に決定されるものではなく、遊技状況によっても変化し得る。例えば、遊技領域における遊技球の発射強度の相違に基づく始動入球領域への入球率の相違、遊技機に由来する遊技球の発射強度の安定性、遊技領域に打設された遊技釘の経年劣化の程度、無駄な遊技球の発射を目的とする、いわゆる止め打ちの有無などの種々の要因によって変化し得る。そのため、所定の判定の結果が特定判定結果となったことが、第1報知態様から第2報知態様に切り替えられるまでの間において第3報知態様で報知されることによって、前記ボーダーラインにバラツキに対応した遊技者の選択が可能になる。その結果、遊技者は、想定されるボーダーラインの近辺のタイミングで所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、所定の判定の結果が特定判定結果となるまでにおける始動入球領域への入球率などの遊技状況を勘案し、所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けることが有利であるか否かを判断することができる。

20

【4351】

特に、所定の判定の結果が特定判定結果となったタイミングが所定タイミングと特定タイミングとの間である場合に、第3報知態様として第1報知態様と第2報知態様とが切り替えて報知されることで、第1報知態様に対応する恩恵状況と第2報知態様に対応する恩恵状況との間であることが明確化することが可能になる。これにより、特定判定結果となることに基づく恩恵を受けること、及び特定判定結果となることに基づく恩恵を受けることなく、特定情報が所定の更新状態となることに基づく恩恵を受けることのいずれが有利であるかが判断し難い状況であることを、より確実に遊技者に把握させることが可能になる。

30

【4352】

また、ボーダーライン近辺の所定タイミングと特定タイミングとの間において第3報知態様で報知されることで、第1報知態様で報知される場合には、ボーダーライン近辺に到達していないために特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けることが有利であることが明確化される一方で、第2報知態様で報知される場合には、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるほうが明確化される。これにより、遊技者は、第1報知態様又は第2報知態様によって報知される場合に、所定の遊技条件を成立させることが自身にとって有利であるか不利であるかを容易に判断できるため、より確実に自身に有利な利益を受けることが可能になる。

40

【4353】

〔付記D1〕

遊技球を発射可能な発射手段（32）と、

50

遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域（３１４，３１５）と、
前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄（普図、特図）を変動表示する表示手段（３６２、３６３、３４１）と、
前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と（３１６）、
を備えた遊技機であって、

前記変動表示における予め定められた更新条件（特図遊技の実行）の成立に基づいて特定情報（天井発動残回数カウンタ）を更新する更新手段（４１）と、

特定の遊技状態（低確率モード）において、前記特定情報が所定の更新状態（天井発動残回数カウンタ＝０）となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態（ｂ時短遊技状態）を発生させる利益状態発生手段（４１）と、

第１報知態様（得表示）又は前記第１報知態様とは異なる第２報知態様（損表示）で所定の報知を行う報知制御手段（５１）と、

前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定（特図大当たり抽選）を実行する判定手段（４１）と、

前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件（小当たり遊技でのＶ入賞）が成立した場合に特定の利益（大当たり遊技）を発生させる利益発生手段（４１）と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミング（損益分岐点）までは前記第１報知態様により前記特定判定結果となったことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第２報知態様に切り替える切替手段（５１）を備え、

前記所定タイミングと前記特定タイミングとの間に第３報知態様で報知する手段を備え、

前記第３報知態様は、特定の可動物（３９）が前記表示手段の表示面と重複するように可動される態様であることを特徴とする遊技機。

【４３５４】

付記Ｄ１に係る遊技機では、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、変動表示における予め定められた更新条件の成立に基づいて更新手段によって更新される特定情報が、所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングまでは第１報知態様により特定判定結果となったことが報知され、所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様が第２報知態様に切り替えられ、所定タイミングと特定タイミングとの間で第３報知態様により報知される。このように、所定タイミングまでは第１報知態様が表示され、所定タイミングと特定タイミングとの間で第３報知態様により報知され、特定タイミングにおいて第２報知態様に切り替えられることで、今回の特定判定結果となったことに対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるか否か３種類の期間で判断することが可能になる。具体的には、第１報知態様の報知タイミング（所定タイミングまでの期間）、第３報知態様の報知タイミング（所定タイミングと特定タイミングとの間の期間）、第２報知態様の報知タイミング（特定タイミング以降の期間）において、特定判定結果となったタイミングが判断可能な報知態様の種別に基づいて、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるか、今回の特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるかを判断することができる。

【４３５５】

ここで、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受ける場合と、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受ける場合とで、どちらか遊技者にとって有

10

20

30

40

50

利であるかは、特定判定結果となるタイミングによって異なるが、どちらが有利であるかのボーダーラインは、画一的に決定されるものではなく、遊技状況によっても変化し得る。例えば、遊技領域における遊技球の発射強度の相違に基づく始動入球領域への入球率の相違、遊技機に由来する遊技球の発射強度の安定性、遊技領域に打設された遊技釘の経年劣化の程度、無駄な遊技球の発射を目的とする、いわゆる止め打ちの有無などの種々の要因によって変化し得る。そのため、所定の判定の結果が特定判定結果となったことが、第1報知態様から第2報知態様に切り替えられるまでの間において第3報知態様で報知されることによって、前記ボーダーラインにバラツキに対応した遊技者の選択が可能になる。その結果、遊技者は、想定されるボーダーラインの近辺のタイミングで所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、所定の判定の結果が特定判定結果となるまでにおける始動入球領域への入球率などの遊技状況を勘案し、所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けることが有利であるか否かを判断することができる。

10

【4356】

特に、所定の判定の結果が特定判定結果となったタイミングが所定タイミングと特定タイミングとの間である場合に、第3報知態様として特定の可動物が表示手段の表示面と重複するように可動されることで、可動物の可動によって、第1報知態様に対応する恩恵状況と第2報知態様に対応する恩恵状況との間であることが明確化することが可能になる。これにより、特定判定結果となることに基づく恩恵を受けること、及び特定判定結果となることに基づく恩恵を受けることなく、特定情報が所定の更新状態となることに基づく恩恵を受けることのいずれが有利であるかが判断し難い状況であることを、より確実に遊技者に把握させることが可能になる。

20

【4357】

また、ボーダーライン近辺の所定タイミングと特定タイミングとの間において第3報知態様で報知されることで、第1報知態様で報知される場合には、ボーダーライン近辺に到達していないために特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けることが有利であることが明確化される一方で、第2報知態様で報知される場合には、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるほうが明確化される。これにより、遊技者は、第1報知態様又は第2報知態様によって報知される場合に、所定の遊技条件を成立させることが自身にとって有利であるか不利であるかを容易に判断できるため、より確実に自身に有利な利益を受けることが可能になる。

30

【4358】

〔付記E1〕

遊技球を発射可能な発射手段(32)と、
遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域(314, 315)と、
前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄(普図、特図)を変動表示する表示手段(362, 363, 341)と、
前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と(316)、
を備えた遊技機であって、
前記変動表示における予め定められた更新条件(特図遊技の実行)の成立に基づいて特定情報(天井発動残回数カウンタ)を更新する更新手段(41)と、
特定の遊技状態(低確率モード)において、前記特定情報が所定の更新状態(天井発動残回数カウンタ=0)となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態(b時短遊技状態)を発生させる利益状態発生手段(41)と、
第1報知態様(得表示)又は前記第1報知態様とは異なる第2報知態様(損表示)で所定の報知を行う報知制御手段(51)と、
前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定(特図大当たり抽選)を実行する判定手段(41)と、
前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、

40

50

遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件（小当たり遊技でのV入賞）が成立した場合に特定の利益（大当たり遊技）を発生させる利益発生手段（41）と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミング（損益分岐点）までは前記第1報知態様により前記特定判定結果となったことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第2報知態様に切り替える切替手段（51）を備え、

前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に前記第2報知態様が表示された場合、前記特定の利益を発生させることなく前記所定の図柄の新たな変動表示を実行可能であることを特徴とする遊技機。

10

【4359】

付記E1に係る遊技機では、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に第2報知態様で表示された場合、特定の利益を発生させることなく所定の図柄の新たな変動表示を実行可能である。このように、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に第2報知態様で表示された場合、特定の利益を発生させることなく所定の図柄の新たな変動表示を実行可能であることで、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に所定の遊技条件を成立させなかった場合には、その後も、変動表示における更新条件の成立に基づいて特定情報を更新することができる。その結果、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に所定の遊技条件を成立させないことで、特定情報の更新を継続して特定情報を所定の更新状態とすることが可能になる。これにより、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してから、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けることが可能になるため、遊技者にとって不利であると判断されるタイミングで特定の利益を受けることを遊技者の意図により回避し、意に反するタイミングで特定の利益を受けてしまうことに起因する遊技に対する興味や興趣の低下が防止される。

20

【4360】

[付記F1]

遊技球を発射可能な発射手段（32）と、

遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域（314、315）と、

30

前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄（普図、特図）を変動表示する表示手段（362、363、341）と、

前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と（316）、
を備えた遊技機であって、

前記変動表示における予め定められた更新条件（特図遊技の実行）の成立に基づいて特定情報（天井発動残回数カウンタ）を更新する更新手段（41）と、

特定の遊技状態（低確率モード）において、前記特定情報が所定の更新状態（天井発動残回数カウンタ＝0）となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態（b時短遊技状態）を発生させる利益状態発生手段（41）と、

第1報知態様（得表示）又は前記第1報知態様とは異なる第2報知態様（損表示）で所定の報知を行う報知制御手段（51）と、

40

前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定（特図大当たり抽選）を実行する判定手段（41）と、

前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件（小当たり遊技でのV入賞）が成立した場合に特定の利益（大当たり遊技）を発生させる利益発生手段（41）と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミング（損益分岐点）までは前記第1報知態様により前記特定判定結果となった

50

ことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第2報知態様に切り替える切替手段(51)を備え、

前記所定タイミングと前記特定タイミングとの間の前記所定の図柄の変動表示中に特別演出を実行することを特徴とする遊技機。

【4361】

ここで、前述のように、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受ける場合と、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受ける場合とで、どちらか遊技者にとって有利であるかは、特定判定結果となるタイミングによって異なるが、どちらが有利であるかのボーダーラインは、画一的に決定されるものではなく、遊技状況によっても変化し得る。一方、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合、特定の利益を発生させるための所定の遊技条件を成立させることができる期間については、特定の利益を発生させるタイミングの都合上、制約が課せられる。そのため、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に第1報知態様や第2報知態様で所定の報知を行う場合、その報知時間についても制約を受ける。その結果、遊技者は、第1報知態様や第2報知態様で所定の報知が開始されてから比較的短時間で所定の遊技条件を成立させるか否かを判断せざるを得ないため、判断ミスが発生し易く、意に反して自身に不利な状況となりかねない。

【4362】

これに対して、付記F1に係る遊技機では、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合、変動表示における更新条件の成立に基づいて更新手段によって更新される特定情報が、所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングと、所定タイミングよりも後の特定タイミングとの間の所定の図柄の変動表示中に特別演出が実行される。つまり、所定タイミングと特定タイミングの間では、所定の判定の結果が特定判定結果となっていない場合であっても、所定の図柄の変動表示中に特別演出が実行される。そのため、所定の判定の結果が特定判定結果となっていないタイミングである所定の図柄の変動表示中において、第1報知態様や第2報知態様に代えて所定の報知を特別演出によって実行することが可能になる。つまり、所定の図柄の変動表示中に特別演出の実行によって所定の報知を行うことで、遊技者は、所定の判定の結果が特定判定結果となる前に、現在の状況を把握することができる。そのため、遊技者は、所定の図柄の変動表示中に特別演出に基づいて、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に所定の遊技条件を成立させるか否か、即ち特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるか、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けるかを事前に判断しておくことが可能になる。これにより、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合での判断ミスが発生し難くなり、意に反して自身に不利な状況となることが防止される。

【4363】

〔付記G1〕

遊技球を発射可能な発射手段(32)と、

遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域(314, 315)と、

前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄(普図、特図)を変動表示する表示手段(362, 363, 341)と、

前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と(316)、

を備えた遊技機であって、

前記変動表示における予め定められた更新条件(特図遊技の実行)の成立に基づいて特定情報(天井発動残回数カウンタ)を更新する更新手段(41)と、

特定の遊技状態(低確率モード)において、前記特定情報が所定の更新状態(天井発動残回数カウンタ=0)となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態(b時短

10

20

30

40

50

遊技状態)を発生させる利益状態発生手段(41)と、

第1報知態様(得表示)又は前記第1報知態様とは異なる第2報知態様(損表示)で所定の報知を行う報知制御手段(51)と、

前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定(特図大当たり抽選)を実行する判定手段(41)と、

前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件(小当たり遊技でのV入賞)が成立した場合に特定の利益(大当たり遊技)を発生させる利益発生手段(41)と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミング(損益分岐点)までは前記第1報知態様により前記特定判定結果となったことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第2報知態様に切り替える切替手段(51)を備え、

前記切替手段(51)によって報知態様が前記第2報知態様に切り替えられた後は、少なくとも前記特定の利益が発生するまでは前記第1報知態様に切り替わることがないことを特徴とする遊技機。

【4364】

付記G1に係る遊技機では、特定情報が所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様が第2報知態様に切り替えられた後は、少なくとも特定の利益が発生するまでは第1報知態様に切り替わることがない。ここで、例えば、所定の遊技条件を成立させずに特定の利益を受けず、後において特定情報が所定の更新状態となって所定の利益状態が発生してからの特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けることが遊技者にとって有利な場合に第1報知態様で所定の報知を行う一方、特定判定結果に対して所定の遊技条件を成立させて特定の利益を受けることが遊技者にとって有利な場合に第2報知態様で所定の報知を行う場合、特定タイミングにおいて報知態様が第2報知態様に切り替えられた後に第1報知態様で所定の報知が行われると、即ち遊技者に有利な報知態様から遊技者に不利な報知態様に切り替えられると、遊技者が混乱しかねず、また所定の遊技条件を成立させるほうが有利であるにも関わらず所定の遊技条件を成立させないという遊技者の判断ミスを誘発しかねないため、遊技者の利益を十分に確保できない。これに対して、特定タイミングにおいて報知態様が第2報知態様に切り替えられた後は、少なくとも特定の利益が発生するまでは第1報知態様に切り替わることがないことで、遊技者は、有利であることを特定の利益が受けるまで継続して把握できるため、遊技者が混乱することなく、遊技者が不測の不利益を受けることが防止される。

【4365】

[付記H1]

遊技球を発射可能な発射手段(32)と、

遊技球が流下可能な遊技領域に設けられる始動入球領域(314, 315)と、

前記始動入球領域に遊技球が入球した場合に、所定の図柄(普図、特図)を変動表示する表示手段(362, 363, 341)と、

前記遊技領域に設けられ、複数回の開閉動作を実行する可変入球手段と(316)、を備えた遊技機であって、

前記変動表示における予め定められた更新条件(特図遊技の実行)の成立に基づいて特定情報(天井発動残回数カウンタ)を更新する更新手段(41)と、

特定の遊技状態(低確率モード)において、前記特定情報が所定の更新状態(天井発動残回数カウンタ=0)となった後の予め定められたタイミングで所定の利益状態(b時短遊技状態)を発生させる利益状態発生手段(41)と、

第1報知態様(得表示)又は前記第1報知態様とは異なる第2報知態様(損表示)で所定の報知を行う報知制御手段(51)と、

10

20

30

40

50

前記始動入球領域に遊技球が入球することに基づいて所定の判定（特図大当たり抽選）を実行する判定手段（４１）と、

前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、遊技者による所定の遊技操作に基づいて所定の遊技条件（小当たり遊技でのＶ入賞）が成立した場合に特定の利益（大当たり遊技）を発生させる利益発生手段（４１）と、

を備え、

前記報知制御手段は、前記判定手段により実行された前記所定の判定の結果が前記特定判定結果となった場合に、前記特定情報が前記所定の更新状態となるよりも所定期間前の所定タイミング（損益分岐点）までは前記第１報知態様により前記特定判定結果となったことを報知し、前記所定タイミングよりも後の特定タイミングにおいて報知態様を前記第２報知態様に切り替える切替手段（５１）を備え、

前記特定情報が前記所定の更新状態となるまでの更新回数（天井発動残回数カウンタの初期値）は、複数の更新回数の中から抽選で１の更新の回数が決定されることを特徴とする遊技機。

【４３６６】

付記Ｈ１に係る遊技機では、特定情報が所定の更新状態となるまでの更新回数が、複数の更新回数の中から抽選で１の更新の回数が決定される。このように、特定情報が所定の更新状態となるまでの更新回数が、複数の更新回数の中から抽選で１の更新の回数が決定されることで、所定の利益状態が発生されるタイミングが画一的ではなくなる。これにより、特定情報が所定の更新状態となるまでの更新回数を遊技者が把握し難くなる。そのため、特定情報が更新された回数がクリアされか否か、例えば遊技ホール側が遊技機のＲＡＭクリアや大当たり確率を規定する設定値の変更を行ったか否かを遊技者が把握し難くなるため、ＲＡＭクリアや設定値の変更の有無が遊技者に把握されることが起因する遊技機の稼働率の低下が防止される。また、特定情報が所定の更新状態となるまでの更新回数を遊技者が把握し難くなることで、所定の利益状態を発生させるために必要な所定の図柄の変動表示回数が少ない遊技機を狙った、いわゆるハイエナ行為の対象となることが抑制される。加えて、特定情報が所定の更新状態となるまでの更新回数を遊技者が把握し難くなることで、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合の所定の報知が第２報知態様に切り替えるタイミングも把握し難くなる。そのため、所定の判定の結果が特定判定結果となった場合に、所定の報知が第２報知態様に切り替えられることに期待しつつ遊技の進行を楽しむことができるため、遊技への興味や興味が向上される。

【４３６７】

〔付記Ａ１〕

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段（発射ハンドル２２）と、

遊技者による所定の発射操作（右打ち）に基づいて遊技球が流下する所定流路（第３ルート３５３）と、

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可状態（第１開閉部材３９Ａの開放状態）と遊技球を受け入れない受入非許可状態（第１開閉部材３９Ａの閉鎖状態）とに状態が可変可能な第１の入球手段（第１入賞口３９１）と、前記第１の入球手段とは異なる第２の入球手段（第２入賞口３１５）と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第２の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段（振分入球装置３７）と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態（ａ時短遊技状態）中に前記第１の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件（大当たり抽選結果がｃ時短移行）が成立した場合に少なくとも特定の特典結果（ｃ時短遊技状態への移行）を導出可能な導出手段（ＭＰＵ４１）と、

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態（ｃ時短遊技状態、第２入賞口３１５の開放状態）において特定の切替条件（ｃ時短遊技状態の終了条

10

20

30

40

50

件、例えば第2入賞口315への上限個数の遊技球の入球、振分入球装置37の電動役物373の復帰）が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段（MPU41）と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第2の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第2の入球手段を開放作動させる作動手段（第2開閉部材39Bの開放機構）と、

前記第2の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段（第2開閉部材39Bの閉鎖機構）と、

前記第2の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件（可変入賞装置38のV入賞口383への遊技球の入球）が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態（V入賞口大当たり遊技の開閉実行モードの実行状態）を発生させるための制御を行う発生制御手段（MPU41）と、

所定状態における前記特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行する開始手段（MPU51）と、

を備え、

本遊技機は、

前記特定演出表示の表示状態において前記特別条件が成立することに基づいて前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、前記特定演出表示を継続し、

前記複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態（疑似大当たり遊技状態）として演出表示することを特徴とする遊技機。

【4368】

付記A1に係る遊技機では、所定遊技状態中に第1の入球手段に遊技球が入球することに基づいて所定条件が成立した場合に少なくとも特定の特典結果が導出されることに基づいて特定遊技状態が実行され、この特定遊技状態において第2の入球手段に遊技球が入球した場合、特別条件が成立することに基づいて、複数回の特別遊技状態が実行される一連の有利遊技状態を発生可能である。これにより、所定遊技状態での所定条件の成立による特定遊技状態の発生、特定遊技状態での特別条件の成立による複数回の特別遊技状態が実行される一連の有利遊技状態を発生という、新規な遊技性を実現できるため、遊技の興趣が向上される。

【4369】

また、付記A1に係る遊技機では、所定遊技状態にける特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示が表示される。そのため、特別遊技状態が1回発生される場合だけでなく、一連の有利遊技状態として複数回の特別遊技状態が実行される場合にも、特定演出表示が表示される。そのため、一連の有利遊技状態において複数回の特別遊技状態が発生しているにも関わらず、特定演出表示によって1回の特別遊技状態であるかのような演出表示が実行される。そして、遊技者に付与される利益（例えば出玉）は、1回の特別遊技状態の発生に比べて、複数回の特別遊技状態が発生した場合のほうが大きい。その結果、複数回の特別遊技状態が発生する一連の有利遊技状態において特定演出表示が実行されることによって一連の有利遊技状態で多くの利益が得られた印象を与えることで、遊技者に満足感を与えることが可能になる。これにより、1回の特別遊技状態の発生によって得られる利益が制限される場合であっても、遊技者に、一連の有利遊技状態が発生した場合の利益についての満足感を与えることができるため、遊技への興味や興趣の低下が防止される。

【4370】

【付記A2】

前記複数回の特別遊技状態が発生される場合の最後に実行される前記特別遊技状態の終了時又は終了後に、前記特定演出表示を終了する場合に対応する報知表示を実行することを特徴とする付記A1に記載の遊技機。

【4371】

付記A2に係る遊技機では、複数回の特別遊技状態が発生される場合の最後に実行される特別遊技状態の終了時又は終了後に、特定演出表示を終了する場合に対応する報知表示

10

20

30

40

50

が実行される。このように、複数回の特別遊技状態が発生される場合の最後に実行される特別遊技状態の終了時又は終了後に、特定演出表示を終了する場合に対応する報知表示が実行されることで、報知表示に基づいて一連の有利遊技状態が終了することを認識可能であると共に、複数回の特別遊技状態での結果を、一連の有利遊技状態での結果であるように遊技者に認識させることが可能である。これにより、1回の特別遊技状態の発生によって得られる利益が制限される場合であっても、一連の有利遊技状態で多くの利益が得られた印象を遊技者に与えることが可能になる結果、遊技者に満足感を与えることが可能になる。

【4372】

【付記A3】

前記特定演出表示の開始後に前記特別条件の成立に基づく前記特別遊技状態の発生が起きない場合は、前記所定状態における前記特別遊技状態の終了時又は終了後に前記特定演出表示を終了する場合に前記対応する報知表示を実行する付記A2に記載の遊技機。

【4373】

付記A3に係る遊技機では、特定演出表示の開始後に特別条件の成立に基づく特別遊技状態の発生が起きない場合は、所定状態における特別遊技状態の終了時又は終了後に特定演出表示を終了する場合に対応する報知表示が実行される。このように、特定演出表示の開始後に特別条件の成立に基づく特別遊技状態の発生が起きない場合は、所定状態における特別遊技状態の終了時又は終了後に特定演出表示を終了する場合に対応する報知表示が実行されることで、一連の有利遊技状態において複数回の特別遊技状態の発生しない場合（1回しか特別遊技状態の発生しない、いわゆる単発）であっても、報知表示に基づいて一連の有利遊技状態が終了することを認識可能となる。

【4374】

【付記B1】

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段（発射ハンドル22）と、

遊技者による所定の発射操作（右打ち）に基づいて遊技球が流下する所定流路（第3ルート353）と、

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可状態（第1開閉部材39Aの開放状態）と遊技球を受け入れない受入非許可状態（第1開閉部材39Aの閉鎖状態）とに状態が可変可能な第1の入球手段（第1入賞口391）と、前記第1の入球手段とは異なる第2の入球手段（第2入賞口315）と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第2の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段（振分入球装置37）と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態（a時短遊技状態）中に前記第1の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件（大当たり抽選結果がc時短移行）が成立した場合に少なくとも特定の特典結果（c時短遊技状態への移行）を導出可能な導出手段（MPU41）と、

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態（c時短遊技状態、第2入賞口315の開放状態）において特定の切替条件（c時短遊技状態の終了条件、例えば第2入賞口315への上限個数の遊技球の入球、振分入球装置37の電動役物373の復帰）が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段（MPU41）と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第2の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第2の入球手段を開放作動させる作動手段（第2開閉部材39Bの開放機構）と、

前記第2の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段（第2開閉部材39Bの閉鎖機構）と、

前記第2の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件（可変入賞装

10

20

30

40

50

置 3 8 の V 入賞口 3 8 3 への遊技球の入球) が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態 (V 入賞口大当たり遊技の開閉実行モードの実行状態) を発生させるための制御を行う発生制御手段 (M P U 4 1) と、

所定状態における前記特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示 (疑似大当たり遊技演出 (表示)) を実行する開始手段 (M P U 5 1) と、

を備え、

本遊技機は、

前記特定演出表示の表示状態において前記特別条件が成立することに基づいて前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、前記特定演出表示を継続し、

前記複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態 (疑似大当たり遊技状態) として演出表示し、

前記複数回の特別遊技状態は、第 1 の特別遊技状態と、前記第 1 の特別遊技状態とは異なる第 2 の特別遊技状態と、を含み、

前記特定演出表示手段は、前記特定演出表示として特定の演出画像 (ステージ演出、出玉表示) を、前記第 1 の特別遊技状態の期間と、前記第 1 の特別遊技状態と前記第 2 の特別遊技状態との間の非特別遊技状態 (特図遊技が実行される遊技状態、小当たり遊技状態) の期間と、前記第 2 の特別遊技状態の期間と、の間で継続して表示することを特徴とする遊技機。

【 4 3 7 5 】

付記 B 1 に係る遊技機では、複数回の特別遊技状態が発生される一連の有利遊技状態において、特定演出表示として特定の演出画像が、第 1 の特別遊技状態の期間と、第 1 の特別遊技状態と第 2 の特別遊技状態との間の期間と、第 2 の特別遊技状態の期間と、の間で継続して表示される。そのため、一連の有利遊技状態では、複数回の特別遊技状態の間で非特別遊技状態が発生する場合であっても、非特別遊技状態の期間において、特定の演出画像によって特別遊技状態が継続しているように見せかけることができる。

【 4 3 7 6 】

[付記 C 1]

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段 (発射ハンドル 2 2) と、

遊技者による所定の発射操作 (右打ち) に基づいて遊技球が流下する所定流路 (第 3 ルート 3 5 3) と、

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可状態 (第 1 開閉部材 3 9 A の開放状態) と遊技球を受け入れない受入非許可状態 (第 1 開閉部材 3 9 A の閉鎖状態) とに状態が可変可能な第 1 の入球手段 (第 1 入賞口 3 9 1) と、前記第 1 の入球手段とは異なる第 2 の入球手段 (第 2 入賞口 3 1 5) と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第 2 の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段 (振分入球装置 3 7) と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態 (a 時短遊技状態) 中に前記第 1 の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件 (大当たり抽選結果が c 時短移行) が成立した場合に少なくとも特定の特典結果 (c 時短遊技状態への移行) を導出可能な導出手段 (M P U 4 1) と、

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態 (c 時短遊技状態、第 2 入賞口 3 1 5 の開放状態) において特定の切替条件 (c 時短遊技状態の終了条件、例えば第 2 入賞口 3 1 5 への上限個数の遊技球の入球、振分入球装置 3 7 の電動役物 3 7 3 の復帰) が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段 (M P U 4 1) と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第 2 の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第 2 の入球手段を開放作動させる作動手段 (第 2 開閉部材 3 9 B の開放機構) と、

10

20

30

40

50

前記第2の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段（第2開閉部材39Bの閉鎖機構）と、

前記第2の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件（可変入賞装置38のV入賞口383への遊技球の入球）が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態（V入賞口大当たり遊技の開閉実行モードの実行状態）を発生させるための制御を行う発生制御手段（MPU41）と、

所定状態における前記特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行する開始手段（MPU51）と、

を備え、

本遊技機は、

前記特定演出表示の表示状態において前記特別条件が成立することに基づいて前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、前記特定演出表示を継続し、

前記複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態（疑似大当たり遊技状態）として演出表示し、

前記第1の入球手段が前記受入非許可状態となる上限個数（例えば1個）より、前記第2の入球手段の開閉動作が終了となる前記所定の複数の遊技球の入球の方が多数（例えば4個）であることを特徴とする遊技機。

【4377】

付記C1に係る遊技機では、第1の入球手段が受入非許可状態となる上限個数より、第2の入球手段の開閉動作が終了となる所定の複数の遊技球の入球の方が多数である。このように、第1の入球手段が受入非許可状態となる上限個数より、第2の入球手段の開閉動作が終了となる所定の複数の遊技球の入球の方が多数であることで、第1の入球手段の一度の受入許可状態での第1の入球手段への入球数よりも、第2の入球手段の一度の開閉動作による第2の入球手段への入球のほうが多くなる。その結果、所定遊技状態での特定の特典結果の発生期待度が低くなるために、第2の入球手段への遊技球の入球によって必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態が実行される特定遊技状態が発生し難い一方で、特定遊技状態が発生した場合に第2の入球手段への遊技球の入球によって複数回の特別遊技状態が発生され得る。つまり、所定遊技状態から特定遊技状態に移行され難い反面、特定遊技状態に移行された場合に特別遊技状態の発生によって遊技者が多くの利益を獲得可能な遊技性が付与されるため、遊技の興趣が向上される。

【4378】

〔付記D1〕

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段（発射ハンドル22）と、

遊技者による所定の発射操作（右打ち）に基づいて遊技球が流下する所定流路（第3ルート353）と、

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可状態（第1開閉部材39Aの開放状態）と遊技球を受け入れない受入非許可状態（第1開閉部材39Aの閉鎖状態）とに状態が可変可能な第1の入球手段（第1入賞口391）と、前記第1の入球手段とは異なる第2の入球手段（第2入賞口315）と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第2の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段（振分入球装置37）と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態（a時短遊技状態）中に前記第1の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件（大当たり抽選結果がc時短移行）が成立した場合に少なくとも特定の特典結果（c時短遊技状態への移行）を導出可能な導出手段（MPU41）と、

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態（c時短遊技状態、第2入賞口315の開放状態）において特定の切替条件（c時短遊技状態の終了条件、例えば第2入賞口315への上限個数の遊技球の入球、振分入球装置37の電動役物

10

20

30

40

50

３７３の復帰）が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段（ＭＰＵ４１）と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第２の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第２の入球手段を開放作動させる作動手段（第２開閉部材３９Ｂの開放機構）と、

前記第２の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段（第２開閉部材３９Ｂの閉鎖機構）と、

前記第２の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件（可変入賞装置３８のＶ入賞口３８３への遊技球の入球）が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態（Ｖ入賞口大当たり遊技の開閉実行モードの実行状態）を発生させるための制御を行う発生制御手段（ＭＰＵ４１）と、

所定状態における前記特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行する開始手段（ＭＰＵ５１）と、

を備え、

本遊技機は、

前記特定演出表示の表示状態において前記特別条件が成立することに基づいて前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、前記特定演出表示を継続し、

前記複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態（疑似大当たり遊技状態）として演出表示し、

前記特定演出表示手段が前記特定演出表示を実行する場合に、その間に実行される前記特定遊技状態の実行回数が異なる（例えば２回～４回）ように構成されていることを特徴とする遊技機。

【４３７９】

付記Ｄ１に係る遊技機では、特定演出表示が実行される場合に、その間に実行される特定遊技状態の実行回数が異なるように構成されている。そのため、遊技者は、有利遊技状態において特定遊技状態が何回実行されるかを予測し難く、その結果、有利遊技状態において最大限の利益（例えば出玉）が得られること、より多くの利益が得られることに期待しつつ、有利遊技状態での遊技の進行を楽しむことができるため、遊技の興趣が向上される。

【４３８０】

【付記Ｅ１】

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段（発射ハンドル２２）と、

遊技者による所定の発射操作（右打ち）に基づいて遊技球が流下する所定流路（第３ルート３５３）と、

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可状態（第１開閉部材３９Ａの開放状態）と遊技球を受け入れない受入非許可状態（第１開閉部材３９Ａの閉鎖状態）とに状態が可変可能な第１の入球手段（第１入賞口３９１）と、前記第１の入球手段とは異なる第２の入球手段（第２入賞口３１５）と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第２の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段（振分入球装置３７）と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態（ａ時短遊技状態）中に前記第１の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件（大当たり抽選結果がｃ時短移行）が成立した場合に少なくとも特定の特典結果（ｃ時短遊技状態への移行）を導出可能な導出手段（ＭＰＵ４１）と、

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態（ｃ時短遊技状態、第２入賞口３１５の開放状態）において特定の切替条件（ｃ時短遊技状態の終了条件、例えば第２入賞口３１５への上限個数の遊技球の入球、振分入球装置３７の電動役物３７３の復帰）が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段（Ｍ

10

20

30

40

50

P U 4 1) と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第2の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第2の入球手段を開放作動させる作動手段(第2開閉部材39Bの開放機構)と、

前記第2の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段(第2開閉部材39Bの閉鎖機構)と、

前記第2の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件(可変入賞装置38のV入賞口383への遊技球の入球)が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態(V入賞口大当たり遊技の開閉実行モードの実行状態)を発生させるための制御を行う発生制御手段(M P U 4 1)と、

10

所定状態における前記特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示(疑似大当たり遊技演出(表示))を実行する開始手段(M P U 5 1)と、

を備え、

本遊技機は、

前記特定演出表示の表示状態において前記特別条件が成立することに基づいて前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、前記特定演出表示を継続し、

前記複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態(疑似大当たり遊技状態)として演出表示し、

前記複数回の特別遊技状態は、第1の特別遊技状態と、前記第1の特別遊技状態の次に発生される第2の特別遊技状態と、を含み、

20

前記特別遊技状態を実行する場合に、遊技者に前記所定の発射操作を要求する要求表示(右打ち表示)を実行する要求表示実行手段を備え、

前記要求表示は、前記第1の特別遊技状態と、前記第1の特別遊技状態と前記第2の特別遊技状態(第2特図遊技状態、小当たり遊技状態)との間と、前記第2の特別遊技状態と、に渡って継続して表示されることを特徴とする遊技機。

【4381】

付記E1に係る遊技機では、複数回の特別遊技状態が発生される一連の有利遊技状態において、所定の発射操作を要求する要求表示が、第1の特別遊技状態と、第1の特別遊技状態と第2の特別遊技状態との間と、第2の特別遊技状態と、の間で継続して表示される。そのため、一連の有利遊技状態では、第1の特別遊技状態と第2の特別遊技状態との間で特別遊技状態以外の遊技状態が発生する場合であっても、特別遊技状態以外の遊技状態において、要求表示によって特別遊技状態が発生しているように見せかけることができる。これにより、一連の有利遊技状態が特別遊技状態以外の遊技状態を含む場合であっても、遊技者に、特別遊技状態が発生した場合の利益についての満足感を与えることができるため、遊技への興味や興趣の低下が防止される。

30

【4382】

また、一連の有利遊技状態において要求表示が継続して表示されることによって、遊技者は一連の有利遊技状態において要求表示に従って所定の発射操作を行うべきであることを理解できる。そのため、遊技者が一連の有利遊技状態において所定の発射操作を行わないことによる遊技者に対する不利益の発生、即ち特別遊技状態での利益(例えば多量の出玉)を獲得できない不利益や、第2の入球手段への遊技球の入球によっても特別条件が成立しないことでの特別遊技状態の不発生の不利益が発生することを防止することができる。

40

【4383】

[付記F1]

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段(発射ハンドル22)と、

遊技者による所定の発射操作(右打ち)に基づいて遊技球が流下する所定流路(第3ルート353)と、

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可

50

状態（第1開閉部材39Aの開放状態）と遊技球を受け入れない受入非許可状態（第1開閉部材39Aの閉鎖状態）とに状態が可変可能な第1の入球手段（第1入賞口391）と、前記第1の入球手段とは異なる第2の入球手段（第2入賞口315）と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第2の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段（振分入球装置37）と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態（a時短遊技状態）中に前記第1の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件（大当たり抽選結果がc時短移行）が成立した場合に少なくとも特定の特典結果（c時短遊技状態への移行）を導出可能な導出手段（MPU41）と、

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態（c時短遊技状態、第2入賞口315の開放状態）において特定の切替条件（c時短遊技状態の終了条件、例えば第2入賞口315への上限個数の遊技球の入球、振分入球装置37の電動役物373の復帰）が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段（MPU41）と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第2の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第2の入球手段を開放作動させる作動手段（第2開閉部材39Bの開放機構）と、

前記第2の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段（第2開閉部材39Bの閉鎖機構）と、

前記第2の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件（可変入賞装置38のV入賞口383への遊技球の入球）が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態（V入賞口大当たり遊技の開閉実行モードの実行状態）を発生させるための制御を行う発生制御手段（MPU41）と、

所定状態における前記特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行する開始手段（MPU51）と、

を備え、

本遊技機は、

前記特定演出表示の表示状態において前記特別条件が成立することに基づいて前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、前記特定演出表示を継続し、

前記複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態（疑似大当たり遊技状態）として演出表示し、

前記特別条件は、特別入球領域（可変入賞装置38のV入賞口383）に遊技球が入球（V入賞）することを少なくとも含むことを特徴とする遊技機。

【4384】

付記F1に係る遊技機では、第2の入球手段の開放作動中での遊技球の入球を契機として成立し得る遊技者に有利な特別遊技状態を発生させるための特別条件が、特別入球領域への遊技球の入球を少なくとも含む。即ち、遊技者は、特別入球領域に遊技球を入球させて特別条件を成立させることで特別遊技状態を発生させることができる。このように、第2の入球手段の開放作動中での遊技球の入球を契機として成立し得る遊技者に有利な特別遊技状態を発生させるための特別条件が、特別入球領域への遊技球の入球を少なくとも含むことで、特別遊技状態を発生させるための特別条件が明確化されると共に、遊技者は、特別入球領域に遊技球が入球可能な発射操作を行うだけで、特別条件を成立させて特別遊技状態を発生させることが可能となる。そのため、特別条件が成立せずに特別遊技状態が発生しないという不利益が生じることが防止される。

【4385】

【付記G1】

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段（発射ハンドル22）と、

遊技者による所定の発射操作（右打ち）に基づいて遊技球が流下する所定流路（第3ルート353）と、

10

20

30

40

50

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可状態（第1開閉部材39Aの開放状態）と遊技球を受け入れない受入非許可状態（第1開閉部材39Aの閉鎖状態）とに状態が可変可能な第1の入球手段（第1入賞口391）と、前記第1の入球手段とは異なる第2の入球手段（第2入賞口315）と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第2の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段（振分入球装置37）と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態（a時短遊技状態）中に前記第1の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件（大当たり抽選結果がc時短移行）が成立した場合に少なくとも特定の特典結果（c時短遊技状態への移行）を導出可能な導出手段（MPU41）と、

10

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態（c時短遊技状態、第2入賞口315の開放状態）において特定の切替条件（c時短遊技状態の終了条件、例えば第2入賞口315への上限個数の遊技球の入球、振分入球装置37の電動役物373の復帰）が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段（MPU41）と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第2の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第2の入球手段を開放作動させる作動手段（第2開閉部材39Bの開放機構）と、

前記第2の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段（第2開閉部材39Bの閉鎖機構）と、

20

前記第2の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件（可変入賞装置38のV入賞口383への遊技球の入球）が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態（V入賞口大当たり遊技の開閉実行モードの実行状態）を発生させるための制御を行う発生制御手段（MPU41）と、

所定状態における前記特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行する開始手段（MPU51）と、

を備え、

本遊技機は、

前記特定演出表示の表示状態において前記特別条件が成立することに基づいて前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、前記特定演出表示を継続し、

30

前記複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態（疑似大当たり遊技状態）として演出表示し、

前記一連の有利遊技状態（疑似大当たり遊技状態）として演出表示する前記特定演出表示の実行中に行われる最後の前記特別遊技状態の終了時又は終了後に前記一連の有利遊技状態を終了させる場合、前記一連の有利遊技状態としての結果に対応した報知表示（総出玉表示（出玉結果表示））を実行することを特徴とする遊技機。

【4386】

付記G1に係る遊技機では、一連の有利遊技状態として演出表示する特定演出表示の実行中に行われる最後の特別遊技状態の終了時又は終了後に、一連の有利遊技状態としての結果に対応した報知表示が実行される。このように、一連の有利遊技状態として演出表示する特定演出表示の実行中に行われる最後の特別遊技状態の終了時又は終了後に、一連の有利遊技状態としての結果に対応した報知表示が実行されることで、複数回の特別遊技状態での結果を、1回の特別遊技状態での結果であるように遊技者に認識させることが可能である。これにより、1回の特別遊技状態の発生によって得られる利益が制限される場合であっても、一連の有利遊技状態で多くの利益が得られた印象を遊技者に与えることが可能になる結果、遊技者に満足感を与えることが可能になる。

40

【4387】

〔付記G2〕

前記一連の有利遊技状態中に発生した前記特別遊技状態の数に応じた表示を行う手段を

50

備えることを特徴とする付記 G 1 に記載の遊技機。

【 4 3 8 8 】

付記 G 2 に係る遊技機では、一連の有利遊技状態中に発生した特別遊技状態の数に応じた表示が行われる。このように、一連の有利遊技状態中に発生した特別遊技状態の数に応じた表示が行われることで、当該表示に基づいて、一連の有利遊技状態中に発生した特別遊技状態の数（いわゆるラッシュ状態の連荘数）を把握することができる。

【 4 3 8 9 】

[付記 H 1]

遊技者の発射操作で遊技球を遊技領域の所定方向に発射する発射手段（発射ハンドル 2 2）と、

遊技者による所定の発射操作（右打ち）に基づいて遊技球が流下する所定流路（第 3 ルート 3 5 3）と、

を備え、

前記所定流路を流下する遊技球が入球可能な領域として、遊技球を受け入れる受入許可状態（第 1 開閉部材 3 9 A の開放状態）と遊技球を受け入れない受入非許可状態（第 1 開閉部材 3 9 A の閉鎖状態）とに状態が可変可能な第 1 の入球手段（第 1 入賞口 3 9 1）と、前記第 1 の入球手段とは異なる第 2 の入球手段（第 2 入賞口 3 1 5）と、遊技球が入球した場合に遊技球を前記第 2 の入球手段に入球させる状態を発生させるか否かの振分けを行う開閉可能な入球振分手段（振分入球装置 3 7）と、を備えた遊技機であって、

所定遊技状態（a 時短遊技状態）中に前記第 1 の入球手段が前記受入許可状態である場合に遊技球が入球することに基づいて所定条件（大当たり抽選結果が c 時短移行）が成立した場合に少なくとも特定の特典結果（c 時短遊技状態への移行）を導出可能な導出手段（M P U 4 1）と、

前記特定の特典結果が導出されることに基づいて実行される特定遊技状態（c 時短遊技状態、第 2 入賞口 3 1 5 の開放状態）において特定の切替条件（c 時短遊技状態の終了条件、例えば第 2 入賞口 3 1 5 への上限個数の遊技球の入球、振分入球装置 3 7 の電動役物 3 7 3 の復帰）が成立することに基づいて前記特定遊技状態を終了する状態終了手段（M P U 4 1）と、

前記特定遊技状態において遊技球が前記入球振分手段に入球した場合に、前記振分けに基づいて前記第 2 の入球手段に遊技球を入球させる状態となるように前記第 2 の入球手段を開放作動させる作動手段（第 2 開閉部材 3 9 B の開放機構）と、

前記第 2 の入球手段の前記開放作動を少なくとも所定の複数の遊技球の入球に基づいて終了する作動終了手段（第 2 開閉部材 3 9 B の閉鎖機構）と、

前記第 2 の入球手段の前記開放作動中に遊技球が入球した場合に特別条件（可変入賞装置 3 8 の V 入賞口 3 8 3 への遊技球の入球）が成立することに基づいて、必ず又は高確率で遊技者に有利な特別遊技状態（V 入賞口大当たり遊技の開閉実行モードの実行状態）を発生させるための制御を行う発生制御手段（M P U 4 1）と、

所定状態における前記特別遊技状態の発生に基づいて特定演出表示（疑似大当たり遊技演出（表示））を実行する開始手段（M P U 5 1）と、

を備え、

本遊技機は、

前記特定演出表示の表示状態において前記特別条件が成立することに基づいて前記特別遊技状態を複数回実行する場合に、前記特定演出表示を継続し、

前記複数回の特別遊技状態を一連の有利遊技状態（疑似大当たり遊技状態）として演出表示し、

前記特別条件が成立することに基づく前記特別遊技状態を実行する場合に、前記特別遊技状態において付与する価値（大当たり遊技のラウンド遊技数）を複数の中からランダムに決定する手段を備えたことを特徴とする遊技機。

【 4 3 9 0 】

付記 H 1 に係る遊技機では、特別条件が成立することに基づく特別遊技状態を実行する

10

20

30

40

50

場合に、特別遊技状態において付与する価値が複数の中からランダムに決定される。このように、特別条件が成立することに基づく特別遊技状態を実行する場合に、特別遊技状態において付与する価値が複数の中からランダムに決定されることで、特別遊技状態が実行される場合に、遊技者は、大きな価値が付与されることを期待しつつ遊技を実行することができるため、遊技の興趣が向上される。特に、複数回の特別遊技状態が実行される一連の有利遊技状態が1回の特別遊技状態であるかのように見せ掛ける場合、複数回の特別遊技状態の結果の合計が、大きな価値であることを期待しつつ遊技を実行することができるため、遊技の興趣が向上される。

【4391】

〔付記A1〕

遊技球を1球ずつ流入させる流入部（371）と、

所定条件（a時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり）が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第1動作手段（372）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段とは異なる第2動作手段（39A）に所定の動作（第2入賞口315Aの開放作動）を実行させ得る契機となる第1入球部（376A）と、

前記第1入球部への遊技球の入球を検出するための第1検出部（376Aa）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段及び前記第2動作手段とは異なる第3動作手段（39B）に少なくとも特定の動作（第2入賞口315Bの開放作動）を実行させ得る契機となる第2入球部（376B）と、

前記第2入球部への遊技球の入球を検出するための第2検出部（376Ba）と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段（374）と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第1入球部に誘導する第1状態となっている前記誘導手段を、前記第1入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第1入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第2入球部への入球が可能な第2状態に切り替える切替手段（可動誘導部374の駆動制御（処理））を備え、

前記第3動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第2動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であることを特徴とする遊技機。

【4392】

付記A1に係る遊技機では、所定条件の成立により第1動作手段が動作される場合、第1動作手段が動作することで流入部から流入した遊技球を第1入球部に誘導する第1状態となっている誘導手段が、第1入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として、切替手段によって第1入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ第2入球部への入球が可能な第2状態に切り替えられる。そのため、第1動作手段の動作により流入部から遊技球が流入した場合、先に第1入球部に所定数の遊技球が入球し、その後に、第2入球部に遊技球が入球される。その結果、所定条件の成立により第1動作手段が動作されることで流入部から遊技球が流入した場合、先に第2動作手段の所定の動作が実行され得り、その後に、第3動作手段の特定の動作が実行され得る。

【4393】

また、付記A1に係る遊技機では、第3動作手段の配設位置が、当該遊技機を正面視した状態において第2動作手段の配設位置よりも、垂直方向の上方側である。そのため、所定条件の成立により第1動作手段が動作されることで流入部から遊技球が流入した場合、先に垂直方向の下方側第2動作手段の所定の動作が実行され得り、その後に、垂直方向の上方側の第3動作手段の特定の動作が実行され得る。

【4394】

このような遊技機では、前述のような遊技部材の配置により、遊技者の識別性又は視認性を高め、効率良く遊技を行うことが可能となる。

10

20

30

40

50

【 4 3 9 5 】

〔付記 B 1〕

遊技球を 1 球ずつ流入させる流入部（ 3 7 1 ）と、

所定条件（ a 時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり）が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第 1 動作手段（ 3 7 2 ）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段とは異なる第 2 動作手段（ 3 9 A ）に所定の動作（第 2 入賞口 3 1 5 A の開放作動）を実行させ得る契機となる第 1 入球部（ 3 7 6 A ）と、

前記第 1 入球部への遊技球の入球を検出するための第 1 検出部（ 3 7 6 A a ）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段及び前記第 2 動作手段とは異なる第 3 動作手段（ 3 9 B ）に少なくとも特定の動作（第 2 入賞口 3 1 5 B の開放作動）を実行させ得る契機となる第 2 入球部（ 3 7 6 B ）と、

前記第 2 入球部への遊技球の入球を検出するための第 2 検出部（ 3 7 6 B a ）と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段（ 3 7 4 ）と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている前記誘導手段を、前記第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替える切替手段（可動誘導部 3 7 4 の駆動制御（処理））を備え、

前記第 3 動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第 2 動作手段の配設位置よりも遊技球の流下方向における上流側であることを特徴とする遊技機。

【 4 3 9 6 】

付記 B 1 に係る遊技機では、所定条件の成立により第 1 動作手段が動作される場合、第 1 動作手段が動作することで流入部から流入した遊技球を第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている誘導手段が、第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として、切替手段によって第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替えられる。そのため、第 1 動作手段の動作により流入部から遊技球が流入した場合、先に第 1 入球部に所定数の遊技球が入球し、その後に、第 2 入球部に遊技球が入球される。その結果、所定条件の成立により第 1 動作手段が動作されることで流入部から遊技球が流入した場合、先に第 2 動作手段の所定の動作が実行され得り、その後に、第 3 動作手段の特定の動作が実行され得る。

【 4 3 9 7 】

また、付記 B 1 に係る遊技機では、第 3 動作手段の配設位置が、当該遊技機を正面視した状態において第 2 動作手段の配設位置よりも、遊技球の流下方向における上流側である。そのため、所定条件の成立により第 1 動作手段が動作されることで流入部から遊技球が流入した場合、先に遊技球の流下方向の下流側の第 2 動作手段の所定の動作が実行され得り、その後に、遊技球の流下方向の上流側の第 3 動作手段の特定の動作が実行され得る。

【 4 3 9 8 】

このような遊技機では、前述のような遊技部材の配置により、遊技者の識別性又は視認性を高め、効率良く遊技を行うことが可能となる。

【 4 3 9 9 】

〔付記 B 2〕

前記第 2 動作手段と、前記第 3 動作手段とは、当該遊技機の正面視において、前後方向に位置ずれして配置されていることを特徴とする付記 B 1 に記載の遊技機。

【 4 4 0 0 】

付記 B 2 に係る遊技機では、第 2 動作手段と第 3 動作手段とが当該遊技機の正面視において前後方向に位置ずれして配置されている。このように、第 2 動作手段と第 3 動作手段とが当該遊技機の正面視において前後方向に位置ずれして配置されていることで、第 2 動

作手段及び第 3 動作手段の形状や動作態様の多様性が高くなる。これにより、第 2 動作手段と第 3 動作手段とを配置するために必要なスペースを小さくすることが可能になるため、遊技演出を実行可能の演出手段のためのスペースを大きく確保することが可能になる。例えば、液晶表示器などの表示装置において遊技演出が実行される場合には、表示装置の表示面積（正面視面積）を大きく確保でき、可動役物部材において遊技演出が実行される場合には、可動役物部材を大きくしたり可動役物部材の可動範囲を大きく確保したりすることが可能になる。

【 4 4 0 1 】

〔付記 B 3〕

前記第 2 動作手段の前記所定の動作と、前記第 3 動作手段の前記特定の動作とは、異なる動作態様であることを特徴とする付記 B 1 に記載の遊技機。

10

【 4 4 0 2 】

付記 B 3 に係る遊技機では、第 2 動作手段の所定の動作と第 3 動作手段の特定の動作とが異なる動作態様である。このように、第 2 動作手段の所定の動作と第 3 動作手段の特定の動作とが異なる動作態様であることで、第 2 動作手段及び第 3 動作手段の形状や動作態様の多様性が高くなる。これにより、第 2 動作手段と第 3 動作手段とを配置するために必要なスペースを小さくすることが可能になるため、遊技演出を実行可能の演出手段のためのスペースを大きく確保することが可能になる。例えば、液晶表示器などの表示装置において遊技演出が実行される場合には、表示装置の表示面積（正面視面積）を大きく確保でき、可動役物部材において遊技演出が実行される場合には、可動役物部材を大きくしたり可動役物部材の可動範囲を大きく確保したりすることが可能になる。

20

【 4 4 0 3 】

〔付記 B 4〕

前記流入部から流入して前記第 1 入球部及び前記第 2 入球部のいずれにも入球しなかった遊技球が入球可能な排出口（378）を備えることを特徴とする付記 B 1 に記載の遊技機。

【 4 4 0 4 】

付記 B 4 に係る遊技機では、流入部から流入して第 1 入球部及び第 2 入球部のいずれにも入球しなかった遊技球が入球可能な排出口を備える。このように、流入部から流入して第 1 入球部及び第 2 入球部のいずれにも入球しなかった遊技球が入球可能な排出口を備えることで、遊技盤に遊技球が不要に滞留することを防止することが可能になる。例えば、流入部から過剰数の遊技球が入球した場合や、誘導手段が第 1 状態でも第 2 状態でもない状態である場合であっても、第 1 入球部及び第 2 入球部に遊技球入球しなかった遊技球を排出口から排出できる。これにより、イレギュラーな事態が発生した場合における流入部や、第 1 入球部及び第 2 入球部の周辺での球詰まりを防止することができる。

30

【 4 4 0 5 】

〔付記 B 5〕

前記流入部から流入した遊技球が前記第 2 入球部の配設位置に到達するまでの流路に遊技球の流下速度を減速するための減速手段（373C，373D）が設けられていることを特徴とする付記 B 1 に記載の遊技機。

40

【 4 4 0 6 】

付記 B 5 に係る遊技機では、流入部から流入した遊技球が第 2 入球部の配設位置に到達するまでの流路に遊技球の流下速度を減速するための減速手段が設けられている。このように、流入部から流入した遊技球が第 2 入球部の配設位置に到達するまでの流路に遊技球の流下速度を減速するための減速手段が設けられていることで、流入部から流入した遊技球が第 2 入球部の配設位置に到達するまでの時間を長く確保することが可能になる。例えば、流入部から流入した遊技球を第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている誘導手段を、第 1 入球部への遊技球の入球が不能で、かつ第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替えるまでの時間を長く確保できる。これにより、減速手段での遊技球の流下速度の減速によって、誘導手段を第 2 状態に切り替えてから第 2 入球部の配設位置に遊技球を到達

50

させることができるため、より確実に第2入球部に遊技球を入球させることができる。その結果、第2入球部に遊技球が入球せずに第3動作手段の特定の動作が実行されないことに起因する不利益の発生が防止される。

【4407】

【付記B6】

前記流入部から流入した遊技球を、前記流入部から前記第2入球部の配設位置までの複数の流路のうちの1の流路に振り分ける振分手段が設けられていることを特徴とする付記B1に記載の遊技機。

【4408】

付記B6に係る遊技機では、流入部から流入した遊技球を流入部から第2入球部の配設位置までの複数の流路のうちの1の流路に振り分ける振分手段が設けられている。このように、流入部から流入した遊技球を流入部から第2入球部の配設位置までの複数の流路のうちの1の流路に振り分ける振分手段が設けられていることで、流入部から流入した遊技球が第1入球部の配設位置に到達するまでの時間と、第2入球部の配設位置に到達するまでの時間とに差異を設けることが可能になる。例えば流路のうちの1の流路が、第1入球部の配置位置に遊技球が到達可能な他の流路に比べて、遊技球の移動速度が小さい場合には、第2入球部の配設位置に到達するまでの時間を長く確保することが可能になる。そのため、流入部から流入した遊技球を第1入球部に誘導する第1状態となっている誘導手段を、第1入球部への遊技球の入球が不能で、かつ第2入球部への入球が可能な第2状態に切り替えるまでの時間を長く確保できる。これにより、振分手段を設けることによって、誘導手段を第2状態に切り替えてから第2入球部の配設位置に遊技球を到達させることができるため、より確実に第2入球部に遊技球を入球させることができる。その結果、第2入球部に遊技球が入球せずに第3動作手段の特定の動作が実行されないことに起因する不利益の発生が防止される。

【4409】

【付記B7】

発射された遊技球が所定位置を超えた場合に遊技盤(31)の形成された遊技領域に進入する遊技機であって、

前記第3動作手段は、前記第2動作手段よりも前記所定位置に近い位置に配設されていることを特徴とする付記B1に記載の遊技機。

【4410】

付記B7に係る遊技機では、発射された遊技球が所定位置を超えた場合に遊技盤の形成された遊技領域に進入し、第3動作手段が第2動作手段よりも所定位置に近い位置に配設されているので、遊技において遊技者は効率よく遊技を行うことができる。具体的には、例えば発射された遊技球が所定位置を超えた場合に遊技盤の形成された遊技領域に進入し、第3動作手段が第2動作手段よりも所定位置に近い位置に配設されていることで、所定位置から第3動作手段までの遊技球の移動距離(移動時間)を、所定位置から第2動作手段までの遊技球の移動距離(移動時間)に比べて長く設定される。そのため、所定位置を超えて流入部から流入した遊技球が第2入球部の配設位置に到達するまでの時間を長く確保することが可能になる。そのため、流入部から流入した遊技球を第1入球部に誘導する第1状態となっている誘導手段を、第1入球部への遊技球の入球が不能で、かつ第2入球部への入球が可能な第2状態に切り替えるまでの時間を長く確保できる。これにより、減速手段での遊技球の流下速度の減速によって、誘導手段を第2状態に切り替えてから第2入球部の配設位置に遊技球を到達させることができるため、より確実に第2入球部に遊技球を入球させることができる。その結果、第2入球部に遊技球が入球せずに第3動作手段の特定の動作が実行されないことに起因する不利益の発生が防止される。

【4411】

【付記C1】

遊技球を1球ずつ流入させる流入部(371)と、

所定条件(a時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり)が成立した場合に

、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第1動作手段(372)と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段とは異なる第2動作手段(39A)に所定の動作(第2入賞口315Aの開放作動)を実行させ得る契機となる第1入球部(376A)と、

前記第1入球部への遊技球の入球を検出するための第1検出部(376Aa)と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段及び前記第2動作手段とは異なる第3動作手段(39B)に少なくとも特定の動作(第2入賞口315Bの開放作動)を実行させ得る契機となる第2入球部(376B)と、

前記第2入球部への遊技球の入球を検出するための第2検出部(376Ba)と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段(374)と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第1入球部に誘導する第1状態となっている前記誘導手段を、前記第1入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第1入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第2入球部への入球が可能な第2状態に切り替える切替手段(可動誘導部374の駆動制御(処理))を備え、

前記第3動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第2動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であり、

前記第2動作手段と、前記第3動作手段とは、当該遊技機の正面視において、前後方向に位置ずれして配置されていることを特徴とする遊技機。

【4412】

付記C1に係る遊技機では、第2動作手段と第3動作手段とが当該遊技機の正面視において前後方向に位置ずれして配置されている。このように、第2動作手段と第3動作手段とが当該遊技機の正面視において前後方向に位置ずれして配置されていることで、第2動作手段及び第3動作手段の形状や動作態様の多様性が高くなる。これにより、第2動作手段と第3動作手段とを配置するために必要なスペースを小さくすることが可能になるため、遊技演出を実行可能な演出手段のためのスペースを大きく確保することが可能になる。例えば、液晶表示器などの表示装置において遊技演出が実行される場合には、表示装置の表示面積(正面視面積)を大きく確保でき、可動役物部材において遊技演出が実行される場合には、可動役物部材を大きくしたり可動役物部材の可動範囲を大きく確保したりすることが可能になる。

【4413】

[付記D1]

遊技球を1球ずつ流入させる流入部(371)と、

所定条件(a時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり)が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第1動作手段(372)と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段とは異なる第2動作手段(39A)に所定の動作(第2入賞口315Aの開放作動)を実行させ得る契機となる第1入球部(376A)と、

前記第1入球部への遊技球の入球を検出するための第1検出部(376Aa)と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第1動作手段及び前記第2動作手段とは異なる第3動作手段(39B)に少なくとも特定の動作(第2入賞口315Bの開放作動)を実行させ得る契機となる第2入球部(376B)と、

前記第2入球部への遊技球の入球を検出するための第2検出部(376Ba)と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段(374)と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第1入球部に誘導する第1状態となっている前記

10

20

30

40

50

誘導手段を、前記第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替える切替手段（可動誘導部 374 の駆動制御（処理））を備え、

前記第 3 動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第 2 動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であり、

前記第 2 動作手段の前記所定の動作と、前記第 3 動作手段の前記特定の動作とは、異なる動作態様であることを特徴とする遊技機。

【4414】

付記 D 1 に係る遊技機では、第 2 動作手段の所定の動作と第 3 動作手段の特定の動作とが異なる動作態様である。このように、第 2 動作手段の所定の動作と第 3 動作手段の特定の動作とが異なる動作態様であることで、第 2 動作手段及び第 3 動作手段の形状や動作態様の多様性が高くなる。これにより、第 2 動作手段と第 3 動作手段とを配置するために必要なスペースを小さくすることが可能になるため、遊技演出を実行可能の演出手段のためのスペースを大きく確保することが可能になる。例えば、液晶表示器などの表示装置において遊技演出が実行される場合には、表示装置の表示面積（正面視面積）を大きく確保でき、可動役物部材において遊技演出が実行される場合には、可動役物部材を大きくしたり可動役物部材の可動範囲を大きく確保したりすることが可能になる。

【4415】

〔付記 E 1〕

遊技球を 1 球ずつ流入させる流入部（371）と、

所定条件（a 時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり）が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第 1 動作手段（372）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段とは異なる第 2 動作手段（39A）に所定の動作（第 2 入賞口 315A の開放作動）を実行させ得る契機となる第 1 入球部（376A）と、

前記第 1 入球部への遊技球の入球を検出するための第 1 検出部（376Aa）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段及び前記第 2 動作手段とは異なる第 3 動作手段（39B）に少なくとも特定の動作（第 2 入賞口 315B の開放作動）を実行させ得る契機となる第 2 入球部（376B）と、

前記第 2 入球部への遊技球の入球を検出するための第 2 検出部（376Ba）と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段（374）と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている前記誘導手段を、前記第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替える切替手段（可動誘導部 374 の駆動制御（処理））を備え、

前記第 3 動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第 2 動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であり、

前記流入部から流入して前記第 1 入球部及び前記第 2 入球部のいずれにも入球しなかった遊技球が入球可能な排出口（378）を備えることを特徴とする遊技機。

【4416】

付記 E 1 に係る遊技機では、流入部から流入して第 1 入球部及び第 2 入球部のいずれにも入球しなかった遊技球が入球可能な排出口を備える。このように、流入部から流入して第 1 入球部及び第 2 入球部のいずれにも入球しなかった遊技球が入球可能な排出口を備えることで、遊技盤に遊技球が不要に滞留することを防止することが可能になる。例えば、流入部から過剰数の遊技球が入球した場合や、誘導手段が第 1 状態でも第 2 状態でもない状態である場合であっても、第 1 入球部及び第 2 入球部に遊技球入球しなかった遊技球を排出口から排出できる。これにより、イレギュラーな事態が発生した場合における流入部

10

20

30

40

50

や、第 1 入球部及び第 2 入球部の周辺での球詰まりを防止することができる。

【 4 4 1 7 】

[付記 F 1]

遊技球を 1 球ずつ流入させる流入部 (3 7 1) と、

所定条件 (a 時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり) が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第 1 動作手段 (3 7 2) と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段とは異なる第 2 動作手段 (3 9 A) に所定の動作 (第 2 入賞口 3 1 5 A の開放作動) を実行させ得る契機となる第 1 入球部 (3 7 6 A) と、

前記第 1 入球部への遊技球の入球を検出するための第 1 検出部 (3 7 6 A a) と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段及び前記第 2 動作手段とは異なる第 3 動作手段 (3 9 B) に少なくとも特定の動作 (第 2 入賞口 3 1 5 B の開放作動) を実行させ得る契機となる第 2 入球部 (3 7 6 B) と、

前記第 2 入球部への遊技球の入球を検出するための第 2 検出部 (3 7 6 B a) と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段 (3 7 4) と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている前記誘導手段を、前記第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替える切替手段 (可動誘導部 3 7 4 の駆動制御 (処理)) を備え、

前記第 3 動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第 2 動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であり、

前記流入部から流入した遊技球が前記第 2 入球部の配設位置に到達するまでの流路に遊技球の流下速度を減速するための減速手段 (3 7 3 C, 3 7 3 D) が設けられていることを特徴とする遊技機。

【 4 4 1 8 】

付記 F 1 に係る遊技機では、流入部から流入した遊技球が第 2 入球部の配設位置に到達するまでの流路に遊技球の流下速度を減速するための減速手段が設けられている。このように、流入部から流入した遊技球が第 2 入球部の配設位置に到達するまでの流路に遊技球の流下速度を減速するための減速手段が設けられていることで、流入部から流入した遊技球が第 2 入球部の配設位置に到達するまでの時間を長く確保することが可能になる。例えば、流入部から流入した遊技球を第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている誘導手段を、第 1 入球部への遊技球の入球が不能で、かつ第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替えるまでの時間を長く確保できる。これにより、減速手段での遊技球の流下速度の減速によって、誘導手段を第 2 状態に切り替えてから第 2 入球部の配設位置に遊技球を到達させることができるため、より確実に第 2 入球部に遊技球を入球させることができる。その結果、第 2 入球部に遊技球が入球せずに第 3 動作手段の特定の動作が実行されないことに起因する不利益の発生が防止される。

【 4 4 1 9 】

[付記 G 1]

遊技球を 1 球ずつ流入させる流入部 (3 7 1) と、

所定条件 (a 時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり) が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第 1 動作手段 (3 7 2) と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段とは異なる第 2 動作手段 (3 9 A) に所定の動作 (第 2 入賞口 3 1 5 A の開放作動) を実行させ得る契機となる第 1 入球部 (3 7 6 A) と、

前記第 1 入球部への遊技球の入球を検出するための第 1 検出部 (3 7 6 A a) と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段及び前記

第 2 動作手段とは異なる第 3 動作手段（39B）に少なくとも特定の動作（第 2 入賞口 315B の開放作動）を実行させ得る契機となる第 2 入球部（376B）と、

前記第 2 入球部への遊技球の入球を検出するための第 2 検出部（376Ba）と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段（374）と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている前記誘導手段を、前記第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替える切替手段（可動誘導部 374 の駆動制御（処理））を備え、

前記第 3 動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第 2 動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であり、

前記流入部から流入した遊技球を、前記流入部から前記第 2 入球部の配設位置までの複数の流路のうちの 1 の流路に振り分ける振分手段が設けられていることを特徴とする遊技機。

【4420】

付記 G 1 に係る遊技機では、流入部から流入した遊技球を流入部から第 2 入球部の配設位置までの複数の流路のうちの 1 の流路に振り分ける振分手段が設けられている。このように、流入部から流入した遊技球を流入部から第 2 入球部の配設位置までの複数の流路のうちの 1 の流路に振り分ける振分手段が設けられていることで、流入部から流入した遊技球が第 1 入球部の配設位置に到達するまでの時間と、第 2 入球部の配設位置に到達するまでの時間とに差異を設けることが可能になる。例えば流路のうちの 1 の流路が、第 1 入球部の配置位置に遊技球が到達可能な他の流路に比べて、遊技球の移動速度が小さい場合には、第 2 入球部の配設位置に到達するまでの時間を長く確保することが可能になる。そのため、流入部から流入した遊技球を第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている誘導手段を、第 1 入球部への遊技球の入球が不能で、かつ第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替えるまでの時間を長く確保できる。これにより、振分手段を設けることによって、誘導手段を第 2 状態に切り替えてから第 2 入球部の配設位置に遊技球を到達させることができるため、より確実に第 2 入球部に遊技球を入球させることができる。その結果、第 2 入球部に遊技球が入球せずに第 3 動作手段の特定の動作が実行されないことに起因する不利益の発生が防止される。

【4421】

[付記 H 1]

遊技球を 1 球ずつ流入させる流入部（371）と、

所定条件（a 時短遊技状態における普図当たり抽選での普図当たり）が成立した場合に、前記流入部へ遊技球が流入するように動作可能な第 1 動作手段（372）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段とは異なる第 2 動作手段（39A）に所定の動作（第 2 入賞口 315A の開放作動）を実行させ得る契機となる第 1 入球部（376A）と、

前記第 1 入球部への遊技球の入球を検出するための第 1 検出部（376Aa）と、

前記流入部から流入した遊技球が入球することに基づいて、前記第 1 動作手段及び前記第 2 動作手段とは異なる第 3 動作手段（39B）に少なくとも特定の動作（第 2 入賞口 315B の開放作動）を実行させ得る契機となる第 2 入球部（376B）と、

前記第 2 入球部への遊技球の入球を検出するための第 2 検出部（376Ba）と、

前記流入部から流入した遊技球の進行に作用して遊技球を所定流路に誘導する誘導手段（374）と、

を備えた遊技機であって、

本遊技機は、

前記流入部から流入した遊技球を前記第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている前記

10

20

30

40

50

誘導手段を、前記第 1 入球部に所定数の遊技球が入球することを契機として前記第 1 入球部への遊技球の入球が不能であり、かつ前記第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替える切替手段（可動誘導部 374 の駆動制御（処理））を備え、

前記第 3 動作手段の配設位置は、当該遊技機を正面視した状態において、前記第 2 動作手段の配設位置よりも垂直方向の上方側であり、

発射された遊技球が所定位置を超えた場合に遊技盤（31）の形成された遊技領域に進入する遊技機であって、

前記第 3 動作手段は、前記第 2 動作手段よりも前記所定位置に近い位置に配設されていることを特徴とする遊技機。

【4422】

付記 H1 に係る遊技機では、発射された遊技球が所定位置を超えた場合に遊技盤の形成された遊技領域に進入し、第 3 動作手段が第 2 動作手段よりも所定位置に近い位置に配設されているので、遊技において遊技者は効率よく遊技を行うことができる。具体的には、例えば、発射された遊技球が所定位置を超えた場合に遊技盤の形成された遊技領域に進入し、第 3 動作手段が第 2 動作手段よりも所定位置に近い位置に配設されていることで、所定位置から第 3 動作手段までの遊技球の移動距離（移動時間）を、所定位置から第 2 動作手段までの遊技球の移動距離（移動時間）に比べて長く設定される。そのため、所定位置を超えて流入部から流入した遊技球が第 2 入球部の配設位置に到達するまでの時間を長く確保することが可能になる。そのため、流入部から流入した遊技球を第 1 入球部に誘導する第 1 状態となっている誘導手段を、第 1 入球部への遊技球の入球が不能で、かつ第 2 入球部への入球が可能な第 2 状態に切り替えるまでの時間を長く確保できる。これにより、減速手段での遊技球の流下速度の減速によって、誘導手段を第 2 状態に切り替えてから第 2 入球部の配設位置に遊技球を到達させることができるため、より確実に第 2 入球部に遊技球を入球させることができる。その結果、第 2 入球部に遊技球が入球せずに第 3 動作手段の特定の動作が実行されないことに起因する不利益の発生が防止される。

【符号の説明】

【4423】

10：遊技機

31：遊技盤

314：第 1 入賞口

315：第 2 入賞口

316：可変入賞口

317L, 317R：スルーゲート

341：図柄表示部

4：主制御装置

41：MPU

411：ROM

412：RAM

5：音声ランプ制御装置

51：MPU

511：ROM

512：RAM

10

20

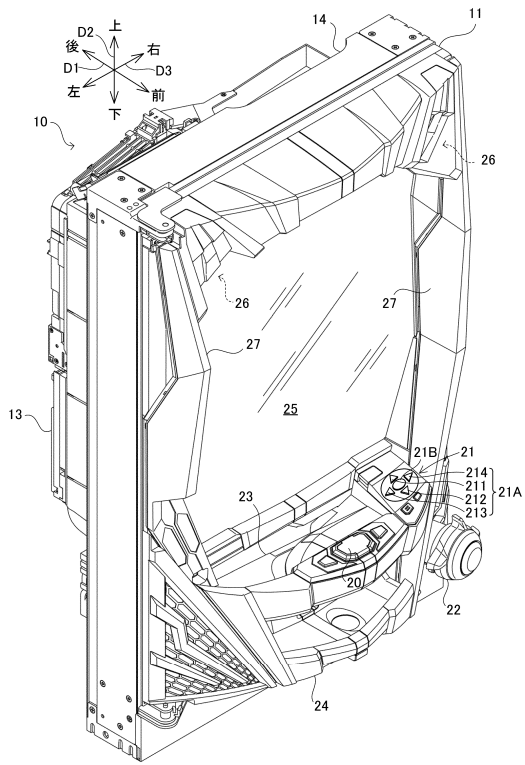
30

40

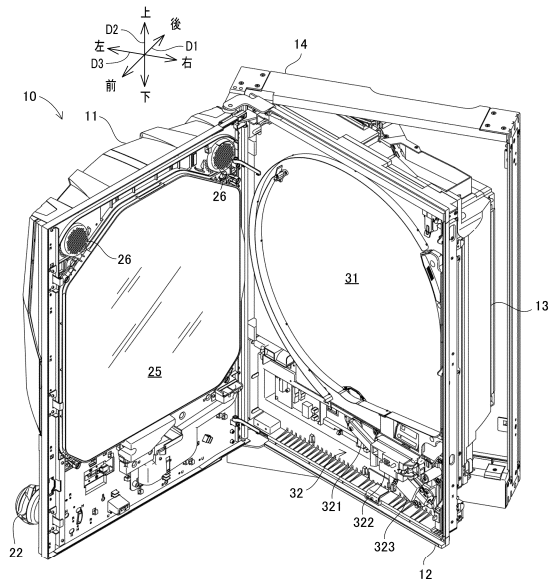
50

【図面】

【図 1】



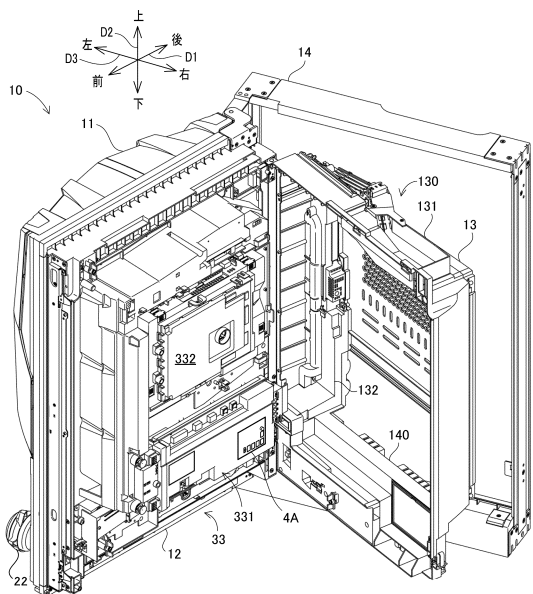
【図 2】



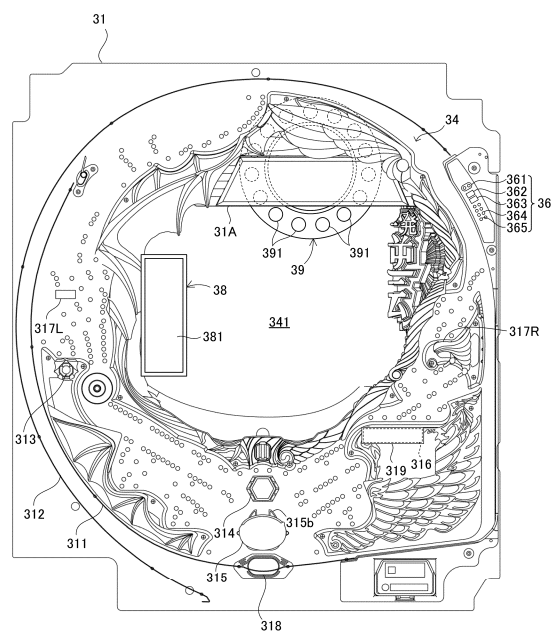
10

20

【図 3】



【図 4】

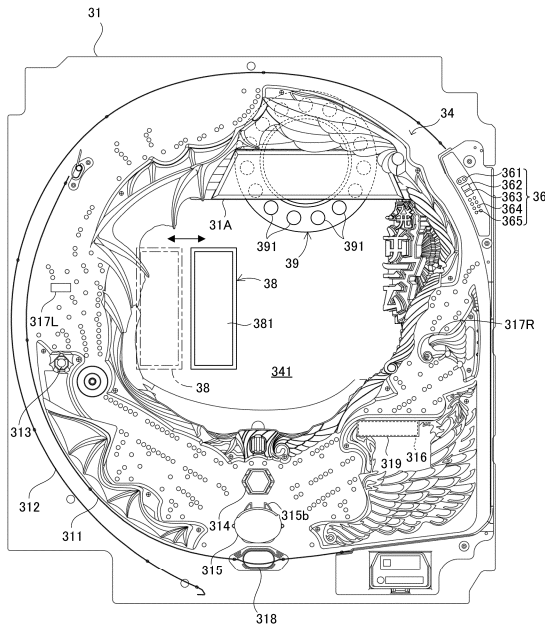


30

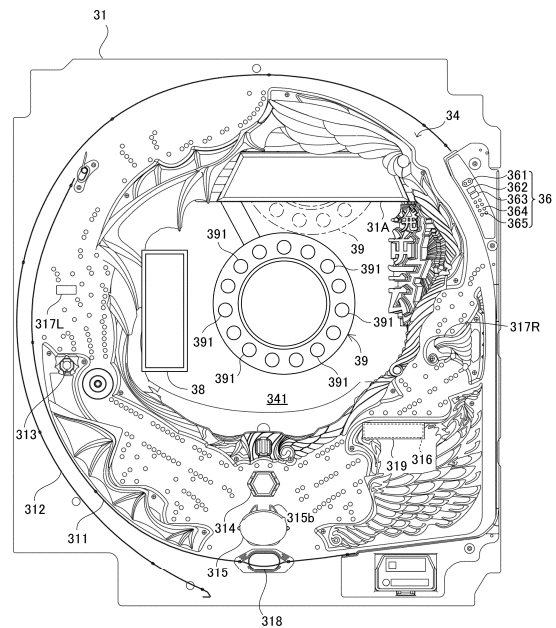
40

50

【図 5】



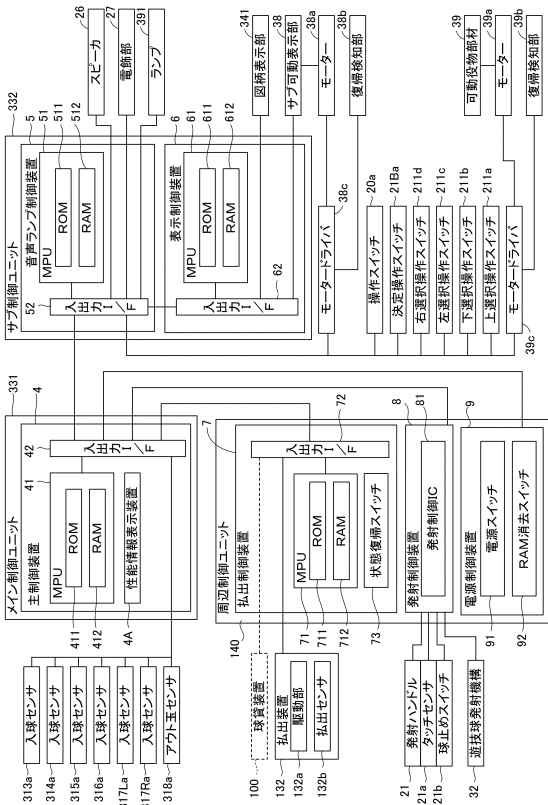
【図 6】



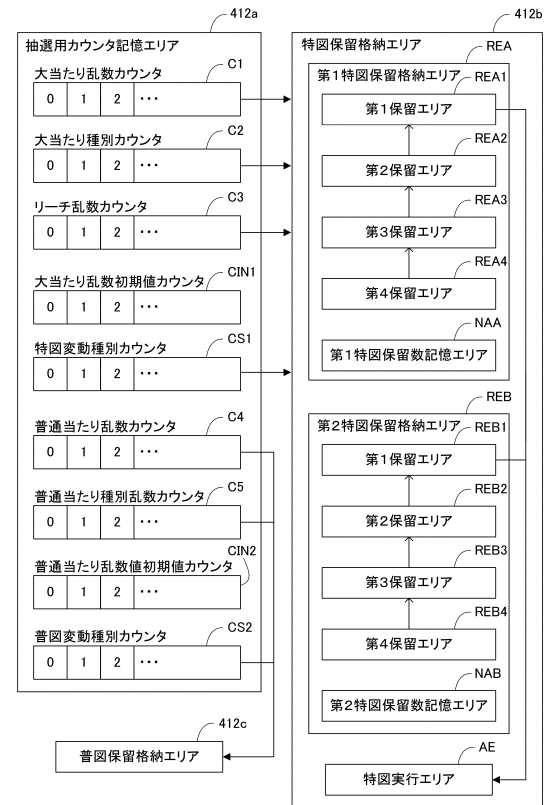
10

20

【図 7】



【図 8】



30

40

50

【図 9】

(A)低確率モード当否テーブル

遊技設定値	大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当た確率
1	0~205	大当たり	約1／318. 1
	206~65535	外れ	
2	0~211	大当たり	約1／309. 1
	212~65535	外れ	
3	0~217	大当たり	約1／300. 6
	218~65535	外れ	
4	0~223	大当たり	約1／292. 6
	224~65535	外れ	
5	0~229	大当たり	約1／284. 9
	230~65535	外れ	
6	0~235	大当たり	約1／277. 7
	236~65535	外れ	

(B)高確率モード当否テーブル

遊技設定値	大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率
1	0~820	大当たり	約1／79. 9
	821~65535	外れ	
2	0~844	大当たり	約1／77. 6
	845~65535	外れ	
3	0~868	大当たり	約1／75. 4
	869~65535	外れ	
4	0~892	大当たり	約1／73. 4
	893~65535	外れ	
5	0~916	大当たり	約1／71. 5
	917~65535	外れ	
6	0~940	大当たり	約1／69. 6
	941~65535	外れ	

(C)振分テーブル

種別	大当たり種別カウンタ	大当たり種別
第1特図	0~9	5R確変大当たり
	10~14	16R確変大当たり
	15~19	5R通常大当たり
第2特図	0~4	5R確変大当たり
	5~14	16R確変大当たり
	15~19	5R通常大当たり

(D)外れ種別テーブル

リーチ乱数カウンタ	外れ種別
0~8	前後外れリーチ
9~38	前後外れ以外リーチ
39~238	完全外れ

【図 1 0】

通常大当たり変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0~19	01(30s)
20~119	02(60s)
120~199	03(90s)

(A)

確変大当たり変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0~9	01(30s)
10~99	02(60s)
100~199	03(90s)

(B)

外れ変動テーブル

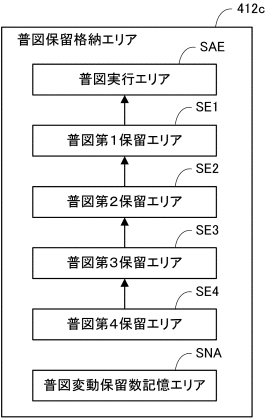
外れ種別	特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
前後外れリーチ	0~99	01(30s)
	100~149	02(60s)
	150~199	03(90s)
前後外れ以外リーチ	0~149	04(7s)
	150~199	05(10s)
完全外れ		

(C)

10

20

【図 1 1】



【図 1 2】

(A)低頻度サポートモード普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	当たり	1／300
1~299	外れ	

(B)高頻度サポートモード普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	外れ	299／300
1~299	当たり	

(C)低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル

普図当たり種別乱数カウンタ	抽選結果	開放時間
0~99	短開放	0. 1秒
100~199	長開放	6秒

(D)高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル

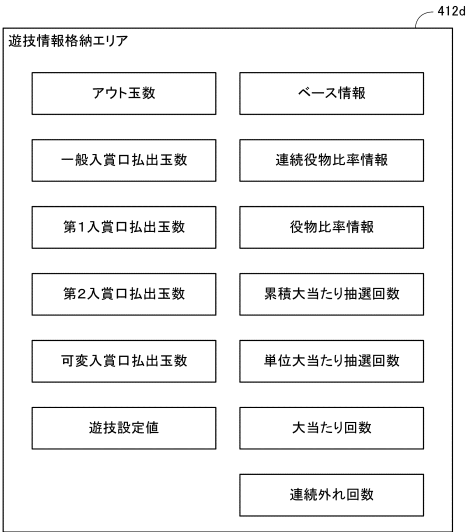
普図当たり種別乱数カウンタ	抽選結果	開放時間
0	短開放	0. 1秒
1~199	長開放	6秒

30

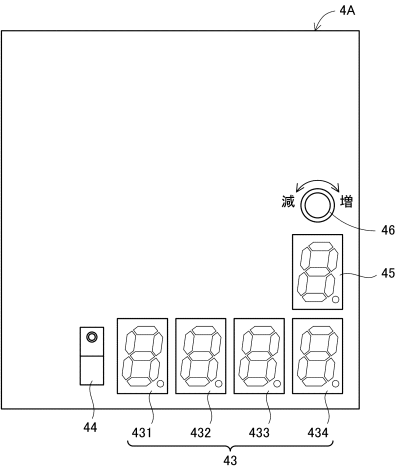
40

50

【図 1 3】



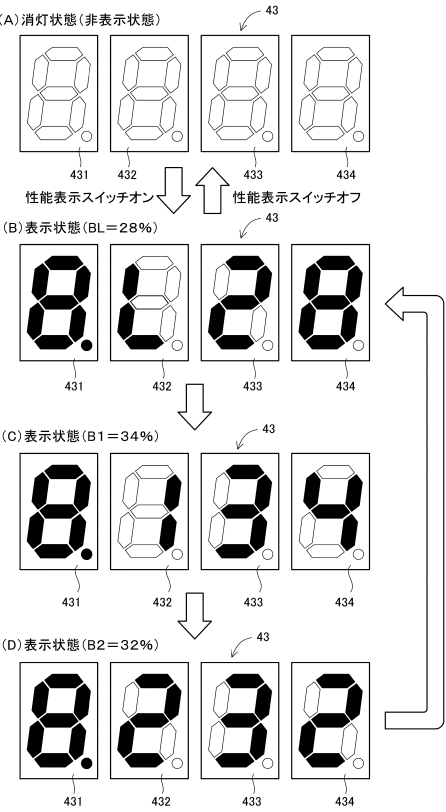
【図 1 4】



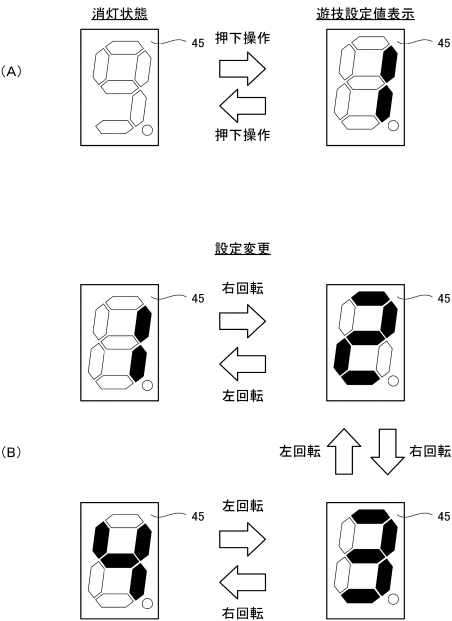
10

20

【図 1 5】



【図 1 6】

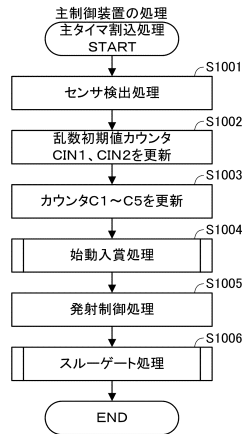


30

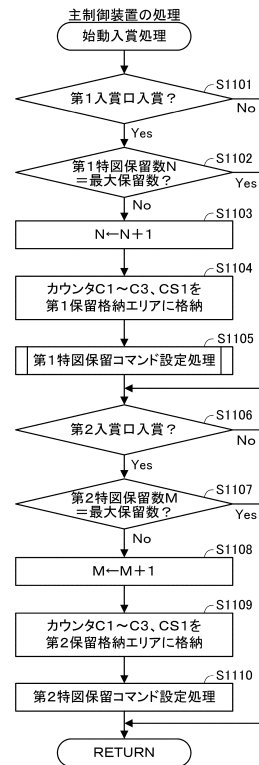
40

50

【図 17】



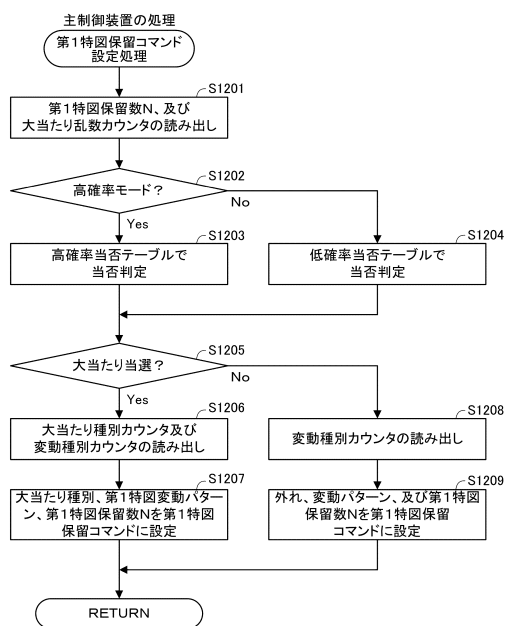
【図 18】



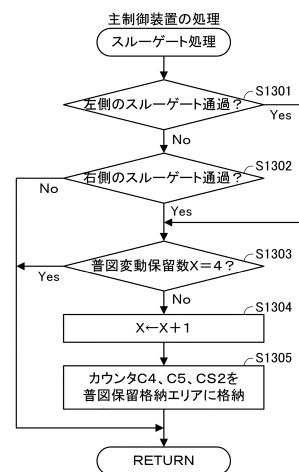
10

20

【図 19】



【図 20】

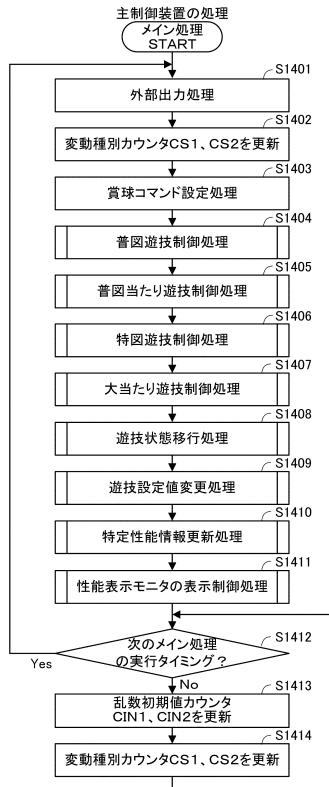


30

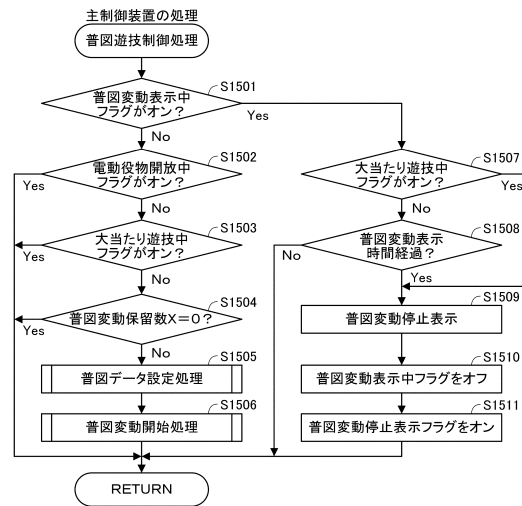
40

50

【図 2 1】



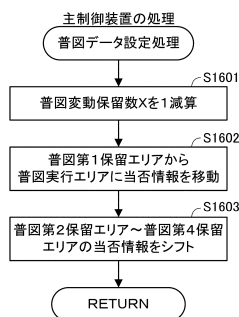
【図 2 2】



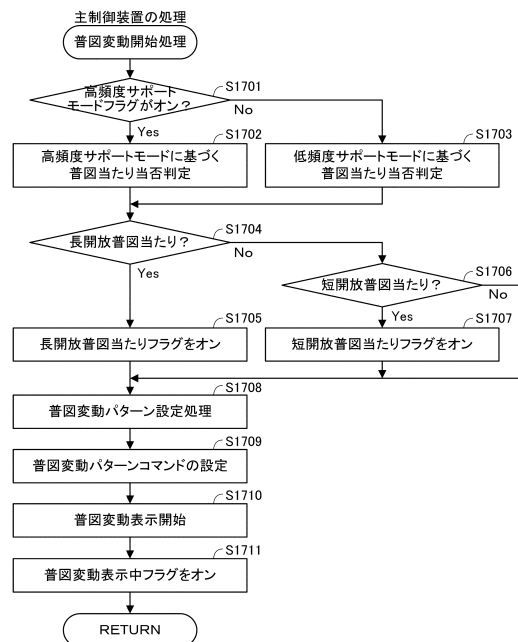
10

20

【図 2 3】



【図 2 4】

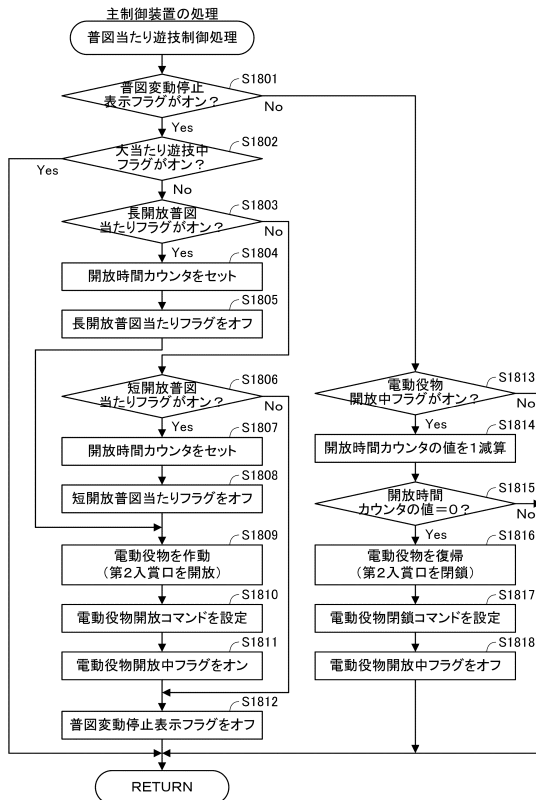


30

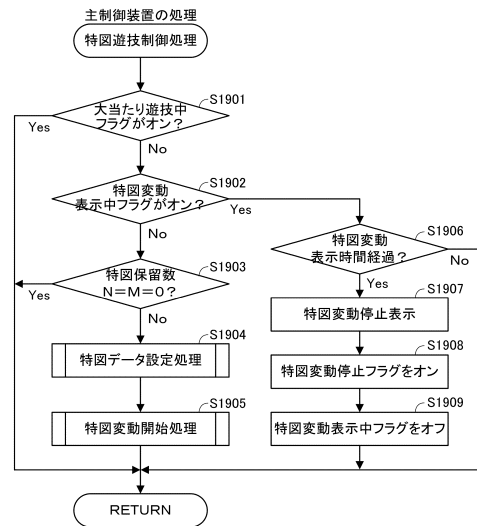
40

50

【図 25】



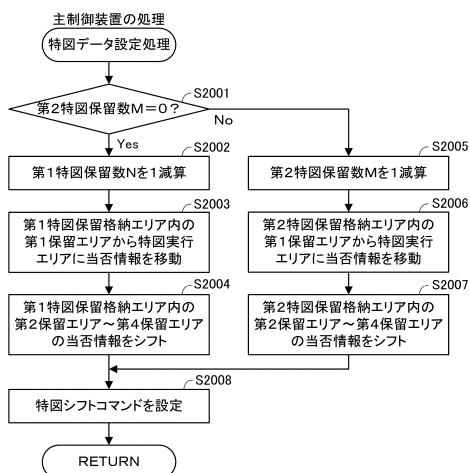
【図 26】



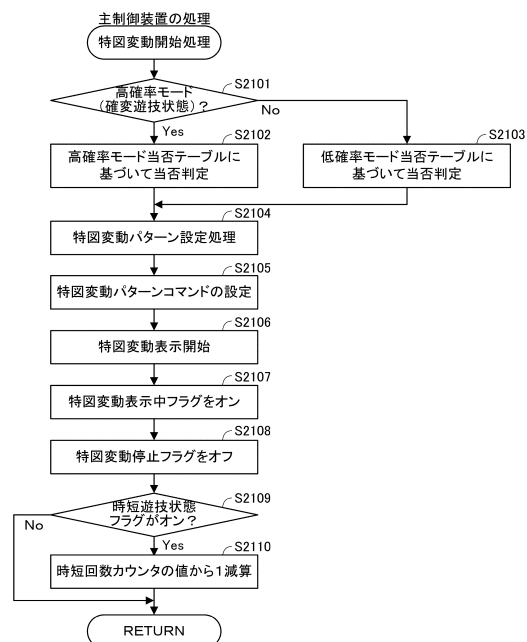
10

20

【図 27】



【図 28】

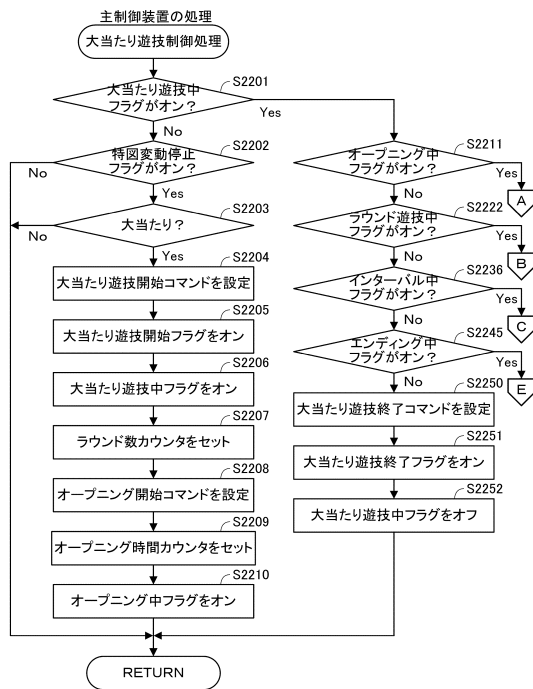


30

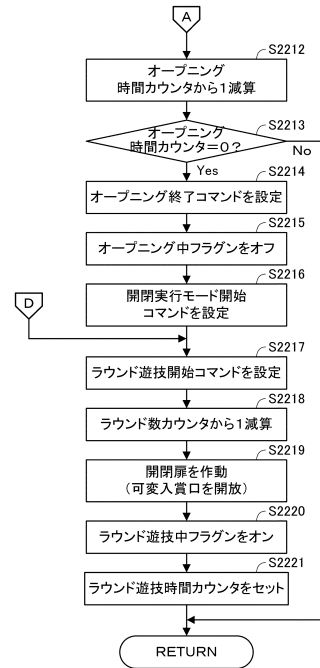
40

50

【図 29】



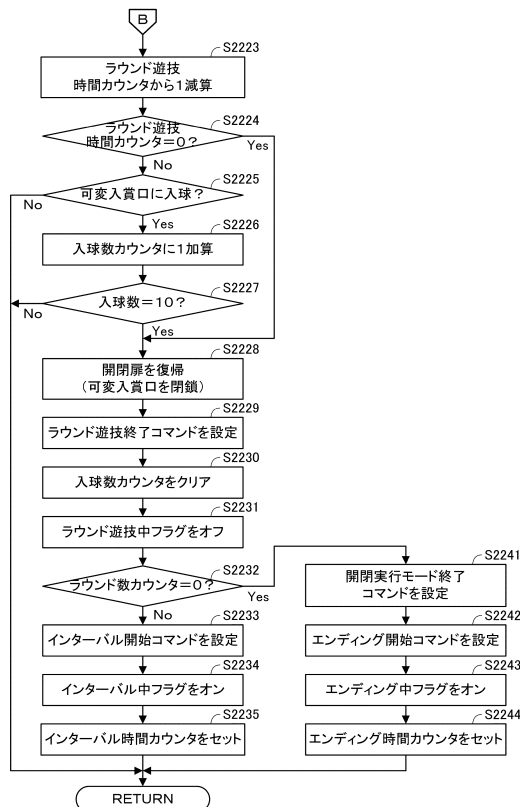
【図 30】



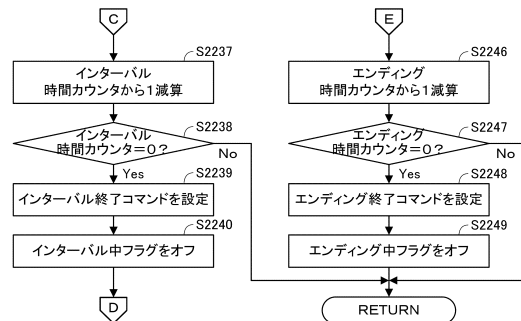
10

20

【図 31】



【図 32】

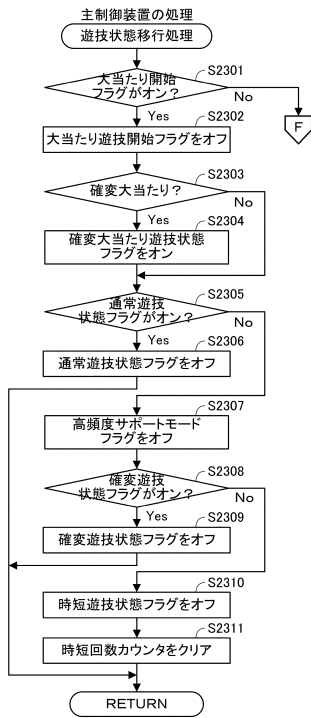


30

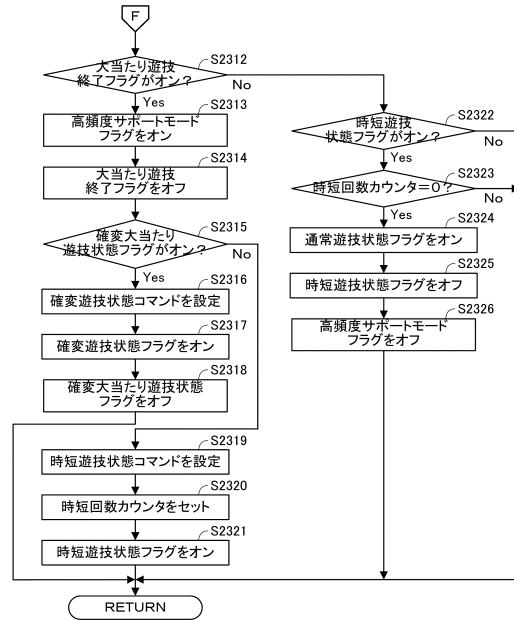
40

50

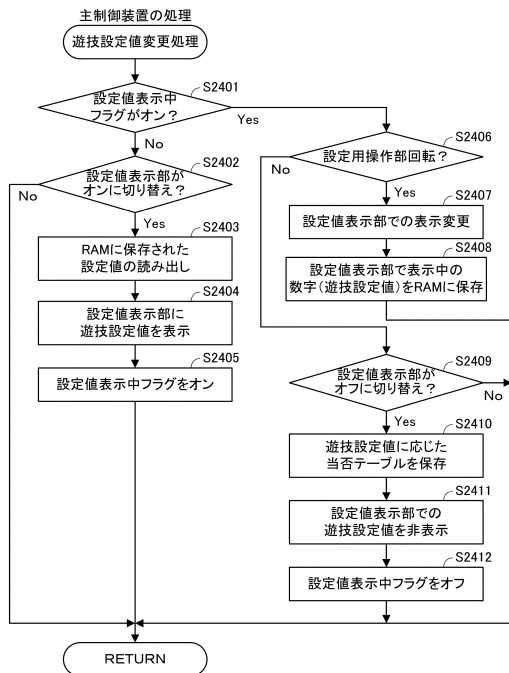
【図 3 3】



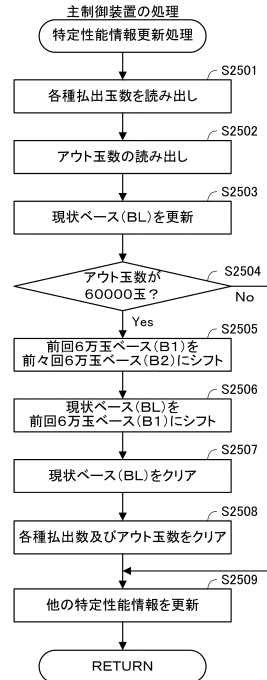
【図 3 4】



【図 3 5】



【図 3 6】



10

20

30

40

50

【図 3 7】

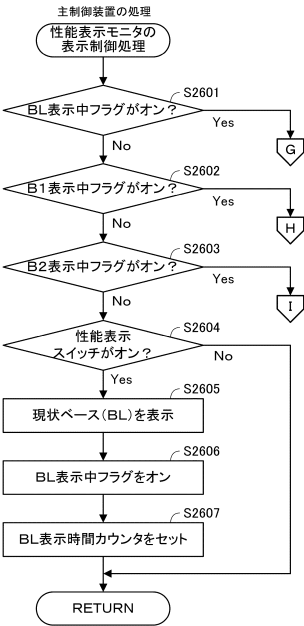
(A) ベース情報 (アウト玉数 < 60000 玉)

ベース種別	略号	ベース値 (%)
現状ベース	BL	29
前回6万玉ベース	B1	33
前々回6万玉ベース	B2	32

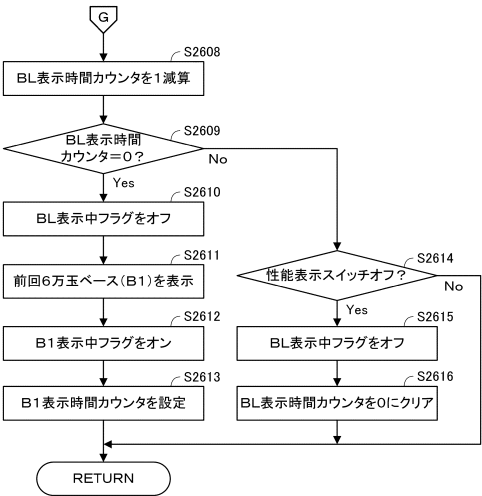
(B) ベース情報 (アウト玉数 = 60000 玉)

ベース種別	略号	ベース値 (%)
現状ベース	BL	0
前回6万玉ベース	B1	29
前々回6万玉ベース	B2	33

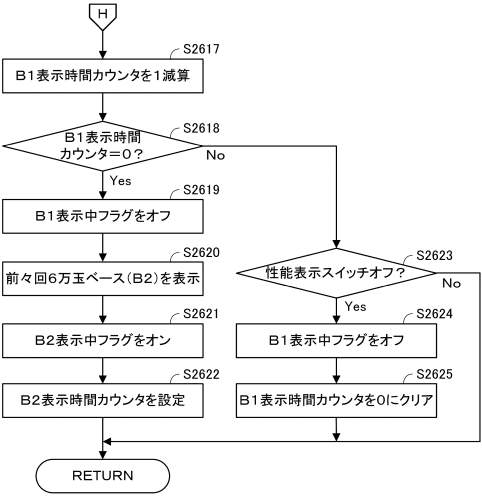
【図 3 8】



【図 3 9】



【図 4 0】



10

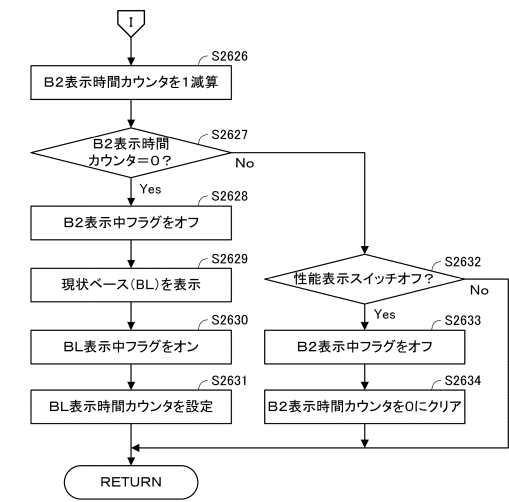
20

30

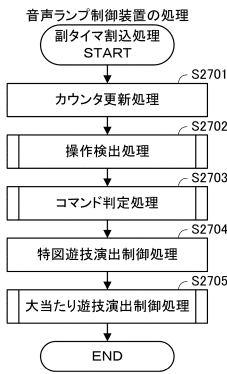
40

50

【図 4 1】



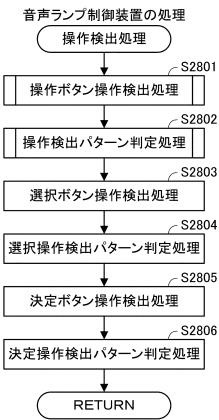
【図 4 2】



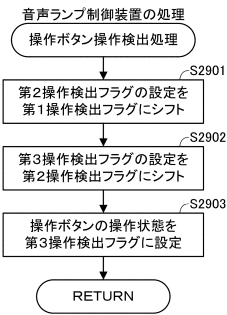
10

20

【図 4 3】



【図 4 4】

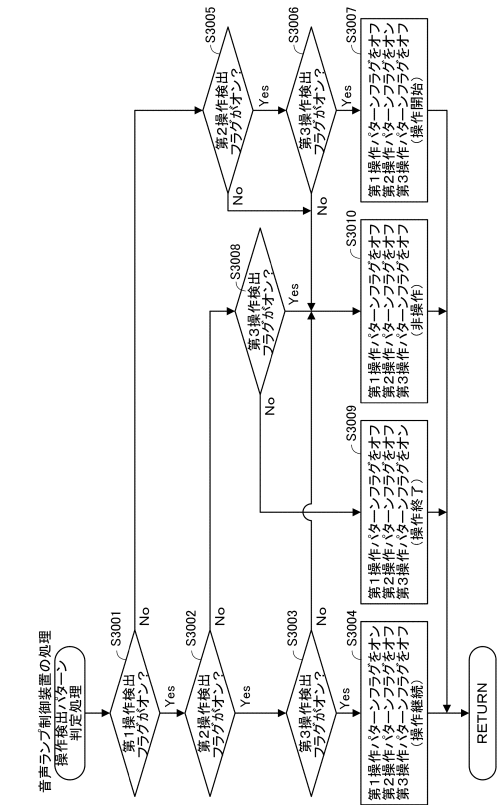


30

40

50

【図 4 5】



【図 4 6】

(A) 操作ボタン操作データ

操作検出フラグ			操作ハターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

(B) 上選択ボタン操作データ

上選択操作検出フラグ			上選択操作ハターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

(C) 下選択ボタン操作データ

下選択操作検出フラグ			下選択操作ハターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

(D) 左選択ボタン操作データ

左選択操作検出フラグ			左選択操作ハターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

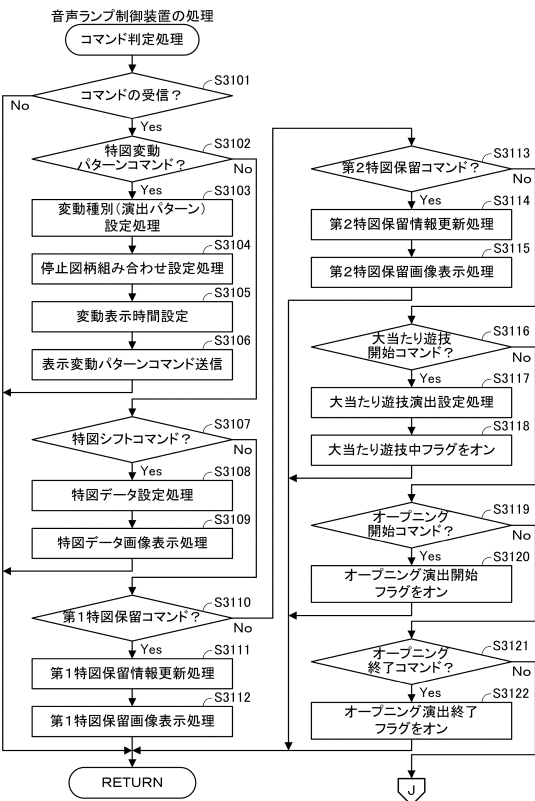
(E) 右選択ボタン操作データ

右選択操作検出フラグ			右選択操作ハターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

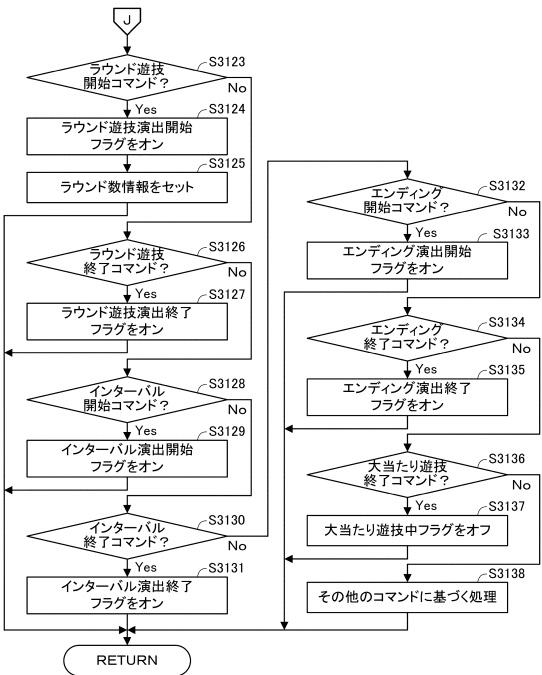
(F) 決定ボタン操作データ

決定操作検出フラグ			決定操作ハターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

【図 4 7】



【図 4 8】



10

20

30

40

50

【図 4 9】

変動種別テーブル

特図変動 パターンコマンド	変動種別 (演出パターン)	変動表示時間[秒]
A01	ノーマルリーチ	30
A02	スーパーリーチ	60
A03	スペシャルリーチ	90
B01	ノーマルリーチ	30
B02	スーパーリーチ	60
B03	スペシャルリーチ	90
C01	ノーマルリーチ	30
C02	スーパーリーチ	60
C03	スペシャルリーチ	90
D01	ノーマルリーチ	30
D02	スーパーリーチ	60
D03	スペシャルリーチ	90
D04	非リーチ	7
D05	非リーチ	10

【図 5 0】

(A) ノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブル

演出パターン種別 カウンタ	演出パターン種別						
	A(5R通常)	B(5R確変)	C(16R確変)	D(外れ)			
0~9	演出パターンX1	演出パターンX1	演出パターンX2	演出パターンX1			
10~19		演出パターンX2	演出パターンX3				
20~29		演出パターンX4	演出パターンX4				
30~39			演出パターンX5				
40~49	演出パターンX3						
50~59	演出パターンX4			演出パターンX2			
60~69							
70~79							
80~89	演出パターンX5	演出パターンX5	演出パターンX3				
90~99				演出パターンX5			
100~109							

(B) スーパーリーチ演出パターン種別選択テーブル

演出パターン種別 カウンタ	演出パターン種別							
	A(5R通常)	B(5R確変)	C(16R確変)	D(外れ)				
0~9	演出パターンY1	演出パターンY1	演出パターンY1	演出パターンY1				
10~19			演出パターンY2	演出パターンY2				
20~29			演出パターンY2	演出パターンY3	演出パターンY3			
30~39				演出パターンY4	演出パターンY4			
40~49	演出パターンY3	演出パターンY3		演出パターンY5				
50~59								
60~69								
70~79								
80~89	演出パターンY4	演出パターンY5						
90~99					演出パターンY4			
100~109								

(C) スペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブル

演出パターン種別 カウンタ	演出パターン種別							
	A(5R通常)	B(5R確変)	C(16R確変)	D(外れ)				
0~9	演出パターンZ1	演出パターンZ1	演出パターンZ1	演出パターンZ1				
10~19			演出パターンZ2	演出パターンZ2				
20~29			演出パターンZ2	演出パターンZ3				
30~39			演出パターンZ2	演出パターンZ4				
40~49	演出パターンZ2	演出パターンZ3	演出パターンZ3	演出パターンZ5				
50~59	演出パターンZ3	演出パターンZ3						
60~69								
70~79								
80~89		演出パターンZ4	演出パターンZ5					
90~99	演出パターンZ4							
100~109								

【図 5 1】

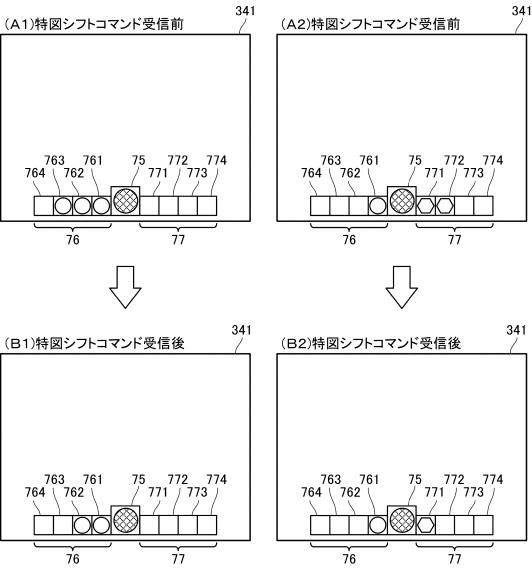
(A) 飾り図柄の色の一例

飾り図柄	色
1	緑色
2	青色
3	赤色
4	青色
5	緑色
6	青色
7	赤色
8	青色
9	緑色

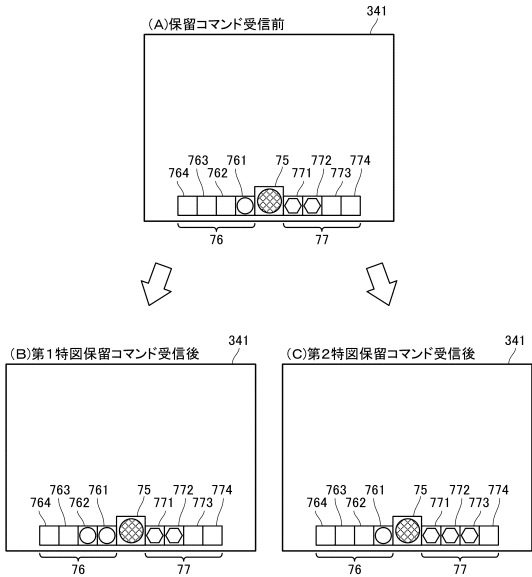
(B) 第1停止図柄選択テーブル

第1停止図柄 種別カウンタ	抽選結果				
	A(5R通常)	B(5R確変)	C(16R確変)	D(外れ)	
0~4	1	1	1	1	
5~9		2	2	2	
10~14			3		
15~19					
20~24	2				
25~29	3	4	3		
30~34		5	4		
35~39		6	5		
40~44		4		7	6
45~49	5				
50~54					
55~59					
60~64	4		7	6	
65~69	5				
70~74					
75~79					
80~84	6		8	7	
85~89	6				
90~94					
95~99					

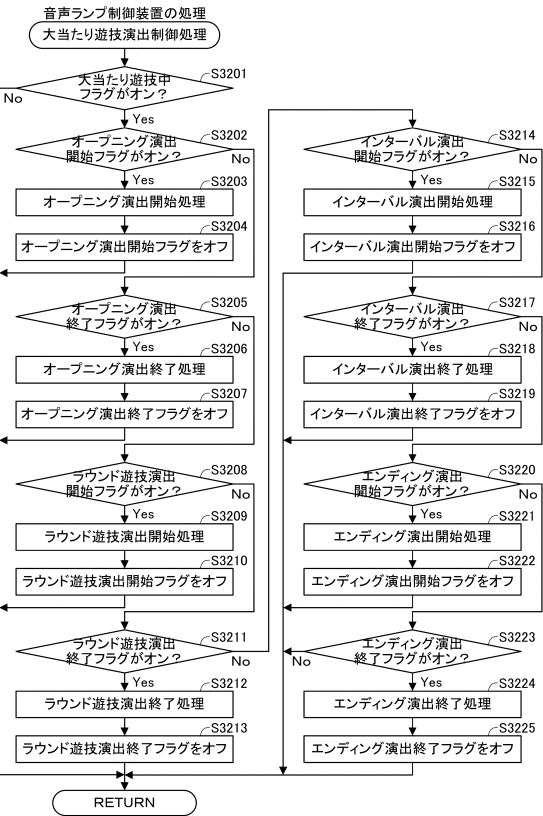
【図 5 2】



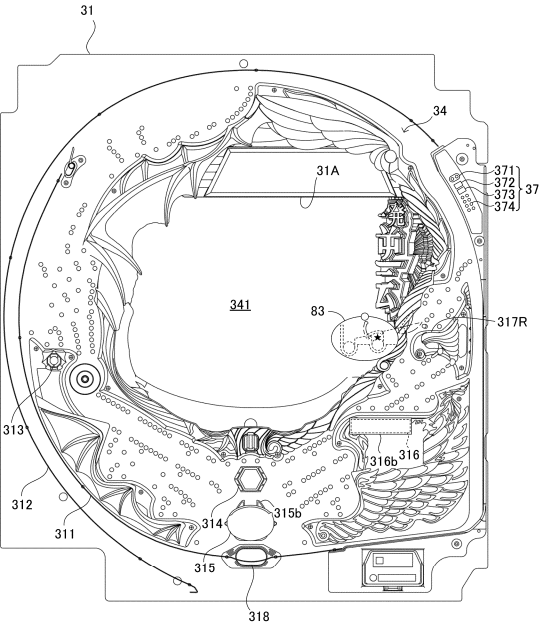
【図 5 3】



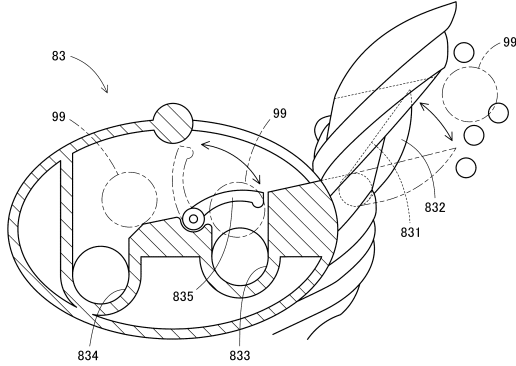
【図 5 4】



【図 5 5】



【図 5 6】



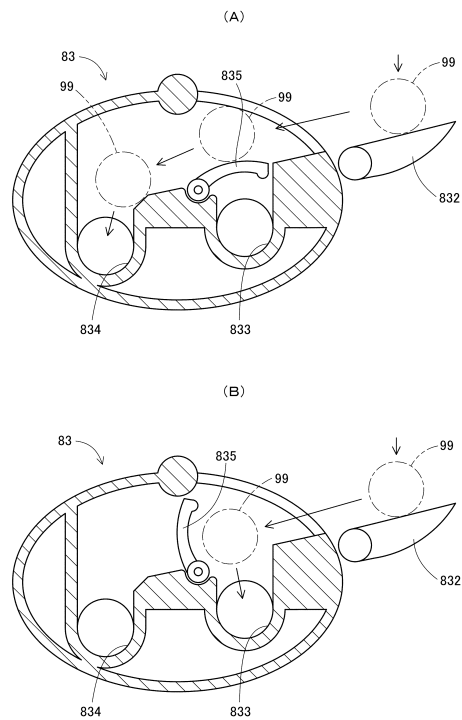
【図 5 7】



【図 5 8】



【図 5 7】



【図 5 8】

(A) 通常遊技状態普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	当たり	1/300
1~299	外れ	

(B) 時短遊技状態普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	外れ	299/300
1~299	当たり	

(C) 通常遊技状態普図変動テーブル

普図変動種別カウンタ	普図変動時間
0~98	30秒
99	1秒

(D) 時短遊技状態普図変動テーブル

普図変動種別カウンタ	普図変動時間
0~99	1秒

(E) 遊技状態種別と普図当たり時の開放形態との関係

遊技状態種別	開放形態	最大開放時間	最大時短回数
通常遊技状態	短開放	0.1秒	—
a時短遊技状態	長開放	15秒	1回
b時短遊技状態	中開放	3秒	500回
c時短遊技状態	短開放	0.1秒	図198(D)

* 5個入賞で閉鎖

【図 5 9】

(A) 第1特図当たり当否テーブル

遊技設定値	大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率
1	0~205	大当たり	約1/318.1
	206~65535	外れ	
2	0~211	大当たり	約1/309.1
	212~65535	外れ	
3	0~217	大当たり	約1/300.6
	218~65535	外れ	
4	0~223	大当たり	約1/292.6
	224~65535	外れ	
5	0~229	大当たり	約1/284.9
	230~65535	外れ	
6	0~235	大当たり	約1/277.7
	236~65535	外れ	

(B) 通常—a時短第1特図大当たり種別振分テーブル

大当たり種別カウンタ	大当たり種別	移行先
0~11	4R時短大当たり	a時短遊技状態
12~19	4R通常大当たり	通常遊技状態

(C) b時短—c時短第1特図大当たり種別振分テーブル

大当たり種別カウンタ	大当たり種別	移行先
0~19	4R時短大当たり	a時短遊技状態

(D) 第1特図大当たり変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0~9	01(30s)
10~119	02(60s)
120~199	03(90s)

(E) 第1特図外れ種別振分テーブル

リーチ乱数カウンタ	外れ種別
0~8	前後外れリーチ
9~38	前後外れ以外リーチ
39~238	完全外れ

(F) 第1特図外れ変動テーブル

外れ種別	特図変動種別カウンタ	変動パターン
前後外れリーチ	0~99	01(30s)
	100~149	02(60s)
	150~199	03(90s)
前後外れ以外リーチ	0~149	04(7s)
	150~199	05(10s)

【図 6 0】

(A) b時短—c時短第2特図大当たり当否テーブル

遊技設定値	大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率
1	0~205	大当たり	約1/318.1
	206~65535	外れ	
2	0~211	大当たり	約1/309.1
	212~65535	外れ	
3	0~217	大当たり	約1/300.6
	218~65535	外れ	
4	0~223	大当たり	約1/292.6
	224~65535	外れ	
5	0~229	大当たり	約1/284.9
	230~65535	外れ	
6	0~235	大当たり	約1/277.7
	236~65535	外れ	

(B) b時短—c時短第2特図大当たり種別振分テーブル

大当たり種別カウンタ	大当たり種別	移行先
0~19	4R時短大当たり	a時短遊技状態

(C) b時短—c時短第2特図大当たり変動テーブル

変動種別カウンタ	変動パターン
0~9	01(30s)
10~119	02(60s)
120~199	03(90s)

(D) b時短—c時短第2特図外れ種別振分テーブル

リーチ乱数カウンタ	外れ種別
0~8	前後外れリーチ
9~38	前後外れ以外リーチ
39~238	完全外れ

(E) b時短—c時短第2特図外れ変動テーブル

外れ種別	変動種別カウンタ	変動パターン
前後外れリーチ	0~99	01(30s)
	100~149	02(60s)
	150~199	03(90s)
完全外れ	0~149	04(7s)
	150~199	05(10s)

10

20

30

40

50

【図 6 1】

(A) 通常 - a 時短第2特図大当たり当否テーブル			
遊技設定値	大当たり乱数カウンタ	抽選結果	確率
1〜6	0〜13106	小当たり	約1/5 (約20%)
	13107〜65535	外れ	約4/5 (約80%)

(B) a 時短第2特図外れ種別振分テーブル		
リーチ乱数カウンタ	外れ種別	確率
0〜238	完全外れ	239/239 (100%)

(C) 通常遊技状態第2特図外れ種別振分テーブル		
リーチ乱数カウンタ	外れ種別	確率
0〜226	完全外れ	227/239 (約95%)
227〜229	時短図柄停止外れA	3/239 (約1.25%)
230〜232	時短図柄停止外れB	3/239 (約1.25%)
233〜235	時短図柄停止外れC	3/239 (約1.25%)
236〜238	時短図柄停止外れD	3/239 (約1.25%)

(D) 時短図柄停止外れの特徴		
時短図柄停止外れ種別	最大時短遊技回数	時短図柄
時短図柄停止外れA	10回	119、991
時短図柄停止外れB	20回	554、556
時短図柄停止外れC	30回	332、334
時短図柄停止外れD	40回	776、778

(E) V入賞時大当たり種別振分テーブル		
大当たり種別カウンタ	大当たり種別	確率
0〜3	16R時短大当たり	4/20 (20%)
4〜19	4R時短大当たり	16/20 (80%)

【図 6 2】

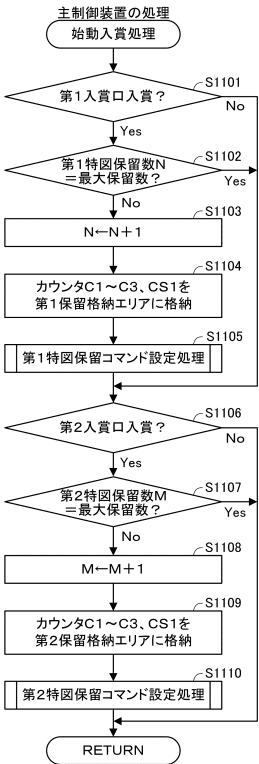
(A) a 時短第2特図変動テーブル		
変動種別カウンタ	変動パターン	
0〜199	08 (40s)	

(B) 通常第2特図保留第2特図変動テーブル (a 時短移行後の残保留)		
保留パターン種別	変動種別カウンタ	変動パターン
残保留パターン1、5	0〜199	09 (120秒)
残保留パターン2、6	0〜199	02 (60秒)
残保留パターン3、7	0〜199	10 (40秒)
残保留パターン4、8	0〜199	01 (30秒)

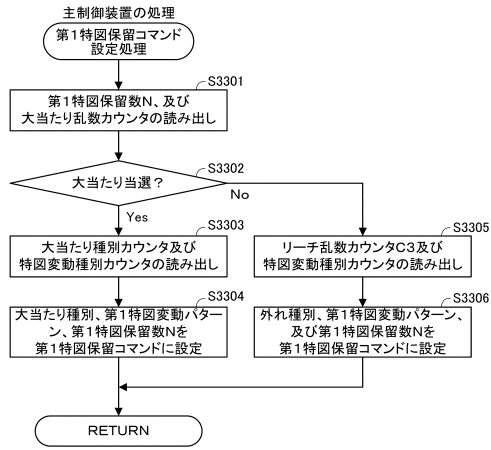
(C) 残保留パターン種別の説明図		
残保留パターン種別	第2特図残保留数	小当たり当否
残保留パターン1	1	外れ
残保留パターン2	2	全て外れ
残保留パターン3	3	全て外れ
残保留パターン4	4	全て外れ
残保留パターン5	1〜4	第1保留小当たり
残保留パターン6	2〜4	第2保留小当たり
残保留パターン7	3〜4	第3保留小当たり
残保留パターン8	4	第4保留小当たり

(D) 残保留パターン種別の説明図						
残保留パターン種別	第2特図残保留					
	第1	第2	第3	第4	各変動	合計変動
残保留パターン1	外れ	保留無	保留無	保留無	120秒	120秒×1
残保留パターン2	外れ	外れ	保留無	保留無	60秒	60秒×2
残保留パターン3	外れ	外れ	外れ	保留無	40秒	40秒×3
残保留パターン4	外れ	外れ	外れ	外れ	30秒	30秒×4
残保留パターン5	小当たり	不問	不問	不問	120秒	120秒×1
残保留パターン6	外れ	小当たり	不問	不問	60秒	60秒×2
残保留パターン7	外れ	外れ	小当たり	不問	40秒	40秒×3
残保留パターン8	外れ	外れ	外れ	小当たり	30秒	30秒×4

【図 6 3】



【図 6 4】



10

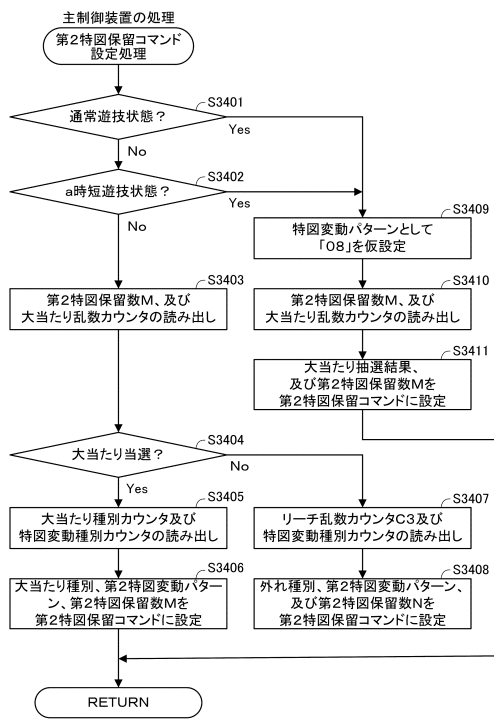
20

30

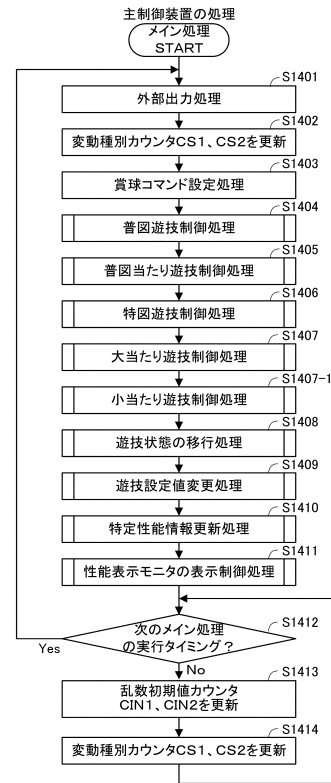
40

50

【図 6 5】



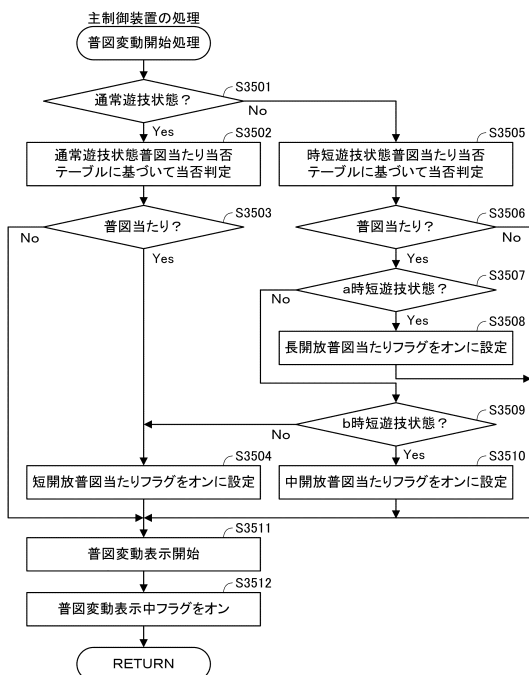
【図 6 6】



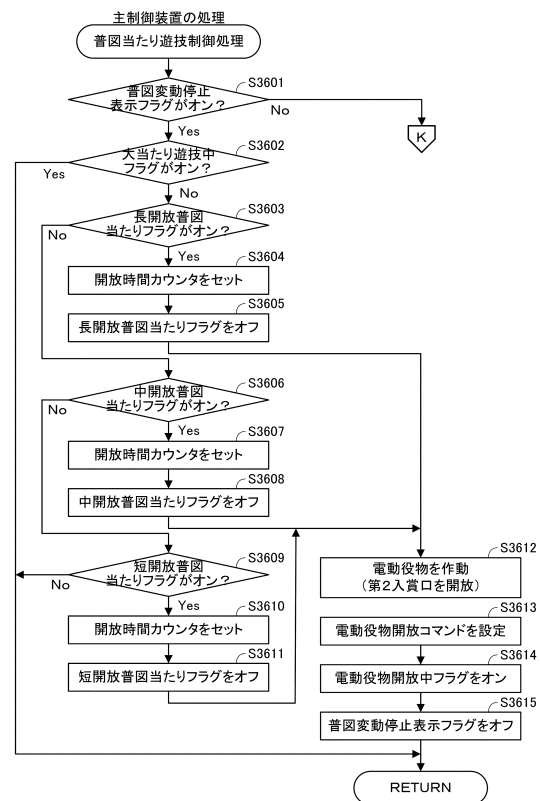
10

20

【図 6 7】



【図 6 8】

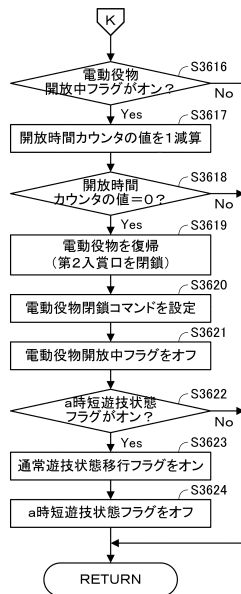


30

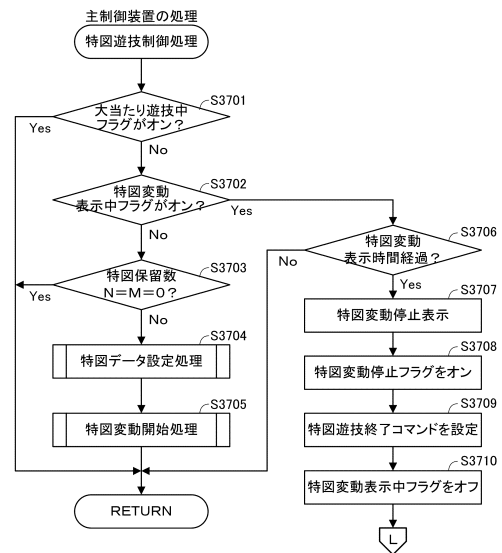
40

50

【図 69】



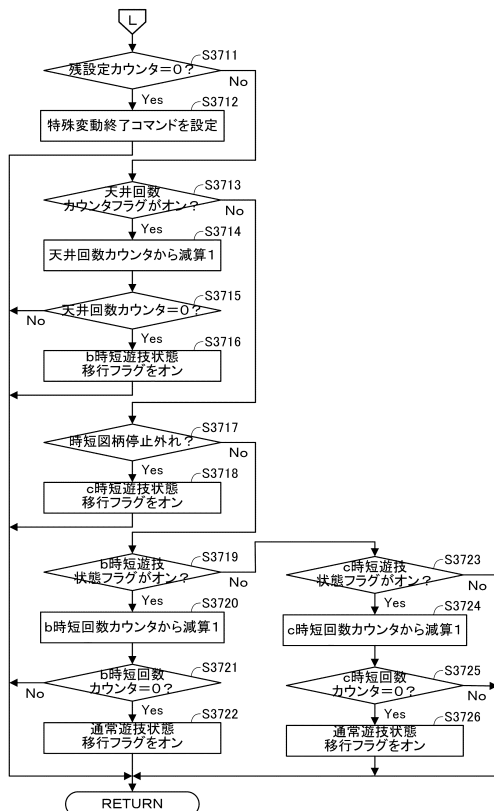
【図 70】



10

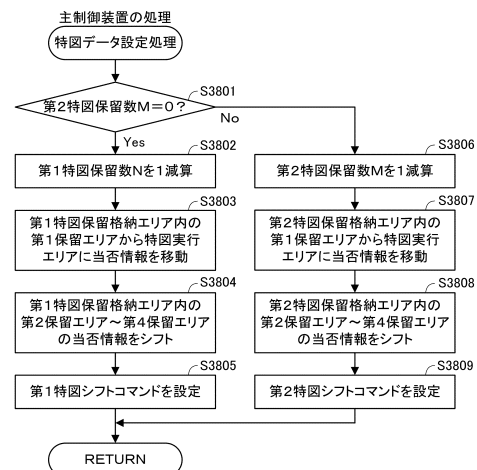
20

【図 71】



30

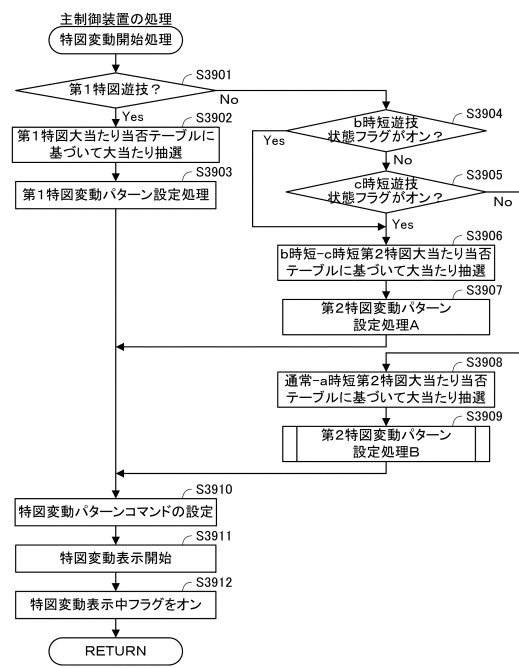
【図 72】



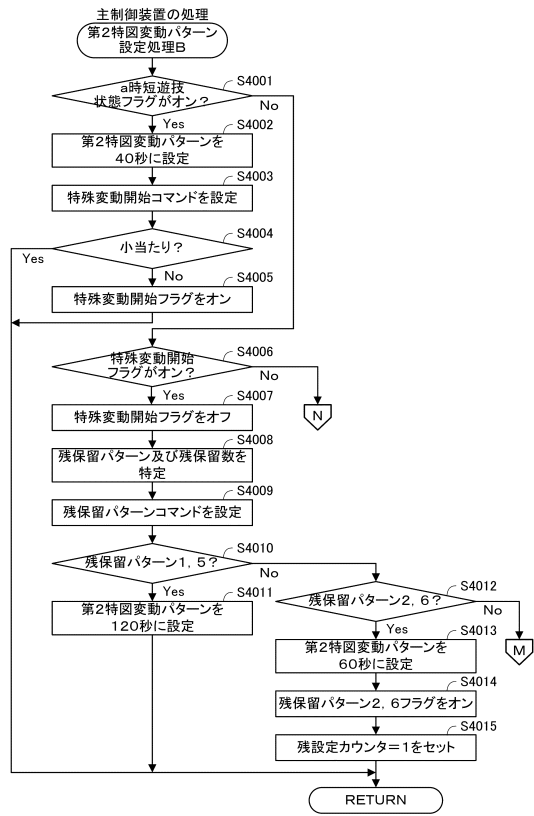
40

50

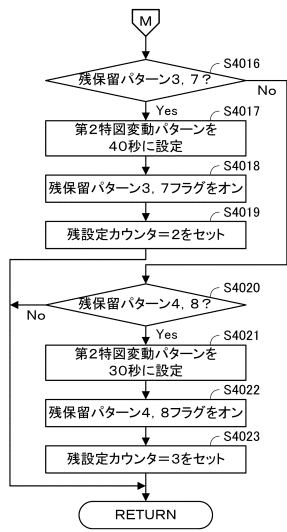
【図 7 3】



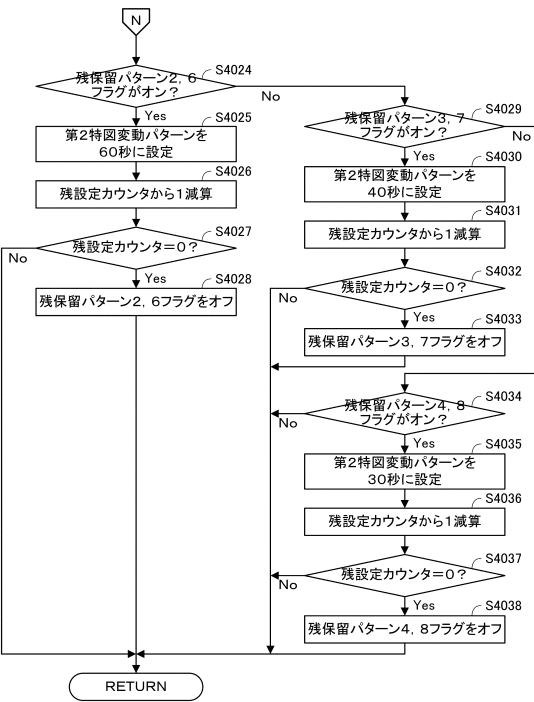
【図 7 4】



【図 7 5】



【図 7 6】



10

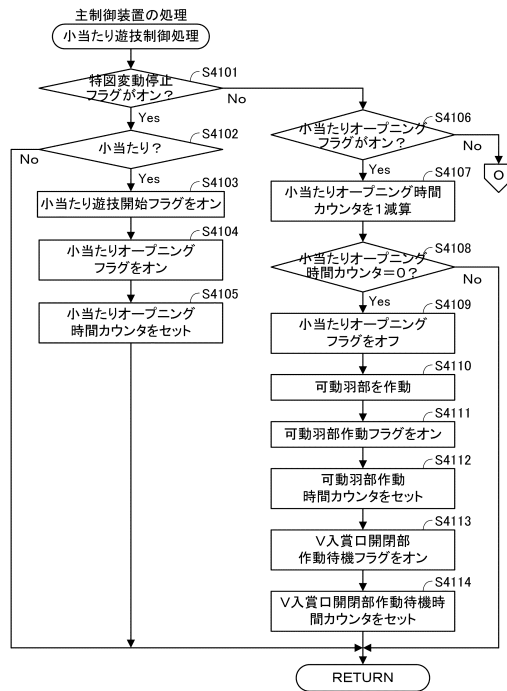
20

30

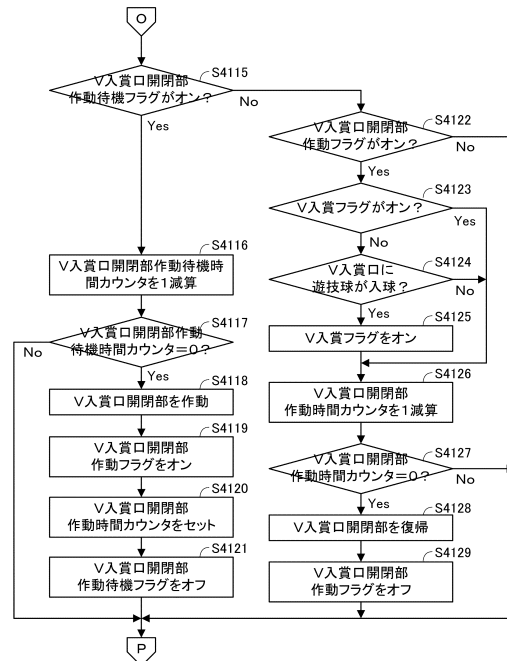
40

50

【図 77】



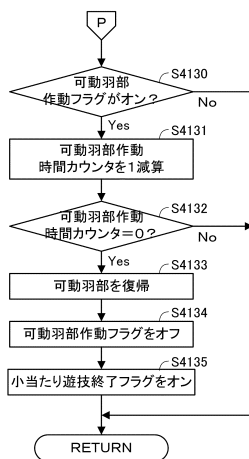
【図 78】



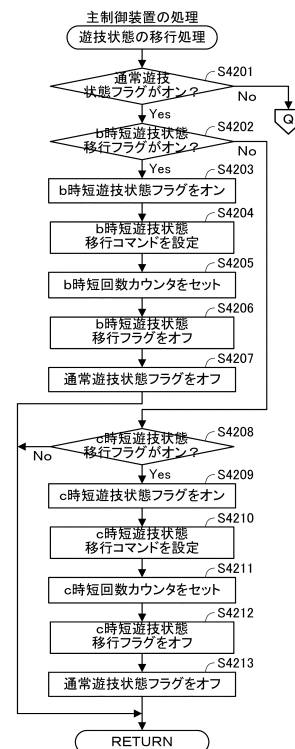
10

20

【図 79】



【図 80】

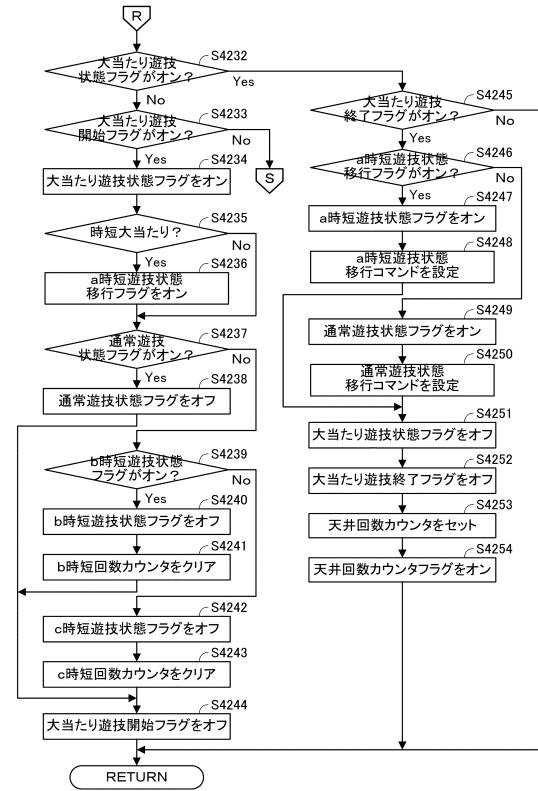


30

40

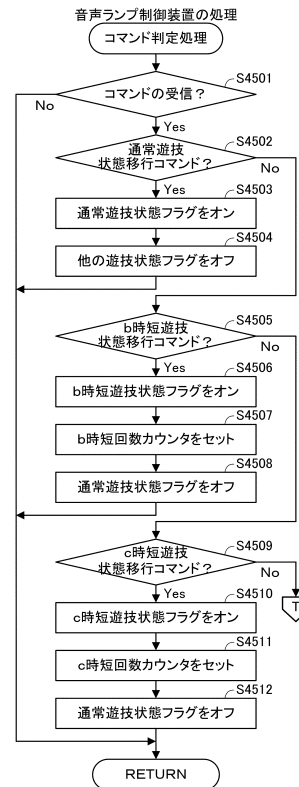
50

【圖 8 2】



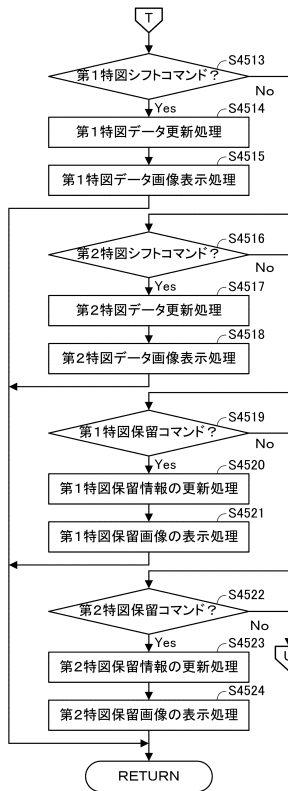
20

【図 8 4】

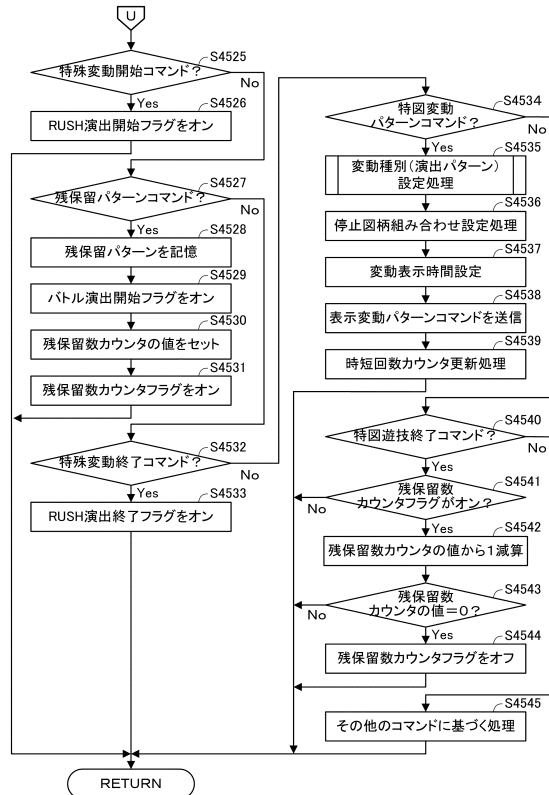


40

【図 85】



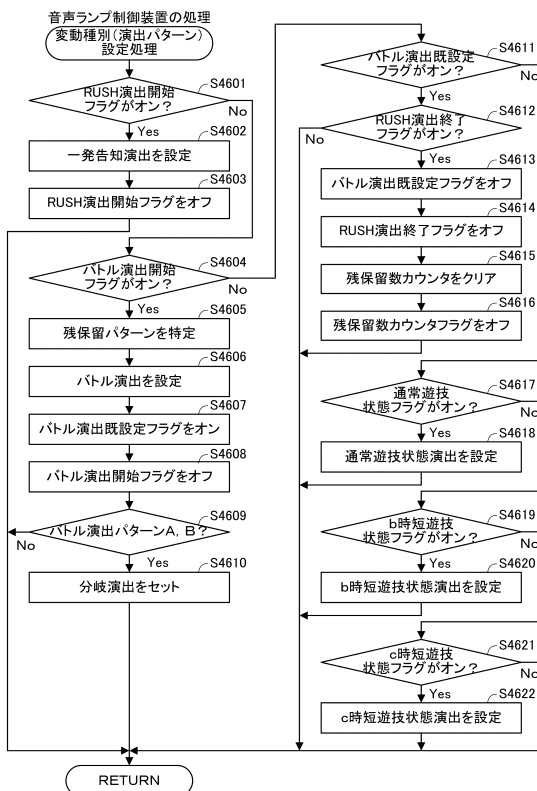
【図 86】



10

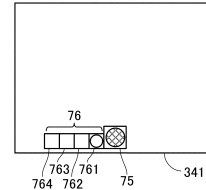
20

【図 87】

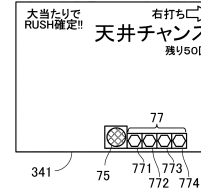


【図 88】

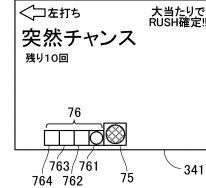
(A) 通常遊技状態(RUSHを除く)画面例



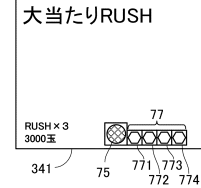
(B) b時短遊技状態中画面例



(C) c時短遊技状態画面例



(D) RUSH演出中画面例

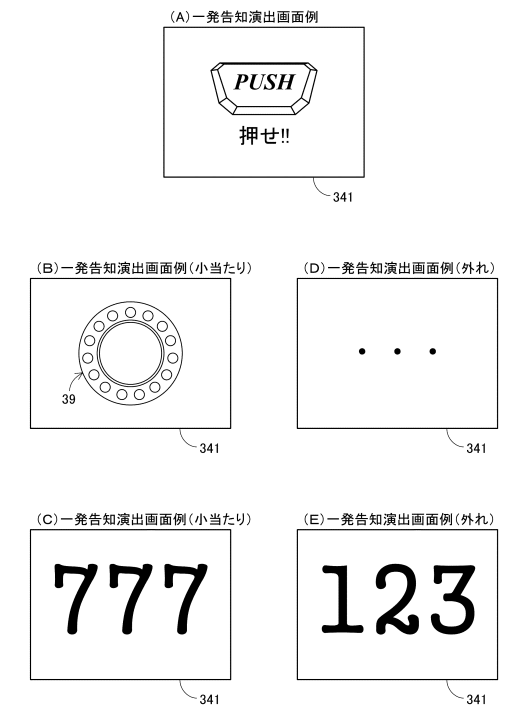


30

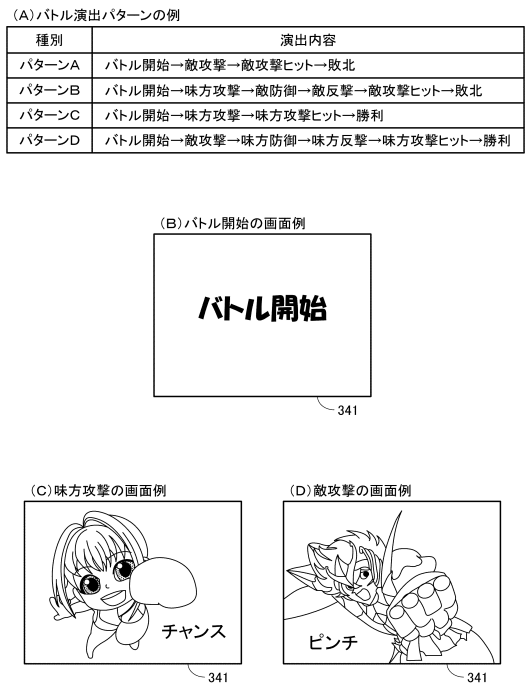
40

50

【図 8 9】



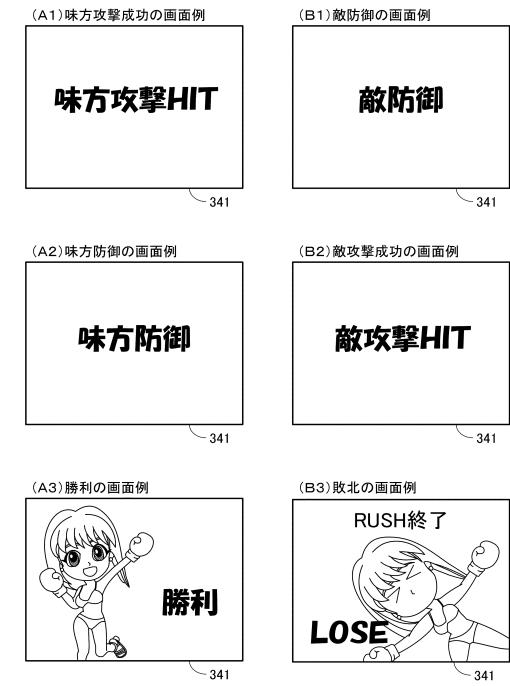
【図 9 0】



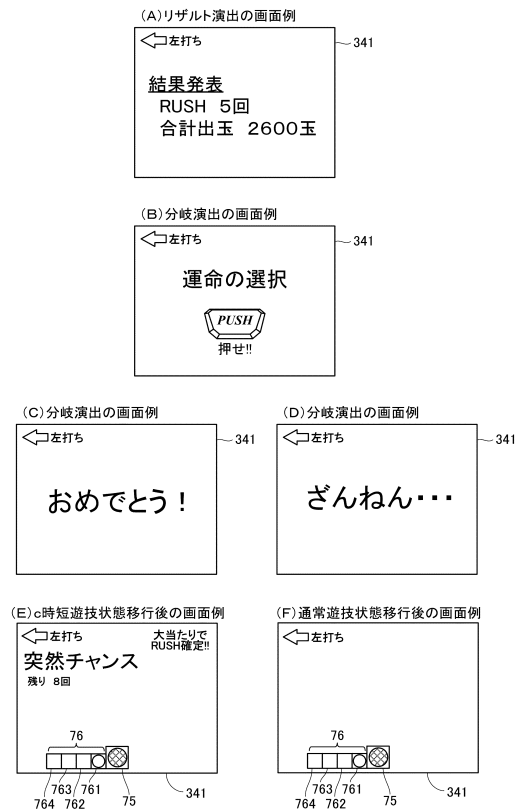
10

20

【図 9 1】



【図 9 2】

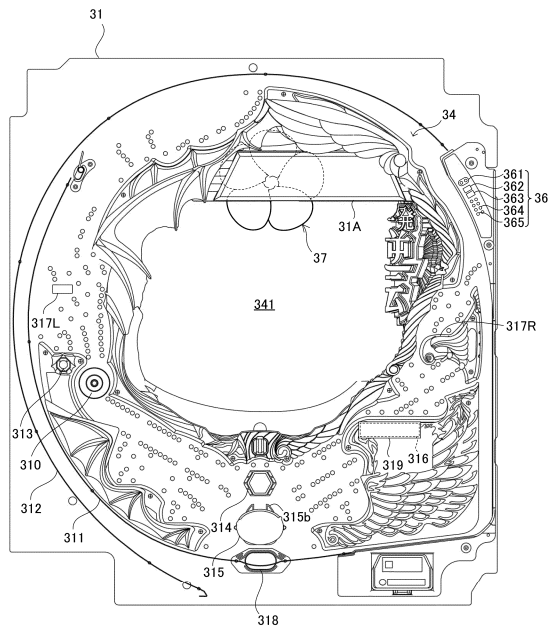


30

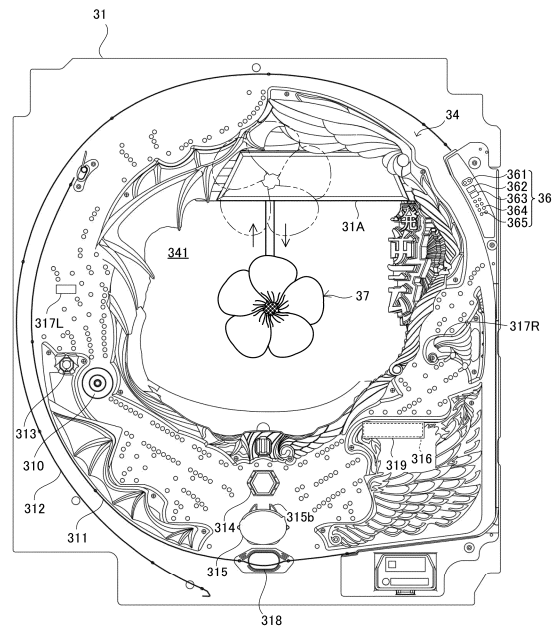
40

50

【図 9 3】



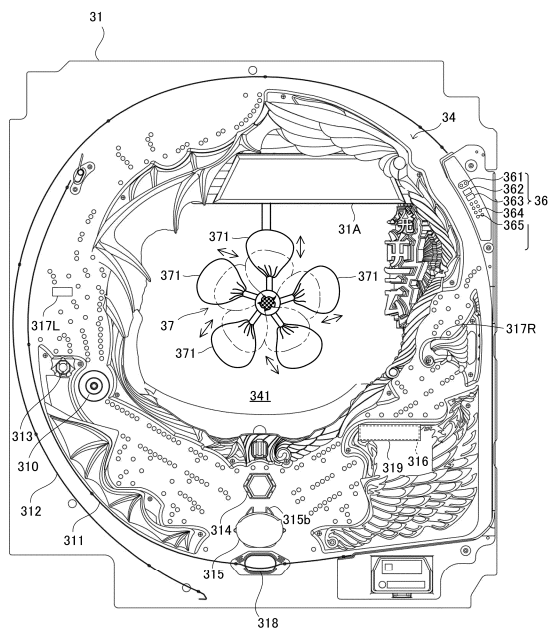
【図 9 4】



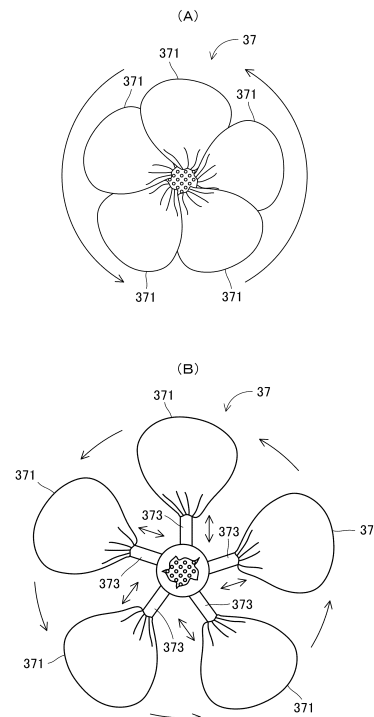
10

20

【図 9 5】



【図 9 6】

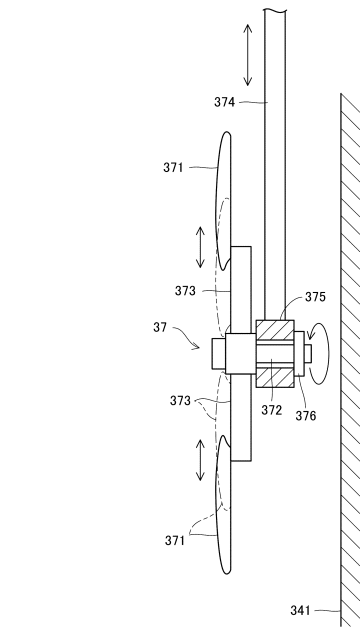


30

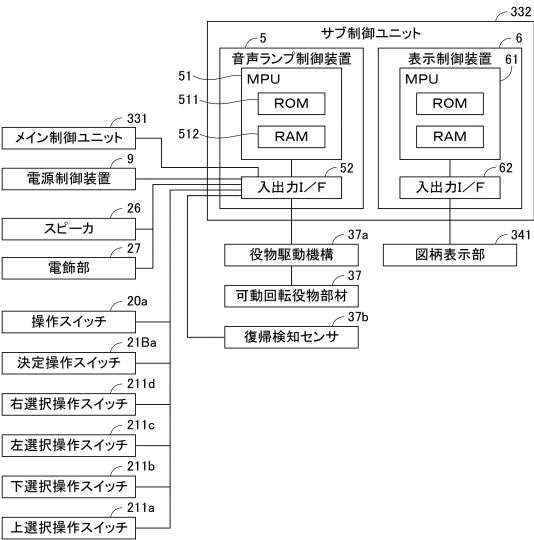
40

50

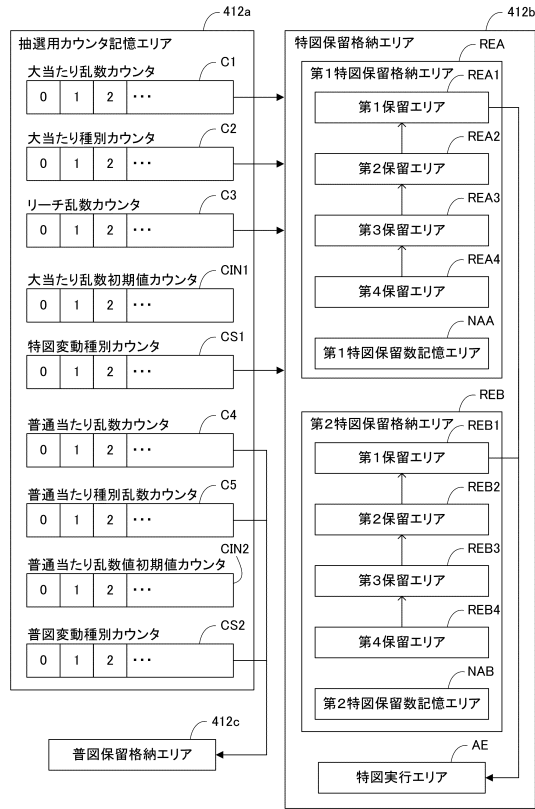
【図 9 7】



【図 9 8】



【図 9 9】



【図 1 0 0】

(A) 低確率モード当否テーブル

遊技設定値	大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当た確率
1	0~205 206~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/318.1
2	0~211 212~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/309.1
3	0~217 218~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/300.6
4	0~223 224~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/292.6
5	0~229 230~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/284.9
6	0~235 236~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/277.7

(B) 高確率モード当否テーブル

遊技設定値	大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率
1	0~820 821~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/79.9
2	0~844 845~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/77.6
3	0~868 869~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/75.4
4	0~892 893~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/73.4
5	0~916 917~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/71.5
6	0~940 941~65535 外れ	大当たり 外れ	約1/69.6

(C) 振分テーブル

種別	大当たり種別カウンタ	大当たり種別
第1特図	0~9 10~14 15~19	5R確変大当たり 16R確変大当たり 5R通常大当たり
第2特図	0~4 5~14 15~19	5R確変大当たり 16R確変大当たり 5R通常大当たり

(D) 外れ種別テーブル

リーチ乱数カウンタ	外れ種別
0~8 9~38 39~238	前後外れリーチ 前後外れ以外リーチ 完全外れ

10

20

30

40

50

【図 1 0 1】

通常大当たり変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0～19	01(30s)
20～119	02(60s)
120～199	03(90s)

(A)

確変大当たり変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0～9	01(30s)
10～99	02(60s)
100～199	03(90s)

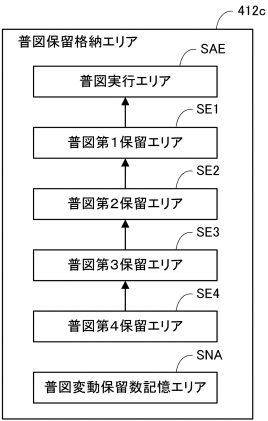
(B)

外れ変動テーブル

外れ種別	特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
前後外れリーチ	0～99	01(30s)
	100～149	02(60s)
	150～199	03(90s)
前後外れ以外リーチ	0～149	04(7s)
	150～199	05(10s)
完全外れ	150～199	05(10s)

(C)

【図 1 0 2】



10

20

【図 1 0 3】

(A) 低頻度サポートモード普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	当たり	1/300
1～299	外れ	

(B) 高頻度サポートモード普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	外れ	299/300
1～299	当たり	

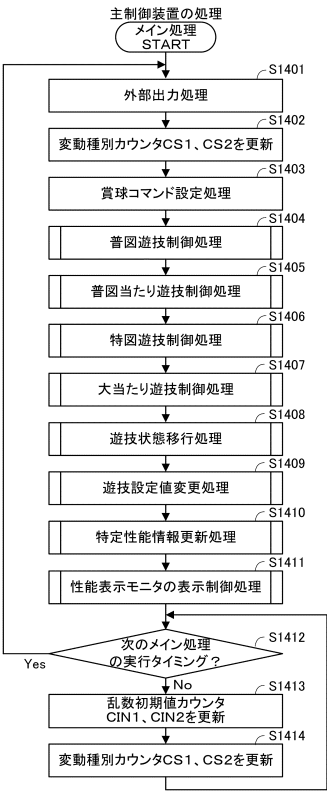
(C) 低頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル

普図当たり種別乱数カウンタ	抽選結果	開放時間
0～99	短開放	0.1秒
100～199	長開放	6秒

(D) 高頻度サポートモード普図当たり種別振分テーブル

普図当たり種別乱数カウンタ	抽選結果	開放時間
0	短開放	0.1秒
1～199	長開放	6秒

【図 1 0 4】

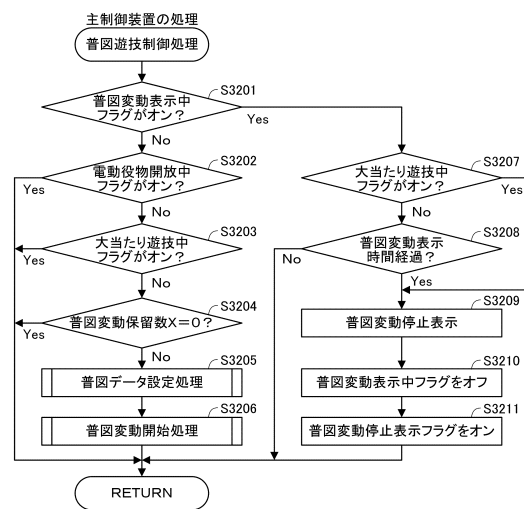


30

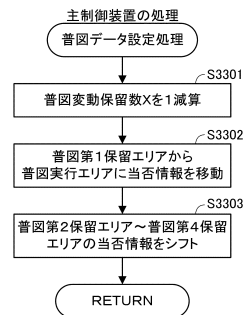
40

50

【図 1 0 5】



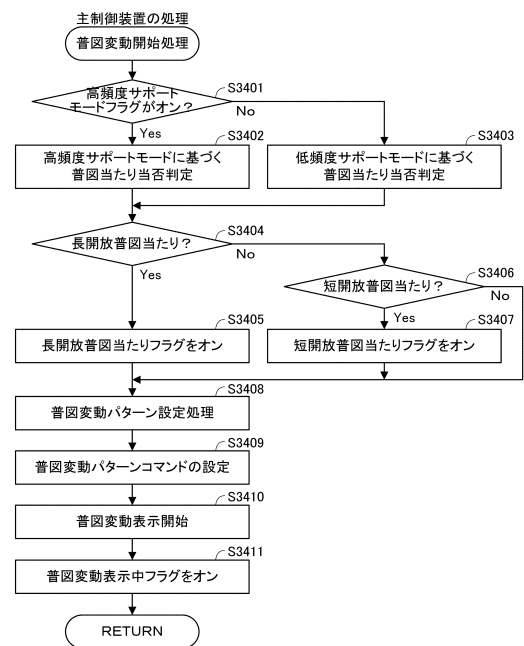
【図 1 0 6】



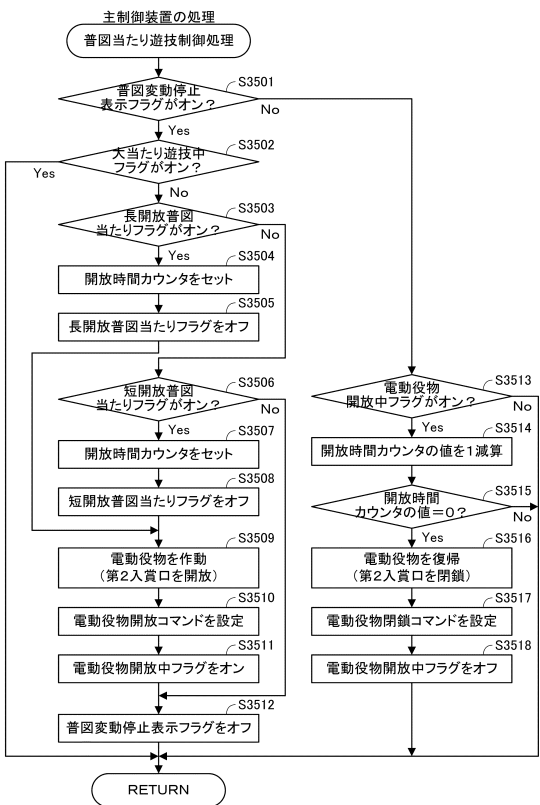
10

20

【図 1 0 7】



【図 1 0 8】

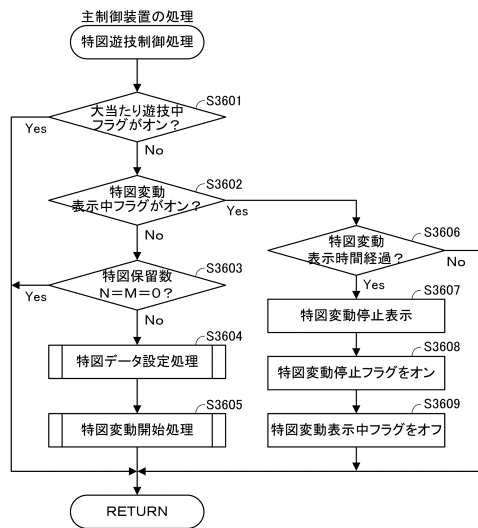


30

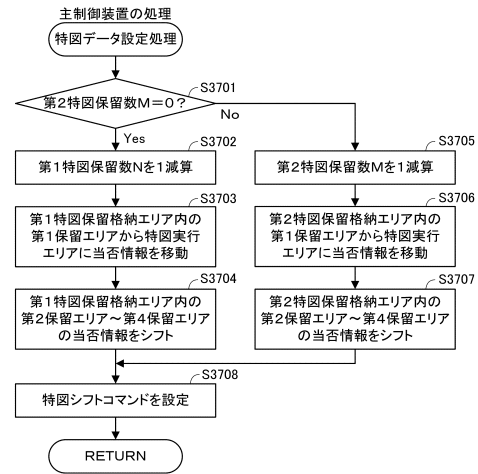
40

50

【図 1 0 9】



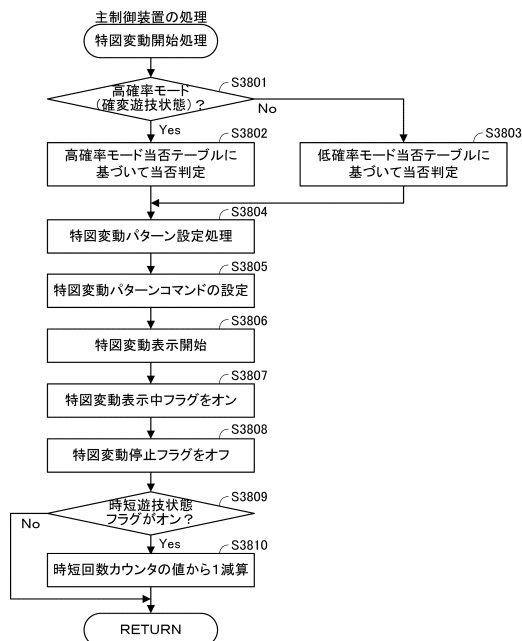
【図 1 1 0】



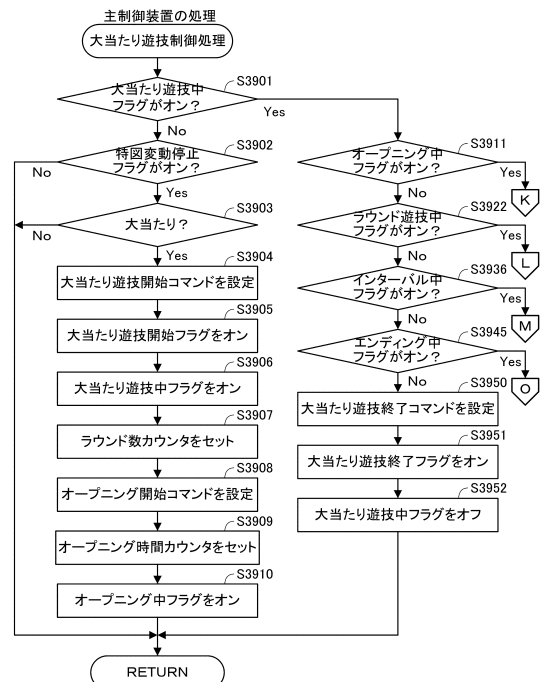
10

20

【図 1 1 1】



【図 1 1 2】

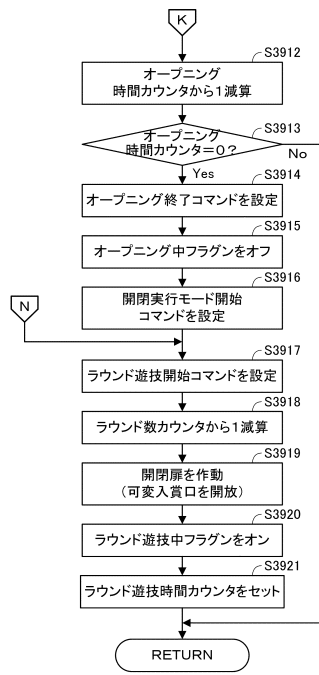


30

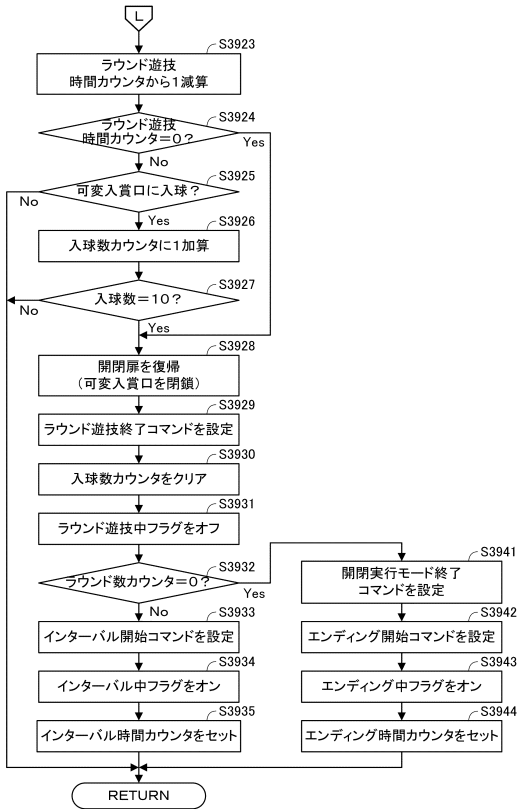
40

50

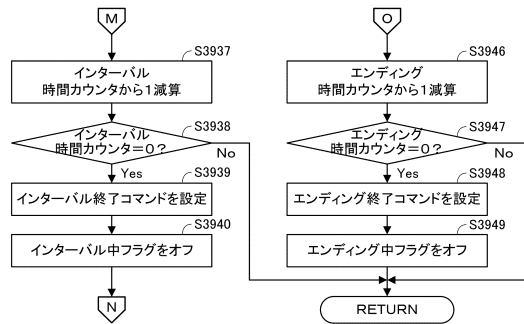
【図 1 1 3】



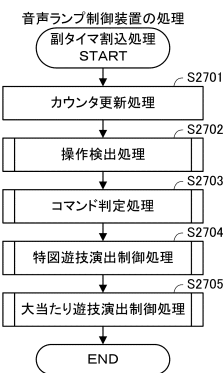
【図 1 1 4】



【図 1 1 5】



【図 1 1 6】



10

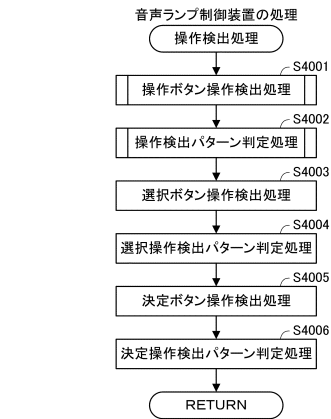
20

30

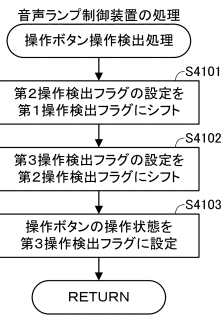
40

50

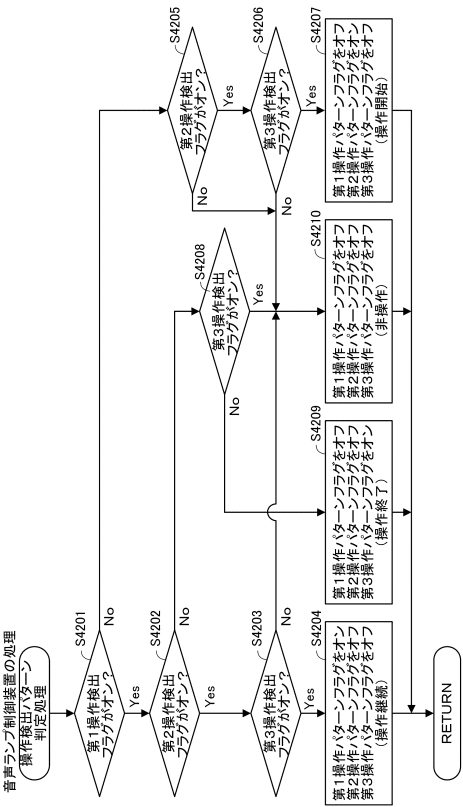
【図 1 1 7】



【図 1 1 8】



【図 1 1 9】



【図 1 2 0】

操作ボタン操作データ

操作検出フラグ			操作パターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

上選択ボタン操作データ

上選択操作検出フラグ			上選択操作パターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

下選択ボタン操作データ

下選択操作検出フラグ			下選択操作パターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

左選択ボタン操作データ

左選択操作検出フラグ			左選択操作パターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

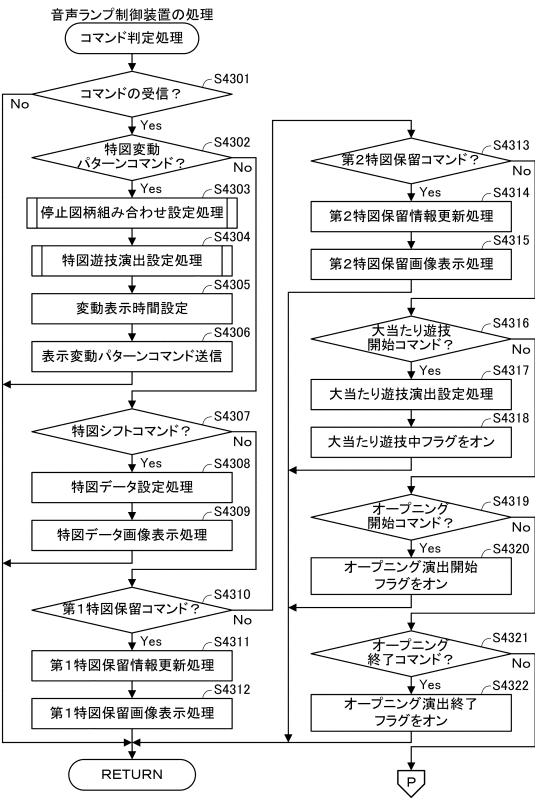
右選択ボタン操作データ

右選択操作検出フラグ			右選択操作パターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

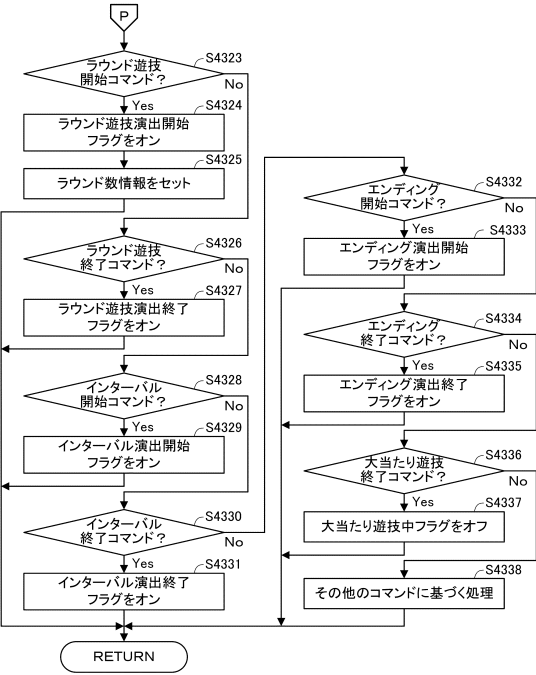
決定ボタン操作データ

決定操作検出フラグ			決定操作パターンフラグ			操作状態
第1	第2	第3	第1	第2	第3	
オン	オン	オン	オン	オフ	オフ	操作継続
オフ	オン	オン	オフ	オン	オフ	操作開始
オン	オフ	オフ	オフ	オフ	オン	操作終了
上記以外			オフ	オフ	オフ	非操作

【図 1 2 1】



【図 1 2 2】

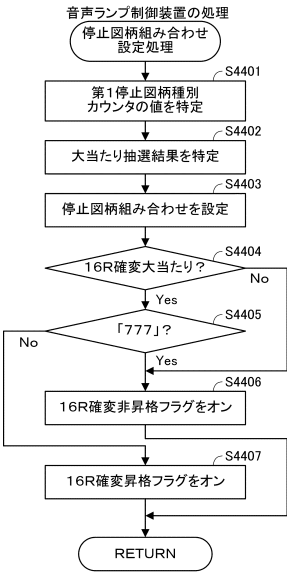


【図 1 2 3】

第1停止図柄選択テーブル

第1停止図柄 種別カウンタ	抽選結果				
	A(5R通常)	B(5R確変)	C(16R確変)	D(外れ)	
0~4	1	1	1	1	
5~9		2	2	2	
10~14			3		
15~19					
20~24	3		3	3	
25~29		4	4		
30~34					5
35~39					
40~44	5		4		
45~49	5	6	5		
50~54		4			
55~59					
60~64					
65~69	6		7	6	
70~74		5			
75~79			7		
80~84					
85~89	6			8	
90~94	8				
95~99	9	9			

【図 1 2 4】



10

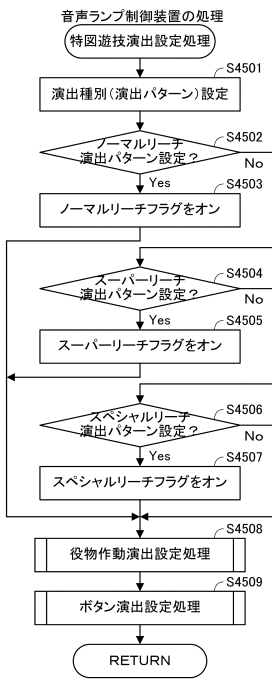
20

30

40

50

【図 1 2 5】



【図 1 2 6】

変動種別テーブル

特図変動 パターンコマンド	変動種別 (演出パターン)	変動表示時間[秒]
A01	ノーマルリーチ	30
A02	スーパーリーチ	60
A03	スペシャルリーチ	90
B01	ノーマルリーチ	30
B02	スーパーリーチ	60
B03	スペシャルリーチ	90
C01	ノーマルリーチ	30
C02	スーパーリーチ	60
C03	スペシャルリーチ	90
D01	ノーマルリーチ	30
D02	スーパーリーチ	60
D03	スペシャルリーチ	90
D04	非リーチ	7
D05	非リーチ	10

10

20

【図 1 2 7】

(A)ノーマルリーチ演出パターン種別選択テーブル

演出パターン種別 カウンタ	演出パターン種別 A(5R通常)	演出パターン種別 B(5R確変)	演出パターン種別 C(16R確変)	演出パターン種別 D(外れ)
0~9	演出パターンX1	演出パターンX1	演出パターンX2	
10~19	演出パターンX1	演出パターンX2	演出パターンX3	
20~29	演出パターンX2	演出パターンX3	演出パターンX4	演出パターンX1
30~39	演出パターンX2	演出パターンX4	演出パターンX5	
40~49	演出パターンX3	演出パターンX5		
50~59	演出パターンX3			
60~69	演出パターンX4			演出パターンX2
70~79	演出パターンX4			演出パターンX3
80~89	演出パターンX5			演出パターンX4
90~99	演出パターンX5			
100~109	演出パターンX5			

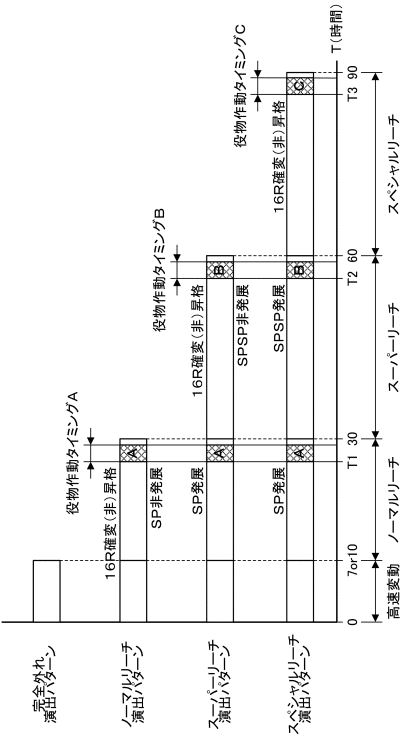
(B)スーパーリーチ演出パターン種別選択テーブル

演出パターン種別 カウンタ	演出パターン種別 A(5R通常)	演出パターン種別 B(5R確変)	演出パターン種別 C(16R確変)	演出パターン種別 D(外れ)
0~9	演出パターンY1	演出パターンY1	演出パターンY1	演出パターンY1
10~19	演出パターンY1	演出パターンY1	演出パターンY2	演出パターンY2
20~29	演出パターンY2	演出パターンY2	演出パターンY3	演出パターンY3
30~39	演出パターンY2	演出パターンY3	演出パターンY4	演出パターンY4
40~49	演出パターンY3	演出パターンY4	演出パターンY5	演出パターンY5
50~59	演出パターンY3	演出パターンY5		
60~69	演出パターンY4			
70~79	演出パターンY4			
80~89	演出パターンY5			
90~99	演出パターンY5			
100~109	演出パターンY5			

(C)スペシャルリーチ演出パターン種別選択テーブル

演出パターン種別 カウンタ	演出パターン種別 A(5R通常)	演出パターン種別 B(5R確変)	演出パターン種別 C(16R確変)	演出パターン種別 D(外れ)
0~9	演出パターンZ1	演出パターンZ1	演出パターンZ1	演出パターンZ1
10~19	演出パターンZ1	演出パターンZ2	演出パターンZ2	演出パターンZ2
20~29	演出パターンZ2	演出パターンZ3	演出パターンZ3	演出パターンZ3
30~39	演出パターンZ2	演出パターンZ4	演出パターンZ4	演出パターンZ4
40~49	演出パターンZ3	演出パターンZ5	演出パターンZ5	演出パターンZ5
50~59	演出パターンZ3			
60~69	演出パターンZ4			
70~79	演出パターンZ4			
80~89	演出パターンZ5			
90~99	演出パターンZ5			
100~109	演出パターンZ5			

【図 1 2 8】

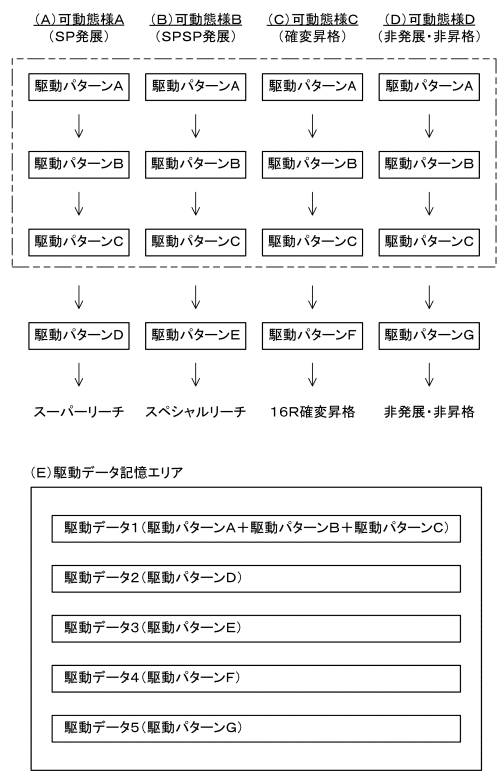


30

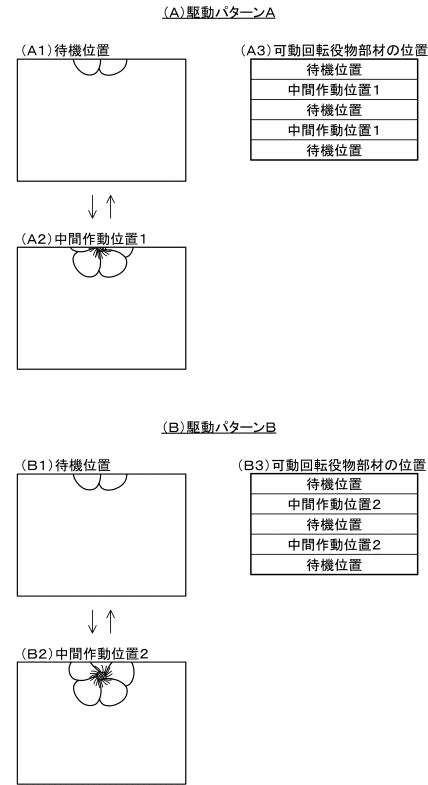
40

50

【図 1 2 9】



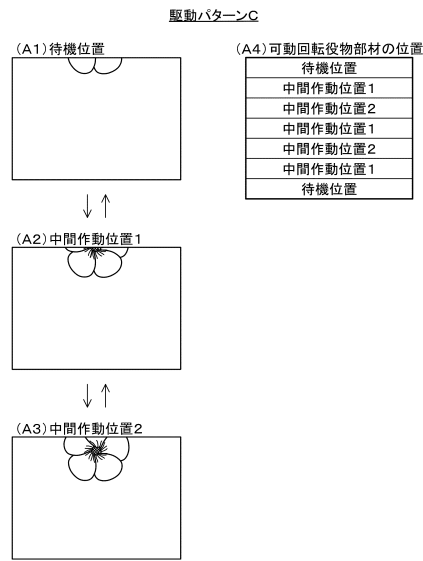
【図 1 3 0】



10

20

【図 1 3 1】



【図 1 3 2】

駆動データ1 (役物動作シナリオデータ1)

処理 No.	昇降用ステッピング モーターの制御		移動距離等	可動回転役物 部材の位置	
	回転方向	ステップ数等			
01	停止	200msec		待機位置	駆動 パター ンA
02	正方向	12ステップ	下方向12mm		
03	停止	12msec		中間作動位置1	
04	逆方向	12ステップ	上方向12mm		
05	停止*	40msec		待機位置	
06	正方向	12ステップ	下方向12mm		駆動 パター ンB
07	停止	12msec		中間作動位置1	
08	逆方向	12ステップ	上方向12mm		
09	停止*	40msec		待機位置	
10	正方向	36ステップ	下方向36mm		
11	停止	36msec		中間作動位置2	駆動 パター ンC
12	逆方向	36ステップ	上方向36mm		
13	停止*	40msec		待機位置	
14	正方向	36ステップ	下方向36mm		
15	停止	36msec		中間作動位置2	
16	逆方向	36ステップ	上方向36mm		駆動 パター ンC
17	停止*	40msec		待機位置	
18	正方向	12ステップ	下方向12mm		
19	停止	40msec		中間作動位置1	
20	正方向	24ステップ	下方向24mm		
21	停止	24msec		中間作動位置2	駆動 パター ンC
22	逆方向	24ステップ	上方向24mm		
23	停止*	40msec		中間作動位置1	
24	正方向	24ステップ	下方向24mm		
25	停止	24msec		中間作動位置2	
26	逆方向	24ステップ	上方向24mm		駆動 パター ンC
27	停止*	40msec		中間作動位置1	
28	逆方向	12ステップ	上方向12mm		
29	停止*	40msec		待機位置	

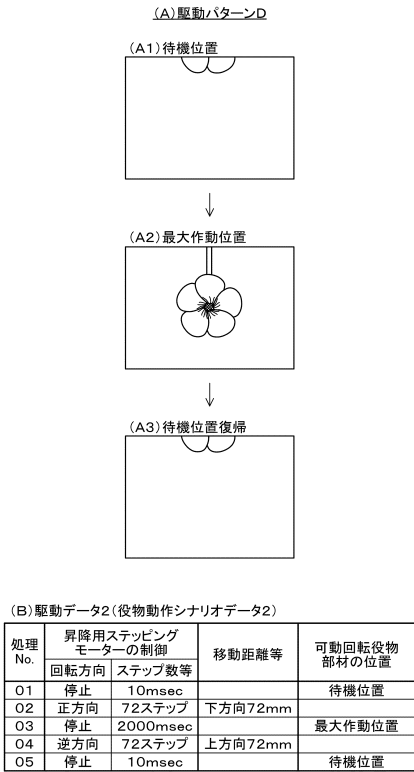
停止*: 終了判定の実行タイミング

30

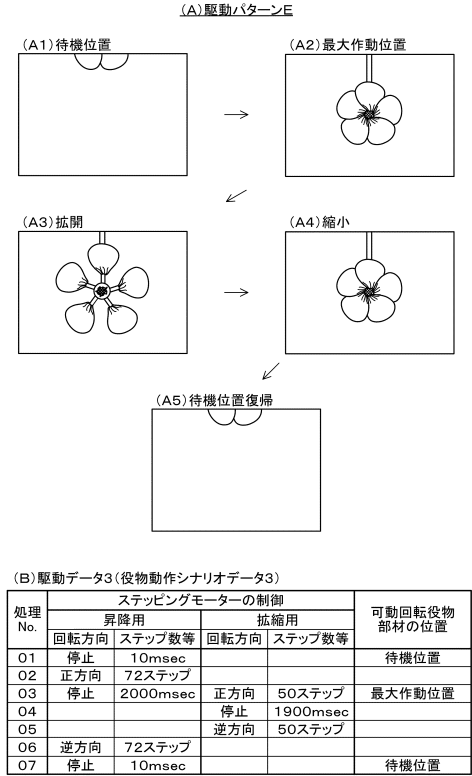
40

50

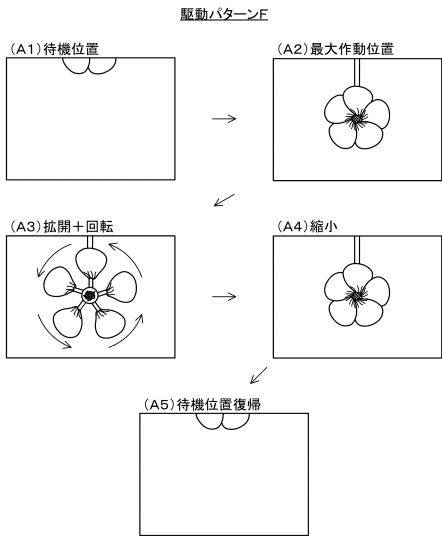
【図 1 3 3】



【図 1 3 4】



【図 1 3 5】



【図 1 3 6】

駆動データ4(後物動作シナリオデータ4)

処理 No.	ステッピングモーターの制御						可動回転役物 部材の位置
	昇降用			拡縮用			
	回転方向	ステップ数等	回転方向	ステップ数等	回転方向	ステップ数等	
01	停止	10msec					待機位置
02	正方向	72ステップ					
03	停止	2000msec	正方向	50msec	正方向	2000msec	最大作動位置
04			停止	1900msec	停止		
05			逆方向	50msec	逆方向	停止	
06	逆方向	72ステップ					待機位置
07	停止						

10

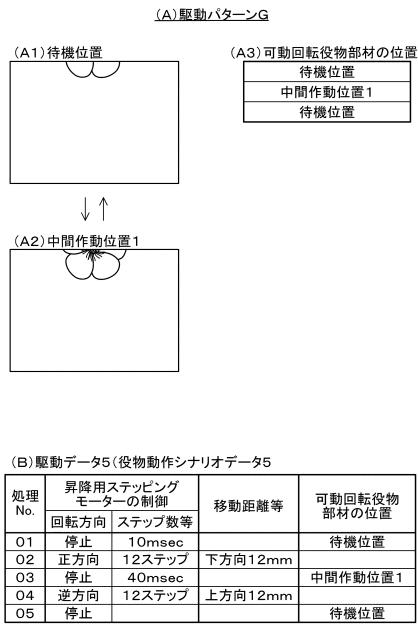
20

30

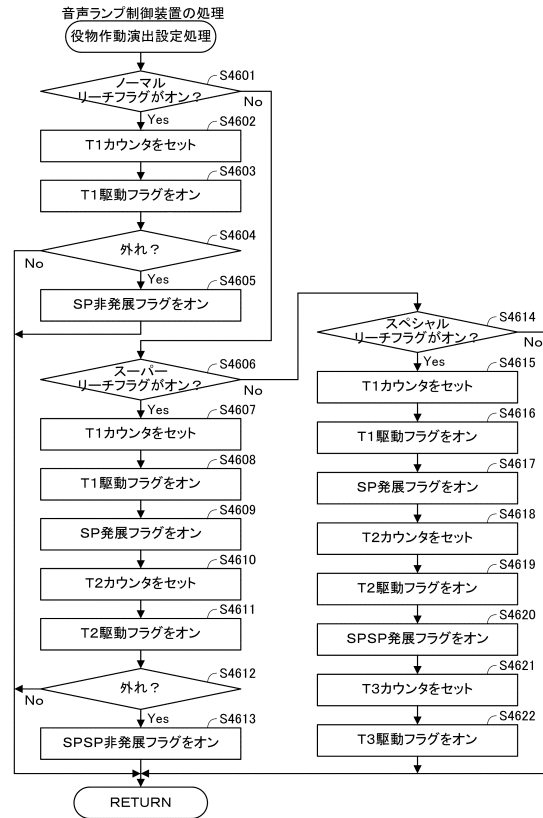
40

50

【図 137】



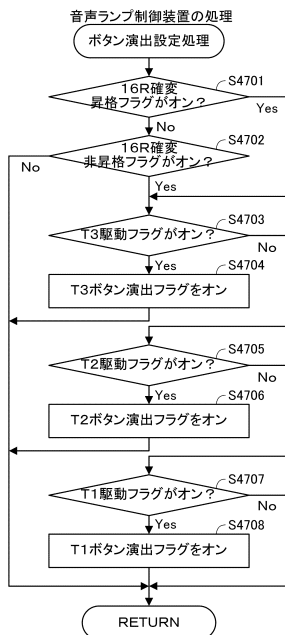
【圖 138】



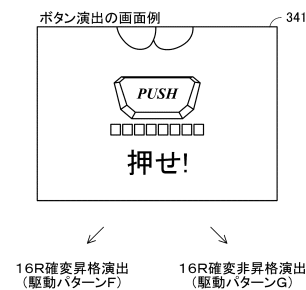
10

20

【図 139】



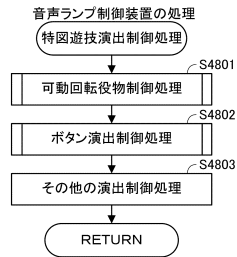
【図 140】



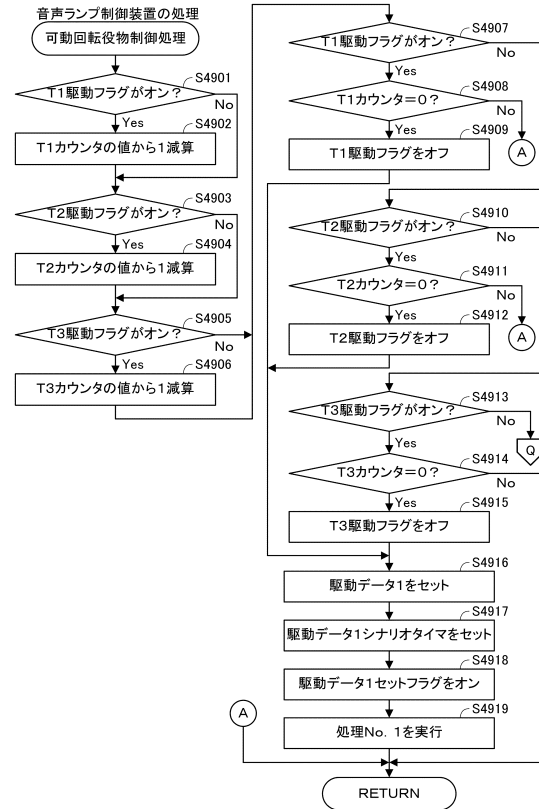
30

40

【図 1 4 1】



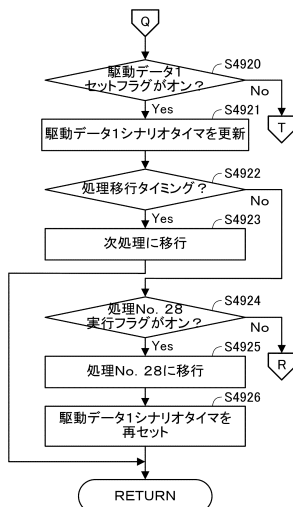
【図 1 4 2】



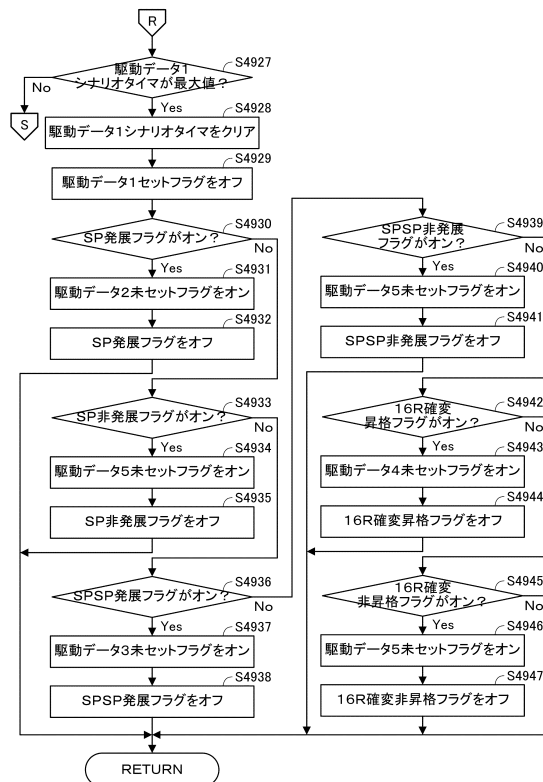
10

20

【図 1 4 3】



【図 1 4 4】

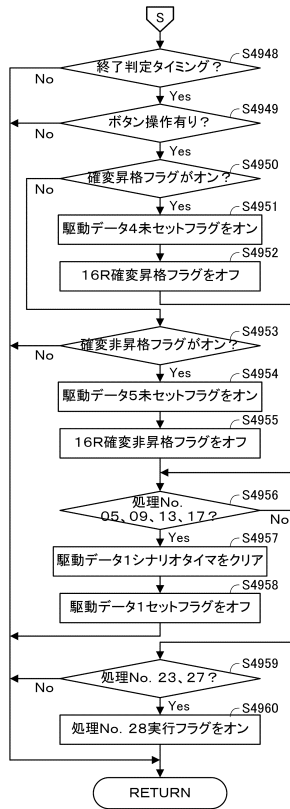


30

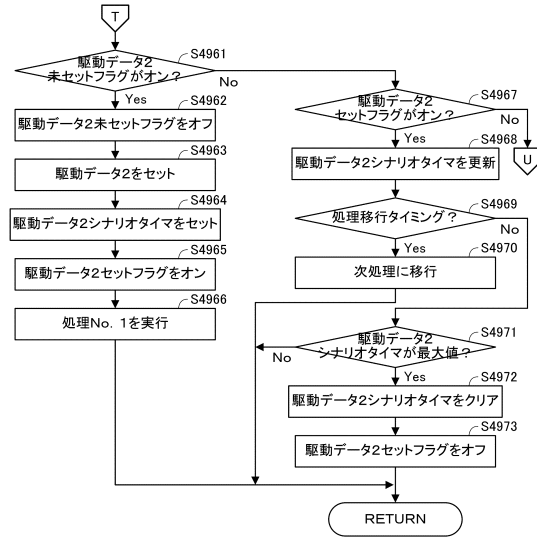
40

50

【図 1 4 5】



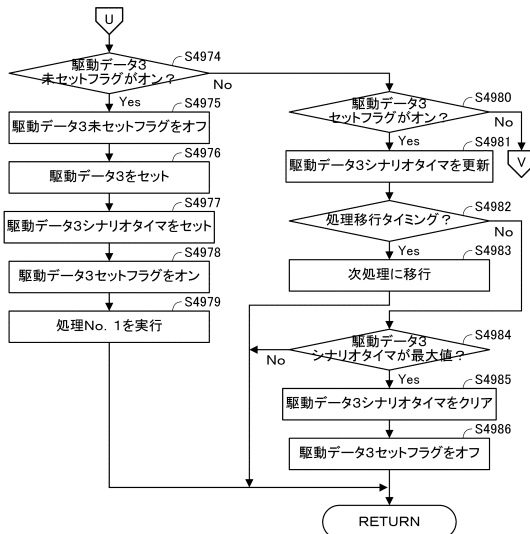
【図 1 4 6】



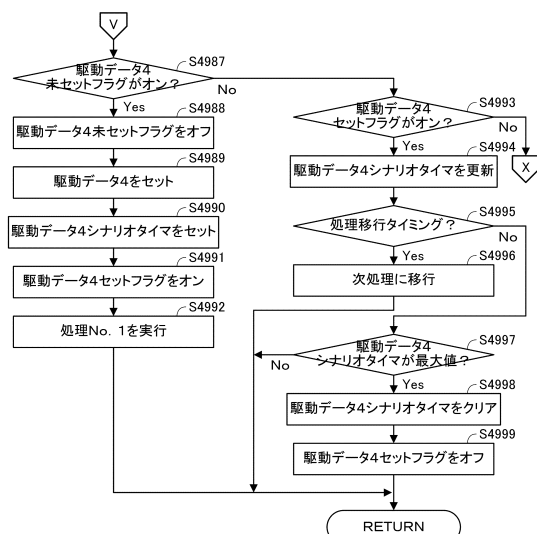
10

20

【図 1 4 7】



【図 1 4 8】

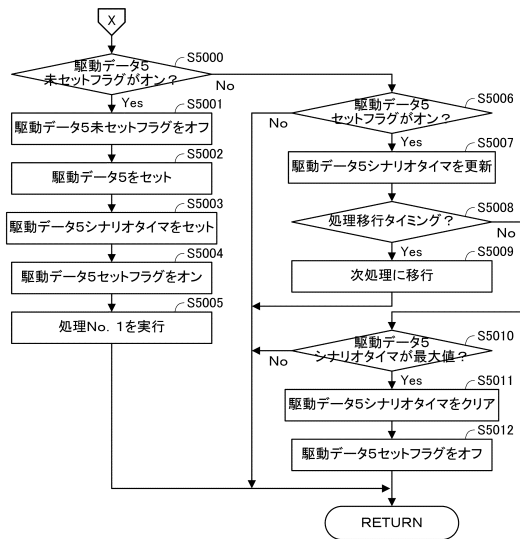


30

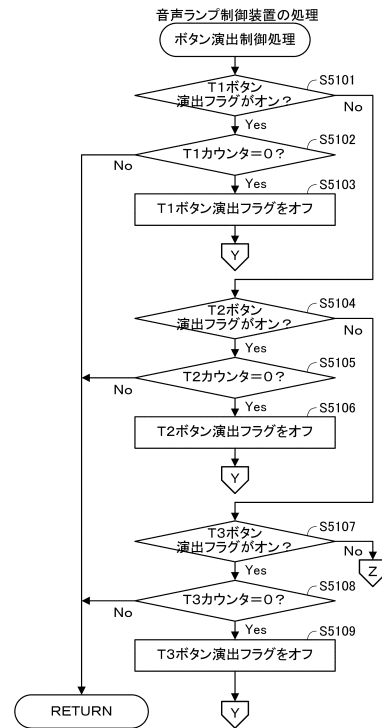
40

50

【図 1 4 9】



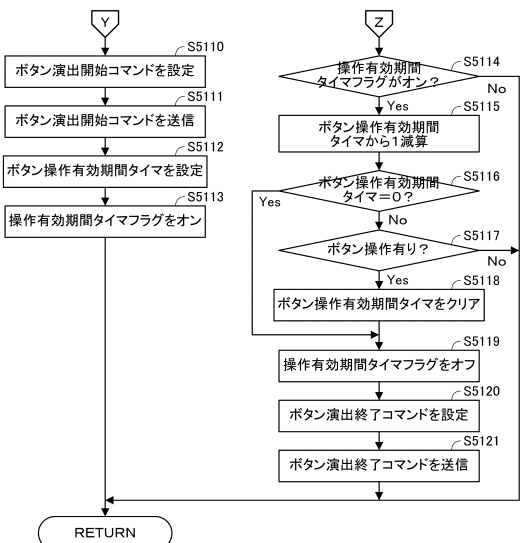
【図 1 5 0】



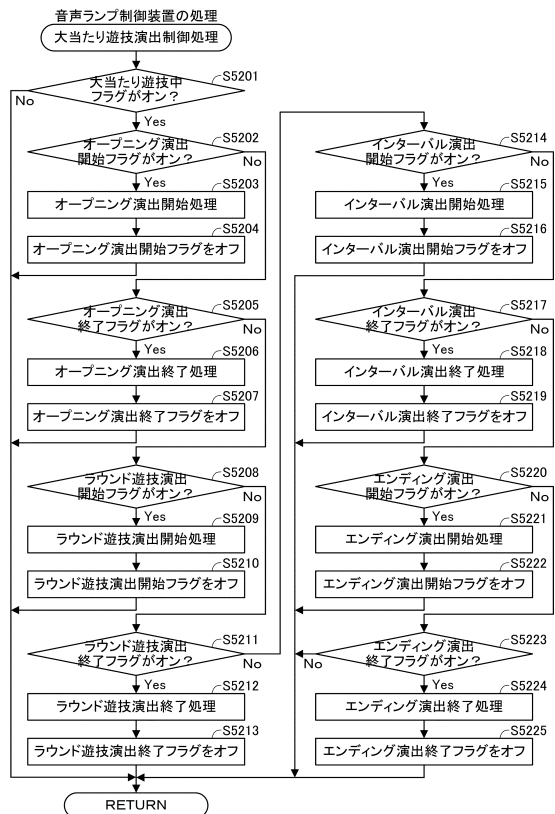
10

20

【図 1 5 1】



【図 1 5 2】



30

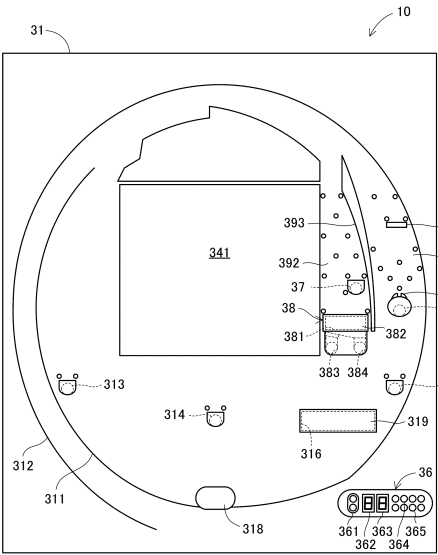
40

50

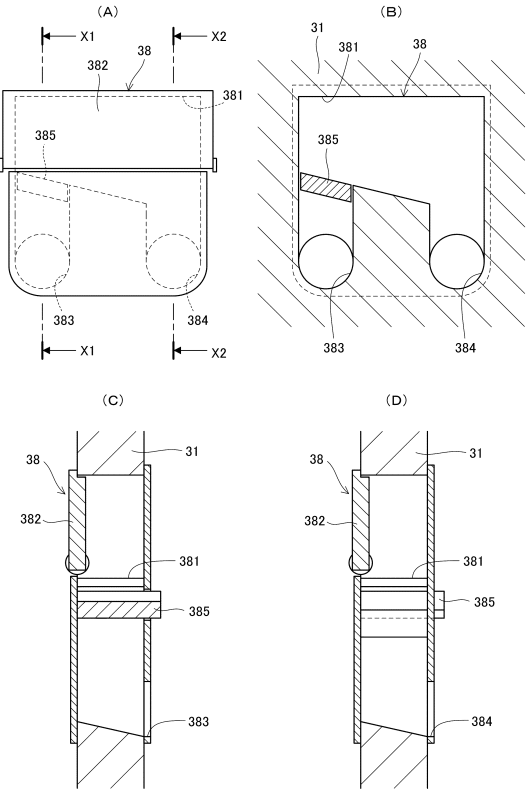
【図 1 5 3】

駆動データ1(役物動作シナリオデータ1)					
処理 No.	昇降用ステッピング モーターの制御		移動距離	可動回転役物 部材の位置等	
	回転方向	ステップ数等			
01	停止	200msec		待機位置	駆動 パター ン A
02	正方向	12ステップ	下方向12mm	中間作動位置1	
03	停止	40msec		待機位置	
04	逆方向	12ステップ	上方向12mm	待機位置	
05	停止	40msec		終了判定	
06					
07	正方向	12ステップ	下方向12mm	中間作動位置1	駆動 パター ン B
08	停止	40msec		待機位置	
09	逆方向	12ステップ	上方向12mm	待機位置	
10	停止	40msec		終了判定	
11					
12	正方向	36ステップ	下方向36mm	中間作動位置2	駆動 パター ン C
13	停止	40msec		待機位置	
14	逆方向	36ステップ	上方向36mm	待機位置	
15	停止	40msec		終了判定	
16					
17	正方向	36ステップ	下方向36mm	中間作動位置2	駆動 パター ン C
18	停止	40msec		待機位置	
19	逆方向	36ステップ	上方向36mm	待機位置	
20	停止	40msec		終了判定	
21					
22	正方向	12ステップ	下方向12mm	中間作動位置1	駆動 パター ン C
23	停止	40msec		待機位置	
24	正方向	24ステップ	下方向24mm	中間作動位置2	
25	停止	40msec		待機位置	
26	逆方向	24ステップ	上方向24mm	中間作動位置1	
27	停止	40msec		終了判定	
28					駆動 パター ン C
30	正方向	24ステップ	下方向24mm	中間作動位置2	
31	停止	40msec		待機位置	
32	逆方向	24ステップ	上方向24mm	中間作動位置1	
33	停止	40msec		終了判定	
34					
35	逆方向	12ステップ	上方向12mm	待機位置	駆動 パター ン C
36	停止	40msec		終了判定	
37					

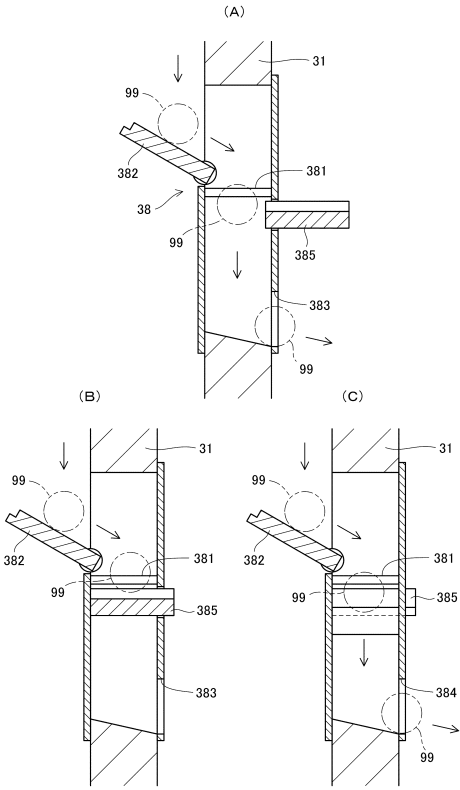
【図 1 5 4】



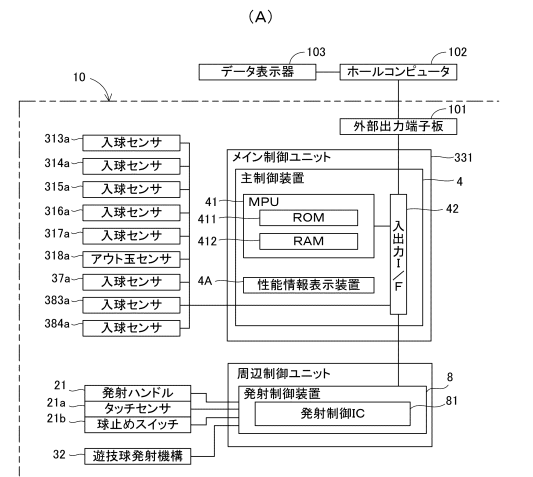
【図 1 5 5】



【図 1 5 6】



【図 1 5 7】



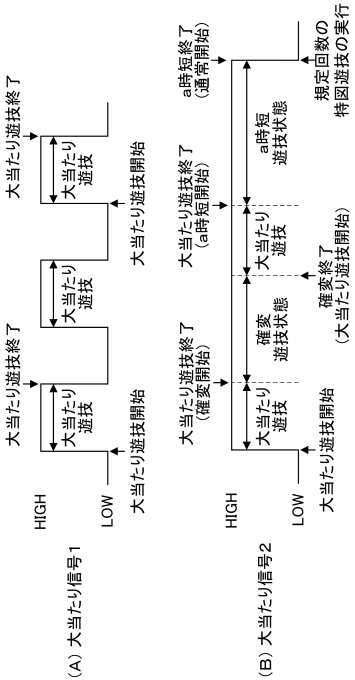
(B)

入賞口種別	一般入賞口	第1入賞口	第2入賞口	可変入賞口	特電始動口	特電V入賞口	特電通常入賞口
賞球数	10個	3個	3個	10個	1個	1個	1個

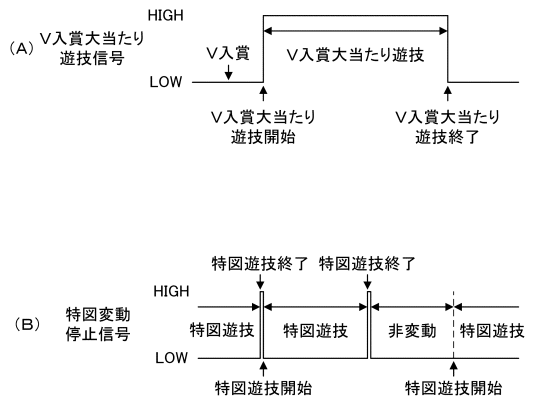
(C)

番号	1	2	3	4	...
出力信号	大当たり信号1	大当たり信号2	V入賞大当たり信号	特図変動停止信号	...

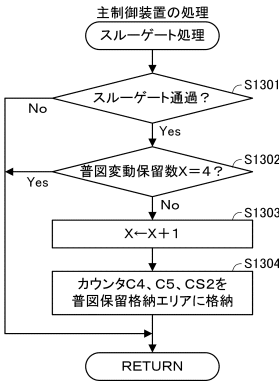
【図 1 5 8】



【図 1 5 9】



【図 1 6 0】



10

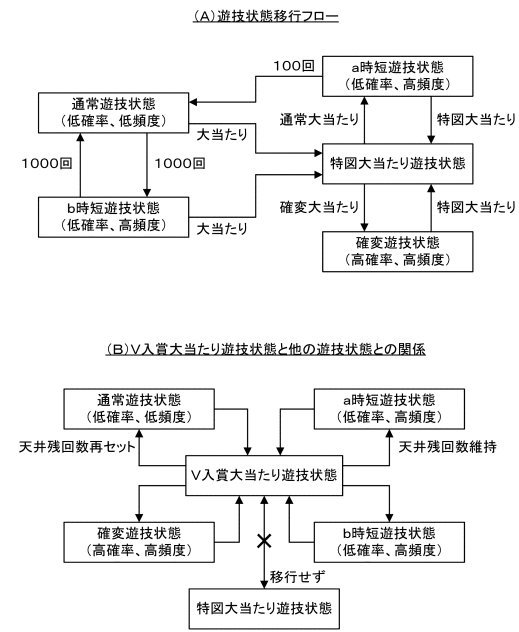
20

30

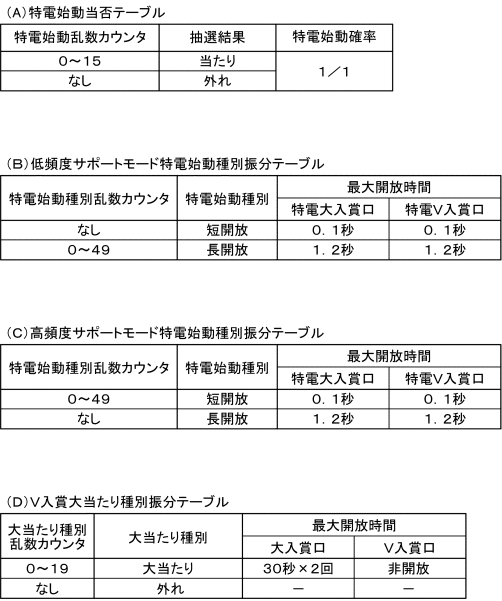
40

50

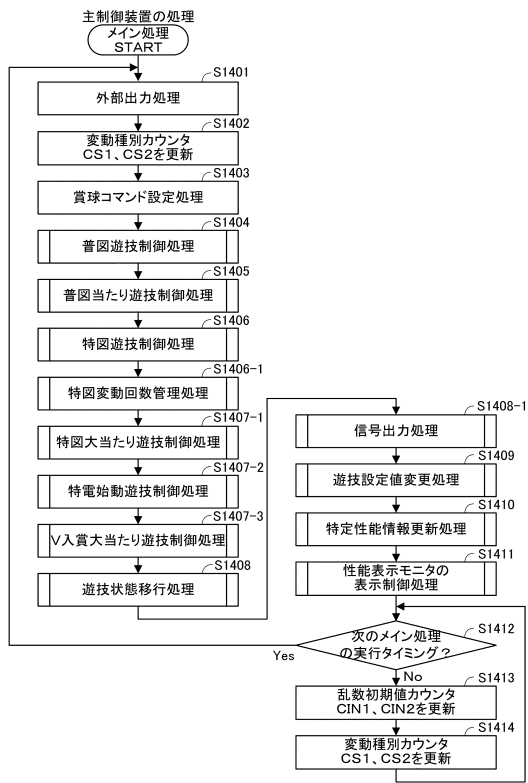
【図 1 6 1】



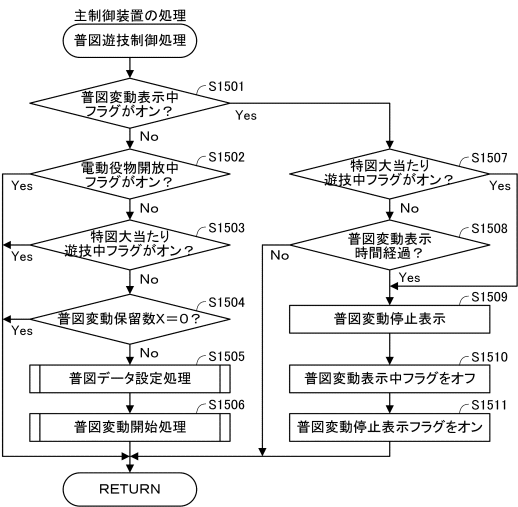
【図 1 6 2】



【図 1 6 3】



【図 1 6 4】



10

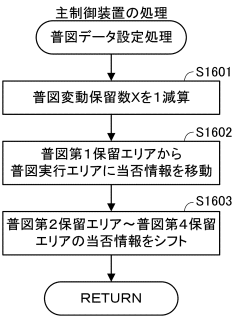
20

30

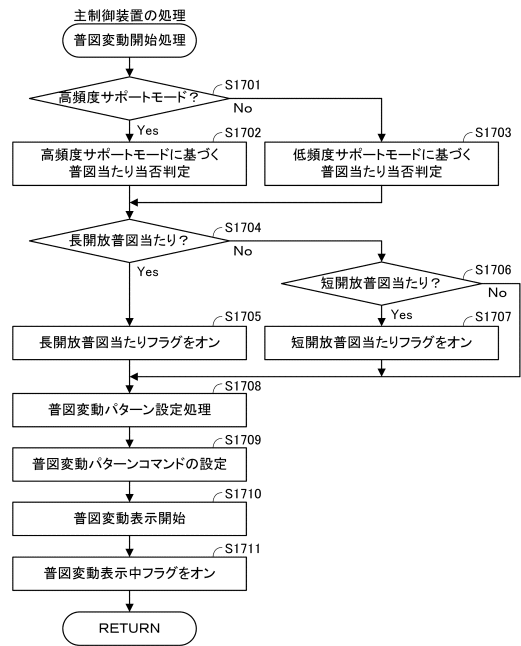
40

50

【図 1 6 5】



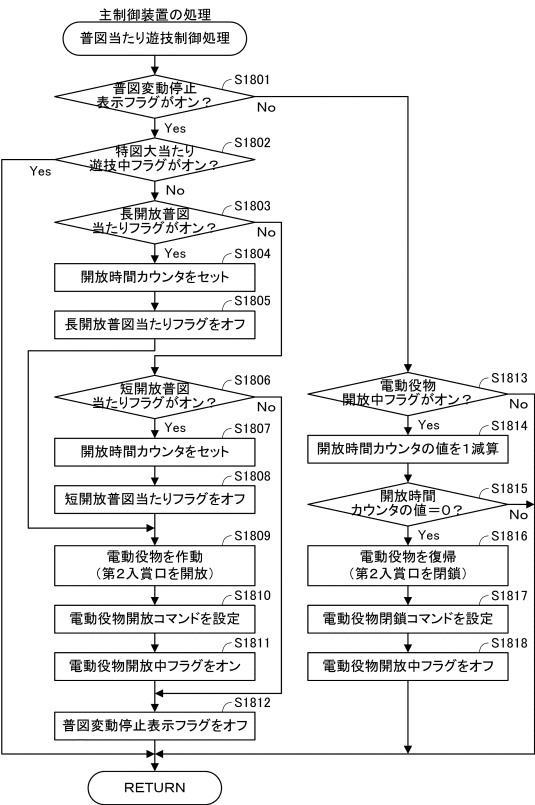
【図 1 6 6】



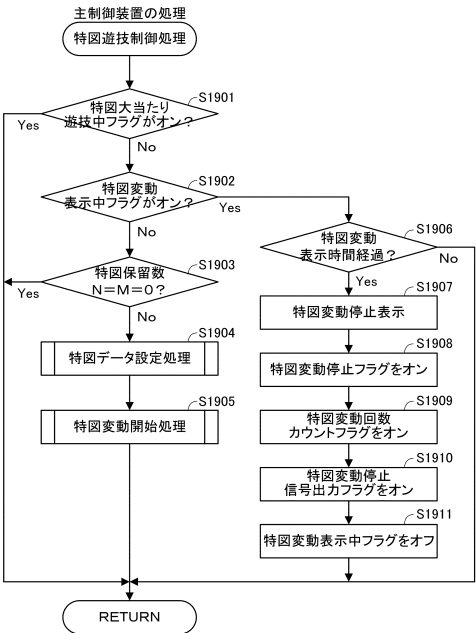
10

20

【図 1 6 7】



【図 1 6 8】

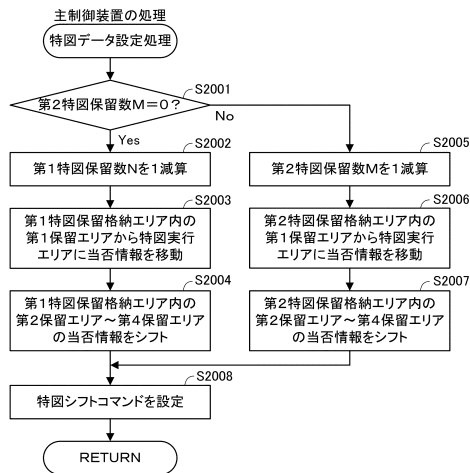


30

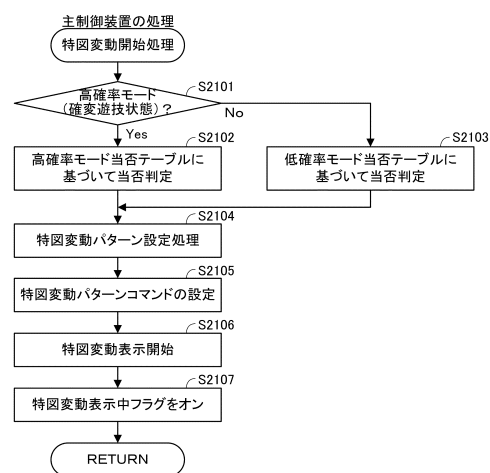
40

50

【図 1 6 9】



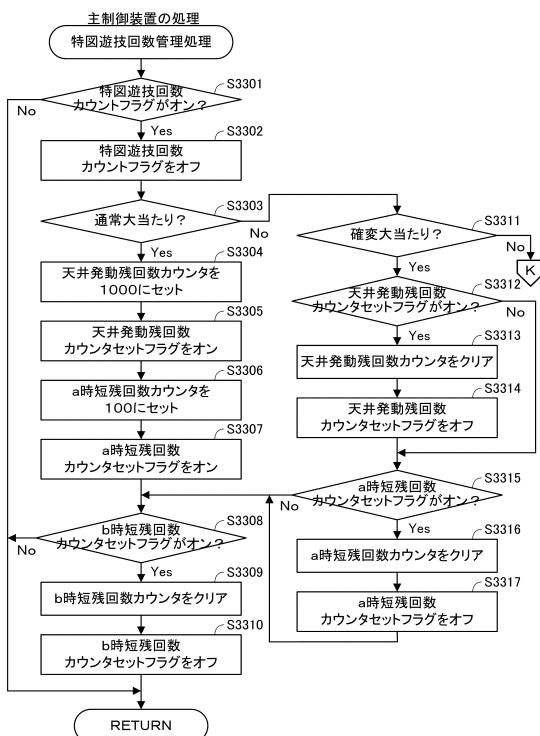
【図 1 7 0】



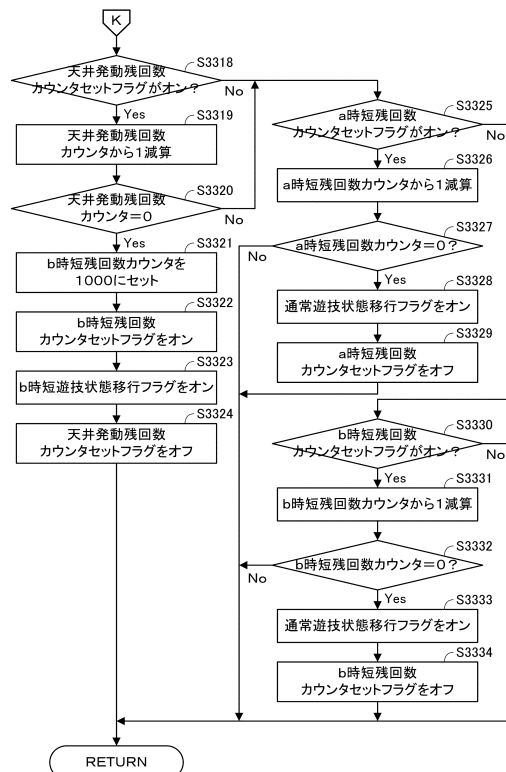
10

20

【図 1 7 1】



【図 1 7 2】

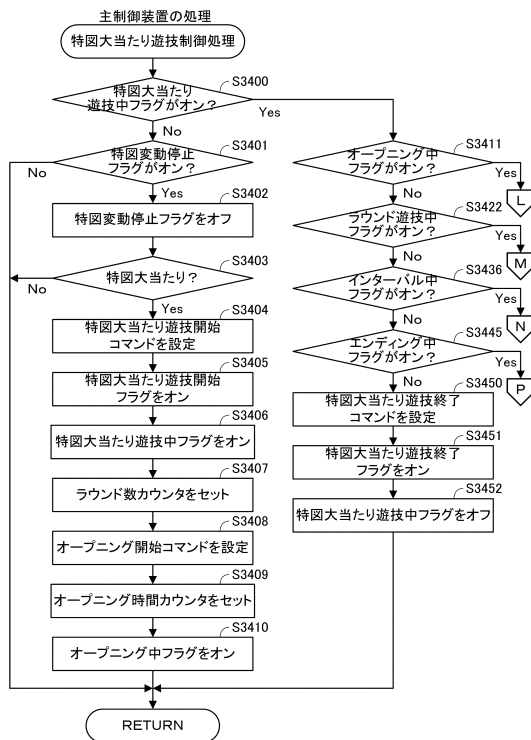


30

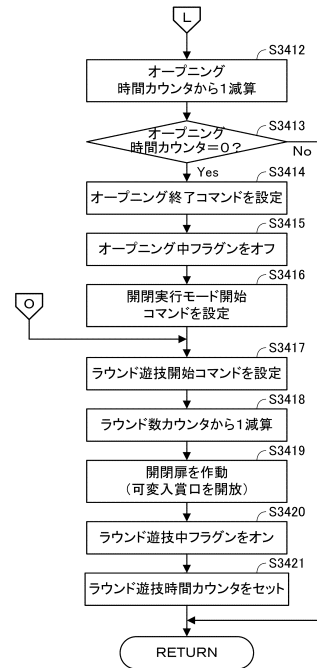
40

50

【図 173】



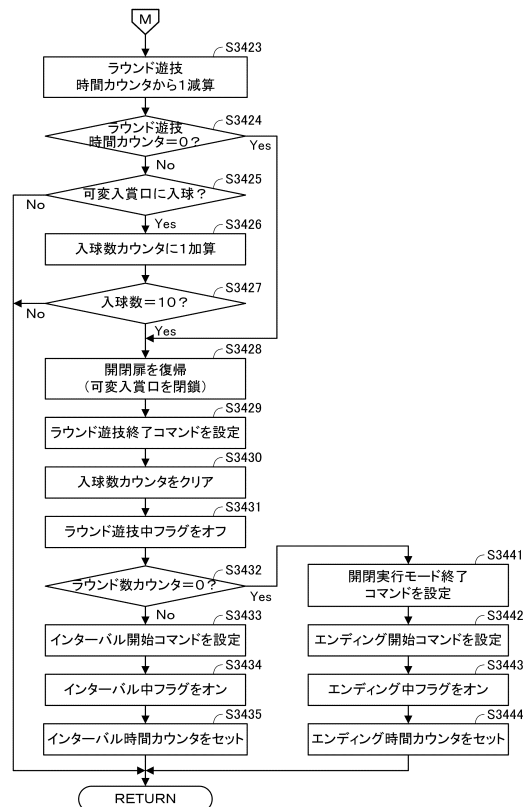
【図 174】



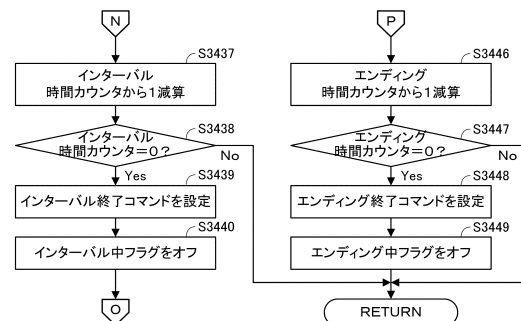
10

20

【図 175】



【図 176】

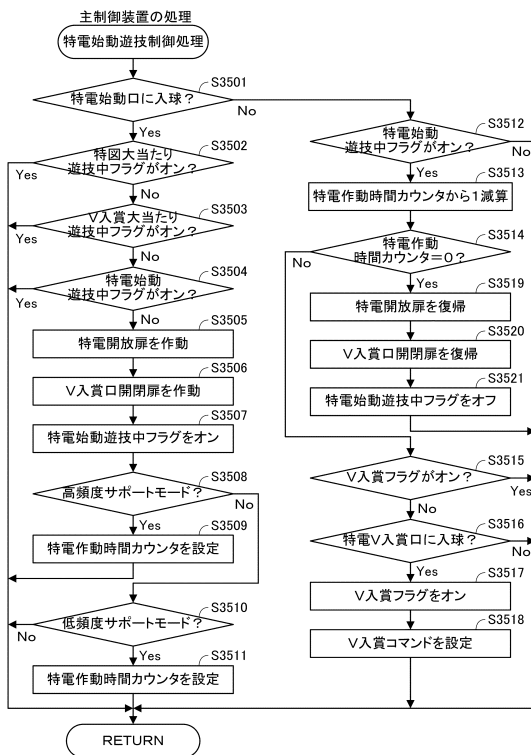


30

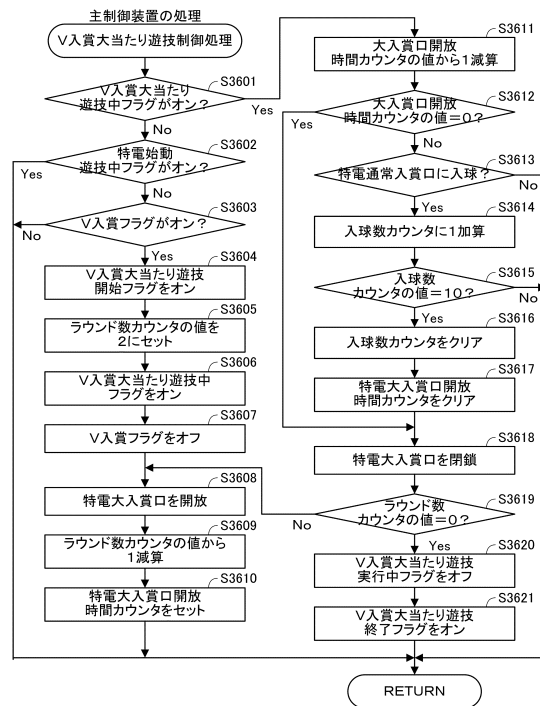
40

50

【図 177】



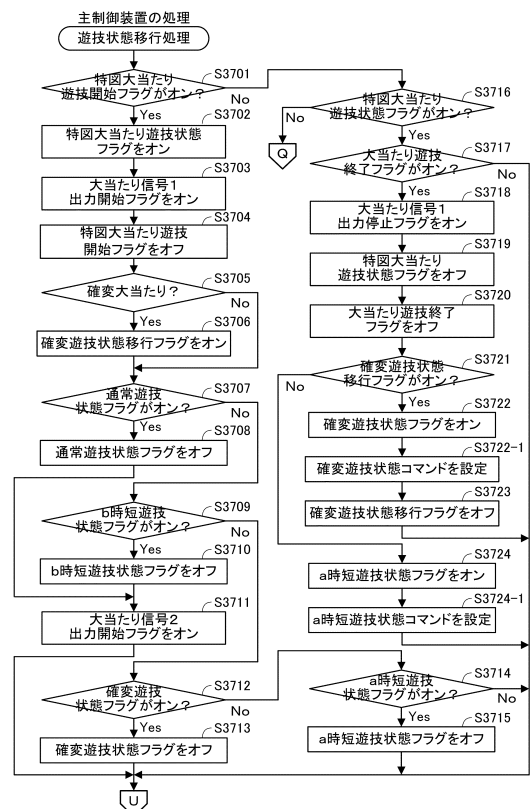
【図 178】



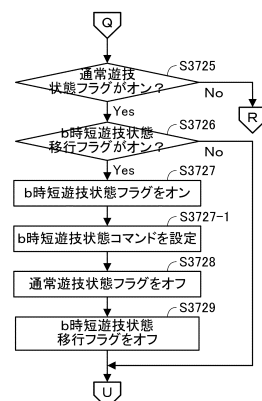
10

20

【図 179】



【図 180】

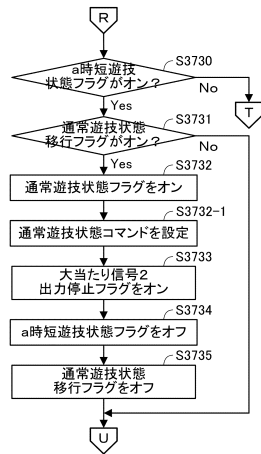


30

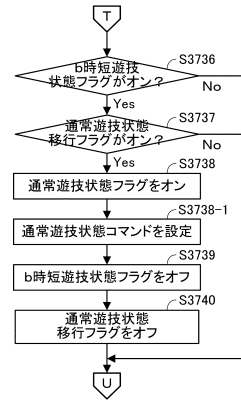
40

50

【図 181】



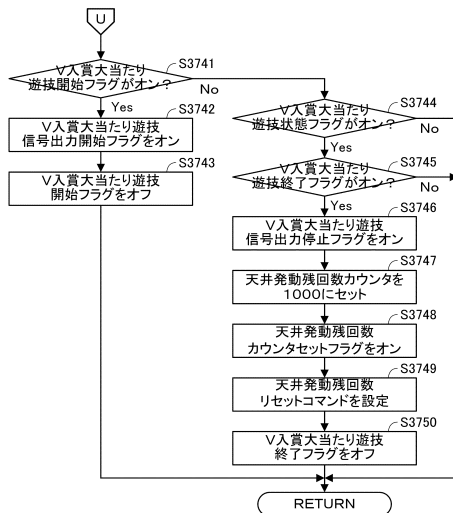
【図 182】



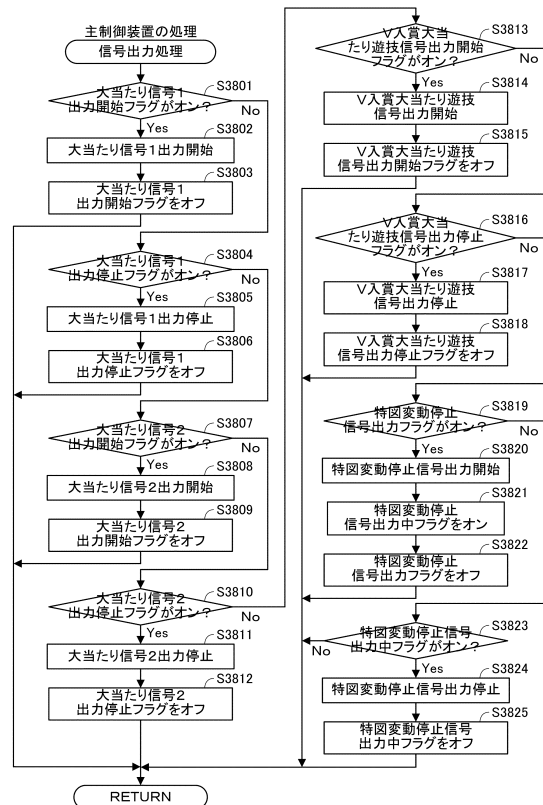
10

20

【図 183】



【図 184】

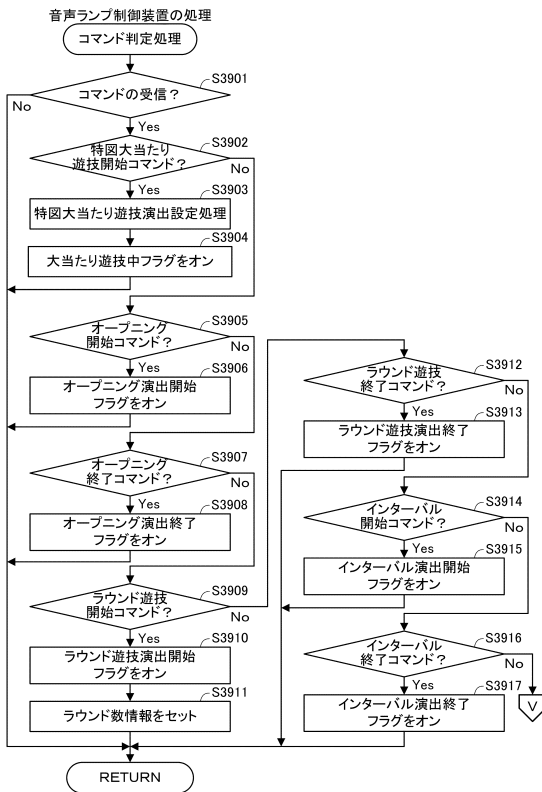


30

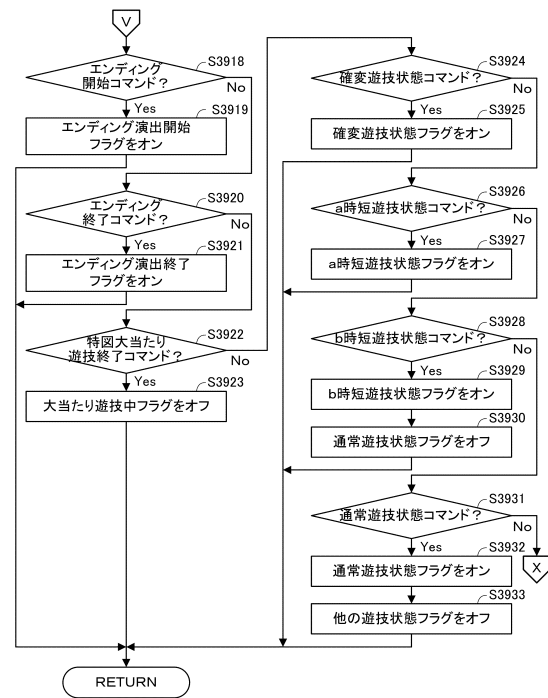
40

50

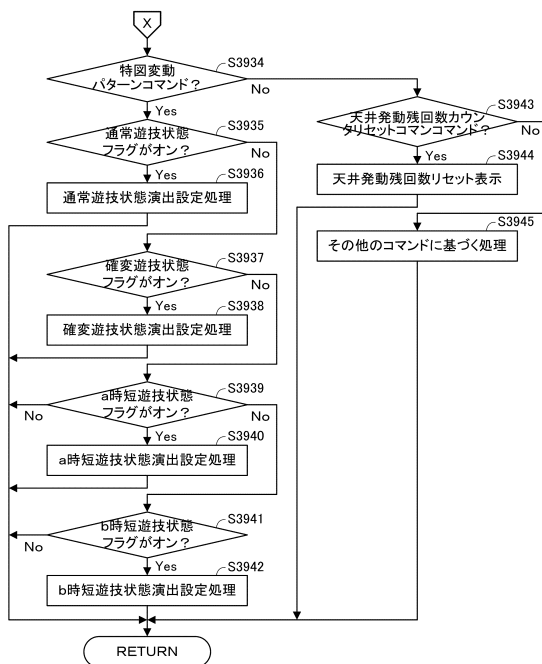
【図 185】



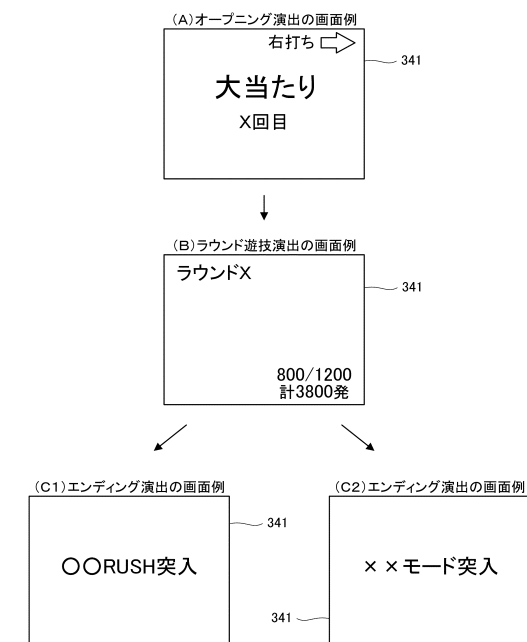
【図 186】



【図 187】



【図 188】



10

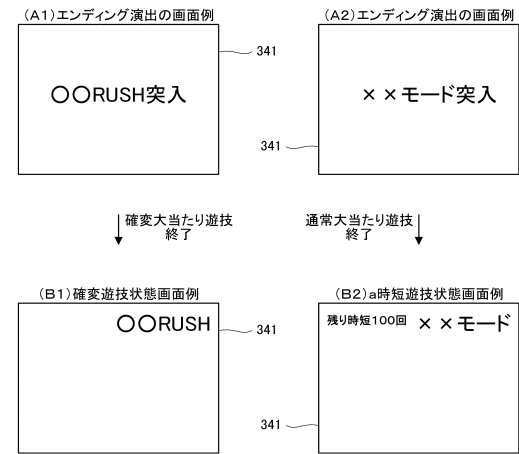
20

30

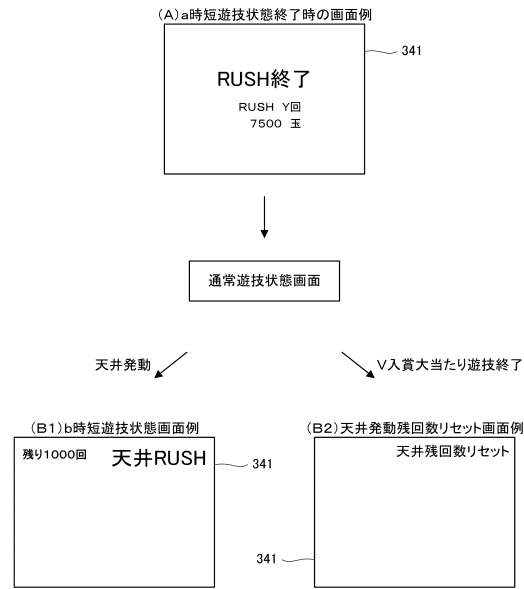
40

50

【図 1 8 9】



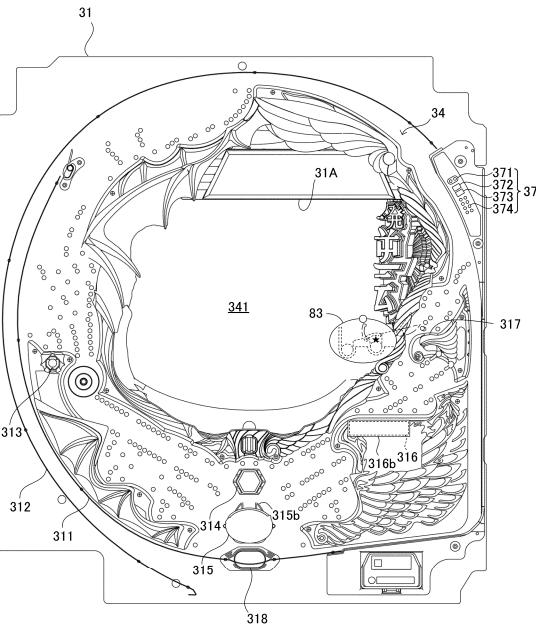
【図 1 9 0】



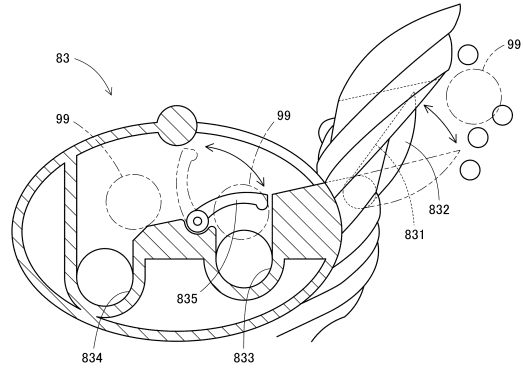
10

20

【図 1 9 1】



【図 1 9 2】

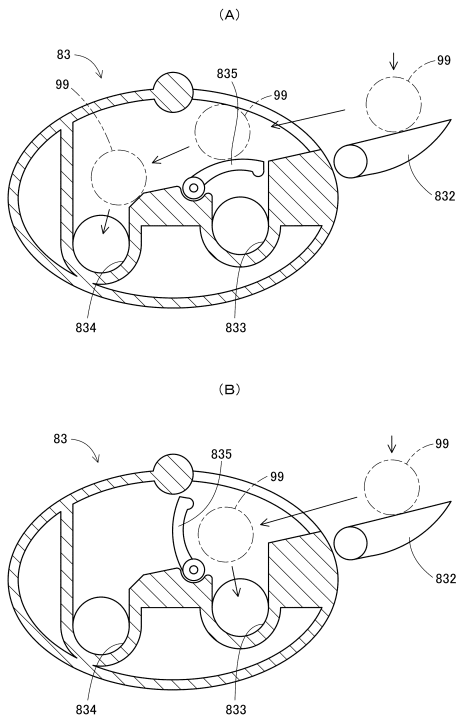


30

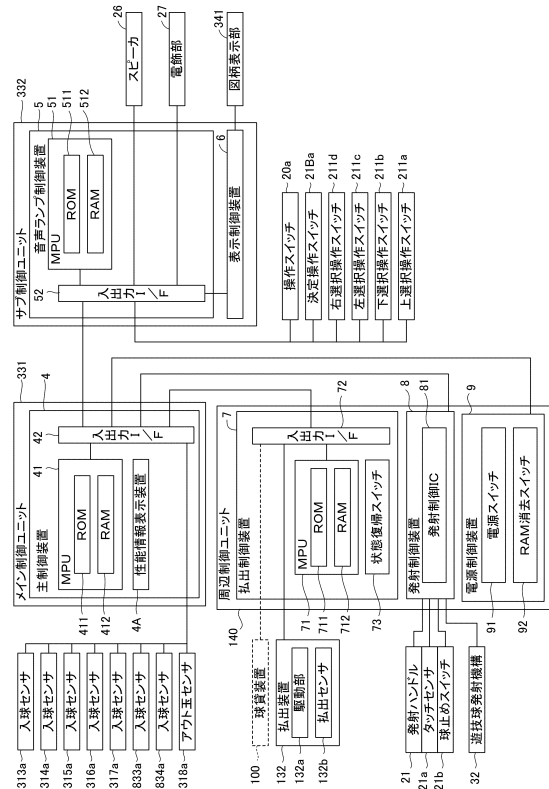
40

50

【図 193】



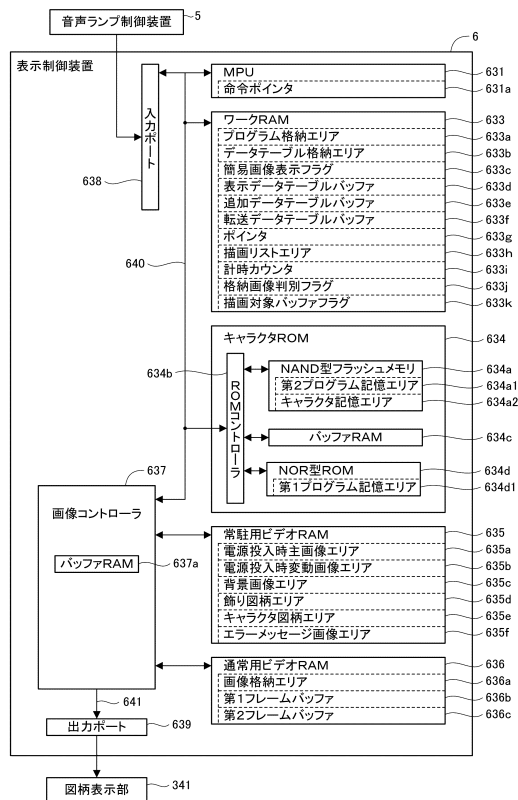
【図 194】



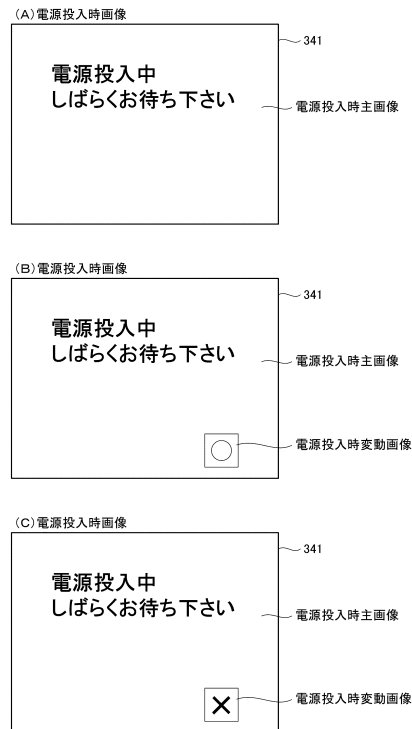
10

20

【図 195】



【図 196】

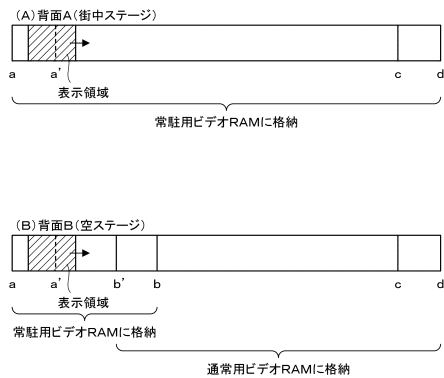


30

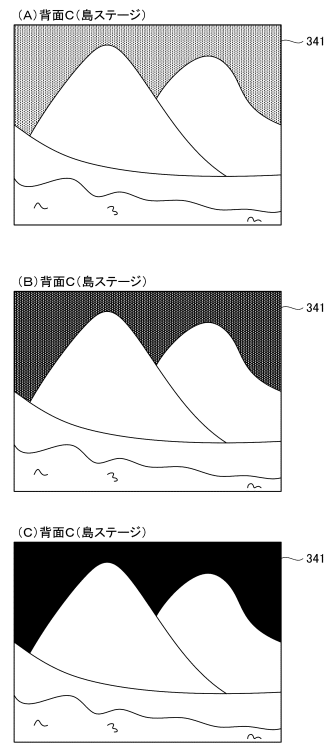
40

50

【図 1 9 7】



【図 1 9 8】



10

20

【図 1 9 9】

表示データテーブル	
アドレス	描画内容
0000H	Start
0001H	背面画像
	図柄1
	図柄種別
	図柄種別オフセット
	表示位置座標
	拡大率
	回転角度
	半透明値
	αブレンディング情報
	色情報
	フィルタ指定情報
	図柄2
	...
	エフェクト1
	エフェクト種別
	表示位置座標
	拡大率
	回転角度
	半透明値
	αブレンディング情報
	色情報
	フィルタ指定情報
	エフェクト2
	...
	...
	キャラクタ1
	キャラクタ種別
	表示位置座標
	拡大率
	回転角度
	半透明値
	αブレンディング情報
	色情報
	フィルタ指定情報
	キャラクタ2
	...
	...
0002H	...
0003H	...
...	...
02FDH	End

【図 2 0 0】

追加データテーブル	
アドレス	描画内容
0000H	Start
0001H	Null
...	...
0097H	エフェクト1
0097H	エフェクト種別
	表示位置座標
	拡大率
	回転角度
	半透明値
	αブレンディング情報
	色情報
	フィルタ指定情報
	エフェクト2
	...
	...
	キャラクタ1
	キャラクタ種別
	表示位置座標
	拡大率
	回転角度
	半透明値
	αブレンディング情報
	色情報
	フィルタ指定情報
	キャラクタ2
	...
	...
0098H	...
...	...
00FBH	...
00FCH	...
00FDH	End

30

40

50

【図 2 0 1】

転送データテーブル	
アドレス	描画内容
0000H	Start
0001H	転送対象画像データ：格納元先頭アドレス 格納元最終アドレス 格納先先頭アドレス
0002H	Nu11
⋮	⋮
0097H	転送対象画像データ：格納元先頭アドレス 格納元最終アドレス 格納先先頭アドレス
⋮	⋮
02F0H	End

【図 2 0 2】

描画リスト	
種別	詳細情報
背面画像	スプライト(表示物)のデータの格納RAM種別とアドレス 表示位置座標 拡大率 回転角度 半透明値 αブレンディング情報 色情報 フィルタ指定情報
図柄1	⋮
図柄2	⋮
⋮	⋮
エフェクト1	⋮
エフェクト2	⋮
⋮	⋮
キャラクタ1	⋮
キャラクタ2	⋮
⋮	⋮
保留球数図柄1	⋮
⋮	⋮
エラー図柄1	⋮
転送データ	転送対象画像データ：格納元先頭アドレス 格納元最終アドレス 格納先先頭アドレス

10

20

【図 2 0 3】

(A)通常遊技状態普図当たり当否テーブル		
普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	当たり	1／300
1～299	外れ	

(B)時短遊技状態普図当たり当否テーブル		
普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	外れ	299／300
1～299	当たり	

(C)通常遊技状態普図当たり種別振分テーブル		
普図当たり種別乱数カウンタ	普図当たり種別	最大開放時間
0～199	短開放	0. 1秒
—	長開放	6秒

(D)時短遊技状態普図当たり種別振分テーブル		
普図当たり種別乱数カウンタ	普図当たり種別	最大開放時間
—	短開放	0. 1秒
0～199	長開放	6秒

【図 2 0 4】

(A)特1大当たり当否テーブル			
大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率	小当たり確率
—	大当たり	0%	約1／318. 1
0～205	小当たり		
206～65535	外れ		

(B)b時短特2大当たり当否テーブル			
大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率	小当たり確率
—	大当たり	0%	約1／318. 1
0～205	小当たり		
206～65535	外れ		

(C)a時短特2大当たり当否テーブル			
大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率	小当たり確率
—	大当たり	0／65535	約1／7. 725
0～8483	小当たり		
10082～65535	外れ		

(D)特1大当たり種別振分テーブル			
大当たり種別カウンタ	大当たり種別	大当たり遊技後の移行先	最大時短回数 (RUSH突入率)
0～18(95%)	4R時短大当たり	a時短遊技状態	1回 (50%)
19(5%)	16R時短大当たり		

(E)特2大当たり種別振分テーブル			
大当たり種別カウンタ	大当たり種別	移行先	最大時短回数 (RUSH継続率)
0～4(25%)	4R時短大当たり	a時短遊技状態	5回 (71. 3%)
5～19(75%)	16R時短大当たり		

30

40

50

【図 2 0 5】

(A)外れ変動テーブル

外れ種別	特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
前後外れリーチ	0~99	01(30s)
前後外れ以外リーチ	100~149	02(60s)
	150~199	03(90s)
完全外れ	0~149	04(7s)
	150~199	05(10s)

(B)当たり変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0~19	01(30s)
20~119	02(60s)
120~199	03(90s)

(C)ノーマルリーチ演出パターン

高速変動演出	ノーマルリーチ演出

(D)スーパーリーチ演出パターン

高速変動演出	ノーマルリーチ演出	スーパーリーチ演出

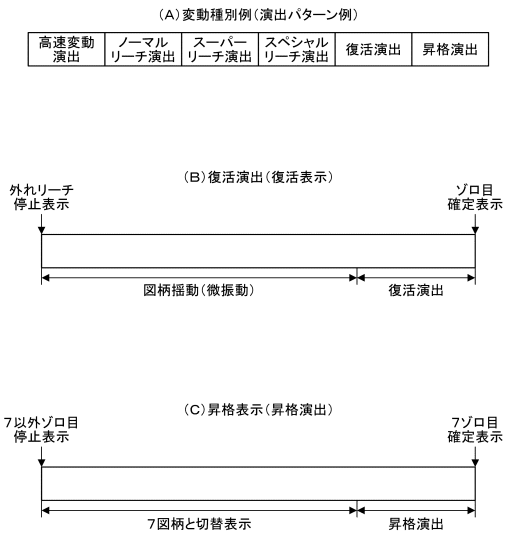
(E)スペシャルリーチ演出パターン

高速変動演出	ノーマルリーチ演出	スーパーリーチ演出	スペシャルリーチ演出

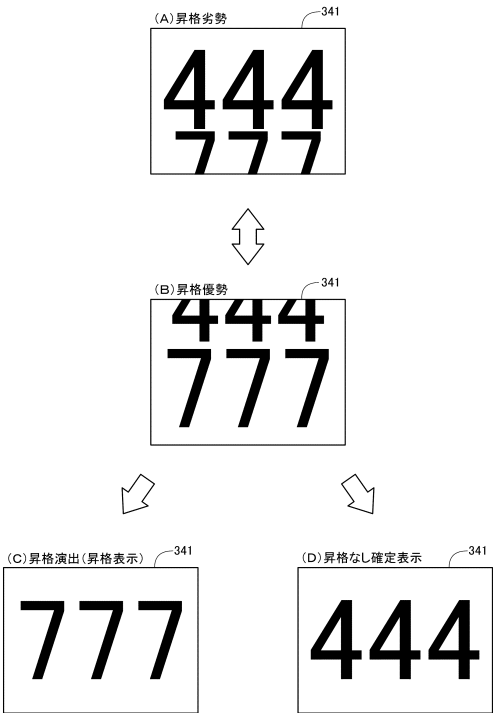
(F)非リーチ演出パターン

高速変動演出

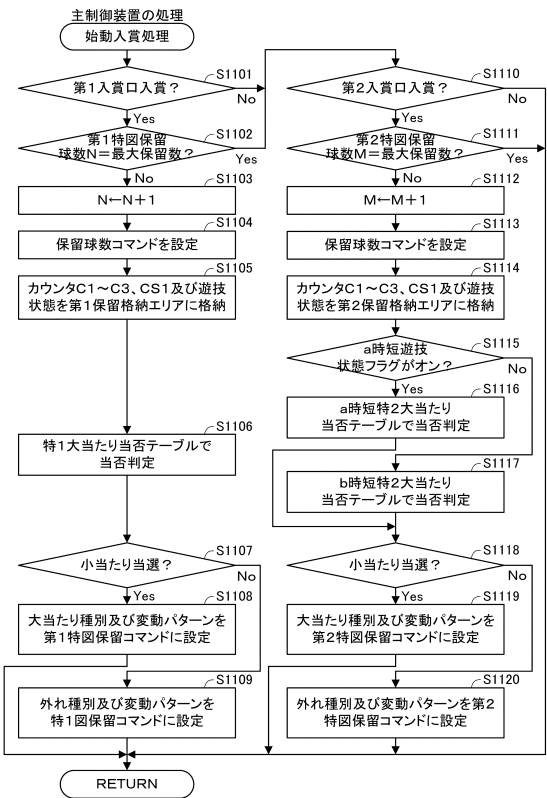
【図 2 0 6】



【図 2 0 7】



【図 2 0 8】



10

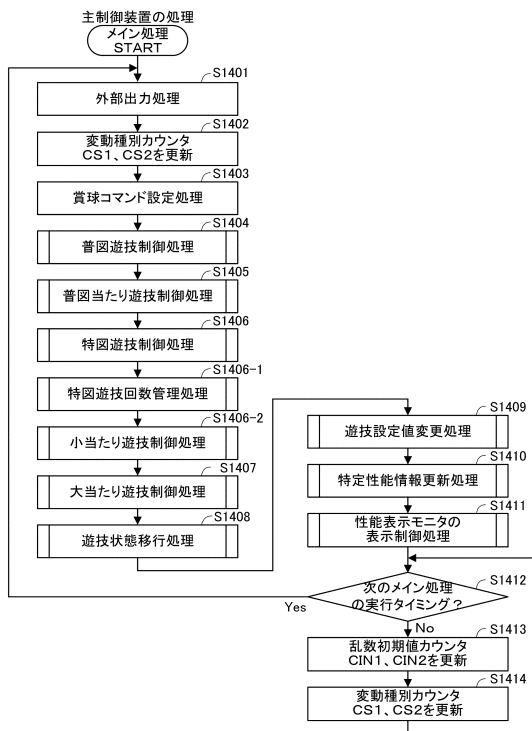
20

30

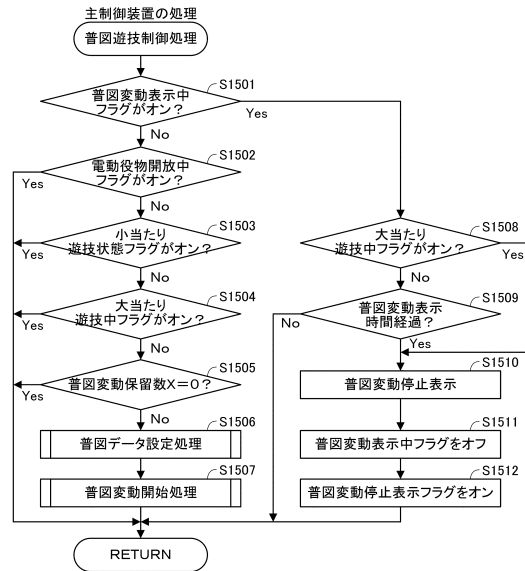
40

50

【図 2 0 9】



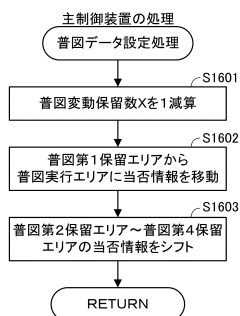
【図 2 1 0】



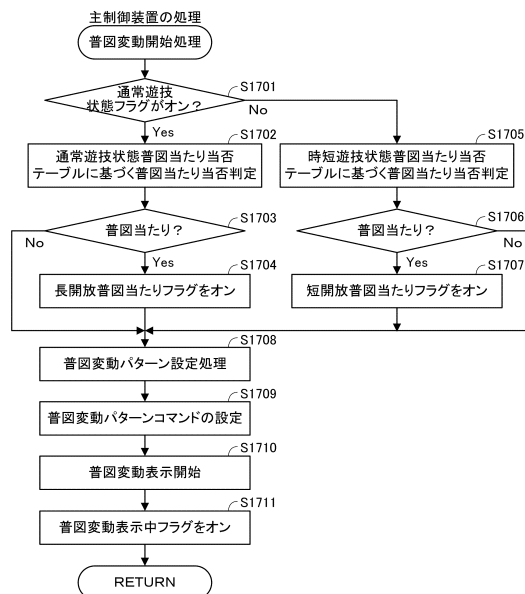
10

20

【図 2 1 1】



【図 2 1 2】

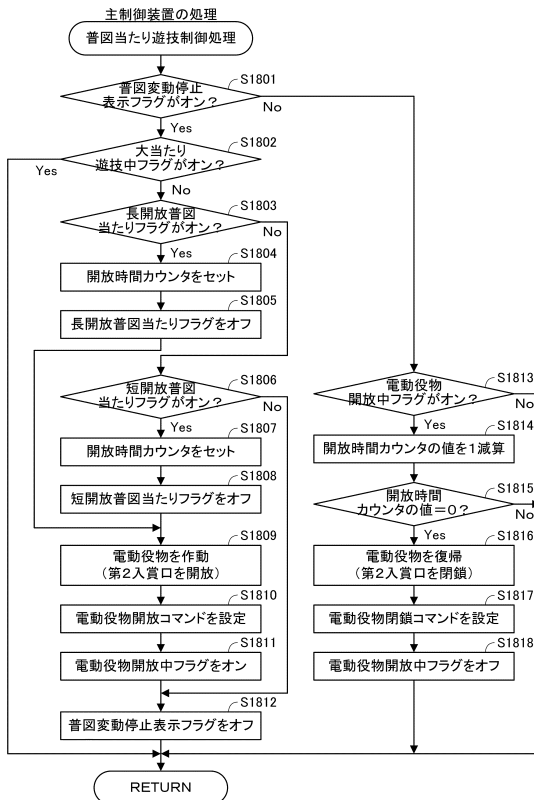


30

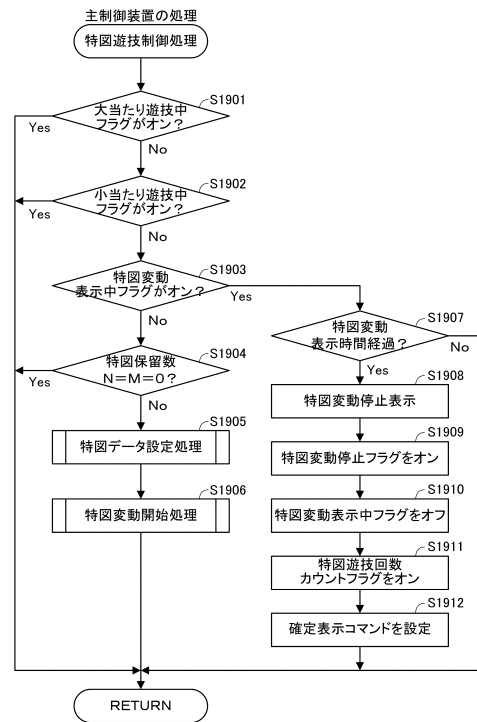
40

50

【図 2 1 3】



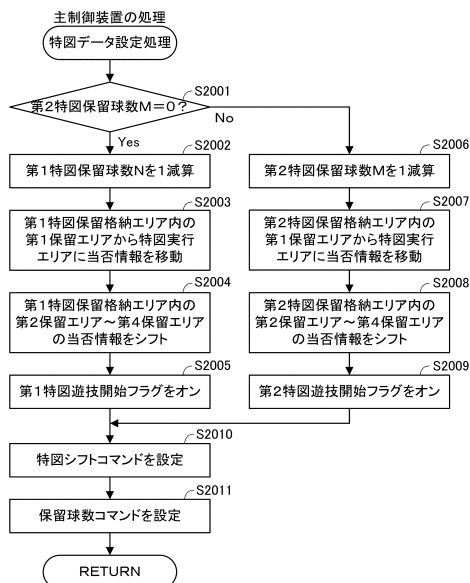
【図 2 1 4】



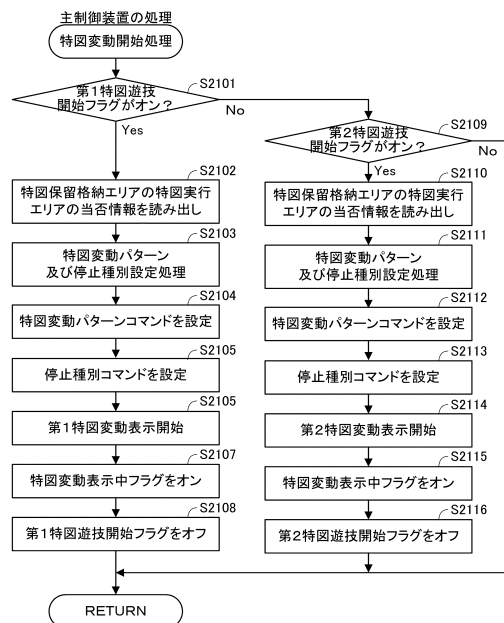
10

20

【図 2 1 5】



【図 2 1 6】

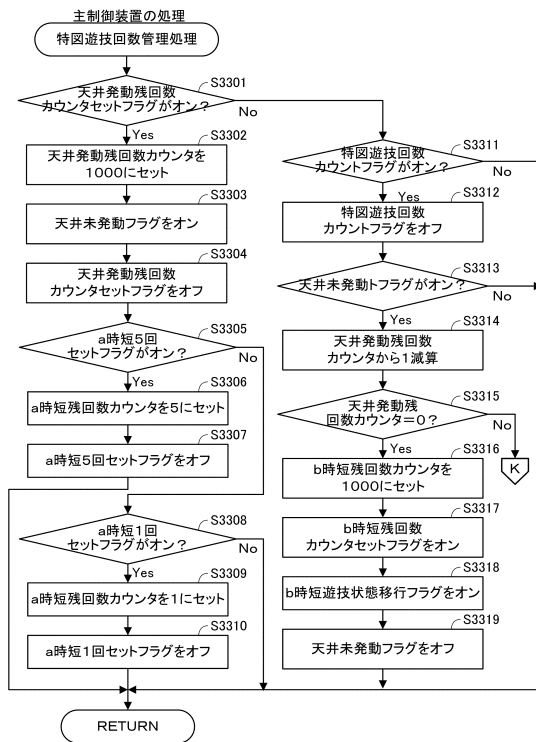


30

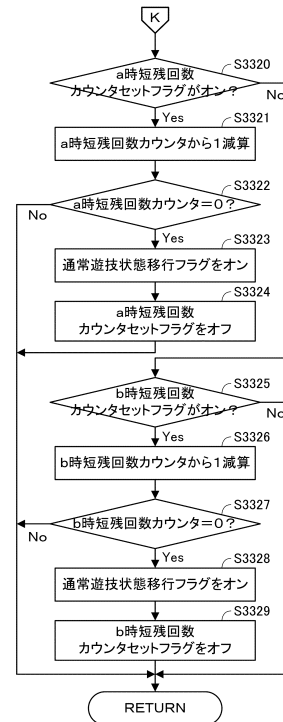
40

50

【図 2 1 7】



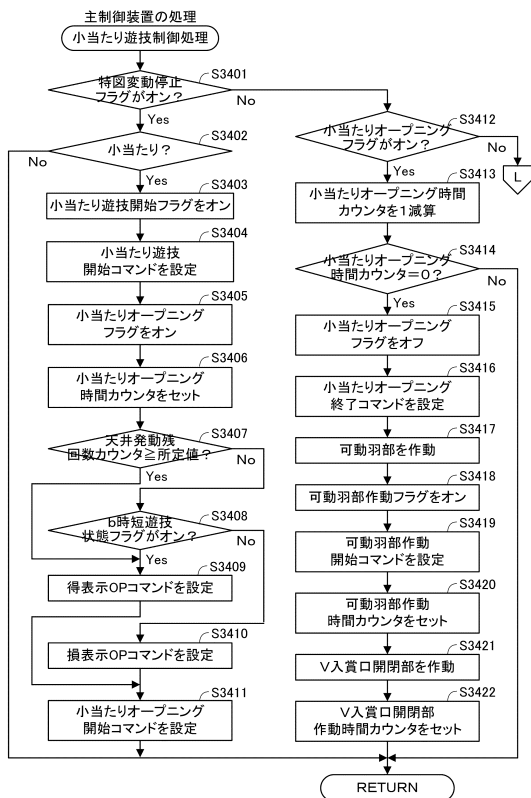
【図 2 1 8】



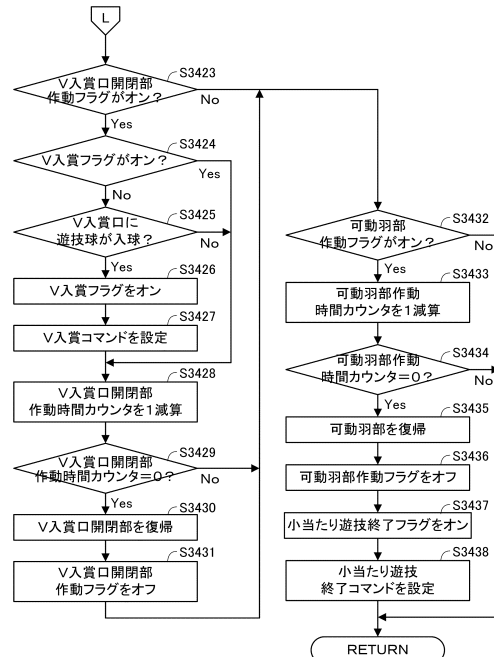
10

20

【図 2 1 9】



【図 2 2 0】



30

40

50

【図 2 2 1】

(A) 損益分岐点演算例

<出荷時設計値>

- (1) 左打ち時の1回の特図遊技の実行に必要な遊技球数=12.5玉(20回/ー250玉)
(2) 非天井初当たり時の期待差玉数=3000玉
(3) 天井初当たり時の期待差玉数=4500玉

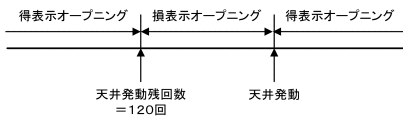
<計算値>

- (1) 天井初当たり時と非天井初当たり時の期待差玉数の差=1500玉
(2) 期待差玉数の差で実行可能な左打ち特図遊技回数=120回

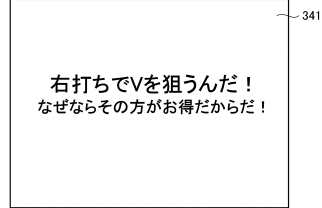
<結果>

- (1) 天井到達までの残回数120回以下で天井到達時の期待差玉数プラス
(2) 天井到達までの残回数121回以上で天井到達時の期待差玉数マイナス

(B) 小当たり遊技のオープニング演出の例

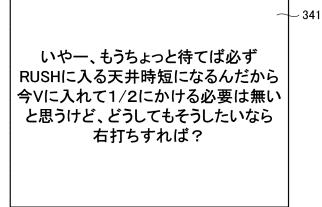


(A) 小当たり遊技の得表示オープニング演出の画像例



10

(B) 小当たり遊技の損表示オープニング演出の画像例



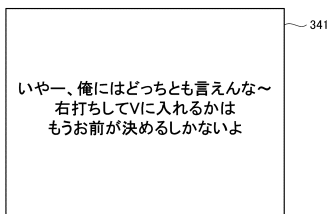
20

【図 2 2 3】

(A) 小当たり遊技オープニング画像例(変形例)

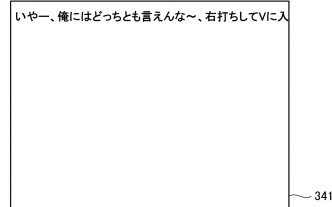


(B) 小当たり遊技のボーダー報知のオープニング演出の画像例



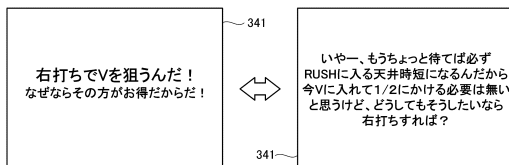
【図 2 2 4】

特図遊技中のボーダー報知の画像例



30

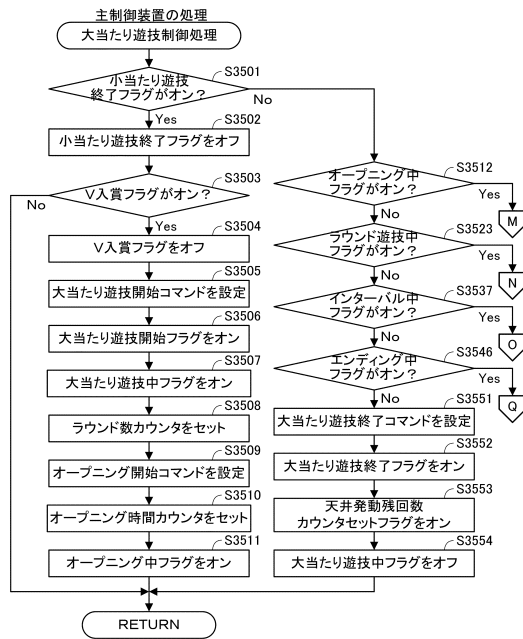
(C) 小当たり遊技の得表示オープニング演出の画像例



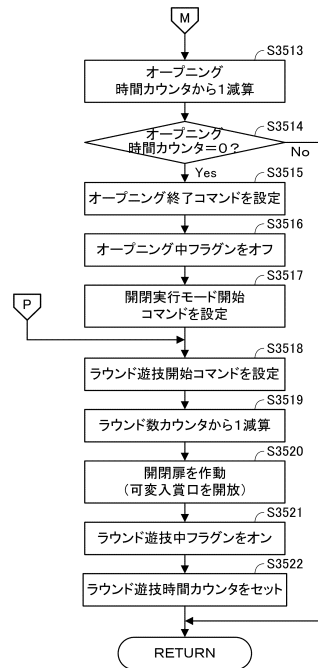
40

50

【図 2 2 5】



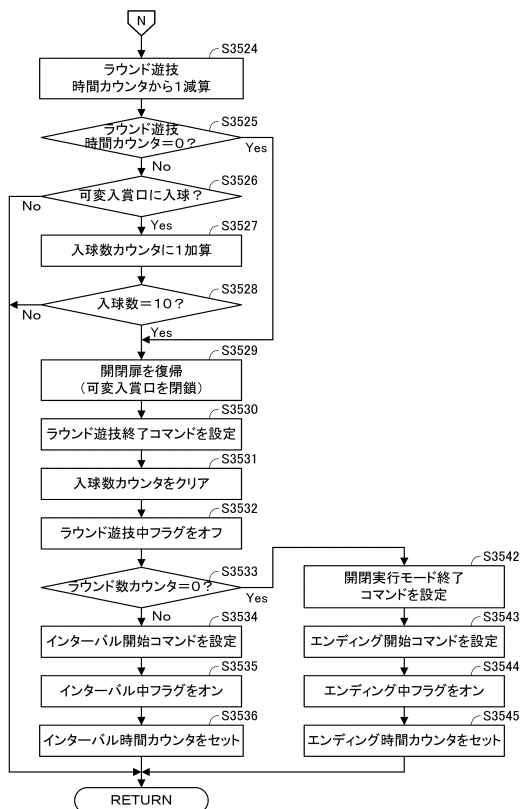
【図 2 2 6】



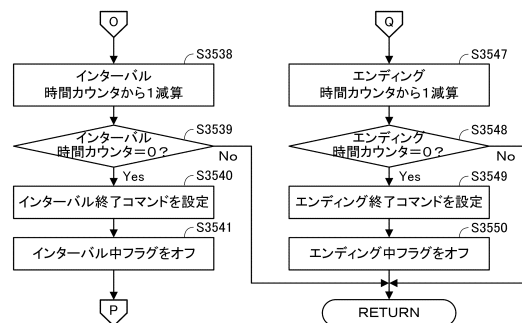
10

20

【図 2 2 7】



【図 2 2 8】

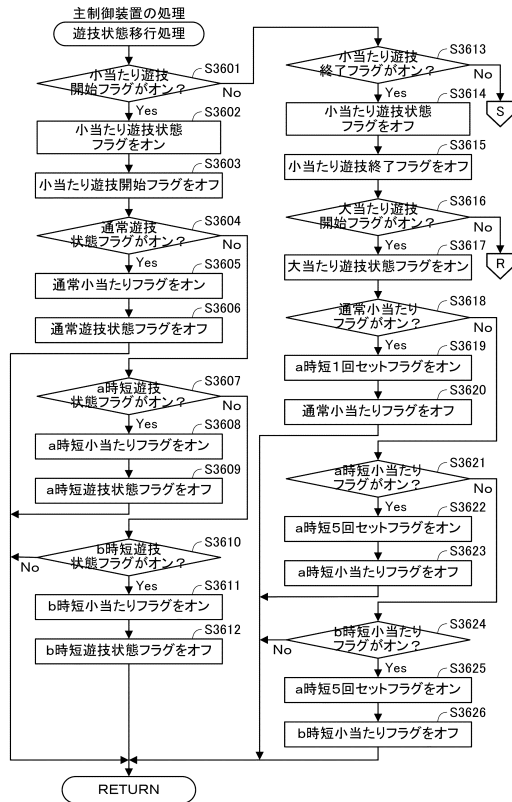


30

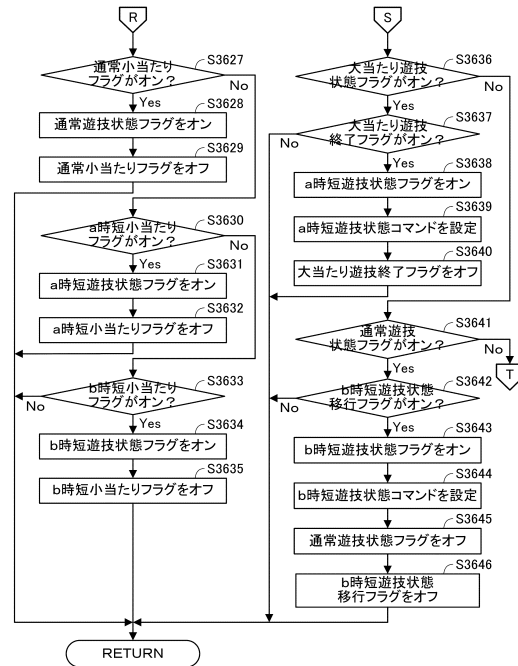
40

50

【図 2 2 9】



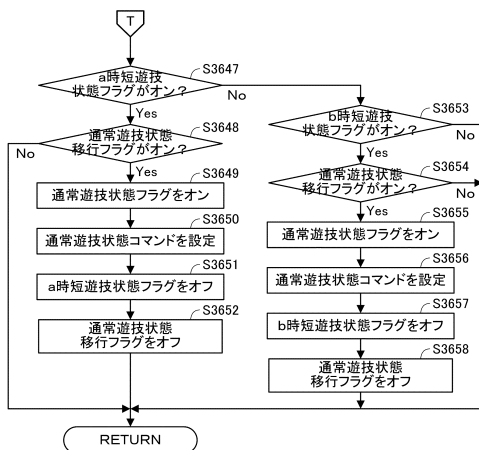
【図 2 3 0】



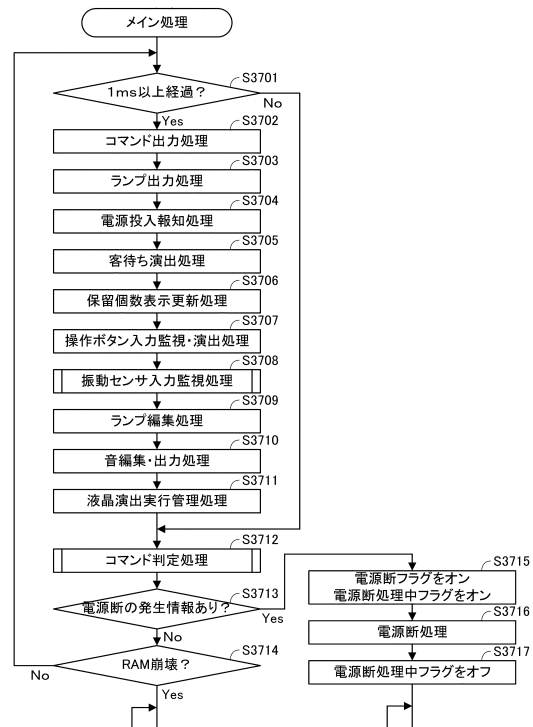
10

20

【図 2 3 1】



【図 2 3 2】

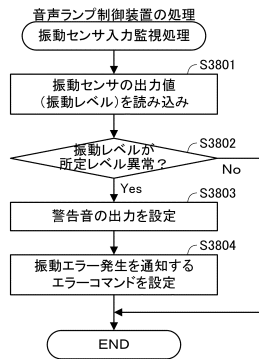


30

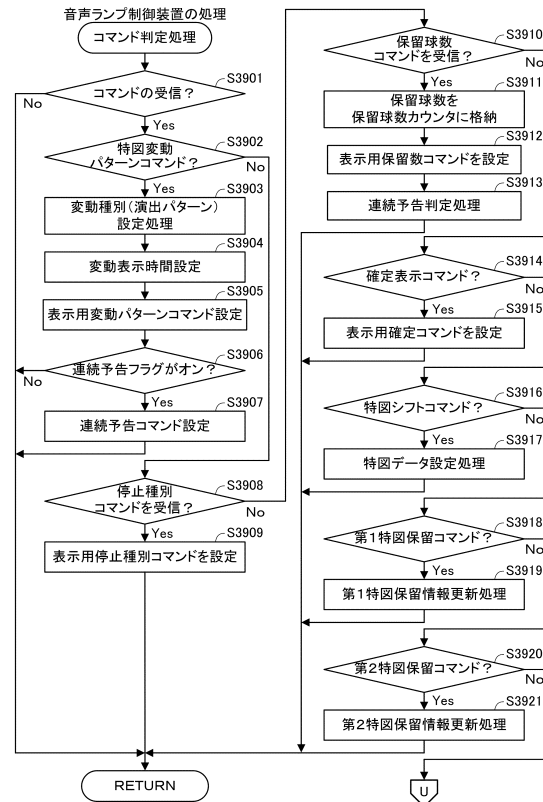
40

50

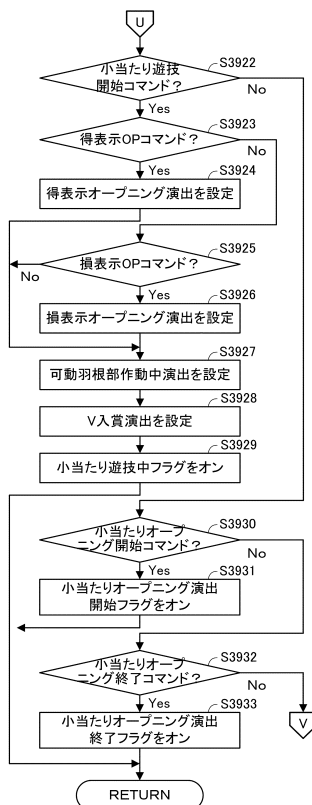
【図 2 3 3】



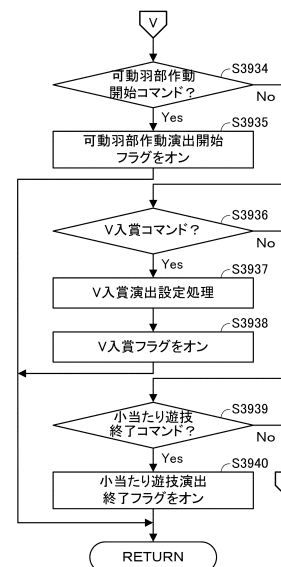
【図 2 3 4】



【図 2 3 5】



【図 2 3 6】



10

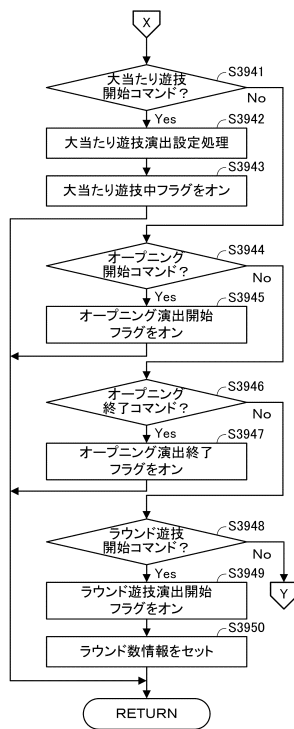
20

30

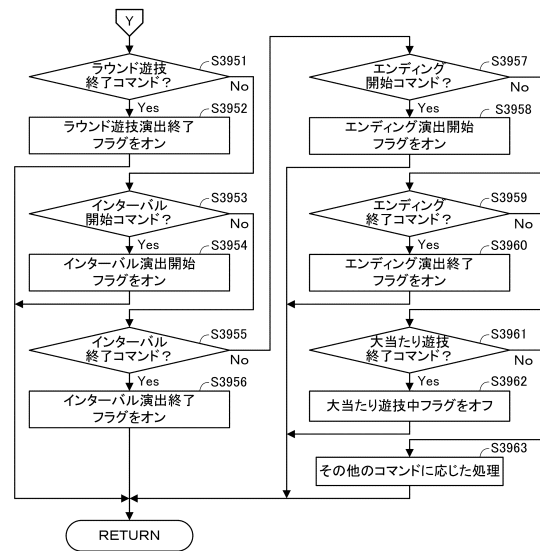
40

50

【図 2 3 7】



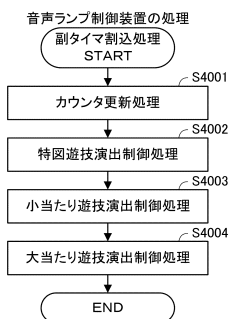
【図 2 3 8】



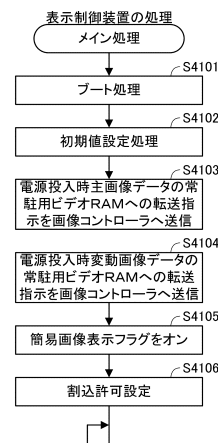
10

20

【図 2 3 9】



【図 2 4 0】

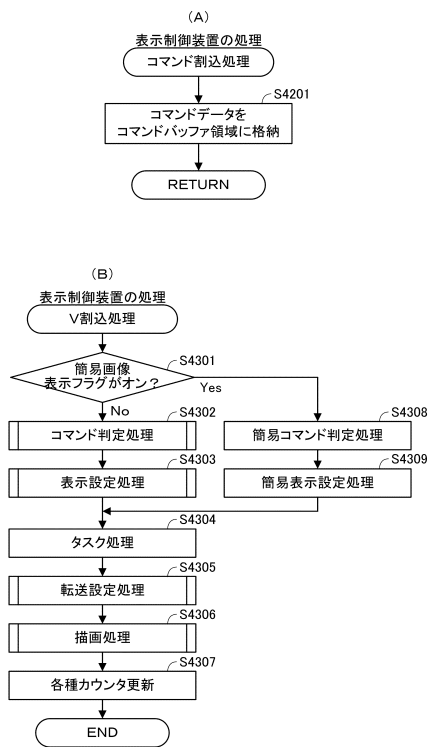


30

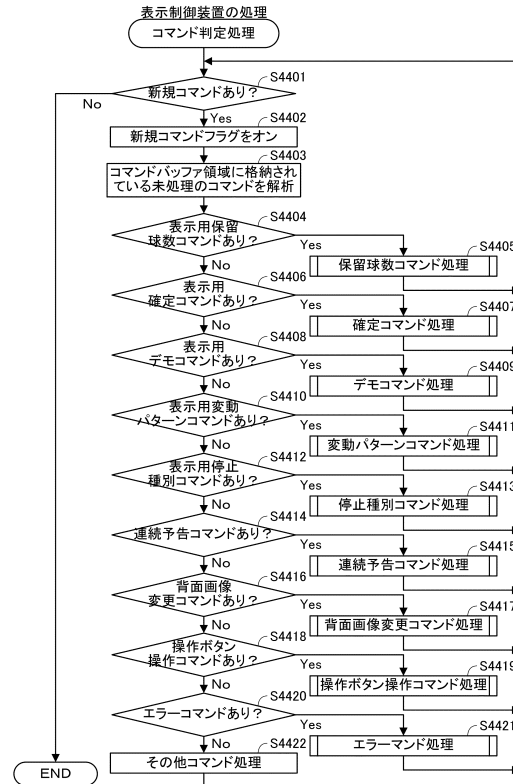
40

50

【図 2 4 1】



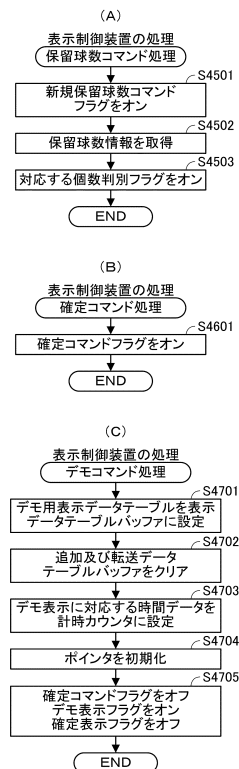
【図 2 4 2】



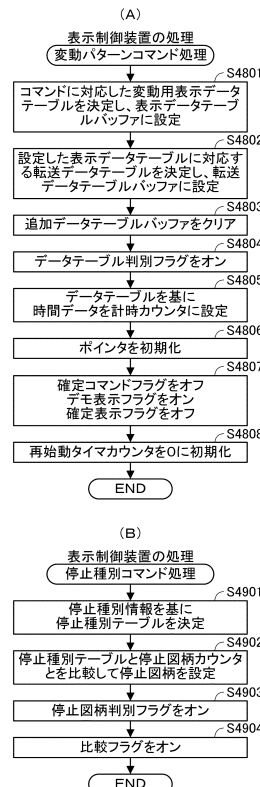
10

20

【図 2 4 3】



【図 2 4 4】

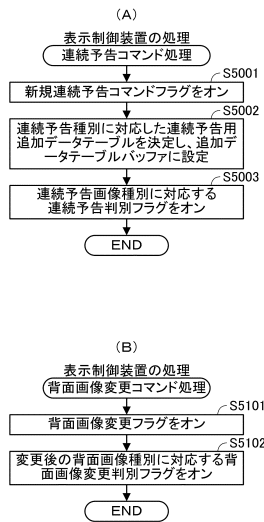


30

40

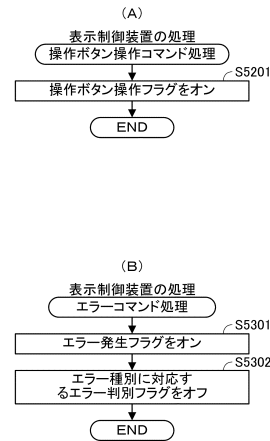
50

【図 2 4 5】



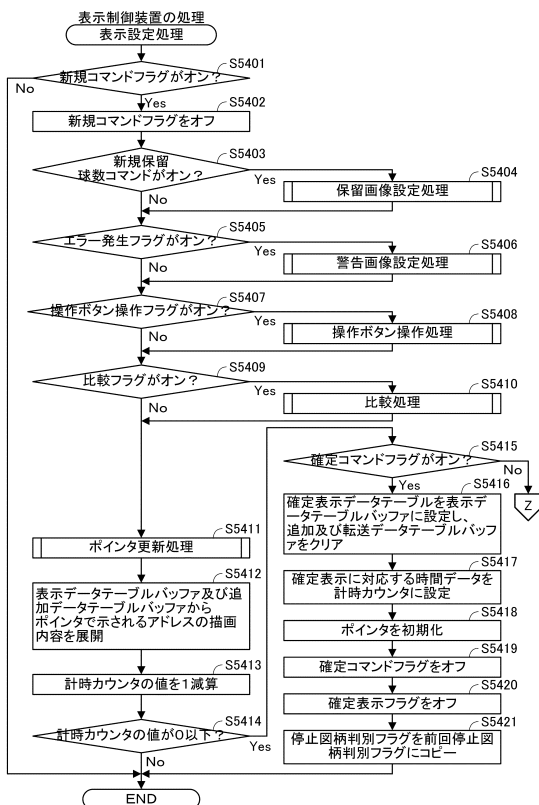
10

【図 2 4 6】



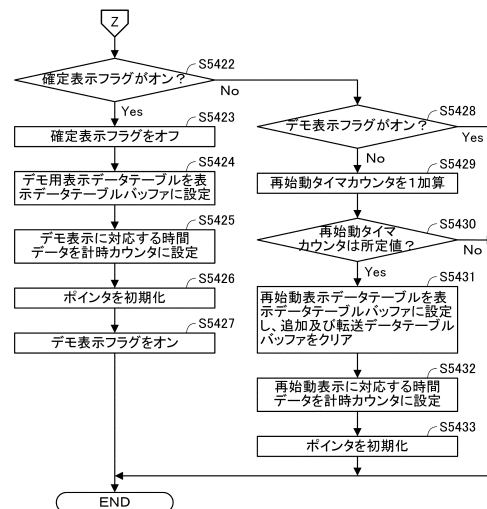
20

【図 2 4 7】



30

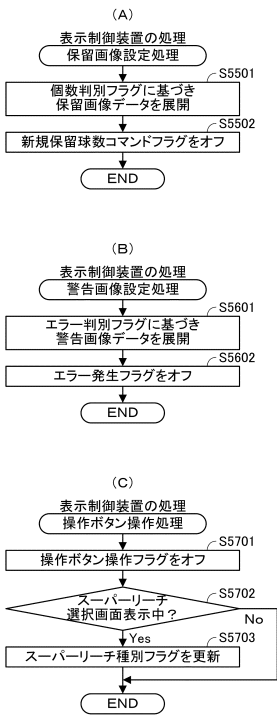
【図 2 4 8】



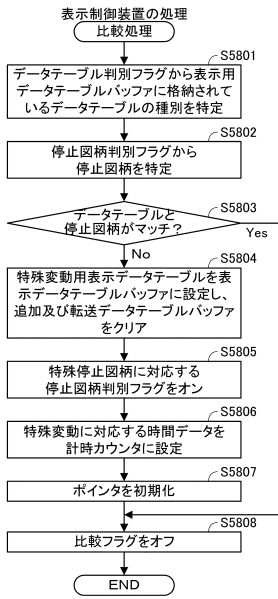
40

50

【図 2 4 9】



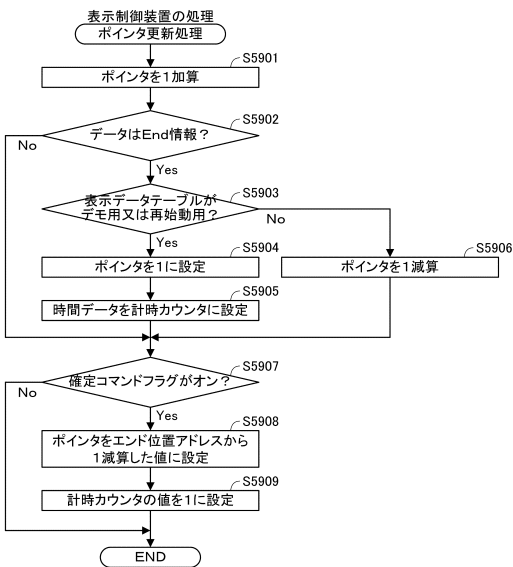
【図 2 5 0】



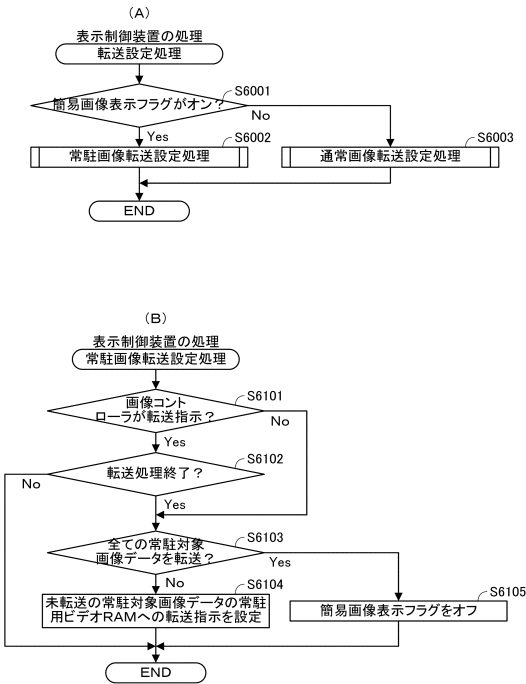
10

20

【図 2 5 1】



【図 2 5 2】

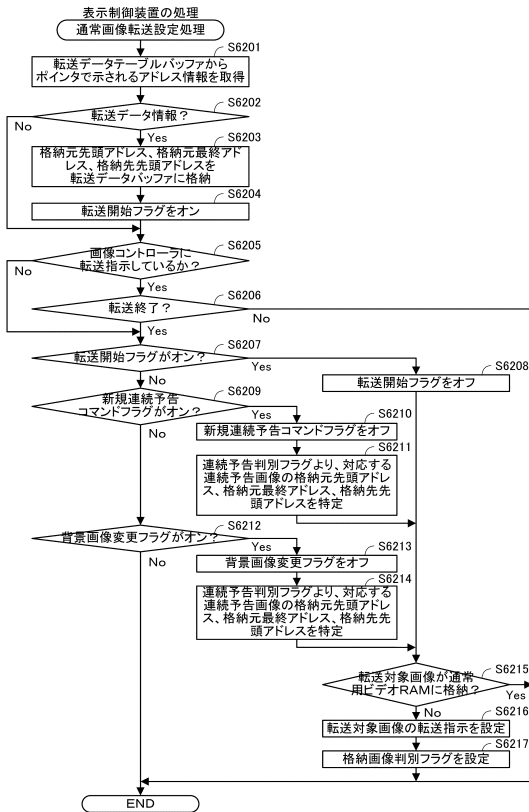


30

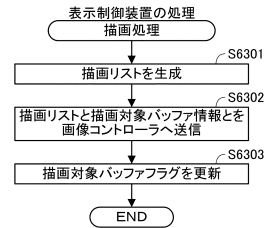
40

50

【図 2 5 3】



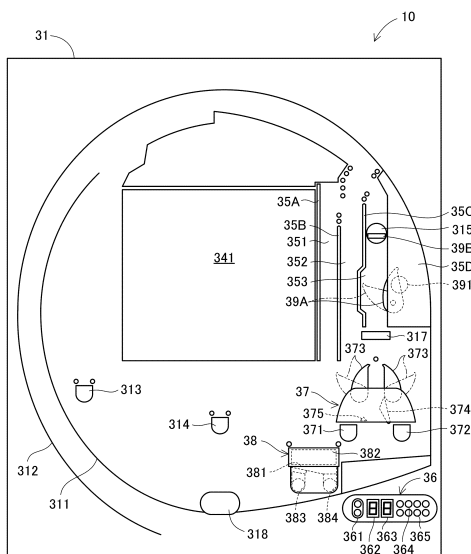
【図 2 5 4】



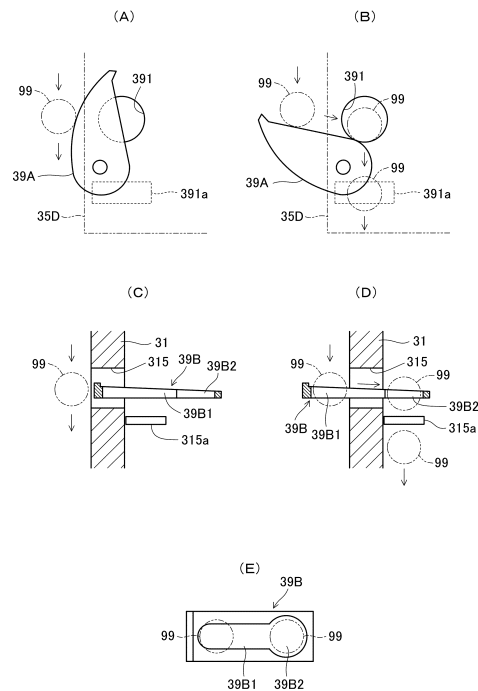
10

20

【図 2 5 5】



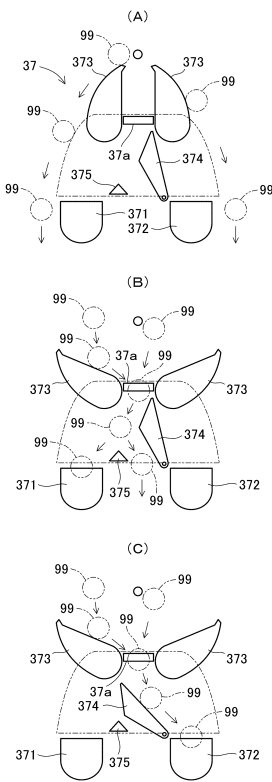
【圖 2 5 6】



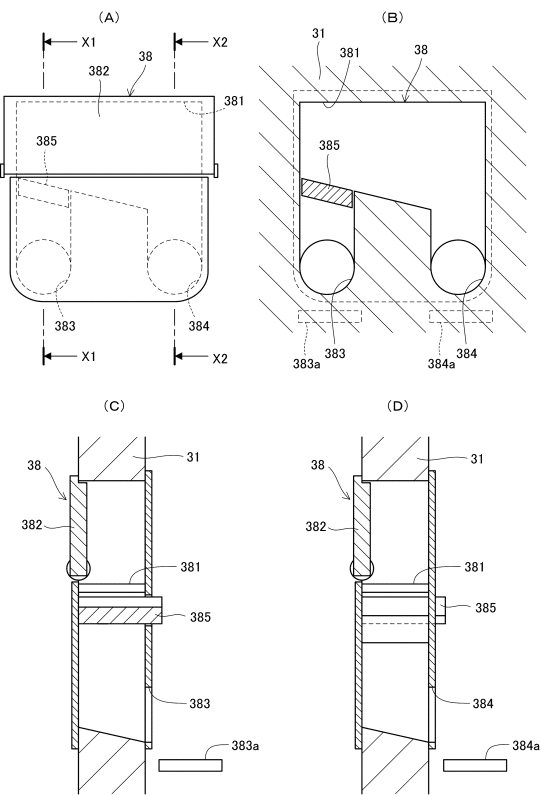
30

40

【図 2 5 7】



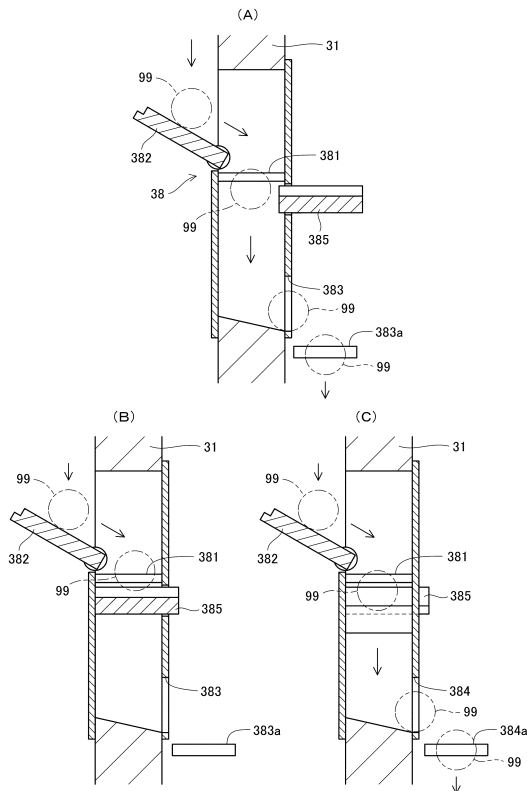
【図 2 5 8】



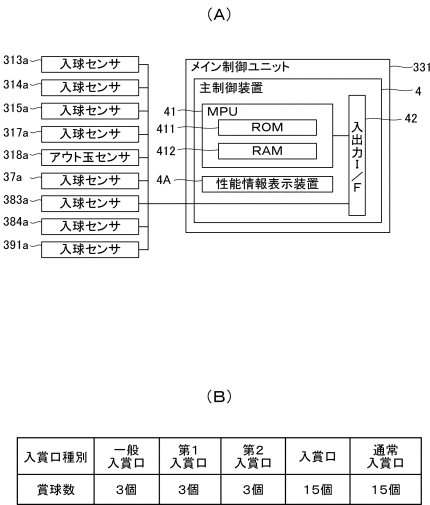
10

20

【図 2 5 9】



【図 2 6 0】

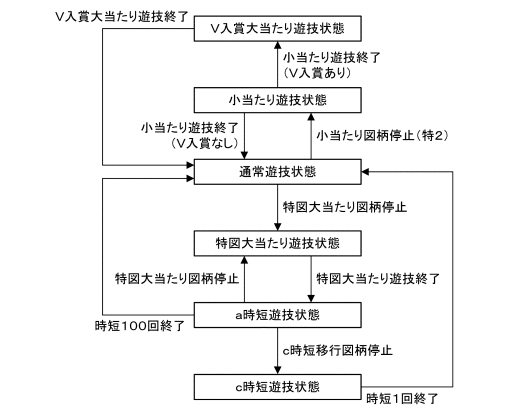


30

40

50

【図 2 6 1】



【図 2 6 2】

(A)通常遊技状態普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	当たり	1／300
1～299	外れ	

(B)時短遊技状態普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0	外れ	299／300
1～299	当たり	

(C)通常遊技状態普図当たり種別振分テーブル

普図当たり種別乱数カウンタ	抽選結果	最大開放時間
0～199	短開放	0.1秒
—	長開放	10秒

(D)時短遊技状態普図当たり種別振分テーブル

普図当たり種別乱数カウンタ	抽選結果	最大開放時間
—	短開放	0.1秒
0～199	長開放	10秒

【図 2 6 3】

(A)通常特1大当たり当否テーブル

大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率	小当たり確率	c時短移行確率
0～205	大当たり	約1／318.1	0%	0%
—	小当たり			
206～65535	c時短移行 外れ			

(B)a時短特1大当たり当否テーブル

大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率	小当たり確率	c時短移行確率
0～205	大当たり	約1／318.1	0%	約2／318.1
—	小当たり			
206～617	c時短移行			
206～65535	外れ			

(C)特2大当たり当否テーブル

大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率	小当たり確率	c時短移行確率
—	大当たり	0%	約2／3	0%
0～43690	小当たり			
—	c時短移行			
43691～65535	外れ			

(D)特図大当たり種別振分テーブル

大当たり種別カウンタ	大当たり種別	出玉数	大当たり遊技後の移行先
0～18(95%)	4R大当たり	600玉	a時短遊技状態
19(5%)	10R大当たり	1500玉	(時短100回)

(E)V入賞大当たり種別振分テーブル

大当たり種別カウンタ	大当たり種別	出玉数	大当たり遊技後の移行先
—	4R大当たり	600玉	通常遊技状態
0～19(100%)	10R大当たり	1500玉	

【図 2 6 4】

(A)特1外れ変動テーブル

外れ種別	特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
前後外れリーチ 前後外れ以外リーチ	0～99	01(30s)
	100～149	02(60s)
	150～199	03(90s)
完全外れ c時短移行	0～69	04(7s)
	70～139	05(10s)
	140～199	06(15s)

(B)特1当たり変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0～19	01(30s)
20～119	02(60s)
120～199	03(90s)

(C)特2変動テーブルA(特2入賞カウンタ＝1)

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0～199	06(15s)

(D)特2変動テーブルB(特2入賞カウンタ＝2～4)

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0～199	07(1s)

10

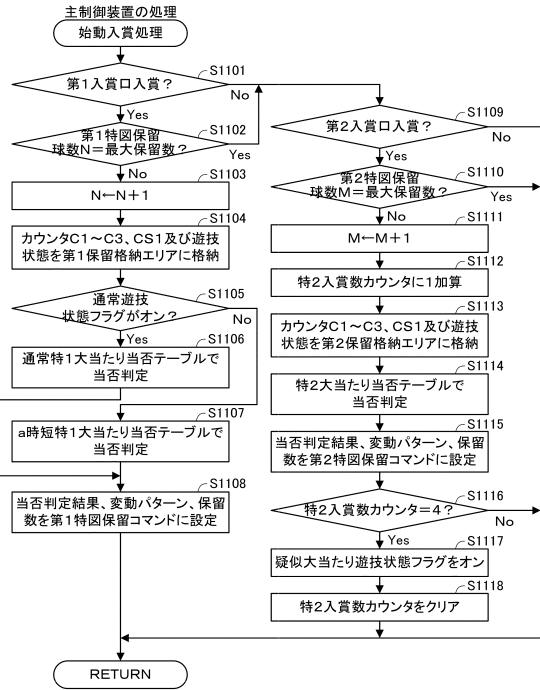
20

30

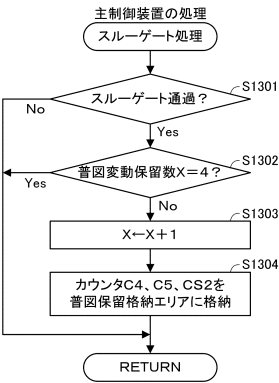
40

50

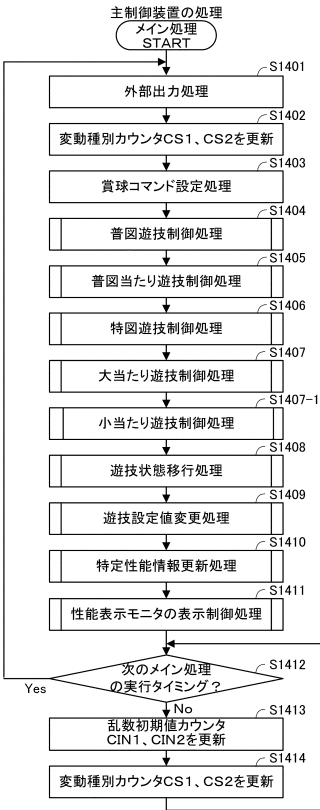
【図 2 6 5】



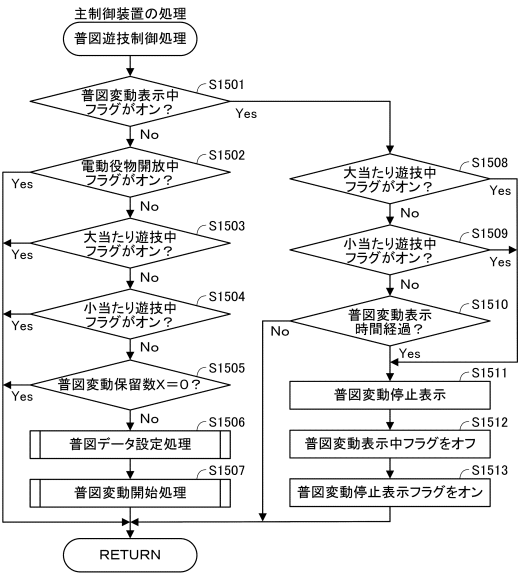
【図 2 6 6】



【図 2 6 7】



【図 2 6 8】



10

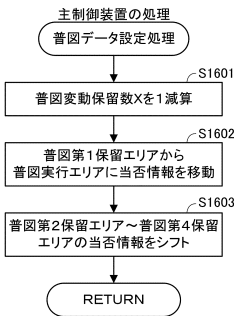
20

30

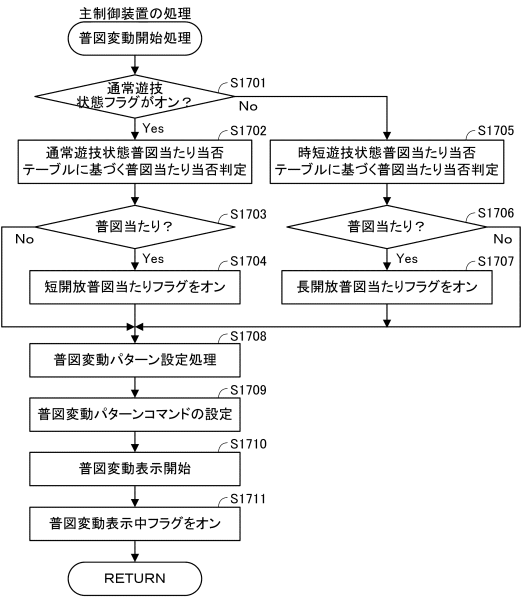
40

50

【図 2 6 9】



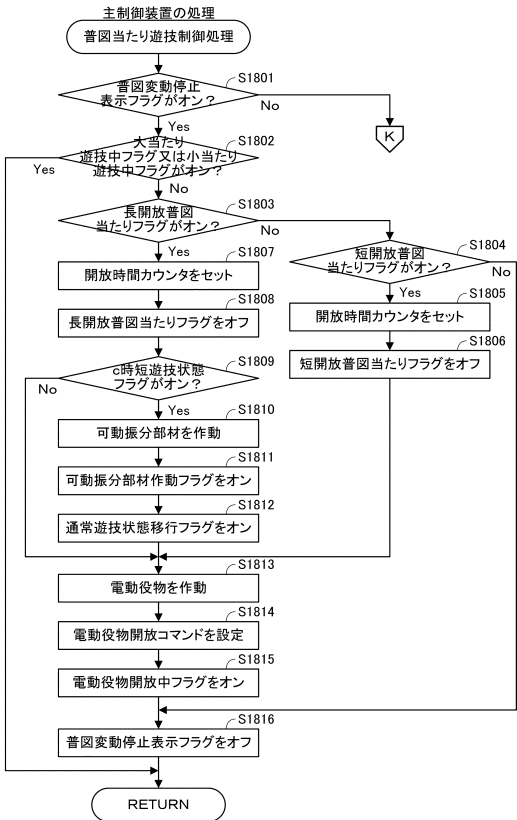
【図 2 7 0】



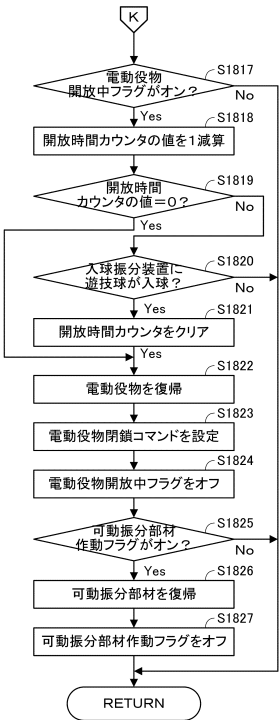
10

20

【図 2 7 1】



【図 2 7 2】

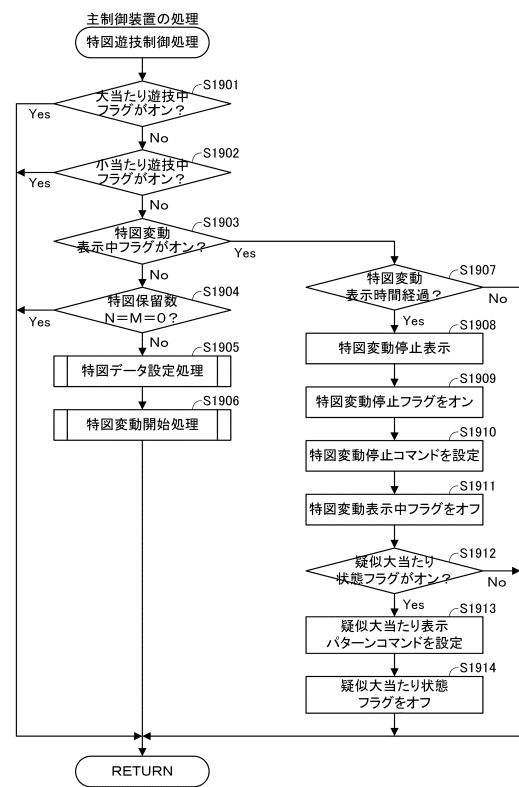


30

40

50

【図 2 7 3】



【図 2 7 4】

疑似大当たり遊技パターンコマンド

変動回数	コマンド種別	抽選結果			
		第1変動 (当該第2 特図遊技)	第2変動 (第2特図 保留1)	第3変動 (第2特図 保留2)	第4変動 (第2特図 保留3)
4回	パターンA1	小当たり	小当たり	小当たり	小当たり
	パターンA2	外れ	小当たり	小当たり	小当たり
	パターンA3	小当たり	外れ	小当たり	小当たり
	パターンA4	小当たり	小当たり	外れ	小当たり
	パターンA5	小当たり	小当たり	小当たり	外れ
	パターンA6	外れ	外れ	小当たり	小当たり
	パターンA7	外れ	小当たり	外れ	小当たり
	パターンA8	外れ	小当たり	小当たり	外れ
	パターンA9	小当たり	外れ	外れ	小当たり
	パターンA10	小当たり	外れ	小当たり	外れ
	パターンA11	小当たり	小当たり	外れ	外れ
	パターンA12	外れ	外れ	外れ	小当たり
	パターンA13	外れ	外れ	小当たり	外れ
	パターンA14	外れ	小当たり	外れ	外れ
	パターンA15	小当たり	外れ	外れ	外れ
	パターンA16	外れ	外れ	外れ	外れ
3回	パターンB1	小当たり	小当たり	小当たり	—
	パターンB2	外れ	小当たり	小当たり	—
	パターンB3	小当たり	外れ	小当たり	—
	パターンB4	小当たり	小当たり	外れ	—
	パターンB5	外れ	外れ	小当たり	—
	パターンB6	外れ	小当たり	外れ	—
	パターンB7	小当たり	外れ	外れ	—
	パターンB8	外れ	外れ	外れ	—
2回	パターンC1	小当たり	小当たり	—	—
	パターンC2	外れ	小当たり	—	—
	パターンC3	小当たり	外れ	—	—
	パターンC4	外れ	外れ	—	—
1回	パターンD1	小当たり	—	—	—
	パターンD2	外れ	—	—	—

【図 2 7 5】

疑似大当たり遊技演出パターン

演出パターン 種別	第1変動 (当該第2特図遊技)	第2変動 (第2特図保留1)	第3変動 (第2特図保留2)	第4変動 (第2特図保留3)
パターンA1	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA2	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA3	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA4	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA5	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA6	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA7	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA8	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA9	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA10	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA11	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA12	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA13	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA14	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA15	特2A	小当A	特2C	小当B
パターンA16	特2A	小当A	特2C	小当B

【図 2 7 6】

(A) 特2遊技演出パターン

演出パターン 種別	変動時間	特徴
特2遊技 演出パターンA (特2A)	15秒	・右打ち表示あり、出玉表示なし ・飾り図柄が大きく変動表示 ・特図遊技用ステージ演出
特2遊技 演出パターンB (特2B)	1秒	・右打ち表示及び出玉表示なし ・飾り図柄が小さく変動表示 ・特図遊技用ステージ演出
特2遊技 演出パターンC (特2C)	1秒	・右打ち表示及び出玉表示あり ・飾り図柄が小さく変動表示 ・大当たり遊技用ステージ演出
特2遊技 演出パターンD (特2D)	1秒	・右打ち表示及び出玉表示あり ・飾り図柄が小さく変動表示 ・大当たり終了表示あり(総出玉表示あり)

(B) 特2遊技演出パターンA

特図遊技用ステージ

123

341

(C) 特2遊技演出パターンB

特図遊技用ステージ

123

341

(D) 特2遊技演出パターンC

大当たり遊技用ステージ

右打ち➡

RUSH 1500玉

123

341

(E) 特2遊技演出パターンD

大当たり遊技用ステージ

右打ち➡

大当たり終了

6000玉

123

341

10

20

30

40

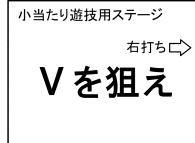
50

【圖 2 7 7】

(A)小当たり遊技演出パターン

演出パターン 種別	特徴
小当たり遊技 演出パターンA (小当A)	・右打ち表示あり、出玉表示なし ・小当たり遊技用ステージ演出
小当たり遊技 演出パターンB (小当B)	・右打ち表示あり、出玉表示あり ・大当たり遊技用ステージ演出

(B)小当たり遊技演出パターンA



341

(C)小当たり遊技演出パターンB



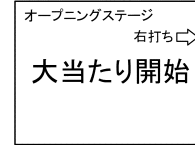
341

【圖 2 7 8】

(A)大当たり遊技演出パターン

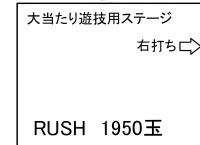
演出パターン 種別	特徴
大当たり遊技 演出パターンA (大当A)	・右打ち表示あり、出玉表示あり ・オープニングで大当たり開始表示あり ・大当たり遊技用ステージ演出
大当たり遊技 演出パターンB (大当B)	・右打ち表示あり、出玉表示あり ・大当たり開始表示及び大当たり終了表示なし ・大当たり遊技用ステージ演出
大当たり遊技 演出パターンC (大当C)	・右打ち表示あり、出玉表示あり ・エンディングで大当たり終了表示あり(総出玉表示あり) ・大当たり遊技用ステージ演出
大当たり遊技 演出パターンD (大当D)	・右打ち表示あり、出玉表示あり ・オープニングの大当たり開始表示あり ・エンディングの大当たり終了表示あり(総出玉表示あり) ・大当たり遊技用ステージ演出

(B)大当たり遊技演出パターンA



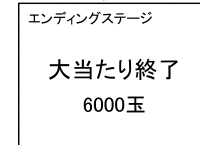
341

(C)大当たり遊技演出パターンB



341

(D)大当たり遊技演出パターンC

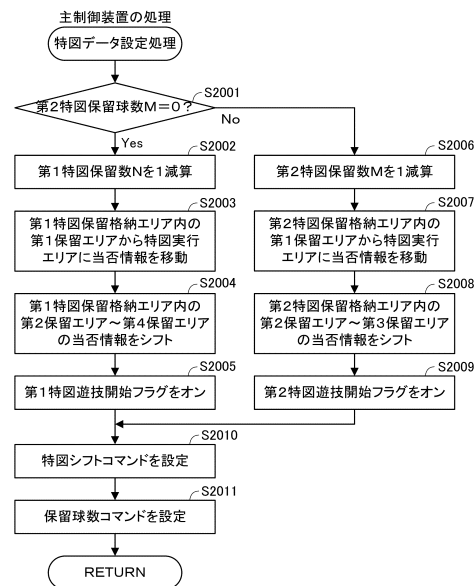


341

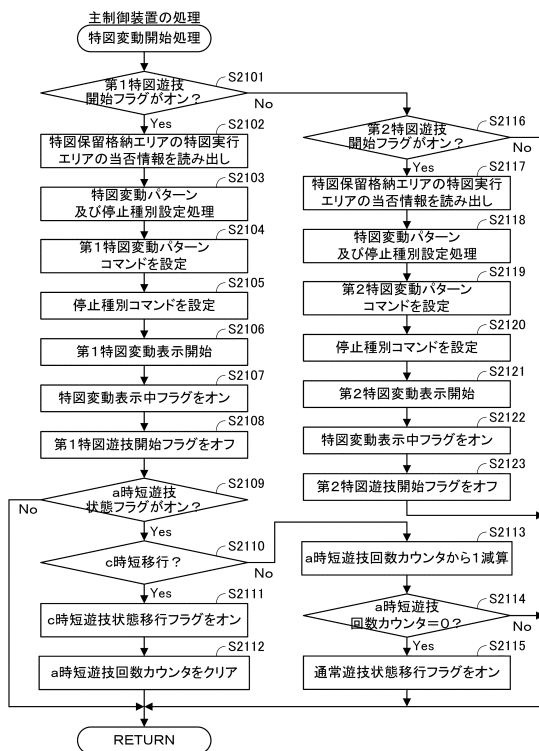
【圖 279】



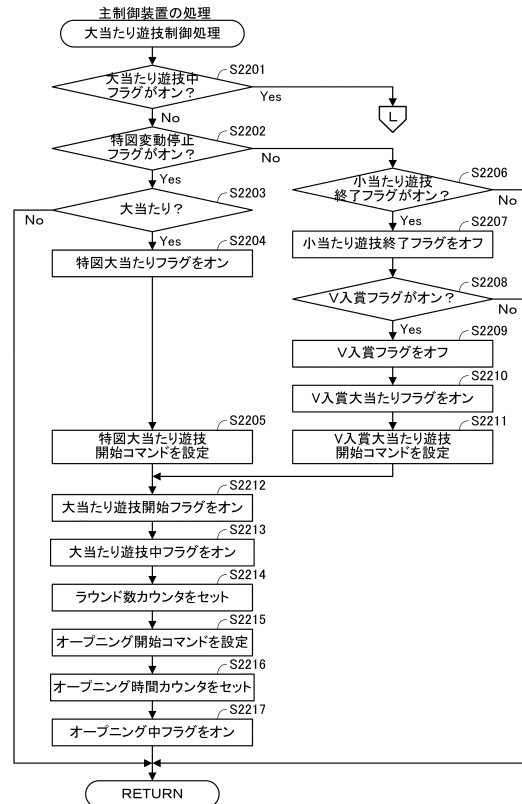
【圖 280】



【図 281】



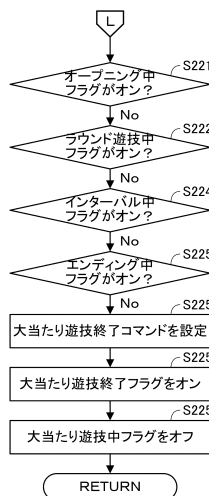
【図 282】



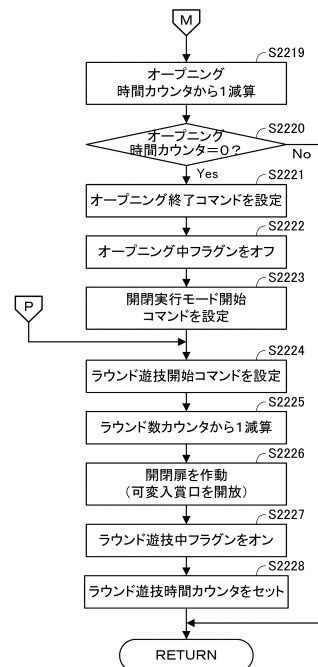
10

20

【図 283】



【図 284】

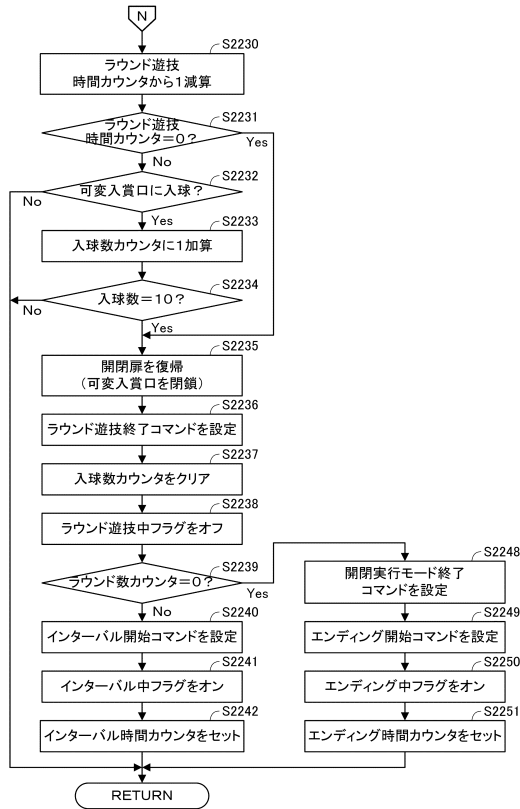


30

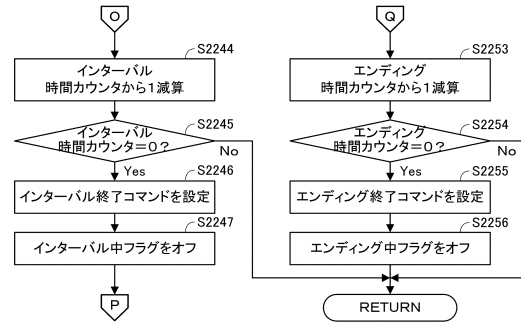
40

50

【図 285】



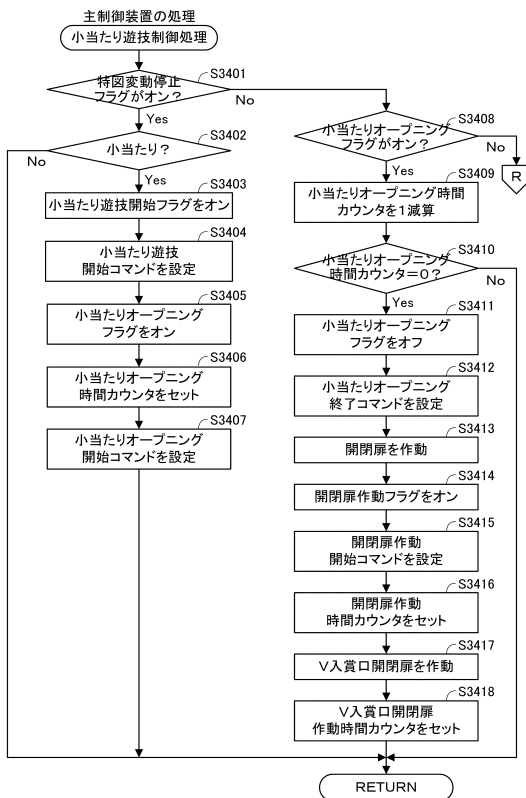
【図 286】



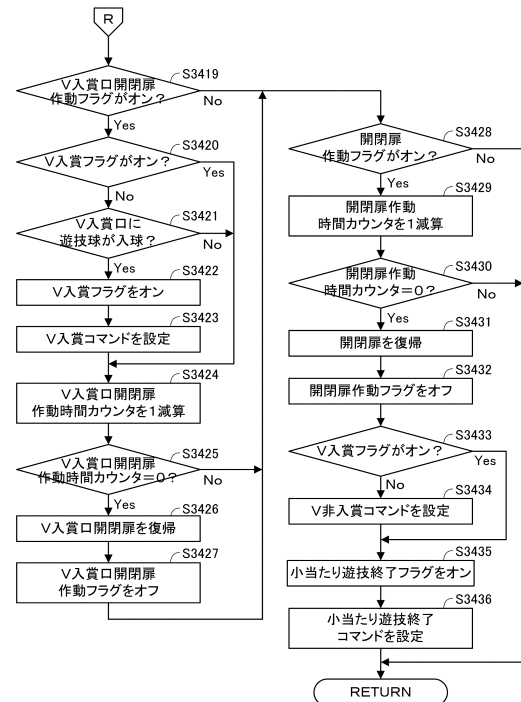
10

20

【図 287】



【図 288】

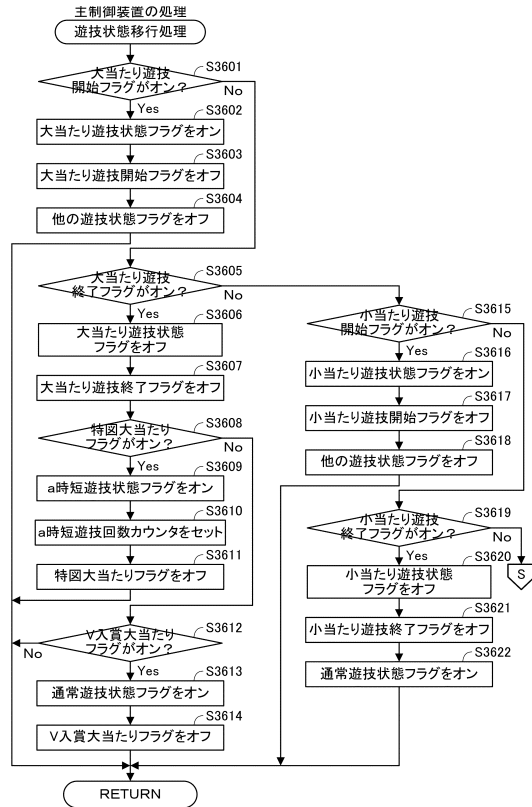


30

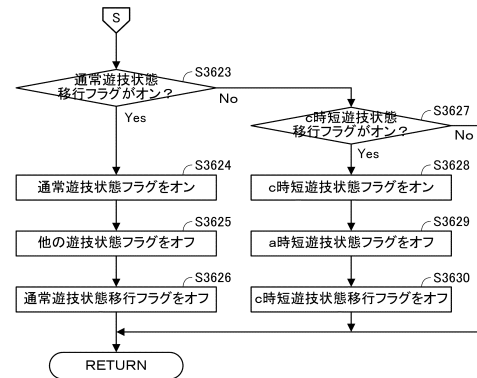
40

50

【図 289】



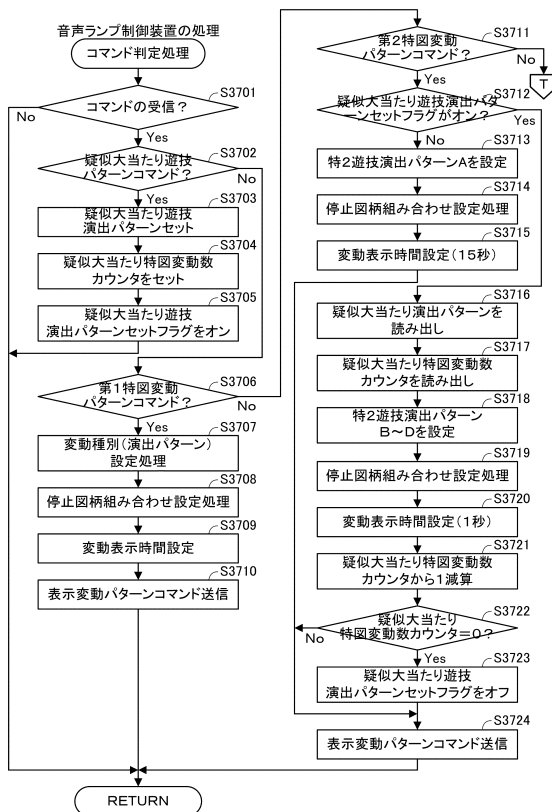
【図 290】



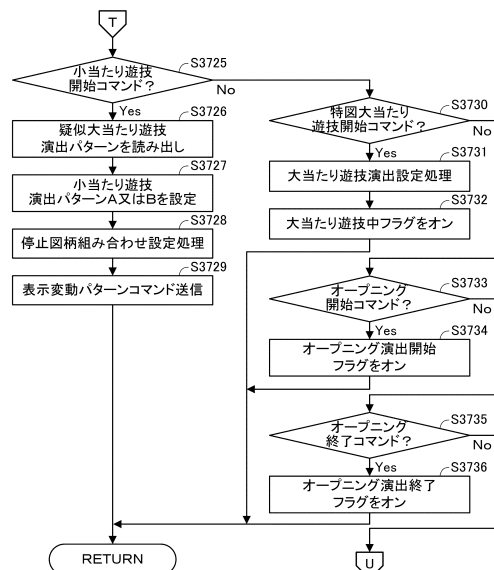
10

20

【図 291】



【図 292】

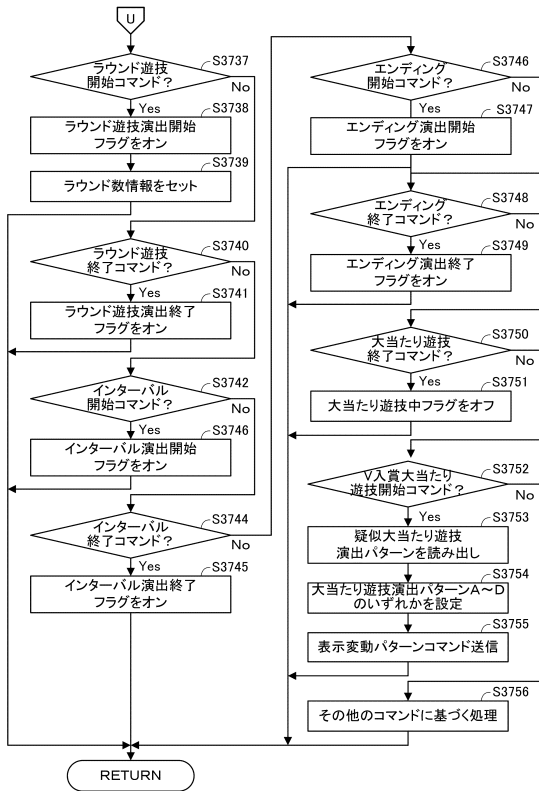


30

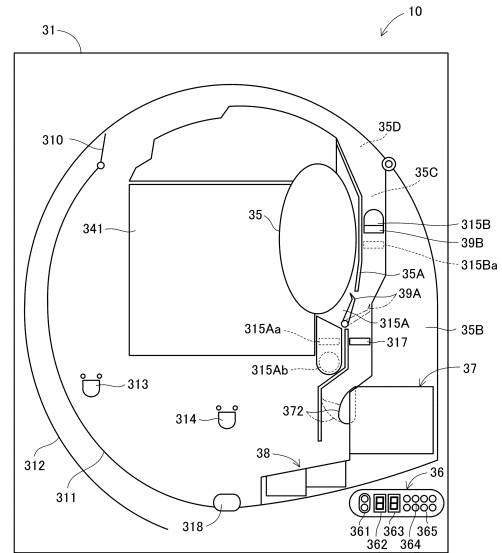
40

50

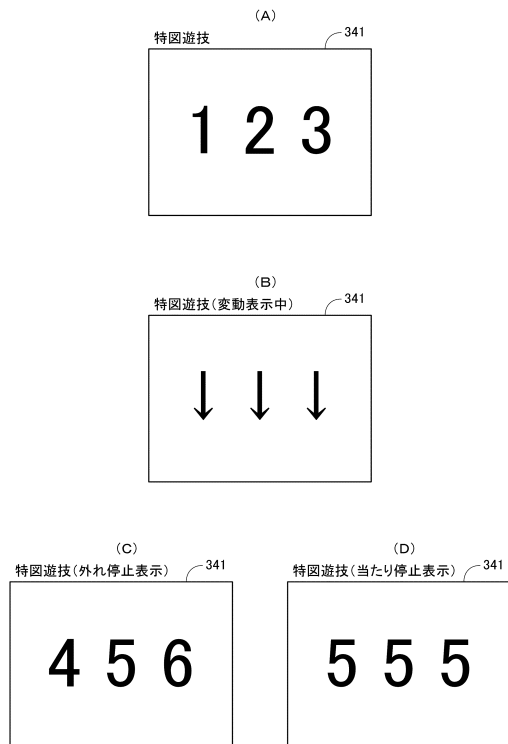
【図 293】



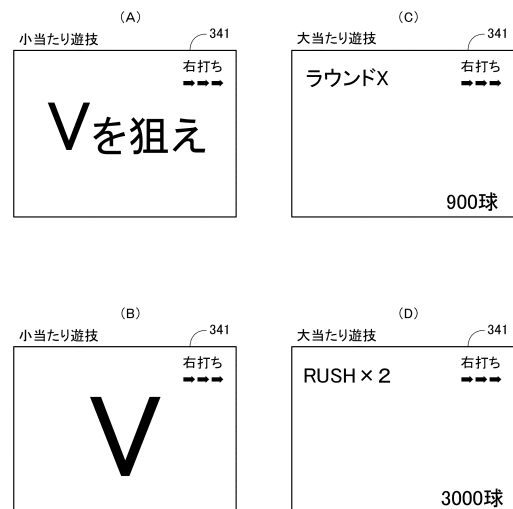
【圖 294】



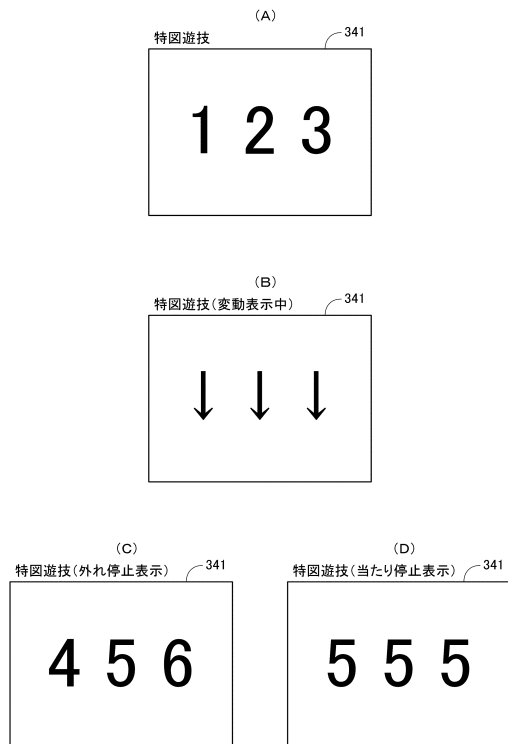
【図 295】



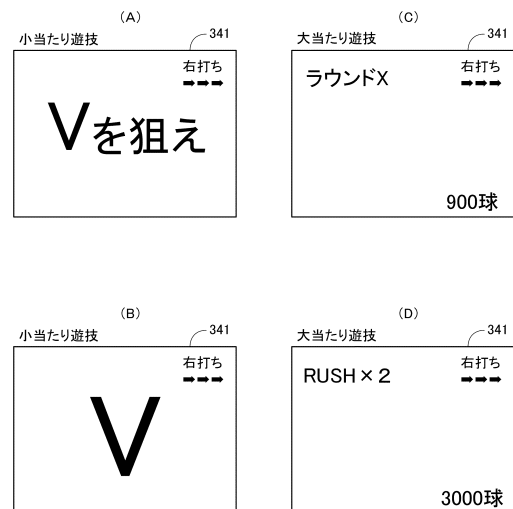
【圖 296】



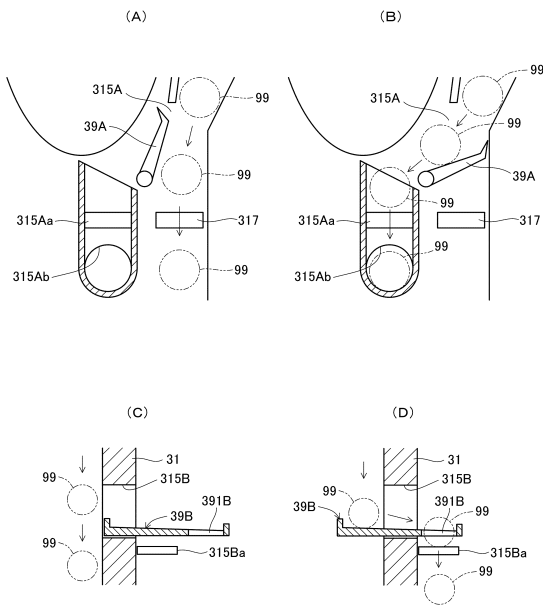
【図 295】



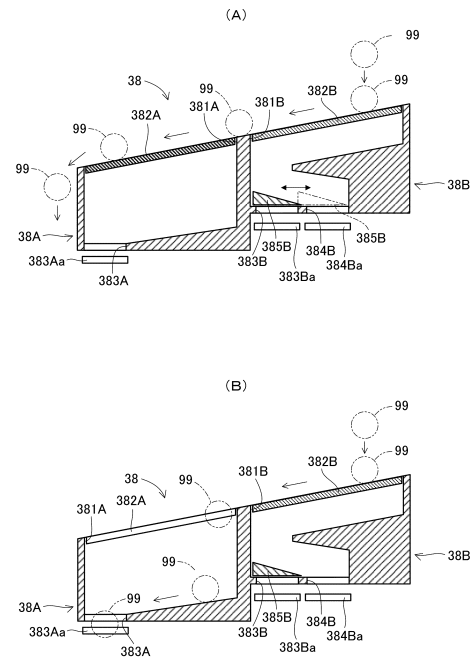
【圖 296】



【図 2 9 7】



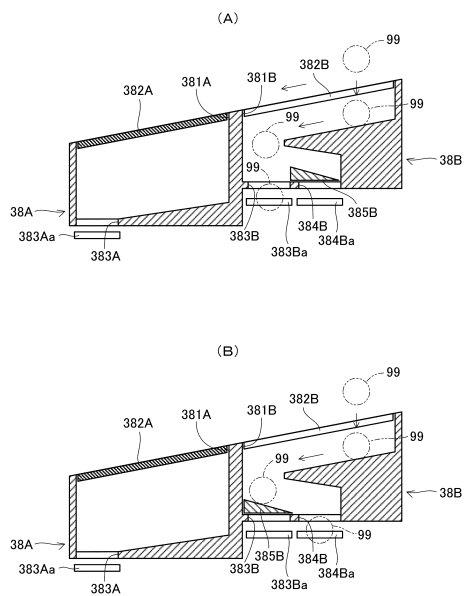
【図 2 9 8】



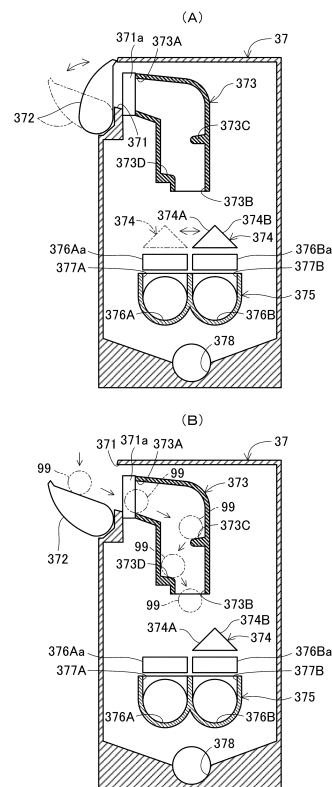
10

20

【図 2 9 9】



【図 3 0 0】

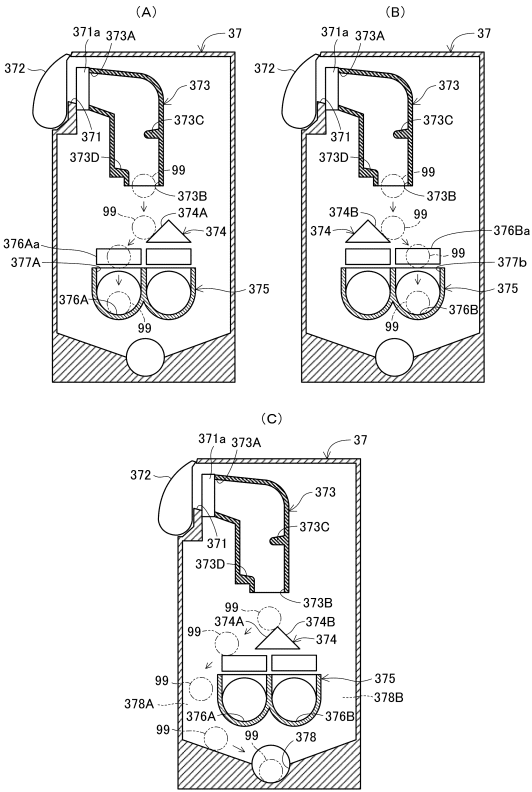


30

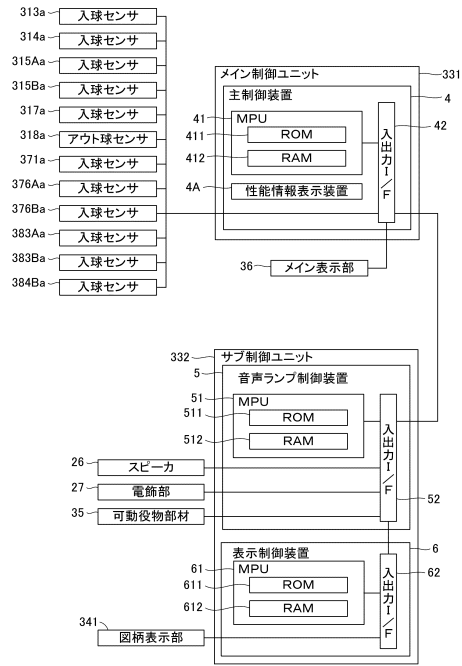
40

50

【図 3 0 1】



【図 3 0 2】



【図 3 0 3】

(A) 通常遊技状態普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
—	当たり	0%
0～299	外れ	

(B) a時短遊技状態普図当たり当否テーブル

普図当たり乱数カウンタ	抽選結果	普図当たり確率
0～299	当たり	100%
—	外れ	

(C) 通常遊技状態普図当たり種別振分テーブル

普図当たり種別乱数カウンタ	抽選結果	最大開放時間
0～199	短開放	0.1秒
—	長開放	10秒

(D) a時短遊技状態普図当たり種別振分テーブル

普図当たり種別乱数カウンタ	抽選結果	最大開放時間
—	短開放	0.1秒
0～199	長開放	10秒

【図 3 0 4】

(A) 特1大当たり当否テーブル

大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率	小当たり確率
0～205	大当たり	約1/318.1	0%
206～65535	小当たり		
—	外れ		

(B) 特2大当たり当否テーブル

大当たり乱数カウンタ	抽選結果	大当たり確率	小当たり確率
—	大当たり	0%	100%
0～65535	小当たり		
—	外れ		

(C) 特図大当たり種別振分テーブル

大当たり種別カウンタ	大当たり種別	出玉数	大当たり遊技後の移行先
0～9(50%)	4R大当たり	600球	通常遊技状態
0～19(50%)	10R大当たり	1500球	a時短遊技状態

(D) V入賞大当たり種別振分テーブル

大当たり種別カウンタ	大当たり種別	出玉数	大当たり遊技後の移行先
—	4R大当たり	600球	通常遊技状態
0～19(100%)	10R大当たり	1500球	

10

20

30

40

50

【図 3 0 5】

(A) 特1外れ変動テーブル

外れ種別	特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
前後外れリーチ	0~99	01(30s)
前後外れ以外リーチ	100~149	02(60s)
	150~199	03(90s)
完全外れ	0~69	04(7s)
	70~139	05(10s)
	140~199	06(15s)

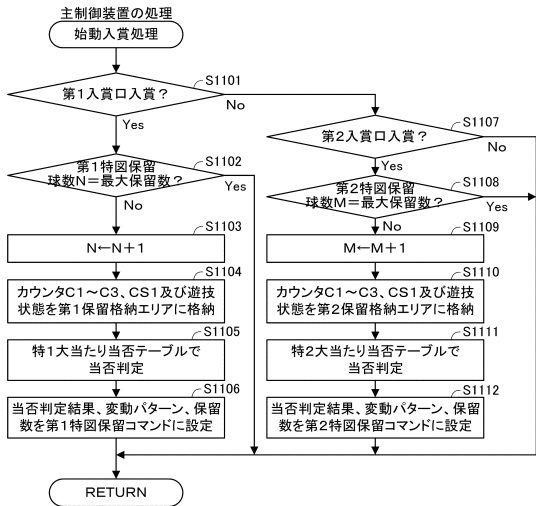
(B) 特1当たり変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0~19	01(30s)
20~119	02(60s)
120~199	03(90s)

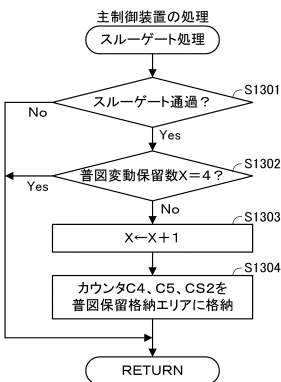
(C) 特2変動テーブル

特図変動種別カウンタ	特図変動パターン
0~199	07(1s)

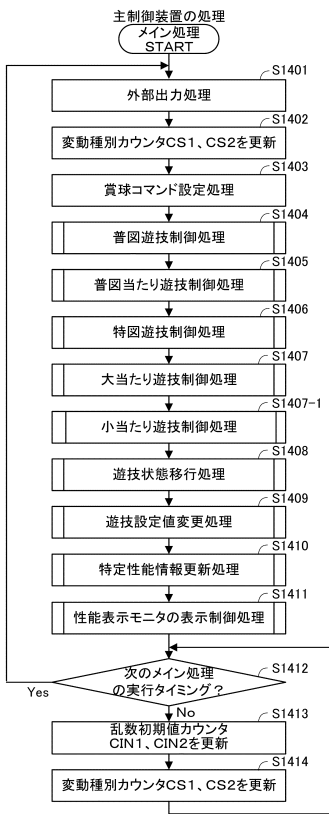
【図 3 0 6】



【図 3 0 7】



【図 3 0 8】



10

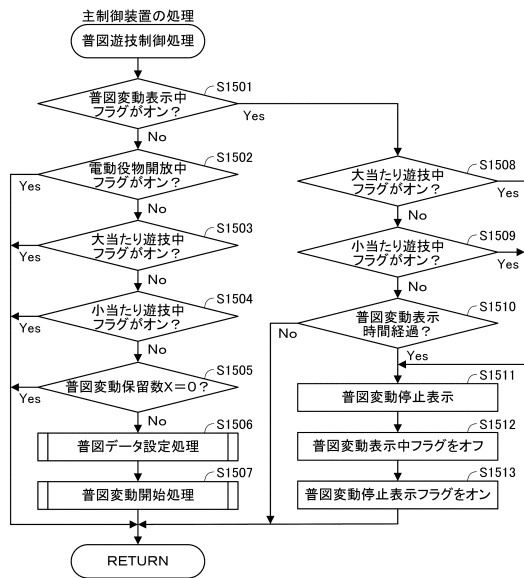
20

30

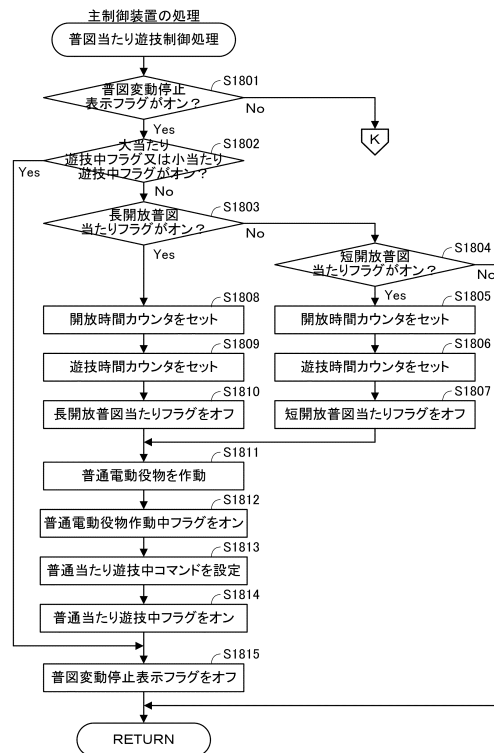
40

50

【図 3 0 9】



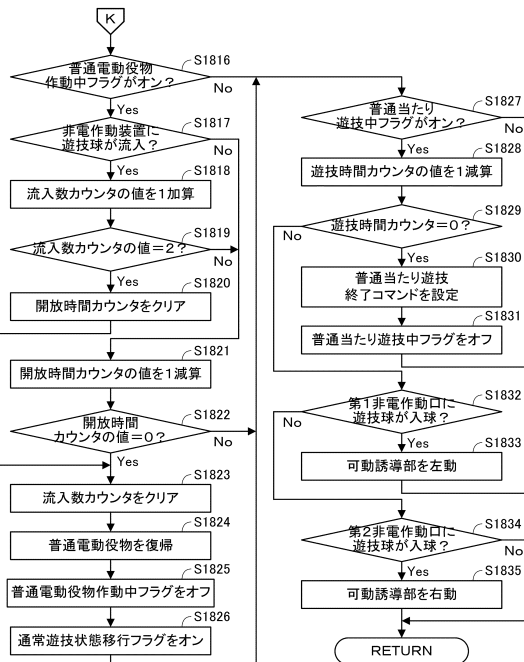
【図 3 1 0】



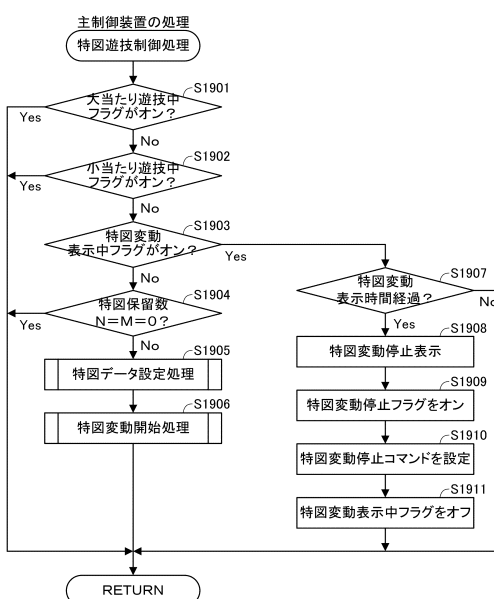
10

20

【図 3 1 1】



【図 3 1 2】

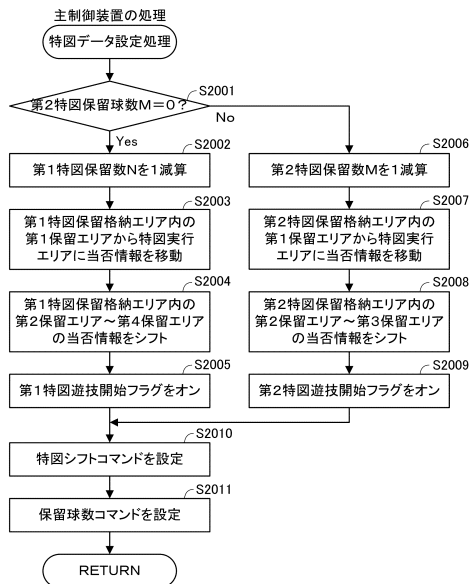


30

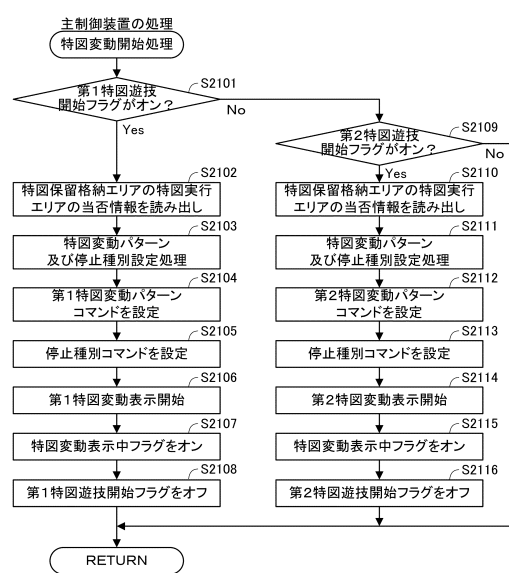
40

50

【図 3 1 3】



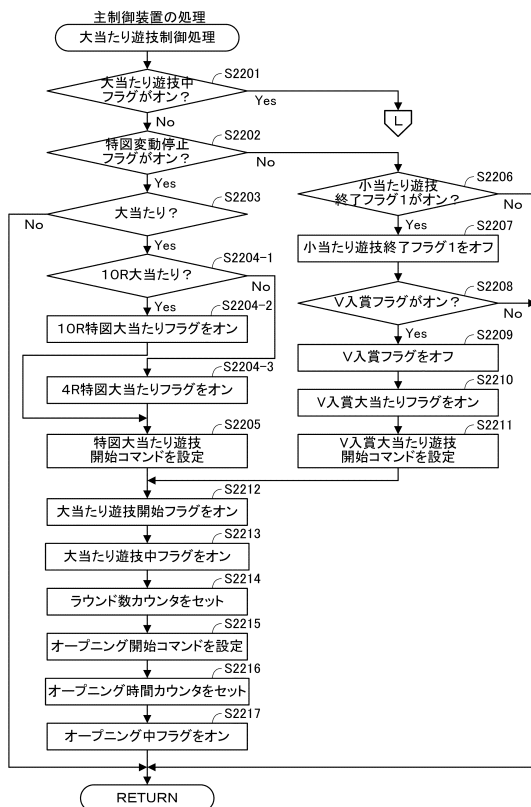
【図 3 1 4】



10

20

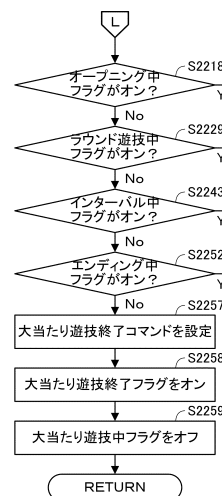
【図 3 1 5】



30

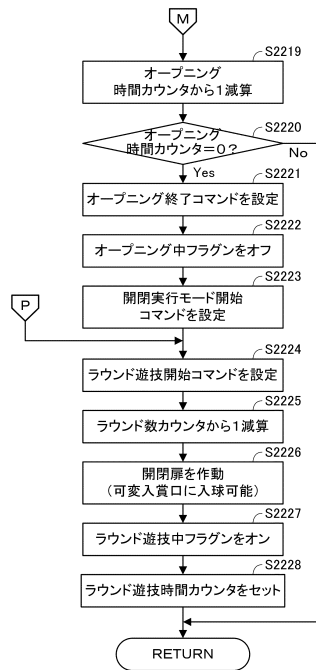
40

【図 3 1 6】

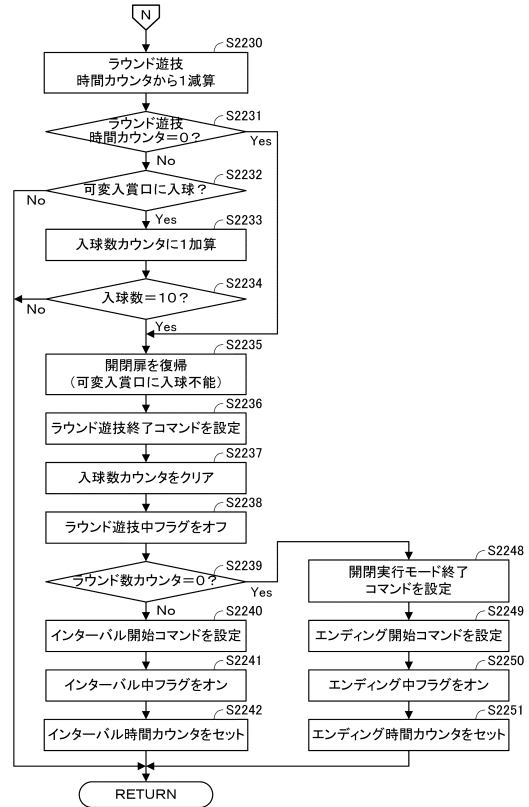


50

【図 3 1 7】



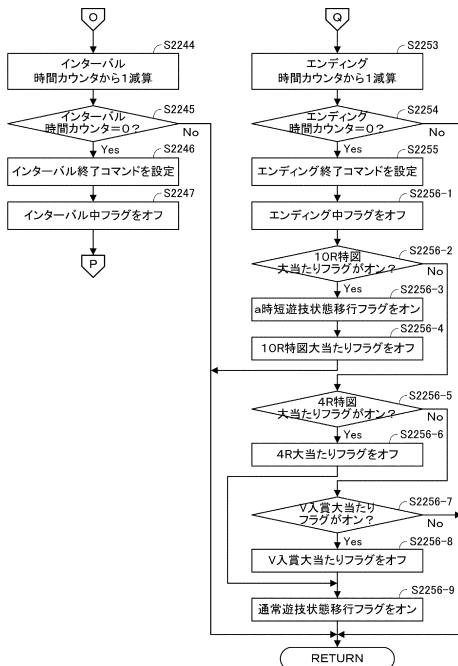
【図 3 1 8】



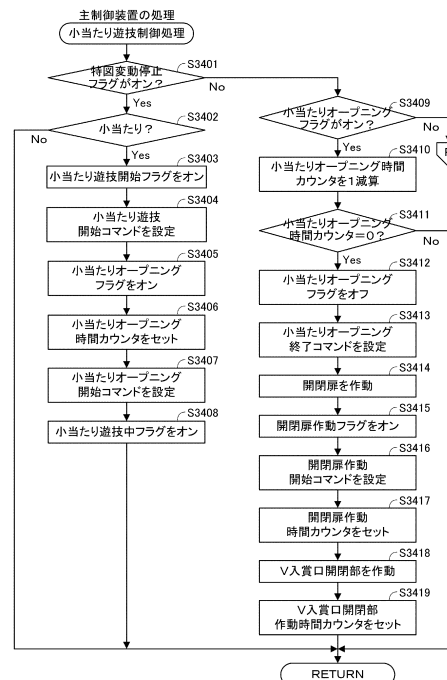
10

20

【図 3 1 9】



【図 3 2 0】

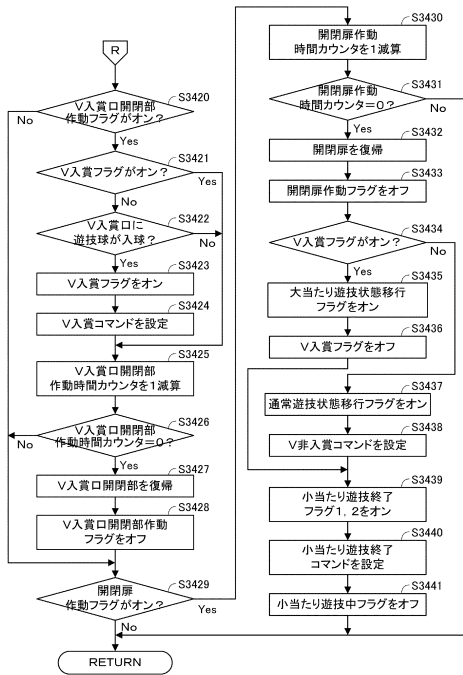


30

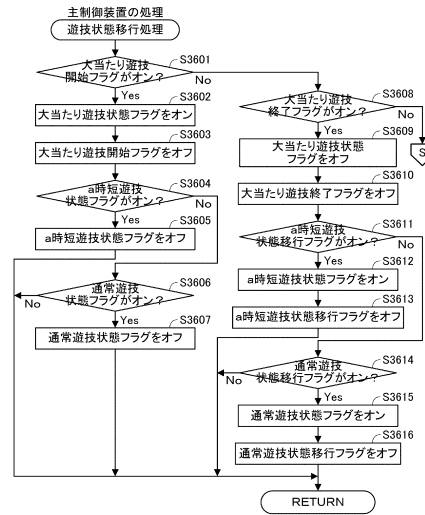
40

50

【図 3 2 1】



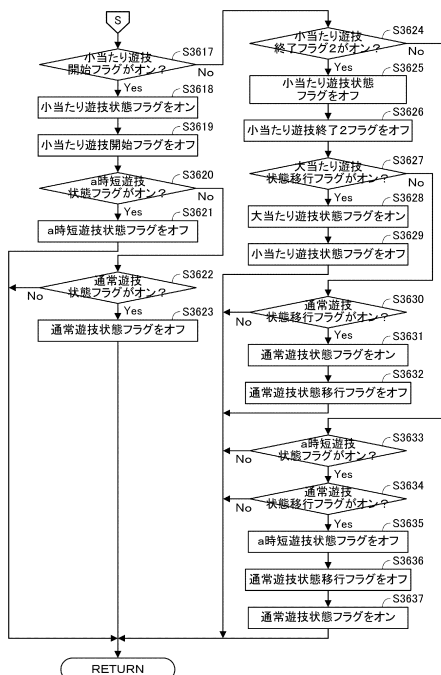
【図 3 2 2】



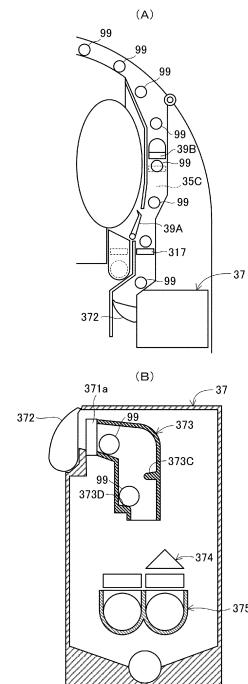
10

20

【図 3 2 3】



【図 3 2 4】

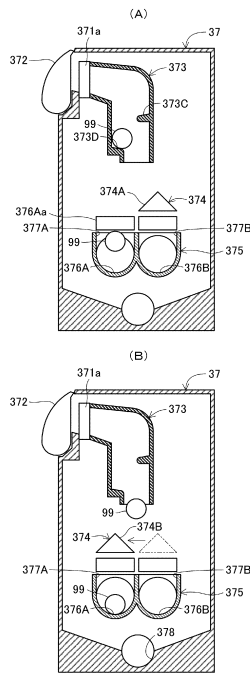


30

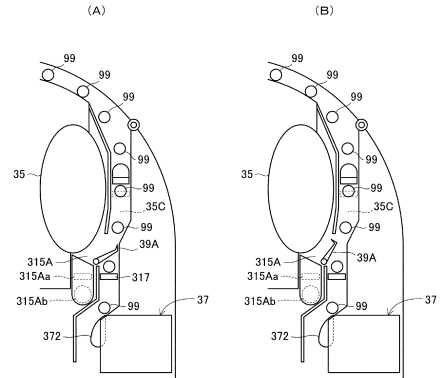
40

50

【図 3 2 5】



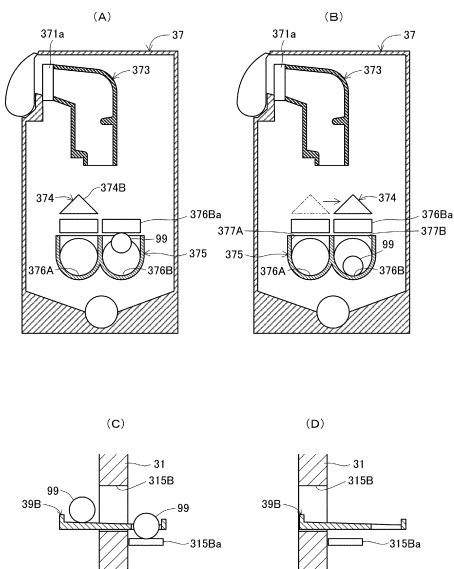
【図 3 2 6】



10

20

【図 3 2 7】



30

40

50